

Syllabus

社会科学部 スポーツ社会学科

2022 年度入学生

授業科目名	きびこく学 スポ社			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SR-1-001		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／11. 住み続けられるまちづくりを／17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>本学の教育目標である「地域創成に実践的に役立つ人材の養成」を達成するための導入的教育として位置づけられる科目である。テーマとしては、順正学園及び大学が、立地する地元地域社会の中で発展を遂げてきた歴史、ならびに地域の歴史や文化、人々の生活等について理解を深めるとともに、地域社会の現状を理解し、地域創成に向けて取り組むべき課題について学ぶことがあげられる。</p> <p>到達目標としては次の2点があげられる。</p> <p>①順正学園及び大学の歴史ならびに地域社会の歴史的特性や現状を理解し、地域創成のための取り組むべき課題を理解できる。</p> <p>②地域創成に向けて、学生としてどのような貢献ができるか考え、チャレンジする態度を涵養できる。</p>						
授業概要	<p>順正学園及び大学が、立地する地域の中で発展を遂げてきた歩み(歴史)を概観するとともに、地元地域で様々な活動を展開されている方々を講師に招き、地域の歴史や文化、人々の生活ならびに地域社会の現状や課題等についてご講演いただき、地域の特性や課題について理解を深める。また、毎回の講義の中で、学生の立場で地域の課題解決や発展にどのような貢献ができるのか考え、生活の主体者として地域創成に向けて取り組む姿勢を涵養することができるよう、レポート課題に取り組む。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	毎回授業時提出のレポート評価(70%)、第8回目に行う学修成果確認レポート作成の評価(30%)により、総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎回の授業でレポート提出を課すが、次回の授業時までに内容を評価し返却する。						
履修条件・注意事項	<p>地域の様々な立場にある外部講師による有益な講義を多く導入しているので、受講態度に十分留意して毎回必ず出席すること。</p> <p>受講内容に関するレポート課題には、単に感想を述べるのではなく、真摯に、積極的に取り組むこと。</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	授業を担当する複数の講師は、いずれも学園や大学の創設に中心的役割を担い尽力した講師や、地域社会の中で様々な活動を展開している実務経験の豊富な講師である。				
事前学習・事後学習とその時間	<p>1) 事前にユニバを通じて配布する資料に十分目を通すとともに、インターネット等を通じて授業内容に関する情報を収集するなど、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。</p> <p>2) 授業後には、学修内容を振り返り、不明な点や確認したいことなどを各自で調べるなど、毎回2時間以上の事後学修を行うこと。</p>						
オフィスアワー	個人研究室9号館(9411)にて、金曜日2限に実施するが、必要に応じて他の曜日時間を調整して随時対応する。						
授業計画						担当者	

第1回	オリエンテーション 地域創成と何かー吉備国際大学の学生として「きびこく学」を学ぶ意義と授業計画について	大西正泰(経営社会学科) 各学科担当教員	
第2回	順正学園及び吉備国際大学の歴史について	順正学園 専務理事 各学科担当教員 羽野	
第3回	高梁市の歴史と文化及び政策課題と今後の方向性について	外部講師 各学科担当教員 羽野	
第4回	高梁基督教会堂(岡山県指定史跡)をめぐる歴史と人物	外部講師 各学科担当教員 羽野	
第5回	「未来につなぐ図書館」としての活動	外部講師 各学科担当教員 羽野	
第6回	宇治地域住民総働のまちづくり	外部講師 各学科担当教員 羽野	
第7回	日本遺産「備中吹屋」	外部講師 各学科担当教員 羽野	
第8回	「山田方谷紹介用DVD視聴」によるレポート作成、ならびに全授業の学修成果振り返りレポート作成	各学科担当教員 羽野	
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			
第16回			
教科書			
教・書籍名1	毎回授業用資料をユニパで配信する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	「備中高梁」に学ぶ	参・出版社名1	吉備人出版
参・著者名1	吉備国際大学「備中高梁学」研究会	参・ISBN1	9784860691967
参・書籍名2	留岡幸助と備中高梁	参・出版社名2	吉備人出版
参・著者名2	倉田 和四生	参・ISBN2	9784860690991

授業科目名	SDGs概論 スポ社			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SR-1-002		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	15時間	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	△	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>「地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGsの必要性と意義の理解」をテーマとし、SDGsの概要について学びます。</p> <p>到達目標は下記の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGs策定の背景が理解できる ・SDGsについて全体像を把握し、その概要を説明できる ・SDGsの各目標を自分事として捉えることができる ・SDGsの達成に向けて必要な取り組みを実行することができる 						
授業概要	<p>2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標SDGs」について、その背景や目的を学ぶと共に、SDGsの17の目標について概要を学ぶ。また、SDGs達成に向けて実際にどのような取り組みが行われているかを学ぶ。そして、学生自らがその実現に向け、何ができるか、また何をしなければならないかを考え、実行しようとする能力を身につける。</p> <p>授業は全学科の学生が受講する合同授業と各学科の授業で構成されている。合同授業は、地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGs策定の経緯およびSDGsの概要について講義形式で教授する。各学科の授業ではグループに分かれてSDGs達成に向けた施策をまとめ、グループ毎に発表をおこない課題解決能力を養う。</p>						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	グループでの活動及び発表を評価する（50％）。最後に筆記試験を行いSDGsの理解度を評価する（50％）。詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	振り返りレポートを評価して次回授業で返却する。						
履修条件・注意事項	<p>1) 初回の授業には、必ず出席すること</p> <p>2) 学科別授業ではグループワークを行うことから、授業を欠席しないこと</p> <p>3) 合同授業日と各学科授業日があるので注意すること</p>						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	ユニバーサルパスポートで配付する資料を基に事前学習をすること。また、授業終了後は必ず復習を行うこと。予習及び復習は各2時間程度行うこと。						
オフィスアワー	研究室（9411号室）にて、金曜日2限に実施						
授業計画						担当者	
第1回	SDGsとは何かーなぜ学ぶのか（オリエンテーションを含む					井勝久喜、稲元洋輔	
第2回	2030アジェンダ採択までの経緯					井勝久喜、稲元洋輔	

第3回	SDGsが目指している世界	井勝久喜、稲元洋輔
第4回	SDGsの17の目標	井勝久喜、稲元洋輔
第5回	検討課題の設定	羽野真哉
第6回	高梁市におけるSDGsの取り組みについて	外部講師 羽野真哉
第7回	企業におけるSDGsの取り組みについて	外部講師 羽野真哉
第8回	定期試験	羽野真哉
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
教科書		
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	SDGsとは何か？	参・出版社名1 三和書籍
参・著者名1	安藤顯	参・ISBN1 ISBN：978-4-86251-398-4
参・書籍名2	SDGsワークブック	参・出版社名2 日経BP
参・著者名2	山崎 紅	参・ISBN2 978-4-296-07020-6

授業科目名	グローバルスタディーズ入門 保健医療福祉学部以外			担当者	吉備国際大学未定教員、畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-SR-1-003		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／6. 安全な水とトイレを世界中に／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／13. 気候変動に具体的な対策を／16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	<p>テーマ： Think Globally Act Locally.グローバルに物事を見る、グローバルに考える。実践はローカルに。</p> <p>到達目標： ヒト、モノ、カネ、情報が自由に世界を飛び回る時代。グローバル化、国際化が進展する現代では、グローバルな視点で、日本を見直す必要がある。日本の事情・都合だけで、政治・外交、経済、企業経営などを行なうことはできない。そのため、グローバルな視点で事象を観察、評価、判断できる能力が求められる。社会科学分野の基本概念を学ぶことを通じて、グローバルな視点を学び、世界の常識を学びながら、グローバル人材としての基本的思考を確立することを目指す。学生は、グローバルな視点で物事を判断できるようになる。</p>						
授業概要	<p>将来、社会で活躍する学生は、国際関係、国際経済、難民問題、その他多くのグローバル事象を複眼的に検討し、日本の事情を理解した上で、自分の意見が言える必要がある。そして、それを踏まえつつ、地域社会で実践する。それがグローバル人材。そのため、社会科学の多くの視点、手法を学びつつ、それを通じて世界の常識を認識できるようになる。グローバル人材として当然知っておくべき基本的な内容を学べる授業である。</p> <p>具体的なイシューを題材として、講義を行なう。その際、経験的方法、量的論証、批判的思考方法の手法・視点を取り入れる。自己教育力を身につけてもらうため、問題解決型学習の実践も取り入れる。グループに課題を与え、実態を調査し解決策を検討する。その成果は、授業で発表を行なってもらう。</p> <p>この科目が、他の教養科目の学修深化の一助となると共に、海外留学での学びや専門科目を履修する上での基礎を築くものとしたい。</p> <p>なお、履修者の興味、関心などに基づき、ディスカッションのやり方、テーマなどは適宜調整する。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業への参加度・コメント（40％）、グループ・プレゼンテーション（20％）、最終レポートの成績（40％）により、総合評価をおこなう。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	グループ・プレゼンテーションの結果は、各プレゼンテーションの後で、それぞれ講評を行う。最終レポートに関しては、コメントを付し、授業または事務室を經由して、返却する。						
履修条件・注意事項	ワールドニュースを必ず観ること。チェックすること。世界で起きていることに関して、興味関心を持つこと。						

実務経験のある教員	該当する	内容	本講義の担当教員は、米国に通算2ヶ年留学し、国際協力機構JICAで長年勤務し、その間、コートジボアール日本大使館、JICAケニア事務所、フランスにある国際機関経済協力開発機構（OECD）に勤務した経験があるほか、多くの外国要人の接遇経験もある。 それらの実務経験で学んだ暗黙知（本、論文、ネット記事などになっていないもの）を、授業の節目節目で共有し、講義にリアリティを持たせる。	
事前学習・事後学習とその時間	毎日、新聞を読む。ネットニュースなどをチェックする。参考図書などを読んで特定テーマに関し調べることなど、授業1回当たり、事前学習90分、復習90分の自己学修を必要とする。			
オフィスアワー	2号館附属図書館内で、毎週月曜日3限目、5限目をオフィス・アワーとします。			
授業計画			担当者	
第1回	オリエンテーション グローバル・スタディーズで学ぶこと		畝	
第2回	国境とは何か？		畝	
第3回	人はなぜ移動するのか？		畝	
第4回	なぜ、自衛隊を軍隊と叫ばないのか？		畝	
第5回	国連憲章と日本国憲法		畝	
第6回	ジェンダー、LBGT、少数民族		畝	
第7回	グループ・プレゼンテーション		畝	
第8回	価値、価格はどのように決まるのか？		畝	
第9回	自由貿易は本当に世界を豊かにするのか？		畝	
第10回	産業の空洞化、技術流出とは何か？何が問題なのか？		畝	
第11回	多国籍企業とは何だろうか？		畝	
第12回	高齢化社会の課題		畝	
第13回	世界の教育問題、日本の教育問題。		畝	
第14回	なぜ、Liberal Artsを学ぶのか？		畝	
第15回	グループ・プレゼンテーションと総括		畝	
第16回	最終試験（レポート）		畝	
教科書				
教・書籍名1			教・出版社名1	
教・著者名1			教・ISBN1	
教・書籍名2			教・出版社名2	
教・著者名2			教・ISBN2	
参考書				
参・書籍名1	国際関係論 同時代史への羅針盤		参・出版社名1	中公新書
参・著者名1	中島嶺雄		参・ISBN1	4-12-101106-6
参・書籍名2	経済学を味わう 東大1、2年生に大人気の授業		参・出版社名2	日本評論社
参・著者名2	市村英彦ほか		参・ISBN2	978-4-535-55955-4

授業科目名	グローバルスタディーズ入門 留学生(1クラス)			担当者	日笠 恵美子		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-SR-1-003		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。						
授業概要	主に、日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題、岡山、吉備、民話などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を習得して欲しい。毎回テーマをかけた、グループディスカッションなどを行い、総合的で多角的な日本語力を身につける。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業態度を平常点として20点、ノートやレポート課題の提出を50点、そして単位認定試験を30点とし、これらを100点満点で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業内にてフィードバック						
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験の小論文を提出しなければ単位の認定はしないので注意すること。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。 履修上の条件・注意点：履修前に必ずプレイズメントテストを受験すること。本科目は、プレイズメントテストの結果で、2クラスに編成する。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が修得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上予習することと、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。						
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					日笠	
第2回	世界の中の日本、岡山、高梁					日笠	
第3回	日本人の行動様式					日笠	
第4回	日本の食文化					日笠	
第5回	日本の伝統文化					日笠	

第6回	健康法	日笠
第7回	教育と学び	日笠
第8回	余暇と娯楽	日笠
第9回	現代の社会	日笠
第10回	報道とマスコミ	日笠
第11回	ITと情報社会	日笠
第12回	科学と技術	日笠
第13回	日本の歴史	日笠
第14回	岡山の祭り	日笠
第15回	異文化理解	日笠
第16回	単位認定試験	日笠

教科書

教・書籍名1	使用しない（必要に応じてプリントを配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	漢字マスターN2	参・出版社名1	三修社
参・著者名1	アークアカデミー	参・ISBN1	978-4-384-05632-7
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	グローバルスタディーズ入門 留学生（2クラス）			担当者	井上 光恵		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-SR-1-003		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。						
授業概要	日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を身につける。掲げたテーマごとにグループディスカッション行ったり、プレゼンテーションを行い、総合的で多角的な日本語力を身を養成する。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業態度を平常点として20点、プレゼンテーション・小テスト・課題の提出などを30点、そして単位認定試験50点とし、これらを100点満点で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	① テキストで新しく学習した語彙・文型の練習問題を毎回の課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ② 初中級レベルの「漢字」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストをしフィードバックを行う。 ③ テーマごとにプレゼンテーションを行い、フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも平常点として考慮する。単位認定試験に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎週の授業内容を踏まえて、事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。						
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて						
授業計画						担当者	

第1回	1. オリエンテーション 自己紹介	井上光恵
第2回	2. トピック2 (食文化) -1 漢字・語彙 会話と文法1	井上光恵
第3回	3. トピック2 (食文化) -2 会話と文法2 読解 作文	井上光恵
第4回	4. トピック2 (食文化) -3 プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第5回	5. トピック3 (観光) -1 漢字・語彙 会話と文法1	井上光恵
第6回	6. トピック3 (観光) -2 会話と文法2 読解 作文	井上光恵
第7回	7. トピック3 (観光) -3 プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第8回	8. トピック5 (行事) -1 漢字・語彙 会話と文法1	井上光恵
第9回	9. トピック5 (行事) -2 会話と文法2 読解 作文	井上光恵
第10回	10. トピック5 (行事) -3 プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第11回	11. トピック7 (歴史) -1 漢字・語彙 会話と文法1	井上光恵
第12回	12. トピック7 (歴史) -2 会話と文法2 読解 作文	井上光恵
第13回	13. トピック7 (歴史) -3 プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第14回	14. 振り返り	井上光恵
第15回	15. 総括	井上光恵
第16回	単位認定試験	井上光恵

教科書

教・書籍名1	まるごと ことばと文化 初級2 A2 りかい	教・出版社名1	三修社
教・著者名1	来嶋洋美 柴原智代 八田直美 今井寿枝 木谷直之	教・ISBN1	978-4-384-05757-7
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	漢字たまご 初中級	参・出版社名1	凡人社
参・著者名1	嶋田和子 有山有樹 落合知春	参・ISBN1	978-4-89358-832-6
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	グローバルスタディーズ入門（秋入学生）（1クラス）			担当者	日笠 恵美子		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-SR-1-003		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。						
授業概要	主に、日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題、岡山、吉備、民話などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を習得して欲しい。毎回テーマをかけた、グループディスカッションなどを行い、総合的で多角的な日本語力を身につける。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業態度を平常点として20点、ノートやレポート課題の提出を50点、そして単位認定試験を30点とし、これらを100点満点で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業内にてフィードバック						
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験の小論文を提出しなければ単位の認定はしないので注意すること。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。 履修上の条件・注意点：履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。本科目は、プレースメントテストの結果で、2クラスに編成する。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が修得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上予習することと、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。						
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					日笠	
第2回	世界の中の日本、岡山、高梁					日笠	
第3回	日本人の行動様式					日笠	
第4回	日本の食文化					日笠	

第5回	日本の伝統文化	日笠
第6回	健康法	日笠
第7回	教育と学び	日笠
第8回	余暇と娯楽	日笠
第9回	現代の社会	日笠
第10回	報道とマスコミ	日笠
第11回	ITと情報社会	日笠
第12回	科学と技術	日笠
第13回	日本の歴史	日笠
第14回	岡山の祭り	日笠
第15回	異文化理解	日笠
第16回	単位認定試験	日笠

教科書

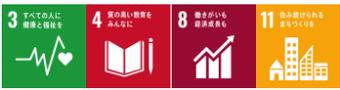
教・書籍名1	使用しない（必要に応じてプリントを配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	漢字マスターN2	参・出版社名1	三修社
参・著者名1	アークアカデミー	参・ISBN1	978-4-384-05632-7
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	グローバルスタディーズ入門（秋入学生）（2クラス）			担当者	井上 光恵		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-SR-1-003		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。						
授業概要	日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を身につける。掲げたテーマごとにグループディスカッション行ったり、プレゼンテーションを行い、総合的で多角的な日本語力を身を養成する。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業態度を平常点として20点、プレゼンテーション・小テスト・課題の提出などを30点、そして単位認定試験50点とし、これらを100点満点で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	① テキストで新しく学習した語彙・文型の練習問題を毎回の課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ② 初中級レベルの「漢字」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストをしフィードバックを行う。 ③ テーマごとにプレゼンテーションを行い、フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも平常点として考慮する。単位認定試験に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎週の授業内容を踏まえて、事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。						
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて						

授業計画		担当者
第1回	1. オリエンテーション 自己紹介	井上光恵
第2回	2. トピック2 (食文化) -1 漢字・語彙 会話と文法1	井上光恵
第3回	3. トピック2 (食文化) -2 会話と文法2 読解 作文	井上光恵
第4回	4. トピック2 (食文化) -3 プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第5回	5. トピック3 (観光) -1 漢字・語彙 会話と文法1	井上光恵
第6回	6. トピック3 (観光) -2 会話と文法2 読解 作文	井上光恵
第7回	7. トピック3 (観光) -3 プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第8回	8. トピック5 (行事) -1 漢字・語彙 会話と文法1	井上光恵
第9回	9. トピック5 (行事) -2 会話と文法2 読解 作文	井上光恵
第10回	10. トピック5 (行事) -3 プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第11回	11. トピック7 (歴史) -1 漢字・語彙 会話と文法1	井上光恵
第12回	12. トピック7 (歴史) -2 会話と文法2 読解 作文	井上光恵
第13回	13. トピック7 (歴史) -3 プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第14回	14. 振り返り	井上光恵
第15回	15. 総括	井上光恵
第16回	単位認定試験	井上光恵
教科書		
教・書籍名1	まるごと ことばと文化 初級2 A2 りかい	教・出版社名1 三修社
教・著者名1	来嶋洋美 柴原智代 八田直美 今井寿枝 木谷直之	教・ISBN1 978-4-384-05757-7
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	漢字たまご 初中級	参・出版社名1 凡人社
参・著者名1	嶋田和子 有山有樹 落合知春	参・ISBN1 978-4-89358-832-6
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	課題解決演習 スポ社			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SR-1-004		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	△	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／8. 働きがいも経済成長も／11. 住み続けられるまちづくりを</p> 						
到達目標	<p>テーマ：多様な社会課題に関する知識を習得し、その課題解決のプロセスを経験する。</p> <p>到達目標：</p> <p>①現代社会が抱える多様な課題を、スポーツ社会学・健康社会学・教育学的な視点から分析出来るようになる。</p> <p>②課題解決に必要な理論・手法を習得する。</p> <p>③地域課題やSDGs目標との接点から、社会が抱える多様な課題を「我がこと」として捉えることが出来るようになる。</p> <p>④グループでの演習活動を通じ、多様な考え方やそれぞれの価値観の違いを知る。</p> <p>⑤学習成果の発表機会を通じ、プレゼンテーション力が身につく。</p>						
授業概要	<p>既習の他の必修科目(人間力育成科目：きびこく学、SDGs概論、グローバルスタディーズ入門)で学んだ各地域の現状・課題、SDGsに関する目標・課題について、それぞれ解決策を模索することで、社会に積極的に貢献しようとする心や姿勢を養うことを到達目標とする。</p> <p>具体的には、グループごとに課題とするテーマを設定し、テーマに沿った情報を調べ、どのような方法であれば課題に対する解決が可能か検討を行う。</p> <p>以上の能動的学習経験を通じて、課題解決のために必要な一連のプロセスを修得する。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	プレゼンテーション (60%) ・ポートフォリオ内容 (40%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	提出されたポートフォリオにはそれぞれフィードバックを行う。 ポートフォリオは保管し、復習のために活用すること。						
履修条件・注意事項	留学生 (N2合格者以外) については、原則、2年次以降に履修とする。理由としては、グループでのディスカッションや発表機会が多くあるためである。						
実務経験のある教員	該当する	内容	企業ならびに、保育・社会福祉分野における勤務、実務経験を有する教員らが担当を行う。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回発表機会が多くある。その準備のために2時間程度の予習・復習時間を要する。						
オフィスアワー	金曜日2限 (9411研究室)						
授業計画						担当者	
第1回	授業オリエンテーション					全教員	
第2回	演習グループ、チームビルディング					羽野・天岡	
第3回	課題解決フレームワーク					羽野・倉知	

第4回	課題1：地域における健康・福祉について	外部講師 羽野・天岡・高原・山口	
第5回	健康・福祉に関する課題解決ワーク	羽野・天岡・山口・孫・竹内・高原	
第6回	課題2：地域における教育について	外部講師 羽野・倉知	
第7回	教育に関する課題解決ワーク	羽野・倉知・高原・竹内・山口	
第8回	課題3：地域におけるスポーツについて	外部講師 羽野・太田・高藤	
第9回	スポーツに関する課題解決ワーク	羽野・太田・高藤・竹内	
第10回	課題4：まちづくりについて	外部講師 羽野・山口・天岡	
第11回	まちづくりに関する課題解決ワーク	全教員	
第12回	課題解決ワークのまとめ	羽野・天岡	
第13回	成果発表1：健康・福祉分野	全教員	
第14回	成果発表2：スポーツ分野・教育分野	全教員	
第15回	成果発表3：まちづくり	全教員	
第16回	学習成果ポートフォリオまとめ	羽野	
教科書			
教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	検討中	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	キャリアデザインⅠ スポ社			担当者	倉知 典弘、羽野 真哉		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-CE-1-005		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	15	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も 						
到達目標	<p>【到達目標】社会的自立と職業的自立にむけて、自分の生き方・働き方を計画（キャリアデザイン）し、実行できる人間力と社会人意識の基礎を身につける。</p> <p>キャリアとは、生涯にわたる様々な立場や役割における自己と働くこととの関係づけや価値づけで、人生そのものである。そして、キャリアデザインとは、卒業後の将来を見据えて自らの生き方・働き方を考え、計画することである。大学生活を充実させ、社会で生きていくためには、自立的・主体的に考えて行動し、問題や課題に直面したときに自分で対処し解決する力が必要となる。そのためには、社会が求める人間像（自主性、責任感、教養、分別、コミュニケーション力）について考え、自分自身を知り目標をもって実行していくことが必要である。</p> <p>したがって、この科目の具体的な到達目標として、以下の3点を設定する。</p> <p>①自分自身を知り、社会を知ることで、自らの将来をイメージしながら、社会に出て働く意味や自分の目標を明確化できる。</p> <p>②その目標や社会的自立に向けて、自身のキャリアをデザインし、大学生活をどのように過ごすか考え、実践できる。</p> <p>③社会人としての基礎力であるコミュニケーション能力、社会人意識、職業選択能力を向上させる。</p>						
授業概要	<p>授業は、合同授業と学科別授業で構成されている。合同授業では、キャリアとは何か、キャリアをデザインするとはどのようなことか、大学生活における心身の健康やキャリア実践活動、一般的学力（自己理解）について講義や演習を行う。また、マイステップを使用する「キャリアデザインノート」の意義や作成方法についても説明し、個人の記録として卒業まで活用していく。</p> <p>授業全体を通して、「自分を知る」「社会を知る」「社会とつながる」「生き方を考える（大学生活を含む）」「働き方を考える」という5つのテーマで構成し、ワークシートやキャリアデザインノートへの記入、グループワークやディスカッションといった演習活動を行って自分の人生を考えることができるようにする。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	授業時間内の活動や発言（30％）、ワークシートやキャリアデザインノートへの記入（30％）、基礎学習（kiuiドリル）実施状況（20％）、最終試験あるいはレポート（20％）で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード	ワークシートやキャリアデザインノートの記入内容については、授業内でフィードバックする。						

バック方法			
履修条件・注意事項	毎回、資料やプリントを配布するので、第1回目授業からファイルを持参すること。		
実務経験のある教員	該当する	内容	第2回、5回、14回は、キャリア形成や就職支援の実務経験のある外部講師を招き、キャリアデザインの基礎となる自己理解の演習を行う。
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、授業内で配布された資料や参考図書を読んでおく。 事後学習として、授業内で配布された資料を読み、次回までの課題が提示された回はその課題に取り組む。随時、自身のキャリア実践やプランについて「キャリアデザインノート」に記載していく。 各2時間の学修時間を目安とする。		
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室にて、毎週金曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。 また、月曜日2限目は、キャリアサポートセンターにおいてキャリアに関する相談に応じる。		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション・キャリアとは何か		倉知
第2回	自分を知る・社会を知る：興味検査（VPI）or適正検査（GATB）		外部講師：マイナビ
第3回	自分を知る・生き方を考える：メンタルヘルス		森信
第4回	生き方を考える：キャリアデザインとは何か、大学生活の意義		藤原
第5回	自分を知る：基礎学力（1回目）、大学生活の基礎		外部講師（ラインズ・マイナビ）
第6回	大学生としての生活		倉知
第7回	社会を知る・つながる：キャリア実践となる課外活動		藤原、外部講師（ボランティアセンター）
第8回	子ども達の指導現場の現状とSNSの活用		外部講師：森原誠（羽野）
第9回	大学院への進学		羽野・國佐
第10回	障がい者スポーツに関わる職業		外部講師：深川友貴（高藤）
第11回	プロスポーツ選手・指導者に関わる職業		外部講師：櫻田真平・櫻田未来（高藤）
第12回	社会福祉・医療機関における仕事の実際		外部講師：健康・体力づくり事業財団
第13回	スポーツに関わる職業～理想のスポーツ指導とは～		外部講師：宮崎有香（高藤）
第14回	自分を知る：基礎学力（2回目）、将来に向けて		外部講師：ラインズ・マイナビ
第15回	まとめ：キャリアデザインノートの作成		未定
第16回	レポート（キャリアデザインノートの提出）		羽野
教科書			
教・書籍名1	教科書は指定しない。毎回、資料やワークシートを配布する。		教・出版社名1
教・著者名1			教・ISBN1
教・書籍名2			教・出版社名2
教・著者名2			教・ISBN2
参考書			
参・書籍名1			参・出版社名1
参・著者名1			参・ISBN1
参・書籍名2			参・出版社名2
参・著者名2			参・ISBN2

授業科目名	情報活用 スポ社			担当者	天岡 寛、羽野 真哉		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-AI-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	△	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 						
到達目標	全学共通の基礎教育科目として、高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要とされる必要最低限の一般教養としてのコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、学科のディプロマポリシーに従って、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。						
授業概要	情報モラルとセキュリティ、情報システムの利用と社会問題、OSの基本操作、インターネットの閲覧とブラウザの基本操作、文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用、ネットワーク、インターネットによる情報検索、コンピュータによる問題解決、ハードウェアとソフトウェア、デジタルデータのしくみなどについて学習する。 講義の内容に対応して、パソコンを使用し適宜演習が行われる。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	「コンピュータスキル」の定着を確認するため、講義内で用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物30%、試験の成績を40%として最終的に総合評価が行われる。これらの3つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準とされる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	教科書は必ず初回の講義から持参すること。 講義は指定されたクラス・講義室で受講すること（受講者数はパソコン教室の定員以内とする）。 オリエンテーション等で、講義が始まる前までにコンピュータリテラシーのスキルを調べる「技能確認シート」が実施される場合がある。このシート未受験者の履修はその理由によっては認められないこともある。 高校までで習得したコンピュータリテラシーを踏まえた講義であるため、受講前までに高校で得た知見を十分復習しておくこと。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて専門用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	

第1回	オリエンテーション (クラス・教科書、ログイン等確認、Teamsの操作)	天岡・羽野
第2回	パソコンのハードウェアと周辺機器	天岡・羽野
第3回	デジタルデータのしくみ (ビット/バイト・標準化・コード)	天岡・羽野
第4回	OSとアプリケーション	天岡・羽野
第5回	ファイルシステム操作	天岡・羽野
第6回	文書作成 (ワープロソフト) 操作	天岡・羽野
第7回	文書作成 (ワープロソフト) 課題	天岡・羽野
第8回	表計算ソフト操作	天岡・羽野
第9回	表計算ソフト課題	天岡・羽野
第10回	プレゼンテーションソフト操作	天岡・羽野
第11回	プレゼンテーションソフト課題	天岡・羽野
第12回	ネットワークとインターネット	天岡・羽野
第13回	インターネットによる情報検索・情報セキュリティ	天岡・羽野
第14回	コンピュータの歴史・コンピュータによる問題解決	天岡・羽野
第15回	情報モラルと社会問題、まとめ・質疑	天岡・羽野
第16回	単位認定試験	天岡・羽野

教科書

教・書籍名1	情報リテラシー 入門編 Windows 11 / Office 2021対応 (FPT2117)	教・出版社名1	FOM出版
教・著者名1		教・ISBN1	978-4-938927-54-7
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	数理・データサイエンス・AI基礎			担当者	佐藤 匡		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-AI-1-010		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	△	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>政府の「AI戦略2019」（2019年6月策定）にて、リテラシー教育として、文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人卒/年）が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得する、とされたことを踏まえ、各大学・高専にて参照可能な「モデルカリキュラム」が数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムにおいて検討・策定された。本講義はそのリテラシーレベルのモデルカリキュラムに従ったものである。</p> <p>到達目標は、今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること。そして、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること。である。</p> <p>（数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム～データ思考の涵養～2020年4月数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム2枚目）</p>						
授業概要	<p>社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している。そういった現代では、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することが、よりよく生きる上で求められている。また、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見のため、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。そのため、この講義では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。</p> <p>前半では、数理・データサイエンス・AIが必要とされる背景やその仕組みを学習、理解する。後半では、実際に手を動かして、プログラミングを行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	<p>「数理・データサイエンス・AI基礎」の予習復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物50%、データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を20%として最終的に総合評価が行われる。これらの3つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準となる。</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	<p>受講者数は、30人以内とする。そのため抽選となることがある。</p> <p>抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。</p> <p>指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。</p> <p>第1回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがあるので十分注意すること。</p> <p>授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。</p>						
	担当教員が理事を務めているNPO全国要約筆記問題研究会（会員数約1,300人）では、全国の自治体に対して要約筆記者養成の現状調査を行っている。また、パソコン要約筆記全体投						

実務経験のある教員	該当する	内容	影の読みやすさについて、首都圏の聴覚障がい者にアンケートや読みやすさの調査を行っている。その分析では本講義のデータサイエンスの知識が活用されている。
事前学習・事後学習とその時間	<p>各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。</p> <p>授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。</p> <p>予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。</p>		
オフィスアワー	<p>春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日 3時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日 4時限目</p> <p>秋学期： 岡山キャンパス131研究室火曜日 2時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日 3時限目</p> <p>予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。</p>		
授業計画		担当者	
第1回	オリエンテーション・スキル確認テスト 導入とAIの定義とAIリテラシー	佐藤 匡	
第2回	ビッグデータと社会の変化	佐藤 匡	
第3回	社会で活用されているデータ	佐藤 匡	
第4回	データ・AIの活用領域の広がり	佐藤 匡	
第5回	データ・AIの技術	佐藤 匡	
第6回	データサイエンス	佐藤 匡	
第7回	データ・AIを活用するときの負の側面	佐藤 匡	
第8回	データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（考え方）	佐藤 匡	
第9回	データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（事例）	佐藤 匡	
第10回	AIとアルゴリズム	佐藤 匡	
第11回	データの構造とプログラミング	佐藤 匡	
第12回	データの利活用方法	佐藤 匡	
第13回	時系列データと文章データの分析例	佐藤 匡	
第14回	教師あり学習と教師なし学習	佐藤 匡	
第15回	データ・AI利活用における留意事項	佐藤 匡	
第16回	まとめと筆記試験・評価	佐藤 匡	
教科書			
教・書籍名1	はじめてのAIリテラシー	教・出版社名1	技術評論社
教・著者名1	岡嶋裕史、吉田雅裕 著	教・ISBN1	978-4-297-12038-2
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	数理・データサイエンス・AI基礎			担当者	大谷 卓史		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-AI-1-010		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	△	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>政府の「AI戦略2019」（2019年6月策定）にて、リテラシー教育として、文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人卒/年）が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得する、とされたことを踏まえ、各大学・高専にて参照可能な「モデルカリキュラム」が数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムにおいて検討・策定された。本講義はそのリテラシーレベルのモデルカリキュラムに従ったものである。</p> <p>到達目標は、今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること。そして、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること。である。</p> <p>（数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム～データ思考の涵養～2020年4月数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム2枚目）</p>						
授業概要	<p>社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している。そういった現代では、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することが、よりよく生きる上で求められている。また、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見のため、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。そのため、この講義では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。</p> <p>前半では、数理・データサイエンス・AIが必要とされる背景やその仕組みを学習、理解する。後半では、実際に手を動かして、プログラミングを行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	<p>「数理・データサイエンス・AI基礎」の予習復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物50%、データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を20%として最終的に総合評価が行われる。これらの3つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準となる。</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	<p>受講者数は、30人以内とする。そのため抽選となることがある。</p> <p>抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。</p> <p>指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。</p> <p>第1回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがあるので十分注意すること。</p> <p>授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。</p>						
	担当教員が理事を務めているNPO全国要約筆記問題研究会（会員数約1,300人）では、全国の自治体に対して要約筆記者養成の現状調査を行っている。また、パソコン要約筆記全体投						

実務経験のある教員	該当する	内容	影の読みやすさについて、首都圏の聴覚障がい者にアンケートや読みやすさの調査を行っている。その分析では本講義のデータサイエンスの知識が活用されている。	
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。			
オフィスアワー	春学期：毎週木曜日4時限目、14617研究室（大谷研究室） 春学期：毎週水曜日3時限目、14617研究室（大谷研究室） 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。			
授業計画			担当者	
第1回	オリエンテーション・スキル確認テスト 導入とAIの定義とAIリテラシー		佐藤 匡	
第2回	ビッグデータと社会の変化		佐藤 匡	
第3回	社会で活用されているデータ		佐藤 匡	
第4回	データ・AIの活用領域の広がり		佐藤 匡	
第5回	データ・AIの技術		佐藤 匡	
第6回	データサイエンス		佐藤 匡	
第7回	データ・AIを活用するときの負の側面		佐藤 匡	
第8回	データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（考え方）		佐藤 匡	
第9回	データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（事例）		佐藤 匡	
第10回	AIとアルゴリズム		佐藤 匡	
第11回	データの構造とプログラミング		佐藤 匡	
第12回	データの利活用方法		佐藤 匡	
第13回	時系列データと文章データの分析例		佐藤 匡	
第14回	教師あり学習と教師なし学習		佐藤 匡	
第15回	データ・AI利活用における留意事項		佐藤 匡	
第16回	まとめと筆記試験・評価		佐藤 匡	
教科書				
教・書籍名1	はじめてのAIリテラシー	教・出版社名1	技術評論社	
教・著者名1	岡嶋裕史、吉田雅裕 著	教・ISBN1	978-4-297-12038-2	
教・書籍名2		教・出版社名2		
教・著者名2		教・ISBN2		
参考書				
参・書籍名1		参・出版社名1		
参・著者名1		参・ISBN1		
参・書籍名2		参・出版社名2		
参・著者名2		参・ISBN2		

授業科目名	数理・データサイエンス・AI基礎			担当者	今村 俊介		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-AI-1-010		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	△	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>膨大なデータを適切に処理することが様々な分野で求められていることを理解し、基本的なデータに対する知識、および、データの扱い方を学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> なぜデータサイエンスを学ぶのか、社会でどのように活用されているのかを知る。 データの処理、集計、可視化、分析を行うためのデータサイエンスの基礎的事項を学習する。 社会における事象を適切に捉え、分析・説明できる力を修得する。 <ul style="list-style-type: none"> データが重要視されるようになった社会背景を理解する。 データとは何かを説明できる。 データの基本的な分析手法を理解する。 データサイエンティストに求められるスキルを理解する。 						
授業概要	<p>社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している。 この時代においては、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することがこれからをよりよく生きる上で求められている。 さらに、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見、および、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。</p> <p>この講義では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶことを目的とする。 前半では、数理・データサイエンス・AIが必要とされる背景やその仕組みを学習、理解する。 後半では、実際に手を動かして、プログラミングを行う。</p> <p>「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」リテラシーレベルの導入・基礎・心得分野</p>						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	<p>「数理・データサイエンス・AI基礎」の予習・復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。</p> <p>それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が「30%」の重みづけで評価される。</p> <p>また、課題等の提出物「50%」、データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を「20%」として最終的に総合評価が行われる。</p> <p>これらの3つの評価をバランスよく得ていることが単位認定(到達目標)の判断基準となる。</p>						

ループリック評価			
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。		
履修条件・注意事項	<p>【受講者数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部で30人以内とする。そのため抽選となることがある。 ・抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。 <p>【持参物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 ・第1回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト【これは、学科によって実施・非実施をきめられますか？】未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがあるので十分注意すること。 <p>【授業計画】</p> <p>進捗の状況に応じて変更することがある。</p>		
実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員は、情報系科目の講義担当経験、ならびに、研究活動への使用経験を有している。
事前学習・事後学習とその時間	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各回の講義に先立ち、予習として教科書の該当箇所を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。 <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 <p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進捗と同程度の予習量・復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 ・予習・復習の確認については、課題やタスクにおいて知識・技術の使用が求められ、その達成度ならびに積極的な参加態度が成績評価として考慮される。 		
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・講義終了時間の直後 ・事前に学生と教員で相談して決めた時間帯 		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション・スキル確認テスト 導入とAIの定義とAIリテラシー		今村
第2回	ビッグデータと社会の変化		今村
第3回	社会で活用されているデータ1		今村
第4回	社会で活用されているデータ2		今村
第5回	データ・AIの技術		今村
第6回	データサイエンス		今村
第7回	データ・AIを活用するときの負の側面		今村
第8回	データ・AIにまつわるセキュリティ1		今村
第9回	データ・AIにまつわるセキュリティ2		今村
第10回	AIとアルゴリズム		今村
第11回	データの構造とプログラミング		今村
第12回	データの利活用方法		今村
第13回	時系列データと文章データの分析例		今村
第14回	教師あり学習と教師なし学習		今村
第15回	データ・AI利活用における留意事項		今村
第16回	まとめと試験・評価		今村
教科書			
教・書籍名1	はじめてのAIリテラシー	教・出版社名1	技術評論社
教・著者名1	岡嶋裕史, 吉田雅裕 著	教・ISBN1	978-4-297-12038-2
教・書籍名2		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	英語基礎Ⅰ スポ社A			担当者	嶋村 優枝		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LE-1-012		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	大学生としての読解力、会話力、リスニングとバランスの取れた英語力を養うことを到達目標とします。同時に高校までの文法の復習も行いますが、コミュニケーションに必要な最低限の文法を中心に、実際に使うことを軸に文法の授業を進めます。したがってこの授業を受ければ学生は、生きた英語を、ごく基本的な文法を理解したうえで使えるようになります。また英会話に応用できるリスニングも行います。この授業を受ければ学生は、あるシチュエーションで使われる単語や言い回しを知ることができ聞き取りはもちろんのこと、簡単な意思疎通もネイティブの人とできるようになります。						
授業概要	しばしば中学、高校で英語を勉強しても実際の英語は使えないという批判がこれまでもありましたが、単なる知識を積み上げるだけでは使えるようにならないことから、内容ある英語を使う練習、覚えると役に立つ意味あるやり取りを設定して、同時に文法の復習を行います。時間が限られていることから、文法の説明は行いながらも、不得意な学生のために、必要最低限の文法の解説に絞っています。ユニットごとにテーマを設定し、そのテーマに関連する知識を広げたり考えを深めたりして身近な話題や関心の持てるものを授業で行います。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク						
評価方法と割合	授業での発表と定期試験とを半々の50%で査定し評価します。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業は試験を含めて16回行いますが、15回目に試験を行い、最後の16回目の授業時間に試験についての詳しい解説を行うことで学生の英語習得の定着を図ります。						
履修条件・注意事項	この授業は必修です。国際大学の学生にふさわしい最低限の知識と実力をつけてもらいたいと考えていますので、是非とも予習、復習をしっかりと行ってください。教科書の販売については他の講義とは異なり、最初の授業で行いますのでその指示に従ってください。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習が大切です。できれば毎日10分でもよいので次の週までに合計60～90分程度の時間になるように、声に出して教科書を読んできて下さい。予習して授業に臨むのとしないとでは身に付くレベルに大きな差が生まれます。復習も同じで、講義で行ったことを一日10分でもよいので毎日自分で声に出して英文を読む習慣をつけてください。						
オフィスアワー	金曜日2限の授業前と授業後						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション 春学期の授業に関しての大雑把な説明と2回目の授業のさわり					嶋村優枝	
第2回	Profile 自分を知らう BE動詞					嶋村優枝	
第3回	Sports 多彩だね、スポーツの世界 一般動詞：自動詞・他動詞					嶋村優枝	
第4回	Special Occasions 特別な日は誰に何をしてあげる？ 二重目的語、目的語をとる動詞					嶋村優枝	
第5回	Families 家族を知らう 人称代名詞					嶋村優枝	
第6回	Japan Quiz 日本クイズに挑戦 WH疑問文					嶋村優枝	
第7回	Love and Marriage 恋愛はいつの時代も人々の関心事？ 過去形					嶋村優枝	
第8回	Life History 今までの自分を語ろう 現在完了形 継続					嶋村優枝	

第9回	Leisure 自分の経験を語ろう 現在完了形 経験・完了	嶋村優枝
第10回	College Life 学生生活を楽しもう 進行形	嶋村優枝
第11回	On Vacation 休暇の計画をたてよう 未来表現	嶋村優枝
第12回	Out and About 自分の気持ちを上手に伝えるには 助動詞 CAN,MAY	嶋村優枝
第13回	春学期の総復習(1) BE動詞 一般動詞 人称代名詞 疑問	嶋村優枝
第14回	春学期の総復習(2) 現在完了形 進行形 助動詞	嶋村優枝
第15回	春学期の試験	嶋村優枝
第16回	春学期の総復習、フィードバック	嶋村優枝

教科書

教・書籍名1	コミュニケーションのためのベーシック・グラマー Living Grammar	教・出版社名1	成美堂 SEIBIDO
教・著者名1	Atsuko Yamamoto・Naoko Osuka・Chikako Mano・Kyoko Okamoto・Benedict Rowlett	教・ISBN1	ISBN978-4-7919-7227-2
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	英語基礎Ⅰ スポ社B・C			担当者	赤羽 美鳥		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LE-1-012		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	大学生としての読解力、会話力、リスニングとバランスの取れた英語力を養うことを到達目標とします。同時に高校までの文法の復習も行いますが、コミュニケーションに必要な最低限の文法を中心に、実際に使うことを軸に文法の授業を進めます。したがってこの授業を受ければ学生は、生きた英語を、ごく基本的な文法を理解したうえで使えるようになります。また英会話に活用できるリスニングも行います。この授業を受ければ学生は、あるシチュエーションで使われる単語や言い回しを知ることができ聞き取りはもちろんのこと、簡単な意思疎通もネイティブの人とできるようになります。						
授業概要	しばしば中学、高校で英語を勉強しても実際の英語は使えないという批判がこれまでもありましたが、単なる知識を積み上げるだけでは使えるようにならないことから、内容ある英語を使う練習、覚えると役に立つ意味あるやり取りを設定して、同時に文法の復習を行います。時間が限られていることから、文法の説明は行いながらも、不得意な学生のために、必要最低限の文法の解説に絞っています。ユニットごとにテーマを設定し、そのテーマに関連する知識を広げたり考えを深めたりして身近な話題や関心の持てるものを授業で行います。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク						
評価方法と割合	授業での発表と定期試験とを半々の50%で査定し評価します。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業は試験を含めて16回行いますが、15回目に試験を行い、最後の16回目の授業時間に試験についての詳しい解説を行うことで学生の英語習得の定着を図ります。						
履修条件・注意事項	この授業は必修です。国際大学の学生にふさわしい最低限の知識と実力をつけてもらいたいと考えていますので、是非とも予習、復習をしっかりと行ってください。教科書の販売については他の講義とは異なり、最初の授業で行いますのでその指示に従ってください。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習が大切です。できれば毎日10分でもよいので次の週までに合計60～90分程度の時間になるように、声に出して教科書を読んできて下さい。予習して授業に臨むのとしないとでは身に付くレベルに大きな差が生まれます。復習も同じで、講義で行ったことを一日10分でもよいので毎日自分で声に出して英文を読む習慣をつけてください。						
オフィスアワー	金曜日1,2時限に来ています。質問のある方は、授業の前後にどうぞ。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション 春学期の授業に関しての大雑把な説明と2回目の授業のさわり					赤羽美鳥	
第2回	Profile 自分を知ろう BE動詞					赤羽美鳥	
第3回	Sports 多彩だね、スポーツの世界 一般動詞：自動詞・他動詞					赤羽美鳥	
第4回	Special Occasions 特別な日は誰に何をしてあげる？ 二重目的語、目的語をとる動詞					赤羽美鳥	
第5回	Families 家族を知ろう 人称代名詞					赤羽美鳥	
第6回	Japan Quiz 日本クイズに挑戦 WH疑問文					赤羽美鳥	
第7回	Love and Marriage 恋愛はいつの時代も人々の関心事？ 過去形					赤羽美鳥	
第8回	Life History 今までの自分を語ろう 現在完了形 継続					赤羽美鳥	

第9回	Leisure 自分の経験を語ろう 現在完了形 経験・完了	赤羽美鳥
第10回	College Life 学生生活を楽しもう 進行形	赤羽美鳥
第11回	On Vacation 休暇の計画をたてよう 未来表現	赤羽美鳥
第12回	Out and About 自分の気持ちを上手に伝えるには 助動詞 CAN,MAY	赤羽美鳥
第13回	春学期の総復習(1) BE動詞 一般動詞 人称代名詞 疑問	赤羽美鳥
第14回	春学期の総復習(2) 現在完了形 進行形 助動詞	赤羽美鳥
第15回	春学期の試験	赤羽美鳥
第16回	春学期の総復習、フィードバック	赤羽美鳥

教科書

教・書籍名1	コミュニケーションのためのベーシック・グラマー Living Grammar	教・出版社名1	成美堂 SEIBIDO
教・著者名1	Atsuko Yamamoto・Naoko Osuka・Chikako Mano・Kyoko Okamoto・Benedict Rowlett	教・ISBN1	ISBN978-4-7919-7227-2
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	英語基礎Ⅱ スポ社A			担当者	嶋村 優枝		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LE-1-013		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	大学生としての読解力、会話力、リスニングとバランスの取れた英語力を養うことを到達目標とします。同時に高校までの文法の復習も行いますが、コミュニケーションに必要な最低限の文法を中心に、実際に使うことを軸に文法の授業を進めます。したがってこの授業を受ければ学生は、生きた英語を、ごく基本的な文法を理解したうえで使えるようになります。また英会話に応用できるリスニングも行います。この授業を受ければ学生は、あるシチュエーションで使われる単語や言い回しを知ることができ聞き取りはもちろんのこと、簡単な意思疎通もネイティブの人とできるようになります。						
授業概要	しばしば中学、高校で英語を勉強しても実際の英語は使えないという批判がこれまでもありましたが、単なる知識を積み上げるだけでは使えるようにならないことから、内容ある英語を使う練習、覚えると役に立つ意味あるやり取りを設定して、同時に文法の復習を行います。時間が限られていることから、文法の説明は行いながらも、不得意な学生のために、必要最低限の文法の解説に絞っています。ユニットごとにテーマを設定し、そのテーマに関連する知識を広げたり考えを深めたりして身近な話題や関心の持てるものを授業で行います。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク						
評価方法と割合	授業での発表と定期試験とを半々の50%で査定し評価します。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業は試験を含めて16回行いますが、15回目に試験を行い、最後の16回目の授業時間に試験についての詳しい解説を行うことで学生の英語習得の定着を図ります。						
履修条件・注意事項	この授業は必修です。国際大学の学生にふさわしい最低限の知識と実力をつけてもらいたいと考えていますので、是非とも予習、復習をしっかりと行ってください。教科書の販売については他の講義とは異なり、最初の授業で行いますのでその指示に従ってください。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習が大切です。できれば毎日10分でもよいので次の週までに合計60～90分程度の時間になるように、声に出して教科書を読んできて下さい。予習して授業に臨むのとしないとでは身に付くレベルに大きな差が生まれます。復習も同じで、講義で行ったことを一日10分でもよいので毎日自分で声に出して英文を読む習慣をつけてください。						
オフィスアワー	金曜日1限の授業前と授業後						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション 秋学期の授業に関しての大雑把な説明と2回目の授業のさわり					嶋村優枝	
第2回	Rules しきたりは難しい 助動詞 must should					嶋村優枝	
第3回	Folk Tales 昔話に思わぬ教訓を発見 接続詞 and but or so					嶋村優枝	
第4回	News & Events ニュースに敏感になろう 受動態					嶋村優枝	
第5回	Amazing Animals 動物の世界は驚きでいっぱい 頻度を表す副詞					嶋村優枝	
第6回	Feelings 人間は感情の生き物だね ing edで終わる形容詞					嶋村優枝	
第7回	World Quiz 世界クイズに挑戦 原級 比較級 最上級					嶋村優枝	
第8回	Business この大企業の創始者は? 基本的な前置詞 at on in					嶋村優枝	

第9回	Environment 環境問題を解決するには？ 接続詞(2) when because although if	嶋村優枝
第10回	Old Sayings ことわざは面白い 不定詞と動名詞	嶋村優枝
第11回	Professions 将来の職業について考えよう 関係詞 who which where	嶋村優枝
第12回	What If? 仮定の話は途方もない 仮定法	嶋村優枝
第13回	秋学期の総復習(1) 接続詞 受動態 比較級 基本的な前置詞	嶋村優枝
第14回	秋学期の総復習(2) 不定詞と動名詞 関係詞 仮定法	嶋村優枝
第15回	秋学期の試験	嶋村優枝
第16回	秋学期の総復習、フィードバック	嶋村優枝

教科書

教・書籍名1	コミュニケーションのためのベーシック・グラマー Living Grammar	教・出版社名1	成美堂 SEIBIDO
教・著者名1	Atsuko Yamamoto・Naoko Osuka・Chikako Mano・Kyoko Okamoto・Benedict Rowlett	教・ISBN1	ISBN978-4-7919-7227-2
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	英語基礎Ⅱ スポ社B・C			担当者	赤羽 美鳥		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LE-1-013		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	大学生としての読解力、会話力、リスニングとバランスの取れた英語力を養うことを到達目標とします。同時に高校までの文法の復習も行いますが、コミュニケーションに必要な最低限の文法を中心に、実際に使うことを軸に文法の授業を進めます。したがってこの授業を受ければ学生は、生きた英語を、ごく基本的な文法を理解したうえで使えるようになります。また英会話に応用できるリスニングも行います。この授業を受ければ学生は、あるシチュエーションで使われる単語や言い回しを知ることができ聞き取りはもちろんのこと、簡単な意思疎通もネイティブの人とできるようになります。						
授業概要	しばしば中学、高校で英語を勉強しても実際の英語は使えないという批判がこれまでもありましたが、単なる知識を積み上げるだけでは使えるようにならないことから、内容ある英語を使う練習、覚えると役に立つ意味あるやり取りを設定して、同時に文法の復習を行います。時間が限られていることから、文法の説明は行いながらも、不得意な学生のために、必要最低限の文法の解説に絞っています。ユニットごとにテーマを設定し、そのテーマに関連する知識を広げたり考えを深めたりして身近な話題や関心の持てるものを授業で行います。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク						
評価方法と割合	授業での発表と定期試験とを半々の50%で査定し評価します。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業は試験を含めて16回行いますが、15回目に試験を行い、最後の16回目の授業時間に試験についての詳しい解説を行うことで学生の英語習得の定着を図ります。						
履修条件・注意事項	この授業は必修です。国際大学の学生にふさわしい最低限の知識と実力をつけてもらいたいと考えていますので、是非とも予習、復習をしっかりと行ってください。教科書の販売については他の講義とは異なり、最初の授業で行いますのでその指示に従ってください。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習が大切です。できれば毎日10分でもよいので次の週までに合計60～90分程度の時間になるように、声に出して教科書を読んできて下さい。予習して授業に臨むのとしないとでは身に付くレベルに大きな差が生まれます。復習も同じで、講義で行ったことを一日10分でもよいので毎日自分で声に出して英文を読む習慣をつけてください。						
オフィスアワー	金曜日1,2時限に来ています。質問のある方は、授業の前後にどうぞ。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション 秋学期の授業に関しての大雑把な説明と2回目の授業のさわり					赤羽美鳥	
第2回	Rules しきたりは難しい 助動詞 must should					赤羽美鳥	
第3回	Folk Tales 昔話に思わぬ教訓を発見 接続詞 and but or so					赤羽美鳥	
第4回	News & Events ニュースに敏感になろう 受動態					赤羽美鳥	
第5回	Amazing Animals 動物の世界は驚きでいっぱい 頻度を表す副詞					赤羽美鳥	
第6回	Feelings 人間は感情の生き物だね ing edで終わる形容詞					赤羽美鳥	
第7回	World Quiz 世界クイズに挑戦 原級 比較級 最上級					赤羽美鳥	
第8回	Business この大企業の創始者は? 基本的な前置詞 at on in					赤羽美鳥	

第9回	Environment 環境問題を解決するには？ 接続詞(2) when because although if	赤羽美鳥
第10回	Old Sayings ことわざは面白い 不定詞と動名詞	赤羽美鳥
第11回	Professions 将来の職業について考えよう 関係詞 who which where	赤羽美鳥
第12回	What If? 仮定の話は途方もない 仮定法	赤羽美鳥
第13回	秋学期の総復習(1) 接続詞 受動態 比較級 基本的な前置詞	赤羽美鳥
第14回	秋学期の総復習(2) 不定詞と動名詞 関係詞 仮定法	赤羽美鳥
第15回	秋学期の試験	赤羽美鳥
第16回	秋学期の総復習、フィードバック	赤羽美鳥

教科書

教・書籍名1	コミュニケーションのためのベーシック・文法 Living Grammar	教・出版社名1	成美堂 SEIBIDO
教・著者名1	Atsuko Yamamoto・Naoko Osuka・Chikako Mano・Kyoko Okamoto・Benedict Rowlett	教・ISBN1	ISBN978-4-7919-7227-2
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	アクティブ英語Ⅰ スポ社A			担当者	グレン サムナー、カルロス・ガルシア、畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2020～2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LE-1-014		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	アクティブ英語Ⅰ/Active English I この授業を受ければ、簡単な日常会話の（いくつかの）基本的なパターンをマスターすることができます。 At the end of this course, you will be familiar with numerous conversational expressions in English. You will have some confidence in speaking English.						
授業概要	Students will participate in a variety of speaking activities and assignments that will help improve speaking speed, understandability, listening skills, and fluidity. Skills that will be practiced include, but are not limited to, pronunciation, intonation, rhythm, stress, and speed. Emphasis will be placed on overcoming shyness and hesitation to communicate clearly.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/グループワーク/その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	Students will be evaluated by class participation, assignments, and activities. 1) 80%: assignments, homework, participation. 2) 20%: Final Assessment						
ルーブリック評価	n/a						
課題や試験のフィードバック方法	Oral feedback						
履修条件・注意事項	Students are expected to be ready and willing to speak and communicate in English. Because there will be a lot of pair work in this class, students are expected to participate and give their best effort at all times. Unwillingness to participate will affect other students. This course is conducted in English.						
実務経験のある教員	該当しない	内容	n/a				
事前学習・事後学習とその時間	Speaking is hard to “study”, but you can practice by speaking as much as possible in class, and stop by office hours of any native teacher a few times a week to practice speaking. The more you speak, the better you will become.						
オフィスアワー	n/a						
授業計画						担当者	
第1回	1) Introducing yourself					Garcia	
第2回	2) Information exchange					Garcia	
第3回	3) Talking about family and friends					Garcia	
第4回	4) Intonation in question tags					Garcia	

第 5 回	5) Discussing daily routine	Garcia
第 6 回	6) Talking about free time	Garcia
第 7 回	7) Describing your city	Garcia
第 8 回	8) Asking/giving opinions	Garcia
第 9 回	9) Describing pictures	Garcia
第 1 0 回	10) Talking about travel	Garcia
第 1 1 回	11) Giving/receiving compliments	Garcia
第 1 2 回	12) Listen for descriptions	Garcia
第 1 3 回	13) Short conversations	Garcia
第 1 4 回	14) Discussing frequency of events	Garcia
第 1 5 回	15) Giving instructions	Garcia
第 1 6 回	16) Final Assessment	Garcia

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名 1	No Book	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	アクティブ英語 I スポ社B			担当者	イアン・ウォーナー		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年 / 2020～ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年 / 2022 年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年 / 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LE-1-014		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP 4. コミュニケー ション・表現力	
DP 5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 8. 働きがいも経済成長も / 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう / 10. 人や国の不平等をなくそう / 11. 住み続けられるまちづくりを / 16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	<p>この授業を受ければ、簡単な日常会話の（いくつかの）基本的なパターンをマスターすることができます。 At the end of this course, you will be familiar with numerous conversational expressions in English and be more confident about speaking English.</p>						
授業概要	<p>Throughout each weekly lesson, students will do activities and receive instruction, training and advice intended to assist and guide them in their efforts to expand and enhance their English language speaking skills and articulateness. Students will have opportunity to i) practice and thereby improve existing key skills; ii) learn various new key and / or important skills; and iii) expand vocabulary knowledge in order to raise their overall ability to understand, enter into and maintain authentic, real-life, everyday English language conversation. Students will necessarily study numerous topics including pronunciation, intonation and diction etc and be encouraged and advised at every stage about how best to express themselves clearly, efficiently and confidently. Whenever necessary therefore, major emphasis will be placed on overcoming shyness, reticence and any other presently constraining deficiencies / shortcomings that presently impede or prevent oral communication competency.</p>						
アクティブラーニングの 内容	PBL/反転授業/ディスカッション/グループワーク/プレゼンテーション						
評価方法と割合	<p>60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview) [Students will be continuously appraised regarding coursework.]</p> <p>Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail.</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	<p>I communicate with - and provide feedback to - all students in the following ways. Firstly, I return marked, commented on and corrected (printed and / or digital) course-work and homework worksheets and question papers to students. Secondly, I provide students with Correct / Model Answer (printed and / or digital) handout documents. Thirdly, I brief students accordingly, in writing, as and when necessary, via KIU e-mail. Fourthly, I brief students, verbally, as and when necessary / whenever I deem it to be necessary or preferable before during and after lessons. Fifthly, I additionally regularly encourage all students to liaise with me verbally, as much as possible, primarily, though not exclusively during lesson time, above all if / when they think that they do not fully or well enough understand a particular topic or technical point that has just been taught, is being</p>						

taught currently, or seems to be directly or indirectly related / associated to what has been taught / is being taught. Finally, I also regularly encourage and urge all students to contact me via e-mail, Microsoft TEAMS, Microsoft Skype, LINE and / or Apple FaceTime.

This course will be conducted solely in English.

Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate.

Students should be mature, adequately / sufficiently interested and engaged, and 'PROACTIVE' at all times, and therefore:

- 01) be - and remain - alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson;
- 02) come to each lesson ready and eager to speak / communicate with their teacher and classmates in English;
- 03) come to each lesson ready and eager to listen to their teacher(s) and classmates in English;
- 04) try to fully understand - and successfully master - all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations;
- 05) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as much and frequently as possible;
- 06) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, ideally and / or often at some length;
- 07) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English;
- 08) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English;
- 09) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively;
- 10) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson;
- 11) study (relevant) textbook pages - and all teacher-distributed materials - as much as possible before, during and after each lesson;
- 12) strive to finish / complete and submit all required classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well and 'on time', before specified deadlines;
- 13) finish / submit all required classroom and homework assignments 'on time', before specified deadlines;
- 14) aim to fully understand - and 'master' - everything that their teacher tells them, especially those things that they are told they will likely to be tested on during (end-of-term) examinations, etc;
- 15) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail;
- 16) communicate with - and request help from - their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance;
- 17) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another;
- 18) tell the teacher immediately if they think that any textbook or lesson-related activity is / was too easy or difficult;
- 19) communicate with their teacher frequently, especially if they feel confused about a lesson-related topic;
- 20) request help from their teacher whenever they think that they would benefit from such;
- 21) generally try to maximize the amount of time that they practice English language oral communication with their teacher and one another;
- 22) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times.
- 23) do an adequate / sufficient amount of revision prior to all tests and - above all - the final, end-of-term exam.

履修条件・注意事項

実務経験のある教員	該当する	<p>内容</p> <p>I am a native (British) English speaker with a London accent that is close to Received Pronunciation (RP). I have travelled widely in western Europe and Japan. I was a full-time Assistant Language Teacher / Instructor (ALT) at numerous elementary, junior and especially senior high schools (throughout Chiba Prefecture) from 07/2003 until 03/2014.</p>
事前学習・事後学習とその時間	<p>1) Students should self-study all LESSON-TIME and HOMEWORK related Listening, Reading, Writing and / or Speaking materials that are given to them by the instructor.</p> <p>2) Students are expected to do and complete all LESSON-TIME self-study assignments within the (lengths of) time specified / allocated by the instructor. Students who finish such assignments early or decide that they require additional time in which to complete them should inform the instructor immediately or as soon as possible, in person / face-to-face.</p> <p>3) Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments.</p> <p>In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments , students should:</p> <ul style="list-style-type: none"> a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible; <p>The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of- term) examinations.</p> <p>Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.</p>	
オフィスアワー	Students can e-mail Ian WARNER at any time: warner@kiui.ac.jp	

授業計画		担当者	
第1回	01) Asking and answering questions. 02) Who is Ian Warner? Listen, then ask (him) questions.	Warner	
第2回	03) Introduce yourself. Talk about yourself.	Warner	
第3回	04) Say about your hobby / hobbies and interest(s).	Warner	
第4回	05) Talk about a place (that) you like.	Warner	
第5回	06) Talk about your _____. [1 - 5 things = items]	Warner	
第6回	07) Talk about a person AND / OR 08) Talk about your part-time job.	Warner	
第7回	09) Talk about a photo OR video OR movie.	Warner	
第8回	10) Talk about things (that) you have to do.	Warner	
第9回	11) Talk about a thing (that) you did (in the past).	Warner	
第10回	12) Talk about the weather.	Warner	
第11回	13) Giving, receiving and understanding (road navigation) directions.	Warner	
第12回	14) Telling the time. 15) Big numbers.	Warner	
第13回	16) Talk about a photo (that is on your phone).	Warner	
第14回	17) Your favorite shop 18) What do you want to buy?	Warner	
第15回	19) Using airports. 20) Arriving at a hotel	Warner	
第16回	Final EXAM. TEST	Warner	
教科書			
教・書籍名1	English Listening and Speaking Patterns 1	教・出版社名1	Nan'un-do
教・著者名1	Andrew E. Bennett	教・ISBN1	ISBN-10: 4523178429 ISBN-13: 978-4523178422
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	Collins Easy Learning English Conversation: Book 1 (2015)	参・出版社名1	Harper Collins Publishers
参・著者名1		参・ISBN1	ISBN-10: 0008101744 ISBN-13: 978-0008101749
参・書籍名2	Talk Time 2: Everyday English Conversation (2006)	参・出版社名2	Oxford University Press
参・著者名2	Susan Stempleski (Author)	参・ISBN2	ISBN-10: 0194392910 ISBN-13: 978-0194392914

授業科目名	アクティブ英語Ⅰ スポ社C			担当者	グレン サムナー、カルロス・ガルシア、畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2020～2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LE-1-014		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	アクティブ英語Ⅰ/Active English I この授業を受ければ、簡単な日常会話の（いくつかの）基本的なパターンをマスターすることができます。 At the end of this course, you will be familiar with numerous conversational expressions in English. You will have some confidence in speaking English.						
授業概要	Students will participate in a variety of speaking activities and assignments that will help improve speaking speed, understandability, listening skills, and fluidity. Skills that will be practiced include, but are not limited to, pronunciation, intonation, rhythm, stress, and speed. Emphasis will be placed on overcoming shyness and hesitation to communicate clearly.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/グループワーク/その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	Students will be evaluated by class participation, assignments, and activities. 1) 80%: assignments, homework, participation. 2) 20%: Final Assessment						
ルーブリック評価	n/a						
課題や試験のフィードバック方法	Oral feedback						
履修条件・注意事項	Students are expected to be ready and willing to speak and communicate in English. Because there will be a lot of pair work in this class, students are expected to participate and give their best effort at all times. Unwillingness to participate will affect other students. This course is conducted in English.						
実務経験のある教員	該当しない	内容	n/a				
事前学習・事後学習とその時間	Speaking is hard to “study”, but you can practice by speaking as much as possible in class, and stop by office hours of any native teacher a few times a week to practice speaking. The more you speak, the better you will become.						
オフィスアワー	Wednesday, 9:30-11:00.						
授業計画						担当者	
第1回	1) Introducing yourself					Garcia	
第2回	2) Information exchange					Garcia	
第3回	3) Talking about family and friends					Garcia	
第4回	4) Intonation in question tags					Garcia	

第 5 回	5) Discussing daily routine	Garcia
第 6 回	6) Talking about free time	Garcia
第 7 回	7) Describing your city	Garcia
第 8 回	8) Asking/giving opinions	Garcia
第 9 回	9) Describing pictures	Garcia
第 1 0 回	10) Talking about travel	Garcia
第 1 1 回	11) Giving/receiving compliments	Garcia
第 1 2 回	12) Listen for descriptions	Garcia
第 1 3 回	13) Short conversations	Garcia
第 1 4 回	14) Discussing frequency of events	Garcia
第 1 5 回	15) Giving instructions	Garcia
第 1 6 回	16) Final Assessment	Garcia

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名 1	No Book	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	アクティブ英語II アニメ・スポ社			担当者	イアン・ウォーナー		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年 / 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LE-1-015		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 8. 働きがいも経済成長も / 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう / 10. 人や国の不平等をなくそう / 11. 住み続けられるまちづくりを / 16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	<p>この授業を受ければ、アクティブ英語Iで学んだ基本的なパターンに加え、簡単な日常会話のより多くの基本的なパターンをマスターすることができます。</p> <p>By the end of this course, students will be more familiar English language conversational expressions, as compared to at the end of the Active English I course. Students will therefore have more confidence vis-a-vis speaking in English.</p>						
授業概要	<p>Throughout each weekly lesson, students will do activities and receive instruction, training and advice intended to assist and guide them in their efforts to expand and enhance their English language speaking skills and articulateness. Students will have opportunity to i) practice and thereby improve existing key skills; ii) learn various new key and / or important skills; and iii) expand vocabulary knowledge in order to raise their overall ability to understand, enter into and maintain authentic, real-life, everyday English language conversation. Students will necessarily study numerous topics including pronunciation, intonation and diction etc and be encouraged and advised at every stage about how best to express themselves clearly, efficiently and confidently. Whenever necessary therefore, major emphasis will be placed on overcoming shyness, reticence and any other presently constraining deficiencies / shortcomings that presently impede or prevent oral communication competency.</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL / 反転授業 / ディスカッション / グループワーク						
評価方法と割合	<p>60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview) [Students will be continuously appraised regarding coursework.]</p> <p>Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail.</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	<p>I communicate with - and provide feedback to - all students in the following ways. Firstly, I return marked, commented on and corrected (printed and / or digital) course-work and homework worksheets and question papers to students. Secondly, I provide students with Correct / Model Answer (printed and / or digital) handout documents. Thirdly, I brief students accordingly, in writing, as and when necessary, via KIU e-mail. Fourthly, I brief students, verbally, as and when necessary / whenever I deem it to be necessary or preferable before</p>						

during and after lessons. Fifthly, I additionally regularly encourage all students to liaise with me verbally, as much as possible, primarily, though not exclusively during lesson time, above all if / when they think that they do not fully or well enough understand a particular topic or technical point that has just been taught, is being taught currently, or seems to be directly or indirectly related / associated to what has been taught / is being taught. Finally, I also regularly encourage and urge all students to contact me via e-mail, Microsoft TEAMS, Microsoft Skype, LINE and / or Apple FaceTime.

This course will be conducted solely in English.

Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate.

Students should be mature, adequately / sufficiently interested and engaged, and 'PROACTIVE' at all times, and therefore:

- 01) be - and remain - alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson;
- 02) come to each lesson ready and eager to speak / communicate with their teacher and classmates in English;
- 03) come to each lesson ready and eager to listen to their teacher(s) and classmates in English;
- 04) try to fully understand - and successfully master - all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations;
- 05) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as much and frequently as possible;
- 06) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, ideally and / or often at some length;
- 07) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English;
- 08) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English;
- 09) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively;
- 10) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson;
- 11) study (relevant) textbook pages - and all teacher-distributed materials - as much as possible before, during and after each lesson;
- 12) strive to finish / complete and submit all required classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well and 'on time', before specified deadlines;
- 13) finish / submit all required classroom and homework assignments 'on time', before specified deadlines;
- 14) aim to fully understand - and 'master' - everything that their teacher tells them, especially those things that they are told they will likely to be tested on during (end-of-term) examinations, etc;
- 15) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail;
- 16) communicate with - and request help from - their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance;
- 17) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another;
- 18) tell the teacher immediately if they think that any textbook or lesson-related activity is / was too easy or difficult;
- 19) communicate with their teacher frequently, especially if they feel confused about a lesson-related topic;
- 20) request help from their teacher whenever they think that they would benefit from such;
- 21) generally try to maximize the amount of time that they practice English language oral communication with their teacher and one another;
- 22) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times;

履修条件・注意事項

	<p>during lesson times.</p> <p>23) do an adequate / sufficient amount of revision prior to all tests and - above all - the final, end-of-term exam.</p>	
実務経験のある教員	該当する	<p>内容</p> <p>I am a native (British) English speaker with a London accent that is close to Received Pronunciation (RP). I have travelled widely in western Europe and Japan. I was a full-time Assistant Language Teacher / Instructor (ALT) at numerous elementary, junior and especially senior high schools (throughout Chiba Prefecture) from 07/2003 until 03/2014.</p>
事前学習・事後学習とその時間	<p>1)</p> <p>Students should self-study all LESSON-TIME and HOMEWORK related Listening, Reading, Writing and / or Speaking materials that are given to them by the instructor.</p> <p>2)</p> <p>Students are expected to do and complete all LESSON-TIME self-study assignments within the (lengths of) time specified / allocated by the instructor.</p> <p>Students who finish such assignments early or decide that they require additional time in which to complete them should inform the instructor immediately or as soon as possible, in person / face-to-face.</p> <p>3)</p> <p>Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments.</p> <p>In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments, students should:</p> <p>a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently;</p> <p>b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible';</p> <p>c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible;</p> <p>d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible;</p> <p>e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible;</p> <p>f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is;</p> <p>g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible;</p> <p>The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of-term) examinations.</p> <p>Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.</p>	

オフィスアワー	Students can e-mail Ian WARNER at any time: warner@kiui.ac.jp		
授業計画			担当者
第1回	Talk about your summer holiday / what did you do?	Warner	
第2回	Talk about seasons / expressions which describe seasons and temperature changes	Warner	
第3回	Talk about Internet / media report	Warner	
第4回	Talk about daily routine / club activities	Warner	
第5回	Talk about your family members	Warner	
第6回	Talk about your home town	Warner	
第7回	Talk about your friends / pets	Warner	
第8回	Talk about your favorite cultural spots (music halls, museums, movie theater, etc)	Warner	
第9回	Various topics (decided by students)	Warner	
第10回	Various topics (decided by students)	Warner	
第11回	Various topics (decided by students)	Warner	
第12回	How can you express your feelings?	Warner	
第13回	Talk about Takahashi City (your favorite spot, city planning, etc.)	Warner	
第14回	Talk about nature	Warner	
第15回	Talk about the future	Warner	
第16回	Final EXAM. TEST	Warner	
教科書			
教・書籍名1	English Listening and Speaking Patterns 1 (2017)	教・出版社名1	Nan'un-do
教・著者名1	Andrew E. Bennett	教・ISBN1	ISBN: 9784523178422
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	中国語と中国文化Ⅰ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LC-1-018		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能の習得（入門編）。 到達目標： 学生は中国語を正しく発音するための方法を知り、初歩的な文法事項を理解し、初歩的かつ日常的な中国語会話に必要な語彙と文を読んだり聞き取ったりすることができるようになる。						
授業概要	中国語での読む・書く・話す力を伸ばすためには、まず発音を完全にマスターする必要がある。中国語には日本語にない捲舌音や有気音があり、発音が難しい。そのため、2ヶ月近く徹底的に練習を繰り返す。その後、初級文法や簡単な日常会話を練習することにより、前期終了時には挨拶や自己紹介ができるようになる。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「中国語を正しく発音するための方法を知り、初歩的な文法事項を理解し、初歩的かつ日常的な中国語会話に必要な語彙と文を読んだり聞き取ったりすることができるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（70％）、小テスト（20％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（10％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能なようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 予習及び復習に、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	1、中国語の声調に関する解説及び発声リズムの練習 2、単母音の発声練習					孫基然	
第2回	1、声調発声リズムの復習 2、単母音の発声復習 3、複合母音の発声練習					孫基然	
第3回	1、声調発声リズムの復習 2、単母音の発声復習 3、複合母音の発声復習 4、鼻音の発声練習					孫基然	
	1、発音の復習						

第4回	2、そり舌音の発声練習	孫基然
第5回	1、発音の復習 2、子音の発声練習	孫基然
第6回	1、発音総合復習 2、発音小テスト 3、実施した小テストをフィードバックする。	孫基然
第7回	1、声調符号をつける位置 2、声調の変化 3、よく使うフレーズ	孫基然
第8回	1、人称代名詞 2、判断文 3、普通疑問文	孫基然
第9回	1、副詞「也」 2、副詞「的」 3、普通疑問文	孫基然
第10回	1、「喜歡」の使い方 2、形容詞述語文	孫基然
第11回	1、省略疑問文 2、年齢の聞き方と使い分け	孫基然
第12回	1、所有を表す「有」 2、完了を表す「了」 3、推測表現	孫基然
第13回	1、時刻の言い方 2、量詞の使い方	孫基然
第14回	1、省略疑問文 2、進行表現	孫基然
第15回	1、提案や勧誘の使い方 2、二重目的語を取る動詞	孫基然
第16回	筆記試験	孫基然

教科書

教・書籍名1	中国への旅	教・出版社名1	朝日出版社
教・著者名1	山下輝彦、黄漢青	教・ISBN1	978-4-255-45332-3
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	中国語と中国文化Ⅱ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LC-1-019		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能の習得（基礎編）。 到達目標： 学生は前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準4級の獲得へつなげていくことができるようになる。						
授業概要	中国語には、日本語にない捲舌音や有気音があり、発音が難しい。そのため、2ヵ月近く徹底的に練習を繰り返す必要がある。その後、初級文法や簡単な日常会話を練習し、IIの終了時には挨拶や自己紹介ができるようになる。基礎的な文法事項、表現等を会話や筆記練習等で理解を深め、会話力、読解力、応用力を高める。担当教員は毎回必ず課題として出された単語や基本構文の暗唱をチェックする。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準4級の獲得へつなげていくことができるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（70％）、小テスト（20％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（10％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能ないようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 予習及び復習に、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	1、助動詞「会」と「能」 2、選択疑問文					孫基然	
第2回	1、助動詞「想」 2、反復疑問文					孫基然	
第3回	1、経験表現 2、連動文					孫基然	
第4回	1、時量補語					孫基然	

	2、存在表現		
第5回	1、助動詞「会」と「能」 2、選択疑問文 3、比較表現	孫基然	
第6回	1、介詞「離」、「従」と「往」の使い方 2、動作の方式を表す「着」 3、比較表現	孫基然	
第7回	1、逆接を表す「雖然……、但是」 2、「的」の使い方 3、結果補語	孫基然	
第8回	中間テスト	孫基然	
第9回	中間テストをフィードバックする。	孫基然	
第10回	1、逆接を表す「雖然……、但是」 2、「的」の使い方	孫基然	
第11回	1、未来を表す表現 2、方法や方式を訪ねる表現	孫基然	
第12回	1、介詞「給」 2、仮定表現	孫基然	
第13回	1、「太……了」の文型 2、人民元の数え方 3、割引の言い方	孫基然	
第14回	1、動詞の重ね型 2、「一边」と「一点」	孫基然	
第15回	1、程度補語 2、介詞「為了」 3、方向補語と兼語文	孫基然	
第16回	筆記試験	孫基然	
教科書			
教・書籍名1	中国への旅	教・出版社名1	朝日出版社
教・著者名1	山下輝彦、黄漢青	教・ISBN1	978-4-255-45332-3
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	フランス語とフランス文化Ⅰ			担当者	加藤 健次		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LF-1-020		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	テーマ：「フランスの文化を理解し、かんたんなフランス語を話す」 到達目標：学生はフランスの文化について教養として語れるようになる。それらをフランス語で読み・発音できるようになる。フランスを旅行したときなどに、あいさつやかなたんな会話ができるようになる。						
授業概要	この講義は、一方向のレクチャーではなく、参加型双方向の授業で、フランス語のスキル習得のため、できるだけ大きな声を出して繰り返し発音することが求められる。フランス語の音節を正しく発音するための方法を知り、綴り字を正しく読むための理論と基礎文法を理解し、初歩的かつ日常的なフランス語会話に必要な語彙と例文を、フランスの歴史・地理・文化のなかから代表的なものを繰り返し発音して、暗唱できるようにする。初心者対象で、ABCと発音／つづり字の読み方から始められ、名詞・形容詞の性・数や冠詞などの基本文法が文化を学ぶなかで理解できるよう説明される。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「フランスの文化について教養として語れるようになる」という目標に対して、各自作成した報告書を提出する。「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業で質問に答えたり発表したりする。それらで総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための筆記試験を行って評価する。参加型学習を主体としていることから、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。授業毎試験（60％）、単位認定試験（40％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。						
履修条件・注意事項	毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけでなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に黒板に板書されたキーワードを読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また事後学習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に提出（または発表）すること毎週、課題が出される。その課題について必ずノートを作成する必要がある。予習復習には各2時間程度を要する。その課題テーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。それに基づいて、参加型授業が行われるので、復習・予習は必須である。各2時間の学修時間を目安とする。						
オフィスアワー	木曜日4限、岡山キャンパス123研究室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	スポーツ①ツール・ド・フランス					加藤健次	
第2回	映画①ヌーヴェル・ヴァーグから最強の二人まで					加藤健次	
第3回	音楽①サガンとブラームスはお好き？					加藤健次	
第4回	建築①ロマネスク様式					加藤健次	

第5回	食①パン	加藤健次
第6回	旅①ブルターニュとモンサンミ歇尔	加藤健次
第7回	歴史①マリアントワネット	加藤健次
第8回	スポーツ②その他の自転車ロードレースとル・マン24時間耐久レース	加藤健次
第9回	美術②ピカソ、マチス、キュビズムと現代アート	加藤健次
第10回	音楽②ピアフとシャンソンの世界	加藤健次
第11回	建築②ゴシック様式	加藤健次
第12回	食②お菓子とショコラ	加藤健次
第13回	旅②ロワール川と城	加藤健次
第14回	文学①詩：ボードレールからコクトーまで	加藤健次
第15回	旅③ブルゴーニュとヴェズレー教会	加藤健次
第16回	筆記試験	加藤健次

教科書

教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	はじめて学ぶフランスの歴史と文化	参・出版社名1	ミネルヴァ書房
参・著者名1	上垣 豊 (編)	参・ISBN1	ISBN-10 : 4623087786 ISBN-13 : 978-4623087785
参・書籍名2	ゼロからスタート フランス語 会話編	参・出版社名2	Jリサーチ出版
参・著者名2	鈴木文恵(著)	参・ISBN2	ISBN 1978-4-86392-103-0

授業科目名	フランス語とフランス文化Ⅱ			担当者	加藤 健次		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LF-1-021		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	テーマ：「フランスの文化を理解し、日常的なフランス語を話すことができるようになる」 到達目標：学生はフランスの文化について理解する。それらをフランス語で読み・発音できるようになる。フランスを旅行した時などに、あいさつやその場に応じた会話ができるようになる。						
授業概要	これまでに習った文法や基本構文を復習しながら、フランス文化に関する練習問題をていねいに解いていく。フランス文化に関係した会話例文を正確に音読する指導を受ける。次週までに、それらを口に出して言えるようにしてくる。授業では、その例文を暗唱する。これを繰り返すことでフランスに精通し、フランス語の語彙力や発話力を身につけよう。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「フランスの文化について教養として語れるようになる」という目標に対して、各自作成した報告書を提出する。「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業で質問に答えたり発表したりする。それらで総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための筆記試験を行って評価する。参加型学習を主体としていることから、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。授業毎試験（60%）、単位認定試験（40%）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題を教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。						
履修条件・注意事項	毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけでなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に黒板に板書されたキーワードを読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また事後学習として、毎回課題を出すので、次の授業時に提出（または発表）すること毎週、課題が出される。その課題について必ずノートを作成する必要がある。予習復習には各2時間程度を要する。その課題テーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。それに基づいて、参加型授業が行われるので、復習・予習は必須である。各2時間の学修時間を目安とする。						
オフィスアワー	木曜日4限、岡山キャンパス123研究室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	スポーツ③サッカー・リーグ・アン					加藤健次	
第2回	美術③マグリットとシュールレアリスム					加藤健次	
第3回	音楽③サティとミニマルミュージック					加藤健次	
第4回	建築③ルネサンス・バロック様式					加藤健次	
第5回	食③チーズ					加藤健次	

第6回	旅④プロヴァンスとアルル	加藤健次
第7回	文学②文学②サンテグジュペリ『星の王子さま』	加藤健次
第8回	スポーツ④ベタンク	加藤健次
第9回	美術④スーラージュ、クラインに見る現代アート	加藤健次
第10回	音楽④ジプシー音楽とジャズマヌーシュ	加藤健次
第11回	食④ワイン	加藤健次
第12回	旅⑤サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路	加藤健次
第13回	哲学①デカルトと主体の哲学	加藤健次
第14回	文学②文学③小説：ユゴーからル・クレジオまで	加藤健次
第15回	食⑤Menuとコース料理	加藤健次
第16回	筆記試験	加藤健次

教科書

教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	はじめて学ぶフランスの歴史と文化	参・出版社名1	ミネルヴァ書房
参・著者名1	上垣 豊 (編)	参・ISBN1	ISBN-10 : 4623087786 ISBN-13 : 978-4623087785
参・書籍名2	ゼロからスタート フランス語 会話編	参・出版社名2	Jリサーチ出版
参・著者名2	鈴木文恵(著)	参・ISBN2	ISBN 1978-4-86392-103-0

授業科目名	ドイツ語とドイツ文化Ⅰ			担当者	清水 光二		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LG-1-022		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに</p> 						
到達目標	<p>学生は「ドイツ語Ⅰ」の終了時には、初歩的かつ日常的なドイツ語会話において使用されている定型で平易な語句や文章を、話せたり・読んだり・聞き取ったりできるようになる。それに向けての個別目標だが、ドイツ語を正しく発音するためのルールを知り、併せて動詞や名詞を中心とした基礎的な文法を段階的に習得することになる。</p>						
授業概要	<p>この講義は、ドイツ語の初学者を対象にしている。春学期を通して学修する項目は、大体以下のような内容である。つづりと発音の関係、挨拶等の定型表現、自己紹介と他者紹介、辞書の案内と使い方、人称代名詞、規則動詞と不規則動詞の現在人称変化、名詞の性・数・格、前置詞、定冠詞、不定冠詞など。それに加え、定型的な日常口語表現を通して、コミュニケーションの初歩も学ぶ。なお、今回この授業で使うテキストはドイツ語の総合的な文法読本であり、ドイツの社会・文化・歴史などについても学ぶことができ、異質な文化や社会にたいする理解を深めることにもなる。</p>						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50％）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50％）を合計して総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	<p>語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはいりえないことである。毎回の授業では何かききと発表等をやれられるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的な参加態度および課題発表」の評価につながるのである。テキストの会話・読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後の予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくる。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。</p>						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語を初めて学ぶ者にとって、教師により説明される文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分については学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業においてその準備の成果を発表することが求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週2時間程度である。						
オフィスアワー	個人研究室（2号館6階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション ドイツおよびドイツ語とは アルファベット ドイツ語の発音（母音）					清水光二	
第2回	ドイツ語の発音（子音） 挨拶表現					清水光二	
第3回	ドイツ語の発音（まとめ） 挨拶表現の復習					清水光二	
第4回	Lektion 1 Was lernst du? 動詞の現在人称変化					清水光二	
第5回	Lektion 1 Was lernst du? 定動詞第2位の原則 seinの現在人称変化					清水光二	
第6回	Lektion 2 Hast du Geschwister? 名詞の性と格 定冠詞の格変化					清水光二	

第7回	Lektion 2 Hast du Geschwister? 不定冠詞の格変化 habenの現在人称変化	清水光二
第8回	Lektion 3 Wann fährst du nach München? 不規則な現在人称変化	清水光二
第9回	Lektion 3 Wann fährst du nach München? 命令形	清水光二
第10回	Lektion 4 Welche Uhr kaufst du? 定冠詞類	清水光二
第11回	Lektion 4 Welche Uhr kaufst du? 不定冠詞類 所有冠詞	清水光二
第12回	Lektion 5 Kaufst du diese Bücher? 複数形	清水光二
第13回	Lektion 5 Kaufst du diese Bücher? 人称代名詞	清水光二
第14回	Lektion 6 Was machst du an diesem Wochenende? 前置詞の格支配 2格支配/3格支配	清水光二
第15回	Lektion 6 Was machst du an diesem Wochenende? 前置詞の格支配 4格支配/3・4格支配	清水光二
第16回	筆記試験	清水光二
教科書		
教・書籍名1	パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール[三改版]	教・出版社名1 白水社
教・著者名1	上野成利、本田雅也	教・ISBN1 ISBN 978-4-560-06420-7
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	文法からマスター! はじめてのドイツ語	参・出版社名1 ナツメ社
参・著者名1	小野寺 賢一	参・ISBN1 ISBN-10: 481635137X
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	ドイツ語とドイツ文化Ⅱ			担当者	清水 光二		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LG-1-023		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	学生は「ドイツ語Ⅱ」の終了時には、日常的な会話において使用されている定型的で平易な語句や文章を、話せたり・読んだり・聞き取ったりできるようになる。それに向けての個別目標だが、ドイツ語の基礎的な文法を学びながら（英語との比較も行いつつ）、ドイツ語特有の語法を品詞別あるいは時制別に段階的に理解することになる。						
授業概要	この講義は、「ドイツ語Ⅰ」を終了した学生を対象にしている。秋学期を通して学習する主な文法項目は、大体以下のようなものになっている。分離動詞・非分離動詞、接続詞、副文、再帰代名詞、再帰動詞、動詞の過去形と現在完了形、接続法など。文法事項については教師によって説明がなされるが、その後の練習問題や会話・読本部分については毎回学生の積極的な取り組みが求められる。そのためには、授業以外での予習や復習がどうしても必要となる。なお、今回この授業で使うテキストは総合的な文法読本であり、ドイツ語圏の習慣や日常といった文化一般、社会問題等にも触れながら楽しく初級ドイツ語を学べる内容となっている。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50％）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはいりえないことである。毎回の授業では何かききと発表等をやれられるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的な参加態度および課題発表」の評価につながるのである。テキストの会話・読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後の予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくる。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語を初めて学ぶ者にとって、教師により説明される文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分については学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業においてその準備の成果を発表することが求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週2時間程度である。						
オフィスアワー	個人研究室（2号館6階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	Lektion 7 Was liest du gren? 形容詞の格変化					清水光二	
第2回	Lektion 8 Wohin willst du gehen? 話法の助動詞					清水光二	
第3回	Lektion 8 Wohin willst du gehen? 未来形					清水光二	
第4回	Lektion 9 Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt? 分離動詞					清水光二	
第5回	Lektion 9 Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt? 接続詞と副文					清水光二	
第6回	Lektion 10 Hast du vor, München zu besuchen? zu不定詞					清水光二	

第7回	Lektion 10 Hast du vor, München zu besuchen? 再帰代名詞	清水光二
第8回	Lektion 11 Als ich das Museum besuchte, … 動詞の3基本形	清水光二
第9回	Lektion 11 Als ich das Museum besuchte, … 過去形	清水光二
第10回	Lektion 12 Hast du Weimar besucht? 現在完了形	清水光二
第11回	Lektion 12 Hast du Weimar besucht? 非人称表現	清水光二
第12回	Lektion 13 Es wird gesagt, dass … 受動態	清水光二
第13回	Lektion 13 Es wird gesagt, dass … 比較表現	清水光二
第14回	Lektion 14 Was ist das beste Buch, das du je gelesen hast? 関係代名詞	清水光二
第15回	Lektion 14 Was ist das beste Buch, das du je gelesen hast? 不定関係代名詞	清水光二
第16回	筆記試験	清水光二

教科書

教・書籍名1	パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール[三改版]	教・出版社名1	白水社
教・著者名1	上野成利、本田雅也	教・ISBN1	ISBN 978-4-560-06420-7
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	文法からマスター! はじめてのドイツ語	参・出版社名1	ナツメ社
参・著者名1	小野寺 賢一	参・ISBN1	481635137X
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語ⅠA(文法)1クラス			担当者	磯 永二		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-024		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにすることができる。そのうえで、より上のレベルの文法や文字・語彙を学んでいく。そうすることにより日本語能力試験N2合格をめざす。日本語力の向上が学力向上につながり、日本人学生との交流が進み、本学の様々な教育活動の理解や参加の促進につながり、実りある学生生活を送ることができるようになる。						
授業概要	まずは日本語能力試験N3レベルの日本語力を確実なものにするため、N3レベルの文法や文字・語彙等を振り返る。その過程で、課題を課したり、小テストを実施し日本語力の伸長を図る。一方、N2のレベルの文法や文字・語彙を織り込んでいき、力を徐々にN2レベルに導いていく。また、日本での学生生活を円滑に送ることができるようにするため、授業の中で、日本人のあいだでかわされる挨拶や応答などをとりあげ、日本社会で暮らすための知恵を身につけさせていく。						
アクティブラーニングの内容	PBL						
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行われる。これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ② 日本語ⅠA/日本語ⅠA(文法)、応用日本語ⅠA/日本語ⅠA(読解)、日本語研究ⅠA/日本語ⅠA(聴解)の3科目ともに同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					

事前学習・事後学習とその時間	日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でJ L P T対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ2時間以上の学習が必要。		
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて		
授業計画		担当者	
第1回	オリエンテーション、プロフィール作成、初級文法演習、初級漢字演習	磯	
第2回	初級文字語彙演習、文法テキスト学習 場面6①	磯	
第3回	文法テキスト学習 場面6②	磯	
第4回	文法テキスト学習 場面7①	磯	
第5回	文法テキスト学習 場面7②	磯	
第6回	N3レベル、N2レベル文字・語彙学習①	磯	
第7回	N3レベル、N2レベル文字・語彙学習②	磯	
第8回	N3レベル、N2レベル文字・語彙学習③	磯	
第9回	第1回～第8回授業 総まとめテスト	磯	
第10回	文法テキスト学習 場面8①	磯	
第11回	文法テキスト学習 場面8②、N3レベル、N2レベル文字・語彙学習④	磯	
第12回	文法テキスト学習 場面9①	磯	
第13回	文法テキスト学習 場面9②、N3レベル、N2レベル文字・語彙学習⑤	磯	
第14回	文法テキスト学習 敬語、副詞、接続詞等①	磯	
第15回	文法テキスト学習 敬語、副詞、接続詞等②	磯	
第16回	単位認定試験	磯	
教科書			
教・書籍名1	日本語能力試験問題集 N3文法 スピードマスター	教・出版社名1	Jリサーチ出版
教・著者名1	清水知子、大場理恵子、鈴木美希	教・ISBN1	978-4-86392-036-1
教・書籍名2	ドリル&ドリル日本語能力試験N2 文字語彙	教・出版社名2	UNICOM
教・著者名2	星野恵子、辻和子	教・ISBN2	978-4-89689-478-3
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語ⅠA(文法) 2クラス			担当者	井上 光恵		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年 / 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年 / 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-024		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	充実した大学生活のためには日本語の力が必要である。また本学では在学中に日本語能力試験N2の取得を必須としている。そのようなことから、授業においては、まず初級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能の基礎力を養成し、次の中級レベルの技能確立につなげられるようにする。						
授業概要	日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行われる。これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	①テキストで新しく学習した文型の練習問題を毎回課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ②N3レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフィードバックをする。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1~3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ⅠA・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋Aの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習						

の時間	し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。文字の習得は絶対に必要である。「漢字」や「かな」は何度も繰り返し書いて覚えてほしい。		
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間		
		授業計画	担当者
第1回	1. オリエンテーション		井上光恵
第2回	2. 第25課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第3回	3. 第25課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第4回	4. 第28課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第5回	5. 第28課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第6回	6. 第31課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第7回	7. 第31課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第8回	8. 第34課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第9回	9. 第34課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第10回	10. 第37課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第11回	11. 第37課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第12回	12. まとめ7 33課～37課の復習		井上光恵
第13回	13. 第40課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第14回	14. 第40課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第15回	15. まとめ8 38課～42課の復習		井上光恵
第16回	単位認定試験		井上光恵
教科書			
教・書籍名1	日本語初級(2) 大地 メインテキスト	教・出版社名1	スリーエーネットワーク
教・著者名1	山崎佳子・石井怜子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子	教・ISBN1	978-4-89358-507-7
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	ドリル&ドリル 日本語能力試験 N3 文字語彙	参・出版社名1	ユニコム
参・著者名1	星野恵子 辻和子	参・ISBN1	978-4-89689-487-5
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語ⅠA(読解)1クラス			担当者	小西 真弓		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-025		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また、中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使つての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1~3クラスに編成される。履修登録は教務で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違つたクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						

参・書籍名1	日本語総まとめN3 読解	参・出版社名1	アスク出版
参・著者名1	佐々木仁子・松本紀子	参・ISBN1	978-4-87217-766-4
参・書籍名2	日本語総まとめN3 語彙	参・出版社名2	アスク出版
参・著者名2	佐々木仁子・松本紀子	参・ISBN2	978-4-87217-731-2

授業科目名	日本語ⅠA(読解) 2クラス			担当者	久保田 雅子		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年 / 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年 / 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-025		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。このクラスでは、まず、基礎的な日本語の文法、初級の文章読解を中心に扱う。 目標は日本語能力試験N2相当の実力を身につけることであるが、日本語の基礎レベルの文法知識を習得すること、文章表現を正確に理解することから行う。最終目標は、専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が、円滑に使えることである。						
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるように日本語関連科目Ⅰの3科目(日本語ⅠA、応用日本語ⅠA、日本語研究ⅠA)で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。 中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。日本語能力試験N2の言語知識・文法、読解、聴解などの能力を習得するため、基礎的な文法、語彙、また読解の運用力を高めることを目指す。N2合格への橋渡しとなる科目である。						
アクティブラーニングの内容	反転授業 / その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	授業評価は、試験(50%)、小テスト及び課題提出(30%)、学習意欲・態度(20%)で評価する。 このクラスは基礎の日本語クラスなので基本的な文法事項、語彙、文章読解を中心に扱う。ただし、単位認定については、日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。						
履修条件・注意事項	①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当する	内容	日本語教育				
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、授業の中で自ら課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 2) 指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。						

	予習と復習に2時間以上は必要である。		
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前後に実施		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1. 2 3 課 文法1		久保田
第2回	2. 2 3 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第3回	3. 2 7 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第4回	4. 2 7 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第5回	5. 3 0 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第6回	6. 3 0 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第7回	7. 3 3 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第8回	8. 3 3 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第9回	9. 3 6 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第10回	10. 3 6 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第11回	11. 3 9 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第12回	12. 3 9 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第13回	13. 4 2 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第14回	14. 4 2 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第15回	15. 総まとめ		久保田
第16回			
教科書			
教・書籍名1	日本語初級2・大地 メインテキスト	教・出版社名1	スリーエーネットワーク
教・著者名1	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ISBN1	978-4-88319-507-7
教・書籍名2	ドリル&ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野 恵子・辻和子	教・ISBN2	978-4-89689-487-5
参考書			
参・書籍名1	ことばでおぼえるやさしい漢字ワーク 初級2	参・出版社名1	スリーエーネットワーク
参・著者名1	中村 かおり他著	参・ISBN1	978-488-319-7828
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語ⅠA(聴解) 1クラス			担当者	井上 光恵		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-026		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。						
授業概要	日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行われる。大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。N2に合格してはじめて日本語関連科目Ⅱを履修することができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②N2レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科目履修中に、N2試験に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語Ⅰ春・応用日本語Ⅰ春・日本語研究Ⅰ春の3科目ともに同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。						

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		
授業計画		担当者	
第1回	1. オリエンテーション		井上光恵
第2回	2. 第1章（準備）-1 発音・文法		井上光恵
第3回	3. 第1章（準備）-2 会話表現		井上光恵
第4回	4. 第2章（問題のパターンに慣れる）-1 発話表現 2 即時応答		井上光恵
第5回	5. 第2章（問題のパターンに慣れる）-3 課題理解 4 ポイント理解		井上光恵
第6回	6. 第2章（問題のパターンに慣れる）-5 概要理解		井上光恵
第7回	7. 第3章（いろいろな場所で聞く）-1 町で		井上光恵
第8回	8. 第3章（いろいろな場所で聞く）-2 天気予報・交通情報		井上光恵
第9回	9. 第3章（いろいろな場所で聞く）-3 学校で		井上光恵
第10回	10. 第3章（いろいろな場所で聞く）-4 職場で		井上光恵
第11回	11. 第3章（いろいろな場所で聞く）-5 病院・いろいろな店で		井上光恵
第12回	12. 第4章（いろいろな内容を聞く）-1 人や物のようす		井上光恵
第13回	13. 第4章（いろいろな内容を聞く）-2 場所・方向・位置		井上光恵
第14回	14. 第4章（いろいろな内容を聞く）-3 数・方向・計算		井上光恵
第15回	15. 第4章（いろいろな内容を聞く）-4 順序・比較		井上光恵
第16回	16. 単位認定試験		井上光恵
教科書			
教・書籍名1	日本語総まとめN3聴解	教・出版社名1	アスク
教・著者名1	佐々木仁子・松本紀子	教・ISBN1	978-4-87217-792-3
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	新完全マスター 語彙 N2	参・出版社名1	スリーエーネットワーク
参・著者名1	伊能裕晃 本田ゆかり 来栖里美	参・ISBN1	978-4-88319-574-9
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語ⅠA(聴解) 2クラス			担当者	久保田 雅子		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-026		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することを目指す。 まずは基本的な文法・語彙・聴解の運用力を中心に身につける。最終の目標は日本語能力試験N2相当の実力を身につけることである。						
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ⅰの3科目(日本語ⅠB、応用日本語ⅠB、日本語研究ⅠB)で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。基本的な文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。授業では、基礎的な文法・語彙の運用力、聴解の力を伸ばすことを中心に行う。N2合格への橋渡しとなる科目である。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	授業評価は、試験(50%)、小テスト及び課題提出(30%)、学習意欲・態度(20%)で評価する。この授業では、基礎的な文法・語彙・聴解を中心に扱う。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。 ②日本語Ⅰ・応用日本語Ⅰ・日本語研究Ⅰの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。(社会情勢に応じてJLPTの試験に代わる措置の学内テストを行う場合もある。) ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 また、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用することもできる。						
実務経験のある教員	該当する	内容	日本語教育				
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについての発表を行いながら授業を進める。参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。 予習と復習に2時間以上は必要である。						
オフィスアワー	授業前、終了後、休憩時間						
授業計画						担当者	

第1回	1.オリエンテーション（授業の進め方について） 第24課 文法1	久保田
第2回	2.第24課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第3回	3.第27課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第4回	4.第27課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第5回	5.第30課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第6回	6.第30課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第7回	7.第33課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第8回	8.第33課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第9回	9.第36課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第10回	10.第36課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第11回	10.第39課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第12回	12.第39課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第13回	13.第41課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第14回	14.第41課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第15回	総まとめ	久保田
第16回		

教科書

教・書籍名1	日本語初級2・大地 メインテキスト	教・出版社名1	スリーエーネットワーク
教・著者名1	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ISBN1	978-4883195077
教・書籍名2	ドリル&ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野 恵子・辻和子	教・ISBN2	978-4-89689-487-5

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語ⅠB(文法)クラス1			担当者	磯 永二		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年 / 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年 / 2021～2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-027		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにすることができる。そのうえで、より上のレベルの文法や文字・語彙を学んでいく。そうすることにより日本語能力試験N2合格をめざす。日本語力の向上が学力向上につながり、日本人学生との交流が進み、本学の様々な教育活動の理解や参加の促進につながり、実りある学生生活を送ることができるようになる。						
授業概要	まずは日本語能力試験N3レベルの日本語力を確実なものにするため、N3レベルの文法や文字・語彙等を振り返る。その過程で、課題を課したり、小テストを実施し日本語力の伸長を図る。一方、N2のレベルの文法や文字・語彙を織り込んでいき、力を徐々にN2レベルに導いていく。また、日本での学生生活を円滑に送ることができるようにするため、授業の中で、日本人のあいだでかわされる挨拶や応答などをとりあげ、日本社会で暮らすための知恵を身につけさせていく。						
アクティブラーニングの内容	PBL						
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行われる。これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に編成される。履修登録は教務課で一括登録する。 登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ② 日本語ⅠA/日本語ⅠA(文法)、応用日本語ⅠA/日本語ⅠA(読解)、日本語研究ⅠA/日本語ⅠA(聴解)の3科目ともに同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。						

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	<p>日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。</p> <p>授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でJLPT対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。</p> <p>予習・復習にはそれぞれ2時間以上の学習が必要。</p>		
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション、プロフィール作成、初級文法演習、初級漢字演習		磯
第2回	初級文字語彙演習、文法テキスト学習 場面1①		磯
第3回	文法テキスト学習 場面1②		磯
第4回	文法テキスト学習 場面2①		磯
第5回	文法テキスト学習 場面2②		磯
第6回	N3レベル、N2レベル文字・語彙学習①		磯
第7回	N3レベル、N2レベル文字・語彙学習②		磯
第8回	N3レベル、N2レベル文字・語彙学習③		磯
第9回	第1回～第8回授業 総まとめテスト		磯
第10回	文法テキスト学習 場面3①		磯
第11回	文法テキスト学習 場面3②、N3レベル、N2レベル文字・語彙学習④		磯
第12回	文法テキスト学習 場面4①		磯
第13回	文法テキスト学習 場面4②、N3レベル、N2レベル文字・語彙学習⑤		磯
第14回	文法テキスト学習 場面5①		磯
第15回	文法テキスト学習 場面5②、N3レベル、N2レベル文字・語彙学習⑥		磯
第16回	単位認定試験		磯
教科書			
教・書籍名1	日本語能力試験問題集 N3文法 スピードマスター	教・出版社名1	Jリサーチ出版
教・著者名1	清水知子、大場理恵子、鈴木美希	教・ISBN1	978-4-86392-036-1
教・書籍名2	ドリル&ドリル日本語能力試験N2 文字語彙	教・出版社名2	UNICOM
教・著者名2	星野恵子、辻和子	教・ISBN2	978-4-89689-478-3
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語ⅠB(文法)クラス2			担当者	井上 光恵		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年 / 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年 / 2021～2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-027		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	充実した大学生活のためには日本語の力が必要である。また本学では在学中に日本語能力試験N2の取得を必須としている。そのようなことから、授業においては、まず初級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能の基礎力を養成し、次の中級レベルの技能確立につなげられるようにする。						
授業概要	日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行われる。これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	①テキストで新しく学習した文型の練習問題を毎回課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ②N3レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフィードバックをする。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ⅠA・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋Aの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習						

の時間	し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。文字の習得は絶対に必要である。「漢字」や「かな」は何度も繰り返し書いて覚えてほしい。		
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間		
		授業計画	担当者
第1回	1. オリエンテーション		井上光恵
第2回	2. 第25課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第3回	3. 第25課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第4回	4. 第28課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第5回	5. 第28課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第6回	6. 第31課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第7回	7. 第31課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第8回	8. 第34課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第9回	9. 第34課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第10回	10. 第37課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第11回	11. 第37課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第12回	12. まとめ7 33課～37課の復習		井上光恵
第13回	13. 第40課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第14回	14. 第40課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第15回	15. まとめ8 38課～42課の復習		井上光恵
第16回	単位認定試験		井上光恵
教科書			
教・書籍名1	日本語初級(2) 大地 メインテキスト	教・出版社名1	スリーエーネットワーク
教・著者名1	山崎佳子・石井怜子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子	教・ISBN1	978-4-89358-507-7
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	ドリル&ドリル 日本語能力試験 N3 文字語彙	参・出版社名1	ユニコム
参・著者名1	星野恵子 辻和子	参・ISBN1	978-4-89689-487-5
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語ⅠB(読解)クラス1			担当者	小西 真弓		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年 / 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年 / 2021～2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-028		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また、中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、句型を使っの文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1~3クラスに編成される。履修登録は教務で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠB・応用日本語ⅠB・日本語研究ⅠBの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題(N2対策を含む)に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。						

参・著者名2 佐々木仁子・松本紀子

参・I S B N 2 978-4-87217-731-2

授業科目名	日本語ⅠB(読解)クラス2			担当者	久保田 雅子		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年 / 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年 / 2021～2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-028		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。このクラスでは、まず、基礎的な日本語の文法、初級の文章読解を中心に扱う。 目標は日本語能力試験N2相当の実力を身につけることであるが、日本語の基礎レベルの文法知識を習得すること、文章表現を正確に理解することから行う。最終目標は、専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が、円滑に使えることである。						
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるように日本語関連科目Ⅰの3科目(日本語ⅠA、応用日本語ⅠA、日本語研究ⅠA)で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。 中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。日本語能力試験N2の言語知識・文法、読解、聴解などの能力を習得するため、基礎的な文法、語彙、また読解の運用力を高めることを目指す。N2合格への橋渡しとなる科目である。						
アクティブラーニングの内容	反転授業 / その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	授業評価は、試験(50%)、小テスト及び課題提出(30%)、学習意欲・態度(20%)で評価する。 このクラスは基礎の日本語クラスなので基本的な文法事項、語彙、文章読解を中心に扱う。ただし、単位認定については、日本語能力試験N2の合格結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。						
履修条件・注意事項	①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当する	内容	日本語教育				
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、授業の中で自ら課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 2) 指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。						

	予習と復習に2時間以上は必要である。		
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前後に実施		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1. 2 3 課 文法1		久保田
第2回	2. 2 3 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第3回	3. 2 7 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第4回	4. 2 7 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第5回	5. 3 0 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第6回	6. 3 0 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第7回	7. 3 3 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第8回	8. 3 3 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第9回	9. 3 6 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第10回	10. 3 6 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第11回	11. 3 9 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第12回	12. 3 9 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第13回	13. 4 2 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第14回	14. 4 2 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第15回	15. 総まとめ		久保田
第16回			
教科書			
教・書籍名1	日本語初級2・大地 メインテキスト	教・出版社名1	スリーエーネットワーク
教・著者名1	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ISBN1	978-4-88319-507-7
教・書籍名2	ドリル&ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野 恵子・辻和子	教・ISBN2	978-4-89689-487-5
参考書			
参・書籍名1	ことばでおぼえるやさしい漢字ワーク 初級2	参・出版社名1	スリーエーネットワーク
参・著者名1	中村 かおり他著	参・ISBN1	978-488-319-7828
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語ⅠB(聴解) クラス1			担当者	井上 光恵		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年 / 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年 / 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-029		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。						
授業概要	日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行われる。大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。N2に合格してはじめて日本語関連科目Ⅱを履修することができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②N2レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科目履修中に、N2試験に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語Ⅰ春・応用日本語Ⅰ春・日本語研究Ⅰ春の3科目ともに同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。						

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		
授業計画			担当者
第1回	1. オリエンテーション		井上光恵
第2回	2. 第1章（準備）-1 発音・文法		井上光恵
第3回	3. 第1章（準備）-2 会話表現		井上光恵
第4回	4. 第2章（問題のパターンに慣れる）-1 発話表現 2 即時応答		井上光恵
第5回	5. 第2章（問題のパターンに慣れる）-3 課題理解 4 ポイント理解		井上光恵
第6回	6. 第2章（問題のパターンに慣れる）-5 概要理解		井上光恵
第7回	7. 第3章（いろいろな場所で聞く）-1 町で		井上光恵
第8回	8. 第3章（いろいろな場所で聞く）-2 天気予報・交通情報		井上光恵
第9回	9. 第3章（いろいろな場所で聞く）-3 学校で		井上光恵
第10回	10. 第3章（いろいろな場所で聞く）-4 職場で		井上光恵
第11回	11. 第3章（いろいろな場所で聞く）-5 病院・いろいろな店で		井上光恵
第12回	12. 第4章（いろいろな内容を聞く）-1 人や物のようす		井上光恵
第13回	13. 第4章（いろいろな内容を聞く）-2 場所・方向・位置		井上光恵
第14回	14. 第4章（いろいろな内容を聞く）-3 数・方向・計算		井上光恵
第15回	15. 第4章（いろいろな内容を聞く）-4 順序・比較		井上光恵
第16回	16. 単位認定試験		井上光恵
教科書			
教・書籍名1	日本語総まとめN3聴解		教・出版社名1 アスク
教・著者名1	佐々木仁子・松本紀子		教・ISBN1 978-4-87217-792-3
教・書籍名2			教・出版社名2
教・著者名2			教・ISBN2
参考書			
参・書籍名1	新完全マスター 語彙 N2		参・出版社名1 スリーエーネットワーク
参・著者名1	伊能裕晃 本田ゆかり 来栖里美		参・ISBN1 978-4-88319-574-9
参・書籍名2			参・出版社名2
参・著者名2			参・ISBN2

授業科目名	日本語ⅠB(聴解)クラス2			担当者	久保田 雅子		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-029		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することを目指す。 まずは基本的な文法・語彙・聴解の運用力を中心に身につける。最終の目標は日本語能力試験N2相当の実力を身につけることである。						
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ⅰの3科目(日本語ⅠB、応用日本語ⅠB、日本語研究ⅠB)で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。基本的な文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。授業では、基礎的な文法・語彙の運用力、聴解の力を伸ばすことを中心に行う。N2合格への橋渡しとなる科目である。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	授業評価は、試験(50%)、小テスト及び課題提出(30%)、学習意欲・態度(20%)で評価する。この授業では、基礎的な文法・語彙・聴解を中心に扱う。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。 ②日本語Ⅰ・応用日本語Ⅰ・日本語研究Ⅰの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。(社会情勢に応じてJLPTの試験に代わる措置の学内テストを行う場合もある。) ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 また、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用することもできる。						
実務経験のある教員	該当する	内容	日本語教育				
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについての発表を行いながら授業を進める。参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。 予習と復習に2時間以上は必要である。						
オフィスアワー	授業前、終了後、休憩時間						
授業計画						担当者	

第1回	1.オリエンテーション（授業の進め方について） 第24課 文法1	久保田
第2回	2.第24課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第3回	3.第27課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第4回	4.第27課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第5回	5.第30課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第6回	6.第30課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第7回	7.第33課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第8回	8.第33課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第9回	9.第36課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第10回	10.第36課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第11回	10.第39課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第12回	12.第39課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第13回	13.第41課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第14回	14.第41課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第15回	総まとめ	久保田
第16回		

教科書

教・書籍名1	日本語初級2・大地 メインテキスト	教・出版社名1	スリーエーネットワーク
教・著者名1	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ISBN1	978-4883195077
教・書籍名2	ドリル&ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野 恵子・辻和子	教・ISBN2	978-4-89689-487-5

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本国憲法			担当者	入江 祥子		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SU-1-036		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	△
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	<p><到達目標> 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べるができることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。</p> <p><テーマ> 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。</p>						
授業概要	<p>法の初学者のために、広く「法」の解説から始める。さらに「憲法」の定義やその特質について学んだうえで、「日本国憲法」についてその成立背景から基本原理および統治機構について、判例・学説を交え講義を行う。特に「人権」については、その性質および享有主体性等個々の論点にまで立ち入った解説を行い、正しい人権意識を身につけることを意識する。また、統治機構については、政治的時事問題を交え、日本の政治の仕組みおよび問題点について説明し、主権者として必要な正しい知識を取得できるよう講義を行う。</p> <p>* 実務経験のある教員による授業 本授業は法律に関するスペシャリストである司法書士の方による講義です。</p>						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	受講態度及び取組姿勢30%、各講義の最後に実施する理解度を問う小テストの評価30%、定期試験40%の配分で基本的評価を行う。授業態度については、私語、遅刻、途中退室等についても考慮する。小テストが優秀であれば加点する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	国内外で起きている様々な社会問題を自らとらえ、それらの問題について自発的に考え、解決策を模索することを習慣づける。						
履修条件・注意事項	履修条件は特にありませんが、日本国内外の時事問題を情報収集するよう心がけてください。 注意事項としては、他の学生の受講に迷惑になること（特に私語、授業途中の許可のない入退室等）は厳に慎んでください。講師の指示に従わない場合には受講を認めないこともありますので、ご注意ください。 出席状況の把握は各自で行ってください。 原則として、配布物の再配布は行いません。						
実務経験のある教員	該当する	内容	司法書士				

事前学習・事後学習とその時間	予習としては、授業計画のテーマに沿って、インターネットや書籍を利用した下調べを行っていただきたい。本講義は復習が重要です。授業で学んだ知識を定着させ、それを踏まえて自己の考えを構築できるよう発展させること。		
オフィスアワー	授業時間前後に講義室又は非常勤講師室にて質問等を受けます。		
授業計画		担当者	
第1回	なぜ「憲法」を学ぶ必要があるか	入江 祥子	
第2回	法とは何か、法はなぜ必要か、法と道德の違い	入江 祥子	
第3回	法源とは何か、法の種類	入江 祥子	
第4回	憲法とは何か、立憲主義	入江 祥子	
第5回	憲法の成立、大日本帝国憲法と日本国憲法	入江 祥子	
第6回	国民主権の意味、その役割	入江 祥子	
第7回	戦争の放棄、日本国憲法第9条	入江 祥子	
第8回	人権とは何か、その役割	入江 祥子	
第9回	人権の効果	入江 祥子	
第10回	人権の限界、公共の福祉	入江 祥子	
第11回	統治制度について、権力分立	入江 祥子	
第12回	立法権、国会の役割	入江 祥子	
第13回	行政権、内閣の役割	入江 祥子	
第14回	司法権、裁判所の役割	入江 祥子	
第15回	地方自治について	入江 祥子	
第16回	筆記試験	入江 祥子	
教科書			
教・書籍名1	各回ごとに配布物を配り、それによって授業を進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	六法	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本国憲法			担当者	入江 祥子		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SU-1-036		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	△
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	<p><到達目標> 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べるができることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。</p> <p><テーマ> 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。</p>						
授業概要	<p>法の初学者のために、広く「法」の解説から始める。さらに「憲法」の定義やその特質について学んだうえで、「日本国憲法」についてその成立背景から基本原理および統治機構について、判例・学説を交え講義を行う。特に「人権」については、その性質および享有主体性等個々の論点にまで立ち入った解説を行い、正しい人権意識を身につけることを意識する。また、統治機構については、政治的時事問題を交え、日本の政治の仕組みおよび問題点について説明し、主権者として必要な正しい知識を取得できるよう講義を行う。</p> <p>* 実務経験のある教員による授業 本授業は法律に関するスペシャリストである司法書士の方による講義です。</p>						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	受講態度及び取組姿勢30%、各講義の最後に実施する理解度を問う小テストの評価30%、定期試験40%の配分で基本的評価を行う。授業態度については、私語、遅刻、途中退室等についても考慮する。小テストが優秀であれば加点する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	国内外で起きている様々な社会問題を自らとらえ、それらの問題について自発的に考え、解決策を模索することを習慣づける。						
履修条件・注意事項	履修条件は特にありませんが、日本国内外の時事問題を情報収集するよう心がけてください。 注意事項としては、他の学生の受講に迷惑になること（特に私語、授業途中の許可のない入退室等）は厳に慎んでください。講師の指示に従わない場合には受講を認めないこともありますので、ご注意ください。 出席状況の把握は各自で行ってください。 原則として、配布物の再配布は行いません。						
実務経験のある教員	該当する	内容	司法書士				

事前学習・事後学習とその時間	予習としては、授業計画のテーマに沿って、インターネットや書籍を利用した下調べを行っていただきたい。本講義は復習が重要です。授業で学んだ知識を定着させ、それを踏まえて自己の考えを構築できるよう発展させること。		
オフィスアワー	授業時間前後に講義室又は非常勤講師室にて質問等を受けます。		
授業計画		担当者	
第1回	なぜ「憲法」を学ぶ必要があるか	入江 祥子	
第2回	法とは何か、法はなぜ必要か、法と道德の違い	入江 祥子	
第3回	法源とは何か、法の種類	入江 祥子	
第4回	憲法とは何か、立憲主義	入江 祥子	
第5回	憲法の成立、大日本帝国憲法と日本国憲法	入江 祥子	
第6回	国民主権の意味、その役割	入江 祥子	
第7回	戦争の放棄、日本国憲法第9条	入江 祥子	
第8回	人権とは何か、その役割	入江 祥子	
第9回	人権の効果	入江 祥子	
第10回	人権の限界、公共の福祉	入江 祥子	
第11回	統治制度について、権力分立	入江 祥子	
第12回	立法権、国会の役割	入江 祥子	
第13回	行政権、内閣の役割	入江 祥子	
第14回	司法権、裁判所の役割	入江 祥子	
第15回	地方自治について	入江 祥子	
第16回	筆記試験	入江 祥子	
教科書			
教・書籍名1	各回ごとに配布物を配り、それによって授業を進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	六法	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	経済学			担当者	張 秉煥		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年 / 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SU-1-037		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう / 2. 飢餓をゼロに / 3. すべての人に健康と福祉を / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう / 10. 人や国の不平等をなくそう 						
到達目標	重要な経済問題について科学的にそして論理的に理解するための基本的スキルを修得することができる。						
授業概要	すべての社会が直面する根本的な経済問題は希少性である。経済学は、社会がその希少な資源をいかに管理するかを研究する学問である。資源の配分は、膨大な数の家計と企業の行動を総合した結果として決定される。講座の前半は、個別の家計や企業が様々な決定をどのように行うか、それらが市場でどのように相互作用しあうのかを分析する。後半では、経済全体に影響するような様々な要因や傾向を考察する。なお、所得分配や所得格差問題、所得機会の変容とそのインプリケーションについて検討する。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	「定期筆記試験（70%）＋途中の形成的評価（30%）」をもとに合計100点満点で採点し、60点以上を合格とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	途中の形成的評価のために実施する「課題や試験」へのフィードバックは、授業中の総括的単位で行うことによって、個別学生に学習方法への含意や定期筆記試験への対策に資するものとする						
履修条件・注意事項							
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講座の独自教材（ワークブック兼用）に基づき、自主的な事前学習を行って授業を受けること。						
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	講座の概要や評価方法、教材の構成、主な内容と使い方など。科学的方法論としての経済モデル					張秉煥	
第2回	経済学の主要原理（1）トレードオフ、機会費用、限界分析、インセンティブ等					張秉煥	
第3回	経済学の主要原理（2）市場経済、市場の失敗、GDP、インフレなど（現実の事例を含む）					張秉煥	
第4回	市場と競争（市場構造）、需要・供給の仕組み、両面市場					張秉煥	
第5回	市場構造と社会的厚生、完全競争市場、現実の経済問題への応用（インセンティブ）					張秉煥	
第6回	独占市場の特性と参入障壁の源泉、現実の経済問題への応用、小テスト1					張秉煥	
第7回	独占的市場と寡占市場の特性、囚人のジレンマモデルと現実の経済問題への応用					張秉煥	
第8回	現実における様々な価格類型、価格弾力性と価格差別モデル、現実の経済問題への応用					張秉煥	
第9回	価格規制の基礎モデル、最低賃金制度による労働市場への影響分析、外部効果の諸例					張秉煥	
第10回	公共財の諸例、フリーライダー問題、共有地の悲劇モデルと現実への応用、小テスト2					張秉煥	
第11回	情報の非対称性問題、モラル・ハザード、逆選択、現実の経済問題への応用					張秉煥	
第12回	経済循環図、国民所得の測定と国際比較、現実の経済問題への応用					張秉煥	
第13回	経済成長と公共政策、72の法則とその応用、景気変動					張秉煥	
第14回	所得分布と所得格差、所得機会の変容（定量的分析を踏まえて）、小テスト3					張秉煥	
第15回	経済政策の類型と具体的手法、経済安定化政策の逆効果（ジレンマ）					張秉煥	

第16回	定期筆記試験	張秉煥
教科書		
教・書籍名1	独自教材（ワークブック兼用）	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	マンキュー入門経済学	参・出版社名1 東洋経済新報社
参・著者名1	N・グレゴリー・マンキュー	参・ISBN1 978-4492315217
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	経済学			担当者	張 秉煥		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年 / 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SU-1-037		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう / 2. 飢餓をゼロに / 3. すべての人に健康と福祉を / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう / 10. 人や国の不平等をなくそう 						
到達目標	重要な経済問題について科学的にそして論理的に理解するための基本的スキルを修得することができる。						
授業概要	すべての社会が直面する根本的な経済問題は希少性である。経済学は、社会がその希少な資源をいかに管理するかを研究する学問である。資源の配分は、膨大な数の家計と企業の行動を総合した結果として決定される。講座の前半は、個別の家計や企業が様々な決定をどのように行うか、それらが市場でどのように相互作用しあうのかを分析する。後半では、経済全体に影響するような様々な要因や傾向を考察する。なお、所得分配や所得格差問題、所得機会の変容とそのインプリケーションについて検討する。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	「定期筆記試験（70%）＋途中の形成的評価（30%）」をもとに合計100点満点で採点し、60点以上を合格とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	途中の形成的評価のために実施する「課題や試験」へのフィードバックは、授業中の総括的単位で行うことによって、個別学生に学習方法への含意や定期筆記試験への対策に資するものとする						
履修条件・注意事項							
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講座の独自教材（ワークブック兼用）に基づき、自主的な事前学習を行って授業を受けること。						
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	講座の概要や評価方法、教材の構成、主な内容と使い方など。科学的方法論としての経済モデル					張秉煥	
第2回	経済学の主要原理（1）トレードオフ、機会費用、限界分析、インセンティブ等					張秉煥	
第3回	経済学の主要原理（2）市場経済、市場の失敗、GDP、インフレなど（現実の事例を含む）					張秉煥	
第4回	市場と競争（市場構造）、需要・供給の仕組み、両面市場					張秉煥	
第5回	市場構造と社会的厚生、完全競争市場、現実の経済問題への応用（インセンティブ）					張秉煥	
第6回	独占市場の特性と参入障壁の源泉、現実の経済問題への応用、小テスト1					張秉煥	
第7回	独占的市場と寡占市場の特性、囚人のジレンマモデルと現実の経済問題への応用					張秉煥	
第8回	現実における様々な価格類型、価格弾力性と価格差別モデル、現実の経済問題への応用					張秉煥	
第9回	価格規制の基礎モデル、最低賃金制度による労働市場への影響分析、外部効果の諸例					張秉煥	
第10回	公共財の諸例、フリーライダー問題、共有地の悲劇モデルと現実への応用、小テスト2					張秉煥	
第11回	情報の非対称性問題、モラル・ハザード、逆選択、現実の経済問題への応用					張秉煥	
第12回	経済循環図、国民所得の測定と国際比較、現実の経済問題への応用					張秉煥	
第13回	経済成長と公共政策、72の法則とその応用、景気変動					張秉煥	
第14回	所得分布と所得格差、所得機会の変容（定量的分析を踏まえて）、小テスト3					張秉煥	
第15回	経済政策の類型と具体的手法、経済安定化政策の逆効果（ジレンマ）					張秉煥	

第16回	定期筆記試験	張秉煥
教科書		
教・書籍名1	独自教材（ワークブック兼用）	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	マンキュー入門経済学	参・出版社名1 東洋経済新報社
参・著者名1	N・グレゴリー・マンキュー	参・ISBN1 978-4492315217
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	社会学			担当者	黒宮 亜希子、稲元 洋輔		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SU-1-038		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	△	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	△
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／11. 住み続けられるまちづくりを 						
到達目標	<p>テーマ：基礎社会学を学ぶ（社会学とは何か？、労働・教育・地域・家族等の視点より）</p> <p>到達目標：社会学の基本的な定義・考え方、具体的な社会問題、人口問題と環境、現代家族、教育、産業・労働の領域における現状と問題を理解し、その解決法を考えることとする。</p> <p>受講生らが生きている現代社会の仕組みや出来事に関する理解を深める。</p> <p>この講義を通じて、現代社会の様々な制度と問題を理解すること、また、自分の考えを文章で言語化し、記述する能力を向上することも併せて目標とする。</p>						
授業概要	この講義の目的は、社会学という学問がどのような学問であるかを理解し、講義で学習した社会的な見方、考え方を応用し、受講生の周囲で起こっている実際の出来事について考えることができるようにすることである。具体的には、現代家族の変化、教育問題、非正規社員の増加と経済的格差、人口構造の変化などを取り上げる。それによって学生たちは問題を理解し、社会学の分析視角から考え、自分の意見を持ち、判断することができるようになる。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業中課題（40％）・定期試験（60％）によって評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題はコメントを入れ返却を行う。						
履修条件・注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・2名の教員がオムニバス形式で進行する。 ・毎回、教員が作成したハンドアウトを配布する。ファイル等で各自保管しておくこと。 ・日本語で自身の考えを記述する力が求められるため、日本語の力がまだ十分ではない留学生の受講に際してはやや注意を要する。 ・授業計画の内容は、進捗状況に応じて変更になることがある。 						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	黒宮：月曜4限（14625） 稲元：火曜3限（14611）						
授業計画						担当者	
第1回	授業オリエンテーション					黒宮・稲元	
第2回	身近な社会学（1）地位と役割					黒宮	

第3回	身近な社会学 (2) ラベリング・スティグマ	黒宮
第4回	教育の社会学 (1) 学校とはなにか	稲元
第5回	教育の社会学 (2) 教育をめぐる諸問題	稲元
第6回	家族の社会学 (1) 家族とその変化	黒宮
第7回	家族の社会学 (2) 家族とジェンダー	黒宮
第8回	労働の社会学 (1) 学校から職場へ	稲元
第9回	労働の社会学 (2) 働くことの社会的な位置づけ	稲元
第10回	地域の社会学 (1) 地域、コミュニティとは	黒宮
第11回	地域の社会学 (2) 地域社会の今	黒宮
第12回	自己と他者の社会学 (1) 他者のまなざし	稲元
第13回	自己と他者の社会学 (2) コミュニケーション	稲元
第14回	社会問題を社会学する (講義、小括)	黒宮
第15回	社会問題を社会学する (講義、小括)	稲元
第16回	筆記試験	黒宮・稲元

教科書

教・書籍名1	資料を配布する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	授業内容に応じて適宜、文献を紹介する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	社会学			担当者	赤坂 真人		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年 / 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SU-1-038		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 11. 住み続けられるまちづくりを / 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	<p>テーマ 社会学入門（社会学とは何か・人口論・家族・教育・産業と労働）</p> <p>到達目標 社会学の定義と考え方を学び、そのうえで現代社会の人口、現代家族、教育、産業と労働の現状について述べる。次に、明確に意識されていない現代社会の様々な制度と問題を明確に認識させ、毎回実施する小テスト（記述式）で社会問題に対する自分自身の考えをまとめ、文章で記述・説明する能力を鍛える。この講義によって学生たちは現代社会の諸問題を理解し、それを社会学の分析視角から考え、自分の意見を持ち、判断することができるようになる。</p>						
授業概要	この講義の目的は、社会学という学問がどのような学問であるかを理解し、次に講義で学習した社会的な見方、考え方を応用し、学生の周囲で起こっている日常の出来事について考えさせることである。具体的には人口減少に伴って起こる様々な問題、人口高齢化と年金・医療保険の問題、現代家族の変化、晩婚化・非婚化、教育の社会的意義、AI化とこれからの教育、Society5.0における産業と労働、経済的格差、日本の経済不況と対策などを取り上げる。この講義によって学生たちは現代社会の諸問題を理解し、それを社会学の分析視角から考え、自分の意見を持ち、判断することができるようになる。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業中の小テスト（50％）・定期試験（50％）によって評価する。小テストは採点し、コメントつけて返却するので必ず復習すること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義の最後20分間を使って、毎回論述式の小試験を行う。メールにより解答し教員の授業用メールボックスに返送する。教員は学生一人一人の論述に対し400～500字のコメントを書いて学生に返却する。教員からのコメントに対してさらに意見を述べた場合、それに対して再びコメント書いて返却する。						
履修条件・注意事項	講義時間が減少するので学生の名前を読み上げて出席を取ることはしない。カードによる出席チェックの不正をしない。日本語が分からないと講義についてゆけないので留学生は履修の際、十分留意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	火曜4限（15：10～16：40）に、研究室（9309）にて実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	1.人間が社会を作るまで。2.群れ（社会）で生きる人間。3.人間社会の大変動。					赤坂	
第2回	1.社会学とは何か。2.社会のわかりにくさ。3.他の人間科学との相違。4.社会学の利用法。					赤坂	
第3回	1.世界の人口動向。2.人口転換理論。3.日本の人口推移。4.少子高齢化。5.晩婚化と非婚化。					赤坂	
第4回	1.生涯未婚率の推移。2.世界最速の高齢化。3.少子高齢化と経済の縮小・社会保障の危機。					赤坂	

第5回	1.家族とは何か。2.家族の種類。3.世帯・親族・親戚。4.社会制度としての結婚。	赤坂
第6回	1.結婚の社会的規制。2.非婚社会：日本。3.非婚化の経済的原因。4.非婚化の生物学的原因	赤坂
第7回	1.解体する家族。2.現代家族の問題。3.下流化する中高年。4.現代家族の病理と法的問題。	赤坂
第8回	1.液化化する社会。2.避けられぬ人口減少。3.男性未婚者。4.職業と未婚。5.世代間の不平等。	赤坂
第9回	1.教育の機能。2.メリトクラシーの崩壊と階層の固定化。3.学力低下論争。4.学力の二極化	赤坂
第10回	1.教師の多忙化と燃え尽き。2.いじめ問題。3.校内暴力。4.不登校。5.学校は魅力を失ったか？	赤坂
第11回	1.教育と職業。2.大学教育は仕事の役に立つか？3.中間集団としての学校。4.ニートの人々	赤坂
第12回	1.産業の分類。2.賃金と労働。3.日本人の労働時間と失業率。4.日本的経営の終わりりと没落。	赤坂
第13回	1.日本経済の矛盾。2.生産性の低さ。3.日本経済没落の原因。4.経済再生の課題	赤坂
第14回	1.職業とジェンダー。2.職業と階層。3.階層間格差。4.AI化と労働の未来	赤坂
第15回	1.AIの進化と社会変動 2.インフォテック。3.フードテック。4.画像認識。5.拡張現実・その他	赤坂
第16回	筆記試験	赤坂
教科書		
教・書籍名1	基礎社会学	教・出版社名1 ふうろう出版
教・著者名1	赤坂真人	教・ISBN1 978-4861864278
教・書籍名2	毎回、教員が作成したハンドアウトを配布する。	教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	講義中に約30冊の文献を紹介する。	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	哲学			担当者	山本 敦之		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年 / 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-PD-1-039		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	テーマは「歴史の中の哲学」である。哲学という言葉は無造作に使われることが多い。しかし本来哲学は、古代ギリシャに端を発する一つの歴史上の、極めて重要な知的伝統である。そしてそれはある時期まで学問全体を指し、狭義の哲学は「第一哲学」と呼ばれたりした。学生は、各時代の代表的哲学者の思想を通じて、文明の中での学問と狭義の哲学のありようの歴史を知ることになる。これによって学生は、世界と自分について、根底から物事を考える能力を身につけることができる。						
授業概要	古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、なるべく準備すること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題については交替で発表をおこなってもらい、ほかの学生からのコメントを求め、これについて教員が論評する。試験については返却時に教員がコメントを附す。						
履修条件・注意事項	数学や論理学、文芸や芸術に対する関心、知的好奇心。毎回プリントを配布するので、ファイルブックを用意しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること(2時間程度)。						
オフィスアワー	月曜 5 限257研究室						
授業計画						担当者	
第1回	1. 「哲学」という言葉の歴史と哲学の始まり					山本	
第2回	初期の「哲学者」たち					山本	
第3回	エレア派とその影響					山本	
第4回	ソクラテスとその影響					山本	
第5回	プラトン					山本	
第6回	アリストテレスの哲学					山本	
第7回	アリストテレスの第一哲学					山本	
第8回	ヘレニズム世界の哲学とローマ帝国の思想状況					山本	
第9回	西欧文明の成立					山本	
第10回	盛期中世の学問状況と14世紀の大変革					山本	

第11回	ルネサンスと科学革命	山本	
第12回	科学革命と政治哲学	山本	
第13回	19世紀における諸科学の成立と哲学	山本	
第14回	科学的心理学の成立と哲学の変容	山本	
第15回	総括	山本	
第16回	定期試験	山本	
教科書			
教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	西洋哲学史〈古代から中世へ〉	参・出版社名1	岩波新書
参・著者名1	熊野純彦	参・ISBN1	9784004310075
参・書籍名2	西洋哲学史〈近代から現代へ〉	参・出版社名2	岩波新書
参・著者名2	9784004310082	参・ISBN2	

授業科目名	哲学			担当者	山本 敦之		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-PD-1-039		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／16. 平和と公正をすべての人に  						
到達目標	テーマは「歴史の中の哲学」である。哲学という言葉は無造作に使われることが多い。しかし本来哲学は、古代ギリシャに端を発する一つの歴史上の、極めて重要な知的伝統である。そしてそれはある時期まで学問全体を指し、狭義の哲学は「第一哲学」と呼ばれたりした。学生は、各時代の代表的哲学者の思想を通じて、文明の中での学問と狭義の哲学のありようの歴史を知ることになる。これによって学生は、世界と自分について、根底から物事を考える能力を身につけることができる。						
授業概要	古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、なるべく準備すること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題については交替で発表をおこなってもらい、ほかの学生からのコメントを求め、これについて教員が論評する。試験については返却時に教員がコメントを附す。						
履修条件・注意事項	数学や論理学、文芸や芸術に対する関心、知的好奇心。毎回プリントを配布するので、ファイルブックを用意しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること(2時間程度)。						
オフィスアワー	月曜5限257研究室						
授業計画						担当者	
第1回	1. 「哲学」という言葉の歴史と哲学の始まり					山本	
第2回	初期の「哲学者」たち					山本	
第3回	エレア派とその影響					山本	
第4回	ソクラテスとその影響					山本	
第5回	プラトン					山本	
第6回	アリストテレスの哲学					山本	
第7回	アリストテレスの第一哲学					山本	
第8回	ヘレニズム世界の哲学とローマ帝国の思想状況					山本	
第9回	西欧文明の成立					山本	
第10回	盛期中世の学問状況と14世紀の大変革					山本	

第11回	ルネサンスと科学革命	山本	
第12回	科学革命と政治哲学	山本	
第13回	19世紀における諸科学の成立と哲学	山本	
第14回	科学的心理学の成立と哲学の変容	山本	
第15回	総括	山本	
第16回	定期試験	山本	
教科書			
教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	西洋哲学史〈古代から中世へ〉	参・出版社名1	岩波新書
参・著者名1	熊野純彦	参・ISBN1	9784004310075
参・書籍名2	西洋哲学史〈近代から現代へ〉	参・出版社名2	岩波新書
参・著者名2	9784004310082	参・ISBN2	

授業科目名	心理学（経営・スポ・心理）			担当者	津川 秀夫、藤原 直子、土居 正人、橋本 翠、村上 勝典、若森 孝彰、森井 康幸、宇都宮 真輝		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-PD-1-040		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	心理学とはどんな学問かを知ることがテーマである。心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。学生は、人が生活している環境からいかに情報を取り入れ、蓄積し、利用するのか、あるいは、いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して、心理学のおもしろさに触れることができる。						
授業概要	心理学は知覚、認知、発達、社会、パーソナリティーなどさまざまな領域において様々な研究が行われている。本講義では、いくつかの領域における研究対象、方法、得られた知見等の解説をオムニバス形式で行う。 <input checked="" type="checkbox"/>						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	小テスト(50%)と定期テスト(50%)の成績により評価する。 ただし、受講態度の悪い学生（私語、飲食、内職等・・・）については、この限りではない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	小テストについては、授業中にフィードバックするので、定期試験に向けて、見直すこと。						
履修条件・注意事項	テキストは使用しないので、集中して講義に参加すること。 授業担当者ごとに、2回に1回くらいの割合で小テストを行うので、特に復習には力を入れること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	基本的には、講義内で配布された資料をもとに復習すること。（2時間） テキストは使用しないが、一般的な心理学の本で該当箇所を対照させながら学ぶことが重要である（2時間）。体験的に学びを深めたい学生には、心理学実験への参加・協力をお願いする。						
オフィスアワー	森井：月4 津川：月4 藤原：月2 橋本：月5 宇都宮：火4 土居：月2 村上：木3 各教員研究室						
授業計画						担当者	
第1回	(1) オリエンテーション					全員	
第2回	(2) 外界を探るころの働き					橋本	
第3回	(3) 感覚と知覚					橋本	
第4回	(4) 記憶のふしぎ					森井	
第5回	(5) 本能と学習					森井	
第6回	(6) 性格とは					土居	
第7回	(7) 心理検査について					土居	

第 8 回	(8) 乳幼児期～青年期の発達	宇都宮
第 9 回	(9) 青年期の人間関係と心理	宇都宮
第 1 0 回	(10) 対人認知	村上
第 1 1 回	(11) 態度変容	村上
第 1 2 回	(12) ストレス	藤原
第 1 3 回	(13) ストレスと考え方	藤原
第 1 4 回	(14) カウンセリング	津川
第 1 5 回	(15) カウンセリングの実際	津川
第 1 6 回	(16) 定期試験(筆記)	全員
教科書		
教・書籍名 1	教科書は使用しない。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	心理学 (New Liberal Arts Selection)	参・出版社名 1
参・著者名 1	無藤・遠藤・玉瀬・森	参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	多様性の理解			担当者	末吉 秀二		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-PD-1-041		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	本講義は「世界の文化の多様性を理解する」をテーマに、私たち日本人にはあまり馴染みのないアラブ・イスラーム社会をとりあげる。具体的には、①イスラームの理解に不可欠なアラビア語の基礎、②西アジア史、③イスラーム文化、④近・現代のアラブ社会について理解を深める。その結果、世界の文化の多様性について興味をもてるようになる。						
授業概要	世界の多文化を理解するためには、まず文化相対主義（Cultural relativism）の立場、すなわち異なる文化の間には優劣はなく、それぞれの文化の価値を認めようとする視点が重要である。本講義は、世界の関心が高く、また世界の安定にとってきわめて重要な位置にある中東地域を例に、古代オリエントから現代までの中東の歴史、アラビア語の基礎、イスラームの意味するところから、アラブ・イスラーム文化を理解するとともに、世界の文化の多様性を理解するための端緒とする。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	到達目標を計るため、試験（60%）、授業態度/積極性（20%）、課題レポート（20%）により総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートの返却時に講評する。						
履修条件・注意事項							
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習として、日ごろからアラブ社会の情勢に関心をもつこと、復習として、分からないことは授業で質問し、分からないことをそのままにしないこと。						
オフィスアワー	月曜日・金曜日（3限、5限）						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					末吉秀二	
第2回	古代オリエント					末吉秀二	
第3回	アラブ・イスラーム世界の形成					末吉秀二	
第4回	オスマン帝国とアラブ					末吉秀二	
第5回	近・現代のアラブ社会					末吉秀二	
第6回	アラビア語の基礎（文字と発音）					末吉秀二	
第7回	アラビア語の基礎（文法）					末吉秀二	
第8回	預言者ムハンマド					末吉秀二	
第9回	コーラン					末吉秀二	
第10回	イスラーム法（シャリーア）					末吉秀二	
第11回	イスラーム文化（衣・食・住）					末吉秀二	
第12回	イスラーム文化（スーク/メディナ）					末吉秀二	
第13回	パレスチナ問題					末吉秀二	

第14回	事例研究 (ヨルダン)	末吉秀二
第15回	多文化理解 (論文輪読)	末吉秀二
第16回	単位認定試験	末吉秀二
教科書		
教・書籍名1		教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	イスラーム文化	参・出版社名1 岩波文庫
参・著者名1	井筒俊彦	参・ISBN1 4-00-331851-X
参・書籍名2	イスラーム世界の論じ方	参・出版社名2 中央公論社
参・著者名2	池内 恵	参・ISBN2 978-412-003990-4

授業科目名	多様性の理解			担当者	末吉 秀二		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-PD-1-041		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	本講義は「世界の文化の多様性を理解する」をテーマに、私たち日本人にはあまり馴染みのないアラブ・イスラーム社会をとりあげる。具体的には、①イスラームの理解に不可欠なアラビア語の基礎、②西アジア史、③イスラーム文化、④近・現代のアラブ社会について理解を深める。その結果、世界の文化の多様性について興味をもてるようになる。						
授業概要	世界の多文化を理解するためには、まず文化相対主義（Cultural relativism）の立場、すなわち異なる文化の間には優劣はなく、それぞれの文化の価値を認めようとする視点が重要である。本講義は、世界の関心が高く、また世界の安定にとってきわめて重要な位置にある中東地域を例に、古代オリエントから現代までの中東の歴史、アラビア語の基礎、イスラームの意味するところから、アラブ・イスラーム文化を理解するとともに、世界の文化の多様性を理解するための端緒とする。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	到達目標を計るため、試験（60％）、授業態度/積極性（20％）、課題レポート（20％）により総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートの返却時に講評する。						
履修条件・注意事項							
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	課題レポートの返却時に講評する。 予習として、日ごろからアラブ社会の情勢に関心をもつこと、復習として、分からないことは授業で質問し、分からないことをそのままにしないこと。						
オフィスアワー	月曜日・金曜日（3限、5限）						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					末吉秀二	
第2回	古代オリエント					末吉秀二	
第3回	アラブ・イスラーム世界の形成					末吉秀二	
第4回	オスマン帝国とアラブ					末吉秀二	
第5回	近・現代のアラブ社会					末吉秀二	
第6回	アラビア語の基礎（文字と発音）					末吉秀二	
第7回	アラビア語の基礎（文法）					末吉秀二	
第8回	預言者ムハンマド					末吉秀二	
第9回	コーラン					末吉秀二	
第10回	イスラーム法（シャリーア）					末吉秀二	

第11回	イスラーム文化（衣・食・住）	末吉秀二
第12回	イスラーム文化（スーク/メディナ）	末吉秀二
第13回	パレスチナ問題	末吉秀二
第14回	事例研究（ヨルダン）	末吉秀二
第15回	多文化理解（論文輪読）	末吉秀二
第16回	単位認定試験	末吉秀二

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名1	イスラーム文化	参・出版社名1	岩波文庫
参・著者名1	井筒俊彦	参・ISBN1	4-00-331851-X
参・書籍名2	イスラーム世界の論じ方	参・出版社名2	中央公論社
参・著者名2	池内 恵	参・ISBN2	978-412-003990-4

授業科目名	文章力の基礎			担当者	雲津 英子		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年 / 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-PD-1-042		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	本講義のテーマは、大学生、あるいは社会人として必要な日本語の基本的な運用能力の獲得である。大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。 本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。また、「日本語検定」を紹介し、受験に対しての指導も行う。						
授業概要	講義内容は、「敬語」、「文法」、「語彙」、「言葉の意味」、「漢字」、「表記」の6つ領域で構成している。学生はこれらを順番に学んでいくことにより、日本語の運用能力を一步一步着実に高めていくことができる。毎回の講義では、小テスト及び復習テストを実施し、学修内容の定着状況を学生自身が確認することでさらなる日本語力向上をめざす。 さらに「日本語検定」への挑戦は、学生自身の今の日本語力を振り返るきっかけになるとともに、今後の日本語学修の目標にもなる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	単位認定試験（70％）、授業態度（15％）、小テスト・復習テスト（15％）によって総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	小テスト・復習テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	留学生の受講は可能であるが、「日本語能力試験」のN2（2級）以上の実力がなければ、講義内容の理解は難しい。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、高等学校において進路指導助手としての実務経験を持つ教員が、小論文指導（表記法、文章表現等の指導）の経験を活かし、論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回の講義で小テスト及び復習テストを実施するため、予習・復習をして講義に臨むことが必要である。予習および復習は、各2時間程度行うこと。 日本語力の向上には、今の自分の日本語力に対しての気づきと、日々の意識的な努力が必要とされるため、講義以外での学修時間も重要である。 「日本語検定」の受験を目標にして学修に取り組むことが望ましい。						
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	「日本語検定3級」に挑戦					雲津 英子	
第2回	はじめに					雲津 英子	
第3回	敬語の種類と使い分け					雲津 英子	
第4回	注意すべき敬語					雲津 英子	

第5回	配慮を示す言葉	雲津 英子
第6回	品詞・活用の種類	雲津 英子
第7回	ら抜き言葉・さ入れ言葉	雲津 英子
第8回	文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文	雲津 英子
第9回	接続後・指示語と文章	雲津 英子
第10回	類義語・対義語	雲津 英子
第11回	動詞の自他・視点	雲津 英子
第12回	文体、話し言葉・書き言葉	雲津 英子
第13回	コロケーション	雲津 英子
第14回	部首・音訓・熟語	雲津 英子
第15回	仮名遣い・送り仮名	雲津 英子
第16回	単位認定試験（筆記試験）	雲津 英子

教科書

教・書籍名1	スキルアップ！日本語力ー大学生のための日本語練習帳ー	教・出版社名1	東京書籍
教・著者名1	名古屋大学日本語研究会G K 7	教・I S B N 1	978-4-487-80364-4
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・I S B N 1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	文章力の基礎			担当者	雲津 英子		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-PD-1-042		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	本講義のテーマは、大学生、あるいは社会人として必要な日本語の基本的な運用能力の獲得である。大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。 本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。また、「日本語検定」を紹介し、受験に対しての指導も行う。						
授業概要	講義内容は、「敬語」、「文法」、「語彙」、「言葉の意味」、「漢字」、「表記」の6つ領域で構成している。学生はこれらを順番に学んでいくことにより、日本語の運用能力を一步一步着実に高めていくことができる。毎回の講義では、小テスト及び復習テストを実施し、学修内容の定着状況を学生自身が確認することでさらなる日本語力向上をめざす。 さらに「日本語検定」への挑戦は、学生自身の今の日本語力を振り返るきっかけになるとともに、今後の日本語学修の目標にもなる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	単位認定試験（70％）、授業態度（15％）、小テスト・復習テスト（15％）によって総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	小テスト・復習テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	留学生の受講は可能であるが、「日本語能力試験」のN2（2級）以上の実力がなければ、講義内容の理解は難しい。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、高等学校において進路指導助手としての実務経験を持つ教員が、小論文指導（表記法、文章表現等の指導）の経験を活かし、論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回の講義で小テスト及び復習テストを実施するため、予習・復習をして講義に臨むことが必要である。予習および復習は、各2時間程度行うこと。 日本語力の向上には、今の自分の日本語力に対しての気づきと、日々の意識的な努力が必要とされるため、講義以外での学修時間も重要である。 「日本語検定」の受験を目標にして学修に取り組むことが望ましい。						
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週水曜日5限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	「日本語検定3級」に挑戦					雲津 英子	
第2回	はじめに					雲津 英子	
第3回	敬語の種類と使い分け					雲津 英子	
第4回	注意すべき敬語					雲津 英子	

第5回	配慮を示す言葉	雲津 英子
第6回	品詞・活用の種類	雲津 英子
第7回	ら抜き言葉・さ入れ言葉	雲津 英子
第8回	文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文	雲津 英子
第9回	接続後・指示語と文章	雲津 英子
第10回	類義語・対義語	雲津 英子
第11回	動詞の自他・視点	雲津 英子
第12回	文体、話し言葉・書き言葉	雲津 英子
第13回	コロケーション	雲津 英子
第14回	部首・音訓・熟語	雲津 英子
第15回	仮名遣い・送り仮名	雲津 英子
第16回	単位認定試験（筆記試験）	雲津 英子

教科書

教・書籍名1	スキルアップ！日本語力ー大学生のための日本語練習帳ー	教・出版社名1	東京書籍
教・著者名1	名古屋大学日本語研究会G K 7	教・ISBN1	978-4-487-80364-4
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	美術の見方			担当者	前嶋 英輝		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年 / 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-PD-1-043		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう / 10. 人や国の不平等をなくそう / 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	学生は、「自分なりの美術の見方を確立する」ことをテーマとして、美術作品について広い知識を持ち、自分の言葉で語るができる能力を身につける。美術作品の「見方」の2つの可能性を考えてみる。1つめは、美術作品について客観的に知識として学習する見方であり、2つ目は、主観的に興味を持ち疑問を投げかけてみるような見方である。前者にはある程度の答えがあり、後者には答えは無い。この授業では、2つの見方を組み合わせて対話型鑑賞を行う。学生は、美術の見方を考えることで、自分の美術の見方ができるようになることを到達目標とする。						
授業概要	毎回映像資料による対話型鑑賞を行う。毎回、先行研究として示されている各時代の作品の属性や意味、時代背景などについて学問的な検討を行う。鑑賞の仕方を学ぶことが目的であるから、とにかく多くの美術作品にふれ、授業で紹介される作品について、自分なりに調べてみる事が大切である。自分で考えた疑問などについて、授業内の対話や毎回の小レポートの中で深める事が大切である。 ※実務経験のある教員による授業 この科目は、美術教育に関する実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	この科目では、芸術について理解し自分の視点で鑑賞できる能力を身につけることを目的としていることから、発言を含む毎回のレポート（60点）、到達目標達成度を見る期末試験（40%）の割合によって評価を行う。詳しい評価内容については、最初の授業で説明する。課題については、評価すると同時に、結果を伝えながら指導を行い、フィードバックして学習の積み重ねの資料とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎回の小レポートについては、代表的なものを次回取り挙げてコメントしディスカッションの題材とすることでフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	事前に次回の授業内容を指示するので、美術作品について興味を持ち検索などで予習を行うことが必要である。また積極的に討論に参加するためにノートなどをもとに復習を行うことが重要である。対話型鑑賞では、自分の視点で意見を述べる事が重要である。できれば自主的に美術館を訪れることを薦める。期末試験では、到達目標の理解度を見るため十分な復習が必要である。 初回の授業で芸術作品についての調べ方や授業の進め方について詳しく説明する。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、美術教育に関する実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。 中学校・高等学校での美術科教員および短期大学での美術担当教員、全国公募展審査員、彫刻家				
事前学習・事後学習とその時間	美術に関する書籍やネットの情報を参照し、授業のテーマに沿った内容について予習復習をおこなう。美術館などに鑑賞に出かけることも重要である。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間が必要である。						
オフィスアワー	2号館6階の前嶋研究室において、毎週月曜日5時限目をオフィスアワーの時間とする。						

授業計画		担当者	
第1回	対話型鑑賞と美術の見方	前嶋英輝	
第2回	世界の美術館散歩	前嶋英輝	
第3回	美術教育と人間形成・現代美術	前嶋英輝	
第4回	古代オリエント	前嶋英輝	
第5回	ギリシャ・ローマ・中世	前嶋英輝	
第6回	ルネサンス・バロック・ロココ	前嶋英輝	
第7回	新古典主義・印象派	前嶋英輝	
第8回	後期印象派以降・セザンヌとキュビズム	前嶋英輝	
第9回	インド美術とイスラム美術・東南アジアの美術	前嶋英輝	
第10回	仏教美術の誕生とシルクロードの美術	前嶋英輝	
第11回	飛鳥～平安・韓国美術の影響	前嶋英輝	
第12回	鎌倉～室町・仏教彫刻・絵巻物・水墨画	前嶋英輝	
第13回	安土桃山・障屏画	前嶋英輝	
第14回	江戸・浮世絵・町人の美術	前嶋英輝	
第15回	明治以降の美術・西洋美術の影響	前嶋英輝	
第16回	単位認定試験	前嶋英輝	
教科書			
教・書籍名1	適宜プリントなどを配布する。予習復習も配布プリントによって行う。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	テキスト名：絵画をいかに味わうか	参・出版社名1	平凡社
参・著者名1	著者：ヴィクトル・I・ストイキツァ	参・ISBN1	978-4582206371
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	生涯スポーツ論 スポ社			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-PD-1-044		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	『スポーツ活動を取り入れた生活』その重要性は、年々高まってきていると言える。健康の維持・増進、老化の防止、心の健康、健全な発育・発達、生きがいづくり、さらにはスポーツを通じての教育・人間形成など、その意義や価値はますます高くなってきている。しかし、スポーツに親しむ人々の数は、著しく増加しているとは言い難く、また望ましいあり様でスポーツが実践されているばかりではない状況も散見される。そこで学生は、多くの人々が生涯にわたってスポーツに親しみ、望ましいスポーツへの関わり方ができるために必要な知識を学び、各々のおかれた環境や状況において、各人の目標に沿ったスポーツ実践が行えるための知識を得ることができることを到達目標とする。						
授業概要	結果の偏重や勝利至上主義、技能偏重、運動能力偏重といった往々にしてスポーツに携わる人達が陥りやすい傾向を脱し、各人の目的に応じて、そして各々の能力に応じたスポーツの実践が可能になり、取り組みの効果が着実に得られる、合理的な実施方法を学ぶ。それによって初めて、生涯にわたってスポーツに親しむ人々が増えてくるであろう。障害者を含めた、様々な対象者にとってのスポーツの意義について理解する。現代の社会におけるスポーツの持つ幅広い役割りと機能、その必要性や価値について認識を深め、スポーツを専門とする人材になっていくための方向づけと動機づけを行う。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業中のレポート提出で30%、最終試験で70%にて評価する。 評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題や試験を課した授業の次の回の授業にて、出来栄や内容のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	健康運動実践指導者資格認定試験受験資格必須科目（2009年度生まで適用） 毎回の配布資料と授業内容にもとづき、その回の復習と次回の予習を行うこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業時において、次回の授業内容に応じて、各自のスポーツ経験に基づく問題を見出す指示を行う。これによって、各自経験の見直しや情報収集を行う。授業後は、授業内容を受けて、望ましい在り方について考察し、時にレポートとして提出する。 予習1コマ・復習1コマをそれぞれ行うこと。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室にて						
授業計画						担当者	
第1回	スポーツの本来の姿					竹内研	
第2回	スポーツ感の変遷					竹内研	
第3回	スポーツする身体					竹内研	
第4回	運動・スポーツとメンタルヘルス					竹内研	
第5回	スポーツの技術					竹内研	
第6回	体力について					竹内研	

第7回	心とスポーツ	竹内研
第8回	発育・発達とスポーツ	竹内研
第9回	現代社会とスポーツ	竹内研
第10回	スポーツの上達法	竹内研
第11回	健康のためのスポーツ	竹内研
第12回	スポーツと教育	竹内研
第13回	スポーツと経済	竹内研
第14回	スポーツ動作の分析	竹内研
第15回	競技スポーツと生涯スポーツ	竹内研
第16回	試験	竹内研

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名1	文化としてのスポーツ	教・出版社名1	ベースボール・マガジン社
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2	生涯スポーツトレーナー教本	教・出版社名2	公益財団法人日本健康スポーツ連盟
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	生涯スポーツ実習（スポ社A）			担当者	枝松 三佳		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-PD-1-045		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	余暇時間の増加に対応すべく、スポーツを有効に活用して、生涯をととして生活の質を向上させることのできる技術について学び、自ら実践できる能力を身につける。社会に出た後も、場所を問わずに気軽に楽しめる技術と試合ができるルールを習得することができる。						
授業概要	従来の競技主体のスポーツ活動から、各人が自らの主体的条件にあわせ、かつ周囲の環境条件も考慮したスポーツ種目を実践する。また、健康を保持増進させるための運動方法について体力医学、運動生理学などの立場から実践的に教授する。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	受講態度（50％）、課題（50％）の成就結果を合わせて評価を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題はスポーツ実施時のルールや注意点について、講義中の実践を通して評価する。課題に対するフィードバックは講義後半で実践を通して実施する。						
履修条件・注意事項	健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 （公財）日本スポーツ協会公認スポーツプログラマー受験資格必須科目 スポーツ実習であることから、運動のできる服装（ジャージ等）と体育館シューズを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	スポーツ実施時のルールや注意点について予習、復習すること。実習に関わる技術に関しては講義内にて適宜指示する。						
オフィスアワー	非常勤講師なので、講義終了後に対応するものとする。						
授業計画						担当者	
第1回	ウォーミングアップ					枝松 三佳	
第2回	クーリングダウン					枝松 三佳	
第3回	準備運動の重要性とその方法					枝松 三佳	
第4回	ストレッチングの意義と効果					枝松 三佳	
第5回	ストレッチ指導実習					枝松 三佳	
第6回	ウォーキングの特性と基礎技術の習得					枝松 三佳	
第7回	ウォーキング：プログラム作成と実施上の注意点					枝松 三佳	
第8回	ウォーキング：運動強度調節					枝松 三佳	
第9回	ジョギングの特性と基礎技術習得					枝松 三佳	
第10回	ジョギング：プログラム作成と実施上の注意点					枝松 三佳	
第11回	ジョギング：運動強度特性					枝松 三佳	
第12回	健康運動・軽運動としての運動ゲーム					枝松 三佳	
第13回	健康運動・軽運動としてのバドミントン					枝松 三佳	

第14回	健康運動・軽運動としてのフットサル	枝松 三佳
第15回	健康運動・軽運動としてのバレーボール	枝松 三佳
第16回		
教科書		
教・書籍名1	使用しない(必要に応じプリントを配布する)	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	生涯スポーツと運動の科学新版	参・出版社名1 市村出版
参・著者名1	侘美靖, 花井篤子	参・ISBN1 9784902109405
参・書籍名2	生涯スポーツの理論と実際改訂版 豊かなスポーツライフを実現するために	参・出版社名2 大修館書店
参・著者名2	日下裕弘, 加納弘二	参・ISBN2 9784469266986

授業科目名	生涯スポーツ実習（スポ社B）			担当者	國佐 栞		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-PD-1-045		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	余暇時間の増加に対応すべく、スポーツを有効に活用して、生涯をとおして生活の質を向上させることのできる技術について学び、自ら実践できる能力を身につける。社会に出た後も、場所を問わずに気軽に楽しめる技術と試合ができるルールを習得することができる。						
授業概要	従来の競技主体のスポーツ活動から、各人が自らの主体的条件にあわせ、かつ周囲の環境条件も考慮したスポーツ種目を実践する。また、健康を保持増進させるための運動方法について体力医学、運動生理学などの立場から実践的に教授する。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	受講態度（50％）、課題（50％）の成就結果を合わせて評価を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題はスポーツ実施時のルールや注意点について、講義中の実践を通して評価する。課題に対するフィードバックは講義後半で実践を通して実施する。						
履修条件・注意事項	健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 （公財）日本スポーツ協会公認スポーツプログラマー受験資格必須科目 スポーツ実習であることから、運動のできる服装（ジャージ等）と体育館シューズを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	スポーツ実施時のルールや注意点について予習、復習すること。実習に関わる技術に関しては講義内にて適宜指示する。						
オフィスアワー	非常勤講師なので、講義終了後に対応するものとする。						
授業計画						担当者	
第1回	ウォーミングアップ					國佐 栞	
第2回	クーリングダウン					國佐 栞	
第3回	準備運動の重要性とその方法					國佐 栞	
第4回	ストレッチングの意義と効果					國佐 栞	
第5回	ストレッチ指導実習					國佐 栞	
第6回	ウォーキングの特性と基礎技術の習得					國佐 栞	
第7回	ウォーキング：プログラム作成と実施上の注意点					國佐 栞	
第8回	ウォーキング：運動強度調節					國佐 栞	
第9回	ジョギングの特性と基礎技術習得					國佐 栞	
第10回	ジョギング：プログラム作成と実施上の注意点					國佐 栞	
第11回	ジョギング：運動強度特性					國佐 栞	
第12回	健康運動・軽運動としての運動ゲーム					國佐 栞	
第13回	健康運動・軽運動としてのバドミントン					國佐 栞	

第14回	健康運動・軽運動としてのフットサル	国佐 栞
第15回	健康運動・軽運動としてのバレーボール	国佐 栞
第16回		
教科書		
教・書籍名1	使用しない(必要に応じプリントを配布する)	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	数的理解			担当者	山本 敦之		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年 / 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NS-1-046		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	迅速かつ確かな数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。						
授業概要	数的推理・資料解釈・判断推理・空間把握に関する課題を数学的かつ論理的に理解する力を身につける。具体的には、方程式や確率等の数的推理、データやグラフ等の資料解釈、論証や対応関係等の判断推理、立体図形や展開図等の空間把握に関する比較的身近な問題について考え、自ら解法を見つけ出し答えを導き出す。必要に応じて、解法を見つけ出すために必要な情報を収集する。更には、助言を適宜得ながら学生同士が教えあい学びあい、課題に対する数的理解を深める。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	数的理解力を把握するための単位認定試験（80%）、授業への積極的な参加態度（20%）をもとに総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。						
履修条件・注意事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は予め連絡すること。他の受講生らが迷惑に感じる言動は控えること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習と復習には各2時間を要する。時間をかけて問題に向き合い、多角的な視点や柔軟な思考を意識して予習・復習に取り組むこと。						
オフィスアワー	月曜5限						
授業計画						担当者	
第1回	数的推理：濃度					山本	
第2回	数的推理：速さ・距離・時間					山本	
第3回	数的推理：ものの値段と個数					山本	
第4回	数的推理：定価・原価・利益					山本	
第5回	数的推理：割合と値段					山本	
第6回	数的推理：仕事算					山本	
第7回	資料解釈：表の読み取り & 資料の読み取り					山本	
第8回	数的推理：順列と組み合わせ					山本	
第9回	数的推理：確率のとりえ方					山本	
第10回	判断推理：集合					山本	
第11回	判断推理：推論					山本	

第12回	判断推理：ものの流れと比率&ブラックボックス	山本
第13回	資料解釈：グラフの領域	山本
第14回	判断推理：論証	山本
第15回	空間把握：立体の展開図・断面	山本
第16回	単位認定試験	山本
教科書		
教・書籍名1	2024年度版 ドリル式 SPI問題集	教・出版社名1 永岡書店
教・著者名1	柳本新二	教・ISBN1 9784522460122
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	数的理解			担当者	山本 敦之		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年 / 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NS-1-046		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	迅速かつ確かな数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。						
授業概要	数的推理・資料解釈・判断推理・空間把握に関する課題を数学的かつ論理的に理解する力を身につける。具体的には、方程式や確率等の数的推理、データやグラフ等の資料解釈、論証や対応関係等の判断推理、立体図形や展開図等の空間把握に関する比較的身近な問題について考え、自ら解法を見つけ出し答えを導き出す。必要に応じて、解法を見つけ出すために必要な情報を収集する。更には、助言を適宜得ながら学生同士が教えあい学びあい、課題に対する数的理解を深める。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	数的理解力を把握するための単位認定試験（80%）、授業への積極的な参加態度（20%）をもとに総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。						
履修条件・注意事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は予め連絡すること。他の受講生らが迷惑に感じる言動は控えること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習と復習には各2時間を要する。時間をかけて問題に向き合い、多角的な視点や柔軟な思考を意識して予習・復習に取り組むこと。						
オフィスアワー	月曜5限						
授業計画						担当者	
第1回	数的推理：濃度					山本	
第2回	数的推理：速さ・距離・時間					山本	
第3回	数的推理：ものの値段と個数					山本	
第4回	数的推理：定価・原価・利益					山本	
第5回	数的推理：割合と値段					山本	
第6回	数的推理：仕事算					山本	
第7回	資料解釈：表の読み取り & 資料の読み取り					山本	
第8回	数的推理：順列と組み合わせ					山本	
第9回	数的推理：確率のとらえ方					山本	
第10回	判断推理：集合					山本	
第11回	判断推理：推論					山本	

第12回	判断推理：ものの流れと比率&ブラックボックス	山本
第13回	資料解釈：グラフの領域	山本
第14回	判断推理：論証	山本
第15回	空間把握：立体の展開図・断面	山本
第16回	単位認定試験	山本
教科書		
教・書籍名1	2024年度版 ドリル式 SPI問題集	教・出版社名1 永岡書店
教・著者名1	柳本新二	教・ISBN1 9784522460122
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	化学			担当者	秋山 純一		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年 / 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NS-1-047		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに / 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 						
到達目標	本講義で学生は無機化学や有機化学全般の基礎的な知識の習得に重点をおき学習することができる。また、後半の講義で学生は生命活動に関連の深い天然物質やプラスチックの分類、生活に必要な薬品や化粧品等に関連する界面化学を学習することができる。学生は本講義を通じて将来の種々の職業や日常生活に役立つ化学的な知識を取得し、その知識を応用することができる。						
授業概要	今日の科学技術の進歩は目覚しく、現代の私達の豊かな暮らしは正にこの科学の進歩に支えられていると言っても過言ではない。化学は、物質の成り立ちや変遷を究明する学問で、物質を構成する原子や分子を対象とし、それらの性質、構造、反応性などを実証的に解き明かす。18世紀後半から学問として体系付けられ、幾多の素晴らしい知見や成果を蓄積しながら、現代化学へと発展してきた。今日では、複雑で有用な物質を簡単な物質（分子）から合成するなど、私達の身の回りには化学の力で作られた物質が溢れ、暮らしを豊かに、快適にしてくれている。一方、分子という考えの導入により、生命現象を化学的に解釈できるようになり、また生命現象を遺伝子のレベルで操作することもできるようになった。これらの知見を基に生命科学の分野では遺伝子治療なども行われるようになった。しかし他方では、地球環境問題や環境ホルモンなどの新たな種々の問題がみられるようになった。本講義では基礎的な化学の知識の確認・修得に重点をおき、また特に我々の生活用品や基礎医学に関連した分野も取り上げて授業を行う。 ※実務経験がある教員による授業 この科目は化粧品メーカーの研究開発の実務経験をもつ教員がその経験を活かし、将来の仕事や日常生活に実践的に役立つ授業を実施する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション / その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	問題概要を事前にプリントにて予告配布するマークシート形式主体の定期試験により約90%を評価し、残り約10%の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	学習課題の終了後および授業の終了時に都度の問いかけし、質問を受け付けてフィードバックを実施する。試験実施後の質問を受け付けてフィードバックを実施する。						
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びメモを取ることを。						
実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員の公的機関や民間企業での試験や研究開発部門での勤務経験を生かし、幅広い知識や技術を授業内容に取り入れる。				
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度)を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習(1時間程度)を行って学習内容の理解を深めること。						
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休みを活用して実施。						
授業計画						担当者	
第1回	原子・分子の構造					秋山純一	
第2回	化学結合					秋山純一	

第3回	同位体と放射能	秋山純一
第4回	周期律表	秋山純一
第5回	化学反応、結合	秋山純一
第6回	酸化と還元（反応物質）	秋山純一
第7回	酸化と還元（燃料電池他）	秋山純一
第8回	物質の分類（金属、非金属）	秋山純一
第9回	水の化学（特性、硬度、pH）	秋山純一
第10回	有機化合物の構造分類	秋山純一
第11回	有機化合物の置換基分類	秋山純一
第12回	有機合成の反応分類	秋山純一
第13回	高分子化合物（天然）	秋山純一
第14回	高分子化合物（合成）	秋山純一
第15回	界面の化学（洗剤、乳化）	秋山純一
第16回	単位認定試験	秋山純一

教科書

教・書籍名1	使用しない（テーマ毎にプリント配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	教養の現代化学	参・出版社名1	三共出版
参・著者名1	多賀 光彦／共著 他	参・ISBN1	9.78E+12
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	化学			担当者	秋山 純一		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年 / 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NS-1-047		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	△
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに / 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 						
到達目標	本講義で学生は無機化学や有機化学全般の基礎的な知識の習得に重点をおき学習することができる。また、後半の講義で学生は生命活動に関連の深い天然物質やプラスチックの分類、生活に必要な薬品や化粧品等に関連する界面化学を学習することができる。学生は本講義を通じて将来の種々の職業や日常生活に役立つ化学的な知識を取得し、その知識を応用することができる。						
授業概要	今日の科学技術の進歩は目覚しく、現代の私達の豊かな暮らしは正にこの科学の進歩に支えられていると言っても過言ではない。化学は、物質の成り立ちや変遷を究明する学問で、物質を構成する原子や分子を対象とし、それらの性質、構造、反応性などを実証的に解き明かす。18世紀後半から学問として体系付けられ、幾多の素晴らしい知見や成果を蓄積しながら、現代化学へと発展してきた。今日では、複雑で有用な物質を簡単な物質（分子）から合成するなど、私達の身の回りには化学の力で作られた物質が溢れ、暮らしを豊かに、快適にしてくれている。一方、分子という考えの導入により、生命現象を化学的に解釈できるようになり、また生命現象を遺伝子のレベルで操作することもできるようになった。これらの知見を基に生命科学の分野では遺伝子治療なども行われるようになった。しかし他方では、地球環境問題や環境ホルモンなどの新たな種々の問題がみられるようになった。本講義では基礎的な化学の知識の確認・修得に重点をおき、また特に我々の生活用品や基礎医学に関連した分野も取り上げて授業を行う。 ※実務経験がある教員による授業 この科目は化粧品メーカーの研究開発の実務経験をもつ教員がその経験を活かし、将来の仕事や日常生活に実践的に役立つ授業を実施する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション / その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	問題概要を事前にプリントにて予告配布するマークシート形式主体の定期試験により約90%を評価し、残り約10%の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	学習課題の終了後および授業の終了時に都度の問いかけし、質問を受け付けてフィードバックを実施する。試験実施後の質問を受け付けてフィードバックを実施する。						
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びメモを取ることを。						
実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員の公的機関や民間企業での試験や研究開発部門での勤務経験を生かし、幅広い知識や技術を授業内容に取り入れる。				
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度)を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習(1時間程度)を行って学習内容の理解を深めること。						
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休みを活用して実施。						
授業計画						担当者	
第1回	原子・分子の構造					秋山純一	
第2回	化学結合					秋山純一	

第3回	同位体と放射能	秋山純一
第4回	周期律表	秋山純一
第5回	化学反応、結合	秋山純一
第6回	酸化と還元（反応物質）	秋山純一
第7回	酸化と還元（燃料電池他）	秋山純一
第8回	物質の分類（金属、非金属）	秋山純一
第9回	水の化学（特性、硬度、pH）	秋山純一
第10回	有機化合物の構造分類	秋山純一
第11回	有機化合物の置換基分類	秋山純一
第12回	有機合成の反応分類	秋山純一
第13回	高分子化合物（天然）	秋山純一
第14回	高分子化合物（合成）	秋山純一
第15回	界面の化学（洗剤、乳化）	秋山純一
第16回	単位認定試験	秋山純一

教科書

教・書籍名1	使用しない（テーマ毎にプリント配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	教養の現代化学	参・出版社名1	三共出版
参・著者名1	多賀 光彦／共著 他	参・ISBN1	9.78E+12
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	生物学			担当者	香田 康年		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年 / 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NS-1-048		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	14. 海の豊かさを守ろう / 15. 陸の豊かさを守ろう 						
到達目標	<p>【テーマ】</p> <p>学生が、「ヒトを含めたすべての生物が生物シンカによってできて来た」ことを理解する。また、科学とはどのようなことかについて改めて考え理解する。加えて、様々な生物の特徴について学びながら、なぜそのような特徴がシンカしたのかを考え、ヒトや様々な生物について、丸暗記するのではなく、「なぜそうなのか」を考え理解する力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>まず生物のシンカが「進化」と呼ばれるようになった経緯を理解し、生物のシンカとはどのような現象なのかを理解すると同時に、一般用語の「進化」とやや意味が異なることを理解する。さらに生物のシンカがどのような仕組みで起こるのかを学び理解する。そのことによって現在のヒトや様々な生物がなぜそのような特徴を持っているのかを考え、人間の特徴や様々な生物現象について丸暗記するのではなく、「考え理解する力」を少しでも養う。また、新たな問題に対し、他者の知識を含め、持てる知識を利用して考え、まとめ、他者に説明する力を養う。</p>						
授業概要	<p>○ 上記のテーマや到達目標を達成するため、毎回授業は、講義と、Q&Aにグループディスカッションを組み合わせたアクティブラーニングを併用した授業とする。</p> <p>○ 下記の講義項目に従って授業を行う予定であるが、あくまで目安である。受講生の興味、生物学上の疑問、理解の程度を重視するので、講義順序や講義内容、範囲などは受講生の理解をとりながら適宜変更する。</p> <p>○ 受講生は、講義内容に関する疑問点や質問を積極的に出し、理解を深めて欲しい。かつなお、疑問点が残れば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。それにより学生の授業内容の理解度を知り、フィードバックを図る。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL / ディスカッション / グループワーク						
評価方法と割合	<p>20分～30分程度の小テストを複数回行う。それらの合計点（80%）とQ&Aなどのアクティブラーニングへの積極的発言回数（20%）で評価する。</p> <p>ただし、授業態度が悪ければ（授業にまじめに取り組まない場合）10点の範囲で減点する。</p> <p>各小テストは、論述記述式である。</p> <p>講義の内容から、重要な内容について説明記述させる問題を出題する予定である。</p> <p>授業をとっていない友人にわかるような説明記述ができていないことが、採点の基準になる。専門用語には必ず理解しやすく説明を加えること。</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	<p>過去の授業内容について度々Q & Aを行うことによって、授業内容に対するフィードバックをはかる。</p> <p>複数回の小テストのうち途中の小テストは、採点結果を返却すると同時にフィードバックをはかり、再試験追試験を行うこともあるが、最終回のテストは再試験追試験を行わない。</p>						

履修条件・注意事項	受講生は、グループ討論や質疑応答時に積極的に発言することを心掛けるようにすること。 教員が講義している間は、傾聴に努め、私語を控えること。質問は大いに歓迎する。ただし、手を挙げて指名されてから発言すること。		
実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	<p>【復習】</p> <p>授業内容は常識と異なることが多く、授業は前回までの理解を前提に進めるので、毎回必ず復習し、理解しておくこと。次回の授業で、前回内容についての質問に指名されても答えられるようにしておくこと。</p> <p>復習には二時間程度かけて、いつ小テストがあっても対応できるように、充分理解し、ノート整理しておくこと。</p> <p>【予習】</p> <p>過去の授業内容についての疑問点を整理しておき、次回の授業で質問できるようにしておくこと。また、予習にも二時間程度かけて、次回の授業内容について、参考書などを利用し、現時点での自分なりの理解をしておくこと。また、予め質問したいことがあれば、用意しておくこと。</p>		
オフィスアワー	非常勤講師なので、授業後に教室、または非常勤講師室で行う。		
授業計画		担当者	
第1回	クラゲとヒトはどこが同じでどう違うのか？		香田康年
第2回	生物のシンカと一般用語としての「進化」		香田康年
第3回	生物のシンカの起こる仕組み		香田康年
第4回	なぜたくさんの生物がいるのか？ なぜ人間がいるのか？		香田康年
第5回	ダーウィンはなぜ生物シンカに気がついたのか？		香田康年
第6回	科学とはどのような学問か？		香田康年
第7回	生物とは？		香田康年
第8回	どんな生物、どんな動物がいるのか？		香田康年
第9回	遺伝子と遺伝子の発現		香田康年
第10回	本能と学習と理性の関係		香田康年
第11回	利己的行動と利他的行動		香田康年
第12回	非血縁者間の利他行動のシンカ		香田康年
第13回	ゲーム理論とシンカ		香田康年
第14回	様々な対人関係心理のシンカ		香田康年
第15回	言葉のシンカと神や幽霊を信じる心のシンカ		香田康年
第16回	最終試験（記述式筆記試験）		香田康年
教科書			
教・書籍名1	教科書は使わない。理解に必要な資料は講義中に配布するか、スライド等で提示しながら講義する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	「進化と人間行動」	参・出版社名1	東京大学出版会
参・著者名1	長谷川寿一、長谷川真理子	参・ISBN1	4-13-012032-8
参・書籍名2	「面白くて眠れなくなる生物学」	参・出版社名2	PHP文庫
参・著者名2	長谷川英祐	参・ISBN2	978-4-569-76860-1

授業科目名	生物学			担当者	香田 康年		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年 / 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年 / 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年 / 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NS-1-048		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	14. 海の豊かさを守ろう / 15. 陸の豊かさを守ろう 						
到達目標	<p>【テーマ】</p> <p>学生が、「ヒトを含めたすべての生物が生物シンカによってできて来た」ことを理解する。また、科学とはどのようなことかについて改めて考え理解する。加えて、様々な生物の特徴について学びながら、なぜそのような特徴がシンカしたのかを考え、ヒトや様々な生物について、丸暗記するのではなく、「なぜそうなのか」を考え理解する力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>まず生物のシンカが「進化」と呼ばれるようになった経緯を理解し、生物のシンカとはどのような現象なのかを理解すると同時に、一般用語の「進化」とやや意味が異なることを理解する。さらに生物のシンカがどのような仕組みで起こるのかを学び理解する。そのことによって現在のヒトや様々な生物がなぜそのような特徴を持っているのかを考え、人間の特徴や様々な生物現象について丸暗記するのではなく、「考え理解する力」を少しでも養う。また、新たな問題に対し、他者の知識を含め、持てる知識を利用して考え、まとめ、他者に説明する力を養う。</p>						
授業概要	<p>○ 上記のテーマや到達目標を達成するため、毎回授業は、講義と、Q&Aにグループディスカッションを組み合わせたアクティブラーニングを併用した授業とする。</p> <p>○ 下記の講義項目に従って授業を行う予定であるが、あくまで目安である。受講生の興味、生物学上の疑問、理解の程度を重視するので、講義順序や講義内容、範囲などは受講生の理解をとりながら適宜変更する。</p> <p>○ 受講生は、講義内容に関する疑問点や質問を積極的に出し、理解を深めて欲しい。かつなお、疑問点が残れば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。それにより学生の授業内容の理解度を知り、フィードバックを図る。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL / ディスカッション / グループワーク						
評価方法と割合	<p>20分～30分程度の小テストを複数回行う。それらの合計点（80%）とQ&Aなどのアクティブラーニングへの積極的発言回数（20%）で評価する。</p> <p>ただし、授業態度が悪ければ（授業にまじめに取り組まない場合）10点の範囲で減点する。</p> <p>各小テストは、論述記述式である。</p> <p>講義の内容から、重要な内容について説明記述させる問題を出題する予定である。</p> <p>授業をとっていない友人にわかるような説明記述ができていないことが、採点の基準になる。専門用語には必ず理解しやすく説明を加えること。</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	<p>過去の授業内容について度々Q & Aを行うことによって、授業内容に対するフィードバックをはかる。</p> <p>複数回の小テストのうち途中の小テストは、採点結果を返却すると同時にフィードバックをはかり、再試験追試験を行うこともあるが、最終回のテストは再試験追試験を行わない。</p>						

履修条件・注意事項	受講生は、グループ討論や質疑応答時に積極的に発言することを心掛けるようにすること。 教員が講義している間は、傾聴に努め、私語を控えること。質問は大いに歓迎する。ただし、手を挙げて指名されてから発言すること。		
実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	<p>【復習】</p> <p>授業内容は常識と異なることが多く、授業は前回までの理解を前提に進めるので、毎回必ず復習し、理解しておくこと。次回の授業で、前回内容についての質問に指名されても答えられるようにしておくこと。</p> <p>復習には二時間程度かけて、いつ小テストがあっても対応できるように、充分理解し、ノート整理しておくこと。</p> <p>【予習】</p> <p>過去の授業内容についての疑問点を整理しておき、次回の授業で質問できるようにしておくこと。また、予習にも二時間程度かけて、次回の授業内容について、参考書などを利用し、現時点での自分なりの理解をしておくこと。また、予め質問したいことがあれば、用意しておくこと。</p>		
オフィスアワー	非常勤講師なので、授業後に教室、または非常勤講師室で行う。		
授業計画		担当者	
第1回	クラゲとヒトはどこが同じでどう違うのか？		香田康年
第2回	生物のシンカと一般用語としての「進化」		香田康年
第3回	生物のシンカの起こる仕組み		香田康年
第4回	なぜたくさんの生物がいるのか？ なぜ人間がいるのか？		香田康年
第5回	ダーウィンはなぜ生物シンカに気がついたのか？		香田康年
第6回	科学とはどのような学問か？		香田康年
第7回	生物とは？		香田康年
第8回	どんな生物、どんな動物がいるのか？		香田康年
第9回	遺伝子と遺伝子の発現		香田康年
第10回	本能と学習と理性の関係		香田康年
第11回	利己的行動と利他的行動		香田康年
第12回	非血縁者間の利他行動のシンカ		香田康年
第13回	ゲーム理論とシンカ		香田康年
第14回	様々な対人関係心理のシンカ		香田康年
第15回	言葉のシンカと神や幽霊を信じる心のシンカ		香田康年
第16回	最終試験（記述式筆記試験）		香田康年
教科書			
教・書籍名1	教科書は使わない。理解に必要な資料は講義中に配布するか、スライド等で提示しながら講義する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	「進化と人間行動」	参・出版社名1	東京大学出版会
参・著者名1	長谷川寿一、長谷川真理子	参・ISBN1	4-13-012032-8
参・書籍名2	「面白くて眠れなくなる生物学」	参・出版社名2	PHP文庫
参・著者名2	長谷川英祐	参・ISBN2	978-4-569-76860-1

授業科目名	環境科学			担当者	秋山 純一		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NS-1-049		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	△
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／6. 安全な水とトイレを世界中に／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／13. 気候変動に具体的な対策を／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう</p> 						
到達目標	<p>学生は環境問題を理解するための基礎的知識である「生態系」、「生物多様性」、「物質循環」及び「食物連鎖」等の知識を習得することができる。学生はその基礎的知識をもとに、現在人類が直面している環境問題である「オゾン層の破壊」、「環境ホルモン」、「地球温暖化」およびその他の環境問題全般の現状についての知識を習得することができる。また、学生は現在の環境問題および将来に起こると予想される様々な環境問題について自身で考え、意見を発信し、行動できることを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>ヒトは有形無形の環境の中で生活しており、その生命環境の持続的保全が健康保持、人類存続には不可欠である。生活の利便性や効率、経済性を追求するあまり、近年の交通手段の急激な進歩や特に情報革命を中心とする社会構造の急速な変化が先進国だけでなく開発途上国にも広く及んでいる。現在、我々人類はこの急激な変化への適応に追われ、本来、最も尊いはずの生命保持のための環境の維持や保全が後手となり、現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題（環境汚染、地球温暖化、オゾン層の破壊、紫外線量の増加、環境ホルモン等）が生じている。本講義では前半は生命と環境についての基本的な知識（環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等）を習得し、その知識を基に我々の目前で現在起こっている種々のレベルでの環境問題の現状を把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、これらの問題に対して先見の問題意識を持ちどの様に対処すべきかを学習する。本講義の後半では各環境問題の問題提示としてこれらの環境問題に関連するの現状と未来を予測したDVD映像などの鑑賞も加えて授業を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	マークシート形式主体の筆記試験により約90%を評価し、残り約10%の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	学授業中の課題提示毎に問いかけを行い、質疑。応答での知識確認のためのフィードバックを実施する。また、試験実施後の質問を受け付け、未理解項目のフィードバックを実施する。						
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びノートメモを取ること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は国家資格の「公害防止主任管理者」取得者である教員が環境管理の実務経験を活かし、環境教育において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度)を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習(1時間程度)を行って学習内容の理解を深めること。						
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休み時間で可能な限り対応を実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	環境と人間のかかわりあい					秋山純一	

第2回	環境における人類危機要因	秋山純一
第3回	生態系と人間	秋山純一
第4回	食物連鎖	秋山純一
第5回	物質循環	秋山純一
第6回	紫外線（作用と分類）	秋山純一
第7回	紫外線と皮膚（臨床）	秋山純一
第8回	紫外線と皮膚（防御）	秋山純一
第9回	オゾン層の破壊（原因）	秋山純一
第10回	オゾン層の破壊（対策）	秋山純一
第11回	環境ホルモン（作用）	秋山純一
第12回	環境ホルモン（分類）	秋山純一
第13回	環境ホルモン（影響）	秋山純一
第14回	地球温暖化（原因）	秋山純一
第15回	地球温暖化（対策）	秋山純一
第16回	単位認定試験	秋山純一

教科書

教・書籍名1	使用しない（テーマ毎にプリントを配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	環境科学入門	参・出版社名1	化学同人
参・著者名1	川合 真一郎 他	参・ISBN1	9.78E+12
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	環境科学			担当者	秋山 純一		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NS-1-049		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	△
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／6. 安全な水とトイレを世界中に／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／13. 気候変動に具体的な対策を／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう</p> 						
到達目標	<p>学生は環境問題を理解するための基礎的知識である「生態系」、「生物多様性」、「物質循環」及び「食物連鎖」等の知識を習得することができる。学生はその基礎的知識をもとに、現在人類が直面している環境問題である「オゾン層の破壊」、「環境ホルモン」、「地球温暖化」およびその他の環境問題全般の現状についての知識を習得することができる。また、学生は現在の環境問題および将来に起こると予想される様々な環境問題について自身で考え、意見を発信し、行動できることを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>ヒトは有形無形の環境の中で生活しており、その生命環境の持続的保全が健康保持、人類存続には不可欠である。生活の利便性や効率、経済性を追求するあまり、近年の交通手段の急激な進歩や特に情報革命を中心とする社会構造の急速な変化が先進国だけでなく開発途上国にも広く及んでいる。現在、我々人類はこの急激な変化への適応に追われ、本来、最も尊いはずの生命保持のための環境の維持や保全が後手となり、現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題（環境汚染、地球温暖化、オゾン層の破壊、紫外線量の増加、環境ホルモン等）が生じている。本講義では前半は生命と環境についての基本的な知識（環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等）を習得し、その知識を基に我々の目前で現在起こっている種々のレベルでの環境問題の現状を把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、これらの問題に対して先見の問題意識を持ちどの様に対処すべきかを学習する。本講義の後半では各環境問題の問題提示としてこれらの環境問題に関連するの現状と未来を予測したDVD映像などの鑑賞も加えて授業を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	マークシート形式主体の筆記試験により約90%を評価し、残り約10%の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	学授業中の課題提示毎に問いかけを行い、質疑。応答での知識確認のためのフィードバックを実施する。また、試験実施後の質問を受け付け、未理解項目のフィードバックを実施する。						
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びノートメモを取ること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は国家資格の「公害防止主任管理者」取得者である教員が環境管理の実務経験を活かし、環境教育において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度)を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習(1時間程度)を行って学習内容の理解を深めること。						
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休み時間で可能な限り対応を実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	環境と人間のかかわりあい					秋山純一	

第2回	環境における人類危機要因	秋山純一
第3回	生態系と人間	秋山純一
第4回	食物連鎖	秋山純一
第5回	物質循環	秋山純一
第6回	紫外線（作用と分類）	秋山純一
第7回	紫外線と皮膚（臨床）	秋山純一
第8回	紫外線と皮膚（防御）	秋山純一
第9回	オゾン層の破壊（原因）	秋山純一
第10回	オゾン層の破壊（対策）	秋山純一
第11回	環境ホルモン（作用）	秋山純一
第12回	環境ホルモン（分類）	秋山純一
第13回	環境ホルモン（影響）	秋山純一
第14回	地球温暖化（原因）	秋山純一
第15回	地球温暖化（対策）	秋山純一
第16回	単位認定試験	秋山純一

教科書

教・書籍名1	使用しない（テーマ毎にプリントを配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	環境科学入門	参・出版社名1	化学同人
参・著者名1	川合 真一郎 他	参・ISBN1	9.78E+12
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ経営学			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2019～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-101		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	人々のスポーツのニーズや欲求に対して、スポーツを商品やサービスとして提供する営み（事業）をテーマに、スポーツ経営学の基礎的な理解を深め、実践領域としてスポーツ経営の現代的な課題への改善や解決方法を考えることができる。						
授業概要	スポーツ経営における経営資源をいかに有効に（効果的・効率的に）活用して、スポーツサービスの生産・提供を行い、スポーツ振興という社会的・文化的な貢献をしながら長期的なスポーツ経営体の発展を可能にするかという問題や組織的活動からいかにして協働をうまく展開し、組織目的の達成に個人の貢献を獲得できるかということが問題となる。本講義では、スポーツ経営学の基礎的な理解を深め、実践領域としての現代的課題を取り上げ解説する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	単位認定試験（40％）中間レポート（30％）毎回の小レポート（20％）受講姿勢（10％）評価の詳細は、第1回目の授業で説明する。なお、評価のために実施した小レポートは、授業でフィードバックするので単位認定試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義終了後の小レポートを通して、次の講義導入時にポイントをフィードバックする。						
履修条件・注意事項	<p>保健体育科教諭資格選択必修科目 （公財）日本スポーツ協会公認スポーツリーダー・アシスタントマネージャー受験資格必修科目</p> <p>パワーポイントの資料は配布しないので、ノート・ルーズリーフ等は必ず持参すること。授業に対する取り組みについては、厳しく指導する。</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	中・高校保健体育科教員として、また日本女子サッカーリーグ所属クラブ監督・ホームゲーム運営責任者としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場をはじめスポーツ指導現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、課す小レポートの内容及び授業内容を必ず2時間程度復習するとともに次のテーマについて予習すること。						
オフィスアワー	個人研究室（9405）にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション・スポーツ経営学とは！？					高藤	
第2回	スポーツ生活と運動生活					高藤	
第3回	スポーツ事業と経営資源					高藤	
第4回	エリアサービス事業					高藤	
第5回	プログラムサービス事業					高藤	
第6回	クラブサービス事業					高藤	
第7回	地域スポーツクラブ運営					高藤	
第8回	クラブ運営の具体的方法					高藤	
第9回	クラブ運営の具体的内容					高藤	

第10回	スポーツ組織のマネジメント	高藤
第11回	スポーツ事業のマーケティング	高藤
第12回	スポーツ経営の現代的課題（学校体育と地域スポーツクラブ）	高藤
第13回	スポーツ経営の現代的課題（学校体育）	高藤
第14回	スポーツ経営の現代的課題（地域スポーツクラブ）	高藤
第15回	スポーツ経営の現代的課題（民間スポーツクラブ）	高藤
第16回	単位認定試験	高藤
教科書		
教・書籍名1	体育・スポーツ経営学講義	教・出版社名1 大修館書店
教・著者名1	八代勉・中村平 編	教・ISBN1 4-469-26480-6
教・書籍名2	公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	教・出版社名2 (公財)日本体育協会
教・著者名2	(公財)日本体育協会 編	教・ISBN2 214K1T 214K2T 214K3T
参考書		
参・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	スポーツビジネス論 集中			担当者	高岡 敦史		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-102		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	<p>8. 働きがいも経済成長も / 10. 人や国の不平等をなくそう / 11. 住み続けられるまちづくりを / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>《テーマ》スポーツをビジネスとして展開することの拡がりを理解すること 《到達目標》多様化するスポーツビジネスを理解し、その基礎的な考え方を身に付け、自身で次世代のスポーツビジネスを構想できるようになること</p>						
授業概要	<p>多様化する今日のスポーツビジネスを概観し、スポーツの拡がりとともにビジネスとの結びつきがどのように変化してきたかを理解する。その上で、みるスポーツのビジネス、するスポーツのビジネス、スポーツを活用したビジネス、スポーツや地域の課題を解決するビジネスなどを解説する。 また、新たなスポーツビジネスを構想するグループワークを実施し、事業構想とビジネスモデルの構築、資源調達、組織づくり等を実践する。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/グループワーク/プレゼンテーション						
評価方法と割合	グループワークとその成果 (50%) , 期末レポート (50%) にて評価する						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業担当者との直接のやり取りでフィードバックする。						
履修条件・注意事項							
実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員はスポーツまちづくり会社の経営にも携わっている。				
事前学習・事後学習とその時間	グループワークに関連して調べ学習を要求することがある。						
オフィスアワー	授業時間外はメールにて対応する。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション/スポーツとは? ビジネスとは?					高岡	
第2回	多様化するスポーツビジネス/するスポーツのビジネス					高岡	
第3回	多様化するスポーツビジネス/みるスポーツのビジネス					高岡	
第4回	多様化するスポーツビジネス/スポーツを活用したビジネス					高岡	
第5回	多様化するスポーツビジネス/スポーツと地域の課題を解決するビジネス					高岡	
第6回	多様化するスポーツビジネス/これまでとこれから					高岡	
第7回	グループワーク: 事業構想・ビジネスモデルの構築①					高岡	
第8回	グループワーク: 事業構想・ビジネスモデルの構築②					高岡	
第9回	グループワーク: 事業展開に必要な資源の調達					高岡	
第10回	グループワーク: 事業展開に必要な組織					高岡	
第11回	グループワーク: プレゼンテーションの準備					高岡	
第12回	プレゼンテーション: 新しいスポーツビジネス構想①					高岡	
第13回	プレゼンテーション: 新しいスポーツビジネス構想②					高岡	
第14回	まとめ: 次世代のスポーツビジネスの考え方					高岡	
第15回	まとめ: スポーツとビジネスの未来					高岡	
第16回	単位認定レポート作成					高岡	
教科書							
教・書籍名1						教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	

教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツリーダーシップ論 集中			担当者	前田 信弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-103		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	「スポーツにおけるリーダーシップを理解する」をテーマとし、スポーツ集団・組織におけるリーダーシップの基礎知識を学び、それらの知見を実際のスポーツ現場で活用し、チームパフォーマンスを向上させる能力を習得できる。						
授業概要	スポーツ集団においてはリーダーの存在がパフォーマンスに大きな影響を及ぼす。まず、これまでのリーダーシップ研究の主な理論また心理学的な視点からリーダーシップについて基本的知識を学習する。また、それらをベースにリーダーシップを実際の現場で如何に発揮するかの能力を、これまでの事例分析、グループワーキング(現場で起こる様々な問題について課題発見・原因追求・解決方法)を通して獲得できるよう授業を行う。						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/グループワーク/プレゼンテーション						
評価方法と割合	取り組む姿勢・授業態度30% 課題発表(個人・グループワーキング)40% 試験30%						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	小テスト・レポート回収後、好事例の共有や解説(更なる施策、考え方など)を行う						
履修条件・注意事項	スポーツ現場における各々の「リーダーシップ」についてこれまでの経験についてまとめ参加すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	サッカー日本女子代表コーチとして、FIFA女子ワールドカップ、オリンピック、アジア大会など国際大会での活動経験 (公益財団法人)日本サッカー協会JFAコーチとして、様々なカテゴリーのユース選手育成の経験 (公益財団法人)日本サッカー協会JFA指導者養成コースでのインストラクターとしての経験				
事前学習・事後学習とその時間	復習しグループワーキングでいかせるよう必ずノートを作成(要点をまとめる)すること 授業前に前回の授業についての振り返りをおこなうため各授業ごとに各々考えを整理しておくこと						
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	ガイダンス					前田	
第2回	集団(チーム)についての理解					前田	
第3回	集団におけるリーダーの役割					前田	
第4回	リーダーシップのスタイル					前田	
第5回	リーダーシップ理論					前田	
第6回	現場でのリーダーシップ発揮にむけて					前田	
第7回	ビジョンを掲げる(現状の分析)					前田	
第8回	ビジョン実行にむけて(コミュニケーションスキル)					前田	
第9回	メンバーのやる気をひきだす(動機づけ)					前田	
第10回	メンバーを育てる(コーチング)					前田	
第11回	リーダーのテクニック(パワーをつかう)					前田	
第12回	グループワーキング1(課題抽出・ビジョン作成)					前田	
第13回	グループワーキング2(解決策の提示・プレゼン準備)					前田	

第14回	グループ発表1		前田
第15回	グループ発表2/フォローシップについて		前田
第16回	筆記試験		前田
教科書			
教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	リーダーシップに「心理学」を生かす	参・出版社名1	ダイヤモンド社
参・著者名1	ハーバードビジネスレビュー編集部	参・ISBN1	4-478-36085-5
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツマネジメント論			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-104		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	<p>8. 働きがいも経済成長も / 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう / 10. 人や国の不平等をなくそう / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	スポーツ現場におけるマネジメントをテーマとして、身体活動のみならず、ビジネス活動、文化活動など社会的活動としての価値を急速に高めつつあるスポーツの過程の知識を身につける。加えて、学生がスポーツの様々な場面において、効果的なマネジメントを行なうことができる。						
授業概要	現代ではスポーツに関わる様々な活動がビジネスとして行われるようになってきている。そして、これらのビジネスにおいて高度なマネジメントの知識と技能が要求されつつある。本講義では、スポーツマネジメントの基礎的概念についての理解を深め、マネジメントの基礎を習得するとともに、現代においてマネジメントがどのようにスポーツの場面で応用されているのかについて解説する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	単位認定試験（40％）中間レポート（30％）毎回の小レポート（20％）受講姿勢（10％）評価の詳細については、第1回目の授業において説明する。なお、評価のために実施した小レポートは、授業でフィードバックするので単位認定試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎回の講義終了後の小レポートの内容を通して、次回の講義導入時にポイントを説明する。						
履修条件・注意事項	<p>（公財）日本スポーツ協会公認アシスタントマネージャー受験資格必修科目</p> <p>パワーポイントの資料は配布しないので、ノート・ルーズリーフ等は必ず持参すること。授業に対する取り組みについては、厳しく指導する。</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、日本女子サッカーリーグ所属クラブ監督・運営責任者の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、スポーツマネジメント現場における現状や課題、必要とされる知識や能力について講義し、学生の理解を深める。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、課す小レポートの内容及び授業内容を必ず毎回2時間程度、復習するとともに次回のテーマについて予習すること。						
オフィスアワー	個人研究室（9号館4階）にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション・スポーツマネジメントとは！？					高藤	
第2回	スポーツとスポンサー					高藤	
第3回	スポーツマーケティング					高藤	
第4回	スポーツクラブにおけるマネジャーの役割（マネジャーとは）					高藤	
第5回	スポーツクラブにおけるマネジャーの役割（MGの位置づけ）					高藤	
第6回	アメリカのトップリーグのマネジメント					高藤	
第7回	ヨーロッパのトップリーグのマネジメント					高藤	
第8回	日本におけるプロ野球とプロサッカーリーグのマネジメント					高藤	
第9回	みるポーツのマネジメント					高藤	
第10回	プロ選手・プロクラブのマネジメント					高藤（外部講師）	
第11回	地域スポーツクラブのマネジメント					高藤（外部講師）	
第12回	スポーツビジネスにおけるマネジメント					高藤	
第13回	日本女子サッカーリーグ所属クラブのマネジメント					高藤（外部講師）	

第14回	スポーツ施設のマネジメント		高藤
第15回	総括・最終レポート		高藤
第16回			
教科書			
教・書籍名1	体育・スポーツ経営学講義	教・出版社名1	大修館書店
教・著者名1	八代勉・中村平 編	教・ISBN1	4-469-26480-6
教・書籍名2	公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	教・出版社名2	(公財)日本スポーツ協会
教・著者名2	(公財)日本スポーツ協会	教・ISBN2	214K1T 214K2T 214K3T
参考書			
参・書籍名1	使用しない(プリントを配布する)	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	社会スポーツ概論			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2019～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2019～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-105		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年 / 4年		開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 10. 人や国の不平等をなくそう 						
到達目標	学生が、「社会スポーツの概念」及び「社会制度としての社会スポーツの実態」をテーマとし、それらについて地域のスポーツ指導者になるために必要な知識を習得するとともに、指導者としての能力をスポーツ指導現場において発揮できる。						
授業概要	現在スポーツは、特に先進諸国においては人々の社会生活の一部となり、きわめて高度に整備され機能している。しかしながら、学校体育や企業スポーツを中心にスポーツが普及・発展してきたわが国の社会スポーツは、1993年日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）開幕以降、文部科学省や日本体育協会、スポーツ競技団体を中心にようやく発展しつつある現状である。また、バブル経済の崩壊、リーマンショック以降、企業クラブが休・廃部が増加する一方、地域・市民を中心とした総合型地域スポーツクラブも増加傾向にある。本講義では、スポーツと社会に関わる様々なしくみや課題及び今後の展望を解説する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	単位認定試験（40％）中間レポート（30％）毎回授業終了後のプレゼンテーション（20％）受講姿勢（10％）評価の詳細については、第1回目の授業において説明する。なお、評価のために実施した小レポートは、授業でフィードバックするので単位認定試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義終了後の小レポートを通して、次回の講義導入時にポイントをフィードバックする。						
履修条件・注意事項	授業終了後の小レポート内容とともに自分なりの考察を毎回授業後、ノートにまとめておくこと。授業に対する取り組みについては、厳しく指導する。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	授業終了後、毎回2時間程度授業内容を必ず復習し、次回のテーマについて予習すること。						
オフィスアワー	個人研究室（9405）にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	社会スポーツの概念					高藤	
第2回	学校体育との相違点					高藤	
第3回	日本における社会スポーツ発展の歴史					高藤	
第4回	アメリカにおける社会スポーツ発展の歴史					高藤	
第5回	ヨーロッパにおける社会スポーツ発展の歴史					高藤	
第6回	日本における社会スポーツの現状					高藤	
第7回	社会スポーツ発展のための行政支援					高藤	
第8回	社会スポーツ発展のための企業支援					高藤	
第9回	FC吉備国際大学シャルムの実践を通じた地域貢献活動					高藤	
第10回	地域スポーツクラブ活動の現状と課題					高藤	
第11回	社会スポーツ発展のための地域住民とのタイアップ					高藤	
第12回	民間スポーツクラブの現状と課題					高藤	
第13回	プロスポーツの社会スポーツへの貢献と課題					高藤	

第14回	スポーツを通したまちづくり (地域スポーツクラブ)	高藤
第15回	スポーツを通したまちづくり (トップリーグクラブ)	高藤
第16回	単位認定試験	高藤
教科書		
教・書籍名1	スポーツのリスクマネジメント	教・出版社名1 ぎょうせい
教・著者名1	小笠原正・諏訪伸夫 編著	教・ISBN1 978-4-08838-8
教・書籍名2	スポーツ政策の現代的課題	教・出版社名2 日本評論社
教・著者名2	諏訪伸夫・井上洋一・齋藤健司・出雲輝彦 編	教・ISBN2 978-4-535-59514-0
参考書		
参・書籍名1	使用しない。(プリントを配布する)	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	体育・スポーツ行政論			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-106		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 11. 住み続けられるまちづくりを / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	「体育・スポーツ」と「行政」の関わり及びスポーツ振興における行政の役割をテーマに、学生が体育・スポーツ行政に関する基礎的知識を習得し、将来体育・スポーツ指導者としての能力が発揮できる。						
授業概要	現代社会においてスポーツ活動は社会の様々な分野で実施されているが、地域及び国家単位での社会的なスポーツ活動の成立には、行政の制度的な支援が必要不可欠である。特にスポーツ先進国といわれる北米、ヨーロッパ及び日本では、スポーツの普及振興に当たっては国家を中心とする強力な行政システムの支援が、スポーツの社会的発展の初期の段階においては顕著に認められている。また、これらの国や地域ではスポーツ活動が社会的に成熟した今日にあっても充実した制度とサービスで国民のスポーツ活動を手厚く支援している。本講義では、スポーツ先進国といわれる代表的な国のスポーツ行政の制度的発展とその運用の実態について歴史的に追跡し、それぞれの制度がその国のスポーツ振興にいかなる役割を果たし、またいかなる課題を提示したかについて検証するとともに、わが国の体育・スポーツ行政の歴史的発展と対比させ、その評価すべき点と問題点を明らかにし、21世紀におけるわが国のよりよいスポーツ振興のためにいかなる制度と行政サービスを充実させる必要があるかについて解説する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	単位認定試験（40％）中間レポート（30％）毎回の小レポート（20％）受講姿勢（10％）評価の詳細については、第1回目の授業において説明する。なお、評価のために実施した小レポートは、授業でフィードバックするので単位認定試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義終了後の小レポートを通して、次回の講義導入時にポイントをフィードバックする。						
履修条件・注意事項	<p>保健体育科教諭資格選択必修科目 （公財）日本スポーツ協会公認スポーツリーダー・アシスタントマネージャー受験資格必修科目</p> <p>パワーポイントの資料は配布しないので、ノート・ルーズリーフ等は必ず持参すること。授業に対する取り組みについては、厳しく指導する。</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	中・高保健体育科教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、課す小レポートの内容及び授業内容を必ず毎回2時間程度、復習するとともに次回のテーマについて予習すること。						
オフィスアワー	個人研究室（9405）にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション～体育・スポーツ行政とは！？					高藤	
第2回	地域におけるスポーツ振興方策と行政の関わり					高藤	
第3回	スポーツ行政のしくみ					高藤	
第4回	スポーツ競技団体の施策					高藤	
第5回	スポーツ基本法とスポーツ基本計画					高藤	
第6回	2000年以降のスポーツ振興に関する計画と戦略					高藤	
第7回	総合型地域スポーツクラブとは！？					高藤	
第8回	総合型地域スポーツクラブの育成と運営					高藤	

第9回	地域スポーツクラブの必要性と社会的意義	高藤
第10回	スポーツライフとクラブライフ	高藤
第11回	スポーツクラブのつくり方	高藤
第12回	地域におけるスポーツクラブとしてのスポーツ少年団	高藤
第13回	アメリカにおける体育・スポーツ行政	高藤
第14回	イギリスにおける体育・スポーツ行政	高藤
第15回	総括・最終レポート	高藤
第16回		

教科書

教・書籍名1	スポーツマネジメント	教・出版社名1	大修館書店
教・著者名1	原田宗彦・小笠原悦子	教・ISBN1	978-4-469-26669
教・書籍名2	公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	教・出版社名2	(公財)日本スポーツ協会
教・著者名2	(公財)日本スポーツ協会	教・ISBN2	214K1T 214K2T 214K3T

参考書

参・書籍名1	使用しない(プリントを配布する)	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツボランティア実習			担当者	太田 真司、羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-107		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	60	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	実習	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	△	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 11. 住み続けられるまちづくりを / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>「審判（レフェリー）」「運営（マネジメント）」等スポーツに関わるボランティアを行うことをテーマに、スポーツを支えることの大切さを体験するとともに、スポーツ現場の実態やしぐみ、対象者の特性を理解し、専門的スキルや思考力を向上させる。また、スポーツ少年団、クラブチーム、中学・高校運動部等でスポーツ指導実践を行うことにより、コーチングの大切さを体験するとともに、スポーツ現場の実態やしぐみ、対象者の特性を理解し、専門的スキルや思考力の向上等スポーツ現場において指導や運営ができる能力を養うことを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>「審判（レフェリー）」 協会・連盟など各スポーツ競技団体主催の公式大会における審判員として、実務経験を積む。</p> <p>「運営（マネジメント）」 協会・連盟など各スポーツ競技団体主催の公式大会における運営補助員として、実務経験を積む。 （例）インターハイ、国体ブロック予選等の審判員及び運営、Jリーグ・ファジアーノ岡山、日本女子サッカーリーグ・吉備国際大学シャルム岡山高梁のホームゲーム等の運営。</p> <p>「指導（コーチング）」 中学校、高校の運動部活動及び地域のスポーツ少年団などで、選手指導を体験し、スポーツ指導者としての実務経験を積む。 練習プランの作成、練習中の選手へのアドバイス、チーム全員に対するミーティング、試合における審判等を体験することにより、指導方法やコーチングの難しさや奥深さを学ぶ。</p> <p>上記のスポーツ実務を32時間（4日間）ずつ合計64時間（8日間）以上、体験し日誌を作成する。また、実習後、「実習を通して学んだこと」をテーマにパワーポイントを作成し、プレゼンテーションによる報告を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	実習先の指導担当者からの成績評価（50％）実習日誌・レポート（25％）プレゼンテーション（25％）。 なお、評価のために実施した日誌、レポート等は、授業でフィードバックするので、レポート・プレゼンテーション試験までに復習しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	指導実習並びに運営実習プレゼンテーション報告会の発表後、採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	<p>（公財）日本スポーツ協会公認ジュニアスポーツ指導員受験資格必修科目</p> <p>実習前のオリエンテーション欠席者は、履修放棄とする。（必ず出席すること） 実習期間中、茶髪・ピアス・喫煙等は厳禁。 「吉備国際大学の学生」であることという自覚及び「学ばせていただいている」という気持ちで実習に臨むこと。 実習後の日誌・レポート未提出者、報告会の欠席者は、履修放棄とする。</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	※実務経験のある教員による授業科目				

この科目は、学外実習で、実践的教育から構成された科目である。

事前学習・事後学習とその時間 「コーチング」「マネジメント」に関する文献や資料を事前に精読するとともに、毎回、実習前には課題をもって臨み実習後はその日の振り返りを行うこと。レポート試験、プレゼン試験は必ず行うので、必ず予習復習を行うこと。予習復習には、各2時間程度を要する。

オフィスアワー 火曜日 3限 (研究室) 9号館 9401

授業計画		担当者
第1回	指導実習：夏休みに3日×4時間の実習に参加する。	太田真司 羽野真哉
第2回	運営実習：3回×8時間の実習に参加する。	太田真司 羽野真哉
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
第17回		
第18回		
第19回		
第20回		
第21回		
第22回		
第23回		
第24回		
第25回		
第26回		
第27回		
第28回		
第29回		
第30回		
第31回		
第32回		

教科書

教・書籍名1	スポーツボランティア読本	教・出版社名1	悠光堂
教・著者名1	二宮雅也	教・ISBN1	978-4-906873-84-5
教・書籍名2	スポーツボランティアへの招待	教・出版社名2	世界思想社
教・著者名2	山口泰雄 編	教・ISBN2	4-7907-1052-1

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	ゲームプランニング論 集中			担当者	松原 良香		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-108		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	「競技力向上のためのゲームの分析、課題抽出、プランニングができるようになる」ことをテーマとする。サッカーをはじめ、あらゆるスポーツの競技力向上のためには、チームやゲームの分析により課題を抽出し、その課題をトレーニングやチームマネジメントに反映させることが重要である。サッカーを例に、指導者の現状やクラブマネジメントの実情を把握したうえで、講師が競技力向上のために実施した「ストライカー育成についての研究」や、実際に現場で指導にあたる指導者、クラブ経営者の話を参考に、現状分析、分析の方法、結果分析、考察、プランニングの一連の流れを学ぶとともに、選手の育成強化、教育、チームマネジメントについて習得することを到達目標とする。						
授業概要	アトランタ五輪サッカー日本代表で、現在はサッカー指導者やクラブ経営に従事する講師による集中講義。サッカー界での指導者のおかれている立場やマネジメントの現状について把握するとともに、サッカーの競技力向上を目的とした「ストライカー育成についての研究」を例に、課題抽出、現状分析、結果分析、考察、プランニング、実践、結果検証といった各種スポーツの競技力向上のための一連のプランニングを習得する。今後、日本や世界のスポーツ界において、競技力向上やスポーツ界発展のために何をすべきか、どう関わっていくのか、各自でビジョンを確立することを目指す。						
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業						
評価方法と割合	テーマである「競技力向上のためのゲームの分析、課題抽出、プランニングができるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、中間レポート、最終レポート、授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識習得状況を把握するための中間レポート(40%)、最終レポート(40%)、授業への積極的な参加度合いなどの受講姿勢(20%)を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	提出された中間レポート、最終レポートに対し、コメントのうえそれぞれにフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	毎回の授業終了後に、自分なりの考察を各自ノートにまとめること。 また、レポートの内容、考察を参考に、各自課題をもって次回の授業に臨むこと。 指定教科書を事前に読んでおくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	東海大学第一高等学校を卒業後、ウルグアイへ渡りプロデビューし、その後はジュビロ磐田や清水エスパルスなどのJリーグクラブや、ウルグアイ、クロアチア、スイスなど国内外を問わず12チームでプレー。1996年アトランタ五輪サッカー日本代表としてブラジル代表を破り、「マイアミの奇跡」と呼ばれている。2005年に現役を引退し、現在はサッカースクール・クラブの経営・指導する傍ら、サッカー解説者として活動中。JリーグOB会を2009年に設立し、副会長を2021年7月まで務めた。2010年には、JFA公認S級コーチに認定され、2015年11月にはJ3クラブ SC相模原の監督を務めた。2018年3月には筑波大学大学院 人間総合科学研究科スポーツ健康・システムマネジメント専攻の修士学位(体育学)を取得。				

事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている内容について、教科書を読み、理解できない点をまとめたうえで授業を受けること。 また事後学習としてレポート課題を出すので、決められた期限内に提出（または発表）すること。		
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。		
授業計画		担当者	
第1回	ガイダンス(授業の概要や進め方の説明、生徒の自己紹介)	松原良香	
第2回	サッカー選手の現役～引退後のキャリア(指導者として)	松原良香	
第3回	サッカー選手の引退後のキャリア(スクール・クラブ経営などのマネジメント)	松原良香	
第4回	サッカー選手の引退後のキャリア(中学・高校サッカー部のマネジメント)	松原良香	
第5回	サッカー指導者の現状(アマチュアクラブ、Jクラブの実例)	松原良香	
第6回	サッカー指導の基本(カテゴリー別の特徴、町クラブでの指導)	松原良香	
第7回	ゲームプランニングの方法(基礎編)	松原良香	
第8回	ゲームプランニングの方法(実践編)	松原良香	
第9回	競技力向上のための方法論(ストライカー育成研究：目的、研究結果)	松原良香	
第10回	競技力向上のための方法論(ストライカー育成研究：考察1、結果分析)	松原良香	
第11回	競技力向上のための方法論(ストライカー育成研究：考察2、提言)	松原良香	
第12回	選手・子供の育成論(スポーツを通じて自立した主体性のある子どもを育てるための取り組み)	松原良香	
第13回	スポーツ栄養学・コンディショニング	松原良香	
第14回	町クラブサッカー指導者の実情(指導者による話)	松原良香	
第15回	ゲームプランニング論の総括(授業全体のまとめ)	松原良香	
第16回	レポート試験	松原良香	
教科書			
教・書籍名1	ストライカーを科学するーサッカーは南米に学べ!ー(岩波ジュニア新書)	教・出版社名1	岩波書店
教・著者名1	松原良香	教・ISBN1	978-4-00-500904-6
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	サッカーレフェリーライセンス 集中			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-109		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・実習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	サッカーの競技規則を理解するとともに、サッカーのゲームにおける審判法を実践することをテーマに、新規取得者（審判資格未取得者）は、（公財）日本サッカー協会公認4級審判員の取得並びに3・4級資格取得者については来年度登録の更新するとともに、学生がサッカーの公式戦や練習試合等においてサッカー審判員として能力を身につけ活躍することができる。						
授業概要	サッカーの競技規則は、毎年、FIFA（国際サッカー連盟）から競技規則の変更が行われ、JFA（日本サッカー協会）を通じて、各地域及び都道府県、各チームに通達される。しかしながら、ワールドカップやオリンピック等の国際大会をはじめJリーグ等トップリーグにおいても、審判の誤審や競技規則の適用において、様々な問題が起こっている。本講義において、サッカーの競技規則及び「フェアプレーの精神」を理解するだけでなく、サッカーのゲームにおいて、実践を通して審判技術の向上を図る。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習／フィールドワーク						
評価方法と割合	競技規則テスト（45審判審判の実践（45％）受講態度（10％）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義で学んだ知識を実習において実践し、終了後「成果」及び「課題」を口頭及び書面でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	予習としてサッカー競技規則2021/2022を熟読するとともに、サッカーのゲーム観戦の審判員の動きを分析することにより復習する。 試合を通して審判の実践においては、心身ともにしっかりコンディショニングを行い臨むこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	（公財）日本サッカー協会公認審判員並びに公認審判インストラクター、国際サッカー審判員（プロフェッショナルレフェリー）並びに日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）審判インストラクターが担当する。				
事前学習・事後学習とその時間	日ごろからサッカーのレフェリーの動きや判定に興味・関心を持ち、ゲームを観戦すること。						
オフィスアワー	研究室（9号館4階）にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション（審判員制度と概要）					高藤	
第2回	審判員の心構え					高藤（外部講師）	
第3回	マナー、資質と能力について					高藤（外部講師）	
第4回	競技規則の解釈と適用 1（新シーズン競技規則変更点）					高藤（外部講師）	
第5回	試合における審判の実践 1（紅白戦・男子Avs.B）					高藤（外部講師）	
第6回	試合における審判の実践 2（紅白戦・男子Cvs.D）					高藤（外部講師）	
第7回	試合における審判の実践 3（紅白戦・女子Avs.B）					高藤（外部講師）	
第8回	試合における審判の実践 4（紅白戦・女子Cvs.D）					高藤（外部講師）	
第9回	競技規則の解釈と適用 2（主審の役割）					高藤（外部講師）	
第10回	競技規則の解釈と適用 3（副審の役割）					高藤（外部講師）	
第11回	競技規則の解釈と適用 4（プレーの開始および再開方法）					高藤（外部講師）	
第12回	競技規則の解釈と適用 5（オフサイド）					高藤（外部講師）	
第13回	試合における審判の実践 5（紅白戦・男子Avs.C）					高藤（外部講師）	
第14回	試合における審判の実践 6（紅白戦・男子Bvs.D）					高藤（外部講師）	

第15回	試合における審判の実践 7 (紅白戦・女子Avs.C)	高藤 (外部講師)	
第16回	競技規則テスト	高藤	
教科書			
教・書籍名1	サッカー競技規則 2021/2022	教・出版社名1	(公財) 日本サッカー協会
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2	サッカー競技規則 2022/2023	教・出版社名2	(公財) 日本サッカー協会
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	使用しない (プリントを配布する)	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎コーチング論			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-110		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	△	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	△	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 8. 働きがいも経済成長も / 10. 人や国の不平等をなくそう / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>人間は「心構え：心のクセ」が環境的外的要因によって消極的・否定的に涵養され内的な資質が押し殺されている事を学び、「この条件付け」を解放するコーチングの能力を身に付ける。</p> <p>環境が及ぼす暗黙の制限である「条件付け」はいつ、どのように、誰から外的影響を受けて心構えに涵養されていくのかを理解する。また、世界中の成功事例から、心構えが積極的・肯定的思考に涵養されていく事により、目標が実現していく事理解する。</p> <p>この条件付けを外す為に、まずは自分自身に「消極的、否定的思考」がある事を認識し「積極的・肯定的思考」に置き換える事で他者の心理を理解し、コーチングにて「解放」や「気づき」を与え進歩、成長、変化していく事ができることを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>条件付け：人間は環境に適応している」をテーマとして人間の潜在的な能力について、心理学、哲学、倫理学、病理学等の専門家から多角的な角度で学んでいく。加えて「条件付け」の要因である、学校生活における比較社会要因、実績のある経験者の言葉によるリスク等、外的要因が消極的、否定的思考を形成していることを理解する。「無限の可能性」について、自然の豊かさ、まだ解明されていない脳科学について「人間の凄さ」を歴史の変遷を踏まえて学んでいく。</p> <p>スポーツ選手のリーダーシップ成功映像、マズローによる欲求階層、フロイトの防衛機能の事例から人間のしくみを考察する。一枚の絵をグループ討論を主体とした方式により、人それぞれ価値観が違う事を学んでいく。</p> <p>教養面、社会面、健康面、家庭・経済面等による自己評価チェックを行い、自分自身の長所発見や自己改善の気づきとし自己を認識していく。チェック表から自分の価値観を理解し目標設定（目標の意味づけ）作業を行っていく。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL／グループワーク						
評価方法と割合	<p>「自分自身のコーチングコミュニケーションができる」の到達度について知識および能力を計るために、定期試験結果や毎回の授業レポートをレポートを通じて総合的に評価する。知識修得状況を把握するための定期試験（50％）毎回の授業におけるレポート（30％）、毎回の授業への積極的な参加態度（20％）を合計して総合評価する。</p> <p>なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートは、採点をして授業でフィードバックするので見なおしておくこと。						
履修条件・注意事項	（公財）日本スポーツ協会公認スポーツリーダー、ジュニアスポーツ指導員受験資格必修科目						
実務経験のある教員	該当する	内容	<p>※実務経験のある教員による授業科目</p> <p>この科目は、コーチングとしての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。</p>				
事前学習・事後学習とその時間	1) 毎回の授業でレポート課題を宿題とし、事前に身近に起こった人間関係についてレポート課題を作成し提出すること。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 試験は必ず行うので予習復習を行うこと。予習および復習には、各2時間程度を要する。						

オフィスアワー	火曜日 3限 (研究室) 9号館 9401		
授業計画			担当者
第1回	人間の潜在能力の豊かさ		太田真司
第2回	勝利者の欲望 外的モチベーションと内的モチベーション		太田真司
第3回	家族による条件付けと社会と組織による条件付け。		太田真司
第4回	過ちや失敗による条件付けと条件付けの方向付け		太田真司
第5回	条件付けと心構えについて		太田真司
第6回	ただ1つの目的と目標設定について		太田真司
第7回	目標の種類と内的モチベーション		太田真司
第8回	外的モチベーションについて		太田真司
第9回	積極的なセルフイメージの重要性について		太田真司
第10回	セルフイメージと独創性		太田真司
第11回	積極的肯定的宣言とコーチング法		太田真司
第12回	ビジュアル化とコーチング法		太田真司
第13回	習慣や心構えの形成と改革について		太田真司
第14回	反モチベーターと排除と置き換えのプロセスについて		太田真司
第15回	欲求階層と人生の意義と目的について		太田真司
第16回	筆記試験		太田真司
教科書			
教・書籍名1	担当者の作成資料により進める。		教・出版社名1
教・著者名1			教・ISBN1
教・書籍名2			教・出版社名2
教・著者名2			教・ISBN2
参考書			
参・書籍名1	適宜紹介する。		参・出版社名1
参・著者名1			参・ISBN1
参・書籍名2			参・出版社名2
参・著者名2			参・ISBN2

授業科目名	応用コーチング論			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年/ 2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-111		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3.主体的な学びと 論理的な思考	○	DP4. コミュニケー ション・表現力	○
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 10. 人や国の不平等をなくそう / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>創造的な聴き方の5原則を学び、聴き方を学ぶことで、効果的なオープンクエスチョンとクローズドクエスチョンを学び考察することができるようになる。四つの性格特性を学び、効果的なコーチングを理解する。また、意思決定の重要性、セルフイメージと自分の行動との結びつきについて学び、相手の状況、心理を理解するために効果的な質問と聴き方をしてコーチングができるようになることを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>「5W1Hを活用した質問を作り出し創造的な聴き方を理解する」をテーマとして、創造的な聴き方、効果的な質問のつくり方、意思決定プロセスを学び相互理解を深めるコーチングを身につける。成功したリーダーによる意思決定者の在り方、心構えについて考察しレポートしていく。特に4つの性格特性に合わせた関わり方を理解して実践することで、目標実現には、他の協力が不可欠であることを学ぶ。</p> <p>意思決定プロセスの原理原則と受講生それぞれによる過去の経験を比較して、自分自身に合った意思決定の在り方を見つけていく。加えて、自己評価によるアクションステップにより、自己認識を行い自分に合ったパーソナルなコーチング方法を見つけていく。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL/グループワーク						
評価方法と割合	知識修得状況を把握するための定期試験（50%）毎回の授業におけるレポート（40%）、毎回の授業への積極的な参加態度（10%）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートは、採点をして授業でフィードバックするので見なおしておくこと。						
履修条件・注意事項	（公財）日本スポーツ協会公認スポーツリーダー、ジュニアスポーツ指導員受験資格必修科目。毎回の授業の内容からレポート宿題を課す。次回の授業にて提出をすること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	<p>※実務経験のある教員による授業科目</p> <p>この科目は、サッカーコーチング指導者としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。</p>				
事前学習・事後学習とその時間	1) 毎回の授業でレポート課題を宿題とし、事前に身近に起こった人間関係についてレポート課題を作成し提出すること。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 試験は必ず行うので予習復習を行うこと。予習および復習には、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	火曜日 3限 研究室 9号館 (9401)						
授業計画						担当者	
第1回	コミュニケーションスキルについて					太田真司	
第2回	効果的なコミュニケーションの必要性					太田真司	
第3回	説得、折衝、交渉から見るコミュニケーションスキル					太田真司	
第4回	4つの特徴からみる心理的な性格特徴について					太田真司	
第5回	4つの性格特徴に合わせた人間関係づくり					太田真司	
第6回	チームマネジメントとセクショナリズムによる思考理解について					太田真司	
第7回	スポーツ組織に見るGMの役割とコミュニケーションについて					太田真司	

第8回	創造的な聴き方について	太田真司
第9回	エグゼグティブの管理能力について	太田真司
第10回	エグゼグティブに必要な質問力とコーチングについて	太田真司
第11回	人選とチーム編成について	太田真司
第12回	優れたチームメンバーを保つためのコミュニケーションについて	太田真司
第13回	エグゼグティブの生産性を最も高めるための権限移譲について	太田真司
第14回	パーソナリティと安定性について	太田真司
第15回	個人的カリスマの引力について	太田真司
第16回	筆記試験	

教科書

教・書籍名1	担当者の作成する資料により進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜紹介する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ心理学 集中E			担当者	倉藤 利早		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-112		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	学生がスポーツ心理学の基礎的知識に基づき、スポーツにおけるメンタルトレーニングの基礎理論の理解と基礎技能を習得し、スポーツ選手やスポーツ指導者等に対してスポーツメンタルトレーニングができるようになることを到達目標とする。						
授業概要	スポーツの心理的効用や心理的要因がスポーツのパフォーマンスに及ぼす影響など、スポーツにおける心理学を広く系統的に取り上げ考察する。スポーツ心理学の基本理念、スポーツとパーソナリティ、年齢別の心理的発達段階、トップレベルのスポーツ心理学などを実際の学校体育や社会体育等のスポーツ指導場面に即して学ぶ。また、メンタルトレーニング技法を学ぶ。そして、事例をもとにメンタルトレーニングプログラムを自ら作成し、プレゼンテーションを行なうことで実践力を身につける。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業内課題及びレポート等（学習到達目標に関する出題）を60%、発表（メンタルトレーニングプログラム）、ディスカッションへの参加を30%、受講態度を10%とする。詳しい評価方法は、最初の授業時間に説明する。なお、評価のために実施した課題及びレポートは授業にてフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	実施した課題及びレポートは授業にてフィードバックする。						
履修条件・注意事項	日本体育協会各種資格基礎科目 配布資料・参考書等による事前学習・事後学習を行うこと。 毎回プリントを配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、学校教育現場、スポーツ現場での実務経験を持つ教員がその経験を活かし、実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	発表・ディスカッションをおこなう参加型学習のため事前学習・事後学習が必要である。講義で配布した資料等は事前に目を通し受講すること。また事後学習は課題及びレポートを行い授業時に提出すること。						
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション、スポーツ心理学（理論）					倉藤利早	
第2回	スポーツ心理学の歴史的展開（理論）					倉藤利早	
第3回	心理サポートの必要性（理論）					倉藤利早	
第4回	スポーツメンタルトレーニング（理論）					倉藤利早	
第5回	メンタルトレーニング評価（理論・実技）					倉藤利早	
第6回	メンタルトレーニング技法①（理論・実技）-目標設定とモチベーション/リラクゼーション-					倉藤利早	
第7回	メンタルトレーニング技法②（理論・実技）-イメージトレーニング/集中力-					倉藤利早	
第8回	メンタルトレーニング技法③（理論・実技）-ポジティブシンキング/自信-					倉藤利早	
第9回	メンタルトレーニング技法④（理論・実技）-セルフワーク/仲間アップ/メンタルリハサル/条件付け/予測力、判断力-					倉藤利早	
第10回	アセスメント（理論）					倉藤利早	
第11回	スポーツメンタルトレーニングプログラム作成①					倉藤利早	

第12回	スポーツメンタルトレーニングプログラム作成②	倉藤利早	
第13回	スポーツメンタルトレーニングプログラム作成③	倉藤利早	
第14回	スポーツメンタルトレーニングプログラム作成④	倉藤利早	
第15回	スポーツメンタルトレーニングプログラム作成⑤	倉藤利早	
第16回	試験（実技試験）	倉藤利早	
教科書			
教・書籍名1	使用しない（必要に応じプリント等を配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2	スポーツメンタルトレーニング教本 三訂版（日本スポーツ心理学会 編）	教・出版社名2	大修館書店
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	サッカーコーチング論			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-113		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 10. 人や国の不平等をなくそう / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>「現場で起こる人間関係のチームマネジメントを理解する」をテーマとする。 プロサッカークラブにおけるチームマネジメント、プロクラブのスター選手、リザーブ選手、監督をとりまく会長やオーナー、スポンサー、コーチなどのマネジメントについて考察し、議論していくことができるようにする。そのため、プロクラブと地域スポーツクラブ組織と失敗事例を学び、自分自身の性格や協調性を再確認し実質的なものにする。</p>						
授業概要	<p>日本サッカー協会の理念「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。」を理解する。プロクラブに関わる、エグゼクティブやステークホルダー、GMやコーチ、医療トレーナーの基礎的な役割を理解し、それぞれに課される役割責任とセクショナリズムが起こる、人間関係の複雑な仕組みを考察する。 クラブの事例を示しながらその解決策を導き出す能力が身につくようグループ討論を主体としてファシリテーターを任命した方式による授業を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/ディベート/プレゼンテーション						
評価方法と割合	<p>テーマ「プロサッカークラブのマネジメントを理解する」の到達度について、知識及び能力を図るために、定期試験結果や授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には知識習得状況を把握するための定期試験（50％）、会話能力を発表する為の課題発表（30％）、授業中の学びの程度を判定するため、積極的な議論参加態度（20％）を合計して総合評価する。</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	<p>講義の初めに毎回1分間スピーチを行い各自のスピーチ評価を行う。 評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。</p>						
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントを配布するので、初回授業よりファイル（A4）を用意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、サッカー指導者としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前にマネジメント課題を出しそれについて調べてくること 2) 必ずノートを作成し復習をすること。3) 必ず試験は行うので、授業で議題となったテーマとポイントとなることを予習復習を行い、自分なりの考察力を養うこと。						
オフィスアワー	火曜日 3限 研究室 9号館 (9401)						
授業計画						担当者	
第1回	コミュニケーションスキル					太田真司	
第2回	指導者の資質と役割					太田真司	
第3回	プロクラブにおけるGMと監督の役割					太田真司	
第4回	選手選考（大学生/高校生）基準のマネジメント					太田真司	
第5回	リザーブ選手のマネジメント					太田真司	

第6回	チームのトッププレーヤーにおけるマネジメント	太田真司
第7回	プレーモデル（チームコンセプト）の重要性について	太田真司
第8回	プレーモデルとプレー原則について	太田真司
第9回	守備におけるプレーモデルとプレー原則	太田真司
第10回	攻撃におけるプレーモデル	太田真司
第11回	個人戦術の重要性とプレーモデル	太田真司
第12回	プレーモデルと個人戦術の分析	太田真司
第13回	世界のクラブから分析するプレーモデルと個人戦術	太田真司
第14回	プレーモデルの分析とプランニング	太田真司
第15回	プレーモデルとメソッドの重要性	太田真司
第16回	筆記試験	太田真司

教科書

教・書籍名1	担当者の作成資料により進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	サッカーコーチング実習			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-114		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	60	授業形態	実習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜1限 金曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>日本サッカー協会公認の指導者上級ライセンスを目指す上で「C級ライセンスでの実践経験を振り返る」をテーマとして、オーガナイズの意味を理解し、ガイディッドディスカバリーを意識したコーチングができる能力を身につける。</p> <p>特にゲーム分析、プランニング、フリーズコーチング並びにシンクロコーチングができるようにする。そのためゲーム分析に必要な「サッカーにおけるプレーの原則」を再確認し実質的なものにする。</p>						
授業概要	<p>講義にて、C級ライセンスで行った、ゲーム分析法、プランニングを行う。10分間の指導実践を行い、実践後は、グループ討論を主体とし、オーガナイズ、コーチングの改善点について考察し、指導がよりよくなるよう解決策を自ら考え、判断できるようになる。グループ討論が円滑にしていけるよう、ファシリテーター（促進役）を学生で行いより良い議論とは何かについて模索していく。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/ディベート/グループワーク/プレゼンテーション/実習						
評価方法と割合	<p>この実習では、指導実践テスト（50%）ファシリテーターとしてグループ討論を行い促進できていたか（20%）競技の取り組む姿勢、議論の積極性、協調性（20%）実技レベル（10%）で評価する。</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	指導実践後、採点をして授業でフィードバックするので見なおしておくこと。						
履修条件・注意事項	<p>原則サッカー経験者（経験のないものは別途相談）及び指導現場経験者であること。</p> <p>実技においてはサッカーのできる服装、サッカーシューズ、時計を持参すること。</p> <p>C級・D級コーチライセンスにおいて資格を取得してる事。また、資格取得をしようとする事。</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	<p>※実務経験のある教員による授業科目</p> <p>この科目は、S級コーチライセンスを保持しサッカー指導者としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、サッカー指導現場において実践的に役立つ授業及び実習を実施する</p>				
事前学習・事後学習とその時間	指導実践のプランニングとシュミレーション（実際に指導実践を練習できると理想）を行ってこること。						

オフィスアワー		火曜日 3限 研究室 9号館 (9401)	
授業計画			担当者
第1回	講義：ガイダンス		太田真司
第2回	講義：スポーツマネジメントと指導者の役割		太田真司
第3回	講義：分析法Ⅰとプランニング		太田真司
第4回	講義：分析法Ⅱとプランニング		太田真司
第5回	実技：シュートによる指導実践		太田真司
第6回	実技：コントロールによる指導実践		太田真司
第7回	実技：個人戦術オンザボールの守備		太田真司
第8回	実技：個人戦術オフザボールの守備		太田真司
第9回	実技：数的状況での判断（攻撃数的優位⇔守備数的劣位）		太田真司
第10回	実技：数的状況での判断（攻撃数的劣位⇔守備数的優位）		太田真司
第11回	講義：指導実践の振り返りとコーチング法		太田真司
第12回	講義：オーガナイズの意味とコーチング法		太田真司
第13回	ビルドアップにおける指導実践		太田真司
第14回	ウェービングにおける指導実践		太田真司
第15回	中盤での守備における指導実践		太田真司
第16回	積極的な守備における指導実践		太田真司
第17回	サイド突破における指導実践		太田真司
第18回	サイド突破（5レーン）における指導実践		太田真司
第19回	中央突破における指導実践		太田真司
第20回	5レーンと中央突破における指導実践		太田真司
第21回	カウンター攻撃に指導実践		太田真司
第22回	ソロカウンター攻撃における指導実践		太田真司
第23回	クロスの攻防における指導実践		太田真司
第24回	クロスの攻防と仕掛けにおける指導実践		太田真司
第25回	講義：指導実践の振り返り		太田真司
第26回	講義：戦術論Ⅰ・Ⅱ		太田真司
第27回	指導実践テスト（ビルドアップ）		太田真司
第28回	指導実践テスト（サイドと中央突破）		太田真司
第29回	実技：指導実践テスト（カウンター）		太田真司
第30回	実技：指導実践テスト（クロスの攻防）		太田真司
第31回	筆記試験		太田真司
第32回	閉校ガイダンス		太田真司
教科書			
教・書籍名1	担当者の作成する資料に基づいて講義を進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜紹介する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	C級コーチライセンス コラボ			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-115		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・実技実習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜1限 金曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 10. 人や国の不平等をなくそう / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>日本サッカー協会公認C級コーチライセンスにおいて学生は、日本サッカーの方向性とチームマネジメント、更には発育発達の全体像を理解することができる。</p> <p>講義では、ゲーム分析、戦術論、プランニング、コーチング法、発育発達と一貫指導を理論として学ぶことができる。</p> <p>指導の実践においては、受講生同士で指導を行い、「プレイヤーズファースト」「グッドスタンダード」「リスペクト」を念頭に置きながらの指導ができるように実践する。特に本ライセンスでは、「Guided Discovery：選手の発見を導く」コーチング法の導入であり、具体的には「サッカーのプレーの基準を与えながらも常に発問と選手への働きかけを繰り返しながら、選手の思考を停止させないコーチング」を身につける事が到達目標となる。</p>						
授業概要	<p>C級コーチライセンスは、公益財団法人日本サッカー協会公認コーチライセンスであり、吉備国際大学は教育機関で唯一無二の認定校となっております。C級コーチライセンスは、上級ライセンス及び多種目のライセンスへの登竜門であり成績優秀者は、公認B級ライセンス、フットサルC級コーチライセンス、フィジカルフィットネスC級ライセンス、GKレベル1ライセンスへの受講チャンスとなる。</p> <p>授業の構成は、講義と実技、通信レポートの提出となる。講義で学んだ理論を実技の中で実践し。まずは、インストラクター（教員）が模範となる指導実践をポイントを伝えながら行い受講生が体験する。学生が指導実践の後、インストラクターがファシリテーターとなりディスカッションを行う。ここでの議論が今後の指導における改善ポイントなり有為意義なものとなる。</p> <p>指導実践は、インストラクターが見本となった14テーマの指導を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/ディベート/グループワーク/プレゼンテーション/実習						
評価方法と割合	<p>日本サッカー協会のカリキュラムに基づいて、講義、実技講習を受けたのち通信教育課程、指導実践、筆記テストに合格した者にライセンスを与える。</p> <p>1. 指導実践（効果的なオーガナイズ、コーチングによって改善がみられたか） 50%</p> <p>2. 筆記テスト 20%</p> <p>3. 通信教育課程レポート 10%</p> <p>4. 取り組む姿勢（講義態度、指導実践、議論の積極性、協調性） 10%</p> <p>5. 実技レベル 10%</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	指導実践後個別にフィードバックを行う。なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
	<p>日本サッカー協会では、指導者資格の取得同様、レベルアップのための自己研鑽が必要と考え、リフレッシュ研修会を開催しています。C級コーチを合格した際に、登録指導者は、リフレッシュ研修会の受講やチームの指導等を通して、所定の期間内にリフレッシュポイントを獲得する必要があります</p> <p>必要ポイント数と獲得期限は、C級コーチで40ポイントを4年間で獲得する必要があります。</p>						

履修条件・注意事項	日本サッカー協会指導教本協会登録料（金額と支払い方法は初回授業オリエンテーションにおいて説明する） 原則サッカー経験者（経験のない方は別途相談）及び指導現場経験者であること。 ※怪我で実技ができない方は受講できません。 実技においてはサッカーのできる服装、サッカーシューズ、時計を持参すること。 D級コーチライセンスと同時履修		
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、C級コーチライセンスインストラクターの実務経験員が、その経験を活かを持つ教し、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	1) 予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に教科書を読むこと。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 指導実践のプランニングとシュミレーション（予習および実際に指導実践を練習できると理想）を行って来ること。また復習を行うこと。4) 予習および復習には、各2時間程度を要する。通信レポート、2つのレポート課題を学修し、秋学期最後の授業にて提出すること。		
オフィスアワー	火曜日 4限 研究室 9401		
		授業計画	担当者
第1回	開校ガイダンス		太田真司
第2回	講義：チームマネジメント		太田真司
第3回	講義：発育発達と一貫指導		太田真司
第4回	実技：数的状況 守備優位から攻撃劣位		太田真司
第5回	実技：数的状況 守備同位から攻撃同位		太田真司
第6回	実技：数的状況 守備劣位から攻撃優位		太田真司
第7回	講義：指導実践振り返り		太田真司
第8回	講義：戦術Ⅱ		太田真司
第9回	講義：分析Ⅱ		太田真司
第10回	講義：指導実践ガイダンス		太田真司
第11回	指導実践テスト（守備優位から攻撃劣位）		太田真司
第12回	指導実践テスト（守備と攻撃同位）		太田真司
第13回	指導実践テスト（守備劣位と攻撃優位）		太田真司
第14回	実技：指導実践テスト（テクニック）		太田真司
第15回	講義：閉校ガイダンス		太田真司
第16回	筆記試験		太田真司
第17回			
第18回			
第19回			
第20回			
第21回			
第22回			
第23回			
第24回			
第25回			
第26回			
第27回			
第28回			
第29回			
第30回			
第31回			
第32回			
教科書			
教・書籍名1	U-12指導指針	教・出版社名1	公益財団法人日本サッカー協会
教・著者名1	キッズU-10指導ガイドライン	教・ISBN1	
教・書籍名2	キッズU-8指導ガイドライン	教・出版社名2	公益財団法人日本サッカー協会
教・著者名2	キッズU-6指導ガイドライン	教・ISBN2	
参考書			

参・書籍名1	サッカー指導ビデオ実技編	参・出版社名1	公益財団法人日本サッカー協会
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	D級コーチライセンス コラボ			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-116		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・実技実習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜1限 木曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 10. 人や国の不平等をなくそう / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>日本サッカー協会公認D級コーチライセンスにおいて学生は、日本サッカーの方向性とチームマネジメント、更には発育発達の全体像を理解することができる。</p> <p>講義では、ゲーム分析、戦術論、プランニング、コーチング法、発育発達と一貫指導を理論として学んでいく。指導の実践においては、受講生同士で指導を行い、「プレイヤーズファースト」「グッドスタンダード」「リスパクト」を念頭に置きながらの指導ができるように実践していくことができるようになる。</p> <p>D級コーチの養成目標は、サッカー指導の考え方に触れていただき、子どもたちにサッカーの楽しさを伝えることができるようになること。</p>						
授業概要	<p>D級コーチライセンスは、公益財団法人日本サッカー協会公認コーチライセンスであり、吉備国際大学は教育機関で唯一無二の認定校となっています。アマチュアレベル（子ども中心）を対象とした指導者を養成すると同時に、子どもたちにサッカーの楽しさを伝えられる指導者を養成する。</p> <p>授業の構成は、C級コーチライセンスの内容を、子どもの指導を中心にまとめた形で取り組む。まずは、インストラクター（教員）が模範となる指導実践をポイントを伝えながら行い受講生が体験します。学生が指導実践の後、インストラクターがファシリテーターとなり、ディスカッションを行う。ここでの議論が今後の指導における改善ポイントなり有為意義なものとなる。</p> <p>特に本ライセンスでは、「Guided Discovery：選手の発見を導く」コーチング法の導入であり、具体的には「サッカーのプレーの基準を与えながらも常に発問と選手への働きかけを繰り返しながら、選手の思考を停止させないコーチング」を身につけるていく。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/ディベート/グループワーク/プレゼンテーション/実習						
評価方法と割合	<p>日本サッカー協会のカリキュラムに基づいて、講義、実技講習を受けたのち通信教育課程、指導実践、筆記テストに合格した者にライセンスを与える。</p> <p>1. 指導実践（効果的なオーガナイズ、コーチングによって改善がみられたか） 50%</p> <p>2. 筆記テスト 20%</p> <p>3. 通信教育課程レポート 10%</p> <p>4. 取り組む姿勢（講義態度、指導実践、議論の積極性、協調性） 10%</p> <p>5. 実技レベル 10%</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	指導実践後個別にフィードバックを行う。なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	<p>日本サッカー協会では、指導者資格の取得同様、レベルアップのための自己研鑽が必要と考え、リフレッシュ研修会を開催しています。D級コーチを合格した際に、登録指導者は、リフレッシュ研修会の受講やチームの指導等を通して、所定の期間内にリフレッシュポイントを獲得する必要があります。必要ポイント数と獲得期限は、D級コーチで40ポイントを4年間で獲得する必要があります。</p> <p>日本サッカー協会指導教本協会登録料を購入すること。（金額と支払い方法は初回授業オリエンテーションにおいて説明する）</p> <p>原則サッカー経験者（経験のない方は別途相談）及び指導現場経験者であること。※怪我で実技ができない方は</p>						

	受講できません。 実技においてはサッカーのできる服装、サッカーシューズ、時計を持参すること。 (C級コーチライセンスと同時履修) <input checked="" type="checkbox"/>		
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、D級コーチライセンスインストラクターの実務経験員が、その経験を活かを持つ教し、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	1) 予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に教科書を読むこと。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 指導実践のプランニングとシュミレーション（予習および実際に指導実践を練習できると理想）を行ってこること。また復習を行うこと。4) 予習および復習には、各2時間程度を要する。通信レポート、2つのレポート課題を学修し、秋学期最後の授業にて提出すること。		
オフィスアワー	火曜日 4限 研究室 9401		
授業計画		担当者	
第1回	講義：ガイダンス	太田真司	
第2回	講義：サッカーの競技精神	太田真司	
第3回	講義：メディカル	太田真司	
第4回	講義：GK法	太田真司	
第5回	実技：GKの指導	太田真司	
第6回	実技：ドリブル・スクリーン&ターン	太田真司	
第7回	実技：守備オンザボール	太田真司	
第8回	実技：守備オフザボール	太田真司	
第9回	実技：コントロールとシュート	太田真司	
第10回	講義：戦術Ⅰ	太田真司	
第11回	講義：分析Ⅰ	太田真司	
第12回	指導実践テスト（守備優位から攻撃劣位）	太田真司	
第13回	指導実践テスト（守備攻撃同位）	太田真司	
第14回	指導実践テスト（守備劣位から攻撃優位）	太田真司	
第15回	講義：指導実践振り返り	太田真司	
第16回	筆記試験	太田真司	
第17回			
第18回			
第19回			
第20回			
第21回			
第22回			
第23回			
第24回			
第25回			
第26回			
第27回			
第28回			
第29回			
第30回			
第31回			
第32回			
教科書			
教・書籍名1	U-12指導指針	教・出版社名1	公益財団法人日本サッカー協会
教・著者名1	キッズU-10指導ガイドライン	教・ISBN1	
教・書籍名2	キッズU-8指導ガイドライン	教・出版社名2	公益財団法人日本サッカー協会
教・著者名2	キッズU-6指導ガイドライン	教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	サッカー指導ビデオ実技編	参・出版社名1	公益財団法人日本サッ

			力一協会
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	トレーニング論			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-117		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	スポーツの指導者として、『スポーツ全般を対象にして、トレーニングの原則について学習する。』ことをテーマとし、指導はあくまで指導の対象となる者、つまり選手や生徒が主体である。指導対象者の基本的な条件、年齢、性別、目的、レベル等々が、存在する。学生はトレーニング実施に必要な解剖・生理学的原則などに立脚しつつ、バイオメカニクス的な理論、さらに今日では認知科学的及び脳科学的研究成果などを踏まえて行われる。トップアスリートを含めたアスリートのトレーニングから、健康づくりを目的としたトレーニングまで、指導方法論などが理解できるようになることを到達目標とする。						
授業概要	トレーニング学はスポーツ科学の進展と共に進化している。トレーニング自体は人間の有史以来存在すると言える。その時の時代性を反映した論理のもとに、人類の文化遺産として存続してきている。近代においては、約10年余りの年月の間、科学の発展に追随しつつ、トレーニングの近代的な理論が構築されてきた。体力諸要素をベースとして、トレーニング科学が発展してきたが、時代が進むとともに、脳-神経系に焦点と基礎を置くトレーニングも提示されてきている。こうした広範なトレーニングの理論を論じていく。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業時に課すレポート課題で30%、最終試験で70%の比率で評価を行う。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	指導者としてしっかりと知識をもとに指導できることを目的としているため、授業の復習や課題を十分に行うことを条件とする。						
実務経験のある教員	該当する	内容	スポーツクラブやアスリート強化の現場において、トレーニングを指導。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業時において、次回の授業内容に応じて、各自のスポーツ経験に基づく問題を見出す指示を行う。これによって、各自経験の見直しや情報収集を行う。授業後は、授業内容を受けて、望ましい在り方について考察し、時にレポートとして提出する。予習1コマ・復習1コマをそれぞれ行うこと。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					竹内研	
第2回	トレーニングとプラクティス					竹内研	
第3回	トレーニングの領域					竹内研	
第4回	トレーニングの原則					竹内研	
第5回	柔軟性のトレーニング					竹内研	
第6回	有酸素トレーニング					竹内研	
第7回	無酸素トレーニング					竹内研	
第8回	レジスタンストレーニング概論					竹内研	
第9回	ペリオダイゼーショントレーニング：筋肥大・筋力増大・パワー増大					竹内研	
第10回	スピード筋力とアスリート強化のトレーニング					竹内研	
第11回	スタビライゼーショントレーニング：体幹トレーニングの理論					竹内研	
第12回	コーディネーショントレーニングの理論					竹内研	
第13回	ゆるトレーニングの理論					竹内研	

第14回	呼吸・ボディワークの理論	竹内研
第15回	生涯スポーツトレーナー概論	竹内研
第16回	試験	竹内研
教科書		
教・書籍名1	生涯スポーツトレーナーアドバンスコーステキスト	教・出版社名1 株式会社M Jカンパニー
教・著者名1	竹内研	教・ISBN1
教・書籍名2	生涯スポーツトレーナー教本	教・出版社名2 公益財団法人日本健康スポーツ連盟
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	トレーニング実習			担当者	副島 斉子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-118		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	『健康維持増進,介護予防そしてスポーツ競技力向上など』をテーマとし、筋力トレーニング,ストレッチングを中心としたトレーニングが広く行われている。健康運動実践指導者及び健康運動指導士として必要な、これらのトレーニング実技を専門的なレベルで習得する。加えて、近年特に唱導され必要性が高まってきている、ポディーワークであり心身のリラクゼーション法として、ゆる体操及びゆるトレーニングを実習し、健康維持増進はもとより、心身のコンディショニングさらにスポーツ競技力向上に役立てられるようになることを到達目標とする。						
授業概要	筋力トレーニングに関しては、マシンを用いたトレーニング法を中心に、フリーウェイトを加えて、その正しい動作と負荷の設定ができるようになる。ストレッチングに関しては、スタティックストレッチングを中心に、その正しい動作とプログラミングができるようになる。健康維持増進や介護予防を目的としたゆる体操、場合によってはスポーツ競技力向上にも資することができるゆるトレーニングの実技を、指導者のリードに従って、適切に実施できるようになる。 この授業の担当者はトレーニング指導の実務経験を有する。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク/プレゼンテーション/実習						
評価方法と割合	実技に関する学習効果を実技試験によって評価する。加えて、逐次運動内容とそのプログラム作成に関するレポートを課して、その両者をそれぞれ50%ずつの比重で評価を行う。 評価のためのレポートは授業時にフィードバックする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した試験や課題の結果と内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	実技中の怪我などの防止のため、時計や装身具類は身に着けないこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	一般成人やスポーツ選手対象に、スポーツクラブ等で指導。				
事前学習・事後学習とその時間	各回の授業において、学修した内容を、自らの指導案として、授業後まとめておくこと。さらに次の授業時のねらいがしめされるので、あらかじめそれに応じた運動内容を各自で考えておくこと。 予習・復習はそれぞれ約2時間行うこと。						
オフィスアワー	火曜日4限、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					副島斉子	
第2回	スタティックストレッチングの基本					副島斉子	
第3回	上半身のスタティックストレッチング					副島斉子	
第4回	下半身のスタティックストレッチング					副島斉子	
第5回	スタティックストレッチングのプログラミング					副島斉子	
第6回	筋力トレーニングの基本					副島斉子	
第7回	マシンを使った筋力トレーニングの基本					副島斉子	
第8回	マシンを使った筋力トレーニングの発展					副島斉子	
第9回	マシンを使った筋力トレーニングのプログラミング					副島斉子	
第10回	フリーウェイトを使った筋力トレーニングの基本					副島斉子	
第11回	身体のコンディショニングとしてのピラティス					副島斉子	
第12回	基本的なゆる体操					副島斉子	
第13回	ゆる体操の発展とゆる筋トレ					副島斉子	
第14回	基本的なゆるトレーニング					副島斉子	

第15回	ゆるウォーク	副島斉子
第16回	試験	副島斉子
教科書		
教・書籍名1	スポーツのための筋力トレーニング練習メニュー120	教・出版社名1 池田書店
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	体力学			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-201		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	体力を広く捉え、健康に関連した体力の概念を主として、その内容・構造を理解する。運動処方基礎として、体力の構成要素について専門的に学び、健康と体力、ひいては運動の必要性が理論的に理解できるようになる。						
授業概要	現代の社会環境や、現代人の生活状況が、体力にどのように影響を与えているか。また、発育発達過程で、体力はどのように変遷していくかについて論じる。さらに、老化と体力の関連性、疾病と体力の関連性にまでテーマを広げ、障害者の体力の問題にも焦点を当てる。体力についてその要素を、身体及び精神の両面に関わる、相互の連関において理解し、かつ疾病や障害との関連性を学習する。体力の捉え方や意味についての歴史の変遷について論じ、過去から現代にいたる日本人の体力の推移と、それに関わる要因と健康問題の関連性が理解できるようになる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	受講態度20%、単位認定試験80%による総合評価を行う。単位認定試験は採点后各自個別指導を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	複数回に分けて、学習理解度確認のための課題や小テストをユニバーサルサポートを用いて実施する。実施した課題および小テストで得られた回答の一部は、必要に応じて講義内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	健康運動指導士資格認定試験受験資格必須科目 健康運動実践指導者資格認定試験受験資格必須科目 (公財)日本スポーツ協会公認スポーツリーダー、スポーツプログラマー、ジュニアスポーツ指導員受験資格必修科目 毎回の授業時において配布する資料や、各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習また指示された予習を行うこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習として授業計画に記載されている部分について事前に参考資料等を約2時間読みままとめておくこと。復習として毎回の授業を自分でまとめ必要ところは繰り返し約2時間読んで暗記すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室(9402研究室)において、毎週月曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	体力の定義：健康に関連した体力					高原皓全	
第2回	体力の構成要素とその測定方法					高原皓全	
第3回	身体組成とその評価及び健康との関連性					高原皓全	
第4回	身体活動度と健康・体力					高原皓全	
第5回	筋力とその評価及び健康との関連性					高原皓全	
第6回	全身持久力とその評価及び健康との関連性					高原皓全	
第7回	柔軟性とその評価及び健康との関連性					高原皓全	
第8回	調整力とその評価及び健康との関連性					高原皓全	
第9回	発育発達段階と体力					高原皓全	
第10回	加齢と体力の減退					高原皓全	
第11回	女性の体力：男女の比較					高原皓全	
第12回	障がい者の体力					高原皓全	
第13回	スポーツマンと体力					高原皓全	
第14回	こころの健康と体力					高原皓全	
第15回	生活習慣と体力					高原皓全	

第16回	単位認定試験	高原皓全	
教科書			
教・書籍名1	資料を配布する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	体力学演習Ⅰ			担当者	山口 英峰、天岡 寛、高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-202		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	メディカルチェックの意義と内容、体力の測定方法や健康調査について、その理論と実際を学習する。身体活動度の評価方法、身体組成の評価方法を学習する。そして、的確に健康・体力の評価が行えて、そのうえで運動実施に関する相談を受けかつ指導ができるようになる。						
授業概要	健康や体力に関する測定・評価について、理論面の講義にもとづき、体力測定、検査、調査法などについて、実技・演習を行う。測定、検査、調査法の妥当性や再現性などについて理解し、対象者や目的に応じた評価方法の選択と、正しい実施方法を習得する。それらのデータを統計学的方法によって分析する基本を学び、これらによる診断・評価を踏まえながら、有酸素運動の運動種目であるジョギングウォーキングの実践方法・指導方法を学習す						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習／フィールドワーク						
評価方法と割合	受講態度20%、最終レポート80%により総合的に評価を行う。最終レポートは採点后各自個別指導を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストや課題は、講義内でフィードバックすることから、最終レポート作成までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	健康運動指導士資格認定試験受験資格必須科目 健康運動実践指導者資格認定試験受験資格必須科目 （公財）日本スポーツ協会公認スポーツプログラマー受験資格必須科目 毎回の授業時において配布する資料や、各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習また指示された予習を行うこと。 適宜、先回の授業内容について、レポートの作成・提出を行う。						
実務経験のある教員	該当する	内容	健康運動指導士				
事前学習・事後学習とその時間	予習として授業計画に記載されている部分について事前に参考資料等を約2時間読みままとめておくこと。復習として毎回の授業を自分でまとめ必要ところは繰り返し約2時間読んで暗記すること。						
オフィスアワー	担当教員別 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					担当教員全員	
第2回	体力測定の意義と目的					担当教員全員	
第3回	メディカルチェックの必要性和目的					担当教員全員	
第4回	メディカルチェックの内容					担当教員全員	
第5回	身体活動度の評価方法：質問紙法					担当教員全員	
第6回	身体活動度の評価方法：その他の方法					担当教員全員	
第7回	身体組成と健康およびその評価					担当教員全員	
第8回	皮下脂肪厚測定による身体組成評価					担当教員全員	
第9回	その他の方法による身体組成評価					担当教員全員	
第10回	体力測定の実際：新体力テスト					担当教員全員	
第11回	体力測定の実際：エクササイズガイド					担当教員全員	
第12回	体力測定の計画					担当教員全員	
第13回	体力測定の実施					担当教員全員	
第14回	体力測定の評価					担当教員全員	
第15回	体力プロフィールの作成					担当教員全員	
第16回							

教科書			
教・書籍名1	資料を配布する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	体力学演習Ⅱ			担当者	山口 英峰、天岡 寛、高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-203		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	体力の測定方法について、その理論と実際を学習する。実験室的な測定から、フィールドでの測定、質問紙による調査など、測定条件や目的に応じた測定方法を学習する。さらに、中高齢者に特化した測定・特に生活体力に焦点を当てたADL評価と関連させた測定・評価方法を学習する。そして、対象者に適合した体力の評価ができるようになる。						
授業概要	測定や検査の診断・評価について理解する。そのうえで、体力の測定方法が正しく実施できる技能を習得する。さらに、健康づくりの上での重要な対象者である、中高年齢者に適した体力評価と、その結果の活用の仕方を学ぶ。各体力要素ごとにその評価方法の理論的な理解と、実際の評価の実施方法を学習する。実際の指導現場における測定方法であるフィールドテストを中心に、現代において特に重要視される目的や対象者に対する評価方法が正しく実施できて、評価・診断できる能力を養う。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業中の課題提出、小テストやレポート提出で50%、最終レポートで50%の配分によって評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストや課題は、講義内でフィードバックすることから、最終レポート作成までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	健康運動指導士資格認定試験受験資格必須科目 （公財）日本スポーツ協会公認スポーツプログラマー受験資格必須科目 体力学演習Ⅰを履修すること。健康運動実践指導者受験資格科目ではないが、健康運動実践指導者を受験する学生は履修することが強く望まれる。 毎回配布する資料やノートの復習を、十分に行うこと。先回の内容について、適宜レポートの作成・提出を行う。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習として授業計画に記載されている部分について事前に参考資料等を約2時間読みまわすこと。復習として毎回の授業を自分でまとめ必要などところは繰り返し約2時間読んで暗記すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（1921研究室）において、毎週水曜日1限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	検査・測定結果の理解と効果判定					担当者全員	
第2回	形態、体型の測定と評価					担当者全員	
第3回	筋力の測定と評価（新体力テストを含め）					担当者全員	
第4回	パワーの測定と評価（新体力テストを含め）					担当者全員	
第5回	柔軟性の測定と評価（新体力テストを含め）					担当者全員	
第6回	有酸素能力の測定と評価（新体力テストを含め）					担当者全員	
第7回	無酸素能力の測定と評価（新体力テストを含め）					担当者全員	
第8回	一般成人対象のフィールドテスト：筋力					担当者全員	
第9回	一般成人対象のフィールドテスト：有酸素能力					担当者全員	
第10回	一般成人対象のフィールドテスト：調整力					担当者全員	
第11回	高齢者の体力特性と測定の留意点					担当者全員	
第12回	高齢者の持久力評価					担当者全員	
第13回	高齢者の筋力評価					担当者全員	
第14回	介護予防のための体力評価					担当者全員	

第15回	最終レポート作成	担当者全員	
第16回			
教科書			
教・書籍名1	資料を配布する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	運動処方			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-204		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	「現場で役に立つ運動処方」をテーマとする。運動処方の理論だけでなく、現場で役立つ実践方法の基礎を理解することができる。						
授業概要	本講義では、トレーニングについての基礎的な理解を深め、具体的な運動処方の方法を学ぶ。運動処方では、薬の処方と同様、間違った運動を処方することは大変危険である。正しい知識を身につけ、子どもから高齢者まで様々な体力レベルに応じた運動処方ができるよう、トレーニングの原則や方法を熟知しておくことが重要である。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	受講態度20%、単位認定試験80%による総合評価を行う。単位認定試験は採点后各自個別指導を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	複数回に分けて、学習理解度確認のための課題や小テストをユニバーサルサポートを用いて実施する。実施した課題および小テストで得られた回答の一部は、必要に応じて講義内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 「日本スポーツ協会関連資格認定試験受験資格 共通科目（共通Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ）」必須科目 授業時に配布する資料や各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習及び指示された予習を行うこと。 適宜、理解度確認レポートの作成・提出を行う。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習として授業計画に記載されている部分について事前に参考書等を約2時間読みまわめておくこと。復習として毎回の授業を自分でまとめ必要なところは繰り返し約2時間読んで理解すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9402研究室）において、毎週月曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	運動処方とは					高原皓全	
第2回	運動不足と生活習慣病					高原皓全	
第3回	トレーニング概論					高原皓全	
第4回	トレーニングの原理・原則					高原皓全	
第5回	トレーニング条件と反応・トレーニング強度					高原皓全	
第6回	筋力と筋量増強のトレーニング条件とその効果					高原皓全	
第7回	筋パワーと筋持久力トレーニングの条件とその効果					高原皓全	
第8回	全身運動によるエアロビクトレーニング					高原皓全	
第9回	減量とトレーニング					高原皓全	
第10回	加齢に伴う体力の自然減退とトレーニング					高原皓全	
第11回	子どもと運動					高原皓全	
第12回	高齢者と運動					高原皓全	
第13回	運動プログラムの基本原則					高原皓全	
第14回	運動プログラム作成の基礎					高原皓全	
第15回	運動プログラム作成の応用					高原皓全	
第16回	単位認定試験					高原皓全	
教科書							
教・書籍名1	健康運動実践指導者養成用テキスト				教・出版社名1	健康・体力づくり事業財団	
教・著者名1	健康・体力づくり事業財団				教・ISBN1	ISBNなし	

教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	運動処方演習Ⅰ			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-205		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	『神経筋系の作業能力（筋力・柔軟性）を向上させるための運動プログラム』をテーマとして、学生はプログラムを作成したうえで、各種運動器具を用いて行う運動、あるいは特別な器具を用いることなく行う運動のプログラムの作成の仕方を学び、指導することができるようになることを到達目標とする。						
授業概要	健康・体力の維持向上、老化の防止、痩身などを目的とした運動処方の実際を学ぶ。目的別運動処方の作成から実施の実際を学習する。特に、生活習慣病の予防、転倒防止などを対象にした介護予防などの目的で行われる運動の基本となる、筋力向上や筋肥大、筋持久力向上をねらいとした運動処方の実際について学習する。さらに、ウェイトトレーニング（レジスタンストレーニング）実施の際の、動作に関わる注意点や、指導上の留意点について、実際に役立つ形で学ぶ。 この授業の担当者は、健康運動指導の実務経験を有する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業中の課題提出、小テストやレポート提出で50%、最終レポートで50%の配分によって評価する。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	健康運動指導士資格認定試験受験資格必須科目 健康運動実践指導者資格認定試験受験資格必須科目 (公財)日本スポーツ協会公認スポーツプログラマー受験資格必須科目 毎回の授業時において配布する資料や、各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習また指示された予習を行うこと。 適宜、先回の授業内容について、レポートの作成・提出を行う。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	運動処方の基礎となる人間の身体や体力に関する科目の内容を、毎回の授業内容に照らし合わせて、予習しておくこと。さらに、授業後は、学んだことを実践して、実技力として習得すること。逐次実技試験を行う。 予習1コマ・復習1コマをそれぞれ行うこと。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室にて						
授業計画						担当者	
第1回	warm upとwarm downの方法					竹内研	
第2回	isometricsの基本					竹内研	
第3回	isometricsの運動プログラム					竹内研	
第4回	isotonicsの基本					竹内研	
第5回	isotonicsの発展					竹内研	
第6回	isotonicsの応用					竹内研	
第7回	stretchingの実際					竹内研	
第8回	stretchingの運動プログラム					竹内研	
第9回	基本的なウェイトトレーニングのプログラム					竹内研	
第10回	ウェイトトレーニングの変数					竹内研	
第11回	ウェイトトレーニングのシステム					竹内研	
第12回	サーキットトレーニング					竹内研	

第13回	目的別ウェイトトレーニングのプログラム	竹内研
第14回	高齢者を対象としたウェイトトレーニングのプログラム	竹内研
第15回	脳科学から見た運動処方	竹内研
第16回		
教科書		
教・書籍名1	健康運動指導士養成講習会テキスト	教・出版社名1 健康・体力づくり事業財団
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2	生涯スポーツトレーナーアドバンスコーステキスト	教・出版社名2 株式会社MJカンパニー
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	運動処方演習Ⅱ			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-206		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	学生は『呼吸・循環器系の作業能力を向上させるための運動プログラム』をテーマとし、プログラムを作成したうえで、目的に応じた運動プログラムの作成の仕方を学び、指導することができるようになることを到達目標とする。						
授業概要	健康・体力の維持向上,老化の防止,痩身などを目的とした運動処方の実際を学ぶ。介護予防,生活習慣病予防など、目的別運動処方の作成と実施の仕方の実際を学習したうえで、運動行動や習慣を改善するアプローチについて学習する。昨今重要視されてきたメタボリックシンドロームやロコモティブシンドローム、さらにはメンタルヘルスの改善においても、有酸素運動を中心とした運動プログラムは重要である。こうした目的で行われる運動指導の実際上の留意点についても学習する。 この授業の担当者は、健康運動指導の実務経験を有する。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業中の課題提出,小テストやレポート提出で50%、最終レポートで50%の配分によって評価する。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	健康運動指導士資格認定試験受験資格必須科目 (公財)日本スポーツ協会公認スポーツプログラマー受験資格必須科目 運動処方演習Ⅰを履修すること。健康運動実践指導者受験資格科目ではないが、健康運動実践指導者を受験する学生は、履修することが強く望まれる。 毎回の授業時において配布する資料や、各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習また指示された予習を行うこと。 適宜、先回の授業内容について、レポートの作成・提出を行う。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	運動処方の基礎となる人間の身体や体力に関する科目の内容を、毎回の授業内容に照らし合わせて、予習しておくこと。さらに、授業後は、学んだことを実践して、実技力として習得すること。 予習1コマ・復習1コマをそれぞれ行うこと。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室にて						
授業計画						担当者	
第1回	aerobic exerciseの運動処方の基本					竹内研	
第2回	aerobic exerciseの目的別プログラム					竹内研	
第3回	一般的な運動プログラムの作成					竹内研	
第4回	子供の運動プログラム					竹内研	
第5回	高齢者のaerobic exerciseプログラム					竹内研	
第6回	介護予防のための運動					竹内研	
第7回	肥満予防と改善のための運動プログラム					竹内研	
第8回	ロコモティブシンドロームと運動					竹内研	
第9回	女性のための運動プログラム					竹内研	
第10回	障害者のための運動プログラム					竹内研	

第11回	高血圧の運動指導	竹内研
第12回	糖尿病予防と改善のための運動指導	竹内研
第13回	その他の疾患の運動指導	竹内研
第14回	メンタルヘルスのための運動指導	竹内研
第15回	最終レポート作成	竹内研
第16回		

教科書		
-----	--	--

教・書籍名1	健康運動指導士養成講習会テキスト	教・出版社名1	健康・体力づくり事業財団
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2	生涯スポーツトレーナー教本	教・出版社名2	公益財団法人日本健康スポーツ連盟
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書		
-----	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ医学Ⅰ 集中A			担当者	川上 照彦		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-207		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	スポーツ医学を生理学、整形外科学、内科学等の観点から理解し、スポーツ医学の重要性を理解する。学生はスポーツ時に起こりやすい外傷や障害を理解し、それぞれの応急処置について学ぶことができる。						
授業概要	競技スポーツの特性と健康スポーツの大切さについて事例をあげて説明する。また、様々な障害について事例をあげ、その予防や処置について基礎的なことを学ぶ。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習						
評価方法と割合	講義姿勢(10%)、発表、ディスカッションへの参加(10%)、定期試験(80%)から評価する。なお、講義内の発表評価に関しては講義内にフィードバックすることから、発表内容について試験までに見直しが必要である。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題や試験のフィードバックは講義時間内にて行う。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 「日本スポーツ協会公認スポーツリーダー」「スポーツプログラマー」受験資格必須科目 講義項目ごとに資料を配布する。資料は図表が主となるので、理解のためには講義への出席が重要となる。すべてにおいて、主体的な姿勢で臨むこと。分からないことについては積極的に質問するよう取り組むこと。提出物の期限は厳守すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	日本体育協会の公認スポーツドクター、日本整形外科学会の専門医としてスポーツ選手の治療に携わると共に、高知県スポーツ医科学員会の委員長、高知県メディカルチェック委員会の委員としてスポーツ行政にも参加している。				
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が必要である。予習として、毎回の授業において問題提起と討論が可能なように配布されたプリントの指定されたページを熟読してくる。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。なお、予習・復習には2時間を要する。						
オフィスアワー	非常勤講師のため、講義後の時間をオフィスアワーとする。						
授業計画						担当者	
第1回	内課的障害と予防					川上照彦	
第2回	スポーツと内科的障害					川上照彦	
第3回	外科的障害 上肢					川上照彦	
第4回	外科的障害 下肢					川上照彦	
第5回	外科的障害 脊椎					川上照彦	
第6回	外科的処置1) 全身性障害：実習含む					川上照彦	
第7回	外科的処置2) 局所外傷：実習含む					川上照彦	
第8回	救急蘇生法：実習含む					川上照彦	
第9回	メディカルチェック					川上照彦	
第10回	健康と障害について					川上照彦	
第11回	スポーツ外傷とその予防					川上照彦	
第12回	スポーツ障害とその予防					川上照彦	
第13回	救急処置（アイシング・テーピング）：実習含む					川上照彦	
第14回	熱中症					川上照彦	

第15回	ドーピングについて	川上照彦
第16回	筆記試験	川上照彦
教科書		
教・書籍名1	使用しない(資料を配布する)	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	スポーツ医学II 集中E			担当者	川上 照彦		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-208		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	運動負荷試験の基礎として検査の目的、手順、方法および判定について理解する。学生は実践を通して、エルゴメーターを用いた運動負荷試験を行うことができる。						
授業概要	運動負荷試験の基礎となる運動負荷の様式、手順ならびに判定について様々な生理学的なパラメータを用いて実践し、理解を深める。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/グループワーク/プレゼンテーション/実習						
評価方法と割合	講義姿勢(10%)、発表、ディスカッションへの参加(10%)、レポート課題(10%)、定期試験(70%)から評価する。なお、評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題や試験のフィードバックは講義時間内に行う。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 講義項目ごとに資料を配布する。資料は図表が主となるので、理解のためには講義への出席が重要となる。						
実務経験のある教員	該当する	内容	日本体育協会の公認スポーツドクター、日本整形外科学会専門医としてスポーツ障害患者の治療に携わると共に、高知県医科学員会委員長、高知県メディカルチェック委員会の委員としてスポーツ行政、スポーツ選手のコンディショニングに関わっている。				
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が必要である。予習として、毎回の授業において問題提起と討論が可能なように配布されたプリントの指定されたページを熟読してくる。復習として、毎回課題を出すので、次の授業時に発表すること。なお、予習・復習には2時間を要する。						
オフィスアワー	非常勤講師のため、講義後の時間をオフィスアワーとする。						
授業計画						担当者	
第1回	メディカルチェックについて					川上照彦	
第2回	健診結果の見方について					川上照彦	
第3回	服薬者の運動プログラム					川上照彦	
第4回	安静時の心電図について					川上照彦	
第5回	運動負荷試験とは					川上照彦	
第6回	運動負荷試験の実際					川上照彦	
第7回	運動負荷試験実習(1)トレッドミル測定の実際(実習含)					川上照彦	
第8回	運動負荷試験実習(2)エルゴメーター測定の実際(実習含)					川上照彦	
第9回	運動負荷試験実習(3)ホルター心電図の実際(実習含)					川上照彦	
第10回	運動負荷試験実習(4)テレメータ心電図の実際(実習含)					川上照彦	
第11回	運動負荷試験実習(5)フィールド測定(実習含)					川上照彦	
第12回	運動負荷試験実習(6)評価と解析					川上照彦	
第13回	運動負荷試験実習(7)潜水反射試験					川上照彦	
第14回	運動時における一過性の循環器応答について					川上照彦	
第15回	運動プログラム作成について					川上照彦	
第16回	単位認定試験(筆記試験)					川上照彦	
教科書							
教・書籍名1	使用しない(資料を配布する)					教・出版社名1	

教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	応用スポーツ論			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-209		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	運動プログラム作成をテーマとする。学生は運動プログラム作成の基本的な知識と理論を理解することで、一般の運動処方ならびに内科的疾患を持っている方への運動処方の基礎を学ぶことができる。						
授業概要	健康の保持・増進にはスポーツなどの身体活動の実践が有効である。本講義では、幅広い年齢層におけるスポーツ実践についての理解を深めるために、様々な運動時の生体応答等についての知識と理論について学習する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義中の課題(30%)、定期試験(70%)から評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 すべてにおいて、主体的な姿勢で臨むこと。分からないことについては積極的に質問するよう取り組むこと。提出物の期限は厳守すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が必要である。講義毎に前週講義内容の小テストを行うので毎回の授業においてテキストの指定されたページを熟読してくる。復習として講義内容や小テストの内容をしっかりと確認すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9410研究室）において、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	概要					山口英峰	
第2回	ストレッチおよび柔軟体操の実践					山口英峰	
第3回	ウォーミングアップとクーリングダウンの理論					山口英峰	
第4回	有酸素運動時の生体応答-ウォーキング					山口英峰	
第5回	有酸素運動時の生体応答-ランニング					山口英峰	
第6回	有酸素運動時の生体応答-水中運動					山口英峰	
第7回	有酸素運動時の生体応答-エアロビクダンス					山口英峰	
第8回	無酸素性運動時の生体応答					山口英峰	
第9回	筋力トレーニング時の生体応答					山口英峰	
第10回	運動プログラムについて					山口英峰	
第11回	運動プログラムの作成-若年者					山口英峰	
第12回	運動プログラムの作成-高齢者					山口英峰	
第13回	運動プログラムの作成-後期高齢者					山口英峰	
第14回	運動プログラムの作成-子ども					山口英峰	
第15回	総括					山口英峰	
第16回	単位認定試験					山口英峰	
教科書							
教・書籍名1	健康運動実践指導者用テキスト				教・出版社名1	健康・体力づくり事業財団	
教・著者名1	健康・体力づくり事業財団				教・ISBN1	ISBNなし	

教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	改訂3版 健康運動実践指導者試験筆記対策分野別 & 模擬問題集	参・出版社名1	日本能率協会マネジメントセンター
参・著者名1	NESTA JAPAN	参・ISBN1	9784820729617
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	応用スポーツ実習 グループ授業			担当者	山口 英峰、天岡 寛、高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-210		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	運動プログラムの基礎および応用について実践を通して理解する。学生は個人（対象者）に応じた運動プログラムの作成およびその実践力をみにつけることができる。						
授業概要	本講義では、幅広い年齢層におけるスポーツ実践についての理解を深めるとともに、効果的な運動実践方法について実習を通して身につけることを目的とする。また、自らの身体がトレーニングによってどのように変化していくのかについても体験する。						
アクティブラーニングの内容	実習/その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	レポート課題(20%)、実技試験(40%)、筆記試験(40%)から評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 健康運動実践指導者資格認定試験受験資格の必須科目ではないが、健康運動実践指導者試験を受験する学生は履修することが強く望まれる。						
実務経験のある教員	該当する	内容	健康運動指導士				
事前学習・事後学習とその時間	講義内で行う運動プログラムの作成ならびにその実演についての習得には、事前に配布する運動プログラム内容理解が必要である。実技および筆記試験ともに講義前後の予習復習が必要である。						
オフィスアワー	担当教員別 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	概要						天岡 寛、山口 英峰、高原 皓全
第2回	ストレッチおよび柔軟体操の実際						天岡 寛、山口 英峰、高原 皓全
第3回	ウォーミングアップとクーリングダウンの実際						天岡 寛、山口 英峰、高原 皓全
第4回	ウォーキングの実際						天岡 寛、山口 英峰、高原 皓全
第5回	ランニングの実際						天岡 寛、山口 英峰、高原 皓全
第6回	エアロビックダンスの実際						天岡 寛、山口 英峰、高原 皓全
第7回	筋力トレーニングの実際 (1) 上肢						天岡 寛、山口 英峰、高原 皓全
第8回	筋力トレーニングの実際 (2) 下肢						天岡 寛、山口 英峰、高原 皓全
第9回	運動プログラム作成						天岡 寛、山口 英峰、高原 皓全
第10回	運動プログラムの実践 (1) 若年者						天岡 寛、山口 英峰、高原 皓全
第11回	運動プログラムの実践 (2) 高齢者						天岡 寛、山口 英峰、高

		原 皓全
第12回	運動プログラムの実践 (3) 後期高齢者	天岡 寛、山口 英峰、高 原 皓全
第13回	運動プログラムの実践 (4) こども	天岡 寛、山口 英峰、高 原 皓全
第14回	運動プログラムの実践 (5) アスリート	天岡 寛、山口 英峰、高 原 皓全
第15回	総括	天岡 寛、山口 英峰、高 原 皓全
第16回	筆記および実技試験	天岡 寛、山口 英峰、高 原 皓全
教科書		
教・書籍名1	健康運動実践指導者養成用テキスト	教・出版社名1 健康・体力づくり事業財団
教・著者名1	健康・体力づくり事業財団	教・ISBN1 ISBNなし
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	改訂3版 健康運動実践指導者試験筆記対策分野別&模擬問題集	参・出版社名1 日本能率協会マネジメントセンター
参・著者名1	NESTA JAPAN	参・ISBN1 9784820729617
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	健康運動実習Ⅰ			担当者	竹内 美穂		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-211		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	『有酸素運動のひとつである「エアロビック・ダンスエクササイズ」の特性を』をテーマとし、エアロビック・ダンスエクササイズの基本的な技術を習得する。適切な運動強度の設定と運動強度の把握のしかたを知り、指導上の注意点を理解して、基本的なエアロビック・ダンスエクササイズの指導が出来るよう、指導力を習得することを到達目標とする。						
授業概要	まずはエアロビック・ダンスエクササイズに親んでもらう。参加者の目的や、経験、体力レベル等を考慮した運動プログラムを実感してもらい、さらにそれらのプログラムの組み立てかたを学ぶ。強化エクササイズとしてのコンディショニングやヨガ・ストレッチ等もとり入れてトータルな健康運動を体感して学ぶ。 この授業の担当者はエアロビック・ダンスエクササイズ指導の実務経験を有する。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	授業内での小テストによって(50%)、最終テストによって(50%) で評価する。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した試験や課題の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	運動できる服装で受講すること。特にシューズは必ず着用のこと（安全上）。平素の小テストにより予習・復習を明確に行う。 「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 「(公財)日本スポーツ協会公認スポーツプログラマー受験資格」必須科目						
実務経験のある教員	該当する	内容	スポーツクラブや健康増進施設などで、成人や高齢者に指導。				
事前学習・事後学習とその時間	実技内容のまとめと復習(予習復習各2時間程度を要する。)						
オフィスアワー	授業終了後、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	エアロビック・ダンス・エクササイズの沿革					竹内美穂	
第2回	健康・体力づくりとエアロビック・ダンス・エクササイズ					竹内美穂	
第3回	エアロビック・ダンス・エクササイズの基本動作					竹内美穂	
第4回	エアロビック・ダンス・エクササイズの基本ルーティン					竹内美穂	
第5回	エアロビック・ダンス・エクササイズの運動強度とその指標					竹内美穂	
第6回	ウォーム・アップの構成					竹内美穂	
第7回	メイン・パートの構成Ⅰ					竹内美穂	
第8回	メイン・パートの構成Ⅱ：音楽のフレーズと動きの構成					竹内美穂	
第9回	メイン・パートの構成Ⅲ：運動強度のコントロール					竹内美穂	
第10回	クール・ダウンとコンディショニング					竹内美穂	
第11回	レッスンの全体構成					竹内美穂	
第12回	レッスンの全体構成と指導方法					竹内美穂	
第13回	レッスンの全体構成と指導方法：動きの指示出しとキューイング					竹内美穂	
第14回	エアロビック・ダンス・エクササイズの目的別指導					竹内美穂	
第15回	エアロビック・ダンス・エクササイズの対象者別指導					竹内美穂	

第16回	試験	竹内美穂	
教科書			
教・書籍名1	地域スポーツ指導員 エアロビク専門科目教本	教・出版社名1	一般社団法人日本エアロビク連盟
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	健康運動実習Ⅱ 複数担当			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-212		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	実習	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	「水中環境における健康づくり」をテーマとし、自らが考え、行動できるレベルを到達目標とする。						
授業概要	水の特性を理解する。そして水の特性を利用して行う、水泳・水中運動の基本的な技法を習得する。水泳・水中運動が持つ、健康・体力づくりのための意義を学ぶ。運動強度の調節の方法を理解し、対象者に適した運動プログラムが構成でき、適切な指導が出来るように学習する。						
アクティブラーニングの内容	実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	最終試験（50％）、レポート等課題（30％）、受講態度（20％） なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 「保健体育科教員資格」選択科目 学外実習施設を利用する。 事前学習（講義）を春学期中に行う。各自掲示板で確認の上、出席すること。なお、このときに実習クラス分けも行う。 授業時に配布する資料や各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習及び指示された予習を行うこと。 適宜、レポートの作成・提出を行う。						
実務経験のある教員	該当する	内容	健康運動指導士				
事前学習・事後学習とその時間	事前学習時に出される毎回の課題の提出について厳守すること。学外実習時においては、事前学習で得たことを実践するため、予習を行い、実践体験についてまとめること。						
オフィスアワー	教員別 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	導入授業&水の特性と水泳・水中運動1（浮力・水圧）					天岡 寛	
第2回	水の特性と水泳・水中運動2（水温・粘性抵抗）					天岡 寛	
第3回	健康・体力づくりと水泳・水中運動（安全管理）					天岡 寛	
第4回	水中での動作1（浮く）					各教員（グループ別）	
第5回	水中での動作2（潜る）					各教員（グループ別）	
第6回	水中での動作の運動強度					各教員（グループ別）	
第7回	水中運動でのプログラム1（アクアビクス）					各教員（グループ別）	
第8回	水中運動でのプログラム2（アクアウォーク）					各教員（グループ別）	
第9回	水中運動の指導方法1（アクアビクス）					各教員（グループ別）	
第10回	水中運動の指導方法2（アクアウォーク）					各教員（グループ別）	
第11回	水泳の基本泳法1（クロール・背泳ぎ）					各教員（グループ別）	
第12回	水泳の基本泳法2（平泳ぎ）					各教員（グループ別）	
第13回	水泳の基本泳法3（バタフライ）					各教員（グループ別）	
第14回	水泳の運動強度と指導法					各教員（グループ別）	
第15回	まとめ					天岡 寛	

第16回	単位認定試験	天岡 寛	
教科書			
教・書籍名1	健康運動実践指導者養成用テキスト	教・出版社名1	健康・体力づくり事業財団
教・著者名1	健康・体力づくり事業財団	教・ISBN1	なし
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	遠泳学事始 「今こそ、子どもたちに遠泳を!」 海で育てる生きる力とおもいやり遠泳学事始	参・出版社名1	フリースペース
参・著者名1	木村 一彦, 矢野 博己	参・ISBN1	4434175610
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	健康運動現場実習			担当者	山口 英峰、天岡 寛、倉知 典弘、高原 皓全、孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-213		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	60	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	習得してきた専門的能力を、実際の現場で生かせるために、専門職者としての実務能力や指導力を養成する。また、各自のそれまでの学習で、不足している内容を把握し、今後の指導力養成の糧とすることができる。						
授業概要	施設での実習に先立ち、学内に於いて、健康増進施設の概要や業務内容、対人関係での留意点などについて学習した後、施設で実習を行なう。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション/実習/その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	レポート30%、施設実習評価70%とする。 なお、評価のために実施したレポート課題は、講義内でフィードバックすることから、コメントについて検討し、実習報告会で反映させること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストや課題は、講義内でフィードバックすることから、最終レポート作成までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目						
実務経験のある教員	該当する	内容	健康運動指導士				
事前学習・事後学習とその時間	施設実習を行う前に十分な予習が必要である。具体的な運動プログラムの作成等、講義で配布された資料を熟読すること。実習中は、「実習ノート」に記録をとり復習すること。						
オフィスアワー	担当教員別 9号館4階研究室 6号館3階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション						担当者全員
第2回	健康運動指導の現場から（外部講師）						担当者全員
第3回	健康増進施設の現状と役割						担当者全員
第4回	施設・設備の概要と管理						担当者全員
第5回	対人マナー・コミュニケーション、接遇						担当者全員
第6回	個人情報管理、事務処理等						担当者全員
第7回	施設での実習						担当者全員
第8回	施設での実習						担当者全員
第9回	施設での実習						担当者全員
第10回	施設での実習						担当者全員
第11回	施設での実習						担当者全員
第12回	施設での実習						担当者全員
第13回	施設での実習報告						担当者全員
第14回	施設での実習						担当者全員
第15回	施設での実習						担当者全員
第16回	施設での実習						担当者全員
第17回	施設での実習						担当者全員
第18回	施設での実習						担当者全員
第19回	施設での実習						担当者全員
第20回	施設での実習						担当者全員

第21回	施設での実習	担当者全員
第22回	施設での実習	担当者全員
第23回	施設での実習	担当者全員
第24回	施設での実習	担当者全員
第25回	施設での実習	担当者全員
第26回	施設での実習	担当者全員
第27回	施設での実習	担当者全員
第28回	施設での実習	担当者全員
第29回	施設での実習報告	担当者全員
第30回	健康運動指導の現場から（外部講師）	担当者全員
第31回	実習報告会①	担当者全員
第32回	実習報告会②	担当者全員
教科書		
教・書籍名1	健康運動指導士養成講習会テキスト	教・出版社名1 健康・体力づくり事業財団
教・著者名1	健康・体力づくり事業財団	教・ISBN1 ISBNなし
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	運動療法			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-214		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	「運動療法の理論と実際」をテーマとする。運動療法の理論だけではなく、現場で役立つ実践方法の基礎を理解できる。						
授業概要	運動は体力の維持・向上だけでなく、生活習慣病の予防・改善にも効果的であることは周知の通りである。しかしながら、間違った運動を行うと、かえって病状を悪化させてしまう。本講義では、生活習慣病と運動の関係について、疾患・疾病の関係特性について理解を深め、何をどの程度行うのが効果的であるのかを正しく理解し、対象者に適した運動プログラムの作成及び適切な指導が出来るよう学習する。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク/プレゼンテーション/フィールドワーク						
評価方法と割合	最終試験 (90%) , 発表, ディスカッションへの参加 (5%) , 受講態度 (5%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 1) 事前に課題を出し、グループ発表を行う参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。 2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。 3) 初回の授業には、必ず出席すること。 4) 試験は必ず行うので、授業に出席していただいただけでは単位は取れない。						
実務経験のある教員	該当する	内容	健康運動指導士				
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してくること。また、授業時に配布する資料や各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習及び次回への予習を行うこと (各2時間程度)。						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					天岡 寛	
第2回	運動療法とは					天岡 寛	
第3回	生活習慣病と運動療法					天岡 寛	
第4回	肥満症と運動療法					天岡 寛	
第5回	高血圧症と運動療法					天岡 寛	
第6回	高脂血症と運動療法					天岡 寛	
第7回	糖尿病と運動療法					天岡 寛	
第8回	虚血性心疾患と運動療法					天岡 寛	
第9回	認知症と運動療法					天岡 寛	
第10回	転倒防止と運動療法					天岡 寛	
第11回	がんと運動					天岡 寛	
第12回	障害者の運動能力の特徴とトレーニング					天岡 寛	
第13回	生活習慣病改善のための運動プログラム作成					天岡 寛	
第14回	服薬者の運動プログラム作成上の注意					天岡 寛	
第15回	まとめ					天岡 寛	
第16回	単位認定試験					天岡 寛	
教科書							

教・書籍名1	健康運動指導士養成講習会テキスト 上下	教・出版社名1	健康・体力づくり事業財団
教・著者名1	健康・体力づくり事業財団	教・ISBN1	なし
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する.	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	老年体力学			担当者	天岡 寛、永見 邦篤		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-215		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	加齢に伴う心身の変化と身体活動は、密接に関連する。身体活動の低下は、日常生活の不具合を引き起こす。その予防・改善の為に高齢者の体力について理解することができる。						
授業概要	加齢にともなって、身体活動能力がいかに変化するかを示す。神経・筋系の機能、呼吸・循環機能及び運動能力の変化について理解し、体力的予備力やトレーナビリティを捉えて、高齢者に適した運動の実際をプログラム化しうよう学習する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/グループワーク/プレゼンテーション/フィールドワーク						
評価方法と割合	講義内の課題を10%、毎回の試験を90%とし、評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 講義項目ごとに適宜、資料を配布する。生理学、解剖学、体力学及び運動生理学等を土台とする応用分野なので、各々の学習のなされていることが望まれる。						
実務経験のある教員	該当する	内容	健康運動指導士				
事前学習・事後学習とその時間	本講義は予習復習が各2時間程度必要である。予習として、毎回の授業において問題提起と討論が可能なように配布されたプリントのページを熟読してくる。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。						
オフィスアワー	非常勤講師：講義前後 6号館1階非常勤講師控え室 常勤講師：水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	高齢者と福祉と体力					天岡 寛	
第2回	高齢者の体力の推移					永見邦篤	
第3回	神経・筋機能の加齢変化 1) 筋タイプと萎縮					天岡 寛	
第4回	神経・筋機能の加齢変化 2) 行動の変化					永見邦篤	
第5回	呼吸機能の加齢変化					天岡 寛	
第6回	循環機能の加齢変化 1) 血管					永見邦篤	
第7回	循環機能の加齢変化 2) 心臓					天岡 寛	
第8回	高齢者と骨 1) 骨代謝					永見邦篤	
第9回	高齢者と骨 2) 骨と運動					天岡 寛	
第10回	身体活動の低下とCa代謝					永見邦篤	
第11回	身体活動の低下と循環機能					天岡 寛	
第12回	高齢者と睡眠、水分代謝					永見邦篤	
第13回	高齢期の至適運動 筋・循環機能について					天岡 寛	
第14回	高齢者の運動指導とその注意点					永見邦篤	
第15回	まとめ					天岡 寛	
第16回	単位認定試験					天岡 寛	
教科書							
教・書籍名1	健康運動指導士養成講習会テキスト 上下				教・出版社名1	健康・体力づくり事業財団	

教・著者名1	健康・体力づくり事業財団	教・ISBN1	なし
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	健康心理学			担当者	謝名堂 りさ		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-216		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	『運動中の心理的効用』をテーマとし、心理的要因が運動のパフォーマンスに及ぼす影響など、スポーツの心理的テーマを広く系統的に取り上げ解説する。健康に影響を与える心理的要因について理解し、心理面からの健康指導ができるようになる。また、健康づくりのための行動変容を促す指導ができるようになることを到達目標とする。						
授業概要	現代社会における精神保健に関わる問題を理解する。精神ストレスとそれに起因する健康問題及び、その解決方法を学ぶことができる。生活習慣病とそれに関わる心理的要因を理解するとともに、行動変容を含めた、健康心理学的知識を学習する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	講義に関する学習効果及び途中で提出するレポート類（学習到達目標に関する出題）を含む70%。学習態度30%である。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した試験や課題の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 「（公財）日本スポーツ協会公認スポーツリーダー・スポーツプログラマー受験資格」必須科目						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	ノートの復習(予習復習各2時間程度を要する。)						
オフィスアワー	授業終了後、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	運動行動変容の理論					謝名堂りさ	
第2回	運動行動変容理論の応用・実際					謝名堂りさ	
第3回	心の健康論					謝名堂りさ	
第4回	健康づくりとカウンセリング（実習も含む）					謝名堂りさ	
第5回	ストレスアセスメントと対処法					謝名堂りさ	
第6回	スポーツ競技者の性格特性					謝名堂りさ	
第7回	競技力と情緒の安定					謝名堂りさ	
第8回	動機づけと目標設定（実習を含む）					謝名堂りさ	
第9回	あがりパフォーマンス					謝名堂りさ	
第10回	スキルトレーニング：運動学習理論					謝名堂りさ	
第11回	メンタルトレーニング					謝名堂りさ	
第12回	スポーツ集団と人間関係					謝名堂りさ	
第13回	スポーツ集団とリーダーシップ					謝名堂りさ	
第14回	スポーツ選手のバーンアウト					謝名堂りさ	
第15回	セルフエフィカシー					謝名堂りさ	
第16回	試験					謝名堂りさ	

教科書			
教・書籍名1	健康スポーツの心理学	教・出版社名1	大修館書店
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	運動生理学演習Ⅰ グループ授業			担当者	山口 英峰、天岡 寛、高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-217		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	運動生理学および身体運動学で身体構造、運動時の生体応答について学んだことを、実験実習形式で身をもって体験する。その結果、人間の生理的運動機能に対する理解を深め、教科書では学ぶことのできない体験的学習が可能となる。学生は将来の実践的運動指導にむけての基礎的能力を身につけることができる。						
授業概要	運動生理学演習室に設備されている実験機器をの操作を理解し、実際に自らの手によって実験を行う。その後、実験データの整理を行い、まとめてレポートを作成する。レポートには、実験の目的、方法、結果、考察。まとめの順で書くように指導する。その後、卒業研究にも結びつくように指導を行う。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/グループワーク/実習/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	実験実習形式であるため、機器の操作、データ整理、レポート内容について評価を行う。機器の操作およびデータ整理(30%)、レポート内容(70%)から評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施したレポート課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 運動にかかわる実験を行うため、自らが被験者になることを考え、運動のできる服装で参加すること。すべてにおいて、主体的な姿勢で臨むこと。分からないことについては積極的に質問するよう取り組むこと。提出物の期限は厳守すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	天岡寛、高原皓全：健康運動指導士				
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が必要である。運動生理学の基礎的知識について、事前に配布する資料で予習すること。復習として、実習の疑問点について文章化し、次回の講義で発表すること。						
オフィスアワー	担当教員別 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	心電図と導出法1) テレメタリング					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第2回	心電図と導出法2) 12誘導法					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第3回	心電図と導出法3) 説明					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第4回	運動と心拍・心電図1) 心拍数の変化					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第5回	運動と心拍・心電図2) 負荷心電図とは					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第6回	運動と血圧1) 運動時の血圧応答					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第7回	運動と血圧2) 運動と高血圧					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第8回	運動と血圧3) 説明					天岡寛、山口英峰、高原皓全	

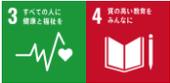
第9回	運動と酸素摂取1) 呼気ガス (酸素、炭酸ガス)	天岡寛、山口英峰、高原皓全
第10回	運動と酸素摂取2) 安静時の呼吸代謝と呼吸商	天岡寛、山口英峰、高原皓全
第11回	運動と酸素摂取3) 最大酸素摂取量の測定	天岡寛、山口英峰、高原皓全
第12回	運動と酸素摂取4) 換気閾値 (AT) とは	天岡寛、山口英峰、高原皓全
第13回	診断結果と効果判定	天岡寛、山口英峰、高原皓全
第14回	運動とメディカルチェック	天岡寛、山口英峰、高原皓全
第15回	総括	天岡寛、山口英峰、高原皓全
第16回		

教科書

教・書籍名1	使用しない (プリントを配布する)	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	健康運動実践指導者養成用テキスト	参・出版社名1	健康・体力づくり事業財団
参・著者名1	健康・体力づくり事業財団	参・ISBN1	ISBNなし
参・書籍名2	健康運動指導士養成講習会テキスト	参・出版社名2	健康・体力づくり事業財団
参・著者名2	健康・体力づくり事業財団	参・ISBN2	ISBNなし

授業科目名	運動生理学演習Ⅱ グループ授業			担当者	山口 英峰、天岡 寛、高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-218		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	運動生理学および身体運動学で身体構造、運動時の生体応答について学んだことを、実験実習形式で身をもって体験する。その結果、人間の生理的運動機能に対する理解を深め、教科書では学ぶことのできない体験的学習が可能となる。学生は将来の実践的運動指導等ができる能力を身につけることができる。						
授業概要	運動生理学演習室に設備されている実験機器の操作を理解し、実際に自らの手によって実験を行う。その後、実験データの整理を行い、まとめてレポートを作成する。レポートには、実験の目的、方法、結果、考察。まとめの順で書くように指導する。その後、卒業研究にも結びつくように指導を行う。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/グループワーク/実習						
評価方法と割合	実験実習形式であるため、機器の操作、データ整理、レポート内容について評価を行う。機器の操作およびデータ整理（30%）、レポート内容（70%）から評価する。なお、評価のために実施したレポート課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 運動にかかわる実験を行うため、自らが被験者になることを考え、運動のできる服装で参加すること。すべてにおいて、主体的な姿勢で臨むこと。分からないことについては積極的に質問するよう取り組むこと。提出物の期限は厳守すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	天岡寛、高原皓全：健康運動指導士				
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が各2時間程度必要である。運動生理学の基礎的知識について、事前に配布する資料で予習すること。復習として、実習の疑問点について文章化し、次回の講義で発表すること。						
オフィスアワー	担当教員別 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	筋電図と導出法 1) 筋の活動電位					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第2回	筋電図と導出法 2) 表面誘導法					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第3回	筋電図と導出法 3) 筋電図のテレメタリング					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第4回	筋電図と導出法 4) 歩行時の筋活動					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第5回	筋と筋力 1) 筋力レベルと筋放電量					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第6回	筋と筋力 2) 筋力レベルと運動単位活動					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第7回	筋と筋力 3) 持続的筋活動と筋電図					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第8回	筋と筋力 4) 瞬発的筋活動と筋電図					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第9回	筋への血流 1) レーザードップラー法					天岡寛、山口英峰、高原皓全	

		全
第10回	筋への血流 2) 超音波法	天岡寛、山口英峰、高原皓 全
第11回	筋への血流 3) 説明	天岡寛、山口英峰、高原皓 全
第12回	筋活動と血流 1) 掌握動作時の血流変化	天岡寛、山口英峰、高原皓 全
第13回	筋活動と血流 2) 運動と頸動脈血流	天岡寛、山口英峰、高原皓 全
第14回	筋活動と血流 3) 運動習慣と頸動脈	天岡寛、山口英峰、高原皓 全
第15回	筋活動と血流 4) 説明	天岡寛、山口英峰、高原皓 全
第16回		

教科書

教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	健康運動指導士養成講習会テキスト	参・出版社名1	健康・体力づくり事業財団
参・著者名1	健康・体力づくり事業財団	参・ISBN1	ISBNなし
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ社会学			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年 / 2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年 / 2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-301		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も / 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう / 10. 人や国の不平等をなくそう / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	スポーツの社会的理解をテーマに、学生が人間社会で生起する様々なスポーツ現象を社会的視点から論理的に分析できる。						
授業概要	<p>現代社会においてスポーツは、人々の生活にとって欠くべからざるものとなっており、社会の様々な領域でその領域独自の社会的機能を果たすことを要請されている。その意味で現代におけるスポーツはかつてのスポーツに比べ、きわめて多様化・複雑化しており、特にスポーツを専門的に学ぶ学生は将来も見据えて、スポーツを多面的且つ系統的に理解していなければならない。</p> <p>本講義では現代社会におけるスポーツの多面的な領域の主なものについて言及し、その実態と問題点及び将来展望について論じるとともに、これら多様に展開するスポーツを系統的に把握するための社会理論について社会学の領域から言及し、社会的視点においてスポーツを本質的に理解するための知識と能力を養うことを目的とする。</p>						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	単位認定試験（40％）中間レポート（30％）毎回の小レポート（20％）受講姿勢（10％）評価の詳細は、第1回目の授業で説明する。なお、評価のために実施した小レポートは、授業でフィードバックするので単位認定試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎回の講義終了後の小レポートの内容を通して、次回の講義導入時にポイントを説明する。						
履修条件・注意事項	<p>卒業必修科目 中高保健体育科教諭資格必修科目 （公財）日本スポーツ協会公認受験資格必修科目</p> <p>パワーポイントの資料は配布しないので、ノート・ルーズリーフ等は必ず持参すること。授業に対する取り組みについては、厳しく指導する。</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、中・高保健体育科教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、課す小レポートの内容及び授業内容を必ず毎回2時間程度、復習するとともに次回のテーマについて予習すること。						
オフィスアワー	個人研究室（9405）にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション・スポーツ社会学とは！？					高藤	
第2回	スポーツの概念					高藤	
第3回	文化としてのスポーツ					高藤	
第4回	地域社会におけるスポーツ					高藤	
第5回	スポーツと政治					高藤	
第6回	スポーツと経済					高藤	
第7回	スポーツ事故における法的責任					高藤	

第8回	スポーツと人権	高藤
第9回	企業とスポーツ	高藤
第10回	障がい者とスポーツ	高藤
第11回	障がい者サッカー	高藤
第12回	スポーツを取り巻く環境	高藤
第13回	スポーツと教育	高藤
第14回	スポーツと薬物	高藤
第15回	総括・最終レポート	高藤
第16回		

教科書

教・書籍名1	公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト 理論編	教・出版社名1	(公財)日本スポーツ協会
教・著者名1	(公財)日本スポーツ協会	教・ISBN1	214K1T 214K2T 214K3T 215JR
教・書籍名2	スポーツ社会学講義	教・出版社名2	大修館書店
教・著者名2	森川貞夫・佐伯聡夫 編	教・ISBN2	978-4-469-26140-0

参考書

参・書籍名1	使用しない(プリントを配布する)	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	健康社会学			担当者	吉岡 哲		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-302		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	健康の社会的意義を理解する。健康と社会の理想的なあり方について考える。社会と健康との関係性について理解することで、日常生活および将来にわたっての健康に対する考え方を学ぶことができる。						
授業概要	生活スタイルを含めた健康についての正しい知識、考え方について学ぶ。それらをふまえた上で、現代社会における健康や病気の社会的要因について把握する。特にみじかな健康問題に着眼点を置き講義を進めていく。また、健康に関わる制度政策についての認識も深める。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義姿勢10%、講義中の課題10%、定期試験80%とする。ただし、3分の2以上の出席のない者は、評価の対象外となる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 講義項目ごとに資料を配布する。資料は図表が主となるので、理解のためには講義への出席が重要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が2時間程度必要である。毎回の授業において配布したプリントの指定されたページを熟読してくる。						
オフィスアワー	非常勤講師のため、講義終了後に教室にて実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	導入					吉岡 哲	
第2回	健康と社会					吉岡 哲	
第3回	健康づくり施策					吉岡 哲	
第4回	生活習慣病の予防および早期発見					吉岡 哲	
第5回	介護保険と介護予防					吉岡 哲	
第6回	健康づくりのための運動基準および運動指針					吉岡 哲	
第7回	現代社会の生活と健康（1）労働					吉岡 哲	
第8回	現代社会の生活と健康（2）休養と心					吉岡 哲	
第9回	現代社会の生活と健康（3）ストレス					吉岡 哲	
第10回	現代社会の生活と健康（4）喫煙					吉岡 哲	
第11回	現代社会の生活と健康（5）飲酒					吉岡 哲	
第12回	現代社会の生活と健康（6）睡眠					吉岡 哲	
第13回	現代社会の生活と健康（7）食生活					吉岡 哲	
第14回	高齢社会と健康					吉岡 哲	
第15回	総括					吉岡 哲	
第16回	単位認定試験					吉岡 哲	
教科書							
教・書籍名1	使用しない（必要に応じプリントを配布する）					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	

参考書			
参・書籍名1	動く、食べる、休むScience—健康づくりの生理学	参・出版社名1	I&K corporation
参・著者名1	上田 伸男(著), 湊久美子(著), 吉武裕(著), 小宮秀明(著), 矢野博己(著)	参・ISBN1	
参・書籍名2	健康格差社会	参・出版社名2	医学書院
参・著者名2	近藤克則	参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ哲学 集中			担当者	高橋 徹		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-303		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう 						
到達目標	<p>本授業では、スポーツ哲学をベースにした講義を行う。特に、体育とスポーツの本質やありかたについて体系的に解説しながら、体育教師やスポーツ指導者として理解しておくべき体育やスポーツに対する基本的な考え方を紹介する。</p> <p>到達目標としては、体育・スポーツに関する概念や定義を把握し、自分自身の力で体育・スポーツの理想的なあり方を考えることができること。また、体育・スポーツについてのより良い指導を追求する意識を持つことができること。</p>						
授業概要	スポーツ哲学の様々な分野における知見を参照することで、スポーツ哲学専門領域の現状、課題および問題点を把握し、また、これらの内容についてディスカッションやレポートなどを実施することで、スポーツ哲学に固有の概念や研究方法に関する理解を深める。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	授業中に行うグループ討議への参加態度・授業内で作成する課題レポートの提出状況（50%）、授業で学んだ体育・スポーツに関する知識を基に課題に対して自分自身の考えを正確に記述できているか（50%）を評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業時の課題については問い合わせがあれば内容を開示する。また特に優れた内容については授業時に紹介する場合もある。						
履修条件・注意事項	集中講義のため、参加型の進め方を多くする。（保健体育教免選択必修科目）						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	復習として、配布資料の確認と、ファイリングを工夫すること。 独自で調べたことをまとめて、課題レポートを作成する。						
オフィスアワー	基本的には授業終了後に教室にて担当教員まで問い合わせること。						
授業計画						担当者	
第1回	1回：スポーツとは何か？ スポーツという言葉の語源、およびスポーツの定義についての説明					高橋徹	
第2回	2回：体育とは何か？ 体育という言葉の語源、体育の定義、体育の構成要素についての説明					高橋徹	
第3回	3回：体育における教材としてのスポーツ 体育という教科名称の変遷、学習指導要領の変遷					高橋徹	
第4回	4回：体育教師とスポーツ指導者 体育教師の専門性、運動部活動の指導者の特殊性についての説明					高橋徹	
第5回	5回：スポーツ指導の問題性① 体罰・暴力のメカニズム					高橋徹	
第6回	6回：スポーツ指導の問題性② スポーツ指導の正しい在り方について考える					高橋徹	
第7回	7回：体育について考える1～身体を教育するという考え方～					高橋徹	
第8回	8回：体育について考える2～身体文化を伝えるという考え方～					高橋徹	
第9回	9回：体育について考える3～運動を指導するという考え方～					高橋徹	

第10回	10回：スポーツに関わる諸問題1～スポーツのルールを考える～ スポーツにおけるルールの機能	高橋徹
第11回	11回：スポーツに関わる諸問題2～参加条件を定めるルール～ 性別二元性に関わるルール	高橋徹
第12回	12回：スポーツに関わる諸問題3～オリンピックと世界平和～	高橋徹
第13回	13回：スポーツに関わる諸問題4～スポーツにおける美しさを考える～	高橋徹
第14回	14回：スポーツに関わる諸問題5～スポーツと人間との良好な関係を考える～	高橋徹
第15回	15回：授業の総括	高橋徹
第16回	16回：学期末レポートの作成	高橋徹
教科書		
教・書籍名1	はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学	教・出版社名1 株式会社みらい
教・著者名1	高橋徹編著	教・ISBN1 9784860154318
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	スポーツ史 集中E			担当者	森田 啓之		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-304		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 12. つくる責任・つかう責任 / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>「体育・スポーツの歴史を理解する」をテーマとして、様々な体育・スポーツ事象の歴史（成り立ち）について考える中で、体育・スポーツの現在と今後を考察する視点を身につける。</p> <p>具体的には、スポーツはどのように生まれたのか、並びにこれからどのような方向に向かうべきなのかについて、自分の中に妥当な「観」を形成することを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>スポーツの象徴である「オリンピック」を取り上げ、古代から現代に至るまでどのような経過を辿ってきたのか、さらには近代に誕生した「近代スポーツ」の特徴について理解を深めるとともに、学校体育の歴史を振り返る中で、これからの体育やスポーツの進むべき方向性について、考察する。</p> <p>なお、互いの意見を冷静に交換できる能力を培う意味でも、授業はプレゼンテーションとグループ討議を中心に進める。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	この授業では、自分の中に妥当な「体育・スポーツ観」を形成することを到達目標としているため、最終的には「試験」（60％）においてその理解度や定着度をみる。と同時に、自ら調べまとめる能力を確認するための課題レポートとその発表（10％）、出席とグループ討議への積極的参加態度（30点）とを併せて、総合評価を行う。ただし、試験において6割の点数がなければ単位は認定しない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業で課した課題については、翌日の授業において適宜その内容を取り上げつつ、記述の適否についてもコメントする。また、試験については、最終評価後に希望するものに対してその評価内容・基準について説明を行う。						
履修条件・注意事項	集中講義のため、参加型の進め方を多くする。毎日の課題としてレポートを課し、翌日にその成果をプレゼンするので、試験に加えて、レポート提出は必須である。（保健体育教免選択必修科目）						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	復習として、配布資料の確認と、ファイリングを工夫すること。 独自で調べたことをまとめて、課題レポートを作成する。						
オフィスアワー	授業終了後、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	我々はなぜ歴史を学ぶのか？ -歴史を学ぶ意義-					森田 啓之	
第2回	スポーツと遊戯、体育の概念史					森田 啓之	
第3回	未開社会、古代社会のスポーツ					森田 啓之	
第4回	中世のスポーツ					森田 啓之	
第5回	近代スポーツの誕生					森田 啓之	
第6回	近代オリンピック					森田 啓之	
第7回	生涯スポーツの概念と普及					森田 啓之	
第8回	スポーツの個別史（1）イギリス発のスポーツ					森田 啓之	
第9回	スポーツの個別史（2）アメリカ発のスポーツ					森田 啓之	
第10回	スポーツの個別史（3）民族スポーツ					森田 啓之	
第11回	スポーツの個別史（4）ニュースポーツ					森田 啓之	
第12回	近代教育思想と体育					森田 啓之	

第13回	近代体育の誕生	森田 啓之
第14回	学校体育の理念の変遷	森田 啓之
第15回	日本における学校体育の変遷	森田 啓之
第16回	単位認定試験	森田 啓之
教科書		
教・書籍名1	テキストは指定しない。適宜、資料プリント(※下記参考書籍1より)を配布する。	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	「スポーツ史講義」	参・出版社名1 (大修館書店) 1995
参・著者名1	稲垣正浩他	参・ISBN1
参・書籍名2	「体育史講義」	参・出版社名2 (大修館書店) 1984
参・著者名2	岸野雄三	参・ISBN2

授業科目名	スポーツ実習Ⅰ（体操）			担当者	副島 斉子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-305		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	『現代社会における生活環境の変化、特に運動不足の蔓延』をテーマとし、心身のストレスの増加、テクノロジーの発達などによって、人間の心身及び知的機能が阻害されている状況にあると言える。特に、運動能力やそれを支える感覚能力の衰退は著しいと思われる、このことは我々人間の生涯に亘る影響を及ぼすものである。つまり身体性の阻害が広がった現状と言えよう。基本的運動の習得をはじめとし、各種の体操を実践することによって、人間の持つ運動機能引いては運動感覚を取り戻し、健康維持増進、人間関係の構築、運動能力の向上などの基礎を築けるようになることを到達目標とする。						
授業概要	我が国においては1990年代以降、子供たちの基本的身体能力に対する危機感が急速に高まり、文部科学省も学習指導要領の基本要素の一つに「体ほぐしの運動」を設けて、基本的身体能力の育成に重点を置いている。近代以後、人間の基本運動の習得には体操が用いられてきた。その体操は、今日非常に多様化している。本実習では、これら多様な体操の実践方法と指導方法を学び、自己の目的に役立てることができるようになるとともに、他者へ提供する運動プログラムの内容として活用できるようになる。 この授業の担当者は体操指導の実務経験を有する。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	実技に関する学習効果を実技試験によって評価する。加えて、逐次運動内容とそのプログラム作成に関するレポートを課して、その両者をそれぞれ50%ずつの比重で評価を行う。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した試験や課題の結果や内容は、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	実技中の怪我などの防止のため、時計や装身具類は身に着けないこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	スポーツクラブなどで、一般成人や児童・青年対象に体操教室で指導。				
事前学習・事後学習とその時間	各回の授業において、学修した内容を、自らの指導案として、授業後まとめておくこと。さらに次の授業時のねらいがしめされるので、あらかじめそれに応じた運動内容を各自で考えておくこと。 予習・復習はそれぞれ約2時間行うこと。						
オフィスアワー	火曜日4限、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					副島斉子	
第2回	基本的運動					副島斉子	
第3回	ストレッチング					副島斉子	
第4回	ストレッチングのプログラム					副島斉子	
第5回	調整力（コーディネーション）を高める体操					副島斉子	
第6回	運動遊び					副島斉子	
第7回	補強運動と体幹トレーニング					副島斉子	
第8回	矯正体操					副島斉子	
第9回	ピラティスとヨガエクササイズ					副島斉子	
第10回	全身持久力を高める体操					副島斉子	
第11回	体ほぐしの運動					副島斉子	
第12回	リズム体操					副島斉子	
第13回	エアロビック体操					副島斉子	

第14回	ゆる体操	副島斉子
第15回	正しいウォーキングのためのゆるウォーク	副島斉子
第16回	試験	副島斉子
教科書		
教・書籍名1		教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	スポーツ実習Ⅱ（器械運動）			担当者	梶谷 信之		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-306		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜3限 水曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	△	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 10. 人や国の不平等をなくそう / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	「器械運動を理解し、楽しく、安全に実施する」をテーマとし、器械運動の特徴でもある回転系、倒立系、跳躍系などの基本的な技を習得するとともに、器械運動の特性、危険性を理解し、安全かつ効率的な指導法を工夫しながら実践できることを到達目標とする。						
授業概要	(1)反復練習をすることにより、基本的な技を滑らかに安全に実施できる技術を習得するとともに、自分の意志で自分の体をコントロールする身体支配能力や、バランス・身のこなしなどによる危険回避能力を高める。 (2)プリント資料や講義により器械運動の特性や危険性を理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫しながら指導能力を身につけるようにする。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習						
評価方法と割合	テーマ「器械運動を理解し、楽しく、安全に実施する」の到達度について、器械運動についての知識と運動能力を図るためにレポート内容や実技練習での積極性等を総合的に評価する。 具体的には授業での積極的な練習態度（50%）、実技能力を判定する試験（30%）、知識習得を把握するための課題レポート（20%）を合計して総合評価するが、実習形態の授業であることから授業への参加態度を特に重視する。詳しい評価方法については初回の授業時に説明する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	知識習得を把握するための課題レポートについてのフィードバックは講義内にて実施する。						
履修条件・注意事項	(1)初回の授業は教室に集合して説明した後、体育館に移動し器具のセットや実技講習を行う。 (2)毎回の授業時は、教室で講義、体育館で実技を行うので、筆記用具を持参すること。 (3)実技の授業にはジャージ・体育館シューズ等の動きやすい服装で出席すること。 (4)水分補給のためのスポーツドリンクやお茶等を持参するとよい。 (5)出席確認を授業中に数回行い、居ない場合は欠席となるので授業中の退席時には連絡しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	各時限ごとに実技を実施するうえでのポイントや危険回避のための注意事項などをプリントで説明するため、各自でプリントの予習・復習をしておくこと。 尚、試験で行う実技は反復練習が必要となるため、レベルアップのためには授業前にプリント等を見直してポイントを確認しておくこととよい。						
オフィスアワー	授業前後、非常勤講師室・講義室・体育館にて対応する。						
授業計画						担当者	
第1回	器械運動の基礎トレーニングと技の発展過程						梶谷 信之
第2回	マット運動（接転系①）、跳び箱運動（切返し系①）の練習						梶谷 信之
第3回	マット運動（接転系②）、鉄棒運動（上がり技①）の練習						梶谷 信之
第4回	マット運動（接転系③）、跳び箱運動（切返し系②）の練習						梶谷 信之
第5回	マット運動（接転系④）、鉄棒運動（上がり技②）の練習						梶谷 信之
第6回	マット運動（ほん転系①）、跳び箱運動（回転系①）の練習						梶谷 信之
第7回	マット運動（ほん転系②）、鉄棒運動（中技①）の練習						梶谷 信之
第8回	マット運動（ほん転系③）、跳び箱運動（回転系②）の練習						梶谷 信之
第9回	マット運動（ほん転系④）、鉄棒運動（中技②）の練習						梶谷 信之
第10回	マット運動（ほん転系⑤）、跳び箱運動（回転系③）の練習						梶谷 信之

第11回	マット運動（巧技系①）、鉄棒運動（おり技①）の練習	梶谷 信之	
第12回	マット運動（巧技系②）、跳び箱運動（回転系④）の練習	梶谷 信之	
第13回	マット運動（巧技系③）、鉄棒運動（おり技②）の練習	梶谷 信之	
第14回	実技試験練習と採点の練習	梶谷 信之	
第15回	実技試験練習と採点	梶谷 信之	
第16回			
教科書			
教・書籍名1	適宜プリント等を配布する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	器械運動の授業	参・出版社名1	創文企画
参・著者名1	学校体育研究同志会	参・ISBN1	9784864130660
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ実習Ⅲ(屋外球技) Aクラス			担当者	高藤 順、羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年/ 2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-307		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜2限 月曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと 論理的な思考	◎	DP4. コミュニケー ション・表現力	◎
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 17. パート ナートシップで目標を達成しよう 						
到達目標	「ソフトボール」並びに「サッカー」の基本的な特性・規則を理解し、それぞれの競技に興味を持つことをテーマ に、基本技能の習得や戦術理解、ゲームを通じて、基本的なトレーニング方法が実践できること、さらに将来、そ れぞれの競技の指導方法を身につける。						
授業概要	本講義は、ソフトボール並びにサッカーの基本的な技能などの学習を行う。基本技術を学んだ後、実際のゲームで 用いられる戦術のうち、基本的なものを学習する。以上のような基礎的な事項を学習したのち、チームに分けて ゲームを行い、ゲームを通して技能や戦術を活かす方法を考えていく。 本講義の中では、各自の能力を高めるだけでなく、それぞれ練習方法を考え、チームやグループで実践すること を通じて、ソフトボールやサッカーを指導できる能力の向上も図る。						
アクティブラーニングの 内容	実習						
評価方法と割合	実技試験 (30%) 到達目標の達成度 (20%) 各回実習の振り返りワークシート (50%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	毎回の実習後、実習内容を振り返り次回の実習までに日誌を作成し日誌を通して添削指導する。						
履修条件・注意事項	「保健体育科教諭資格必修科目」である。保健体育の授業としてソフトボール並びにサッカーが取り上げられるこ とは非常に多いので教員免許状取得希望者は積極的に履修すること。本実習は、ソフトボールは高梁運動公園もし しくは硬式野球部雨天練習場、サッカーは檜井サッカー場もしくは順正学園体育館で行う。 集合時間は厳守すること。 スポーツのできる服装で授業に参加すること。ふさわしくない服装での参加は認めない。 けがを防ぐためにも集中して授業に臨むこと。授業態度については厳しく指導する。						
実務経験のある教員	該当する	内容	中・高保健体育科教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場におい て実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とそ の時間	事前に次回に行うテーマなどを発表するので、基本的な考え方はまとめておくこと。 また、各自で練習方法などを調べてまとめておくこと。授業の後は、学んだことをノートなどにまとめるだけで なく、学んだ技能の練習をしておくことが望ましい。						
オフィスアワー	個人研究室 (9405) にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション・受講における諸注意、競技規則					高藤、羽野	
第2回	ソフトボールの基本技術 キャッチボールとトスバッティング					高藤、羽野	
第3回	守備の基本技術 ゴロ処理・フライ捕球・送球					高藤、羽野	
第4回	打撃の基本技術 スイング軌道・ミート力向上					高藤、羽野	
第5回	攻撃のチーム戦術 フォーマーションプレー					高藤、羽野	
第6回	守備のチーム戦術 フォーマーションプレー					高藤、羽野	
第7回	ゲーム					高藤、羽野	
第8回	実技試験					高藤、羽野	
第9回	サッカーの基本技術					高藤、羽野	

第10回	攻撃の個人戦術		高藤、羽野
第11回	守備の個人戦術		高藤、羽野
第12回	攻撃のグループ戦術		高藤、羽野
第13回	守備のグループ戦術		高藤、羽野
第14回	攻守のチーム戦術（1）ゲーム		高藤、羽野
第15回	攻守のチーム戦術（2）ゲーム		高藤、羽野
第16回			
教科書			
教・書籍名1	わかりやすいソフトボールのルール	教・出版社名1	成美堂出版
教・著者名1	丸山克俊	教・ISBN1	9.78E+12
教・書籍名2	サッカー競技規則 2021/2022	教・出版社名2	(公財)日本サッカー協会
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ実習Ⅲ(屋外球技) Bクラス			担当者	高藤 順、羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年/ 2019～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-307		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜2限 月曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと 論理的な思考	◎	DP4. コミュニケー ション・表現力	◎
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 17. パート ナートシップで目標を達成しよう 						
到達目標	学生が、「ソフトボール」並びに「サッカー」の基本的な特性・規則を理解し、それぞれの競技に興味を持つこと をテーマに、基本技能の習得や戦術理解、ゲームを通じて、基本的なトレーニング方法が実践できること、さらに 将来、それぞれの競技の指導方法を身につける。						
授業概要	本講義は、ソフトボール並びにサッカーの基本的な技能などの学習を行う。基本技術を学んだ後、実際のゲームで 用いられる戦術のうち、基本的なものを学習する。以上のような基礎的な事項を学習したのち、チームに分けて ゲームを行い、ゲームを通して技能や戦術を活かす方法を考えていく。 本講義の中では、各自の能力を高めるだけでなく、それぞれ練習方法を考え、チームやグループで実践すること を通じて、ソフトボールやサッカーを指導できる能力の向上も図る。						
アクティブラーニングの 内容	実習						
評価方法と割合	実技試験 (30%) 到達目標の達成度 (20%) 各回実習の振り返りワークシート (50%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	毎回の実習後、実習内容を振り返り次回の実習までに日誌を作成し日誌を通して添削指導する。						
履修条件・注意事項	「保健体育科教諭資格必修科目」である。保健体育の授業としてソフトボール並びにサッカーが取り上げられるこ とは非常に多いので教員免許状取得希望者は積極的に履修すること。本実習は、ソフトボールは高梁運動公園もし しくは硬式野球部雨天練習場、サッカーは檜井サッカー場もしくは順正学園体育館で行う。 集合時間は厳守すること。 スポーツのできる服装で授業に参加すること。ふさわしくない服装での参加は認めない。 けがを防ぐためにも集中して授業に臨むこと。授業態度については厳しく指導する。						
実務経験のある教員	該当する	内容	中・高保健体育科教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場におい て実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とそ の時間	事前に次回に行うテーマなどを発表するので、基本的な考え方などはまとめておくこと。 また、各自で練習方法などを調べてまとめておくこと。授業の後は、学んだことをノートなどにまとめるだけで なく、学んだ技能の練習をしておくことが望ましい。						
オフィスアワー	個人研究室 (9405) にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション・受講における諸注意、競技規則					高藤、羽野	
第2回	ソフトボールの基本技術 キャッチボールとトスバッティング					高藤、羽野	
第3回	守備の基本技術 ゴロ処理・フライ捕球・送球					高藤、羽野	
第4回	打撃の基本技術 スイング軌道・ミート力向上					高藤、羽野	
第5回	攻撃のチーム戦術 フォーメーションプレー					高藤、羽野	
第6回	守備のチーム戦術 フォーメーションプレー					高藤、羽野	
第7回	ゲーム					高藤、羽野	
第8回	実技試験					高藤、羽野	
第9回	サッカーの基本技術					高藤、羽野	

第10回	攻撃の個人戦術		高藤、羽野
第11回	守備の個人戦術		高藤、羽野
第12回	攻撃のグループ戦術		高藤、羽野
第13回	守備のグループ戦術		高藤、羽野
第14回	攻守のチーム戦術（1）ゲーム		高藤、羽野
第15回	攻守のチーム戦術（2）ゲーム		高藤、羽野
第16回			
教科書			
教・書籍名1	わかりやすいソフトボールのルール	教・出版社名1	成美堂出版
教・著者名1	丸山克俊	教・ISBN1	9.78E+12
教・書籍名2	サッカー競技規則 2021/2022	教・出版社名2	(公財)日本サッカー協会
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ実習Ⅳ（陸上競技）			担当者	松下 健二		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-308		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	体育教師の専門的力量育成を目標とし、陸上競技の指導に関わる基礎的教育的事項について学習指導要領に示された単元の目標や内容を理解するとともに実技能力と実技指導能力を身に着ける。						
授業概要	陸上競技種目のうち走る種目として100m走、100mハードル走、跳躍種目として走り幅跳び、走り高跳び、投擲種目として砲丸投げの5種目についてその実技能力を高めるとともに実技指導能力も習得する。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、高等学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／実習						
評価方法と割合	受講態度（25％）＋レポート（25％）＋実技試験（50％）で総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	個人の陸上競技の記録向上に関する課題を与え、課題解決の方法を本人とグループで考えさせ、試行改善させる。その実施中にその都度機会を求めて指導助言する。						
履修条件・注意事項	陸上競技を行うにふさわしい服装と、屋外用、屋内用のシューズを用意すること。陸上競技に関する書籍を参考にして各種目の行い方の概要などを把握しておくこと。 中高保健体育科教諭資格必修科目						
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和46年4月～48年3月まで兵庫県立神戸工業高等学校にて保健体育科教員として勤務				
事前学習・事後学習とその時間	5種目のすべてについて陸上競技関係の書籍やVTRなどを参考にし、その行い方を把握するとともに毎授業後も自己研鑽に励むこと。						
オフィスアワー	授業後、現場にて。						
授業計画						担当者	
第1回	陸上競技についてのオリエンテーション						松下健二
第2回	100mの走り方（スタート～加速期間の走り方）						松下健二
第3回	100m走の中間疾走とフィニッシュのしかた。記録測定						松下健二
第4回	ハードル走の走り方（スタートから1台目） ハードルの飛越方法（クリアランスの方法）						松下健二
第5回	ハードル走の走り方（スタートから5台目まで） リズムカルな走り方 100mハードルの記録測定						松下健二
第6回	走り幅跳び ・助走距離の決定 ・踏切のしかた ・安全な着地のしかた						松下健二
第7回	走り幅跳び ・空中ホーム（そり跳び、はさみ跳び） ・記録測定						松下健二
第8回	走り高跳び ・助走の仕方 ・スタート位置の決定						松下健二

	・踏切の仕方	
第9回	走り高跳び ・クリアランスの方法（はさみ跳び・背面跳び）	松下健二
第10回	砲丸投げ ・砲丸の投げ方（立ち投げ・ステップ投げ） ・安全面での注意	松下健二
第11回	砲丸の投げ方 グライド投法・回転投法・バックステップ投法	松下健二
第12回	砲丸投げの記録測定	松下健二
第13回	記録測定 ①100m走 ②走り幅跳び	松下健二
第14回	記録測定 ハードル走 走り高跳び	松下健二
第15回	記録測定 砲丸投げ 各自で種目を選び再度記録測定	松下健二
第16回	記録測定とまとめ 各自で種目をきめ再度記録測定する	松下健二

教科書

教・書籍名1	中学・高校 陸上競技の学習指導「わかって・できる」指導の工夫	教・出版社名1	道和書院
教・著者名1	編著：小木曾一之・清水茂幸・串間敦郎・雅人雅人・小倉幸雄・田附俊一	教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	ぐんぐん強くなる 陸上競技	参・出版社名1	ベースボール・マガジン社
参・著者名1	尾懸貢	参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ実習Ⅴ（屋内球技）			担当者	山口 英峰、高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-309		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	高等学校までに習得した内容を復習するとともに、屋内球技の中でも特にバレーボールやバスケットボールなどの専門的な技術や知識を身につけ、実践できるようになる。学生は選手としての知識や技能だけではなく、指導者として運動学的な知見を考慮した指導方法を考え、実践できるようになる。						
授業概要	本授業では、安全に屋内球技を行うためのコート準備の方法及びルールの必要性をまず理解する。そして、基礎的な技術と指導方法を身につけたのち、より高度なチーム・プレイを学ぶ。選手としての目線からだけではなく、指導者としての指導方法についても実践から身につける。特に競技が苦手な対象者に対する指導方法について考案し、実践する。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	授業への取り組み姿勢(50%)、基本的な技術およびそれを応用出来る能力を評価するための講義内課題試験(50%)から評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、次回からの講義および講義内課題試験に活用すること。						
履修条件・注意事項	運動するのに相応しい格好で講義を受講すること。ピアス、ネックレスなどのアクセサリ類の着用は怪我の防止の観点から禁止する。また、安全かつ十分なパフォーマンスを発揮できるための体力の維持・向上はかかると、体調を整えて講義に望むこと。中・高保健体育教員免許資格取得のための必修科目であることから、教員免許状の取得を目指す学生は必ず履修すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習として、事前に参考書等により、バレーボールやバスケットボールなど屋内球技の技術やその練習・指導方法等についての知識を身につける必要がある。復習として、指導者として最低限の技術を身につけることができるよう技術向上のための練習をする必要がある。						
オフィスアワー	9号館2階のフィットネスラボにおいて、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	ルールの理解と安全に配慮したバレーボール環境					山口英峰	
第2回	バレーボールにおける基本パス技術					山口英峰	
第3回	サーブとサーブ・レシーブの基本					山口英峰	
第4回	スパイクとブロックの基本					山口英峰	
第5回	パス・ゲームによる動きの理解					山口英峰	
第6回	バレーボールにおけるフォーメーション・プレイとその役割					山口英峰	
第7回	バレーボールに関する知識（審判方法、ゲーム進行など）					山口英峰	
第8回	ゲーム1（基礎を中心に）					山口英峰	
第9回	ゲーム2（応用）					山口英峰	
第10回	バスケットボールにおける基本的技術（ドリブル・パス・シュート）					高原皓全	
第11回	バスケットボールのゲームにおける動きの理解					高原皓全	
第12回	バスケットボールにおけるフォーメーション・プレイとその役割					高原皓全	
第13回	バスケットボールに関する知識（審判方法、ゲーム進行など）					高原皓全	
第14回	ゲーム1（基礎）					高原皓全	
第15回	ゲーム2（応用）					高原皓全	
第16回							

教科書			
教・書籍名1	適宜指示する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	バスケットボール指導教本	参・出版社名1	大修館書店
参・著者名1	公益財団法人日本バスケットボール協会	参・ISBN1	9.78E+12
参・書籍名2	バレーボール指導教本	参・出版社名2	大修館書店
参・著者名2	日本バレーボール協会	参・ISBN2	9.78E+12

授業科目名	スポーツ実習VI (格技) (春学期) Aクラス			担当者	城山 訓郎		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-310		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜4限 水曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	竹刀・木刀を用いての心身鍛錬を通じ、お互いの人格を尊重する。 終始礼法を守り、基本動作を重視し、心技体を一体として修練する。 指導者としての理論と実勢を修得する。						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・日本古来の尚武の精神に由来し、術から道に発展した伝統文化である剣道の特性を理解し、剣道が人格の完成を目的とした運動文化であることを理解すると共に、伝統的所作の理解から剣道のもつ特性、技術を授業時間ごとに系統的に展開する。 ・対人競技としての特質を経験させる。 なお、本実習は学校における剣道の指導及び地域における剣道の指導の実務経験者による実習である。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み姿勢 (30点) ・剣道の教育的特性・文化的特性に関するレポート (30点) ・実技試験 (40点) 						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、実技試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	学修場所 (道場) は心身鍛錬の場であり、規律礼儀作法を守ること (具体的な作法は講義内で指示する)。 剣道防具の確実な着装、また講義前に竹刀の破損点検をすること。 保健体育教員免許取得に関する選択科目であることを意識すること。 実技科目であるから、体調管理に留意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前に配布した資料など通読して、予習しておくこと。また、当日配布した資料をノートをまとめ、復習しておくこと。なお、予習復習についてはそれぞれ2時間程度行うこと。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	授業の概要 剣道史の概要					城山訓郎	
第2回	礼法 (対人的敵対関係における「礼」の意味と「座法」、「立法」の方法)					城山訓郎	
第3回	基本動作 (構え)、(足捌き)、(竹刀・木刀の扱い方)					城山訓郎	
第4回	基本動作 (素振り・打突の仕方)					城山訓郎	
第5回	基本動作 (踏み込み足・打突への導入)					城山訓郎	
第6回	踏み込み打突 (正面打ち・小手打ち・二段打ち)					城山訓郎	
第7回	打突技術構造 (竹刀・木刀による基本形) (1) 基本技術					城山訓郎	
第8回	打突技術構造 (竹刀・木刀による基本形) (2) 応用技術					城山訓郎	
第9回	剣道具の装着法					城山訓郎	
第10回	有効打突 (一本) の理解					城山訓郎	
第11回	対人的技能 (しかける技)					城山訓郎	
第12回	対人的技能 (応じ技)					城山訓郎	
第13回	対人的技能 (つばぜり合いからの技・つばぜり合いからの応じ技)					城山訓郎	
第14回	競技規則 (試合・審判を体験する)					城山訓郎	
第15回	実技試験					城山訓郎	

第16回			
教科書			
教・書籍名1	講義内で配布する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ実習VI (格技) (春学期) Bクラス			担当者	城山 訓郎		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-310		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜4限 水曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	△
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	竹刀・木刀を用いての心身鍛錬を通じ、お互いの人格を尊重する。 終始礼法を守り、基本動作を重視し、心技体を一体として修練する。 指導者としての理論と実勢を修得する。						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・日本古来の尚武の精神に由来し、術から道に発展した伝統文化である剣道の特性を理解し、剣道が人格の完成を目的とした運動文化であることを理解すると共に、伝統的所作の理解から剣道のもつ特性、技術を授業時間ごとに系統的に展開する。 ・対人競技としての特質を経験させる。 なお、本実習は学校における剣道の指導及び地域における剣道の指導の実務経験者による実習である。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み姿勢 (30点) ・剣道の教育的特性・文化的特性に関するレポート (30点) ・実技試験 (40点) 						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、実技試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	学修場所 (道場) は心身鍛錬の場であり、規律礼儀作法を守ること (具体的な作法は講義内で指示する)。 剣道防具の確実な着装、また講義前に竹刀の破損点検をすること。 保健体育教員免許取得に関する選択科目であることを意識すること。 実技科目であるから、体調管理に留意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前に配布した資料など通読して、予習しておくこと。また、当日配布した資料をノートをまとめ、復習しておくこと。なお、予習復習についてはそれぞれ2時間程度行うこと。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	授業の概要 剣道史の概要					城山訓郎	
第2回	礼法 (対人的敵対関係における「礼」の意味と「座法」、「立法」の方法)					城山訓郎	
第3回	基本動作 (構え)、(足捌き)、(竹刀・木刀の扱い方)					城山訓郎	
第4回	基本動作 (素振り・打突の仕方)					城山訓郎	
第5回	基本動作 (踏み込み足・打突への導入)					城山訓郎	
第6回	踏み込み打突 (正面打ち・小手打ち・二段打ち)					城山訓郎	
第7回	打突技術構造 (竹刀・木刀による基本形) (1) 基本技術					城山訓郎	
第8回	打突技術構造 (竹刀・木刀による基本形) (2) 応用技術					城山訓郎	
第9回	剣道具の装着法					城山訓郎	
第10回	有効打突 (一本) の理解					城山訓郎	
第11回	対人的技能 (しかける技)					城山訓郎	
第12回	対人的技能 (応じ技)					城山訓郎	
第13回	対人的技能 (つばぜり合いからの技・つばぜり合いからの応じ技)					城山訓郎	
第14回	競技規則 (試合・審判を体験する)					城山訓郎	
第15回	実技試験					城山訓郎	

第16回			
教科書			
教・書籍名1	講義内で配布する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ実習VI (格技) (秋学期) Cクラス			担当者	城山 訓郎		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-310		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	△
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	竹刀・木刀を用いての心身鍛錬を通じ、お互いの人格を尊重する。 終始礼法を守り、基本動作を重視し、心技体を一体として修練する。 指導者としての理論と実勢を修得する。						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・日本古来の尚武の精神に由来し、術から道に発展した伝統文化である剣道の特性を理解し、剣道が人格の完成を目的とした運動文化であることを理解すると共に、伝統的所作の理解から剣道のもつ特性、技術を授業時間ごとに系統的に展開する。 ・対人競技としての特質を経験させる。 なお、本実習は学校における剣道の指導及び地域における剣道の指導の実務経験者による実習である。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み姿勢 (30点) ・剣道の教育的特性・文化的特性に関するレポート (30点) ・実技試験 (40点) 						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、実技試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	学修場所 (道場) は心身鍛錬の場であり、規律礼儀作法を守ること (具体的な作法は講義内で指示する)。 剣道防具の確実な着装、また講義前に竹刀の破損点検をすること。 保健体育教員免許取得に関する選択科目であることを意識すること。 実技科目であるから、体調管理に留意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前に配布した資料など通読して、予習してくる。また、当日配布した資料をノートをまとめ、復習しておくこと。なお、予習復習についてはそれぞれ2時間程度行うこと。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	授業の概要 剣道史の概要					城山訓郎	
第2回	礼法 (対人的敵対関係における「礼」の意味と「座法」、「立法」の方法)					城山訓郎	
第3回	基本動作 (構え)、(足捌き)、(竹刀・木刀の扱い方)					城山訓郎	
第4回	基本動作 (素振り・打突の仕方)					城山訓郎	
第5回	基本動作 (踏み込み足・打突への導入)					城山訓郎	
第6回	踏み込み打突 (正面打ち・小手打ち・二段打ち)					城山訓郎	
第7回	打突技術構造 (竹刀・木刀による基本形) (1) 基本技術					城山訓郎	
第8回	打突技術構造 (竹刀・木刀による基本形) (2) 応用技術					城山訓郎	
第9回	剣道具の装着法					城山訓郎	
第10回	有効打突 (一本) の理解					城山訓郎	
第11回	対人的技能 (しかける技)					城山訓郎	
第12回	対人的技能 (応じ技)					城山訓郎	
第13回	対人的技能 (つばぜり合いからの技・つばぜり合いからの応じ技)					城山訓郎	
第14回	競技規則 (試合・審判を体験する)					城山訓郎	
第15回	実技試験					城山訓郎	

第16回			
教科書			
教・書籍名1	講義内で配布する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ実習Ⅶ（ダンス）			担当者	副島 斉子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-311		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	『身体を用いたノンバーバルな表現運動でありコミュニケーションでもある舞踊（ダンス）』をテーマとし、有史以来人類が育み伝承してきた身体運動文化である。体育領域においても、舞踊＝ダンスは主たる種目として位置づけられてきた。今日、人間の身体性に根ざした身体運動として、創造性の追及、自己の開示、表現、感性の涵養、他者との交流、リズム教育、自己の探求、健康づくり、等々様々な意味合い、需要、目的で、ダンスが行われている。 特に、ダンスは現代社会において、次々と新たな様式・内容が生み出されている。これらの多様化してきたダンスを取り出して実技を学習し、基本運動を基にした動きの組み合わせを実施でき、さらに基本的なコレオグラフィーを創造できるようになることを到達目標とする。						
授業概要	基本運動を音楽のビート（拍）、フレーズ、曲調などに合わせて実施できるようになる。音楽に合わせた動きの組み合わせの遂行を学習し、そのうえで基本運動を用いて、一連の動作の組み合わせを創造する方法を学習する。その際、時間的要素と空間的要素を理解して、構成されたコレオグラフィーを発展させることを学習する。加えて、集団でのパフォーマンスの遂行を学習し、集団での演技の楽しさを経験する。これらを通して、表現運動としてのダンスの特性を学ぶ。さらに、現代的なダンスであるエアロビックやヒップホップについて、体験を積む。 この授業の担当者はダンス指導の実務経験を有する。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	実技に関する学習効果を実技試験によって評価する。加えて、逐次運動内容とそのプログラム作成に関するレポートを課して、その両者をそれぞれ50％ずつの比重で評価を行う。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	実技中の怪我などの防止のため、時計や装身具類は身に着けないこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	健康増進施設やフィットネスクラブなどで指導。表現スポーツの選手を指導。				
事前学習・事後学習とその時間	各回の授業において、学修した内容を、自らの指導案として、授業後まとめておくこと。さらに次の授業時のねらいがしめされるので、あらかじめそれに応じた運動内容を各自で考えておくこと。 予習・復習はそれぞれ約2時間行うこと。						
オフィスアワー	火曜日4限、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					副島斉子	
第2回	音楽のビート（拍）に合わせた基本運動					副島斉子	
第3回	音楽のフレーズに合わせた基本運動					副島斉子	
第4回	曲調に合わせた基本運動					副島斉子	
第5回	音楽と動きの時系列的要素					副島斉子	
第6回	動きの組み合わせの遂行					副島斉子	
第7回	空間系列的要素					副島斉子	
第8回	動きの応用変化					副島斉子	
第9回	動きの発展					副島斉子	
第10回	コレオグラフィー作成の基本					副島斉子	
第11回	コレオグラフィー作成の実際					副島斉子	

第12回	表現運動としてのダンス		副島斉子
第13回	現代的ダンス：エアロビック		副島斉子
第14回	オンビートとアフタービート		副島斉子
第15回	現代的ダンス：ヒップホップ		副島斉子
第16回	試験		副島斉子
教科書			
教・書籍名1	みんなでトライ！表現運動の授業	教・出版社名1	全国ダンス表現運動授業研究会
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	運動学			担当者	松下 健二		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-312		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	<p>「運動分析から運動指導」と「基礎的技術のメカニズムの理解とその習得」をテーマとして、講義と演習を通じて、運動学（運動方法学）の基礎的知識の習得と自己の運動技能を向上させる方法を習得するとともに、それぞれの運動についての知識レベルを都道府県教員採用試験に出題される問題に対応できるレベルにすることを到達目標とする。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、高等学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。</p>						
授業概要	様々なスポーツ活動を構成する基本的身体運動の代表なものについて、その基本的動きのメカニズムを解説理解するとともに、主なスポーツの運動及び技術体系について整理し、運動及び技術の発生から多様化、高度化に至るまでの進化の過程について学ぶ。また、運動学の歴史的発展についても触れ、運動学の発展について学習する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習						
評価方法と割合	受講態度（25%）＋レポート（25%）＋試験（50%）で総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題を解決した方法などについて発表し、ディスカッションを行なわせ解説する。終講テストはテスト後自己採点を行なわせ、誤りを訂正させる。						
履修条件・注意事項	<p>配布した資料及び紹介した書籍などから次の授業の要点について予習を行い授業での問題提起や討論に対して積極的に参加できるようにする。また、レポートの提出状況が受験資格となる。よって授業後授業の内容をノートにまとめておく事が望ましい。</p> <p>中高保健体育科教諭資格必修科目 （公財）日本スポーツ協会公認スポーツリーダー、ジュニアスポーツ指導員受験資格必修科目</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和46年4月～48年3月まで兵庫県立神戸工業高等学校にて保健体育教員として勤務				
事前学習・事後学習とその時間	予習として筋肉の機能と構造について解剖学の書籍を参考にして知識を得ておくこと。復習として指示に従ってノートを作成し、身体操作の観点から理解を深めること。予習・復習とも2時間ほど行うこと。						
オフィスアワー	授業終了後、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	運動学とは（運動学の領域）					松下健二	
第2回	運動と解剖学					松下健二	
第3回	運動力学					松下健二	
第4回	運動と生理学					松下健二	
第5回	運動と心理学					松下健二	
第6回	運動の分析から運動指導へ					松下健二	
第7回	基本技術のメカニズム（走る・跳ぶ）					松下健二	
第8回	基本的技術のメカニズム（蹴る）					松下健二	
第9回	基本的技術のメカニズム（投げる・捕る）					松下健二	
第10回	基本的技術のメカニズム（打つ）					松下健二	
第11回	年齢に応じた技術の獲得過程 I					松下健二	

第12回	年齢に応じた技術の獲得過程Ⅱ	松下健二
第13回	運動の身体への影響（生理）	松下健二
第14回	運動の身体への影響Ⅱ（心理）	松下健二
第15回	まとめ	松下健二
第16回	単位認定試験	松下健二
教科書		
教・書籍名1		教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	身体運動学概論	参・出版社名1
参・著者名1	編著：浅見俊雄・石井喜八・宮下充正・浅見高明・小林寛道	参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	運動方法学			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-313		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	『スポーツ指導者』をテーマとして、スポーツ全般を対象にして、その指導の方法論の原則について学習する。指導はあくまで指導の対象となる者、つまり選手や生徒が主体である。そして、指導は指導者とその指導対象者との関係性において、展開されるものである。そこには当然のこととして、指導対象者の基本的な条件、年齢、性別、目的、レベル等々が、存在する。また、環境との関係性も働きかけてくる。指導は生理学的原則などに立脚しつつ、教育学的及び心理学的理論、さらに今日では認知科学的及び脳科学的研究成果などを踏まえて行われる。学生はトップアスリート育成の方法論も講じながら、学校教育現場における体育授業での指導方法論、競技力向上を目的とした指導方法論、生涯スポーツ的な指導方法論などが理解できるようになることを到達目標と到達目標とす						
授業概要	運動方法学は昨今コーチングとの関係性を強めている。これは偏に、指導対象者の主体性を重視し、その人の意思や志向性を指導の立脚点としようという試みである。各人の自己イメージや有能感を指導の中心的なテーマとして、指導者は対象者を見ることの大切さがそこにはある。これは学校教育における課題とも合致し、またトップアスリート育成での基本的な立場でもある。本講義では、こうした視点について、実例を多く示しながら理解していく。そのうえで、技能獲得の具体的な手立て、集団の形成と集団を生かした運動指導、などについて論じていく。この授業の担当者は、スポーツ指導・コーチングの実務経験を持つ。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業時に課すレポート課題で30%、最終試験で70%の比率で評価を行う。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	(公財)日本スポーツ協会スポーツ指導員資格取得必修科目である。指導者としてしっかりとした知識をもとに指導できることを目的としているため、授業の復習や課題を十分に行うことを条件とする。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業時において、次回の授業内容に応じて、各自のスポーツ経験に基づく問題を見出す指示を行う。これによって、各自経験の見直しや情報収集を行う。授業後は、授業内容を受けて、望ましい在り方について考察し、時にレポートとして提出する。予習1コマ・復習1コマを行う。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					竹内研	
第2回	従来の運動指導の問題点					竹内研	
第3回	コーチングとは					竹内研	
第4回	運動指導者としての資質					竹内研	
第5回	運動指導の目的・ねらい					竹内研	
第6回	スポーツのパフォーマンスとは					竹内研	
第7回	上達論					竹内研	
第8回	技術指導の心理学的原則					竹内研	
第9回	トレーニングとプラクティス					竹内研	
第10回	集団の構造					竹内研	
第11回	集団の機能					竹内研	
第12回	体育授業での運動指導					竹内研	

第13回	教育目標と運動指導		竹内研
第14回	社会スポーツにおける運動指導		竹内研
第15回	セルフエフィカシー向上のための方法		竹内研
第16回	試験		竹内研
教科書			
教・書籍名1	スポーツ・コーチング学	教・出版社名1	西村書店
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	学校保健			担当者	城山 訓郎		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-314		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	△	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：学校保健の歴史をふまえ、学校保健の意義・目的や教育システムにおける位置づけを理解する。 到達目標：学校教育期の健康問題とその解決方法、学校保健活動方法、児童・生徒教職員の健康管理のあり方等について説明できるようになる。						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健の領域・学校保健計画・保健組織活動について理解する。 ・子どもの発育・発達及び健康課題とその対応について理解する。 ・保健教育について理解する。 なお、本講義は保健体育科教員としての実務経験がある教員が学校現場における実際等を踏まえて講義を行う。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	定期試験とレポートおよび授業態度にて評価する。定期試験を50%とし、レポートの記述内容30%、授業での積極的発言など授業態度を20%とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、授業内でフィードバックすることから、次回からの授業および実技試験に活用すること。						
履修条件・注意事項	準備学習を徹底すること。配布資料をファイルに保管し、毎回の講義に持参すること。提出したレポートは、コメントを付して翌週に返却をするので、見直しておくこと。また、学校現場を理解するという意欲をもって、主体的に授業に取り組むこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能のように、テキストの指定されたページをまとめるなど予習しておくこと。また、配布した資料や、講義内容を踏まえて学期末の定期試験を出題するので、授業終了後にノートをまとめ、復習しておくこと。なお、予習復習についてはそれぞれ2時間程度行うこと。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	学校保健の概要（健康の定義・保健の意義・目的）					城山訓郎	
第2回	児童生徒の発達と健康（身体・体力・運動能力・心の発育・発達）					城山訓郎	
第3回	保健学習（保健教育）					城山訓郎	
第4回	保健指導（性教育）					城山訓郎	
第5回	学校における保健管理の意義（健康相談）					城山訓郎	
第6回	健康診断（健康診断の歴史と変遷）					城山訓郎	
第7回	健康障害の管理（感染症とその予防）					城山訓郎	
第8回	子どもに多い病気と健康障害					城山訓郎	
第9回	学校精神保健（児童生徒の心の危険サイン）					城山訓郎	
第10回	障害児の健康（特別支援教育の動き）					城山訓郎	
第11回	学校保健活動（保健室の役割・救急処置）					城山訓郎	
第12回	学校保健関係（職務内容）					城山訓郎	
第13回	学校安全・危機管理（子どもを取り巻く危険の実態）					城山訓郎	
第14回	学校保健安全法・関係法について					城山訓郎	
第15回	春学期を通してのまとめ					城山訓郎	
第16回	試験						
教科書							

教・書籍名1	新版 学習保健	教・出版社名1	大学教育出版
教・著者名1	門田 新一郎、大津 一義	教・I S B N 1	978-4-88730-975-3
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・I S B N 1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	衛生・公衆衛生			担当者	中瀬 克己		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-315		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	△
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	△	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう / 3. すべての人に健康と福祉を / 10. 人や国の不平等をなくそう / 11. 住み続けられるまちづくりを / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>テーマは公衆衛生である。公衆衛生活動の目的は その国や地域の優先する健康問題に社会資源を配分したり、健康格差を減らしたりする事により、効率的に社会の健康課題に取り組むことである。個人よりは集団を対象とし、個々の病気の治療よりもその病気を起こりやすくしている環境や制度に注目する。現状や介入効果の評価を疫学や統計資料によって行い、学問的に精緻化されている。</p> <p>到達目標は公衆衛生の視点が身に付くことである。</p>						
授業概要	<p>公衆衛生活動では 疾病予防、寿命延長及び精神的・身体的・社会的な健康の保持増進など、その目的のための様々な社会制度・社会的取り組みや技術がある。この科目では 公衆衛生の総論的、基礎的な考えかたを種々の例を用いて学習する。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	期末の試験（50％）と授業への取り組み姿勢及び提出物の内容（50％）で評価する。授業時にアンケートや練習問題を行い、その内容を評価に反映させる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業時にアンケートや練習問題を行い、必要時に講義内容に加えてフィードバックを行うとともに次回以降の講義内容、進捗等に反映させる。						
履修条件・注意事項	<p>期末試験では、配布資料、自作のまとめ（自作に限る、他人のコピーは不可）は持ち込み可とする。再試はしない。</p> <p>「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、自治体の公衆衛生部門において実務経験のある教員が担当し、現状や課題とその解決に必要なとされる知識や能力を含めて講義をすることによって、学生の理解を実際的なものとし又深める。				
事前学習・事後学習とその時間	「記憶」より「理解」が自らの考えを形作るためには重要である。「なぜそうなのか」といった疑問を持って授業に臨むと理解が深まる。一方、授業内容の背景理解や整理のためには参考資料などで補う必要がある。参考図書を紹介している。						
オフィスアワー	6号館4 6424研究室にて 毎週水曜2限 教授会がある日を除く または木曜 限を オフィスアワーとする。						
授業計画						担当者	
第1回	社会と健康					中瀬克己	
第2回	食のイメージマッピング					中瀬克己	
第3回	公衆衛生を担う機関					中瀬克己	
第4回	行動経済学					中瀬克己	
第5回	ソーシャルキャピタルとヘルスプロモーション					中瀬克己	
第6回	環境保健					中瀬克己	
第7回	医療政策					中瀬克己	
第8回	産業保健					中瀬克己	
第9回	ストレスチェック					中瀬克己	
第10回	口腔保健					中瀬克己	
第11回	災害保健					中瀬克己	
第12回	身近な感染症と耐性菌					中瀬克己	

第13回	食品安全と食中毒	中瀬克己	
第14回	感染症危機管理	中瀬克己	
第15回	疫学	中瀬克己	
第16回	筆記試験	中瀬克己	
教科書			
教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	公衆衛生がみえる2022-2023	参・出版社名1	メディックメディア
参・著者名1	医療情報科学研究所 編	参・ISBN1	4896328582、978-4896328585
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	幼児体育			担当者	副島 斉子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-316		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	スポーツライセンスのうち(公財)日本スポーツ協会ジュニアスポーツ指導員受験資格取得のために必要なカリキュラムを実施する。今日、幼少期においても運動不足、コミュニケーション不足が危惧されているため、『幼少期の運動活動』をテーマとし、スポーツの果たす役割が大きいことから政府はいろいろなスポーツ振興策を進めている。また、この時期は感覚器官及び脳神経系の発達が著しいため、生涯にわたる健康の獲得とスポーツ実践の基礎はこの時期の良い運動習慣により培われる。優れた運動感覚の習得は諸スポーツ活動にスムーズに入るための基礎であり、また、生涯を健康に生活していくための基礎でもある。しかし、幼少期の身体発達は骨格系・筋肉系・内臓系ともに未成熟であるため、この時期の運動感覚の習得は成人のトレーニングスタイルであってはならず、いかに遊びの中で、楽しく身につけるかが重要となる。本実習では幼少期において獲得されるべき基本的運動感覚についての基礎知識の習得と、それらを幼児および児童に楽しく実践させるための指導法について系統的に理解・実践できるようになることを到達目標とする。						
授業概要	幼少期の心身の発達及び運動発達について系統的に理解していく。「遊び」「幼少期の身体」「発育と発達」「感覚」「コミュニケーション」「スポーツ」等、専門用語の基本概念を理解したうえで、各発達段階における心身の機能の特徴を学習する。また、現在求められているコミュニケーション能力の獲得、対人関係の改善等の問題や体力・運動能力の低下の問題等幼少期の課題を理解し、支援するための運動のあり方を考えていく。これらの基礎理論の上になたって、実践的に運動を展開するための運動遊びやゲーム等の教材研究、指導方法を学ぶ。この授業の担当者は、幼児期の運動指導の実務経験を有する。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク/プレゼンテーション/実習						
評価方法と割合	最終試験50%、レポート等提出物50% 評価のためのレポートは授業時にフィードバックする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した試験や課題の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	講義の性格上、体調管理、安全な服装で臨むこと						
実務経験のある教員	該当する	内容	幼児期・児童期の子供の運動教室で運動指導。				
事前学習・事後学習とその時間	各回の授業において、学修した内容を、自らの指導案として、授業後まとめておくこと。さらに次の授業時のねらいがしめされるので、あらかじめそれに応じた運動内容を各自で考えておくこと。 予習・復習はそれぞれ約2時間行うこと。						
オフィスアワー	火曜日4限、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	子どもとのコミュニケーションスキル1：子どもの発達とコミュニケーションスキル					副島斉子	
第2回	子どもとのコミュニケーションスキル2：子どもの発達とコミュニケーションスキル					副島斉子	
第3回	子どもとのコミュニケーションスキル3：子どもの発達とコミュニケーションスキル					副島斉子	
第4回	幼児期・児童期における基本的運動感覚の習得1－移動系：動きの発達とスキルの獲得					副島斉子	
第5回	幼児期・児童期における基本的運動感覚の習得1－平衡系：動きの発達とスキルの獲得					副島斉子	
第6回	幼児期・児童期における基本的運動感覚の習得1－操作系：動きの発達とスキルの獲得					副島斉子	
第7回	幼児期・児童期における基本的運動感覚の習得2：動きの発達とスキルの獲得,コーディネーションの養成					副島斉子	
第8回	児期・児童期における運動遊びとゲーム1－ごっこあそび：運動遊び・ゲームの実際					副島斉子	
第9回	児期・児童期における運動遊びとゲーム2－ゲーム：運動遊び・ゲームの実際					副島斉子	

第10回	児期・児童期における運動遊びとゲーム3－運動遊び：運動遊び・ゲームの実際	副島斉子
第11回	児期・児童期における運動遊びとゲーム4－スポーツ：運動遊び・ゲームの実際	副島斉子
第12回	児期・児童期における運動遊びとゲーム5－親子遊び：運動遊び・ゲームの実際	副島斉子
第13回	児期・児童期における運動遊びとゲーム6－1人遊び：運動遊び・ゲームの実際	副島斉子
第14回	児期・児童期における運動遊びとゲーム7－グループでの遊び：運動遊び・ゲームの実際	副島斉子
第15回	幼児期・児童期の指導の留意点	副島斉子
第16回	試験	副島斉子

教科書		
-----	--	--

教・書籍名1	幼少年期の体育	教・出版社名1	大修館書店
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書		
-----	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	解剖学			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-317		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	人体解剖学を科学的に理解することをテーマとし、人体を分子細胞のレベルから個体のレベルまで理解し、あわせて専門用語も身に付けることによって専門科目を容易に学ぶことできる。 人体の構造と機能を理解し、各専門科目を学ぶための基礎能力を身に付けることを目標とする。						
授業概要	人体は一個の受精卵から出発し、発生分化を経て複雑な構造体を形成している。解剖学はその人体の構造と各器官の形態及び機能を分子細胞のレベルから個体のレベルまで一体として理解し、合せて各専門科目を学ぶための基礎とする。講義内容、(1) 人体の概要 (2) 人体の構造と区分 (3) 人体の支持と機能 (骨格系) (4) 人体の支持と機能 (筋系) (5) 人体の支持と機能 (関節) (6) 神経系の機能 (末梢神経系) (7) 神経系の機能 (自律神経系) (8) 循環器系 (9) 呼吸器系 (10) 消化器系 (11) 泌尿器系 (12) 内分泌系 (13) 中枢神経系 (上位中枢) (14) 中枢神経系 (下位中枢) (15) 感覚器						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	受講態度20%、単位認定試験80%による総合評価を行う。単位認定試験は採点后各自個別指導を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	複数回に分けて、学習理解度確認のための課題や小テストをユニバーサルサポートを用いて実施する。実施した課題および小テストで得られた回答の一部は、必要に応じて講義内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	常に予習・復習を行い、予習で起きた疑問点は授業と復習によって解決するように心がけること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習として授業計画に記載されている部分について事前に参考書等を約2時間読みままとめておくこと。復習として毎回の授業を自分でまとめ必要なところは繰り返し約2時間読んで暗記すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室 (9402研究室) において、毎週月曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	人体の概要					高原皓全	
第2回	人体の構造と区分					高原皓全	
第3回	人体の支持と機能 (骨格系)					高原皓全	
第4回	人体の支持と機能 (筋系)					高原皓全	
第5回	人体の支持と機能 (関節)					高原皓全	
第6回	神経系の機能 (末梢神経系)					高原皓全	
第7回	神経系の機能 (中枢神経系)					高原皓全	
第8回	循環器系					高原皓全	
第9回	呼吸器系					高原皓全	
第10回	消化器系					高原皓全	
第11回	泌尿器系					高原皓全	
第12回	内分泌系					高原皓全	
第13回	中枢神経系 (上位中枢)					高原皓全	
第14回	中枢神経系 (下位中枢)					高原皓全	
第15回	感覚器					高原皓全	
第16回	単位認定試験					高原皓全	
教科書							
教・書籍名1	授業毎に資料を配布する					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	

教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	図解解剖学辞典	参・出版社名1	医学書院
参・著者名1	山田英智	参・ISBN1	
参・書籍名2	入門人体解剖学	参・出版社名2	南江堂
参・著者名2	藤田恒夫	参・ISBN2	

授業科目名	生理学			担当者	椎葉 大輔		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護 1年 / 2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ 社1年			ナンバリング	SS-SM-1-318		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考	○	DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	健康科学の根幹である生理学から人体の生きている仕組みを学ぶ。そして生体の在り方が多くのバランスの上に成り立つことを理解する。						
授業概要	生理学は身体の各臓器の機能を知るとともに、身体全体としての統合的な調整と適応の機序を明らかにする学問である。各機能間の関連を考慮しながら、筋、循環、呼吸、消化、代謝、排泄、内分泌などの植物性機能の概要を講義する。また、健康科学や臨床医学とのかかわりを解説し、それらの基礎とすることを旨とする。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義姿勢（10%）、課題（10%）および定期試験（80%）の成績で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	教科書に目を通し、解剖学の基礎的な知識を持っておくこと。さらに、講義に出題される課題に取り組むこと。毎回の授業前後において、講義資料を熟読し、予習復習すること。						
オフィスアワー	非常勤なので授業終了後、教室にて質問に対応しますので声をかけてください。						
授業計画						担当者	
第1回	生体機能とホメオスタシス					椎葉 大輔	
第2回	骨格筋 1) 構造と機能					椎葉 大輔	
第3回	骨格筋 2) 収縮機構・脊髄反射					椎葉 大輔	
第4回	神経系 1) 神経系の分類					椎葉 大輔	
第5回	神経系 2) 静止電位と活動電位					椎葉 大輔	
第6回	神経系 3) 興奮の伝導と伝達 4) 反射					椎葉 大輔	
第7回	神経系 5) 中枢神経系 6) 体性神経系・自律神経系					椎葉 大輔	
第8回	感覚器					椎葉 大輔	
第9回	血液と体液					椎葉 大輔	
第10回	心臓の機能と調節					椎葉 大輔	
第11回	血管運動調節系					椎葉 大輔	
第12回	呼吸器系の構造と機能					椎葉 大輔	
第13回	呼吸運動とその調節					椎葉 大輔	
第14回	高温環境と運動					椎葉 大輔	
第15回	体温調節系					椎葉 大輔	
第16回	筆記試験					椎葉 大輔	
教科書							
教・書籍名1	使用しない（毎回の講義で資料を配布する）					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	
参考書							

参・書籍名1	イラストでまなぶ生理学	参・出版社名1	医学書院
参・著者名1	田中越郎	参・ISBN1	9.78426E+12
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	運動栄養学			担当者	野瀬 由佳		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-319		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜2限 金曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	栄養学の基礎として、各栄養成分の理解と、消化吸収のメカニズムについて理解し、実生活での食事と栄養の関係について配慮できるようになる。また運動のエネルギー供給について理解し、健康づくりやスポーツ活動における効果的な食事について配慮することができる。						
授業概要	基礎栄養学として、活動のエネルギーとなる栄養素と、体の恒常性を保つための栄養素について学び、日常の食事との関連について講義する。また、身体運動と栄養の関係について講義する。さらに、スポーツ活動や健康づくりに関連する、栄養素やビタミン、ミネラル、水分摂取などについて講義する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	リアクションペーパー（20％）レポート（20％）、講義終了後の試験（60％）をあわせて評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 (公財) 日本スポーツ協会公認スポーツリーダー、スポーツプログラマー受験資格必須科目						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習は講義の進行を見て、講義の終わりに意を出す。復讐はその日のキーワードを示すのでそのことについてまとめる。予習2時間、復習2時間をかけて行うこと。						
オフィスアワー	非常勤講師のため、大学に常駐していません。オフィスアワーは講義終了後、ならびに講義内で示すメールでの対応となります。						
授業計画						担当者	
第1回	栄養の概念					野瀬 由佳	
第2回	消化・吸収と栄養素の体内動態 1					野瀬 由佳	
第3回	消化・吸収と栄養素の体内動態 2					野瀬 由佳	
第4回	糖質の栄養					野瀬 由佳	
第5回	脂質の栄養					野瀬 由佳	
第6回	たんぱく質の栄養					野瀬 由佳	
第7回	ビタミンの栄養					野瀬 由佳	
第8回	ミネラルの栄養					野瀬 由佳	
第9回	食生活と食品群					野瀬 由佳	
第10回	健康と栄養					野瀬 由佳	
第11回	運動のエネルギーとしての栄養					野瀬 由佳	
第12回	実際の食事とその栄養素 1					野瀬 由佳	
第13回	実際の食事とその栄養素 2					野瀬 由佳	
第14回	栄養摂取と食生活					野瀬 由佳	
第15回	スポーツ栄養における最新の知見について					野瀬 由佳	
第16回	定期試験					野瀬 由佳	

教科書			
教・書籍名1	各回講義において資料を配布する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	基礎栄養学	参・出版社名1	第一出版
参・著者名1	鈴木 和春 他	参・ISBN1	978-4-8041-1143-8
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	身体運動学			担当者	浅井 武		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-320		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	身体運動を支える体の機能をjついて生理学、解剖学を基本として学び、身体運動の成り立ちを物理学的解析法により理解し、運動の理論的実践指導が出来るようになる。						
授業概要	身体運動を支える体の機能をjついて生理学、解剖学を基本として学び、身体運動の成り立ちを物理学的解析法により理解し、運動の理論的実践指導が出来るようになる。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	課題（20%）および試験（80%）の結果を合わせて評価を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題に対するフィードバックに関しては、講義内で実施する。						
履修条件・注意事項	「健康運動実践指導者および健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は予習復習が必要である。予習として、各授業計画に記載されている部分について資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として課題を出すので、次回の授業時に発表すること。						
オフィスアワー	集中講義のため講義終了後とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					浅井 武	
第2回	身体運動と物理学					浅井 武	
第3回	姿勢、重心と身体運動					浅井 武	
第4回	関節の構造と機能					浅井 武	
第5回	頸部の関節運動					浅井 武	
第6回	上肢の関節運動					浅井 武	
第7回	脊柱の構造とその運動					浅井 武	
第8回	骨盤と下肢の運動					浅井 武	
第9回	エネルギーとパワー					浅井 武	
第10回	歩行と走行					浅井 武	
第11回	水中での身体運動					浅井 武	
第12回	3つのエネルギー供給システム					浅井 武	
第13回	有酸素パワーと無酸素パワー					浅井 武	
第14回	筋パワーと弾性エネルギー					浅井 武	
第15回	身体運動と健康					浅井 武	
第16回	単位認定試験					浅井 武	
教科書							
教・書籍名1	スポーツバイオメカニクス20講				教・出版社名1	朝倉書店	
教・著者名1	阿江通良+藤井範久				教・ISBN1	978-4-254-69040-8	
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							

参・書籍名1	身体運動学概論	参・出版社名1	大修館書店
参・著者名1	浅見 俊雄 他	参・ISBN1	ISBN4-469-26038
参・書籍名2	運動とからだ	参・出版社名2	大修館書店
参・著者名2	朝比奈一男	参・ISBN2	4-469-16312-0

授業科目名	リハビリテーション医学			担当者	河村 顕治		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-321		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	スポーツに関係する運動器疾患を中心として、リハビリテーション医学の対象となる疾患の理解をテーマとし、学生がそれらの病態とその治療、理学・作業療法の内容などの知識を身につけることができる。						
授業概要	リハビリテーションの理念と社会的、地域のリハビリテーションを含めた包括的なリハビリテーションの考え方を教授する。平成12年度より始まった公的介護保険制度についても、社会的背景より講義を行う。 リハビリテーションを単なる後療法と位置づけるのではなく、人間らしく生きるための技術、学問として考えていきたい。また、リハビリテーションにおけるチームアプローチの重要性を強調したい。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	定期試験（80％）を中心に、学期末に提出するポートフォリオの内容（20％）にて総合的に判定を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題やレポート等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	リハビリテーション医学の履修において各自がポートフォリオを作成することを義務づける。これは学習をより確かなものにしてこれからの専門的学習の基礎を作るためである。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、医師（日本リハビリテーション医学会専門医）としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、臨床現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	授業に先立って「リハビリテーション医学テキスト」で該当部分を予習しておくこと。復習として授業終了後には講義内容及び関連事項を図書館やインターネットを利用してポートフォリオにまとめること。予習および復習には、各1時間程度を要する。						
オフィスアワー	個人研究室にて、火曜日の4時限目に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	リハビリテーション医学とは					河村顕治	
第2回	運動器のリハビリテーション(総論)					河村顕治	
第3回	運動器のリハビリテーション（運動器不安定症：病態と診断）					河村顕治	
第4回	運動器のリハビリテーション（運動器不安定症：上肢疾患）					河村顕治	
第5回	運動器のリハビリテーション（運動器不安定症：下肢疾患）					河村顕治	
第6回	運動器のリハビリテーション（評価の概要）					河村顕治	
第7回	運動器のリハビリテーション（評価の実際）					河村顕治	
第8回	運動器のリハビリテーション（治療総論）					河村顕治	
第9回	運動器のリハビリテーション（筋力訓練）					河村顕治	
第10回	運動器のリハビリテーション（ストレッチング）					河村顕治	
第11回	運動器のリハビリテーション（体操療法）					河村顕治	
第12回	運動器のリハビリテーション（物理療法）					河村顕治	
第13回	運動器のリハビリテーション（各論：関節疾患）					河村顕治	
第14回	運動器のリハビリテーション（各論：腰椎疾患：病態と診断）					河村顕治	
第15回	運動器のリハビリテーション（各論：腰椎疾患：治療）					河村顕治	
第16回	単位認定試験					河村顕治	
教科書							

教・書籍名1	リハビリテーション医学 第1版	教・出版社名1	羊土社
教・著者名1	安保雅博／監、渡邊 修、松田雅弘／編	教・I S B N 1	978-4-7581-0231-5
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・I S B N 1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	内科学一般 オムニバス			担当者	青山 雅、高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-322		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	健康領域に従事する者として心得ておかなければならない医学一般並びに老人医療に関する知識を幅広く理解すること。ならびに他の医療従事者とも緊密にチームワークを作る為にも医学や看護などの基礎的知識を豊かにすること。学生はこれらことを学び、理解することで、健康領域の現場に出た際に他の医療従事者と共通理解の上で円滑に業務を遂行することができる。						
授業概要	様々な疾患の概要、頻度、症候、病生理、診断、治療と予後についての基礎的知識を把握する。また、疾患を十分理解するために、疾患の要因、特徴や症状についての理解を深める。生活習慣病に関しては、各疾患についての理解にとどまらず、運動療法、食事療法、薬物療法との関係についても理解を深める。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	受講態度20%、単位認定試験80%による総合評価を行う。単位認定試験は採点后各自個別指導を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	複数回に分けて、学習理解度確認のための課題や小テストをユニバーサルポスポートを用いて実施する。実施した課題および小テストで得られた回答の一部は、必要に応じて講義内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 最近の社会における医療や福祉の変化の情報に注目すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	青山 雅 (医師、糖尿病・代謝内科)				
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が2時間程度必要である。予習として、毎回の授業において問題提起と討論が可能のように配布された資料の指定されたページを熟読してくる。復習として、毎回課題を出すので、次の授業時に発表すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室 (9402研究室) において、毎週月曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	生活習慣病概論					高原 皓全	
第2回	メタボリックシンドローム					青山 雅	
第3回	ロコモティブシンドローム					青山 雅	
第4回	肥満症 (1) 肥満症とは					高原 皓全	
第5回	肥満症 (1) 肥満症の治療と予防					青山 雅	
第6回	高血圧症					青山 雅	
第7回	脂質異常症					青山 雅	
第8回	糖尿病					青山 雅	
第9回	虚血性心疾患					青山 雅	
第10回	呼吸器疾患					青山 雅	
第11回	循環器疾患					高原 皓全	
第12回	悪性新生物					青山 雅	
第13回	認知症					青山 雅	
第14回	骨粗鬆症					高原 皓全	
第15回	生活習慣病総括					高原 皓全	
第16回	単位認定試験					高原 皓全	
教科書							
教・書籍名1	授業毎に資料を配布する					教・出版社名1	

教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	コメディカルのための内科学	参・出版社名1	医学出版社
参・著者名1	伊東進、森博愛	参・ISBN1	978-4870550971
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	東洋医学概論			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-323		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	△	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 東洋医学理論の枠組みを概観することができる。 到達目標： 1：東洋医学の歴史（中国編）を説明できるようになる。 2：日東洋医学の歴史（日本編）を説明できるようになる。 3：東洋医学の特徴を理解できるようになる。 4：東洋医学の基本理念を理解できるようになる。						
授業概要	東洋医学概論の講義では病気の予防および体質改善を目的とし、今後多分野の中で応用できる基礎理論の掌握を狙っている。生活の知恵から生まれた東洋医学の背景を検討し、さらにそれに伴って陰陽論の基本内容および東洋医学における陰陽論の応用、五行論の基本内容および東洋医学における五行論の応用、気血津液の分類と作用及び相互関係、臓腑学説の形成及び生理特徴、経絡の作用、循行及び連接の規則性、八綱弁証理論などを紹介する。						
アクティブラーニングの内容	PBL/反転授業/その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「東洋医学の歴史、特徴及び基本理念を理解できるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（50%）、講義ノート（30%）、授業への積極的な参加態度（20%）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	毎回の授業において問題提起と討論が可能ないようにテキストの指定されたページを熟読してくる。また、学期末のレポート提出が定期試験受験の条件となることから授業終了後にノートを纏めておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 試験は必ず行うので、授業に出席していただければ単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習に、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	東洋医学の歴史（中国編）					孫基然	
第2回	東洋医学の歴史（日本編）					孫基然	
第3回	東洋医学の特徴					孫基然	
第4回	基本理論（陰陽学説の由来及び内容）					孫基然	
第5回	基本理論（五行学説の由来及び内容）					孫基然	
第6回	気思想（由来、分類）					孫基然	
第7回	気思想（作用、病態）					孫基然	
第8回	血の生成、作用及び循環					孫基然	
第9回	水の代謝ルート及び病態特徴					孫基然	
第10回	臓腑学説（心の生理機能）					孫基然	
第11回	臓腑学説（肝の生理機能）					孫基然	
第12回	臓腑学説（脾の生理機能）					孫基然	

第13回	臓腑学説（肺の生理機能）	孫基然
第14回	臓腑学説（腎の生理機能）	孫基然
第15回	臓腑学説（六腑の生理機能）	孫基然
第16回	筆記試験	孫基然

教科書		
-----	--	--

教・書籍名1	適宜プリント資料を配布する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書		
-----	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	経絡鍼灸学			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2019～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2019～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-324		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年 / 2年		開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	△	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 1：経絡とは何かを理解できるようになる。 2：正しい鍼灸治療を身につけることができる。 到達目標： 1：経絡の意義を説明できるようになる。 2：経絡の走行ルートを理解できるようになる。 3：鍼の刺し方を身につけることができる。 4：艾柱の作り方をできるようになる。						
授業概要	「経絡学説」は東洋医学における最も重要な生理学の一環であると同時に、臨床各科治療の基礎でもある。本講義ではまず経絡の起源に関わる背景を紹介し、その後「十二正経」を講義する。その中で主に経絡の循行部位、生理機能、病理特徴および分布特徴、相関部位及び代表経穴の取り方を中心として行われる。更に現代医学を併せてそれに関わっている筋肉、神経及び血管などを中心としている。「鍼灸学」について主に鍼の刺し方、灸療法のすえ方、適応症、注意事項及び鍼灸治療のメカニズム、また、中国の鍼灸状況を解説する。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「経絡の意義、走行ルート、鍼の刺し方及び艾柱の作り方をできるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（50％）、講義ノート（30％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（20％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	毎回の授業において問題提起と討論が可能なようにテキストの指定されたページを熟読してくる。また、学期末のレポート提出が定期試験受験の条件となることから授業終了後にノートを纏めておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 試験は必ず行うので、授業に出席していただければ単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習に、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	2) 6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	肺経・大腸経の循行ルート及び取穴基準の設定					孫基然	
第2回	胃経・脾経の循行ルート及び取穴基準の設定					孫基然	
第3回	心経・小腸経の循行ルート及び取穴基準の設定					孫基然	
第4回	腎経・膀胱経の循行ルート及び取穴基準の設定					孫基然	
第5回	心包経・三焦経の循行ルート及び取穴基準の設定					孫基然	
第6回	胆経の循行ルート及び取穴基準の設定					孫基然	
第7回	肝経の循行ルート及び取穴基準の設定					孫基然	

第 8 回	鍼灸概説	孫基然
第 9 回	片手挿管	孫基然
第 1 0 回	鍼に関する一般知識	孫基然
第 1 1 回	鍼治療の適応症	孫基然
第 1 2 回	刺鍼手技法	孫基然
第 1 3 回	灸療法概説	孫基然
第 1 4 回	灸療法の実際	孫基然
第 1 5 回	鍼灸理論	孫基然
第 1 6 回	筆記試験	孫基然

教科書

教・書籍名 1	適宜プリント資料を配布する	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	東洋医学演習			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-325		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	△	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	△	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	<p>テーマ：</p> <p>1：鍼灸、整体刺激による筋硬度への影響を理解できるようになる。</p> <p>2：脈診、舌診方法を生かし健康管理へ応用できるようになる。</p> <p>到達目標：</p> <p>1：スポーツ傷害に広く応用されている鍼灸及び整体療法を習得できるようになる。</p> <p>2：脈診、舌診を正しく理解できるようになる。</p>						
授業概要	東洋医学演習の講義では、誰でもできる簡単な円皮鍼、艾灸などといった東洋医学的手法を利用し、主に僧帽筋や腓腹筋の硬さを観察指標とし、スポーツ障害と筋の硬さとの関係を理解しその改善方法についての知識と理論について学習し、将来スポーツや福祉の分野において応用できるようにする。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	本講義では演習を中心に行われることから、実技の出来具合（50％）、実験、文献調査レポートの出来具合（30％）、参加態度（20％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実験及び文献調査レポートの修正を講義内でフィードバックすることから、見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	毎回の授業において問題提起と討論が可能なようにテキストの指定されたページを熟読してくること。また、学期末のレポート提出が定期試験受験の条件となることから授業終了後にノートを纏めておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。予習及び復習が、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					孫基然	
第2回	艾の捻り方の説明、練習					孫基然	
第3回	艾の捻り方の実技テスト					孫基然	
第4回	筋硬度測定方法の習得					孫基然	
第5回	艾灸による筋硬度（腓腹筋や僧帽筋）に及ぼす影響					孫基然	
第6回	針の刺し方の練習					孫基然	
第7回	針の刺し方実技テスト					孫基然	
第8回	円皮鍼による筋硬度（腓腹筋や僧帽筋）に及ぼす影響					孫基然	
第9回	舌診の原理					孫基然	
第10回	舌診の見方					孫基然	
第11回	舌診の内容					孫基然	
第12回	舌診レポート作成					孫基然	
第13回	脈診の原理					孫基然	
第14回	脈診の見方					孫基然	
第15回	舌診の内容					孫基然	
第16回	脈診レポート					孫基然	
教科書							

教・書籍名1	適宜プリント資料を配布する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	発育発達			担当者	松本 希		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-326		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	成人期以降の体の変化を総合的、臓器別に学び、老化のメカニズムを理解することによって、高齢者等の健康に配慮できるようになるとともに、安全で効果的な運動を指導することができる。						
授業概要	人間の発育発達を生涯の加齢現象としてとらえ、成人期以降の力加齢と生体機能の関係を明らかにする。主に生理学、解剖学、心理学、老人病理学などの立場で講義し、The biology aging の意義について講義する。人間の一生において各機能形態的発達様式が違うことから、老化について考え、それぞれの時期に応じた適切な社会福祉とその対策について講義する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義前後の課題（20%）および試験（80%）の結果を合わせて評価を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士受験資格認定試験受験資格」必須科目						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は予習復習が必要である。予習として、各授業計画に記載されている部分について資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時にレポートを提出すること。						
オフィスアワー	非常勤講師のため、講義終了後をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	人間の一生における発達現象					松本 希	
第2回	高齢者の定義					松本 希	
第3回	老化の定義と具体的特徴					松本 希	
第4回	老化に影響を与える他の因子					松本 希	
第5回	生理的機能の変化と組織的变化					松本 希	
第6回	免疫機能の変化					松本 希	
第7回	老化の学説とその真意					松本 希	
第8回	細胞レベルでの老化					松本 希	
第9回	早老症とそのメカニズム					松本 希	
第10回	細胞レベルでの老化					松本 希	
第11回	老年病の三つの特徴					松本 希	
第12回	老化現象を基盤とした病気					松本 希	
第13回	QOLとADL					松本 希	
第14回	環境と老化現象					松本 希	
第15回	運動と老化現象					松本 希	
第16回	定期試験					松本 希	
教科書							
教・書籍名1	使用しない(必要に応じプリントを配布する)					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	

教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	人間の発達と健康	参・出版社名1	大修館書店
参・著者名1	神戸大学発達科学部健康発達論研究会	参・ISBN1	4-469-26363-x
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	救急処置			担当者	赤在 あゆみ		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-327		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	「救急処置の基本と実際」、「スポーツ障害の現状と対策」をテーマとし、アスリートやスポーツ指導者として、学生がスポーツ障害の病態・診断・治療・障害予防について理解し、学んだ知識を実際のスポーツ現場での応急処置やスポーツ障害の予防に役立てることができる。						
授業概要	スポーツの現場では、競技者としてのみならず、指導者として、突然の事故や内科的疾病に伴う緊急の事態に直面することがある。本講義ではこのような事態に備え、スポーツ中に起こりうる外傷・障害に関する医学的知識、とりわけ救急処置についての知識を資料を用いて解説し、グループディスカッションやディベート、救急処置の実技指導を通して実際の現場で自ら考え、対処できるようにする。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	平常のレポートの提出や受講態度、定期試験の成績を併せて評価する。とりわけ予習復習のためのレポート提出や受講態度は重要であり、成績評価基準として知識習得状況を把握するための最終試験80%、課題（提出物・レポート）10%、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度10%の割合で評価する。なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので試験までにみなおしておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので試験までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	講義はスライドを中心にを行い、スライド内容は講義用テキストとして配布するが、救急法やテーピングの実際についても体験してもらうため始業時に遅れないこと。毎回出される課題や講義テキストを予習・復習に活用し、その提出を定期試験受験の条件とする。また、受講態度は特に重要であり、講義で習ったことをスポーツ現場に積極的に活かしていくように心掛けること。 予習、復習、および実技の際に必要なとなるので、必ず教科書を用意すること。 「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 (公財)日本体育協会公認スポーツ指導者共通科目Ⅰ+Ⅱ+Ⅲ必須科目						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、医師として実務経験のある教員により、現状や課題、それを解決するために必要とされる知識や能力について講義し、学生の理解を深める。				
事前学習・事後学習とその時間	自己学習のためのレポート課題を課す。それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。なお、予習及び復習には、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	火曜日1限 研究室						
授業計画						担当者	
第1回	スポーツ現場における事故の実際					赤在	
第2回	心肺蘇生法（理論）					赤在	
第3回	心肺蘇生法（手技の実際）					赤在	
第4回	循環器系障害に対する対応（病態）					赤在	
第5回	循環器系障害に対する対応（手技の実際）					赤在	
第6回	呼吸器系障害に対する対応（病態・手技の実際）					赤在	
第7回	創傷及び出血に対する対応（病態）					赤在	
第8回	創傷及び出血に対する対応（手技の実際）					赤在	
第9回	骨、関節及び筋肉の損傷に対する対応（骨折）					赤在	

第10回	骨、関節及び筋肉の損傷に対する対応（関節障害）	赤在
第11回	骨、関節及び筋肉の損傷に対する対応（筋・腱障害）	赤在
第12回	神経系の障害に対する対応（脳の外傷）	森信
第13回	神経系の障害に対する対応（脳血管傷害）	森信
第14回	神経系の障害に対する対応（脊髄損傷）	森信
第15回	環境・代謝障害に伴う障害に対する対応	赤在
第16回	単位認定試験	赤在

教科書		
-----	--	--

教・書籍名1	改訂6版 救急蘇生法の指針 2020 市民用・解説編	教・出版社名1	へるす出版
教・著者名1	監修：日本救急医療財団心肺蘇生法委員会	教・ISBN1	978-4-86719-026-5
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書		
-----	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	運動生理学Ⅰ			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-328		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	動物としてのヒトの根底には、常に身体運動が伴う。日々の在り方でそれは多様に変化し、各人を形成する。その可塑性を理解する。学生は身体活動にともなう生体諸機能の適応やその機序に関する生理学を理解することにより、「運動」に関する考え方を学ぶことができる。						
授業概要	ヒトの身体活動は人体の多様な機能を動員することで発現する。今日、運動不足による疾患が危惧されている。そこで呼吸・循環機能、脂質代謝と生活習慣病、またメタボリックシンドロームを説明し、予防、改善のための至適運動を提示する。運動生理学の基礎的な知見について、テキストと実験データをもとに紹介する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義中の課題(30%)、定期試験の結果（70%）から評価する。なお、評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 （公財）日本スポーツ協会公認スポーツリーダー必須科目 講義項目ごとに資料を事前に配布する。資料は図表が主となるので、理解のためには講義への出席が重要となる。すべてにおいて、主体的な姿勢で臨むこと。分からないことについては積極的に質問するよう取り組むこと。提出物の期限は厳守すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が必要である。生理学、解剖学を基礎としており、適宜、それらの復習が大切である。予習復習として講義内に配布プリントの指定されたページを熟読してくる。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9410研究室）において、木曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	運動と血液					山口英峰	
第2回	運動と心拍数					山口英峰	
第3回	運動と血圧					山口英峰	
第4回	運動と血流					山口英峰	
第5回	循環機能とトレーニング					山口英峰	
第6回	運動と呼吸運動					山口英峰	
第7回	運動と酸素摂取					山口英峰	
第8回	運動と呼吸商					山口英峰	
第9回	呼吸機能とトレーニング					山口英峰	

第10回	運動と高血圧・高脂血症	山口英峰	
第11回	運動と糖尿病	山口英峰	
第12回	神経・筋機能の加齢変化	山口英峰	
第13回	呼吸・循環機能の加齢変化	山口英峰	
第14回	骨の加齢変化	山口英峰	
第15回	運動と免疫能	山口英峰	
第16回	単位認定試験	山口英峰	
教科書			
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名1	フリースペース
教・著者名1	改訂版 運動生理学の基礎と発展・春日規克・竹倉宏明	教・ISBN1	978-4-434-07569-8
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	運動生理学Ⅱ			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-329		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	動物としてのヒトの根底には、常に身体運動が伴う。日々の在り方でそれは多様に変化し、各人を形成する。その可塑性を理解する。学生は、身体活動にともなう生体諸機能の適応やその機序に関する生理学を理解することにより、「運動」に関する考え方を学ぶことができる。						
授業概要	ヒトの身体活動は人体の多様な機能を動員することで発現する。身体運動にともなう神経や筋の適応と機序について学ぶ。運動生理学の基礎的な知見について、テキストと実験データをもとに紹介する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義中の課題（30%）、定期試験の結果（70%）から評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 「（公財）日本スポーツ協会スポーツリーダー」科目 講義項目ごとに資料を配布する。資料は図表が主となるので、理解のためには講義への出席が重要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が必要である。生理学、解剖学を基礎としており、適宜、それらの復習が大切である。毎回の授業において配布したプリントの指定されたページを熟読してくる。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9410研究室）において、木曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	運動とは						山口英峰
第2回	筋の構造						山口英峰
第3回	筋収縮のしくみ						山口英峰
第4回	筋繊維の種類						山口英峰
第5回	筋繊維の種類と収縮特性						山口英峰
第6回	筋繊維の種類と身体活動						山口英峰
第7回	筋収縮と糖質代謝						山口英峰
第8回	筋収縮と脂質代謝						山口英峰
第9回	筋の肥大、損傷、再生						山口英峰
第10回	運動単位の種類						山口英峰
第11回	運動単位と筋力、筋電図						山口英峰
第12回	運動の発現 1) 脊髄反射						山口英峰
第13回	運動の発現 2) 中枢神経系						山口英峰

第14回	歩行運動の正常と異常		山口英峰
第15回	水中環境と運動		山口英峰
第16回	単位認定試験		山口英峰
教科書			
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名1	フリースペース
教・著者名1	改訂版 運動生理学の基礎と発展・春日規克・竹倉宏明	教・ISBN1	978-4-434-07569-8
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	レクリエーション (Aクラス:教免希望者)			担当者	直原 一美		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-330		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに / 10. 人や国の不平等をなくそう / 11. 住み続けられるまちづくりを / 12. つくる責任・つかう責任</p> 						
到達目標	<p>～自ら楽しむ～をテーマに人とひととの交流を深めます。 レクリエーション活動は、コミュニケーション能力を深める有効手段の一つです。 今、多くの企業や職場でコミュニケーション能力のある人材が求められています。また、レクリエーションの支援者として、家族の絆を深め、地域の絆を取り戻すきっかけづくりの提供、高齢者、障害者福祉施設、スポーツ、健康づくりに関する職場、地域社会、学校現場など即戦力となる人材を育てます。 レクリエーションの授業を通して、楽しみながらコミュニケーション能力を高めます。</p>						
授業概要	<p>現在レクリエーションは、健康づくりや高齢者・障害者福祉、子育て支援、幼児教育、学校教育、社会教育(地域づくり)、環境教育、医療現場などで幅広く用いられています。 現場で必要な、コミュニケーション技法や集団を対象としたレク・ワーク技術を身に付け、「人とひととの交流を感動的な出会い」の演出を学びます。 春学期は、レクリエーションの楽しさ、仲間との交流の素晴らしさを体感し、ニュースポーツや最近話題の健康法「笑いヨガ(ラフターヨガ)」、そして、野外に出かけて自然との触れ合いなど、様々なレクリエーションの技法を体験します。</p>						
アクティブラーニングの内容	フィールドワーク						
評価方法と割合	試験(50%) 授業態度(30%) 課題レポート(20%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業中にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	動きやすい服装、体育館シューズを準備する。						
実務経験のある教員	該当する	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習復習については、別途指示し各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	授業終了後教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	「初めまして」自ら楽しむレクリエーション						直原
第2回	仲間と共に楽しむレクリエーション						直原
第3回	グループ対抗ゲーム						直原
第4回	歌は心のメッセージ						直原
第5回	レッツダンス!						直原
第6回	健康体操リハビリ体操ストレッチ他						直原
第7回	創作レクダンス(これがけっこうはまります)						直原
第8回	ネイチャーゲーム(心と体で自然を感じます)						直原
第9回	ニュースポーツI						直原
第10回	ニュースポーツII						直原
第11回	高齢者・障害者と楽しむレクリエーション						直原
第12回	「笑いヨガ」今話題の有酸素運動						直原
第13回	大縄跳び・バンブーダンス						直原
第14回	脳トレレク①						直原

第15回	脳トレレク②	直原
第16回	単位認定試験	直原
教科書		
教・書籍名1	使用しない	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	レクリエーション (Bクラス:教免希望者以外)			担当者	直原 一美		
配当学科・研究科	2019~2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-330		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに / 10. 人や国の不平等をなくそう / 11. 住み続けられるまちづくりを / 12. つくる責任・つかう責任</p> 						
到達目標	<p>~自ら楽しむ~をテーマに人とひととの交流を深めます。 レクリエーション活動は、コミュニケーション能力を深める有効手段の一つです。 今、多くの企業や職場でコミュニケーション能力のある人材が求められています。また、レクリエーションの支援者として、家族の絆を深め、地域の絆を取り戻すきっかけづくりの提供、高齢者、障害者福祉施設、スポーツ、健康づくりに関する職場、地域社会、学校現場など即戦力となる人材を育てます。 レクリエーションの授業を通して、楽しみながらコミュニケーション能力を高めます。</p>						
授業概要	<p>現在レクリエーションは、健康づくりや高齢者・障害者福祉、子育て支援、幼児教育、学校教育、社会教育(地域づくり)、環境教育、医療現場などで幅広く用いられています。 現場で必要な、コミュニケーション技法や集団を対象としたレク・ワーク技術を身に付け、「人とひととの交流を感動的な出会い」の演出を学びます。 春学期は、レクリエーションの楽しさ、仲間との交流の素晴らしさを体感し、ニュースポーツや最近話題の健康法「笑いヨガ(ラフターヨガ)」、そして、野外に出かけて自然との触れ合いなど、様々なレクリエーションの技法を体験します。</p>						
アクティブラーニングの内容	フィールドワーク						
評価方法と割合	試験(50%) 授業態度(30%) 課題レポート(20%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業中にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	動きやすい服装、体育館シューズを準備する。						
実務経験のある教員	該当する	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習復習については、別途指示し各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	授業終了後教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	「初めまして」自ら楽しむレクリエーション						直原
第2回	仲間と共に楽しむレクリエーション						直原
第3回	グループ対抗ゲーム						直原
第4回	歌は心のメッセージ						直原
第5回	レッツダンス!						直原
第6回	健康体操リハビリ体操ストレッチ他						直原
第7回	創作レクダンス(これがけっこうはまります)						直原
第8回	ネイチャーゲーム(心と体で自然を感じます)						直原
第9回	ニュースポーツI						直原
第10回	ニュースポーツII						直原
第11回	高齢者・障害者と楽しむレクリエーション						直原
第12回	「笑いヨガ」今話題の有酸素運動						直原
第13回	大縄跳び・バンブーダンス						直原
第14回	脳トレレク①						直原

第15回	脳トレレク②	直原
第16回	単位認定試験	直原
教科書		
教・書籍名1	使用しない	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	アダプテッド・スポーツ			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-331		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	△	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	「アダプテッド・スポーツの理論と実際」をテーマとする。アダプテッド・スポーツの理論だけではなく、運動指導者としての実践方法の基礎を理解できる。						
授業概要	アダプテッド・スポーツとは、1人1人の発達状況や身体条件に適応させたスポーツのことをいう。特に、障がいを持つ者の身体的・精神的障がいの種類や程度に合わせてルールや用具を適合させることによって、スポーツ活動を実施することができるようになる。しかしながら、間違った運動を行うと、かえって障がいを悪化させてしまう。本講義では、障がい者のスポーツ活動について、障がいの関係特性について理解を深めるとともに正しく理解し、対象者に適したスポーツ活動の理解及び適切な指導が出来るよう学習する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	最終試験（90％）、発表、ディスカッションへの参加（5％）、受講態度（5％） なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	1) 事前に課題を出し、発表形式を取る参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。 2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。 3) 初回の授業には、必ず出席すること。 4) 試験は必ず行うので、授業に出席していただいただけでは単位は取れない。						
実務経験のある教員	該当する	内容	健康運動指導士 障害者スポーツ団体審判員経験あり				
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してくること。また、授業時に配布する資料や各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習及び次回への予習を行うこと（各2時間程度）。						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					天岡 寛	
第2回	アダプテッド・スポーツとは					天岡 寛	
第3回	アダプテッド・スポーツの歴史					天岡 寛	
第4回	障がい者スポーツ指導者制度					天岡 寛	
第5回	障がい者のスポーツ活動の意義と理念					天岡 寛	
第6回	障がい者のスポーツ大会					天岡 寛	
第7回	障がい者スポーツとクラス分け					天岡 寛	
第8回	障がいの理解とスポーツ（肢体不自由者）					天岡 寛	
第9回	障がいの理解とスポーツ（知的障害者）					天岡 寛	
第10回	障がいの理解とスポーツ（内部障害者）					天岡 寛	
第11回	障がいの理解とスポーツ（知的障害者）					天岡 寛	
第12回	障がいの理解とスポーツ（精神障害者）					天岡 寛	
第13回	アダプテッド・スポーツの現場から～指導者として～					天岡 寛	
第14回	アダプテッド・スポーツの現場から～大会を支える立場として～					天岡 寛	

第15回	まとめ	天岡 寛
第16回	単位認定試験	天岡 寛
教科書		
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	適宜指示する.	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	保健体育科教育法Ⅰ			担当者	松下 健二		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	TC-SM-2-901		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	体育教師の専門的力量育成を目標とし、保健体育科教育に関わる基礎的教育的事項について学習指導要領に示された教科の目標や内容を理解する。						
授業概要	保健体育科の目標および内容と各分野の目標と内容および指導計画の作成方法と内容の取り扱いについて理解するとともに、専門的教育知識を把握し、体育の授業の中で実践できるようにする。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、高等学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	受講態度（25％）、レポート（25％）、試験（50％）で総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は提出後の次の授業最初にレクチャアする。終講はテスト後自己採点を行なわせ、誤りを訂正させる。						
履修条件・注意事項	前の授業の要点の確実な理解から次の授業を始めるので授業後にノートをまとめ、配布された資料を基にして次授業の授業内容について把握しておくこと。 レポートの提出状況が試験の受験条件となる。 中高保健体育科教諭資格必修科目						
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和46年4月～48年3月兵庫県立神戸工業高等学校にて保健体育科担当教員として勤務				
事前学習・事後学習とその時間	予習として各授業計画に記載されている部分について事前に参考となる書籍を読み、理解できない点をまとめて授業をうけること。指示に従って必ずノートを作成し、復習すること。」予習・復習とも2時間ほど行うこと。						
オフィスアワー	授業終了後、教室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	中学校学習指導要領保健体育編における目標と各分野の内容について（その1）					松下健二	
第2回	中学校学習指導要領保健体育編における目標と各分野の内容について（その2）					松下健二	
第3回	中学校学習指導要領保健体育編に作成方法について作成方法について					松下健二	
第4回	高等学校学習指導要領保健体育編・体育編における目標と各分野の内容について（その1）					松下健二	
第5回	高等学校学習指導要領保健体育編・体育編における目標と各分野の内容について（その2）					松下健二	
第6回	高等学校学習指導要領保健体育編・体育編に作成方法について作成方法について					松下健二	
第7回	保健体育科授業の成立基盤および授業の構造と機能					松下健二	
第8回	保健体育科の目標と学力と教育内容					松下健二	
第9回	保健体育授業の学習指導－アクティブラーニングの手法と情報機器の活用（体育分野・保健分野）					松下健二	
第10回	モニタリングと相互作用					松下健二	
第11回	マネジメント方略					松下健二	
第12回	運動の技術（運動成功のためのコツ）					松下健二	
第13回	競争とルールとマナーと戦術学習					松下健二	
第14回	運動学習の適時期					松下健二	
第15回	授業評価と学習評価					松下健二	
第16回	単位認定試験					松下健二	

教科書			
教・書籍名1	中学校学習指導要領(平成29年告知) 解説：保健体育編	教・出版社名1	文部科学省
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2	高等学校学習指導要領(平成30年度告知)：保健体育編・体育編	教・出版社名2	文部科学省
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	内容学と架橋する保健体育教育論	参・出版社名1	晃洋書房
参・著者名1	後藤幸弘	参・ISBN1	
参・書籍名2	体育授業の理論と方法	参・出版社名2	大修館書店
参・著者名2	小林一久	参・ISBN2	

授業科目名	保健体育科教育法Ⅱ			担当者	松下 健二		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	TC-SM-2-902		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	授業のテーマ及び到達目標 保健体育科において扱われる体育分野の内の4領域と保健分野について、それぞれの授業を行う際の重要ポイントを理解し、授業計画（指導案）を作成する。情報機器を使用したプレゼンテーションおよび模擬授業ができる。						
授業概要	授業の概要 体育分野の「体づくり運動」「器械運動」「陸上競技」「球技」の各領域と保健分野についてそれぞれの代表例の教材研究を行うとともに指導案作成、模擬授業を行う。模擬授業では教師の介入を逐次取り入れ、指導案と実際の指導との連携を理解し、授業づくりを行う。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、高等学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク/プレゼンテーション/実習						
評価方法と割合	受講態度（25%）、レポート（25%）、試験（50%）で総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題については課題提出後の授業最初にレクチャーを行う。終講テストについては採点後答案用紙を教務課に取りに来させる。						
履修条件・注意事項	前の授業の要点の確実な理解から次の授業を始めるので授業後にノートをまとめ、配布された資料をもとにして次の授業の内容について把握しておくこと。 レポートの提出状況が試験の受験条件になる。 中高保健体育科教諭資格必修科目						
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和46年4月～48年3月の2カ年間兵庫県立神戸工業高等学校で保健体育教師として勤務				
事前学習・事後学習とその時間	予習として各授業計画に記載されている部分について事前に参考となる書籍を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。指示に従って必ずノートを作成し、復習すること。予習・復習とも2時間ほど行うこと。						
オフィスアワー	授業のある火曜日の昼休みか放課後						
授業計画						担当者	
第1回	「体づくり運動」の授業づくり (1)：体ほぐし・体の動きを高める運動の教材研究					松下健二	
第2回	「体づくり運動」の授業づくり (2)：指導案の作成					松下健二	
	「体づくり運動」の授業づくり						

第3回	(3) : 指導案の発表と模擬授業	松下健二
第4回	「器械運動」の授業づくり (1) : マット運動、跳び箱運動の教材研究	松下健二
第5回	「器械運動」の授業づくり (2) : 指導案の作成	松下健二
第6回	「器械運動」の授業づくり (3) : 指導案の発表と模擬授業	松下健二
第7回	「陸上競技」の授業づくり (1) : 「ハードル走」、「走り高跳び」の教材研究	松下健二
第8回	「陸上競技」の授業づくり (2) : 指導案の作成	松下健二
第9回	「陸上競技」の授業づくり (3) : 指導案の発表と模擬授業	松下健二
第10回	「球技」の授業づくり (1) : 「バレーボール」、「バスケットボール」の教材研究	松下健二
第11回	「球技」の授業づくり (2) : 指導案の作成	松下健二
第12回	「球技」の授業づくり (3) : 指導案の発表と模擬授業	松下健二
第13回	保健分野の授業づくり (1) : 「防止の防止」の教材研究	松下健二
第14回	保健分野の授業づくり (2) : 情報機器の活用を含めた指導案の作成	松下健二
第15回	保健分野の授業づくり (3) : 指導案の作成と模擬授業	松下健二
第16回	単位認定試験	松下健二
教科書		
教・書籍名1	新版 体育科教育学入門	教・出版社名1
教・著者名1	編著：高橋健夫、岡出美則、友添秀則、岩田靖	教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	中学校・高等学校の授業づくり入門	参・出版社名1
参・著者名1	編著：鈴木秀人・山本理人・佐藤善人・茂樹茂樹・小出高義	参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	保健体育科教育法Ⅲ			担当者	松下 健二		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	TC-SM-3-903		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・実技
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	模擬授業を通じて実技科目の実践指導方法を習得する。体育分野の4つの内容の実技について「できる」「わかる」「教えることができる」の能力をつける。						
授業概要	<p>「体づくり運動」「器械運動」「陸上競技」「球技」の各種目の指導方法を習得する。まず各種目について技ができる(示範)ようにスマートフォンなどで動画をその場で撮り、自己の動作を把握・改善する。技の運動構造を分析することから成功する「コツ」を理解し、その上で指導する際の留意点や効果的な指導法について学ぶ。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、高等学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/グループワーク/プレゼンテーション						
評価方法と割合	受講態度(25%)、レポート(25%)、試験(50%)で総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は提出後の次の授業の最初にレクチャアする。終講テストはテスト後自己採点をおこなわせ、誤りを自覚・訂正させる。						
履修条件・注意事項	実技を伴うので体操服、体育館シューズ、屋外用シューズを用意し、体の調子に気をつける。 中学校保健体育科教諭資格必修科目						
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和46年4月～48年3月まで兵庫県立神戸工業高等学校にて保健体育教員として勤務				
事前学習・事後学習とその時間	予習として各運動領域の学習内容を授業前に参考図書を利用して把握しておくこと。復習として学んだ指導法についてノートを作成しすること。予習・復習とも2時間ほど行うこと。						
オフィスアワー	授業後教室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	体づくり運動①体ほぐし					松下健二	
第2回	体ほぐ運動②体の動きを高める運動(筋力養成)					松下健二	
第3回	体づくり運動③体の動きを高める運動(調整力、持久力養成)					松下健二	
第4回	器械運動①マット運動(回転系:接点系)					松下健二	
第5回	器械運動②マット運動(回転系:翻転系)					松下健二	
第6回	器械運動③跳び箱					松下健二	
第7回	器械運動④平均台					松下健二	
第8回	陸上競技①ハードル走					松下健二	
第9回	陸上競技②走り高跳び					松下健二	
第10回	陸上競技③砲丸投げ					松下健二	
第11回	球技①:ゴール型(サッカー)					松下健二	
第12回	球技②:ゴール型(バスケットボール)					松下健二	
第13回	球技③:ネット型(バレーボール)					松下健二	
第14回	球技④:ネット型(バドミントン)					松下健二	
第15回	球技⑤:ベースボール型(ソフトボール)					松下健二	
第16回	単位認定試験					松下健二	
教科書							

教・書籍名1	体育の授業と教授技術	教・出版社名1	大修館書店
教・著者名1	阪田尚彦	教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	中・高 器械運動の授業づくり	参・出版社名1	大修館書店
参・著者名1	編著：三木四郎・加藤澤男・清人清人	参・ISBN1	
参・書籍名2	中学・高校 陸上競技の学習指導「分かって・できる」指導の工夫	参・出版社名2	道和書院
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	保健体育科教育法Ⅳ			担当者	松下 健二		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	TC-SM-3-904		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	体育教師の力量を高める。体育授業で求められる教師の力量が何であるかを理解するとともに、指導案（細案）を作成し、模擬授業を行い、授業分析・評価することから教授力を高める。						
授業概要	<p>教師行動と教授技術および授業分析・評価について理解する。模擬授業を行うとともにそれをVTRに記録し、次の授業において記録された模擬授業を分析・評価し、授業における教授能力を高める。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、高等学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	受講態度（25%）＋レポート（25%）＋試験（50%）で総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は提出後の次の授業最初にレクチャアを行なう。終講テストはテスト後自己採点を行なわせ、誤りを訂正させる。						
履修条件・注意事項	<p>前の授業の要点の確実な理解から、次の授業を始めるので、授業後にノートをまとめ、配布された資料を基にして次の授業内容について把握しておくこと。レポートの提出状況が試験の受験条件になる。</p> <p>中学校保健体育科教諭資格必修科目</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和46年4月～48年3月兵庫県立神戸工業高等学校にて保健体育科担当教員として勤務				
事前学習・事後学習とその時間	各模擬授業の実践例についてVTRなどを参考にして予習しておくこと。復習として、実践された模擬授業を分析するとともに評価を行い次の授業につなげる。予習・復習とも2時間ほど行うこと。						
オフィスアワー	授業後、教室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	「体づくり運動」の授業づくり (1) 体ほぐし：指導案の作成と模擬授業					松下健二	
第2回	「体づくり運動」の授業づくり (2) 体ほぐし：模擬授業の授業分析と授業改善					松下健二	
第3回	「体づくり運動」の授業づくり (3) 体ほぐし：授業改善に基づく指導案の作成と模擬授業					松下健二	
第4回	「器械運動」の授業づくり (1) マット運動：指導案の作成と模擬授業					松下健二	
第5回	「器械運動」の授業づくり (2) マット運動：模擬授業の授業分析と授業改善					松下健二	
第6回	「器械運動」の授業づくり (3) マット運動：授業改善に基づく指導案の作成と模擬授業					松下健二	
第7回	「陸上競技」の授業づくり (1) ハードル走：指導案の作成と模擬授業					松下健二	
第8回	「陸上競技」の授業づくり (2) ハードル走：の模擬授業の授業分析と授業改善					松下健二	
第9回	「陸上競技」の授業づくり (3) ハードル走：授業改善に基づく指導案の作成と模擬授業					松下健二	

第10回	「球技」の授業づくり (1) バレーボール：指導案の作成と模擬授業	松下健二
第11回	「球技」の授業づくり (2) バレーボール：の授業分析と授業改善	松下健二
第12回	「球技」の授業づくり (3) バレーボール：授業改善に基づく指導案の作成と模擬授業	松下健二
第13回	保健分野の授業づくり (1) 傷害の防止：情報機器の活用を含めた指導案模擬授業模擬授業	松下健二
第14回	保健分野の授業づくり (2) 傷害の防止：模擬授業の授業分析と授業改善	松下健二
第15回	保健分野の授業づくり (3) 傷害の防止：授業改善に基づく指導案の作成と模擬授業	松下健二
第16回	単位認定試験	松下健二
教科書		
教・書籍名1	新版 体育科教育学入門	教・出版社名1
教・著者名1	編著：高橋健夫・岡出美則・友添秀則・岩田靖	教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1	戸部秀之・齋藤久美	参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	教育原論（看護・心理）			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	TC-SM-1-905		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	△
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感	△	DP 8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	<p>【授業のテーマ】</p> <p>教育の思想及び制度の歴史を学ぶことにより、教育はどのような要因によって成り立ち、左右されてきたかを理解し、その知識・理解をもとに今後の教育の在り方について考察する力量を身に着ける</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生は教育の基本概念を理解し、適切に用いることができる 2. 学生は代表的な教育思想家の学習論・教育思想・社会観・子ども観を理解し、説明できる 3. 学生は近代公教育（学校）をはじめとする主要な教育制度の成立および変遷を理解し、説明できる 4. 学生は家庭、社会における教育について理解し、それをもとに学校教育の役割を理解し、説明できる 5. 学生は上記の学習を通じて教育の本質について考察し、今後の教育制度（学校など）の役割について自身の考えを表現できる 						
授業概要	<p>本講義は教育の歴史を概括的に学ぶ科目である。この講義では歴史的事象もさることながら、社会が変動する中で子ども観・教育観・学習観がいかに変容し、それに伴い家庭教育、地域社会（共同体）の教育、学校教育がいかに変容していくのかを理解してもらいたい。その結果、多様な教育実践・制度の相互作用などを理解し、各自の教育に関する意見を構築できるようにしていく。</p> <p>本講義は大きく6つの段階に分けて展開する。1・2回目では教育の基礎概念について理解するとともに家庭などにおける日常的（非組織的）な学びの在り方について触れる。その後、教育思想がどのような社会観・子ども観によって形成されるのかを古代・中世・近代・現代のそれぞれに区分し紹介する。特に近代公教育制度の成立については、学校教育の本質にかかわる事項であるので若干詳細に検討する。その後、特に1990年代後半以降の現代社会の在り方を考察し、現在教育という営為がどのように社会の課題と向き合い、新たな実践を生み出しているのかを考察する。</p>						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	各回の講義の振り返りを行う学習記録（15%）、レポート（15%）、定期試験（70%）で評価する。なお、評価に関わる事項の詳細については初回講義で説明する。						
ルーブリック評価	本講義は規定ルーブリックは用いない。						
課題や試験のフィードバック方法	学習記録は各回担当者のコメントを付して返却される。レポート及び筆記試験については、再試験日程発表の際に総括的にフィードバックを行う。その後、ユニバーサルパスポートなどで個別のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本講義は、教員免許状取得のための講義であり、卒業要件に当てはまるか否かは必ず学生便覧を確認してから履修すること。加えて、教職課程として履修するものは将来教員になる者とみなすので、それにふさわしい授業態度で臨むこと。また、教職課程を履修しないものの履修も可能であるが、その場合でも教職課程を取っているものと同様の態度などで臨むこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	各回講義の予習と復習を行っていただく（学習記録用紙）。予習のために、基礎的な用語や歴史について教科書や参考書を用いて学習する必要がある。講義後の復習として講義内容を振り返り、重要事項や各自の考え方の変化を振り返る課題を課す。配布資料を読みなし、理解を振り返る学習を進めること。各回講義ごとに約2時間の学習が必要である。						
オフィスアワー	水曜日4限 研究室（9301）						

授業計画		担当者	
第1回	教育の基礎概念	倉知典弘	
第2回	教育の源形態－家庭・共同体による教育	倉知典弘	
第3回	古代の教育思想（1）西洋の教育思想	倉知典弘	
第4回	第4回：古代の教育思想（2）日本の教育思想	倉知典弘	
第5回	中世の教育思想（1）宗教と教育	倉知典弘	
第6回	第6回：中世の教育思想（2）ルネサンスと教育	倉知典弘	
第7回	近代の教育思想（1）産業革命と教育	倉知典弘	
第8回	近代の教育思想（2）近代教育制度の成立	倉知典弘	
第9回	近代の教育思想（3）教育学の成立と展開	倉知典弘	
第10回	現代の教育思想（1）新教育運動の諸相	倉知典弘	
第11回	現代の教育思想（2）戦争と教育	倉知典弘	
第12回	現代の教育思想（3）東西冷戦下の教育	倉知典弘	
第13回	現代社会と教育（1）現代社会の課題と教育	倉知典弘	
第14回	現代社会と教育（2）子どもの生活世界の変容と教育	倉知典弘	
第15回	第15回：現代社会と教育（3）－まとめにかえて	倉知典弘	
第16回	筆記試験	倉知典弘	
教科書			
教・書籍名1	『教育思想史』（有斐閣アルマ）	教・出版社名1	有斐閣
教・著者名1	今井康雄編	教・ISBN1	978-4641123847
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	教育の歴史と思想	参・出版社名1	ミネルヴァ書房
参・著者名1	石村華代・軽部勝一郎編	参・ISBN1	978-4623065844
参・書籍名2	新訂 学習指導要領は国民形成の設計書: その能力観と人間像の歴史の変遷	参・出版社名2	東北大学出版会
参・著者名2	水原克敏	参・ISBN2	978-4861633171

授業科目名	教育原論 (スポ社)			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	TC-SM-1-905		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	△
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感	△	DP 8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	<p>【授業のテーマ】</p> <p>教育の思想及び制度の歴史を学ぶことにより、教育はどのような要因によって成り立ち、左右されてきたかを理解し、その知識・理解をもとに今後の教育の在り方について考察する力量を身に着ける</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の基本概念を理解し、適切に用いることができるようになる 2. 代表的な教育思想家の学習論・教育思想・社会観・子ども観を理解する 3. 近代公教育（学校）をはじめとする主要な教育制度の成立および変遷を理解する 4. 家庭、社会における教育について理解し、それをもとに学校教育の役割を理解する 5. 上記の学習を通じて教育の本質について理解し、今後の教育制度（学校など）の役割について自身の意見を持つ 						
授業概要	<p>本講義は教育の歴史を概括的に学ぶ科目である。この講義では歴史的事象もさることながら、社会が変動する中で子ども観・教育観・学習観がいかに変容し、それに伴い家庭教育、地域社会（共同体）の教育、学校教育がいかに変容していくのかを理解してもらいたい。その結果、多様な教育実践・制度の相互作用などを理解し、各自の教育に関する意見を構築できるようにしていく。</p> <p>本講義は大きく6つの段階に分けて展開する。1・2回目では教育の基礎概念について理解するとともに家庭などにおける日常的（非組織的）な学びの在り方について触れる。その後、教育思想がどのような社会観・子ども観によって形成されるのかを古代・中世・近代・現代のそれぞれに区分し紹介する。特に近代公教育制度の成立については、学校教育の本質にかかわる事項であるので若干詳細に検討する。その後、特に1990年代後半以降の現代社会の在り方を考察し、現在教育という営為がどのように社会の課題と向き合い、新たな実践を生み出しているのかを考察する。</p>						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	各回の講義の振り返りを行う学習記録（15%）、レポート（15%）、定期試験（70%）で評価する。なお、評価に関わる事項の詳細については初回講義で説明する。						
ルーブリック評価	本講義は規定ルーブリックは用いない。						
課題や試験のフィードバック方法	学習記録は各回担当者のコメントを付して返却される。レポート及び筆記試験については、再試験日程発表の際に総括的にフィードバックを行う。その後、ユニバーサルパスポートなどで個別のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本講義は、教員免許状取得のための講義であり、卒業要件に当てはまるか否かは必ず学生便覧を確認してから履修すること。加えて、教職課程として履修するものは将来教員になる者とみなすので、それにふさわしい授業態度で臨むこと。また、教職課程を履修しないものの履修も可能であるが、その場合でも教職課程を取っているものと同様の態度などで臨むこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	各回講義の予習と復習を行っていただく（学習記録用紙）。予習のために、基礎的な用語や歴史について教科書や参考書を用いて学習する必要がある。講義後の復習として講義内容を振り返り、重要事項や各自の考え方の変化を振り返る課題を課す。配布資料を読みなし、理解を振り返る学習を進めること。各回講義ごとに約2時間の学習が必要である。						
オフィスアワー	水曜日4限 研究室 (9301)						

授業計画		担当者	
第1回	教育の基礎概念	倉知典弘	
第2回	教育の源形態－家庭・共同体による教育	倉知典弘	
第3回	古代の教育思想（1）西洋の教育思想	倉知典弘	
第4回	第4回：古代の教育思想（2）日本の教育思想	倉知典弘	
第5回	中世の教育思想（1）宗教と教育	倉知典弘	
第6回	第6回：中世の教育思想（2）ルネサンスと教育	倉知典弘	
第7回	近代の教育思想（1）産業革命と教育	倉知典弘	
第8回	近代の教育思想（2）近代教育制度の成立	倉知典弘	
第9回	近代の教育思想（3）教育学の成立と展開	倉知典弘	
第10回	現代の教育思想（1）新教育運動の諸相	倉知典弘	
第11回	現代の教育思想（2）戦争と教育	倉知典弘	
第12回	現代の教育思想（3）東西冷戦下の教育	倉知典弘	
第13回	現代社会と教育（1）現代社会の課題と教育	倉知典弘	
第14回	現代社会と教育（2）子どもの生活世界の変容と教育	倉知典弘	
第15回	第15回：現代社会と教育（3）－まとめにかえて	倉知典弘	
第16回	筆記試験	倉知典弘	
教科書			
教・書籍名1	『教育思想史』（有斐閣アルマ）	教・出版社名1	有斐閣
教・著者名1	今井康雄編	教・ISBN1	978-4641123847
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	教育の歴史と思想	参・出版社名1	ミネルヴァ書房
参・著者名1	石村華代・軽部勝一郎編	参・ISBN1	978-4623065844
参・書籍名2	新訂 学習指導要領は国民形成の設計書: その能力観と人間像の歴史的変遷	参・出版社名2	東北大学出版会
参・著者名2	水原克敏	参・ISBN2	978-4861633171

授業科目名	教職論 (スポ社)			担当者	池上 真由美		
配当学科・研究科	2019年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年/ 2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	TC-SM-1-906		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 8. 働きがいも経済成長も / 16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	教職についての基礎的な知識（教職の歴史と社会的使命、教員の職務、教員養成と研修、服務規程、「チームとしての学校」の一員としての役割等）について理解するとともに、教員としての自らの適性について考えることを目標とする。						
授業概要	教師、教職、人を教育するという行為など、教育という営みをめぐる哲学的、原理的な課題からはじまり、学校教育、教員の使命と役割、学校における教員のさまざまな活動について理解する。また、これからの学校においては、「チームとしての学校」の体制の中で、一人の教員として自らの専門性を発揮し組織の一員として課題解決に当たる資質・能力が求められることを理解する。さらに、グループ討議等を通して、教員をめざすにあたり、自分には求められる資質・能力があるか、自分は教職に向いているかを真剣に考える場をもつようにする。						
アクティブラーニングの内容	反転授業 / ディスカッション / グループワーク						
評価方法と割合	<p>[試験] 60% (授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する。)</p> <p>[提出物] 20% (レポート課題、コメント用紙等により評価する。)</p> <p>[授業への参画状況] 20% (発表及び発言内容、教職への意欲や態度等を総合的に評価する。)</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は、ルーブリックを添付して授業でフィードバックする。コメント用紙の内容は、次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめて、フィードバックする。						
履修条件・注意事項	基本的に毎時行う予習課題の発表、グループ・ディスカッションなどに積極的に参加することが望まれる。なお、授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、小中学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習課題をもとに、目的意識をもって授業を受けること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。						
オフィスアワー	月曜日2限						
授業計画						担当者	
第1回	教師の歴史と教師論					池上	
第2回	求められる教員の資質の変遷					池上	
第3回	教育的諸問題と教職の課題					池上	
第4回	教員の仕事と役割① (種類と職階、関係づくり)					池上	
第5回	教員の仕事と役割② (教科指導)					池上	

第6回	教員の仕事と役割③（教科外指導）	池上	
第7回	教員の仕事と役割④（進路指導）	池上	
第8回	教員の仕事と役割⑤（学級経営・学校経営・校務分掌）	池上	
第9回	教員の仕事と役割⑥（教育相談）	池上	
第10回	教員の仕事と役割⑦（学級崩壊）	池上	
第11回	教員の研修	池上	
第12回	服務規程	池上	
第13回	小中学校の教員	池上	
第14回	高等学校・特別支援学校の教員	池上	
第15回	教員養成と教職課程	池上	
第16回	筆記試験	池上	
教科書			
教・書籍名1	教職論 教師を志すすべての人へ 第2版	教・出版社名1	
教・著者名1	教職問題研究会	教・ISBN1	978-4-623-05305-6
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	教育行政学（スポ社）			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	TC-SM-3-907		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力	△	DP 7. 自己効力感	△	DP 8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	授業のテーマ 現在日本の教育制度の仕組み、意義、基本原理を理解するとともに教育制度の一部である学校の経営やその制度的背景について理解する。そのうえで、社会や子どもを取り巻く課題に教育制度・学校経営がどの程度対応できているのかを考え、将来の教育制度・学校経営のあるべき姿を考察する。 到達目標 1. 学生は教育行政・公教育の原理、理念、作用及び仕組みを理解し、説明できる 2. 学生は学校、教育機関の目的を理解し、その目標をどのように達成しようとしているか理解し、説明できる 3. 学生は学校経営の組織体制及びマネジメント手法について理解し、説明できる 4. 学生は子どもたちをめぐる問題に対する制度的・経営的対応を理解し、対応の仕方を考察できる 5. 学生は現在の教育改革及び行財政改革の基本的な方向を理解し、説明できる 6. 学生は子どもや社会の現状、行財政改革の現状などの正確な理解をもとに今後の教育行政・学校経営のあるべき姿について自身の意見を提示できる						
授業概要	本講義は、教育制度の理解を深める段階と教育制度の理解をもとに学校経営を理解することを目的としている。まず最初に公教育が存在する理由を「公共性」概念及び「公共財」概念を紐解くことにより明らかにする（第1回）。そのうえで現状の法制・機構・仕組みについて検討する。その後、教育行政の理念を諸外国の事例や裁判での論争事例をもとに批判的に検討していく（第2回～第7回）。 以上のような教育行政全体の動向・課題を明らかにしたのち、その制度によって支えられている学校経営について「組織マネジメント」及び「問題行動」「子どもの現状」への対応という観点から解説及び討議を行う。特に近年注目されている「学校安全・危機管理」「チームとしての学校」「地域社会との連携」については詳細に検討を行い、学校経営の在り方を考える示唆を提示したい（第8回～第14回）。そして、最後に今後の教育行政と学校経営の在り方について総括的な議論を行い、教員になる学生の教職意識の向上に役立てる（第15回）。 本講義では日本の事例を主に扱うが諸外国に先進的な事例や参考になる事例がある場合には適宜それを紹介するので、日本の現状を批判的に見つめるための視野を身に付けてもらいたい。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	学習記録の提出（15%）及びレポート課題（15%）及び定期試験（70%）で評価する。評価に関わる詳細は初回講義の際に示す。						
ルーブリック評価	本講義は規定ルーブリックは用いない。						
課題や試験のフィードバック方法	習記録は各回担当者のコメントを付して返却される。レポート及び筆記試験については、再試験日程発表の際に総括的にフィードバックを行う。その後、ユニバーサルパスポートなどで個別のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本講義は、教員免許状取得のための講義であり、卒業要件に当てはまるか否かは必ず学生便覧を確認してから履修すること。加えて、教職課程として履修するものは将来教員になる者とみなすので、それにふさわしい授業態度で臨むこと。また、教職課程を履修しないものの履修も可能であるが、その場合でも教職課程を取っているものと同等の態度などで臨むこと						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習として1) 講義に取り上げる予定の法令調べ 2) 講義にかかわる事項の調べ 3) テーマに関わる論述課題を課す（2時間程度）。論述課題の内容は講義でも取り上げる。 復習として1) 講義のキーワードのまとめ 2) 論述課題 3) 講義の振り返りを課す（2時間程度）						

オフィスアワー	水曜日4限 研究室 (9301) にて		
授業計画			担当者
第1回	公教育の基本原理と教育行政：教育の公共性について		倉知典弘
第2回	教育の法制の概要：教育の法律主義について		倉知典弘
第3回	教育行政の機構：教育行政のガバナンス		倉知典弘
第4回	教育の中立性確保：宗教的中立と政治的中立		倉知典弘
第5回	教育の義務制と機会均等：教育福祉の観点から		倉知典弘
第6回	教育機関の設置・管理：学校と社会教育・生涯学習		倉知典弘
第7回	教育職員に関わる法制：養成・採用・服務を中心に		倉知典弘
第8回	学校の組織体制：チームとしての学校を中心に		倉知典弘
第9回	学校経営計画と評価：PDCAサイクル		倉知典弘
第10回	学校における教育活動：教育課程		倉知典弘
第11回	学校における生徒指導：「問題行動」とその制度的対応		倉知典弘
第12回	学校経営の諸課題(1)地域社会との連携		倉知典弘
第13回	学校経営の諸課題(2)学校安全・学校保健		倉知典弘
第14回	学校経営の諸課題(3)子どもの現状とその制度的対応		倉知典弘
第15回	現代教育改革と教育行政・学校経営		倉知典弘
第16回	筆記試験		倉知典弘
教科書			
教・書籍名1	教育行政学 第3版 子ども・若者の未来を拓く	教・出版社名1	八千代出版
教・著者名1	横井敏郎編	教・ISBN1	9784842917849
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	教育小六法	参・出版社名1	学陽書房
参・著者名1	市川須美子、小野田正利、勝野 正章、窪田 眞二、中嶋 哲彦、成嶋隆	参・ISBN1	978-4313011953
参・書籍名2	中学校学習指導要領（最新版） 高等学校学習指導要領（最新版）	参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	教育行政学（看護・心理）			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	TC-SM-3-907		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力	△	DP 7. 自己効力感	△	DP 8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	<p>授業のテーマ 現在日本の教育制度の仕組み、意義、基本原理を理解するとともに教育制度の一部である学校の経営やその制度的背景について理解する。そのうえで、社会や子どもを取り巻く課題に教育制度・学校経営がどの程度対応できているのかを考え、将来の教育制度・学校経営のあるべき姿を考察する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生は教育行政・公教育の原理、理念、作用及び仕組みを理解し、説明できる 2. 学生は学校、教育機関の目的を理解し、その目標をどのように達成しようとしているか理解し、説明できる 3. 学生は学校経営の組織体制及びマネジメント手法について理解し、説明できる 4. 学生は子どもたちをめぐる問題に対する制度的・経営的対応を理解し、対応の仕方を考察できる 5. 学生は現在の教育改革及び行財政改革の基本的な方向を理解し、説明できる 6. 学生は子どもや社会の現状、行財政改革の現状などの正確な理解をもとに今後の教育行政・学校経営のあるべき姿について自身の意見を提示できる 						
授業概要	<p>本講義は、教育制度の理解を深める段階と教育制度の理解をもとに学校経営を理解することを目的としている。まず最初に公教育が存在する理由を「公共性」概念及び「公共財」概念を紐解くことにより明らかにする（第1回）。そのうえで現状の法制・機構・仕組みについて検討する。その後、教育行政の理念を諸外国の事例や裁判での論争事例をもとに批判的に検討していく（第2回～第7回）。</p> <p>以上のような教育行政全体の動向・課題を明らかにしたのち、その制度によって支えられている学校経営について「組織マネジメント」及び「問題行動」「子どもの現状」への対応という観点から解説及び討議を行う。特に近年注目されている「学校安全・危機管理」「チームとしての学校」「地域社会との連携」については詳細に検討を行い、学校経営の在り方を考える示唆を提示したい（第8回～第14回）。そして、最後に今後の教育行政と学校経営の在り方について総括的な議論を行い、教員になる学生の教職意識の向上に役立てる（第15回）。</p> <p>本講義では日本の事例を主に扱うが諸外国に先進的な事例や参考になる事例がある場合には適宜それを紹介するので、日本の現状を批判的に見つめるための視野を身に付けてもらいたい。</p>						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	学習記録の提出（15%）及びレポート課題（15%）及び定期試験（70%）で評価する。評価に関わる詳細は初回講義の際に示す。						
ルーブリック評価	本講義は規定ルーブリックは用いない。						
課題や試験のフィードバック方法	習記録は各回担当者のコメントを付して返却される。レポート及び筆記試験については、再試験日程発表の際に総括的にフィードバックを行う。その後、ユニバーサルパスポートなどで個別のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本講義は、教員免許状取得のための講義であり、卒業要件に当てはまるか否かは必ず学生便覧を確認してから履修すること。加えて、教職課程として履修するものは将来教員になる者とみなすので、それにふさわしい授業態度で臨むこと。また、教職課程を履修しないものの履修も可能であるが、その場合でも教職課程を取っているものと同等の態度などで臨むこと						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	<p>予習として1) 講義に取り上げる予定の法令調べ 2) 講義にかかわる事項の調べ 3) テーマに関わる論述課題を課す（2時間程度）。論述課題の内容は講義でも取り上げる。</p> <p>復習として1) 講義のキーワードのまとめ 2) 論述課題 3) 講義の振り返りを課す（2時間程度）</p>						

オフィスアワー	水曜日4限 研究室 (9301) にて		
授業計画			担当者
第1回	公教育の基本原理と教育行政：教育の公共性について		倉知典弘
第2回	教育の法制の概要：教育の法律主義について		倉知典弘
第3回	教育行政の機構：教育行政のガバナンス		倉知典弘
第4回	教育の中立性確保：宗教的中立と政治的中立		倉知典弘
第5回	教育の義務制と機会均等：教育福祉の観点から		倉知典弘
第6回	教育機関の設置・管理：学校と社会教育・生涯学習		倉知典弘
第7回	教育職員に関わる法制：養成・採用・服務を中心に		倉知典弘
第8回	学校の組織体制：チームとしての学校を中心に		倉知典弘
第9回	学校経営計画と評価：PDCAサイクル		倉知典弘
第10回	学校における教育活動：教育課程		倉知典弘
第11回	学校における生徒指導：「問題行動」とその制度的対応		倉知典弘
第12回	学校経営の諸課題(1)地域社会との連携		倉知典弘
第13回	学校経営の諸課題(2)学校安全・学校保健		倉知典弘
第14回	学校経営の諸課題(3)子どもの現状とその制度的対応		倉知典弘
第15回	現代教育改革と教育行政・学校経営		倉知典弘
第16回	筆記試験		倉知典弘
教科書			
教・書籍名1	教育行政学 第3版 子ども・若者の未来を拓く	教・出版社名1	八千代出版
教・著者名1	横井敏郎編	教・ISBN1	9784842917849
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	教育小六法	参・出版社名1	学陽書房
参・著者名1	市川須美子、小野田正利、勝野 正章、窪田 眞二、中嶋 哲彦、成嶋隆	参・ISBN1	978-4313011953
参・書籍名2	中学校学習指導要領（最新版） 高等学校学習指導要領（最新版）	参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	教育心理学（看護・心理）			担当者	藤原 直子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	TC-SM-2-908		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	△	DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに / 10. 人や国の不平等をなくそう</p> 						
到達目標	<p>1. 教育心理学の重要性を理解し、教育領域に有用な心理学的知識とその活用を学ぶ</p> <p>2. 児童生徒の心の発達プロセス理解と、それに適合した、あるいは促進させる教育心理学的アプローチのあり方を身につける</p> <p>3. 児童生徒の示す心理的問題や、教育上特別な支援が必要な児童生徒の心理学的理解と、具体的な支援に寄与しうる教育心理学的知識を身につける</p>						
授業概要	<p>この講義では、教育領域における心理学的理論と知識、および教育領域に適用可能な心理学的手法を学ぶ。まず教育心理学の理論と方法を概観し、児童生徒個人の心理的発達の諸側面を学んでいく。そして、学習理論や動機づけの理論に基づいて児童生徒にアプローチする心理学的知識と手法についても解説し、さまざまな学校現場における諸問題や児童生徒の困難さに対する支援方法を学ぶ。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション						
評価方法と割合	<p>評価は、講義内で行う小テスト・レポート・振り返りシート、学期末に実施する単位認定試験の得点を総合して行う。評価の内訳は、講義内の小テスト20%、レポート・演習課題20%、単位認定試験60%で、総合100点満点中60点以上を単位認定の対象とする。</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義内の小テストや演習課題について、講義内で回答・フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	<p>講義をしっかり聴き積極的な学びに努めること。</p> <p>毎回プリント等を配布するので、ファイルを用意しておくこと。</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、幼稚園・小学校での教員経験、小中高等学校でのスクールカウンセラーの実務経験がある教員が担当する。教育現場における現状や課題、教員として必要とされる心理学の知識や支援方法について教授し、実践に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	<p>1. 初回授業にて配布する「講義計画」に基づいて、テキストの該当ページを事前に読み予習する。</p> <p>2. 授業内で定期的実施する小テストの内容をもとに、復習を行う。</p> <p>3. 授業終了時に配布する「まとめプリント」の空欄を記入し、復習を行う。</p> <p>以上のような予習・復習に、毎回1～2時間を要する。</p>						
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週月曜日4限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション、教育心理学とは						藤原直子
第2回	心身の発達①：発達の基礎的な理論と乳幼児期の発達						藤原直子
第3回	心身の発達②：児童期						藤原直子
第4回	心身の発達③：青年期以降						藤原直子
第5回	学習と知識獲得						藤原直子
第6回	認知的情報処理と記憶						藤原直子
第7回	動機づけと学習						藤原直子
第8回	認知発達と学習支援						藤原直子
第9回	学級集団と学習支援						藤原直子
第10回	個性や個人差と学習支援						藤原直子
第11回	教育評価						藤原直子
第12回	障害の基本的理解と学校教育における配慮						藤原直子

第13回	困難さを抱える子どもへの教育的支援	藤原直子	
第14回	子どもの情緒・適応の理解と心理的支援	藤原直子	
第15回	学校教育を取り巻く諸問題と教育心理学	藤原直子	
第16回	試験	藤原直子	
教科書			
教・書籍名1	よくわかる教職エクササイズ② 教育心理学	教・出版社名1	ミネルヴァ書房
教・著者名1	森田健宏・田爪宏二	教・ISBN1	978-4-623-08177-6
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	教育心理学（スポ社）			担当者	藤原 直子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	TC-SM-2-908		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに / 10. 人や国の不平等をなくそう</p> 						
到達目標	<p>1. 教育心理学の重要性を理解し、教育領域に有用な心理学的知識とその活用を学ぶ</p> <p>2. 児童生徒の心の発達プロセス理解と、それに適合した、あるいは促進させる教育心理学的アプローチのあり方を身につける</p> <p>3. 児童生徒の示す心理的問題や、教育上特別な支援が必要な児童生徒の心理学的理解と、具体的な支援に寄与しうる教育心理学的知識を身につける</p>						
授業概要	<p>この講義では、教育領域における心理学的理論と知識、および教育領域に適用可能な心理学的手法を学ぶ。まず教育心理学の理論と方法を概観し、児童生徒個人の心理的発達の諸側面を学んでいく。そして、学習理論や動機づけの理論に基づいて児童生徒にアプローチする心理学的知識と手法についても解説し、さまざまな学校現場における諸問題や児童生徒の困難さに対する支援方法を学ぶ。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション						
評価方法と割合	<p>評価は、講義内で行う小テスト・レポート・振り返りシート、学期末に実施する単位認定試験の得点を総合して行う。評価の内訳は、講義内の小テスト20%、レポート・演習課題20%、単位認定試験60%で、総合100点満点中60点以上を単位認定の対象とする。</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義内の小テストや演習課題について、講義内で回答・フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	<p>講義をしっかり聴き積極的な学びに努めること。</p> <p>毎回プリント等を配布するので、ファイルを用意しておくこと。</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	<p>この科目は、幼稚園・小学校での教員経験、小中高等学校でのスクールカウンセラーの実務経験がある教員が担当する。教育現場における現状や課題、教員として必要とされる心理学の知識や支援方法について教授し、実践に役立つ授業を実施する。</p>				
事前学習・事後学習とその時間	<p>1. 初回授業にて配布する「講義計画」に基づいて、テキストの該当ページを事前に読み予習する。</p> <p>2. 授業内で定期的実施する小テストの内容をもとに、復習を行う。</p> <p>3. 授業終了時に配布する「まとめプリント」の空欄を記入し、復習を行う。</p> <p>以上のような予習・復習に、毎回1～2時間を要する。</p>						
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週月曜日5限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション、教育心理学とは						藤原直子
第2回	心身の発達①：発達の基礎的な理論と乳幼児期の発達						藤原直子
第3回	心身の発達②：児童期						藤原直子
第4回	心身の発達③：青年期以降						藤原直子
第5回	学習と知識獲得						藤原直子
第6回	認知的情報処理と記憶						藤原直子
第7回	動機づけと学習						藤原直子
第8回	認知発達と学習支援						藤原直子
第9回	学級集団と学習支援						藤原直子
第10回	個性や個人差と学習支援						藤原直子
第11回	教育評価						藤原直子
第12回	障害の基本的理解と学校教育における配慮						藤原直子

第13回	困難さを抱える子どもへの教育的支援	藤原直子	
第14回	子どもの情緒・適応の理解と心理的支援	藤原直子	
第15回	学校教育を取り巻く諸問題と教育心理学	藤原直子	
第16回	試験	藤原直子	
教科書			
教・書籍名1	よくわかる教職エクササイズ② 教育心理学	教・出版社名1	ミネルヴァ書房
教・著者名1	森田健宏・田爪宏二	教・ISBN1	978-4-623-08177-6
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	特別支援教育（スポ社）後半8回			担当者	藤原 直子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	TC-SM-2-909		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 10. 人や国の不平等をなくそう 						
到達目標	<p>発達障害をはじめとする特別な支援を必要とする幼児・児童および生徒の障害特性を理解し、適切な指導方法・支援方法に関する知識を身につけることを目標とする。</p> <p>さらに、特別支援教育の理念とシステムを学び、保護者や他の教員、関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を習得する。</p>						
授業概要	特別支援教育の対象であるそれぞれの障害の特性と心理的特徴について理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくための具体的な方法を学ぶ。						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/グループワーク						
評価方法と割合	講義内で行う小テスト・レポート・振り返りシート、学期末に実施する単位認定試験の得点を総合して行う。評価の内訳は、講義内の小テスト20%、レポート・演習課題20%、単位認定試験60%で、総合100点満点中60点以上を単位認定の対象とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義内の小テストや演習課題について、講義内で回答・フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義をしっかりと聞き積極的な学びに努めること。 プリント等を配布するので、ファイルを用意しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、教育現場における障害児者に対する心理的支援の実務経験（幼稚園・小学校での教員、小中高등학교でのスクールカウンセラー、特別支援教育に関する巡回相談）がある教員が担当し、教育現場における現状や課題、教員として必要とされる特別支援に関する知識や支援方法について教授する。				
事前学習・事後学習とその時間	<p>①初回授業にて配布する「講義計画」に基づいて、テキストの該当ページを事前に読み予習する。</p> <p>②授業内で実施する小テストの内容をもとに、復習を行う。</p> <p>③授業内で配布するプリントの空欄を記入し、復習を行う。</p> <p>以上のような予習・復習に、毎回1～2時間を要する。</p>						
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週月曜日4限目をオフィスアワーとする。						
授業計画						担当者	
第1回	特別支援教育の制度と理念、学校における支援体制及び連携					藤原直子	
第2回	特別支援教育の実際、指導計画の作成					藤原直子	
第3回	発達障害児の心身の発達・心理的特性					藤原直子	
第4回	自閉スペクトラム症（ASD）の児童生徒への理解と支援					藤原直子	
第5回	注意欠如多動症（ADHD）の児童生徒への理解と支援					藤原直子	
第6回	限局性学習症（LD）の児童生徒への理解と支援					藤原直子	
第7回	様々な障害のある児童生徒の特性と支援、まとめ					藤原直子	
第8回	試験					藤原直子	
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
第13回							

第14回			
第15回			
第16回			
教科書			
教・書籍名1	教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト	教・出版社名1	学研教育みらい
教・著者名1	小林倫代（編・著）	教・ISBN1	978-4-05-801762-3
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	教育課程論（スポ社）前半8回			担当者	池上 真由美		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	TC-SM-2-910		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	15	授業形態	講義・AL
年次	2年		開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 8. 働きがいも経済成長も / 16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	教育課程の編成と実施などについての基礎的・基本的な知識を修得し、学校や地域の特性と教師の創意・工夫を生かした魅力ある教育課程を編成するための方略について理解する、また、編成した教育課程を実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルについて理解することを目標とする。						
授業概要	教育課程とは何か、教育課程の変遷、教育課程の法体系と学習指導要領、新学習指導要領・新教育要領の改訂のポイントなどについて理解する。また、編成した教育課程を実施・評価し改善するカリキュラム・マネジメントのプロセスを、実践例を通して学び、演習やグループワーク等を行うことで、カリキュラム・マネジメント力を養う。						
アクティブラーニングの内容	反転授業 / ディスカッション / グループワーク						
評価方法と割合	<p>[試験] 60% (授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する。)</p> <p>[提出物] 20% (レポート課題、コメント用紙等により評価する。)</p> <p>[授業への参画状況] 20% (発表及び発言内容、教職への意欲や態度等を総合的に評価する。)</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題、コメント用紙の内容は、次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめて、フィードバックする。						
履修条件・注意事項	基本的に毎時行う予習課題の発表、グループ・ディスカッションなどに積極的に参加することが望まれる。なお、授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、小中学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習課題をもとに、目的意識をもって授業を受けること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。						
オフィスアワー	月曜日 2時限目						
授業計画						担当者	
第1回	教育課程とは何か					池上	
第2回	教育の目的と教育課程の編成					池上	

第3回	現代日本の教育課程の変遷	池上
第4回	新学習指導要領等の改訂のポイント「社会に開かれた教育課程」「学びの地図」「主体的・対話的で深い学び」	池上
第5回	近年の教育改革の動向および今後の課題	池上
第6回	幼稚園・小学校・中学校教育・高等学校教育における教育課程	池上
第7回	教育課程の法と行政、実践・カリキュラム・マネジメント	池上
第8回	筆記試験	池上
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
第16回		

教科書

教・書籍名1	はじめて学ぶ教育課程	教・出版社名1	ミネルヴァ書房
教・著者名1	広岡義之	教・ISBN1	978-4-623-07559-1
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	道徳教育の理論と方法（スポ社）			担当者	川上 はる江		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	TC-SM-3-911		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・討論・模擬授業
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう / 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	<p>【テーマ】道徳教育について、基礎理論を理解し、併せて実践的指導力(道徳科の授業力)を身に付けることができる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 基礎的知識として、道徳教育の歴史、道徳性の発達理論、道徳教育の役割と意義を理解する。 2) 道徳の読み物資料の分析の仕方、指導案の書き方を学修し、指導案を作成することができる。 3) 作成した指導案を基に模擬授業を実施する。 4) 道徳科の評価について考え方を理解することができる。 						
授業概要	道徳教育の基礎知識である、道徳教育の歴史、道徳性の発達理論、道徳の授業理論について、各自で課題を決めて学修し、パワーポイント資料にまとめ発表する。また、実践力育成という視点から、グループで、道徳の読み物資料を基に道徳的価値の分析を行い、道徳的価値について学びを深める。その後、学習指導案を作成し、模擬授業の実施、相互評価、改善点の話合いという一連の過程を通して、質の高い授業力を身に付ける。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	最終試験（50％） 授業全般にわたっての理解度を記述式及び空所補充の試験によって確認する。 提出物（20％） レポート課題、学習指導案、プリントの記載内容によって評価する。 授業への参加状況（30％） パワーポイントの発表、模擬授業、発言及び発言内容により総合的に判断する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎時間の課題（小プリント、レポート）については点数、コメントを付けて返す。模擬授業については、評価の視点を示し、授業後コメントを付けて返却する。						
履修条件・注意事項	事前に出されたプリントをする。テキストを必ず持参する。						
実務経験のある教員	該当する	内容	小学校教諭、教育センター研究員、小学校校長として38年間の実務経験を有する教員が、その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	予習 2時間	事前に出された予習プリントをしておくこと。					
	復習 2時間	学習した内容の要点をまとめておくこと。					
オフィスアワー	月5限 木3限 昼休み（10号館 個人研究室 10309）						
授業計画							担当者
第1回	15回の授業予定、道徳教育を学ぶ視点、道徳教育で培う道徳性。						川上
第2回	道徳教育の目標、学校における道徳教育の実際、全体計画、年間計画						川上
第3回	道徳資料の読み方 授業構成の仕方 資料1（視点A）						川上
第4回	学修指導案の書き方 資料を基に作成						川上
第5回	道徳教育の歴史 戦前、戦後の道徳教育の比較						川上
第6回	道徳性の発達理論 フロイト、ピアジェ						川上
第7回	道徳性の発達理論 コールバーグ、ブル						川上
第8回	総合単元的な道徳学習、統合的な道徳学習						川上
第9回	教材研究 学習指導案作成 資料2（視点B）						川上
第10回	模擬授業1（演習）相互評価 授業後の検討・①②グループ						川上
第11回	模擬授業2（演習）相互評価 授業後の検討 ③④グループ						川上
第12回	教材研究 学習指導案作成 資料3（視点D）						川上
第13回	模擬授業3 相互評価 授業後の検討 ⑤⑥グループ						川上

第14回	道徳科の評価 評価の基本的な考え方 具体例	川上
第15回	道徳教育の理論と方法 学習のまとめ	川上
第16回	定期試験(筆記試験)	川上
教科書		
教・書籍名1	道徳教育を学ぶ人のために(四訂版)	教・出版社名1 世界思想社
教・著者名1	小寺正一 藤永芳純 他	教・ISBN1 978-4-7907-0
教・書籍名2	中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編	教・出版社名2 教育出版
教・著者名2	文部科学省	教・ISBN2 978-4-316-30084-9
参考書		
参・書籍名1	楽しく豊かな「道徳の時間」をつくる	参・出版社名1 ミネルヴァ書房
参・著者名1	横山利弘 牧崎幸夫 他	参・ISBN1 978-4-623-08085-4
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	道徳教育の理論と方法（看護・心理）			担当者	川上 はる江		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	TC-SM-3-911		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・討論・模擬授業
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう / 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	<p>【テーマ】道徳教育について、基礎理論を理解し、併せて実践的指導力(道徳科の授業力)を身に付けることができる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 基礎的知識として、道徳教育の歴史、道徳性の発達理論、道徳教育の役割と意義を理解する。 2) 道徳の読み物資料の分析の仕方、指導案の書き方を学修し、指導案を作成することができる。 3) 作成した指導案を基に模擬授業を実施する。 4) 道徳科の評価について考え方を理解することができる。 						
授業概要	道徳教育の基礎知識である、道徳教育の歴史、道徳性の発達理論、道徳の授業理論について、各自で課題を決めて学修し、パワーポイント資料にまとめ発表する。また、実践力育成という視点から、グループで、道徳の読み物資料を基に道徳的価値の分析を行い、道徳的価値について学びを深める。その後、学習指導案を作成し、模擬授業の実施、相互評価、改善点の話合いという一連の過程を通して、質の高い授業力を身に付ける。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	最終試験（50％） 授業全般にわたっての理解度を記述式及び空所補充の試験によって確認する。 提出物（20％） レポート課題、学習指導案、プリントの記載内容によって評価する。 授業への参加状況（30％） パワーポイントの発表、模擬授業、発言及び発言内容により総合的に判断する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎時間の課題（小プリント、レポート）については点数、コメントを付けて返す。模擬授業については、評価の視点を示し、授業後コメントを付けて返却する。						
履修条件・注意事項	事前に出されたプリントをする。テキストを必ず持参する。						
実務経験のある教員	該当する	内容	小学校教諭、教育センター研究員、小学校校長として38年間の実務経験を有する教員が、その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	予習 2時間	事前に出された予習プリントをしておくこと。					
	復習 2時間	学習した内容の要点をまとめておくこと。					
オフィスアワー	月5限 木3限 昼休み（10号館 個人研究室 10309）						
授業計画							担当者
第1回	15回の授業予定、道徳教育を学ぶ視点、道徳教育で培う道徳性。						川上
第2回	道徳教育の目標、学校における道徳教育の実際、全体計画、年間計画						川上
第3回	道徳資料の読み方 授業構成の仕方 資料1（視点A）						川上
第4回	学修指導案の書き方 資料を基に作成						川上
第5回	道徳教育の歴史 戦前、戦後の道徳教育の比較						川上
第6回	道徳性の発達理論 フロイト、ピアジェ						川上
第7回	道徳性の発達理論 コールバーグ、ブル						川上
第8回	総合単元的な道徳学習、統合的な道徳学習						川上
第9回	教材研究 学習指導案作成 資料2（視点B）						川上
第10回	模擬授業1（演習）相互評価 授業後の検討・①②グループ						川上
第11回	模擬授業2（演習）相互評価 授業後の検討 ③④グループ						川上
第12回	教材研究 学習指導案作成 資料3（視点D）						川上
第13回	模擬授業3 相互評価 授業後の検討 ⑤⑥グループ						川上

第14回	道徳科の評価 評価の基本的な考え方 具体例	川上
第15回	道徳教育の理論と方法 学習のまとめ	川上
第16回	定期試験(筆記試験)	川上
教科書		
教・書籍名1	道徳教育を学ぶ人のために(四訂版)	教・出版社名1 世界思想社
教・著者名1	小寺正一 藤永芳純 他	教・ISBN1 978-4-7907-0
教・書籍名2	中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編	教・出版社名2 教育出版
教・著者名2	文部科学省	教・ISBN2 978-4-316-30084-9
参考書		
参・書籍名1	楽しく豊かな「道徳の時間」をつくる	参・出版社名1 ミネルヴァ書房
参・著者名1	横山利弘 牧崎幸夫 他	参・ISBN1 978-4-623-08085-4
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法			担当者	川上 はる江		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	TC-SM-2-912		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義 演習 AL
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 6. 安全な水とトイレを世界中に / 11. 住み続けられるまちづくりを 						
到達目標	【テーマ】 特別活動、総合的な学習の時間について基礎的知識を理解し、実践的指導力を身に付ける。 【到達目標】 1. 特別活動・総合的な学習の時間の意義、目標、教育課程上の位置づけ、内容を理解する。 2. 特別活動の内容の種類と関連性を理解し、学級活動の年間計画、学習指導案を作成することができる。 3. 総合的な学習の時間の課題を決めて単元計画を作成し、その強みと探求の過程について説明することができる。 4. 特別活動・総合的な学習の時間の評価の考え方を理解することができる。						
授業概要	特別活動・総合的な学習の時間の特徴を考慮しながら、下記の内容を実践的に学修する。 ①特別活動の目標、教育課程上の位置づけ、学級活動、クラブ活動、生徒会活動等の内容については、事前にプリントで予習しておく。そして、講義の中でグループワークを通して主体的に学びを深める。 ②学級活動指導案作成の仕方については、実際に作成することを通して学修する。 ③総合的な学習の時間の目標、教育課程上の位置づけ、特徴については、予習プリントで事前に学修しておき、講義の中でグループワークを通して主体的に学びを深める。 ⑤全体計画、年間計画、単元計画、思考ツール等は作成、活用することを通して、学修する。						
アクティブラーニングの内容	PBL/反転授業/グループワーク						
評価方法と割合	最終試験（50％） 授業全般にわたっての理解度を記述式及び空所補充の試験によって確認する。 提出物（20％） レポート課題、学習指導案、プリントの記載内容によって評価する。 授業への参加状況（30％） パワーポイントの発表、模擬授業、発言及び発言内容により総合的に判断する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポート、小テストは採点して助言を添えて返却する。単元計画、年間計画、学習指導案はコメントを付けて説明する。						
履修条件・注意事項	事前に配布された予習プリントをする。						
実務経験のある教員	該当する	内容	小学校教諭、教育センター研究員、小学校校長として38年間の実務経験を有する教員が、その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	予習 2時間	事前に出された予習プリントをする。					
	復習 2時間	学習したことの要点をまとめる。					
オフィスアワー	月5限 木3限 昼休み（10号館 個人研究室 10309）						
授業計画						担当者	
第1回	授業予定 特別活動の目標 特質					川上	
第2回	特別活動の内容（学級活動 学校行事 生徒会活動）と全体計画					川上	
第3回	学級活動の目標、内容、年間計画					川上	
第4回	学級活動の年間計画作成（演習）					川上	
第5回	学校行事、生徒会活動の目標、内容、具体的活動					川上	
第6回	学級活動の指導案の書き方 指導案作成					川上	
第7回	模擬授業 代表グループ①②					川上	
第8回	学級活動とSEL					川上/GT（中学校教諭）	

第9回	総合的な学習の時間の意義, 目標	川上
第10回	総合的な学習の時間の歴史 教育課程上の位置づけ	川上
第11回	総合的な学習の時間 全体計画 単元計画	川上
第12回	単元計画の考え方 作成の仕方	川上
第13回	作成した単元計画の発表 (グループ内で情報交換)	川上
第14回	思考ツールと活用例 (演習)	川上
第15回	総合的な学習の時間の評価	川上
第16回	定期試験 (筆記試験)	川上

教科書

教・書籍名1	新しい教職教育講座9 特別活動	教・出版社名1	ミネルヴァ書房
教・著者名1	中村 豊/ 原 清治	教・ISBN1	978-623-08192-9
教・書籍名2	新しい教職教育講座8 総合的な学習の時間	教・出版社名2	ミネルヴァ書房
教・著者名2	森田真樹 / 篠原正典	教・ISBN2	978-4-623-08191-2

参考書

参・書籍名1	中学校学習指導要領 解説 総合的な学習の時間	参・出版社名1	東山書房
参・著者名1	文部科学省	参・ISBN1	978-4-8278-1561-0
参・書籍名2	中学校学習指導要領 解説 特別活動	参・出版社名2	978-4-8278-1562-7
参・著者名2	文部科学省	参・ISBN2	東山書房

授業科目名	生徒・進路指導論 (スポ社)			担当者	藤井 和郎		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	TC-SM-3-914		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 10. 人や国の不平等をなくそう / 16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	<p>【テーマ】生徒指導、進路指導及びキャリア教育の意義や原理を学び学校組織の一員として生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識・技術や素養を身に付ける。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒指導の意義や原理を理解することができる。 2 すべての生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解することができる。 3 生徒の抱える主な生徒指導上の課題の形態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解することができる。 4 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解することができる。 5 すべての生徒を対象としたキャリア教育の考え方と指導の在り方を理解することができる。 6 生徒が抱える個別のキャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解することができる。 						
授業概要	<p>生徒指導は、一人一人の生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる重要な教育活動であり、キャリア教育は、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むための教育活動である。授業では、生徒指導の目標や生徒指導の機能を捉え直した上で、生徒指導の今日的課題を踏まえた実践について知識・理解を深める。また、キャリア教育及びそれに包含される進路指導について意義や原理などを学ぶ。毎回の授業では反転授業及び「個人学習1→グループ学習→全体学習→個人学習2」という流れを原則としたグループワークを取り入れた主体的・対話的な学習を行う。それにより、課題に対する理解が深まることを意図している。</p>						
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク						
評価方法と割合	<p>[試験] 50% (授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する)</p> <p>[提出物] 20% (レポート課題や学習プリントの記載内容等により評価する)</p> <p>[授業への参画状況] 30% (予習プリントや振り返り用紙の記載内容、授業中の発表及び発言内容、教職への意欲や態度等を総合的に評価する)</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は授業の中で、試験は個別にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	<p>座席指定により編成されたグループでの協議に積極的に参加すること。</p> <p>授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、中学校教員、生徒指導主事、校長及び教育行政の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	<p>前時に示された予習プリントにより、次時の学習内容を把握すること。</p> <p>復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。</p> <p>なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。</p>						
オフィスアワー	月曜日3限目 10号館10303 藤井(和)研究室						
授業計画						担当者	
第1回	生徒指導の意義と原理					藤井	
第2回	学校における生徒指導体制、教育相談					藤井	
第3回	生徒指導に関する法制度等、学校と家庭・地域・関係機関との連携					藤井	

第4回	生徒指導の進め方（児童生徒全体への指導）	藤井
第5回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：問題行動）	藤井
第6回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：不登校）	藤井
第7回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：いじめ）	藤井
第8回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：発達障害）	藤井
第9回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：児童虐待）	藤井
第10回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：愛着障害）	藤井
第11回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：性的マイノリティ）	藤井
第12回	キャリア教育とは何か	藤井
第13回	中学校におけるキャリア教育推進のために	藤井
第14回	中学校におけるキャリア教育の実践	藤井
第15回	生徒指導の今後の方向性	藤井
第16回	試験	藤井

教科書

教・書籍名1	生徒指導提要	教・出版社名1	教育図書
教・著者名1	文部科学省	教・ISBN1	978-4-87730-274-0
教・書籍名2	中学校キャリア教育の手引き	教・出版社名2	教育出版
教・著者名2	文部科学省	教・ISBN2	978-4-316-30026-9

参考書

参・書籍名1	中学校学習指導要領(平成29年告示)	参・出版社名1	東山書房
参・著者名1	文部科学省	参・ISBN1	
参・書籍名2	高等学校学習指導要領(平成30年告示)	参・出版社名2	東山書房
参・著者名2	文部科学省	参・ISBN2	

授業科目名	教育相談の基礎 (スポ社)			担当者	津川 秀夫		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	TC-SM-1-915		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	<p>「教育相談の基礎」では、学校での教育相談の理論と方法をテーマとする。 この授業の到達目標は次の通りである。</p> <p>(1)教育相談の意義や、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論を理解する (2)不適応や問題行動、発達障害の特徴とそれらへの対応方法の基礎について理解する (3)チーム学校としての組織的な取組や専門機関等との連携について理解する</p>						
授業概要	学校における教育相談では、児童生徒への個別相談に加えて、学級集団や保護者への対応をバランスよく進めることが求められる。そして、担任が一人で抱え込むのではなく、チーム学校として他の教員やスクールカウンセラー等との連携も必須である。この授業では、学校における不適応や問題行動等について学ぶとともに、予防・開発的教育相談について理解する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/ディベート						
評価方法と割合	単元ごとの小テストおよびレポートの得点が6割以上であり、授業態度への注意（私語、居眠り、スマートフォンの使用等）が3回未満の者に単位を与える。これを前提として、テストとレポートの得点（80%）、授業への参加態度（20%）にて評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	小テストや課題レポートについて授業においてフィードバックする。						
履修条件・注意事項	教職科目を履修することを自覚し「責任ある大人」としての態度で授業に臨むことを期待する。毎回の出席はもちろんのこと、実技の練習やディスカッションに積極的な参加を望む。						
実務経験のある教員	該当する	内容	精神科クリニックでの心理臨床活動、小・中・高でのスクールカウンセリング、教育センターでの教育相談などの経験を踏まえて当該授業について講義する。				
事前学習・事後学習とその時間	できるだけ早い時期に指定テキストを読み通しておくこと。予習・復習にそれぞれ1時間を要する。						
オフィスアワー	月曜日4時限、個人研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					津川秀夫	
第2回	児童生徒の発達の多様性					津川秀夫	
第3回	児童生徒の発達の多様性：知的能力障害					津川秀夫	
第4回	児童生徒の発達の多様性：自閉スペクトラム症					津川秀夫	
第5回	児童生徒の発達の多様性：限局性学習症					津川秀夫	
第6回	児童生徒の発達の多様性：注意欠如多動症					津川秀夫	
第7回	問題行動の見立てと介入：行動随伴性					津川秀夫	
第8回	問題行動の見立てと介入：強化、弱化、消去					津川秀夫	
第9回	問題行動の見立てと介入：行動の機能					津川秀夫	
第10回	問題行動の見立てと介入：不登校					津川秀夫	
第11回	知能検査：種類と活用法					津川秀夫	
第12回	知能検査：検査の実際					津川秀夫	
第13回	ポジティブ行動の促進：事例					津川秀夫	

第14回	ポジティブ行動の促進：肯定的感情の拡張—形成理論	津川秀夫
第15回	ポジティブ行動の促進：PBIS	津川秀夫
第16回		
教科書		
教・書籍名1	メリットの法則	教・出版社名1 集英社
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	生徒指導提要	参・出版社名1 教育図書
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2	よくわかる教育相談	参・出版社名2 ミネルヴァ書房
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	教育相談の基礎（看護・心理）			担当者	津川 秀夫		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	TC-SM-1-915		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	「教育相談の基礎」では、学校での教育相談の理論と方法をテーマとする。 この授業の到達目標は次の通りである。 (1)教育相談の意義や、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論を理解する (2)不適応や問題行動、発達障害の特徴とそれらへの対応方法の基礎について理解する (3)チーム学校としての組織的な取組や専門機関等との連携について理解する						
授業概要	学校における教育相談では、児童生徒への個別相談に加えて、学級集団や保護者への対応をバランスよく進めることが求められる。そして、担任が一人で抱え込むのではなく、チーム学校として他の教員やスクールカウンセラー等との連携も必須である。この授業では、学校における不適応や問題行動等について学ぶとともに、予防・開発的教育相談について理解する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート						
評価方法と割合	単元ごとの小テストおよびレポートの得点が6割以上であり、授業態度への注意（私語、居眠り、スマートフォンの使用等）が3回未満の者に単位を与える。これを前提として、テストとレポートの得点（80%）、授業への参加態度（20%）にて評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	小テストや課題レポートについて授業においてフィードバックする。						
履修条件・注意事項	教職科目を履修することを自覚し「責任ある大人」としての態度で授業に臨むことを期待する。毎回の出席はもちろんのこと、実技の練習やディスカッションに積極的な参加を望む。						
実務経験のある教員	該当する	内容	精神科クリニックでの心理臨床活動、小・中・高でのスクールカウンセリング、教育センターでの教育相談などの経験を踏まえて当該授業について講義する。				
事前学習・事後学習とその時間	できるだけ早い時期に指定テキストを読み通しておくこと。予習・復習にそれぞれ1時間を要する。						
オフィスアワー	月曜日4時限、個人研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					津川秀夫	
第2回	児童生徒の発達の多様性					津川秀夫	
第3回	児童生徒の発達の多様性：知的能力障害					津川秀夫	
第4回	児童生徒の発達の多様性：自閉スペクトラム症					津川秀夫	
第5回	児童生徒の発達の多様性：限局性学習症					津川秀夫	
第6回	児童生徒の発達の多様性：注意欠如多動症					津川秀夫	
第7回	問題行動の見立てと介入：行動随伴性					津川秀夫	
第8回	問題行動の見立てと介入：強化、弱化、消去					津川秀夫	
第9回	問題行動の見立てと介入：行動の機能					津川秀夫	
第10回	問題行動の見立てと介入：不登校					津川秀夫	
第11回	知能検査：種類と活用法					津川秀夫	
第12回	知能検査：検査の実際					津川秀夫	
第13回	ポジティブ行動の促進：事例					津川秀夫	

第14回	ポジティブ行動の促進：肯定的感情の拡張—形成理論	津川秀夫
第15回	ポジティブ行動の促進：PBIS	津川秀夫
第16回		
教科書		
教・書籍名1	メリットの法則	教・出版社名1 集英社
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	生徒指導提要	参・出版社名1 教育図書
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2	よくわかる教育相談	参・出版社名2 ミネルヴァ書房
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	教育実習指導 (スポ社)			担当者	倉知 典弘、森井 康幸		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	TC-SM-3-916		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	講義・実習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう / 2. 飢餓をゼロに / 3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 6. 安全な水とトイレを世界中に / 7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに / 8. 働きがいも経済成長も / 10. 人や国の不平等をなくそう / 11. 住み続けられるまちづくりを / 12. つくる責任・つかう責任 / 14. 海の豊かさを守ろう / 15. 陸の豊かさを守ろう / 16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	「教育実習の準備と教職意識の明確化」をテーマとして、教育実習に最低限必要な知識・技術の習得と確認、および、自分自身の問題点の確認と克服を到達目標とする。						
授業概要	次年度、教育実習を行うための事前・事後指導にあたる。教職意識を高めるとともに、実習に向けた基本的な知識や技能の習得をめざす。授業は、学校の実態、学校教育の内容と方法などについて、小・中・高等学校の教員や教育委員会などの現場の先生方の講義を中心に進める。また、受講者は全員、正規の授業時間外に、自分で作成した指導案をもとに模擬授業を行い、実習に向けての問題点の把握、改善に努めなくてはならない。また、4年次の教育実習終了後にも事後指導としての時間を何回か設けるので、必ず出席し、教師としての実践力の向上に努めなくてはならない。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション / その他のアクティブラーニング (複合的なもの等)						
評価方法と割合	受講態度 (40%)、およびレポート (60% : 模擬授業も含む) により評価する。 教育実習修了後に行われる事後指導も評価の対象になる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	実習や模擬授業に対しては、その場でフィードバックをおこな レポートのうち、返却できないものに対するフィードバックは授業内に口頭で行う。						
履修条件・注意事項	教育実習を行うための必須単位である。 教師という自覚を高めるためにも、欠席・遅刻には厳しく対処する。 授業時間外に小グループに分かれて模擬授業をしなくてはならないので承知しておくこと。 講義概要の欄にも記したが、厳密にはこの授業は後期のみ15回で終了するのではなく、実習終了後 (次年度) にも事後指導として継続し、評価の対象となるので、掲示には注意しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、上述のように中学校・高等学校等の現職教諭を中心に、学校教育における実務経験のある外部講師の先生方から、教育現場における現状や課題、必要とされる知識や能力について講義・演習を行う。				
事前学習・事後学習とその時間	復習として、配付資料、ノート等をもとに、授業内容を再確認しておくこと。(2時間) 教職意識の明確化と基礎学力の向上に努めること。 様々な話題(新聞等)に興味を持って触れておくこと。 指導案の作成の学習については、他の教科と関連づけながら進めること。						
オフィスアワー	月曜4限、教員研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					森井・倉知	
第2回	教育実習に向けて一教師の適性					森井・倉知	
第3回	教師への道 (高等学校) (外部)					森井・外部講師	
第4回	教師への道 (中学校) (外部)					森井・外部講師	
第5回	授業改革 (外部)					森井・外部講師	
第6回	実習生の授業を見る 1					森井・倉知	
第7回	指導案の作成と授業の展開 (1) 基本的考え方 (外部)					森井・外部講師	

第8回	指導案の作成と授業の展開(2) 教材研究と授業の展開(外部)	森井・外部講師
第9回	授業実践(外部)	森井・外部講師
第10回	実習生の授業を見る2	森井・倉知
第11回	模擬授業(1)	森井・倉知
第12回	模擬授業(2)	森井・倉知
第13回	模擬授業(3)	森井・倉知
第14回	模擬授業(4)	森井・倉知
第15回	模擬授業(5)・まとめ	森井・倉知
第16回		

教科書

教・書籍名1	使用しない。資料は配付する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	取得しようとする教科の学習指導要領解説	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	教育実習（スポ社）			担当者	倉知 典弘、森井 康幸		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	TC-SM-4-917		
必修・選択	選択	単位数	4単位	時間数	30	授業形態	講義・実習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	実習	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／6. 安全な水とトイレを世界中に／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／8. 働きがいも経済成長も／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう／16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	「教育実習の準備と教職意識の明確化」をテーマとして、教育実習に最低限必要な知識・技術の習得と確認、および、自分自身の問題点の確認と克服を到達目標とする。						
授業概要	次年度、教育実習を行うための事前・事後指導にあたる。教職意識を高めるとともに、実習に向けた基本的な知識や技能の習得をめざす。授業は、学校の実態、学校教育の内容と方法などについて、小・中・高等学校の教員や教育委員会などの現場の先生方の講義を中心に進める。また、受講者は全員、正規の授業時間外に、自分で作成した指導案をもとに模擬授業を行い、実習に向けての問題点の把握、改善に努めなくてはならない。また、4年次の教育実習終了後にも事後指導としての時間を何回か設けるので、必ず出席し、教師としての実践力の向上に努めなくてはならない。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	受講態度（40％）、およびレポート（60％：模擬授業も含む）により評価する。 教育実習修了後に行われる事後指導も評価の対象になる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	実習や模擬授業に対しては、その場でフィードバックをおこな レポートのうち、返却できないものに対するフィードバックは授業内に口頭で行う。						
履修条件・注意事項	教育実習を行うための必須単位である。 教師という自覚を高めるためにも、欠席・遅刻には厳しく対処する。 授業時間外に小グループに分かれて模擬授業をしなくてはならないので承知しておくこと。 講義概要の欄にも記したが、厳密にはこの授業は後期のみ15回で終了するのではなく、実習終了後（次年度）にも事後指導として継続し、評価の対象となるので、掲示には注意しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、上述のように中学校・高等学校等の現職教諭を中心に、学校教育における実務経験のある外部講師の先生方から、教育現場における現状や課題、必要とされる知識や能力について講義・演習を行う。				
事前学習・事後学習とその時間	復習として、配付資料、ノート等をもとに、授業内容を再確認しておくこと。（2時間） 教職意識の明確化と基礎学力の向上に努めること。 様々な話題(新聞等)に興味を持って触れておくこと。 指導案の作成の学習については、他の教科と関連づけながら進めること。						
オフィスアワー	月曜4限、教員研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					森井・倉知	
第2回	教育実習に向けて一教師の適性					森井・倉知	
第3回	教師への道（高等学校）（外部）					森井・外部講師	
第4回	教師への道（中学校）（外部）					森井・外部講師	
第5回	授業改革（外部）					森井・外部講師	
第6回	実習生の授業を見る1					森井・倉知	
第7回	指導案の作成と授業の展開（1） 基本的考え方（外部）					森井・外部講師	

第8回	指導案の作成と授業の展開(2) 教材研究と授業の展開(外部)	森井・外部講師
第9回	授業実践(外部)	森井・外部講師
第10回	実習生の授業を見る2	森井・倉知
第11回	模擬授業(1)	森井・倉知
第12回	模擬授業(2)	森井・倉知
第13回	模擬授業(3)	森井・倉知
第14回	模擬授業(4)	森井・倉知
第15回	模擬授業(5)・まとめ	森井・倉知
第16回		
第17回		
第18回		
第19回		
第20回		
第21回		
第22回		
第23回		
第24回		
第25回		
第26回		
第27回		
第28回		
第29回		
第30回		
第31回		
第32回		

教科書

教・書籍名1	使用しない。資料は配付する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	取得しようとする教科の学習指導要領解説	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	教職実践演習（中・高）（スポ社）			担当者	倉知 典弘、森井 康幸		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	TC-SM-4-918		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 10. 人や国の不平等をなくそう / 16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	これまでの学生の履修状況をふまえ、教師として必要な知識、技能の補完がテーマである。到達目標は、教師らしくなることである。						
授業概要	<p>以下の3点を中心に、学校や教育委員会の先生方の協力のもと、講義、討議、ロールプレイングなどを行いながら演習を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習を振り返り、総括するとともに、教師として必要な資質能力、自分に不足している資質能力等について討議・検討する。 2. クラス運営やPTA活動などの学校教育の諸活動のあり方について実践的に学ぶ。 3. 教科の指導に必要な知識・技能などを見直し、力量向上のための取り組みを検討する。 						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	評価は受講態度（討議などへの参加状況など；30%）と課題レポート・模擬授業（70%）の評価による。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートは、内容確認後、コメントをつけて返却する。						
履修条件・注意事項	教育実習を終えていることが基本要件であり、将来、教職に就くという強い意志を持っている学生のみが対象の演習である。 教職カルテを持参すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この授業では半数の回で、学校教育において教員としての実務経験を持つ方々が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	教職に就こうとする自覚と向上心を高めるべく、すべての面での学修に真剣に取り組むこと。 4月から教師として勤められるように、自分に不足する資質・能力を向上させるように自己陶冶に努めること。 課題レポート等の作成（4時間以上必要）により、教育現場での活動についての理解を深めること。						
オフィスアワー	月曜4限、10号館4階、森井研究室。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					森井・倉知	
第2回	教材研究1					森井・外部講師	
第3回	教師の服務と学校現場の課題					森井・外部講師	
第4回	学校の安全管理					森井・外部講師	
第5回	教材研究2（実践）					森井・外部講師	
第6回	国際バカロレア教育					森井・外部講師	
第7回	いじめ・不登校への取り組み					森井・学内講師	
第8回	特別支援教育の現状と実際					森井・外部講師	
第9回	道徳教科化の問題					森井・学内講師	
第10回	模擬授業と授業研究1					森井・倉知	

第11回	模擬授業と授業研究2	森井・倉知
第12回	模擬授業と授業研究3	森井・倉知
第13回	模擬授業と授業研究4	森井・倉知
第14回	模擬授業と授業研究5	森井・倉知
第15回	自己分析・まとめ	森井・倉知
第16回		
教科書		
教・書籍名1	教科書は使用しない。	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	介護等体験の研究 (スポ社)			担当者	森井 康幸		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	TC-SM-2-919		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 10. 人や国の不平等をなくそう / 11. 住み続けられるまちづくりを / 16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	介護等体験の意義・目的の理解と、体験施設の概要や活動内容を把握すること、あわせて教職意識の明確化を図ることを目標とする。						
授業概要	次年度以降実施する「介護等体験」の事前指導に当たる。特別支援学校の先生や福祉施設の方に、それぞれの学校や施設の概要やそこでの介護等体験における注意事項等を講義していただく。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	受講態度（40%）と毎回課されるレポート（60%）により評価する。レポートは内容確認後返却する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎回課されるレポートに対して、授業内で総評を述べるか、コメントをつけて返却する。						
履修条件・注意事項	介護等体験を行うことが義務づけられている小学校・中学校の教員免許取得希望者には必修科目である。教員志望者に対する講義ということで、受講態度等にはシビアである。講義予定回数は8回であり、実施日程にはくれぐれも注意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	特別支援学校や種々の福祉現場において働いておられる方々を外部講師としてお迎えしてお話ししていただく。				
事前学習・事後学習とその時間	<p>予習:テキストの該当箇所を精読。授業で該当する施設について、図書館等で調べておくこと。（2時間）</p> <p>復習・課題:外部講師の方のお話を整理してレポートにまとめること。（2時間）</p> <p>日頃から、自分の教師適正について考えておくように。</p>						
オフィスアワー	月曜4限、10号館4階、教員研究室。						
授業計画						担当者	
第1回	介護等体験の意義・目的（第1部1～3章）						
第2回	介護等体験の実際（第2部2章、3章）						
第3回	高齢者福祉施設の概要と介護等体験（外部）						
第4回	児童福祉施設の概要と介護等体と介護等体験（外部）						
第5回	知的障害者福祉施設と介護等体験の概要と介護等体験（外部）						
第6回	特別支援学校（養護学校）の概要と介護等体験（外部）						
第7回	特別支援学校（盲学校）と介護等体験（外部）						
第8回	まとめ・試験（第1部4章）						
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
第13回							
第14回							
第15回							
第16回							
教科書							
教・書籍名1	教師をめざす人の介護等体験ハンドブック 五訂版				教・出版社名1	大修館書店	
教・著者名1	現代教師養成研究会（編）				教・ISBN1	9.78447E+12	

教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-401		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：大学生生活の導入部分として、学習の動機づけを行うとともに、学習の方法を身につける。 到達目標： 1：大学での学び方を知り、学習目標を立てることを通して、4年間の学習の見通しを立てることができるようになる 2：図書館での資料の探し方、文献検索の仕方、webの利用の仕方の学習を通じて、基本的な情報収集ができるようになる 3：グループディスカッションなどを通じて、相手を尊重したコミュニケーションを行うことができるようになる 4：文章作成の演習を通じて、論理的なレポートを書くことができるようになる 5：レジュメ（報告用資料）の書き方、報告の仕方の学習を通じて、基本的なプレゼンテーションができるようになる。						
授業概要	本講義は「話す」「読む」「書く」「聴く」等コミュニケーションスキルの習得を徹底し、大人としての最低限の表現能力を身につけることを目的としている。 大学生として必要な基礎的な能力や学び方を学習することを目的としている。 まず最初に大学生としての学びの在り方や学習目標の設定の仕方などをディスカッションや演習を通じて考える（第1回～第4回）。その後、自分自身の経験などに基づいた文章作成を行い、文章力の向上を図る（第5回～第7回）。そして、その文章をもとにスピーチを行い、伝える技術を高めていく（第8回～第9回）。そして、より文章内容を向上させるための情報収集の基礎を実践的に学び（第10回～第13回）、最終的にそれまでの学びの成果を活かしたレポートの作成を行う（第14回～第15回）。 本講義では、スピーチやプレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行い、この過程を通じて、大学での学びの基礎となるコミュニケーション能力と学習遂行能力の向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）ディスカッションやグループワークでの活動状況（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、ディスカッションやグループワークに参加しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】 演習ルーブリック						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指						

の時間	導などの際には講義課題として各自の意見などを提出してもらう。(1.5時間程度)講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	水曜日 3限 研究室(6311)		
授業計画		担当者	
第1回	講義ガイダンス：講義概要の説明及びアイスブレイク	孫基然	
第2回	大学生としての学び(1) 大学規程の理解と研究倫理教育	孫基然	
第3回	大学生としての学び(2) 大学における学習資源の活用法	孫基然	
第4回	大学生としての学び(3) 学習目標の設定方法の理解と学習目標の設定	孫基然	
第5回	文章表現の基礎：基本的な文法事項と文章構造の理解	孫基然	
第6回	文章作成演習(1) 一スポーツ経験を振り返る	孫基然	
第7回	文章作成演習(2) 現代社会について	孫基然	
第8回	スピーチの手法：伝える力とは何か	孫基然	
第9回	スピーチ演習：スポーツ及び現代社会について	孫基然	
第10回	情報収集の手法(1) データベースの活用法	孫基然	
第11回	情報収集の手法(2)：情報の批判的検討の必要性和手法	孫基然	
第12回	情報収集の手法(3)：新聞・雑誌記事の読み方	孫基然	
第13回	情報収集の技法(4)：統計情報の読み解き方	孫基然	
第14回	レポート作成の技法(1)：レポートの基礎基本	孫基然	
第15回	レポート作成の技法(2)：レポートの評価について	孫基然	
第16回	レポート試験	孫基然	
教科書			
教・書籍名1	各回の講義テーマに応じて教員が用意する資料によって講義を行う	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	文章力の基本	参・出版社名1	日本実業出版社
参・著者名1	阿部 紘久	参・ISBN1	978-4534045881
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-401		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：大学生生活の導入部分として、学習の動機づけを行うとともに、学習の方法を身につける。 到達目標： 1：大学での学び方を知り、学習目標を立てることを通して、4年間の学習の見通しを立てることができるようになる 2：図書館での資料の探し方、文献検索の仕方、webの利用の仕方の学習を通じて、基本的な情報収集ができるようになる 3：グループディスカッションなどを通じて、相手を尊重したコミュニケーションを行うことができるようになる 4：文章作成の演習を通じて、論理的なレポートを書くことができるようになる 5：レジュメ（報告用資料）の書き方、報告の仕方の学習を通じて、基本的なプレゼンテーションができるようになる。						
授業概要	本講義は「話す」「読む」「書く」「聴く」等コミュニケーションスキルの習得を徹底し、大人としての最低限の表現能力を身につけることを目的としている。 大学生として必要な基礎的な能力や学び方を学習することを目的としている。 まず最初に大学生としての学びの在り方や学習目標の設定の仕方などをディスカッションや演習を通じて考える（第1回～第4回）。その後、自分自身の経験などに基づいた文章作成を行い、文章力の向上を図る（第5回～第7回）。そして、その文章をもとにスピーチを行い、伝える技術を高めていく（第8回～第9回）。そして、より文章内容を向上させるための情報収集の基礎を実践的に学び（第10回～第13回）、最終的にそれまでの学びの成果を活かしたレポートの作成を行う（第14回～第15回）。 本講義では、スピーチやプレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行い、この過程を通じて、大学での学びの基礎となるコミュニケーション能力と学習遂行能力の向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）ディスカッションやグループワークでの活動状況（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、ディスカッションやグループワークに参加しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】 演習ルーブリック						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指						

の時間	導などの際には講義課題として各自の意見などを提出してもらう。(1.5時間程度)講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	火曜日 4限 研究室(9405)		
授業計画		担当者	
第1回	講義ガイダンス：講義概要の説明及びアイスブレイク	高藤	
第2回	大学生としての学び(1) 大学規程の理解と研究倫理教育	高藤	
第3回	大学生としての学び(2) 大学における学習資源の活用法	高藤	
第4回	大学生としての学び(3) 学習目標の設定方法の理解と学習目標の設定	高藤	
第5回	文章表現の基礎：基本的な文法事項と文章構造の理解	高藤	
第6回	文章作成演習(1) 一スポーツ経験を振り返る	高藤	
第7回	文章作成演習(2) 現代社会について	高藤	
第8回	スピーチの手法：伝える力とは何か	高藤	
第9回	スピーチ演習：スポーツ及び現代社会について	高藤	
第10回	情報収集の手法(1) データベースの活用法	高藤	
第11回	情報収集の手法(2)：情報の批判的検討の必要性和手法	高藤	
第12回	情報収集の手法(3)：新聞・雑誌記事の読み方	高藤	
第13回	情報収集の技法(4)：統計情報の読み解き方	高藤	
第14回	レポート作成の技法(1)：レポートの基礎基本	高藤	
第15回	レポート作成の技法(2)：レポートの評価について	高藤	
第16回	レポート試験	高藤	
教科書			
教・書籍名1	各回の講義テーマに応じて教員が用意する資料によって講義を行う。	教・出版社名1	
教・著者名1	その都度紹介する。	教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	文章力の基本	参・出版社名1	日本実業出版社
参・著者名1	阿部 紘久	参・ISBN1	978-4534045881
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-401		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> 						
到達目標	<p>テーマ：大学生生活の導入部分として、学習の動機づけを行うとともに、学習の方法を身につける。</p> <p>到達目標：</p> <p>1：大学での学び方を知り、学習目標を立てることを通して、4年間の学習の見通しを立てることができるようになる</p> <p>2：図書館での資料の探し方、文献検索の仕方、webの利用の仕方の学習を通じて、基本的な情報収集ができるようになる</p> <p>3：グループディスカッションなどを通じて、相手を尊重したコミュニケーションを行うことができるようになる</p> <p>4：文章作成の演習を通じて、論理的なレポートを書くことができるようになる</p> <p>5：レジュメ（報告用資料）の書き方、報告の仕方の学習を通じて、基本的なプレゼンテーションができるようになる。</p>						
授業概要	<p>本講義は「話す」「読む」「書く」「聴く」等コミュニケーションスキルの習得を徹底し、大人としての最低限の表現能力を身につけることを目的としている。</p> <p>大学生として必要な基礎的な能力や学び方を学習することを目的としている。</p> <p>まず最初に大学生としての学びの在り方や学習目標の設定の仕方などをディスカッションや演習を通じて考える（第1回～第4回）。その後、自分自身の経験などに基づいた文章作成を行い、文章力の向上を図る（第5回～第7回）。そして、その文章をもとにスピーチを行い、伝える技術を高めていく（第8回～第9回）。そして、より文章内容を向上させるための情報収集の基礎を実践的に学び（第10回～第13回）、最終的にそれまでの学びの成果を活かしたレポートの作成を行う（第14回～第15回）。</p> <p>本講義では、スピーチやプレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行い、この過程を通じて、大学での学びの基礎となるコミュニケーション能力と学習遂行能力の向上を目指す。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）ディスカッションやグループワークでの活動状況（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、ディスカッションやグループワークに参加しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】 演習ルーブリック						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指						

の時間	導などの際には講義課題として各自の意見などを提出してもらう。(1.5時間程度)講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	水曜日 4限 研究室		
授業計画		担当者	
第1回	講義ガイダンス：講義概要の説明及びアイスブレイク	竹内研	
第2回	大学生としての学び(1) 大学規程の理解と研究倫理教育	竹内研	
第3回	大学生としての学び(2) 大学における学習資源の活用法	竹内研	
第4回	大学生としての学び(3) 学習目標の設定方法の理解と学習目標の設定	竹内研	
第5回	文章表現の基礎：基本的な文法事項と文章構造の理解	竹内研	
第6回	文章作成演習(1) 一スポーツ経験を振り返る	竹内研	
第7回	文章作成演習(2) 現代社会について	竹内研	
第8回	スピーチの手法：伝える力とは何か	竹内研	
第9回	スピーチ演習：スポーツ及び現代社会について	竹内研	
第10回	情報収集の手法(1) データベースの活用法	竹内研	
第11回	情報収集の手法(2)：情報の批判的検討の必要性和手法	竹内研	
第12回	情報収集の手法(3)：新聞・雑誌記事の読み方	竹内研	
第13回	情報収集の技法(4)：統計情報の読み解き方	竹内研	
第14回	レポート作成の技法(1)：レポートの基礎基本	竹内研	
第15回	レポート作成の技法(2)：レポートの評価について	竹内研	
第16回	レポート試験	竹内研	
教科書			
教・書籍名1	各回の講義テーマに応じて教員が用意する資料によって講義を行う	教・出版社名1	日本実業出版社
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	文章力の基本	参・出版社名1	日本実業出版社
参・著者名1	阿部 紘久	参・ISBN1	978-4534045881
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-401		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：大学生生活の導入部分として、学習の動機づけを行うとともに、学習の方法を身につける。 到達目標： 1：大学での学び方を知り、学習目標を立てることを通して、4年間の学習の見通しを立てることができるようになる 2：図書館での資料の探し方、文献検索の仕方、webの利用の仕方の学習を通じて、基本的な情報収集ができるようになる 3：グループディスカッションなどを通じて、相手を尊重したコミュニケーションを行うことができるようになる 4：文章作成の演習を通じて、論理的なレポートを書くことができるようになる 5：レジュメ（報告用資料）の書き方、報告の仕方の学習を通じて、基本的なプレゼンテーションができるようになる。						
授業概要	本講義は「話す」「読む」「書く」「聴く」等コミュニケーションスキルの習得を徹底し、大人としての最低限の表現能力を身につけることを目的としている。 大学生として必要な基礎的な能力や学び方を学習することを目的としている。 まず最初に大学生としての学びの在り方や学習目標の設定の仕方などをディスカッションや演習を通じて考える（第1回～第4回）。その後、自分自身の経験などに基づいた文章作成を行い、文章力の向上を図る（第5回～第7回）。そして、その文章をもとにスピーチを行い、伝える技術を高めていく（第8回～第9回）。そして、より文章内容を向上させるための情報収集の基礎を実践的に学び（第10回～第13回）、最終的にそれまでの学びの成果を活かしたレポートの作成を行う（第14回～第15回）。 本講義では、スピーチやプレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行い、この過程を通じて、大学での学びの基礎となるコミュニケーション能力と学習遂行能力の向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）ディスカッションやグループワークでの活動状況（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、ディスカッションやグループワークに参加しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については演習ルーブリックを確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指						

の時間	導などの際には講義課題として各自の意見などを提出してもらう。(1.5時間程度)講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室(9410研究室)において、木曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。		
授業計画		担当者	
第1回	講義ガイダンス：講義概要の説明及びアイスブレイク	山口英峰	
第2回	大学生としての学び(1) 大学規程の理解と研究倫理教育	山口英峰	
第3回	大学生としての学び(2) 大学における学習資源の活用法	山口英峰	
第4回	大学生としての学び(3) 学習目標の設定方法の理解と学習目標の設定	山口英峰	
第5回	文章表現の基礎：基本的な文法事項と文章構造の理解	山口英峰	
第6回	文章作成演習(1) 一スポーツ経験を振り返る	山口英峰	
第7回	文章作成演習(2) 現代社会について	山口英峰	
第8回	スピーチの手法：伝える力とは何か	山口英峰	
第9回	スピーチ演習：スポーツ及び現代社会について	山口英峰	
第10回	情報収集の手法(1) データベースの活用法	山口英峰	
第11回	情報収集の手法(2)：情報の批判的検討の必要性和手法	山口英峰	
第12回	情報収集の手法(3)：新聞・雑誌記事の読み方	山口英峰	
第13回	情報収集の技法(4)：統計情報の読み解き方	山口英峰	
第14回	レポート作成の技法(1)：レポートの基礎基本	山口英峰	
第15回	レポート作成の技法(2)：レポートの評価について	山口英峰	
第16回	レポート試験	山口英峰	
教科書			
教・書籍名1	各回の講義テーマに応じて教員が用意する資料によって講義を行う	教・出版社名1	日本実業出版社
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	文章力の基本	参・出版社名1	日本実業出版社
参・著者名1	阿部 紘久	参・ISBN1	978-4534045881
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-401		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：大学生生活の導入部分として、学習の動機づけを行うとともに、学習の方法を身につける。 到達目標： 1：大学での学び方を知り、学習目標を立てることを通して、4年間の学習の見通しを立てることができるようになる 2：図書館での資料の探し方、文献検索の仕方、webの利用の仕方の学習を通じて、基本的な情報収集ができるようになる 3：グループディスカッションなどを通じて、相手を尊重したコミュニケーションを行うことができるようになる 4：文章作成の演習を通じて、論理的なレポートを書くことができるようになる 5：レジュメ（報告用資料）の書き方、報告の仕方の学習を通じて、基本的なプレゼンテーションができるようになる。						
授業概要	本講義は「話す」「読む」「書く」「聴く」等コミュニケーションスキルの習得を徹底し、大人としての最低限の表現能力を身につけることを目的としている。 大学生として必要な基礎的な能力や学び方を学習することを目的としている。 まず最初に大学生としての学びの在り方や学習目標の設定の仕方などをディスカッションや演習を通じて考える（第1回～第4回）。その後、自分自身の経験などに基づいた文章作成を行い、文章力の向上を図る（第5回～第7回）。そして、その文章をもとにスピーチを行い、伝える技術を高めていく（第8回～第9回）。そして、より文章内容を向上させるための情報収集の基礎を実践的に学び（第10回～第13回）、最終的にそれまでの学びの成果を活かしたレポートの作成を行う（第14回～第15回）。 本講義では、スピーチやプレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行い、この過程を通じて、大学での学びの基礎となるコミュニケーション能力と学習遂行能力の向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）ディスカッションやグループワークでの活動状況（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、ディスカッションやグループワークに参加しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】 演習ルーブリック						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指						

の時間	導などの際には講義課題として各自の意見などを提出してもらう。(1.5時間程度)講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室		
授業計画		担当者	
第1回	講義ガイダンス：講義概要の説明及びアイスブレイク	天岡 寛	
第2回	大学生としての学び(1) 大学規程の理解と研究倫理教育	天岡 寛	
第3回	大学生としての学び(2) 大学における学習資源の活用法	天岡 寛	
第4回	大学生としての学び(3) 学習目標の設定方法の理解と学習目標の設定	天岡 寛	
第5回	文章表現の基礎：基本的な文法事項と文章構造の理解	天岡 寛	
第6回	文章作成演習(1) 一スポーツ経験を振り返る	天岡 寛	
第7回	文章作成演習(2) 現代社会について	天岡 寛	
第8回	スピーチの手法：伝える力とは何か	天岡 寛	
第9回	スピーチ演習：スポーツ及び現代社会について	天岡 寛	
第10回	情報収集の手法(1) データベースの活用法	天岡 寛	
第11回	情報収集の手法(2)：情報の批判的検討の必要性和手法	天岡 寛	
第12回	情報収集の手法(3)：新聞・雑誌記事の読み方	天岡 寛	
第13回	情報収集の技法(4)：統計情報の読み解き方	天岡 寛	
第14回	レポート作成の技法(1)：レポートの基礎基本	天岡 寛	
第15回	レポート作成の技法(2)：レポートの評価について	天岡 寛	
第16回	レポート試験	天岡 寛	
教科書			
教・書籍名1	各回の講義テーマに応じて教員が用意する資料によって講義を行う	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	文章力の基本	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-401		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：大学生生活の導入部分として、学習の動機づけを行うとともに、学習の方法を身につける。 到達目標： 1：大学での学び方を知り、学習目標を立てることを通して、4年間の学習の見通しを立てることができるようになる 2：図書館での資料の探し方、文献検索の仕方、webの利用の仕方の学習を通じて、基本的な情報収集ができるようになる 3：グループディスカッションなどを通じて、相手を尊重したコミュニケーションを行うことができるようになる 4：文章作成の演習を通じて、論理的なレポートを書くことができるようになる 5：レジュメ（報告用資料）の書き方、報告の仕方の学習を通じて、基本的なプレゼンテーションができるようになる。						
授業概要	本講義は「話す」「読む」「書く」「聴く」等コミュニケーションスキルの習得を徹底し、大人としての最低限の表現能力を身につけることを目的としている。 大学生として必要な基礎的な能力や学び方を学習することを目的としている。 まず最初に大学生としての学びの在り方や学習目標の設定の仕方などをディスカッションや演習を通じて考える（第1回～第4回）。その後、自分自身の経験などに基づいた文章作成を行い、文章力の向上を図る（第5回～第7回）。そして、その文章をもとにスピーチを行い、伝える技術を高めていく（第8回～第9回）。そして、より文章内容を向上させるための情報収集の基礎を実践的に学び（第10回～第13回）、最終的にそれまでの学びの成果を活かしたレポートの作成を行う（第14回～第15回）。 本講義では、スピーチやプレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行い、この過程を通じて、大学での学びの基礎となるコミュニケーション能力と学習遂行能力の向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）ディスカッションやグループワークでの活動状況（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、ディスカッションやグループワークに参加しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】 演習ルーブリック						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指						

の時間	導などの際には講義課題として各自の意見などを提出してもらう。(1.5時間程度)講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	火曜日 3限 研究室(9401)		
授業計画		担当者	
第1回	講義ガイダンス：講義概要の説明及びアイスブレイク	太田真司	
第2回	大学生としての学び(1) 大学規程の理解と研究倫理教育	太田真司	
第3回	大学生としての学び(2) 大学における学習資源の活用法	太田真司	
第4回	大学生としての学び(3) 学習目標の設定方法の理解と学習目標の設定	太田真司	
第5回	文章表現の基礎：基本的な文法事項と文章構造の理解	太田真司	
第6回	文章作成演習(1) 一スポーツ経験を振り返る	太田真司	
第7回	文章作成演習(2) 現代社会について	太田真司	
第8回	スピーチの手法：伝える力とは何か	太田真司	
第9回	スピーチ演習：スポーツ及び現代社会について	太田真司	
第10回	情報収集の手法(1) データベースの活用法	太田真司	
第11回	情報収集の手法(2)：情報の批判的検討の必要性和手法	太田真司	
第12回	情報収集の手法(3)：新聞・雑誌記事の読み方	太田真司	
第13回	情報収集の技法(4)：統計情報の読み解き方	太田真司	
第14回	レポート作成の技法(1)：レポートの基礎基本	太田真司	
第15回	レポート作成の技法(2)：レポートの評価について	太田真司	
第16回	レポート試験	太田真司	
教科書			
教・書籍名1	各回の講義テーマに応じて教員が用意する資料によって講義を行う	教・出版社名1	日本実業出版社
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	文章力の基本	参・出版社名1	日本実業出版社
参・著者名1	阿部 紘久	参・ISBN1	978-4534045881
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-401		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：大学生生活の導入部分として、学習の動機づけを行うとともに、学習の方法を身につける。 到達目標： 1：大学での学び方を知り、学習目標を立てることを通して、4年間の学習の見通しを立てることができるようになる 2：図書館での資料の探し方、文献検索の仕方、webの利用の仕方の学習を通じて、基本的な情報収集ができるようになる 3：グループディスカッションなどを通じて、相手を尊重したコミュニケーションを行うことができるようになる 4：文章作成の演習を通じて、論理的なレポートを書くことができるようになる 5：レジュメ（報告用資料）の書き方、報告の仕方の学習を通じて、基本的なプレゼンテーションができるようになる。						
授業概要	本講義は「話す」「読む」「書く」「聴く」等コミュニケーションスキルの習得を徹底し、大人としての最低限の表現能力を身につけることを目的としている。 大学生として必要な基礎的な能力や学び方を学習することを目的としている。 まず最初に大学生としての学びの在り方や学習目標の設定の仕方などをディスカッションや演習を通じて考える（第1回～第4回）。その後、自分自身の経験などに基づいた文章作成を行い、文章力の向上を図る（第5回～第7回）。そして、その文章をもとにスピーチを行い、伝える技術を高めていく（第8回～第9回）。そして、より文章内容を向上させるための情報収集の基礎を実践的に学び（第10回～第13回）、最終的にそれまでの学びの成果を活かしたレポートの作成を行う（第14回～第15回）。 本講義では、スピーチやプレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行い、この過程を通じて、大学での学びの基礎となるコミュニケーション能力と学習遂行能力の向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）ディスカッションやグループワークでの活動状況（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、ディスカッションやグループワークに参加しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】 演習ルーブリック						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指						

の時間	導などの際には講義課題として各自の意見などを提出してもらう。(1.5時間程度)講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	水曜日 4限 研究室(9301)		
授業計画		担当者	
第1回	講義ガイダンス：講義概要の説明及びアイスブレイク	倉知典弘	
第2回	大学生としての学び(1) 大学規程の理解と研究倫理教育	倉知典弘	
第3回	大学生としての学び(2) 大学における学習資源の活用法	倉知典弘	
第4回	大学生としての学び(3) 学習目標の設定方法の理解と学習目標の設定	倉知典弘	
第5回	文章表現の基礎：基本的な文法事項と文章構造の理解	倉知典弘	
第6回	文章作成演習(1) 一スポーツ経験を振り返る	倉知典弘	
第7回	文章作成演習(2) 現代社会について	倉知典弘	
第8回	スピーチの手法：伝える力とは何か	倉知典弘	
第9回	スピーチ演習：スポーツ及び現代社会について	倉知典弘	
第10回	情報収集の手法(1) データベースの活用法	倉知典弘	
第11回	情報収集の手法(2)：情報の批判的検討の必要性和手法	倉知典弘	
第12回	情報収集の手法(3)：新聞・雑誌記事の読み方	倉知典弘	
第13回	情報収集の技法(4)：統計情報の読み解き方	倉知典弘	
第14回	レポート作成の技法(1)：レポートの基礎基本	倉知典弘	
第15回	レポート作成の技法(2)：レポートの評価について	倉知典弘	
第16回	レポート試験	倉知典弘	
教科書			
教・書籍名1	各回の講義テーマに応じて教員が用意する資料によって講義を行う	教・出版社名1	日本実業出版社
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	文章力の基本	参・出版社名1	日本実業出版社
参・著者名1	阿部 紘久	参・ISBN1	978-4534045881
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-401		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：大学生生活の導入部分として、学習の動機づけを行うとともに、学習の方法を身につける。 到達目標： 1：大学での学び方を知り、学習目標を立てることを通して、4年間の学習の見通しを立てることができるようになる 2：図書館での資料の探し方、文献検索の仕方、webの利用の仕方の学習を通じて、基本的な情報収集ができるようになる 3：グループディスカッションなどを通じて、相手を尊重したコミュニケーションを行うことができるようになる 4：文章作成の演習を通じて、論理的なレポートを書くことができるようになる 5：レジュメ（報告用資料）の書き方、報告の仕方の学習を通じて、基本的なプレゼンテーションができるようになる。						
授業概要	本講義は「話す」「読む」「書く」「聴く」等コミュニケーションスキルの習得を徹底し、大人としての最低限の表現能力を身につけることを目的としている。 大学生として必要な基礎的な能力や学び方を学習することを目的としている。 まず最初に大学生としての学びの在り方や学習目標の設定の仕方などをディスカッションや演習を通じて考える（第1回～第4回）。その後、自分自身の経験などに基づいた文章作成を行い、文章力の向上を図る（第5回～第7回）。そして、その文章をもとにスピーチを行い、伝える技術を高めていく（第8回～第9回）。そして、より文章内容を向上させるための情報収集の基礎を実践的に学び（第10回～第13回）、最終的にそれまでの学びの成果を活かしたレポートの作成を行う（第14回～第15回）。 本講義では、スピーチやプレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行い、この過程を通じて、大学での学びの基礎となるコミュニケーション能力と学習遂行能力の向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）ディスカッションやグループワークでの活動状況（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、ディスカッションやグループワークに参加しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】 演習ルーブリック						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指						

の時間	導などの際には講義課題として各自の意見などを提出してもらう。(1.5時間程度)講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	月曜日 2限 研究室(9402)		
授業計画		担当者	
第1回	講義ガイダンス：講義概要の説明及びアイスブレイク	高原皓全	
第2回	大学生としての学び(1) 大学規程の理解と研究倫理教育	高原皓全	
第3回	大学生としての学び(2) 大学における学習資源の活用法	高原皓全	
第4回	大学生としての学び(3) 学習目標の設定方法の理解と学習目標の設定	高原皓全	
第5回	文章表現の基礎：基本的な文法事項と文章構造の理解	高原皓全	
第6回	文章作成演習(1) 一スポーツ経験を振り返る	高原皓全	
第7回	文章作成演習(2) 現代社会について	高原皓全	
第8回	スピーチの手法：伝える力とは何か	高原皓全	
第9回	スピーチ演習：スポーツ及び現代社会について	高原皓全	
第10回	情報収集の手法(1) データベースの活用法	高原皓全	
第11回	情報収集の手法(2)：情報の批判的検討の必要性和手法	高原皓全	
第12回	情報収集の手法(3)：新聞・雑誌記事の読み方	高原皓全	
第13回	情報収集の技法(4)：統計情報の読み解き方	高原皓全	
第14回	レポート作成の技法(1)：レポートの基礎基本	高原皓全	
第15回	レポート作成の技法(2)：レポートの評価について	高原皓全	
第16回	レポート試験	高原皓全	
教科書			
教・書籍名1	各回の講義テーマに応じて教員が用意する資料によって講義を行う	教・出版社名1	日本実業出版社
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	文章力の基本	参・出版社名1	日本実業出版社
参・著者名1	阿部 紘久	参・ISBN1	978-4534045881
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-401		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：大学生生活の導入部分として、学習の動機づけを行うとともに、学習の方法を身につける。 到達目標： 1：大学での学び方を知り、学習目標を立てることを通して、4年間の学習の見通しを立てることができるようになる 2：図書館での資料の探し方、文献検索の仕方、webの利用の仕方の学習を通じて、基本的な情報収集ができるようになる 3：グループディスカッションなどを通じて、相手を尊重したコミュニケーションを行うことができるようになる 4：文章作成の演習を通じて、論理的なレポートを書くことができるようになる 5：レジュメ（報告用資料）の書き方、報告の仕方の学習を通じて、基本的なプレゼンテーションができるようになる。						
授業概要	本講義は「話す」「読む」「書く」「聴く」等コミュニケーションスキルの習得を徹底し、大人としての最低限の表現能力を身につけることを目的としている。 大学生として必要な基礎的な能力や学び方を学習することを目的としている。 まず最初に大学生としての学びの在り方や学習目標の設定の仕方などをディスカッションや演習を通じて考える（第1回～第4回）。その後、自分自身の経験などに基づいた文章作成を行い、文章力の向上を図る（第5回～第7回）。そして、その文章をもとにスピーチを行い、伝える技術を高めていく（第8回～第9回）。そして、より文章内容を向上させるための情報収集の基礎を実践的に学び（第10回～第13回）、最終的にそれまでの学びの成果を活かしたレポートの作成を行う（第14回～第15回）。 本講義では、スピーチやプレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行い、この過程を通じて、大学での学びの基礎となるコミュニケーション能力と学習遂行能力の向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）ディスカッションやグループワークでの活動状況（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、ディスカッションやグループワークに参加しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】 演習ルーブリック						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指						

の時間	導などの際には講義課題として各自の意見などを提出してもらう。(1.5時間程度)講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	金曜日 2限 研究室 (9411)		
授業計画		担当者	
第1回	講義ガイダンス：講義概要の説明及びアイスブレイク	羽野真哉	
第2回	大学生としての学び(1) 大学規程の理解と研究倫理教育	羽野真哉	
第3回	大学生としての学び(2) 大学における学習資源の活用法	羽野真哉	
第4回	大学生としての学び(3) 学習目標の設定方法の理解と学習目標の設定	羽野真哉	
第5回	文章表現の基礎：基本的な文法事項と文章構造の理解	羽野真哉	
第6回	文章作成演習(1) 一スポーツ経験を振り返る	羽野真哉	
第7回	文章作成演習(2) 現代社会について	羽野真哉	
第8回	スピーチの手法：伝える力とは何か	羽野真哉	
第9回	スピーチ演習：スポーツ及び現代社会について	羽野真哉	
第10回	情報収集の手法(1) データベースの活用法	羽野真哉	
第11回	情報収集の手法(2)：情報の批判的検討の必要性和手法	羽野真哉	
第12回	情報収集の手法(3)：新聞・雑誌記事の読み方	羽野真哉	
第13回	情報収集の技法(4)：統計情報の読み解き方	羽野真哉	
第14回	レポート作成の技法(1)：レポートの基礎基本	羽野真哉	
第15回	レポート作成の技法(2)：レポートの評価について	羽野真哉	
第16回	レポート試験	羽野真哉	
教科書			
教・書籍名1	各回の講義テーマに応じて教員が用意する資料によって講義を行う	教・出版社名1	日本実業出版社
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	文章力の基本	参・出版社名1	日本実業出版社
参・著者名1	阿部 紘久	参・ISBN1	978-4534045881
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-402		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：学習の計画的実行と成果の発表 到達目標： 1：学習計画の立て方を知り、各自の学習課題に応じた学習計画を立てられるようになる 2：各自の興味関心を深め、社会的な事象に興味関心を持つことができる 3：春学期に身に付けたコミュニケーション能力をベースに協同して学習活動を実行できる 4：プレゼンテーションに必要な技法などを理解し、基本的な構成を意識したプレゼンテーションを実施できる 5：学習活動などを通じて、大学卒業後の姿をイメージし、適切なコース選択をすることができる						
授業概要	授業概要： 本講義では春学期のコミュニケーション能力を活かしながら、各自でテーマを設定した上で、プレゼンテーション及びディスカッションを実施する。また、学習課題に取り組む過程で各自の卒業後の進路などに対する意識を深め、2年時以降のコース選択を考えてもらう。最初に各自の学習目標及び学習計画を作成してもらう（第1回～第5回）。その後実際に情報検索・調査を協働して実施してもらう（第6回～第7回）その後、学習成果をPCを用いたプレゼンテーションという形で発表し、ディスカッションを行い理解を深める（第8回～第13回）。最後に講義のまとめとしてコース選択（第14回）及び1年間の学びの振り返り（第15回）を行い、1年間で身に付けたものを確認し、2年次の「演習Ⅰ」にむけた春休み期間の準備を考える。 本講義では、プレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行う。クラス全体で助け合いながら講義を進めていきたい。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーションの内容（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、プレゼンテーションを実施しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ループリック評価	【本科目はループリック評価を導入する。詳細については演習ループリックを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルレポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必ず基礎演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導・プレゼンテーションなどの際には講義課題として発表資料などを提出してもらう。（1.5時間程度）講義中に、						

	文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	水曜日 3限 研究室 (6311)		
授業計画		担当者	
第1回	春学期の学びの振り返りと秋学期の目標設定		孫基然
第2回	学習計画の設計の手法		孫基然
第3回	学習目標の設定(1):個人のキャリア・興味関心の観点から		孫基然
第4回	学習目標の設定(2):社会的な側面から		孫基然
第5回	学習目標の設定(3):設定理由の明確化		孫基然
第6回	学習活動の展開(1):情報収集の実践		孫基然
第7回	学習活動の展開(2):情報の整理・分析の実践		孫基然
第8回	プレゼンテーションの技法(1):事例から学ぶ		孫基然
第9回	プレゼンテーションの技法(2):構成及び表現		孫基然
第10回	プレゼンテーションの技法(3):プレゼンテーション資料の作成方法		孫基然
第11回	プレゼンテーション演習(1):構成の評価を中心として		孫基然
第12回	プレゼンテーション演習(2):資料の評価を中心として		孫基然
第13回	プレゼンテーション演習(3):総括的な評価として		孫基然
第14回	コース選択のために:卒業後のキャリアをイメージすること		孫基然
第15回	学習活動の評価:講義のまとめとして		孫基然
第16回	レポート試験		孫基然
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が作成する資料にもとづいて行う	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-402		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：学習の計画的実行と成果の発表 到達目標： 1：学習計画の立て方を知り、各自の学習課題に応じた学習計画を立てられるようになる 2：各自の興味関心を深め、社会的な事象に興味関心を持つことができる 3：春学期に身に付けたコミュニケーション能力をベースに協同して学習活動を実行できる 4：プレゼンテーションに必要な技法などを理解し、基本的な構成を意識したプレゼンテーションを実施できる 5：学習活動などを通じて、大学卒業後の姿をイメージし、適切なコース選択をすることができる						
授業概要	授業概要： 本講義では春学期のコミュニケーション能力を活かしながら、各自でテーマを設定した上で、プレゼンテーション及びディスカッションを実施する。また、学習課題に取り組む過程で各自の卒業後の進路などに対する意識を深め、2年時以降のコース選択を考えてもらう。最初に各自の学習目標及び学習計画を作成してもらう（第1回～第5回）。その後実際に情報検索・調査を協働して実施してもらう（第6回～第7回）その後、学習成果をPCを用いたプレゼンテーションという形で発表し、ディスカッションを行い理解を深める（第8回～第13回）。最後に講義のまとめとしてコース選択（第14回）及び1年間の学びの振り返り（第15回）を行い、1年間で身に付けたものを確認し、2年次の「演習Ⅰ」にむけた春休み期間の準備を考える。 本講義では、プレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行う。クラス全体で助け合いながら講義を進めていきたい。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーションの内容（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、プレゼンテーションを実施しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ループリック評価	【本科目はループリック評価を導入する。詳細については演習ループリックを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルレポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必ず基礎演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導・プレゼンテーションなどの際には講義課題として発表資料などを提出してもらう。（1.5時間程度）講義中に、						

	文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）		
オフィスアワー	火曜日 4限 9405研究室		
授業計画		担当者	
第1回	春学期の学びの振り返りと秋学期の目標設定		高藤
第2回	学習計画の設計の手法		高藤
第3回	学習目標の設定（1）：個人のキャリア・興味関心の観点から		高藤
第4回	学習目標の設定（2）：社会的な側面から		高藤
第5回	学習目標の設定（3）：設定理由の明確化		高藤
第6回	学習活動の展開（1）：情報収集の実践		高藤
第7回	学習活動の展開（2）：情報の整理・分析の実践		高藤
第8回	プレゼンテーションの技法（1）：事例から学ぶ		高藤
第9回	プレゼンテーションの技法（2）：構成及び表現		高藤
第10回	プレゼンテーションの技法（3）：プレゼンテーション資料の作成方法		高藤
第11回	プレゼンテーション演習（1）：構成の評価を中心として		高藤
第12回	プレゼンテーション演習（2）：資料の評価を中心として		高藤
第13回	プレゼンテーション演習（3）：総括的な評価として		高藤
第14回	コース選択のために：卒業後のキャリアをイメージすること		高藤
第15回	学習活動の評価：講義のまとめとして		高藤
第16回	レポート試験		高藤
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が作成する資料にもとづいて行う。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-402		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：学習の計画的実行と成果の発表 到達目標： 1：学習計画の立て方を知り、各自の学習課題に応じた学習計画を立てられるようになる 2：各自の興味関心を深め、社会的な事象に興味関心を持つことができる 3：春学期に身に付けたコミュニケーション能力をベースに協同して学習活動を実行できる 4：プレゼンテーションに必要な技法などを理解し、基本的な構成を意識したプレゼンテーションを実施できる 5：学習活動などを通じて、大学卒業後の姿をイメージし、適切なコース選択をすることができる						
授業概要	授業概要： 本講義では春学期のコミュニケーション能力を活かしながら、各自でテーマを設定した上で、プレゼンテーション及びディスカッションを実施する。また、学習課題に取り組む過程で各自の卒業後の進路などに対する意識を深め、2年時以降のコース選択を考えてもらう。最初に各自の学習目標及び学習計画を作成してもらう（第1回～第5回）。その後実際に情報検索・調査を協働して実施してもらう（第6回～第7回）その後、学習成果をPCを用いたプレゼンテーションという形で発表し、ディスカッションを行い理解を深める（第8回～第13回）。最後に講義のまとめとしてコース選択（第14回）及び1年間の学びの振り返り（第15回）を行い、1年間で身に付けたものを確認し、2年次の「演習Ⅰ」にむけた春休み期間の準備を考える。 本講義では、プレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行う。クラス全体で助け合いながら講義を進めていきたい。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーションの内容（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、プレゼンテーションを実施しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については演習ルーブリックを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルレポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必ず基礎演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導・プレゼンテーションなどの際には講義課題として発表資料などを提出してもらう。（1.5時間程度）講義中に、						

	文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	水曜日 4限 研究室にて		
授業計画		担当者	
第1回	春学期の学びの振り返りと秋学期の目標設定		竹内研
第2回	学習計画の設計の手法		竹内研
第3回	学習目標の設定(1):個人のキャリア・興味関心の観点から		竹内研
第4回	学習目標の設定(2):社会的な側面から		竹内研
第5回	学習目標の設定(3):設定理由の明確化		竹内研
第6回	学習活動の展開(1):情報収集の実践		竹内研
第7回	学習活動の展開(2):情報の整理・分析の実践		竹内研
第8回	プレゼンテーションの技法(1):事例から学ぶ		竹内研
第9回	プレゼンテーションの技法(2):構成及び表現		竹内研
第10回	プレゼンテーションの技法(3):プレゼンテーション資料の作成方法		竹内研
第11回	プレゼンテーション演習(1):構成の評価を中心として		竹内研
第12回	プレゼンテーション演習(2):資料の評価を中心として		竹内研
第13回	プレゼンテーション演習(3):総括的な評価として		竹内研
第14回	コース選択のために:卒業後のキャリアをイメージすること		竹内研
第15回	学習活動の評価:講義のまとめとして		竹内研
第16回	レポート試験		竹内研
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が作成する資料にもとづいて行う		教・出版社名1
教・著者名1			教・ISBN1
教・書籍名2			教・出版社名2
教・著者名2			教・ISBN2
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する		参・出版社名1
参・著者名1			参・ISBN1
参・書籍名2			参・出版社名2
参・著者名2			参・ISBN2

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-402		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：学習の計画的実行と成果の発表 到達目標： 1：学習計画の立て方を知り、各自の学習課題に応じた学習計画を立てられるようになる 2：各自の興味関心を深め、社会的な事象に興味関心を持つことができる 3：春学期に身に付けたコミュニケーション能力をベースに協同して学習活動を実行できる 4：プレゼンテーションに必要な技法などを理解し、基本的な構成を意識したプレゼンテーションを実施できる 5：学習活動などを通じて、大学卒業後の姿をイメージし、適切なコース選択をすることができる						
授業概要	授業概要： 本講義では春学期のコミュニケーション能力を活かしながら、各自でテーマを設定した上で、プレゼンテーション及びディスカッションを実施する。また、学習課題に取り組む過程で各自の卒業後の進路などに対する意識を深め、2年時以降のコース選択を考えてもらう。最初に各自の学習目標及び学習計画を作成してもらう（第1回～第5回）。その後実際に情報検索・調査を協働して実施してもらう（第6回～第7回）その後、学習成果をPCを用いたプレゼンテーションという形で発表し、ディスカッションを行い理解を深める（第8回～第13回）。最後に講義のまとめとしてコース選択（第14回）及び1年間の学びの振り返り（第15回）を行い、1年間で身に付けたものを確認し、2年次の「演習Ⅰ」にむけた春休み期間の準備を考える。 本講義では、プレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行う。クラス全体で助け合いながら講義を進めていきたい。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーションの内容（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、プレゼンテーションを実施しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については演習ルーブリックを確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必ず基礎演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導・プレゼンテーションなどの際には講義課題として発表資料などを提出してもらう。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと。（1.5時間程度）						

オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9410研究室）において、木曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。		
授業計画		担当者	
第1回	春学期の学びの振り返りと秋学期の目標設定	山口英峰	
第2回	学習計画の設計の手法	山口英峰	
第3回	学習目標の設定（1）：個人のキャリア・興味関心の観点から	山口英峰	
第4回	学習目標の設定（2）：社会的な側面から	山口英峰	
第5回	学習目標の設定（3）：設定理由の明確化	山口英峰	
第6回	学習活動の展開（1）：情報収集の実践	山口英峰	
第7回	学習活動の展開（2）：情報の整理・分析の実践	山口英峰	
第8回	プレゼンテーションの技法（1）：事例から学ぶ	山口英峰	
第9回	プレゼンテーションの技法（2）：構成及び表現	山口英峰	
第10回	プレゼンテーションの技法（3）：プレゼンテーション資料の作成方法	山口英峰	
第11回	プレゼンテーション演習（1）：構成の評価を中心として	山口英峰	
第12回	プレゼンテーション演習（2）：資料の評価を中心として	山口英峰	
第13回	プレゼンテーション演習（3）：総括的な評価として	山口英峰	
第14回	コース選択のために：卒業後のキャリアをイメージすること	山口英峰	
第15回	学習活動の評価：講義のまとめとして	山口英峰	
第16回	レポート試験	山口英峰	
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が作成する資料にもとづいて行う	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-402		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> 						
到達目標	<p>テーマ：学習の計画的実行と成果の発表</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：学習計画の立て方を知り、各自の学習課題に応じた学習計画を立てられるようになる 2：各自の興味関心を深め、社会的な事象に興味関心を持つことができる 3：春学期に身に付けたコミュニケーション能力をベースに協同して学習活動を実行できる 4：プレゼンテーションに必要な技法などを理解し、基本的な構成を意識したプレゼンテーションを実施できる 5：学習活動などを通じて、大学卒業後の姿をイメージし、適切なコース選択をすることができる 						
授業概要	<p>授業概要：</p> <p>本講義では春学期のコミュニケーション能力を活かしながら、各自でテーマを設定した上で、プレゼンテーション及びディスカッションを実施する。また、学習課題に取り組む過程で各自の卒業後の進路などに対する意識を深め、2年時以降のコース選択を考えてもらう。最初に各自の学習目標及び学習計画を作成してもらう（第1回～第5回）。その後実際に情報検索・調査を協働して実施してもらう（第6回～第7回）その後、学習成果をPCを用いたプレゼンテーションという形で発表し、ディスカッションを行い理解を深める（第8回～第13回）。最後に講義のまとめとしてコース選択（第14回）及び1年間の学びの振り返り（第15回）を行い、1年間で身に付けたものを確認し、2年次の「演習Ⅰ」にむけた春休み期間の準備を考える。</p> <p>本講義では、プレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行う。クラス全体で助け合いながら講義を進めていきたい。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーションの内容（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、プレゼンテーションを実施しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ループリック評価	【本科目はループリック評価を導入する。詳細については演習ループリックを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルレポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必ず基礎演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導・プレゼンテーションなどの際には講義課題として発表資料などを提出してもらう。（1.5時間程度）講義中に、						

	文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室		
授業計画		担当者	
第1回	春学期の学びの振り返りと秋学期の目標設定	天岡 寛	
第2回	学習計画の設計の手法	天岡 寛	
第3回	学習目標の設定(1):個人のキャリア・興味関心の観点から	天岡 寛	
第4回	学習目標の設定(2):社会的な側面から	天岡 寛	
第5回	学習目標の設定(3):設定理由の明確化	天岡 寛	
第6回	学習活動の展開(1):情報収集の実践	天岡 寛	
第7回	学習活動の展開(2):情報の整理・分析の実践	天岡 寛	
第8回	プレゼンテーションの技法(1):事例から学ぶ	天岡 寛	
第9回	プレゼンテーションの技法(2):構成及び表現	天岡 寛	
第10回	プレゼンテーションの技法(3):プレゼンテーション資料の作成方法	天岡 寛	
第11回	プレゼンテーション演習(1):構成の評価を中心として	天岡 寛	
第12回	プレゼンテーション演習(2):資料の評価を中心として	天岡 寛	
第13回	プレゼンテーション演習(3):総括的な評価として	天岡 寛	
第14回	コース選択のために:卒業後のキャリアをイメージすること	天岡 寛	
第15回	学習活動の評価:講義のまとめとして	天岡 寛	
第16回	レポート試験	天岡 寛	
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が作成する資料にもとづいて行う	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-402		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：学習の計画的実行と成果の発表 到達目標： 1：学習計画の立て方を知り、各自の学習課題に応じた学習計画を立てられるようになる 2：各自の興味関心を深め、社会的な事象に興味関心を持つことができる 3：春学期に身に付けたコミュニケーション能力をベースに協同して学習活動を実行できる 4：プレゼンテーションに必要な技法などを理解し、基本的な構成を意識したプレゼンテーションを実施できる 5：学習活動などを通じて、大学卒業後の姿をイメージし、適切なコース選択をすることができる						
授業概要	授業概要： 本講義では春学期のコミュニケーション能力を活かしながら、各自でテーマを設定した上で、プレゼンテーション及びディスカッションを実施する。また、学習課題に取り組む過程で各自の卒業後の進路などに対する意識を深め、2年時以降のコース選択を考えてもらう。最初に各自の学習目標及び学習計画を作成してもらう（第1回～第5回）。その後実際に情報検索・調査を協働して実施してもらう（第6回～第7回）その後、学習成果をPCを用いたプレゼンテーションという形で発表し、ディスカッションを行い理解を深める（第8回～第13回）。最後に講義のまとめとしてコース選択（第14回）及び1年間の学びの振り返り（第15回）を行い、1年間で身に付けたものを確認し、2年次の「演習Ⅰ」にむけた春休み期間の準備を考える。 本講義では、プレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行う。クラス全体で助け合いながら講義を進めていきたい。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーションの内容（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、プレゼンテーションを実施しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ループリック評価	【本科目はループリック評価を導入する。詳細については演習ループリックを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルレポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必ず基礎演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導・プレゼンテーションなどの際には講義課題として発表資料などを提出してもらう。（1.5時間程度）講義中に、						

	文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	火曜日 3限 研究室(9401)		
授業計画		担当者	
第1回	春学期の学びの振り返りと秋学期の目標設定		太田真司
第2回	学習計画の設計の手法		太田真司
第3回	学習目標の設定(1):個人のキャリア・興味関心の観点から		太田真司
第4回	学習目標の設定(2):社会的な側面から		太田真司
第5回	学習目標の設定(3):設定理由の明確化		太田真司
第6回	学習活動の展開(1):情報収集の実践		太田真司
第7回	学習活動の展開(2):情報の整理・分析の実践		太田真司
第8回	プレゼンテーションの技法(1):事例から学ぶ		太田真司
第9回	プレゼンテーションの技法(2):構成及び表現		太田真司
第10回	プレゼンテーションの技法(3):プレゼンテーション資料の作成方法		太田真司
第11回	プレゼンテーション演習(1):構成の評価を中心として		太田真司
第12回	プレゼンテーション演習(2):資料の評価を中心として		太田真司
第13回	プレゼンテーション演習(3):総括的な評価として		太田真司
第14回	コース選択のために:卒業後のキャリアをイメージすること		太田真司
第15回	学習活動の評価:講義のまとめとして		太田真司
第16回	レポート試験		太田真司
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が作成する資料にもとづいて行う		教・出版社名1
教・著者名1			教・ISBN1
教・書籍名2			教・出版社名2
教・著者名2			教・ISBN2
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する		参・出版社名1
参・著者名1			参・ISBN1
参・書籍名2			参・出版社名2
参・著者名2			参・ISBN2

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-402		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> 						
到達目標	<p>テーマ：学習の計画的実行と成果の発表</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：学習計画の立て方を知り、各自の学習課題に応じた学習計画を立てられるようになる 2：各自の興味関心を深め、社会的な事象に興味関心を持つことができる 3：春学期に身に付けたコミュニケーション能力をベースに協同して学習活動を実行できる 4：プレゼンテーションに必要な技法などを理解し、基本的な構成を意識したプレゼンテーションを実施できる 5：学習活動などを通じて、大学卒業後の姿をイメージし、適切なコース選択をすることができる 						
授業概要	<p>授業概要：</p> <p>本講義では春学期のコミュニケーション能力を活かしながら、各自でテーマを設定した上で、プレゼンテーション及びディスカッションを実施する。また、学習課題に取り組む過程で各自の卒業後の進路などに対する意識を深め、2年時以降のコース選択を考えてもらう。最初に各自の学習目標及び学習計画を作成してもらう（第1回～第5回）。その後実際に情報検索・調査を協働して実施してもらう（第6回～第7回）その後、学習成果をPCを用いたプレゼンテーションという形で発表し、ディスカッションを行い理解を深める（第8回～第13回）。最後に講義のまとめとしてコース選択（第14回）及び1年間の学びの振り返り（第15回）を行い、1年間で身に付けたものを確認し、2年次の「演習Ⅰ」にむけた春休み期間の準備を考える。</p> <p>本講義では、プレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行う。クラス全体で助け合いながら講義を進めていきたい。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーションの内容（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、プレゼンテーションを実施しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ループリク評価	【本科目はループリク評価を導入する。詳細については演習ループリクを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルレポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必ず基礎演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導・プレゼンテーションなどの際には講義課題として発表資料などを提出してもらう。（1.5時間程度）講義中に、						

	文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）		
オフィスアワー	水曜日 4限 研究室にて		
授業計画		担当者	
第1回	春学期の学びの振り返りと秋学期の目標設定		倉知典弘
第2回	学習計画の設計の手法		倉知典弘
第3回	学習目標の設定（1）：個人のキャリア・興味関心の観点から		倉知典弘
第4回	学習目標の設定（2）：社会的な側面から		倉知典弘
第5回	学習目標の設定（3）：設定理由の明確化		倉知典弘
第6回	学習活動の展開（1）：情報収集の実践		倉知典弘
第7回	学習活動の展開（2）：情報の整理・分析の実践		倉知典弘
第8回	プレゼンテーションの技法（1）：事例から学ぶ		倉知典弘
第9回	プレゼンテーションの技法（2）：構成及び表現		倉知典弘
第10回	プレゼンテーションの技法（3）：プレゼンテーション資料の作成方法		倉知典弘
第11回	プレゼンテーション演習（1）：構成の評価を中心として		倉知典弘
第12回	プレゼンテーション演習（2）：資料の評価を中心として		倉知典弘
第13回	プレゼンテーション演習（3）：総括的な評価として		倉知典弘
第14回	コース選択のために：卒業後のキャリアをイメージすること		倉知典弘
第15回	学習活動の評価：講義のまとめとして		倉知典弘
第16回	レポート試験		倉知典弘
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が作成する資料にもとづいて行う	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-402		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> 						
到達目標	<p>テーマ：学習の計画的実行と成果の発表</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：学習計画の立て方を知り、各自の学習課題に応じた学習計画を立てられるようになる 2：各自の興味関心を深め、社会的な事象に興味関心を持つことができる 3：春学期に身に付けたコミュニケーション能力をベースに協同して学習活動を実行できる 4：プレゼンテーションに必要な技法などを理解し、基本的な構成を意識したプレゼンテーションを実施できる 5：学習活動などを通じて、大学卒業後の姿をイメージし、適切なコース選択をすることができる 						
授業概要	<p>授業概要：</p> <p>本講義では春学期のコミュニケーション能力を活かしながら、各自でテーマを設定した上で、プレゼンテーション及びディスカッションを実施する。また、学習課題に取り組む過程で各自の卒業後の進路などに対する意識を深め、2年時以降のコース選択を考えてもらう。最初に各自の学習目標及び学習計画を作成してもらう（第1回～第5回）。その後実際に情報検索・調査を協働して実施してもらう（第6回～第7回）その後、学習成果をPCを用いたプレゼンテーションという形で発表し、ディスカッションを行い理解を深める（第8回～第13回）。最後に講義のまとめとしてコース選択（第14回）及び1年間の学びの振り返り（第15回）を行い、1年間で身に付けたものを確認し、2年次の「演習Ⅰ」にむけた春休み期間の準備を考える。</p> <p>本講義では、プレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行う。クラス全体で助け合いながら講義を進めていきたい。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーションの内容（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、プレゼンテーションを実施しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ループリック評価	【本科目はループリック評価を導入する。詳細については演習ループリックを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルレポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必ず基礎演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導・プレゼンテーションなどの際には講義課題として発表資料などを提出してもらう。（1.5時間程度）講義中に、						

	文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	月曜日2限 研究室 (9402)		
授業計画		担当者	
第1回	春学期の学びの振り返りと秋学期の目標設定		高原皓全
第2回	学習計画の設計の手法		高原皓全
第3回	学習目標の設定(1):個人のキャリア・興味関心の観点から		高原皓全
第4回	学習目標の設定(2):社会的な側面から		高原皓全
第5回	学習目標の設定(3):設定理由の明確化		高原皓全
第6回	学習活動の展開(1):情報収集の実践		高原皓全
第7回	学習活動の展開(2):情報の整理・分析の実践		高原皓全
第8回	プレゼンテーションの技法(1):事例から学ぶ		高原皓全
第9回	プレゼンテーションの技法(2):構成及び表現		高原皓全
第10回	プレゼンテーションの技法(3):プレゼンテーション資料の作成方法		高原皓全
第11回	プレゼンテーション演習(1):構成の評価を中心として		高原皓全
第12回	プレゼンテーション演習(2):資料の評価を中心として		高原皓全
第13回	プレゼンテーション演習(3):総括的な評価として		高原皓全
第14回	コース選択のために:卒業後のキャリアをイメージすること		高原皓全
第15回	学習活動の評価:講義のまとめとして		高原皓全
第16回	レポート試験		高原皓全
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が作成する資料にもとづいて行う		教・出版社名1
教・著者名1			教・ISBN1
教・書籍名2			教・出版社名2
教・著者名2			教・ISBN2
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する		参・出版社名1
参・著者名1			参・ISBN1
参・書籍名2			参・出版社名2
参・著者名2			参・ISBN2

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-402		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：学習の計画的実行と成果の発表 到達目標： 1：学習計画の立て方を知り、各自の学習課題に応じた学習計画を立てられるようになる 2：各自の興味関心を深め、社会的な事象に興味関心を持つことができる 3：春学期に身に付けたコミュニケーション能力をベースに協同して学習活動を実行できる 4：プレゼンテーションに必要な技法などを理解し、基本的な構成を意識したプレゼンテーションを実施できる 5：学習活動などを通じて、大学卒業後の姿をイメージし、適切なコース選択をすることができる						
授業概要	授業概要： 本講義では春学期のコミュニケーション能力を活かしながら、各自でテーマを設定した上で、プレゼンテーション及びディスカッションを実施する。また、学習課題に取り組む過程で各自の卒業後の進路などに対する意識を深め、2年時以降のコース選択を考えてもらう。最初に各自の学習目標及び学習計画を作成してもらう（第1回～第5回）。その後実際に情報検索・調査を協働して実施してもらう（第6回～第7回）その後、学習成果をPCを用いたプレゼンテーションという形で発表し、ディスカッションを行い理解を深める（第8回～第13回）。最後に講義のまとめとしてコース選択（第14回）及び1年間の学びの振り返り（第15回）を行い、1年間で身に付けたものを確認し、2年次の「演習Ⅰ」にむけた春休み期間の準備を考える。 本講義では、プレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行う。クラス全体で助け合いながら講義を進めていきたい。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーションの内容（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、プレゼンテーションを実施しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ループリック評価	【本科目はループリック評価を導入する。詳細については演習ループリックを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルレポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必ず基礎演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導・プレゼンテーションなどの際には講義課題として発表資料などを提出してもらう。（1.5時間程度）講義中に、						

	文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	金曜日 2限 研究室(9411)にて		
授業計画		担当者	
第1回	春学期の学びの振り返りと秋学期の目標設定		羽野真哉
第2回	学習計画の設計の手法		羽野真哉
第3回	学習目標の設定(1):個人のキャリア・興味関心の観点から		羽野真哉
第4回	学習目標の設定(2):社会的な側面から		羽野真哉
第5回	学習目標の設定(3):設定理由の明確化		羽野真哉
第6回	学習活動の展開(1):情報収集の実践		羽野真哉
第7回	学習活動の展開(2):情報の整理・分析の実践		羽野真哉
第8回	プレゼンテーションの技法(1):事例から学ぶ		羽野真哉
第9回	プレゼンテーションの技法(2):構成及び表現		羽野真哉
第10回	プレゼンテーションの技法(3):プレゼンテーション資料の作成方法		羽野真哉
第11回	プレゼンテーション演習(1):構成の評価を中心として		羽野真哉
第12回	プレゼンテーション演習(2):資料の評価を中心として		羽野真哉
第13回	プレゼンテーション演習(3):総括的な評価として		羽野真哉
第14回	コース選択のために:卒業後のキャリアをイメージすること		羽野真哉
第15回	学習活動の評価:講義のまとめとして		羽野真哉
第16回	レポート試験		羽野真哉
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が作成する資料にもとづいて行う	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習 I			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-403		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。論理的に物事を考える力を身につけることができる。 到達目標： 1：健康づくりの議論で用いられる基本的な概念を説明できるようになる 2：健康づくりの観点から（地域）社会の在り方について論理的に意見を述べるようになる。 3：健康づくりの基礎知識をもとに組織のあり方について論理的に意見を述べるようになる 4：運動指導のあり方について論理的に意見を述べるようになる						
授業概要	本講義では、健康スポーツコースで学ぶために必要な基礎的な概念を文章読解、プレゼンテーション及びそれらに基づいたディスカッションを通じて理解することを目的としている。 本講義は「健康と健康づくりに関わる基礎概念」や「運動・栄養・休養との関係」、「地域社会でのあり方」、「運動指導の基礎」など自分が疑問に感じること、興味があることについて考え、その中から各自がテーマを選択する。 この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、健康等に関する知識だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図ることを期待する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢20%，提出物30%，議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の演習Ⅱの最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	水曜日3時限目 6号館3階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーションと学習目標の設定					孫基然	
第2回	健康とは何か					孫基然	
第3回	健康と栄養					孫基然	

第4回	健康と休養	孫基然
第5回	健康と運動	孫基然
第6回	地域社会と健康	孫基然
第7回	健康づくりとは何か	孫基然
第8回	健康づくりと行政と政策	孫基然
第9回	健康づくりにおける組織論	孫基然
第10回	健康づくりと組織の人的側面	孫基然
第11回	健康運動指導とは何か	孫基然
第12回	運動指導の基礎的技法	孫基然
第13回	運動指導と指導者論	孫基然
第14回	資料の収集（健康・栄養・休養・運動に関する資料）	孫基然
第15回	資料の収集（健康づくりに関する資料）	孫基然
第16回	最終課題	孫基然
教科書		
教・書籍名1	適宜指示する	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	演習 I			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-403		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：スポーツマネジメントやコーチングを学ぶための基礎理論及び組織論を学ぶ 到達目標 1: マネジメントやコーチングの議論で用いられる基本的な概念を説明できるようになる 2: マネジメントの観点から（地域）社会のスポーツの在り方について論理的に意見を述べるができるようになる。 3: マネジメントの基礎知識をもとに組織のあり方について論理的に意見を述べるができるようになる 4: コーチングや教育学の議論をもとに、スポーツ指導のあり方について論理的に意見を述べるができるようになる						
授業概要	本講義では、スポーツマネジメント・コーチコースで学ぶために必要な基礎的な概念を文章読解、プレゼンテーション及びそれらに基づいたディスカッションを通じて理解することを目的としている。 本講義は本コースで学ぶことに応じて4つの段階に区分されている。まず、最初にマネジメントに関わる基礎概念を学ぶ（第1回～第7回）。スポーツ組織のあり方等の学習を通じて、社会における組織やビジネス、法制度のあり方について理解を深め、スポーツを振興するための仕組みのあり方について考察する能力の基礎をつくることを目的とする。次に、スポーツの指導技法に関わるコーチングについて学ぶ（第8回～第10回）。この学習を通じて、ひとを育てるための手法などについて理解を深める。その後、学校教育におけるスポーツのあり方を保健体育・部活動の観点から学習し（第11回～第13回）、教育という観点からスポーツ指導のあり方を考える力を培う。最後に、この講義全体を通じて学んだことを自分の言葉でプレゼンテーションしてもらい、マネジメントに対する理解を深めていく。この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、マネジメント等に関する知識だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図っていただきたい。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義中に提示する課題（30％）、プレゼンテーション（30％）、終講レポート（40％）で評価を行う。講義中課題が未提出、プレゼンテーションの未実施、終講課題の未提出がある場合は成績評価を行わず、放棄として扱う。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の演習Ⅱの最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	火曜日4限 研究室（9405）にて						

授業計画		担当者	
第1回	ガイダンス及び学習目標の設定	高藤	
第2回	スポーツマネジメントとは何か	高藤	
第3回	スポーツにおける組織論：組織とチームのあり方	高藤	
第4回	スポーツ組織の人的側面：人事・人材育成	高藤	
第5回	スポーツビジネスとは何か	高藤	
第6回	スポーツ行政と政策	高藤	
第7回	地域社会とスポーツ：総合型地域スポーツクラブを中心に	高藤	
第8回	コーチングとは何か：コーチングの基礎的思想	高藤	
第9回	コーチングの基礎的技法	高藤	
第10回	コーチングと指導者論：リーダーシップのあり方	高藤	
第11回	学校教育におけるスポーツ（1）：教育論・学校論基礎	高藤	
第12回	学校教育におけるスポーツ（2）：保健体育におけるマネジメント	高藤	
第13回	学校教育におけるスポーツ（3）：部活動の意義と課題	高藤	
第14回	プレゼンテーション（1） マネジメントについての考察	高藤	
第15回	プレゼンテーション（2） 春学期の学びを振り返る	高藤	
第16回	レポート試験	高藤	
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が用意する授業資料を基に講義を行う。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	基本・スポーツマネジメント	参・出版社名1	大修館書店
参・著者名1	畑 攻, 小野里真弓編著	参・ISBN1	978-4469268324
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習 I			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-403		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。論理的に物事を考える力を身につけることができる。 到達目標： 1：健康づくりの議論で用いられる基本的な概念を説明できるようになる 2：健康づくりの観点から（地域）社会の在り方について論理的に意見を述べるようになる。 3：健康づくりの基礎知識をもとに組織のあり方について論理的に意見を述べるようになる 4：運動指導のあり方について論理的に意見を述べるようになる						
授業概要	本講義では、健康スポーツコースで学ぶために必要な基礎的な概念を文章読解、プレゼンテーション及びそれらに基づいたディスカッションを通じて理解することを目的としている。 本講義は「健康と健康づくりに関わる基礎概念」や「運動・栄養・休養との関係」、「地域社会でのあり方」、「運動指導の基礎」など自分が疑問に感じること、興味があることについて考え、その中から各自がテーマを選択する。 この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、健康等に関する知識だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図ることを期待する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢20%，提出物30%，議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の演習Ⅱの最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	水曜日5時限目 研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーションと学習目標の設定・研究倫理の教育					竹内研	
第2回	健康とは何か					竹内研	
第3回	健康と栄養					竹内研	

第4回	健康と休養	竹内研
第5回	健康と運動	竹内研
第6回	地域社会と健康	竹内研
第7回	健康づくりとは何か	竹内研
第8回	健康づくりと行政と政策	竹内研
第9回	健康づくりにおける組織論	竹内研
第10回	健康づくりと組織の人的側面	竹内研
第11回	健康運動指導とは何か	竹内研
第12回	運動指導の基礎的技法	竹内研
第13回	運動指導と指導者論	竹内研
第14回	資料の収集（健康・栄養・休養・運動に関する資料）	竹内研
第15回	資料の収集（健康づくりに関する資料）	竹内研
第16回	最終課題	竹内研

教科書

教・書籍名1	適宜指示する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習 I			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-403		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。論理的に物事を考える力を身につけることができる。 到達目標： 1：健康づくりの議論で用いられる基本的な概念を説明できるようになる 2：健康づくりの観点から（地域）社会の在り方について論理的に意見を述べるようになる。 3：健康づくりの基礎知識をもとに組織のあり方について論理的に意見を述べるようになる 4：運動指導のあり方について論理的に意見を述べるようになる						
授業概要	本講義では、健康スポーツコースで学ぶために必要な基礎的な概念を文章読解、プレゼンテーション及びそれらに基づいたディスカッションを通じて理解することを目的としている。 本講義は「健康と健康づくりに関わる基礎概念」や「運動・栄養・休養との関係」、「地域社会でのあり方」、「運動指導の基礎」など自分が疑問に感じること、興味があることについて考え、その中から各自がテーマを選択する。 この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、健康等に関する知識だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図ることを期待する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢20%，提出物30%，議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の演習Ⅱの最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーションと学習目標の設定					山口英峰	
第2回	健康とは何か					山口英峰	
第3回	健康と栄養					山口英峰	

第4回	健康と休養	山口英峰
第5回	健康と運動	山口英峰
第6回	地域社会と健康	山口英峰
第7回	健康づくりとは何か	山口英峰
第8回	健康づくりと行政と政策	山口英峰
第9回	健康づくりにおける組織論	山口英峰
第10回	健康づくりと組織の人的側面	山口英峰
第11回	健康運動指導とは何か	山口英峰
第12回	運動指導の基礎的技法	山口英峰
第13回	運動指導と指導者論	山口英峰
第14回	資料の収集（健康・栄養・休養・運動に関する資料）	山口英峰
第15回	資料の収集（健康づくりに関する資料）	山口英峰
第16回	最終課題	山口英峰
教科書		
教・書籍名1	適宜指示する	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	演習 I			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-403		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。論理的に物事を考える力を身につけることができる。 到達目標： 1：健康づくりの議論で用いられる基本的な概念を説明できるようになる 2：健康づくりの観点から（地域）社会の在り方について論理的に意見を述べるようになる。 3：健康づくりの基礎知識をもとに組織のあり方について論理的に意見を述べるようになる 4：運動指導のあり方について論理的に意見を述べるようになる						
授業概要	本講義では、健康スポーツコースで学ぶために必要な基礎的な概念を文章読解、プレゼンテーション及びそれらに基づいたディスカッションを通じて理解することを目的としている。 本講義は「健康と健康づくりに関わる基礎概念」や「運動・栄養・休養との関係」、「地域社会でのあり方」、「運動指導の基礎」など自分が疑問に感じること、興味があることについて考え、その中から各自がテーマを選択する。 この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、健康等に関する知識だけではなく、コミュニケーション能力の向上を図ることを期待する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢20%，提出物30%，議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の演習Ⅱの最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーションと学習目標の設定					天岡 寛	
第2回	健康とは何か					天岡 寛	
第3回	健康と栄養					天岡 寛	

第4回	健康と休養	天岡 寛
第5回	健康と運動	天岡 寛
第6回	地域社会と健康	天岡 寛
第7回	健康づくりとは何か	天岡 寛
第8回	健康づくりと行政と政策	天岡 寛
第9回	健康づくりにおける組織論	天岡 寛
第10回	健康づくりと組織の人的側面	天岡 寛
第11回	健康運動指導とは何か	天岡 寛
第12回	運動指導の基礎的技法	天岡 寛
第13回	運動指導と指導者論	天岡 寛
第14回	資料の収集（健康・栄養・休養・運動に関する資料）	天岡 寛
第15回	資料の収集（健康づくりに関する資料）	天岡 寛
第16回	最終課題	天岡 寛
教科書		
教・書籍名1	適宜指示する	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-403		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：スポーツマネジメントやコーチングを学ぶための基礎理論及び組織論を学ぶ 到達目標 1: マネジメントやコーチングの議論で用いられる基本的な概念を説明できるようになる 2: マネジメントの観点から（地域）社会のスポーツの在り方について論理的に意見を述べるができるようになる。 3: マネジメントの基礎知識をもとに組織のあり方について論理的に意見を述べるができるようになる 4: コーチングや教育学の議論をもとに、スポーツ指導のあり方について論理的に意見を述べるができるようになる						
授業概要	本講義では、スポーツマネジメント・コーチコースで学ぶために必要な基礎的な概念を文章読解、プレゼンテーション及びそれらに基づいたディスカッションを通じて理解することを目的としている。 本講義は本コースで学ぶことに応じて4つの段階に区分されている。まず、最初にマネジメントに関わる基礎概念を学ぶ（第1回～第7回）。スポーツ組織のあり方等の学習を通じて、社会における組織やビジネス、法制度のあり方について理解を深め、スポーツを振興するための仕組みのあり方について考察する能力の基礎をつくることを目的とする。次に、スポーツの指導技法に関わるコーチングについて学ぶ（第8回～第10回）。この学習を通じて、ひとを育てるための手法などについて理解を深める。その後、学校教育におけるスポーツのあり方を保健体育・部活動の観点から学習し（第11回～第13回）、教育という観点からスポーツ指導のあり方を考える力を培う。最後に、この講義全体を通じて学んだことを自分の言葉でプレゼンテーションしてもらい、マネジメントに対する理解を深めていく。 この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、マネジメント等に関する知識だけではなく、コミュニケーション能力の向上を図っていただきたい。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義中に提示する課題（30％）、プレゼンテーション（30％）、終講レポート（40％）で評価を行う。講義中課題が未提出、プレゼンテーションの未実施、終講課題の未提出がある場合は成績評価を行わず、放棄として扱う。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の演習Ⅱの最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	水曜日4限 研究室（9301）にて						

授業計画		担当者	
第1回	ガイダンス及び学習目標の設定	太田真司	
第2回	スポーツマネジメントとは何か	太田真司	
第3回	スポーツにおける組織論：組織とチームのあり方	太田真司	
第4回	スポーツ組織の人的側面：人事・人材育成	太田真司	
第5回	スポーツビジネスとは何か	太田真司	
第6回	スポーツ行政と政策	太田真司	
第7回	地域社会とスポーツ：総合型地域スポーツクラブを中心に	太田真司	
第8回	コーチングとは何か：コーチングの基礎的思想	太田真司	
第9回	コーチングの基礎的技法	太田真司	
第10回	コーチングと指導者論：リーダーシップのあり方	太田真司	
第11回	学校教育におけるスポーツ（1）：教育論・学校論基礎	太田真司	
第12回	学校教育におけるスポーツ（2）：保健体育におけるマネジメント	太田真司	
第13回	学校教育におけるスポーツ（3）：部活動の意義と課題	太田真司	
第14回	プレゼンテーション（1） マネジメントについての考察	太田真司	
第15回	プレゼンテーション（2） 春学期の学びを振り返る	太田真司	
第16回	レポート試験	倉知典弘	
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が用意する授業資料を基に講義を行う。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	基本・スポーツマネジメント	参・出版社名1	大修館書店
参・著者名1	畑 攻, 小野里真弓編著	参・ISBN1	978-4469268324
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習 I			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-403		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：スポーツマネジメントやコーチングを学ぶための基礎理論及び組織論を学ぶ 到達目標 1: マネジメントやコーチングの議論で用いられる基本的な概念を説明できるようになる 2: マネジメントの観点から（地域）社会のスポーツの在り方について論理的に意見を述べるができるようになる。 3: マネジメントの基礎知識をもとに組織のあり方について論理的に意見を述べるができるようになる 4: コーチングや教育学の議論をもとに、スポーツ指導のあり方について論理的に意見を述べるができるようになる						
授業概要	本講義では、スポーツマネジメント・コーチコースで学ぶために必要な基礎的な概念を文章読解、プレゼンテーション及びそれらに基づいたディスカッションを通じて理解することを目的としている。 本講義は本コースで学ぶことに応じて4つの段階に区分されている。まず、最初にマネジメントに関わる基礎概念を学ぶ（第1回～第7回）。スポーツ組織のあり方等の学習を通じて、社会における組織やビジネス、法制度のあり方について理解を深め、スポーツを振興するための仕組みのあり方について考察する能力の基礎をつくることを目的とする。次に、スポーツの指導技法に関わるコーチングについて学ぶ（第8回～第10回）。この学習を通じて、ひとを育てるための手法などについて理解を深める。その後、学校教育におけるスポーツのあり方を保健体育・部活動の観点から学習し（第11回～第13回）、教育という観点からスポーツ指導のあり方を考える力を培う。最後に、この講義全体を通じて学んだことを自分の言葉でプレゼンテーションしてもらい、マネジメントに対する理解を深めていく。 この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、マネジメント等に関する知識だけではなく、コミュニケーション能力の向上を図っていただきたい。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義中に提示する課題（30％）、プレゼンテーション（30％）、終講レポート（40％）で評価を行う。講義中課題が未提出、プレゼンテーションの未実施、終講課題の未提出がある場合は成績評価を行わず、放棄として扱う。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の演習Ⅱの最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	水曜日4限 研究室（9301）にて						

授業計画		担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について	倉知典弘	
第2回	スポーツマネジメントとは何か	倉知典弘	
第3回	スポーツにおける組織論：組織とチームのあり方	倉知典弘	
第4回	スポーツ組織の人的側面：人事・人材育成	倉知典弘	
第5回	スポーツビジネスとは何か	倉知典弘	
第6回	スポーツ行政と政策	倉知典弘	
第7回	地域社会とスポーツ：総合型地域スポーツクラブを中心に	倉知典弘	
第8回	コーチングとは何か：コーチングの基礎的思想	倉知典弘	
第9回	コーチングの基礎的技法	倉知典弘	
第10回	コーチングと指導者論：リーダーシップのあり方	倉知典弘	
第11回	学校教育におけるスポーツ（1）：教育論・学校論基礎	倉知典弘	
第12回	学校教育におけるスポーツ（2）：保健体育におけるマネジメント	倉知典弘	
第13回	学校教育におけるスポーツ（3）：部活動の意義と課題	倉知典弘	
第14回	プレゼンテーション（1） マネジメントについての考察	倉知典弘	
第15回	プレゼンテーション（2） 春学期の学びを振り返る	倉知典弘	
第16回	レポート試験	倉知典弘	
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が用意する授業資料を基に講義を行う。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	基本・スポーツマネジメント	参・出版社名1	大修館書店
参・著者名1	畑 攻, 小野里真弓編著	参・ISBN1	978-4469268324
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-403		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。論理的に物事を考える力を身につけることができる。 到達目標： 1：健康づくりの議論で用いられる基本的な概念を説明できるようになる 2：健康づくりの観点から（地域）社会の在り方について論理的に意見を述べるようになる。 3：健康づくりの基礎知識をもとに組織のあり方について論理的に意見を述べるようになる 4：運動指導のあり方について論理的に意見を述べるようになる						
授業概要	本講義では、健康スポーツコースで学ぶために必要な基礎的な概念を文章読解、プレゼンテーション及びそれらに基づいたディスカッションを通じて理解することを目的としている。 本講義は「健康と健康づくりに関わる基礎概念」や「運動・栄養・休養との関係」、「地域社会でのあり方」、「運動指導の基礎」など自分が疑問に感じること、興味があることについて考え、その中から各自がテーマを選択する。 この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、健康等に関する知識だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図ることを期待する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢20%，提出物30%，議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の演習Ⅱの最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	月曜日2時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーションと学習目標の設定					高原皓全	
第2回	健康とは何か					高原皓全	
第3回	健康と栄養					高原皓全	

第4回	健康と休養	高原皓全
第5回	健康と運動	高原皓全
第6回	地域社会と健康	高原皓全
第7回	健康づくりとは何か	高原皓全
第8回	健康づくりと行政と政策	高原皓全
第9回	健康づくりにおける組織論	高原皓全
第10回	健康づくりと組織の人的側面	高原皓全
第11回	健康運動指導とは何か	高原皓全
第12回	運動指導の基礎的技法	高原皓全
第13回	運動指導と指導者論	高原皓全
第14回	資料の収集（健康・栄養・休養・運動に関する資料）	高原皓全
第15回	資料の収集（健康づくりに関する資料）	高原皓全
第16回	最終課題	高原皓全
教科書		
教・書籍名1	適宜指示する	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	演習 I			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-403		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：スポーツマネジメントやコーチングを学ぶための基礎理論及び組織論を学ぶ 到達目標 1: マネジメントやコーチングの議論で用いられる基本的な概念を説明できるようになる 2: マネジメントの観点から（地域）社会のスポーツの在り方について論理的に意見を述べるができるようになる。 3: マネジメントの基礎知識をもとに組織のあり方について論理的に意見を述べるができるようになる 4: コーチングや教育学の議論をもとに、スポーツ指導のあり方について論理的に意見を述べるができるようになる						
授業概要	本講義では、スポーツマネジメント・コーチコースで学ぶために必要な基礎的な概念を文章読解、プレゼンテーション及びそれらに基づいたディスカッションを通じて理解することを目的としている。 本講義は本コースで学ぶことに応じて4つの段階に区分されている。まず、最初にマネジメントに関わる基礎概念を学ぶ（第1回～第7回）。スポーツ組織のあり方等の学習を通じて、社会における組織やビジネス、法制度のあり方について理解を深め、スポーツを振興するための仕組みのあり方について考察する能力の基礎をつくることを目的とする。次に、スポーツの指導技法に関わるコーチングについて学ぶ（第8回～第10回）。この学習を通じて、ひとを育てるための手法などについて理解を深める。その後、学校教育におけるスポーツのあり方を保健体育・部活動の観点から学習し（第11回～第13回）、教育という観点からスポーツ指導のあり方を考える力を培う。最後に、この講義全体を通じて学んだことを自分の言葉でプレゼンテーションしてもらい、マネジメントに対する理解を深めていく。 この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、マネジメント等に関する知識だけではなく、コミュニケーション能力の向上を図っていただきたい。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義中に提示する課題（30％）、プレゼンテーション（30％）、終講レポート（40％）で評価を行う。講義中課題が未提出、プレゼンテーションの未実施、終講課題の未提出がある場合は成績評価を行わず、放棄として扱う。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の演習Ⅱの最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	金曜日 2限 9号館4階研究室（9411）にて						

授業計画		担当者	
第1回	ガイダンス及び学習目標の設定	羽野	
第2回	スポーツマネジメントとは何か	羽野	
第3回	スポーツにおける組織論：組織とチームのあり方	羽野	
第4回	スポーツ組織の人的側面：人事・人材育成	羽野	
第5回	スポーツビジネスとは何か	羽野	
第6回	スポーツ行政と政策	羽野	
第7回	地域社会とスポーツ：総合型地域スポーツクラブを中心に	羽野	
第8回	コーチングとは何か：コーチングの基礎的思想	羽野	
第9回	コーチングの基礎的技法	羽野	
第10回	コーチングと指導者論：リーダーシップのあり方	羽野	
第11回	学校教育におけるスポーツ（1）：教育論・学校論基礎	羽野	
第12回	学校教育におけるスポーツ（2）：保健体育におけるマネジメント	羽野	
第13回	学校教育におけるスポーツ（3）：部活動の意義と課題	羽野	
第14回	プレゼンテーション（1） マネジメントについての考察	羽野	
第15回	プレゼンテーション（2） 春学期の学びを振り返る	羽野	
第16回	レポート試験	羽野	
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が用意する授業資料を基に講義を行う。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	基本・スポーツマネジメント	参・出版社名1	大修館書店
参・著者名1	畑 攻, 小野里真弓編著	参・ISBN1	978-4469268324
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-404		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	<p>テーマ： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。論理的に物事を考える力を身につけることができる。</p> <p>到達目標： 1：健康づくりと運動・栄養・休養の関係について説明できるようになる 2：健康づくりの観点から関連する資料を読み取ることができるようになる。 3：健康づくりの観点から各自のテーマの成果をまとめて発表することができる。 4：3年次以降に深めたいテーマを見つけて、適切にゼミを選択することができる。</p>						
授業概要	<p>演習Ⅰで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて、発表し、全員で討論する。3年生の演習に結びつくように内容にまとめる必要がある。</p> <p>この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、健康等に関する知識だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図ることを期待する。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢20%，提出物30%，議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	水曜日3時限目 6号館3階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					孫基然	
第2回	抄読（スポーツに関する資料）					孫基然	
第3回	抄読（教育に関する資料）					孫基然	
第4回	抄読（健康と食生活に関する資料）					孫基然	
第5回	抄読（健康と運動に関する資料）					孫基然	
第6回	抄読（健康と休養に関する資料）					孫基然	
第7回	発表準備（スポーツに関する資料）					孫基然	

第8回	発表準備（教育に関する資料）	孫基然
第9回	発表準備（健康と食生活に関する資料）	孫基然
第10回	発表準備（健康と運動に関する資料）	孫基然
第11回	発表準備（健康と休養に関する資料）	孫基然
第12回	発表（スポーツに関する資料）	孫基然
第13回	発表（教育に関する資料）	孫基然
第14回	発表（健康と食生活に関する資料）	孫基然
第15回	発表（健康と運動に関する資料）	孫基然
第16回	最終課題	孫基然

教科書		
-----	--	--

教・書籍名1	適宜指示する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書		
-----	--	--

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-404		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：組織を変革するリーダーシップとは何かを考える 到達目標 1：新たなリーダーシップが求められている時代背景を理解する 2：ポジティブアプローチを理解し、その意義を述べることができるようになる 3：サーバントリーダーシップの考え方を理解する 4：組織変革を促すリーダーシップの在り方を考え、自身の見解を表現できる 5：学習したリーダーシップのあり方に関する知見を活用して、自身の所属する組織にふさわしいリーダーシップのあり方を考え、表現出来る						
授業概要	本講義は演習Ⅰの継続として実施されるものである。演習Ⅰでは学習する組織論を通じて組織の変革をどのように進めるのかを学習してきた。本講義では、組織変革のためのリーダーシップについて学ぶ。まず、組織が置かれている社会的状況を改めて確認し（第1回～第3回）、リーダーシップのあり方も変化していることを確認する。その後ポジティブアプローチを検討する（第4回～第5回）。以上の検討ののち、新しいリーダーシップを考えるための手掛かりとして「サーバントリーダーシップ」について検討する（第6回～第11回）。これらの理解をもとにして自分自身のリーダーシップに関する意見をまとめ、受講者相互で批評しあう（第12回～第15回）。このことを通じて、今までのリーダーシップの考え方を批判的に見つめる視点が構築されるだろう。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	文献の読解力を測るための報告資料（30％）、授業の理解度を測るためのプレゼンテーション（50％）、自身の学習経験を振り返るための終講レポート（20％）で評価する。報告資料は著者の見解を正確に理解できているかどうかを評価する。プレゼンテーションでは、文献等に示されたリーダーシップのあり方についての理解が正確であるか、各自の経験（組織の在り方）を検討できているかを評価する。終講レポートでは、講義において実施した学び方を理解できているかを評価する。報告資料及びプレゼンテーションは講義内でフィードバックを行う。終講レポートについては掲示で総括的なフィードバックを行うものとする。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の演習Ⅱの最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本講義は演習Ⅰと合わせて履修すること。テキストを用いて授業を行うので、必ず購入すること。 また、報告資料を綴るためのA4ファイルを1冊とデータを持ち運ぶためのUSBメモリーを必ず用意すること。本講義は文献読解を行ってきていることを前提とし、各回報告を行ってもらう。この報告を行わなかった場合は、成績評価を行わない。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習として毎回テキストの該当箇所を読み、報告を行ってもらう（2時間程度）。復習として学んだことをまとめ、各自の意見を書いてもらう（2時間程度）。						
オフィスアワー	火曜日4限9405研究室						
授業計画						担当者	
第1回	ガイダンス及び学習目標の設定					高藤	
第2回	スポーツマネジメントとは何か					高藤	
第3回	スポーツにおける組織論：組織とチームのあり方					高藤	

第4回	スポーツ組織の人的側面：人事・人材育成	高藤
第5回	スポーツビジネスとは何か	高藤
第6回	スポーツ行政と政策	高藤
第7回	地域社会とスポーツ：総合型地域スポーツクラブを中心に	高藤
第8回	コーチングとは何か：コーチングの基礎的思想	高藤
第9回	コーチングの基礎的技法	高藤
第10回	コーチングと指導者論：リーダーシップのあり方	高藤
第11回	学校教育におけるスポーツ（1）：教育論・学校論基礎	高藤
第12回	学校教育におけるスポーツ（2）：保健体育におけるマネジメント	高藤
第13回	学校教育におけるスポーツ（3）：部活動の意義と課題	高藤
第14回	プレゼンテーション（1） マネジメントについての考察	高藤
第15回	プレゼンテーション（2） 秋学期の学びを振り返る	高藤
第16回	レポート試験	高藤

教科書

教・書籍名1	各回ごとに提示する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-404		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。論理的に物事を考える力を身につけることができる。 到達目標： 1：健康づくりと運動・栄養・休養の関係について説明できるようになる 2：健康づくりの観点から関連する資料を読み取ることができるようになる。 3：健康づくりの観点から各自のテーマの成果をまとめて発表することができる。 4：3年次以降に深めたいテーマを見つけて、適切にゼミを選択することができる。						
授業概要	演習Ⅰで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて、発表し、全員で討論する。3年生の演習に結びつくように内容にまとめる必要がある。 この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、健康等に関する知識だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図ることを期待する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢20%，提出物30%，議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	水曜日5時限目 研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション：研究倫理の教育						竹内研
第2回	抄読（スポーツに関する資料）						竹内研
第3回	抄読（教育に関する資料）						竹内研
第4回	抄読（健康と食生活に関する資料）						竹内研
第5回	抄読（健康と運動に関する資料）						竹内研
第6回	抄読（健康と休養に関する資料）						竹内研
第7回	発表準備（スポーツに関する資料）						竹内研

第8回	発表準備（教育に関する資料）	竹内研
第9回	発表準備（健康と食生活に関する資料）	竹内研
第10回	発表準備（健康と運動に関する資料）	竹内研
第11回	発表準備（健康と休養に関する資料）	竹内研
第12回	発表（スポーツに関する資料）	竹内研
第13回	発表（教育に関する資料）	竹内研
第14回	発表（健康と食生活に関する資料）	竹内研
第15回	発表（健康と運動に関する資料）	竹内研
第16回	最終課題	竹内研

教科書

教・書籍名1	適宜指示する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-404		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	<p>テーマ： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。論理的に物事を考える力を身につけることができる。</p> <p>到達目標： 1：健康づくりと運動・栄養・休養の関係について説明できるようになる 2：健康づくりの観点から関連する資料を読み取ることができるようになる。 3：健康づくりの観点から各自のテーマの成果をまとめて発表することができる。 4：3年次以降に深めたいテーマを見つけて、適切にゼミを選択することができる。</p>						
授業概要	<p>演習Ⅰで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて、発表し、全員で討論する。3年生の演習に結びつくように内容にまとめる必要がある。</p> <p>この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、健康等に関する知識だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図ることを期待する。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢20%，提出物30%，議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					山口英峰	
第2回	抄読（スポーツに関する資料）					山口英峰	
第3回	抄読（教育に関する資料）					山口英峰	
第4回	抄読（健康と食生活に関する資料）					山口英峰	
第5回	抄読（健康と運動に関する資料）					山口英峰	
第6回	抄読（健康と休養に関する資料）					山口英峰	
第7回	発表準備（スポーツに関する資料）					山口英峰	

第8回	発表準備（教育に関する資料）	山口英峰
第9回	発表準備（健康と食生活に関する資料）	山口英峰
第10回	発表準備（健康と運動に関する資料）	山口英峰
第11回	発表準備（健康と休養に関する資料）	山口英峰
第12回	発表（スポーツに関する資料）	山口英峰
第13回	発表（教育に関する資料）	山口英峰
第14回	発表（健康と食生活に関する資料）	山口英峰
第15回	発表（健康と運動に関する資料）	山口英峰
第16回	最終課題	山口英峰

教科書

教・書籍名1	適宜指示する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-404		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	<p>テーマ： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。論理的に物事を考える力を身につけることができる。</p> <p>到達目標： 1：健康づくりと運動・栄養・休養の関係について説明できるようになる 2：健康づくりの観点から関連する資料を読み取ることができるようになる。 3：健康づくりの観点から各自のテーマの成果をまとめて発表することができる。 4：3年次以降に深めたいテーマを見つけて、適切にゼミを選択することができる。</p>						
授業概要	<p>演習Ⅰで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて、発表し、全員で討論する。3年生の演習に結びつくように内容にまとめる必要がある。</p> <p>この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、健康等に関する知識だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図ることを期待する。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢20%，提出物30%，議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと。（1.5時間程度）						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					天岡 寛	
第2回	抄読（スポーツに関する資料）					天岡 寛	
第3回	抄読（教育に関する資料）					天岡 寛	
第4回	抄読（健康と食生活に関する資料）					天岡 寛	
第5回	抄読（健康と運動に関する資料）					天岡 寛	
第6回	抄読（健康と休養に関する資料）					天岡 寛	
第7回	発表準備（スポーツに関する資料）					天岡 寛	

第8回	発表準備（教育に関する資料）	天岡 寛
第9回	発表準備（健康と食生活に関する資料）	天岡 寛
第10回	発表準備（健康と運動に関する資料）	天岡 寛
第11回	発表準備（健康と休養に関する資料）	天岡 寛
第12回	発表（スポーツに関する資料）	天岡 寛
第13回	発表（教育に関する資料）	天岡 寛
第14回	発表（健康と食生活に関する資料）	天岡 寛
第15回	発表（健康と運動に関する資料）	天岡 寛
第16回	最終課題	天岡 寛

教科書

教・書籍名1	適宜指示する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-404		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	春学期に身に付けたことが出来ている。それらを活用して多様な観点からスポーツマネジメント及びコーチングについて自分の意見を論理的に述べる事が出来る。 テーマ：「スポーツマネジメント」や「コーチング」の基本的な理念・知識などを深める 到達目標 1：マネジメントやコーチングの理解を深めて、社会の変化に応じたこれからのスポーツ組織のあり方について論理的に考察できる 2：リーダーシップやコーチングの理解を深めて、これからのスポーツにおけるリーダーシップのあり方・指導者のあり方を理論的に考察できる 3：スポーツの法制度の理解を深めて、これからのスポーツ振興のための行政について理論的に考察できる 4：学校教育を批判的に見つめて、これからの保健体育・部活動のあり方を理論的に考察できる 5：3年次以降に深めたいテーマを見つけて、適切にゼミを選択することができる						
授業概要	本講義は演習Ⅰの継続として実施されるものである。演習Ⅰではマネジメントやコーチングに関わる基本的な概念について学んできたが、演習Ⅱではより多角的な考察を行う。特に現代社会のあり方や心理学などのキーワードに着目し、マネジメント・コーチングがどのようにそれらの課題に対応できるのかを様々な事例やデータを収集し検討する。最終的にこれからのマネジメント・コーチングについて論理的に考えて発表できることを目指す。 本演習もマネジメント・コーチコースでの学びに対応しておおよそ4つの段階に分けて進められる。初回の講義では秋学期に学びたいことを自身の興味関心・キャリアの観点から決定し、学習への意欲を高める。その後、具体的にマネジメント全体について「コロナ禍」「人権」「情報化社会」「ソーシャルキャピタル」「地域創生」といったキーワードをもとに検討する（第2回～第6回）。それらの議論を受けながら、指導などに関わるコーチングについての理解を深める（第7回～第8回）。最後に「アクティブラーニング」「地域との連携」という観点から学校におけるスポーツのあり方を考察する（第9回～第10回）。その後、最初に定めた学習目標に応じて、それまで学んできたことを参考にしたプレゼンテーションを実施し（第11回～第13回）、自身の学習したいことを明確にしてゼミ選択を考える（第14回）。 以上のような学習過程を通じて、多様な観点からスポーツマネジメントについて議論できる能力を高めていく。なお、本講義は学生の積極的な参加が求められる講義である。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーション（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題の未実施プレゼンテーションの未実施、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については演習ルーブリックを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本講義は演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義資料を配布するのでファイルなどを用意すること。プレゼンテーション資料の作成などを求めるのでプレゼンテーションソフト等を使用できるようにしておくこと、						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導やプレゼンテーションなどの際には講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を求める。（1.5時						

	間程度) 講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	火曜日 3限 研究室(9401)		
授業計画		担当者	
第1回	ガイダンス：講義概要の理解と学習目標の設定		太田真司
第2回	現代社会とスポーツマネジメント(1)：コロナ禍のスポーツとマネジメント		太田真司
第3回	現代社会とスポーツマネジメント(2)：スポーツマネジメントと人権		太田真司
第4回	現代社会とスポーツマネジメント(3)：情報化社会とスポーツマネジメント		太田真司
第5回	現代社会とスポーツマネジメント(4)：スポーツマネジメントとソーシャルキャピタル		太田真司
第6回	現代社会とスポーツマネジメント(5)：地方創生とスポーツマネジメント・スポーツ行政		太田真司
第7回	より深いコーチング理解を目指して(1)：エフィカシーの観点からみるコーチング		太田真司
第8回	より深いコーチング理解を目指して(2)：リーダーシップ観の多様性から考えるコーチング		太田真司
第9回	学校教育の変化とスポーツ(1) アクティブラーニングとスポーツ		太田真司
第10回	学校教育の変化とスポーツ(2) 地域社会との連携とスポーツ		太田真司
第11回	プレゼンテーション(1)：マネジメントの観点から		太田真司
第12回	プレゼンテーション(2)：コーチングの観点から		太田真司
第13回	プレゼンテーション(3)：教育学の観点から		太田真司
第14回	ゼミ選択に向けて：各自の学習課題の明確化		太田真司
第15回	講義のまとめ：1年間の振り返り		太田真司
第16回	レポート試験		太田真司
教科書			
教・書籍名1	授業担当者が用意する資料によって進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-404		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	春学期に身に付けたことが出来ている。それらを活用して多様な観点からスポーツマネジメント及びコーチングについて自分の意見を論理的に述べる事が出来る。 テーマ：「スポーツマネジメント」や「コーチング」の基本的な理念・知識などを深める 到達目標 1：マネジメントやコーチングの理解を深めて、社会の変化に応じたこれからのスポーツ組織のあり方について論理的に考察できる 2：リーダーシップやコーチングの理解を深めて、これからのスポーツにおけるリーダーシップのあり方・指導者のあり方を理論的に考察できる 3：スポーツの法制度の理解を深めて、これからのスポーツ振興のための行政について理論的に考察できる 4：学校教育を批判的に見つめて、これからの保健体育・部活動のあり方を理論的に考察できる 5：3年次以降に深めたいテーマを見つけて、適切にゼミを選択することができる						
授業概要	本講義は演習Ⅰの継続として実施されるものである。演習Ⅰではマネジメントやコーチングに関わる基本的な概念について学んできたが、演習Ⅱではより多角的な考察を行う。特に現代社会のあり方や心理学などのキーワードに着目し、マネジメント・コーチングがどのようにそれらの課題に対応できるのかを様々な事例やデータを収集し検討する。最終的にこれからのマネジメント・コーチングについて論理的に考えて発表できることを目指す。 本演習もマネジメント・コーチコースでの学びに対応しておおよそ4つの段階に分けて進められる。初回の講義では秋学期に学びたいことを自身の興味関心・キャリアの観点から決定し、学習への意欲を高める。その後、具体的にマネジメント全体について「コロナ禍」「人権」「情報化社会」「ソーシャルキャピタル」「地域創生」といったキーワードをもとに検討する（第2回～第6回）。それらの議論を受けながら、指導などに関わるコーチングについての理解を深める（第7回～第8回）。最後に「アクティブラーニング」「地域との連携」という観点から学校におけるスポーツのあり方を考察する（第9回～第10回）。その後、最初に定めた学習目標に応じて、それまで学んできたことを参考にしたプレゼンテーションを実施し（第11回～第13回）、自身の学習したいことを明確にしてゼミ選択を考える（第14回）。 以上のような学習過程を通じて、多様な観点からスポーツマネジメントについて議論できる能力を高めていく。なお、本講義は学生の積極的な参加が求められる講義である。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーション（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題の未実施プレゼンテーションの未実施、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については演習ルーブリックを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本講義は演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義資料を配布するのでファイルなどを用意すること。プレゼンテーション資料の作成などを求めるのでプレゼンテーションソフト等を使用できるようにしておくこと、						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導やプレゼンテーションなどの際には講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を求める。（1.5時						

	間程度) 講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	水曜日4限 研究室(9301)にて		
授業計画		担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について		倉知典弘
第2回	現代社会とスポーツマネジメント(1): コロナ禍のスポーツとマネジメント		倉知典弘
第3回	現代社会とスポーツマネジメント(2): スポーツマネジメントと人権		倉知典弘
第4回	現代社会とスポーツマネジメント(3): 情報化社会とスポーツマネジメント		倉知典弘
第5回	現代社会とスポーツマネジメント(4): スポーツマネジメントとソーシャルキャピタル		倉知典弘
第6回	現代社会とスポーツマネジメント(5): 地方創生とスポーツマネジメント・スポーツ行政		倉知典弘
第7回	より深いコーチング理解を目指して(1): エフィカシーの観点からみるコーチング		倉知典弘
第8回	より深いコーチング理解を目指して(2): リーダシップ観の多様性から考えるコーチング		倉知典弘
第9回	学校教育の変化とスポーツ(1) アクティブラーニングとスポーツ		倉知典弘
第10回	学校教育の変化とスポーツ(2) 地域社会との連携とスポーツ		倉知典弘
第11回	プレゼンテーション(1): マネジメントの観点から		倉知典弘
第12回	プレゼンテーション(2): コーチングの観点から		倉知典弘
第13回	プレゼンテーション(3): 教育学の観点から		倉知典弘
第14回	ゼミ選択に向けて: 各自の学習課題の明確化		倉知典弘
第15回	講義のまとめ: 1年間の振り返り		倉知典弘
第16回	レポート試験		倉知典弘
教科書			
教・書籍名1	授業担当者が用意する資料によって進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-404		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	<p>テーマ： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。論理的に物事を考える力を身につけることができる。</p> <p>到達目標： 1：健康づくりと運動・栄養・休養の関係について説明できるようになる 2：健康づくりの観点から関連する資料を読み取ることができるようになる。 3：健康づくりの観点から各自のテーマの成果をまとめて発表することができる。 4：3年次以降に深めたいテーマを見つけて、適切にゼミを選択することができる。</p>						
授業概要	<p>演習Ⅰで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて、発表し、全員で討論する。3年生の演習に結びつくように内容にまとめる必要がある。</p> <p>この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、健康等に関する知識だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図ることを期待する。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢20%，提出物30%，議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	月曜日2時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					高原皓全	
第2回	抄読（スポーツに関する資料）					高原皓全	
第3回	抄読（教育に関する資料）					高原皓全	
第4回	抄読（健康と食生活に関する資料）					高原皓全	
第5回	抄読（健康と運動に関する資料）					高原皓全	
第6回	抄読（健康と休養に関する資料）					高原皓全	
第7回	発表準備（スポーツに関する資料）					高原皓全	

第 8 回	発表準備（教育に関する資料）	高原皓全
第 9 回	発表準備（健康と食生活に関する資料）	高原皓全
第 1 0 回	発表準備（健康と運動に関する資料）	高原皓全
第 1 1 回	発表準備（健康と休養に関する資料）	高原皓全
第 1 2 回	発表（スポーツに関する資料）	高原皓全
第 1 3 回	発表（教育に関する資料）	高原皓全
第 1 4 回	発表（健康と食生活に関する資料）	高原皓全
第 1 5 回	発表（健康と運動に関する資料）	高原皓全
第 1 6 回	最終課題	高原皓全

教科書

教・書籍名 1	適宜指示する	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1	適宜指示する	参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-404		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	春学期に身に付けたことが出来ている。それらを活用して多様な観点からスポーツマネジメント及びコーチングについて自分の意見を論理的に述べる事が出来る。 テーマ：「スポーツマネジメント」や「コーチング」の基本的な理念・知識などを深める 到達目標 1：マネジメントやコーチングの理解を深めて、社会の変化に応じたこれからのスポーツ組織のあり方について論理的に考察できる 2：リーダーシップやコーチングの理解を深めて、これからのスポーツにおけるリーダーシップのあり方・指導者のあり方を理論的に考察できる 3：スポーツの法制度の理解を深めて、これからのスポーツ振興のための行政について理論的に考察できる 4：学校教育を批判的に見つめて、これからの保健体育・部活動のあり方を理論的に考察できる 5：3年次以降に深めたいテーマを見つけて、適切にゼミを選択することができる						
授業概要	本講義は演習Ⅰの継続として実施されるものである。演習Ⅰではマネジメントやコーチングに関わる基本的な概念について学んできたが、演習Ⅱではより多角的な考察を行う。特に現代社会のあり方や心理学などのキーワードに着目し、マネジメント・コーチングがどのようにそれらの課題に対応できるのかを様々な事例やデータを収集し検討する。最終的にこれからのマネジメント・コーチングについて論理的に考えて発表できることを目指す。 本演習もマネジメント・コーチコースでの学びに対応しておおよそ4つの段階に分けて進められる。初回の講義では秋学期に学びたいことを自身の興味関心・キャリアの観点から決定し、学習への意欲を高める。その後、具体的にマネジメント全体について「コロナ禍」「人権」「情報化社会」「ソーシャルキャピタル」「地域創生」といったキーワードをもとに検討する（第2回～第6回）。それらの議論を受けながら、指導などに関わるコーチングについての理解を深める（第7回～第8回）。最後に「アクティブラーニング」「地域との連携」という観点から学校におけるスポーツのあり方を考察する（第9回～第10回）。その後、最初に定めた学習目標に応じて、それまで学んできたことを参考にしたプレゼンテーションを実施し（第11回～第13回）、自身の学習したいことを明確にしてゼミ選択を考える（第14回）。 以上のような学習過程を通じて、多様な観点からスポーツマネジメントについて議論できる能力を高めていく。なお、本講義は学生の積極的な参加が求められる講義である。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーション（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題の未実施プレゼンテーションの未実施、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ループリック評価	【本科目はループリック評価を導入する。詳細については演習ループリックを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本講義は演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義資料を配布するのでファイルなどを用意すること。プレゼンテーション資料の作成などを求めるのでプレゼンテーションソフト等を使用できるようにしておくこと、						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導やプレゼンテーションなどの際には講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を求める。（1.5時						

	間程度) 講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	金曜日2限9号館4階 研究室(9411)にて		
授業計画		担当者	
第1回	ガイダンス：講義概要の理解と学習目標の設定		羽野
第2回	現代社会とスポーツマネジメント(1)：コロナ禍のスポーツとマネジメント		羽野
第3回	現代社会とスポーツマネジメント(2)：スポーツマネジメントと人権		羽野
第4回	現代社会とスポーツマネジメント(3)：情報化社会とスポーツマネジメント		羽野
第5回	現代社会とスポーツマネジメント(4)：スポーツマネジメントとソーシャルキャピタル		羽野
第6回	現代社会とスポーツマネジメント(5)：地方創生とスポーツマネジメント・スポーツ行政		羽野
第7回	より深いコーチング理解を目指して(1)：エフィカシーの観点からみるコーチング		羽野
第8回	より深いコーチング理解を目指して(2)：リーダーシップ観の多様性から考えるコーチング		羽野
第9回	学校教育の変化とスポーツ(1) アクティブラーニングとスポーツ		羽野
第10回	学校教育の変化とスポーツ(2) 地域社会との連携とスポーツ		羽野
第11回	プレゼンテーション(1)：マネジメントの観点から		羽野
第12回	プレゼンテーション(2)：コーチングの観点から		羽野
第13回	プレゼンテーション(3)：教育学の観点から		羽野
第14回	ゼミ選択に向けて：各自の学習課題の明確化		羽野
第15回	講義のまとめ：1年間の振り返り		羽野
第16回	レポート試験		羽野
教科書			
教・書籍名1	授業担当者が用意する資料によって進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 東洋医学によるスポーツ領域への応用ができる（入門編）。 到達目標： 学生は東洋医学に関する文献の輪読を通じてその考え方を理解できるようになる。						
授業概要	演習ⅠとⅡで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて、発表し、全員で討論する。卒論テーマに結びつくように内容をまとめることが必要である。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「学生は東洋医学に関する文献の輪読を通じてその考え方を理解できるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、授業姿勢20%、提出物30%、議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。なお、評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】 演習ルーブリック						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してくること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 試験は必ず行うので、授業に出席していただければ単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習に、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					孫基然	
第2回	抄読：東洋医学歴史に関する文献					孫基然	
第3回	抄読：東洋医学特徴に関する文献					孫基然	
第4回	抄読：東洋医学健康観に関する文献（気について）					孫基然	
第5回	抄読：東洋医学健康観に関する文献（血について）					孫基然	
第6回	抄読：東洋医学健康観に関する文献（水について）					孫基然	
第7回	発表準備：ここまで輪読の総括					孫基然	
第8回	輪読：東洋医学健康観に関する文献（心について）					孫基然	
第9回	輪読：東洋医学健康観に関する文献（肝について）					孫基然	
第10回	輪読：東洋医学健康観に関する文献（脾について）					孫基然	
第11回	輪読：東洋医学健康観に関する文献（肺について）					孫基然	

第12回	輪読：東洋医学健康観に関する文献（腎について）	孫基然
第13回	輪読：東洋医学健康観に関する文献（六腑について）	孫基然
第14回	発表：気血水について	孫基然
第15回	発表：五臓と健康と関わり	孫基然
第16回	レポート試験	孫基然
教科書		
教・書籍名1	プリントを配布する。	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	プリントを配布する。	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	「スポーツコーチング」「スポーツマネジメント」「ゲーム分析」をテーマに、それらについて考察するとともに、将来、スポーツが生活の一部として生涯スポーツに関わることができる。						
授業概要	「スポーツコーチング」「スポーツマネジメント」「ゲーム分析」等の先行研究や文献を通して、考察するとともに、4年次の卒業論文につながるよう、プレゼンテーションおよびディスカッションする。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	毎回のレポート（40％）課題レポート・発表（40％）最終レポート（20％）						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	毎回の演習後の小レポートを通して、口頭及び書面でフィードバック						
履修条件・注意事項	「スポーツコーチング」「スポーツマネジメント」「ゲーム分析」等の先行研究や文献を通して、考察するとともに、4年次の卒業論文につながるよう、プレゼンテーションおよびディスカッションする。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、毎回2時間程度、復習および次回のテーマについて、予習すること。						
オフィスアワー	個人研究室（9405）にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション（ガイダンス） 研究倫理に基づく責任ある研究活動を実践する。					高藤	
第2回	スポーツコーチングに関する文献研究（攻撃のグループ戦術）					高藤	
第3回	スポーツコーチングに関する文献研究（攻撃のチーム戦術）					高藤	
第4回	スポーツコーチングに関する文献研究（守備のグループ戦術）					高藤	
第5回	スポーツコーチングに関する文献研究（守備のチーム戦術）					高藤	
第6回	スポーツコーチングに関する文献研究（攻守の切り替え）					高藤	
第7回	スポーツマネジメントに関する文献研究（学校運動部）					高藤	
第8回	スポーツマネジメントに関する文献研究（地域スポーツクラブ）					高藤	
第9回	スポーツマネジメントに関する文献研究（民間スポーツクラブ）					高藤	
第10回	スポーツマネジメントに関する文献研究（企業スポーツクラブ）					高藤	
第11回	スポーツマネジメントに関する文献研究（Jリーグクラブ）					高藤	
第12回	スポーツマネジメントに関する文献研究（プロ野球球団）					高藤	
第13回	ゲーム分析に関する文献研究（サッカー）					高藤	
第14回	ゲーム分析に関する文献研究（野球）					高藤	
第15回	卒業論文作成について					高藤	
第16回	最終レポート					高藤	
教科書							
教・書籍名1	体育・部活のリスクマネジメント				教・出版社名1	信山社	
教・著者名1	小笠原正・諏訪伸夫 編				教・ISBN1	978-4-7972-8612-0	
教・書籍名2	スポーツ団体のマネジメント入門				教・出版社名2	同文館出版	
教・著者名2	新日本有限責任監査法人 編				教・ISBN2	978-4-495-20181-4	
参考書							

参・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	『現代社会における健康や能力向上』をテーマとし、これまでの運動の持つ機能や、運動に対する認識・方法論では、多くの課題や問題を解決することが難しくなってきた。現代の社会とそこでの環境が、これまでのやり方では解決困難な問題を突きつけてきたと言える。学生はこれまでの理論と方法論に立脚しつつも、新たに研究・開発された理論と方法論、取り分け本演習では高岡英夫氏創始による運動科学の内容を概観しつつ、これらの問題を理解・説明する足掛かりを得られることを到達目標とする。						
授業概要	人間存在が成立する基軸として、人間の意識構造に着目する運動科学における内容を学習する。すなわち高岡英夫氏により解明された身体意識の構造・メカニズム・作用について学習する。されに、人間のパフォーマンスの水準を規定する身体と動きに関する、運動科学が説く内容について学ぶ。これらは、例えばスポーツのパフォーマンスの成り立ちと、その向上のための方法論について考察するために有益であるのみならず、広く人間の織り成す様々な行為やその結果・状態などに対する理解を確たるものにする。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業時に課するレポートで50%、最終レポートで50%、をもって評価する。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	出席も重視する。授業時の指導やディスカッションをもとに、また授業時に課された課題について、各自学習を進めて、次回の授業に臨むこと。各自が授業でのテーマについて、掘り下げる学習を要求する。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	次回の授業の概要を提示するので、学生は各自それをもとに、事前の情報収集などの予習を行う。各回の授業後は、授業内容に基づいて、各自考察を記載して、後で提出する。予習1コマ・復習1コマをそれぞれ行うこと。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション：研究倫理の教育					竹内研	
第2回	高岡英夫氏創始の運動科学					竹内研	
第3回	運動科学の地平：ホーリスティックな視点					竹内研	
第4回	身体意識の定義と構造,メカニズム					竹内研	
第5回	運動進化論と魚体構造論					竹内研	
第6回	ゆるむことと組織分化：アクセルブレーキの弊害					竹内研	
第7回	ゆるむこと多面的な効果・効能					竹内研	
第8回	分散加算					竹内研	
第9回	ゆるむことへの脳の関与					竹内研	
第10回	重心感知：筋紡錘の機能					竹内研	
第11回	多重中心構造					竹内研	
第12回	ゆるんだ身体とパフォーマンス					竹内研	
第13回	ゆるんだ身体と心理的コンデショニング					竹内研	
第14回	身体意識運用の具体論					竹内研	
第15回	身体意識と認識力					竹内研	

第16回			
教科書			
教・書籍名1	究極の身体	教・出版社名1	講談社
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	本演習では、「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。学生は論理的に物事を考える力を身につけることができる。						
授業概要	本演習では、「健康とスポーツ」に関する資料を読み、自分が疑問に感じる点、興味がある点について考え、その中から各自がテーマを選択する。関連資料を収集し、その成果をまとめる。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク/プレゼンテーション/実習/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	授業姿勢(20%)、提出物(30%)、議論・発表などへの取り組み等(50%)から評価する。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については演習ルーブリックを確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のための提出物は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は予習復習が必要である。予習として、毎回の授業において問題提起と討論が可能ないように各自が必要なテキストを探し、熟読してくること。復習として、疑問点をピックアップし、その内容を次週発表出来るように準備すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室(9410研究室)において、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					山口英峰	
第2回	資料の収集方法の紹介(図書館)					山口英峰	
第3回	資料の収集方法の紹介(インターネット)					山口英峰	
第4回	資料の収集(趣味について)					山口英峰	
第5回	資料の収集(スポーツについて)					山口英峰	
第6回	資料の収集(将来の就職について)					山口英峰	
第7回	資料の収集(抄読に必要な資料-健康)					山口英峰	
第8回	資料の収集(抄読に必要な資料-スポーツ)					山口英峰	
第9回	資料の収集(抄読に必要な資料-教育)					山口英峰	
第10回	抄読(健康に関する資料)					山口英峰	
第11回	抄読(スポーツに関する資料)					山口英峰	
第12回	抄読(教育に関する資料)					山口英峰	
第13回	抄読(健康と食生活に関する資料)					山口英峰	
第14回	抄読(健康と運動に関する資料)					山口英峰	
第15回	抄読(健康と休養に関する資料)					山口英峰	
第16回	中間発表					山口英峰	
教科書							
教・書籍名1	使用しない(プリントを配布する)					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	
参考書							

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	本演習では、「運動と障がい」について健康と運動などの観点から、基礎的な知識および、「運動と障がい」についての考え方を深め、論理的に物事を考える力を身につけることができる。						
授業概要	本演習では、「運動と障がい」に関する資料を読み、自分が疑問に感じる点、興味がある点について考え、その中から各自がテーマを選択する。関連資料を収集し、その成果をまとめる。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク/プレゼンテーション/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	毎回の出席50%、課題・議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してくる。また、授業時に配布する資料や各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習及び次回への予習を行うこと。						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					天岡 寛	
第2回	資料の収集方法の紹介(図書館)					天岡 寛	
第3回	資料の収集方法の紹介(インターネット)					天岡 寛	
第4回	資料の収集(趣味について)					天岡 寛	
第5回	資料の収集(スポーツについて)					天岡 寛	
第6回	資料の収集(将来の就職について)					天岡 寛	
第7回	資料の収集(抄読に必要な資料:健康)					天岡 寛	
第8回	資料の収集(抄読に必要な資料:スポーツ)					天岡 寛	
第9回	資料の収集(抄読に必要な資料:教育)					天岡 寛	
第10回	抄読(健康に関する資料)					天岡 寛	
第11回	抄読(スポーツに関する資料)					天岡 寛	
第12回	抄読(教育に関する資料)					天岡 寛	
第13回	抄読(健康と食生活に関する資料)					天岡 寛	
第14回	抄読(健康と運動に関する資料)					天岡 寛	
第15回	抄読(健康と休養に関する資料)					天岡 寛	
第16回	最終課題					天岡 寛	
教科書							
教・書籍名1	適宜指示する				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							

参・書籍名1	適宜指示する.	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 12. つくる責任・つかう責任 / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	<p>決断力があるリーダー養成を目指し、「ディベートの根本的目的、実践的目的は何かを理解する」をテーマとして、自国の文化に自信を持ち、自国語で自分の意見を主張できること。また、相手が誰であろうとも論理的に議論や討論ができることを身につける。</p> <p>国際化時代とは、ディベート的精神を發揮する時代であり、語学の問題ではなく、必要なのは信念であり、気概であり、そして日本語によるディベート技術であり、これがリーダーの条件であることを理解する。加えてディベートが持っている論理的思考能力や意思決定能力の開発とともに人間をプラス思考にさせるディベート的精神を理解することを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>法律学である、実体的正義、手続的正義を理解し、決断のプロセスを理解する。日本人の表現方法の問題点を考察し、話し方の構造といった基礎的な理解を深めていく。また、ディベートの目的を理解しながら、ディベートの種類と役割について事例を示しながらも加えて資料とデータの効果的な収集と活用方法を理解する。そしてディベートの基本である論理構築能力が身につくようグループ討論を主体とした方式による演習を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	この科目では、グループ討論を主体とした方式のため、討論への積極的参加態度（50％）、その為の授業準備（30％）毎回のレポート評価（20％）で評価する。グループ討論、参加型学習を主体としていることから、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。詳しい評価方法は、授業時に説明する。なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、レポート試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと】						
課題や試験のフィードバック方法	ディベートによるディスカッションに対して評価を行う。						
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントを配布するため、初回授業よりファイルを用意すること。演習Ⅱとあわせて履修すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	(一社) 高梁スポーツクラブの理事による実務経験員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして参加型学習法で行う。指示に従ってノートを作成復習を行うこと。レポートやスピーチを行う為、予習を行うこと。3) レポート試験は必ず行うので、授業に出席しただけでは単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習および復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	火曜日 3限 研究室 (9401)						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動					太田真司	
第2回	決断における「事前のルール作り」					太田真司	
第3回	強い意思決定の仕組みとディスカッション					太田真司	
第4回	意思決定の仕組みづくりにおける3つのポイント					太田真司	
第5回	「反対意見」を意識できないリーダーシップ					太田真司	
第6回	自分の主張への拘りと見誤るリーダー事例					太田真司	
第7回	危機管理マネジメントの7原則					太田真司	

第8回	スポーツチームの問題に見る「信用失墜のスパイラル」	太田真司
第9回	トラブル後の謝罪で挽回するリーダーシップ	太田真司
第10回	スポーツマネジメントと決断	太田真司
第11回	有識者、専門家の助言とリーダーシップ	太田真司
第12回	反対派を納得させる仕組み作り	太田真司
第13回	決断の前のプロセスが成否のカギ	太田真司
第14回	プロセスへの納得感と批判の質	太田真司
第15回	研究倫理教育	太田真司
第16回	レポート試験	太田真司

教科書

教・書籍名1	担当者の作成する資料により進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜紹介する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	<p>学校教育における指導のあり方についての基礎的な理念・知識を身に付けることができる。</p> <p>マネジメント、コーチングの観点からスポーツの支援・振興についての基礎的な理念・知識を身に付けることができる。</p> <p>身に付けた知識を活用して、基礎的な指導の手順などを踏まえた指導ができるようになる</p> <p>身に付けた知識を活用して、学校教育の在り方、スポーツの支援の在り方について意見を述べる事が出来る。</p>						
授業概要	<p>本講義は、学校教育の在り方をマネジメント・コーチングの基礎知識を用いながら検討し、基礎的な指導の手順などを理解し、実践できるようになることを目的としている。学校教育に限らず指導方法や指導の理念は現代社会において大きく変容しているが、今回は特にアクティブラーニングに着目して考察していく。</p> <p>最初に学習目標を明確化するために、4年生の模擬授業に参加し、指導における留意点などを体感的に理解する（第1回～第3回）。その後、保健体育科におけるアクティブラーニングについて検討を行い、現在の指導者に求められている資質や能力について理解する（第4回～第7回）。そのような議論の結果を踏まえて実際に授業計画を立てて実施してもらう（第8回～第14回）。最後に授業実施における留意点を確認して（第15回）、授業を構想するための基礎的な力量を高める。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の際に課す課題の提出（30％）プレゼンテーション及び模擬授業（50％）終講レポート（20点）で評価する。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	各回講義における課題は講義内で用いるのでその際にフィードバックを行う。プレゼンテーション・模擬授業は指導という形でその場でフィードバックを行う。終講課題は演習Ⅳの冒頭でフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅳを合わせて履修すること。講義内で文部科学省の資料等の収集を指示するので、資料収集が行えるような環境（PCの用意など）を行っておくこと。加えて、講義資料を保管するファイルなどを用意しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	高等学校での教員経験のある教員が指導案の作成方法等について指導を行う。				
事前学習・事後学習とその時間	各回講義の予習に、資料の収集・読解若しくは文章の配布を行い、そのまとめを課題として課す（1時間半程度）。また、各回講義で修正点などの指導を行うので、各自で提出課題の振り返りを行うこと（1時間半程度）。						
オフィスアワー	水曜日4限 研究室（9301）にて						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について						倉知典弘
第2回	模擬授業の体験：保健領域						倉知典弘
第3回	模擬授業の体験：実技領域						倉知典弘
第4回	保健体育科の目標：学習指導要領の検討						倉知典弘
第5回	アクティブラーニングの基礎理解						倉知典弘
第6回	アクティブラーニングの手法（1）グループワークの手法						倉知典弘
第7回	アクティブラーニングの手法（2）：ICTの活用						倉知典弘
第8回	授業構想の基礎：時案作成のために						倉知典弘
第9回	授業計画の作成法（1）授業目標の設定法						倉知典弘
第10回	授業計画の作成法（2）アクティビティをデザインする						倉知典弘
第11回	授業計画の作成法（3）講義のまとめ方						倉知典弘
第12回	模擬授業（1）導入のあり方						倉知典弘
第13回	模擬授業（2）概念の説明などの観点から						倉知典弘

第14回	模擬授業(3) グループワーク支援の観点から	倉知典弘
第15回	講義のまとめ: 指導における注意点は何か	倉知典弘
第16回	レポート課題	倉知典弘
教科書		
教・書籍名1	各回講義内容に応じて担当者が指示する	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	適宜紹介する	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	本演習では、「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。学生は論理的に物事を考える力を身につけることができる。						
授業概要	本演習では、「健康とスポーツ」に関する資料を読み、自分が疑問に感じる点、興味がある点について考え、その中から各自がテーマを選択する。関連資料を収集し、その成果をまとめる。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/ディベート/プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業姿勢(20%)、提出物(30%)、議論・発表などへの取り組み等(50%)から総合的に評価する。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックする。 コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は予習復習が各2時間程度必要である。予習として、毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自が必要なテキストを探し、熟読してくる。復習として、疑問点をピックアップし、その内容を次週発表出来るように準備すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室(9402研究室)において、毎週月曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					高原皓全	
第2回	資料の収集方法の紹介(図書館)					高原皓全	
第3回	資料の収集方法の紹介(インターネット)					高原皓全	
第4回	資料の収集(趣味について)					高原皓全	
第5回	資料の収集(スポーツについて)					高原皓全	
第6回	資料の収集(将来の就職について)					高原皓全	
第7回	資料の収集(抄読に必要な資料-健康)					高原皓全	
第8回	資料の収集(抄読に必要な資料-スポーツ)					高原皓全	
第9回	資料の収集(抄読に必要な資料-教育)					高原皓全	
第10回	抄読(健康に関する資料)					高原皓全	
第11回	抄読(スポーツに関する資料)					高原皓全	
第12回	抄読(教育に関する資料)					高原皓全	
第13回	抄読(健康と食生活に関する資料)					高原皓全	
第14回	抄読(健康と運動に関する資料)					高原皓全	
第15回	抄読(健康と休養に関する資料)					高原皓全	
第16回							
教科書							
教・書籍名1	資料を配布する				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	「チームビルディング」「チームワーキング」「コーチング」をテーマに、それらについて考察するとともに、将来、スポーツの場面だけでなくビジネスの場でも役に立つことを学ぶことができる。						
授業概要	「チームビルディング」「チームワーキング」「コーチング」等の先行研究や文献を通じて、考察するとともに4年次の卒業論文につながるよう、プレゼンテーションおよびディスカッションする。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	毎回のレポート（40％） 課題レポート（40％） 授業姿勢（20％）						
ループリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルレポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントの配布をするため、初回授業よりファイルを用意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、本学硬式野球部の監督としての実務経験をもつ教員が、その経験を活かし、スポーツ現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、テーマに関連する本、記事、先行研究の文献にて復習する。						
オフィスアワー	個人研究室（9411）にて、金曜日2限に実施						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について						羽野真哉
第2回	チームビルディングとは何か						羽野真哉
第3回	チームビルディング（タックマンモデル）						羽野真哉
第4回	チームビルディングの活用						羽野真哉
第5回	チームワーキングとは何か						羽野真哉
第6回	チームワーキング（チーム視点）						羽野真哉
第7回	チームワーキング（全員リーダー視点）						羽野真哉
第8回	チームワーキングの活用						羽野真哉
第9回	コーチングとは何か						羽野真哉
第10回	コーチングの基本理論						羽野真哉
第11回	結果を出すコーチのルール						羽野真哉
第12回	コーチングが人を動かす						羽野真哉
第13回	人が育つ言葉						羽野真哉
第14回	組織づくりのリーダーの役割						羽野真哉
第15回	指導者と選手						羽野真哉
第16回	最終レポート						羽野真哉
教科書							
教・書籍名1	担当者の作成資料により進める。					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	

参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 東洋医学によるスポーツ領域への応用ができる（基礎編）。 到達目標： 学生は30種類近く整体手技法を身につけるようになる。						
授業概要	本演習では整体療法実技に関する文献を解説した後に、二人ずつペアを組んで練習し、期末テストも実技で評価するため、手技法の問題点を少しずつ修正・改正していくよう指導する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「学生は30種類近く整体手技法を身につけるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、総合的に評価する。具体的には、授業姿勢20%、提出物30%、実技(50%)で評価する。なお、評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してくること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 試験は必ず行うので、授業に出席していただければ単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習に、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					孫基然	
第2回	実技：一指禅推法の習得					孫基然	
第3回	実技：ローリング法の習得					孫基然	
第4回	実技：揉法の習得					孫基然	
第5回	実技：摩法の習得					孫基然	
第6回	実技：擦法の習得					孫基然	
第7回	中間テスト：ここまでの実技					孫基然	
第8回	実技：推法の習得					孫基然	
第9回	実技：抹法の習得					孫基然	
第10回	実技：振法の習得					孫基然	

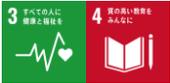
第11回	実技：捏法の習得	孫基然
第12回	実技：按法の習得	孫基然
第13回	実技：点法の習得	孫基然
第14回	実技：絢法の習得	孫基然
第15回	発表会：実技に関する感想	孫基然
第16回	実技試験	孫基然
教科書		
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	プリントを配布する。	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-406		
必修・選択	演習	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 11. 住み続けられるまちづくりを / 17. パートナーシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	「スポーツコーチング」「スポーツマネジメント」「ゲーム分析」をテーマに、それらについて考察するとともに、学生が将来、スポーツが生活の一部として生涯スポーツに関わることができる。						
授業概要	「スポーツコーチング」「スポーツマネジメント」「ゲーム分析」等の先行研究や文献を通して、考察するとともに、4年次の卒業論文につながるよう、プレゼンテーションおよびディスカッションする。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	毎回のレポート（40％）発表（40％）最終レポート（20％）						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	毎回の演習を通して、口頭及び書面でフィードバック						
履修条件・注意事項	プレゼンテーションにおける配布資料を作成すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、2時間程度復習および次回の発表について、予習すること。						
オフィスアワー	個人研究室（9号館4階）にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					高藤	
第2回	少年団のマネジメント					高藤	
第3回	少年団のコーチング					高藤	
第4回	地域スポーツクラブのマネジメント					高藤	
第5回	地域スポーツクラブのコーチング					高藤	
第6回	学校運動部のマネジメント					高藤	
第7回	学校運動部のコーチング					高藤	
第8回	民間スポーツクラブのマネジメント					高藤	
第9回	民間スポーツクラブのコーチング					高藤	
第10回	プロスポーツクラブのマネジメント					高藤	
第11回	プロスポーツクラブのコーチング					高藤	
第12回	ゲーム分析（守備）					高藤	
第13回	ゲーム分析（攻撃）					高藤	
第14回	ゲーム分析（守備→攻撃）					高藤	
第15回	ゲーム分析（攻撃→守備）					高藤	
第16回	最終レポート					高藤	
教科書							
教・書籍名1	少年スポーツダメな指導者バカな親				教・出版社名1	合同出版	
教・著者名1	永井洋一				教・ISBN1	978-4-7726-0398-0	
教・書籍名2	人を束ねる				教・出版社名2	幻冬舎新書	
教・著者名2	久米一正				教・ISBN2	978-4-344-98256-7	
参考書							
参・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）				参・出版社名1		

参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	『これまで多くの運動学習方法や指導方法が研究・実践されてきた。』をテーマとし、また、そこに関わる分野も学問的な認識を扱う分野に始まり、その対象としての職業スキルやパフォーマンス、芸術におけるスキルやパフォーマンス、そして運動・スポーツのスキルやパフォーマンスなど多岐に亘る。しかし総じていえば、目標達成ということになるだろう。近年、コーチングとして新たな目標達成プログラムが提起され、多くの分野で成果をあげている。本演習では学生はコーチングの理論と方法を理解して、それぞれが目標達成のためのスキルを用いることができるようになることを到達目標とする。						
授業概要	認知科学、脳科学、心理学などの研究成果に裏打ちされた、最も代表的な目標達成プログラムである、TPIEの理論と方法について学習する。演習を通して、各自が自らの目標を明確に設定でき、その目標達成のためにゴールのリアリティを高めていく方法を習得する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業時のレポート（30％）及び最終レポート（70％）をもって評価する。 評価のためのレポートは授業時にフィードバックする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	本演習は予習及び復習が必要である。指示された内容について、各自予習・復習を行うこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	次回の授業の概要を提示するので、学生は各自それをもとに、事前の情報収集などの予習を行う。 各回の授業後は、授業内容に基づいて、各自考察を記載して、後で提出する。予習1コマ・復習1コマをそれぞれ行うこと。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション：研究倫理の教育					竹内研	
第2回	コーチングとは					竹内研	
第3回	コーチングとメンタルトレーニング					竹内研	
第4回	コーチングの始まり					竹内研	
第5回	RASとスコトマ					竹内研	
第6回	情動記憶					竹内研	
第7回	現状のゲシュタルトとゴールのゲシュタルト					竹内研	
第8回	セルフイメージ					竹内研	
第9回	セルフエフィカシーとセルフエスティーム					竹内研	
第10回	ゴール設定の仕方					竹内研	
第11回	コンフォートゾーンとハイパフォーマンス					竹内研	
第12回	セルフトークのコントロール					竹内研	
第13回	アファメーション					竹内研	
第14回	ビジュアライゼーション					竹内研	
第15回	最終レポート作成					竹内研	
第16回							

教科書			
教・書籍名1	コンフォートゾーンの作り方	教・出版社名1	フォレスト出版
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	本演習では、「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。学生は健康について様々な視点から考える能力を身につけることができる。						
授業概要	演習Ⅲで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて、発表し、全員で討論する。三年生の演習に結びつくように内容にまとめる必要がある。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション/実習/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	授業姿勢(20%)、提出物(30%)、議論・発表などへの取り組み等(50%)から評価する。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については演習ルーブリックを確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のための提出物は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備および熟読が必要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が必要である。毎回の授業において問題提起と討論が可能ないように各自に必要なテキストを探し、熟読してくる。復習として、疑問点をピックアップし、その内容を次週発表出来るように準備すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室(9410研究室)において、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					山口英峰	
第2回	抄読(スポーツに関する資料)					山口英峰	
第3回	抄読(教育に関する資料)					山口英峰	
第4回	抄読(健康と食生活に関する資料)					山口英峰	
第5回	抄読(健康と運動に関する資料)					山口英峰	
第6回	抄読(健康と休養に関する資料)					山口英峰	
第7回	発表準備(スポーツに関する資料)					山口英峰	
第8回	発表準備(教育に関する資料)					山口英峰	
第9回	発表準備(健康と食生活に関する資料)					山口英峰	
第10回	発表準備(健康と運動に関する資料)					山口英峰	
第11回	発表準備(健康と休養に関する資料)					山口英峰	
第12回	発表(スポーツに関する資料)					山口英峰	
第13回	発表(教育に関する資料)					山口英峰	
第14回	発表(健康と食生活に関する資料)					山口英峰	
第15回	中間報告発表会事前準備					山口英峰	
第16回	中間報告発表会					外部講師	
教科書							
教・書籍名1	使用しない(プリントを配布する)					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	
参考書							

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	本演習では、「障がい者とスポーツ」について障がい者とスポーツなどの観点から、基礎的な知識および、「障がい者とスポーツ」についての考え方を深めることができる。						
授業概要	演習Ⅲで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて発表し、全員で討論する。4年生の演習及び卒業論文に結びつくように内容にまとめる必要がある。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	毎回の出席50%、課題・議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してくること。また、授業時に配布する資料や各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習及び次回への予習を行うこと。						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					天岡 寛	
第2回	抄読（スポーツに関する資料）					天岡 寛	
第3回	抄読（教育に関する資料）					天岡 寛	
第4回	抄読（健康と食生活に関する資料）					天岡 寛	
第5回	抄読（健康と運動に関する資料）					天岡 寛	
第6回	抄読（健康と休養に関する資料）					天岡 寛	
第7回	発表準備（スポーツに関する資料）					天岡 寛	
第8回	発表準備（教育に関する資料）					天岡 寛	
第9回	発表準備（健康と食生活に関する資料）					天岡 寛	
第10回	発表準備（健康と運動に関する資料）					天岡 寛	
第11回	発表準備（健康と休養に関する資料）					天岡 寛	
第12回	発表（スポーツに関する資料）					天岡 寛	
第13回	発表（教育に関する資料）					天岡 寛	
第14回	発表（健康と食生活に関する資料）					天岡 寛	
第15回	中間報告発表会（外部講師）					天岡 寛	
第16回	最終課題					天岡 寛	
教科書							
教・書籍名1	適宜指示する					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	
参考書							

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 12. つくる責任・つかう責任 / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>実行力あるリーダーシップを醸成するために「ディベートの根本的目的、実践的目的は何かを理解する」をテーマとして、単なる口舌の技術ではなく、自国の文化に自信を持ち、自国語で自分の意見を主張できること。また、相手が誰であろうとも論理的に議論や討論ができることを身につける。</p> <p>国際化時代とは、ディベート的精神を發揮する時代であり、語学の問題ではなく、必要なのは信念であり、気概であり、そして日本語によるディベート技術であり、これがリーダーの条件であることを理解する。加えてディベートが持っている論理的思考能力や意思決定能力の開発とともに人間をプラス思考にさせるディベート的精神を理解することを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>実行のための人間関係と人事の要諦について学ぶ。日本人の表現方法の問題点を考察し、話し方の構造といった基礎的な理解を深めていく。また、ディベートの目的を理解しながら、ディベートの種類と役割について事例を示しながらも加えて資料とデータの効果的な収集と活用方法を理解する。そしてディベートの基本である論理構築能力が身につくようグループ討論を主体とした方式による演習を行う。実践での問題発見と解決のノウハウと思考について学ぶ。また、実行し、信頼される人の条件を考察する。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	<p>この科目では、グループ討論を主体とした方式のため、討論への積極的参加態度（10%）、その為の授業準備（20%）で評価する。毎回のレポート評価(30%)、レポート試験（40%）で評価する。グループ討論、参加型学習を主体としていることから、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。詳しい評価方法は、授業時に説明する。</p>						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと】						
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、レポート試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントを配布するため、初回授業よりファイルを用意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	(一社) 高梁スポーツクラブの理事による実務経験員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして参加型学習法で行う。支持に従ってノートを作成復習を行うこと。レポートやスピーチを行う為、予習を行うこと。						
オフィスアワー	火曜日3限 研究室(9401)						
授業計画						担当者	
第1回	実行力のための人間関係と人事の要諦					太田真司	
第2回	反対意見を取り入れて修正すると「より良い案に」になる事例					太田真司	
第3回	信頼関係の根底には「仕事」を置く					太田真司	
第4回	反対派を側におく人事の事例					太田真司	
第5回	リーダーによる意見の傾聴による、組織づくり					太田真司	
第6回	本当に実行すべき課題をリーダーはどのように見つけるべきか					太田真司	

第7回	リーダーの仕事は、部下が気づかない「大きな問題点」を見つける	太田真司
第8回	課題の発見をするための本や新聞の読み方	太田真司
第9回	正しい解をするか決断をするかの事例	太田真司
第10回	絶対的な正解より解決法と決断力	太田真司
第11回	「判断の軸」を部下に示すことは問題解決の第一歩	太田真司
第12回	リーダー自身が「自分を知る」ことの大切さ	太田真司
第13回	「部下ができないこと」を実行するのがリーダーの役割	太田真司
第14回	部下の固定観念への対策	太田真司
第15回	研究倫理教育	太田真司
第16回	レポート試験	

教科書		
-----	--	--

教・書籍名1	担当者の作成する資料により進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書		
-----	--	--

参・書籍名1	適宜紹介する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	学校教育において高めるべきとされている力量などについての基礎的な理念・知識を理解している。 教育学の基礎的な知識などを用いて、学校教育や子どもたちが置かれている現状、スポーツの支援の現状を分析することができる。 上記の知識などを用いて、適切な学習支援計画を作成し、実施できる。 各自の興味関心と社会的ニーズをもとに主体的に研究テーマを設定できる。						
授業概要	演習Ⅲで学んだことを深め、実技の科目の指導案の作成及び模擬授業の実施ができるようになることが本講義の目標である。 保健体育科の目標は、技術面の熟達やスポーツを楽しむことだけにあると考え違いをする学生も多い。しかし、現在の保健体育科はそのレベルを超えて多様な学習目標を含んでいる。そこで本講義の最初に学習目標をリテラシー・エフィカシー・シティズンシップの3点から検討する（第1回～第4回）。また、近年のエビデンスベースの学習評価などが主張されており、学習をより系統的・客観的に評価する手法について議論が行われている。これは目標にも関わる事項である。そこで、学習評価方法についても指標の活用という点から検討する（第5回～第6回）。 なお、この段階は学生のプレゼンテーションによって学習を進めていく。 その後、これまでの議論を参考にして指導案を作成してもらい、模擬授業を実施してもらおう（第7回～第13回）。各回安全管理・ICT活用等のテーマを定め、学習を深め実践力を高めていく。そして、1年間のまとめとして授業の進め方への理解度を確認するとともに、授業や教育について学習を進める過程で興味を持ったことを卒業論文のテーマとして選択してもらおう（第14回～第15回）。春休みには設定したテーマに応じた学習を進めてもらう予定である。 なお、運動指導の方法等を体験的に学ぶため、学科で実施する健康教室への参加を求める。詳細は初回の講義時に指示をする。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業内で課す課題（30％）プレゼンテーション及び模擬授業（50％）及び終講レポート（20％）により評価する。全ての課題などを実施しなかった場合、成績評価は行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	各回講義の課題及びプレゼンテーション、模擬授業は指導という形で講義内でフィードバックを行う。終講レポートについては、オンラインで各自にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅲと合わせて履修すること。資料収集や資料作成を行うため、PC等の基礎的な技能を身に付けておくこと。また、資料を保管するためのファイルなどを用意しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	高等学校の教員の経験をもつ教員が模擬授業における指導方法等の指導を行う。				
事前学習・事後学習とその時間	本演習は学生のプレゼンテーションと模擬授業によって進められる。そのため、担当の学生はそのための準備を行うことが求められる。また、担当以外の学生も授業資料等を配布するのでその内容をまとめて提出することが求められる（1時間半程度）。授業後は、担当者は担当教員及び学生からのコメントをまとめ、自身のプレゼンテーションの振り返りを行うことが求められる。また、担当以外の学生はプレゼンテーションや模擬授業から学んだことをまとめておくことが求められる（1時間半）						
オフィスアワー	水曜日 4限 研究室（9301）						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					倉知典弘	
第2回	保健体育科の目標を考える（1）リテラシーについて					倉知典弘	
第3回	保健体育科の目標を考える（2）エフィカシーについて					倉知典弘	

第4回	保健体育科の目標を考える (3) シティズンシップ	倉知典弘
第5回	保健体育科の評価を考える (1) 多様な評価法の理解	倉知典弘
第6回	保健体育科の評価を考える (2) 尺度を活用した評価法	倉知典弘
第7回	学習指導案の作成方法	倉知典弘
第8回	模擬授業 (1) 実技の安全管理を中心として	倉知典弘
第9回	模擬授業 (2) 実技の授業の流れ	倉知典弘
第10回	模擬授業 (3) 実技における言語活動の充実	倉知典弘
第11回	模擬授業 (4) 実技におけるICTの活用	倉知典弘
第12回	模擬授業 (5) 実技における評価方法	倉知典弘
第13回	模擬授業 (6) 実技における振り返り活動	倉知典弘
第14回	卒業論文の執筆に向けて：模擬授業実践から考える	倉知典弘
第15回	卒業論文テーマの発表	倉知典弘
第16回	レポート試験	倉知典弘

教科書

教・書籍名1	講義担当者が講義内容に応じて資料を用意する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜紹介する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	本演習では、「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。学生は健康について様々な視点から考える能力を身につけることができる。						
授業概要	演習Ⅲで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて、発表し、全員で討論する。三年生の演習に結びつくように内容にまとめる必要がある。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション/実習/その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢(20%)、提出物(30%)、議論・発表などへの取り組み等(50%)から評価する。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のための提出物は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備および熟読が必要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が必要である。毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してくる。復習として、疑問点をピックアップし、その内容を次週発表出来るように準備すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9402研究室）において、毎週月曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					高原皓全	
第2回	抄読（スポーツに関する資料）					高原皓全	
第3回	抄読（教育に関する資料）					高原皓全	
第4回	抄読（健康と食生活に関する資料）					高原皓全	
第5回	抄読（健康と運動に関する資料）					高原皓全	
第6回	抄読（健康と休養に関する資料）					高原皓全	
第7回	発表準備（スポーツに関する資料）					高原皓全	
第8回	発表準備（教育に関する資料）					高原皓全	
第9回	発表準備（健康と食生活に関する資料）					高原皓全	
第10回	発表準備（健康と運動に関する資料）					高原皓全	
第11回	発表準備（健康と休養に関する資料）					高原皓全	
第12回	発表（スポーツに関する資料）					高原皓全	
第13回	発表（教育に関する資料）					高原皓全	
第14回	発表（健康と食生活に関する資料）					高原皓全	
第15回	中間報告発表会事前準備					高原皓全	
第16回	中間報告発表会					外部講師	
教科書							
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	
参考書							

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	「スポーツ・コンプライアンス」をテーマに、スポーツ現場における現状と問題点を学び、スポーツ現場での指導、またビジネスの場面でも役に立つことを身に着けることができる。						
授業概要	「スポーツ・コンプライアンス」の先行研究や文献研究を通じて、考察するとともに4年次の卒業論文につながるよう、プレゼンテーションおよびディスカッションする。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	開会のレポート (40%) 課題レポート (40%) 授業姿勢 (20%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。最終レポートについては、ユニバーサルレポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントの配布をするため、初回授業よりファイルを用意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、本学硬式野球部の監督としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、スポーツ現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、テーマに関連する本、記事、先行研究の文献にて復習する。						
オフィスアワー	個人研究室 (9411) にて、金曜日2限に実施						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション (ガイダンス)					羽野真哉	
第2回	コンプライアンスとは何か					羽野真哉	
第3回	スポーツ・コンプライアンスとは何か					羽野真哉	
第4回	スポーツの価値とは何か					羽野真哉	
第5回	体罰・暴力・暴言					羽野真哉	
第6回	ハラスメント					羽野真哉	
第7回	ドーピング					羽野真哉	
第8回	パラ・ドーピング					羽野真哉	
第9回	八百長・不正行為					羽野真哉	
第10回	スポーツの犯罪・違法行為					羽野真哉	
第11回	スポーツ界のひずみ					羽野真哉	
第12回	スポーツの価値と力を守り、信頼を勝ち取るために					羽野真哉	
第13回	スポーツ界の現状					羽野真哉	
第14回	スポーツ界の未来					羽野真哉	
第15回	現状と比較					羽野真哉	
第16回	最終レポート					羽野真哉	
教科書							
教・書籍名1	担当者の作成資料により進める。					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	

参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅴ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 東洋医学によるスポーツ領域への応用ができる（応用前編）。 到達目標： 学生は灸療法を身につけるようになる。						
授業概要	本演習では、特に東洋医学からのアプローチに着目し、スポーツ、福祉や健康との関わりから考えていく。そして、灸療法を身につけるようになる実践を通して検証していく。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「学生は灸療法を身につけるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、授業姿勢20%、提出物30%、実技等(50%)で評価する。なお、評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。本講義は講義内容理解のために予習復習が必要である。予習として、毎回の授業において問題提起と討論が可能ないように各自が必要なテキストを探し、熟読してくること。復習として、疑問点をピックアップし、その内容を次週発表出来るように準備すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 試験は必ず行うので、授業に出席してただけでは単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習に、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					孫基然	
第2回	輪読：灸療法について					孫基然	
第3回	実技：米粒大艾柱の作り方					孫基然	
第4回	実技：米粒大艾柱の作り方の復習					孫基然	
第5回	実技：米粒大艾柱に点火の仕方					孫基然	
第6回	実技：米粒大艾柱の作り方に関する小テスト					孫基然	
第7回	実技：半米粒大艾柱の作り方					孫基然	
第8回	実技：半米粒大艾柱の作り方の復習					孫基然	
第9回	講義：吸玉灸療法の解説					孫基然	
第10回	実技：吸玉灸療法の解説					孫基然	

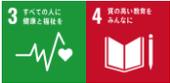
第11回	実技：吸玉灸療法の復習	孫基然
第12回	実技：吸玉灸療法のテスト	孫基然
第13回	実技：光灸療法の練習	孫基然
第14回	実技：光灸療法の復習	孫基然
第15回	発表会：灸療法に関する感想	孫基然
第16回	実技試験	孫基然
教科書		
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	プリントを配布する。	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	演習Ⅴ			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	3年次の演習Ⅲ・演習Ⅳにおける学習内容をベースに学生が、「スポーツマネジメント」「スポーツコーチング」「ゲーム分析」等をテーマに卒業論文作成の現状報告を理論的にプレゼンテーションできる。						
授業概要	各自の卒業論文のテーマについて、作成経過を発表し、ディスカッションする。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	プレゼンテーション（50%）ディスカッション参加度（20%）レポート（30%）						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	毎回の演習時に口頭及び書面でフィードバック						
履修条件・注意事項	無断欠席は認めない。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、2時間程度、復習および次回のテーマについて、予習すること。						
オフィスアワー	個人研究室（9405）にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション（ガイダンス） 研究倫理に基づく責任ある研究活動を実践する。					高藤	
第2回	緒言（仮説）					高藤	
第3回	緒言（目的）					高藤	
第4回	調査方法					高藤	
第5回	調査対象・調査内容（項目）					高藤	
第6回	調査結果の分析方法					高藤	
第7回	結果（マネジメント）					高藤	
第8回	結果（コーチング）					高藤	
第9回	結果（ゲーム分析）					高藤	
第10回	考察（マネジメント）					高藤	
第11回	考察（コーチング）					高藤	
第12回	考察（ゲーム分析）					高藤	
第13回	結論（マネジメント）					高藤	
第14回	結論（コーチング）					高藤	
第15回	結論（ゲーム分析）					高藤	
第16回	最終レポート					高藤	
教科書							
教・書籍名1	論文・レポートの文章作成技法 論理の文章術				教・出版社名1	エディター	
教・著者名1	古郡延治				教・ISBN1	4-88888-366-1	
教・書籍名2	プレゼンテーションを学べ！！				教・出版社名2	ディスカバー	
教・著者名2	アンドリュー・ブラッドバリー				教・ISBN2	978-4-88759-464-7	
参考書							

参・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅴ			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	『現代社会において、運動の持つ役割、運動に対する認識』をテーマとし、運動へのかかわり方はさまざま多様化し、かつ幾多の問題も存在する。社会・生活環境はそこに暮らす人々の健康や体力などに、現代ならではの影響を及ぼしている。その特性に焦点を当てながら、運動やスポーツが我々の直面する様々な問題の改善・解決に貢献することができる可能性について考え、これまでの運動・スポーツの実践方法では及ばない範疇があることを認識することができる。その上で、学生は既存の運動方法を超克する運動のメソッドを知ることができることを到達目標とする。						
授業概要	運動分析、運動とメンタルヘルス、身体的機能・健康と運動の関係性、運動・スポーツに関わる心理、運動パフォーマンスの成り立ち、運動指導の概念と方法、などについてこれまでの考え方を概観する。そのうえで、従来の概念やアプローチでは到達できない、身体と運動及びマインドの有様について、新たなパラダイムに基づく理論と方法を学べる。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業時のレポート（30％）及び最終レポート（70％）をもって評価する。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	本演習は予習及び復習が必要である。指示された内容について、各自予習・復習を行うこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	次回の授業の概要を提示するので、学生は各自それをもとに、事前の情報収集などの予習を行う。各回の授業後は、授業内容に基づいて、各自考察を記載して、後で提出する。予習1コマ・復習1コマをそれぞれ行うこと。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション：研究倫理の教育					竹内研	
第2回	自然科学的運動分析					竹内研	
第3回	人間学的運動分析					竹内研	
第4回	運動科学による運動分析					竹内研	
第5回	運動とメンタルヘルス					竹内研	
第6回	身体とメンタルヘルス					竹内研	
第7回	メンタルコントロールと身体					竹内研	
第8回	動機・意欲とマインド					竹内研	
第9回	運動行動を規定するマインド					竹内研	
第10回	心理的競技能力を規定するもの					竹内研	
第11回	運動パフォーマンスを規定するもの					竹内研	
第12回	身体機能の基盤					竹内研	
第13回	身体意識の存在					竹内研	
第14回	身体とマインド					竹内研	
第15回	最終レポート作成					竹内研	
第16回							

教科書			
教・書籍名1	スポーツ運動学	教・出版社名1	明和出版
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅴ			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	「福祉、健康、運動の関わりについて」をテーマとする。学生は実験を通してそれらの相互関係を理解することができる。						
授業概要	本演習では、特に運動生理学からのアプローチに着目し、福祉や健康について運動や運動処方との関わりから考えていく。そして、自らの健康と体力を維持し、生活の質を向上させるためになすべきことを、具体的な実験あるいは実践を通して検証していく。これら様々な結果を融合させて、福祉現場や運動実践現場などの応用としていきたいと考えている。＜演習の実施方法＞自分が疑問に感じること、興味があることについて考え、自分自身に問題提議する。その中から各自がテーマを選択し、関連資料を収集し、その成果をまとめて発表し、全員で討論する。その後、検証すべき課題を設定し、実験あるいはフィールド調査等の手法を用いて研究を進めていく。基本的技術として、実験機器の操作法や実験手法やパソコンによるデータ集計、作図方法、プレゼンテーション技術などを学ぶ。十分な理解を得るために、授業時間以外にも実験ならびにデータ整理等の指導を行う予定である。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢(20%)、提出物(30%)、議論・発表などへの取り組み等(50%)から評価する。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については演習ルーブリックを確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のための提出物は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は予習復習が必要である。予習として、毎回の授業において問題提起と討論が可能のように各自が必要なテキストを探し、熟読してくること。復習として、疑問点をピックアップし、その内容を次週発表出来るように準備すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9410研究室）において、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					山口英峰	
第2回	資料の収集方法の紹介（図書館）					山口英峰	
第3回	資料の収集方法の紹介（インターネット）					山口英峰	
第4回	資料の収集（趣味について）					山口英峰	
第5回	資料の収集（スポーツについて）					山口英峰	
第6回	資料の収集（将来の就職について）					山口英峰	
第7回	資料の収集（抄読に必要な資料－健康）					山口英峰	
第8回	資料の収集（抄読に必要な資料－スポーツ）					山口英峰	
第9回	資料の収集（抄読に必要な資料－教育）					山口英峰	
第10回	抄読（健康に関する資料）					山口英峰	
第11回	抄読（スポーツに関する資料）					山口英峰	
第12回	抄読（教育に関する資料）					山口英峰	
第13回	抄読（健康と食生活に関する資料）					山口英峰	
第14回	抄読（健康と運動に関する資料）					山口英峰	
第15回	抄読（健康と休養に関する資料）					山口英峰	
第16回	中間発表					山口英峰	

教科書			
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅴ			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	本演習では、スポーツを『any physical activity』としてとらえ、障がい者を対象とした「スポーツ」についての考え方を理解することができる。						
授業概要	本演習では、「アダプテッドスポーツ」に関する資料を読み、自分が疑問に感じる点、興味がある点について考え、その中から各自がテーマを選択する。関連資料を収集し、その成果をまとめる。基本的技術として、パソコンによるデータ集計、作図方法、プレゼンテーション技術などを学ぶ。十分な理解を得るために、授業時間以外にも実験ならびにデータ整理等の指導を行う予定である。また、学外でのボランティア活動を行う予定である。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	課題・議論・発表などへの取り組み等（50％）、受講態度（50％） なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。 学外ボランティア活動も行う予定である。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自で必要なテキストを探し、熟読してくること。また、授業時に配布する資料や各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習及び次回への予習を行うこと。						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					天岡 寛	
第2回	資料の収集方法の紹介（図書館）					天岡 寛	
第3回	資料の収集方法の紹介（インターネット）					天岡 寛	
第4回	資料の収集（趣味について）					天岡 寛	
第5回	資料の収集（スポーツについて）					天岡 寛	
第6回	資料の収集（将来の就職について）					天岡 寛	
第7回	資料の収集（抄読に必要な資料：障害とは）					天岡 寛	
第8回	資料の収集（抄読に必要な資料：スポーツとは）					天岡 寛	
第9回	資料の収集（抄読に必要な資料：アダプテッド・スポーツとは）					天岡 寛	
第10回	抄読（障害に関する資料）					天岡 寛	
第11回	抄読（スポーツに関する資料）					天岡 寛	
第12回	抄読（アダプテッド・スポーツに関する資料）					天岡 寛	
第13回	抄読（健康に関する資料）					天岡 寛	
第14回	抄読（運動に関する資料）					天岡 寛	
第15回	抄読（休養に関する資料）					天岡 寛	
第16回	発表会					天岡 寛	
教科書							
教・書籍名1	適宜指示する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		

教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する.	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅴ			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	5. ジェンダー平等を実現しよう / 8. 働きがいも経済成長も  						
到達目標	リーダーが実行のためのビジョンづくりとチーム作りのために「コーチ論」をテーマとしてコーチングの目的を学び、学生が、自発的にコーチングができる能力を身につけることができる。 学生が、世界の監督独自のリーダーシップを知ることで、理想のコーチング像と勝つための戦略作り、アカデミー世代へのアプローチを理解し、自ら考えコーチングできることを到達目標とする。						
授業概要	リーダーの役割である仕組みづくりを学ぶ。コーチが監督に提案をとおすための「比較優位」の考え方を学ぶ。情報化社会の中での情報の取捨すること、組織の情報危機管理を学ぶ。学生が現場で自信を持ってリーダーシップを発揮するために、実行プランの作成、コーチングの目的、コーチ、選手の心理学、コーチに求められる知識、チームビルディング、戦術、トレーニング方法や複雑な仕組みについて考察する。また具体的な事例を示しながら、コーチングが身につくようにグループ討論を主体とした方式による演習を行なう。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	毎回のレポート評価(40%) 毎回のプレゼンテーション・議論 (60%)						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと】						
課題や試験のフィードバック方法	課題及びプレゼンテーションについては講義内指導という形でフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントを配布するため、初回授業よりファイルを用意すること。演習Ⅳと合わせて履修すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	一社) 高梁スポーツクラブの理事による実務経験員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして参加型学習法で行う。支持に従ってノートを作成復習を行うこと。レポートやスピーチを行う為、予習を行うこと。予習および復習には、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	火曜日 3限 研究室 (9401)						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動					太田真司	
第2回	ビジョンづくりと実行プランの違い					太田真司	
第3回	チーム作りにおける失敗事例					太田真司	
第4回	リーダーが考える「比較優位」について					太田真司	
第5回	セクショナリズムと上司の視点					太田真司	
第6回	「比較優位のロジック」と「熱意ある思い」の大切さ					太田真司	
第7回	リーダーが考える全体最適と部分最適について					太田真司	
第8回	リーダーの意向や動きを想像するのは「良い付度」					太田真司	
第9回	リーダーが情報化社会の中で情報を制し組織をまとめる事例					太田真司	
第10回	情報が共有されないことの組織のリスク					太田真司	
第11回	組織の危機管理は「まずい情報」を早くあげさせること					太田真司	
第12回	実行プランを策定しない失敗事例					太田真司	

第13回	民主主義の正道の実行プロセス事例	太田真司
第14回	リーダーシップを発揮し、実行できる組織にするために	太田真司
第15回	有識者のレポートと現場が作成する実行プランの違い	太田真司
第16回	レポート試験	
教科書		
教・書籍名1	担当者の作成する資料により進める。	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	適宜紹介する。	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	演習Ⅴ			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・演習Ⅲ・Ⅳで決定したテーマに関する歴史的社会的背景を説明できる ・テーマに関わる基礎的な概念等を批判的に考察することができる ・多様な調査手法を理解し、テーマに適した研究手法を選択することができる ・多様な評価手法（指標等）を理解し、テーマに即した指標などを選択できる ・上記を理解した上で、適切な調査計画の作成を行うことができる。 						
授業概要	<p>本演習では、指導方法や指導者像を考えるための調査研究を行うための調査計画の作成を行う。</p> <p>まず最初にテーマを決定したのち、研究方法としての模擬授業の可能性を探る（第1回～第3回）。この回は、3年生と合同で実施し、複数学年での意見交換を行う。以降、具体的な調査計画の作成に入る。最初に、各自が取り組むテーマの社会的背景を教育政策等の資料を基に検討し、その調査が持つ社会的意義を検討する（第4回～第7回）。次に具体的な調査手法を先行研究を検討することで学習する（第8回～第11回）。この過程で、自身の研究にとって適切な調査手法は何かを明確にする。これらの成果を活かして、具体的な調査計画を行う（第12回～第15回）。ここではテーマと手法の適切な対応だけでなく、調査に関わる倫理的配慮などを理解することが求められる。なお、本演習はそれぞれがテーマに応じた資料を検索し、まとめることが求められる。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	各回講義の課題（30%）、プレゼンテーション（40%）、終講レポート（30%）によって評価する。すべての資料が提出されない場合は、評価の対象としない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	各回課題及びプレゼンテーションは講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートは演習Ⅵの講義の初回にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	<p>演習Ⅵ及び卒業論文を合わせて履修すること。各回課題を提示するので必ず実施すること。また、履修に当たり、以下のものを用意すること</p> <p>1：各自の作成した資料などを保存するUSBメモリーなどの記憶媒体</p> <p>2：講義資料や作成した課題を綴じ込むA4ファイル（リングファイルが望ましい）</p>						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	各回講義内容に応じた文書読解・資料調査及びプレゼンテーションの準備を実施してもらい、その成果を提出してもらう（1時間半程度）。講義の後は、講義中のフィードバックに応じて課題・プレゼンテーションの修正を行い、講義内容の振り返りを行うこと（1時間半程度）						
オフィスアワー	水曜日 4限						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					倉知典弘	
第2回	研究手法としての模擬授業（1）保健科					倉知典弘	
第3回	研究手法としての模擬授業（2）体育科					倉知典弘	
第4回	研究テーマに関わる基礎概念					倉知典弘	
第5回	社会的背景の検討（1）学習指導要領を参考に					倉知典弘	
第6回	社会的背景の検討（2）政策文書の検討					倉知典弘	
第7回	社会的背景の検討（3）多様な調査の結果を踏まえて					倉知典弘	
第8回	調査手法の検討（1）調査目的の設定					倉知典弘	

第9回	調査手法の検討(2) 量的調査の手法	倉知典弘
第10回	調査手法の検討(3) 質的調査の手法	倉知典弘
第11回	調査手法の検討(4) 様々な指標・尺度	倉知典弘
第12回	調査計画のデザイン(1) 調査目的・対象の検討	倉知典弘
第13回	調査計画のデザイン(2) 調査方法・項目・尺度の検討	倉知典弘
第14回	調査計画のデザイン(3) データのとりまとめ方	倉知典弘
第15回	講義のまとめ: 調査計画の完成	倉知典弘
第16回	レポート試験	倉知典弘

教科書

教・書籍名1	講義担当者が用意する資料に基づいて実施する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅴ			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	「福祉、健康、運動の関わりについて」をテーマとする。学生は実験を通してそれらの相互関係を理解することができる。						
授業概要	本演習では、生理学および心理学的アプローチ法を用いてヒトのこことからだの結びつきについて検証する。ヒトを対象とした実験を実施し、得られた結果から、日常生活や将来の就職先等で応用可能な基礎的資料を得る。学生は各自の日常生活や大学での学習内容から生じた疑問を研究テーマの素材とする。各学生の研究テーマについて学生同士でディスカッションを行う。ディスカッションを通して得られた意見等をもとに研究テーマ、研究方法のブラッシュアップを行う。実験機器の操作方法、実験手法、コンピューターを用いたデータ解析、統計学的検定方法、プレゼンテーション技法を学ぶ。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション/実習/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	授業姿勢(20%)、提出物(30%)、議論・発表などへの取り組み等(50%)から評価する。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のための提出物は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は予習復習が必要である。予習として、毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自が必要なテキストを探し、熟読してくること。復習として、疑問点をピックアップし、その内容を次週発表出来るように準備すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室(9410研究室)において、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					高原皓全	
第2回	資料の収集方法の紹介(図書館)					高原皓全	
第3回	資料の収集方法の紹介(インターネット)					高原皓全	
第4回	資料の収集(趣味について)					高原皓全	
第5回	資料の収集(スポーツについて)					高原皓全	
第6回	資料の収集(将来の就職について)					高原皓全	
第7回	資料の収集(抄読に必要な資料-健康)					高原皓全	
第8回	資料の収集(抄読に必要な資料-スポーツ)					高原皓全	
第9回	資料の収集(抄読に必要な資料-教育)					高原皓全	
第10回	抄読(健康に関する資料)					高原皓全	
第11回	抄読(スポーツに関する資料)					高原皓全	
第12回	抄読(教育に関する資料)					高原皓全	
第13回	抄読(健康と食生活に関する資料)					高原皓全	
第14回	抄読(健康と運動に関する資料)					高原皓全	
第15回	抄読(健康と休養に関する資料)					高原皓全	
第16回	中間発表					高原皓全	
教科書							
教・書籍名1	使用しない(プリントを配布する)					教・出版社名1	

教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅴ			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	3年次の演習Ⅲ・演習Ⅳにおける学習内容をベースに学生が、「チームビルディング」「身体組成測定分析」「ラプソード測定分析」等をテーマに卒業論文作成の現状報告を理論的にプレゼンテーションできる。						
授業概要	各自の卒業論文のテーマについて、作成経過を発表し、ディスカッションする。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	プレゼンテーション (50%) ディスカッション参加度 (20%) レポート (30%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントの配布をするため、初回授業よりファイルを用意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、本学硬式野球部の監督としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、スポーツ現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、2時間程度、復習および次回のテーマについて、予習すること。						
オフィスアワー	個人研究室 (9411) にて、金曜日 2 限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について						羽野真哉
第2回	緒言 (仮説)						羽野真哉
第3回	緒言 (目的)						羽野真哉
第4回	調査方法 (身体組成)						羽野真哉
第5回	調査方法 (ラプソード)						羽野真哉
第6回	調査結果の分析方法						羽野真哉
第7回	結果 (チームビルディング)						羽野真哉
第8回	結果 (身体組成)						羽野真哉
第9回	結果 (ラプソード)						羽野真哉
第10回	考察 (チームビルディング)						羽野真哉
第11回	考察 (身体組成)						羽野真哉
第12回	考察 (ラプソード)						羽野真哉
第13回	結論 (チームビルディング)						羽野真哉
第14回	結論 (身体組成)						羽野真哉
第15回	結論 (ラプソード)						羽野真哉
第16回							
教科書							
教・書籍名1	論文・レポートの文章作成技法 論理の文章術					教・出版社名1	エディター
教・著者名1	古郡延治					教・ISBN1	4-88888-366-1
教・書籍名2	プレゼンテーションを学べ！！					教・出版社名2	ディスカバー
教・著者名2	アンドリュー・ブラッドバリー					教・ISBN2	978-4-88759-464-7

参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習VI			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 東洋医学によるスポーツ領域への応用ができる（応用後編）。 到達目標： 学生は鍼療法を身につけるようになる。						
授業概要	本演習では、特に東洋医学からのアプローチに着目し、鍼療法について実践を通して検証していく。自分が疑問に感じる点、興味がある点について考え、自分自身に問題提議する。その中から各自がテーマを選択し、関連資料を収集し、その成果をまとめて発表し、全員で討論し、実技試験を実施する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「学生は鍼療法を身につけるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、授業姿勢20%、提出物30%、実技等(50%)で評価する。なお、評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総合的にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してくること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 試験は必ず行うので、授業に出席していただければ単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習に、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					孫基然	
第2回	講義：鍼治療について					孫基然	
第3回	輪読：鍼治療の歴史					孫基然	
第4回	輪読：鍼治療の適応症及び注意事項					孫基然	
第5回	実技：片手挿管法の練習					孫基然	
第6回	実技：片手挿管法の復習					孫基然	
第7回	実技：片手挿管法のテスト					孫基然	
第8回	実技：鍼の指し方（平刺、斜刺、直刺）					孫基然	

第9回	実技：鍼の指し方（単刺、雀啄法）	孫基然
第10回	実技：鍼の指し方（間歇法）	孫基然
第11回	実技：鍼の指し方（屋漏法）	孫基然
第12回	実技：鍼の指し方（震顫法）	孫基然
第13回	実技：鍼の指し方（示指打法、内調術）	孫基然
第14回	実技：鍼の指し方（散鍼、細指法）	孫基然
第15回	発表会：実技に関する感想	孫基然
第16回	実技試験	孫基然

教科書

教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	プリントを配布する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習VI			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	3年次の演習III・演習IVにおける学習内容をベースに学生が、「スポーツマネジメント」「スポーツコーチング」「ゲーム分析」等をテーマに卒業論文作成の現状報告を理論的にプレゼンテーションできる。						
授業概要	各自の卒業論文のテーマについて、作成経過を発表し、ディスカッションする。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/プレゼンテーション						
評価方法と割合	プレゼンテーション (50%) ディスカッション参加度 (20%) レポート (30%)						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	演習を通して、口頭及び書面でフィードバック						
履修条件・注意事項	無断欠席は認めない。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回のプレゼンテーション内容をまとめておくだけでなく、他の人の発表内容もまとめておくこと。また、毎回プレゼンテーション内容の予習するとともにプレゼンテーション並びにディスカッションの内容を復習すること。						
オフィスアワー	個人研究室（9号館4階）にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					高藤	
第2回	マネジメント（文献研究）					高藤	
第3回	コーチング（文献研究）					高藤	
第4回	マネジメント（資料調査）					高藤	
第5回	コーチング（資料調査）					高藤	
第6回	ゲーム分析（フットサル）					高藤	
第7回	ゲーム分析（サッカー攻撃）					高藤	
第8回	ゲーム分析（サッカー守備）					高藤	
第9回	マネジメント（アンケート）					高藤	
第10回	コーチング（具体的対象）					高藤	
第11回	発表（文献研究）					高藤	
第12回	発表（分析・攻撃）					高藤	
第13回	発表（アンケート）					高藤	
第14回	発表（分析・守備）					高藤	
第15回	総括（まとめ）					高藤	
第16回	最終レポート					高藤	
教科書							
教・書籍名1	体育経営管理論集				教・出版社名1	日本体育学会 体育経営管理専門分科会	
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2	体育・スポーツ経営学研究				教・出版社名2	日本体育学会 体育経営	

			管理専門分科会
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習VI			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	『これまでの多くの運動学習方法や指導方法の研究・実践』をテーマとし、そこに関わる分野も学問的な認識を扱う分野に始まり、その対象としての職業スキルやパフォーマンス、芸術におけるスキルやパフォーマンス、そして運動・スポーツのスキルやパフォーマンスなど多岐に亘る。しかし総じていえば、目標達成ということになるだろう。近年、コーチングとして新たな目標達成プログラムが提起され、多くの分野で成果をあげている。本演習では学生はコーチングの理論と方法を理解して、それぞれが目標達成のためのスキルを用いることができるようになることを到達目標とする。						
授業概要	認知科学、脳科学、心理学などの研究成果に裏打ちされた、最も代表的な目標達成プログラムである、TPIEの理論と方法について学習する。演習を通して、各自が自らの目標を明確に設定でき、その目標達成のためにゴールのリアリティを高めていく方法を習得する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業時のレポート（30％）及び最終レポート（70％）をもって評価する。評価のためのレポート等は、授業時にフィードバックする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	本演習は予習及び復習が必要である。指示された内容について、各自予習・復習を行うこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	次回の授業の概要を提示するので、学生は各自それをもとに、事前の情報収集などの予習を行う。各回の授業後は、授業内容に基づいて、各自考察を記載して、後で提出する。予習1コマ・復習1コマをそれぞれ約2時間行うこと。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション：研究倫理の教育					竹内研	
第2回	コーチングの沿革					竹内研	
第3回	従来の行動主義心理学に基づくメンタルトレーニング					竹内研	
第4回	新しい脳科学,認知科学のパラダイムとコーチング					竹内研	
第5回	ハビットとアティチュード					竹内研	
第6回	RASの機能とスコトマ					竹内研	
第7回	情動記憶が形成するコンフォートゾーン					竹内研	
第8回	セルフイメージの形成とホメオスタシス					竹内研	
第9回	情報空間と内部表現					竹内研	
第10回	脳機能の実態：脳は物理空間と情報空間の識別がつかない					竹内研	
第11回	思考の本質・ワーズ,ピクチャー,エモーション					竹内研	
第12回	認知的不協和の機能					竹内研	
第13回	セルフエフィカシーとセルフトーク					竹内研	
第14回	ゴール設定の正しい方法とその機能					竹内研	
第15回	アフメーションの実践と最終レポート作成					竹内研	
第16回							

教科書			
教・書籍名1	コンフォートゾーンの作り方	教・出版社名1	フォレスト出版
教・著者名1	苔米地英人	教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習VI			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	本演習では、「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。学生は健康について様々な視点から考える能力を身につけることができる。						
授業概要	演習IIIで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて、発表し、全員で討論する。三年生の演習に結びつくように内容にまとめる必要がある。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション/実習/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	授業姿勢(20%)、提出物(30%)、議論・発表などへの取り組み等(50%)から評価する。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については演習ルーブリックを確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のための退出物は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備および熟読が必要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が必要である。毎回の授業において問題提起と討論が可能ないように各自に必要なテキストを探し、熟読してくる。復習として、疑問点をピックアップし、その内容を次週発表出来るように準備すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室(9410研究室)において、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					山口英峰	
第2回	抄読(スポーツに関する資料)					山口英峰	
第3回	抄読(教育に関する資料)					山口英峰	
第4回	抄読(健康と食生活に関する資料)					山口英峰	
第5回	抄読(健康と運動に関する資料)					山口英峰	
第6回	抄読(健康と休養に関する資料)					山口英峰	
第7回	発表準備(スポーツに関する資料)					山口英峰	
第8回	発表準備(教育に関する資料)					山口英峰	
第9回	発表準備(健康と食生活に関する資料)					山口英峰	
第10回	発表準備(健康と運動に関する資料)					山口英峰	
第11回	発表準備(健康と休養に関する資料)					山口英峰	
第12回	発表(スポーツに関する資料)					山口英峰	
第13回	発表(教育に関する資料)					山口英峰	
第14回	発表(健康と食生活に関する資料)					山口英峰	
第15回	報告会事前準備					山口英峰	
第16回	報告発表会					外部講師	
教科書							
教・書籍名1	使用しない(プリントを配布する)					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	
参考書							

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習VI			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	本演習では、演習Vで各自が取り上げた研究内容をさらに充実させていく。障がい者とスポーツ活動のあり方について学ぶことができる。						
授業概要	特に、重度の身体障がいを持つ人々が行う「電動車椅子サッカー」を対象とする。卒業論文を書くためのデータ収集・解析を行う。学外でのボランティア活動を行うこともある。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/グループワーク/プレゼンテーション/フィールドワーク/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	課題・議論・発表などへの取り組み等(50%)、受講態度(50%) なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。 学外ボランティア活動も行う予定である。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能のように各自に必要なテキストを探し、熟読してくること。また、授業時に配布する資料や各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習及び次回への予習を行うこと。						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					天岡 寛	
第2回	データ解析方法の紹介(図書館)					天岡 寛	
第3回	データ解析方法の紹介(インターネット)					天岡 寛	
第4回	資料収集(健康づくりとは)					天岡 寛	
第5回	資料収集(健康づくりの組織)					天岡 寛	
第6回	資料収集(健康づくりと運動)					天岡 寛	
第7回	資料収集(健康づくりに関わる人)					天岡 寛	
第8回	資料収集(健康づくりの歴史と発展)					天岡 寛	
第9回	資料収集(健康づくりのための運動教室)					天岡 寛	
第10回	データ解析方法(体力測定①体格)					天岡 寛	
第11回	データ解析方法(体力測定②体組成)					天岡 寛	
第12回	データ解析方法(体力測定③筋力)					天岡 寛	
第13回	データ解析方法(体力測定④筋持久力)					天岡 寛	
第14回	データ解析方法(体力測定⑤全身持久力)					天岡 寛	
第15回	データ解析方法(体力測定⑥組織運営)					天岡 寛	
第16回	外部講師					天岡 寛	
教科書							
教・書籍名1	適宜指示する。					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	

参考書			
参・書籍名1	適宜指示する.	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習VI			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>リーダーの交渉力を身に付けることができるように原則をしる。そのために「ディベートの根本的目的、実践的目的は何かを理解する」をテーマとして、単なる口舌の技術ではなく、自国の文化に自信を持ち、自国語で自分の意見を主張できること。また、相手が誰であろうとも論理的に議論や討論ができることを身につける。</p> <p>国際化時代とは、ディベート的精神を発揮する時代であり、語学の問題ではなく、必要なのは信念であり、気概であり、そして日本語によるディベート技術であり、これがリーダーの条件であることを理解する。加えてディベートが持っている論理的思考能力や意思決定能力の開発とともに人間をプラス思考にさせるディベート的精神を理解することを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>リーダーの交渉は三つの手法をまず知る事。「仮定の利益」と「譲歩すること」を事例から学んでいく。交渉をする以前に、日本人の表現方法の問題点を考察し、話し方の構造といった基礎的な理解を深めていく。また、論理学の目的を理解しながら、「要素」に分解することを学んでいく。交渉力を高めるためにまずは自らの力を高めること。そのためにディベートの種類と役割について事例を示しながらも加えて資料とデータの効果的な収集と活用方法を理解する。そして交渉の基本である論理構築能力が身につくようグループ討論を主体とした方式による演習を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	<p>この科目では、グループ討論を主体とした方式のため、討論への積極的参加態度（10%）、その為の授業準備（20%）で評価する。毎回のレポート評価(30%)、レポート試験（40%）とする。</p> <p>グループ討論、参加型学習を主体としている事から、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。詳しい評価方法は、授業時に説明する。</p> <p>なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、レポート試験までに見直しておくこと。</p>						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと】						
課題や試験のフィードバック方法	課題及びプレゼンテーションについては講義内指導という形でフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントを配布するため、初回授業よりファイルを用意すること。演習Vと合わせて履修。						
実務経験のある教員	該当する	内容	(一社) 高梁スポーツクラブの理事による実務経験者がその経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして参加型学習法で行う。指示に従ってノートを作成復習を行うこと。レポートやスピーチを行う為、予習を行うこと。						
オフィスアワー	火曜日 3限 (研究室) 9401教室						
授業計画						担当者	
第1回	交渉にかつための原則をしる					太田真司	
第2回	実践的交渉では原則を知る					太田真司	
第3回	交渉で重要な「仮定の利益」の事例をしる					太田真司	
第4回	交渉における先手をとることと譲歩のカード					太田真司	

第5回	協調的な交渉をまとめるためにタダでできること	太田真司
第6回	部下との協議でも「相手と対等」という意識をもつ	太田真司
第7回	交渉の終わらせ方における原則	太田真司
第8回	交渉における要望の整理とマトリックス	太田真司
第9回	要望から2つのグループに分ける。	太田真司
第10回	会話から相手の優先順位をつかむ	太田真司
第11回	相手の価値観、判断基準を見極める。	太田真司
第12回	お互いの要望・譲歩のマトリックスをつくる	太田真司
第13回	お互いの一致点を広げ、不一致点を狭める。	太田真司
第14回	抽象的な概念を、具体的レベルに落としこんで議論する。	太田真司
第15回	要素分解する傾聴する大切さ	太田真司
第16回	レポート試験	太田真司

教科書

教・書籍名1	担当者の作成する資料により進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜紹介する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習VI			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	演習Vで設定した調査計画を適切に実施し、その結果を整理し分析することが出来る。各自のテーマの成果をまとめて、他者に伝え、議論することが出来る。						
授業概要	本講義は演習Vで作成した計画に基づいた研究成果を活用し、指導者としてのあり方についての理解を深めることを目標としている。また、本講義の内容は卒業論文作成の際の基本的な手法の学習とリンクしている。講義の前半では実際に行った調査結果を多様な観点から整理する(第2回～第7回)。その後、調査結果を研究倫理を踏まえながら報告するための基本的な手法について学ぶ(第8回～第12回) 適切に表現する講義の最後には研究成果を活かして、指導者としてのあり方などをプレゼンテーションしてもらい、指導者としての考え方を深めてもらう(第13回～第15回)。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/プレゼンテーション/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	講義中に指示する課題の提出(30%) プレゼンテーション(30%) 終講課題(40%) で評価する。全て提出されない場合は、成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	課題及びプレゼンテーションについては講義内及びオンラインで個別にフィードバックを行う。終講課題については、オンラインで個別にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習V及び卒業論文をあわせて履修すること。受講生の作成した資料を基にした討議を進めていくため、必ず各回で指定する資料を作成してから参加すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本演習では講義内容に応じて文献読解を課し、そのまとめを作成してもらう(1時間半程度)。講義のあとは、その内容を振り返り、文章の修正やデータの解析のやり直しなどをこなすこと(1時間半程度)						
オフィスアワー	水曜日 4限						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					倉知典弘	
第2回	歴史的経緯のまとめ方					倉知典弘	
第3回	量的調査のまとめ方(1) 分析手法の妥当性					倉知典弘	
第4回	量的調査のまとめ方(2) 分析結果の検討法					倉知典弘	
第5回	質的調査まとめ方(1) 分析手法の妥当性					倉知典弘	
第6回	質的調査のまとめ方(2) 分析結果の検討法					倉知典弘	
第7回	中間考察ー調査結果のまとめを用いた討議					倉知典弘	
第8回	研究目的・方法の書き方					倉知典弘	
第9回	調査計画の書き方					倉知典弘	
第10回	調査結果の書き方					倉知典弘	
第11回	調査の分析結果の書き方					倉知典弘	
第12回	引用文献・参考文献の書き方及び体裁の整え方					倉知典弘	
第13回	プレゼンテーション(1) スポーツの指導法					倉知典弘	
第14回	プレゼンテーション(2) スポーツの指導者のあり方					倉知典弘	
第15回	プレゼンテーション(3) 大学生活を振り返って					倉知典弘	

第16回	レポート試験	倉知典弘
教科書		
教・書籍名1	学生を選択するテーマなどに応じて担当者が用意する講義資料に基づいて行う	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	適宜紹介する	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	演習VI			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	本演習では、「こころとからだの健康」について基礎的な知識および健康についての考え方を深める。学生は健康について様々な視点から考究する能力を身につけることができる。						
授業概要	演習Vで決定した各自のテーマについてさらに学びを深める。各自の研究テーマについての成果を発表し、ディスカッションを行う。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション/実習/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	授業姿勢(20%)、提出物(30%)、議論・発表などへの取り組み等(50%)から評価する。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のための退出物は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備および熟読が必要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義では、予襲復讐がそれぞれ2時間程度必要である。予習は、毎回の講義において質の高いディスカッションが可能になるよう、各自で必要な資料を探し、熟読しておくこと。復習はディスカッションで得られた課題について自習発表できるように準備すること。						
オフィスアワー	9号館2階の個人研究室(9402)において、毎週月曜日2限目をオフィスアワーとする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					高原皓全	
第2回	抄読(スポーツ)					高原皓全	
第3回	抄読(教育)					高原皓全	
第4回	抄読(生活習慣と健康)					高原皓全	
第5回	抄読(健康と運動)					高原皓全	
第6回	抄読(健康と栄養)					高原皓全	
第7回	発表準備(スポーツ)					高原皓全	
第8回	発表準備(教育)					高原皓全	
第9回	発表準備(生活習慣と健康)					高原皓全	
第10回	発表準備(健康と運動)					高原皓全	
第11回	発表準備(健康と栄養)					高原皓全	
第12回	発表(スポーツ)					高原皓全	
第13回	発表(教育)					高原皓全	
第14回	発表(生活習慣と健康)					高原皓全	
第15回	中間報告会					高原皓全	
第16回							
教科書							
教・書籍名1	使用しない(プリントを配布する)					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	
参考書							

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習VI			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	3年次の演習Ⅲ・演習Ⅳにおける学習内容をベースに学生が、「チームビルディング」「身体組成測定分析」「ラプソード測定」等をテーマに卒業論文作成の現状報告を理論的にプレゼンテーションできる。						
授業概要	各自の卒業論文のテーマについて、作成経過を発表し、ディスカッションする。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	プレゼンテーション (50%) ディスカッション参加度 (20%) レポート (30%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。最終レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントの配布をするため、初回授業よりファイルを用意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、本学硬式野球部の監督としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、スポーツ現場において実践的に役立つ授業を実践する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回のプレゼンテーション内容をまとめておくだけでなく、他の人の発表内容もまとめておくこと。						
オフィスアワー	個人研究室（9号館4階）にて、金曜日2限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション（ガイダンス）					羽野真哉	
第2回	チームビルディング（文献研究）					羽野真哉	
第3回	身体組成測定（文献研究）					羽野真哉	
第4回	ラプソード測定（文献研究）					羽野真哉	
第5回	身体組成（測定データ分析）					羽野真哉	
第6回	ラプソード測定（測定データ分析）					羽野真哉	
第7回	チームビルディング（先行研究）					羽野真哉	
第8回	プレゼンテーション（チームビルディング）					羽野真哉	
第9回	プレゼンテーション（身体組成）					羽野真哉	
第10回	プレゼンテーション（ラプソード）					羽野真哉	
第11回	発表（チームビルディング）					羽野真哉	
第12回	発表（身体組成）					羽野真哉	
第13回	発表（ラプソード）					羽野真哉	
第14回	総括（発表会）					羽野真哉	
第15回	総括（論文制作）					羽野真哉	
第16回							
教科書							
教・書籍名1	体育経営管理論集				教・出版社名1	日本体育学会 体育経営管理専門分科会	
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2	体育・スポーツ経営学研究				教・出版社名2	日本体育学会 体育経営管理専門分科会	

教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	卒業論文			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-409		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： スポーツ領域における東洋医学の応用について 到達目標： 学生は東洋医学の知識、実技を生かしスポーツ傷害における様々の問題の解決に役立つことができる。						
授業概要	各自の研究テーマを、先行研究の抄読を基に選択する。そして、論文作成のために適する研究方法の選択を行う。仮説を構築し、また問題の所在を明らかにして、データの収集や文献の収集を行う。データに基づく研究では、標本の抽出に留意し、文献資料に基づく研究では、論理性を重視した、論文の作成を行う。卒業論文の執筆指導を行う。テーマ設定、資料・データの収集・分析、構成、執筆まで総合的に指導する。教員との対話を通じて、学問的な基本概念や先行文献の調査法、論文の議論構成の仕方を理解するとともに、実際に自分自身でその理解に基づいて作業を行っていく。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	「学生は東洋医学の知識、実技を生かしスポーツ傷害における様々の問題の解決に役立つことができる」の到達度について研究に取り組む姿勢(30%)および卒業論文提出（70%）から授業姿勢30%を合計して総合評価する。なお、評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	日頃から実験を行い、課題や結果等に対する考察を充実させること。個人指導を基本とするが、同様な研究テーマ、手法を扱う者と討論を行い連携を図ること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 試験は必ず行うので、授業に出席していただければ単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習に、各2時間程度を要する。本授業において問題提起と討論が可能のように各自に必要なテキストを探し、熟読してくること。また、実験のディスカッションについては、しっかりと文面化して毎回の講義内容をまとめること。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					孫基然	
第2回	研究テーマ周辺知識の整理と検討 文献・資料の検討 (1) 考察に向けて					孫基然	
第3回	文献・資料の検討 (2) 論文形成の実践					孫基然	
第4回	研究内容についての議論 (1) 基礎データの活用					孫基然	
第5回	研究内容についての議論 (2) 先行文献の活用					孫基然	
第6回	研究内容についての議論 (3) 論文の批評を通して					孫基然	
第7回	研究内容についての議論 (4) 先行研究と仮説					孫基然	

第 8 回	実施 (1) プレテスト及び、実施手順	孫基然
第 9 回	実施 (2) 実施における留意点	孫基然
第 1 0 回	実施 (3) 実施の課題点の検討	孫基然
第 1 1 回	結果の分析 (1) 分析の実施	孫基然
第 1 2 回	結果の分析 (2) 結果の概要	孫基然
第 1 3 回	結果の分析 (3) 仮説と結果から	孫基然
第 1 4 回	結果の分析 (4) 研究計画スケジュールの再検討	孫基然
第 1 5 回	今後に向けて課題の検討	孫基然
第 1 6 回	研究結果の検討と論文作成 (1) 目的・方法・仮説	孫基然
第 1 7 回	研究結果の検討と論文作成 (2) 結果・結論	孫基然
第 1 8 回	研究結果の検討と論文作成 (3) 全体の流れ	孫基然
第 1 9 回	考察のための論述	孫基然
第 2 0 回	考察からのオリジナリティの検討	孫基然
第 2 1 回	考察の限界と課題点	孫基然
第 2 2 回	論文内容の修正と質疑応答	孫基然
第 2 3 回	論文内容の引用、注記の修正	孫基然
第 2 4 回	論文内容データ類の表記の修正	孫基然
第 2 5 回	報告・発表の要旨作成	孫基然
第 2 6 回	報告・発表のパワーポイントの作成	孫基然
第 2 7 回	報告・発表などの準備 (3) プレ発表	孫基然
第 2 8 回	研究内容の質疑応答内容の活用	孫基然
第 2 9 回	研究の内容の誤字等文章全体の修正	孫基然
第 3 0 回	卒業論文発表会	孫基然
第 3 1 回	卒業論文発表反省会	孫基然
第 3 2 回	レポート試験	孫基然
教科書		
教・書籍名 1	使用しない (プリントを配布する)	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	プリントを配布する。	参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	卒業論文			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-409		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	「スポーツコーチング」「スポーツマネジメント」「ゲーム分析」等をテーマに、演習III・演習IVを通して学習内容をベースに論文を完成し、その概要のプレゼンテーションができる。						
授業概要	「テーマ」「目的（仮説）」「方法」「結果」「考察」「結論」の構成に留意し、最終的に自分の主張を理論的にプレゼンテーションできるよう文章表現する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	論文（80％）発表（20％）						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	論文作成過程において、口頭及び書面でフィードバック						
履修条件・注意事項	「レポート」と「論文」の違いを理解し、論文としての内容を作成すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	卒業論文用のノートを作成し、先行研究や様々な文献をまとめておくこと。また、毎回プレゼンテーション内容を予習するとともに、プレゼンテーション並びにディスカッションの内容を復習すること。						
オフィスアワー	個人研究室にて、水曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション（ガイダンス） 研究倫理に基づく責任ある研究活動を実践する。					高藤	
第2回	論文とレポートの違い					高藤	
第3回	論文の書き方（書式設定等）					高藤	
第4回	論文のテーマ設定					高藤	
第5回	目的・仮説の立て方					高藤	
第6回	調査方法（アンケート調査）					高藤	
第7回	調査方法（インタビュー）					高藤	
第8回	調査方法（ゲーム分析）					高藤	
第9回	調査方法（文献・資料調査）					高藤	
第10回	個別指導（サッカー）					高藤	
第11回	個別指導（フットサル）					高藤	
第12回	個別指導（地域クラブ）					高藤	
第13回	個別指導（学校運動部）					高藤	
第14回	個別指導（プロクラブ）					高藤	
第15回	個別指導（スポーツ組織）					高藤	
第16回	中間発表					高藤	
第17回	サッカー・ゲーム分析					高藤	
第18回	フットサル・ゲーム分析					高藤	
第19回	Jリーグ・観戦者数調査					高藤	
第20回	高校生・アンケート調査					高藤	
第21回	卒業生・アンケート調査					高藤	
第22回	スタッフ・インタビュー調査					高藤	

第23回	地域クラブマネジメント調査	高藤
第24回	プロクラブマネジメント調査	高藤
第25回	学校運動部活動マネジメント調査	高藤
第26回	体育・スポーツ組織マネジメント調査	高藤
第27回	調査結果の分析方法	高藤
第28回	KJ法・GTA法	高藤
第29回	考察のまとめ方	高藤
第30回	結論のまとめ方	高藤
第31回	引用・参考文献、謝辞等のまとめ方	高藤
第32回	卒論発表会	高藤

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名1	アンケート調査の進め方	教・出版社名1	日経文庫
教・著者名1	酒井隆	教・ISBN1	4-532-10833-0
教・書籍名2	健康・スポーツ科学のための調査研究法	教・出版社名2	杏林書院
教・著者名2	出村慎一・山下秋二・佐藤進	教・ISBN2	978-4-7644-1150-0

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	卒業論文			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-409		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	『健康や・運動・スポーツなどに関連した分野の研究』をテーマとし、自分が選択したテーマについて、科学的な手順ののっとり、論文を作成する。学生はこの過程を通じて、論理的な考え方や、考察の仕方、実務能力などを学び、社会に出てからの諸々の業務に対応できるようになることを到達目標とする。						
授業概要	各自の研究テーマを、先行研究の抄読を基に選択する。そして、論文作成のために適する研究方法の選択を行う。仮説を構築し、また問題の所在を明らかにして、データの収集や文献の収集を行う。データの基づく研究では、標本の抽出に留意し、文献資料に基づく研究では、論理性を重視した、論文の作成を行う。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/グループワーク/プレゼンテーション						
評価方法と割合	論文作成の進行状況及び取り組み姿勢を30%、論文のできればえを70%でもって評価する評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	毎回の課題にのっとり、各自学習・作業を進めること。その成果に基づき、各回の指導が行われる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	次回の授業の概要を提示するので、学生は各自それをもとに、事前の情報収集などの予習を行う。 各回の授業後は、授業内容に基づいて、各自考察を記載して、後で提出する。 予習1コマ・復習1コマをそれぞれ行うこと。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション：研究倫理の教育					竹内研	
第2回	学術論文の構成					竹内研	
第3回	先行研究抄読について					竹内研	
第4回	先行研究の収集					竹内研	
第5回	先行研究の要約					竹内研	
第6回	先行研究の比較検討					竹内研	
第7回	先行研究抄読の発表					竹内研	
第8回	先行研究抄読についてのディスカッション					竹内研	
第9回	問題の抽出					竹内研	
第10回	仮説の設定					竹内研	
第11回	研究テーマの決定					竹内研	
第12回	研究計画の作成					竹内研	
第13回	研究計画修正					竹内研	
第14回	「はじめに（緒言）」の作成					竹内研	
第15回	「はじめに（緒言）」の修正					竹内研	
第16回	研究方法の理解					竹内研	
第17回	調査研究					竹内研	
第18回	サンプリング					竹内研	
第19回	文献研究					竹内研	
第20回	事例研究					竹内研	

第21回	予備調査	竹内研
第22回	データや資料の取捨	竹内研
第23回	統計処理の方法	竹内研
第24回	統計処理の実施	竹内研
第25回	結果の提出と解釈	竹内研
第26回	先行研究との照合と考察	竹内研
第27回	論文作成	竹内研
第28回	論文の作成	竹内研
第29回	論文の修正	竹内研
第30回	論文の審査と評価	竹内研
第31回		
第32回		

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名1	「ゆる」スポーツ・トレーニング革命	教・出版社名1	大和書店
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	卒業論文			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-409		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	演習Iおよび演習IIを通してそれぞれが疑問に思う課題を明らかにすることが大きなテーマである。学生は自分が知りたい現象について数量化し、科学的に明らかにすることができる。						
授業概要	健康やスポーツの分野を中心に論文テーマを選定し、文献調査、実験、データの解析と結果の解釈、論議という一連の手順に沿って論文を作成する。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション/実習/その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	研究に取り組む姿勢(30%)および卒業論文提出（70%）から評価する。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については演習ルーブリックを確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	卒業論文作成のために実施した添削は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめて、卒業論文に反映させること。						
履修条件・注意事項	日頃から実験を行い、課題や結果等に対する考察を充実させること。個人指導を基本とするが、同様な研究テーマ、手法を扱う者と討論を行い連携を図ること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が各2時間程度必要である。本授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してくる。また、実験のディスカッションについては、しっかりと文面化して毎回の講義内容をまとめること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9410研究室）において、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					山口英峰	
第2回	研究テーマ周辺知識の整理と検討					山口英峰	
第3回	文献・資料の検討：論文形成の実践					山口英峰	
第4回	研究内容についての議論（1）基礎データの活用					山口英峰	
第5回	研究内容についての議論（2）先行文献の活用					山口英峰	
第6回	研究内容についての議論（3）論文の批評を通して					山口英峰	
第7回	研究内容についての議論（4）先行研究と仮説					山口英峰	
第8回	実施（1）プレテスト及び、実施手順					山口英峰	
第9回	実施（2）実施における留意点					山口英峰	
第10回	実施（3）実施の課題点の検討					山口英峰	
第11回	結果の分析（1）分析の実施					山口英峰	
第12回	結果の分析（2）結果の概要					山口英峰	
第13回	結果の分析（3）仮説と結果から					山口英峰	
第14回	結果の分析（4）研究計画スケジュールの再検討					山口英峰	
第15回	今後に向けて課題の検討					山口英峰	
第16回	中間発表					山口英峰	
第17回	論文作成（1）目的・方法・仮説					山口英峰	
第18回	論文作成（2）結果・結論					山口英峰	
第19回	論文作成（3）全体の流れ					山口英峰	
第20回	論文作成（1）考察のための論述					山口英峰	
第21回	論文作成（2）考察からの検討					山口英峰	
第22回	論文作成（3）研究の限界と課題点					山口英峰	

第23回	論文作成 (1) 論文内容の修正	山口英峰
第24回	論文作成 (2) 引用、注記の修正	山口英峰
第25回	論文作成 (3) データ表記の確認・修正	山口英峰
第26回	論文作成 (4) 要旨作成	山口英峰
第27回	論文作成 (5) 論文の最終確認	山口英峰
第28回	報告・発表準備 (1) パワーポイントの作成	山口英峰
第29回	報告・発表準備 (4) 質疑応答内容の活用	山口英峰
第30回	報告・発表準備 (3) プレ発表	山口英峰
第31回	卒業論文発表会事前準備	山口英峰
第32回	卒業論文発表会	外部講師

教科書

教・書籍名1	使用しない (プリントを配布する)	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	使用しない (プリントを配布する)	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	卒業論文			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-409		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	演習Ⅴおよび演習Ⅵを通してそれぞれが疑問に思う課題を明らかにすること。課題について、数量化し、科学的に明らかにすることができる。						
授業概要	スポーツを『any physical activity』としてとらえ、論文テーマを選定する。特に、高梁市と連携して実施している「健康教室」対象とする。文献調査、データ収集、データの解析と結果の解釈、論議という一連の手順に沿って論文を作成する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/グループワーク/プレゼンテーション/フィールドワーク/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	課題・議論・発表などへの取り組み等(50%)、受講態度(50%) なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	アダプテッドスポーツへの理解を深めること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は予習および復習が必要である(内容に関しては適宜指示する)。						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					天岡 寛	
第2回	文献・資料の検討①考察に向けて					天岡 寛	
第3回	文献・資料の検討②論文形成の実践					天岡 寛	
第4回	研究内容についての議論①基礎データの活用					天岡 寛	
第5回	研究内容についての議論②先行文献の活用					天岡 寛	
第6回	研究内容についての議論③論文の批評を通して					天岡 寛	
第7回	研究内容についての議論④先行研究と仮説					天岡 寛	
第8回	データ収集①手法					天岡 寛	
第9回	データ収集②留意点					天岡 寛	
第10回	データ収集③課題点の検討					天岡 寛	
第11回	データの分析①分析の実施					天岡 寛	
第12回	データの分析②結果の概要					天岡 寛	
第13回	データの分析③仮説と結果から					天岡 寛	
第14回	データの分析④結果の分析					天岡 寛	
第15回	今後に向けて課題の検討					天岡 寛	
第16回	研究結果の検討と論文作成①目的・方法・仮説					天岡 寛	
第17回	研究結果の検討と論文作成②結果・結論					天岡 寛	
第18回	研究結果の検討と論文作成③全体の流れ					天岡 寛	
第19回	質疑応答①考察のための論述					天岡 寛	
第20回	質疑応答②考察からのオリジナリティの検討					天岡 寛	
第21回	質疑応答③研究の限界と課題点					天岡 寛	
第22回	修正と質疑応答①論文内容の修正					天岡 寛	

第23回	修正と質疑応答②引用, 注記の修正	天岡 寛
第24回	修正と質疑応答③データ類の表記の修正	天岡 寛
第25回	発表準備①要旨作成	天岡 寛
第26回	発表準備②プレゼンテーション資料の作成	天岡 寛
第27回	発表準備③プレゼンテーション発表の練習	天岡 寛
第28回	発表準備④ポイントの検討	天岡 寛
第29回	研究内容の修正①質疑応答内容の活用	天岡 寛
第30回	研究の内容修正②誤字等文章全体の修正	天岡 寛
第31回	研究の内容修正③誤字等文章全体の修正	天岡 寛
第32回	研究の内容修正④誤字等文章全体の修正	天岡 寛

教科書		
-----	--	--

教・書籍名1	適宜指示する.	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書		
-----	--	--

参・書籍名1	適宜指示する.	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	卒業論文			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-409		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	<p>「サッカーを科学的に理解する」をテーマとして、サッカーについて原理原則とデータ分析集計の両面から学び、複雑化するあらゆるサッカーの試合において客観的な視点で自ら学び、多角的に分析力を備えた能力を身につける。</p> <p>学生が、サッカーの歴史の変遷によるルール変更の経緯と背景を学び、及び攻撃、守備の、攻撃から守備への切り替え、守備から攻撃への切り替えの4つの局面から理解する。また、3サード、5レーンにピッチを分けて捉える視点について理解する。加えてサッカーの課題の解決策を自ら考察し、判断できるようになることを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>サッカーのゲーム分析の基礎である、サッカーの目的、サッカーゲームの基本的な構造、サッカーのプレーの原則について複雑な仕組みを考察する。また攻撃の個人戦術、グループ戦術、守備の個人戦術、グループ戦術、サッカーのテクニック（技術）の構成要素について、ゲーム中の「プレーする前、プレー中、プレーした後」から分析について、ワールドカップのゲームから問題点と解決策を導き出す能力が身に付くようグループ討論を主体とした方式による授業を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	提出された卒業論文（80％）及び研究発表におけるプレゼンテーションは、内容、姿勢、話し方（20％）を重視し評価する。 なお評価指標については初回の講義で提示する。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと】						
課題や試験のフィードバック方法	卒業論文の評価は提出後、個別にフィードバックを行う。またプレゼンテーションの評価は実施した時に講義中に指導としてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	PCによる文章作成を行うため、記憶媒体を用意すること。演習VとVIと合わせて履修すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によって行うので、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習すること。必ず予習復習を行い、各2時間程度を要する。 卒業論文作成の計画立案をし、データ収集（先行論文収集）をおこなうこと。						
オフィスアワー	火曜日 3限 研究室 (9401)						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動					太田真司	
第2回	論文の構成の考え方					太田真司	
第3回	先行研究を調べる					太田真司	
第4回	資料と方法を調べる					太田真司	
第5回	結果と分析を確かめる					太田真司	
第6回	考察－裏づける					太田真司	
第7回	校正する					太田真司	
第8回	論文の表現の考え方					太田真司	
第9回	論文の文体					太田真司	
第10回	明晰な文					太田真司	
第11回	明晰な文章展開					太田真司	
第12回	予告と整理					太田真司	

第13回	書き手の責任	太田真司
第14回	主張する	太田真司
第15回	破綻を防ぐ	太田真司
第16回	専門用語の考え方	太田真司
第17回	語の定義	太田真司
第18回	漢字と仮名の書き分け	太田真司
第19回	読点の打ち方	太田真司
第20回	記号使い方	太田真司
第21回	論文を構成する動詞	太田真司
第22回	論文の文末表現	太田真司
第23回	話し言葉と書き言葉	太田真司
第24回	論文になじまない言葉	太田真司
第25回	論文の軸となる名詞	太田真司
第26回	複数の意味を持つ文	太田真司
第27回	読者を迷子にする文	太田真司
第28回	曖昧さを含む文	太田真司
第29回	事実と主張をめぐる嘘	太田真司
第30回	動機や感想に注意する	太田真司
第31回	卒業論文評価	太田真司
第32回	卒業論文のプレゼンテーション	太田真司

教科書

教・書籍名1	担当者の作成資料により進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	卒業論文			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-409		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	『スポーツマネジメント及びコーチングに関連した分野の研究』をテーマとし各自が選択したテーマについて、科学的な手順に則って論文を作成する。 学生はこの過程を通じて、論理的な考え方や、考察の仕方、実務能力などを学び、社会に出てからの諸々の業務に対応できるようになることを到達目標とする。						
授業概要	本講義は以下のような段階を経由することで、最終的に卒業論文を完成させることを目的としている。まず最初に卒業論文のテーマ設定である（第1回～第4回）。卒業論文の作成においては、個人の興味関心はもちろんのこと、社会的意義が重要になる。そのため、政策文書などを参考としながら、テーマの意義を明確にする。そのうえで、研究テーマに即した先行研究の分析を行い、研究の到達点・調査手法の吟味などを行う（第5回～第7回）。以上の成果を活かして、調査対象・調査項目・方法・評価尺度の設定を行う（第8回～第13回）。春学期の段階で以上の段階までを一度文章化し、報告を行う（第14回～15回）。以上の調査計画を踏まえ、夏休み中に調査を実施してもらう。秋学期の最初に調査計画の取りまとめを行っていく（第16回～21回）。その際論文の歴史的な背景・量的項目・質的項目のすべてを詳細に検討し、中間的な取りまとめを行う（第22回）。その中間とりまとめをもとに文章表現・表記法等を学生主体で検証し（第23回～25回）、最終的な成果をプレゼンテーション・討議してもらう（第26回～第28回）。その討議を受けて修正などを施し、卒業論文の提出を行う（第29回～第31回）。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	提出された卒業論文（80％）及び卒業論文のプレゼンテーション（20％）で評価する。なお、それぞれの評価指標については初回の講義で提示する。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	卒業論文の評価は提出後、各個人にuniversal passport等を用いて個別にフィードバックを行う。また、プレゼンテーションの評価はプレゼンテーションを実施した時に講義中に指導としてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習V・VIと連動して実施するので、演習V・VIを必ず履修すること。また、PCによる文章作成を行うため、記憶媒体（USBメモリー等）を用意し、作成した資料を綴じ込むためのファイル（A4サイズのリングファイルが望ましい）を用意しておくこと。なお、本講義では作成するレポートなどについては講義中にフィードバックを行うので、「自己学修」については必ず実施してから参加すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義の最終目標は卒業論文の執筆である。講義の時間は、各自執筆した原稿などの検討を中心とするので、毎回1000字程度の文章作成を義務付ける（2時間程度）。また、講義中に指示する復習項目及び文章修正も必須である（2時間程度）。本講義は全て学生の作業実施を前提としており、作業を行わないと先に進むことができないので空いた時間を活用して授業準備を行っていただきたい。						
オフィスアワー	水曜日 4限 研究室にて。なお、卒業論文提出期限前後はオンラインでの相談も受け付ける。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					倉知典弘	
第2回	研究倫理について					倉知典弘	
第3回	研究テーマの設定（1）自分史の観点から					倉知典弘	
第4回	研究テーマの設定（2）社会的背景から					倉知典弘	
第5回	先行研究の調査方法と選択					倉知典弘	
第6回	先行研究の報告（1）研究方法に着目して					倉知典弘	
第7回	先行研究の報告（2）結果を読み解く					倉知典弘	

第8回	調査の計画 (1) 目的・方法の関連性に着目して	倉知典弘
第9回	調査の計画 (2) 方法・対象の決定と倫理的配慮の確認	倉知典弘
第10回	調査の計画 (3) 評価尺度の選択	倉知典弘
第11回	調査の計画 (4) 研究計画書及び依頼文の作成	倉知典弘
第12回	調査計画の検証 (1) プレ調査の実施と評価	倉知典弘
第13回	調査計画の検証 (2) 調査計画の再検討	倉知典弘
第14回	研究目的と調査手法の文章化	倉知典弘
第15回	プレゼンテーション：中間評価として	倉知典弘
第16回	調査計画の報告	倉知典弘
第17回	調査結果の検討 (1) 歴史分析	倉知典弘
第18回	調査結果の検討 (2) 量的分析	倉知典弘
第19回	調査結果の検討 (3) 質的分析	倉知典弘
第20回	調査結果の検討 (4) 総括的評価	倉知典弘
第21回	調査結果の検討 (5) 研究の到達点	倉知典弘
第22回	卒業論文のとりまとめ：中間報告として	倉知典弘
第23回	文章校正の手法 (1) 基本的な文章表現	倉知典弘
第24回	文章校正の手法 (2) 調査結果の表記法	倉知典弘
第25回	文章校正の手法 (3) 引用・参考文献	倉知典弘
第26回	プレゼンテーション (1) 研究目的と方法	倉知典弘
第27回	プレゼンテーション (2) データ解析	倉知典弘
第28回	プレゼンテーション (3) 総括的評価	倉知典弘
第29回	最終校正	倉知典弘
第30回	振り返りと自己評価	倉知典弘
第31回	卒業論文提出	倉知典弘
第32回		

教科書

教・書籍名1	各回内容及び学生のテーマに応じて担当者が用意する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	卒業論文			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-409		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	演習Ⅴ、Ⅵを通して学生各自が疑問に思う課題について明らかにすること。学生は自身のテーマについて数量化し、科学的な手法で検証する。						
授業概要	健康やスポーツに関連する分野から研究テーマを選定し、文献検索、データ収集（実験・調査）、データ分析、ディスカッションの手順に沿って論文を作成する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション／実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	研究への取り組み姿勢（40%）、提出論文（60%）から総合的に評価する。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	論文作成のために実施した課題は、講義内でフィードバックするため、コメントに対して自身の考えをまとめ、論文に反映させること。						
履修条件・注意事項	実験、調査など数回行い、正確なデータ収集、結果に対する考察の組み立てなどを充実させること。研究テーマは個人毎に設定するが、学生間でのディスカッションを行い、ブラッシュアップを行うこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習がそれぞれ2時間必要である。問題提議やディスカッションができるよう各自に必要な資料を渉猟し、読み進めておくこと。ディスカッション内容について文面化し、毎回の講義内容をまとめておくこと。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9402）において、毎週月曜日の2限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について 研究テーマに関する知識の整理と検討					高原皓全	
第2回	文献検討（1）論文の作成について					高原皓全	
第3回	文献検討（1）科学論文の書き方について					高原皓全	
第4回	研究内容について（1）基礎データの活用					高原皓全	
第5回	研究内容について（2）先行研究の活用					高原皓全	
第6回	研究内容について（3）論文の批評的理解					高原皓全	
第7回	研究内容について（4）研究仮説					高原皓全	
第8回	実験（1）プレテスト					高原皓全	
第9回	実験（2）実施における留意点					高原皓全	
第10回	実験（3）課題店の検討					高原皓全	
第11回	分析（1）分析方法					高原皓全	
第12回	分析（2）結果の概要					高原皓全	
第13回	分析（3）研究仮説と結果					高原皓全	
第14回	分析（4）研究計画の再検討					高原皓全	
第15回	今後の検討課題について					高原皓全	
第16回	論文作成（1）目的・方法・仮説					高原皓全	
第17回	論文作成（2）結果・結論					高原皓全	
第18回	論文作成（3）全体の流れ					高原皓全	
第19回	ディスカッション（1）考察					高原皓全	
第20回	ディスカッション（2）研究の新規性					高原皓全	
第21回	ディスカッション（3）研究の課題点					高原皓全	

第22回	論文内容の修正 (1) 論文内容の修正	高原皓全
第23回	論文内容の修正 (2) 引用・注記の修正	高原皓全
第24回	論文内容の修正 (3) データ表記の修正	高原皓全
第25回	発表準備 (1) 要旨作成	高原皓全
第26回	発表準備 (2) スライド資料の作成	高原皓全
第27回	発表準備 (3) 発表練習	高原皓全
第28回	研究内容の確認・修正 (1) 質疑応答	高原皓全
第29回	研究内容の確認・修正 (2) ミスのチェック	高原皓全
第30回	研究内容の確認・修正 (3) 文章全体の修正	高原皓全
第31回		
第32回		

教科書

教・書籍名1	適宜資料を指示する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜資料を指示する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	卒業論文			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-409		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も 						
到達目標	演習Iおよび演習IIを通してそれぞれが疑問に思う課題を明らかにすることが大きなテーマである。学生は自分が知りたい現象について数量化し、科学的に明らかにすることができる。						
授業概要	健康やスポーツの分野を中心に論文テーマを選定し、文献調査、実験、データの解析と結果の解釈、論議という一連の手順に沿って論文を作成する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	研究に取り組む姿勢(30%)および卒業論文提出(70%)から評価する。なお、卒業論文作成のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめて、卒業論文に反映させること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	基本的には授業内でフィードバックするが、論文作成にはteamsを活用する場合もある。						
履修条件・注意事項	日頃から実験を行い、課題や結果等に対する考察を充実させること。個人指導を基本とするが、同様な研究テーマ、手法を扱う者と討論を行い連携を図ること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が各2時間程度必要である。本授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してくること。また、実験のディスカッションについては、しっかりと文面化して毎回の講義内容をまとめること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室(9411研究室)において、金曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について						羽野
第2回	文献・資料の検討(1) 考察に向けて						羽野
第3回	文献・資料の検討(2) 論文形成の実際						羽野
第4回	研究内容についての議論(1) 基礎データの活用						羽野
第5回	研究内容についての議論(2) 先行文献の活用						羽野
第6回	研究内容についての議論(3) 論文の批判を通じて						羽野
第7回	研究内容についての議論(4) 先行研究と仮説						羽野
第8回	実施(1) プレテスト及び、実施手順						羽野
第9回	実施(2) 実施における留意点						羽野
第10回	実施(3) 実施の問題点の検討						羽野
第11回	結果の分析(1) 分析と実施						羽野
第12回	結果の分析(2) 結果の概要						羽野
第13回	結果の分析(3) 仮説と結果から						羽野
第14回	結果の分析(4) 研究計画スケジュールの再検討						羽野
第15回	今後に向けての課題の検討						羽野
第16回	中間発表						羽野
第17回	研究結果の検討と論文作成(1) 目的						羽野
第18回	研究結果の検討と論文作成(2) 結果・結論						羽野
第19回	研究結果の検討と論文作成(3) 全体の流れ						羽野
第20回	考察に関する質疑応答(1) 考察						羽野

第21回	考察に関する質疑応答（2）オリジナリティ	羽野
第22回	考察に関する質疑応答（3）研究の限界	羽野
第23回	論文内容の修正と質疑応答（1）修正	羽野
第24回	考察に関する質疑応答（2）引用、注記	羽野
第25回	考察に関する質疑応答（3）表記の修正	羽野
第26回	発表準備（1）要旨作成	羽野
第27回	発表準備（2）パワーポイント作成	羽野
第28回	発表準備（3）プレ発表	羽野
第29回	研究内容の確認・修正	羽野
第30回	文章全体の修正	羽野
第31回	卒業論文発表会事前準備	羽野
第32回	卒業論文発表会	羽野

教科書

教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

Syllabus

社会科学部 スポーツ社会学科

2019～2021 年度入学生

授業科目名	吉備国際大から世界へ 保健医療福祉学部以外			担当者	吉備国際大学未定教員、畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-KE-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／6. 安全な水とトイレを世界中に／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／13. 気候変動に具体的な対策を／16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	<p>テーマ： Think Globally Act Locally. グローバルに物事を見る、グローバルに考える。実践はローカルに。</p> <p>到達目標： ヒト、モノ、カネ、情報が自由に世界を飛び回る時代。グローバル化、国際化が進展する現代では、グローバルな視点で、日本を見直す必要がある。日本の事情・都合だけで、政治・外交、経済、企業経営などを行なうことはできない。そのため、グローバルな視点で事象を観察、評価、判断できる能力が求められる。社会科学分野の基本概念を学ぶことを通じて、グローバルな視点を学び、世界の常識を学びながら、グローバル人材としての基本的思考を確立することを目指す。学生は、グローバルな視点で物事を判断できるようになる。</p>						
授業概要	<p>将来、社会で活躍する学生は、国際関係、国際経済、難民問題、その他多くのグローバル事象を複眼的に検討し、日本の事情を理解した上で、自分の意見が言える必要がある。そして、それを踏まえつつ、地域社会で実践する。それがグローバル人材。そのため、社会科学の多くの視点、手法を学びつつ、それを通じて世界の常識を認識できるようになる。グローバル人材として当然知っておくべき基本的な内容を学べる授業である。</p> <p>具体的なイシューを題材として、講義を行なう。その際、経験的方法、量的論証、批判的思考方法の手法・視点を取り入れる。自己教育力を身につけてもらうため、問題解決型学習の実践も取り入れる。グループに課題を与え、実態を調査し解決策を検討する。その成果は、授業で発表を行なってもらう。</p> <p>この科目が、他の教養科目の学修深化の一助となると共に、海外留学での学びや専門科目を履修する上での基礎を築くものとした。</p> <p>なお、履修者の興味、関心などに基づき、ディスカッションのやり方、テーマなどは適宜調整する。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業への参加度・コメント（40％）、グループ・プレゼンテーション（20％）、最終レポートの成績（40％）により、総合評価をおこなう。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	グループ・プレゼンテーションの結果は、各プレゼンテーションの後で、それぞれ講評を行う。最終レポートに関しては、コメントを付し、授業または事務室を経由して、返却する。						
履修条件・注意事項	ワールドニュースを必ず観ること。チェックすること。世界で起こっていることに関して、興味関心を持つこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	本講義の担当教員は、米国に通算2ヶ年留学し、国際協力機構JICAで長年勤務し、その間、コートジボアール日本大使館、JICAケニア事務所、フランスにある国際機関経済協力開発機構（OECD）に勤務した経験があるほか、多くの外国要人の接遇経験もある。それらの実務経験で学んだ暗黙知（本、論文、ネット記事などになっていないもの）を、				

			授業の節目節目で共有し、講義にリアリティを持たせる。
事前学習・事後学習とその時間	毎日、新聞を読む。ネットニュースなどをチェックする。参考図書などを読んで特定テーマに関し調べることなど、授業1回当たり、事前学習90分、復習90分の自己学修を必要とする。		
オフィスアワー	2号館附属図書館内で、毎週月曜日3限目、5限目をオフィス・アワーとします。		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション グローバル・スタディーズで学ぶこと		畝 山本倫子
第2回	国境とは何か？		畝 山本倫子
第3回	人はなぜ移動するのか？		畝 山本倫子
第4回	なぜ、自衛隊を軍隊と呼ばないのか？		畝 山本倫子
第5回	国連憲章と日本国憲法		畝 山本倫子
第6回	ジェンダー、LBGT、少数民族		畝 山本倫子
第7回	グループ・プレゼンテーション		畝 山本倫子
第8回	価値、価格はどのように決まるのか？		畝 山本倫子
第9回	自由貿易は本当に世界を豊かにするのか？		畝 山本倫子
第10回	産業の空洞化、技術流出とは何か？何が問題なのか？		畝 山本倫子
第11回	多国籍企業とは何だろうか？		畝 山本倫子
第12回	高齢化社会の課題		畝 山本倫子
第13回	世界の教育問題、日本の教育問題。		畝 山本倫子
第14回	なぜ、Liberal Artsを学ぶのか？		畝 山本倫子
第15回	グループ・プレゼンテーションと総括		畝 山本倫子
第16回	最終試験（レポート）		畝
教科書			
教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	国際関係論 同時代史への羅針盤	参・出版社名1	中公新書
参・著者名1	中島嶺雄	参・ISBN1	4-12-101106-6
参・書籍名2	経済学を味わう 東大1、2年生に大人気の授業	参・出版社名2	日本評論社
参・著者名2	市村英彦ほか	参・ISBN2	978-4-535-55955-4

授業科目名	吉備国際大から世界へ 留学生(再履1・2クラス)			担当者	日笠 恵美子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-KE-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。						
授業概要	主に、日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題、岡山、吉備、民話などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を習得して欲しい。毎回テーマをかかげ、グループディスカッションなどを行い、総合的で多角的な日本語力を身につける。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業態度を平常点として20点、ノートやレポート課題の提出を50点、そして単位認定試験を30点とし、これらを100点満点で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業内にてフィードバック						
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験の小論文を提出しなければ単位の認定はしないので注意すること。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。 履修上の条件・注意点：履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。本科目は、プレイスメントテストの結果で、2クラスに編成する。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が修得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上予習することと、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。						
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					日笠	
第2回	世界の中の日本、岡山、高梁					日笠	
第3回	日本人の行動様式					日笠	
第4回	日本の食文化					日笠	
第5回	日本の伝統文化					日笠	
第6回	健康法					日笠	
第7回	教育と学び					日笠	
第8回	余暇と娯楽					日笠	

第9回	現代の社会	日笠
第10回	報道とマスコミ	日笠
第11回	ITと情報社会	日笠
第12回	科学と技術	日笠
第13回	日本の歴史	日笠
第14回	岡山の祭り	日笠
第15回	異文化理解	日笠
第16回	単位認定試験	日笠

教科書

教・書籍名1	使用しない（必要に応じてプリントを配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	漢字マスターN2	参・出版社名1	三修社
参・著者名1	アークアカデミー	参・ISBN1	978-4-384-05632-7
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	吉備国際大から世界へ 留学生（再履3・4クラス）			担当者	井上 光恵		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-KE-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう  						
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。						
授業概要	日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を身につける。掲げたテーマごとにグループディスカッション行ったり、プレゼンテーションを行い、総合的で多角的な日本語力を身を養成する。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業態度を平常点として20点、プレゼンテーション・小テスト・課題の提出などを30点、そして単位認定試験50点とし、これらを100点満点で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	① テキストで新しく学習した語彙・文型の練習問題を毎回の課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ② 初中級レベルの「漢字」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストをしフィードバックを行う。 ③ テーマごとにプレゼンテーションを行い、フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも平常点として考慮する。単位認定試験に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎週の授業内容を踏まえて、事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。						
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	1. オリエンテーション 自己紹介					井上光恵	
第2回	2. トピック2（食文化）-1 漢字・語彙 会話と文法1					井上光恵	
第3回	3. トピック2（食文化）-2 会話と文法2 読解 作文					井上光恵	

第4回	4. トピック2 (食文化) -3 プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第5回	5. トピック3 (観光) -1 漢字・語彙 会話と文法1	井上光恵
第6回	6. トピック3 (観光) -2 会話と文法2 読解 作文	井上光恵
第7回	7. トピック3 (観光) -3 プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第8回	8. トピック5 (行事) -1 漢字・語彙 会話と文法1	井上光恵
第9回	9. トピック5 (行事) -2 会話と文法2 読解 作文	井上光恵
第10回	10. トピック5 (行事) -3 プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第11回	11. トピック7 (歴史) -1 漢字・語彙 会話と文法1	井上光恵
第12回	12. トピック7 (歴史) -2 会話と文法2 読解 作文	井上光恵
第13回	13. トピック7 (歴史) -3 プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第14回	14. 振り返り	井上光恵
第15回	15. 総括	井上光恵
第16回	単位認定試験	井上光恵

教科書

教・書籍名1	まるごと ことばと文化 初級2 A2 りかい	教・出版社名1	三修社
教・著者名1	来嶋洋美 柴原智代 八田直美 今井寿枝 木谷直之	教・ISBN1	978-4-384-05757-7
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	漢字たまご 初中級	参・出版社名1	凡人社
参・著者名1	嶋田和子 有山有樹 落合知春	参・ISBN1	978-4-89358-832-6
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	吉備国際大から世界へ（秋入学生）（再履1・2クラス）			担当者	日笠 恵美子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-KE-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。						
授業概要	主に、日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題、岡山、吉備、民話などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を習得して欲しい。毎回テーマをかけた、グループディスカッションなどを行い、総合的で多角的な日本語力を身につける。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業態度を平常点として20点、ノートやレポート課題の提出を50点、そして単位認定試験を30点とし、これらを100点満点で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業内にてフィードバック						
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験の小論文を提出しなければ単位の認定はしないので注意すること。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。 履修上の条件・注意点：履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。本科目は、プレースメントテストの結果で、2クラスに編成する。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が修得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上予習することと、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。						
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					日笠	
第2回	世界の中の日本、岡山、高梁					日笠	
第3回	日本人の行動様式					日笠	
第4回	日本の食文化					日笠	
第5回	日本の伝統文化					日笠	
第6回	健康法					日笠	
第7回	教育と学び					日笠	

第8回	余暇と娯楽	日笠
第9回	現代の社会	日笠
第10回	報道とマスコミ	日笠
第11回	ITと情報社会	日笠
第12回	科学と技術	日笠
第13回	日本の歴史	日笠
第14回	岡山の祭り	日笠
第15回	異文化理解	日笠
第16回	単位認定試験	日笠

教科書		
-----	--	--

教・書籍名1	使用しない（必要に応じてプリントを配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書		
-----	--	--

参・書籍名1	漢字マスターN2	参・出版社名1	三修社
参・著者名1	アークアカデミー	参・ISBN1	978-4-384-05632-7
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	吉備国際大から世界へ（秋入学生）（再履3・4クラス）			担当者	井上 光恵		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-KE-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう  						
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。						
授業概要	日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を身につける。掲げたテーマごとにグループディスカッション行ったり、プレゼンテーションを行い、総合的で多角的な日本語力を身を養成する。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業態度を平常点として20点、プレゼンテーション・小テスト・課題の提出などを30点、そして単位認定試験50点とし、これらを100点満点で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	① テキストで新しく学習した語彙・文型の練習問題を毎回の課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ② 初中級レベルの「漢字」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストをしフィードバックを行う。 ③ テーマごとにプレゼンテーションを行い、フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも平常点として考慮する。単位認定試験に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎週の授業内容を踏まえて、事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。						
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	1. オリエンテーション 自己紹介					井上光恵	
第2回	2. トピック2（食文化）-1 漢字・語彙 会話と文法1					井上光恵	

第3回	3. トピック2 (食文化) -2 会話と文法2 読解 作文	井上光恵
第4回	4. トピック2 (食文化) -3 プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第5回	5. トピック3 (観光) -1 漢字・語彙 会話と文法1	井上光恵
第6回	6. トピック3 (観光) -2 会話と文法2 読解 作文	井上光恵
第7回	7. トピック3 (観光) -3 プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第8回	8. トピック5 (行事) -1 漢字・語彙 会話と文法1	井上光恵
第9回	9. トピック5 (行事) -2 会話と文法2 読解 作文	井上光恵
第10回	10. トピック5 (行事) -3 プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第11回	11. トピック7 (歴史) -1 漢字・語彙 会話と文法1	井上光恵
第12回	12. トピック7 (歴史) -2 会話と文法2 読解 作文	井上光恵
第13回	13. トピック7 (歴史) -3 プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第14回	14. 振り返り	井上光恵
第15回	15. 総括	井上光恵
第16回	単位認定試験	井上光恵

教科書

教・書籍名1	まるごと ことばと文化 初級2 A2 りかい	教・出版社名1	三修社
教・著者名1	来嶋洋美 柴原智代 八田直美 今井寿枝 木谷直之	教・ISBN1	978-4-384-05757-7
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	漢字たまご 初中級	参・出版社名1	凡人社
参・著者名1	嶋田和子 有山有樹 落合知春	参・ISBN1	978-4-89358-832-6
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	地域学概論 スポ社			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-KE-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	<p><きびこく学・前半8回></p> <p>本学の教育目標である「地域創成に実践的に役立つ人材の養成」を達成するための導入的教育として位置づけられる科目である。テーマとしては、順正学園及び大学が、立地する地元地域社会の中で発展を遂げてきた歴史、ならびに地域の歴史や文化、人々の生活等について理解を深めるとともに、地域社会の現状を理解し、地域創成に向けて取り組むべき課題について学ぶことがあげられる。</p> <p>到達目標としては次の2点があげられる。</p> <p>①順正学園及び大学の歴史ならびに地域社会の歴史的特性や現状を理解し、地域創成のための取り組むべき課題を理解できる。</p> <p>②地域創成に向けて、学生としてどのような貢献ができるか考え、チャレンジする態度を涵養できる。</p> <p><SDGs概論・後半8回></p> <p>「地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGsの必要性と意義の理解」をテーマとし、SDGsの概要について学ぶ。</p> <p>到達目標は以下の通り。</p> <p>①地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGs策定の背景が理解できる。</p> <p>②SDGsについて全体像を把握し、その概要を説明できる。</p> <p>③SDGsの各目標を自分事として捉えることができる。</p> <p>④SDGsの達成に向けて必要な取り組みを実行することができる。</p>						
授業概要	<p><きびこく学・前半8回></p> <p>順正学園及び大学が、立地する地域の中で発展を遂げてきた歩み(歴史)を概観するとともに、地元地域で様々な活動を展開されている方々を講師に招き、地域の歴史や文化、人々の生活ならびに地域社会の現状や課題等についてご講演いただき、地域の特性や課題について理解を深める。また、毎回の講義の中で、学生の立場で地域の課題解決や発展にどのような貢献ができるのか考え、生活の主体者として地域創成に向けて取り組む姿勢を涵養することができるよう、レポート課題に取り組む。</p> <p><SDGs概論・後半8回></p> <p>2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標SDGs」について、その背景や目的を学ぶと共に、SDGsの17の目標について概要を学ぶ。また、SDGs達成に向けて実際にどのような取り組みが行われているかを学ぶ。そして、学生自らがその実現に</p>						

	<p>向け、何ができるか、また何をしなければならないかを考え、実行しようとする能力を身につける。</p> <p>授業は全学科の学生が受講する合同授業と各学科の授業で構成されている。合同授業は、地球環境システムと人間社会システム</p> <p>の現状とSDGs策定の経緯およびSDGsの概要について講義形式で教授する。各学科の授業ではグループに分かれてSDGs達成に向けた施策をまとめ、グループ毎に発表をおこない課題解決能力を養う。</p>	
アクティブラーニングの内容	PBL/グループワーク/プレゼンテーション/その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）	
評価方法と割合	<p><きびこく学・前半8回></p> <p>毎回授業時提出のレポート評価(70%)、第8回目に行う学修成果確認レポート作成の評価(30%)により、総合的に評価する。</p> <p><SDGs概論・後半8回></p> <p>グループでの活動及び発表を評価する(50%)。最後に筆記試験を行いSDGsの理解度を評価する(50%)。詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。</p>	
ルーブリック評価		
課題や試験のフィードバック方法	<p><きびこく学・前半8回></p> <p>毎回の授業でレポート提出を課すが、次回の授業時までには内容を評価し返却する。</p> <p><SDGs概論・後半8回></p> <p>振り返りレポートを評価して次回授業で返却する。</p>	
履修条件・注意事項	<p><きびこく学・前半8回></p> <p>地域の様々な立場にある外部講師による有益な講義を多く導入しているので、受講態度に十分留意して毎回必ず出席すること。</p> <p>受講内容に関するレポート課題には、単に感想を述べるのではなく、真摯に、積極的に取り組むこと。</p> <p><SDGs概論・後半8回></p> <p>①初回の授業には、必ず出席すること。</p> <p>②学科別授業ではグループワークを行うことから、授業を欠席しないこと。</p> <p>③合同授業日と各学科授業日があるので注意すること。</p>	
実務経験のある教員	該当する	<p>内容</p> <p><きびこく学・前半8回></p> <p>授業を担当する複数の講師は、いずれも学園や大学の創設に中心的役割を担い尽力した講師や、地域社会の中で様々な活動を展開している実務経験の豊富な講師である。</p>
事前学習・事後学習とその時間	<p><きびこく学・前半8回></p> <p>1) 事前にユニバを通じて配布する資料に十分目を通すとともに、インターネット等を通じて授業内容に関する情報を収集するなど、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。</p> <p>2) 授業後には、学修内容を振り返り、不明な点や確認したいことなどを各自で調べるなど、毎回2時間以上の事後学修を行うこと。</p> <p><SDGs概論・後半8回></p> <p>ユニバで配布する資料を基に事前学修をすること。また、授業終了後は必ず復習を行うこと。予習及び復習は各2時間程度行うこと。</p>	
オフィスアワー	金曜2限 9号館 4階9411研究室にて	
授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション 地域創成と何か一吉備国際大学の学生として「きびこく学」を学ぶ意義と授業計画について	大西正泰(経営社会学科) 羽野真哉
第2回	順正学園及び吉備国際大学の歴史について	順正学園 専務理事 羽野真哉
第3回	高梁市の歴史と文化及び政策課題と今後の方向性について	外部講師

		羽野真哉	
第4回	高梁基督教会堂(岡山県指定史跡)をめぐる歴史と人物	外部講師 羽野真哉	
第5回	「未来につなぐ図書館」としての活動	外部講師 羽野真哉	
第6回	宇治地域住民総働のまちづくり	外部講師 羽野真哉	
第7回	日本遺産「備中吹屋」	外部講師 羽野真哉	
第8回	学修成果確認レポート作成(学修成果の振り返り)	羽野真哉	
第9回	SDGsとは何かーなぜ学ぶのか(オリエンテーションを含む)	井勝久喜、羽野真哉	
第10回	2030アジェンダ採択までの経緯	井勝久喜、羽野真哉	
第11回	SDGsが目指している世界	井勝久喜、羽野真哉	
第12回	SDGsの17の目標	井勝久喜、羽野真哉	
第13回	検討課題の設定	羽野真哉	
第14回	高梁市におけるSDGsの取り組みについて	羽野真哉	
第15回	企業におけるSDGsの取り組みについて	羽野真哉	
第16回	定期試験	羽野真哉	
教科書			
教・書籍名1	使用しない(プリントを配布する)	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	「備中高梁」に学ぶ	参・出版社名1	吉備人出版
参・著者名1	吉備国際大学「備中高梁学」研究会	参・ISBN1	9784860691967
参・書籍名2	SDGsとは何か?	参・出版社名2	三和書籍
参・著者名2	安藤顯	参・ISBN2	978-4-86251-398-4

授業科目名	地域貢献ボランティア スポ社			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-KE-2-003		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	△	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／8. 働きがいも経済成長も／11. 住み続けられるまちづくりを</p> 						
到達目標	<p>テーマ：多様な社会課題に関する知識を習得し、その課題解決のプロセスを経験する。</p> <p>到達目標：</p> <p>①現代社会が抱える多様な課題を、スポーツ社会学・健康社会学・教育学的な視点から分析出来るようになる。</p> <p>②課題解決に必要な理論・手法を習得する。</p> <p>③地域課題やSDGs目標との接点から、社会が抱える多様な課題を「我がこと」として捉えることが出来るようになる。</p> <p>④グループでの演習活動を通じ、多様な考え方やそれぞれの価値観の違いを知る。</p> <p>⑤学習成果の発表機会を通じ、プレゼンテーション力が身につく。</p>						
授業概要	<p>既習の他の必修科目(人間力育成科目：きびこく学、SDGs概論、グローバルスタディーズ入門)で学んだ各地域の現状・課題、SDGsに関する目標・課題について、それぞれ解決策を模索することで、社会に積極的に貢献しようとする心や姿勢を養うことを到達目標とする。</p> <p>具体的には、グループごとに課題とするテーマを設定し、テーマに沿った情報を調べ、どのような方法であれば課題に対する解決が可能か検討を行う。</p> <p>以上の能動的学習経験を通じて、課題解決のために必要な一連のプロセスを修得する。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	プレゼンテーション (60%) ・ポートフォリオ内容 (40%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	提出されたポートフォリオにはそれぞれフィードバックを行う。 ポートフォリオは保管し、復習のために活用すること。						
履修条件・注意事項	留学生 (N2合格者以外) については、原則、2年次以降に履修とする。理由としては、グループでのディスカッションや発表機会が多くあるためである。						
実務経験のある教員	該当する	内容	企業ならびに、保育・社会福祉分野における勤務、実務経験を有する教員らが担当を行う。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回発表機会が多くある。その準備のために2時間程度の予習・復習時間を要する。						
オフィスアワー	金曜日2限 (9411研究室)						
授業計画						担当者	
第1回	授業オリエンテーション					全教員	
第2回	演習グループ、チームビルディング					羽野・天岡	
第3回	課題解決フレームワーク					羽野・倉知	
第4回	課題1：地域における健康・福祉について					外部講師 羽野・天岡・高原・山口	

第5回	健康・福祉に関する課題解決ワーク	羽野・天岡・山口・孫・竹内・高原
第6回	課題2：地域における教育について	外部講師 羽野・倉知
第7回	教育に関する課題解決ワーク	羽野・倉知・高原・竹内・山口
第8回	課題3：地域におけるスポーツについて	外部講師 羽野・太田・高藤
第9回	スポーツに関する課題解決ワーク	羽野・太田・高藤・竹内
第10回	課題4：まちづくりについて	外部講師 羽野・山口・天岡
第11回	まちづくりに関する課題解決ワーク	全教員
第12回	課題解決ワークのまとめ	羽野・天岡
第13回	成果発表1：健康・福祉分野	全教員
第14回	成果発表2：スポーツ分野・教育分野	全教員
第15回	成果発表3：まちづくり	全教員
第16回	学習成果ポートフォリオまとめ	羽野
教科書		
教・書籍名1		教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	検討中	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	キャリア開発 I スポ社			担当者	倉知 典弘、羽野 真哉		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-CG-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	15	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>8. 働きがいも経済成長も</p> 						
到達目標	<p>【到達目標】 社会的自立と職業的自立にむけて、自分の生き方・働き方を計画（キャリアデザイン）し、実行できる人間力と社会人意識の基礎を身につける。</p> <p>キャリアとは、生涯にわたる様々な立場や役割における自己と働くこととの関係づけや価値づけで、人生そのものである。そして、キャリアデザインとは、卒業後の将来を見据えて自らの生き方・働き方を考え、計画することである。大学生活を充実させ、社会で生きていくためには、自立的・主体的に考えて行動し、問題や課題に直面したときに自分で対処し解決する力が必要となる。そのためには、社会が求める人間像（自主性、責任感、教養、分別、コミュニケーション力）について考え、自分自身を知り目標をもって実行していくことが必要である。</p> <p>したがって、この科目の具体的な到達目標として、以下の3点を設定する。</p> <p>①自分自身を知り、社会を知ることで、自らの将来をイメージしながら、社会に出て働く意味や自分の目標を明確化できる。</p> <p>②その目標や社会的自立に向けて、自身のキャリアをデザインし、大学生活をどのように過ごすか考え、実践できる。</p> <p>③社会人としての基礎力であるコミュニケーション能力、社会人意識、職業選択能力を向上させる。</p>						
授業概要	<p>授業は、合同授業と学科別授業で構成されている。合同授業では、キャリアとは何か、キャリアをデザインするとはどのようなことか、大学生活における心身の健康やキャリア実践活動、一般的学力（自己理解）について講義や演習を行う。また、マイステップを使用する「キャリアデザインノート」の意義や作成方法についても説明し、個人の記録として卒業まで活用していく。</p> <p>授業全体を通して、「自分を知る」「社会を知る」「社会とつながる」「生き方を考える（大学生活を含む）」「働き方を考える」という5つのテーマで構成し、ワークシートやキャリアデザインノートへの記入、グループワークやディスカッションといった演習活動を行って自分の人生を考えることができるようにする。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	授業時間内の活動や発言（30％）、ワークシートやキャリアデザインノートへの記入（30％）、基礎学習（kiuiドリル）実施状況（20％）、最終試験あるいはレポート（20％）で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	ワークシートやキャリアデザインノートの記入内容については、授業内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	毎回、資料やプリントを配布するので、第1回目授業からファイルを持参すること。						

実務経験のある教員	該当する	内容	第2回、5回、14回は、キャリア形成や就職支援の実務経験のある外部講師を招き、キャリアデザインの基礎となる自己理解の演習を行う。
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、授業内で配布された資料や参考図書を読んでおく。 事後学習として、授業内で配布された資料を読み、次回までの課題が提示された回はその課題に取り組む。随時、自身のキャリア実践やプランについて「キャリアデザインノート」に記載していく。 各2時間の学修時間を目安とする。		
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室にて、毎週金曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。 また、月曜日2限目は、キャリアサポートセンターにおいてキャリアに関する相談に応じる。		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション・キャリアとは何か	倉知	
第2回	自分を知る・社会を知る：興味検査（VPI）or適正検査（GATB）	外部講師：マイナビ	
第3回	自分を知る・生き方を考える：メンタルヘルス	森信	
第4回	生き方を考える：キャリアデザインとは何か、大学生活の意義	藤原	
第5回	自分を知る：基礎学力（1回目）、大学生活の基礎	外部講師（ラインズ・マイナビ）	
第6回	大学生としての生活	倉知	
第7回	社会を知る・つながる：キャリア実践となる課外活動	藤原、外部講師（ボランティアセンター）	
第8回	子ども達の指導現場の現状とSNSの活用	外部講師：森原誠（羽野）	
第9回	大学院への進学	羽野・國佐	
第10回	障がい者スポーツに関わる職業	外部講師：深川友貴（高藤）	
第11回	プロスポーツ選手・指導者に関わる職業	外部講師：櫻田真平・櫻田未来（高藤）	
第12回	社会福祉・医療機関における仕事の実際	外部講師：健康・体力づくり事業財団	
第13回	スポーツに関わる職業～理想のスポーツ指導とは～	外部講師：宮崎有香（高藤）	
第14回	自分を知る：基礎学力（2回目）、将来に向けて	外部講師：ラインズ・マイナビ	
第15回	まとめ：キャリアデザインノートの作成	未定	
第16回	レポート（キャリアデザインノートの提出）	羽野	
教科書			
教・書籍名1	教科書は指定しない。毎回、資料やワークシートを配布する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	キャリア開発Ⅱ スポ社			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年			ナンバリング	GE-CG-3-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も 						
到達目標	自己の職業適性を発見する力・業界職種等を分析する力を身につけ、自分に適した職業進路を具体的に選択する。また、就活実践のための具体的な能力を訓練し発揮できるようにする。そのため、一般社会で身につけておくべき自主性や責任感、社会人としての一般常識や教養、分別、協調性や能力を再確認し実質的なものにする。						
授業概要	就活や進学のためのノウハウを身につけ、それらが実行できるようになるための授業である。そのため各自に適した具体的な進路選択力と就活実践力などを身につける。講義は、外部講師等による就活に向けた実践講座等である。その中で企業や社会で求められる人材とは何かといった社会の要請を理解するとともに自己に関する認識を振り返りの活動などを通じて深め、将来のキャリアを深く考えることを目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	各回講義の振り返り（30点）及び終講レポート（70点）で評価を行う。成績評価の詳細は初回講義で通知するので、必ず出席すること。なお、評価結果は、総括的に掲示で行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	ワークシートや講義中に配布される資料の記入内容については、授業内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	毎回、授業内容の復習をし、職業選択と就活の実践および自立に向けて深く考え、自己分析、業界分析等を実行し、就活の準備を段階的にしておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、キャリア形成や就職支援の実務経験のある外部講師を招き、就職活動対策の演習を行う。				
事前学習・事後学習とその時間	予習として各回講義の最後に次回講義のテーマについて提示するので、関連事項を学んでおくこと。講義のあとは、講義資料を改めて見直したうえで、講義の振り返り課題を実施し、講義内容の定着を図ること。						
オフィスアワー	9411研究室 金曜日2限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。						
授業計画						担当者	
第1回	就職活動準備情報収集 登録					外部講師（情報サイト）	
第2回	インターシップの必要性・申し込み方					外部講師（シーズ）	
第3回	自分の傾向を学ぶ					外部講師（リクナビ）	
第4回	自己分析・自己PR					外部講師（ピザビ）	
第5回	エントリーとは・エントリーシート攻略					外部講師（学情・ベネッセ）	
第6回	乗り遅れるなWEB就活					外部講師（シーズ）	
第7回	業界・職種を理解する					外部講師（ディスコ）	
第8回	業界研究・職業教育					外部講師（中小企業同友会）	
第9回	SPI（筆記試験）対策					外部講師（リクナビ）	

第10回	労働関係法規	外部講師（岡山労働局）
第11回	社会に必要なマナー	外部講師（リクナビ）
第12回	エントリーシート攻略フォロー・自分を振り返る	外部講師（ベネッセ）
第13回	履歴書の書き方・応募書類の出し方	外部講師（マイナビ）
第14回	面接対応・GD/集団/個人/WEB	外部講師（ビザビ）
第15回	まとめ 内定お礼・内定辞退 お詫び	外部講師（マイナビ）
第16回	試験	羽野

教科書		
-----	--	--

教・書籍名1	各回講義で資料を用意する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書		
-----	--	--

参・書籍名1	適宜紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	情報処理 I スポ社			担当者	天岡 寛、羽野 真哉		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-IT-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	△	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 						
到達目標	全学共通の基礎教育科目として、高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要なとされる必要最低限の一般教養としてのコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的なアプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、学科のディプロマポリシーに従って、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。						
授業概要	情報モラルとセキュリティ、情報システムの利用と社会問題、OSの基本操作、インターネットの閲覧とブラウザの基本操作、文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用、ネットワーク、インターネットによる情報検索、コンピュータによる問題解決、ハードウェアとソフトウェア、デジタルデータのしくみなどについて学習する。 講義の内容に対応して、パソコンを使用し適宜演習が行われる。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	「コンピュータスキル」の定着を確認するため、講義内で用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物30%、試験の成績を40%として最終的に総合評価が行われる。これらの3つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準とされる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	教科書は必ず初回の講義から持参すること。 講義は指定されたクラス・講義室で受講すること（受講者数はパソコン教室の定員以内とする）。 オリエンテーション等で、講義が始まる前までにコンピュータリテラシーのスキルを調べる「技能確認シート」が実施される場合がある。このシート未受験者の履修はその理由によっては認められないこともある。 高校までで習得したコンピュータリテラシーを踏まえた講義であるため、受講前までに高校で得た知見を十分復習しておくこと。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて専門用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション（クラス・教科書、ログイン等確認、Teamsの操作）					天岡・羽野	
第2回	パソコンのハードウェアと周辺機器					天岡・羽野	

第3回	デジタルデータのしくみ (ビット/バイト・標準化・コード)	天岡・羽野
第4回	OSとアプリケーション	天岡・羽野
第5回	ファイルシステム操作	天岡・羽野
第6回	文書作成 (ワープロソフト) 操作	天岡・羽野
第7回	文書作成 (ワープロソフト) 課題	天岡・羽野
第8回	表計算ソフト操作	天岡・羽野
第9回	表計算ソフト課題	天岡・羽野
第10回	プレゼンテーションソフト操作	天岡・羽野
第11回	プレゼンテーションソフト課題	天岡・羽野
第12回	ネットワークとインターネット	天岡・羽野
第13回	インターネットによる情報検索・情報セキュリティ	天岡・羽野
第14回	コンピュータの歴史・コンピュータによる問題解決	天岡・羽野
第15回	情報モラルと社会問題、まとめ・質疑	天岡・羽野
第16回	単位認定試験	天岡・羽野

教科書

教・書籍名1	情報リテラシー 入門編 Windows 11 / Office 2021対応 (FPT2117)	教・出版社名1	FOM出版
教・著者名1		教・ISBN1	978-4-938927-54-7
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	情報処理 II			担当者	佐藤 匡		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-IT-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと 論理的な思考	△	DP 4. コミュニケー ション・表現力	
DP 5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	政府の「AI戦略2019」（2019年6月策定）にて、リテラシー教育として、文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人卒/年）が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得する、とされたことを踏まえ、各大学・高専にて参照可能な「モデルカリキュラム」が数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムにおいて検討・策定された。本講義はそのリテラシーレベルのモデルカリキュラムに従ったものである。 到達目標は、今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること。そして、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること。である。 （数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム～データ思考の涵養～2020年4月数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム2枚目）						
授業概要	社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している。そういった現代では、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することが、よりよく生きる上で求められている。また、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見のため、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。そのため、この講義では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。 前半では、数理・データサイエンス・AIが必要とされる背景やその仕組みを学習、理解する。後半では、実際に手を動かして、プログラミングを行う。						
アクティブラーニングの内容	実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「数理・データサイエンス・AI基礎」の予習復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物50%、データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を20%として最終的に総合評価が行われる。これらの3つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準となる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	受講者数は、30人以内とする。そのため抽選となることもある。 抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。 指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 第1回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがあるので十分注意すること。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。						
実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員が理事を務めているNPO全国要約筆記問題研究会（会員数約1,300人）では、全国の自治体に対して要約筆記者養成の現状調査を行っている。また、パソコン要約筆記全体投影の読みやすさについて、首都圏の聴覚障がい者にアンケートや読みやすさの調査を行っている。その分析では本講義のデータサイエンスの知識が活用されている。				

事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。		
オフィスアワー	春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日 3時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日 4時限目 秋学期： 岡山キャンパス131研究室火曜日 2時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日 3時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。		
授業計画		担当者	
第1回	オリエンテーション・スキル確認テスト 導入とAIの定義とAIリテラシー		佐藤 匡
第2回	ビッグデータと社会の変化		佐藤 匡
第3回	社会で活用されているデータ		佐藤 匡
第4回	データ・AIの活用領域の広がり		佐藤 匡
第5回	データ・AIの技術		佐藤 匡
第6回	データサイエンス		佐藤 匡
第7回	データ・AIを活用するときの負の側面		佐藤 匡
第8回	データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（考え方）		佐藤 匡
第9回	データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（事例）		佐藤 匡
第10回	AIとアルゴリズム		佐藤 匡
第11回	データの構造とプログラミング		佐藤 匡
第12回	データの利活用方法		佐藤 匡
第13回	時系列データと文章データの分析例		佐藤 匡
第14回	教師あり学習と教師なし学習		佐藤 匡
第15回	データ・AI利活用における留意事項		佐藤 匡
第16回	まとめと筆記試験・評価		佐藤 匡
教科書			
教・書籍名1	はじめてのAIリテラシー	教・出版社名1	技術評論社
教・著者名1	岡嶋裕史、吉田雅裕 著	教・ISBN1	978-4-297-12038-2
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	情報処理 II			担当者	大谷 卓史		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-IT-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／12. つくる責任・つかう責任／16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	<p>仮想的な事例や現実の事例を通じて、情報セキュリティと情報倫理学の基本的な考え方を学ぶ。 到達目標は、学生が次の3つのことができるようになることである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報社会において、情報セキュリティにまつわる危険やリスクを理解し、トラブルを事前に回避できるようになる。 2. 万が一トラブルに巻き込まれた場合でも、人々の力を借りたとしても合理的な社会的・個人的コストで解決できるようになる。 3. 情報倫理学の基本的な思考を身につけることで、情報社会においてどのような倫理的問題が生じえるか理解できるようになる。 <p>なお、本講義のラーニングアウトカムズは「情報リテラシー」と「問題解決能力」である。</p>						
授業概要	<p>現代における情報セキュリティと情報倫理にかかわる諸問題について、仮想的な事例や現実の事例から学ぶ。情報技術だけでなく、法律や経済・ビジネス、情報倫理などにかかわる知識や考え方を身につける。 主要なキーワードは次のとおりである。 電子掲示板やtwitterなどでのトラブル、フィッシング、ワンクリック詐欺、電子メールの成りすまし、プライバシー、匿名性、著作権、など。 講義の最終回に全体のまとめをおこなう。 毎回簡単な課題提出を求める。内容は自分の意見であれば自由に採点には関係がないが、授業内容を理解したうえで意見であるかどうかなどを課題で確認する。課題に対しては、次回以降授業担当者から返答を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義内における自主的な質問・発言やディスカッションへの積極的な参加態度、講義内容にかかわる教員からの質問への回答を30%の重みづけで評価する（受講態度）。また、課題等の提出物10%、試験の成績を60%として最終的に総合評価を行う。これらの3つの評価をバランスよく得ていることを単位認定（到達目標）の判断基準とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業課題に関しては、次回授業でコメントシート（シャトルカード）や、授業内での言及・コメントなどによって（原則課題回答者名は匿名）、フィードバックする。						
履修条件・注意事項	<p>授業に積極的に取り組む姿勢が単位取得には必要です。 講義形式ですが、授業中に受講者に対して質問をします。また、授業の最後には、授業内容に関連した課題を出しますので、解答してください。解答に対しては、次回以降の授業でコメントや解説をします。 原則として情報処理Iの単位を取得した学生を対象とします。 授業計画の内容は、理解度の状況に応じて変更になることがあります。</p>						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	<p>各回の講義に対して、次のように予習・復習を十分におこなうこと。 予習：次回内容に対応する章の「重要ポイント」および「考えよう」を読み、本文を読んでくること。約2時間。 復習：授業内容に対応する章の「まとめ」をもとにノートを整理し、「練習問題」に取り組むこと。約2時間。</p>						
オフィスアワー	春学期：毎週木曜日4時限目、14617研究室（大谷研究室）						

秋学期：毎週水曜日3時限目、14617研究室（大谷研究室）

授業計画		担当者
第1回	イントロダクション	大谷
第2回	なぜ情報倫理が必要なのか	大谷
第3回	倫理とは何だろうか（1）倫理・法・慣習	大谷
第4回	倫理とは何だろうか（1）基本的な用語と枠組み	大谷
第5回	コンピューティングの歴史 コンピュータの誕生からパソコンの登場まで	大谷
第6回	コンピューティングの歴史 インターネット出現からIoT時代まで	大谷
第7回	身近な情報セキュリティ	大谷
第8回	メールやメッセージングアプリのセキュリティ	大谷
第9回	著作権の基礎	大谷
第10回	レポート作成の倫理問題	大谷
第11回	「漫画サイトが見られない」	大谷
第12回	個人情報保護法の基礎知識	大谷
第13回	ポイントカードと個人情報	大谷
第14回	情報時代のプライバシー	大谷
第15回	まとめ	大谷
第16回	筆記試験（オンライン試験も検討中）	大谷

教科書

教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	改訂新版 情報倫理入門	参・出版社名1	アイケイコーポレーション
参・著者名1	土屋俊監修、大谷卓史編著、江口聡、喜多千草、永崎研宣、村上祐子、坪井雅史、川口嘉奈子、吉永敦征、川口由起子著	参・ISBN1	4874923240
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	情報処理 II			担当者	今村 俊介		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-IT-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと 論理的な思考	△	DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	膨大なデータを適切に処理することが様々な分野で求められていることを理解し、基本的なデータに対する知識、および、データの扱い方を学習する。 ・なぜデータサイエンスを学ぶのか、社会でどのように活用されているのかを知る。 ・データの処理、集計、可視化、分析を行うためのデータサイエンスの基礎的事項を学習する。 ・社会における事象を適切に捉え、分析・説明できる力を修得する。 ・データが重要視されるようになった社会背景を理解する。 ・データとは何かを説明できる。 ・データの基本的な分析手法を理解する。 ・データサイエンティストに求められるスキルを理解する。						
授業概要	社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している。 この時代においては、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することがこれからをよりよく生きる上で求められている。 さらに、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見、および、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。 この講義では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶことを目的とする。 前半では、数理・データサイエンス・AIが必要とされる背景やその仕組みを学習、理解する。 後半では、実際に手を動かして、プログラミングを行う。 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」リテラシーレベルの導入・基礎・心得分野						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「数理・データサイエンス・AI基礎」の予習・復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。 それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が「30%」の重みづけで評価される。 また、課題等の提出物「50%」、データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を「20%」として最終的に総合評価が行われる。 これらの3つの評価をバランスよく得ていることが単位認定(到達目標)の判断基準となる。						
ルーブリック評価							

課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。		
履修条件・注意事項	<p>【受講者数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部で30人以内とする。そのため抽選となることがある。 ・抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。 <p>【持参物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 ・第1回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト【これは、学科によって実施・非実施をきめられますか？】未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがあるので十分注意すること。 <p>【授業計画】</p> <p>進捗の状況に応じて変更することがある。</p>		
実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員は、情報系科目の講義担当経験、ならびに、研究活動への使用経験を有している。
事前学習・事後学習とその時間	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各回の講義に先立ち、予習として教科書の該当箇所を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。 <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 <p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進度と同程度の予習量・復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 ・予習・復習の確認については、課題やタスクにおいて知識・技術の使用が求められ、その達成度ならびに積極的な参加態度が成績評価として考慮される。 		
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・講義終了時間の直後 ・事前に学生と教員で相談して決めた時間帯 		
授業計画		担当者	
第1回	オリエンテーション・スキル確認テスト 導入とAIの定義とAIリテラシー	今村	
第2回	ビッグデータと社会の変化	今村	
第3回	社会で活用されているデータ1	今村	
第4回	社会で活用されているデータ2	今村	
第5回	データ・AIの技術	今村	
第6回	データサイエンス	今村	
第7回	データ・AIを活用するときの負の側面	今村	
第8回	データ・AIにまつわるセキュリティ1	今村	
第9回	データ・AIにまつわるセキュリティ2	今村	
第10回	AIとアルゴリズム	今村	
第11回	データの構造とプログラミング	今村	
第12回	データの利活用方法	今村	
第13回	時系列データと文章データの分析例	今村	
第14回	教師あり学習と教師なし学習	今村	
第15回	データ・AI利活用における留意事項	今村	
第16回	まとめと試験・評価	今村	
教科書			
教・書籍名1	はじめてのAIリテラシー	教・出版社名1	技術評論社
教・著者名1	岡嶋裕史, 吉田雅裕 著	教・ISBN1	978-4-297-12038-2
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	英語 I スポ社A			担当者	嶋村 優枝		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LE-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	大学生としての読解力、会話力、リスニングとバランスの取れた英語力を養うことを到達目標とします。同時に高校までの文法の復習も行いますが、コミュニケーションに必要な最低限の文法を中心に、実際に使うことを軸に文法の授業を進めます。したがってこの授業を受ければ学生は、生きた英語を、ごく基本的な文法を理解したうえで使えるようになります。また英会話に応用できるリスニングも行います。この授業を受ければ学生は、あるシチュエーションで使われる単語や言い回しを知ることができ聞き取りはもちろんのこと、簡単な意思疎通もネイティブの人とできるようになります。						
授業概要	しばしば中学、高校で英語を勉強しても実際の英語は使えないという批判がこれまでもありましたが、単なる知識を積み上げるだけでは使えないようにならないことから、内容ある英語を使う練習、覚えると役に立つ意味あるやり取りを設定して、同時に文法の復習を行います。時間が限られていることから、文法の説明は行いながらも、不得意な学生のために、必要最低限の文法の解説に絞っています。ユニットごとにテーマを設定し、そのテーマに関連する知識を広げたり考えを深めたりして身近な話題や関心の持てるものを授業で行います。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク						
評価方法と割合	授業での発表と定期試験とを半々の50%で査定し評価します。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業は試験を含めて16回行いますが、15回目に試験を行い、最後の16回目の授業時間に試験についての詳しい解説を行うことで学生の英語習得の定着を図ります。						
履修条件・注意事項	この授業は必修です。国際大学の学生にふさわしい最低限の知識と実力をつけてもらいたいと考えていますので、是非とも予習、復習をしっかりと行ってください。教科書の販売については他の講義とは異なり、最初の授業で行いますのでその指示に従ってください。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習が大切です。できれば毎日10分でもよいので次の週末までに合計60～90分程度の時間になるように、声に出して教科書を読んできて下さい。予習して授業に臨むのとしないとのでは身に付くレベルに大きな差が生まれます。復習も同じで、講義で行ったことを一日10分でもよいので毎日自分で声に出して英文を読む習慣をつけてください。						
オフィスアワー	金曜日2限の授業前と授業後						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション 春学期の授業に関しての大雑把な説明と2回目の授業のさわり					嶋村優枝	
第2回	Profile 自分を知ろう BE動詞					嶋村優枝	
第3回	Sports 多彩だね、スポーツの世界 一般動詞：自動詞・他動詞					嶋村優枝	
第4回	Special Occasions 特別な日は誰に何をしてあげる？ 二重目的語、目的語をとる動詞					嶋村優枝	
第5回	Families 家族を知ろう 人称代名詞					嶋村優枝	
第6回	Japan Quiz 日本クイズに挑戦 WH疑問文					嶋村優枝	
第7回	Love and Marriage 恋愛はいつの時代も人々の関心事？ 過去形					嶋村優枝	
第8回	Life History 今までの自分を語ろう 現在完了形 継続					嶋村優枝	
第9回	Leisure 自分の経験を語ろう 現在完了形 経験・完了					嶋村優枝	
第10回	College Life 学生生活を楽しもう 進行形					嶋村優枝	

第11回	On Vacation 休暇の計画をたてよう 未来表現	嶋村優枝
第12回	Out and About 自分の気持ちを上手に伝えるには 助動詞 CAN,MAY	嶋村優枝
第13回	春学期の総復習(1) BE動詞 一般動詞 人称代名詞 疑問	嶋村優枝
第14回	春学期の総復習(2) 現在完了形 進行形 助動詞	嶋村優枝
第15回	春学期の試験	嶋村優枝
第16回	春学期の総復習、フィードバック	嶋村優枝

教科書

教・書籍名1	コミュニケーションのためのベーシック・グラマー Living Grammar	教・出版社名1	成美堂 SEIBIDO
教・著者名1	Atsuko Yamamoto・Naoko Osuka・Chikako Mano・Kyoko Okamoto・Benedict Rowlett	教・ISBN1	ISBN978-4-7919-7227-2
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	英語 I スポ社B・C			担当者	赤羽 美鳥		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LE-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	大学生としての読解力、会話力、リスニングとバランスの取れた英語力を養うことを到達目標とします。同時に高校までの文法の復習も行いますが、コミュニケーションに必要な最低限の文法を中心に、実際に使うことを軸に文法の授業を進めます。したがってこの授業を受ければ学生は、生きた英語を、ごく基本的な文法を理解したうえで使えるようになります。また英会話に応用できるリスニングも行います。この授業を受ければ学生は、あるシチュエーションで使われる単語や言い回しを知ることができ聞き取りはもちろんのこと、簡単な意思疎通もネイティブの人とできるようになります。						
授業概要	しばしば中学、高校で英語を勉強しても実際の英語は使えないという批判がこれまでもありましたが、単なる知識を積み上げるだけでは使えないようにならないことから、内容ある英語を使う練習、覚えると役に立つ意味あるやり取りを設定して、同時に文法の復習を行います。時間が限られていることから、文法の説明は行いながらも、不得意な学生のために、必要最低限の文法の解説に絞っています。ユニットごとにテーマを設定し、そのテーマに関連する知識を広げたり考えを深めたりして身近な話題や関心の持てるものを授業で行います。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク						
評価方法と割合	授業での発表と定期試験とを半々の50%で査定し評価します。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業は試験を含めて16回行いますが、15回目に試験を行い、最後の16回目の授業時間に試験についての詳しい解説を行うことで学生の英語習得の定着を図ります。						
履修条件・注意事項	この授業は必修です。国際大学の学生にふさわしい最低限の知識と実力をつけてもらいたいと考えていますので、是非とも予習、復習をしっかりと行ってください。教科書の販売については他の講義とは異なり、最初の授業で行いますのでその指示に従ってください。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習が大切です。できれば毎日10分でもよいので次の週までに合計60～90分程度の時間になるように、声に出して教科書を読んできて下さい。予習して授業に臨むのとしないのとでは身に付くレベルに大きな差が生まれます。復習も同じで、講義で行ったことを一日10分でもよいので毎日自分で声に出して英文を読む習慣をつけてください。						
オフィスアワー	金曜日1,2時限に来ています。質問のある方は、授業の前後にどうぞ。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション 春学期の授業に関しての大雑把な説明と2回目の授業のさわり					赤羽美鳥	
第2回	Profile 自分を知ろう BE動詞					赤羽美鳥	
第3回	Sports 多彩だね、スポーツの世界 一般動詞：自動詞・他動詞					赤羽美鳥	
第4回	Special Occasions 特別な日は誰に何をしてあげる？ 二重目的語、目的語をとる動詞					赤羽美鳥	
第5回	Families 家族を知ろう 人称代名詞					赤羽美鳥	
第6回	Japan Quiz 日本クイズに挑戦 WH疑問文					赤羽美鳥	
第7回	Love and Marriage 恋愛はいつの時代も人々の関心事？ 過去形					赤羽美鳥	
第8回	Life History 今までの自分を語ろう 現在完了形 継続					赤羽美鳥	
第9回	Leisure 自分の経験を語ろう 現在完了形 経験・完了					赤羽美鳥	
第10回	College Life 学生生活を楽しもう 進行形					赤羽美鳥	

第11回	On Vacation 休暇の計画をたてよう 未来表現	赤羽美鳥
第12回	Out and About 自分の気持ちを上手に伝えるには 助動詞 CAN,MAY	赤羽美鳥
第13回	春学期の総復習(1) BE動詞 一般動詞 人称代名詞 疑問	赤羽美鳥
第14回	春学期の総復習(2) 現在完了形 進行形 助動詞	赤羽美鳥
第15回	春学期の試験	赤羽美鳥
第16回	春学期の総復習、フィードバック	赤羽美鳥

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名1	コミュニケーションのためのベーシック・グラマー Living Grammar	教・出版社名1	成美堂 SEIBIDO
教・著者名1	Atsuko Yamamoto・Naoko Osuka・Chikako Mano・Kyoko Okamoto・Benedict Rowlett	教・ISBN1	ISBN978-4-7919-7227-2
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	英語II スポ社B・C			担当者	赤羽 美鳥		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LE-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	大学生としての読解力、会話力、リスニングとバランスの取れた英語力を養うことを到達目標とします。同時に高校までの文法の復習も行いますが、コミュニケーションに必要な最低限の文法を中心に、実際に使うことを軸に文法の授業を進めます。したがってこの授業を受ければ学生は、生きた英語を、ごく基本的な文法を理解したうえで使えるようになります。また英会話に応用できるリスニングも行います。この授業を受ければ学生は、あるシチュエーションで使われる単語や言い回しを知ることができ聞き取りはもちろんのこと、簡単な意思疎通もネイティブの人とできるようになります。						
授業概要	しばしば中学、高校で英語を勉強しても実際の英語は使えないという批判がこれまでもありましたが、単なる知識を積み上げるだけでは使えないようにならないことから、内容ある英語を使う練習、覚えると役に立つ意味あるやり取りを設定して、同時に文法の復習を行います。時間が限られていることから、文法の説明は行いながらも、不得意な学生のために、必要最低限の文法の解説に絞っています。ユニットごとにテーマを設定し、そのテーマに関連する知識を広げたり考えを深めたりして身近な話題や関心の持てるものを授業で行います。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク						
評価方法と割合	授業での発表と定期試験とを半々の50%で査定し評価します。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業は試験を含めて16回行いますが、15回目に試験を行い、最後の16回目の授業時間に試験についての詳しい解説を行うことで学生の英語習得の定着を図ります。						
履修条件・注意事項	この授業は必修です。国際大学の学生にふさわしい最低限の知識と実力をつけてもらいたいと考えていますので、是非とも予習、復習をしっかりと行ってください。教科書の販売については他の講義とは異なり、最初の授業で行いますのでその指示に従ってください。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習が大切です。できれば毎日10分でもよいので次の週末までに合計60～90分程度の時間になるように、声に出して教科書を読んできて下さい。予習して授業に臨むのとしないのとでは身に付くレベルに大きな差が生まれます。復習も同じで、講義で行ったことを一日10分でもよいので毎日自分で声に出して英文を読む習慣をつけてください。						
オフィスアワー	金曜日1,2時限に来ています。質問のある方は、授業の前後にどうぞ。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション 秋学期の授業に関しての大雑把な説明と2回目の授業のさわり					赤羽美鳥	
第2回	Rules しきたりは難しい 助動詞 must should					赤羽美鳥	
第3回	Folk Tales 昔話に思わぬ教訓を発見 接続詞 and but or so					赤羽美鳥	
第4回	News & Events ニュースに敏感になろう 受動態					赤羽美鳥	
第5回	Amazing Animals 動物の世界は驚きでいっぱい 頻度を表す副詞					赤羽美鳥	
第6回	Feelings 人間は感情の生き物だね ing edで終わる形容詞					赤羽美鳥	
第7回	World Quiz 世界クイズに挑戦 原級 比較級 最上級					赤羽美鳥	
第8回	Business この大企業の創始者は? 基本的な前置詞 at on in					赤羽美鳥	
第9回	Environment 環境問題を解決するには? 接続詞(2) when because although if					赤羽美鳥	

第10回	Old Sayings ことわざは面白い 不定詞と動名詞	赤羽美鳥
第11回	Professions 将来の職業について考えよう 関係詞 who which where	赤羽美鳥
第12回	What If? 仮定の話は途方もない 仮定法	赤羽美鳥
第13回	秋学期の総復習(1) 接続詞 受動態 比較級 基本的な前置詞	赤羽美鳥
第14回	秋学期の総復習(2) 不定詞と動名詞 関係詞 仮定法	赤羽美鳥
第15回	秋学期の試験	赤羽美鳥
第16回	秋学期の総復習、フィードバック	赤羽美鳥

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名1	コミュニケーションのためのベーシック・グラマー Living Grammar	教・出版社名1	成美堂 SEIBIDO
教・著者名1	Atsuko Yamamoto・Naoko Osuka・Chikako Mano・Kyoko Okamoto・Benedict Rowlett	教・ISBN1	ISBN978-4-7919-7227-2
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	英語Ⅱ スポ社A			担当者	嶋村 優枝		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LE-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	大学生としての読解力、会話力、リスニングとバランスの取れた英語力を養うことを到達目標とします。同時に高校までの文法の復習も行いますが、コミュニケーションに必要な最低限の文法を中心に、実際に使うことを軸に文法の授業を進めます。したがってこの授業を受ければ学生は、生きた英語を、ごく基本的な文法を理解したうえで使えるようになります。また英会話に応用できるリスニングも行います。この授業を受ければ学生は、あるシチュエーションで使われる単語や言い回しを知ることができ聞き取りはもちろんのこと、簡単な意思疎通もネイティブの人とできるようになります。						
授業概要	しばしば中学、高校で英語を勉強しても実際の英語は使えないという批判がこれまでもありましたが、単なる知識を積み上げるだけでは使えないようにならないことから、内容ある英語を使う練習、覚えると役に立つ意味あるやり取りを設定して、同時に文法の復習を行います。時間が限られていることから、文法の説明は行いながらも、不得意な学生のために、必要最低限の文法の解説に絞っています。ユニットごとにテーマを設定し、そのテーマに関連する知識を広げたり考えを深めたりして身近な話題や関心の持てるものを授業で行います。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク						
評価方法と割合	授業での発表と定期試験とを半々の50%で査定し評価します。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業は試験を含めて16回行いますが、15回目に試験を行い、最後の16回目の授業時間に試験についての詳しい解説を行うことで学生の英語習得の定着を図ります。						
履修条件・注意事項	この授業は必修です。国際大学の学生にふさわしい最低限の知識と実力をつけてもらいたいと考えていますので、是非とも予習、復習をしっかりと行ってください。教科書の販売については他の講義とは異なり、最初の授業で行いますのでその指示に従ってください。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習が大切です。できれば毎日10分でもよいので次の週末までに合計60～90分程度の時間になるように、声に出して教科書を読んできて下さい。予習して授業に臨むのとしないのとでは身に付くレベルに大きな差が生まれます。復習も同じで、講義で行ったことを一日10分でもよいので毎日自分で声に出して英文を読む習慣をつけてください。						
オフィスアワー	金曜日1限の授業前と授業後						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション 秋学期の授業に関しての大雑把な説明と2回目の授業のさわり					嶋村優枝	
第2回	Rules しきたりは難しい 助動詞 must should					嶋村優枝	
第3回	Folk Tales 昔話に思わぬ教訓を発見 接続詞 and but or so					嶋村優枝	
第4回	News & Events ニュースに敏感になろう 受動態					嶋村優枝	
第5回	Amazing Animals 動物の世界は驚きでいっぱい 頻度を表す副詞					嶋村優枝	
第6回	Feelings 人間は感情の生き物だね ing edで終わる形容詞					嶋村優枝	
第7回	World Quiz 世界クイズに挑戦 原級 比較級 最上級					嶋村優枝	
第8回	Business この大企業の創始者は? 基本的な前置詞 at on in					嶋村優枝	
第9回	Environment 環境問題を解決するには? 接続詞(2) when because although if					嶋村優枝	

第10回	Old Sayings ことわざは面白い 不定詞と動名詞	嶋村優枝
第11回	Professions 将来の職業について考えよう 関係詞 who which where	嶋村優枝
第12回	What If? 仮定の話は途方もない 仮定法	嶋村優枝
第13回	秋学期の総復習(1) 接続詞 受動態 比較級 基本的な前置詞	嶋村優枝
第14回	秋学期の総復習(2) 不定詞と動名詞 関係詞 仮定法	嶋村優枝
第15回	秋学期の試験	嶋村優枝
第16回	秋学期の総復習、フィードバック	嶋村優枝

教科書

教・書籍名1	コミュニケーションのためのベーシック・グラマー Living Grammar	教・出版社名1	成美堂 SEIBIDO
教・著者名1	Atsuko Yamamoto・Naoko Osuka・Chikako Mano・Kyoko Okamoto・Benedict Rowlett	教・ISBN1	ISBN978-4-7919-7227-2
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	英語Ⅲ			担当者	平見 勇雄		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LE-2-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	この授業はテキストの予習をしっかりとやれば学生は高校以上の難易度の長い文章が読むことができるようになります。基本的な文法の復習や語彙に加えて読解力をつけることを目標としています。また、全文のテキストのテープを聞く、訳を自分でしてもらうことで自分の実力を客観的に把握できるような授業を行います。教科書を自宅で声に出して音読することでスピーキングの力がつくよう各自の予習も必須です。英会話の中級に近い程度の会話ができるようになります。						
授業概要	教材はビートルズの物語を扱います。メンバーの生い立ちからグループの解散まで、テンポよく流れていく物語を楽しみながら次の授業が楽しみになるよう、内容を取りながら進めていきます。物語はスターとしての側面よりは人間的な側面に焦点が当たっており、人生における挫折が多く書かれています。自分たちと変わらない年齢の若者が、国籍、時代を問わず、同じように経験する出来事を自らの人生と重ねながら読んでもらいたいと願っています。 時々プリントに合わせて公式に発売されているメンバーの肉声のインタビューを聞きながら、物語に幅をもたせ、いろいろな角度からその人生を眺めます。なぜビートルズが時代を問わず愛されているのか、他のグループとは一線を画す存在なのかも考えていただきたいと思います。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業態度50%、授業での発表20%、そして試験30%を総合して評価します。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	16回目に筆記試験をやり、そのあと試験問題の解説をします。大切な文法事項、読解の難しいところなどが中心です。						
履修条件・注意事項	必ず予習すること、その際に配布するプリントを丹念に辞書を引き、大意をつかんでから授業に臨んで下さい。わからない文法は授業の中で自分から説明を求めるとの積極的な態度を希望します。参考書や辞書は必ず使って授業に臨んでもらうことを前提とします。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	授業前に必ず自分で訳をしてきて下さい。辞書を引いて文型を確認しながら前後の文章とのつながりも考えながら2時間程度の予習が理想です。復習としてはこれも2時間、実力に応じて授業で渡すCD-Rを使ってシャドウイングをしながら耳と会話を鍛えることをお勧めします。						
オフィスアワー	水曜日の3限 研究室にて（2号館6F）						
授業計画						担当者	
第1回	リバプール					平見勇雄	
第2回	メンバーの生い立ち ジョンレノン					平見勇雄	
第3回	ポールマッカートニーの生い立ち					平見勇雄	
第4回	ジョージハリソンの生い立ちとメンバー加入					平見勇雄	

第5回	メンバー交代 リンゴスター	平見勇雄
第6回	1960年デッカオーディション	平見勇雄
第7回	1962年ビートルズデビュー	平見勇雄
第8回	1964年ビートルマニア	平見勇雄
第9回	エドサリバンショー アメリカ進出	平見勇雄
第10回	オーストラリアや各国の状況	平見勇雄
第11回	映画ア・ハード・デイズ・ナイト	平見勇雄
第12回	映画とサントラ ヘルプ	平見勇雄
第13回	世界制覇	平見勇雄
第14回	アルバム ラバーソール	平見勇雄
第15回	アルバム リボルバー 日本公演	平見勇雄
第16回	筆記試験	平見勇雄

教科書

教・書籍名1	プリントを配布いたします。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	英語Ⅳ			担当者	平見 勇雄		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LE-2-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	この授業ではしっかり予習と復習を行うことで学生は大学初級程度のテキストの長文が読めるようになります。文法の復習は英語ⅠとⅡで既に行っており、春期はそれを前提に内容把握に焦点を当てていましたが、秋期は読解のスピードが上がることを目標としています。教科書を自宅で声に出して音読することでスピーキングの力をつけてもらうことも一年を通して目標としていますが、後期はテープを聴いてもらい大意が把握できるような練習をすることで、より総合的に力をつけることを目標としています。						
授業概要	教材はビートルズの物語です。秋期は中期と呼ばれている時期の傑作アルバムの創作からグループの解散までを取扱います。スターとしての側面よりは人間的な側面に焦点が当たっており、春期と違った人間関係における難しさが多く書かれています。成長していくことによってより個性が明確になり、環境の変化が人間関係を悪化させていく詳細を読み込んでいきます。英語の面ではテープを聞いていただきながら内容の把握をしてもらうことをやります。前期には行わなかった聴き取りをしてもらいますが、聴き取りに自信がない人はしっかりと事前に読み込んできてもらい、書いてもらっても構いません。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業態度50%、授業での発表20%、そして試験30%を総合して評価します。フィードバックは試験のあとに重要な点をまとめたプリントを配布することで行いたいと思います。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	単位認定の筆記試験は16回目に行い、その日の後半に試験の解説を行います。文法的な面と、読解で訳しにくい場所の解説を行います。						
履修条件・注意事項	必ず予習すること、その際に配布するプリントを丹念に辞書を引き、大意をつかんでから授業に臨んで下さい。わからない文法は授業の中で自分から説明を求めらるくらいの積極的な態度を希望します。参考書や辞書は必ず使って授業に臨んでもらうことを前提とします。なお試験のあとに試験の解答を言います。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	基本的な文法事項は授業ではやらないので自分で弱いところは補っていくように参考書を使って勉強してください。毎回2～3ページ進む予定ですから訳を書いてくるのが最低限の予習です（2時間程度の予習です）。授業を受けたあとは毎日授業で行ったところを声に出して読んで下さい。声に出すこと、毎日行うことが重要です。一日にたくさんやるのでは長続きしませんから一日10～20分程度で結構です。（したがって復習も時間としてはトータルとして2時間程度）						
オフィスアワー	水曜日の3限、2号館6Fの研究室						
授業計画						担当者	
第1回	春学期の復習					平見勇雄	
第2回	日本公演続き					平見勇雄	
第3回	レコーディング革命					平見勇雄	
第4回	アルバム サージェントペパーズロンリーハーツクラブバンド					平見勇雄	

第5回	世界同時衛星放送 「All you need is love」	平見勇雄
第6回	マネージャー ブライアンエプスタインの死	平見勇雄
第7回	マジカルミステリーツアー	平見勇雄
第8回	インドでの生活 修行	平見勇雄
第9回	初の2枚組アルバム 通称ホワイトアルバム	平見勇雄
第10回	ゲットバックプロジェクト	平見勇雄
第11回	最後のレコーディング アビーロード	平見勇雄
第12回	映画とサントラ レットイットビー	平見勇雄
第13回	解散後の4人 ジョンレノン	平見勇雄
第14回	解散後の4人 ポールマッカートニー	平見勇雄
第15回	解散後の4人 ジョージハリソンとリングスター	平見勇雄
第16回	筆記試験	平見勇雄

教科書

教・書籍名1	プリントを配布します。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	フランス語Ⅰ			担当者	加藤 健次		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LF-1-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	テーマ：「フランスの文化を理解し、かんたんなフランス語を話す」 到達目標：学生はフランスの文化について教養として語れるようになる。それらをフランス語で読み・発音できるようになる。フランスを旅行したときなどに、あいさつやかなたんな会話ができるようになる。						
授業概要	この講義は、一方向のレクチャーではなく、参加型双方向の授業で、フランス語のスキル習得のため、できるだけ大きな声を出して繰り返し発音することが求められる。フランス語の音節を正しく発音するための方法を知り、綴り字を正しく読むための理論と基礎文法を理解し、初歩的かつ日常的なフランス語会話に必要な語彙と例文を、フランスの歴史・地理・文化のなかから代表的なものを繰り返し発音して、暗唱できるようにする。初心者対象で、ABCと発音／つづり字の読み方から始められ、名詞・形容詞の性・数や冠詞などの基本文法が文化を学ぶなかで理解できるよう説明される。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「フランスの文化について教養として語れるようになる」という目標に対して、各自作成した報告書を提出する。「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業で質問に答えたり発表したりする。それらで総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための筆記試験を行って評価する。参加型学習を主体としていることから、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。授業毎試験（60％）、単位認定試験（40％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。						
履修条件・注意事項	毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけでなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に黒板に板書されたキーワードを読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また事後学習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に提出（または発表）すること毎週、課題が出される。その課題について必ずノートを作成する必要がある。予習復習には各2時間程度を要する。その課題テーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。それに基づいて、参加型授業が行われるので、復習・予習は必須である。各2時間の学修時間を目安とする。						
オフィスアワー	木曜日4限、岡山キャンパス123研究室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	スポーツ①ツール・ド・フランス					加藤健次	
第2回	映画①ヌーヴェル・ヴァーグから最強の二人まで					加藤健次	
第3回	音楽①サガンとブラームスはお好き？					加藤健次	
第4回	建築①ロマネスク様式					加藤健次	
第5回	食①パン					加藤健次	
第6回	旅①ブルターニュとモンサンミ歇尔					加藤健次	

第7回	歴史①マリーアントワネット	加藤健次
第8回	スポーツ②その他の自転車ロードレースとル・マン24時間耐久レース	加藤健次
第9回	美術②ピカソ、マチス、キュビズムと現代アート	加藤健次
第10回	音楽②ピアフとシャンソンの世界	加藤健次
第11回	建築②ゴシック様式	加藤健次
第12回	食②お菓子とショコラ	加藤健次
第13回	旅②ロワール川と城	加藤健次
第14回	文学①詩：ボードレールからコクトーまで	加藤健次
第15回	旅③ブルゴーニュとヴェズレー教会	加藤健次
第16回	筆記試験	加藤健次

教科書			
教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書			
参・書籍名1	はじめて学ぶフランスの歴史と文化	参・出版社名1	ミネルヴァ書房
参・著者名1	上垣 豊 (編)	参・ISBN1	ISBN-10 : 4623087786 ISBN-13 : 978-4623087785
参・書籍名2	ゼロからスタート フランス語 会話編	参・出版社名2	Jリサーチ出版
参・著者名2	鈴木文恵(著)	参・ISBN2	ISBN 1978-4-86392-103-0

授業科目名	フランス語Ⅱ			担当者	加藤 健次		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LF-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	テーマ：「フランスの文化を理解し、日常的なフランス語を話すことができるようになる」 到達目標：学生はフランスの文化について理解する。それらをフランス語で読み・発音できるようになる。フランスを旅行した時などに、あいさつやその場に合った会話ができるようになる。						
授業概要	これまでに習った文法や基本構文を復習しながら、フランス文化に関する練習問題をていねいに解いていく。フランス文化に関係した会話例文を正確に音読する指導を受ける。次週までに、それらを口に出して言えるようにしてくる。授業では、その例文を暗唱する。これを繰り返すことでフランスに精通し、フランス語の語彙力や発話力を身につけよう。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「フランスの文化について教養として語れるようになる」という目標に対して、各自作成した報告書を提出する。「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業で質問に答えたり発表したりする。それらで総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための筆記試験を行って評価する。参加型学習を主体としていることから、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。授業毎試験（60%）、単位認定試験（40%）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題を教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。						
履修条件・注意事項	毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけでなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に黒板に板書されたキーワードを読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また事後学習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に提出（または発表）すること毎週、課題が出される。その課題について必ずノートを作成する必要がある。予習復習には各2時間程度を要する。その課題テーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。それに基づいて、参加型授業が行われるので、復習・予習は必須である。各2時間の学修時間を目安とする。						
オフィスアワー	木曜日4限、岡山キャンパス123研究室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	スポーツ③サッカー・リーグ・アン					加藤健次	
第2回	美術③マグリットとシュールレアリスム					加藤健次	
第3回	音楽③サティとミニマルミュージック					加藤健次	
第4回	建築③ルネサンス・バロック様式					加藤健次	
第5回	食③チーズ					加藤健次	
第6回	旅④プロヴァンスとアルル					加藤健次	
第7回	文学②文学②サンテグジュペリ『星の王子さま』					加藤健次	

第8回	スポーツ④ベタンク	加藤健次
第9回	美術④スーラージュ、クラインに見る現代アート	加藤健次
第10回	音楽④ジプシー音楽とジャズマヌーシュ	加藤健次
第11回	食④ワイン	加藤健次
第12回	旅⑤サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路	加藤健次
第13回	哲学①デカルトと主体の哲学	加藤健次
第14回	文学②文学③小説：ユゴーからル・クレジオまで	加藤健次
第15回	食⑤Menuとコース料理	加藤健次
第16回	筆記試験	加藤健次

教科書

教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	はじめて学ぶフランスの歴史と文化	参・出版社名1	ミネルヴァ書房
参・著者名1	上垣 豊 (編)	参・ISBN1	ISBN-10 : 4623087786 ISBN-13 : 978-4623087785
参・書籍名2	ゼロからスタート フランス語 会話編	参・出版社名2	Jリサーチ出版
参・著者名2	鈴木文恵(著)	参・ISBN2	ISBN 1978-4-86392-103-0

授業科目名	フランス語Ⅲ			担当者	加藤 健次		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LF-2-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	テーマ：「フランス語会話ができるようになる」 到達目標：学生はフランス語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を学ぶ。フランス語Ⅰ・Ⅱで練習した会話表現をさらに応用して、様々な日常的な場面で運用できるようになることを到達目標とする。						
授業概要	1年で習った発音や綴り字の読み方の復習をしながら、語彙や表現を増やしていく。実際の場面を想像して、会話練習をする。文法的にもより踏み込んだ説明を読んでみる。教科書の練習問題をていねいに解いていく。教科書にある会話例文を正確に発音する。暗唱する。次週までに、それらを口に出して言えるようにしてくる。授業では、その暗唱した例文を発表する。他の学生と会話する。これを繰り返すことでフランス語のコミュニケーション力を身につけることを目指す。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「フランス語会話ができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業での質問や発表等を通じて総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための試験を行って評価する。授業毎試験（30%）、授業への積極的な参加態度（20%）、単位認定試験（50%）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題を教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。						
履修条件・注意事項	フランス語Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけでなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習復習には各2時間程度を要する。そのテーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。その成果は、各週の小テストと最終週の単位認定試験で問われる。						
オフィスアワー	木曜日4限、岡山キャンパス123研究室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	あいさつ					加藤健次	
第2回	発音					加藤健次	
第3回	性と数					加藤健次	
第4回	前置詞					加藤健次	
第5回	規則動詞					加藤健次	
第6回	形容詞					加藤健次	
第7回	否定形					加藤健次	
第8回	命令形					加藤健次	
第9回	疑問形					加藤健次	
第10回	副詞					加藤健次	

第11回	疑問副詞	加藤健次
第12回	疑問代名詞	加藤健次
第13回	不規則動詞	加藤健次
第14回	所有形容詞	加藤健次
第15回	疑問形容詞	加藤健次
第16回	筆記試験	加藤健次

教科書		
-----	--	--

教・書籍名1	新ゼロからスタートフランス語 文法編	教・出版社名1	Jリサーチ出版
教・著者名1	島崎 貴則	教・ISBN1	ISBN-10 : 4901429620 ISBN-13 : 978-4901429627
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書		
-----	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	フランス語Ⅳ			担当者	加藤 健次		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LF-2-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	テーマ：「フランス語で会話を楽しむことができる」 到達目標：学生はフランス語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を学ぶ。フランス語技能検定5級に合格するレベルを到達目標とする。						
授業概要	これまでに習った文法や基本構文を復習しながら、検定問題も念頭に置いて教科書の練習問題をていねいに解いていく。教科書にある会話例文を正確に音読する指導を受ける。次週までに、それらを口に出して言えるようにしてくる。授業では、その例文を暗唱する。これを繰り返すことで本気で語彙力や発話力を身につけ、検定試験に合格しよう						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「フランス語で会話を楽しむことができる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業での質問や発表等を通じて総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための試験を行って評価する。授業毎試験（30%）、授業への積極的な参加態度（20%）、単位認定試験（50%）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題を教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。						
履修条件・注意事項	フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修していることが望ましい。毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけでなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習復習は各2時間程度行うこと。予習は、毎授業の終わりに「次週の暗唱例文」が課題として示されるので、これらがスムーズに発話できるようにしていただくことである。復習は、そのテーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。復習の成果は、各週の小テストや最終週の単位認定試験で問われる						
オフィスアワー	木曜日4限、岡山キャンパス123研究室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	動詞allerとvenirの活用					加藤健次	
第2回	近接未来と近接過去					加藤健次	
第3回	命令形、否定表現					加藤健次	
第4回	疑問代名詞					加藤健次	
第5回	疑問副詞					加藤健次	
第6回	指示代名詞					加藤健次	
第7回	関係代名詞					加藤健次	
第8回	過去分詞					加藤健次	
第9回	直説法複合過去					加藤健次	
第10回	補語人称代名詞の語順					加藤健次	

第11回	比較級と最上級	加藤健次
第12回	非人称構文	加藤健次
第13回	直説法半過去	加藤健次
第14回	条件法現在	加藤健次
第15回	関係副詞と文の構造	加藤健次
第16回	筆記試験	加藤健次

教科書

教・書籍名1	新ゼロからスタートフランス語 文法編	教・出版社名1	Jリサーチ出版
教・著者名1	島崎 貴則	教・ISBN1	ISBN-10 : 4901429620 ISBN-13 : 978-4901429627
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	ドイツ語Ⅰ			担当者	清水 光二		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017～2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LG-1-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	学生は「ドイツ語Ⅰ」の終了時には、初歩的かつ日常的なドイツ語会話において使用されている定型的で平易な語句や文章を、話せたり・読んだり・聞き取ったりできるようになる。それに向けての個別目標だが、ドイツ語を正しく発音するためのルールを知り、併せて動詞や名詞を中心とした基礎的な文法を段階的に習得することになる。						
授業概要	この講義は、ドイツ語の初学者を対象にしている。春学期を通して学修する項目は、大体以下のような内容である。つづりと発音の関係、挨拶等の定型表現、自己紹介と他者紹介、辞書の案内と使い方、人称代名詞、規則動詞と不規則動詞の現在人称変化、名詞の性・数・格、前置詞、定冠詞、不定冠詞など。それに加え、定型的な日常口語表現を通して、コミュニケーションの初歩も学ぶ。なお、今回この授業で使うテキストはドイツ語の総合的な文法読本であり、ドイツの社会・文化・歴史などについても学ぶことができ、異質な文化や社会にたいする理解を深めることにもなる。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50％）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50％）を合計して総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはいりえないことである。毎回の授業では何かききと発表等をやれられるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的な参加態度および課題発表」の評価につながるのである。テキストの会話・読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後の予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくる。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語を初めて学ぶ者にとって、教師により説明される文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分については学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業においてその準備の成果を発表することが求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週2時間程度である。						
オフィスアワー	個人研究室（2号館6階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション ドイツおよびドイツ語とは			アルファベット	ドイツ語の発音（母音）	清水光二	
第2回	ドイツ語の発音（子音）			挨拶表現			清水光二
第3回	ドイツ語の発音（まとめ）			挨拶表現の復習			清水光二
第4回	Lektion 1 Was lernst du? 動詞の現在人称変化						
第5回	Lektion 1 Was lernst du? 定動詞第2位の原則 seinの現在人称変化						
第6回	Lektion 2 Hast du Geschwister? 名詞の性と格 定冠詞の格変化						
第7回	Lektion 2 Hast du Geschwister? 不定冠詞の格変化 habenの現在人称変化						
第8回	Lektion 3 Wann fährst du nach München? 不規則な現在人称変化						

第9回	Lektion 3 Wann fährst du nach München? 命令形	清水光二
第10回	Lektion 4 Welche Uhr kaufst du? 定冠詞類	清水光二
第11回	Lektion 4 Welche Uhr kaufst du? 不定冠詞類 所有冠詞	清水光二
第12回	Lektion 5 Kaufst du diese Bücher? 複数形	清水光二
第13回	Lektion 5 Kaufst du diese Bücher? 人称代名詞	清水光二
第14回	Lektion 6 Was machst du an diesem Wochenende? 前置詞の格支配 2格支配/3格支配	清水光二
第15回	Lektion 6 Was machst du an diesem Wochenende? 前置詞の格支配 4格支配/3・4格支配	清水光二
第16回	筆記試験	清水光二

教科書

教・書籍名1	パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール[三改版]	教・出版社名1	白水社
教・著者名1	上野成利、本田雅也	教・ISBN1	ISBN 978-4-560-06420-7
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	文法からマスター! はじめてのドイツ語	参・出版社名1	ナツメ社
参・著者名1	小野寺 賢一	参・ISBN1	ISBN-10: 481635137X
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	ドイツ語Ⅱ			担当者	清水 光二		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LG-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	学生は「ドイツ語Ⅱ」の終了時には、日常的な会話において使用されている定型的で平易な語句や文章を、話せたり・読んだり・聞き取ったりできるようになる。それに向けての個別目標だが、ドイツ語の基礎的な文法を学びながら（英語との比較も行いつつ）、ドイツ語特有の語法を品詞別あるいは時制別に段階的に理解することになる。						
授業概要	この講義は、「ドイツ語Ⅰ」を終了した学生を対象にしている。秋学期を通して学習する主な文法項目は、大体以下のようなものになっている。分離動詞・非分離動詞、接続詞、副文、再帰代名詞、再帰動詞、動詞の過去形と現在完了形、接続法など。文法事項については教師によって説明がなされるが、その後の練習問題や会話・読本部分については毎回学生の積極的な取り組みが求められる。そのためには、授業以外での予習や復習がどうしても必要となる。なお、今回この授業で使うテキストは総合的な文法読本であり、ドイツ語圏の習慣や日常といった文化一般、社会問題等にも触れながら楽しく初級ドイツ語を学べる内容となっている。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50％）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはいりえないことである。毎回の授業では何かききと発表等をやれられるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的な参加態度および課題発表」の評価につながるのである。テキストの会話・読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後の予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくる。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語を初めて学ぶ者にとって、教師により説明される文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分については学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業においてその準備の成果を発表することが求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週2時間程度である。						
オフィスアワー	個人研究室（2号館6階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。						
授業計画							担当者
第1回	Lektion 7 Was liest du gren? 形容詞の格変化						清水光二
第2回	Lektion 8 Wohin willst du gehen? 話法の助動詞						清水光二
第3回	Lektion 8 Wohin willst du gehen? 未来形						清水光二
第4回	Lektion 9 Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt? 分離動詞						清水光二
第5回	Lektion 9 Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt? 接続詞と副文						清水光二
第6回	Lektion 10 Hast du vor, München zu besuchen? zu不定詞						清水光二
第7回	Lektion 10 Hast du vor, München zu besuchen? 再帰代名詞						清水光二
第8回	Lektion 11 Als ich das Museum besuchte, … 動詞の3基本形						清水光二

第9回	Lektion 11 Als ich das Museum besuchte, … 過去形	清水光二
第10回	Lektion 12 Hast du Weimar besucht? 現在完了形	清水光二
第11回	Lektion 12 Hast du Weimar besucht? 非人称表現	清水光二
第12回	Lektion 13 Es wird gesagt, dass … 受動態	清水光二
第13回	Lektion 13 Es wird gesagt, dass … 比較表現	清水光二
第14回	Lektion 14 Was ist das beste Buch, das du je gelesen hast? 関係代名詞	清水光二
第15回	Lektion 14 Was ist das beste Buch, das du je gelesen hast? 不定関係代名詞	清水光二
第16回	筆記試験	清水光二

教科書

教・書籍名1	パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール[三改版]	教・出版社名1	白水社
教・著者名1	上野成利、本田雅也	教・ISBN1	ISBN 978-4-560-06420-7
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	文法からマスター! はじめてのドイツ語	参・出版社名1	ナツメ社
参・著者名1	小野寺 賢一	参・ISBN1	481635137X
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	ドイツ語Ⅲ			担当者	清水 光二		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LG-2-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	学生は、ドイツの歴史、文化、社会を多面的に学習することで、ドイツ語の背景にあるものについての理解を深めると同時に、初歩的レベルなら一人でも読み書きすることが出来るようになる。 個別目標としては、どのような場面でどのようなドイツ語表現が使われるかを一つひとつ理解し学修することで、実際に遭遇するであろう様々な場面に応用可能な表現や基本構文を身につける。						
授業概要	ドイツ語Ⅰ・Ⅱで学んだ文法事項の確認を行いながら、ドイツ語の文章を読むことによって読解力や語彙力を着実に身につけることができる。 具体的には、ドイツ語圏の社会や文化の中から私たちの生活にも関係がありそうなトピックを話題にして、易しい文章から徐々にレベルアップしたものへと読み進めることにより、ドイツ語圏に関わる知識とドイツ語の理解力を深めることができる。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50％）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50％）を合計して総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	この授業は、1年間で60時間のドイツ語学習を経験した者を対象としている。本校のカリキュラムで言えば、「ドイツ語Ⅰとドイツ語Ⅱを履修済みであること」（あるいは同等のレベル）が履修の前提となっている。 語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはいりえない。毎回の授業では何かききと発表等をやれされるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的参加態度および課題発表」の評価につながるのである。 テキストの読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後における予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくること。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語の初學者には、教師が説明する文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分については学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業ではその準備の成果を発表することが個々に求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週2時間程度である。						
オフィスアワー	個人研究室（2号館6階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	Lektion 0 自己紹介					清水光二	
第2回	Lektion 0 挨拶 動詞の現在人称変化					清水光二	
第3回	Lektion 1 地理と天候					清水光二	
第4回	Lektion 1 冠詞（類）の格変化					清水光二	
第5回	Lektion 2 食生活					清水光二	
第6回	Lektion 2 前置詞の格変化					清水光二	

第7回	Lektion 3 ドイツ語という言葉	清水光二
第8回	Lektion 3 名詞の複数形	清水光二
第9回	Lektion 4 ドイツの大学	清水光二
第10回	Lektion 4 話法の助動詞	清水光二
第11回	Lektion 5 祝日と休暇	清水光二
第12回	Lektion 5 形容詞の格変化	清水光二
第13回	Lektion 6 ドイツの治安事情	清水光二
第14回	Lektion 6 比較表現	清水光二
第15回	Lektion 0 ~ Lektion 6 までの復習	清水光二
第16回	筆記試験	清水光二

教科書

教・書籍名1	知りたいドイツ語 ～読みながらステップアップ～	教・出版社名1	朝日出版社
教・著者名1	Siegfried Kohlhammer、斎藤太郎	教・ISBN1	ISBL: 978-4-255-25403-6 C1084
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	文法からマスター!はじめてのドイツ語	参・出版社名1	ナツメ社
参・著者名1	小野寺 賢一	参・ISBN1	481635137X
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	ドイツ語Ⅳ			担当者	清水 光二		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LG-2-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	学生は、ドイツの歴史、文化、社会を多面的に学習することで、ドイツ語の背景にあるものについての理解を深めると同時に、初歩的レベルなら一人でも読み書きすることが出来るようになる。 個別目標としては、どのような場面でどのようなドイツ語表現が使われるかを一つひとつ理解し学修することで、実際に遭遇するであろう様々な場面に応用可能な表現や基本構文を身につける。						
授業概要	ドイツ語Ⅰ・Ⅱで学んだ文法事項の確認を行いながら、ドイツ語の文章を読むことによって読解力や語彙力を着実に身につけることができる。 具体的には、ドイツ語圏の社会や文化の中から私たちの生活にも関係がありそうなトピックを話題にして、易しい文章から徐々にレベルアップしたものへと読み進めることにより、ドイツ語圏に関わる知識とドイツ語の理解力を深めることができる。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50％）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	この授業は、1年間で60時間のドイツ語学習を経験した者を対象としている。本校のカリキュラムで言えば、「ドイツ語Ⅰとドイツ語Ⅱを履修済みであること」（あるいは同等のレベル）が履修の前提となっている。 語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはいりえない。毎回の授業では何かききと発表等をやれされるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的参加態度および課題発表」の評価につながるのである。 テキストの読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後における予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくること。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語の初學者には、教師が説明する文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分については学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業ではその準備の成果を発表することが個々に求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週2時間程度である。						
オフィスアワー	個人研究室（2号館6階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	Lektion 7 教育制度					清水光二	
第2回	Lektion 7 分離動詞と非分離動詞					清水光二	
第3回	Lektion 8 政治制度					清水光二	
第4回	Lektion 8 受動態					清水光二	
第5回	Lektion 9 ドイツの歴史概観					清水光二	
第6回	Lektion 9 過去の表現					清水光二	

第7回	Lektion 10 音楽の国ドイツ	清水光二
第8回	Lektion 10 副文の語順	清水光二
第9回	Lektion 11 ドイツの宗教事情	清水光二
第10回	Lektion 11 関係代名詞	清水光二
第11回	Lektion 12 二つのドイツ	清水光二
第12回	Lektion 12 分詞の用法	清水光二
第13回	Lektion 13 EUとドイツ	清水光二
第14回	Lektion 13 接続法第2式	清水光二
第15回	Lektion 14 EUとドイツ	清水光二
第16回	筆記試験	清水光二

教科書

教・書籍名1	知りたいドイツ語 ～読みながらステップアップ～	教・出版社名1	朝日出版社
教・著者名1	Siegfried Kohlhammer、斎藤太郎	教・ISBN1	ISBL: 978-4-255-25403-6 C1084
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	文法からマスター!はじめてのドイツ語	参・出版社名1	ナツメ社
参・著者名1	小野寺 賢一	参・ISBN1	978-4-560-06420-7
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	中国語Ⅰ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LC-1-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	<p>テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能の習得（入門編）。</p> <p>到達目標： 学生は中国語を正しく発音するための方法を知り、初歩的な文法事項を理解し、初歩的かつ日常的な中国語会話に必要な語彙と文を読んだり聞き取ったりすることができるようになる。</p>						
授業概要	中国語での読む・書く・話す力を伸ばすためには、まず発音を完全にマスターする必要がある。中国語には日本語にない捲舌音や有気音があり、発音が難しい。そのため、2ヶ月近く徹底的に練習を繰り返す。その後、初級文法や簡単な日常会話を練習することにより、前期終了時には挨拶や自己紹介ができるようになる。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「中国語を正しく発音するための方法を知り、初歩的な文法事項を理解し、初歩的かつ日常的な中国語会話に必要な語彙と文を読んだり聞き取ったりすることができるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（70％）、小テスト（20％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（10％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能ないようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 予習及び復習に、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	1、中国語の声調に関する解説及び発声リズムの練習 2、単母音の発声練習					孫基然	
第2回	1、声調発声リズムの復習 2、単母音の発声復習 3、複合母音の発声練習					孫基然	
第3回	1、声調発声リズムの復習 2、単母音の発声復習 3、複合母音の発声復習 4、鼻音の発声練習					孫基然	
第4回	1、発音の復習 2、そり舌音の発声練習					孫基然	

第5回	1、発音の復習 2、子音の発声練習	孫基然
第6回	1、発音総合復習 2、発音小テスト 3、実施した小テストをフィードバックする。	孫基然
第7回	1、声調符号をつける位置 2、声調の変化 3、よく使うフレーズ	孫基然
第8回	1、人称代名詞 2、判断文 3、普通疑問文	孫基然
第9回	1、副詞「也」 2、副詞「的」 3、普通疑問文	孫基然
第10回	1、「喜歡」の使い方 2、形容詞述語文	孫基然
第11回	1、省略疑問文 2、年齢の聞き方と使い分け	孫基然
第12回	1、所有を表す「有」 2、完了を表す「了」 3、推測表現	孫基然
第13回	1、時刻の言い方 2、量詞の使い方	孫基然
第14回	1、省略疑問文 2、進行表現	孫基然
第15回	1、提案や勧誘の使い方 2、二重目的語を取る動詞	孫基然
第16回	筆記試験	孫基然
教科書		
教・書籍名1	中国への旅	教・出版社名1 朝日出版社
教・著者名1	山下輝彦、黄漢青	教・ISBN1 978-4-255-45332-3
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	中国語Ⅱ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LC-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	<p>テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能の習得（基礎編）。</p> <p>到達目標： 学生は前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準4級の獲得へつなげていくことができるようになる。</p>						
授業概要	中国語には、日本語にない捲舌音や有気音があり、発音が難しい。そのため、2ヵ月近く徹底的に練習を繰り返す必要がある。その後、初級文法や簡単な日常会話を練習し、IIの終了時には挨拶や自己紹介ができるようになる。基礎的な文法事項、表現等を会話や筆記練習等で理解を深め、会話力、読解力、応用力を高める。担当教員は毎回必ず課題として出された単語や基本構文の暗唱をチェックする。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準4級の獲得へつなげていくことができるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（70％）、小テスト（20％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（10％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能ないようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 予習及び復習に、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	1、助動詞「会」と「能」 2、選択疑問文					孫基然	
第2回	1、助動詞「想」 2、反復疑問文					孫基然	
第3回	1、経験表現 2、連動文					孫基然	
第4回	1、時量補語 2、存在表現					孫基然	
	1、助動詞「会」と「能」					孫基然	

第5回	2、選択疑問文 3、比較表現	
第6回	1、介詞「離」、「従」と「往」の使い方 2、動作の方式を表す「着」 3、比較表現	孫基然
第7回	1、逆接を表す「雖然……、但是」 2、「的」の使い方 3、結果補語	孫基然
第8回	中間テスト	孫基然
第9回	中間テストをフィードバックする。	孫基然
第10回	1、逆接を表す「雖然……、但是」 2、「的」の使い方	孫基然
第11回	1、未来を表す表現 2、方法や方式を訪ねる表現	孫基然
第12回	1、介詞「給」 2、仮定表現	孫基然
第13回	1、「太……了」の文型 2、人民元の数え方 3、割引の言い方	孫基然
第14回	1、動詞の重ね型 2、「一边」と「一点」	孫基然
第15回	1、程度補語 2、介詞「為了」 3、方向補語と兼語文	孫基然
第16回	筆記試験	孫基然

教科書

教・書籍名1	中国への旅	教・出版社名1	朝日出版社
教・著者名1	山下輝彦、黄漢青	教・ISBN1	978-4-255-45332-3
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	中国語Ⅲ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LC-2-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	<p>テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論（検定試験対応・前篇）を修得できるようになる。</p> <p>到達目標： 学生は中国語検定試験準4級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準4級に挑戦することができるようになる。</p>						
授業概要	1年次に習った単語、基礎的文法事項、表現等を生かしつつ、新しい文法や表現等を習得し、筆記や会話の練習を通して、中国語の読解能力と基礎的会話能力を高める。また、毎回少し時間を割いて中国に関する内容をも講義する。さらに助動詞、比較表現、使役表現、結果補語などを中心として関連文法を紹介する。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「中国語検定試験準4級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準4級に挑戦することができるようになる。」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（70%）、小テスト（20%）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（10%）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能のようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 試験は必ず行うので、授業に出席していただければ単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習に、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	1、前置詞「対」 2、名詞前の「的」					孫基然	
第2回	1、「有的……有的」の文型 2、「既……又」の文型					孫基然	
第3回	1、「每……都」の文型 2、動詞、形容詞の前の「地」					孫基然	
第4回	「除了……」の文型					孫基然	
第5回	「即使……也」の文型					孫基然	

第6回	持続を表す「着」	孫基然
第7回	結果補語	孫基然
第8回	中間テスト	孫基然
第9回	中間テストをフィードバックする	孫基然
第10回	1、「因為……所以」の文型 2、「一辺……一辺」の文型	孫基然
第11回	「是……的」の文型	孫基然
第12回	現存文	孫基然
第13回	手段・状態を表す「着」	孫基然
第14回	「一点也不」の文型	孫基然
第15回	疑問詞の呼応表現	孫基然
第16回	筆記試験	孫基然
教科書		
教・書籍名1	2冊目の中国語講読クラス	教・出版社名1 白水社
教・著者名1	劉穎、柴森、小澤正人	教・ISBN1 978-4-560-06927-1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	中国語Ⅳ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LC-2-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	<p>テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論（検定試験対応・後篇）を修得できるようになる。</p> <p>到達目標： 学生は中国語検定試験準4級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準4級に挑戦することができるようになる。</p>						
授業概要	1年次に習った単語、基礎的文法事項、表現等を生かしつつ、新しい文法や表現等を習得し、筆記や会話の練習を通して、中国語の読解能力と基礎的会話能力を高める。また、毎回少し時間を割いて中国に関する内容をも講義する。さらに助動詞、比較表現、使役表現、結果補語などを中心として関連文法を紹介する。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「中国語検定試験準4級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準4級に挑戦することができるようになる。」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（70%）、小テスト（20%）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（10%）を合計して総合評価する。なお、評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能ないようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 試験は必ず行うので、授業に出席していただければ単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習に、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	1、「是……的」の文型 2、様態補語					孫基然	
第2回	1、「不知道……才好」の文型 2、「好像……一樣」の文型					孫基然	
第3回	疑問詞の不定用法					孫基然	
第4回	可能補語「動詞+得了」					孫基然	
第5回	1、「無論……都」の文型 2、「要是……就」の文型					孫基然	

第6回	1、動詞後の「給」 2、受身表現	孫基然
第7回	中間テスト	孫基然
第8回	中間テストをフィードバックする。	孫基然
第9回	1、「不是……就是」の文型 2、「再也没……過」の文型	孫基然
第10回	1、「雖然……但是」の文型 2、「不但……而且」の文型	孫基然
第11回	1、動量補語 2、離合詞	孫基然
第12回	1、「有」の謙語文 2、使役表現	孫基然
第13回	1、副詞「就」 2、副詞「都」	孫基然
第14回	1、「有」の連動文 2、「把」の文	孫基然
第15回	1、「对……來說」の文献 2、「只有……才」の文型	孫基然
第16回	筆記試験	孫基然
教科書		
教・書籍名1	2冊目の中国語講読クラス	教・出版社名1 白水社
教・著者名1	劉穎、柴森、小澤正人	教・ISBN1 978-4-560-06927-1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	日本語ⅠA 再履1クラス			担当者	日笠 恵美子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになる。						
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50％）、小テスト（30％）、学習意欲・態度（20％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続すること。また、2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～4クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目とも同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。						

オフィスアワー	授業終了後、休憩時間		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション		日笠
第2回	ユニット1		日笠
第3回	ユニット1		日笠
第4回	ユニット2		日笠
第5回	ユニット2		日笠
第6回	ユニット3		日笠
第7回	ユニット3		日笠
第8回	中間テスト		日笠
第9回	ユニット4		日笠
第10回	ユニット4		日笠
第11回	ユニット5		日笠
第12回	ユニット5		日笠
第13回	ユニット6		日笠
第14回	ユニット6		日笠
第15回	総復習		日笠
第16回	単位認定試験		日笠
教科書			
教・書籍名1	レベルアップトレーニング文法N2	教・出版社名1	アルク
教・著者名1	坂本勝信	教・ISBN1	978-4-7574-2210-0
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	日本語パワードリル N2 文字・語彙	参・出版社名1	アスク出版
参・著者名1	松浦 真理子 (他)	参・ISBN1	978-4-87217-768-8
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語ⅠA 1クラス			担当者	磯 永二		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにすることができる。そのうえで、より上のレベルの文法や文字・語彙を学んでいく。そうすることにより日本語能力試験N2合格をめざす。日本語力の向上が学力向上につながり、日本人学生との交流が進み、本学の様々な教育活動の理解や参加の促進につながり、実りある学生生活を送ることができるようになる。						
授業概要	まずは日本語能力試験N3レベルの日本語力を確実なものにするため、N3レベルの文法や文字・語彙等を振り返る。その過程で、課題を課したり、小テストを実施し日本語力の伸長を図る。一方、N2のレベルの文法や文字・語彙を織り込んでいき、力を徐々にN2レベルに導いていく。また、日本での学生生活を円滑に送ることができるようにするため、授業の中で、日本人のあいだでかわされる挨拶や応答などをとりあげ、日本社会で暮らすための知恵を身につけさせていく。						
アクティブラーニングの内容	PBL						
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。 最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合格結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本 科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。ま た、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修するこ とができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ② 日本語ⅠA/日本語ⅠA(文法)、応用日本語ⅠA/日本語ⅠA(読解)、日本語研究ⅠA/日本語ⅠA(聴解)の3科目ともに同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					

事前学習・事後学習とその時間	日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でJ L P T対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ2時間以上の学習が必要。		
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて		
授業計画		担当者	
第1回	オリエンテーション、プロフィール作成、初級文法演習、初級漢字演習	磯	
第2回	初級文字語彙演習、文法テキスト学習 場面6①	磯	
第3回	文法テキスト学習 場面6②	磯	
第4回	文法テキスト学習 場面7①	磯	
第5回	文法テキスト学習 場面7②	磯	
第6回	N3レベル、N2レベル文字・語彙学習①	磯	
第7回	N3レベル、N2レベル文字・語彙学習②	磯	
第8回	N3レベル、N2レベル文字・語彙学習③	磯	
第9回	第1回～第8回授業 総まとめテスト	磯	
第10回	文法テキスト学習 場面8①	磯	
第11回	文法テキスト学習 場面8②、N3レベル、N2レベル文字・語彙学習④	磯	
第12回	文法テキスト学習 場面9①	磯	
第13回	文法テキスト学習 場面9②、N3レベル、N2レベル文字・語彙学習⑤	磯	
第14回	文法テキスト学習 敬語、副詞、接続詞等①	磯	
第15回	文法テキスト学習 敬語、副詞、接続詞等②	磯	
第16回	単位認定試験	磯	
教科書			
教・書籍名1	日本語能力試験問題集 N3文法 スピードマスター	教・出版社名1	Jリサーチ出版
教・著者名1	清水知子、大場理恵子、鈴木美希	教・ISBN1	978-4-86392-036-1
教・書籍名2	ドリル&ドリル日本語能力試験N2 文字語彙	教・出版社名2	UNICOM
教・著者名2	星野恵子、辻和子	教・ISBN2	978-4-89689-478-3
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語ⅠA 2クラス			担当者	井上 光恵		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう  						
到達目標	充実した大学生活のためには日本語の力が必要である。また本学では在学中に日本語能力試験N2の取得を必須としている。そのようなことから、授業においては、まず初級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能の基礎力を養成し、次の中級レベルの技能確立につなげられるようにする。						
授業概要	日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行われる。これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	①テキストで新しく学習した文型の練習問題を毎回課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ②N3レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフィードバックをする。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ⅠA・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋Aの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習						

の時間	し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。文字の習得は絶対に必要である。「漢字」や「かな」は何度も繰り返し書いて覚えてほしい。		
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間		
		授業計画	担当者
第1回	1. オリエンテーション		井上光恵
第2回	2. 第25課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第3回	3. 第25課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第4回	4. 第28課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第5回	5. 第28課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第6回	6. 第31課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第7回	7. 第31課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第8回	8. 第34課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第9回	9. 第34課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第10回	10. 第37課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第11回	11. 第37課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第12回	12. まとめ7 33課～37課の復習		井上光恵
第13回	13. 第40課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第14回	14. 第40課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第15回	15. まとめ8 38課～42課の復習		井上光恵
第16回	単位認定試験		井上光恵
教科書			
教・書籍名1	日本語初級(2) 大地 メインテキスト	教・出版社名1	スリーエーネットワーク
教・著者名1	山崎佳子・石井怜子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子	教・ISBN1	978-4-89358-507-7
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	ドリル&ドリル 日本語能力試験 N3 文字語彙	参・出版社名1	ユニコム
参・著者名1	星野恵子 辻和子	参・ISBN1	978-4-89689-487-5
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語ⅠA 再履2クラス			担当者	福本 苗		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50％）、小テスト（30％）、学習意欲・態度（20％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行われる。これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。2年以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字語彙、文法、文型を使つての課題をする。その後採点、フィードバックをする。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレイズメントテストを受験すること。プレイズメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違つたクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受験すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 日本語能力試験N1の取得者でプレイズメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。						
オフィスアワー	授業後、教室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション レベル確認テスト					福本苗	
第2回	時を表す表現					福本苗	
第3回	「わけ・こと・もの・ところ」を使った表現					福本苗	

第4回	助詞の働きをする言葉① (場面・時点・手段・原因を示す表現)	福本苗
第5回	助詞の働きをする言葉② (添加・判断・評価を示す表現)	福本苗
第6回	主に文末に使われる言葉	福本苗
第7回	文章の文法	福本苗
第8回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第9回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第10回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第11回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第12回	基本文法の復習	福本苗
第13回	接続の言葉	福本苗
第14回	敬語・丁寧な言い方	福本苗
第15回	総括	福本苗
第16回	単位認定試験	福本苗

教科書

教・書籍名1	新完全マスター単語日本語能力試験N2重要2200語	教・出版社名1	スリーエーネットワーク
教・著者名1	小谷野美穂 (他)	教・ISBN1	978-4-88319-762-0 ☒
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	45日間で基礎からわかる日本語能力試験対策 N2文法 総まとめ	参・出版社名1	三修社
参・著者名1	遠藤ゆう子	参・ISBN1	978-4-384-05574-0
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語ⅠA 再履3クラス			担当者	福本 苗		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50％）、小テスト（30％）、学習意欲・態度（20％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行われる。これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。2年以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字語彙、文法、文型を使つての課題をする。その後採点、フィードバックをする。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレイズメントテストを受験すること。プレイズメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受験すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 日本語能力試験N1の取得者でプレイズメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。						
オフィスアワー	授業後、教室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション・レベル確認テスト					福本苗	
第2回	文末に使われる表現					福本苗	

第3回	傾向や様子を表す表現	福本苗
第4回	例を挙げて示す表現	福本苗
第5回	原因・理由を表す表現	福本苗
第6回	「わけ・こと」を使った表現	福本苗
第7回	「もの」を使った表現	福本苗
第8回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第9回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第10回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第11回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第12回	「ない」を含んだ表現	福本苗
第13回	付加を表す表現	福本苗
第14回	基本文法の復習	福本苗
第15回	総括	福本苗
第16回	単位認定試験	福本苗
教科書		
教・書籍名1	45日間で基礎からわかる日本語能力試験対策 N2文法 総まとめ	教・出版社名1 三修社
教・著者名1	遠藤ゆう子	教・ISBN1 978-4-384-05574-0
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	日本語ⅠA 再履クラス4			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになる。						
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50％）、小テスト（30％）、学習意欲・態度（20％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続すること。また、2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～4クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。各2時間の予習と復習に努めること。						
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					大下(朋)	
第2回	ます形・て形に接続する表現					大下(朋)	
第3回	辞書形・た形に接続する表現					大下(朋)	
第4回	ない形・意向形、名詞・形容詞に接続する表現					大下(朋)	

第5回	いろいろなものと接続する表現	大下(朋)
第6回	評価・比較の表現①	大下(朋)
第7回	評価・比較の表現②／時間に関する表現	大下(朋)
第8回	状態・強調の表現／条件に関する表現①	大下(朋)
第9回	条件に関する表現②	大下(朋)
第10回	判断に関する表現①	大下(朋)
第11回	判断に関する表現②／敬語表現	大下(朋)
第12回	縮約形／接続詞	大下(朋)
第13回	動詞①	大下(朋)
第14回	動詞②	大下(朋)
第15回	名詞・助数詞	大下(朋)
第16回	単位認定試験（筆記試験）	大下(朋)

教科書

教・書籍名1	28日間で基礎から応用まで完全マスター！日本語能力試験対策 N3文法・語彙・漢字 改訂版	教・出版社名1	三修社
教・著者名1	山田光子	教・ISBN1	978-4384059502
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語ⅠB (1クラス)			担当者	磯 永二		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにすることができる。そのうえで、より上のレベルの文法や文字・語彙を学んでいく。そうすることにより日本語能力試験N2合格をめざす。日本語力の向上が学力向上につながり、日本人学生との交流が進み、本学の様々な教育活動の理解や参加の促進につながり、実りある学生生活を送ることができるようになる。						
授業概要	まずは日本語能力試験N3レベルの日本語力を確実なものにするため、N3レベルの文法や文字・語彙等を振り返る。その過程で、課題を課したり、小テストを実施し日本語力の伸長を図る。一方、N2のレベルの文法や文字・語彙を織り込んでいき、力を徐々にN2レベルに導いていく。また、日本での学生生活を円滑に送ることができるようにするため、授業の中で、日本人のあいだでかわされる挨拶や応答などをとりあげ、日本社会で暮らすための知恵を身につけさせていく。						
アクティブラーニングの内容	PBL						
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行われる。これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に編成される。履修登録は教務課で一括登録する。 登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ② 日本語ⅠA/日本語ⅠA(文法)、応用日本語ⅠA/日本語ⅠA(読解)、日本語研究ⅠA/日本語ⅠA(聴解)の3科目ともに同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。						

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	<p>日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。</p> <p>授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でJLPT対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。</p> <p>予習・復習にはそれぞれ2時間以上の学習が必要。</p>		
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション、プロフィール作成、初級文法演習、初級漢字演習		磯
第2回	初級文字語彙演習、文法テキスト学習 場面1①		磯
第3回	文法テキスト学習 場面1②		磯
第4回	文法テキスト学習 場面2①		磯
第5回	文法テキスト学習 場面2②		磯
第6回	N3レベル、N2レベル文字・語彙学習①		磯
第7回	N3レベル、N2レベル文字・語彙学習②		磯
第8回	N3レベル、N2レベル文字・語彙学習③		磯
第9回	第1回～第8回授業 総まとめテスト		磯
第10回	文法テキスト学習 場面3①		磯
第11回	文法テキスト学習 場面3②、N3レベル、N2レベル文字・語彙学習④		磯
第12回	文法テキスト学習 場面4①		磯
第13回	文法テキスト学習 場面4②、N3レベル、N2レベル文字・語彙学習⑤		磯
第14回	文法テキスト学習 場面5①		磯
第15回	文法テキスト学習 場面5②、N3レベル、N2レベル文字・語彙学習⑥		磯
第16回	単位認定試験		磯
教科書			
教・書籍名1	日本語能力試験問題集 N3文法 スピードマスター	教・出版社名1	Jリサーチ出版
教・著者名1	清水知子、大場理恵子、鈴木美希	教・ISBN1	978-4-86392-036-1
教・書籍名2	ドリル&ドリル日本語能力試験N2 文字語彙	教・出版社名2	UNICOM
教・著者名2	星野恵子、辻和子	教・ISBN2	978-4-89689-478-3
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語ⅠB (2クラス)			担当者	井上 光恵		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	充実した大学生活のためには日本語の力が必要である。また本学では在学中に日本語能力試験N2の取得を必須としている。そのようなことから、授業においては、まず初級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能の基礎力を養成し、次の中級レベルの技能確立につなげられるようにする。						
授業概要	日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行われる。これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	①テキストで新しく学習した文型の練習問題を毎回課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ②N3レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフィードバックをする。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ⅠA・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋Aの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習						

の時間	し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。文字の習得は絶対に必要である。「漢字」や「かな」は何度も繰り返し書いて覚えてほしい。		
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間		
		授業計画	担当者
第1回	1. オリエンテーション		井上光恵
第2回	2. 第25課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第3回	3. 第25課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第4回	4. 第28課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第5回	5. 第28課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第6回	6. 第31課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第7回	7. 第31課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第8回	8. 第34課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第9回	9. 第34課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第10回	10. 第37課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第11回	11. 第37課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第12回	12. まとめ7 33課～37課の復習		井上光恵
第13回	13. 第40課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第14回	14. 第40課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第15回	15. まとめ8 38課～42課の復習		井上光恵
第16回	単位認定試験		井上光恵
教科書			
教・書籍名1	日本語初級(2) 大地 メインテキスト	教・出版社名1	スリーエーネットワーク
教・著者名1	山崎佳子・石井怜子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子	教・ISBN1	978-4-89358-507-7
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	ドリル&ドリル 日本語能力試験 N3 文字語彙	参・出版社名1	ユニコム
参・著者名1	星野恵子 辻和子	参・ISBN1	978-4-89689-487-5
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語ⅠB 再履クラス1			担当者	日笠 恵美子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになる。						
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50％）、小テスト（30％）、学習意欲・態度（20％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続すること。また、2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～4クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。						
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					日笠	

第2回	ユニット1	日笠
第3回	ユニット1	日笠
第4回	ユニット2	日笠
第5回	ユニット2	日笠
第6回	ユニット3	日笠
第7回	ユニット3	日笠
第8回	中間テスト	日笠
第9回	ユニット4	日笠
第10回	ユニット4	日笠
第11回	ユニット5	日笠
第12回	ユニット5	日笠
第13回	ユニット6	日笠
第14回	ユニット6	日笠
第15回	総復習	日笠
第16回	単位認定試験	日笠

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名1	レベルアップトレーニング文法N2	教・出版社名1	アルク
教・著者名1	坂本勝信	教・ISBN1	978-4-7574-2210-0
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名1	日本語パワードリル N2 文字・語彙	参・出版社名1	アスク出版
参・著者名1	松浦 真理子 (他)	参・ISBN1	978-4-87217-768-8
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語ⅠB 再履クラス2			担当者	福本 苗		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの 内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50％）、小テスト（30％）、学習意欲・態度（20％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行われる。これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。2年以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	授業の予習・復習として、指示された文字語彙、文法、文型を使つての課題をする。その後採点、フィードバックをする。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレイズメントテストを受験すること。プレイズメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ⅠB・応用日本語ⅠB・日本語研究ⅠBの3科目ともに同クラスで受験すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 日本語能力試験N1の取得者でプレイズメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ の時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。						
オフィスアワー	授業後、教室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション・レベル確認テスト					福本苗	
第2回	いろいろな働きをする助詞					福本苗	
第3回	「よう・う・まい・べき」を使った言葉					福本苗	
第4回	複合語として使われる言葉					福本苗	

第5回	文章の文法	福本苗
第6回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第7回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第8回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第9回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第10回	基本文法の復習	福本苗
第11回	決まった使い方の副詞	福本苗
第12回	仮定・逆説の表現	福本苗
第13回	原因・理由を表す表現	福本苗
第14回	話者の感覚・気持ち・推量を表す表現	福本苗
第15回	総括	福本苗
第16回	単位認定試験	福本苗

教科書

教・書籍名1	新完全マスター単語日本語能力試験N2重要2200語	教・出版社名1	スリーエーネットワーク
教・著者名1	小谷野美穂 (他)	教・ISBN1	978-4-88319-762-0
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	45日間で基礎からわかる日本語能力試験対策N2文法総まとめ	参・出版社名1	三修社
参・著者名1	遠藤ゆう子	参・ISBN1	978-4-384-05574-0
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語ⅠB 再履クラス3			担当者	福本 苗		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの 内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50％）、小テスト（30％）、学習意欲・態度（20％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行われる。これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	授業の予習・復習として、指示された文字語彙、文法、文型を使つての課題をする。その後採点、フィードバックをする。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレイズメントテストを受験すること。プレイズメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違つたクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受験すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 日本語能力試験N1の取得者でプレイズメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ の時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。						
オフィスアワー	授業後、教室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション・レベル確認テスト					福本苗	
第2回	時を表す表現					福本苗	
第3回	くり返しを表す表現					福本苗	
第4回	進行状態を示す表現					福本苗	

第5回	相関関係を示す表現	福本苗
第6回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第7回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第8回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第9回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第10回	比較を表す表現	福本苗
第11回	対象を表す表現	福本苗
第12回	仮定を表す表現	福本苗
第13回	「から」が付く表現	福本苗
第14回	評価・判断を示す表現	福本苗
第15回	「ほど・くらい・こそ・さえ」を使った表現	福本苗
第16回	単位認定試験	福本苗

教科書

教・書籍名1	45日間で基礎からわかる日本語能力試験対策 N2文法 総まとめ	教・出版社名1	三修社
教・著者名1	遠藤ゆう子	教・ISBN1	978-4-384-05574-0
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語ⅠB 再履クラス4			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう  						
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになる。						
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50％）、小テスト（30％）、学習意欲・態度（20％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続すること。また、2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～4クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠB・応用日本語ⅠB・日本語研究ⅠBの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。各2時間の予習と復習に努めること。						
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					大下(朋)	
第2回	ます形・て形に接続する表現					大下(朋)	
第3回	辞書形・た形に接続する表現					大下(朋)	
第4回	ない形・意向形、名詞・形容詞に接続する表現					大下(朋)	

第5回	いろいろなものと接続する表現	大下(朋)
第6回	評価・比較の表現①	大下(朋)
第7回	評価・比較の表現②／時間に関する表現	大下(朋)
第8回	状態・強調の表現／条件に関する表現①	大下(朋)
第9回	条件に関する表現②	大下(朋)
第10回	判断に関する表現①	大下(朋)
第11回	判断に関する表現②／敬語表現	大下(朋)
第12回	縮約形／接続詞	大下(朋)
第13回	動詞①	大下(朋)
第14回	動詞②	大下(朋)
第15回	名詞・助数詞	大下(朋)
第16回	単位認定試験（筆記試験）	大下(朋)
教科書		
教・書籍名1	28日間で基礎から応用まで完全マスター！日本語能力試験対策 N3文法・語彙・漢字 改訂版	教・出版社名1 三修社
教・著者名1	山田光子	教・ISBN1 978-4384059502
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	日本語ⅡA 1・2クラス			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LJ-2-003		
必修・選択	選択必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「文法」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。						
授業概要	この講義は、「文法」を中心に学習を進める。日本語能力試験N1に出題されている問題の解答を導くために必要な文法能力を理解しながら、同時に語彙力やコミュニケーション能力の向上を目指す。実際にN1レベルの文法問題をくり返し解き、出題の傾向や内容を理解する。講義内で小テストなどを導入し、文法力のさらなる向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	単位認定試験（50％）、中間テスト（30％）、学習意欲・態度（20％）に基づく総合評価。成績評価の評価対象となるので、単位認定試験と併せて中間テストも必ず受験しなければならない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	以下の点に注意すること。 ① 学部正規生は、N2に合格しなければ、本科目を含む日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できない。 ② この科目履修前に日本語能力試験N1を高得点で取得した者は、プレイスメントテストの結果も勘案した上で同科目の単位が認定される場合がある。 ③ より効果的に講義内容を習得できるよう予習・復習など自主学习に努めること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					大下 朋子	
第2回	1 課 時間関係					大下 朋子	
第3回	2 課 範囲の始まり・限度					大下 朋子	
第4回	3 課 限定・非限定・付加					大下 朋子	
第5回	4 課 例示					大下 朋子	
第6回	5 課 関連・無関係					大下 朋子	
第7回	6 課 様子					大下 朋子	
第8回	【中間テスト】 1～6 課／中間テストの解説					大下 朋子	
第9回	7 課 付随行動					大下 朋子	
第10回	8 課 逆接					大下 朋子	
第11回	9 課 条件					大下 朋子	
第12回	10課 逆接条件					大下 朋子	
第13回	11課 目的・手段					大下 朋子	
第14回	12課 原因・理由					大下 朋子	

第15回	13課 可能・不可能・禁止	大下 朋子	
第16回	単位認定試験（筆記試験）	大下 朋子	
教科書			
教・書籍名1	新完全マスター文法 日本語能力試験N1	教・出版社名1	スリーエーネットワーク
教・著者名1	友松悦子、福島佐知、中村かおり	教・ISBN1	978-4883195640
教・書籍名2	日本語パワードリル N1 文字・語彙	教・出版社名2	アスク出版
教・著者名2	松浦 真理子、鈴木 健司	教・ISBN2	978-4872177671
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語ⅡB			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017～2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LJ-2-004		
必修・選択	選択必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう  						
到達目標	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「文法」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。						
授業概要	この講義は、「文法」を中心に学習を進める。日本語能力試験N1に出題されている問題の解答を導くために必要な文法能力を理解しながら、同時に語彙力やコミュニケーション能力の向上を目指す。実際にN1レベルの文法問題をくり返し解き、出題の傾向や内容を理解する。講義内で小テストなどを導入し、文法力のさらなる向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	単位認定試験（50％）、中間テスト（30％）、学習意欲・態度（20％）に基づく総合評価。成績評価の評価対象となるので、学期末の筆記試験と併せて中間テストも必ず受験しなければならない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	以下の点に注意すること。 ① 学部正規生は、N2に合格しなければ、本科目を含む日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できない。 ② この科目履修前に日本語能力試験N1を高得点で取得した者は、プレイスメントテストの結果も勘案した上で同科目の単位が認定される場合がある。 ③ より効果的に講義内容を習得できるよう予習・復習など自主学习に努めること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					大下 朋子	
第2回	14課 話題・評価の基準					大下 朋子	
第3回	15課 比較対照					大下 朋子	
第4回	16課 結末・最終の状態					大下 朋子	
第5回	17課 強調					大下 朋子	
第6回	18課 主張・断定					大下 朋子	
第7回	【中間テスト】14～18課／中間テストの解説					大下 朋子	
第8回	19課 評価・感想					大下 朋子	
第9回	20課 心情・強制的思い					大下 朋子	
第10回	A 動詞の意味に着目-1					大下 朋子	
第11回	B 動詞の意味に着目-2					大下 朋子	
第12回	C 古い言葉を使った言い方					大下 朋子	
第13回	D「もの・こと・ところ」を使った言い方					大下 朋子	
第14回	E 二つの言葉を組にする言い方					大下 朋子	

第15回	F 助詞・複合助詞		大下 朋子
第16回	単位認定試験（筆記試験）		大下 朋子
教科書			
教・書籍名1	新完全マスター文法 日本語能力試験N1	教・出版社名1	スリーエーネットワーク
教・著者名1	友松悦子、福島佐知、中村かおり	教・ISBN1	978-4883195640
教・書籍名2	日本語パワードリル N1 文字・語彙	教・出版社名2	アスク出版
教・著者名2	松浦 真理子、鈴木 健司	教・ISBN2	978-4872177671
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	応用日本語ⅠA 再履1クラス			担当者	井上 光恵		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-005		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。学生は、他の日本語科目と併せて、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努め、日本語能力試験N2程度の実力を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	①新しく学習する課の文章について「漢字」「語彙」「文型」については、その意味を事前に調べ問題練習をすることを課題とし、翌週そのチェックとフィードバックを行う。 ②N2レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。						
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ⅠA・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋A]の3科目とも同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑥ 授業では、テキストは使用せず、主教材も副教材もプリントで対応する。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めましょう。						

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		
授業計画			担当者
第1回	1. オリエンテーション		井上光恵
第2回	2. 6課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第3回	3. 6課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第4回	4. 7課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第5回	5. 7課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第6回	6. JLPT対策授業-1 (内容理解-短文)		井上光恵
第7回	7. JLPT対策授業-2 (統合理解)		井上光恵
第8回	8. JLPT対策授業-3 (情報検索1)		井上光恵
第9回	9. JLPT対策授業-4 (情報検索2)		井上光恵
第10回	10. 8課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第11回	11. 8課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第12回	12. 9課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第13回	13. 9課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第14回	14. 10課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第15回	15. 10課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第16回	16. 単位認定試験		井上光恵
教科書			
教・書籍名1	中級から学ぶ日本語	教・出版社名1	株式会社 研究社
教・著者名1	松田浩志 亀田美保	教・ISBN1	978-4-327-38465-4
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	ドリル&ドリル日本語能力試験N2文字語彙	参・出版社名1	ユニコム
参・著者名1	星野恵子・辻和子	参・ISBN1	978-4-89689-478-3
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	応用日本語ⅠA 1クラス			担当者	小西 真弓		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-005		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また、中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本 科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。ま た、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修する ことができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、句型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟 度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間 違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意す ること。 ⑤日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学 生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵 養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、						

参・書籍名2	日本語総まとめN3 語彙	参・出版社名2	アスク出版
参・著者名2	佐々木仁子・松本紀子	参・ISBN2	978-4-87217-731-2

授業科目名	応用日本語ⅠA 2クラス			担当者	久保田 雅子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-005		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。このクラスでは、まず、基礎的な日本語の文法、初級の文章読解を中心に扱う。 目標は日本語能力試験N2相当の実力を身につけることであるが、日本語の基礎レベルの文法知識を習得すること、文章表現を正確に理解することから行う。最終目標は、専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が、円滑に使えることである。						
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるように日本語関連科目Ⅰの3科目（日本語ⅠA、応用日本語ⅠA、日本語研究ⅠA）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。 中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。日本語能力試験N2の言語知識・文法、読解、聴解などの能力を習得するため、基礎的な文法、語彙、また読解の運用力を高めることを目指す。N2合格への橋渡しとなる科目である。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業評価は、試験（50％）、小テスト及び課題提出（30％）、学習意欲・態度（20％）で評価する。 このクラスは基礎の日本語クラスなので基本的な文法事項、語彙、文章読解を中心に扱う。ただし、単位認定については、日本語能力試験N2の合格結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。						
履修条件・注意事項	①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当する	内容	日本語教育				
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、授業の中で自ら課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 2) 指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。						

	予習と復習に2時間以上は必要である。		
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前後に実施		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1. 2 3 課 文法1		久保田
第2回	2. 2 3 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第3回	3. 2 7 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第4回	4. 2 7 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第5回	5. 3 0 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第6回	6. 3 0 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第7回	7. 3 3 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第8回	8. 3 3 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第9回	9. 3 6 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第10回	10. 3 6 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第11回	11. 3 9 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第12回	12. 3 9 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第13回	13. 4 2 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第14回	14. 4 2 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第15回	15. 総まとめ		久保田
第16回			
教科書			
教・書籍名1	日本語初級2・大地 メインテキスト	教・出版社名1	スリーエーネットワーク
教・著者名1	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ISBN1	978-4-88319-507-7
教・書籍名2	ドリル&ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野 恵子・辻和子	教・ISBN2	978-4-89689-487-5
参考書			
参・書籍名1	ことばでおぼえるやさしい漢字ワーク 初級2	参・出版社名1	スリーエーネットワーク
参・著者名1	中村 かおり他著	参・ISBN1	978-488-319-7828
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	応用日本語ⅠA 再履クラス3			担当者	久保田 雅子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-005		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	テーマは第二言語としての日本語の「読解力の向上」である。N3～N2レベルの読解問題の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につけることが目標である。						
授業概要	日本語能力試験N2合格を目指し、このクラスでは主に「読解」中心に学ぶ。教科書で論理的な文章を読み、内容を理解する。プリントでN3～N2レベルの演習問題をやり、文章を通じて筆者の考えを理解したり、パンフレットや説明書等、さまざまな文書を読み、各文書から必要な情報を得る方法を理解する。 中級レベルの読解力が身につくことで事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につけることができる。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業評価は、講義内試験（40％）、小テスト（20％）、学習意欲・態度（40％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行われる。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次の授業で個別あるいは全体的に行う。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用することができる。						
実務経験のある教員	該当する	内容	留学生の日本語教育				
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題をだす。授業中にその発表を行い、みずから、自分自身の課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 2) 指示に従って必ず専用のノートを作成し、復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。予習と復習に2時間以上は必要である。						
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前・後に実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション (授業の進め方、予習、復習のやりかた 例：第1課)					久保田	

第2回	第2課 語彙・本文1、プリント	久保田
第3回	第2課 本文2・文法、プリント	久保田
第4回	第4課 語彙・本文1、プリント	久保田
第5回	第4課 本文2・文法、プリント	久保田
第6回	第6課 語彙・本文1、プリント	久保田
第7回	第6課 本文2・文法、プリント	久保田
第8回	N2 演習問題 1	久保田
第9回	N2 演習問題 2	久保田
第10回	N2 演習問題 3	久保田
第11回	第8課 語彙・本文1	久保田
第12回	第8課 本文2・文法	久保田
第13回	第10課 語彙・本文1	久保田
第14回	第10課 本文2・文法	久保田
第15回	総まとめ	久保田
第16回		
教科書		
教・書籍名1	留学生の日本語 読解編	教・出版社名1 株式会社アルク
教・著者名1	アカデミック・ジャパニーズ研究会	教・ISBN1 978-4-7574-2631-3
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	はじめての日本語能力試験N2 合格模試	参・出版社名1 株式会社アスク出版
参・著者名1	アスク出版編集部	参・ISBN1 978-4-86639-315-5
参・書籍名2	新完全マスター 読解 N3	参・出版社名2 株式会社 スリーエーネットワーク
参・著者名2	田代 ひろみ・他著	参・ISBN2 978-4-888319-671-5

授業科目名	応用日本語ⅠA 再履クラス4			担当者	井上 光恵		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-005		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。学生は、他の日本語科目と併せて、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努め、日本語能力試験N2程度の実力を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	①新しく学習する課の文章について「漢字」「語彙」「文型」については、その意味を事前に調べ問題練習をすることを課題とし、翌週そのチェックとフィードバックを行う。 ②N2レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。						
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ⅠA・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋A]の3科目とも同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑥ 授業では、テキストは使用せず、主教材も副教材もプリントで対応する。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めましょう。						

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		
授業計画			担当者
第1回	1. オリエンテーション		井上光恵
第2回	2. 1課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第3回	3. 1課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第4回	4. 2課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第5回	5. 2課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第6回	6. JLPT対策授業-1 (内容理解-短文)		井上光恵
第7回	7. JLPT対策授業-2 (統合理解)		井上光恵
第8回	8. JLPT対策授業-3 (情報検索1)		井上光恵
第9回	9. JLPT対策授業-4 (情報検索2)		井上光恵
第10回	10. 3課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第11回	11. 3課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第12回	12. 4課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第13回	13. 4課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第14回	14. 5課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第15回	15. 5課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第16回	16. 単位認定試験		井上光恵
教科書			
教・書籍名1	中級から学ぶ日本語	教・出版社名1	株式会社 研究社
教・著者名1	松田浩志 亀田美保	教・ISBN1	978-4-327-38465-4
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	新完全マスター 語彙 日本語能力試験N2	参・出版社名1	スリーエーネットワーク
参・著者名1	伊能裕晃・本田ゆかり・来栖里美・前坊香菜子・阿保きみ枝・宮田公治	参・ISBN1	9784883195749
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	応用日本語ⅠB (1クラス)			担当者	小西 真弓		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また、中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本 科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。ま た、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修する ことができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、句型を使っの文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1~3クラスに編成される。履修登録は教務で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違 ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠB・応用日本語ⅠB・日本語研究ⅠBの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意す ること。 ⑤日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学 生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵 養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、 授業後は授業内容の見直しや課題(N2対策を含む)に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。						

参・著者名2 佐々木仁子・松本紀子

参・I S B N 2 978-4-87217-731-2

授業科目名	応用日本語ⅠB（2クラス）			担当者	久保田 雅子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。このクラスでは、まず、基礎的な日本語の文法、初級の文章読解を中心に扱う。 目標は日本語能力試験N2相当の実力を身につけることであるが、日本語の基礎レベルの文法知識を習得すること、文章表現を正確に理解することから行う。最終目標は、専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が、円滑に使えることである。						
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるように日本語関連科目Ⅰの3科目（日本語ⅠA、応用日本語ⅠA、日本語研究ⅠA）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。 中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。日本語能力試験N2の言語知識・文法、読解、聴解などの能力を習得するため、基礎的な文法、語彙、また読解の運用力を高めることを目指す。N2合格への橋渡しとなる科目である。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業評価は、試験（50％）、小テスト及び課題提出（30％）、学習意欲・態度（20％）で評価する。 このクラスは基礎の日本語クラスなので基本的な文法事項、語彙、文章読解を中心に扱う。ただし、単位認定については、日本語能力試験N2の合格結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。						
履修条件・注意事項	①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当する	内容	日本語教育				
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、授業の中で自ら課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 2) 指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。						

	予習と復習に2時間以上は必要である。		
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前後に実施		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1. 2 3 課 文法1		久保田
第2回	2. 2 3 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第3回	3. 2 7 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第4回	4. 2 7 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第5回	5. 3 0 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第6回	6. 3 0 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第7回	7. 3 3 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第8回	8. 3 3 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第9回	9. 3 6 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第10回	10. 3 6 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第11回	11. 3 9 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第12回	12. 3 9 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第13回	13. 4 2 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第14回	14. 4 2 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第15回	15. 総まとめ		久保田
第16回			
教科書			
教・書籍名1	日本語初級2・大地 メインテキスト	教・出版社名1	スリーエーネットワーク
教・著者名1	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ISBN1	978-4-88319-507-7
教・書籍名2	ドリル&ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野 恵子・辻和子	教・ISBN2	978-4-89689-487-5
参考書			
参・書籍名1	ことばでおぼえるやさしい漢字ワーク 初級2	参・出版社名1	スリーエーネットワーク
参・著者名1	中村 かおり他著	参・ISBN1	978-488-319-7828
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	応用日本語ⅠB 再履クラス1			担当者	井上 光恵		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。学生は、他の日本語科目と併せて、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努め、日本語能力試験N2程度の実力を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	①新しく学習する課の文章について「漢字」「語彙」「文型」については、その意味を事前に調べ問題練習をすることを課題とし、翌週そのチェックとフィードバックを行う。 ②N2レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。						
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ⅠA・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋A]の3科目とも同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑥ 授業では、テキストは使用せず、主教材も副教材もプリントで対応する。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めましょう。						

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		
授業計画			担当者
第1回	1. オリエンテーション		井上光恵
第2回	2. 6課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第3回	3. 6課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第4回	4. 7課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第5回	5. 7課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第6回	6. JLPT対策授業-1 (内容理解-短文)		井上光恵
第7回	7. JLPT対策授業-2 (統合理解)		井上光恵
第8回	8. JLPT対策授業-3 (情報検索1)		井上光恵
第9回	9. JLPT対策授業-4 (情報検索2)		井上光恵
第10回	10. 8課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第11回	11. 8課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第12回	12. 9課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第13回	13. 9課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第14回	14. 10課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第15回	15. 10課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第16回	16. 単位認定試験		井上光恵
教科書			
教・書籍名1	中級から学ぶ日本語	教・出版社名1	株式会社 研究社
教・著者名1	松田浩志 亀田美保	教・ISBN1	978-4-327-38465-4
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	ドリル&ドリル日本語能力試験N2文字語彙	参・出版社名1	ユニコム
参・著者名1	星野恵子・辻和子	参・ISBN1	978-4-89689-478-3
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	応用日本語ⅠB 再履クラス3			担当者	久保田 雅子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	テーマは第二言語としての日本語の「読解力の向上」である。N3～N2レベルの読解問題の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につけることが目標である。						
授業概要	日本語能力試験N2合格を目指し、このクラスでは主に「読解」中心に学ぶ。教科書で論理的な文章を読み、内容を理解する。プリントでN3～N2レベルの演習問題をやり、文章を通じて筆者の考えを理解したり、パンフレットや説明書等、さまざまな文書を読み、各文書から必要な情報を得る方法を理解する。 中級レベルの読解力が身につくことで事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につけることができる。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業評価は、講義内試験（40％）、小テスト（20％）、学習意欲・態度（40％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行われる。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用することができる。						
実務経験のある教員	該当する	内容	留学生の日本語教育				
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題をだす。授業中にその発表を行い、みずから、自分自身の課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 2) 指示に従って必ず専用のノートを作成し、復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。予習と復習に2時間以上は必要である。						
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前・後に実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション (授業の進め方、予習、復習のやりかた 例：第1課)					久保田	

第2回	第1課 語彙・本文1-2、プリント	久保田
第3回	第3課 本文2・文法、プリント	久保田
第4回	第3課 語彙・本文1、プリント	久保田
第5回	第5課 本文2・文法、プリント	久保田
第6回	第5課 語彙・本文1、プリント	久保田
第7回	第7課 本文2・文法、プリント	久保田
第8回	第7課、N2演習問題1	久保田
第9回	N2演習問題 2	久保田
第10回	N2演習問題 3	久保田
第11回	第9課 語彙・本文1	久保田
第12回	第9課 本文2・文法	久保田
第13回	第11課 語彙・本文1	久保田
第14回	第11課 本文2・文法	久保田
第15回	第13課、総まとめ	久保田
第16回		
教科書		
教・書籍名1	留学生の日本語 読解編	教・出版社名1 株式会社アルク
教・著者名1	アカデミック・ジャパニーズ研究会	教・ISBN1 978-4-7574-2631-3
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	はじめての日本語能力試験N2 合格模試	参・出版社名1 株式会社アスク出版
参・著者名1	アスク出版編集部	参・ISBN1 978-4-86639-315-5
参・書籍名2	新完全マスター 読解 N3	参・出版社名2 株式会社 スリーエーネットワーク
参・著者名2	田代 ひろみ・他著	参・ISBN2 978-4-888319-671-5

授業科目名	応用日本語ⅠB 再履クラス4			担当者	井上 光恵		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。学生は、他の日本語科目と併せて、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努め、日本語能力試験N2程度の実力を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	①新しく学習する課の文章について「漢字」「語彙」「文型」については、その意味を事前に調べ問題練習をすることを課題とし、翌週そのチェックとフィードバックを行う。 ②N2レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。						
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ⅠA・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋A]の3科目とも同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑥ 授業では、テキストは使用せず、主教材も副教材もプリントで対応する。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めましょう。						

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		
授業計画			担当者
第1回	1. オリエンテーション		井上光恵
第2回	2. 1課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第3回	3. 1課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第4回	4. 2課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第5回	5. 2課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第6回	6. JLPT対策授業-1 (内容理解-短文)		井上光恵
第7回	7. JLPT対策授業-2 (統合理解)		井上光恵
第8回	8. JLPT対策授業-3 (情報検索1)		井上光恵
第9回	9. JLPT対策授業-4 (情報検索2)		井上光恵
第10回	10. 3課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第11回	11. 3課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第12回	12. 4課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第13回	13. 4課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第14回	14. 5課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第15回	15. 5課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第16回	16. 単位認定試験		井上光恵
教科書			
教・書籍名1	中級から学ぶ日本語	教・出版社名1	株式会社 研究社
教・著者名1	松田浩志 亀田美保	教・ISBN1	978-4-327-38465-4
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	新完全マスター 語彙 日本語能力試験N2	参・出版社名1	スリーエーネットワーク
参・著者名1	伊能裕晃・本田ゆかり・来栖里美・前坊香菜子・阿保きみ枝・宮田公治	参・ISBN1	9784883195749
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

第6回	情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第7回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第8回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第9回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第10回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第11回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第12回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第13回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第14回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第15回	総括、確認テスト	小西真弓
第16回	単位認定筆記試験	小西真弓
教科書		
教・書籍名1	日本語能力試験問題集 スピードマスター N1 読解	教・出版社名1 Jリサーチ出版
教・著者名1	菊池富美子・黒石しづ可・日置陽子・竹田慎吾	教・ISBN1 978-4-86392-075-0
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	新完全マスター単語N2重要2200	参・出版社名1 スリーエーネットワーク
参・著者名1	小谷野美穂・森田亮子 他	参・ISBN1 978-4-88319-762-0
参・書籍名2	速攻トレーニング読解編	参・出版社名2 アスク出版
参・著者名2	加藤早苗・沼田宏	参・ISBN2 978-4-7574-1990-2

第6回	模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第7回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第8回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第9回	内容理解問題：中文一複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第10回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第11回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第12回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第13回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第14回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第15回	総括、確認テスト	小西真弓
第16回	単位認定筆記試験	小西真弓
教科書		
教・書籍名1	日本語能力試験問題集 スピードマスター N1 読解	教・出版社名1 Jリサーチ出版
教・著者名1	菊池富美子・黒石しづ可・日置陽子・竹田慎吾	教・ISBN1 978-4-86392-075-0
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	新完全マスター単語N2重要2200	参・出版社名1 スリーエーネットワーク
参・著者名1	小谷野美穂・森田亮子・青柳方子・大野純子・木村典子他	参・ISBN1 978-4-88319-762-0
参・書籍名2	速攻トレーニング読解編	参・出版社名2 アスク出版
参・著者名2	加藤早苗・沼田宏	参・ISBN2 978-4-7574-1990-2

授業科目名	日本語研究ⅠA 再履クラス1			担当者	磯 永二		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにし、そのうえで、日本語能力試験N2レベルの聴解能力を身につけていく。そのことが本学の授業に対する理解力の向上だけでなく、様々な教育活動への理解や参加の促進、日本人学生との交流や地域理解の推進にもつながる。そのようにして、日本に対する理解を深め、日本における実りある学生生活を送ることができるようになる。						
授業概要	本授業は聴解を中心としており、日本語能力試験N2レベルの聴解能力獲得を目指している。日本語を聞いて理解するには、そのリズムやスピードに慣れることはもちろんだが、理解に必要な語彙力や文法的な知識も必要である。そこで日本語を単に聞くだけでなく、そこで使われている文字・語彙、文法について学ぶ。そのために必要に応じて課題を課したり小テストを実施する。さらには、日本語理解につながる日本の気候や風土、日常生活で使われる言葉、挨拶、応答などを折に触れて取り上げていく。						
アクティブラーニングの内容	PBL						
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合格結果を加味した上で行われる。これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、N2の合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ② 日本語ⅠA/日本語ⅠA(文法)、応用日本語ⅠA/日本語ⅠA(読解)、日本語研究ⅠA/日本語ⅠA(聴解)の3科目ともに同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でJLP T対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必						

	要。 予習・復習にはそれぞれ2時間以上の学習が必要。		
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション、プロフィール作成、文法、文字・語彙確認演習		磯
第2回	聴解テキスト学習 課題理解①		磯
第3回	聴解テキスト学習 課題理解② 文字・語彙演習①		磯
第4回	聴解テキスト学習 ポイント理解①		磯
第5回	聴解テキスト学習 ポイント理解② 文字・語彙演習②		磯
第6回	聴解テキスト学習 概要理解①		磯
第7回	聴解テキスト学習 概要理解② 文字・語彙演習③		磯
第8回	第2回～第7回授業内容総括演習		磯
第9回	第2回～第7回授業内容総括演習の解説、復習演習		磯
第10回	聴解テキスト学習 即時応答① 文字・語彙演習④		磯
第11回	聴解テキスト学習 即時応答②		磯
第12回	聴解テキスト学習 即時応答③ 文字・語彙演習⑤		磯
第13回	聴解テキスト学習 概要理解①		磯
第14回	聴解テキスト学習 概要理解② 文字・語彙演習⑥		磯
第15回	聴解テキスト学習 第1回、第2回模擬試験問題		磯
第16回	単位認定試験		磯
教科書			
教・書籍名1	日本語能力試験問題集 N2聴解 スピードマスター	教・出版社名1	Jリサーチ出版
教・著者名1	棚橋明美、杉山ますよ、野原ゆかり	教・ISBN1	978-4-86392-057-6
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語研究ⅠA 2クラス			担当者	久保田 雅子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することを目指す。 まずは基本的な文法・語彙・聴解の運用力を中心に身につける。最終の目標は日本語能力試験N2相当の実力を身につけることである。						
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ⅰの3科目（日本語ⅠB、応用日本語ⅠB、日本語研究ⅠB）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。基本的な文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。授業では、基礎的な文法・語彙の運用力、聴解の力を伸ばすことを中心に行う。N2合格への橋渡しとなる科目である。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業評価は、試験（50％）、小テスト及び課題提出（30％）、学習意欲・態度（20％）で評価する。この授業では、基礎的文法・語彙・聴解を中心に扱う。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。 ②日本語Ⅰ・応用日本語Ⅰ・日本語研究Ⅰの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。（社会情勢に応じてJLPTの試験に代わる措置の学内テストを行う場合もある。） ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 また、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用することもできる。						
実務経験のある教員	該当する	内容	日本語教育				
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについての発表を行いながら授業を進める。参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。 予習と復習に2時間以上は必要である。						
オフィスアワー	授業前、終了後、休憩時間						
授業計画						担当者	

第1回	1.オリエンテーション（授業の進め方について） 第24課 文法1	久保田
第2回	2.第24課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第3回	3.第27課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第4回	4.第27課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第5回	5.第30課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第6回	6.第30課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第7回	7.第33課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第8回	8.第33課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第9回	9.第36課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第10回	10.第36課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第11回	10.第39課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第12回	12.第39課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第13回	13.第41課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第14回	14.第41課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第15回	総まとめ	久保田
第16回		

教科書

教・書籍名1	日本語初級2・大地 メインテキスト	教・出版社名1	スリーエーネットワーク
教・著者名1	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ISBN1	978-4883195077
教・書籍名2	ドリル&ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野 恵子・辻和子	教・ISBN2	978-4-89689-487-5

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語研究ⅠA 1クラス			担当者	井上 光恵		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。						
授業概要	この講義は「聴解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。練習の過程では、基礎固めとしてN3レベルの問題も練習する。また関連する言語知識や文法などもとりあげ、総合的な日本語能力向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合格結果を加味した上で行われる。大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。N2に合格してはじめて日本語関連科目Ⅱを履修することができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②N2レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科履修中に、N2試験に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語Ⅰ春・応用日本語Ⅰ春・日本語研究Ⅰ春の3科目ともに同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。						

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		
授業計画			担当者
第1回	1. オリエンテーション		井上光恵
第2回	2. 第1章（準備）-1 発音・文法		井上光恵
第3回	3. 第1章（準備）-2 会話表現		井上光恵
第4回	4. 第2章（問題のパターンに慣れる）-1 発話表現 2 即時応答		井上光恵
第5回	5. 第2章（問題のパターンに慣れる）-3 課題理解 4 ポイント理解		井上光恵
第6回	6. 第2章（問題のパターンに慣れる）-5 概要理解		井上光恵
第7回	7. 第3章（いろいろな場所で聞く）-1 町で		井上光恵
第8回	8. 第3章（いろいろな場所で聞く）-2 天気予報・交通情報		井上光恵
第9回	9. 第3章（いろいろな場所で聞く）-3 学校で		井上光恵
第10回	10. 第3章（いろいろな場所で聞く）-4 職場で		井上光恵
第11回	11. 第3章（いろいろな場所で聞く）-5 病院・いろいろな店で		井上光恵
第12回	12. 第4章（いろいろな内容を聞く）-1 人や物のようす		井上光恵
第13回	13. 第4章（いろいろな内容を聞く）-2 場所・方向・位置		井上光恵
第14回	14. 第4章（いろいろな内容を聞く）-3 数・方向・計算		井上光恵
第15回	15. 第4章（いろいろな内容を聞く）-4 順序・比較		井上光恵
第16回	16. 単位認定試験		井上光恵
教科書			
教・書籍名1	日本語総まとめN3聴解	教・出版社名1	アスク
教・著者名1	佐々木仁子・松本紀子	教・ISBN1	978-4-87217-792-3
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	新完全マスター 語彙 N2	参・出版社名1	スリーエーネットワーク
参・著者名1	伊能裕晃 本田ゆかり 来栖里美	参・ISBN1	978-4-88319-574-9
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語研究ⅠA 再履クラス2			担当者	井上 光恵		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。						
授業概要	この講義は「聴解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。練習の過程では、基礎固めとしてN3レベルの問題も練習する。また関連する言語知識や文法などもとりあげ、総合的な日本語能力向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合格結果を加味した上で行われる。大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。N2に合格してはじめて日本語関連科目Ⅱを履修することができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②N2レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科履修中に、N2試験に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語Ⅰ春・応用日本語Ⅰ春・日本語研究Ⅰ春の3科目ともに同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。						

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		
授業計画			担当者
第1回	1. オリエンテーション		井上光恵
第2回	2. 第1章（準備）-1 発音・文法		井上光恵
第3回	3. 第1章（準備）-2 会話表現		井上光恵
第4回	4. 第2章（問題のパターンに慣れる）-1 発話表現 2 即時応答		井上光恵
第5回	5. 第2章（問題のパターンに慣れる）-3 課題理解 4 ポイント理解		井上光恵
第6回	6. 第2章（問題のパターンに慣れる）-5 概要理解		井上光恵
第7回	7. 第3章（いろいろな場所で聞く）-1 町で		井上光恵
第8回	8. 第3章（いろいろな場所で聞く）-2 天気予報・交通情報		井上光恵
第9回	9. 第3章（いろいろな場所で聞く）-3 学校で		井上光恵
第10回	10. 第3章（いろいろな場所で聞く）-4 職場で		井上光恵
第11回	11. 第3章（いろいろな場所で聞く）-5 病院・いろいろな店で		井上光恵
第12回	12. 第4章（いろいろな内容を聞く）-1 人や物のようす		井上光恵
第13回	13. 第4章（いろいろな内容を聞く）-2 場所・方向・位置		井上光恵
第14回	14. 第4章（いろいろな内容を聞く）-3 数・方向・計算		井上光恵
第15回	15. 第4章（いろいろな内容を聞く）-4 順序・比較		井上光恵
第16回	16. 単位認定試験		井上光恵
教科書			
教・書籍名1	日本語総まとめN3聴解	教・出版社名1	アスク
教・著者名1	佐々木仁子・松本紀子	教・ISBN1	978-4-87217-792-3
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	新完全マスター 語彙 N2	参・出版社名1	スリーエーネットワーク
参・著者名1	伊能裕晃 本田ゆかり 来栖里美	参・ISBN1	978-4-88319-574-9
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語研究ⅠA 再履クラス3			担当者	雲津 英子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	この講義は「聴解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。聴解と併せて、言語知識（文字・語彙・文法など）も取り上げ、総合的な日本語能力向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50％）、小テスト（30％）、学習意欲・態度（20％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	小テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。						
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					雲津 英子	
第2回	基礎編1～4					雲津 英子	
第3回	基礎編5～7					雲津 英子	
第4回	課題理解1～4					雲津 英子	

第5回	N2 対策問題（聴解）	雲津 英子
第6回	N2 対策問題（聴解）の解説	雲津 英子
第7回	課題理解5～9	雲津 英子
第8回	課題理解10～13	雲津 英子
第9回	ポイント理解14～16	雲津 英子
第10回	ポイント理解17～20	雲津 英子
第11回	概要理解21～24	雲津 英子
第12回	概要理解25～28	雲津 英子
第13回	即時応答29～46	雲津 英子
第14回	統合理解47～49	雲津 英子
第15回	統合理解50～52	雲津 英子
第16回	単位認定試験（聴解・筆記試験）	雲津 英子
教科書		
教・書籍名1	日本語能力試験N2 聴解 必修パターン	教・出版社名1 Jリサーチ出版
教・著者名1	氏原 庸子 清島 千春 佐伯 玲子	教・ISBN1 978-4-86392-360-7
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	日本語能力試験対策 日本語ワードリル N2文字・語彙	参・出版社名1 アスク出版
参・著者名1	松浦 真理子 鈴木 健司	参・ISBN1 978-4-87217-768-8
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	日本語研究ⅠA 再履クラス4			担当者	久保田 雅子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語能力試験N2合格を目指し、このクラスは主に「聴解」を学ぶ。N3～N2レベルの聴解問題の出題の傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。						
授業概要	日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの聴解問題の出題傾向を知り、練習問題を解きながら実践力を身につける。「聴解の教材」は生活の場面で、ひとりでも対応できる能力を身につけられるような内容を取り入れる。 第二、第三の言語としての日本語をより早く習得するために考察を自ら積極的に行い、他の学生と共有できるコミュニケーション能力を身につけられるよう参加型授業を行う。 また中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになることが目標である。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業評価は、講義内試験（40％）、小テスト（20％）、学習意欲・態度（40％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合格結果を加味した上で行われる。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑤聴解の教材では、参考図書及びプリントを利用する。プリントを配布するので、初回から専用のファイル、ノートは持参すること。副教材については、3人の先生と共有して進める。これについても毎回持ってくること。 ⑥理由なく欠席が続く場合や、指示した課題を提出しない場合は受講を認めない場合があるので注意してほしい。なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用することができる。						
実務経験のある教員	該当する	内容	留学生への日本語教育				
事前学習・事後学習とその時間	1) 語彙については毎回指定した範囲の小テストを行うので、その課の語彙を自主学習してくる。また定着できるような方法を考え、やってくる。授業でも取り上げるので、それぞれのアイデアを発表できるように準備して授業にのぞむこと。						

	2) 聴解の学習方法については、授業でやり方を説明する。おもに発表する形で確認を行うが、短時間でも必ず練習していただくこと。 予習と復習におよそ2時間以上が望ましいが、時間が見つけて短時間でもやるのが当面の目標である。授業前の時間など、活用できる時間を考えてみる。		
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前・後に実施する。		
授業計画		担当者	
第1回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1. プリントの説明		久保田
第2回	1-1：イントネーションの違いを知る		久保田
第3回	1-2：はっきり言わない言い方		久保田
第4回	1-3：感謝・迷惑などの表現を知る		久保田
第5回	1-4：量や時間の印象を知る		久保田
第6回	1-5：予想・伝聞の表現を知る		久保田
第7回	1-6：意見を聞き取るときのキーワードを知る		久保田
第8回	2-1：話全体から話し手の意見・意図を聴き取るコツ1		久保田
第9回	2-1：話全体から話し手の意見・意図を聴き取るコツ2		久保田
第10回	2-2：次に何をすべきかを聴き取るコツ1		久保田
第11回	2-2：次に何をすべきかを聴き取るコツ2		久保田
第12回	2-3：知りたいことを集中して聴くコツ1		久保田
第13回	2-3：知りたいことを集中して聴くコツ2		久保田
第14回	2-4：さまざまな情報を集めて理解するコツ1		久保田
第15回	2-4：さまざまな情報を集めて理解するコツ2・総まとめ		久保田
第16回			
教科書			
教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2	新完全マスター語彙N2	教・出版社名2	スリーエーネットワーク
教・著者名2	伊能 裕晃	教・ISBN2	978-4883195749
参考書			
参・書籍名1	日本語能力試験対策 日本総まとめN2 聴解	参・出版社名1	978-4-87217-792-3
参・著者名1	佐々木仁子・松本紀子	参・ISBN1	アスク出版
参・書籍名2	短期マスター聴解ドリル2	参・出版社名2	凡人社
参・著者名2	浅野陽子・他著	参・ISBN2	978-4-89358-857-9

授業科目名	日本語研究ⅠB (1クラス)			担当者	井上 光恵		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。						
授業概要	日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行われる。大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。N2に合格してはじめて日本語関連科目Ⅱを履修することができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②N2レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科履修中に、N2試験に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語Ⅰ春・応用日本語Ⅰ春・日本語研究Ⅰ春の3科目ともに同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。						

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		
授業計画		担当者	
第1回	1. オリエンテーション		井上光恵
第2回	2. 第1章（準備）-1 発音・文法		井上光恵
第3回	3. 第1章（準備）-2 会話表現		井上光恵
第4回	4. 第2章（問題のパターンに慣れる）-1 発話表現 2 即時応答		井上光恵
第5回	5. 第2章（問題のパターンに慣れる）-3 課題理解 4 ポイント理解		井上光恵
第6回	6. 第2章（問題のパターンに慣れる）-5 概要理解		井上光恵
第7回	7. 第3章（いろいろな場所で聞く）-1 町で		井上光恵
第8回	8. 第3章（いろいろな場所で聞く）-2 天気予報・交通情報		井上光恵
第9回	9. 第3章（いろいろな場所で聞く）-3 学校で		井上光恵
第10回	10. 第3章（いろいろな場所で聞く）-4 職場で		井上光恵
第11回	11. 第3章（いろいろな場所で聞く）-5 病院・いろいろな店で		井上光恵
第12回	12. 第4章（いろいろな内容を聞く）-1 人や物のようす		井上光恵
第13回	13. 第4章（いろいろな内容を聞く）-2 場所・方向・位置		井上光恵
第14回	14. 第4章（いろいろな内容を聞く）-3 数・方向・計算		井上光恵
第15回	15. 第4章（いろいろな内容を聞く）-4 順序・比較		井上光恵
第16回	16. 単位認定試験		井上光恵
教科書			
教・書籍名1	日本語総まとめN3聴解	教・出版社名1	アスク
教・著者名1	佐々木仁子・松本紀子	教・ISBN1	978-4-87217-792-3
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	新完全マスター 語彙 N2	参・出版社名1	スリーエーネットワーク
参・著者名1	伊能裕晃 本田ゆかり 来栖里美	参・ISBN1	978-4-88319-574-9
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語研究ⅠB (2クラス)			担当者	久保田 雅子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することを目指す。 まずは基本的な文法・語彙・聴解の運用力を中心に身につける。最終の目標は日本語能力試験N2相当の実力を身につけることである。						
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ⅰの3科目（日本語ⅠB、応用日本語ⅠB、日本語研究ⅠB）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。基本的な文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。授業では、基礎的な文法・語彙の運用力、聴解の力を伸ばすことを中心に行う。N2合格への橋渡しとなる科目である。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業評価は、試験（50％）、小テスト及び課題提出（30％）、学習意欲・態度（20％）で評価する。この授業では、基礎的な文法・語彙・聴解を中心に扱う。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。 ②日本語Ⅰ・応用日本語Ⅰ・日本語研究Ⅰの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。（社会情勢に応じてJLPTの試験に代わる措置の学内テストを行う場合もある。） ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 また、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用することもできる。						
実務経験のある教員	該当する	内容	日本語教育				
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについての発表を行いながら授業を進める。参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。 予習と復習に2時間以上は必要である。						
オフィスアワー	授業前、終了後、休憩時間						
授業計画						担当者	

第1回	1.オリエンテーション（授業の進め方について） 第24課 文法1	久保田
第2回	2.第24課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第3回	3.第27課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第4回	4.第27課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第5回	5.第30課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第6回	6.第30課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第7回	7.第33課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第8回	8.第33課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第9回	9.第36課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第10回	10.第36課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第11回	10.第39課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第12回	12.第39課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第13回	13.第41課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第14回	14.第41課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第15回	総まとめ	久保田
第16回		

教科書

教・書籍名1	日本語初級2・大地 メインテキスト	教・出版社名1	スリーエーネットワーク
教・著者名1	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ISBN1	978-4883195077
教・書籍名2	ドリル&ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野 恵子・辻和子	教・ISBN2	978-4-89689-487-5

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語研究ⅠB 再履クラス1			担当者	磯 永二		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにし、そのうえで、日本語能力試験N2レベルの聴解能力を身につけていく。そのことが本学の授業に対する理解力の向上だけでなく、様々な教育活動への理解や参加の促進、日本人学生との交流や地域理解の推進にもつながる。そのようにして、日本に対する理解を深め、日本における実りある学生生活を送ることができるようになる。						
授業概要	本授業は聴解を中心としており、日本語能力試験N2レベルの聴解能力獲得を目指している。日本語を聞いて理解するには、そのリズムやスピードに慣れることはもちろんだが、理解に必要な語彙力や文法的な知識も必要である。そこで日本語を単に聞くだけでなく、そこで使われている文字・語彙、文法について学ぶ。そのために必要に応じて課題を課したり小テストを実施する。さらには、日本語理解につながる日本の気候や風土、日常生活で使われる言葉、挨拶、応答などを折に触れて取り上げていく。						
アクティブラーニングの内容	PBL						
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合格結果を加味した上で行われる。これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、N2の合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ② 日本語ⅠB/日本語ⅠB(文法)、応用日本語ⅠB/日本語ⅠB(読解)、日本語研究ⅠB/日本語ⅠB(聴解)の3科目ともに同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。						

	授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でJ L P T対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ2時間以上の学習が必要。		
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション、プロフィール作成、文法、文字・語彙確認演習		磯
第2回	文法確認演習、聴解テキスト学習 第1章1		磯
第3回	聴解テキスト学習 第1章2, 3		磯
第4回	聴解テキスト学習 第1章4, 5		磯
第5回	聴解テキスト学習 第2章1, 2		磯
第6回	聴解テキスト学習 第2章3, 4		磯
第7回	聴解テキスト学習 第2章5, 6, 7		磯
第8回	第2回～第7回授業内容総括演習		磯
第9回	第2回～第7回授業内容総括演習の解説、復習演習		磯
第10回	聴解テキスト学習 第3章1, 2		磯
第11回	聴解テキスト学習 第3章3, 4		磯
第12回	聴解テキスト学習 第3章5 第4章1		磯
第13回	聴解テキスト学習 第4章2, 3		磯
第14回	聴解テキスト学習 第4章4, 5		磯
第15回	聴解テキスト学習 第5章		磯
第16回	単位認定試験		磯
教科書			
教・書籍名1	日本語能力試験 日本語総まとめN2 聴解	教・出版社名1	アスク出版
教・著者名1	佐々木仁子、松本紀子	教・ISBN1	978-4-87217-792-3
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語研究ⅠB 再履クラス2			担当者	井上 光恵		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。						
授業概要	この講義は「聴解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。練習の過程では、基礎固めとしてN3レベルの問題も練習する。また関連する言語知識や文法などもとりあげ、総合的な日本語能力向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合格結果を加味した上で行われる。大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。N2に合格してはじめて日本語関連科目Ⅱを履修することができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②N2レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科履修中に、N2試験に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語Ⅰ春・応用日本語Ⅰ春・日本語研究Ⅰ春の3科目ともに同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。						

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		
授業計画			担当者
第1回	1. オリエンテーション		井上光恵
第2回	2. 第1章(準備) -1 発音・文法		井上光恵
第3回	3. 第1章(準備) -2 会話表現		井上光恵
第4回	4. 第2章(問題のパターンに慣れる) -1 発話表現 2 即時応答		井上光恵
第5回	5. 第2章(問題のパターンに慣れる) -3 課題理解 4 ポイント理解		井上光恵
第6回	6. 第2章(問題のパターンに慣れる) -5 概要理解		井上光恵
第7回	7. 第3章(いろいろな場所で聞く) -1 町で		井上光恵
第8回	8. 第3章(いろいろな場所で聞く) -2 天気予報・交通情報		井上光恵
第9回	9. 第3章(いろいろな場所で聞く) -3 学校で		井上光恵
第10回	10. 第3章(いろいろな場所で聞く) -4 職場で		井上光恵
第11回	11. 第3章(いろいろな場所で聞く) -5 病院・いろいろな店で		井上光恵
第12回	12. 第4章(いろいろな内容を聞く) -1 人や物のようす		井上光恵
第13回	13. 第4章(いろいろな内容を聞く) -2 場所・方向・位置		井上光恵
第14回	14. 第4章(いろいろな内容を聞く) -3 数・方向・計算		井上光恵
第15回	15. 第4章(いろいろな内容を聞く) -4 順序・比較		井上光恵
第16回	16. 単位認定試験		井上光恵
教科書			
教・書籍名1	日本語総まとめN3聴解	教・出版社名1	アスク
教・著者名1	佐々木仁子・松本紀子	教・ISBN1	978-4-87217-792-3
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	新完全マスター 語彙 N2	参・出版社名1	スリーエーネットワーク
参・著者名1	伊能裕晃 本田ゆかり 来栖里美	参・ISBN1	978-4-88319-574-9
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語研究ⅠB 再履クラス3			担当者	雲津 英子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	この講義は「聴解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。聴解と併せて、言語知識（文字・語彙・文法など）も取り上げ、総合的な日本語能力向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50％）、小テスト（30％）、学習意欲・態度（20％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	小テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠB・応用日本語ⅠB・日本語研究ⅠBの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。						
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週水曜日5限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					雲津 英子	
第2回	基礎編1～4					雲津 英子	
第3回	基礎編5～7					雲津 英子	
第4回	課題理解1～4					雲津 英子	

第5回	N2 対策問題（聴解）	雲津 英子
第6回	N2 対策問題（聴解）の解説	雲津 英子
第7回	課題理解5～9	雲津 英子
第8回	課題理解10～13	雲津 英子
第9回	ポイント理解14～16	雲津 英子
第10回	ポイント理解17～20	雲津 英子
第11回	概要理解21～24	雲津 英子
第12回	概要理解25～28	雲津 英子
第13回	即時応答29～46	雲津 英子
第14回	統合理解47～49	雲津 英子
第15回	統合理解50～52	雲津 英子
第16回	単位認定試験（聴解・筆記試験）	雲津 英子
教科書		
教・書籍名1	日本語能力試験N2 聴解 必修パターン	教・出版社名1 Jリサーチ出版
教・著者名1	氏原 庸子 清島 千春 佐伯 玲子	教・ISBN1 978-4-86392-360-7
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	日本語能力試験対策 日本語ワードリル N2文字・語彙	参・出版社名1 アスク出版
参・著者名1	松浦 真理子 鈴木 健司	参・ISBN1 978-4-87217-768-8
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	日本語研究ⅠB 再履クラス4			担当者	久保田 雅子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	日本語能力試験N2合格を目指し、このクラスは主に「聴解」を学ぶ。N3～N2レベルの聴解問題の出題の傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。						
授業概要	日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの聴解問題の出題傾向を知り、練習問題を解きながら実践力を身につける。「聴解の教材」は生活の場面で、ひとりでも対応できる能力を身につけられるような内容を取り入れる。 第二、第三の言語としての日本語をより早く習得するために考察を自ら積極的に行い、他の学生と共有できるコミュニケーション能力を身につけられるよう参加型授業を行う。 また中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになることが目標である。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業評価は、講義内試験（40％）、小テスト（20％）、学習意欲・態度（40％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合格結果を加味した上で行われる。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑤聴解の教材では、参考図書及びプリントを利用する。プリントを配布するので、初回から専用のファイル、ノートは持参すること。副教材については、3人の先生と共有して進める。これについても毎回持ってくること。 ⑥理由なく欠席が続く場合や、指示した課題を提出しない場合は受講を認めない場合があるので注意してほしい。なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用することができる。						
実務経験のある教員	該当する	内容	留学生への日本語教育				
事前学習・事後学習とその時間	1) 語彙については毎回指定した範囲の小テストを行うので、その課の語彙を自主学習してくること。また定着できるような方法を考え、やってくること。授業でも取り上げるので、それぞれのアイデアを発表できるように準備して授業にのぞむこと。						

	2) 聴解の学習方法については、授業でやり方を説明する。おもに発表する形で確認を行うが、短時間でも必ず練習していただくこと。 予習と復習におよそ2時間以上が望ましいが、時間が見つけて短時間でもやるのが当面の目標である。授業前の時間など、活用できる時間を考えてみる。		
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前・後に実施する。		
授業計画		担当者	
第1回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1. プリントの説明		久保田
第2回	1-1：イントネーションの違いを知る		久保田
第3回	1-2：はっきり言わない言い方		久保田
第4回	1-3：感謝・迷惑などの表現を知る		久保田
第5回	1-4：量や時間の印象を知る		久保田
第6回	1-5：予想・伝聞の表現を知る		久保田
第7回	1-6：意見を聞き取るときのキーワードを知る		久保田
第8回	2-1：話全体から話し手の意見・意図を聴き取るコツ1		久保田
第9回	2-1：話全体から話し手の意見・意図を聴き取るコツ2		久保田
第10回	2-2：次に何をすべきかを聴き取るコツ1		久保田
第11回	2-2：次に何をすべきかを聴き取るコツ2		久保田
第12回	2-3：知りたいことを集中して聴くコツ1		久保田
第13回	2-3：知りたいことを集中して聴くコツ2		久保田
第14回	2-4：さまざまな情報を集めて理解するコツ1		久保田
第15回	2-4：さまざまな情報を集めて理解するコツ2・総まとめ		久保田
第16回			
教科書			
教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2	新完全マスター語彙N2	教・出版社名2	スリーエーネットワーク
教・著者名2	伊能 裕晃	教・ISBN2	978-4883195749
参考書			
参・書籍名1	日本語能力試験対策 日本総まとめN2 聴解	参・出版社名1	978-4-87217-792-3
参・著者名1	佐々木仁子・松本紀子	参・ISBN1	アスク出版
参・書籍名2	短期マスター聴解ドリル2	参・出版社名2	凡人社
参・著者名2	浅野陽子・他著	参・ISBN2	978-4-89358-857-9

授業科目名	日本語研究IIA 1・2クラス			担当者	磯 永二		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017～2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LJ-2-011		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、日本語能力試験N1レベルの聴解能力を身につけていく。それにとどまらず、「読む」「書く」「話す」能力の向上もめざす。総合的な日本語力の向上は、本学の授業に対する理解力の向上だけでなく、様々な教育活動への理解や参加の促進、日本人学生との交流や地域理解の推進にもつながる。そのようにして、日本に対する理解が深化し、日本における実りある学生生活を送ることができるようになる。						
授業概要	本授業は聴解を中心としており、日本語能力試験N1レベルの聴解能力獲得を目指している。そのためには日本語を反復して聞いて、そのリズムやスピードに慣れることはもちろんだが、理解に必要な語彙力や文法的な知識も必要である。そこで日本語を単に聞くだけでなく、そこで使われている文字・語彙、文法について学ぶ。そのために必要に応じて課題を課したり小テストを実施する。さらには、日本語理解につながる日本の気候や風土、日常生活で使われる言葉、挨拶、応答などを折に触れて取り上げていき、充実した学生生活を送れるようにする。						
アクティブラーニングの内容	PBL						
評価方法と割合	単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。						
履修条件・注意事項	日本語能力試験N2合格が条件である。 N2を取得していない学生は履修することはできない。 N2レベルに満足するのではなく、さらにN1レベルを目指して意欲的に受講してもらいたい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	高いレベルの日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でJLPT対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ2時間以上の学習が必要。						
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて						
授業計画							担当者
第1回	オリエンテーション、N3、N2レベル文法、文字・語彙確認演習						磯
第2回	聴解テキスト学習 課題理解① 練習問題1～5						磯
第3回	聴解テキスト学習 課題理解② 練習問題6～12 N2、N1レベル文字・語彙演習①						磯
第4回	聴解テキスト学習 ポイント理解① 練習問題1～6						磯
第5回	聴解テキスト学習 ポイント理解② 練習問題7～14 N2、N1レベル文字・語彙演習②						磯
第6回	聴解テキスト学習 概要理解① 練習問題1～6						磯
第7回	聴解テキスト学習 概要理解② 練習問題7～12 N2、N1レベル文字・語彙演習③						磯
第8回	第2回～第7回授業内容総括演習						磯

第9回	第2回～第7回授業内容総括演習解説、補充演習	礎
第10回	聴解テキスト学習 即時応答① 敬語表現、文末否定、慣用表現	礎
第11回	聴解テキスト学習 即時応答② 練習問題1～8 N2、N1レベル文字・語彙演習④	礎
第12回	聴解テキスト学習 即時応答③ 練習問題9～20 N2、N1レベル文字・語彙演習⑤	礎
第13回	聴解テキスト学習 即時応答④ 練習問題21～30 N2、N1レベル文字・語彙演習⑥	礎
第14回	聴解テキスト学習 統合理解① 統合理解とは N2、N1レベル文字・語彙演習⑦	礎
第15回	聴解テキスト学習 統合理解② 練習問題1～6	礎
第16回	単位認定試験	礎

教科書

教・書籍名1	絶対合格！日本語能力試験 徹底トレーニングN1 聴解	教・出版社名1	アスク出版
教・著者名1	松岡龍美	教・ISBN1	978-4-87217-776-3
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語研究ⅡB			担当者	磯 永二		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017～2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LJ-2-012		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、日本語能力試験N1レベルの聴解能力を身につけていく。それにとどまらず、「読む」「書く」「話す」能力の向上もめざす。総合的な日本語力の向上は、本学の授業に対する理解力の向上だけでなく、様々な教育活動への理解や参加の促進、日本人学生との交流や地域理解の推進にもつながる。そのようにして、日本に対する理解が深化し、日本における実りある学生生活を送ることができるようになる。						
授業概要	本授業は聴解を中心としており、日本語能力試験N1レベルの聴解能力獲得を目指している。そのためには日本語を反復して聞いて、そのリズムやスピードに慣れることはもちろんだが、理解に必要な語彙力や文法的な知識も必要である。そこで日本語を単に聞くだけでなく、そこで使われている文字・語彙、文法について学ぶ。そのために必要に応じて課題を課したり小テストを実施する。さらには、日本語理解につながる日本の気候や風土、日常生活で使われる言葉、挨拶、応答などを折に触れて取り上げていき、充実した学生生活を送れるようにする。						
アクティブラーニングの内容	PBL						
評価方法と割合	単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。						
履修条件・注意事項	日本語能力試験N2合格が条件である。 N2を取得していない学生は履修することはできない。 N2レベルに満足するのではなく、さらにN1レベルを目指して意欲的に受講してもらいたい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	高いレベルの日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でJLPT対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習には2時間以上の学習が必要。						
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて						
授業計画							担当者
第1回	オリエンテーション、N3、N2レベル文法確認演習						磯
第2回	N3、N2レベル文字・語彙確認演習 聴解テキスト学習① 第1章1						磯
第3回	聴解テキスト学習② 第1章2, 3						磯
第4回	聴解テキスト学習③ 第1章4, 5 N2、N1レベル文字・語彙演習①						磯
第5回	聴解テキスト学習④ 第2章1, 2 N2、N1レベル文字・語彙演習②						磯
第6回	聴解テキスト学習⑤ 第2章3, 4 N2、N1レベル文字・語彙演習③						磯
第7回	聴解テキスト学習⑥ 第2章5, 6, 7						磯
第8回	第2回～第7回授業内容総括演習						磯

第9回	第2回～第7回授業内容総括演習解説、補充演習	礎
第10回	聴解テキスト学習⑦ 第3章1, 2 N2、N1レベル文字・語彙演習④	礎
第11回	聴解テキスト学習⑧ 第3章3, 4 N2、N1レベル文字・語彙演習⑤	礎
第12回	聴解テキスト学習⑨ 第3章5 第4章1 N2、N1レベル文字・語彙演習⑤	礎
第13回	聴解テキスト学習⑩ 第4章2, 3 N2、N1レベル文字・語彙演習⑦	礎
第14回	聴解テキスト学習⑪ 第4章4, 5 N2、N1レベル文字・語彙演習⑧	礎
第15回	聴解テキスト学習⑫ 第5章 N2、N1レベル文字・語彙演習⑨	礎
第16回	単位認定試験	礎

教科書

教・書籍名1	日本語能力試験対策 日本語総まとめN1 聴解	教・出版社名1	アスク出版
教・著者名1	佐々木仁子、松本紀子	教・ISBN1	978-4-87217-791-6
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	文章表現入門			担当者	雲津 英子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-CH-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	本講義のテーマは、大学生、あるいは社会人として必要な日本語の基本的な運用能力の獲得である。 大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。 本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。また、「日本語検定」を紹介し、受験に対しての指導も行う。						
授業概要	講義内容は、「敬語」、「文法」、「語彙」、「言葉の意味」、「漢字」、「表記」の6つ領域で構成している。 学生はこれらを順番に学んでいくことにより、日本語の運用能力を一步一步着実に高めていくことができる。 毎回の講義では、小テスト及び復習テストを実施し、学修内容の定着状況を学生自身が確認することでさらなる日本語力向上をめざす。 さらに「日本語検定」への挑戦は、学生自身の今の日本語力を振り返るきっかけになるとともに、今後の日本語学修の目標にもなる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	単位認定試験（70％）、授業態度（15％）、小テスト・復習テスト（15％）によって総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	小テスト・復習テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	留学生の受講は可能であるが、「日本語能力試験」のN2（2級）以上の実力がなければ、講義内容の理解は難しい。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、高等学校において進路指導助手としての実務経験を持つ教員が、小論文指導（表記法、文章表現等の指導）の経験を活かし、論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回の講義で小テスト及び復習テストを実施するため、予習・復習をして講義に臨むことが必要である。予習および復習は、各2時間程度行うこと。 日本語力の向上には、今の自分の日本語力に対する気づきと、日々の意識的な努力が必要とされるため、講義以外での学修時間も重要である。 「日本語検定」の受験を目標にして学修に取り組むことが望ましい。						
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜日2限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	「日本語検定3級」に挑戦					雲津 英子	
第2回	はじめに					雲津 英子	
第3回	敬語の種類と使い分け					雲津 英子	
第4回	注意すべき敬語					雲津 英子	
第5回	配慮を示す言葉					雲津 英子	
第6回	品詞・活用の種類					雲津 英子	

第7回	ら抜き言葉・さ入れ言葉	雲津 英子
第8回	文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文	雲津 英子
第9回	接続後・指示語と文章	雲津 英子
第10回	類義語・対義語	雲津 英子
第11回	動詞の自他・視点	雲津 英子
第12回	文体、話し言葉・書き言葉	雲津 英子
第13回	コロケーション	雲津 英子
第14回	部首・音訓・熟語	雲津 英子
第15回	仮名遣い・送り仮名	雲津 英子
第16回	単位認定試験（筆記試験）	雲津 英子

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名1	スキルアップ！日本語力ー大学生のための日本語練習帳ー	教・出版社名1	東京書籍
教・著者名1	名古屋大学日本語研究会G K 7	教・I S B N 1	978-4-487-80364-4
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・I S B N 1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	文章表現入門			担当者	雲津 英子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-CH-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	本講義のテーマは、大学生、あるいは社会人として必要な日本語の基本的な運用能力の獲得である。大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。 本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。また、「日本語検定」を紹介し、受験に対しての指導も行う。						
授業概要	講義内容は、「敬語」、「文法」、「語彙」、「言葉の意味」、「漢字」、「表記」の6つ領域で構成している。学生はこれらを順番に学んでいくことにより、日本語の運用能力を一步一步着実に高めていくことができる。毎回の講義では、小テスト及び復習テストを実施し、学修内容の定着状況を学生自身が確認することでさらなる日本語力向上をめざす。 さらに「日本語検定」への挑戦は、学生自身の今の日本語力を振り返るきっかけになるとともに、今後の日本語学修の目標にもなる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	単位認定試験（70％）、授業態度（15％）、小テスト・復習テスト（15％）によって総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	小テスト・復習テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	留学生の受講は可能であるが、「日本語能力試験」のN2（2級）以上の実力がなければ、講義内容の理解は難しい。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、高等学校において進路指導助手としての実務経験を持つ教員が、小論文指導（表記法、文章表現等の指導）の経験を活かし、論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回の講義で小テスト及び復習テストを実施するため、予習・復習をして講義に臨むことが必要である。予習および復習は、各2時間程度行うこと。 日本語力の向上には、今の自分の日本語力に対する気づきと、日々の意識的な努力が必要とされるため、講義以外での学修時間も重要である。 「日本語検定」の受験を目標にして学修に取り組むことが望ましい。						
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週水曜日5限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	「日本語検定3級」に挑戦					雲津 英子	
第2回	はじめに					雲津 英子	
第3回	敬語の種類と使い分け					雲津 英子	
第4回	注意すべき敬語					雲津 英子	
第5回	配慮を示す言葉					雲津 英子	
第6回	品詞・活用の種類					雲津 英子	

第7回	ら抜き言葉・さ入れ言葉	雲津 英子
第8回	文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文	雲津 英子
第9回	接続後・指示語と文章	雲津 英子
第10回	類義語・対義語	雲津 英子
第11回	動詞の自他・視点	雲津 英子
第12回	文体、話し言葉・書き言葉	雲津 英子
第13回	コロケーション	雲津 英子
第14回	部首・音訓・熟語	雲津 英子
第15回	仮名遣い・送り仮名	雲津 英子
第16回	単位認定試験（筆記試験）	雲津 英子

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名1	スキルアップ！日本語力ー大学生のための日本語練習帳ー	教・出版社名1	東京書籍
教・著者名1	名古屋大学日本語研究会G K 7	教・I S B N 1	978-4-487-80364-4
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・I S B N 1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	文学への招待			担当者	雲津 英子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-CH-0-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	本講義のテーマは、詩・俳句・短歌・小説等の文学作品を読み鑑賞することを通して、作者が描いた人間の生き方を間接的に経験し、学生が自分自身の生き方を多様で豊かなものにしていくことである。 学生が、その過程において、文学に使われている語彙や巧みな言語表現、文学作品にみられる豊かな構想力を自己のものにし、自己の言語表現能力の向上をめざすとともに、文学作品の鑑賞を通して自分自身の生き方を豊かなものにしようとする態度を身につけることを到達目標とする。						
授業概要	詩・俳句・短歌・小説等の文学作品について、それぞれの作者や作品を生み出した歴史的背景、あるいは文化的背景に触れ、文学の発達のあらましやそれぞれの時代における文学の特質を学ぶ。また、文学作品を読み、印象に残った作家や作品について調べ発表したり、討論を行う。このような学修活動を通して、作者が描いた人間の生き方を間接的に経験し、自分自身の生き方を豊かなものにするとともに、文学作品を読み、鑑賞することの意義を理解する。さらに、学生の図書館活用能力の向上のため、図書館の活用方法についての学修を行う。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	レポート試験・受講態度などによって総合的に評価する。 レポート試験（70％）、発表・討論への参加（15％）、受講態度（15％）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題（提出物・レポート）は、授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントを配布するため、ファイルを用意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、大学図書館職員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、図書館の利用方法など、学生の読書活動、論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	大学図書館・県立図書館・市立図書館などで本を借りて、自宅においても積極的に読書をし、講義に臨むこと。 復習を行い、講義内容を十分に理解した上で、次回の講義を受講すること。予習および復習は、各2時間程度行うこと。						
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	文学とはなにか					雲津 英子	
第2回	図書館活用方法の理解					雲津 英子	
第3回	図書館活用の実践					雲津 英子	
第4回	日本文学史（1）-上代文学					雲津 英子	
第5回	日本文学史（2）-中古文学					雲津 英子	
第6回	日本文学史（3）-中世文学					雲津 英子	
第7回	日本文学史（4）-近世文学					雲津 英子	

第8回	日本文学史（5）-近代文学	雲津 英子
第9回	日本文学史（6）-現代文学	雲津 英子
第10回	夏目漱石・森鷗外・泉鏡花の作品（討論）	雲津 英子
第11回	芥川龍之介の作品（討論）	雲津 英子
第12回	宮沢賢治の作品（討論）	雲津 英子
第13回	小林多喜二・太宰治の作品	雲津 英子
第14回	詩・俳句・短歌（討論）	雲津 英子
第15回	まとめ	雲津 英子
第16回	単位認定試験（レポート試験）	雲津 英子

教科書

教・書籍名1	使用しない（必要に応じプリントを配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	日本文学概論	参・出版社名1	財団法人 放送大学教育振興会
参・著者名1	島内裕子	参・ISBN1	978-4-595-31342-4
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	美術の見方			担当者	前嶋 英輝		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-CH-0-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	学生は、「自分なりの美術の見方を確立する」ことをテーマとして、美術作品について広い知識を持ち、自分の言葉で語るができる能力を身につける。美術作品の「見方」の2つの可能性を考えてみる。1つめは、美術作品について客観的に知識として学習する見方であり、2つ目は、主観的に興味を持ち疑問を投げかけてみるような見方である。前者にはある程度の答えがあり、後者には答えは無い。この授業では、2つの見方を組み合わせて対話型鑑賞を行う。学生は、美術の見方を考えることで、自分の美術の見方ができるようになることを到達目標とする。						
授業概要	毎回映像資料による対話型鑑賞を行う。毎回、先行研究として示されている各時代の作品の属性や意味、時代背景などについて学問的な検討を行う。鑑賞の仕方を学ぶことが目的であるから、とにかく多くの美術作品にふれ、授業で紹介される作品について、自分なりに調べてみる事が大切である。自分で考えた疑問などについて、授業内の対話や毎回の小レポートの中で深める事が大切である。 ※実務経験のある教員による授業 この科目は、美術教育に関する実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	この科目では、芸術について理解し自分の視点で鑑賞できる能力を身につけることを目的としていることから、発言を含む毎回のレポート（60点）、到達目標達成度を見る期末試験（40%）の割合によって評価を行う。詳しい評価内容については、最初の授業で説明する。課題については、評価すると同時に、結果を伝えながら指導を行い、フィードバックして学習の積み重ねの資料とする。						
ループリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎回の小レポートについては、代表的なものを次回取り挙げてコメントしディスカッションの題材とすることでフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	事前に次回の授業内容を指示するので、美術作品について興味を持ち検索などで予習を行うことが必要である。また積極的に討論に参加するためにノートなどをもとに復習を行うことが重要である。対話型鑑賞では、自分の視点で意見を述べる事が重要である。できれば自主的に美術館を訪れることを薦める。期末試験では、到達目標の理解度を見るため十分な復習が必要である。 初回の授業で芸術作品についての調べ方や授業の進め方について詳しく説明する。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、美術教育に関する実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。 中学校・高等学校での美術科教員および短期大学での美術担当教員、全国公募展審査員、彫刻家				
事前学習・事後学習とその時間	美術に関する書籍やネットの情報を参照し、授業のテーマに沿った内容について予習復習をおこなう。美術館などに鑑賞に出かけることも重要である。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間が必要である。						
オフィスアワー	2号館6階の前嶋研究室において、毎週月曜日5時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	対話型鑑賞と美術の見方					前嶋英輝	

第2回	世界の美術館散歩	前嶋英輝
第3回	美術教育と人間形成・現代美術	前嶋英輝
第4回	古代オリエント	前嶋英輝
第5回	ギリシャ・ローマ・中世	前嶋英輝
第6回	ルネサンス・バロック・ロココ	前嶋英輝
第7回	新古典主義・印象派	前嶋英輝
第8回	後期印象派以降・セザンヌとキュビズム	前嶋英輝
第9回	インド美術とイスラム美術・東南アジアの美術	前嶋英輝
第10回	仏教美術の誕生とシルクロードの美術	前嶋英輝
第11回	飛鳥～平安・韓国美術の影響	前嶋英輝
第12回	鎌倉～室町・仏教彫刻・絵巻物・水墨画	前嶋英輝
第13回	安土桃山・障屏画	前嶋英輝
第14回	江戸・浮世絵・町人の美術	前嶋英輝
第15回	明治以降の美術・西洋美術の影響	前嶋英輝
第16回	単位認定試験	前嶋英輝

教科書

教・書籍名1	適宜プリントなどを配布する。予習復習も配布プリントによって行う。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	テキスト名：絵画をいかに味わうか	参・出版社名1	平凡社
参・著者名1	著者：ヴィクトル・I・ストイキツァ	参・ISBN1	978-4582206371
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	生涯スポーツ論 スポ社			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-CH-0-005		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	『スポーツ活動を取り入れた生活』その重要性は、年々高まってきていると言える。健康の維持・増進、老化の防止、心の健康、健全な発育・発達、生きがいづくり、さらにはスポーツを通じての教育・人間形成など、その意義や価値はますます高くなってきている。しかし、スポーツに親しむ人々の数は、著しく増加しているとは言い難く、また望ましいあり様でスポーツが実践されているばかりではない状況も散見される。そこで学生は、多くの人々が生涯にわたってスポーツに親しみ、望ましいスポーツへの関わり方ができるために必要な知識を学び、各々のおかれた環境や状況において、各人の目標に沿ったスポーツ実践が行えるための知識を得ることができることを到達目標とする。						
授業概要	結果の偏重や勝利至上主義、技能偏重、運動能力偏重といった往々にしてスポーツに携わる人達が陥りやすい傾向を脱し、各人の目的に応じて、そして各々の能力に応じたスポーツの実践が可能になり、取り組みの効果が着実に得られる、合理的な実施方法を学ぶ。それによって初めて、生涯にわたってスポーツに親しむ人々が増えてくるであろう。障害者を含めた、様々な対象者にとってのスポーツの意義について理解する。現代の社会におけるスポーツの持つ幅広い役割りと機能、その必要性や価値について認識を深め、スポーツを専門とする人材になっていくための方向づけと動機づけを行う。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業中のレポート提出で30%、最終試験で70%にて評価する。 評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題や試験を課した授業の次の回の授業にて、出来栄や内容のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	健康運動実践指導者資格認定試験受験資格必須科目（2009年度生まで適用） 毎回の配布資料と授業内容にもとづき、その回の復習と次回の予習を行うこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業時において、次回の授業内容に応じて、各自のスポーツ経験に基づく問題を見出す指示を行う。これによって、各自経験の見直しや情報収集を行う。授業後は、授業内容を受けて、望ましい在り方について考察し、時にレポートとして提出する。 予習1コマ・復習1コマをそれぞれ行うこと。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室にて						
授業計画						担当者	
第1回	スポーツの本来の姿					竹内研	
第2回	スポーツ感の変遷					竹内研	
第3回	スポーツする身体					竹内研	
第4回	運動・スポーツとメンタルヘルス					竹内研	
第5回	スポーツの技術					竹内研	
第6回	体力について					竹内研	
第7回	心とスポーツ					竹内研	
第8回	発育・発達とスポーツ					竹内研	

第9回	現代社会とスポーツ	竹内研
第10回	スポーツの上達法	竹内研
第11回	健康のためのスポーツ	竹内研
第12回	スポーツと教育	竹内研
第13回	スポーツと経済	竹内研
第14回	スポーツ動作の分析	竹内研
第15回	競技スポーツと生涯スポーツ	竹内研
第16回	試験	竹内研

教科書

教・書籍名1	文化としてのスポーツ	教・出版社名1	ベースボール・マガジン社
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2	生涯スポーツトレーナー教本	教・出版社名2	公益財団法人日本健康スポーツ連盟
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	生涯スポーツ実習（スポ社A）			担当者	枝松 三佳		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-CH-0-006		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	余暇時間の増加に対応すべく、スポーツを有効に活用して、生涯をとおして生活の質を向上させることのできる技術について学び、自ら実践できる能力を身につける。社会に出た後も、場所を問わずに気軽に楽しめる技術と試合ができるルールを習得することができる。						
授業概要	従来の競技主体のスポーツ活動から、各人が自らの主体的条件にあわせ、かつ周囲の環境条件も考慮したスポーツ種目を実践する。また、健康を保持増進させるための運動方法について体力医学、運動生理学などの立場から実践的に教授する。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	受講態度（50％）、課題（50％）の成就結果を合わせて評価を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題はスポーツ実施時のルールや注意点について、講義中の実践を通して評価する。課題に対するフィードバックは講義後半で実践を通して実施する。						
履修条件・注意事項	健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 （公財）日本スポーツ協会公認スポーツプログラマー受験資格必須科目 スポーツ実習であることから、運動のできる服装（ジャージ等）と体育館シューズを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	スポーツ実施時のルールや注意点について予習、復習すること。実習に関わる技術に関しては講義内にて適宜指示する。						
オフィスアワー	非常勤講師なので、講義終了後に対応するものとする。						
授業計画						担当者	
第1回	ウォーミングアップ					枝松 三佳	
第2回	クーリングダウン					枝松 三佳	
第3回	準備運動の重要性とその方法					枝松 三佳	
第4回	ストレッチの意義と効果					枝松 三佳	
第5回	ストレッチ指導実習					枝松 三佳	
第6回	ウォーキングの特性と基礎技術の習得					枝松 三佳	
第7回	ウォーキング：プログラム作成と実施上の注意点					枝松 三佳	
第8回	ウォーキング：運動強度調節					枝松 三佳	
第9回	ジョギングの特性と基礎技術習得					枝松 三佳	
第10回	ジョギング：プログラム作成と実施上の注意点					枝松 三佳	
第11回	ジョギング：運動強度特性					枝松 三佳	
第12回	健康運動・軽運動としての運動ゲーム					枝松 三佳	
第13回	健康運動・軽運動としてのバドミントン					枝松 三佳	
第14回	健康運動・軽運動としてのフットサル					枝松 三佳	
第15回	健康運動・軽運動としてのバレーボール					枝松 三佳	

第16回			
教科書			
教・書籍名1	使用しない(必要に応じプリントを配布する)	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	生涯スポーツと運動の科学新版	参・出版社名1	市村出版
参・著者名1	侘美靖, 花井篤子	参・ISBN1	9784902109405
参・書籍名2	生涯スポーツの理論と実際改訂版 豊かなスポーツライフを実現するために	参・出版社名2	大修館書店
参・著者名2	日下裕弘, 加納弘二	参・ISBN2	9784469266986

授業科目名	生涯スポーツ実習（スポ社B）			担当者	國佐 葉		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-CH-0-006		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	余暇時間の増加に対応すべく、スポーツを有効に活用して、生涯をとおして生活の質を向上させることのできる技術について学び、自ら実践できる能力を身につける。社会に出た後も、場所を問わずに気軽に楽しめる技術と試合ができるルールを習得することができる。						
授業概要	従来の競技主体のスポーツ活動から、各人が自らの主体的条件にあわせ、かつ周囲の環境条件も考慮したスポーツ種目を実践する。また、健康を保持増進させるための運動方法について体力医学、運動生理学などの立場から実践的に教授する。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	受講態度（50％）、課題（50％）の成就結果を合わせて評価を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題はスポーツ実施時のルールや注意点について、講義中の実践を通して評価する。課題に対するフィードバックは講義後半で実践を通して実施する。						
履修条件・注意事項	健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 (公財)日本スポーツ協会公認スポーツプログラマー受験資格必須科目 スポーツ実習であることから、運動のできる服装（ジャージ等）と体育館シューズを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	スポーツ実施時のルールや注意点について予習、復習すること。実習に関わる技術に関しては講義内にて適宜指示する。						
オフィスアワー	非常勤講師なので、講義終了後に対応するものとする。						
授業計画						担当者	
第1回	ウォーミングアップ					國佐 葉	
第2回	クーリングダウン					國佐 葉	
第3回	準備運動の重要性とその方法					國佐 葉	
第4回	ストレッチングの意義と効果					國佐 葉	
第5回	ストレッチ指導実習					國佐 葉	
第6回	ウォーキングの特性と基礎技術の習得					國佐 葉	
第7回	ウォーキング：プログラム作成と実施上の注意点					國佐 葉	
第8回	ウォーキング：運動強度調節					國佐 葉	
第9回	ジョギングの特性と基礎技術習得					國佐 葉	
第10回	ジョギング：プログラム作成と実施上の注意点					國佐 葉	
第11回	ジョギング：運動強度特性					國佐 葉	
第12回	健康運動・軽運動としての運動ゲーム					國佐 葉	
第13回	健康運動・軽運動としてのバドミントン					國佐 葉	
第14回	健康運動・軽運動としてのフットサル					國佐 葉	
第15回	健康運動・軽運動としてのバレーボール					國佐 葉	

第16回			
教科書			
教・書籍名1	使用しない(必要に応じプリントを配布する)	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	哲学			担当者	山本 敦之		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-GA-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	テーマは「歴史の中の哲学」である。哲学という言葉は無造作に使われることが多い。しかし本来哲学は、古代ギリシャに端を発する一つの歴史上の、極めて重要な知的伝統である。そしてそれはある時期まで学問全体を指し、狭義の哲学は「第一哲学」と呼ばれたりした。学生は、各時代の代表的哲学者の思想を通じて、文明の中での学問と狭義の哲学のありようの歴史を知ることになる。これによって学生は、世界と自分について、根底から物事を考える能力を身につけることができる。						
授業概要	古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、なるべく準備すること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題については交替で発表をおこなってもらい、ほかの学生からのコメントを求め、これについて教員が論評する。試験については返却時に教員がコメントを附す。						
履修条件・注意事項	数学や論理学、文芸や芸術に対する関心、知的な好奇心。毎回プリントを配布するので、ファイルブックを用意しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること(2時間程度)。						
オフィスアワー	月曜5限257研究室						
授業計画						担当者	
第1回	1. 「哲学」という言葉の歴史と哲学の始まり					山本	
第2回	初期の「哲学者」たち					山本	
第3回	エレア派とその影響					山本	
第4回	ソクラテスとその影響					山本	
第5回	プラトン					山本	
第6回	アリストテレスの哲学					山本	
第7回	アリストテレスの第一哲学					山本	
第8回	ヘレニズム世界の哲学とローマ帝国の思想状況					山本	
第9回	西欧文明の成立					山本	
第10回	盛期中世の学問状況と14世紀の大変革					山本	
第11回	ルネサンスと科学革命					山本	
第12回	科学革命と政治哲学					山本	

第13回	19世紀における諸科学の成立と哲学	山本	
第14回	科学的心理学の成立と哲学の変容	山本	
第15回	総括	山本	
第16回	定期試験	山本	
教科書			
教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	西洋哲学史〈古代から中世へ〉	参・出版社名1	岩波新書
参・著者名1	熊野純彦	参・ISBN1	9784004310075
参・書籍名2	西洋哲学史〈近代から現代へ〉	参・出版社名2	岩波新書
参・著者名2	9784004310082	参・ISBN2	

授業科目名	哲学			担当者	山本 敦之		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-GA-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	テーマは「歴史の中の哲学」である。哲学という言葉は無造作に使われることが多い。しかし本来哲学は、古代ギリシャに端を発する一つの歴史上の、極めて重要な知的伝統である。そしてそれはある時期まで学問全体を指し、狭義の哲学は「第一哲学」と呼ばれたりした。学生は、各時代の代表的哲学者の思想を通じて、文明の中での学問と狭義の哲学のありようの歴史を知ることになる。これによって学生は、世界と自分について、根底から物事を考える能力を身につけることができる。						
授業概要	古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、なるべく準備すること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題については交替で発表をおこなってもらい、ほかの学生からのコメントを求め、これについて教員が論評する。試験については返却時に教員がコメントを附す。						
履修条件・注意事項	数学や論理学、文芸や芸術に対する関心、知的好奇心。毎回プリントを配布するので、ファイルブックを用意しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること(2時間程度)。						
オフィスアワー	月曜5限257研究室						
授業計画						担当者	
第1回	1. 「哲学」という言葉の歴史と哲学の始まり					山本	
第2回	初期の「哲学者」たち					山本	
第3回	エレア派とその影響					山本	
第4回	ソクラテスとその影響					山本	
第5回	プラトン					山本	
第6回	アリストテレスの哲学					山本	
第7回	アリストテレスの第一哲学					山本	
第8回	ヘレニズム世界の哲学とローマ帝国の思想状況					山本	
第9回	西欧文明の成立					山本	
第10回	盛期中世の学問状況と14世紀の大変革					山本	
第11回	ルネサンスと科学革命					山本	
第12回	科学革命と政治哲学					山本	

第13回	19世紀における諸科学の成立と哲学	山本	
第14回	科学的心理学の成立と哲学の変容	山本	
第15回	総括	山本	
第16回	定期試験	山本	
教科書			
教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	西洋哲学史〈古代から中世へ〉	参・出版社名1	岩波新書
参・著者名1	熊野純彦	参・ISBN1	9784004310075
参・書籍名2	西洋哲学史〈近代から現代へ〉	参・出版社名2	岩波新書
参・著者名2	9784004310082	参・ISBN2	

授業科目名	宗教学			担当者	山本 敦之		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-GA-0-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマは「世界宗教史」である。学生は講義を通じて、現生人類の誕生から新石器時代、文明の誕生を経て、ユーラシア西部や日本にどのような宗教が存在してきたか、そしてそれらが現代の我々にどのような影響を及ぼしているのかを知る。このことを通じ学生は、世界の多様な文化を理解することができる。これが到達目標である。						
授業概要	後期旧石器時代・中石器時代・新石器時代・古代諸文明(メソポタミア、エジプト、カナアン、ギリシャなど)という段階を経て一神教(ユダヤ教、キリスト教、イスラム教)の成立までの流れを追い、そしてそれらの一神教の展開を概観する。これは主としてユーラシア大陸西半部の歴史上の諸宗教の紹介という形をとるが、文字資料のみならず画像などの視覚的情報を多用して、縁遠い時空に生きた人々の精神世界への理解を促したい。また、日本の宗教という話題にも、世界史的観点から言及する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	評価方法 小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、なるべく準備すること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題については交替で発表をおこなってもらい、ほかの学生からのコメントを求め、これについて教員が論評する。試験については返却時に教員がコメントを附す。						
履修条件・注意事項	地理歴史の基礎知識。毎回プリントを配布するので、ファイルブックを用意しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること(2時間程度)。これを次回授業で確認する。						
オフィスアワー	月曜5限257研究室						
授業計画						担当者	
第1回	人類史と宗教：旧石器時代から新石器時代へ					山本	
第2回	日本の縄文時代、弥生時代、古墳時代の宗教					山本	
第3回	文明誕生：メソポタミア					山本	
第4回	エジプト文明					山本	
第5回	古代ギリシャ文明					山本	
第6回	ユダヤ教の成立					山本	
第7回	ヘレニズム期の宗教					山本	
第8回	キリスト教の成立と展開					山本	
第9回	ローマカトリック					山本	
第10回	初期のイスラーム					山本	
第11回	宗教改革とその後					山本	
第12回	日本宗教史：古代・中世・近世					山本	
第13回	現代日本の宗教事情					山本	
第14回	現代世界の宗教事情					山本	

第15回	総括	山本
第16回	定期試験	山本
教科書		
教・書籍名1	配布資料	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	倫理学			担当者	山本 敦之		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-GA-0-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	主題は「暇と退屈」である。つまり、ヒトが暇であるという事態と退屈であるという事態である。我々にとって身近な「暇と退屈」を分析する。暇はあるが退屈はしないという、よき人生はどのようなものか考える。そして学生各位は暇を持って余すことのない、自分固有のよき人生への指針を獲得することができる。						
授業概要	定住生活を開始して以来、人類とともにあり、個人や集団に破滅をもたらしたりすることもある「退屈」について、国分功一郎『暇と退屈の倫理学』と一緒に読みながら、注釈と批判を加え、ともに考えてゆく。その過程でパスカルやニーチェ、ラッセルやハイデッガー、ホップズやルソー、マルクスやアーレントといった西欧思想の古典をこのテーマに関わる範囲で読むことになる。また、定住革命論やユクスキュルの環世界論など、隣接するさまざまな領域の知見を学ぶ。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、なるべく準備すること。						
履修条件・注意事項	「気分」のようなとらえにくいものについて、具体例に即して考える思考力、言語能力、忍耐力。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、教科書や配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること(2時間程度)。これを次回授業で確認する。						
オフィスアワー	月曜5限257研究室						
授業計画						担当者	
第1回	「好きなこと」とは？					山本	
第2回	パスカルとニーチェの退屈論					山本	
第3回	暇と退屈の原理論					山本	
第4回	定住革命について					山本	
第5回	暇と退屈の系譜学					山本	
第6回	暇と退屈の経済史					山本	
第7回	ホップズ、ルソー、マルクス					山本	
第8回	暇と退屈の疎外論					山本	
第9回	暇と退屈の哲学					山本	
第10回	環世界論					山本	
第11回	暇と退屈の人間学					山本	
第12回	ハイデッガー					山本	
第13回	暇と退屈の倫理学					山本	
第14回	スピノザ					山本	
第15回	総括					山本	
第16回	定期試験					山本	

教科書			
教・書籍名1	暇と退屈の倫理学	教・出版社名1	太田出版
教・著者名1	國分功一郎	教・ISBN1	978-4-7783-1437-8
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	心理学（経営・スポ・心理）			担当者	津川 秀夫、藤原 直子、土居 正人、 橋本 翠、村上 勝典、若森 孝彰、森 井 康幸、宇都宮 真輝		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-GA-0-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	心理学とはどんな学問かを知ることがテーマである。心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。学生は、人が生活している環境からいかに情報を取り入れ、蓄積し、利用するのか、あるいは、いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して、心理学のおもしろさに触れることができる。						
授業概要	心理学は知覚、認知、発達、社会、パーソナリティーなどさまざまな領域において様々な研究が行われている。本講義では、いくつかの領域における研究対象、方法、得られた知見等の解説をオムニバス形式で行う。						
アクティブラーニングの 内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	小テスト(50%)と定期テスト(50%)の成績により評価する。 ただし、受講態度の悪い学生（私語、飲食、内職等・・・）については、この限りではない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	小テストについては、授業中にフィードバックするので、定期試験に向けて、見直すこと。						
履修条件・注意事項	テキストは使用しないので、集中して講義に参加すること。 授業担当者ごとに、2回に1回くらいの割合で小テストを行うので、特に復習には力を入れること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ の時間	基本的には、講義内で配布された資料をもとに復習すること。（2時間） テキストは使用しないが、一般的な心理学の本で該当箇所を対照させながら学ぶことが重要である（2時間）。体験的に学びを深めたい学生には、心理学実験への参加・協力をお願いする。						
オフィスアワー	森井：月4 津川：月4 藤原：月2 橋本：月5 宇都宮：火4 土居：月2 村上：木3 各教員研究室						
授業計画						担当者	
第1回	(1) オリエンテーション					全員	
第2回	(2) 外界を探るころの働き					橋本	
第3回	(3) 感覚と知覚					橋本	
第4回	(4) 記憶のふしぎ					森井	
第5回	(5) 本能と学習					森井	
第6回	(6) 性格とは					土居	
第7回	(7) 心理検査について					土居	
第8回	(8) 乳幼児期～青年期の発達					宇都宮	

第9回	(9) 青年期の人間関係と心理	宇都宮	
第10回	(10) 対人認知	村上	
第11回	(11) 態度変容	村上	
第12回	(12) ストレス	藤原	
第13回	(13) ストレスと考え方	藤原	
第14回	(14) カウンセリング	津川	
第15回	(15) カウンセリングの実際	津川	
第16回	(16) 定期試験(筆記)	全員	
教科書			
教・書籍名1	教科書は使用しない。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	心理学 (New Liberal Arts Selection)	参・出版社名1	有斐閣
参・著者名1	無藤・遠藤・玉瀬・森	参・ISBN1	978-4641053694
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	多文化理解			担当者	末吉 秀二		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-GA-0-005		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	本講義は「世界の文化の多様性を理解する」をテーマに、私たち日本人にはあまり馴染みのないアラブ・イスラーム社会をとりあげる。具体的には、①イスラームの理解に不可欠なアラビア語の基礎、②西アジア史、③イスラーム文化、④近・現代のアラブ社会について理解を深める。その結果、世界の文化の多様性について興味をもてるようになる。						
授業概要	世界の多文化を理解するためには、まず文化相対主義（Cultural relativism）の立場、すなわち異なる文化の間には優劣はなく、それぞれの文化の価値を認めようとする視点が重要である。本講義は、世界の関心が高く、また世界の安定にとってきわめて重要な位置にある中東地域を例に、古代オリエントから現代までの中東の歴史、アラビア語の基礎、イスラームの意味するところから、アラブ・イスラーム文化を理解するとともに、世界の文化の多様性を理解するための端緒とする。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	到達目標を計るため、試験（60％）、授業態度/積極性（20％）、課題レポート（20％）により総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートの返却時に講評する。						
履修条件・注意事項							
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習として、日ごろからアラブ社会の情勢に関心をもつこと、復習として、分からないことは授業で質問し、分からないことをそのままにしないこと。						
オフィスアワー	月曜日・金曜日（3限、5限）						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					末吉秀二	
第2回	古代オリエント					末吉秀二	
第3回	アラブ・イスラーム世界の形成					末吉秀二	
第4回	オスマン帝国とアラブ					末吉秀二	
第5回	近・現代のアラブ社会					末吉秀二	
第6回	アラビア語の基礎（文字と発音）					末吉秀二	
第7回	アラビア語の基礎（文法）					末吉秀二	
第8回	預言者ムハンマド					末吉秀二	
第9回	コーラン					末吉秀二	
第10回	イスラーム法（シャリーア）					末吉秀二	
第11回	イスラーム文化（衣・食・住）					末吉秀二	
第12回	イスラーム文化（スーク/メディナ）					末吉秀二	
第13回	パレスチナ問題					末吉秀二	
第14回	事例研究（ヨルダン）					末吉秀二	
第15回	多文化理解（論文輪読）					末吉秀二	

第16回	単位認定試験	末吉秀二
教科書		
教・書籍名1		教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	イスラーム文化	参・出版社名1 岩波文庫
参・著者名1	井筒俊彦	参・ISBN1 4-00-331851-X
参・書籍名2	イスラーム世界の論じ方	参・出版社名2 中央公論社
参・著者名2	池内 恵	参・ISBN2 978-412-003990-4

授業科目名	多文化理解			担当者	末吉 秀二		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-GA-0-005		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	本講義は「世界の文化の多様性を理解する」をテーマに、私たち日本人にはあまり馴染みのないアラブ・イスラーム社会をとりあげる。具体的には、①イスラームの理解に不可欠なアラビア語の基礎、②西アジア史、③イスラーム文化、④近・現代のアラブ社会について理解を深める。その結果、世界の文化の多様性について興味をもてるようになる。						
授業概要	世界の多文化を理解するためには、まず文化相対主義（Cultural relativism）の立場、すなわち異なる文化の間には優劣はなく、それぞれの文化の価値を認めようとする視点が重要である。本講義は、世界の関心が高く、また世界の安定にとってきわめて重要な位置にある中東地域を例に、古代オリエントから現代までの中東の歴史、アラビア語の基礎、イスラームの意味するところから、アラブ・イスラーム文化を理解するとともに、世界の文化の多様性を理解するための端緒とする。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	到達目標を計るため、試験（60％）、授業態度/積極性（20％）、課題レポート（20％）により総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートの返却時に講評する。						
履修条件・注意事項							
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習として、日ごろからアラブ社会の情勢に関心をもつこと、復習として、分からないことは授業で質問し、分からないことをそのままにしないこと。						
オフィスアワー	月曜日・金曜日（3限、5限）						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					末吉秀二	
第2回	古代オリエント					末吉秀二	
第3回	アラブ・イスラーム世界の形成					末吉秀二	
第4回	オスマン帝国とアラブ					末吉秀二	
第5回	近・現代のアラブ社会					末吉秀二	
第6回	アラビア語の基礎（文字と発音）					末吉秀二	
第7回	アラビア語の基礎（文法）					末吉秀二	
第8回	預言者ムハンマド					末吉秀二	
第9回	コーラン					末吉秀二	
第10回	イスラーム法（シャリーア）					末吉秀二	
第11回	イスラーム文化（衣・食・住）					末吉秀二	
第12回	イスラーム文化（スーク/メディア）					末吉秀二	
第13回	パレスチナ問題					末吉秀二	
第14回	事例研究（ヨルダン）					末吉秀二	
第15回	多文化理解（論文輪読）					末吉秀二	

第16回	単位認定試験	末吉秀二
教科書		
教・書籍名1		教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	イスラーム文化	参・出版社名1 岩波文庫
参・著者名1	井筒俊彦	参・ISBN1 4-00-331851-X
参・書籍名2	イスラーム世界の論じ方	参・出版社名2 中央公論社
参・著者名2	池内 恵	参・ISBN2 978-412-003990-4

授業科目名	日本国憲法			担当者	入江 祥子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-SI-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと 論理的な思考	◎	DP4. コミュニケー ション・表現力	△
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	<p><到達目標> 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べる ことができることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。</p> <p><テーマ> 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同 時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。</p>						
授業概要	<p>法の初学者のために、広く「法」の解説から始める。さらに「憲法」の定義やその特質について学んだうえで、 「日本国憲法」についてその成立背景から基本原理および統治機構について、判例・学説を交え講義を行う。特に 「人権」については、その性質および享有主体性等個々の論点にまで立ち入った解説を行い、正しい人権意識を身 につけることを意識する。また、統治機構については、政治的時事問題を交え、日本の政治の仕組みおよび問題点 について説明し、主権者として必要な正しい知識を取得できるよう講義を行う。</p> <p>* 実務経験のある教員による授業 本授業は法律に関するスペシャリストである司法書士の方による講義です。</p>						
アクティブラーニングの 内容							
評価方法と割合	受講態度及び取組姿勢30%、各講義の最後に実施する理解度を問う小テストの評価30%、定期試験40%の配 分で基本的評価を行う。授業態度については、私語、遅刻、途中退室等についても考慮する。小テストが優秀であ れば加点する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	国内外で起きている様々な社会問題を自らとらえ、それらの問題について自発的に考え、解決策を模索することを 習慣づける。						
履修条件・注意事項	履修条件は特にありませんが、日本国内外の時事問題を情報収集するよう心がけてください。 注意事項としては、他の学生の受講に迷惑になること（特に私語、授業途中の許可のない入退室等）は厳に慎んで ください。講師の指示に従わない場合には受講を認めないこともありますので、ご注意ください。 出席状況の把握は各自で行ってください。 原則として、配布物の再配布は行いません。						
実務経験のある教員	該当する	内容	司法書士				
事前学習・事後学習とそ の時間	予習としては、授業計画のテーマに沿って、インターネットや書籍を利用した下調べを行っていただきたい。 本講義は復習が重要です。授業で学んだ知識を定着させ、それを踏まえて自己の考えを構築できるよう発展させる						

	こと。		
オフィスアワー	授業時間前後に講義室又は非常勤講師室にて質問等を受けます。		
授業計画			担当者
第1回	なぜ「憲法」を学ぶ必要があるか	入江 祥子	
第2回	法とは何か、法はなぜ必要か、法と道徳の違い	入江 祥子	
第3回	法源とは何か、法の種類	入江 祥子	
第4回	憲法とは何か、立憲主義	入江 祥子	
第5回	憲法の成立、大日本帝国憲法と日本国憲法	入江 祥子	
第6回	国民主権の意味、その役割	入江 祥子	
第7回	戦争の放棄、日本国憲法第9条	入江 祥子	
第8回	人権とは何か、その役割	入江 祥子	
第9回	人権の効果	入江 祥子	
第10回	人権の限界、公共の福祉	入江 祥子	
第11回	統治制度について、権力分立	入江 祥子	
第12回	立法権、国会の役割	入江 祥子	
第13回	行政権、内閣の役割	入江 祥子	
第14回	司法権、裁判所の役割	入江 祥子	
第15回	地方自治について	入江 祥子	
第16回	筆記試験	入江 祥子	
教科書			
教・書籍名1	各回ごとに配布物を配り、それによって授業を進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	六法	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本国憲法			担当者	入江 祥子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-SI-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと 論理的な思考	◎	DP4. コミュニケー ション・表現力	△
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	<p><到達目標> 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることができることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。</p> <p><テーマ> 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。</p>						
授業概要	<p>法の初学者のために、広く「法」の解説から始める。さらに「憲法」の定義やその特質について学んだうえで、「日本国憲法」についてその成立背景から基本原理および統治機構について、判例・学説を交え講義を行う。特に「人権」については、その性質および享有主体性等個々の論点にまで立ち入った解説を行い、正しい人権意識を身につけることを意識する。また、統治機構については、政治的時事問題を交え、日本の政治の仕組みおよび問題点について説明し、主権者として必要な正しい知識を取得できるよう講義を行う。</p> <p>* 実務経験のある教員による授業 本授業は法律に関するスペシャリストである司法書士の方による講義です。</p>						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	受講態度及び取組姿勢30%、各講義の最後に実施する理解度を問う小テストの評価30%、定期試験40%の配分で基本的評価を行う。授業態度については、私語、遅刻、途中退室等についても考慮する。小テストが優秀であれば加点する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	国内外で起きている様々な社会問題を自らとらえ、それらの問題について自発的に考え、解決策を模索することを習慣づける。						
履修条件・注意事項	履修条件は特にありませんが、日本国内外の時事問題を情報収集するよう心がけてください。 注意事項としては、他の学生の受講に迷惑になること（特に私語、授業途中の許可のない入退室等）は厳に慎んでください。講師の指示に従わない場合には受講を認めないこともありますので、ご注意ください。 出席状況の把握は各自で行ってください。 原則として、配布物の再配布は行いません。						
実務経験のある教員	該当する	内容	司法書士				
事前学習・事後学習とその時間	予習としては、授業計画のテーマに沿って、インターネットや書籍を利用した下調べを行っていただきたい。本講義は復習が重要です。授業で学んだ知識を定着させ、それを踏まえて自己の考えを構築できるよう発展させる						

	こと。		
オフィスアワー	授業時間前後に講義室又は非常勤講師室にて質問等を受けます。		
授業計画			担当者
第1回	なぜ「憲法」を学ぶ必要があるか	入江 祥子	
第2回	法とは何か、法はなぜ必要か、法と道徳の違い	入江 祥子	
第3回	法源とは何か、法の種類	入江 祥子	
第4回	憲法とは何か、立憲主義	入江 祥子	
第5回	憲法の成立、大日本帝国憲法と日本国憲法	入江 祥子	
第6回	国民主権の意味、その役割	入江 祥子	
第7回	戦争の放棄、日本国憲法第9条	入江 祥子	
第8回	人権とは何か、その役割	入江 祥子	
第9回	人権の効果	入江 祥子	
第10回	人権の限界、公共の福祉	入江 祥子	
第11回	統治制度について、権力分立	入江 祥子	
第12回	立法権、国会の役割	入江 祥子	
第13回	行政権、内閣の役割	入江 祥子	
第14回	司法権、裁判所の役割	入江 祥子	
第15回	地方自治について	入江 祥子	
第16回	筆記試験	入江 祥子	
教科書			
教・書籍名1	各回ごとに配布物を配り、それによって授業を進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	六法	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	民法			担当者	生駒 正文		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-SI-0-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	<p>学生は日常生活の各場面で想定される法律の動きを知り、何がただしいのかという価値判断が求められる局面において、自ら考えて選ぶリーガル・マインドを獲得できる。</p> <p>具体的には法の意義と、社会における法の役割を理解、実際の事件の中で、法がいかに問題解決のために機能しているか関心を持つこと、課題を法的な観点から検討できること、自分の考えを整理して、相手に論理的に説明する能力を身に着けることが個別目標です。</p>						
授業概要	<p>我々の日常生活は、直接的・間接的に法律と関係しています。例えば、物の購入、家・金銭の貸し借り、結婚、親子関係、相続等、法律と無関係ではありません。我々の日常生活を規律する民法の基礎の基礎くらい知っておいた方が無難でしょう。</p> <p>本講義では、日常生活の場面で想定される事態について、どのように民法がかかわるか考えます。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	試験70% 授業態度・意欲・小テスト30%の評価						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題、小テストは、後日添削し返却します。理解が不足の場合、再提出。						
履修条件・注意事項	教科書持参、ノートをとること、考えることを原則に授業にのぞむこと						
実務経験のある教員	該当する	内容	大阪簡易裁判所の民事調停委員として各案件の処理を行う（20年）				
事前学習・事後学習とその時間	授業計画ごとに教科書を復習・予習しておくこと（2時間）						
オフィスアワー	12:30から13:20 14号館6階（生駒研究室）						
授業計画						担当者	
第1回	(1) 民法学の基礎知識（総則） ①民法とは何か、権利義務関係の基本となる能力					生駒正文	
第2回	(2) 民法学の基礎知識（総則） ②制限行為能力者制度					生駒正文	
第3回	(3) 民法学の基礎知識（総則） ③法人とは、物とは					生駒正文	
第4回	(4) 民法学の基礎知識（総則） ④意思表示					生駒正文	
第5回	(5) 民法学の基礎知識（総則） ⑤代理、時効					生駒正文	
第6回	(6) 民法学の基礎知識（財産法） ⑥物権と債権、物権の種類、物権法定主義					生駒正文	
第7回	(7) 民法学の基礎知識 ⑦物権の効力と物権変動（動産・不動産）					生駒正文	
第8回	(8) 民法学の基礎知識（財産法） ⑧即時取得、担保とは何か					生駒正文	
第9回	(9) 民法学の基礎知識（財産法） ⑨一般的な不法行為					生駒正文	
第10回	(10) 民法学の基礎知識（財産法） ⑩特殊な不法行為 賃貸借					生駒正文	
第11回	(11) (3) 家族法の基礎知識 ⑪親族、婚姻、夫婦関係、離婚					生駒正文	
第12回	(12) 家族法の基礎知識 ⑫親子関係、親権、相続					生駒正文	
第13回	(13) 家族法の基礎知識 ⑬遺言					生駒正文	

第14回	(14) 家族法の基礎知識 ㊿遺留分	生駒正文
第15回	(15) その他 ㊿割賦販売、訪問販売	生駒正文
第16回	(16) 定期試験	生駒正文
教科書		
教・書籍名1	ガイドブック法学	教・出版社名1 嵯峨野書院
教・著者名1	生駒正文・高田富男編著	教・ISBN1 978-4-7823-0570-6
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	経済学			担当者	張 秉煥		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-SI-0-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／5. ジェンダー平等を実現しよう／ 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう 						
到達目標	重要な経済問題について科学的にそして論理的に理解するための基本的スキルを修得することができる。						
授業概要	すべての社会が直面する根本的な経済問題は希少性である。経済学は、社会がその希少な資源をいかに管理するの かを研究する学問である。資源の配分は、膨大な数の家計と企業の行動を総合した結果として決定される。講座の 前半は、個別の家計や企業が様々な決定をどのように行うか、それらが市場でどのように相互作用しあうのかを分 析する。後半では、経済全体に影響するような様々な要因や傾向を考察する。なお、所得分配や所得格差問題、所 得機会の変容とそのインプリケーションについて検討する。						
アクティブラーニングの 内容							
評価方法と割合	「定期筆記試験（70%）＋途中の形成的評価（30%）」をもとに合計100点満点で採点し、60点以上を合格とす る。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	途中の形成的評価のために実施する「課題や試験」へのフィードバックは、授業中の総括的単位で行うことによっ て、個別学生に学習方法への含意や定期筆記試験への対策に資するものとする						
履修条件・注意事項							
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ の時間	本講座の独自教材（ワークブック兼用）に基づき、自主的な事前学習を行って授業を受けること。						
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	講座の概要や評価方法、教材の構成、主な内容と使い方など。科学的方法論としての経済モデル					張秉煥	
第2回	経済学の主要原理（1）トレードオフ、機会費用、限界分析、インセンティブ等					張秉煥	
第3回	経済学の主要原理（2）市場経済、市場の失敗、GDP、インフレなど（現実の事例を含む）					張秉煥	
第4回	市場と競争（市場構造）、需要・供給の仕組み、両面市場					張秉煥	
第5回	市場構造と社会的厚生、完全競争市場、現実の経済問題への応用（インセンティブ）					張秉煥	
第6回	独占市場の特性と参入障壁の源泉、現実の経済問題への応用、小テスト1					張秉煥	
第7回	独占的市場と寡占市場の特性、囚人のジレンマモデルと現実の経済問題への応用					張秉煥	
第8回	現実における様々な価格類型、価格弾力性と価格差別モデル、現実の経済問題への応用					張秉煥	
第9回	価格規制の基礎モデル、最低賃金制度による労働市場への影響分析、外部効果の諸例					張秉煥	
第10回	公共財の諸例、フリーライダー問題、共有地の悲劇モデルと現実への応用、小テスト2					張秉煥	
第11回	情報の非対称性問題、モラル・ハザード、逆選択、現実の経済問題への応用					張秉煥	
第12回	経済循環図、国民所得の測定と国際比較、現実の経済問題への応用					張秉煥	
第13回	経済成長と公共政策、72の法則とその応用、景気変動					張秉煥	
第14回	所得分布と所得格差、所得機会の変容（定量的分析を踏まえて）、小テスト3					張秉煥	
第15回	経済政策の類型と具体的手法、経済安定化政策の逆効果（ジレンマ）					張秉煥	
第16回	定期筆記試験					張秉煥	
教科書							

教・書籍名1	独自教材（ワークブック兼用）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	マンキュー入門経済学	参・出版社名1	東洋経済新報社
参・著者名1	N・グレゴリー・マンキュー	参・ISBN1	978-4492315217
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	経済学			担当者	張 秉煥		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-SI-0-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／5. ジェンダー平等を実現しよう／ 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう 						
到達目標	重要な経済問題について科学的にそして論理的に理解するための基本的スキルを修得することができる。						
授業概要	すべての社会が直面する根本的な経済問題は希少性である。経済学は、社会がその希少な資源をいかに管理するの かを研究する学問である。資源の配分は、膨大な数の家計と企業の行動を総合した結果として決定される。講座の 前半は、個別の家計や企業が様々な決定をどのように行うか、それらが市場でどのように相互作用しあうのかを分 析する。後半では、経済全体に影響するような様々な要因や傾向を考察する。なお、所得分配や所得格差問題、所 得機会の変容とそのインプリケーションについて検討する。						
アクティブラーニングの 内容							
評価方法と割合	「定期筆記試験（70%）＋途中の形成的評価（30%）」をもとに合計100点満点で採点し、60点以上を合格とす る。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	途中の形成的評価のために実施する「課題や試験」へのフィードバックは、授業中の総括的単位で行うことによっ て、個別学生に学習方法への含意や定期筆記試験への対策に資するものとする						
履修条件・注意事項							
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ の時間	本講座の独自教材（ワークブック兼用）に基づき、自主的な事前学習を行って授業を受けること。						
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	講座の概要や評価方法、教材の構成、主な内容と使い方など。科学的方法論としての経済モデル					張秉煥	
第2回	経済学の主要原理（1）トレードオフ、機会費用、限界分析、インセンティブ等					張秉煥	
第3回	経済学の主要原理（2）市場経済、市場の失敗、GDP、インフレなど（現実の事例を含む）					張秉煥	
第4回	市場と競争（市場構造）、需要・供給の仕組み、両面市場					張秉煥	
第5回	市場構造と社会的厚生、完全競争市場、現実の経済問題への応用（インセンティブ）					張秉煥	
第6回	独占市場の特性と参入障壁の源泉、現実の経済問題への応用、小テスト1					張秉煥	
第7回	独占的市場と寡占市場の特性、囚人のジレンマモデルと現実の経済問題への応用					張秉煥	
第8回	現実における様々な価格類型、価格弾力性と価格差別モデル、現実の経済問題への応用					張秉煥	
第9回	価格規制の基礎モデル、最低賃金制度による労働市場への影響分析、外部効果の諸例					張秉煥	
第10回	公共財の諸例、フリーライダー問題、共有地の悲劇モデルと現実への応用、小テスト2					張秉煥	
第11回	情報の非対称性問題、モラル・ハザード、逆選択、現実の経済問題への応用					張秉煥	
第12回	経済循環図、国民所得の測定と国際比較、現実の経済問題への応用					張秉煥	
第13回	経済成長と公共政策、72の法則とその応用、景気変動					張秉煥	
第14回	所得分布と所得格差、所得機会の変容（定量的分析を踏まえて）、小テスト3					張秉煥	
第15回	経済政策の類型と具体的手法、経済安定化政策の逆効果（ジレンマ）					張秉煥	
第16回	定期筆記試験					張秉煥	
教科書							

教・書籍名1	独自教材（ワークブック兼用）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	マンキュー入門経済学	参・出版社名1	東洋経済新報社
参・著者名1	N・グレゴリー・マンキュー	参・ISBN1	978-4492315217
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	社会学			担当者	黒宮 亜希子、稲元 洋輔		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-SI-0-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／11. 住み続けられるまちづくりを</p> 						
到達目標	<p>テーマ：基礎社会学を学ぶ（社会学とは何か？、労働・教育・地域・家族等の視点より）</p> <p>到達目標：社会学の基本的な定義・考え方、具体的な社会問題、人口問題と環境、現代家族、教育、産業・労働の領域における現状と問題を理解し、その解決法を考えることとする。</p> <p>受講生らが生きている現代社会の仕組みや出来事に関する理解を深める。</p> <p>この講義を通じて、現代社会の様々な制度と問題を理解すること、また、自分の考えを文章で言語化し、記述する能力を向上することも併せて目標とする。</p>						
授業概要	<p>この講義の目的は、社会学という学問がどのような学問であるかを理解し、講義で学習した社会的な見方、考え方を応用し、受講生の周囲で起こっている実際の出来事について考えることが出来るようにすることである。</p> <p>具体的には、現代家族の変化、教育問題、非正規社員の増加と経済的格差、人口構造の変化などを取り上げる。</p> <p>それによって学生たちは問題を理解し、社会学の分析視角から考え、自分の意見を持ち、判断することができるようになる。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業中課題（40％）・定期試験（60％）によって評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題はコメントを入れ返却を行う。						
履修条件・注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・2名の教員がオムニバス形式で進行する。 ・毎回、教員が作成したハンドアウトを配布する。ファイル等で各自保管しておくこと。 ・日本語で自身の考えを記述する力が求められるため、日本語の力がまだ十分ではない留学生の受講に際してはやや注意を要する。 ・授業計画の内容は、進捗状況に応じて変更になることがある。 						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	黒宮：月曜4限（14625） 稲元：火曜3限（14611）						
授業計画						担当者	
第1回	授業オリエンテーション					黒宮・稲元	
第2回	身近な社会学（1）地位と役割					黒宮	
第3回	身近な社会学（2）ラベリング・スティグマ					黒宮	
第4回	教育の社会学（1）学校とはなにか					稲元	

第5回	教育の社会学 (2) 教育をめぐる諸問題	稲元
第6回	家族の社会学 (1) 家族と其の変化	黒宮
第7回	家族の社会学 (2) 家族とジェンダー	黒宮
第8回	労働の社会学 (1) 学校から職場へ	稲元
第9回	労働の社会学 (2) 働くことの社会的な位置づけ	稲元
第10回	地域の社会学 (1) 地域、コミュニティとは	黒宮
第11回	地域の社会学 (2) 地域社会の今	黒宮
第12回	自己と他者の社会学 (1) 他者のまなざし	稲元
第13回	自己と他者の社会学 (2) コミュニケーション	稲元
第14回	社会問題を社会学する (講義、小括)	黒宮
第15回	社会問題を社会学する (講義、小括)	稲元
第16回	筆記試験	黒宮・稲元

教科書

教・書籍名1	資料を配布する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	授業内容に応じて適宜、文献を紹介する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	社会学			担当者	赤坂 真人		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-SI-0-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／11. 住み続けられるまちづくりを／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	<p>テーマ 社会学入門（社会学とは何か・人口論・家族・教育・産業と労働）</p> <p>到達目標 社会学の定義と考え方を学び、そのうえで現代社会の人口、現代家族、教育、産業と労働の現状について述べる。明確に意識されていない現代社会の様々な制度と問題を明確に認識させ、毎回実施する小テスト（記述式）で社会問題に対する自分自身の考えをまとめ、文章で記述・説明する能力を鍛える。この講義によって学生たちは現代社会の諸問題を理解し、それを社会学の分析視角から考え、自分の意見を持ち、判断することができるようになる。</p>						
授業概要	この講義の目的は、社会学という学問がどのような学問であるかを理解し、次に講義で学習した社会的な見方、考え方を応用し、学生の周囲で起こっている日常の出来事について考えさせることである。具体的には人口減少に伴って起こる様々な問題、人口高齢化と年金・医療保険の問題、現代家族の変化、晩婚化・非婚化、教育の社会的意義、AI化とこれからの教育、Society5.0における産業と労働、経済的格差、日本の経済不況と対策などを取り上げる。この講義によって学生たちは現代社会の諸問題を理解し、それを社会学の分析視角から考え、自分の意見を持ち、判断することができるようになる。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業中の小テスト（50％）・定期試験（50％）によって評価する。小テストは採点し、コメントつけて返却するので必ず復習すること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義の最後20分間を使って、毎回論述式の小試験を行う。メールにより解答し教員の授業用メールボックスに返送する。教員は学生一人一人の論述に対し400～500字のコメントを書いて学生に返却する。教員からのコメントに対してさらに意見を述べた場合、それに対して再びコメント書いて返却する。						
履修条件・注意事項	講義時間が減少するので学生の名前を読み上げて出席を取ることとはしない。カードによる出席チェックの不正をしない。日本語が分からないと講義についてゆけないので留学生は履修の際、十分留意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	火曜4限（15：10～16：40）に、研究室（9309）にて実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	1.人間が社会を作るまで。2.群れ（社会）で生きる人間。3.人間社会の大変動。					赤坂	
第2回	1.社会学とは何か。2.社会のわかりにくさ。3.他の人間科学との相違。4.社会学の利用法。					赤坂	
第3回	1.世界の人口動向。2.人口転換理論。3.日本の人口推移。4.少子高齢化。5.晩婚化と非婚化。					赤坂	
第4回	1.生涯未婚率の推移。2.世界最速の高齢化。3.少子高齢化と経済の縮小・社会保障の危機。					赤坂	
第5回	1.家族とは何か。2.家族の類型。3.世帯・親族・親戚。4.社会制度としての結婚。					赤坂	
第6回	1.結婚の社会的規制。2.非婚社会：日本。3.非婚化の経済的原因。4.非婚化の生物学的原因					赤坂	

第7回	1.解体する家族。2.現代家族の問題。3.下流化する中高年。4.現代家族の病理と法的問題。	赤坂
第8回	1.液化化する社会。2.避けられぬ人口減少。3.男性未婚者。4.職業と未婚。5.世代間の不平等。	赤坂
第9回	1.教育の機能。2.メリトクラシーの崩壊と階層の固定化。3.学力低下論争。4.学力の二極化	赤坂
第10回	1.教師の多忙化と燃え尽き。2.いじめ問題。3.校内暴力。4.不登校。5.学校は魅力を失ったか？	赤坂
第11回	1.教育と職業。2.大学教育は仕事の役に立つか？3.中間集団としての学校。4.ニートの人々	赤坂
第12回	1.産業の分類。2.賃金と労働。3.日本人の労働時間と失業率。4.日本の経営の終わりど没落。	赤坂
第13回	1.日本経済の矛盾。2.生産性の低さ。3.日本経済没落の原因。4.経済再生の課題	赤坂
第14回	1.職業とジェンダー。2.職業と階層。3.階層間格差。4.AI化と労働の未来	赤坂
第15回	1.AIの進化と社会変動 2.インフォテック。3.フードテック。4.画像認識。5.拡張現実・その他	赤坂
第16回	筆記試験	赤坂

教科書

教・書籍名1	基礎社会学	教・出版社名1	ふくろう出版
教・著者名1	赤坂真人	教・ISBN1	978-4861864278
教・書籍名2	毎回、教員が作成したハンドアウトを配布する。	教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	講義中に約30冊の文献を紹介する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	環境科学			担当者	秋山 純一		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2018年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-NM-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／6. 安全な水とトイレを世界中に／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／13. 気候変動に具体的な対策を／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう</p> 						
到達目標	<p>学生は環境問題を理解するための基礎的知識である「生態系」、「生物多様性」、「物質循環」及び「食物連鎖」等の知識を習得することができる。学生はその基礎的知識をもとに、現在人類が直面している環境問題である「オゾン層の破壊」、「環境ホルモン」、「地球温暖化」およびその他の環境問題全般の現状についての知識を習得することができる。また、学生は現在の環境問題および将来に起こると予想される様々な環境問題について自身で考え、意見を発信し、行動できることを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>ヒトは有形無形の環境の中で生活しており、その生命環境の持続的保全が健康保持、人類存続には不可欠である。生活の利便性や効率、経済性を追求するあまり、近年の交通手段の急激な進歩や特に情報革命を中心とする社会構造の急速な変化が先進国だけでなく開発途上国にも広く及んでいる。現在、我々人類はこの急激な変化への適応に追われ、本来、最も尊いはずの生命保持のための環境の維持や保全が後手となり、現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題（環境汚染、地球温暖化、オゾン層の破壊、紫外線量の増加、環境ホルモン等）が生じている。本講義では前半は生命と環境についての基本的な知識（環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等）を習得し、その知識を基に我々の目前で現在起こっている種々のレベルでの環境問題の現状を把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、これらの問題に対して先見の問題意識を持ちどの様に対処すべきかを学習する。本講義の後半では各環境問題の問題提示としてこれらの環境問題に関連するの現状と未来を予測したDVD映像などの鑑賞も加えて授業を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	マークシート形式主体の筆記試験により約90%を評価し、残り約10%の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	学授業中の課題提示毎に問いかけを行い、質疑。応答での知識確認のためのフィードバックを実施する。また、試験実施後の質問を受け付け、未理解項目のフィードバックを実施する。						
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びノートメモを取ること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は国家資格の「公害防止主任管理者」取得者である教員が環境管理の実務経験を活かし、環境教育において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度)を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習(1時間程度)を行って学習内容の理解を深めること。						
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休み時間で可能な限り対応を実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	環境と人間のかかわりあい					秋山純一	
第2回	環境における人類危機要因					秋山純一	
第3回	生態系と人間					秋山純一	

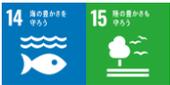
第4回	食物連鎖	秋山純一
第5回	物質循環	秋山純一
第6回	紫外線（作用と分類）	秋山純一
第7回	紫外線と皮膚（臨床）	秋山純一
第8回	紫外線と皮膚（防御）	秋山純一
第9回	オゾン層の破壊（原因）	秋山純一
第10回	オゾン層の破壊（対策）	秋山純一
第11回	環境ホルモン（作用）	秋山純一
第12回	環境ホルモン（分類）	秋山純一
第13回	環境ホルモン（影響）	秋山純一
第14回	地球温暖化（原因）	秋山純一
第15回	地球温暖化（対策）	秋山純一
第16回	単位認定試験	秋山純一
教科書		
教・書籍名1	使用しない（テーマ毎にプリントを配布する）	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	環境科学入門	参・出版社名1 化学同人
参・著者名1	川合 真一郎 他	参・ISBN1 9.78E+12
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	環境科学			担当者	秋山 純一		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2018年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-NM-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	△
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／6. 安全な水とトイレを世界中に／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／13. 気候変動に具体的な対策を／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう</p> 						
到達目標	<p>学生は環境問題を理解するための基礎的知識である「生態系」、「生物多様性」、「物質循環」及び「食物連鎖」等の知識を習得することができる。学生はその基礎的知識をもとに、現在人類が直面している環境問題である「オゾン層の破壊」、「環境ホルモン」、「地球温暖化」およびその他の環境問題全般の現状についての知識を習得することができる。また、学生は現在の環境問題および将来に起こると予想される様々な環境問題について自身で考え、意見を発信し、行動できることを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>ヒトは有形無形の環境の中で生活しており、その生命環境の持続的保全が健康保持、人類存続には不可欠である。生活の利便性や効率、経済性を追求するあまり、近年の交通手段の急激な進歩や特に情報革命を中心とする社会構造の急速な変化が先進国だけでなく開発途上国にも広く及んでいる。現在、我々人類はこの急激な変化への適応に追われ、本来、最も尊いはずの生命保持のための環境の維持や保全が後手となり、現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題（環境汚染、地球温暖化、オゾン層の破壊、紫外線量の増加、環境ホルモン等）が生じている。本講義では前半は生命と環境についての基本的な知識（環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等）を習得し、その知識を基に我々の目前で現在起こっている種々のレベルでの環境問題の現状を把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、これらの問題に対して先見の問題意識を持ちどの様に対処すべきかを学習する。本講義の後半では各環境問題の問題提示としてこれらの環境問題に関連するの現状と未来を予測したDVD映像などの鑑賞も加えて授業を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	マークシート形式主体の筆記試験により約90%を評価し、残り約10%の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	学授業中の課題提示毎に問いかけを行い、質疑。応答での知識確認のためのフィードバックを実施する。また、試験実施後の質問を受け付け、未理解項目のフィードバックを実施する。						
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びノートメモを取ること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は国家資格の「公害防止主任管理者」取得者である教員が環境管理の実務経験を活かし、環境教育において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度)を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習(1時間程度)を行って学習内容の理解を深めること。						
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休み時間で可能な限り対応を実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	環境と人間のかかわりあい					秋山純一	
第2回	環境における人類危機要因					秋山純一	
第3回	生態系と人間					秋山純一	

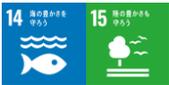
第4回	食物連鎖	秋山純一
第5回	物質循環	秋山純一
第6回	紫外線（作用と分類）	秋山純一
第7回	紫外線と皮膚（臨床）	秋山純一
第8回	紫外線と皮膚（防御）	秋山純一
第9回	オゾン層の破壊（原因）	秋山純一
第10回	オゾン層の破壊（対策）	秋山純一
第11回	環境ホルモン（作用）	秋山純一
第12回	環境ホルモン（分類）	秋山純一
第13回	環境ホルモン（影響）	秋山純一
第14回	地球温暖化（原因）	秋山純一
第15回	地球温暖化（対策）	秋山純一
第16回	単位認定試験	秋山純一
教科書		
教・書籍名1	使用しない（テーマ毎にプリントを配布する）	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	環境科学入門	参・出版社名1 化学同人
参・著者名1	川合 真一郎 他	参・ISBN1 9.78E+12
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	物理学			担当者	藤原 智子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-NM-0-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	15回	授業形態	対面
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／11. 住み続けられるまちづくりを／13. 気候変動に具体的な対策を／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>テーマ：物理学の1分野である天文学を中心に、簡単な実験やそれぞれテーマに沿った議論などを通じて、その歴史的背景や社会・生活で活用されている物理のエッセンスを体系的に学習する。</p> <p>到達目標：「自然から学ぶ」や「論理的思考」とはどのようなことを理解する。</p>						
授業概要	<p>太古の昔から、人類は頭上に広がる果てしない宇宙を見つめてきた。手の届かないところにある天体のふるまいを理解するには、まず身近な自然現象を観察し、そこにある物理法則に気付く必要がある。人々はどんな想いで宇宙を見つめてきたのか、宇宙を知るためにどんな挑戦をし、注意深く観察した星空から何を理解してきたのか。この授業では、太陽系天体、恒星や銀河など、宇宙に浮かぶ様々な天体の姿を紹介、そこで起こっている現象を身近な物理と結び付けて科学的に解説するだけではなく、星座や神話、人類の宇宙観など文化的な内容、観測機器や宇宙開発(ロケットや人工衛星・探査機)等の技術的内容についても触れ、「宇宙」をテーマに幅広い内容を扱う。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/プレゼンテーション/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	論述試験と出席で評価します。授業を受ける姿勢として、実験や議論に参加する積極性を重視します。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題や試験に対する質問は授業での回答の他、UNIPAやTeamsなどの機能を用いてフィードバックする。						
履修条件・注意事項							
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画のテーマに関連するニュースやトピックスに注意を払い、事後学習として授業で学んだことに関して友人や家族と議論すること。 各1時間の学修が望ましい。						
オフィスアワー	授業の前後に、教室において実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	ガイダンスー自然現象を理解するための物理学ー					藤原智子	
第2回	宇宙観の変遷					藤原智子	
第3回	星と文化① 星座と星物語					藤原智子	
第4回	星と文化② 暦の成立					藤原智子	
第5回	天体の記録と基礎データ① 天体の位置、明るさ、距離					藤原智子	
第6回	天体の記録と基礎データ② 光のスペクトル					藤原智子	
第7回	観測装置の発展① 光学・電波望遠鏡					藤原智子	
第8回	観測装置の発展② 人工衛星・探査機					藤原智子	
第9回	人工衛星・ロケットの仕組み					藤原智子	
第10回	宇宙の環境問題					藤原智子	
第11回	太陽系の素顔① 太陽系の天体					藤原智子	
第12回	太陽系の素顔② 太陽系を取り巻く環境・太陽系外惑星					藤原智子	
第13回	恒星の誕生と死					藤原智子	

第14回	私たちの起源と未来	藤原智子
第15回	まとめ：宇宙と物理学のつながり	藤原智子
第16回	レポート試験	藤原智子
教科書		
教・書籍名1		教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	生物学			担当者	香田 康年		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-NM-0-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	14. 海の豊かさを守ろう / 15. 陸の豊かさを守ろう 						
到達目標	<p>【テーマ】 学生が、「ヒトを含めたすべての生物が生物シンカによってできて来た」ことを理解する。また、科学とはどのようなことかについて改めて考え理解する。加えて、様々な生物の特徴について学びながら、なぜそのような特徴がシンカしたのかを考え、ヒトや様々な生物について、丸暗記するのではなく、「なぜそうなのか」を考え理解する力を養う。</p> <p>【到達目標】 まず生物のシンカが「進化」と呼ばれるようになった経緯を理解し、生物のシンカとはどのような現象なのかを理解すると同時に、一般用語の「進化」とやや意味がことなることを理解する。さらに生物のシンカがどのような仕組みで起こるのかを学び理解する。そのことによって現在のヒトや様々な生物がなぜそのような特徴を持っているのかを考え、人間の特徴や様々な生物現象について丸暗記するのではなく、「考え理解する力」を少しでも養う。また、新たな問題に対し、他者の知識を含め、持てる知識を利用して考え、まとめ、他者に説明する力を養う。</p>						
授業概要	○ 上記のテーマや到達目標を達成するため、毎回授業は、講義と、Q&Aにグループディスカッションを組み合わせたアクティブラーニングを併用した授業とする。 ○ 下記の講義項目に従って授業を行う予定であるが、あくまで目安である。受講生の興味、生物学上の疑問、理解の程度を重視するので、講義順序や講義内容、範囲などは受講生の理解をとりながら適宜変更する。 ○ 受講生は、講義内容に関する疑問点や質問を積極的に出し、理解を深めて欲しい。かつなお、疑問点が残れば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。それにより学生の授業内容の理解度を知り、フィードバックを図る。						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/グループワーク						
評価方法と割合	20分～30分程度の小テストを複数回行う。それらの合計点（80％）とQ&Aなどのアクティブラーニングへの積極的発言回数（20％）で評価する。 ただし、授業態度が悪ければ（授業にまじめに取り組まない場合）10点の範囲で減点する。 各小テストは、論述記述式である。 講義の内容から、重要な内容について説明記述させる問題を出題する予定である。 授業をとっていない友人にわかるような説明記述ができていないことが、採点の基準になる。専門用語には必ず理解しやすく説明を加えること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	過去の授業内容について度々Q & Aを行うことによって、授業内容に対するフィードバックをはかる。 複数回の小テストのうち途中の小テストは、採点結果を返却すると同時にフィードバックをはかり、再試験追試験を行うこともあるが、最終回のテストは再試験追試験を行わない。						
履修条件・注意事項	受講生は、グループ討論や質疑応答時に積極的に発言することを心掛けるようにすること。 教員が講義している間は、傾聴に努め、私語を控えること。質問は大いに歓迎する。ただし、手を挙げて指名さ						

	れてから発言すること。		
実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	<p>【復習】</p> <p>授業内容は常識と異なることが多く、授業は前回までの理解を前提に進めるので、毎回必ず復習し、理解しておくこと。次回の授業で、前回内容についての質問に指名されても答えられるようにしておくこと。</p> <p>復習には二時間程度かけて、いつ小テストがあっても対応できるように、充分理解し、ノート整理しておくこと。</p> <p>【予習】</p> <p>過去の授業内容についての疑問点を整理しておき、次回の授業で質問できるようにしておくこと。また、予習にも二時間程度かけて、次回の授業内容について、参考書などを利用し、現時点での自分なりの理解をしておくこと。また、予め質問したいことがあれば、用意しておくこと。</p>		
オフィスアワー	非常勤講師なので、授業後に教室、または非常勤講師室で行う。		
授業計画			担当者
第1回	クラゲとヒトはどこが同じでどう違うのか？		香田康年
第2回	生物のシンカと一般用語としての「進化」		香田康年
第3回	生物のシンカの起こる仕組み		香田康年
第4回	なぜたくさんの生物がいるのか？ なぜ人間がいるのか？		香田康年
第5回	ダーウィンはなぜ生物シンカに気がついたのか？		香田康年
第6回	科学とはどのような学問か？		香田康年
第7回	生物とは？		香田康年
第8回	どんな生物、どんな動物がいるのか？		香田康年
第9回	遺伝子と遺伝子の発現		香田康年
第10回	本能と学習と理性の関係		香田康年
第11回	利己的行動と利他的行動		香田康年
第12回	非血縁者間の利他行動のシンカ		香田康年
第13回	ゲーム理論とシンカ		香田康年
第14回	様々な対人関係心理のシンカ		香田康年
第15回	言葉のシンカと神や幽霊を信じる心のシンカ		香田康年
第16回	最終試験（記述式筆記試験）		香田康年
教科書			
教・書籍名1	教科書は使わない。理解に必要な資料は講義中に配布するか、スライド等で提示しながら講義する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	「進化と人間行動」	参・出版社名1	東京大学出版会
参・著者名1	長谷川寿一、長谷川真理子	参・ISBN1	4-13-012032-8
参・書籍名2	「面白くて眠れなくなる生物学」	参・出版社名2	PHP文庫
参・著者名2	長谷川英祐	参・ISBN2	978-4-569-76860-1

授業科目名	生物学			担当者	香田 康年		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-NM-0-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考	○	DP4. コミュニケー ション・表現力	○
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう 						
到達目標	<p>【テーマ】</p> <p>学生が、「ヒトを含めたすべての生物が生物シンカによってできて来た」ことを理解する。また、科学とはどのようなことかについて改めて考え理解する。加えて、様々な生物の特徴について学びながら、なぜそのような特徴がシンカしたのかを考え、ヒトや様々な生物について、丸暗記するのではなく、「なぜそうなのか」を考え理解する力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>まず生物のシンカが「進化」と呼ばれるようになった経緯を理解し、生物のシンカとはどのような現象なのかを理解すると同時に、一般用語の「進化」とやや意味がことなることを理解する。さらに生物のシンカがどのような仕組みで起こるのかを学び理解する。そのことによって現在のヒトや様々な生物がなぜそのような特徴を持っているのかを考え、人間の特徴や様々な生物現象について丸暗記するのではなく、「考え理解する力」を少しでも養う。また、新たな問題に対し、他者の知識を含め、持てる知識を利用して考え、まとめ、他者に説明する力を養う。</p>						
授業概要	<p>○ 上記のテーマや到達目標を達成するため、毎回授業は、講義と、Q&Aにグループディスカッションを組み合わせたアクティブラーニングを併用した授業とする。</p> <p>○ 下記の講義項目に従って授業を行う予定であるが、あくまで目安である。受講生の興味、生物学上の疑問、理解の程度を重視するので、講義順序や講義内容、範囲などは受講生の了解をとりながら適宜変更する。</p> <p>○ 受講生は、講義内容に関する疑問点や質問を積極的に出し、理解を深めて欲しい。かつなお、疑問点が残れば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。それにより学生の授業内容の理解度を知り、フィードバックを図る。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	<p>20分～30分程度の小テストを複数回行う。それらの合計点（80％）とQ&Aなどのアクティブラーニングへの積極的発言回数（20％）で評価する。</p> <p>ただし、授業態度が悪ければ（授業にまじめに取り組まない場合）10点の範囲で減点する。</p> <p>各小テストは、論述記述式である。</p> <p>講義の内容から、重要な内容について説明記述させる問題を出題する予定である。</p> <p>授業をとっていない友人にわかるような説明記述ができていないことが、採点の基準になる。専門用語には必ず理解しやすく説明を加えること。</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	<p>過去の授業内容について度々Q & Aを行うことによって、授業内容に対するフィードバックをはかる。</p> <p>複数回の小テストのうち途中の小テストは、採点結果を返却すると同時にフィードバックをはかり、再試験追試験を行うこともあるが、最終回のテストは再試験追試験を行わない。</p>						
履修条件・注意事項	<p>受講生は、グループ討論や質疑応答時に積極的に発言することを心掛けるようにすること。</p> <p>教員が講義している間は、傾聴に努め、私語を控えること。質問は大いに歓迎する。ただし、手を挙げて指名さ</p>						

	れてから発言すること。		
実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	<p>【復習】</p> <p>授業内容は常識と異なることが多く、授業は前回までの理解を前提に進めるので、毎回必ず復習し、理解しておくこと。次回の授業で、前回内容についての質問に指名されても答えられるようにしておくこと。</p> <p>復習には二時間程度かけて、いつ小テストがあっても対応できるように、充分理解し、ノート整理しておくこと。</p> <p>【予習】</p> <p>過去の授業内容についての疑問点を整理しておき、次回の授業で質問できるようにしておくこと。また、予習にも二時間程度かけて、次回の授業内容について、参考書などを利用し、現時点での自分なりの理解をしておくこと。また、予め質問したいことがあれば、用意しておくこと。</p>		
オフィスアワー	非常勤講師なので、授業後に教室、または非常勤講師室で行う。		
授業計画			担当者
第1回	クラゲとヒトはどこが同じでどう違うのか？		香田康年
第2回	生物のシンカと一般用語としての「進化」		香田康年
第3回	生物のシンカの起こる仕組み		香田康年
第4回	なぜたくさんの生物がいるのか？ なぜ人間がいるのか？		香田康年
第5回	ダーウィンはなぜ生物シンカに気がついたのか？		香田康年
第6回	科学とはどのような学問か？		香田康年
第7回	生物とは？		香田康年
第8回	どんな生物、どんな動物がいるのか？		香田康年
第9回	遺伝子と遺伝子の発現		香田康年
第10回	本能と学習と理性の関係		香田康年
第11回	利己的行動と利他的行動		香田康年
第12回	非血縁者間の利他行動のシンカ		香田康年
第13回	ゲーム理論とシンカ		香田康年
第14回	様々な対人関係心理のシンカ		香田康年
第15回	言葉のシンカと神や幽霊を信じる心のシンカ		香田康年
第16回	最終試験（記述式筆記試験）		香田康年
教科書			
教・書籍名1	教科書は使わない。理解に必要な資料は講義中に配布するか、スライド等で提示しながら講義する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	「進化と人間行動」	参・出版社名1	東京大学出版会
参・著者名1	長谷川寿一、長谷川真理子	参・ISBN1	4-13-012032-8
参・書籍名2	「面白くて眠れなくなる生物学」	参・出版社名2	PHP文庫
参・著者名2	長谷川英祐	参・ISBN2	978-4-569-76860-1

授業科目名	化学			担当者	秋山 純一		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-NM-0-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 						
到達目標	本講義で学生は無機化学や有機化学全般の基礎的な知識の習得に重点をおき学習することができる。また、後半の講義で学生は生命活動に関連の深い天然物質やプラスチックの分類、生活に必要な薬品や化粧品等に関連する界面化学を学習することができる。学生は本講義を通じて将来の種々の職業や日常生活に役立つ化学的な知識を取得し、その知識を応用することができる。						
授業概要	今日の科学技術の進歩は目覚しく、現代の私達の豊かな暮らしは正にこの科学の進歩に支えられていると言っても過言ではない。化学は、物質の成り立ちや変遷を究明する学問で、物質を構成する原子や分子を対象とし、それらの性質、構造、反応性などを実証的に解き明かす。18世紀後半から学問として体系付けられ、幾多の素晴らしい知見や成果を蓄積しながら、現代化学へと発展してきた。今日では、複雑で有用な物質を簡単な物質（分子）から合成するなど、私達の身の回りには化学の力で作られた物質が溢れ、暮らしを豊かに、快適にしてくれている。一方、分子という考えの導入により、生命現象を化学的に解釈できるようになり、また生命現象を遺伝子のレベルで操作することもできるようになった。これらの知見を基に生命科学の分野では遺伝子治療なども行われるようになった。しかし他方では、地球環境問題や環境ホルモンなどの新たな種々の問題がみられるようになった。本講義では基礎的な化学の知識の確認・修得に重点をおき、また特に我々の生活用品や基礎医学に関連した分野も取り上げて授業を行う。 ※実務経験がある教員による授業 この科目は化粧品メーカーの研究開発の実務経験をもつ教員がその経験を活かし、将来の仕事や日常生活に実践的に役立つ授業を実施する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	問題概要を事前にプリントにて予告配布するマークシート形式主体の定期試験により約90%を評価し、残り約10%の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	学習課題の終了後および授業の終了時に都度の問いかけし、質問を受け付けてフィードバックを実施する。試験実施後の質問を受け付けてフィードバックを実施する。						
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びメモを取ることを。						
実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員の公的機関や民間企業での試験や研究開発部門での勤務経験を生かし、幅広い知識や技術を授業内容に取り入れる。				
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度)を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習(1時間程度)を行って学習内容の理解を深めること。						
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休みを活用して実施。						
授業計画						担当者	
第1回	原子・分子の構造					秋山純一	
第2回	化学結合					秋山純一	
第3回	同位体と放射能					秋山純一	
第4回	周期律表					秋山純一	

第5回	化学反応、結合	秋山純一
第6回	酸化と還元（反応物質）	秋山純一
第7回	酸化と還元（燃料電池他）	秋山純一
第8回	物質の分類（金属、非金属）	秋山純一
第9回	水の化学（特性、硬度、pH）	秋山純一
第10回	有機化合物の構造分類	秋山純一
第11回	有機化合物の置換基分類	秋山純一
第12回	有機合成の反応分類	秋山純一
第13回	高分子化合物（天然）	秋山純一
第14回	高分子化合物（合成）	秋山純一
第15回	界面の化学（洗剤、乳化）	秋山純一
第16回	単位認定試験	秋山純一

教科書

教・書籍名1	使用しない（テーマ毎にプリント配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	教養の現代化学	参・出版社名1	三共出版
参・著者名1	多賀 光彦／共著 他	参・ISBN1	9.78E+12
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	化学			担当者	秋山 純一		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-NM-0-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 						
到達目標	本講義で学生は無機化学や有機化学全般の基礎的な知識の習得に重点をおき学習することができる。また、後半の講義で学生は生命活動に関連の深い天然物質やプラスチックの分類、生活に必要な薬品や化粧品等に関連する界面化学を学習することができる。学生は本講義を通じて将来の種々の職業や日常生活に役立つ化学的な知識を取得し、その知識を応用することができる。						
授業概要	今日の科学技術の進歩は目覚しく、現代の私達の豊かな暮らしは正にこの科学の進歩に支えられていると言っても過言ではない。化学は、物質の成り立ちや変遷を究明する学問で、物質を構成する原子や分子を対象とし、それらの性質、構造、反応性などを実証的に解き明かす。18世紀後半から学問として体系付けられ、幾多の素晴らしい知見や成果を蓄積しながら、現代化学へと発展してきた。今日では、複雑で有用な物質を簡単な物質（分子）から合成するなど、私達の身の回りには化学の力で作られた物質が溢れ、暮らしを豊かに、快適にしてくれている。一方、分子という考えの導入により、生命現象を化学的に解釈できるようになり、また生命現象を遺伝子のレベルで操作することもできるようになった。これらの知見を基に生命科学の分野では遺伝子治療なども行われるようになった。しかし他方では、地球環境問題や環境ホルモンなどの新たな種々の問題がみられるようになった。本講義では基礎的な化学の知識の確認・修得に重点をおき、また特に我々の生活用品や基礎医学に関連した分野も取り上げて授業を行う。 ※実務経験がある教員による授業 この科目は化粧品メーカーの研究開発の実務経験をもつ教員がその経験を活かし、将来の仕事や日常生活に実践的に役立つ授業を実施する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	問題概要を事前にプリントにて予告配布するマークシート形式主体の定期試験により約90％を評価し、残り約10％の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	学習課題の終了後および授業の終了時に都度の問いかけし、質問を受け付けてフィードバックを実施する。試験実施後の質問を受け付けてフィードバックを実施する。						
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びメモを取ることを。						
実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員の公的機関や民間企業での試験や研究開発部門での勤務経験を生かし、幅広い知識や技術を授業内容に取り入れる。				
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度)を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習(1時間程度)を行って学習内容の理解を深めること。						
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休みを活用して実施。						
授業計画						担当者	
第1回	原子・分子の構造					秋山純一	
第2回	化学結合					秋山純一	
第3回	同位体と放射能					秋山純一	
第4回	周期律表					秋山純一	

第5回	化学反応、結合	秋山純一
第6回	酸化と還元（反応物質）	秋山純一
第7回	酸化と還元（燃料電池他）	秋山純一
第8回	物質の分類（金属、非金属）	秋山純一
第9回	水の化学（特性、硬度、pH）	秋山純一
第10回	有機化合物の構造分類	秋山純一
第11回	有機化合物の置換基分類	秋山純一
第12回	有機合成の反応分類	秋山純一
第13回	高分子化合物（天然）	秋山純一
第14回	高分子化合物（合成）	秋山純一
第15回	界面の化学（洗剤、乳化）	秋山純一
第16回	単位認定試験	秋山純一

教科書

教・書籍名1	使用しない（テーマ毎にプリント配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	教養の現代化学	参・出版社名1	三共出版
参・著者名1	多賀 光彦／共著 他	参・ISBN1	9.78E+12
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	人類生態学			担当者	末吉 秀二		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-NM-0-005		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	11. 住み続けられるまちづくりを 						
到達目標	人類生態学の視点から、ヒトの環境への適応を理解することができるようになる。						
授業概要	人類生態学は、個体群レベルで人間の生存をとらえ、その生業・食物・人口学的側面に関する包括的な研究から、ヒトの環境への適応を明らかにする学問分野と定義される。本講義は、①生態系のなかの人間、②人間の生存と健康、③人口からみた人間、④環境問題と人間の大テーマをブレイクダウンして詳しく説明する。また、今日の環境問題や人口問題の本質について理解を深める。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	到達目標を計るため、試験（80％）、小テスト（10％）、受講態度（10％）で総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、授業でフィードバックするので試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	指定した教科書は必ず購入すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回講義で指定する章を通読し、不明な点を明確にすること（予習）、不明な点が理解できたかを確認すること（復習）。						
オフィスアワー	月曜日・金曜日（3限、5限）						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					末吉秀二	
第2回	生態系と人類の特性					末吉秀二	
第3回	人類の起源と進化					末吉秀二	
第4回	生存様式の変化と多様性					末吉秀二	
第5回	生業と社会					末吉秀二	
第6回	身体とその機能					末吉秀二	
第7回	行動の生態学					末吉秀二	
第8回	栄養と健康					末吉秀二	
第9回	病気の生態学					末吉秀二	
第10回	長期的な人口変化					末吉秀二	
第11回	人口指標と集団の適応					末吉秀二	
第12回	現代の人口問題					末吉秀二	
第13回	エネルギーと資源					末吉秀二	
第14回	ライフスタイルと環境					末吉秀二	
第15回	地球環境問題と人類					末吉秀二	
第16回	試験					末吉秀二	
教科書							
教・書籍名1	人類生態学				教・出版社名1	東京大学出版会	
教・著者名1	大塚柳太郎・河辺俊雄・高坂宏一ほか				教・ISBN1	4-13-052300-7	
教・書籍名2					教・出版社名2		

教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	数学			担当者	山本 敦之		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-NM-0-007		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	迅速かつ確かな数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。						
授業概要	数的推理・資料解釈・判断推理・空間把握に関する課題を数学的かつ論理的に理解する力を身につける。具体的には、方程式や確率等の数的推理、データやグラフ等の資料解釈、論証や対応関係等の判断推理、立体図形や展開図等の空間把握に関する比較的身近な問題について考え、自ら解法を見つけ出し答えを導き出す。必要に応じて、解法を見つけ出すために必要な情報を収集する。更には、助言を適宜得ながら学生同士が教えあい学びあい、課題に対する数的理解を深める。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	数的理解力を把握するための単位認定試験（80%）、授業への積極的な参加態度（20%）をもとに総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。						
履修条件・注意事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は予め連絡すること。他の受講生らが迷惑に感じる言動は控えること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習と復習には各2時間を要する。時間をかけて問題に向き合い、多角的な視点や柔軟な思考を意識して予習・復習に取り組むこと。						
オフィスアワー	月曜5限						
授業計画						担当者	
第1回	数的推理：濃度					山本	
第2回	数的推理：速さ・距離・時間					山本	
第3回	数的推理：ものの値段と個数					山本	
第4回	数的推理：定価・原価・利益					山本	
第5回	数的推理：割合と値段					山本	
第6回	数的推理：仕事算					山本	
第7回	資料解釈：表の読み取り&資料の読み取り					山本	
第8回	数的推理：順列と組み合わせ					山本	
第9回	数的推理：確率のとらえ方					山本	
第10回	判断推理：集合					山本	
第11回	判断推理：推論					山本	
第12回	判断推理：ものの流れと比率&ブラックボックス					山本	
第13回	資料解釈：グラフの領域					山本	

第14回	判断推理：論証	山本
第15回	空間把握：立体の展開図・断面	山本
第16回	単位認定試験	山本
教科書		
教・書籍名1	2024年度版 ドリル式 SPI問題集	教・出版社名1 永岡書店
教・著者名1	柳本新二	教・ISBN1 9784522460122
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	数学			担当者	山本 敦之		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-NM-0-007		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと 論理的な思考	◎	DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	迅速かつ確かな数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。						
授業概要	数的推理・資料解釈・判断推理・空間把握に関する課題を数学的かつ論理的に理解する力を身につける。具体的には、方程式や確率等の数的推理、データやグラフ等の資料解釈、論証や対応関係等の判断推理、立体図形や展開図等の空間把握に関する比較的身近な問題について考え、自ら解法を見つけ出し答えを導き出す。必要に応じて、解法を見つけ出すために必要な情報を収集する。更には、助言を適宜得ながら学生同士が教えあい学びあい、課題に対する数的理解を深める。						
アクティブラーニングの 内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	数的理解力を把握するための単位認定試験（80%）、授業への積極的な参加態度（20%）をもとに総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	内容に応じて適宜指示する。						
履修条件・注意事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は予め連絡すること。他の受講生らが迷惑に感じる言動は控えること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ の時間	予習と復習には各2時間を要する。時間をかけて問題に向き合い、多角的な視点や柔軟な思考を意識して予習・復習に取り組むこと。						
オフィスアワー	月曜5限						
授業計画						担当者	
第1回	数的推理：濃度					山本	
第2回	数的推理：速さ・距離・時間					山本	
第3回	数的推理：ものの値段と個数					山本	
第4回	数的推理：定価・原価・利益					山本	
第5回	数的推理：割合と値段					山本	
第6回	数的推理：仕事算					山本	
第7回	資料解釈：表の読み取り&資料の読み取り					山本	
第8回	数的推理：順列と組み合わせ					山本	
第9回	数的推理：確率のとらえ方					山本	
第10回	判断推理：集合					山本	
第11回	判断推理：推論					山本	
第12回	判断推理：ものの流れと比率&ブラックボックス					山本	
第13回	資料解釈：グラフの領域					山本	

第14回	判断推理：論証	山本
第15回	空間把握：立体の展開図・断面	山本
第16回	単位認定試験	山本
教科書		
教・書籍名1	2024年度版 ドリル式 SPI問題集	教・出版社名1 永岡書店
教・著者名1	柳本新二	教・ISBN1 9784522460122
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	韓国地域社会			担当者	李 分一		
配当学科・研究科	2017～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018～2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-305		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年/2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	地域研究を学ぶ理由は、地域の安定（平和）と繁栄にある。分裂国家・韓国は、北朝鮮と並んで、日本の隣国である。そして日本は、隣国として朝鮮半島との平和的な共存・共生の関係を保つ必要がある。すなわち、様々なグローバルな課題と地域問題が交差する今日のグローバル社会では、特に日本と朝鮮半島との良好な関係を必要とするのである。この講義を受講すれば、韓国と周辺隣国に関する客観的・総合的な知識の習得とともに、国際地域問題に関する総括力・発表力が身に付けられる。						
授業概要	世界の地理上には、大小の様々な国家や地域が共存・共生している。それらは自然的、人文社会的な特徴を持ちながら、歴史的な経験を経て現在の国家・地域を形成している。韓国も例外ではない。地域の自然環境や社会環境における様々な地理的事情を有機的に結合して考察することにより、その地域の特色・性格を明らかにする。また、この講義では、戦後韓国社会における産業化や民主化過程を具体的な事例を取り上げて説明する。この科目を受講することにより、地理的な見方・認識の手法を学び取り、韓国などの異文化社会の理解や国際理解を深めることができる。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション						
評価方法と割合	定期試験（80％）、提出物（10％）、授業態度（10％）等によって評価する。提出物などは、授業でフィードバックを行うので、その提出物などの内容を明確に学習しなければならない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	(1) 授業後には、授業内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 (2) 単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	(1) 参加型授業であるために、受講生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。授業は、この課題をめぐって行う。 (2) 受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。						
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					李 分一	
第2回	韓国という国					李 分一	

第3回	韓国の歴史（民族と国家）	李 分一
第4回	韓国民主主義の位相と行方	李 分一
第5回	韓国民主主義の制約	李 分一
第6回	解放前の要因	李 分一
第7回	解放後の要因	李 分一
第8回	韓国の権威主義体制	李 分一
第9回	民主化・人権擁護運動	李 分一
第10回	1980年代の韓国	李 分一
第11回	1980年代の政治体制	李 分一
第12回	1990年代の民主化運動	李 分一
第13回	1990年代の民主化運動	李 分一
第14回	韓国政治社会の新潮流	李 分一
第15回	韓国の民主主義と市民社会	李 分一
第16回	単位認定試験	李 分一

教科書

教・書籍名1	プリント使用	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	公衆衛生学Ⅰ			担当者	中瀬 克己		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2019～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2019～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2019～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	HS-NU-1-116		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマは公衆衛生である。公衆衛生活動の目的は その国や地域の優先する健康問題に社会資源を配分したり、健康格差を減らしたりする事により、効率的に社会の健康課題に取り組むことである。個人よりは集団を対象とし、個々の病気の治療よりもその病気を起こりやすくしている環境や制度に注目する。現状や介入効果の評価を疫学や統計資料によって行い、学問的に精緻化されている。 到達目標：個人・家族・集団・組織を含むコミュニティ（共同体）を構成する人々の心身の健康並びに疾病・障害の予防、発生、回復及び改善の過程に関わる主要な要因について学び、健康課題を評価する基本的な能力を養う。						
授業概要	人を取り巻く社会・文化的、物理・化学・生物学的環境が人のライフスタイル・行動や健康に与える影響と仕組み、それをコントロールするため設けられている公衆衛生を担う機関やその働きの基礎を学ぶ。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク						
評価方法と割合	期末の試験（50％）と授業への取り組み姿勢及び提出物の内容（50％）で評価する。授業時にアンケートや練習問題を行い、個別の評価にも反映させる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業時にアンケートや練習問題を行い、必要時にフィードバックを行うとともに次回以降の講義内容、進捗等に反映させる。						
履修条件・注意事項	プリントを配布し、理解を助けるための演習も行うので、初回授業よりファイルを用意し整理して保存すること。期末試験時にはファイルを元に復習すると効率的である。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、自治体の公衆衛生部門において実務経験のある教員が担当し、現状や課題とその解決に必要なとされる知識や能力を含めて講義をすることによって、学生の理解を実際的なものとし又深める。				
事前学習・事後学習とその時間	「記憶」より「理解」が自らの考えを形作るためには重要である。「なぜそうなのか」といった疑問を持って授業に臨むと理解が深まる。一方、教科書は体系的で簡潔に纏められ確認や整理に有用であり、授業内容の背景理解にはテキスト、参考資料などで補うことを勧める。						
オフィスアワー	6号館4 6424研究室にて 毎週水曜2限 教授会がある日を除く または木曜 限を オフィスアワーとする。						
授業計画						担当者	
第1回	社会と健康					中瀬克己	
第2回	食のイメージマッピング					中瀬克己	
第3回	公衆衛生を担う機関					中瀬克己	
第4回	行動経済学					中瀬克己	
第5回	ソーシャルキャピタルとヘルスプロモーション					中瀬克己	
第6回	環境保健					中瀬克己	
第7回	医療政策					中瀬克己	
第8回	レポート発表、グループワーク					中瀬克己	
第9回	定期試験					中瀬克己	
第10回							

第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
第16回		

教科書

教・書籍名1	公衆衛生—健康支援と社会保 制度〈2〉14版（ただし、新たな版が出版されたら新しいものとする）	教・出版社名1	医学書院
教・著者名1	神馬征峰ら	教・ISBN1	978-4-260-03574-3
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	公衆衛生がみえる2022-2023	参・出版社名1	メディックメディア
参・著者名1	医療情報科学研究所(編)	参・ISBN1	4896328582、978-4896328585
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	看護学概論			担当者	掛谷 益子、澤田 和子		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2019～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2019～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2019～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	HS-NU-1-201		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	<p>〈テーマ〉看護とは何かを理解するための基盤となる看護の主な概念を学び、看護の対象となるその人とその生活を理解する。そして、看護を実践するための場と仕組みおよび看護専門職の役割や機能を学習する。</p> <p>〈到達目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の機能と役割、看護の構成要素を理解できる。 2. 看護の対象とある人とその生活を理解できる。 3. 看護活動を実践するために必要な法律について理解できる 						
授業概要	看護を志す初学者として、看護の核となる概念である人間、健康、環境について基本的捉えかたを学び、看護の対象や看護の役割について理解を深める。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	筆記試験（70％）課題レポート（20％）受講態度（10％）で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等については、授業でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	<p>看護とは何かを考えられるように主体的に学習に取り組む。</p> <p>日頃から保健・医療や福祉に関する新聞記事やニュース報道に関心を持ち、視野を広げておく。</p> <p>授業終了後は課題レポートを期限厳守で提出する。</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、臨床での実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、医療現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	<p>予習：授業において問題提起と討論が可能なように教科書の該当ページを熟読しておくこと。</p> <p>復習：授業終了後に授業内容を再確認する。</p>						
オフィスアワー	研究室にて平日昼休憩(12:40～13:30)に実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	看護とは 看護の概念					掛谷	
第2回	看護の役割と機能					掛谷	
第3回	看護の対象の理解 人間のこころ・からだ・発達					澤田	
第4回	看護の対象の理解 地域での暮らし					澤田	
第5回	健康とは					掛谷	
第6回	ライフサイクルと健康・生活					澤田	
第7回	看護の歴史					掛谷	
第8回	看護職のキャリア					掛谷	
第9回	看護における倫理 現代社会と職業倫理					掛谷	
第10回	看護における倫理 看護実践における倫理的問題					掛谷	

第11回	看護サービスの提供	掛谷
第12回	国際化と看護	澤田
第13回	看護をめぐる制度と政策	掛谷
第14回	災害時における看護	澤田
第15回	私の看護観	掛谷・澤田
第16回	試験	掛谷・澤田

教科書

教・書籍名1	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学① 看護学概論 医学書院	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	運動学Ⅰ			担当者	井上 茂樹		
配当学科・研究科	2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2020～2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	HS-PT-1-108		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	ヒトの身体運動に関する基本的な知識を学修する。主に、上肢帯と上肢の運動、顔面および頭部の運動、運動学的分析、姿勢、歩行と走行、運動発達、運動学習に関して学修する。 学生は、1) 身体運動に関する基礎的な知識を理解する、2) 運動器の構造と機能を理解する、3) 上肢帯と上肢の運動、顔面および頭部の運動、運動学的分析、姿勢、歩行と走行、運動発達、運動学習に関して理解を深め、基本事項を記憶できることを到達目標とする。						
授業概要	運動学は理学療法士の最も基本的な学問であり、また臨床の理学療法士が治療場面で応用する学問である。授業ではその中で主に、上肢帯と上肢の運動、顔面および頭部の運動、運動学的分析、姿勢、歩行と走行、運動発達、運動学習に関して学修する。参加型学習における授業であるが、運動学の基本事項についてより理解度を深めるために課題を与え、グループ討論も取り入れた授業を行う。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	参加型学習における授業への積極的参加態度（30%）、知識修得程度を確認するための試験（60%）、自ら調べまとめる能力を確認するための授業ノート（10%）で評価する。参加型学習を主体としていることから、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を重視する。詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことをもとにして、参加型学習法により授業を行うため、予習が必須である。 2) 指示に従って必ずノートを作成し復習すること。 3) 初回の授業では、今後の授業にて学修する全体像を説明するため必ず出席すること。 4) 隔週で行う小テストや定期試験は必ず行うため、授業に出席していただいただけでは単位は取れない。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員がその経験を活かし、臨床現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	事前に課題を出し、それについて調べてきたことをもとにして、参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。指示に従って必ずノートを作成し復習すること。試験は必ず行うので、授業に出席していただいただけでは単位はとれないため、必ず予習復習を行うこと。予習および復習には、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館4階の井上研究室（6437）において、毎週火曜日2時限目（11:10～12:40）をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	上肢帯の運動と構造					井上茂樹	
第2回	上肢の運動と構造 肩関節（1）					井上茂樹	
第3回	上肢の運動と構造 肘関節（2）					井上茂樹	
第4回	上肢の運動と構造 手関節（3）					井上茂樹	
第5回	上肢の運動と構造 手指（4）					井上茂樹	

第6回	運動と動作の分析 (1)	井上茂樹
第7回	運動と動作の分析 (2)	井上茂樹
第8回	体力と運動処方 (1)	井上茂樹
第9回	体力と運動処方 (2)	井上茂樹
第10回	姿勢 (1)	井上茂樹
第11回	姿勢 (2)	井上茂樹
第12回	姿勢 (3)	井上茂樹
第13回	歩行と走行 (1)	井上茂樹
第14回	歩行と走行 (2)	井上茂樹
第15回	歩行と走行 (3)	井上茂樹
第16回	単位認定試験	井上茂樹

教科書

教・書籍名1	基礎運動学 第6版 補訂	教・出版社名1	医歯薬出版
教・著者名1	中村隆一、齋藤 宏、長崎 浩	教・ISBN1	978-4-263-21153-3
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	作業療法概論 (オムニバス)			担当者	岩田 美幸、三宅 優紀、狩長 弘親、山本 倫子、京極 真、寺岡 睦		
配当学科・研究科	2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年 / 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年 / 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年 / 2020～2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年 / 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年 / 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年 / 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	HS-OT-1-201		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	【テーマ】 学生は、将来、作業療法士として従事することを目指し、保健・医療・福祉、あるいは新しく開拓される領域での作業療法の役割を多様な観点で捉えることができる。 【到達目標】 学生は、作業療法の専門性と独自性を明確に理解できることを目標とする。						
授業概要	作業的存在としての人と作業療法の役割を理解するために、作業のイメージを明確にし、各領域における作業療法の実践過程を理解する。また、作業療法の歴史的背景と実践理論の概要を学び、根拠に基づく実践の重要性と今後の作業療法への展望について検討する。						
アクティブラーニングの内容	PBL / ディスカッション / グループワーク / プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業への参加度 (50%)、単位認定レポート試験 (50%) の結果で総合評価する。 なお、単位認定レポート試験は採点結果を返却し、模範解答を掲示する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業内で課題や試験のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	グループワークや発表時に欠席した場合は成績評価に大きく影響するため、必ず担当教員に連絡すること。 日常生活の中で人（自分自身も含む）と作業の関係について洞察を深めること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、作業療法士としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、臨床現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業を確実に理解できるように教員が指定する内容を必ず1時間以上予習し、主体的に参加すること。また、授業後は重要な事項を必ず1時間以上復習しておくこと。						
オフィスアワー	月曜4限 (15:10～16:40)、6428研究室 ※他教員のオフィスアワーは別途確認						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション, 作業とは何か					京極	
第2回	作業療法の対象, Enabling occupation					岩田	
第3回	身体障害領域の作業療法					寺岡	
第4回	精神障害領域の作業療法					山本	
第5回	高齢者・認知症の作業療法					岩田	
第6回	作業療法の歴史 (起源)					京極	
第7回	作業療法の歴史 (パラダイムシフト)					京極	
第8回	作業療法の実践理論 (OBP2.0, MOHO)					寺岡	
第9回	作業療法の実践理論 (CMOP-E・OTIPM)					寺岡	
第10回	高次脳機能障害領域の作業療法					狩長	

第11回	発達障害領域の作業療法	外部講師
第12回	生活行為向上マネジメント	狩長
第13回	作業療法における研究の重要性	三宅
第14回	予防領域の作業療法	三宅
第15回	作業療法を取り巻く状況、まとめ	狩長
第16回	試験	京極

教科書

教・書籍名1	作業療法学概論 第3版 (標準作業療法学専門分野)	教・出版社名1	医学書院
教・著者名1	二木淑子・能登真一	教・ISBN1	978-4260025355
教・書籍名2	「作業」って何だろうー作業科学入門 第2版	教・出版社名2	医歯薬出版
教・著者名2	吉川ひろみ	教・ISBN2	978-4263216675

参考書

参・書籍名1	基礎作業学 第3版 (標準作業療法学専門分野)	参・出版社名1	医学書院
参・著者名1	濱口豊太	参・ISBN1	978-4260030557
参・書籍名2	作業療法士になろう!	参・出版社名2	青弓社
参・著者名2	齋藤さわ子	参・ISBN2	978-4787210531

授業科目名	人間と作業			担当者	寺岡 睦		
配当学科・研究科	2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年 / 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年 / 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年 / 2020～2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年 / 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年 / 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年 / 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	HS-OT-1-217		
必修・選択	必須	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	講義、AL
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	テーマ：学生は、作業療法士が主とする「作業」が健康と幸福に与える影響を理解できる 到達目標：学生は、講義とアクティブラーニングを通して、作業が人間の健康と幸福に与える影響を理解できる						
授業概要	<p>作業とは、人間が経験すること全てである。</p> <p>作業療法士になるためにはこの作業を理解し、作業療法という方法を使ってクライアントへ介入を行う必要がある。</p> <p>そのためには作業がもつ力を理解し、健康と幸福に近づく作業の使い方を教えたり、やり方を変更したり、自身で運用できるようになることが求められる。</p> <p>作業は経験である以上、どのような経験を積むかによって将来の健康と幸福が変化する。</p> <p>質の悪い経験＝作業機能障害を積み重ねると人の健康と幸福は阻害される。</p> <p>しかし質の良い経験＝作業機能状態を積み重ねると人の健康と幸福は促進される。</p> <p>この科目では、健康と幸福に特に良い影響を与える作業を学生に紹介し、実際に体験する時間を設けることでその影響や効果を理解し、解釈出来るように構成している。</p> <p>この科目は、作業科学を研究し、臨床現場で実践していた者が講義を行う。人間が行う作業が健康と幸福に関連する基礎知識に加え、臨床現場での活用方法なども講義し学生の理解を深める。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目</p> <p>この科目は、作業に根ざした実践の研究及び臨床での実務経験を持っている教員が、その経験を活かし実践的に役立つ授業を実施する。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク						
評価方法と割合	試験60％，提出物20％，授業への態度20％で評価する。なお，提出物へのフィードバックは授業内で行う。						
ルーブリック評価	本科目ではルーブリック評価を用いる。 /uprx/sagyou.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	課題提出のフィードバックは書面上、もしくは授業時間内に行う。 試験のフィードバックは提出された問題用紙の返却をもって行う。						
履修条件・注意事項	授業の復習をきちんと行うこと 講義内で出た課題には取り組むこと						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、作業に根ざした実践の研究及び臨床での実務経験を持っている教員が、その経験を活かし実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	予習はシラバスについて記載されているテーマについて教科書を読み、事前にインターネットなどを活用し調べておくこと。 予習の時間は1時間程度とする。 講義終了時に、作業を習得して効果を体験してもらうために課題を毎回出すので必ず行うこと。						

	課題は30分～1時間程度で行える内容で提供する。課題は次回の講義前までに提出すること。		
オフィスアワー	授業終了後、教室で行う。それ以外は月曜か金曜に6430研究室で対応する		
授業計画		担当者	
第1回	オリエンテーション	寺岡	
第2回	作業と健康と幸福の関係性	寺岡	
第3回	意志力と作業、演習、課題発表	寺岡	
第4回	疲労と作業、演習、課題発表	寺岡	
第5回	感謝と作業、演習、課題発表	寺岡	
第6回	フローと作業、演習、課題発表	寺岡	
第7回	人間関係と作業、演習、課題発表	寺岡	
第8回	挫折と作業、演習、課題発表	寺岡	
第9回	ストレス軽減と作業、演習、課題発表	寺岡	
第10回	強みと作業、演習、課題発表	寺岡	
第11回	レジリエンスと作業、演習、課題発表	寺岡	
第12回	習慣と作業、演習、課題発表	寺岡	
第13回	自己肯定感と作業、演習、課題発表	寺岡	
第14回	睡眠と作業、演習、課題の発表	寺岡	
第15回	人間と作業まとめ	寺岡	
第16回	単位認定試験	寺岡	
教科書			
教・書籍名1	「作業」って何だろう 作業科学入門 第2版	教・出版社名1	医歯薬出版
教・著者名1	吉川ひろみ	教・ISBN1	4263216679
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	発達心理学			担当者	宇都宮 真輝		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2019～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2019～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2019～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	PS-PS-1-307		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマは、様々な視点から人間の発達過程について理解することである。そのために、身体、脳、感情、認知、人間関係の発達など、様々な観点から人間の発達を分析し、理解するための知識を身に付けられるようになることを到達目標とする。						
授業概要	胎児期、乳幼児期、児童期、青年期、成人期の各時期における発達の様相や発達課題について様々な観点から学習する。また、各発達段階における臨床的問題についても学習し、心理的援助についての考察も深める。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	評価は、受講態度（10％）、小テスト・レポート（30％）、期末試験（60％）とし、総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	小テスト、レポートは授業時間内に答え合わせやフィードバックを行う予定。						
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 事前に各回の内容について伝達するので、予習を行うこと。小テストなども行うので、自身の習熟度を確認し、復習を欠かさないこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	臨床心理士、公認心理師の資格を有しており、心理相談室、学生相談、スクールカウンセリングにおける実務経験あり。				
事前学習・事後学習とその時間	予習として次回の内容について教科書を読むこと。授業で学習し、ノートにまとめた内容について復習してくる。次回の授業時に口頭で質問したり、小テスト等で確認します。予習・復習には、1-2時間程度を要する。						
オフィスアワー	研究室にて、火曜日4時限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					宇都宮	
第2回	ライフサイクルについて					宇都宮	
第3回	胎児期					宇都宮	
第4回	新生児期					宇都宮	
第5回	乳児期：愛着の形成					宇都宮	
第6回	乳児期：言葉の発達					宇都宮	
第7回	幼児期：表象の獲得					宇都宮	
第8回	幼児期：社会性の発達					宇都宮	
第9回	児童期：有能感と劣等感					宇都宮	
第10回	児童期：学校への適応・いじめ					宇都宮	
第11回	青年期前期					宇都宮	
第12回	青年期後期					宇都宮	
第13回	青年期の病理					宇都宮	
第14回	成人期					宇都宮	
第15回	まとめ					宇都宮	
第16回	期末試験（筆記試験）					宇都宮	

教科書			
教・書籍名1	よくわかる発達心理学	教・出版社名1	ミネルヴァ書房
教・著者名1	無藤隆・岡本祐子・大坪治彦（編）	教・ISBN1	978-4-623-05379-7
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	保育の心理学Ⅰ			担当者	森井 康幸		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2019～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／ 2019～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2019～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	PS-CE-2-212		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年 / 2年		開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 11. 住み続けられるまちづくりを / 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	<p>発達とは人と人の関わりのなかで生じていることを中心に、乳幼児の保育や幼児教育を行っていくうえで必須となる子どもの心身発達の基礎となる心理学的知見を学ぶことをテーマとする。</p> <p>到達目標：子どもの生得的なすばらしい能力とその発達過程を理解し、子どもに対する興味・関心を高め、より多面的に理解できるようになる。</p>						
授業概要	保育実践における子どもの発達理解の意義について学ぶとともに、発達に関わる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。また、子どもの発達に関わる他者との関わり、社会的相互作用等についても理解する。さらに、生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育実践との関わりについて考察する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	ほぼ隔週で行う小テストまたはミニ・レポートの得点（30％）と定期試験の得点（70％）に、受講態度の評価点（0～1）を乗じたもので評価する。したがって、テストで満点であっても、受講態度の評価点が0.5の場合は100点×0.5で50点となるので注意すること。小テストは採点后、返却するので、定期試験に向けて、しっかり見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	小テストの返却と、必要に応じて補足解説を行う。						
履修条件・注意事項	<p>上述のように、ほぼ隔週で小テストを行なうので、最低限、教科書の該当箇所を熟読しておくこと。</p> <p>小テストは前回の授業内容の復習テスト、あるいは当日の授業内容の理解テストを中心に行なう予定である。</p> <p>保育士の資格取得には必須科目である。</p>						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	<p>予習としては、あらかじめテキストに目を通しておくこと。（2時間）</p> <p>復習は、配付資料とともに、再度テキストを読むこと。（2時間）</p> <p>返却された小テストも確認しておくこと。</p>						
オフィスアワー	月曜4限 教員研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション						森井
第2回	発達を考える（第1章）						森井
第3回	人との関わりの基盤						森井
第4回	子ども同士の関わりの進展						森井
第5回	身体的機能と運動機能の発達－個人差と環境－						森井
第6回	運動機能の発達と心理的発達との関連						森井
第7回	ピアジェ理論とその再検討						森井
第8回	世界づくりの開始－認知発達の基盤						森井
第9回	世界づくりの展開－身の回りの世界についての理解の構成						森井

第10回	言語発達の基礎一人との関わりから育まれる言葉	森井
第11回	言語を使った世界の広がり	森井
第12回	乳幼児期の学びに関わる理論	森井
第13回	乳幼児期の学びの過程と特性	森井
第14回	乳幼児期の学びを支える保育	森井
第15回	まとめ	森井
第16回	定期試験	森井
教科書		
教・書籍名1	保育の心理学	教・出版社名1 北大路書房
教・著者名1	藤崎 真知代・無藤 隆	教・ISBN1 978-4-7628-3152-2
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	エピソードで学ぶ 乳幼児の発達心理学	参・出版社名1 新曜社
参・著者名1	岡本依子・菅野幸恵・塚田-城みちる	参・ISBN1 978-4-7885-0907-8
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	対人関係論			担当者	栗田 喜勝		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2019～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年／ 2019～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2019～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	PS-CE-3-219		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年 / 3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう 						
到達目標	「社会における人と人との相互作用」と「社会的適応」をテーマとして、人々の具体的な日常生活場面における対人行動の特徴を理解することにより、よりよい人間関係のあり方について考察を深めることができるようになる。						
授業概要	心理学は一般的に「行動の科学」として認知されているが、その研究アプローチは多岐にわたる。中でも個人心理学は、環境との相互作用を行う個体（個人）に注目して知覚や感情、思考などについて科学的に究明してきたが、社会心理学は、個人と他者よの相互作用の観点から、社会の中の個人の行動を科学的に理解しようとする学問体系であるといえる。そこで本講では、個人、集団に影響を及ぼす種々の心理的要因について具体的に取り上げ考察する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション / その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	受講態度（質疑・意見表明等の有無）（40%）・期末試験（60%）で総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業中に呈示する自主学修課題については、学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。						
履修条件・注意事項	主体的、積極的に参加すること。 授業の中で使用する各種の資料や心理テスト類をファイルにより呈示するので受講の前にあらかじめよく目を通し（予習）、授業後は内容を確認し整理し（復習）、以後の学習に活用してほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前にファイル呈示する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。 2) 毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な参加と事前の準備、授業後の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。 3) 単位認定試験には、毎回の質疑応答内容を含めるので、予習復習の学修成果が大切である。						
オフィスアワー	個人研究室にて、基本的には木曜日4限、金曜日5限にPCオンライン・電話・メール等で実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。						
授業計画						担当者	
第1回	心理学と社会心理学					栗田喜勝	
第2回	社会心理学の対象と研究方法について					栗田喜勝	
第3回	社会的認知について					栗田喜勝	
第4回	社会的相互作用について					栗田喜勝	
第5回	社会的欲求と適応行動について					栗田喜勝	
第6回	人間関係とストレス					栗田喜勝	
第7回	人間関係とフラストレーション					栗田喜勝	
第8回	人間関係と認知					栗田喜勝	
第9回	印象形成について					栗田喜勝	

第10回	人間関係と感情	栗田喜勝	
第11回	社会的態度と行動について	栗田喜勝	
第12回	社会的態度（1）ステレオタイプ	栗田喜勝	
第13回	社会的態度（2）偏見	栗田喜勝	
第14回	態度変容について	栗田喜勝	
第15回	学修のまとめ	栗田喜勝	
第16回	期末試験	栗田喜勝	
教科書			
教・書籍名1	初回講義時および毎講義時に授業用資料をファイルにより呈示する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	ワークショップ人間関係の心理学	参・出版社名1	ナカニシヤ出版
参・著者名1	藤本忠明他編著	参・ISBN1	4-88848-833-9
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	デジタルメディアと社会			担当者	大谷 卓史		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2019年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	AN-AN-1-108		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／12. つくる責任・つかう責任／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>映像をもとに、現代の情報技術とコミュニケーションをめぐる倫理的問題について学ぶ。 現代は、情報技術が広く社会に浸透し、人びとのコミュニケーションと行為を媒介する情報社会である。また、現代の情報技術はデジタルコンピューティングをベースとしているので、現代の社会はデジタル技術とデジタルメディアを行為とコミュニケーションの基盤とする社会と見ることができる。 本講義は、デジタルメディアを媒介とする行為・コミュニケーションの性質を理解し、これらの行為・コミュニケーションにおける規範がどのようなものであるべきか構想するために必要な情報倫理学の基本的な考え方を学ぶ。 到達目標は、学生が次の3つのことができるようになることである。 1. デジタルメディアが媒介する行為やコミュニケーションの性質を理解できるようになる。 2. 倫理学の基本的な考え方とその枠組みを理解できるようになる。 3. デジタルメディアが媒介する行為やコミュニケーションにおいて、どのような法的・倫理的問題が生じる可能性があるか理解できるようになる。 ラーニングアウトカムは、「デジタルメディアと情報社会の理解」および「デジタル社会への参加態度」である。</p>						
授業概要	<p>現代において、デジタルメディアが媒介する私たちの行為とコミュニケーションにかかわる諸問題について、仮想的事例や現実の事例から学ぶ。これらの諸問題に対する基本的なアプローチには、1980年代以降に発展してきた情報倫理学の考え方や枠組みを活用する。 具体的事例を通して、現代の生活や社会のさまざまな局面における情報技術の働きを知るとともに、情報技術が基盤となる現代社会における情報とコミュニケーションの倫理的問題について考察する。授業では適宜映像作品やドキュメンタリー、講演・シンポジウムの映像記録などを活用して、現代の問題を考察できるようにする。 講義の最終回に全体のまとめをおこなう。 毎回簡単な課題提出を求める。内容は自分の意見であれば自由で採点には関係がないが、授業内容を理解したうえで意見であるかどうかなどを課題で確認する。課題に対しては、次回以降授業担当者から返答を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義内における自主的な質問・発言やディスカッションへの積極的な参加態度、講義内容にかかわる教員からの質問への回答を30%の重みづけで評価する（受講態度）。また、課題等の提出物10%、試験の成績を60%として最終的に総合評価を行う。これらの3つの評価をバランスよく得ていることを単位認定（到達目標）の判断基準とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード	授業課題に関しては、次回授業でコメントシート（シャトルカード）や、授業内での言及・コメントなどによって						

バック方法	(原則課題回答者名は匿名)、フィードバックする。	
履修条件・注意事項	授業に積極的に取り組む姿勢が単位取得には必要です。 講義形式の場合も、授業中に受講者に対して質問をします。また、授業の最後には、授業内容に関連した課題を出しますので、解答してください。解答に対しては、次回以降の授業でコメントや解説をします。 授業計画の内容は、理解度の状況に応じて変更になることがあります。	
実務経験のある教員	該当しない	内容
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対して、次のように予習・復習をおこなうこと。 予習：レジュメ等の資料を配布するので、指示に従って予習すること。約2時間。 復習：授業内容と資料を要約し、授業内で提示された課題について自分自身で考え回答する。約2時間。	
オフィスアワー	春学期：毎週木曜日4時限目、14617研究室（大谷研究室） 秋学期：毎週水曜日3時限目、14617研究室（大谷研究室）	

授業計画		担当者
第1回	イントロダクション	大谷
第2回	なぜ情報倫理が必要なのか	大谷
第3回	倫理とは何だろうか（1）倫理学と倫理・倫理学で使われる言葉	大谷
第4回	倫理とは何だろうか（2）倫理学の基本的な立場	大谷
第5回	グーグル革命（ビデオ教材）視聴と解説	大谷
第6回	サーチエンジンの倫理	大谷
第7回	ソーシャルネットワーキングサービス	大谷
第8回	フェイクニュースと情報の信頼	大谷
第9回	プライバシーの基礎	大谷
第10回	個人情報保護制度とその思想	大谷
第11回	監視と見守り	大谷
第12回	著作権の法・技術・ビジネス	大谷
第13回	AI・ロボットの倫理	大谷
第14回	バーチャルリアリティ	大谷
第15回	まとめ	大谷
第16回	筆記試験（オンライン試験機能利用も）	大谷

教科書			
教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	改訂新版 情報倫理入門	参・出版社名1	アイ・ケイコーポレーション
参・著者名1	土屋俊監修、大谷卓史編著、江口聡、喜多千草、永崎研宣、村上祐子、坪井雅史、川口嘉奈子、吉永敦征、川口由起子著	参・ISBN1	4874923240
参・書籍名2	AIの倫理学	参・出版社名2	丸善出版
参・著者名2	クーケルバーグ著、直江清隆訳者代表	参・ISBN2	978-4621305881

授業科目名	スポーツ経営学			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2019～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-101		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	人々のスポーツのニーズや欲求に対して、スポーツを商品やサービスとして提供する営み（事業）をテーマに、スポーツ経営学の基礎的な理解を深め、実践領域としてスポーツ経営の現代的な課題への改善や解決方法を考えることができる。						
授業概要	スポーツ経営における経営資源をいかに有効に（効果的・効率的に）活用して、スポーツサービスの生産・提供を行い、スポーツ振興という社会的・文化的な貢献をしながら長期的なスポーツ経営体の発展を可能にするかという問題や組織的活動からいかにして協働をうまく展開し、組織目的の達成に個人の貢献を獲得できるかということが問題となる。本講義では、スポーツ経営学の基礎的な理解を深め、実践領域としての現代的課題を取り上げ解説する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	単位認定試験（40％）中間レポート（30％）毎回の小レポート（20％）受講姿勢（10％）評価の詳細は、第1回目の授業で説明する。なお、評価のために実施した小レポートは、授業でフィードバックするので単位認定試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義終了後の小レポートを通して、次の講義導入時にポイントをフィードバックする。						
履修条件・注意事項	<p>保健体育科教諭資格選択必修科目 （公財）日本スポーツ協会公認スポーツリーダー・アシスタントマネージャー受験資格必修科目</p> <p>パワーポイントの資料は配布しないので、ノート・ルーズリーフ等は必ず持参すること。授業に対する取り組みについては、厳しく指導する。</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	中・高校保健体育科教員として、また日本女子サッカーリーグ所属クラブ監督・ホームゲーム運営責任者としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場をはじめスポーツ指導現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、課す小レポートの内容及び授業内容を必ず2時間程度復習するとともに次のテーマについて予習すること。						
オフィスアワー	個人研究室（9405）にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション・スポーツ経営学とは！？					高藤	
第2回	スポーツ生活と運動生活					高藤	
第3回	スポーツ事業と経営資源					高藤	
第4回	エリアサービス事業					高藤	
第5回	プログラムサービス事業					高藤	
第6回	クラブサービス事業					高藤	
第7回	地域スポーツクラブ運営					高藤	
第8回	クラブ運営の具体的方法					高藤	
第9回	クラブ運営の具体的内容					高藤	

第10回	スポーツ組織のマネジメント	高藤
第11回	スポーツ事業のマーケティング	高藤
第12回	スポーツ経営の現代的課題（学校体育と地域スポーツクラブ）	高藤
第13回	スポーツ経営の現代的課題（学校体育）	高藤
第14回	スポーツ経営の現代的課題（地域スポーツクラブ）	高藤
第15回	スポーツ経営の現代的課題（民間スポーツクラブ）	高藤
第16回	単位認定試験	高藤
教科書		
教・書籍名1	体育・スポーツ経営学講義	教・出版社名1 大修館書店
教・著者名1	八代勉・中村平 編	教・ISBN1 4-469-26480-6
教・書籍名2	公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	教・出版社名2 (公財)日本体育協会
教・著者名2	(公財)日本体育協会 編	教・ISBN2 214K1T 214K2T 214K3T
参考書		
参・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	スポーツビジネス論 集中			担当者	高岡 敦史		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-102		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	<p>8. 働きがいも経済成長も / 10. 人や国の不平等をなくそう / 11. 住み続けられるまちづくりを / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>《テーマ》スポーツをビジネスとして展開することの拡がりを理解すること 《到達目標》多様化するスポーツビジネスを理解し、その基礎的な考え方を身に付け、自身で次世代のスポーツビジネスを構想できるようになること</p>						
授業概要	<p>多様化する今日のスポーツビジネスを概観し、スポーツの拡がりとともにビジネスとの結びつきがどのように変化してきたかを理解する。その上で、みるスポーツのビジネス、するスポーツのビジネス、スポーツを活用したビジネス、スポーツや地域の課題を解決するビジネスなどを解説する。 また、新たなスポーツビジネスを構想するグループワークを実施し、事業構想とビジネスモデルの構築、資源調達、組織づくり等を実践する。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/グループワーク/プレゼンテーション						
評価方法と割合	グループワークとその成果 (50%) , 期末レポート (50%) にて評価する						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業担当者との直接のやり取りでフィードバックする。						
履修条件・注意事項							
実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員はスポーツまちづくり会社の経営にも携わっている。				
事前学習・事後学習とその時間	グループワークに関連して調べ学習を要求することがある。						
オフィスアワー	授業時間外はメールにて対応する。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション/スポーツとは? ビジネスとは?					高岡	
第2回	多様化するスポーツビジネス/するスポーツのビジネス					高岡	
第3回	多様化するスポーツビジネス/みるスポーツのビジネス					高岡	
第4回	多様化するスポーツビジネス/スポーツを活用したビジネス					高岡	
第5回	多様化するスポーツビジネス/スポーツと地域の課題を解決するビジネス					高岡	
第6回	多様化するスポーツビジネス/これまでとこれから					高岡	
第7回	グループワーク: 事業構想・ビジネスモデルの構築①					高岡	
第8回	グループワーク: 事業構想・ビジネスモデルの構築②					高岡	
第9回	グループワーク: 事業展開に必要な資源の調達					高岡	
第10回	グループワーク: 事業展開に必要な組織					高岡	
第11回	グループワーク: プレゼンテーションの準備					高岡	
第12回	プレゼンテーション: 新しいスポーツビジネス構想①					高岡	
第13回	プレゼンテーション: 新しいスポーツビジネス構想②					高岡	
第14回	まとめ: 次世代のスポーツビジネスの考え方					高岡	
第15回	まとめ: スポーツとビジネスの未来					高岡	
第16回	単位認定レポート作成					高岡	
教科書							
教・書籍名1						教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	

教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツリーダーシップ論 集中			担当者	前田 信弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-103		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	「スポーツにおけるリーダーシップを理解する」をテーマとし、スポーツ集団・組織におけるリーダーシップの基礎知識を学び、それらの知見を実際のスポーツ現場で活用し、チームパフォーマンスを向上させる能力を習得できる。						
授業概要	スポーツ集団においてはリーダーの存在がパフォーマンスに大きな影響を及ぼす。まず、これまでのリーダーシップ研究の主な理論また心理学的な視点からリーダーシップについて基本的知識を学習する。また、それらをベースにリーダーシップを実際の現場で如何に発揮するかの能力を、これまでの事例分析、グループワーキング(現場で起こる様々な問題について課題発見・原因追求・解決方法)を通して獲得できるよう授業を行う。						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/グループワーク/プレゼンテーション						
評価方法と割合	取り組む姿勢・授業態度30% 課題発表(個人・グループワーキング)40% 試験30%						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	小テスト・レポート回収後、好事例の共有や解説(更なる施策、考え方など)を行う						
履修条件・注意事項	スポーツ現場における各々の「リーダーシップ」についてこれまでの経験についてまとめ参加すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	サッカー日本女子代表コーチとして、FIFA女子ワールドカップ、オリンピック、アジア大会など国際大会での活動経験 (公益財団法人)日本サッカー協会JFAコーチとして、様々なカテゴリーのユース選手育成の経験 (公益財団法人)日本サッカー協会JFA指導者養成コースでのインストラクターとしての経験				
事前学習・事後学習とその時間	復習しグループワーキングでいかせるよう必ずノートを作成(要点をまとめる)すること 授業前に前回の授業についての振り返りをおこなうため各授業ごとに各々考えを整理しておくこと						
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	ガイダンス					前田	
第2回	集団(チーム)についての理解					前田	
第3回	集団におけるリーダーの役割					前田	
第4回	リーダーシップのスタイル					前田	
第5回	リーダーシップ理論					前田	
第6回	現場でのリーダーシップ発揮にむけて					前田	
第7回	ビジョンを掲げる(現状の分析)					前田	
第8回	ビジョン実行にむけて(コミュニケーションスキル)					前田	
第9回	メンバーのやる気をひきだす(動機づけ)					前田	
第10回	メンバーを育てる(コーチング)					前田	
第11回	リーダーのテクニック(パワーをつかう)					前田	
第12回	グループワーキング1(課題抽出・ビジョン作成)					前田	
第13回	グループワーキング2(解決策の提示・プレゼン準備)					前田	

第14回	グループ発表1		前田
第15回	グループ発表2/フォローシップについて		前田
第16回	筆記試験		前田
教科書			
教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	リーダーシップに「心理学」を生かす	参・出版社名1	ダイヤモンド社
参・著者名1	ハーバードビジネスレビュー編集部	参・ISBN1	4-478-36085-5
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツマネジメント論			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-104		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	<p>8. 働きがいも経済成長も / 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう / 10. 人や国の不平等をなくそう / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	スポーツ現場におけるマネジメントをテーマとして、身体活動のみならず、ビジネス活動、文化活動など社会的活動としての価値を急速に高めつつあるスポーツの過程の知識を身につける。加えて、学生がスポーツの様々な場面において、効果的なマネジメントを行なうことができる。						
授業概要	現代ではスポーツに関わる様々な活動がビジネスとして行われるようになってきている。そして、これらのビジネスにおいて高度なマネジメントの知識と技能が要求されつつある。本講義では、スポーツマネジメントの基礎的概念についての理解を深め、マネジメントの基礎を習得するとともに、現代においてマネジメントがどのようにスポーツの場面で応用されているのかについて解説する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	単位認定試験（40％）中間レポート（30％）毎回の小レポート（20％）受講姿勢（10％）評価の詳細については、第1回目の授業において説明する。なお、評価のために実施した小レポートは、授業でフィードバックするので単位認定試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎回の講義終了後の小レポートの内容を通して、次回の講義導入時にポイントを説明する。						
履修条件・注意事項	<p>（公財）日本スポーツ協会公認アシスタントマネージャー受験資格必修科目</p> <p>パワーポイントの資料は配布しないので、ノート・ルーズリーフ等は必ず持参すること。授業に対する取り組みについては、厳しく指導する。</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、日本女子サッカーリーグ所属クラブ監督・運営責任者の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、スポーツマネジメント現場における現状や課題、必要とされる知識や能力について講義し、学生の理解を深める。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、課す小レポートの内容及び授業内容を必ず毎回2時間程度、復習するとともに次回のテーマについて予習すること。						
オフィスアワー	個人研究室（9号館4階）にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション・スポーツマネジメントとは！？					高藤	
第2回	スポーツとスポンサー					高藤	
第3回	スポーツマーケティング					高藤	
第4回	スポーツクラブにおけるマネジャーの役割（マネジャーとは）					高藤	
第5回	スポーツクラブにおけるマネジャーの役割（MGの位置づけ）					高藤	
第6回	アメリカのトップリーグのマネジメント					高藤	
第7回	ヨーロッパのトップリーグのマネジメント					高藤	
第8回	日本におけるプロ野球とプロサッカーリーグのマネジメント					高藤	
第9回	みるポーツのマネジメント					高藤	
第10回	プロ選手・プロクラブのマネジメント					高藤（外部講師）	
第11回	地域スポーツクラブのマネジメント					高藤（外部講師）	
第12回	スポーツビジネスにおけるマネジメント					高藤	
第13回	日本女子サッカーリーグ所属クラブのマネジメント					高藤（外部講師）	

第14回	スポーツ施設のマネジメント		高藤
第15回	総括・最終レポート		高藤
第16回			
教科書			
教・書籍名1	体育・スポーツ経営学講義	教・出版社名1	大修館書店
教・著者名1	八代勉・中村平 編	教・ISBN1	4-469-26480-6
教・書籍名2	公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	教・出版社名2	(公財)日本スポーツ協会
教・著者名2	(公財)日本スポーツ協会	教・ISBN2	214K1T 214K2T 214K3T
参考書			
参・書籍名1	使用しない(プリントを配布する)	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	社会スポーツ概論			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2019～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2019～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1 年／2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社 4年			ナンバリング	SS-SM-4-105		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年 / 4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと 論理的な思考	◎	DP4. コミュニケー ション・表現力	○
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 10. 人や国の不平等をなくそう 						
到達目標	学生が、「社会スポーツの概念」及び「社会制度としての社会スポーツの実態」をテーマとし、それらについて地域のスポーツ指導者になるために必要な知識を習得するとともに、指導者としての能力をスポーツ指導現場において発揮できる。						
授業概要	現在スポーツは、特に先進諸国においては人々の社会生活の一部となり、きわめて高度に整備され機能している。しかしながら、学校体育や企業スポーツを中心にスポーツが普及・発展してきたわが国の社会スポーツは、1993年日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）開幕以降、文部科学省や日本体育協会、スポーツ競技団体を中心にようやく発展しつつある現状である。また、バブル経済の崩壊、リーマンショック以降、企業クラブが休・廃部が増加する一方、地域・市民を中心とした総合型地域スポーツクラブも増加傾向にある。本講義では、スポーツと社会に関わる様々なしくみや課題及び今後の展望を解説する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	単位認定試験（40％）中間レポート（30％）毎回授業終了後のプレゼンテーション（20％）受講姿勢（10％）評価の詳細については、第1回目の授業において説明する。なお、評価のために実施した小レポートは、授業でフィードバックするので単位認定試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義終了後の小レポートを通して、次回の講義導入時にポイントをフィードバックする。						
履修条件・注意事項	授業終了後の小レポート内容とともに自分なりの考察を毎回授業後、ノートにまとめておくこと。授業に対する取り組みについては、厳しく指導する。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	授業終了後、毎回2時間程度授業内容を必ず復習し、次回のテーマについて予習すること。						
オフィスアワー	個人研究室（9405）にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	社会スポーツの概念					高藤	
第2回	学校体育との相違点					高藤	
第3回	日本における社会スポーツ発展の歴史					高藤	
第4回	アメリカにおける社会スポーツ発展の歴史					高藤	
第5回	ヨーロッパにおける社会スポーツ発展の歴史					高藤	
第6回	日本における社会スポーツの現状					高藤	
第7回	社会スポーツ発展のための行政支援					高藤	
第8回	社会スポーツ発展のための企業支援					高藤	
第9回	FC吉備国際大学シャルムの実践を通じた地域貢献活動					高藤	
第10回	地域スポーツクラブ活動の現状と課題					高藤	
第11回	社会スポーツ発展のための地域住民とのタイアップ					高藤	
第12回	民間スポーツクラブの現状と課題					高藤	
第13回	プロスポーツの社会スポーツへの貢献と課題					高藤	

第14回	スポーツを通したまちづくり（地域スポーツクラブ）	高藤
第15回	スポーツを通したまちづくり（トップリーグクラブ）	高藤
第16回	単位認定試験	高藤
教科書		
教・書籍名1	スポーツのリスクマネジメント	教・出版社名1 ぎょうせい
教・著者名1	小笠原正・諏訪伸夫 編著	教・ISBN1 978-4-08838-8
教・書籍名2	スポーツ政策の現代的課題	教・出版社名2 日本評論社
教・著者名2	諏訪伸夫・井上洋一・齋藤健司・出雲輝彦 編	教・ISBN2 978-4-535-59514-0
参考書		
参・書籍名1	使用しない。（プリントを配布する）	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	体育・スポーツ行政論			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-106		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 11. 住み続けられるまちづくりを / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	「体育・スポーツ」と「行政」の関わり及びスポーツ振興における行政の役割をテーマに、学生が体育・スポーツ行政に関する基礎的知識を習得し、将来体育・スポーツ指導者としての能力が発揮できる。						
授業概要	現代社会においてスポーツ活動は社会の様々な分野で実施されているが、地域及び国家単位での社会的なスポーツ活動の成立には、行政の制度的な支援が必要不可欠である。特にスポーツ先進国といわれる北米、ヨーロッパ及び日本では、スポーツの普及振興に当たっては国家を中心とする強力な行政システムの支援が、スポーツの社会的発展の初期の段階においては顕著に認められている。また、これらの国や地域ではスポーツ活動が社会的に成熟した今日にあっても充実した制度とサービスで国民のスポーツ活動を手厚く支援している。本講義では、スポーツ先進国といわれる代表的な国のスポーツ行政の制度的発展とその運用の実態について歴史的に追跡し、それぞれの制度がその国のスポーツ振興にいかなる役割を果たし、またいかなる課題を提示したかについて検証するとともに、わが国の体育・スポーツ行政の歴史的発展と対比させ、その評価すべき点と問題点を明らかにし、21世紀におけるわが国のよりよいスポーツ振興のためにいかなる制度と行政サービスを充実させる必要があるかについて解説する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	単位認定試験（40％）中間レポート（30％）毎回の小レポート（20％）受講姿勢（10％）評価の詳細については、第1回目の授業において説明する。なお、評価のために実施した小レポートは、授業でフィードバックするので単位認定試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義終了後の小レポートを通して、次回の講義導入時にポイントをフィードバックする。						
履修条件・注意事項	<p>保健体育科教諭資格選択必修科目 （公財）日本スポーツ協会公認スポーツリーダー・アシスタントマネージャー受験資格必修科目</p> <p>パワーポイントの資料は配布しないので、ノート・ルーズリーフ等は必ず持参すること。授業に対する取り組みについては、厳しく指導する。</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	中・高保健体育科教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、課す小レポートの内容及び授業内容を必ず毎回2時間程度、復習するとともに次回のテーマについて予習すること。						
オフィスアワー	個人研究室（9405）にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション～体育・スポーツ行政とは！？					高藤	
第2回	地域におけるスポーツ振興方策と行政の関わり					高藤	
第3回	スポーツ行政のしくみ					高藤	
第4回	スポーツ競技団体の施策					高藤	
第5回	スポーツ基本法とスポーツ基本計画					高藤	
第6回	2000年以降のスポーツ振興に関する計画と戦略					高藤	
第7回	総合型地域スポーツクラブとは！？					高藤	
第8回	総合型地域スポーツクラブの育成と運営					高藤	

第9回	地域スポーツクラブの必要性と社会的意義	高藤
第10回	スポーツライフとクラブライフ	高藤
第11回	スポーツクラブの作り方	高藤
第12回	地域におけるスポーツクラブとしてのスポーツ少年団	高藤
第13回	アメリカにおける体育・スポーツ行政	高藤
第14回	イギリスにおける体育・スポーツ行政	高藤
第15回	総括・最終レポート	高藤
第16回		

教科書

教・書籍名1	スポーツマネジメント	教・出版社名1	大修館書店
教・著者名1	原田宗彦・小笠原悦子	教・ISBN1	978-4-469-26669
教・書籍名2	公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	教・出版社名2	(公財)日本スポーツ協会
教・著者名2	(公財)日本スポーツ協会	教・ISBN2	214K1T 214K2T 214K3T

参考書

参・書籍名1	使用しない(プリントを配布する)	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツボランティア実習			担当者	太田 真司、羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-107		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	60	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	実習	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	△	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 11. 住み続けられるまちづくりを / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>「審判（レフェリー）」「運営（マネジメント）」等スポーツに関わるボランティアを行うことをテーマに、スポーツを支えることの大切さを体験するとともに、スポーツ現場の実態やしぐみ、対象者の特性を理解し、専門的スキルや思考力を向上させる。また、スポーツ少年団、クラブチーム、中学・高校運動部等でスポーツ指導実践を行うことにより、コーチングの大切さを体験するとともに、スポーツ現場の実態やしぐみ、対象者の特性を理解し、専門的スキルや思考力の向上等スポーツ現場において指導や運営ができる能力を養うことを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>「審判（レフェリー）」 協会・連盟など各スポーツ競技団体主催の公式大会における審判員として、実務経験を積む。</p> <p>「運営（マネジメント）」 協会・連盟など各スポーツ競技団体主催の公式大会における運営補助員として、実務経験を積む。 （例）インターハイ、国体ブロック予選等の審判員及び運営、Jリーグ・ファジアーノ岡山、日本女子サッカーリーグ・吉備国際大学シャルム岡山高梁のホームゲーム等の運営。</p> <p>「指導（コーチング）」 中学校、高校の運動部活動及び地域のスポーツ少年団などで、選手指導を体験し、スポーツ指導者としての実務経験を積む。 練習プランの作成、練習中の選手へのアドバイス、チーム全員に対するミーティング、試合における審判等を体験することにより、指導方法やコーチングの難しさや奥深さを学ぶ。</p> <p>上記のスポーツ実務を32時間（4日間）ずつ合計64時間（8日間）以上、体験し日誌を作成する。また、実習後、「実習を通して学んだこと」をテーマにパワーポイントを作成し、プレゼンテーションによる報告を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	実習先の指導担当者からの成績評価（50％）実習日誌・レポート（25％）プレゼンテーション（25％）。 なお、評価のために実施した日誌、レポート等は、授業でフィードバックするので、レポート・プレゼンテーション試験までに復習しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	指導実習並びに運営実習プレゼンテーション報告会の発表後、採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	<p>（公財）日本スポーツ協会公認ジュニアスポーツ指導員受験資格必修科目</p> <p>実習前のオリエンテーション欠席者は、履修放棄とする。（必ず出席すること） 実習期間中、茶髪・ピアス・喫煙等は厳禁。 「吉備国際大学の学生」であることという自覚及び「学ばせていただいている」という気持ちで実習に臨むこと。 実習後の日誌・レポート未提出者、報告会の欠席者は、履修放棄とする。</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	※実務経験のある教員による授業科目				

この科目は、学外実習で、実践的教育から構成された科目である。

事前学習・事後学習とその時間 「コーチング」「マネジメント」に関する文献や資料を事前に精読するとともに、毎回、実習前には課題をもって臨み実習後はその日の振り返りを行うこと。レポート試験、プレゼン試験は必ず行うので、必ず予習復習を行うこと。予習復習には、各2時間程度を要する。

オフィスアワー 火曜日 3限 (研究室) 9号館 9401

授業計画		担当者
第1回	指導実習：夏休みに3日×4時間の実習に参加する。	太田真司 羽野真哉
第2回	運営実習：3回×8時間の実習に参加する。	太田真司 羽野真哉
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
第17回		
第18回		
第19回		
第20回		
第21回		
第22回		
第23回		
第24回		
第25回		
第26回		
第27回		
第28回		
第29回		
第30回		
第31回		
第32回		

教科書

教・書籍名1	スポーツボランティア読本	教・出版社名1	悠光堂
教・著者名1	二宮雅也	教・ISBN1	978-4-906873-84-5
教・書籍名2	スポーツボランティアへの招待	教・出版社名2	世界思想社
教・著者名2	山口泰雄 編	教・ISBN2	4-7907-1052-1

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	ゲームプランニング論 集中			担当者	松原 良香		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-108		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	「競技力向上のためのゲームの分析、課題抽出、プランニングができるようになる」ことをテーマとする。サッカーをはじめ、あらゆるスポーツの競技力向上のためには、チームやゲームの分析により課題を抽出し、その課題をトレーニングやチームマネジメントに反映させることが重要である。サッカーを例に、指導者の現状やクラブマネジメントの実情を把握したうえで、講師が競技力向上のために実施した「ストライカー育成についての研究」や、実際に現場で指導にあたる指導者、クラブ経営者の話を参考に、現状分析、分析の方法、結果分析、考察、プランニングの一連の流れを学ぶとともに、選手の育成強化、教育、チームマネジメントについて習得することを到達目標とする。						
授業概要	アトランタ五輪サッカー日本代表で、現在はサッカー指導者やクラブ経営に従事する講師による集中講義。サッカー界での指導者のおかれている立場やマネジメントの現状について把握するとともに、サッカーの競技力向上を目的とした「ストライカー育成についての研究」を例に、課題抽出、現状分析、結果分析、考察、プランニング、実践、結果検証といった各種スポーツの競技力向上のための一連のプランニングを習得する。今後、日本や世界のスポーツ界において、競技力向上やスポーツ界発展のために何をすべきか、どう関わっていくのか、各自でビジョンを確立することを目指す。						
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業						
評価方法と割合	テーマである「競技力向上のためのゲームの分析、課題抽出、プランニングができるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、中間レポート、最終レポート、授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識習得状況を把握するための中間レポート(40%)、最終レポート(40%)、授業への積極的な参加度合いなどの受講姿勢(20%)を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	提出された中間レポート、最終レポートに対し、コメントのうえそれぞれにフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	毎回の授業終了後に、自分なりの考察を各自ノートにまとめること。 また、レポートの内容、考察を参考に、各自課題をもって次回の授業に臨むこと。 指定教科書を事前に読んでおくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	東海大学第一高等学校を卒業後、ウルグアイへ渡りプロデビューし、その後はジュビロ磐田や清水エスパルスなどのJリーグクラブや、ウルグアイ、クロアチア、スイスなど国内外を問わず12チームでプレー。1996年アトランタ五輪サッカー日本代表としてブラジル代表を破り、「マイアミの奇跡」と呼ばれている。2005年に現役を引退し、現在はサッカースクール・クラブの経営・指導する傍ら、サッカー解説者として活動中。JリーグOB会を2009年に設立し、副会長を2021年7月まで務めた。2010年には、JFA公認S級コーチに認定され、2015年11月にはJ3クラブ SC相模原の監督を務めた。2018年3月には筑波大学大学院 人間総合科学研究科スポーツ健康・システムマネジメント専攻の修士学位(体育学)を取得。				

事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている内容について、教科書を読み、理解できない点をまとめたうえで授業を受けること。 また事後学習としてレポート課題を出すので、決められた期限内に提出（または発表）すること。		
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。		
授業計画		担当者	
第1回	ガイダンス(授業の概要や進め方の説明、生徒の自己紹介)	松原良香	
第2回	サッカー選手の現役～引退後のキャリア(指導者として)	松原良香	
第3回	サッカー選手の引退後のキャリア(スクール・クラブ経営などのマネジメント)	松原良香	
第4回	サッカー選手の引退後のキャリア(中学・高校サッカー部のマネジメント)	松原良香	
第5回	サッカー指導者の現状(アマチュアクラブ、Jクラブの実例)	松原良香	
第6回	サッカー指導の基本(カテゴリー別の特徴、町クラブでの指導)	松原良香	
第7回	ゲームプランニングの方法(基礎編)	松原良香	
第8回	ゲームプランニングの方法(実践編)	松原良香	
第9回	競技力向上のための方法論(ストライカー育成研究：目的、研究結果)	松原良香	
第10回	競技力向上のための方法論(ストライカー育成研究：考察1、結果分析)	松原良香	
第11回	競技力向上のための方法論(ストライカー育成研究：考察2、提言)	松原良香	
第12回	選手・子供の育成論(スポーツを通じて自立した主体性のある子どもを育てるための取り組み)	松原良香	
第13回	スポーツ栄養学・コンディショニング	松原良香	
第14回	町クラブサッカー指導者の実情(指導者による話)	松原良香	
第15回	ゲームプランニング論の総括(授業全体のまとめ)	松原良香	
第16回	レポート試験	松原良香	
教科書			
教・書籍名1	ストライカーを科学するーサッカーは南米に学べ!ー(岩波ジュニア新書)	教・出版社名1	岩波書店
教・著者名1	松原良香	教・ISBN1	978-4-00-500904-6
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	サッカーレフェリーライセンス 集中			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-109		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・実習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	サッカーの競技規則を理解するとともに、サッカーのゲームにおける審判法を実践することをテーマに、新規取得者（審判資格未取得者）は、（公財）日本サッカー協会公認4級審判員の取得並びに3・4級資格取得者については来年度登録の更新するとともに、学生がサッカーの公式戦や練習試合等においてサッカー審判員として能力を身につけ活躍することができる。						
授業概要	サッカーの競技規則は、毎年、FIFA（国際サッカー連盟）から競技規則の変更が行われ、JFA（日本サッカー協会）を通じて、各地域及び都道府県、各チームに通達される。しかしながら、ワールドカップやオリンピック等の国際大会をはじめJリーグ等トップリーグにおいても、審判の誤審や競技規則の適用において、様々な問題が起こっている。本講義において、サッカーの競技規則及び「フェアプレーの精神」を理解するだけでなく、サッカーのゲームにおいて、実践を通して審判技術の向上を図る。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習／フィールドワーク						
評価方法と割合	競技規則テスト（45審判審判の実践（45％）受講態度（10％）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義で学んだ知識を実習において実践し、終了後「成果」及び「課題」を口頭及び書面でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	予習としてサッカー競技規則2021/2022を熟読するとともに、サッカーのゲーム観戦の審判員の動きを分析することにより復習する。 試合を通して審判の実践においては、心身ともにしっかりコンディショニングを行い臨むこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	（公財）日本サッカー協会公認審判員並びに公認審判インストラクター、国際サッカー審判員（プロフェッショナルレフェリー）並びに日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）審判インストラクターが担当する。				
事前学習・事後学習とその時間	日ごろからサッカーのレフェリーの動きや判定に興味・関心を持ち、ゲームを観戦すること。						
オフィスアワー	研究室（9号館4階）にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション（審判員制度と概要）					高藤	
第2回	審判員の心構え					高藤（外部講師）	
第3回	マナー、資質と能力について					高藤（外部講師）	
第4回	競技規則の解釈と適用 1（新シーズン競技規則変更点）					高藤（外部講師）	
第5回	試合における審判の実践 1（紅白戦・男子Avs.B）					高藤（外部講師）	
第6回	試合における審判の実践 2（紅白戦・男子Cvs.D）					高藤（外部講師）	
第7回	試合における審判の実践 3（紅白戦・女子Avs.B）					高藤（外部講師）	
第8回	試合における審判の実践 4（紅白戦・女子Cvs.D）					高藤（外部講師）	
第9回	競技規則の解釈と適用 2（主審の役割）					高藤（外部講師）	
第10回	競技規則の解釈と適用 3（副審の役割）					高藤（外部講師）	
第11回	競技規則の解釈と適用 4（プレーの開始および再開方法）					高藤（外部講師）	
第12回	競技規則の解釈と適用 5（オフサイド）					高藤（外部講師）	
第13回	試合における審判の実践 5（紅白戦・男子Avs.C）					高藤（外部講師）	
第14回	試合における審判の実践 6（紅白戦・男子Bvs.D）					高藤（外部講師）	

第15回	試合における審判の実践 7 (紅白戦・女子Avs.C)	高藤 (外部講師)	
第16回	競技規則テスト	高藤	
教科書			
教・書籍名1	サッカー競技規則 2021/2022	教・出版社名1	(公財) 日本サッカー協会
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2	サッカー競技規則 2022/2023	教・出版社名2	(公財) 日本サッカー協会
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	使用しない (プリントを配布する)	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎コーチング論			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-110		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	△	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	△	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 8. 働きがいも経済成長も / 10. 人や国の不平等をなくそう / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>人間は「心構え：心のクセ」が環境的外的要因によって消極的・否定的に涵養され内的な資質が押し殺されている事を学び、「この条件付け」を解放するコーチングの能力を身に付ける。</p> <p>環境が及ぼす暗黙の制限である「条件付け」はいつ、どのように、誰から外的影響を受けて心構えに涵養されていくのかを理解する。また、世界中の成功事例から、心構えが積極的・肯定的思考に涵養されていく事により、目標が実現していく事理解する。</p> <p>この条件付けを外す為に、まずは自分自身に「消極的、否定的思考」がある事を認識し「積極的・肯定的思考」に置き換える事で他者の心理を理解し、コーチングにて「解放」や「気づき」を与え進歩、成長、変化していく事ができることを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>条件付け：人間は環境に適応している」をテーマとして人間の潜在的な能力について、心理学、哲学、倫理学、病理学等の専門家から多角的な角度で学んでいく。加えて「条件付け」の要因である、学校生活における比較社会要因、実績のある経験者の言葉によるリスク等、外的要因が消極的、否定的思考を形成していることを理解する。「無限の可能性」について、自然の豊かさ、まだ解明されていない脳科学について「人間の凄さ」を歴史の変遷を踏まえて学んでいく。</p> <p>スポーツ選手のリーダーシップ成功映像、マズローによる欲求階層、フロイトの防衛機能の事例から人間のしくみを考察する。一枚の絵をグループ討論を主体とした方式により、人それぞれ価値観が違う事を学んでいく。</p> <p>教養面、社会面、健康面、家庭・経済面等による自己評価チェックを行い、自分自身の長所発見や自己改善の気づきとし自己を認識していく。チェック表から自分の価値観を理解し目標設定（目標の意味づけ）作業を行っていく。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL／グループワーク						
評価方法と割合	<p>「自分自身のコーチングコミュニケーションができる」の到達度について知識および能力を計るために、定期試験結果や毎回の授業レポートをレポートを通じて総合的に評価する。知識修得状況を把握するための定期試験（50％）毎回の授業におけるレポート（30％）、毎回の授業への積極的な参加態度（20％）を合計して総合評価する。</p> <p>なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートは、採点をして授業でフィードバックするので見なおしておくこと。						
履修条件・注意事項	（公財）日本スポーツ協会公認スポーツリーダー、ジュニアスポーツ指導員受験資格必修科目						
実務経験のある教員	該当する	内容	<p>※実務経験のある教員による授業科目</p> <p>この科目は、コーチングとしての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。</p>				
事前学習・事後学習とその時間	1) 毎回の授業でレポート課題を宿題とし、事前に身近に起こった人間関係についてレポート課題を作成し提出すること。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 試験は必ず行うので予習復習を行うこと。予習および復習には、各2時間程度を要する。						

オフィスアワー	火曜日 3限 (研究室) 9号館 9401		
授業計画			担当者
第1回	人間の潜在能力の豊かさ		太田真司
第2回	勝利者の欲望 外的モチベーションと内的モチベーション		太田真司
第3回	家族による条件付けと社会と組織による条件付け。		太田真司
第4回	過ちや失敗による条件付けと条件付けの方向付け		太田真司
第5回	条件付けと心構えについて		太田真司
第6回	ただ1つの目的と目標設定について		太田真司
第7回	目標の種類と内的モチベーション		太田真司
第8回	外的モチベーションについて		太田真司
第9回	積極的なセルフイメージの重要性について		太田真司
第10回	セルフイメージと独創性		太田真司
第11回	積極的肯定的宣言とコーチング法		太田真司
第12回	ビジュアル化とコーチング法		太田真司
第13回	習慣や心構えの形成と改革について		太田真司
第14回	反モチベーターと排除と置き換えのプロセスについて		太田真司
第15回	欲求階層と人生の意義と目的について		太田真司
第16回	筆記試験		太田真司
教科書			
教・書籍名1	担当者の作成資料により進める。		教・出版社名1
教・著者名1			教・ISBN1
教・書籍名2			教・出版社名2
教・著者名2			教・ISBN2
参考書			
参・書籍名1	適宜紹介する。		参・出版社名1
参・著者名1			参・ISBN1
参・書籍名2			参・出版社名2
参・著者名2			参・ISBN2

授業科目名	応用コーチング論			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年/ 2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-111		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3.主体的な学びと 論理的な思考	○	DP4. コミュニケー ション・表現力	○
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 10. 人や国の不平等をなくそう / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>創造的な聴き方の5原則を学び、聴き方を学ぶことで、効果的なオープンクエスチョンとクローズドクエスチョンを学び考察することができるようになる。四つの性格特性を学び、効果的なコーチングを理解する。また、意思決定の重要性、セルフイメージと自分の行動との結びつきについて学び、相手の状況、心理を理解するために効果的な質問と聴き方をしてコーチングができるようになることを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>「5W1Hを活用した質問を作り出し創造的な聴き方を理解する」をテーマとして、創造的な聴き方、効果的な質問のつくり方、意思決定プロセスを学び相互理解を深めるコーチングを身につける。成功したリーダーによる意思決定者の在り方、心構えについて考察しレポートしていく。特に4つの性格特性に合わせた関わり方を理解して実践することで、目標実現には、他の協力が不可欠であることを学ぶ。</p> <p>意思決定プロセスの原理原則と受講生それぞれによる過去の経験を比較して、自分自身に合った意思決定の在り方を見つけていく。加えて、自己評価によるアクションステップにより、自己認識を行い自分に合ったパーソナルなコーチング方法を見つけていく。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL/グループワーク						
評価方法と割合	知識修得状況を把握するための定期試験（50%）毎回の授業におけるレポート（40%）、毎回の授業への積極的な参加態度（10%）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートは、採点をして授業でフィードバックするので見なおしておくこと。						
履修条件・注意事項	（公財）日本スポーツ協会公認スポーツリーダー、ジュニアスポーツ指導員受験資格必修科目。毎回の授業の内容からレポート宿題を課す。次回の授業にて提出をすること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	<p>※実務経験のある教員による授業科目</p> <p>この科目は、サッカーコーチング指導者としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。</p>				
事前学習・事後学習とその時間	1) 毎回の授業でレポート課題を宿題とし、事前に身近に起こった人間関係についてレポート課題を作成し提出すること。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 試験は必ず行うので予習復習を行うこと。予習および復習には、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	火曜日 3限 研究室 9号館 (9401)						
授業計画						担当者	
第1回	コミュニケーションスキルについて					太田真司	
第2回	効果的なコミュニケーションの必要性					太田真司	
第3回	説得、折衝、交渉から見るコミュニケーションスキル					太田真司	
第4回	4つの特徴からみる心理的な性格特徴について					太田真司	
第5回	4つの性格特徴に合わせた人間関係づくり					太田真司	
第6回	チームマネジメントとセクショナリズムによる思考理解について					太田真司	
第7回	スポーツ組織に見るGMの役割とコミュニケーションについて					太田真司	

第8回	創造的な聴き方について	太田真司
第9回	エグゼグティブの管理能力について	太田真司
第10回	エグゼグティブに必要な質問力とコーチングについて	太田真司
第11回	人選とチーム編成について	太田真司
第12回	優れたチームメンバーを保つためのコミュニケーションについて	太田真司
第13回	エグゼグティブの生産性を最も高めるための権限移譲について	太田真司
第14回	パーソナリティと安定性について	太田真司
第15回	個人的カリスマの引力について	太田真司
第16回	筆記試験	

教科書

教・書籍名1	担当者の作成する資料により進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜紹介する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ心理学 集中E			担当者	倉藤 利早		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-112		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	学生がスポーツ心理学の基礎的知識に基づき、スポーツにおけるメンタルトレーニングの基礎理論の理解と基礎技能を習得し、スポーツ選手やスポーツ指導者等に対してスポーツメンタルトレーニングができるようになることを到達目標とする。						
授業概要	スポーツの心理的効用や心理的要因がスポーツのパフォーマンスに及ぼす影響など、スポーツにおける心理学を広く系統的に取り上げ考察する。スポーツ心理学の基本理念、スポーツとパーソナリティー、年齢別の心理的発達段階、トップレベルのスポーツ心理学などを実際の学校体育や社会体育等のスポーツ指導場面に即して学ぶ。また、メンタルトレーニング技法を学ぶ。そして、事例をもとにメンタルトレーニングプログラムを自ら作成し、プレゼンテーションを行なうことで実践力を身につける。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業内課題及びレポート等（学習到達目標に関する出題）を60%、発表（メンタルトレーニングプログラム）、ディスカッションへの参加を30%、受講態度を10%とする。詳しい評価方法は、最初の授業時間に説明する。なお、評価のために実施した課題及びレポートは授業にてフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	実施した課題及びレポートは授業にてフィードバックする。						
履修条件・注意事項	日本体育協会各種資格基礎科目 配布資料・参考書等による事前学習・事後学習を行うこと。 毎回プリントを配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、学校教育現場、スポーツ現場での実務経験を持つ教員がその経験を活かし、実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	発表・ディスカッションをおこなう参加型学習のため事前学習・事後学習が必要である。講義で配布した資料等は事前に目を通し受講すること。また事後学習は課題及びレポートを行い授業時に提出すること。						
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション、スポーツ心理学（理論）					倉藤利早	
第2回	スポーツ心理学の歴史的展開（理論）					倉藤利早	
第3回	心理サポートの必要性（理論）					倉藤利早	
第4回	スポーツメンタルトレーニング（理論）					倉藤利早	
第5回	メンタルトレーニング評価（理論・実技）					倉藤利早	
第6回	メンタルトレーニング技法①（理論・実技）-目標設定とモチベーション/リラクゼーション-					倉藤利早	
第7回	メンタルトレーニング技法②（理論・実技）-イメージトレーニング/集中力-					倉藤利早	
第8回	メンタルトレーニング技法③（理論・実技）-ポジティブシンキング/自信-					倉藤利早	
第9回	メンタルトレーニング技法④（理論・実技）-セルフワーク/仲間アップ/メンタルリハサル/条件付け/予測力、判断力-					倉藤利早	
第10回	アセスメント（理論）					倉藤利早	
第11回	スポーツメンタルトレーニングプログラム作成①					倉藤利早	

第12回	スポーツメンタルトレーニングプログラム作成②	倉藤利早	
第13回	スポーツメンタルトレーニングプログラム作成③	倉藤利早	
第14回	スポーツメンタルトレーニングプログラム作成④	倉藤利早	
第15回	スポーツメンタルトレーニングプログラム作成⑤	倉藤利早	
第16回	試験（実技試験）	倉藤利早	
教科書			
教・書籍名1	使用しない（必要に応じプリント等を配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2	スポーツメンタルトレーニング教本 三訂版（日本スポーツ心理学会 編）	教・出版社名2	大修館書店
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	サッカーコーチング論			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-113		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 10. 人や国の不平等をなくそう / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>「現場で起こる人間関係のチームマネジメントを理解する」をテーマとする。 プロサッカークラブにおけるチームマネジメント、プロクラブのスター選手、リザーブ選手、監督をとりまく会長やオーナー、スポンサー、コーチなどのマネジメントについて考察し、議論していくことができるようにする。そのため、プロクラブと地域スポーツクラブ組織と失敗事例を学び、自分自身の性格や協調性を再確認し実質的なものにする。</p>						
授業概要	<p>日本サッカー協会の理念「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。」を理解する。プロクラブに関わる、エグゼクティブやステークホルダー、GMやコーチ、医療トレーナーの基礎的な役割を理解し、それぞれに課される役割責任とセクショナリズムが起こる、人間関係の複雑な仕組みを考察する。 クラブの事例を示しながらその解決策を導き出す能力が身につくようグループ討論を主体としてファシリテーターを任命した方式による授業を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/ディベート/プレゼンテーション						
評価方法と割合	<p>テーマ「プロサッカークラブのマネジメントを理解する」の到達度について、知識及び能力を図るために、定期試験結果や授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には知識習得状況を把握するための定期試験（50％）、会話能力を発表する為の課題発表（30％）、授業中の学びの程度を判定するため、積極的な議論参加態度（20％）を合計して総合評価する。</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	<p>講義の初めに毎回1分間スピーチを行い各自のスピーチ評価を行う。 評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。</p>						
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントを配布するので、初回授業よりファイル（A4）を用意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、サッカー指導者としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前にマネジメント課題を出しそれについて調べてくること 2) 必ずノートを作成し復習をすること。3) 必ず試験は行うので、授業で議題となったテーマとポイントとなることを予習復習を行い、自分なりの考察力を養うこと。						
オフィスアワー	火曜日 3限 研究室 9号館 (9401)						
授業計画						担当者	
第1回	コミュニケーションスキル					太田真司	
第2回	指導者の資質と役割					太田真司	
第3回	プロクラブにおけるGMと監督の役割					太田真司	
第4回	選手選考（大学生/高校生）基準のマネジメント					太田真司	
第5回	リザーブ選手のマネジメント					太田真司	

第6回	チームのトッププレーヤーにおけるマネジメント	太田真司
第7回	プレーモデル（チームコンセプト）の重要性について	太田真司
第8回	プレーモデルとプレー原則について	太田真司
第9回	守備におけるプレーモデルとプレー原則	太田真司
第10回	攻撃におけるプレーモデル	太田真司
第11回	個人戦術の重要性とプレーモデル	太田真司
第12回	プレーモデルと個人戦術の分析	太田真司
第13回	世界のクラブから分析するプレーモデルと個人戦術	太田真司
第14回	プレーモデルの分析とプランニング	太田真司
第15回	プレーモデルとメソッドの重要性	太田真司
第16回	筆記試験	太田真司

教科書

教・書籍名1	担当者の作成資料により進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	サッカーコーチング実習			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-114		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	60	授業形態	実習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜1限 金曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>日本サッカー協会公認の指導者上級ライセンスを目指す上で「C級ライセンスでの実践経験を振り返る」をテーマとして、オーガナイズの意味を理解し、ガイディッドディスカバリーを意識したコーチングができる能力を身につける。</p> <p>特にゲーム分析、プランニング、フリーズコーチング並びにシンクロコーチングができるようにする。そのためゲーム分析に必要な「サッカーにおけるプレーの原則」を再確認し実質的なものにする。</p>						
授業概要	<p>講義にて、C級ライセンスで行った、ゲーム分析法、プランニングを行う。10分間の指導実践を行い、実践後は、グループ討論を主体とし、オーガナイズ、コーチングの改善点について考察し、指導がよりよくなるよう解決策を自ら考え、判断できるようになる。グループ討論が円滑にしていけるよう、ファシリテーター（促進役）を学生で行いより良い議論とは何かについて模索していく。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/ディベート/グループワーク/プレゼンテーション/実習						
評価方法と割合	<p>この実習では、指導実践テスト（50%）ファシリテーターとしてグループ討論を行い促進できていたか（20%）競技の取り組む姿勢、議論の積極性、協調性（20%）実技レベル（10%）で評価する。</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	指導実践後、採点をして授業でフィードバックするので見なおしておくこと。						
履修条件・注意事項	<p>原則サッカー経験者（経験のないものは別途相談）及び指導現場経験者であること。</p> <p>実技においてはサッカーのできる服装、サッカーシューズ、時計を持参すること。</p> <p>C級・D級コーチライセンスにおいて資格を取得してる事。また、資格取得をしようとする事。</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	<p>※実務経験のある教員による授業科目</p> <p>この科目は、S級コーチライセンスを保持しサッカー指導者としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、サッカー指導現場において実践的に役立つ授業及び実習を実施する</p>				
事前学習・事後学習とその時間	指導実践のプランニングとシュミレーション（実際に指導実践を練習できると理想）を行ってくること。						

オフィスアワー		火曜日 3限 研究室 9号館 (9401)	
授業計画			担当者
第1回	講義：ガイダンス		太田真司
第2回	講義：スポーツマネジメントと指導者の役割		太田真司
第3回	講義：分析法Ⅰとプランニング		太田真司
第4回	講義：分析法Ⅱとプランニング		太田真司
第5回	実技：シュートによる指導実践		太田真司
第6回	実技：コントロールによる指導実践		太田真司
第7回	実技：個人戦術オンザボールの守備		太田真司
第8回	実技：個人戦術オフザボールの守備		太田真司
第9回	実技：数的状況での判断（攻撃数的優位⇔守備数的劣位）		太田真司
第10回	実技：数的状況での判断（攻撃数的劣位⇔守備数的優位）		太田真司
第11回	講義：指導実践の振り返りとコーチング法		太田真司
第12回	講義：オーガナイズの意味とコーチング法		太田真司
第13回	ビルドアップにおける指導実践		太田真司
第14回	ウェービングにおける指導実践		太田真司
第15回	中盤での守備における指導実践		太田真司
第16回	積極的な守備における指導実践		太田真司
第17回	サイド突破における指導実践		太田真司
第18回	サイド突破（5レーン）における指導実践		太田真司
第19回	中央突破における指導実践		太田真司
第20回	5レーンと中央突破における指導実践		太田真司
第21回	カウンター攻撃に指導実践		太田真司
第22回	ソロカウンター攻撃における指導実践		太田真司
第23回	クロスの攻防における指導実践		太田真司
第24回	クロスの攻防と仕掛けにおける指導実践		太田真司
第25回	講義：指導実践の振り返り		太田真司
第26回	講義：戦術論Ⅰ・Ⅱ		太田真司
第27回	指導実践テスト（ビルドアップ）		太田真司
第28回	指導実践テスト（サイドと中央突破）		太田真司
第29回	実技：指導実践テスト（カウンター）		太田真司
第30回	実技：指導実践テスト（クロスの攻防）		太田真司
第31回	筆記試験		太田真司
第32回	閉校ガイダンス		太田真司
教科書			
教・書籍名1	担当者の作成する資料に基づいて講義を進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜紹介する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	C級コーチライセンス コラボ			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-115		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・実技実習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜1限 金曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 10. 人や国の不平等をなくそう / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>日本サッカー協会公認C級コーチライセンスにおいて学生は、日本サッカーの方向性とチームマネジメント、更には発育発達の全体像を理解することができる。</p> <p>講義では、ゲーム分析、戦術論、プランニング、コーチング法、発育発達と一貫指導を理論として学ぶことができる。</p> <p>指導の実践においては、受講生同士で指導を行い、「プレイヤーズファースト」「グッドスタンダード」「リスペクト」を念頭に置きながら指導ができるように実践する。特に本ライセンスでは、「Guided Discovery：選手の発見を導く」コーチング法の導入であり、具体的には「サッカーのプレーの基準を与えながらも常に発問と選手への働きかけを繰り返しながら、選手の思考を停止させないコーチング」を身につける事が到達目標となる。</p>						
授業概要	<p>C級コーチライセンスは、公益財団法人日本サッカー協会公認コーチライセンスであり、吉備国際大学は教育機関で唯一無二の認定校となっております。C級コーチライセンスは、上級ライセンス及び多種目のライセンスへの登竜門であり成績優秀者は、公認B級ライセンス、フットサルC級コーチライセンス、フィジカルフィットネスC級ライセンス、GKレベル1ライセンスへの受講チャンスとなる。</p> <p>授業の構成は、講義と実技、通信レポートの提出となる。講義で学んだ理論を実技の中で実践し。まずは、インストラクター（教員）が模範となる指導実践をポイントを伝えながら行い受講生が体験する。学生が指導実践の後、インストラクターがファシリテーターとなりディスカッションを行う。ここでの議論が今後の指導における改善ポイントなり有為意義なものとなる。</p> <p>指導実践は、インストラクターが見本となった14テーマの指導を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/ディベート/グループワーク/プレゼンテーション/実習						
評価方法と割合	<p>日本サッカー協会のカリキュラムに基づいて、講義、実技講習を受けたのち通信教育課程、指導実践、筆記テストに合格した者にライセンスを与える。</p> <p>1. 指導実践（効果的なオーガナイズ、コーチングによって改善がみられたか） 50%</p> <p>2. 筆記テスト 20%</p> <p>3. 通信教育課程レポート 10%</p> <p>4. 取り組む姿勢（講義態度、指導実践、議論の積極性、協調性） 10%</p> <p>5. 実技レベル 10%</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	指導実践後個別にフィードバックを行う。なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
	<p>日本サッカー協会では、指導者資格の取得同様、レベルアップのための自己研鑽が必要と考え、リフレッシュ研修会を開催しています。C級コーチを合格した際に、登録指導者は、リフレッシュ研修会の受講やチームの指導等を通して、所定の期間内にリフレッシュポイントを獲得する必要があります</p> <p>必要ポイント数と獲得期限は、C級コーチで40ポイントを4年間で獲得する必要があります。</p>						

履修条件・注意事項	日本サッカー協会指導教本協会登録料（金額と支払い方法は初回授業オリエンテーションにおいて説明する） 原則サッカー経験者（経験のない方は別途相談）及び指導現場経験者であること。 ※怪我で実技ができない方は受講できません。 実技においてはサッカーのできる服装、サッカーシューズ、時計を持参すること。 D級コーチライセンスと同時履修		
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、C級コーチライセンスインストラクターの実務経験員が、その経験を活かを持つ教し、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	1) 予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に教科書を読むこと。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 指導実践のプランニングとシュミレーション（予習および実際に指導実践を練習できると理想）を行ってこること。また復習を行うこと。4) 予習および復習には、各2時間程度を要する。通信レポート、2つのレポート課題を学修し、秋学期最後の授業にて提出すること。		
オフィスアワー	火曜日 4限 研究室 9401		
		授業計画	担当者
第1回	開校ガイダンス		太田真司
第2回	講義：チームマネジメント		太田真司
第3回	講義：発育発達と一貫指導		太田真司
第4回	実技：数的状況 守備優位から攻撃劣位		太田真司
第5回	実技：数的状況 守備同位から攻撃同位		太田真司
第6回	実技：数的状況 守備劣位から攻撃優位		太田真司
第7回	講義：指導実践振り返り		太田真司
第8回	講義：戦術Ⅱ		太田真司
第9回	講義：分析Ⅱ		太田真司
第10回	講義：指導実践ガイダンス		太田真司
第11回	指導実践テスト（守備優位から攻撃劣位）		太田真司
第12回	指導実践テスト（守備と攻撃同位）		太田真司
第13回	指導実践テスト（守備劣位と攻撃優位）		太田真司
第14回	実技：指導実践テスト（テクニック）		太田真司
第15回	講義：閉校ガイダンス		太田真司
第16回	筆記試験		太田真司
第17回			
第18回			
第19回			
第20回			
第21回			
第22回			
第23回			
第24回			
第25回			
第26回			
第27回			
第28回			
第29回			
第30回			
第31回			
第32回			
教科書			
教・書籍名1	U-12指導指針	教・出版社名1	公益財団法人日本サッカー協会
教・著者名1	キッズU-10指導ガイドライン	教・ISBN1	
教・書籍名2	キッズU-8指導ガイドライン	教・出版社名2	公益財団法人日本サッカー協会
教・著者名2	キッズU-6指導ガイドライン	教・ISBN2	
参考書			

参・書籍名1	サッカー指導ビデオ実技編	参・出版社名1	公益財団法人日本サッカー協会
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	D級コーチライセンス コラボ			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-116		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・実技実習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜1限 木曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 10. 人や国の不平等をなくそう / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナーシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>日本サッカー協会公認D級コーチライセンスにおいて学生は、日本サッカーの方向性とチームマネジメント、更には発育発達の全体像を理解することができる。</p> <p>講義では、ゲーム分析、戦術論、プランニング、コーチング法、発育発達と一貫指導を理論として学んでいく。指導の実践においては、受講生同士で指導を行い、「プレイヤーズファースト」「グッドスタンダード」「リスパクト」を念頭に置きながらの指導ができるように実践していくことができるようになる。</p> <p>D級コーチの養成目標は、サッカー指導の考え方に触れていただき、子どもたちにサッカーの楽しさを伝えることができるようになること。</p>						
授業概要	<p>D級コーチライセンスは、公益財団法人日本サッカー協会公認コーチライセンスであり、吉備国際大学は教育機関で唯一無二の認定校となっております。アマチュアレベル（子ども中心）を対象とした指導者を養成すると同時に、子どもたちにサッカーの楽しさを伝えられる指導者を養成する。</p> <p>授業の構成は、C級コーチライセンスの内容を、子どもの指導を中心にまとめた形で取り組む。まずは、インストラクター（教員）が模範となる指導実践をポイントを伝えながら行い受講生が体験します。学生が指導実践の後、インストラクターがファシリテーターとなり、ディスカッションを行う。ここでの議論が今後の指導における改善ポイントなり有為意義なものとなる。</p> <p>特に本ライセンスでは、「Guided Discovery：選手の発見を導く」コーチング法の導入であり、具体的には「サッカーのプレーの基準を与えながらも常に発問と選手への働きかけを繰り返しながら、選手の思考を停止させないコーチング」を身につけるていく。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/ディベート/グループワーク/プレゼンテーション/実習						
評価方法と割合	<p>日本サッカー協会のカリキュラムに基づいて、講義、実技講習を受けたのち通信教育課程、指導実践、筆記テストに合格した者にライセンスを与える。</p> <p>1. 指導実践（効果的なオーガナイズ、コーチングによって改善がみられたか） 50%</p> <p>2. 筆記テスト 20%</p> <p>3. 通信教育課程レポート 10%</p> <p>4. 取り組む姿勢（講義態度、指導実践、議論の積極性、協調性） 10%</p> <p>5. 実技レベル 10%</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	指導実践後個別にフィードバックを行う。なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	<p>日本サッカー協会では、指導者資格の取得同様、レベルアップのための自己研鑽が必要と考え、リフレッシュ研修会を開催しています。D級コーチを合格した際に、登録指導者は、リフレッシュ研修会の受講やチームの指導等を通して、所定の期間内にリフレッシュポイントを獲得する必要があります。必要ポイント数と獲得期限は、D級コーチで40ポイントを4年間で獲得する必要があります。</p> <p>日本サッカー協会指導教本協会登録料を購入すること。（金額と支払い方法は初回授業オリエンテーションにおいて説明する）</p> <p>原則サッカー経験者（経験のない方は別途相談）及び指導現場経験者であること。※怪我で実技ができない方は</p>						

	受講できません。 実技においてはサッカーのできる服装、サッカーシューズ、時計を持参すること。 (C級コーチライセンスと同時履修) <input checked="" type="checkbox"/>		
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、D級コーチライセンスインストラクターの実務経験員が、その経験を活かを持つ教し、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	1) 予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に教科書を読むこと。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 指導実践のプランニングとシュミレーション（予習および実際に指導実践を練習できると理想）を行ってこること。また復習を行うこと。4) 予習および復習には、各2時間程度を要する。通信レポート、2つのレポート課題を学修し、秋学期最後の授業にて提出すること。		
オフィスアワー	火曜日 4限 研究室 9401		
授業計画		担当者	
第1回	講義：ガイダンス	太田真司	
第2回	講義：サッカーの競技精神	太田真司	
第3回	講義：メディカル	太田真司	
第4回	講義：GK法	太田真司	
第5回	実技：GKの指導	太田真司	
第6回	実技：ドリブル・スクリーン&ターン	太田真司	
第7回	実技：守備オンザボール	太田真司	
第8回	実技：守備オフザボール	太田真司	
第9回	実技：コントロールとシュート	太田真司	
第10回	講義：戦術Ⅰ	太田真司	
第11回	講義：分析Ⅰ	太田真司	
第12回	指導実践テスト（守備優位から攻撃劣位）	太田真司	
第13回	指導実践テスト（守備攻撃同位）	太田真司	
第14回	指導実践テスト（守備劣位から攻撃優位）	太田真司	
第15回	講義：指導実践振り返り	太田真司	
第16回	筆記試験	太田真司	
第17回			
第18回			
第19回			
第20回			
第21回			
第22回			
第23回			
第24回			
第25回			
第26回			
第27回			
第28回			
第29回			
第30回			
第31回			
第32回			
教科書			
教・書籍名1	U-12指導指針	教・出版社名1	公益財団法人日本サッカー協会
教・著者名1	キッズU-10指導ガイドライン	教・ISBN1	
教・書籍名2	キッズU-8指導ガイドライン	教・出版社名2	公益財団法人日本サッカー協会
教・著者名2	キッズU-6指導ガイドライン	教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	サッカー指導ビデオ実技編	参・出版社名1	公益財団法人日本サッ

			力一協会
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	トレーニング論			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-117		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	スポーツの指導者として、『スポーツ全般を対象にして、トレーニングの原則について学習する。』ことをテーマとし、指導はあくまで指導の対象となる者、つまり選手や生徒が主体である。指導対象者の基本的な条件、年齢、性別、目的、レベル等々が、存在する。学生はトレーニング実施に必要な解剖・生理学的原則などに立脚しつつ、バイオメカニクス的な理論、さらに今日では認知科学的及び脳科学的研究成果などを踏まえて行われる。トップアスリートを含めたアスリートのトレーニングから、健康づくりを目的としたトレーニングまで、指導方法論などが理解できるようになることを到達目標とする。						
授業概要	トレーニング学はスポーツ科学の進展と共に進化している。トレーニング自体は人間の有史以来存在すると言える。その時の時代性を反映した論理のもとに、人類の文化遺産として存続してきている。近代においては、約10年余りの年月の間、科学の発展に追随しつつ、トレーニングの近代的な理論が構築されてきた。体力諸要素をベースとして、トレーニング科学が発展してきたが、時代が進むとともに、脳-神経系に焦点と基礎を置くトレーニングも提示されてきている。こうした広範なトレーニングの理論を論じていく。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業時に課すレポート課題で30%、最終試験で70%の比率で評価を行う。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	指導者としてしっかりと知識をもとに指導できることを目的としているため、授業の復習や課題を十分に行うことを条件とする。						
実務経験のある教員	該当する	内容	スポーツクラブやアスリート強化の現場において、トレーニングを指導。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業時において、次回の授業内容に応じて、各自のスポーツ経験に基づく問題を見出す指示を行う。これによって、各自経験の見直しや情報収集を行う。授業後は、授業内容を受けて、望ましい在り方について考察し、時にレポートとして提出する。予習1コマ・復習1コマをそれぞれ行うこと。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					竹内研	
第2回	トレーニングとプラクティス					竹内研	
第3回	トレーニングの領域					竹内研	
第4回	トレーニングの原則					竹内研	
第5回	柔軟性のトレーニング					竹内研	
第6回	有酸素トレーニング					竹内研	
第7回	無酸素トレーニング					竹内研	
第8回	レジスタンストレーニング概論					竹内研	
第9回	ペリオダイゼーショントレーニング：筋肥大・筋力増大・パワー増大					竹内研	
第10回	スピード筋力とアスリート強化のトレーニング					竹内研	
第11回	スタビライゼーショントレーニング：体幹トレーニングの理論					竹内研	
第12回	コーディネーショントレーニングの理論					竹内研	
第13回	ゆるトレーニングの理論					竹内研	

第14回	呼吸・ボディワークの理論	竹内研
第15回	生涯スポーツトレーナー概論	竹内研
第16回	試験	竹内研
教科書		
教・書籍名1	生涯スポーツトレーナーアドバンスコーステキスト	教・出版社名1 株式会社MJカンパニー
教・著者名1	竹内研	教・ISBN1
教・書籍名2	生涯スポーツトレーナー教本	教・出版社名2 公益財団法人日本健康スポーツ連盟
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	トレーニング実習			担当者	副島 斉子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-118		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	『健康維持増進,介護予防そしてスポーツ競技力向上など』をテーマとし、筋力トレーニング,ストレッチングを中心としたトレーニングが広く行われている。健康運動実践指導者及び健康運動指導士として必要な、これらのトレーニング実技を専門的なレベルで習得する。加えて、近年特に唱導され必要性が高まってきている、ポディーワークであり心身のリラクゼーション法として、ゆる体操及びゆるトレーニングを実習し、健康維持増進はもとより、心身のコンディショニングさらにスポーツ競技力向上に役立てられるようになることを到達目標とする。						
授業概要	筋力トレーニングに関しては、マシンを用いたトレーニング法を中心に、フリーウェイトを加えて、その正しい動作と負荷の設定ができるようになる。ストレッチングに関しては、スタティックストレッチングを中心に、その正しい動作とプログラミングができるようになる。健康維持増進や介護予防を目的としたゆる体操、場合によってはスポーツ競技力向上にも資することができるゆるトレーニングの実技を、指導者のリードに従って、適切に実施できるようになる。 この授業の担当者はトレーニング指導の実務経験を有する。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク/プレゼンテーション/実習						
評価方法と割合	実技に関する学習効果を実技試験によって評価する。加えて、逐次運動内容とそのプログラム作成に関するレポートを課して、その両者をそれぞれ50%ずつの比重で評価を行う。 評価のためのレポートは授業時にフィードバックする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した試験や課題の結果と内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	実技中の怪我などの防止のため、時計や装身具類は身に着けないこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	一般成人やスポーツ選手対象に、スポーツクラブ等で指導。				
事前学習・事後学習とその時間	各回の授業において、学修した内容を、自らの指導案として、授業後まとめておくこと。さらに次の授業時のねらいがしめされるので、あらかじめそれに応じた運動内容を各自で考えておくこと。 予習・復習はそれぞれ約2時間行うこと。						
オフィスアワー	火曜日4限、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					副島斉子	
第2回	スタティックストレッチングの基本					副島斉子	
第3回	上半身のスタティックストレッチング					副島斉子	
第4回	下半身のスタティックストレッチング					副島斉子	
第5回	スタティックストレッチングのプログラミング					副島斉子	
第6回	筋力トレーニングの基本					副島斉子	
第7回	マシンを使った筋力トレーニングの基本					副島斉子	
第8回	マシンを使った筋力トレーニングの発展					副島斉子	
第9回	マシンを使った筋力トレーニングのプログラミング					副島斉子	
第10回	フリーウェイトを使った筋力トレーニングの基本					副島斉子	
第11回	身体のコンディショニングとしてのピラティス					副島斉子	
第12回	基本的なゆる体操					副島斉子	
第13回	ゆる体操の発展とゆる筋トレ					副島斉子	
第14回	基本的なゆるトレーニング					副島斉子	

第15回	ゆるウォーク	副島斉子
第16回	試験	副島斉子
教科書		
教・書籍名1	スポーツのための筋力トレーニング練習メニュー120	教・出版社名1 池田書店
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	体力学			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-201		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	体力を広く捉え、健康に関連した体力の概念を主として、その内容・構造を理解する。運動処方基礎として、体力の構成要素について専門的に学び、健康と体力、ひいては運動の必要性が理論的に理解できるようになる。						
授業概要	現代の社会環境や、現代人の生活状況が、体力にどのように影響を与えているか。また、発育発達過程で、体力はどのように変遷していくかについて論じる。さらに、老化と体力の関連性、疾病と体力の関連性にまでテーマを広げ、障害者の体力の問題にも焦点を当てる。体力についてその要素を、身体及び精神の両面に関わる、相互の連関において理解し、かつ疾病や障害との関連性を学習する。体力の捉え方や意味についての歴史の変遷について論じ、過去から現代にいたる日本人の体力の推移と、それに関わる要因と健康問題の関連性が理解できるようになる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	受講態度20%、単位認定試験80%による総合評価を行う。単位認定試験は採点后各自個別指導を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	複数回に分けて、学習理解度確認のための課題や小テストをユニバーサルサポートを用いて実施する。実施した課題および小テストで得られた回答の一部は、必要に応じて講義内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	健康運動指導士資格認定試験受験資格必須科目 健康運動実践指導者資格認定試験受験資格必須科目 (公財)日本スポーツ協会公認スポーツリーダー、スポーツプログラマー、ジュニアスポーツ指導員受験資格必修科目 毎回の授業時において配布する資料や、各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習また指示された予習を行うこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習として授業計画に記載されている部分について事前に参考資料等を約2時間読みまわすこと。復習として毎回の授業を自分でまとめ必要ところは繰り返し約2時間読んで暗記すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室(9402研究室)において、毎週月曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	体力の定義：健康に関連した体力					高原皓全	
第2回	体力の構成要素とその測定方法					高原皓全	
第3回	身体組成とその評価及び健康との関連性					高原皓全	
第4回	身体活動度と健康・体力					高原皓全	
第5回	筋力とその評価及び健康との関連性					高原皓全	
第6回	全身持久力とその評価及び健康との関連性					高原皓全	
第7回	柔軟性とその評価及び健康との関連性					高原皓全	
第8回	調整力とその評価及び健康との関連性					高原皓全	
第9回	発育発達段階と体力					高原皓全	
第10回	加齢と体力の減退					高原皓全	
第11回	女性の体力：男女の比較					高原皓全	
第12回	障がい者の体力					高原皓全	
第13回	スポーツマンと体力					高原皓全	
第14回	こころの健康と体力					高原皓全	
第15回	生活習慣と体力					高原皓全	

第16回	単位認定試験	高原皓全
教科書		
教・書籍名1	資料を配布する	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	体力学演習Ⅰ			担当者	山口 英峰、天岡 寛、高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-202		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	メディカルチェックの意義と内容、体力の測定方法や健康調査について、その理論と実際を学習する。身体活動度の評価方法、身体組成の評価方法を学習する。そして、的確に健康・体力の評価が行えて、そのうえで運動実施に関する相談を受けかつ指導ができるようになる。						
授業概要	健康や体力に関する測定・評価について、理論面の講義にもとづき、体力測定、検査、調査法などについて、実技・演習を行う。測定、検査、調査法の妥当性や再現性などについて理解し、対象者や目的に応じた評価方法の選択と、正しい実施方法を習得する。それらのデータを統計学的方法によって分析する基本を学び、これらによる診断・評価を踏まえながら、有酸素運動の運動種目であるジョギングウォーキングの実践方法・指導方法を学習す						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習／フィールドワーク						
評価方法と割合	受講態度20%、最終レポート80%により総合的に評価を行う。最終レポートは採点后各自個別指導を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストや課題は、講義内でフィードバックすることから、最終レポート作成までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	健康運動指導士資格認定試験受験資格必須科目 健康運動実践指導者資格認定試験受験資格必須科目 （公財）日本スポーツ協会公認スポーツプログラマー受験資格必須科目 毎回の授業時において配布する資料や、各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習また指示された予習を行うこと。 適宜、先回の授業内容について、レポートの作成・提出を行う。						
実務経験のある教員	該当する	内容	健康運動指導士				
事前学習・事後学習とその時間	予習として授業計画に記載されている部分について事前に参考資料等を約2時間読みままとめておくこと。復習として毎回の授業を自分でまとめ必要ところは繰り返し約2時間読んで暗記すること。						
オフィスアワー	担当教員別 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					担当教員全員	
第2回	体力測定の意義と目的					担当教員全員	
第3回	メディカルチェックの必要性和目的					担当教員全員	
第4回	メディカルチェックの内容					担当教員全員	
第5回	身体活動度の評価方法：質問紙法					担当教員全員	
第6回	身体活動度の評価方法：その他の方法					担当教員全員	
第7回	身体組成と健康およびその評価					担当教員全員	
第8回	皮下脂肪厚測定による身体組成評価					担当教員全員	
第9回	その他の方法による身体組成評価					担当教員全員	
第10回	体力測定の実際：新体力テスト					担当教員全員	
第11回	体力測定の実際：エクササイズガイド					担当教員全員	
第12回	体力測定の計画					担当教員全員	
第13回	体力測定の実施					担当教員全員	
第14回	体力測定の評価					担当教員全員	
第15回	体力プロフィールの作成					担当教員全員	
第16回							

教科書			
教・書籍名1	資料を配布する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	体力学演習Ⅱ			担当者	山口 英峰、天岡 寛、高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-203		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	体力の測定方法について、その理論と実際を学習する。実験室的な測定から、フィールドでの測定、質問紙による調査など、測定条件や目的に応じた測定方法を学習する。さらに、中高齢者に特化した測定・特に生活体力に焦点を当てたADL評価と関連させた測定・評価方法を学習する。そして、対象者に適合した体力の評価ができるようになる。						
授業概要	測定や検査の診断・評価について理解する。そのうえで、体力の測定方法が正しく実施できる技能を習得する。さらに、健康づくりの上での重要な対象者である、中高年齢者に適した体力評価と、その結果の活用の仕方を学ぶ。各体力要素ごとにその評価方法の理論的な理解と、実際の評価の実施方法を学習する。実際の指導現場における測定方法であるフィールドテストを中心に、現代において特に重要視される目的や対象者に対する評価方法が正しく実施できて、評価・診断できる能力を養う。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業中の課題提出、小テストやレポート提出で50%、最終レポートで50%の配分によって評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストや課題は、講義内でフィードバックすることから、最終レポート作成までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	健康運動指導士資格認定試験受験資格必須科目 （公財）日本スポーツ協会公認スポーツプログラマー受験資格必須科目 体力学演習Ⅰを履修すること。健康運動実践指導者受験資格科目ではないが、健康運動実践指導者を受験する学生は履修することが強く望まれる。 毎回配布する資料やノートの復習を、十分に行うこと。先回の内容について、適宜レポートの作成・提出を行う。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習として授業計画に記載されている部分について事前に参考資料等を約2時間読みまわしておくこと。復習として毎回の授業を自分でまとめ必要などところは繰り返し約2時間読んで暗記すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（1921研究室）において、毎週水曜日1限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	検査・測定結果の理解と効果判定					担当者全員	
第2回	形態、体型の測定と評価					担当者全員	
第3回	筋力の測定と評価（新体力テストを含め）					担当者全員	
第4回	パワーの測定と評価（新体力テストを含め）					担当者全員	
第5回	柔軟性の測定と評価（新体力テストを含め）					担当者全員	
第6回	有酸素能力の測定と評価（新体力テストを含め）					担当者全員	
第7回	無酸素能力の測定と評価（新体力テストを含め）					担当者全員	
第8回	一般成人対象のフィールドテスト：筋力					担当者全員	
第9回	一般成人対象のフィールドテスト：有酸素能力					担当者全員	
第10回	一般成人対象のフィールドテスト：調整力					担当者全員	
第11回	高齢者の体力特性と測定の留意点					担当者全員	
第12回	高齢者の持久力評価					担当者全員	
第13回	高齢者の筋力評価					担当者全員	
第14回	介護予防のための体力評価					担当者全員	

第15回	最終レポート作成	担当者全員	
第16回			
教科書			
教・書籍名1	資料を配布する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	運動処方			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-204		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	「現場で役に立つ運動処方」をテーマとする。運動処方の理論だけでなく、現場で役立つ実践方法の基礎を理解することができる。						
授業概要	本講義では、トレーニングについての基礎的な理解を深め、具体的な運動処方の方法を学ぶ。運動処方では、薬の処方と同様、間違った運動を処方することは大変危険である。正しい知識を身につけ、子どもから高齢者まで様々な体力レベルに応じた運動処方ができるよう、トレーニングの原則や方法を熟知しておくことが重要である。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	受講態度20%、単位認定試験80%による総合評価を行う。単位認定試験は採点后各自個別指導を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	複数回に分けて、学習理解度確認のための課題や小テストをユニバーサルサポートを用いて実施する。実施した課題および小テストで得られた回答の一部は、必要に応じて講義内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 「日本スポーツ協会関連資格認定試験受験資格 共通科目（共通Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ）」必須科目 授業時に配布する資料や各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習及び指示された予習を行うこと。 適宜、理解度確認レポートの作成・提出を行う。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習として授業計画に記載されている部分について事前に参考書等を約2時間読みままとめておくこと。復習として毎回の授業を自分でまとめ必要なところは繰り返し約2時間読んで理解すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9402研究室）において、毎週月曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	運動処方とは					高原皓全	
第2回	運動不足と生活習慣病					高原皓全	
第3回	トレーニング概論					高原皓全	
第4回	トレーニングの原理・原則					高原皓全	
第5回	トレーニング条件と反応・トレーニング強度					高原皓全	
第6回	筋力と筋量増強のトレーニング条件とその効果					高原皓全	
第7回	筋パワーと筋持久力トレーニングの条件とその効果					高原皓全	
第8回	全身運動によるエアロビクトレーニング					高原皓全	
第9回	減量とトレーニング					高原皓全	
第10回	加齢に伴う体力の自然減退とトレーニング					高原皓全	
第11回	子どもと運動					高原皓全	
第12回	高齢者と運動					高原皓全	
第13回	運動プログラムの基本原則					高原皓全	
第14回	運動プログラム作成の基礎					高原皓全	
第15回	運動プログラム作成の応用					高原皓全	
第16回	単位認定試験					高原皓全	
教科書							
教・書籍名1	健康運動実践指導者養成用テキスト				教・出版社名1	健康・体力づくり事業財団	
教・著者名1	健康・体力づくり事業財団				教・ISBN1	ISBNなし	

教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	運動処方演習Ⅰ			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-205		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	『神経筋系の作業能力（筋力・柔軟性）を向上させるための運動プログラム』をテーマとして、学生はプログラムを作成したうえで、各種運動器具を用いて行う運動、あるいは特別な器具を用いることなく行う運動のプログラムの作成の仕方を学び、指導することができるようになることを到達目標とする。						
授業概要	健康・体力の維持向上、老化の防止、痩身などを目的とした運動処方の実際を学ぶ。目的別運動処方の作成から実施の実際を学習する。特に、生活習慣病の予防、転倒防止などを対象にした介護予防などの目的で行われる運動の基本となる、筋力向上や筋肥大、筋持久力向上をねらいとした運動処方の実際について学習する。さらに、ウェイトトレーニング（レジスタンストレーニング）実施の際の、動作に関わる注意点や、指導上の留意点について、実際に役立つ形で学ぶ。 この授業の担当者は、健康運動指導の実務経験を有する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業中の課題提出、小テストやレポート提出で50%、最終レポートで50%の配分によって評価する。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	健康運動指導士資格認定試験受験資格必須科目 健康運動実践指導者資格認定試験受験資格必須科目 (公財)日本スポーツ協会公認スポーツプログラマー受験資格必須科目 毎回の授業時において配布する資料や、各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習また指示された予習を行うこと。 適宜、先回の授業内容について、レポートの作成・提出を行う。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	運動処方の基礎となる人間の身体や体力に関する科目の内容を、毎回の授業内容に照らし合わせて、予習しておくこと。さらに、授業後は、学んだことを実践して、実技力として習得すること。逐次実技試験を行う。 予習1コマ・復習1コマをそれぞれ行うこと。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室にて						
授業計画						担当者	
第1回	warm upとwarm downの方法					竹内研	
第2回	isometricsの基本					竹内研	
第3回	isometricsの運動プログラム					竹内研	
第4回	isotonicsの基本					竹内研	
第5回	isotonicsの発展					竹内研	
第6回	isotonicsの応用					竹内研	
第7回	stretchingの実際					竹内研	
第8回	stretchingの運動プログラム					竹内研	
第9回	基本的なウェイトトレーニングのプログラム					竹内研	
第10回	ウェイトトレーニングの変数					竹内研	
第11回	ウェイトトレーニングのシステム					竹内研	
第12回	サーキットトレーニング					竹内研	

第13回	目的別ウェイトトレーニングのプログラム	竹内研
第14回	高齢者を対象としたウェイトトレーニングのプログラム	竹内研
第15回	脳科学から見た運動処方	竹内研
第16回		
教科書		
教・書籍名1	健康運動指導士養成講習会テキスト	教・出版社名1 健康・体力づくり事業財団
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2	生涯スポーツトレーナーアドバンスコーステキスト	教・出版社名2 株式会社MJカンパニー
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	運動処方演習Ⅱ			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-206		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	学生は『呼吸・循環器系の作業能力を向上させるための運動プログラム』をテーマとし、プログラムを作成したうえで、目的に応じた運動プログラムの作成の仕方を学び、指導することができるようになることを到達目標とする。						
授業概要	健康・体力の維持向上,老化の防止,痩身などを目的とした運動処方の実際を学ぶ。介護予防,生活習慣病予防など、目的別運動処方の作成と実施の仕方の実際を学習したうえで、運動行動や習慣を改善するアプローチについて学習する。昨今重要視されてきたメタボリックシンドロームやロコモティブシンドローム、さらにはメンタルヘルスの改善においても、有酸素運動を中心とした運動プログラムは重要である。こうした目的で行われる運動指導の実際上の留意点についても学習する。 この授業の担当者は、健康運動指導の実務経験を有する。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業中の課題提出,小テストやレポート提出で50%、最終レポートで50%の配分によって評価する。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	健康運動指導士資格認定試験受験資格必須科目 (公財)日本スポーツ協会公認スポーツプログラマー受験資格必須科目 運動処方演習Ⅰを履修すること。健康運動実践指導者受験資格科目ではないが、健康運動実践指導者を受験する学生は、履修することが強く望まれる。 毎回の授業時において配布する資料や、各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習また指示された予習を行うこと。 適宜、先回の授業内容について、レポートの作成・提出を行う。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	運動処方の基礎となる人間の身体や体力に関する科目の内容を、毎回の授業内容に照らし合わせて、予習しておくこと。さらに、授業後は、学んだことを実践して、実技力として習得すること。 予習1コマ・復習1コマをそれぞれ行うこと。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室にて						
授業計画						担当者	
第1回	aerobic exerciseの運動処方の基本					竹内研	
第2回	aerobic exerciseの目的別プログラム					竹内研	
第3回	一般的な運動プログラムの作成					竹内研	
第4回	子供の運動プログラム					竹内研	
第5回	高齢者のaerobic exerciseプログラム					竹内研	
第6回	介護予防のための運動					竹内研	
第7回	肥満予防と改善のための運動プログラム					竹内研	
第8回	ロコモティブシンドロームと運動					竹内研	
第9回	女性のための運動プログラム					竹内研	
第10回	障害者のための運動プログラム					竹内研	

第11回	高血圧の運動指導	竹内研
第12回	糖尿病予防と改善のための運動指導	竹内研
第13回	その他の疾患の運動指導	竹内研
第14回	メンタルヘルスのための運動指導	竹内研
第15回	最終レポート作成	竹内研
第16回		

教科書		
-----	--	--

教・書籍名1	健康運動指導士養成講習会テキスト	教・出版社名1	健康・体力づくり事業財団
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2	生涯スポーツトレーナー教本	教・出版社名2	公益財団法人日本健康スポーツ連盟
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書		
-----	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ医学Ⅰ 集中A			担当者	川上 照彦		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-207		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	スポーツ医学を生理学、整形外科学、内科学等の観点から理解し、スポーツ医学の重要性を理解する。学生はスポーツ時に起こりやすい外傷や障害を理解し、それぞれの応急処置について学ぶことができる。						
授業概要	競技スポーツの特性と健康スポーツの大切さについて事例をあげて説明する。また、様々な障害について事例をあげ、その予防や処置について基礎的なことを学ぶ。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習						
評価方法と割合	講義姿勢(10%)、発表、ディスカッションへの参加(10%)、定期試験(80%)から評価する。なお、講義内の発表評価に関しては講義内にフィードバックすることから、発表内容について試験までに見直しが必要である。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題や試験のフィードバックは講義時間内にて行う。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 「日本スポーツ協会公認スポーツリーダー」「スポーツプログラマー」受験資格必須科目 講義項目ごとに資料を配布する。資料は図表が主となるので、理解のためには講義への出席が重要となる。すべてにおいて、主体的な姿勢で臨むこと。分からないことについては積極的に質問するよう取り組むこと。提出物の期限は厳守すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	日本体育協会の公認スポーツドクター、日本整形外科学会の専門医としてスポーツ選手の治療に携わると共に、高知県スポーツ医科学員会の委員長、高知県メディカルチェック委員会の委員としてスポーツ行政にも参加している。				
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が必要である。予習として、毎回の授業において問題提起と討論が可能ないように配布されたプリントの指定されたページを熟読してくる。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。なお、予習・復習には2時間を要する。						
オフィスアワー	非常勤講師のため、講義後の時間をオフィスアワーとする。						
授業計画						担当者	
第1回	内課的障害と予防					川上照彦	
第2回	スポーツと内科的障害					川上照彦	
第3回	外科的障害 上肢					川上照彦	
第4回	外科的障害 下肢					川上照彦	
第5回	外科的障害 脊椎					川上照彦	
第6回	外科的処置1) 全身性障害：実習含む					川上照彦	
第7回	外科的処置2) 局所外傷：実習含む					川上照彦	
第8回	救急蘇生法：実習含む					川上照彦	
第9回	メディカルチェック					川上照彦	
第10回	健康と障害について					川上照彦	
第11回	スポーツ外傷とその予防					川上照彦	
第12回	スポーツ障害とその予防					川上照彦	
第13回	救急処置（アイシング・テーピング）：実習含む					川上照彦	
第14回	熱中症					川上照彦	

第15回	ドーピングについて	川上照彦
第16回	筆記試験	川上照彦
教科書		
教・書籍名1	使用しない(資料を配布する)	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	スポーツ医学Ⅱ 集中E			担当者	川上 照彦		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-208		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	運動負荷試験の基礎として検査の目的、手順、方法および判定について理解する。学生は実践を通して、エルゴメーターを用いた運動負荷試験を行うことができる。						
授業概要	運動負荷試験の基礎となる運動負荷の様式、手順ならびに判定について様々な生理学的なパラメータを用いて実践し、理解を深める。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	講義姿勢(10%)、発表、ディスカッションへの参加(10%)、レポート課題(10%)、定期試験(70%)から評価する。なお、評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題や試験のフィードバックは講義時間内に行う。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 講義項目ごとに資料を配布する。資料は図表が主となるので、理解のためには講義への出席が重要となる。						
実務経験のある教員	該当する	内容	日本体育協会の公認スポーツドクター、日本整形外科学会専門医としてスポーツ障害患者の治療に携わると共に、高知県医科学員会委員長、高知県メディカルチェック委員会の委員としてスポーツ行政、スポーツ選手のコンディショニングに関わっている。				
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が必要である。予習として、毎回の授業において問題提起と討論が可能なように配布されたプリントの指定されたページを熟読してくる。復習として、毎回課題を出すので、次の授業時に発表すること。なお、予習・復習には2時間を要する。						
オフィスアワー	非常勤講師のため、講義後の時間をオフィスアワーとする。						
授業計画						担当者	
第1回	メディカルチェックについて					川上照彦	
第2回	健診結果の見方について					川上照彦	
第3回	服薬者の運動プログラム					川上照彦	
第4回	安静時の心電図について					川上照彦	
第5回	運動負荷試験とは					川上照彦	
第6回	運動負荷試験の実際					川上照彦	
第7回	運動負荷試験実習(1)トレッドミル測定の実際(実習含)					川上照彦	
第8回	運動負荷試験実習(2)エルゴメーター測定の実際(実習含)					川上照彦	
第9回	運動負荷試験実習(3)ホルター心電図の実際(実習含)					川上照彦	
第10回	運動負荷試験実習(4)テレメータ心電図の実際(実習含)					川上照彦	
第11回	運動負荷試験実習(5)フィールド測定(実習含)					川上照彦	
第12回	運動負荷試験実習(6)評価と解析					川上照彦	
第13回	運動負荷試験実習(7)潜水反射試験					川上照彦	
第14回	運動時における一過性の循環器応答について					川上照彦	
第15回	運動プログラム作成について					川上照彦	
第16回	単位認定試験(筆記試験)					川上照彦	
教科書							
教・書籍名1	使用しない(資料を配布する)					教・出版社名1	

教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	応用スポーツ論			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-209		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	運動プログラム作成をテーマとする。学生は運動プログラム作成の基本的な知識と理論を理解することで、一般の運動処方ならびに内科的疾患を持っている方への運動処方の基礎を学ぶことができる。						
授業概要	健康の保持・増進にはスポーツなどの身体活動の実践が有効である。本講義では、幅広い年齢層におけるスポーツ実践についての理解を深めるために、様々な運動時の生体応答等についての知識と理論について学習する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義中の課題(30%)、定期試験(70%)から評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 すべてにおいて、主体的な姿勢で臨むこと。分からないことについては積極的に質問するよう取り組むこと。提出物の期限は厳守すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が必要である。講義毎に前週講義内容の小テストを行うので毎回の授業においてテキストの指定されたページを熟読してくる。復習として講義内容や小テストの内容をしっかりと確認すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9410研究室）において、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	概要					山口英峰	
第2回	ストレッチおよび柔軟体操の実践					山口英峰	
第3回	ウォーミングアップとクーリングダウンの理論					山口英峰	
第4回	有酸素運動時の生体応答-ウォーキング					山口英峰	
第5回	有酸素運動時の生体応答-ランニング					山口英峰	
第6回	有酸素運動時の生体応答-水中運動					山口英峰	
第7回	有酸素運動時の生体応答-エアロビクダンス					山口英峰	
第8回	無酸素性運動時の生体応答					山口英峰	
第9回	筋力トレーニング時の生体応答					山口英峰	
第10回	運動プログラムについて					山口英峰	
第11回	運動プログラムの作成-若年者					山口英峰	
第12回	運動プログラムの作成-高齢者					山口英峰	
第13回	運動プログラムの作成-後期高齢者					山口英峰	
第14回	運動プログラムの作成-子ども					山口英峰	
第15回	総括					山口英峰	
第16回	単位認定試験					山口英峰	
教科書							
教・書籍名1	健康運動実践指導者用テキスト				教・出版社名1	健康・体力づくり事業財団	
教・著者名1	健康・体力づくり事業財団				教・ISBN1	ISBNなし	

教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	改訂3版 健康運動実践指導者試験筆記対策分野別 & 模擬問題集	参・出版社名1	日本能率協会マネジメントセンター
参・著者名1	NESTA JAPAN	参・ISBN1	9784820729617
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	応用スポーツ実習 グループ授業			担当者	山口 英峰、天岡 寛、高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-210		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	運動プログラムの基礎および応用について実践を通して理解する。学生は個人（対象者）に応じた運動プログラムの作成およびその実践力をみにつけることができる。						
授業概要	本講義では、幅広い年齢層におけるスポーツ実践についての理解を深めるとともに、効果的な運動実践方法について実習を通して身につけることを目的とする。また、自らの身体がトレーニングによってどのように変化していくのかについても体験する。						
アクティブラーニングの内容	実習/その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	レポート課題(20%)、実技試験（40%）、筆記試験（40%）から評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 健康運動実践指導者資格認定試験受験資格の必須科目ではないが、健康運動実践指導者試験を受験する学生は履修することが強く望まれる。						
実務経験のある教員	該当する	内容	健康運動指導士				
事前学習・事後学習とその時間	講義内で行う運動プログラムの作成ならびにその実演についての習得には、事前に配布する運動プログラム内容理解が必要である。実技および筆記試験ともに講義前後の予習復習が必要である。						
オフィスアワー	担当教員別 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	概要					天岡 寛、山口 英峰、高原 皓全	
第2回	ストレッチおよび柔軟体操の実際					天岡 寛、山口 英峰、高原 皓全	
第3回	ウォーミングアップとクーリングダウンの実際					天岡 寛、山口 英峰、高原 皓全	
第4回	ウォーキングの実際					天岡 寛、山口 英峰、高原 皓全	
第5回	ランニングの実際					天岡 寛、山口 英峰、高原 皓全	
第6回	エアロビックダンスの実際					天岡 寛、山口 英峰、高原 皓全	
第7回	筋力トレーニングの実際（1）上肢					天岡 寛、山口 英峰、高原 皓全	
第8回	筋力トレーニングの実際（2）下肢					天岡 寛、山口 英峰、高原 皓全	
第9回	運動プログラム作成					天岡 寛、山口 英峰、高原 皓全	
第10回	運動プログラムの実践（1）若年者					天岡 寛、山口 英峰、高原 皓全	
第11回	運動プログラムの実践（2）高齢者					天岡 寛、山口 英峰、高	

		原 皓全
第12回	運動プログラムの実践 (3) 後期高齢者	天岡 寛、山口 英峰、高 原 皓全
第13回	運動プログラムの実践 (4) こども	天岡 寛、山口 英峰、高 原 皓全
第14回	運動プログラムの実践 (5) アスリート	天岡 寛、山口 英峰、高 原 皓全
第15回	総括	天岡 寛、山口 英峰、高 原 皓全
第16回	筆記および実技試験	天岡 寛、山口 英峰、高 原 皓全

教科書

教・書籍名1	健康運動実践指導者養成用テキスト	教・出版社名1	健康・体力づくり事業財団
教・著者名1	健康・体力づくり事業財団	教・ISBN1	ISBNなし
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	改訂3版 健康運動実践指導者試験筆記対策分野別&模擬問題集	参・出版社名1	日本能率協会マネジメントセンター
参・著者名1	NESTA JAPAN	参・ISBN1	9784820729617
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	健康運動実習Ⅰ			担当者	竹内 美穂		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-211		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	『有酸素運動のひとつである「エアロビック・ダンスエクササイズ」の特性を』をテーマとし、エアロビック・ダンスエクササイズの基本的な技術を習得する。適切な運動強度の設定と運動強度の把握のしかたを知り、指導上の注意点を理解して、基本的なエアロビック・ダンスエクササイズの指導が出来るよう、指導力を習得することを到達目標とする。						
授業概要	まずはエアロビック・ダンスエクササイズに親んでもらう。参加者の目的や、経験、体力レベル等を考慮した運動プログラムを実感してもらい、さらにそれらのプログラムの組み立てかたを学ぶ。強化エクササイズとしてのコンディショニングやヨガ・ストレッチ等もとり入れてトータルな健康運動を体感して学ぶ。 この授業の担当者はエアロビック・ダンスエクササイズ指導の実務経験を有する。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	授業内での小テストによって(50%)、最終テストによって(50%) で評価する。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した試験や課題の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	運動できる服装で受講すること。特にシューズは必ず着用のこと（安全上）。平素の小テストにより予習・復習を明確に行う。 「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 「(公財)日本スポーツ協会公認スポーツプログラマー受験資格」必須科目						
実務経験のある教員	該当する	内容	スポーツクラブや健康増進施設などで、成人や高齢者に指導。				
事前学習・事後学習とその時間	実技内容のまとめと復習(予習復習各2時間程度を要する。)						
オフィスアワー	授業終了後、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	エアロビック・ダンス・エクササイズの沿革					竹内美穂	
第2回	健康・体力づくりとエアロビック・ダンス・エクササイズ					竹内美穂	
第3回	エアロビック・ダンス・エクササイズの基本動作					竹内美穂	
第4回	エアロビック・ダンス・エクササイズの基本ルーティン					竹内美穂	
第5回	エアロビック・ダンス・エクササイズの運動強度とその指標					竹内美穂	
第6回	ウォーム・アップの構成					竹内美穂	
第7回	メイン・パートの構成Ⅰ					竹内美穂	
第8回	メイン・パートの構成Ⅱ：音楽のフレーズと動きの構成					竹内美穂	
第9回	メイン・パートの構成Ⅲ：運動強度のコントロール					竹内美穂	
第10回	クール・ダウンとコンディショニング					竹内美穂	
第11回	レッスンの全体構成					竹内美穂	
第12回	レッスンの全体構成と指導方法					竹内美穂	
第13回	レッスンの全体構成と指導方法：動きの指示出しとキューイング					竹内美穂	
第14回	エアロビック・ダンス・エクササイズの目的別指導					竹内美穂	
第15回	エアロビック・ダンス・エクササイズの対象者別指導					竹内美穂	

第16回	試験	竹内美穂	
教科書			
教・書籍名1	地域スポーツ指導員 エアロビック専門科目教本	教・出版社名1	一般社団法人日本エアロビック連盟
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	健康運動実習Ⅱ 複数担当			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-212		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	実習	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	「水中環境における健康づくり」をテーマとし、自らが考え、行動できるレベルを到達目標とする。						
授業概要	水の特性を理解する。そして水の特性を利用して行う、水泳・水中運動の基本的な技法を習得する。水泳・水中運動が持つ、健康・体力づくりのための意義を学ぶ。運動強度の調節の方法を理解し、対象者に適した運動プログラムが構成でき、適切な指導が出来るように学習する。						
アクティブラーニングの内容	実習/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	最終試験(50%)、レポート等課題(30%)、受講態度(20%) なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 「保健体育科教員資格」選択科目 学外実習施設を利用する。 事前学習(講義)を春学期中に行う。各自掲示板で確認の上、出席すること。なお、このときに実習クラス分けも行う。 授業時に配布する資料や各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習及び指示された予習を行うこと。 適宜、レポートの作成・提出を行う。						
実務経験のある教員	該当する	内容	健康運動指導士				
事前学習・事後学習とその時間	事前学習時に出される毎回の課題の提出について厳守すること。学外実習時においては、事前学習で得たことを実践するため、予習を行い、実践体験についてまとめること。						
オフィスアワー	教員別 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	導入授業&水の特性と水泳・水中運動1(浮力・水圧)					天岡 寛	
第2回	水の特性と水泳・水中運動2(水温・粘性抵抗)					天岡 寛	
第3回	健康・体力づくりと水泳・水中運動(安全管理)					天岡 寛	
第4回	水中での動作1(浮く)					各教員(グループ別)	
第5回	水中での動作2(潜る)					各教員(グループ別)	
第6回	水中での動作の運動強度					各教員(グループ別)	
第7回	水中運動でのプログラム1(アクアビクス)					各教員(グループ別)	
第8回	水中運動でのプログラム2(アクアウォーク)					各教員(グループ別)	
第9回	水中運動の指導方法1(アクアビクス)					各教員(グループ別)	
第10回	水中運動の指導方法2(アクアウォーク)					各教員(グループ別)	
第11回	水泳の基本泳法1(クロール・背泳ぎ)					各教員(グループ別)	
第12回	水泳の基本泳法2(平泳ぎ)					各教員(グループ別)	
第13回	水泳の基本泳法3(バタフライ)					各教員(グループ別)	
第14回	水泳の運動強度と指導法					各教員(グループ別)	
第15回	まとめ					天岡 寛	

第16回	単位認定試験	天岡 寛	
教科書			
教・書籍名1	健康運動実践指導者養成用テキスト	教・出版社名1	健康・体力づくり事業財団
教・著者名1	健康・体力づくり事業財団	教・ISBN1	なし
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	遠泳学事始 「今こそ、子どもたちに遠泳を!」 海で育てる生きる力とおもいやり遠泳学事始	参・出版社名1	フリースペース
参・著者名1	木村 一彦, 矢野 博己	参・ISBN1	4434175610
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	健康運動現場実習			担当者	山口 英峰、天岡 寛、倉知 典弘、高原 皓全、孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-213		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	60	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	習得してきた専門的能力を、実際の現場で生かせるために、専門職者としての実務能力や指導力を養成する。また、各自のそれまでの学習で、不足している内容を把握し、今後の指導力養成の糧とすることができる。						
授業概要	施設での実習に先立ち、学内に於いて、健康増進施設の概要や業務内容、対人関係での留意点などについて学習した後、施設で実習を行なう。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション/実習/その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	レポート30%、施設実習評価70%とする。 なお、評価のために実施したレポート課題は、講義内でフィードバックすることから、コメントについて検討し、実習報告会で反映させること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストや課題は、講義内でフィードバックすることから、最終レポート作成までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目						
実務経験のある教員	該当する	内容	健康運動指導士				
事前学習・事後学習とその時間	施設実習を行う前に十分な予習が必要である。具体的な運動プログラムの作成等、講義で配布された資料を熟読すること。実習中は、「実習ノート」に記録をとり復習すること。						
オフィスアワー	担当教員別 9号館4階研究室 6号館3階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション						担当者全員
第2回	健康運動指導の現場から（外部講師）						担当者全員
第3回	健康増進施設の現状と役割						担当者全員
第4回	施設・設備の概要と管理						担当者全員
第5回	対人マナー・コミュニケーション、接遇						担当者全員
第6回	個人情報管理，事務処理等						担当者全員
第7回	施設での実習						担当者全員
第8回	施設での実習						担当者全員
第9回	施設での実習						担当者全員
第10回	施設での実習						担当者全員
第11回	施設での実習						担当者全員
第12回	施設での実習						担当者全員
第13回	施設での実習報告						担当者全員
第14回	施設での実習						担当者全員
第15回	施設での実習						担当者全員
第16回	施設での実習						担当者全員
第17回	施設での実習						担当者全員
第18回	施設での実習						担当者全員
第19回	施設での実習						担当者全員
第20回	施設での実習						担当者全員

第21回	施設での実習		担当者全員
第22回	施設での実習		担当者全員
第23回	施設での実習		担当者全員
第24回	施設での実習		担当者全員
第25回	施設での実習		担当者全員
第26回	施設での実習		担当者全員
第27回	施設での実習		担当者全員
第28回	施設での実習		担当者全員
第29回	施設での実習報告		担当者全員
第30回	健康運動指導の現場から（外部講師）		担当者全員
第31回	実習報告会①		担当者全員
第32回	実習報告会②		担当者全員
教科書			
教・書籍名1	健康運動指導士養成講習会テキスト	教・出版社名1	健康・体力づくり事業財団
教・著者名1	健康・体力づくり事業財団	教・ISBN1	ISBNなし
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	運動療法			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-214		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	「運動療法の理論と実際」をテーマとする。運動療法の理論だけではなく、現場で役立つ実践方法の基礎を理解できる。						
授業概要	運動は体力の維持・向上だけでなく、生活習慣病の予防・改善にも効果的であることは周知の通りである。しかしながら、間違った運動を行うと、かえって病状を悪化させてしまう。本講義では、生活習慣病と運動の関係について、疾患・疾病の関係特性について理解を深め、何をどの程度行うのが効果的であるのかを正しく理解し、対象者に適した運動プログラムの作成及び適切な指導が出来るよう学習する。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク/プレゼンテーション/フィールドワーク						
評価方法と割合	最終試験 (90%) , 発表, ディスカッションへの参加 (5%) , 受講態度 (5%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 1) 事前に課題を出し、グループ発表を行う参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。 2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。 3) 初回の授業には、必ず出席すること。 4) 試験は必ず行うので、授業に出席していただいただけでは単位は取れない。						
実務経験のある教員	該当する	内容	健康運動指導士				
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してくること。また、授業時に配布する資料や各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習及び次回への予習を行うこと (各2時間程度)。						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					天岡 寛	
第2回	運動療法とは					天岡 寛	
第3回	生活習慣病と運動療法					天岡 寛	
第4回	肥満症と運動療法					天岡 寛	
第5回	高血圧症と運動療法					天岡 寛	
第6回	高脂血症と運動療法					天岡 寛	
第7回	糖尿病と運動療法					天岡 寛	
第8回	虚血性心疾患と運動療法					天岡 寛	
第9回	認知症と運動療法					天岡 寛	
第10回	転倒防止と運動療法					天岡 寛	
第11回	がんと運動					天岡 寛	
第12回	障害者の運動能力の特徴とトレーニング					天岡 寛	
第13回	生活習慣病改善のための運動プログラム作成					天岡 寛	
第14回	服薬者の運動プログラム作成上の注意					天岡 寛	
第15回	まとめ					天岡 寛	
第16回	単位認定試験					天岡 寛	
教科書							

教・書籍名1	健康運動指導士養成講習会テキスト 上下	教・出版社名1	健康・体力づくり事業財団
教・著者名1	健康・体力づくり事業財団	教・ISBN1	なし
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する.	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	老年体力学			担当者	天岡 寛、永見 邦篤		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-215		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	加齢に伴う心身の変化と身体活動は、密接に関連する。身体活動の低下は、日常生活の不具合を引き起こす。その予防・改善の為に高齢者の体力について理解することができる。						
授業概要	加齢にともなって、身体活動能力がいかに変化するかを示す。神経・筋系の機能、呼吸・循環機能及び運動能力の変化について理解し、体力的予備力やトレーナビリティを捉えて、高齢者に適した運動の実際をプログラム化しうよう学習する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/グループワーク/プレゼンテーション/フィールドワーク						
評価方法と割合	講義内の課題を10%、毎回の試験を90%とし、評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 講義項目ごとに適宜、資料を配布する。生理学、解剖学、体力学及び運動生理学等を土台とする応用分野なので、各々の学習のなされていることが望まれる。						
実務経験のある教員	該当する	内容	健康運動指導士				
事前学習・事後学習とその時間	本講義は予習復習が各2時間程度必要である。予習として、毎回の授業において問題提起と討論が可能なように配布されたプリントのページを熟読してくる。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。						
オフィスアワー	非常勤講師：講義前後 6号館1階非常勤講師控え室 常勤講師：水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	高齢者と福祉と体力					天岡 寛	
第2回	高齢者の体力の推移					永見邦篤	
第3回	神経・筋機能の加齢変化 1) 筋タイプと萎縮					天岡 寛	
第4回	神経・筋機能の加齢変化 2) 行動の変化					永見邦篤	
第5回	呼吸機能の加齢変化					天岡 寛	
第6回	循環機能の加齢変化 1) 血管					永見邦篤	
第7回	循環機能の加齢変化 2) 心臓					天岡 寛	
第8回	高齢者と骨 1) 骨代謝					永見邦篤	
第9回	高齢者と骨 2) 骨と運動					天岡 寛	
第10回	身体活動の低下とCa代謝					永見邦篤	
第11回	身体活動の低下と循環機能					天岡 寛	
第12回	高齢者と睡眠、水分代謝					永見邦篤	
第13回	高齢期の至適運動 筋・循環機能について					天岡 寛	
第14回	高齢者の運動指導とその注意点					永見邦篤	
第15回	まとめ					天岡 寛	
第16回	単位認定試験					天岡 寛	
教科書							
教・書籍名1	健康運動指導士養成講習会テキスト 上下				教・出版社名1	健康・体力づくり事業財団	

教・著者名1	健康・体力づくり事業財団	教・ISBN1	なし
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	健康心理学			担当者	謝名堂 りさ		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-216		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	『運動中の心理的効用』をテーマとし、心理的要因が運動のパフォーマンスに及ぼす影響など、スポーツの心理的テーマを広く系統的に取り上げ解説する。健康に影響を与える心理的要因について理解し、心理面からの健康指導ができるようになる。また、健康づくりのための行動変容を促す指導ができるようになることを到達目標とする。						
授業概要	現代社会における精神保健に関わる問題を理解する。精神ストレスとそれに起因する健康問題及び、その解決方法を学ぶことができる。生活習慣病とそれに関わる心理的要因を理解するとともに、行動変容を含めた、健康心理学的知識を学習する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	講義に関する学習効果及び途中で提出するレポート類（学習到達目標に関する出題）を含む70%。学習態度30%である。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した試験や課題の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 「（公財）日本スポーツ協会公認スポーツリーダー・スポーツプログラマー受験資格」必須科目						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	ノートの復習(予習復習各2時間程度を要する。)						
オフィスアワー	授業終了後、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	運動行動変容の理論					謝名堂りさ	
第2回	運動行動変容理論の応用・実際					謝名堂りさ	
第3回	心の健康論					謝名堂りさ	
第4回	健康づくりとカウンセリング（実習も含む）					謝名堂りさ	
第5回	ストレスアセスメントと対処法					謝名堂りさ	
第6回	スポーツ競技者の性格特性					謝名堂りさ	
第7回	競技力と情緒の安定					謝名堂りさ	
第8回	動機づけと目標設定（実習を含む）					謝名堂りさ	
第9回	あがりパフォーマンス					謝名堂りさ	
第10回	スキルトレーニング：運動学習理論					謝名堂りさ	
第11回	メンタルトレーニング					謝名堂りさ	
第12回	スポーツ集団と人間関係					謝名堂りさ	
第13回	スポーツ集団とリーダーシップ					謝名堂りさ	
第14回	スポーツ選手のバーンアウト					謝名堂りさ	
第15回	セルフエフィカシー					謝名堂りさ	
第16回	試験					謝名堂りさ	

教科書			
教・書籍名1	健康スポーツの心理学	教・出版社名1	大修館書店
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	運動生理学演習Ⅰ グループ授業			担当者	山口 英峰、天岡 寛、高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-217		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	運動生理学および身体運動学で身体構造、運動時の生体応答について学んだことを、実験実習形式で身をもって体験する。その結果、人間の生理的運動機能に対する理解を深め、教科書では学ぶことのできない体験的学習が可能となる。学生は将来の実践的運動指導にむけての基礎的能力を身につけることができる。						
授業概要	運動生理学演習室に設備されている実験機器をの操作を理解し、実際に自らの手によって実験を行う。その後、実験データの整理を行い、まとめてレポートを作成する。レポートには、実験の目的、方法、結果、考察。まとめる順で書くように指導する。その後、卒業研究にも結びつくように指導を行う。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/グループワーク/実習/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	実験実習形式であるため、機器の操作、データ整理、レポート内容について評価を行う。機器の操作およびデータ整理(30%)、レポート内容(70%)から評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施したレポート課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 運動にかかわる実験を行うため、自らが被験者になることを考え、運動のできる服装で参加すること。すべてにおいて、主体的な姿勢で臨むこと。分からないことについては積極的に質問するよう取り組むこと。提出物の期限は厳守すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	天岡寛、高原皓全：健康運動指導士				
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が必要である。運動生理学の基礎的知識について、事前に配布する資料で予習すること。復習として、実習の疑問点について文章化し、次回の講義で発表すること。						
オフィスアワー	担当教員別 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	心電図と導出法1) テレメタリング					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第2回	心電図と導出法2) 12誘導法					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第3回	心電図と導出法3) 説明					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第4回	運動と心拍・心電図1) 心拍数の変化					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第5回	運動と心拍・心電図2) 負荷心電図とは					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第6回	運動と血圧1) 運動時の血圧応答					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第7回	運動と血圧2) 運動と高血圧					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第8回	運動と血圧3) 説明					天岡寛、山口英峰、高原皓全	

第9回	運動と酸素摂取1) 呼気ガス (酸素、炭酸ガス)	天岡寛、山口英峰、高原皓全
第10回	運動と酸素摂取2) 安静時の呼吸代謝と呼吸商	天岡寛、山口英峰、高原皓全
第11回	運動と酸素摂取3) 最大酸素摂取量の測定	天岡寛、山口英峰、高原皓全
第12回	運動と酸素摂取4) 換気閾値 (AT) とは	天岡寛、山口英峰、高原皓全
第13回	診断結果と効果判定	天岡寛、山口英峰、高原皓全
第14回	運動とメディカルチェック	天岡寛、山口英峰、高原皓全
第15回	総括	天岡寛、山口英峰、高原皓全
第16回		

教科書

教・書籍名1	使用しない (プリントを配布する)	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	健康運動実践指導者養成用テキスト	参・出版社名1	健康・体力づくり事業財団
参・著者名1	健康・体力づくり事業財団	参・ISBN1	ISBNなし
参・書籍名2	健康運動指導士養成講習会テキスト	参・出版社名2	健康・体力づくり事業財団
参・著者名2	健康・体力づくり事業財団	参・ISBN2	ISBNなし

授業科目名	運動生理学演習Ⅱ グループ授業			担当者	山口 英峰、天岡 寛、高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-218		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	運動生理学および身体運動学で身体構造、運動時の生体応答について学んだことを、実験実習形式で身をもって体験する。その結果、人間の生理的運動機能に対する理解を深め、教科書では学ぶことのできない体験的学習が可能となる。学生は将来の実践的運動指導等ができる能力を身につけることができる。						
授業概要	運動生理学演習室に設備されている実験機器の操作を理解し、実際に自らの手によって実験を行う。その後、実験データの整理を行い、まとめてレポートを作成する。レポートには、実験の目的、方法、結果、考察。まとめの順で書くように指導する。その後、卒業研究にも結びつくように指導を行う。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/グループワーク/実習						
評価方法と割合	実験実習形式であるため、機器の操作、データ整理、レポート内容について評価を行う。機器の操作およびデータ整理（30%）、レポート内容（70%）から評価する。なお、評価のために実施したレポート課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 運動にかかわる実験を行うため、自らが被験者になることを考え、運動のできる服装で参加すること。すべてにおいて、主体的な姿勢で臨むこと。分からないことについては積極的に質問するよう取り組むこと。提出物の期限は厳守すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	天岡寛、高原皓全：健康運動指導士				
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が各2時間程度必要である。運動生理学の基礎的知識について、事前に配布する資料で予習すること。復習として、実習の疑問点について文章化し、次回の講義で発表すること。						
オフィスアワー	担当教員別 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	筋電図と導出法 1) 筋の活動電位					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第2回	筋電図と導出法 2) 表面誘導法					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第3回	筋電図と導出法 3) 筋電図のテレメタリング					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第4回	筋電図と導出法 4) 歩行時の筋活動					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第5回	筋と筋力 1) 筋力レベルと筋放電量					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第6回	筋と筋力 2) 筋力レベルと運動単位活動					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第7回	筋と筋力 3) 持続的筋活動と筋電図					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第8回	筋と筋力 4) 瞬発的筋活動と筋電図					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第9回	筋への血流 1) レーザードップラー法					天岡寛、山口英峰、高原皓全	

		全
第10回	筋への血流 2) 超音波法	天岡寛、山口英峰、高原皓 全
第11回	筋への血流 3) 説明	天岡寛、山口英峰、高原皓 全
第12回	筋活動と血流 1) 掌握動作時の血流変化	天岡寛、山口英峰、高原皓 全
第13回	筋活動と血流 2) 運動と頸動脈血流	天岡寛、山口英峰、高原皓 全
第14回	筋活動と血流 3) 運動習慣と頸動脈	天岡寛、山口英峰、高原皓 全
第15回	筋活動と血流 4) 説明	天岡寛、山口英峰、高原皓 全
第16回		

教科書

教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	健康運動指導士養成講習会テキスト	参・出版社名1	健康・体力づくり事業財団
参・著者名1	健康・体力づくり事業財団	参・ISBN1	ISBNなし
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ社会学			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年 / 2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年 / 2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-301		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も / 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう / 10. 人や国の不平等をなくそう / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	スポーツの社会的理解をテーマに、学生が人間社会で生起する様々なスポーツ現象を社会的視点から論理的に分析できる。						
授業概要	<p>現代社会においてスポーツは、人々の生活にとって欠くべからざるものとなっており、社会の様々な領域でその領域独自の社会的機能を果たすことを要請されている。その意味で現代におけるスポーツはかつてのスポーツに比べ、きわめて多様化・複雑化しており、特にスポーツを専門的に学ぶ学生は将来も見据えて、スポーツを多面的且つ系統的に理解していなければならない。</p> <p>本講義では現代社会におけるスポーツの多面的な領域の主なものについて言及し、その実態と問題点及び将来展望について論じるとともに、これら多様に展開するスポーツを系統的に把握するための社会理論について社会学の領域から言及し、社会的視点においてスポーツを本質的に理解するための知識と能力を養うことを目的とする。</p>						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	単位認定試験（40％）中間レポート（30％）毎回の小レポート（20％）受講姿勢（10％）評価の詳細は、第1回目の授業で説明する。なお、評価のために実施した小レポートは、授業でフィードバックするので単位認定試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎回の講義終了後の小レポートの内容を通して、次回の講義導入時にポイントを説明する。						
履修条件・注意事項	<p>卒業必修科目 中高保健体育科教諭資格必修科目 （公財）日本スポーツ協会公認受験資格必修科目</p> <p>パワーポイントの資料は配布しないので、ノート・ルーズリーフ等は必ず持参すること。授業に対する取り組みについては、厳しく指導する。</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、中・高保健体育科教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、課す小レポートの内容及び授業内容を必ず毎回2時間程度、復習するとともに次回のテーマについて予習すること。						
オフィスアワー	個人研究室（9405）にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション・スポーツ社会学とは！？					高藤	
第2回	スポーツの概念					高藤	
第3回	文化としてのスポーツ					高藤	
第4回	地域社会におけるスポーツ					高藤	
第5回	スポーツと政治					高藤	
第6回	スポーツと経済					高藤	
第7回	スポーツ事故における法的責任					高藤	

第8回	スポーツと人権	高藤
第9回	企業とスポーツ	高藤
第10回	障がい者とスポーツ	高藤
第11回	障がい者サッカー	高藤
第12回	スポーツを取り巻く環境	高藤
第13回	スポーツと教育	高藤
第14回	スポーツと薬物	高藤
第15回	総括・最終レポート	高藤
第16回		

教科書

教・書籍名1	公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト 理論編	教・出版社名1	(公財)日本スポーツ協会
教・著者名1	(公財)日本スポーツ協会	教・ISBN1	214K1T 214K2T 214K3T 215JR
教・書籍名2	スポーツ社会学講義	教・出版社名2	大修館書店
教・著者名2	森川貞夫・佐伯聡夫 編	教・ISBN2	978-4-469-26140-0

参考書

参・書籍名1	使用しない(プリントを配布する)	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	健康社会学			担当者	吉岡 哲		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-302		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	健康の社会的意義を理解する。健康と社会の理想的なあり方について考える。社会と健康との関係性について理解することで、日常生活および将来にわたっての健康に対する考え方を学ぶことができる。						
授業概要	生活スタイルを含めた健康についての正しい知識、考え方について学ぶ。それらをふまえた上で、現代社会における健康や病気の社会的要因について把握する。特にみじかな健康問題に着眼点をおき講義を進めていく。また、健康に関わる制度政策についての認識も深める。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義姿勢10%、講義中の課題10%、定期試験80%とする。ただし、3分の2以上の出席のない者は、評価の対象外となる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 講義項目ごとに資料を配布する。資料は図表が主となるので、理解のためには講義への出席が重要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が2時間程度必要である。毎回の授業において配布したプリントの指定されたページを熟読してくる。						
オフィスアワー	非常勤講師のため、講義終了後に教室にて実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	導入					吉岡 哲	
第2回	健康と社会					吉岡 哲	
第3回	健康づくり施策					吉岡 哲	
第4回	生活習慣病の予防および早期発見					吉岡 哲	
第5回	介護保険と介護予防					吉岡 哲	
第6回	健康づくりのための運動基準および運動指針					吉岡 哲	
第7回	現代社会の生活と健康（1）労働					吉岡 哲	
第8回	現代社会の生活と健康（2）休養と心					吉岡 哲	
第9回	現代社会の生活と健康（3）ストレス					吉岡 哲	
第10回	現代社会の生活と健康（4）喫煙					吉岡 哲	
第11回	現代社会の生活と健康（5）飲酒					吉岡 哲	
第12回	現代社会の生活と健康（6）睡眠					吉岡 哲	
第13回	現代社会の生活と健康（7）食生活					吉岡 哲	
第14回	高齢社会と健康					吉岡 哲	
第15回	総括					吉岡 哲	
第16回	単位認定試験					吉岡 哲	
教科書							
教・書籍名1	使用しない（必要に応じプリントを配布する）					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	

参考書			
参・書籍名1	動く、食べる、休むScience—健康づくりの生理学	参・出版社名1	I&K corporation
参・著者名1	上田 伸男(著), 湊久美子(著), 吉武裕(著), 小宮秀明(著), 矢野博己(著)	参・ISBN1	
参・書籍名2	健康格差社会	参・出版社名2	医学書院
参・著者名2	近藤克則	参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ哲学 集中			担当者	高橋 徹		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-303		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう 						
到達目標	<p>本授業では、スポーツ哲学をベースにした講義を行う。特に、体育とスポーツの本質やありかたについて体系的に解説しながら、体育教師やスポーツ指導者として理解しておくべき体育やスポーツに対する基本的な考え方を紹介する。</p> <p>到達目標としては、体育・スポーツに関する概念や定義を把握し、自分自身の力で体育・スポーツの理想的なあり方を考えることができること。また、体育・スポーツについてのより良い指導を追求する意識を持つことができること。</p>						
授業概要	スポーツ哲学の様々な分野における知見を参照することで、スポーツ哲学専門領域の現状、課題および問題点を把握し、また、これらの内容についてディスカッションやレポートなどを実施することで、スポーツ哲学に固有の概念や研究方法に関する理解を深める。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	授業中に行うグループ討議への参加態度・授業内で作成する課題レポートの提出状況（50%）、授業で学んだ体育・スポーツに関する知識を基に課題に対して自分自身の考えを正確に記述できているか（50%）を評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業時の課題については問い合わせがあれば内容を開示する。また特に優れた内容については授業時に紹介する場合もある。						
履修条件・注意事項	集中講義のため、参加型の進め方を多くする。（保健体育教免選択必修科目）						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	復習として、配布資料の確認と、ファイリングを工夫すること。 独自で調べたことをまとめて、課題レポートを作成する。						
オフィスアワー	基本的には授業終了後に教室にて担当教員まで問い合わせること。						
授業計画						担当者	
第1回	1回：スポーツとは何か？ スポーツという言葉の語源、およびスポーツの定義についての説明					高橋徹	
第2回	2回：体育とは何か？ 体育という言葉の語源、体育の定義、体育の構成要素についての説明					高橋徹	
第3回	3回：体育における教材としてのスポーツ 体育という教科名称の変遷、学習指導要領の変遷					高橋徹	
第4回	4回：体育教師とスポーツ指導者 体育教師の専門性、運動部活動の指導者の特殊性についての説明					高橋徹	
第5回	5回：スポーツ指導の問題性① 体罰・暴力のメカニズム					高橋徹	
第6回	6回：スポーツ指導の問題性② スポーツ指導の正しい在り方について考える					高橋徹	
第7回	7回：体育について考える1～身体を教育するという考え方～					高橋徹	
第8回	8回：体育について考える2～身体文化を伝えるという考え方～					高橋徹	
第9回	9回：体育について考える3～運動を指導するという考え方～					高橋徹	

第10回	10回：スポーツに関わる諸問題1～スポーツのルールを考える～ スポーツにおけるルールの機能	高橋徹
第11回	11回：スポーツに関わる諸問題2～参加条件を定めるルール～ 性別二元性に関わるルール	高橋徹
第12回	12回：スポーツに関わる諸問題3～オリンピックと世界平和～	高橋徹
第13回	13回：スポーツに関わる諸問題4～スポーツにおける美しさを考える～	高橋徹
第14回	14回：スポーツに関わる諸問題5～スポーツと人間との良好な関係を考える～	高橋徹
第15回	15回：授業の総括	高橋徹
第16回	16回：学期末レポートの作成	高橋徹
教科書		
教・書籍名1	はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学	教・出版社名1 株式会社みらい
教・著者名1	高橋徹編著	教・ISBN1 9784860154318
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	スポーツ史 集中E			担当者	森田 啓之		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-304		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 12. つくる責任・つかう責任 / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>「体育・スポーツの歴史を理解する」をテーマとして、様々な体育・スポーツ事象の歴史（成り立ち）について考える中で、体育・スポーツの現在と今後を考察する視点を身につける。</p> <p>具体的には、スポーツはどのように生まれたのか、並びにこれからどのような方向に向かうべきなのかについて、自分の中に妥当な「観」を形成することを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>スポーツの象徴である「オリンピック」を取り上げ、古代から現代に至るまでどのような経過を辿ってきたのか、さらには近代に誕生した「近代スポーツ」の特徴について理解を深めるとともに、学校体育の歴史を振り返る中で、これからの体育やスポーツの進むべき方向性について、考察する。</p> <p>なお、互いの意見を冷静に交換できる能力を培う意味でも、授業はプレゼンテーションとグループ討議を中心に進める。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	この授業では、自分の中に妥当な「体育・スポーツ観」を形成することを到達目標としているため、最終的には「試験」（60％）においてその理解度や定着度をみる。と同時に、自ら調べまとめる能力を確認するための課題レポートとその発表（10％）、出席とグループ討議への積極的参加態度（30点）とを併せて、総合評価を行う。ただし、試験において6割の点数がなければ単位は認定しない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業で課した課題については、翌日の授業において適宜その内容を取り上げつつ、記述の適否についてもコメントする。また、試験については、最終評価後に希望するものに対してその評価内容・基準について説明を行う。						
履修条件・注意事項	集中講義のため、参加型の進め方を多くする。毎日の課題としてレポートを課し、翌日にその成果をプレゼンするので、試験に加えて、レポート提出は必須である。（保健体育教免選択必修科目）						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	復習として、配布資料の確認と、ファイリングを工夫すること。 独自で調べたことをまとめて、課題レポートを作成する。						
オフィスアワー	授業終了後、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	我々はなぜ歴史を学ぶのか？ -歴史を学ぶ意義-					森田 啓之	
第2回	スポーツと遊戯、体育の概念史					森田 啓之	
第3回	未開社会、古代社会のスポーツ					森田 啓之	
第4回	中世のスポーツ					森田 啓之	
第5回	近代スポーツの誕生					森田 啓之	
第6回	近代オリンピック					森田 啓之	
第7回	生涯スポーツの概念と普及					森田 啓之	
第8回	スポーツの個別史（1）イギリス発のスポーツ					森田 啓之	
第9回	スポーツの個別史（2）アメリカ発のスポーツ					森田 啓之	
第10回	スポーツの個別史（3）民族スポーツ					森田 啓之	
第11回	スポーツの個別史（4）ニュースポーツ					森田 啓之	
第12回	近代教育思想と体育					森田 啓之	

第13回	近代体育の誕生	森田 啓之
第14回	学校体育の理念の変遷	森田 啓之
第15回	日本における学校体育の変遷	森田 啓之
第16回	単位認定試験	森田 啓之
教科書		
教・書籍名1	テキストは指定しない。適宜、資料プリント(※下記参考書籍1より)を配布する。	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	「スポーツ史講義」	参・出版社名1 (大修館書店) 1995
参・著者名1	稲垣正浩他	参・ISBN1
参・書籍名2	「体育史講義」	参・出版社名2 (大修館書店) 1984
参・著者名2	岸野雄三	参・ISBN2

授業科目名	スポーツ実習Ⅰ（体操）			担当者	副島 斉子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-305		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	『現代社会における生活環境の変化、特に運動不足の蔓延』をテーマとし、心身のストレスの増加、テクノロジーの発達などによって、人間の心身及び知的機能が阻害されている状況にあると言える。特に、運動能力やそれを支える感覚能力の衰退は著しいと思われる、このことは我々人間の生涯に亘る影響を及ぼすものである。つまり身体性の阻害が広がった現状と言えよう。基本的運動の習得をはじめとし、各種の体操を実践することによって、人間の持つ運動機能引いては運動感覚を取り戻し、健康維持増進、人間関係の構築、運動能力の向上などの基礎を築けるようになることを到達目標とする。						
授業概要	我が国においては1990年代以降、子供たちの基本的身体能力に対する危機感が急速に高まり、文部科学省も学習指導要領の基本要素の一つに「体ほぐしの運動」を設けて、基本的身体能力の育成に重点を置いている。近代以後、人間の基本運動の習得には体操が用いられてきた。その体操は、今日非常に多様化している。本実習では、これら多様な体操の実践方法と指導方法を学び、自己の目的に役立てることができるようになるとともに、他者へ提供する運動プログラムの内容として活用できるようになる。 この授業の担当者は体操指導の実務経験を有する。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	実技に関する学習効果を実技試験によって評価する。加えて、逐次運動内容とそのプログラム作成に関するレポートを課して、その両者をそれぞれ50%ずつの比重で評価を行う。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した試験や課題の結果や内容は、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	実技中の怪我などの防止のため、時計や装身具類は身に着けないこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	スポーツクラブなどで、一般成人や児童・青年対象に体操教室で指導。				
事前学習・事後学習とその時間	各回の授業において、学修した内容を、自らの指導案として、授業後まとめておくこと。さらに次の授業時のねらいがしめされるので、あらかじめそれに応じた運動内容を各自で考えておくこと。 予習・復習はそれぞれ約2時間行うこと。						
オフィスアワー	火曜日4限、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					副島斉子	
第2回	基本的運動					副島斉子	
第3回	ストレッチング					副島斉子	
第4回	ストレッチングのプログラム					副島斉子	
第5回	調整力（コーディネーション）を高める体操					副島斉子	
第6回	運動遊び					副島斉子	
第7回	補強運動と体幹トレーニング					副島斉子	
第8回	矯正体操					副島斉子	
第9回	ピラティスとヨガエクササイズ					副島斉子	
第10回	全身持久力を高める体操					副島斉子	
第11回	体ほぐしの運動					副島斉子	
第12回	リズム体操					副島斉子	
第13回	エアロビック体操					副島斉子	

第14回	ゆる体操	副島斉子
第15回	正しいウォーキングのためのゆるウォーク	副島斉子
第16回	試験	副島斉子
教科書		
教・書籍名1		教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	スポーツ実習Ⅱ（器械運動）			担当者	梶谷 信之		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-306		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜3限 水曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	△	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 10. 人や国の不平等をなくそう / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	「器械運動を理解し、楽しく、安全に実施する」をテーマとし、器械運動の特徴でもある回転系、倒立系、跳躍系などの基本的な技を習得するとともに、器械運動の特性、危険性を理解し、安全かつ効率的な指導法を工夫しながら実践できることを到達目標とする。						
授業概要	(1)反復練習をすることにより、基本的な技を滑らかに安全に実施できる技術を習得するとともに、自分の意志で自分の体をコントロールする身体支配能力や、バランス・身のこなしなどによる危険回避能力を高める。 (2)プリント資料や講義により器械運動の特性や危険性を理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫しながら指導能力を身につけるようにする。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習						
評価方法と割合	テーマ「器械運動を理解し、楽しく、安全に実施する」の到達度について、器械運動についての知識と運動能力を図るためにレポート内容や実技練習での積極性等を総合的に評価する。 具体的には授業での積極的な練習態度（50%）、実技能力を判定する試験（30%）、知識習得を把握するための課題レポート（20%）を合計して総合評価するが、実習形態の授業であることから授業への参加態度を特に重視する。詳しい評価方法については初回の授業時に説明する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	知識習得を把握するための課題レポートについてのフィードバックは講義内にて実施する。						
履修条件・注意事項	(1)初回の授業は教室に集合して説明した後、体育館に移動し器具のセットや実技講習を行う。 (2)毎回の授業時は、教室で講義、体育館で実技を行うので、筆記用具を持参すること。 (3)実技の授業にはジャージ・体育館シューズ等の動きやすい服装で出席すること。 (4)水分補給のためのスポーツドリンクやお茶等を持参するとよい。 (5)出席確認を授業中に数回行い、居ない場合は欠席となるので授業中の退席時には連絡しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	各時限ごとに実技を実施するうえでのポイントや危険回避のための注意事項などをプリントで説明するため、各自でプリントの予習・復習をしておくこと。 尚、試験で行う実技は反復練習が必要となるため、レベルアップのためには授業前にプリント等を見直してポイントを確認しておくこととよい。						
オフィスアワー	授業前後、非常勤講師室・講義室・体育館にて対応する。						
授業計画						担当者	
第1回	器械運動の基礎トレーニングと技の発展過程						梶谷 信之
第2回	マット運動（接転系①）、跳び箱運動（切返し系①）の練習						梶谷 信之
第3回	マット運動（接転系②）、鉄棒運動（上がり技①）の練習						梶谷 信之
第4回	マット運動（接転系③）、跳び箱運動（切返し系②）の練習						梶谷 信之
第5回	マット運動（接転系④）、鉄棒運動（上がり技②）の練習						梶谷 信之
第6回	マット運動（ほん転系①）、跳び箱運動（回転系①）の練習						梶谷 信之
第7回	マット運動（ほん転系②）、鉄棒運動（中技①）の練習						梶谷 信之
第8回	マット運動（ほん転系③）、跳び箱運動（回転系②）の練習						梶谷 信之
第9回	マット運動（ほん転系④）、鉄棒運動（中技②）の練習						梶谷 信之
第10回	マット運動（ほん転系⑤）、跳び箱運動（回転系③）の練習						梶谷 信之

第11回	マット運動（巧技系①）、鉄棒運動（おり技①）の練習	梶谷 信之	
第12回	マット運動（巧技系②）、跳び箱運動（回転系④）の練習	梶谷 信之	
第13回	マット運動（巧技系③）、鉄棒運動（おり技②）の練習	梶谷 信之	
第14回	実技試験練習と採点の練習	梶谷 信之	
第15回	実技試験練習と採点	梶谷 信之	
第16回			
教科書			
教・書籍名1	適宜プリント等を配布する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	器械運動の授業	参・出版社名1	創文企画
参・著者名1	学校体育研究同志会	参・ISBN1	9784864130660
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ実習Ⅲ(屋外球技) Aクラス			担当者	高藤 順、羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年/ 2019～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-307		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜2限 月曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと 論理的な思考	◎	DP4. コミュニケー ション・表現力	◎
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 17. パート ナートシップで目標を達成しよう 						
到達目標	「ソフトボール」並びに「サッカー」の基本的な特性・規則を理解し、それぞれの競技に興味を持つことをテーマ に、基本技能の習得や戦術理解、ゲームを通じて、基本的なトレーニング方法が実践できること、さらに将来、そ れぞれの競技の指導方法を身につける。						
授業概要	本講義は、ソフトボール並びにサッカーの基本的な技能などの学習を行う。基本技術を学んだ後、実際のゲームで 用いられる戦術のうち、基本的なものを学習する。以上のような基礎的な事項を学習したのち、チームに分けて ゲームを行い、ゲームを通して技能や戦術を活かす方法を考えていく。 本講義の中では、各自の能力を高めるだけでなく、それぞれ練習方法を考え、チームやグループで実践すること を通じて、ソフトボールやサッカーを指導できる能力の向上も図る。						
アクティブラーニングの 内容	実習						
評価方法と割合	実技試験 (30%) 到達目標の達成度 (20%) 各回実習の振り返りワークシート (50%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	毎回の実習後、実習内容を振り返り次回の実習までに日誌を作成し日誌を通して添削指導する。						
履修条件・注意事項	「保健体育科教諭資格必修科目」である。保健体育の授業としてソフトボール並びにサッカーが取り上げられるこ とは非常に多いので教員免許状取得希望者は積極的に履修すること。本実習は、ソフトボールは高梁運動公園もし しくは硬式野球部雨天練習場、サッカーは檜井サッカー場もしくは順正学園体育館で行う。 集合時間は厳守すること。 スポーツのできる服装で授業に参加すること。ふさわしくない服装での参加は認めない。 けがを防ぐためにも集中して授業に臨むこと。授業態度については厳しく指導する。						
実務経験のある教員	該当する	内容	中・高保健体育科教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場におい て実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とそ の時間	事前に次回に行うテーマなどを発表するので、基本的な考え方はまとめておくこと。 また、各自で練習方法などを調べてまとめておくこと。授業の後は、学んだことをノートなどにまとめるだけで なく、学んだ技能の練習をしておくことが望ましい。						
オフィスアワー	個人研究室 (9405) にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション・受講における諸注意、競技規則					高藤、羽野	
第2回	ソフトボールの基本技術 キャッチボールとトスバッティング					高藤、羽野	
第3回	守備の基本技術 ゴロ処理・フライ捕球・送球					高藤、羽野	
第4回	打撃の基本技術 スイング軌道・ミート力向上					高藤、羽野	
第5回	攻撃のチーム戦術 フォーメーションプレー					高藤、羽野	
第6回	守備のチーム戦術 フォーメーションプレー					高藤、羽野	
第7回	ゲーム					高藤、羽野	
第8回	実技試験					高藤、羽野	
第9回	サッカーの基本技術					高藤、羽野	

第10回	攻撃の個人戦術		高藤、羽野
第11回	守備の個人戦術		高藤、羽野
第12回	攻撃のグループ戦術		高藤、羽野
第13回	守備のグループ戦術		高藤、羽野
第14回	攻守のチーム戦術（1）ゲーム		高藤、羽野
第15回	攻守のチーム戦術（2）ゲーム		高藤、羽野
第16回			
教科書			
教・書籍名1	わかりやすいソフトボールのルール	教・出版社名1	成美堂出版
教・著者名1	丸山克俊	教・ISBN1	9.78E+12
教・書籍名2	サッカー競技規則 2021/2022	教・出版社名2	(公財)日本サッカー協会
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ実習Ⅲ(屋外球技) Bクラス			担当者	高藤 順、羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年/ 2019～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-307		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜2限 月曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと 論理的な思考	◎	DP4. コミュニケー ション・表現力	◎
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 17. パート ナートシップで目標を達成しよう 						
到達目標	学生が、「ソフトボール」並びに「サッカー」の基本的な特性・規則を理解し、それぞれの競技に興味を持つこと をテーマに、基本技能の習得や戦術理解、ゲームを通じて、基本的なトレーニング方法が実践できること、さらに 将来、それぞれの競技の指導方法を身につける。						
授業概要	本講義は、ソフトボール並びにサッカーの基本的な技能などの学習を行う。基本技術を学んだ後、実際のゲームで 用いられる戦術のうち、基本的なものを学習する。以上のような基礎的な事項を学習したのち、チームに分けて ゲームを行い、ゲームを通して技能や戦術を活かす方法を考えていく。 本講義の中では、各自の能力を高めるだけでなく、それぞれ練習方法を考え、チームやグループで実践すること を通じて、ソフトボールやサッカーを指導できる能力の向上も図る。						
アクティブラーニングの 内容	実習						
評価方法と割合	実技試験 (30%) 到達目標の達成度 (20%) 各回実習の振り返りワークシート (50%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	毎回の実習後、実習内容を振り返り次回の実習までに日誌を作成し日誌を通して添削指導する。						
履修条件・注意事項	「保健体育科教諭資格必修科目」である。保健体育の授業としてソフトボール並びにサッカーが取り上げられるこ とは非常に多いので教員免許状取得希望者は積極的に履修すること。本実習は、ソフトボールは高梁運動公園もし しくは硬式野球部雨天練習場、サッカーは檜井サッカー場もしくは順正学園体育館で行う。 集合時間は厳守すること。 スポーツのできる服装で授業に参加すること。ふさわしくない服装での参加は認めない。 けがを防ぐためにも集中して授業に臨むこと。授業態度については厳しく指導する。						
実務経験のある教員	該当する	内容	中・高保健体育科教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場におい て実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とそ の時間	事前に次回に行うテーマなどを発表するので、基本的な考え方などはまとめておくこと。 また、各自で練習方法などを調べてまとめておくこと。授業の後は、学んだことをノートなどにまとめるだけで なく、学んだ技能の練習をしておくことが望ましい。						
オフィスアワー	個人研究室 (9405) にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション・受講における諸注意、競技規則					高藤、羽野	
第2回	ソフトボールの基本技術 キャッチボールとトスバッティング					高藤、羽野	
第3回	守備の基本技術 ゴロ処理・フライ捕球・送球					高藤、羽野	
第4回	打撃の基本技術 スイング軌道・ミート力向上					高藤、羽野	
第5回	攻撃のチーム戦術 フォーメーションプレー					高藤、羽野	
第6回	守備のチーム戦術 フォーメーションプレー					高藤、羽野	
第7回	ゲーム					高藤、羽野	
第8回	実技試験					高藤、羽野	
第9回	サッカーの基本技術					高藤、羽野	

第10回	攻撃の個人戦術		高藤、羽野
第11回	守備の個人戦術		高藤、羽野
第12回	攻撃のグループ戦術		高藤、羽野
第13回	守備のグループ戦術		高藤、羽野
第14回	攻守のチーム戦術（1）ゲーム		高藤、羽野
第15回	攻守のチーム戦術（2）ゲーム		高藤、羽野
第16回			
教科書			
教・書籍名1	わかりやすいソフトボールのルール	教・出版社名1	成美堂出版
教・著者名1	丸山克俊	教・ISBN1	9.78E+12
教・書籍名2	サッカー競技規則 2021/2022	教・出版社名2	(公財)日本サッカー協会
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ実習Ⅳ（陸上競技）			担当者	松下 健二		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-308		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	体育教師の専門的力量育成を目標とし、陸上競技の指導に関わる基礎的教育的事項について学習指導要領に示された単元の目標や内容を理解するとともに実技能力と実技指導能力を身に着ける。						
授業概要	陸上競技種目のうち走る種目として100m走、100mハードル走、跳躍種目として走り幅跳び、走り高跳び、投擲種目として砲丸投げの5種目についてその実技能力を高めるとともに実技指導能力も習得する。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、高等学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／実習						
評価方法と割合	受講態度（25％）＋レポート（25％）＋実技試験（50％）で総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	個人の陸上競技の記録向上に関する課題を与え、課題解決の方法を本人とグループで考えさせ、試行改善させる。その実施中にその都度機会を求めて指導助言する。						
履修条件・注意事項	陸上競技を行うにふさわしい服装と、屋外用、屋内用のシューズを用意すること。陸上競技に関する書籍を参考にして各種目の行い方の概要などを把握しておくこと。 中高保健体育科教諭資格必修科目						
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和46年4月～48年3月まで兵庫県立神戸工業高等学校にて保健体育科教員として勤務				
事前学習・事後学習とその時間	5種目のすべてについて陸上競技関係の書籍やVTRなどを参考にし、その行い方を把握するとともに毎授業後も自己研鑽に励むこと。						
オフィスアワー	授業後、現場にて。						
授業計画						担当者	
第1回	陸上競技についてのオリエンテーション						松下健二
第2回	100mの走り方（スタート～加速期間の走り方）						松下健二
第3回	100m走の中間疾走とフィニッシュのしかた。記録測定						松下健二
第4回	ハードル走の走り方（スタートから1台目） ハードルの飛越方法（クリアランスの方法）						松下健二
第5回	ハードル走の走り方（スタートから5台目まで） リズムカルな走り方 100mハードルの記録測定						松下健二
第6回	走り幅跳び ・助走距離の決定 ・踏切のしかた ・安全な着地のしかた						松下健二
第7回	走り幅跳び ・空中ホーム（そり跳び、はさみ跳び） ・記録測定						松下健二
第8回	走り高跳び ・助走の仕方 ・スタート位置の決定						松下健二

	・踏切の仕方	
第9回	走り高跳び ・クリアランスの方法（はさみ跳び・背面跳び）	松下健二
第10回	砲丸投げ ・砲丸の投げ方（立ち投げ・ステップ投げ） ・安全面での注意	松下健二
第11回	砲丸の投げ方 グライド投法・回転投法・バックステップ投法	松下健二
第12回	砲丸投げの記録測定	松下健二
第13回	記録測定 ①100m走 ②走り幅跳び	松下健二
第14回	記録測定 ハードル走 走り高跳び	松下健二
第15回	記録測定 砲丸投げ 各自で種目を選び再度記録測定	松下健二
第16回	記録測定とまとめ 各自で種目をきめ再度記録測定する	松下健二

教科書

教・書籍名1	中学・高校 陸上競技の学習指導「わかって・できる」指導の工夫	教・出版社名1	道和書院
教・著者名1	編著：小木曾一之・清水茂幸・串間敦郎・雅人雅人・小倉幸雄・田附俊一	教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	ぐんぐん強くなる 陸上競技	参・出版社名1	ベースボール・マガジン社
参・著者名1	尾懸貢	参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ実習Ⅴ（屋内球技）			担当者	山口 英峰、高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-309		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	高等学校までに習得した内容を復習するとともに、屋内球技の中でも特にバレーボールやバスケットボールなどの専門的な技術や知識を身につけ、実践できるようになる。学生は選手としての知識や技能だけではなく、指導者として運動学的な知見を考慮した指導方法を考え、実践できるようになる。						
授業概要	本授業では、安全に屋内球技を行うためのコート準備の方法及びルールの必要性をまず理解する。そして、基礎的な技術と指導方法を身につけたのち、より高度なチーム・プレイを学ぶ。選手としての目線からだけではなく、指導者としての指導方法についても実践から身につける。特に競技が苦手な対象者に対する指導方法について考案し、実践する。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	授業への取り組み姿勢(50%)、基本的な技術およびそれを応用出来る能力を評価するための講義内課題試験(50%)から評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、次回からの講義および講義内課題試験に活用すること。						
履修条件・注意事項	運動するのに相応しい格好で講義を受講すること。ピアス、ネックレスなどのアクセサリ類の着用は怪我の防止の観点から禁止する。また、安全かつ十分なパフォーマンスを発揮できるための体力の維持・向上はかかると、体調を整えて講義に望むこと。中・高保健体育教員免許資格取得のための必修科目であることから、教員免許状の取得を目指す学生は必ず履修すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習として、事前に参考書等により、バレーボールやバスケットボールなど屋内球技の技術やその練習・指導方法等についての知識を身につける必要がある。復習として、指導者として最低限の技術を身につけることができるよう技術向上のための練習をする必要がある。						
オフィスアワー	9号館2階のフィットネスラボにおいて、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	ルールの理解と安全に配慮したバレーボール環境					山口英峰	
第2回	バレーボールにおける基本パス技術					山口英峰	
第3回	サーブとサーブ・レシーブの基本					山口英峰	
第4回	スパイクとブロックの基本					山口英峰	
第5回	パス・ゲームによる動きの理解					山口英峰	
第6回	バレーボールにおけるフォーメーション・プレイとその役割					山口英峰	
第7回	バレーボールに関する知識（審判方法、ゲーム進行など）					山口英峰	
第8回	ゲーム1（基礎を中心に）					山口英峰	
第9回	ゲーム2（応用）					山口英峰	
第10回	バスケットボールにおける基本的技術（ドリブル・パス・シュート）					高原皓全	
第11回	バスケットボールのゲームにおける動きの理解					高原皓全	
第12回	バスケットボールにおけるフォーメーション・プレイとその役割					高原皓全	
第13回	バスケットボールに関する知識（審判方法、ゲーム進行など）					高原皓全	
第14回	ゲーム1（基礎）					高原皓全	
第15回	ゲーム2（応用）					高原皓全	
第16回							

教科書			
教・書籍名1	適宜指示する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	バスケットボール指導教本	参・出版社名1	大修館書店
参・著者名1	公益財団法人日本バスケットボール協会	参・ISBN1	9.78E+12
参・書籍名2	バレーボール指導教本	参・出版社名2	大修館書店
参・著者名2	日本バレーボール協会	参・ISBN2	9.78E+12

授業科目名	スポーツ実習VI (格技) (春学期) Aクラス			担当者	城山 訓郎		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-310		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜4限 水曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	△
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	竹刀・木刀を用いての心身鍛錬を通じ、お互いの人格を尊重する。 終始礼法を守り、基本動作を重視し、心技体を一体として修練する。 指導者としての理論と実勢を修得する。						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・日本古来の尚武の精神に由来し、術から道に発展した伝統文化である剣道の特性を理解し、剣道が人格の完成を目的とした運動文化であることを理解すると共に、伝統的所作の理解から剣道のもつ特性、技術を授業時間ごとに系統的に展開する。 ・対人競技としての特質を経験させる。 なお、本実習は学校における剣道の指導及び地域における剣道の指導の実務経験者による実習である。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み姿勢 (30点) ・剣道の教育的特性・文化的特性に関するレポート (30点) ・実技試験 (40点) 						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、実技試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	学修場所 (道場) は心身鍛錬の場であり、規律礼儀作法を守ること (具体的な作法は講義内で指示する)。 剣道防具の確実な着装、また講義前に竹刀の破損点検をすること。 保健体育教員免許取得に関する選択科目であることを意識すること。 実技科目であるから、体調管理に留意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前に配布した資料など通読して、予習しておくこと。また、当日配布した資料をノートをまとめ、復習しておくこと。なお、予習復習についてはそれぞれ2時間程度行うこと。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	授業の概要 剣道史の概要					城山訓郎	
第2回	礼法 (対人的敵対関係における「礼」の意味と「座法」、「立法」の方法)					城山訓郎	
第3回	基本動作 (構え)、(足捌き)、(竹刀・木刀の扱い方)					城山訓郎	
第4回	基本動作 (素振り・打突の仕方)					城山訓郎	
第5回	基本動作 (踏み込み足・打突への導入)					城山訓郎	
第6回	踏み込み打突 (正面打ち・小手打ち・二段打ち)					城山訓郎	
第7回	打突技術構造 (竹刀・木刀による基本形) (1) 基本技術					城山訓郎	
第8回	打突技術構造 (竹刀・木刀による基本形) (2) 応用技術					城山訓郎	
第9回	剣道具の装着法					城山訓郎	
第10回	有効打突 (一本) の理解					城山訓郎	
第11回	対人的技能 (しかける技)					城山訓郎	
第12回	対人的技能 (応じ技)					城山訓郎	
第13回	対人的技能 (つばぜり合いからの技・つばぜり合いからの応じ技)					城山訓郎	
第14回	競技規則 (試合・審判を体験する)					城山訓郎	
第15回	実技試験					城山訓郎	

第16回			
教科書			
教・書籍名1	講義内で配布する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ実習VI (格技) (春学期) Bクラス			担当者	城山 訓郎		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-310		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜4限 水曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	△
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	竹刀・木刀を用いての心身鍛錬を通じ、お互いの人格を尊重する。 終始礼法を守り、基本動作を重視し、心技体を一体として修練する。 指導者としての理論と実勢を修得する。						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・日本古来の尚武の精神に由来し、術から道に発展した伝統文化である剣道の特性を理解し、剣道が人格の完成を目的とした運動文化であることを理解すると共に、伝統的所作の理解から剣道のもつ特性、技術を授業時間ごとに系統的に展開する。 ・対人競技としての特質を経験させる。 なお、本実習は学校における剣道の指導及び地域における剣道の指導の実務経験者による実習である。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み姿勢 (30点) ・剣道の教育的特性・文化的特性に関するレポート (30点) ・実技試験 (40点) 						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、実技試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	学修場所 (道場) は心身鍛錬の場であり、規律礼儀作法を守ること (具体的な作法は講義内で指示する)。 剣道防具の確実な着装、また講義前に竹刀の破損点検をすること。 保健体育教員免許取得に関する選択科目であることを意識すること。 実技科目であるから、体調管理に留意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前に配布した資料など通読して、予習しておくこと。また、当日配布した資料をノートをまとめ、復習しておくこと。なお、予習復習についてはそれぞれ2時間程度行うこと。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	授業の概要 剣道史の概要						城山訓郎
第2回	礼法 (対人的敵対関係における「礼」の意味と「座法」、「立法」の方法)						城山訓郎
第3回	基本動作 (構え)、(足捌き)、(竹刀・木刀の扱い方)						城山訓郎
第4回	基本動作 (素振り・打突の仕方)						城山訓郎
第5回	基本動作 (踏み込み足・打突への導入)						城山訓郎
第6回	踏み込み打突 (正面打ち・小手打ち・二段打ち)						城山訓郎
第7回	打突技術構造 (竹刀・木刀による基本形) (1) 基本技術						城山訓郎
第8回	打突技術構造 (竹刀・木刀による基本形) (2) 応用技術						城山訓郎
第9回	剣道具の装着法						城山訓郎
第10回	有効打突 (一本) の理解						城山訓郎
第11回	対人的技能 (しかける技)						城山訓郎
第12回	対人的技能 (応じ技)						城山訓郎
第13回	対人的技能 (つばぜり合いからの技・つばぜり合いからの応じ技)						城山訓郎
第14回	競技規則 (試合・審判を体験する)						城山訓郎
第15回	実技試験						城山訓郎

第16回			
教科書			
教・書籍名1	講義内で配布する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ実習VI (格技) (秋学期) Cクラス			担当者	城山 訓郎		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-310		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	△
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	竹刀・木刀を用いての心身鍛錬を通じ、お互いの人格を尊重する。 終始礼法を守り、基本動作を重視し、心技体を一体として修練する。 指導者としての理論と実勢を修得する。						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・日本古来の尚武の精神に由来し、術から道に発展した伝統文化である剣道の特性を理解し、剣道が人格の完成を目的とした運動文化であることを理解すると共に、伝統的所作の理解から剣道のもつ特性、技術を授業時間ごとに系統的に展開する。 ・対人競技としての特質を経験させる。 なお、本実習は学校における剣道の指導及び地域における剣道の指導の実務経験者による実習である。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み姿勢 (30点) ・剣道の教育的特性・文化的特性に関するレポート (30点) ・実技試験 (40点) 						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、実技試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	学修場所 (道場) は心身鍛錬の場であり、規律礼儀作法を守ること (具体的な作法は講義内で指示する)。 剣道防具の確実な着装、また講義前に竹刀の破損点検をすること。 保健体育教員免許取得に関する選択科目であることを意識すること。 実技科目であるから、体調管理に留意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前に配布した資料など通読して、予習しておくこと。また、当日配布した資料をノートをまとめ、復習しておくこと。なお、予習復習についてはそれぞれ2時間程度行うこと。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	授業の概要 剣道史の概要						城山訓郎
第2回	礼法 (対人的敵対関係における「礼」の意味と「座法」、「立法」の方法)						城山訓郎
第3回	基本動作 (構え)、(足捌き)、(竹刀・木刀の扱い方)						城山訓郎
第4回	基本動作 (素振り・打突の仕方)						城山訓郎
第5回	基本動作 (踏み込み足・打突への導入)						城山訓郎
第6回	踏み込み打突 (正面打ち・小手打ち・二段打ち)						城山訓郎
第7回	打突技術構造 (竹刀・木刀による基本形) (1) 基本技術						城山訓郎
第8回	打突技術構造 (竹刀・木刀による基本形) (2) 応用技術						城山訓郎
第9回	剣道具の装着法						城山訓郎
第10回	有効打突 (一本) の理解						城山訓郎
第11回	対人的技能 (しかける技)						城山訓郎
第12回	対人的技能 (応じ技)						城山訓郎
第13回	対人的技能 (つばぜり合いからの技・つばぜり合いからの応じ技)						城山訓郎
第14回	競技規則 (試合・審判を体験する)						城山訓郎
第15回	実技試験						城山訓郎

第16回			
教科書			
教・書籍名1	講義内で配布する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ実習Ⅶ（ダンス）			担当者	副島 斉子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-311		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	『身体を用いたノンバーバルな表現運動でありコミュニケーションでもある舞踊（ダンス）』をテーマとし、有史以来人類が育み伝承してきた身体運動文化である。体育領域においても、舞踊＝ダンスは主たる種目として位置づけられてきた。今日、人間の身体性に根ざした身体運動として、創造性の追及、自己の開示、表現、感性の涵養、他者との交流、リズム教育、自己の探求、健康づくり、等々様々な意味合い、需要、目的で、ダンスが行われている。 特に、ダンスは現代社会において、次々と新たな様式・内容が生み出されている。これらの多様化してきたダンスを取り出して実技を学習し、基本運動を基にした動きの組み合わせを実施でき、さらに基本的なコレオグラフィーを創造できるようになることを到達目標とする。						
授業概要	基本運動を音楽のビート（拍）、フレーズ、曲調などに合わせて実施できるようになる。音楽に合わせた動きの組み合わせの遂行を学習し、そのうえで基本運動を用いて、一連の動作の組み合わせを創造する方法を学習する。その際、時間的要素と空間的要素を理解して、構成されたコレオグラフィーを発展させることを学習する。加えて、集団でのパフォーマンスの遂行を学習し、集団での演技の楽しさを経験する。これらを通して、表現運動としてのダンスの特性を学ぶ。さらに、現代的なダンスであるエアロビックやヒップホップについて、体験を積む。 この授業の担当者はダンス指導の実務経験を有する。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	実技に関する学習効果を実技試験によって評価する。加えて、逐次運動内容とそのプログラム作成に関するレポートを課して、その両者をそれぞれ50％ずつの比重で評価を行う。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	実技中の怪我などの防止のため、時計や装身具類は身に着けないこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	健康増進施設やフィットネスクラブなどで指導。表現スポーツの選手を指導。				
事前学習・事後学習とその時間	各回の授業において、学修した内容を、自らの指導案として、授業後まとめておくこと。さらに次の授業時のねらいがしめされるので、あらかじめそれに応じた運動内容を各自で考えておくこと。 予習・復習はそれぞれ約2時間行うこと。						
オフィスアワー	火曜日4限、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					副島斉子	
第2回	音楽のビート（拍）に合わせた基本運動					副島斉子	
第3回	音楽のフレーズに合わせた基本運動					副島斉子	
第4回	曲調に合わせた基本運動					副島斉子	
第5回	音楽と動きの時系列的要素					副島斉子	
第6回	動きの組み合わせの遂行					副島斉子	
第7回	空間系列的要素					副島斉子	
第8回	動きの応用変化					副島斉子	
第9回	動きの発展					副島斉子	
第10回	コレオグラフィー作成の基本					副島斉子	
第11回	コレオグラフィー作成の実際					副島斉子	

第12回	表現運動としてのダンス		副島斉子
第13回	現代的ダンス：エアロビック		副島斉子
第14回	オンビートとアフタービート		副島斉子
第15回	現代的ダンス：ヒップホップ		副島斉子
第16回	試験		副島斉子
教科書			
教・書籍名1	みんなでトライ！表現運動の授業	教・出版社名1	全国ダンス表現運動授業研究会
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	運動学			担当者	松下 健二		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-312		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	<p>「運動分析から運動指導」と「基礎的技術のメカニズムの理解とその習得」をテーマとして、講義と演習を通じて、運動学（運動方法学）の基礎的知識の習得と自己の運動技能を向上させる方法を習得するとともに、それぞれの運動についての知識レベルを都道府県教員採用試験に出題される問題に対応できるレベルにすることを到達目標とする。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、高等学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。</p>						
授業概要	様々なスポーツ活動を構成する基本的身体運動の代表なものについて、その基本的動きのメカニズムを解説理解するとともに、主なスポーツの運動及び技術体系について整理し、運動及び技術の発生から多様化、高度化に至るまでの進化の過程について学ぶ。また、運動学の歴史的発展についても触れ、運動学の発展について学習する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習						
評価方法と割合	受講態度（25%）＋レポート（25%）＋試験（50%）で総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題を解決した方法などについて発表し、ディスカッションを行なわせ解説する。終講テストはテスト後自己採点を行なわせ、誤りを訂正させる。						
履修条件・注意事項	<p>配布した資料及び紹介した書籍などから次の授業の要点について予習を行い授業での問題提起や討論に対して積極的に参加できるようにする。また、レポートの提出状況が受験資格となる。よって授業後授業の内容をノートにまとめておく事が望ましい。</p> <p>中高保健体育科教諭資格必修科目 （公財）日本スポーツ協会公認スポーツリーダー、ジュニアスポーツ指導員受験資格必修科目</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和46年4月～48年3月まで兵庫県立神戸工業高等学校にて保健体育教員として勤務				
事前学習・事後学習とその時間	予習として筋肉の機能と構造について解剖学の書籍を参考にして知識を得ておくこと。復習として指示に従ってノートを作成し、身体操作の観点から理解を深めること。予習・復習とも2時間ほど行うこと。						
オフィスアワー	授業終了後、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	運動学とは（運動学の領域）					松下健二	
第2回	運動と解剖学					松下健二	
第3回	運動力学					松下健二	
第4回	運動と生理学					松下健二	
第5回	運動と心理学					松下健二	
第6回	運動の分析から運動指導へ					松下健二	
第7回	基本技術のメカニズム（走る・跳ぶ）					松下健二	
第8回	基本的技術のメカニズム（蹴る）					松下健二	
第9回	基本的技術のメカニズム（投げる・捕る）					松下健二	
第10回	基本的技術のメカニズム（打つ）					松下健二	
第11回	年齢に応じた技術の獲得過程 I					松下健二	

第12回	年齢に応じた技術の獲得過程Ⅱ	松下健二
第13回	運動の身体への影響（生理）	松下健二
第14回	運動の身体への影響Ⅱ（心理）	松下健二
第15回	まとめ	松下健二
第16回	単位認定試験	松下健二
教科書		
教・書籍名1		教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	身体運動学概論	参・出版社名1
参・著者名1	編著：浅見俊雄・石井喜八・宮下充正・浅見高明・小林寛道	参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	運動方法学			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-313		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	『スポーツ指導者』をテーマとして、スポーツ全般を対象にして、その指導の方法論の原則について学習する。指導はあくまで指導の対象となる者、つまり選手や生徒が主体である。そして、指導は指導者とその指導対象者との関係性において、展開されるものである。そこには当然のこととして、指導対象者の基本的な条件、年齢、性別、目的、レベル等々が、存在する。また、環境との関係性も働きかけてくる。指導は生理学的原則などに立脚しつつ、教育学的及び心理学的理論、さらに今日では認知科学的及び脳科学的研究成果などを踏まえて行われる。学生はトップアスリート育成の方法論も講じながら、学校教育現場における体育授業での指導方法論、競技力向上を目的とした指導方法論、生涯スポーツ的な指導方法論などが理解できるようになることを到達目標と到達目標とす						
授業概要	運動方法学は昨今コーチングとの関係性を強めている。これは偏に、指導対象者の主体性を重視し、その人の意思や志向性を指導の立脚点としようという試みである。各人の自己イメージや有能感を指導の中心的なテーマとして、指導者は対象者を見ることの大切さがそこにはある。これは学校教育における課題とも合致し、またトップアスリート育成での基本的な立場でもある。本講義では、こうした視点について、実例を多く示しながら理解していく。そのうえで、技能獲得の具体的な手立て、集団の形成と集団を生かした運動指導、などについて論じていく。この授業の担当者は、スポーツ指導・コーチングの実務経験を持つ。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業時に課すレポート課題で30%、最終試験で70%の比率で評価を行う。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	(公財)日本スポーツ協会スポーツ指導員資格取得必修科目である。指導者としてしっかりとした知識をもとに指導できることを目的としているため、授業の復習や課題を十分に行うことを条件とする。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業時において、次回の授業内容に応じて、各自のスポーツ経験に基づく問題を見出す指示を行う。これによって、各自経験の見直しや情報収集を行う。授業後は、授業内容を受けて、望ましい在り方について考察し、時にレポートとして提出する。予習1コマ・復習1コマを行う。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					竹内研	
第2回	従来の運動指導の問題点					竹内研	
第3回	コーチングとは					竹内研	
第4回	運動指導者としての資質					竹内研	
第5回	運動指導の目的・ねらい					竹内研	
第6回	スポーツのパフォーマンスとは					竹内研	
第7回	上達論					竹内研	
第8回	技術指導の心理学的原則					竹内研	
第9回	トレーニングとプラクティス					竹内研	
第10回	集団の構造					竹内研	
第11回	集団の機能					竹内研	
第12回	体育授業での運動指導					竹内研	

第13回	教育目標と運動指導		竹内研
第14回	社会スポーツにおける運動指導		竹内研
第15回	セルフエフィカシー向上のための方法		竹内研
第16回	試験		竹内研
教科書			
教・書籍名1	スポーツ・コーチング学	教・出版社名1	西村書店
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	学校保健			担当者	城山 訓郎		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-314		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	△	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：学校保健の歴史をふまえ、学校保健の意義・目的や教育システムにおける位置づけを理解する。 到達目標：学校教育期の健康問題とその解決方法、学校保健活動方法、児童・生徒教職員の健康管理のあり方等について説明できるようになる。						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健の領域・学校保健計画・保健組織活動について理解する。 ・子どもの発育・発達及び健康課題とその対応について理解する。 ・保健教育について理解する。 なお、本講義は保健体育科教員としての実務経験がある教員が学校現場における実際等を踏まえて講義を行う。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	定期試験とレポートおよび授業態度にて評価する。定期試験を50%とし、レポートの記述内容30%、授業での積極的発言など授業態度を20%とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、授業内でフィードバックすることから、次回からの授業および実技試験に活用すること。						
履修条件・注意事項	準備学習を徹底すること。配布資料をファイルに保管し、毎回の講義に持参すること。提出したレポートは、コメントを付して翌週に返却をするので、見直しておくこと。また、学校現場を理解するという意欲をもって、主体的に授業に取り組むこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能のように、テキストの指定されたページをまとめるなど予習しておくこと。また、配布した資料や、講義内容を踏まえて学期末の定期試験を出題するので、授業終了後にノートをまとめ、復習しておくこと。なお、予習復習についてはそれぞれ2時間程度行うこと。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	学校保健の概要（健康の定義・保健の意義・目的）					城山訓郎	
第2回	児童生徒の発達と健康（身体・体力・運動能力・心の発育・発達）					城山訓郎	
第3回	保健学習（保健教育）					城山訓郎	
第4回	保健指導（性教育）					城山訓郎	
第5回	学校における保健管理の意義（健康相談）					城山訓郎	
第6回	健康診断（健康診断の歴史と変遷）					城山訓郎	
第7回	健康障害の管理（感染症とその予防）					城山訓郎	
第8回	子どもに多い病気と健康障害					城山訓郎	
第9回	学校精神保健（児童生徒の心の危険サイン）					城山訓郎	
第10回	障害児の健康（特別支援教育の動き）					城山訓郎	
第11回	学校保健活動（保健室の役割・救急処置）					城山訓郎	
第12回	学校保健関係（職務内容）					城山訓郎	
第13回	学校安全・危機管理（子どもを取り巻く危険の実態）					城山訓郎	
第14回	学校保健安全法・関係法について					城山訓郎	
第15回	春学期を通してのまとめ					城山訓郎	
第16回	試験						
教科書							

教・書籍名1	新版 学習保健	教・出版社名1	大学教育出版
教・著者名1	門田 新一郎、大津 一義	教・I S B N 1	978-4-88730-975-3
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・I S B N 1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	衛生・公衆衛生			担当者	中瀬 克己		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-315		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	△
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	△	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう / 3. すべての人に健康と福祉を / 10. 人や国の不平等をなくそう / 11. 住み続けられるまちづくりを / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>テーマは公衆衛生である。公衆衛生活動の目的は その国や地域の優先する健康問題に社会資源を配分したり、健康格差を減らしたりする事により、効率的に社会の健康課題に取り組むことである。個人よりは集団を対象とし、個々の病気の治療よりもその病気を起こりやすくしている環境や制度に注目する。現状や介入効果の評価を疫学や統計資料によって行い、学問的に精緻化されている。</p> <p>到達目標は公衆衛生の視点が身に付くことである。</p>						
授業概要	<p>公衆衛生活動では 疾病予防、寿命延長及び精神的・身体的・社会的な健康の保持増進など、その目的のための様々な社会制度・社会的取り組みや技術がある。この科目では 公衆衛生の総論的、基礎的な考えかたを種々の例を用いて学習する。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	期末の試験（50％）と授業への取り組み姿勢及び提出物の内容（50％）で評価する。授業時にアンケートや練習問題を行い、その内容を評価に反映させる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業時にアンケートや練習問題を行い、必要時に講義内容に加えてフィードバックを行うとともに次回以降の講義内容、進捗等に反映させる。						
履修条件・注意事項	<p>期末試験では、配布資料、自作のまとめ（自作に限る、他人のコピーは不可）は持ち込み可とする。再試はしない。</p> <p>「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、自治体の公衆衛生部門において実務経験のある教員が担当し、現状や課題とその解決に必要なとされる知識や能力を含めて講義をすることによって、学生の理解を実際的なものとし又深める。				
事前学習・事後学習とその時間	「記憶」より「理解」が自らの考えを形作るためには重要である。「なぜそうなのか」といった疑問を持って授業に臨むと理解が深まる。一方、授業内容の背景理解や整理のためには参考資料などで補う必要がある。参考図書を紹介している。						
オフィスアワー	6号館4 6424研究室にて 毎週水曜2限 教授会がある日を除く または木曜 限を オフィスアワーとする。						
授業計画						担当者	
第1回	社会と健康					中瀬克己	
第2回	食のイメージマッピング					中瀬克己	
第3回	公衆衛生を担う機関					中瀬克己	
第4回	行動経済学					中瀬克己	
第5回	ソーシャルキャピタルとヘルスプロモーション					中瀬克己	
第6回	環境保健					中瀬克己	
第7回	医療政策					中瀬克己	
第8回	産業保健					中瀬克己	
第9回	ストレスチェック					中瀬克己	
第10回	口腔保健					中瀬克己	
第11回	災害保健					中瀬克己	
第12回	身近な感染症と耐性菌					中瀬克己	

第13回	食品安全と食中毒	中瀬克己	
第14回	感染症危機管理	中瀬克己	
第15回	疫学	中瀬克己	
第16回	筆記試験	中瀬克己	
教科書			
教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	公衆衛生がみえる2022-2023	参・出版社名1	メディックメディア
参・著者名1	医療情報科学研究所 編	参・ISBN1	4896328582、978-4896328585
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	幼児体育			担当者	副島 斉子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-316		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	スポーツライセンスのうち(公財)日本スポーツ協会ジュニアスポーツ指導員受験資格取得のために必要なカリキュラムを実施する。今日、幼少期においても運動不足、コミュニケーション不足が危惧されているため、『幼少期の運動活動』をテーマとし、スポーツの果たす役割が大きいことから政府はいろいろなスポーツ振興策を進めている。また、この時期は感覚器官及び脳神経系の発達が著しいため、生涯にわたる健康の獲得とスポーツ実践の基礎はこの時期の良い運動習慣により培われる。優れた運動感覚の習得は諸スポーツ活動にスムーズに入るための基礎であり、また、生涯を健康に生活していくための基礎でもある。しかし、幼少期の身体発達は骨格系・筋肉系・内臓系ともに未成熟であるため、この時期の運動感覚の習得は成人のトレーニングスタイルであってはならず、いかに遊びの中で、楽しく身につけるかが重要となる。本実習では幼少期において獲得されるべき基本的運動感覚についての基礎知識の習得と、それらを幼児および児童に楽しく実践させるための指導法について系統的に理解・実践できるようになることを到達目標とする。						
授業概要	幼少期の心身の発達及び運動発達について系統的に理解していく。「遊び」「幼少期の身体」「発育と発達」「感覚」「コミュニケーション」「スポーツ」等、専門用語の基本概念を理解したうえで、各発達段階における心身の機能の特徴を学習する。また、現在求められているコミュニケーション能力の獲得、対人関係の改善等の問題や体力・運動能力の低下の問題等幼少期の課題を理解し、支援するための運動のあり方を考えていく。これらの基礎理論の上になたって、実践的に運動を展開するための運動遊びやゲーム等の教材研究、指導方法を学ぶ。この授業の担当者は、幼児期の運動指導の実務経験を有する。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク/プレゼンテーション/実習						
評価方法と割合	最終試験50%、レポート等提出物50% 評価のためのレポートは授業時にフィードバックする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した試験や課題の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	講義の性格上、体調管理、安全な服装で臨むこと						
実務経験のある教員	該当する	内容	幼児期・児童期の子供の運動教室で運動指導。				
事前学習・事後学習とその時間	各回の授業において、学修した内容を、自らの指導案として、授業後まとめておくこと。さらに次の授業時のねらいがしめされるので、あらかじめそれに応じた運動内容を各自で考えておくこと。 予習・復習はそれぞれ約2時間行うこと。						
オフィスアワー	火曜日4限、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	子どもとのコミュニケーションスキル1：子どもの発達とコミュニケーションスキル					副島斉子	
第2回	子どもとのコミュニケーションスキル2：子どもの発達とコミュニケーションスキル					副島斉子	
第3回	子どもとのコミュニケーションスキル3：子どもの発達とコミュニケーションスキル					副島斉子	
第4回	幼児期・児童期における基本的運動感覚の習得1－移動系：動きの発達とスキルの獲得					副島斉子	
第5回	幼児期・児童期における基本的運動感覚の習得1－平衡系：動きの発達とスキルの獲得					副島斉子	
第6回	幼児期・児童期における基本的運動感覚の習得1－操作系：動きの発達とスキルの獲得					副島斉子	
第7回	幼児期・児童期における基本的運動感覚の習得2：動きの発達とスキルの獲得,コーディネーションの養成					副島斉子	
第8回	児期・児童期における運動遊びとゲーム1－ごっこあそび：運動遊び・ゲームの実際					副島斉子	
第9回	児期・児童期における運動遊びとゲーム2－ゲーム：運動遊び・ゲームの実際					副島斉子	

第10回	児期・児童期における運動遊びとゲーム3－運動遊び：運動遊び・ゲームの実際	副島斉子
第11回	児期・児童期における運動遊びとゲーム4－スポーツ：運動遊び・ゲームの実際	副島斉子
第12回	児期・児童期における運動遊びとゲーム5－親子遊び：運動遊び・ゲームの実際	副島斉子
第13回	児期・児童期における運動遊びとゲーム6－1人遊び：運動遊び・ゲームの実際	副島斉子
第14回	児期・児童期における運動遊びとゲーム7－グループでの遊び：運動遊び・ゲームの実際	副島斉子
第15回	幼児期・児童期の指導の留意点	副島斉子
第16回	試験	副島斉子

教科書		
-----	--	--

教・書籍名1	幼少年期の体育	教・出版社名1	大修館書店
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書		
-----	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	解剖学			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-317		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	人体解剖学を科学的に理解することをテーマとし、人体を分子細胞のレベルから個体のレベルまで理解し、あわせて専門用語も身に付けることによって専門科目を容易に学ぶことができる。 人体の構造と機能を理解し、各専門科目を学ぶための基礎能力を身に付けることを目標とする。						
授業概要	人体は一個の受精卵から出発し、発生分化を経て複雑な構造体を形成している。解剖学はその人体の構造と各器官の形態及び機能を分子細胞のレベルから個体のレベルまで一体として理解し、合せて各専門科目を学ぶための基礎とする。講義内容、(1) 人体の概要 (2) 人体の構造と区分 (3) 人体の支持と機能 (骨格系) (4) 人体の支持と機能 (筋系) (5) 人体の支持と機能 (関節) (6) 神経系の機能 (末梢神経系) (7) 神経系の機能 (自律神経系) (8) 循環器系 (9) 呼吸器系 (10) 消化器系 (11) 泌尿器系 (12) 内分泌系 (13) 中枢神経系 (上位中枢) (14) 中枢神経系 (下位中枢) (15) 感覚器						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	受講態度20%、単位認定試験80%による総合評価を行う。単位認定試験は採点后各自個別指導を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	複数回に分けて、学習理解度確認のための課題や小テストをユニバーサルサポートを用いて実施する。実施した課題および小テストで得られた回答の一部は、必要に応じて講義内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	常に予習・復習を行い、予習で起きた疑問点は授業と復習によって解決するように心がけること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習として授業計画に記載されている部分について事前に参考書等を約2時間読みままとめておくこと。復習として毎回の授業を自分でまとめ必要なところは繰り返し約2時間読んで暗記すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室 (9402研究室) において、毎週月曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	人体の概要					高原皓全	
第2回	人体の構造と区分					高原皓全	
第3回	人体の支持と機能 (骨格系)					高原皓全	
第4回	人体の支持と機能 (筋系)					高原皓全	
第5回	人体の支持と機能 (関節)					高原皓全	
第6回	神経系の機能 (末梢神経系)					高原皓全	
第7回	神経系の機能 (中枢神経系)					高原皓全	
第8回	循環器系					高原皓全	
第9回	呼吸器系					高原皓全	
第10回	消化器系					高原皓全	
第11回	泌尿器系					高原皓全	
第12回	内分泌系					高原皓全	
第13回	中枢神経系 (上位中枢)					高原皓全	
第14回	中枢神経系 (下位中枢)					高原皓全	
第15回	感覚器					高原皓全	
第16回	単位認定試験					高原皓全	
教科書							
教・書籍名1	授業毎に資料を配布する				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		

教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	図解解剖学辞典	参・出版社名1	医学書院
参・著者名1	山田英智	参・ISBN1	
参・書籍名2	入門人体解剖学	参・出版社名2	南江堂
参・著者名2	藤田恒夫	参・ISBN2	

授業科目名	生理学			担当者	椎葉 大輔		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護 1年 / 2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ 社1年			ナンバリング	SS-SM-1-318		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考	○	DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	健康科学の根幹である生理学から人体の生きている仕組みを学ぶ。そして生体の在り方が多くのバランスの上に成り立つことを理解する。						
授業概要	生理学は身体の各臓器の機能を知るとともに、身体全体としての統合的な調整と適応の機序を明らかにする学問である。各機能間の関連を考慮しながら、筋、循環、呼吸、消化、代謝、排泄、内分泌などの植物性機能の概要を講義する。また、健康科学や臨床医学とのかかわりを解説し、それらの基礎とすることを旨とする。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義姿勢（10%）、課題（10%）および定期試験（80%）の成績で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	教科書に目を通し、解剖学の基礎的な知識を持っておくこと。さらに、講義に出題される課題に取り組むこと。毎回の授業前後において、講義資料を熟読し、予習復習すること。						
オフィスアワー	非常勤なので授業終了後、教室にて質問に対応しますので声をかけてください。						
授業計画						担当者	
第1回	生体機能とホメオスタシス					椎葉 大輔	
第2回	骨格筋 1) 構造と機能					椎葉 大輔	
第3回	骨格筋 2) 収縮機構・脊髄反射					椎葉 大輔	
第4回	神経系 1) 神経系の分類					椎葉 大輔	
第5回	神経系 2) 静止電位と活動電位					椎葉 大輔	
第6回	神経系 3) 興奮の伝導と伝達 4) 反射					椎葉 大輔	
第7回	神経系 5) 中枢神経系 6) 体性神経系・自律神経系					椎葉 大輔	
第8回	感覚器					椎葉 大輔	
第9回	血液と体液					椎葉 大輔	
第10回	心臓の機能と調節					椎葉 大輔	
第11回	血管運動調節系					椎葉 大輔	
第12回	呼吸器系の構造と機能					椎葉 大輔	
第13回	呼吸運動とその調節					椎葉 大輔	
第14回	高温環境と運動					椎葉 大輔	
第15回	体温調節系					椎葉 大輔	
第16回	筆記試験					椎葉 大輔	
教科書							
教・書籍名1	使用しない（毎回の講義で資料を配布する）					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	
参考書							

参・書籍名1	イラストでまなぶ生理学	参・出版社名1	医学書院
参・著者名1	田中越郎	参・ISBN1	9.78426E+12
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	運動栄養学			担当者	野瀬 由佳		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-319		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜2限 金曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	栄養学の基礎として、各栄養成分の理解と、消化吸収のメカニズムについて理解し、実生活での食事と栄養の関係について配慮できるようになる。また運動のエネルギー供給について理解し、健康づくりやスポーツ活動における効果的な食事について配慮することができる。						
授業概要	基礎栄養学として、活動のエネルギーとなる栄養素と、体の恒常性を保つための栄養素について学び、日常の食事との関連について講義する。また、身体運動と栄養の関係について講義する。さらに、スポーツ活動や健康づくりに関連する、栄養素やビタミン、ミネラル、水分摂取などについて講義する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	リアクションペーパー（20%）レポート（20%）、講義終了後の試験（60%）をあわせて評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 (公財) 日本スポーツ協会公認スポーツリーダー、スポーツプログラマー受験資格必須科目						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習は講義の進行を見て、講義の終わりに意を出す。復讐はその日のキーワードを示すのでそのことについてまとめる。予習2時間、復習2時間をかけて行うこと。						
オフィスアワー	非常勤講師のため、大学に常駐していません。オフィスアワーは講義終了後、ならびに講義内で示すメールでの対応となります。						
授業計画						担当者	
第1回	栄養の概念					野瀬 由佳	
第2回	消化・吸収と栄養素の体内動態1					野瀬 由佳	
第3回	消化・吸収と栄養素の体内動態2					野瀬 由佳	
第4回	糖質の栄養					野瀬 由佳	
第5回	脂質の栄養					野瀬 由佳	
第6回	たんぱく質の栄養					野瀬 由佳	
第7回	ビタミンの栄養					野瀬 由佳	
第8回	ミネラルの栄養					野瀬 由佳	
第9回	食生活と食品群					野瀬 由佳	
第10回	健康と栄養					野瀬 由佳	
第11回	運動のエネルギーとしての栄養					野瀬 由佳	
第12回	実際の食事とその栄養素1					野瀬 由佳	
第13回	実際の食事とその栄養素2					野瀬 由佳	
第14回	栄養摂取と食生活					野瀬 由佳	
第15回	スポーツ栄養における最新の知見について					野瀬 由佳	
第16回	定期試験					野瀬 由佳	

教科書			
教・書籍名1	各回講義において資料を配布する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	基礎栄養学	参・出版社名1	第一出版
参・著者名1	鈴木 和春 他	参・ISBN1	978-4-8041-1143-8
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	身体運動学			担当者	浅井 武		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-320		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	身体運動を支える体の機能をjついて生理学、解剖学を基本として学び、身体運動の成り立ちを物理学的解析法により理解し、運動の理論的実践指導が出来るようになる。						
授業概要	身体運動を支える体の機能をjついて生理学、解剖学を基本として学び、身体運動の成り立ちを物理学的解析法により理解し、運動の理論的実践指導が出来るようになる。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	課題（20%）および試験（80%）の結果を合わせて評価を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題に対するフィードバックに関しては、講義内で実施する。						
履修条件・注意事項	「健康運動実践指導者および健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は予習復習が必要である。予習として、各授業計画に記載されている部分について資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として課題を出すので、次回の授業時に発表すること。						
オフィスアワー	集中講義のため講義終了後とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					浅井 武	
第2回	身体運動と物理学					浅井 武	
第3回	姿勢、重心と身体運動					浅井 武	
第4回	関節の構造と機能					浅井 武	
第5回	頸部の関節運動					浅井 武	
第6回	上肢の関節運動					浅井 武	
第7回	脊柱の構造とその運動					浅井 武	
第8回	骨盤と下肢の運動					浅井 武	
第9回	エネルギーとパワー					浅井 武	
第10回	歩行と走行					浅井 武	
第11回	水中での身体運動					浅井 武	
第12回	3つのエネルギー供給システム					浅井 武	
第13回	有酸素パワーと無酸素パワー					浅井 武	
第14回	筋パワーと弾性エネルギー					浅井 武	
第15回	身体運動と健康					浅井 武	
第16回	単位認定試験					浅井 武	
教科書							
教・書籍名1	スポーツバイオメカニクス20講				教・出版社名1	朝倉書店	
教・著者名1	阿江通良+藤井範久				教・ISBN1	978-4-254-69040-8	
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							

参・書籍名1	身体運動学概論	参・出版社名1	大修館書店
参・著者名1	浅見 俊雄 他	参・ISBN1	ISBN4-469-26038
参・書籍名2	運動とからだ	参・出版社名2	大修館書店
参・著者名2	朝比奈一男	参・ISBN2	4-469-16312-0

授業科目名	リハビリテーション医学			担当者	河村 顕治		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-321		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	スポーツに関係する運動器疾患を中心として、リハビリテーション医学の対象となる疾患の理解をテーマとし、学生がそれらの病態とその治療、理学・作業療法の内容などの知識を身につけることができる。						
授業概要	リハビリテーションの理念と社会的、地域のリハビリテーションを含めた包括的なリハビリテーションの考え方を教授する。平成12年度より始まった公的介護保険制度についても、社会的背景より講義を行う。 リハビリテーションを単なる後療法と位置づけるのではなく、人間らしく生きるための技術、学問として考えていきたい。また、リハビリテーションにおけるチームアプローチの重要性を強調したい。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	定期試験（80％）を中心に、学期末に提出するポートフォリオの内容（20％）にて総合的に判定を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題やレポート等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	リハビリテーション医学の履修において各自がポートフォリオを作成することを義務づける。これは学習をより確かなものにしてこれからの専門的学習の基礎を作るためである。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、医師（日本リハビリテーション医学会専門医）としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、臨床現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	授業に先立って「リハビリテーション医学テキスト」で該当部分を予習しておくこと。復習として授業終了後には講義内容及び関連事項を図書館やインターネットを利用してポートフォリオにまとめること。予習および復習には、各1時間程度を要する。						
オフィスアワー	個人研究室にて、火曜日の4時限目に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	リハビリテーション医学とは					河村顕治	
第2回	運動器のリハビリテーション(総論)					河村顕治	
第3回	運動器のリハビリテーション（運動器不安定症：病態と診断）					河村顕治	
第4回	運動器のリハビリテーション（運動器不安定症：上肢疾患）					河村顕治	
第5回	運動器のリハビリテーション（運動器不安定症：下肢疾患）					河村顕治	
第6回	運動器のリハビリテーション（評価の概要）					河村顕治	
第7回	運動器のリハビリテーション（評価の実際）					河村顕治	
第8回	運動器のリハビリテーション（治療総論）					河村顕治	
第9回	運動器のリハビリテーション（筋力訓練）					河村顕治	
第10回	運動器のリハビリテーション（ストレッチング）					河村顕治	
第11回	運動器のリハビリテーション（体操療法）					河村顕治	
第12回	運動器のリハビリテーション（物理療法）					河村顕治	
第13回	運動器のリハビリテーション（各論：関節疾患）					河村顕治	
第14回	運動器のリハビリテーション（各論：腰椎疾患：病態と診断）					河村顕治	
第15回	運動器のリハビリテーション（各論：腰椎疾患：治療）					河村顕治	
第16回	単位認定試験					河村顕治	
教科書							

教・書籍名1	リハビリテーション医学 第1版	教・出版社名1	羊土社
教・著者名1	安保雅博／監、渡邊 修、松田雅弘／編	教・I S B N 1	978-4-7581-0231-5
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・I S B N 1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	内科学一般 オムニバス			担当者	青山 雅、高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-322		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	健康領域に従事する者として心得ておかなければならない医学一般並びに老人医療に関する知識を幅広く理解すること。ならびに他の医療従事者とも緊密にチームワークを作る為にも医学や看護などの基礎的知識を豊かにすること。学生はこれらことを学び、理解することで、健康領域の現場に出た際に他の医療従事者と共通理解の上で円滑に業務を遂行することができる。						
授業概要	様々な疾患の概要、頻度、症候、病生理、診断、治療と予後についての基礎的知識を把握する。また、疾患を十分理解するために、疾患の要因、特徴や症状についての理解を深める。生活習慣病に関しては、各疾患についての理解にとどまらず、運動療法、食事療法、薬物療法との関係についても理解を深める。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	受講態度20%、単位認定試験80%による総合評価を行う。単位認定試験は採点后各自個別指導を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	複数回に分けて、学習理解度確認のための課題や小テストをユニバーサルポスポートを用いて実施する。実施した課題および小テストで得られた回答の一部は、必要に応じて講義内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 最近の社会における医療や福祉の変化の情報に注目すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	青山 雅 (医師、糖尿病・代謝内科)				
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が2時間程度必要である。予習として、毎回の授業において問題提起と討論が可能のように配布された資料の指定されたページを熟読してくること。復習として、毎回課題を出すので、次の授業時に発表すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室 (9402研究室) において、毎週月曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	生活習慣病概論					高原 皓全	
第2回	メタボリックシンドローム					青山 雅	
第3回	ロコモティブシンドローム					青山 雅	
第4回	肥満症 (1) 肥満症とは					高原 皓全	
第5回	肥満症 (1) 肥満症の治療と予防					青山 雅	
第6回	高血圧症					青山 雅	
第7回	脂質異常症					青山 雅	
第8回	糖尿病					青山 雅	
第9回	虚血性心疾患					青山 雅	
第10回	呼吸器疾患					青山 雅	
第11回	循環器疾患					高原 皓全	
第12回	悪性新生物					青山 雅	
第13回	認知症					青山 雅	
第14回	骨粗鬆症					高原 皓全	
第15回	生活習慣病総括					高原 皓全	
第16回	単位認定試験					高原 皓全	
教科書							
教・書籍名1	授業毎に資料を配布する					教・出版社名1	

教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	コメディカルのための内科学	参・出版社名1	医学出版社
参・著者名1	伊東進、森博愛	参・ISBN1	978-4870550971
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	東洋医学概論			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-323		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	△	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 東洋医学理論の枠組みを概観することができる。 到達目標： 1：東洋医学の歴史（中国編）を説明できるようになる。 2：日東洋医学の歴史（日本編）を説明できるようになる。 3：東洋医学の特徴を理解できるようになる。 4：東洋医学の基本理念を理解できるようになる。						
授業概要	東洋医学概論の講義では病気の予防および体質改善を目的とし、今後多分野の中で応用できる基礎理論の掌握を狙っている。生活の知恵から生まれた東洋医学の背景を検討し、さらにそれに伴って陰陽論の基本内容および東洋医学における陰陽論の応用、五行論の基本内容および東洋医学における五行論の応用、気血津液の分類と作用及び相互関係、臓腑学説の形成及び生理特徴、経絡の作用、循行及び連接の規則性、八綱弁証理論などを紹介する。						
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「東洋医学の歴史、特徴及び基本理念を理解できるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（50％）、講義ノート（30％）、授業への積極的な参加態度（20％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	毎回の授業において問題提起と討論が可能ないようにテキストの指定されたページを熟読してくる。また、学期末のレポート提出が定期試験受験の条件となることから授業終了後にノートを纏めておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 試験は必ず行うので、授業に出席していただければ単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習に、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	東洋医学の歴史（中国編）					孫基然	
第2回	東洋医学の歴史（日本編）					孫基然	
第3回	東洋医学の特徴					孫基然	
第4回	基本理論（陰陽学説の由来及び内容）					孫基然	
第5回	基本理論（五行学説の由来及び内容）					孫基然	
第6回	気思想（由来、分類）					孫基然	
第7回	気思想（作用、病態）					孫基然	
第8回	血の生成、作用及び循環					孫基然	
第9回	水の代謝ルート及び病態特徴					孫基然	
第10回	臓腑学説（心の生理機能）					孫基然	
第11回	臓腑学説（肝の生理機能）					孫基然	
第12回	臓腑学説（脾の生理機能）					孫基然	

第13回	臓腑学説（肺の生理機能）	孫基然
第14回	臓腑学説（腎の生理機能）	孫基然
第15回	臓腑学説（六腑の生理機能）	孫基然
第16回	筆記試験	孫基然

教科書		
-----	--	--

教・書籍名1	適宜プリント資料を配布する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書		
-----	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	経絡鍼灸学			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2019～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2019～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-324		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年 / 2年		開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	△	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	<p>テーマ：</p> <p>1：経絡とは何かを理解できるようになる。 2：正しい鍼灸治療を身につけることができる。</p> <p>到達目標：</p> <p>1：経絡の意義を説明できるようになる。 2：経絡の走行ルートを理解できるようになる。 3：鍼の刺し方を身につけることができる。 4：艾柱の作り方をできるようになる。</p>						
授業概要	「経絡学説」は東洋医学における最も重要な生理学の一環であると同時に、臨床各科治療の基礎でもある。本講義ではまず経絡の起源に関わる背景を紹介し、その後「十二正経」を講義する。その中で主に経絡の循行部位、生理機能、病理特徴および分布特徴、相關部位及び代表経穴の取り方を中心として行われる。更に現代医学を併せてそれに関わっている筋肉、神経及び血管などを中心としている。「鍼灸学」について主に鍼の刺し方、灸療法のすえ方、適応症、注意事項及び鍼灸治療のメカニズム、また、中国の鍼灸状況を解説する。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「経絡の意義、走行ルート、鍼の刺し方及び艾柱の作り方をできるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（50％）、講義ノート（30％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（20％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	毎回の授業において問題提起と討論が可能なようにテキストの指定されたページを熟読してくる。また、学期末のレポート提出が定期試験受験の条件となることから授業終了後にノートを纏めておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 試験は必ず行うので、授業に出席していただければ単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習に、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	2) 6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	肺経・大腸経の循行ルート及び取穴基準の設定					孫基然	
第2回	胃経・脾経の循行ルート及び取穴基準の設定					孫基然	
第3回	心経・小腸経の循行ルート及び取穴基準の設定					孫基然	
第4回	腎経・膀胱経の循行ルート及び取穴基準の設定					孫基然	
第5回	心包経・三焦経の循行ルート及び取穴基準の設定					孫基然	
第6回	胆経の循行ルート及び取穴基準の設定					孫基然	
第7回	肝経の循行ルート及び取穴基準の設定					孫基然	

第 8 回	鍼灸概説	孫基然
第 9 回	片手挿管	孫基然
第 1 0 回	鍼に関する一般知識	孫基然
第 1 1 回	鍼治療の適応症	孫基然
第 1 2 回	刺鍼手技法	孫基然
第 1 3 回	灸療法概説	孫基然
第 1 4 回	灸療法の実際	孫基然
第 1 5 回	鍼灸理論	孫基然
第 1 6 回	筆記試験	孫基然

教科書

教・書籍名 1	適宜プリント資料を配布する	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	東洋医学演習			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-325		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	△	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	△	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	<p>テーマ：</p> <p>1：鍼灸、整体刺激による筋硬度への影響を理解できるようになる。</p> <p>2：脈診、舌診方法を生かし健康管理へ応用できるようになる。</p> <p>到達目標：</p> <p>1：スポーツ傷害に広く応用されている鍼灸及び整体療法を習得できるようになる。</p> <p>2：脈診、舌診を正しく理解できるようになる。</p>						
授業概要	東洋医学演習の講義では、誰でもできる簡単な円皮鍼、艾灸などといった東洋医学的手法を利用し、主に僧帽筋や腓腹筋の硬さを観察指標とし、スポーツ障害と筋の硬さとの関係を理解しその改善方法についての知識と理論について学習し、将来スポーツや福祉の分野において応用できるようにする。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	本講義では演習を中心に行われることから、実技の出来具合（50%）、実験、文献調査レポートの出来具合（30%）、参加態度（20%）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実験及び文献調査レポートの修正を講義内でフィードバックすることから、見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	毎回の授業において問題提起と討論が可能ないようにテキストの指定されたページを熟読してくること。また、学期末のレポート提出が定期試験受験の条件となることから授業終了後にノートを纏めておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。予習及び復習が、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					孫基然	
第2回	艾の捻り方の説明、練習					孫基然	
第3回	艾の捻り方の実技テスト					孫基然	
第4回	筋硬度測定方法の習得					孫基然	
第5回	艾灸による筋硬度（腓腹筋や僧帽筋）に及ぼす影響					孫基然	
第6回	針の刺し方の練習					孫基然	
第7回	針の刺し方実技テスト					孫基然	
第8回	円皮鍼による筋硬度（腓腹筋や僧帽筋）に及ぼす影響					孫基然	
第9回	舌診の原理					孫基然	
第10回	舌診の見方					孫基然	
第11回	舌診の内容					孫基然	
第12回	舌診レポート作成					孫基然	
第13回	脈診の原理					孫基然	
第14回	脈診の見方					孫基然	
第15回	舌診の内容					孫基然	
第16回	脈診レポート					孫基然	
教科書							

教・書籍名1	適宜プリント資料を配布する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	発育発達			担当者	松本 希		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-326		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	成人期以降の体の変化を総合的、臓器別に学び、老化のメカニズムを理解することによって、高齢者等の健康に配慮できるようになるとともに、安全で効果的な運動を指導することができる。						
授業概要	人間の発育発達を生涯の加齢現象としてとらえ、成人期以降の力加齢と生体機能の関係を明らかにする。主に生理学、解剖学、心理学、老人病理学などの立場で講義し、The biology aging の意義について講義する。人間の一生において各機能形態的発達様式が違うことから、老化について考え、それぞれの時期に応じた適切な社会福祉とその対策について講義する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義前後の課題（20%）および試験（80%）の結果を合わせて評価を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士受験資格認定試験受験資格」必須科目						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は予習復習が必要である。予習として、各授業計画に記載されている部分について資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時にレポートを提出すること。						
オフィスアワー	非常勤講師のため、講義終了後をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	人間の一生における発達現象					松本 希	
第2回	高齢者の定義					松本 希	
第3回	老化の定義と具体的特徴					松本 希	
第4回	老化に影響を与える他の因子					松本 希	
第5回	生理的機能の変化と組織的变化					松本 希	
第6回	免疫機能の変化					松本 希	
第7回	老化の学説とその真意					松本 希	
第8回	細胞レベルでの老化					松本 希	
第9回	早老症とそのメカニズム					松本 希	
第10回	細胞レベルでの老化					松本 希	
第11回	老年病の三つの特徴					松本 希	
第12回	老化現象を基盤とした病気					松本 希	
第13回	QOLとADL					松本 希	
第14回	環境と老化現象					松本 希	
第15回	運動と老化現象					松本 希	
第16回	定期試験					松本 希	
教科書							
教・書籍名1	使用しない(必要に応じプリントを配布する)					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	

教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	人間の発達と健康	参・出版社名1	大修館書店
参・著者名1	神戸大学発達科学部健康発達論研究会	参・ISBN1	4-469-26363-x
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	救急処置			担当者	赤在 あゆみ		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-327		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	「救急処置の基本と実際」、「スポーツ障害の現状と対策」をテーマとし、アスリートやスポーツ指導者として、学生がスポーツ障害の病態・診断・治療・障害予防について理解し、学んだ知識を実際のスポーツ現場での応急処置やスポーツ障害の予防に役立てることができる。						
授業概要	スポーツの現場では、競技者としてのみならず、指導者として、突然の事故や内科的疾病に伴う緊急の事態に直面することがある。本講義ではこのような事態に備え、スポーツ中に起こりうる外傷・障害に関する医学的知識、とりわけ救急処置についての知識を資料を用いて解説し、グループディスカッションやディベート、救急処置の実技指導を通して実際の現場で自ら考え、対処できるようにする。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	平常のレポートの提出や受講態度、定期試験の成績を併せて評価する。とりわけ予習復習のためのレポート提出や受講態度は重要であり、成績評価基準として知識習得状況を把握するための最終試験80%、課題（提出物・レポート）10%、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度10%の割合で評価する。なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので試験までにみなおしておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので試験までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	講義はスライドを中心にを行い、スライド内容は講義用テキストとして配布するが、救急法やテーピングの実際についても体験してもらうため始業時に遅れないこと。毎回出される課題や講義テキストを予習・復習に活用し、その提出を定期試験受験の条件とする。また、受講態度は特に重要であり、講義で習ったことをスポーツ現場に積極的に活かしていくように心掛けること。 予習、復習、および実技の際に必要なとなるので、必ず教科書を用意すること。 「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 （公財）日本体育協会公認スポーツ指導者共通科目Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ必須科目						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、医師として実務経験のある教員により、現状や課題、それを解決するために必要とされる知識や能力について講義し、学生の理解を深める。				
事前学習・事後学習とその時間	自己学習のためのレポート課題を課す。それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。なお、予習及び復習には、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	火曜日1限 研究室						
授業計画						担当者	
第1回	スポーツ現場における事故の実際					赤在	
第2回	心肺蘇生法（理論）					赤在	
第3回	心肺蘇生法（手技の実際）					赤在	
第4回	循環器系障害に対する対応（病態）					赤在	
第5回	循環器系障害に対する対応（手技の実際）					赤在	
第6回	呼吸器系障害に対する対応（病態・手技の実際）					赤在	
第7回	創傷及び出血に対する対応（病態）					赤在	
第8回	創傷及び出血に対する対応（手技の実際）					赤在	
第9回	骨、関節及び筋肉の損傷に対する対応（骨折）					赤在	

第10回	骨、関節及び筋肉の損傷に対する対応（関節障害）	赤在
第11回	骨、関節及び筋肉の損傷に対する対応（筋・腱障害）	赤在
第12回	神経系の障害に対する対応（脳の外傷）	森信
第13回	神経系の障害に対する対応（脳血管傷害）	森信
第14回	神経系の障害に対する対応（脊髄損傷）	森信
第15回	環境・代謝障害に伴う障害に対する対応	赤在
第16回	単位認定試験	赤在

教科書		
-----	--	--

教・書籍名1	改訂6版 救急蘇生法の指針 2020 市民用・解説編	教・出版社名1	へるす出版
教・著者名1	監修：日本救急医療財団心肺蘇生法委員会	教・ISBN1	978-4-86719-026-5
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書		
-----	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	運動生理学Ⅰ			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-328		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	動物としてのヒトの根底には、常に身体運動が伴う。日々の在り方でそれは多様に変化し、各人を形成する。その可塑性を理解する。学生は身体活動にともなう生体諸機能の適応やその機序に関する生理学を理解することにより、「運動」に関する考え方を学ぶことができる。						
授業概要	ヒトの身体活動は人体の多様な機能を動員することで発現する。今日、運動不足による疾患が危惧されている。そこで呼吸・循環機能、脂質代謝と生活習慣病、またメタボリックシンドロームを説明し、予防、改善のための至適運動を提示する。運動生理学の基礎的な知見について、テキストと実験データをもとに紹介する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義中の課題(30%)、定期試験の結果（70%）から評価する。なお、評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 （公財）日本スポーツ協会公認スポーツリーダー必須科目 講義項目ごとに資料を事前に配布する。資料は図表が主となるので、理解のためには講義への出席が重要となる。すべてにおいて、主体的な姿勢で臨むこと。分からないことについては積極的に質問するよう取り組むこと。提出物の期限は厳守すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が必要である。生理学、解剖学を基礎としており、適宜、それらの復習が大切である。予習復習として講義内に配布プリントの指定されたページを熟読してくる。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9410研究室）において、木曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	運動と血液					山口英峰	
第2回	運動と心拍数					山口英峰	
第3回	運動と血圧					山口英峰	
第4回	運動と血流					山口英峰	
第5回	循環機能とトレーニング					山口英峰	
第6回	運動と呼吸運動					山口英峰	
第7回	運動と酸素摂取					山口英峰	
第8回	運動と呼吸商					山口英峰	
第9回	呼吸機能とトレーニング					山口英峰	

第10回	運動と高血圧・高脂血症	山口英峰	
第11回	運動と糖尿病	山口英峰	
第12回	神経・筋機能の加齢変化	山口英峰	
第13回	呼吸・循環機能の加齢変化	山口英峰	
第14回	骨の加齢変化	山口英峰	
第15回	運動と免疫能	山口英峰	
第16回	単位認定試験	山口英峰	
教科書			
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名1	フリースペース
教・著者名1	改訂版 運動生理学の基礎と発展・春日規克・竹倉宏明	教・ISBN1	978-4-434-07569-8
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	運動生理学Ⅱ			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-329		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	動物としてのヒトの根底には、常に身体運動が伴う。日々の在り方でそれは多様に変化し、各人を形成する。その可塑性を理解する。学生は、身体活動にともなう生体諸機能の適応やその機序に関する生理学を理解することにより、「運動」に関する考え方を学ぶことができる。						
授業概要	ヒトの身体活動は人体の多様な機能を動員することで発現する。身体運動にともなう神経や筋の適応と機序について学ぶ。運動生理学の基礎的な知見について、テキストと実験データをもとに紹介する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義中の課題（30%）、定期試験の結果（70%）から評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 「（公財）日本スポーツ協会スポーツリーダー」科目 講義項目ごとに資料を配布する。資料は図表が主となるので、理解のためには講義への出席が重要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が必要である。生理学、解剖学を基礎としており、適宜、それらの復習が大切である。毎回の授業において配布したプリントの指定されたページを熟読してくる。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9410研究室）において、木曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	運動とは					山口英峰	
第2回	筋の構造					山口英峰	
第3回	筋収縮のしくみ					山口英峰	
第4回	筋繊維の種類					山口英峰	
第5回	筋繊維の種類と収縮特性					山口英峰	
第6回	筋繊維の種類と身体活動					山口英峰	
第7回	筋収縮と糖質代謝					山口英峰	
第8回	筋収縮と脂質代謝					山口英峰	
第9回	筋の肥大、損傷、再生					山口英峰	
第10回	運動単位の種類					山口英峰	
第11回	運動単位と筋力、筋電図					山口英峰	
第12回	運動の発現 1) 脊髄反射					山口英峰	
第13回	運動の発現 2) 中枢神経系					山口英峰	

第14回	歩行運動の正常と異常		山口英峰
第15回	水中環境と運動		山口英峰
第16回	単位認定試験		山口英峰
教科書			
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名1	フリースペース
教・著者名1	改訂版 運動生理学の基礎と発展・春日規克・竹倉宏明	教・ISBN1	978-4-434-07569-8
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	レクリエーション (Aクラス:教免希望者)			担当者	直原 一美		
配当学科・研究科	2019~2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-330		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに / 10. 人や国の不平等をなくそう / 11. 住み続けられるまちづくりを / 12. つくる責任・つかう責任</p> 						
到達目標	<p>~自ら楽しむ~をテーマに人とひととの交流を深めます。 レクリエーション活動は、コミュニケーション能力を深める有効手段の一つです。 今、多くの企業や職場でコミュニケーション能力のある人材が求められています。また、レクリエーションの支援者として、家族の絆を深め、地域の絆を取り戻すきっかけづくりの提供、高齢者、障害者福祉施設、スポーツ、健康づくりに関する職場、地域社会、学校現場など即戦力となる人材を育てます。 レクリエーションの授業を通して、楽しみながらコミュニケーション能力を高めます。</p>						
授業概要	<p>現在レクリエーションは、健康づくりや高齢者・障害者福祉、子育て支援、幼児教育、学校教育、社会教育(地域づくり)、環境教育、医療現場などで幅広く用いられています。 現場で必要な、コミュニケーション技法や集団を対象としたレク・ワーク技術を身に付け、「人とひととの交流を感動的な出会い」の演出を学びます。 春学期は、レクリエーションの楽しさ、仲間との交流の素晴らしさを体感し、ニュースポーツや最近話題の健康法「笑いヨガ(ラフターヨガ)」、そして、野外に出かけて自然との触れ合いなど、様々なレクリエーションの技法を体験します。</p>						
アクティブラーニングの内容	フィールドワーク						
評価方法と割合	試験(50%) 授業態度(30%) 課題レポート(20%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業中にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	動きやすい服装、体育館シューズを準備する。						
実務経験のある教員	該当する	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習復習については、別途指示し各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	授業終了後教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	「初めまして」自ら楽しむレクリエーション					直原	
第2回	仲間と共に楽しむレクリエーション					直原	
第3回	グループ対抗ゲーム					直原	
第4回	歌は心のメッセージ					直原	
第5回	レッツダンス!					直原	
第6回	健康体操リハビリ体操ストレッチ他					直原	
第7回	創作レクダンス(これがけっこうはまります)					直原	
第8回	ネイチャーゲーム(心と体で自然を感じます)					直原	
第9回	ニュースポーツI					直原	
第10回	ニュースポーツII					直原	
第11回	高齢者・障害者と楽しむレクリエーション					直原	
第12回	「笑いヨガ」今話題の有酸素運動					直原	
第13回	大縄跳び・バンブーダンス					直原	
第14回	脳トレレク①					直原	

第15回	脳トレレク②	直原
第16回	単位認定試験	直原
教科書		
教・書籍名1	使用しない	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	レクリエーション (Bクラス:教免希望者以外)			担当者	直原 一美		
配当学科・研究科	2019~2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-330		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに / 10. 人や国の不平等をなくそう / 11. 住み続けられるまちづくりを / 12. つくる責任・つかう責任</p> 						
到達目標	<p>~自ら楽しむ~をテーマに人とひととの交流を深めます。 レクリエーション活動は、コミュニケーション能力を深める有効手段の一つです。 今、多くの企業や職場でコミュニケーション能力のある人材が求められています。また、レクリエーションの支援者として、家族の絆を深め、地域の絆を取り戻すきっかけづくりの提供、高齢者、障害者福祉施設、スポーツ、健康づくりに関する職場、地域社会、学校現場など即戦力となる人材を育てます。 レクリエーションの授業を通して、楽しみながらコミュニケーション能力を高めます。</p>						
授業概要	<p>現在レクリエーションは、健康づくりや高齢者・障害者福祉、子育て支援、幼児教育、学校教育、社会教育(地域づくり)、環境教育、医療現場などで幅広く用いられています。 現場で必要な、コミュニケーション技法や集団を対象としたレク・ワーク技術を身に付け、「人とひととの交流を感動的な出会い」の演出を学びます。 春学期は、レクリエーションの楽しさ、仲間との交流の素晴らしさを体感し、ニュースポーツや最近話題の健康法「笑いヨガ(ラフターヨガ)」、そして、野外に出かけて自然との触れ合いなど、様々なレクリエーションの技法を体験します。</p>						
アクティブラーニングの内容	フィールドワーク						
評価方法と割合	試験(50%) 授業態度(30%) 課題レポート(20%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業中にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	動きやすい服装、体育館シューズを準備する。						
実務経験のある教員	該当する	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習復習については、別途指示し各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	授業終了後教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	「初めまして」自ら楽しむレクリエーション					直原	
第2回	仲間と共に楽しむレクリエーション					直原	
第3回	グループ対抗ゲーム					直原	
第4回	歌は心のメッセージ					直原	
第5回	レッツダンス!					直原	
第6回	健康体操リハビリ体操ストレッチ他					直原	
第7回	創作レクダンス(これがけっこうはまります)					直原	
第8回	ネイチャーゲーム(心と体で自然を感じます)					直原	
第9回	ニュースポーツI					直原	
第10回	ニュースポーツII					直原	
第11回	高齢者・障害者と楽しむレクリエーション					直原	
第12回	「笑いヨガ」今話題の有酸素運動					直原	
第13回	大縄跳び・バンブーダンス					直原	
第14回	脳トレレク①					直原	

第15回	脳トレレク②	直原
第16回	単位認定試験	直原
教科書		
教・書籍名1	使用しない	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	アダプテッド・スポーツ			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-331		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	△	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	「アダプテッド・スポーツの理論と実際」をテーマとする。アダプテッド・スポーツの理論だけではなく、運動指導者としての実践方法の基礎を理解できる。						
授業概要	アダプテッド・スポーツとは、1人1人の発達状況や身体条件に適応させたスポーツのことをいう。特に、障がいを持つ者の身体的・精神的障がいの種類や程度に合わせてルールや用具を適合させることによって、スポーツ活動を実施することができるようになる。しかしながら、間違った運動を行うと、かえって障がいを悪化させてしまう。本講義では、障がい者のスポーツ活動について、障がいの関係特性について理解を深めるとともに正しく理解し、対象者に適したスポーツ活動の理解及び適切な指導が出来るよう学習する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	最終試験（90％）、発表、ディスカッションへの参加（5％）、受講態度（5％） なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	1) 事前に課題を出し、発表形式を取る参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。 2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。 3) 初回の授業には、必ず出席すること。 4) 試験は必ず行うので、授業に出席していただいただけでは単位は取れない。						
実務経験のある教員	該当する	内容	健康運動指導士 障害者スポーツ団体審判員経験あり				
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してくること。また、授業時に配布する資料や各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習及び次回への予習を行うこと（各2時間程度）。						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					天岡 寛	
第2回	アダプテッド・スポーツとは					天岡 寛	
第3回	アダプテッド・スポーツの歴史					天岡 寛	
第4回	障がい者スポーツ指導者制度					天岡 寛	
第5回	障がい者のスポーツ活動の意義と理念					天岡 寛	
第6回	障がい者のスポーツ大会					天岡 寛	
第7回	障がい者スポーツとクラス分け					天岡 寛	
第8回	障がいの理解とスポーツ（肢体不自由者）					天岡 寛	
第9回	障がいの理解とスポーツ（知的障害者）					天岡 寛	
第10回	障がいの理解とスポーツ（内部障害者）					天岡 寛	
第11回	障がいの理解とスポーツ（知的障害者）					天岡 寛	
第12回	障がいの理解とスポーツ（精神障害者）					天岡 寛	
第13回	アダプテッド・スポーツの現場から～指導者として～					天岡 寛	
第14回	アダプテッド・スポーツの現場から～大会を支える立場として～					天岡 寛	

第15回	まとめ	天岡 寛
第16回	単位認定試験	天岡 寛
教科書		
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	適宜指示する.	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	保健体育科教育法Ⅰ			担当者	松下 健二		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	TC-SM-2-901		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	体育教師の専門的力量育成を目標とし、保健体育科教育に関わる基礎的教育的事項について学習指導要領に示された教科の目標や内容を理解する。						
授業概要	保健体育科の目標および内容と各分野の目標と内容および指導計画の作成方法と内容の取り扱いについて理解するとともに、専門的教育知識を把握し、体育の授業の中で実践できるようにする。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、高等学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	受講態度（25％）、レポート（25％）、試験（50％）で総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は提出後の次の授業最初にレクチャアする。終講はテスト後自己採点を行なわせ、誤りを訂正させる。						
履修条件・注意事項	前の授業の要点の確実な理解から次の授業を始めるので授業後にノートをまとめ、配布された資料を基にして次授業の授業内容について把握しておくこと。 レポートの提出状況が試験の受験条件となる。 中高保健体育科教諭資格必修科目						
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和46年4月～48年3月兵庫県立神戸工業高等学校にて保健体育科担当教員として勤務				
事前学習・事後学習とその時間	予習として各授業計画に記載されている部分について事前に参考となる書籍を読み、理解できない点をまとめて授業をうけること。指示に従って必ずノートを作成し、復習すること。」予習・復習とも2時間ほど行うこと。						
オフィスアワー	授業終了後、教室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	中学校学習指導要領保健体育編における目標と各分野の内容について（その1）					松下健二	
第2回	中学校学習指導要領保健体育編における目標と各分野の内容について（その2）					松下健二	
第3回	中学校学習指導要領保健体育編に作成方法について作成方法について					松下健二	
第4回	高等学校学習指導要領保健体育編・体育編における目標と各分野の内容について（その1）					松下健二	
第5回	高等学校学習指導要領保健体育編・体育編における目標と各分野の内容について（その2）					松下健二	
第6回	高等学校学習指導要領保健体育編・体育編に作成方法について作成方法について					松下健二	
第7回	保健体育科授業の成立基盤および授業の構造と機能					松下健二	
第8回	保健体育科の目標と学力と教育内容					松下健二	
第9回	保健体育授業の学習指導－アクティブラーニングの手法と情報機器の活用（体育分野・保健分野）					松下健二	
第10回	モニタリングと相互作用					松下健二	
第11回	マネジメント方略					松下健二	
第12回	運動の技術（運動成功のためのコツ）					松下健二	
第13回	競争とルールとマナーと戦術学習					松下健二	
第14回	運動学習の適時期					松下健二	
第15回	授業評価と学習評価					松下健二	
第16回	単位認定試験					松下健二	

教科書			
教・書籍名1	中学校学習指導要領(平成29年告知) 解説：保健体育編	教・出版社名1	文部科学省
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2	高等学校学習指導要領（平成30年度告知）：保健体育編・体育編	教・出版社名2	文部科学省
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	内容学と架橋する保健体育教育論	参・出版社名1	晃洋書房
参・著者名1	後藤幸弘	参・ISBN1	
参・書籍名2	体育授業の理論と方法	参・出版社名2	大修館書店
参・著者名2	小林一久	参・ISBN2	

授業科目名	保健体育科教育法Ⅱ			担当者	松下 健二		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	TC-SM-2-902		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	授業のテーマ及び到達目標 保健体育科において扱われる体育分野の内の4領域と保健分野について、それぞれの授業を行う際の重要ポイントを理解し、授業計画（指導案）を作成する。情報機器を使用したプレゼンテーションおよび模擬授業ができる。						
授業概要	授業の概要 体育分野の「体づくり運動」「器械運動」「陸上競技」「球技」の各領域と保健分野についてそれぞれの代表例の教材研究を行うとともに指導案作成、模擬授業を行う。模擬授業では教師の介入を逐次取り入れ、指導案と実際の指導との連携を理解し、授業づくりを行う。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、高等学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	受講態度（25％）、レポート（25％）、試験（50％）で総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題については課題提出後の授業最初にレクチャーを行う。終講テストについては採点後答案用紙を教務課に取りに来させる。						
履修条件・注意事項	前の授業の要点の確実な理解から次の授業を始めるので授業後にノートをもとめ、配布された資料をもとにして次の授業の内容について把握しておくこと。 レポートの提出状況が試験の受験条件になる。 中高保健体育科教諭資格必修科目						
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和46年4月～48年3月の2カ年間兵庫県立神戸工業高等学校で保健体育教師として勤務				
事前学習・事後学習とその時間	予習として各授業計画に記載されている部分について事前に参考となる書籍を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。指示に従って必ずノートを作成し、復習すること。予習・復習とも2時間ほど行うこと。						
オフィスアワー	授業のある火曜日の昼休みか放課後						
授業計画						担当者	
第1回	「体づくり運動」の授業づくり (1)：体ほぐし・体の動きを高める運動の教材研究					松下健二	
第2回	「体づくり運動」の授業づくり (2)：指導案の作成					松下健二	
	「体づくり運動」の授業づくり						

第3回	(3) : 指導案の発表と模擬授業	松下健二
第4回	「器械運動」の授業づくり (1) : マット運動、跳び箱運動の教材研究	松下健二
第5回	「器械運動」の授業づくり (2) : 指導案の作成	松下健二
第6回	「器械運動」の授業づくり (3) : 指導案の発表と模擬授業	松下健二
第7回	「陸上競技」の授業づくり (1) : 「ハードル走」、「走り高跳び」の教材研究	松下健二
第8回	「陸上競技」の授業づくり (2) : 指導案の作成	松下健二
第9回	「陸上競技」の授業づくり (3) : 指導案の発表と模擬授業	松下健二
第10回	「球技」の授業づくり (1) : 「バレーボール」、「バスケットボール」の教材研究	松下健二
第11回	「球技」の授業づくり (2) : 指導案の作成	松下健二
第12回	「球技」の授業づくり (3) : 指導案の発表と模擬授業	松下健二
第13回	保健分野の授業づくり (1) : 「防止の防止」の教材研究	松下健二
第14回	保健分野の授業づくり (2) : 情報機器の活用を含めた指導案の作成	松下健二
第15回	保健分野の授業づくり (3) : 指導案の作成と模擬授業	松下健二
第16回	単位認定試験	松下健二
教科書		
教・書籍名1	新版 体育科教育学入門	教・出版社名1
教・著者名1	編著：高橋健夫、岡出美則、友添秀則、岩田靖	教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	中学校・高等学校の授業づくり入門	参・出版社名1
参・著者名1	編著：鈴木秀人・山本理人・佐藤善人・茂樹茂樹・小出高義	参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	保健体育科教育法Ⅲ			担当者	松下 健二		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	TC-SM-3-903		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・実技
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	模擬授業を通じて実技科目の実践指導方法を習得する。体育分野の4つの内容の実技について「できる」「わかる」「教えることができる」の能力をつける。						
授業概要	<p>「体づくり運動」「器械運動」「陸上競技」「球技」の各種目の指導方法を習得する。まず各種目について技ができる（示範）ようにスマートフォンなどで動画をその場で撮り、自己の動作を把握・改善する。技の運動構造を分析することから成功する「コツ」を理解し、その上で指導する際の留意点や効果的な指導法について学ぶ。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、高等学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	受講態度（25％）、レポート（25％）、試験（50％）で総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は提出後の次の授業の最初にレクチャアする。終講テストはテスト後自己採点をおこなわせ、誤りを自覚・訂正させる。						
履修条件・注意事項	実技を伴うので体操服、体育館シューズ、屋外用シューズを用意し、体の調子に気をつける。 中学校保健体育科教諭資格必修科目						
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和46年4月～48年3月まで兵庫県立神戸工業高等学校にて保健体育教員として勤務				
事前学習・事後学習とその時間	予習として各運動領域の学習内容を授業前に参考図書を利用して把握しておくこと。復習として学んだ指導法についてノートを作成しすること。予習・復習とも2時間ほど行うこと。						
オフィスアワー	授業後教室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	体づくり運動①体ほぐし					松下健二	
第2回	体ほぐ運動②体の動きを高める運動（筋力養成）					松下健二	
第3回	体づくり運動③体の動きを高める運動（調整力、持久力養成）					松下健二	
第4回	器械運動①マット運動（回転系：接点系）					松下健二	
第5回	器械運動②マット運動（回転系：翻転系）					松下健二	
第6回	器械運動③跳び箱					松下健二	
第7回	器械運動④平均台					松下健二	
第8回	陸上競技①ハードル走					松下健二	
第9回	陸上競技②走り高跳び					松下健二	
第10回	陸上競技③砲丸投げ					松下健二	
第11回	球技①：ゴール型（サッカー）					松下健二	
第12回	球技②：ゴール型（バスケットボール）					松下健二	
第13回	球技③：ネット型（バレーボール）					松下健二	
第14回	球技④：ネット型（バドミントン）					松下健二	
第15回	球技⑤：ベースボール型（ソフトボール）					松下健二	
第16回	単位認定試験					松下健二	
教科書							

教・書籍名1	体育の授業と教授技術	教・出版社名1	大修館書店
教・著者名1	阪田尚彦	教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	中・高 器械運動の授業づくり	参・出版社名1	大修館書店
参・著者名1	編著：三木四郎・加藤澤男・清人清人	参・ISBN1	
参・書籍名2	中学・高校 陸上競技の学習指導「分かって・できる」指導の工夫	参・出版社名2	道和書院
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	保健体育科教育法Ⅳ			担当者	松下 健二		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	TC-SM-3-904		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	体育教師の力量を高める。体育授業で求められる教師の力量が何であるかを理解するとともに、指導案（細案）を作成し、模擬授業を行い、授業分析・評価することから教授力を高める。						
授業概要	教師行動と教授技術および授業分析・評価について理解する。模擬授業を行うとともにそれをVTRに記録し、次の授業において記録された模擬授業を分析・評価し、授業における教授能力を高める。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、高等学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	受講態度（25%）＋レポート（25%）＋試験（50%）で総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は提出後の次の授業最初にレクチャアを行なう。終講テストはテスト後自己採点を行なわせ、誤りを訂正させる。						
履修条件・注意事項	前の授業の要点の確実な理解から、次の授業を始めるので、授業後にノートをまとめ、配布された資料を基にして次の授業内容について把握しておくこと。レポートの提出状況が試験の受験条件になる。 中学校保健体育科教諭資格必修科目						
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和46年4月～48年3月兵庫県立神戸工業高等学校にて保健体育科担当教員として勤務				
事前学習・事後学習とその時間	各模擬授業の実践例についてVTRなどを参考にして予習しておくこと。復習として、実践された模擬授業を分析するとともに評価を行い次の授業につなげる。予習・復習とも2時間ほど行うこと。						
オフィスアワー	授業後、教室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	「体づくり運動」の授業づくり (1) 体ほぐし：指導案の作成と模擬授業					松下健二	
第2回	「体づくり運動」の授業づくり (2) 体ほぐし：模擬授業の授業分析と授業改善					松下健二	
第3回	「体づくり運動」の授業づくり (3) 体ほぐし：授業改善に基づく指導案の作成と模擬授業					松下健二	
第4回	「器械運動」の授業づくり (1) マット運動：指導案の作成と模擬授業					松下健二	
第5回	「器械運動」の授業づくり (2) マット運動：模擬授業の授業分析と授業改善					松下健二	
第6回	「器械運動」の授業づくり (3) マット運動：授業改善に基づく指導案の作成と模擬授業					松下健二	
第7回	「陸上競技」の授業づくり (1) ハードル走：指導案の作成と模擬授業					松下健二	
第8回	「陸上競技」の授業づくり (2) ハードル走：の模擬授業の授業分析と授業改善					松下健二	
第9回	「陸上競技」の授業づくり (3) ハードル走：授業改善に基づく指導案の作成と模擬授業					松下健二	

第10回	「球技」の授業づくり (1) バレーボール：指導案の作成と模擬授業	松下健二
第11回	「球技」の授業づくり (2) バレーボール：の授業分析と授業改善	松下健二
第12回	「球技」の授業づくり (3) バレーボール：授業改善に基づく指導案の作成と模擬授業	松下健二
第13回	保健分野の授業づくり (1) 傷害の防止：情報機器の活用を含めた指導案模擬授業模擬授業	松下健二
第14回	保健分野の授業づくり (2) 傷害の防止：模擬授業の授業分析と授業改善	松下健二
第15回	保健分野の授業づくり (3) 傷害の防止：授業改善に基づく指導案の作成と模擬授業	松下健二
第16回	単位認定試験	松下健二
教科書		
教・書籍名1	新版 体育科教育学入門	教・出版社名1
教・著者名1	編著：高橋健夫・岡出美則・友添秀則・岩田靖	教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1	戸部秀之・齋藤久美	参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	介護等体験の研究 (スポ社)			担当者	森井 康幸		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	TC-SM-2-919		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 10. 人や国の不平等をなくそう / 11. 住み続けられるまちづくりを / 16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	介護等体験の意義・目的の理解と、体験施設の概要や活動内容を把握すること、あわせて教職意識の明確化を図ることを目標とする。						
授業概要	次年度以降実施する「介護等体験」の事前指導に当たる。特別支援学校の先生や福祉施設の方に、それぞれの学校や施設の概要やそこでの介護等体験における注意事項等を講義していただく。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	受講態度（40%）と毎回課されるレポート（60%）により評価する。レポートは内容確認後返却する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎回課されるレポートに対して、授業内で総評を述べるか、コメントをつけて返却する。						
履修条件・注意事項	介護等体験を行うことが義務づけられている小学校・中学校の教員免許取得希望者には必修科目である。教員志望者に対する講義ということで、受講態度等にはシビアである。講義予定回数は8回であり、実施日程にはくれぐれも注意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	特別支援学校や種々の福祉現場において働いておられる方々を外部講師としてお迎えしてお話ししていただく。				
事前学習・事後学習とその時間	<p>予習:テキストの該当箇所を精読。授業で該当する施設について、図書館等で調べておくこと。（2時間）</p> <p>復習・課題:外部講師の方のお話を整理してレポートにまとめること。（2時間）</p> <p>日頃から、自分の教師適正について考えておくように。</p>						
オフィスアワー	月曜4限、10号館4階、教員研究室。						
授業計画						担当者	
第1回	介護等体験の意義・目的（第1部1～3章）						
第2回	介護等体験の実際（第2部2章、3章）						
第3回	高齢者福祉施設の概要と介護等体験（外部）						
第4回	児童福祉施設の概要と介護等体と介護等体験（外部）						
第5回	知的障害者福祉施設と介護等体験の概要と介護等体験（外部）						
第6回	特別支援学校（養護学校）の概要と介護等体験（外部）						
第7回	特別支援学校（盲学校）と介護等体験（外部）						
第8回	まとめ・試験（第1部4章）						
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
第13回							
第14回							
第15回							
第16回							
教科書							
教・書籍名1	教師をめざす人の介護等体験ハンドブック 五訂版				教・出版社名1	大修館書店	
教・著者名1	現代教師養成研究会（編）				教・ISBN1	9.78447E+12	

教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	教育原論（看護・心理）			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	TC-SM-1-905		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	<p>【授業のテーマ】</p> <p>教育の思想及び制度の歴史を学ぶことにより、教育はどのような要因によって成り立ち、左右されてきたかを理解し、その知識・理解をもとに今後の教育の在り方について考察する力量を身に着ける</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生は教育の基本概念を理解し、適切に用いることができる 2. 学生は代表的な教育思想家の学習論・教育思想・社会観・子ども観を理解し、説明できる 3. 学生は近代公教育（学校）をはじめとする主要な教育制度の成立および変遷を理解し、説明できる 4. 学生は家庭、社会における教育について理解し、それをもとに学校教育の役割を理解し、説明できる 5. 学生は上記の学習を通じて教育の本質について考察し、今後の教育制度（学校など）の役割について自身の考えを表現できる 						
授業概要	<p>本講義は教育の歴史を概括的に学ぶ科目である。この講義では歴史的事象もさることながら、社会が変動する中で子ども観・教育観・学習観がいかに変容し、それに伴い家庭教育、地域社会（共同体）の教育、学校教育がいかに変容していくのかを理解してもらいたい。その結果、多様な教育実践・制度の相互作用などを理解し、各自の教育に関する意見を構築できるようにしていく。</p> <p>本講義は大きく6つの段階に分けて展開する。1・2回目では教育の基礎概念について理解するとともに家庭などにおける日常的（非組織的）な学びの在り方について触れる。その後、教育思想がどのような社会観・子ども観によって形成されるのかを古代・中世・近代・現代のそれぞれに区分し紹介する。特に近代公教育制度の成立については、学校教育の本質にかかわる事項であるので若干詳細に検討する。その後、特に1990年代後半以降の現代社会の在り方を考察し、現在教育という営為がどのように社会の課題と向き合い、新たな実践を生み出しているのかを考察する。</p>						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	各回の講義の振り返りを行う学習記録（15%）、レポート（15%）、定期試験（70%）で評価する。なお、評価に関わる事項の詳細については初回講義で説明する。						
ルーブリック評価	本講義は規定ルーブリックは用いない。						
課題や試験のフィードバック方法	学習記録は各回担当者のコメントを付して返却される。レポート及び筆記試験については、再試験日程発表の際に総括的にフィードバックを行う。その後、ユニバーサルパスポートなどで個別のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本講義は、教員免許状取得のための講義であり、卒業要件に当てはまるか否かは必ず学生便覧を確認してから履修すること。加えて、教職課程として履修するものは将来教員になる者とみなすので、それにふさわしい授業態度で臨むこと。また、教職課程を履修しないものの履修も可能であるが、その場合でも教職課程を取っているものと同様の態度などで臨むこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	各回講義の予習と復習を行っていただく（学習記録用紙）。予習のために、基礎的な用語や歴史について教科書や参考書を用いて学習する必要がある。講義後の復習として講義内容を振り返り、重要事項や各自の考え方の変化を振り返る課題を課す。配布資料を読みなし、理解を振り返る学習を進めること。各回講義ごとに約2時間の学習が必要である。						
オフィスアワー	水曜日4限 研究室（9301）						

授業計画		担当者	
第1回	教育の基礎概念	倉知典弘	
第2回	教育の源形態－家庭・共同体による教育	倉知典弘	
第3回	古代の教育思想（1）西洋の教育思想	倉知典弘	
第4回	第4回：古代の教育思想（2）日本の教育思想	倉知典弘	
第5回	中世の教育思想（1）宗教と教育	倉知典弘	
第6回	第6回：中世の教育思想（2）ルネサンスと教育	倉知典弘	
第7回	近代の教育思想（1）産業革命と教育	倉知典弘	
第8回	近代の教育思想（2）近代教育制度の成立	倉知典弘	
第9回	近代の教育思想（3）教育学の成立と展開	倉知典弘	
第10回	現代の教育思想（1）新教育運動の諸相	倉知典弘	
第11回	現代の教育思想（2）戦争と教育	倉知典弘	
第12回	現代の教育思想（3）東西冷戦下の教育	倉知典弘	
第13回	現代社会と教育（1）現代社会の課題と教育	倉知典弘	
第14回	現代社会と教育（2）子どもの生活世界の変容と教育	倉知典弘	
第15回	第15回：現代社会と教育（3）－まとめにかえて	倉知典弘	
第16回	筆記試験	倉知典弘	
教科書			
教・書籍名1	『教育思想史』（有斐閣アルマ）	教・出版社名1	有斐閣
教・著者名1	今井康雄編	教・ISBN1	978-4641123847
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	教育の歴史と思想	参・出版社名1	ミネルヴァ書房
参・著者名1	石村華代・軽部勝一郎編	参・ISBN1	978-4623065844
参・書籍名2	新訂 学習指導要領は国民形成の設計書: その能力観と人間像の歴史の変遷	参・出版社名2	東北大学出版会
参・著者名2	水原克敏	参・ISBN2	978-4861633171

授業科目名	教育原論 (スポ社)			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	TC-SM-1-905		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	△
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感	△	DP 8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	<p>【授業のテーマ】</p> <p>教育の思想及び制度の歴史を学ぶことにより、教育はどのような要因によって成り立ち、左右されてきたかを理解し、その知識・理解をもとに今後の教育の在り方について考察する力量を身に着ける</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の基本概念を理解し、適切に用いることができるようになる 2. 代表的な教育思想家の学習論・教育思想・社会観・子ども観を理解する 3. 近代公教育（学校）をはじめとする主要な教育制度の成立および変遷を理解する 4. 家庭、社会における教育について理解し、それをもとに学校教育の役割を理解する 5. 上記の学習を通じて教育の本質について理解し、今後の教育制度（学校など）の役割について自身の意見を持つ 						
授業概要	<p>本講義は教育の歴史を概括的に学ぶ科目である。この講義では歴史的事象もさることながら、社会が変動する中で子ども観・教育観・学習観がいかに変容し、それに伴い家庭教育、地域社会（共同体）の教育、学校教育がいかに変容していくのかを理解してもらいたい。その結果、多様な教育実践・制度の相互作用などを理解し、各自の教育に関する意見を構築できるようにしていく。</p> <p>本講義は大きく6つの段階に分けて展開する。1・2回目では教育の基礎概念について理解するとともに家庭などにおける日常的（非組織的）な学びの在り方について触れる。その後、教育思想がどのような社会観・子ども観によって形成されるのかを古代・中世・近代・現代のそれぞれに区分し紹介する。特に近代公教育制度の成立については、学校教育の本質にかかわる事項であるので若干詳細に検討する。その後、特に1990年代後半以降の現代社会の在り方を考察し、現在教育という営為がどのように社会の課題と向き合い、新たな実践を生み出しているのかを考察する。</p>						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	各回の講義の振り返りを行う学習記録（15%）、レポート（15%）、定期試験（70%）で評価する。なお、評価に関わる事項の詳細については初回講義で説明する。						
ルーブリック評価	本講義は規定ルーブリックは用いない。						
課題や試験のフィードバック方法	学習記録は各回担当者のコメントを付して返却される。レポート及び筆記試験については、再試験日程発表の際に総括的にフィードバックを行う。その後、ユニバーサルパスポートなどで個別のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本講義は、教員免許状取得のための講義であり、卒業要件に当てはまるか否かは必ず学生便覧を確認してから履修すること。加えて、教職課程として履修するものは将来教員になる者とみなすので、それにふさわしい授業態度で臨むこと。また、教職課程を履修しないものの履修も可能であるが、その場合でも教職課程を取っているものと同様の態度などで臨むこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	各回講義の予習と復習を行っていただく（学習記録用紙）。予習のために、基礎的な用語や歴史について教科書や参考書を用いて学習する必要がある。講義後の復習として講義内容を振り返り、重要事項や各自の考え方の変化を振り返る課題を課す。配布資料を読みなし、理解を振り返る学習を進めること。各回講義ごとに約2時間の学習が必要である。						
オフィスアワー	水曜日4限 研究室 (9301)						

授業計画		担当者	
第1回	教育の基礎概念	倉知典弘	
第2回	教育の源形態－家庭・共同体による教育	倉知典弘	
第3回	古代の教育思想（1）西洋の教育思想	倉知典弘	
第4回	第4回：古代の教育思想（2）日本の教育思想	倉知典弘	
第5回	中世の教育思想（1）宗教と教育	倉知典弘	
第6回	第6回：中世の教育思想（2）ルネサンスと教育	倉知典弘	
第7回	近代の教育思想（1）産業革命と教育	倉知典弘	
第8回	近代の教育思想（2）近代教育制度の成立	倉知典弘	
第9回	近代の教育思想（3）教育学の成立と展開	倉知典弘	
第10回	現代の教育思想（1）新教育運動の諸相	倉知典弘	
第11回	現代の教育思想（2）戦争と教育	倉知典弘	
第12回	現代の教育思想（3）東西冷戦下の教育	倉知典弘	
第13回	現代社会と教育（1）現代社会の課題と教育	倉知典弘	
第14回	現代社会と教育（2）子どもの生活世界の変容と教育	倉知典弘	
第15回	第15回：現代社会と教育（3）－まとめにかえて	倉知典弘	
第16回	筆記試験	倉知典弘	
教科書			
教・書籍名1	『教育思想史』（有斐閣アルマ）	教・出版社名1	有斐閣
教・著者名1	今井康雄編	教・ISBN1	978-4641123847
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	教育の歴史と思想	参・出版社名1	ミネルヴァ書房
参・著者名1	石村華代・軽部勝一郎編	参・ISBN1	978-4623065844
参・書籍名2	新訂 学習指導要領は国民形成の設計書: その能力観と人間像の歴史的変遷	参・出版社名2	東北大学出版会
参・著者名2	水原克敏	参・ISBN2	978-4861633171

授業科目名	教職論 (スポ社)			担当者	池上 真由美		
配当学科・研究科	2019年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年/ 2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	TC-SM-1-906		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 8. 働きがいも経済成長も / 16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	教職についての基礎的な知識（教職の歴史と社会的使命、教員の職務、教員養成と研修、服務規程、「チームとしての学校」の一員としての役割等）について理解するとともに、教員としての自らの適性について考えることを目標とする。						
授業概要	教師、教職、人を教育するという行為など、教育という営みをめぐる哲学的、原理的な課題からはじまり、学校教育、教員の使命と役割、学校における教員のさまざまな活動について理解する。また、これからの学校においては、「チームとしての学校」の体制の中で、一人の教員として自らの専門性を発揮し組織の一員として課題解決に当たる資質・能力が求められることを理解する。さらに、グループ討議等を通して、教員をめざすにあたり、自分には求められる資質・能力があるか、自分は教職に向いているかを真剣に考える場をもつようにする。						
アクティブラーニングの内容	反転授業 / ディスカッション / グループワーク						
評価方法と割合	<p>[試験] 60% (授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する。)</p> <p>[提出物] 20% (レポート課題, コメント用紙等により評価する。)</p> <p>[授業への参画状況] 20% (発表及び発言内容, 教職への意欲や態度等を総合的に評価する。)</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は、ルーブリックを添付して授業でフィードバックする。コメント用紙の内容は、次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめて、フィードバックする。						
履修条件・注意事項	基本的に毎時行う予習課題の発表、グループ・ディスカッションなどに積極的に参加することが望まれる。なお、授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、小中学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習課題をもとに、目的意識をもって授業を受けること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。						
オフィスアワー	月曜日 2限						
授業計画						担当者	
第1回	教師の歴史と教師論					池上	
第2回	求められる教員の資質の変遷					池上	
第3回	教育的諸問題と教職の課題					池上	
第4回	教員の仕事と役割① (種類と職階, 関係づくり)					池上	
第5回	教員の仕事と役割② (教科指導)					池上	

第6回	教員の仕事と役割③（教科外指導）	池上	
第7回	教員の仕事と役割④（進路指導）	池上	
第8回	教員の仕事と役割⑤（学級経営・学校経営・校務分掌）	池上	
第9回	教員の仕事と役割⑥（教育相談）	池上	
第10回	教員の仕事と役割⑦（学級崩壊）	池上	
第11回	教員の研修	池上	
第12回	服務規程	池上	
第13回	小中学校の教員	池上	
第14回	高等学校・特別支援学校の教員	池上	
第15回	教員養成と教職課程	池上	
第16回	筆記試験	池上	
教科書			
教・書籍名1	教職論 教師を志すすべての人へ 第2版	教・出版社名1	
教・著者名1	教職問題研究会	教・ISBN1	978-4-623-05305-6
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	教育行政学（スポ社）			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	TC-SM-3-907		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	<p>授業のテーマ</p> <p>現在日本の教育制度の仕組み、意義、基本原理を理解するとともに教育制度の一部である学校の経営やその制度的背景について理解する。そのうえで、社会や子どもを取り巻く課題に教育制度・学校経営がどの程度対応できているのかを考え、将来の教育制度・学校経営のあるべき姿を考察する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生は教育行政・公教育の原理、理念、作用及び仕組みを理解し、説明できる 2. 学生は学校、教育機関の目的を理解し、その目標をどのように達成しようとしているか理解し、説明できる 3. 学生は学校経営の組織体制及びマネジメント手法について理解し、説明できる 4. 学生は子どもたちをめぐる問題に対する制度的・経営的対応を理解し、対応の仕方を考察できる 5. 学生は現在の教育改革及び行財政改革の基本的な方向を理解し、説明できる 6. 学生は子どもや社会の現状、行財政改革の現状などの正確な理解をもとに今後の教育行政・学校経営のあるべき姿について自身の意見を提示できる 						
授業概要	<p>本講義は、教育制度の理解を深める段階と教育制度の理解をもとに学校経営を理解することを目的としている。まず最初に公教育が存在する理由を「公共性」概念及び「公共財」概念を紐解くことにより明らかにする（第1回）。そのうえで現状の法制・機構・仕組みについて検討する。その後、教育行政の理念を諸外国の事例や裁判での論争事例をもとに批判的に検討していく（第2回～第7回）。</p> <p>以上のような教育行政全体の動向・課題を明らかにしたのち、その制度によって支えられている学校経営について「組織マネジメント」及び「問題行動」「子どもの現状」への対応という観点から解説及び討議を行う。特に近年注目されている「学校安全・危機管理」「チームとしての学校」「地域社会との連携」については詳細に検討を行い、学校経営の在り方を考える示唆を提示したい（第8回～第14回）。そして、最後に今後の教育行政と学校経営の在り方について総括的な議論を行い、教員になる学生の教職意識の向上に役立てる（第15回）。</p> <p>本講義では日本の事例を主に扱うが諸外国に先進的な事例や参考になる事例がある場合には適宜それを紹介するので、日本の現状を批判的に見つめるための視野を身に付けてもらいたい。</p>						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	学習記録の提出（15%）及びレポート課題（15%）及び定期試験（70%）で評価する。評価に関わる詳細は初回講義の際に示す。						
ルーブリック評価	本講義は規定ルーブリックは用いない。						
課題や試験のフィードバック方法	習記録は各回担当者のコメントを付して返却される。レポート及び筆記試験については、再試験日程発表の際に総括的にフィードバックを行う。その後、ユニバーサルパスポートなどで個別のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本講義は、教員免許状取得のための講義であり、卒業要件に当てはまるか否かは必ず学生便覧を確認してから履修すること。加えて、教職課程として履修するものは将来教員になる者とみなすので、それにふさわしい授業態度で臨むこと。また、教職課程を履修しないものの履修も可能であるが、その場合でも教職課程を取っているものと同等の態度などで臨むこと						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	<p>予習として1) 講義に取り上げる予定の法令調べ 2) 講義にかかわる事項の調べ 3) テーマに関わる論述課題を課す（2時間程度）。論述課題の内容は講義でも取り上げる。</p> <p>復習として1) 講義のキーワードのまとめ 2) 論述課題 3) 講義の振り返りを課す（2時間程度）</p>						

オフィスアワー	水曜日4限 研究室 (9301) にて		
授業計画			担当者
第1回	公教育の基本原理と教育行政：教育の公共性について		倉知典弘
第2回	教育の法制の概要：教育の法律主義について		倉知典弘
第3回	教育行政の機構：教育行政のガバナンス		倉知典弘
第4回	教育の中立性確保：宗教的中立と政治的中立		倉知典弘
第5回	教育の義務制と機会均等：教育福祉の観点から		倉知典弘
第6回	教育機関の設置・管理：学校と社会教育・生涯学習		倉知典弘
第7回	教育職員に関わる法制：養成・採用・服務を中心に		倉知典弘
第8回	学校の組織体制：チームとしての学校を中心に		倉知典弘
第9回	学校経営計画と評価：PDCAサイクル		倉知典弘
第10回	学校における教育活動：教育課程		倉知典弘
第11回	学校における生徒指導：「問題行動」とその制度的対応		倉知典弘
第12回	学校経営の諸課題(1)地域社会との連携		倉知典弘
第13回	学校経営の諸課題(2)学校安全・学校保健		倉知典弘
第14回	学校経営の諸課題(3)子どもの現状とその制度的対応		倉知典弘
第15回	現代教育改革と教育行政・学校経営		倉知典弘
第16回	筆記試験		倉知典弘
教科書			
教・書籍名1	教育行政学 第3版 子ども・若者の未来を拓く	教・出版社名1	八千代出版
教・著者名1	横井敏郎編	教・ISBN1	9784842917849
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	教育小六法	参・出版社名1	学陽書房
参・著者名1	市川須美子、小野田正利、勝野 正章、窪田 眞二、中嶋 哲彦、成嶋隆	参・ISBN1	978-4313011953
参・書籍名2	中学校学習指導要領（最新版） 高等学校学習指導要領（最新版）	参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	教育行政学（看護・心理）			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	TC-SM-3-907		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力	△	DP 7. 自己効力感	△	DP 8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	<p>授業のテーマ 現在日本の教育制度の仕組み、意義、基本原理を理解するとともに教育制度の一部である学校の経営やその制度的背景について理解する。そのうえで、社会や子どもを取り巻く課題に教育制度・学校経営がどの程度対応できているのかを考え、将来の教育制度・学校経営のあるべき姿を考察する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生は教育行政・公教育の原理、理念、作用及び仕組みを理解し、説明できる 2. 学生は学校、教育機関の目的を理解し、その目標をどのように達成しようとしているか理解し、説明できる 3. 学生は学校経営の組織体制及びマネジメント手法について理解し、説明できる 4. 学生は子どもたちをめぐる問題に対する制度的・経営的対応を理解し、対応の仕方を考察できる 5. 学生は現在の教育改革及び行財政改革の基本的な方向を理解し、説明できる 6. 学生は子どもや社会の現状、行財政改革の現状などの正確な理解をもとに今後の教育行政・学校経営のあるべき姿について自身の意見を提示できる 						
授業概要	<p>本講義は、教育制度の理解を深める段階と教育制度の理解をもとに学校経営を理解することを目的としている。まず最初に公教育が存在する理由を「公共性」概念及び「公共財」概念を紐解くことにより明らかにする（第1回）。そのうえで現状の法制・機構・仕組みについて検討する。その後、教育行政の理念を諸外国の事例や裁判での論争事例をもとに批判的に検討していく（第2回～第7回）。</p> <p>以上のような教育行政全体の動向・課題を明らかにしたのち、その制度によって支えられている学校経営について「組織マネジメント」及び「問題行動」「子どもの現状」への対応という観点から解説及び討議を行う。特に近年注目されている「学校安全・危機管理」「チームとしての学校」「地域社会との連携」については詳細に検討を行い、学校経営の在り方を考える示唆を提示したい（第8回～第14回）。そして、最後に今後の教育行政と学校経営の在り方について総括的な議論を行い、教員になる学生の教職意識の向上に役立てる（第15回）。</p> <p>本講義では日本の事例を主に扱うが諸外国に先進的な事例や参考になる事例がある場合には適宜それを紹介するので、日本の現状を批判的に見つめるための視野を身に付けてもらいたい。</p>						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	学習記録の提出（15%）及びレポート課題（15%）及び定期試験（70%）で評価する。評価に関わる詳細は初回講義の際に示す。						
ルーブリック評価	本講義は規定ルーブリックは用いない。						
課題や試験のフィードバック方法	習記録は各回担当者のコメントを付して返却される。レポート及び筆記試験については、再試験日程発表の際に総括的にフィードバックを行う。その後、ユニバーサルパスポートなどで個別のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本講義は、教員免許状取得のための講義であり、卒業要件に当てはまるか否かは必ず学生便覧を確認してから履修すること。加えて、教職課程として履修するものは将来教員になる者とみなすので、それにふさわしい授業態度で臨むこと。また、教職課程を履修しないものの履修も可能であるが、その場合でも教職課程を取っているものと同等の態度などで臨むこと						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	<p>予習として1) 講義に取り上げる予定の法令調べ 2) 講義にかかわる事項の調べ 3) テーマに関わる論述課題を課す（2時間程度）。論述課題の内容は講義でも取り上げる。</p> <p>復習として1) 講義のキーワードのまとめ 2) 論述課題 3) 講義の振り返りを課す（2時間程度）</p>						

オフィスアワー	水曜日4限 研究室 (9301) にて		
授業計画			担当者
第1回	公教育の基本原理と教育行政：教育の公共性について		倉知典弘
第2回	教育の法制の概要：教育の法律主義について		倉知典弘
第3回	教育行政の機構：教育行政のガバナンス		倉知典弘
第4回	教育の中立性確保：宗教的中立と政治的中立		倉知典弘
第5回	教育の義務制と機会均等：教育福祉の観点から		倉知典弘
第6回	教育機関の設置・管理：学校と社会教育・生涯学習		倉知典弘
第7回	教育職員に関わる法制：養成・採用・服務を中心に		倉知典弘
第8回	学校の組織体制：チームとしての学校を中心に		倉知典弘
第9回	学校経営計画と評価：PDCAサイクル		倉知典弘
第10回	学校における教育活動：教育課程		倉知典弘
第11回	学校における生徒指導：「問題行動」とその制度的対応		倉知典弘
第12回	学校経営の諸課題(1)地域社会との連携		倉知典弘
第13回	学校経営の諸課題(2)学校安全・学校保健		倉知典弘
第14回	学校経営の諸課題(3)子どもの現状とその制度的対応		倉知典弘
第15回	現代教育改革と教育行政・学校経営		倉知典弘
第16回	筆記試験		倉知典弘
教科書			
教・書籍名1	教育行政学 第3版 子ども・若者の未来を拓く	教・出版社名1	八千代出版
教・著者名1	横井敏郎編	教・ISBN1	9784842917849
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	教育小六法	参・出版社名1	学陽書房
参・著者名1	市川須美子、小野田正利、勝野 正章、窪田 眞二、中嶋 哲彦、成嶋隆	参・ISBN1	978-4313011953
参・書籍名2	中学校学習指導要領（最新版） 高等学校学習指導要領（最新版）	参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	教育心理学（看護・心理）			担当者	藤原 直子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	TC-SM-2-908		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	△	DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに / 10. 人や国の不平等をなくそう</p> 						
到達目標	<p>1. 教育心理学の重要性を理解し、教育領域に有用な心理学的知識とその活用を学ぶ 2. 児童生徒の心の発達プロセス理解と、それに適合した、あるいは促進させる教育心理学的アプローチのあり方を身につける 3. 児童生徒の示す心理的問題や、教育上特別な支援が必要な児童生徒の心理学的理解と、具体的な支援に寄与しうる教育心理学的知識を身につける</p>						
授業概要	<p>この講義では、教育領域における心理学的理論と知識、および教育領域に適用可能な心理学的手法を学ぶ。まず教育心理学の理論と方法を概観し、児童生徒個人の心理的発達の諸側面を学んでいく。そして、学習理論や動機づけの理論に基づいて児童生徒にアプローチする心理学的知識と手法についても解説し、さまざまな学校現場における諸問題や児童生徒の困難さに対する支援方法を学ぶ。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション						
評価方法と割合	<p>評価は、講義内で行う小テスト・レポート・振り返りシート、学期末に実施する単位認定試験の得点を総合して行う。評価の内訳は、講義内の小テスト20%、レポート・演習課題20%、単位認定試験60%で、総合100点満点中60点以上を単位認定の対象とする。</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義内の小テストや演習課題について、講義内で回答・フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	<p>講義をしっかり聴き積極的な学びに努めること。 毎回プリント等を配布するので、ファイルを用意しておくこと。</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	<p>この科目は、幼稚園・小学校での教員経験、小中高等学校でのスクールカウンセラーの実務経験がある教員が担当する。教育現場における現状や課題、教員として必要とされる心理学の知識や支援方法について教授し、実践に役立つ授業を実施する。</p>				
事前学習・事後学習とその時間	<p>1. 初回授業にて配布する「講義計画」に基づいて、テキストの該当ページを事前に読み予習する。 2. 授業内で定期的実施する小テストの内容をもとに、復習を行う。 3. 授業終了時に配布する「まとめプリント」の空欄を記入し、復習を行う。 以上のような予習・復習に、毎回1～2時間を要する。</p>						
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週月曜日4限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション、教育心理学とは					藤原直子	
第2回	心身の発達①：発達の基礎的な理論と乳幼児期の発達					藤原直子	
第3回	心身の発達②：児童期					藤原直子	
第4回	心身の発達③：青年期以降					藤原直子	
第5回	学習と知識獲得					藤原直子	
第6回	認知的情報処理と記憶					藤原直子	
第7回	動機づけと学習					藤原直子	
第8回	認知発達と学習支援					藤原直子	
第9回	学級集団と学習支援					藤原直子	
第10回	個性や個人差と学習支援					藤原直子	
第11回	教育評価					藤原直子	
第12回	障害の基本的理解と学校教育における配慮					藤原直子	

第13回	困難さを抱える子どもへの教育的支援	藤原直子	
第14回	子どもの情緒・適応の理解と心理的支援	藤原直子	
第15回	学校教育を取り巻く諸問題と教育心理学	藤原直子	
第16回	試験	藤原直子	
教科書			
教・書籍名1	よくわかる教職エクササイズ② 教育心理学	教・出版社名1	ミネルヴァ書房
教・著者名1	森田健宏・田爪宏二	教・ISBN1	978-4-623-08177-6
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	教育心理学（スポ社）			担当者	藤原 直子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	TC-SM-2-908		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	△	DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 10. 人や国の不平等をなくそう 						
到達目標	1. 教育心理学の重要性を理解し、教育領域に有用な心理学的知識とその活用を学ぶ 2. 児童生徒の心の発達プロセス理解と、それに適合した、あるいは促進させる教育心理学的アプローチのあり方を身につける 3. 児童生徒の示す心理的問題や、教育上特別な支援が必要な児童生徒の心理学的理解と、具体的な支援に寄与しうる教育心理学的知識を身につける						
授業概要	この講義では、教育領域における心理学的理論と知識、および教育領域に適用可能な心理学的手法を学ぶ。まず教育心理学の理論と方法を概観し、児童生徒個人の心理的発達の諸側面を学んでいく。そして、学習理論や動機づけの理論に基づいて児童生徒にアプローチする心理学的知識と手法についても解説し、さまざまな学校現場における諸問題や児童生徒の困難さに対する支援方法を学ぶ。						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション						
評価方法と割合	評価は、講義内で行う小テスト・レポート・振り返りシート、学期末に実施する単位認定試験の得点を総合して行う。評価の内訳は、講義内の小テスト20%、レポート・演習課題20%、単位認定試験60%で、総合100点満点中60点以上を単位認定の対象とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義内の小テストや演習課題について、講義内で回答・フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義をしっかり聴き積極的な学びに努めること。 毎回プリント等を配布するので、ファイルを用意しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、幼稚園・小学校での教員経験、小中高等学校でのスクールカウンセラーの実務経験がある教員が担当する。教育現場における現状や課題、教員として必要とされる心理学の知識や支援方法について教授し、実践に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	1. 初回授業にて配布する「講義計画」に基づいて、テキストの該当ページを事前に読み予習する。 2. 授業内で定期的実施する小テストの内容をもとに、復習を行う。 3. 授業終了時に配布する「まとめプリント」の空欄を記入し、復習を行う。 以上のような予習・復習に、毎回1～2時間を要する。						
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週月曜日5限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション、教育心理学とは					藤原直子	
第2回	心身の発達①：発達の基礎的な理論と乳幼児期の発達					藤原直子	
第3回	心身の発達②：児童期					藤原直子	
第4回	心身の発達③：青年期以降					藤原直子	
第5回	学習と知識獲得					藤原直子	
第6回	認知的情報処理と記憶					藤原直子	
第7回	動機づけと学習					藤原直子	
第8回	認知発達と学習支援					藤原直子	
第9回	学級集団と学習支援					藤原直子	
第10回	個性や個人差と学習支援					藤原直子	
第11回	教育評価					藤原直子	
第12回	障害の基本的理解と学校教育における配慮					藤原直子	

第13回	困難さを抱える子どもへの教育的支援	藤原直子	
第14回	子どもの情緒・適応の理解と心理的支援	藤原直子	
第15回	学校教育を取り巻く諸問題と教育心理学	藤原直子	
第16回	試験	藤原直子	
教科書			
教・書籍名1	よくわかる教職エクササイズ② 教育心理学	教・出版社名1	ミネルヴァ書房
教・著者名1	森田健宏・田爪宏二	教・ISBN1	978-4-623-08177-6
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	特別支援教育（スポ社）後半8回			担当者	藤原 直子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	TC-SM-2-909		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 10. 人や国の不平等をなくそう 						
到達目標	<p>発達障害をはじめとする特別な支援を必要とする幼児・児童および生徒の障害特性を理解し、適切な指導方法・支援方法に関する知識を身につけることを目標とする。</p> <p>さらに、特別支援教育の理念とシステムを学び、保護者や他の教員、関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を習得する。</p>						
授業概要	特別支援教育の対象であるそれぞれの障害の特性と心理的特徴について理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくための具体的な方法を学ぶ。						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/グループワーク						
評価方法と割合	講義内で行う小テスト・レポート・振り返りシート、学期末に実施する単位認定試験の得点を総合して行う。評価の内訳は、講義内の小テスト20%、レポート・演習課題20%、単位認定試験60%で、総合100点満点中60点以上を単位認定の対象とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義内の小テストや演習課題について、講義内で回答・フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義をしっかりと聴き積極的な学びに努めること。 プリント等を配布するので、ファイルを用意しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、教育現場における障害児者に対する心理的支援の実務経験（幼稚園・小学校での教員、小中高등학교でのスクールカウンセラー、特別支援教育に関する巡回相談）がある教員が担当し、教育現場における現状や課題、教員として必要とされる特別支援に関する知識や支援方法について教授する。				
事前学習・事後学習とその時間	<p>①初回授業にて配布する「講義計画」に基づいて、テキストの該当ページを事前に読み予習する。</p> <p>②授業内で実施する小テストの内容をもとに、復習を行う。</p> <p>③授業内で配布するプリントの空欄を記入し、復習を行う。</p> <p>以上のような予習・復習に、毎回1～2時間を要する。</p>						
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週月曜日4限目をオフィスアワーとする。						
授業計画						担当者	
第1回	特別支援教育の制度と理念、学校における支援体制及び連携					藤原直子	
第2回	特別支援教育の実際、指導計画の作成					藤原直子	
第3回	発達障害児の心身の発達・心理的特性					藤原直子	
第4回	自閉スペクトラム症（ASD）の児童生徒への理解と支援					藤原直子	
第5回	注意欠如多動症（ADHD）の児童生徒への理解と支援					藤原直子	
第6回	限局性学習症（LD）の児童生徒への理解と支援					藤原直子	
第7回	様々な障害のある児童生徒の特性と支援、まとめ					藤原直子	
第8回	試験					藤原直子	
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
第13回							

第14回			
第15回			
第16回			
教科書			
教・書籍名1	教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト	教・出版社名1	学研教育みらい
教・著者名1	小林倫代（編・著）	教・ISBN1	978-4-05-801762-3
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	教育課程論（スポ社）前半8回			担当者	池上 真由美		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	TC-SM-2-910		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	15	授業形態	講義・AL
年次	2年		開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 8. 働きがいも経済成長も / 16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	教育課程の編成と実施などについての基礎的・基本的な知識を修得し、学校や地域の特性と教師の創意・工夫を生かした魅力ある教育課程を編成するための方略について理解する、また、編成した教育課程を実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルについて理解することを目標とする。						
授業概要	教育課程とは何か、教育課程の変遷、教育課程の法体系と学習指導要領、新学習指導要領・新教育要領の改訂のポイントなどについて理解する。また、編成した教育課程を実施・評価し改善するカリキュラム・マネジメントのプロセスを、実践例を通して学び、演習やグループワーク等を行うことで、カリキュラム・マネジメント力を養う。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	<p>[試験] 60%（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する。）</p> <p>[提出物] 20%（レポート課題、コメント用紙等により評価する。）</p> <p>[授業への参画状況] 20%（発表及び発言内容、教職への意欲や態度等を総合的に評価する。）</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題、コメント用紙の内容は、次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめて、フィードバックする。						
履修条件・注意事項	基本的に毎時行う予習課題の発表、グループ・ディスカッションなどに積極的に参加することが望まれる。なお、授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、小中学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習課題をもとに、目的意識をもって授業を受けること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。						
オフィスアワー	月曜日 2時限目						
授業計画						担当者	
第1回	教育課程とは何か					池上	
第2回	教育の目的と教育課程の編成					池上	

第3回	現代日本の教育課程の変遷	池上
第4回	新学習指導要領等の改訂のポイント「社会に開かれた教育課程」「学びの地図」「主体的・対話的で深い学び」	池上
第5回	近年の教育改革の動向および今後の課題	池上
第6回	幼稚園・小学校・中学校教育・高等学校教育における教育課程	池上
第7回	教育課程の法と行政、実践・カリキュラム・マネジメント	池上
第8回	筆記試験	池上
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
第16回		

教科書

教・書籍名1	はじめて学ぶ教育課程	教・出版社名1	ミネルヴァ書房
教・著者名1	広岡義之	教・ISBN1	978-4-623-07559-1
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	道徳教育の理論と方法 (スポ社)			担当者	川上 はる江		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	TC-SM-3-911		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・討論・模擬授業
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう / 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	<p>【テーマ】道徳教育について、基礎理論を理解し、併せて実践的指導力(道徳科の授業力)を身に付けることができる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 基礎的知識として、道徳教育の歴史、道徳性の発達理論、道徳教育の役割と意義を理解する。 2) 道徳の読み物資料の分析の仕方、指導案の書き方を学修し、指導案を作成することができる。 3) 作成した指導案を基に模擬授業を実施する。 4) 道徳科の評価について考え方を理解することができる。 						
授業概要	道徳教育の基礎知識である、道徳教育の歴史、道徳性の発達理論、道徳の授業理論について、各自で課題を決めて学修し、パワーポイント資料にまとめ発表する。また、実践力育成という視点から、グループで、道徳の読み物資料を基に道徳的価値の分析を行い、道徳的価値について学びを深める。その後、学習指導案を作成し、模擬授業の実施、相互評価、改善点の話合いという一連の過程を通して、質の高い授業力を身に付ける。						
アクティブラーニングの内容	反転授業/グループワーク/プレゼンテーション/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	最終試験(50%) 授業全般にわたっての理解度を記述式及び空所補充の試験によって確認する。 提出物 (20%) レポート課題、学習指導案、プリントの記載内容によって評価する。 授業への参加状況(30%) パワーポイントの発表、模擬授業、発言及び発言内容により総合的に判断する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎時間の課題(小プリント、レポート)については点数、コメントを付けて返す。模擬授業については、評価の視点を示し、授業後コメントを付けて返却する。						
履修条件・注意事項	事前に出されたプリントをする。テキストを必ず持参する。						
実務経験のある教員	該当する	内容	小学校教諭、教育センター研究員、小学校校長として38年間の実務経験を有する教員が、その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	予習 2時間	事前に出された予習プリントをしておくこと。					
	復習 2時間	学習した内容の要点をまとめておくこと。					
オフィスアワー	月5限 木3限 昼休み (10号館 個人研究室 10309)						
授業計画							担当者
第1回	15回の授業予定、道徳教育を学ぶ視点、道徳教育で培う道徳性。						川上
第2回	道徳教育の目標、学校における道徳教育の実際、全体計画、年間計画						川上
第3回	道徳資料の読み方 授業構成の仕方 資料1(視点A)						川上
第4回	学修指導案の書き方 資料を基に作成						川上
第5回	道徳教育の歴史 戦前、戦後の道徳教育の比較						川上
第6回	道徳性の発達理論 フロイト、ピアジェ						川上
第7回	道徳性の発達理論 コールバーグ、ブル						川上
第8回	総合単元的な道徳学習、統合的な道徳学習						川上
第9回	教材研究 学習指導案作成 資料2(視点B)						川上
第10回	模擬授業1(演習) 相互評価 授業後の検討・①②グループ						川上
第11回	模擬授業2(演習) 相互評価 授業後の検討 ③④グループ						川上
第12回	教材研究 学習指導案作成 資料3(視点D)						川上
第13回	模擬授業3 相互評価 授業後の検討 ⑤⑥グループ						川上

第14回	道徳科の評価 評価の基本的な考え方 具体例	川上
第15回	道徳教育の理論と方法 学習のまとめ	川上
第16回	定期試験(筆記試験)	川上
教科書		
教・書籍名1	道徳教育を学ぶ人のために(四訂版)	教・出版社名1 世界思想社
教・著者名1	小寺正一 藤永芳純 他	教・ISBN1 978-4-7907-0
教・書籍名2	中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編	教・出版社名2 教育出版
教・著者名2	文部科学省	教・ISBN2 978-4-316-30084-9
参考書		
参・書籍名1	楽しく豊かな「道徳の時間」をつくる	参・出版社名1 ミネルヴァ書房
参・著者名1	横山利弘 牧崎幸夫 他	参・ISBN1 978-4-623-08085-4
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	道徳教育の理論と方法（看護・心理）			担当者	川上 はる江		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	TC-SM-3-911		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・討論・模擬授業
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう / 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	<p>【テーマ】道徳教育について、基礎理論を理解し、併せて実践的指導力(道徳科の授業力)を身に付けることができる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 基礎的知識として、道徳教育の歴史、道徳性の発達理論、道徳教育の役割と意義を理解する。 2) 道徳の読み物資料の分析の仕方、指導案の書き方を学修し、指導案を作成することができる。 3) 作成した指導案を基に模擬授業を実施する。 4) 道徳科の評価について考え方を理解することができる。 						
授業概要	道徳教育の基礎知識である、道徳教育の歴史、道徳性の発達理論、道徳の授業理論について、各自で課題を決めて学修し、パワーポイント資料にまとめ発表する。また、実践力育成という視点から、グループで、道徳の読み物資料を基に道徳的価値の分析を行い、道徳的価値について学びを深める。その後、学習指導案を作成し、模擬授業の実施、相互評価、改善点の話合いという一連の過程を通して、質の高い授業力を身に付ける。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	最終試験（50％） 授業全般にわたっての理解度を記述式及び空所補充の試験によって確認する。 提出物（20％） レポート課題、学習指導案、プリントの記載内容によって評価する。 授業への参加状況（30％） パワーポイントの発表、模擬授業、発言及び発言内容により総合的に判断する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎時間の課題（小プリント、レポート）については点数、コメントを付けて返す。模擬授業については、評価の視点を示し、授業後コメントを付けて返却する。						
履修条件・注意事項	事前に出されたプリントをする。テキストを必ず持参する。						
実務経験のある教員	該当する	内容	小学校教諭、教育センター研究員、小学校校長として38年間の実務経験を有する教員が、その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	予習 2時間	事前に出された予習プリントをしておくこと。					
	復習 2時間	学習した内容の要点をまとめておくこと。					
オフィスアワー	月5限 木3限 昼休み（10号館 個人研究室 10309）						
授業計画							担当者
第1回	15回の授業予定、道徳教育を学ぶ視点、道徳教育で培う道徳性。						川上
第2回	道徳教育の目標、学校における道徳教育の実際、全体計画、年間計画						川上
第3回	道徳資料の読み方 授業構成の仕方 資料1（視点A）						川上
第4回	学修指導案の書き方 資料を基に作成						川上
第5回	道徳教育の歴史 戦前、戦後の道徳教育の比較						川上
第6回	道徳性の発達理論 フロイト、ピアジェ						川上
第7回	道徳性の発達理論 コールバーグ、ブル						川上
第8回	総合単元的な道徳学習、統合的な道徳学習						川上
第9回	教材研究 学習指導案作成 資料2（視点B）						川上
第10回	模擬授業1（演習）相互評価 授業後の検討・①②グループ						川上
第11回	模擬授業2（演習）相互評価 授業後の検討 ③④グループ						川上
第12回	教材研究 学習指導案作成 資料3（視点D）						川上
第13回	模擬授業3 相互評価 授業後の検討 ⑤⑥グループ						川上

第14回	道徳科の評価 評価の基本的な考え方 具体例	川上
第15回	道徳教育の理論と方法 学習のまとめ	川上
第16回	定期試験(筆記試験)	川上
教科書		
教・書籍名1	道徳教育を学ぶ人のために(四訂版)	教・出版社名1 世界思想社
教・著者名1	小寺正一 藤永芳純 他	教・ISBN1 978-4-7907-0
教・書籍名2	中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編	教・出版社名2 教育出版
教・著者名2	文部科学省	教・ISBN2 978-4-316-30084-9
参考書		
参・書籍名1	楽しく豊かな「道徳の時間」をつくる	参・出版社名1 ミネルヴァ書房
参・著者名1	横山利弘 牧崎幸夫 他	参・ISBN1 978-4-623-08085-4
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法			担当者	川上 はる江		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	TC-SM-2-912		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義 演習 AL
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 6. 安全な水とトイレを世界中に / 11. 住み続けられるまちづくりを 						
到達目標	【テーマ】 特別活動、総合的な学習の時間について基礎的知識を理解し、実践的指導力を身に付ける。 【到達目標】 1. 特別活動・総合的な学習の時間の意義、目標、教育課程上の位置づけ、内容を理解する。 2. 特別活動の内容の種類と関連性を理解し、学級活動の年間計画、学習指導案を作成することができる。 3. 総合的な学習の時間の課題を決めて単元計画を作成し、その強みと探求の過程について説明することができる。 4. 特別活動・総合的な学習の時間の評価の考え方を理解することができる。						
授業概要	特別活動・総合的な学習の時間の特徴を考慮しながら、下記の内容を実践的に学修する。 ①特別活動の目標、教育課程上の位置づけ、学級活動、クラブ活動、生徒会活動等の内容については、事前にプリントで予習しておく。そして、講義の中でグループワークを通して主体的に学びを深める。 ②学級活動指導案作成の仕方については、実際に作成することを通して学修する。 ③総合的な学習の時間の目標、教育課程上の位置づけ、特徴については、予習プリントで事前に学修しておき、講義の中でグループワークを通して主体的に学びを深める。 ⑤全体計画、年間計画、単元計画、思考ツール等は作成、活用することを通して、学修する。						
アクティブラーニングの内容	PBL/反転授業/グループワーク						
評価方法と割合	最終試験（50％） 授業全般にわたっての理解度を記述式及び空所補充の試験によって確認する。 提出物（20％） レポート課題、学習指導案、プリントの記載内容によって評価する。 授業への参加状況（30％） パワーポイントの発表、模擬授業、発言及び発言内容により総合的に判断する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポート、小テストは採点して助言を添えて返却する。単元計画、年間計画、学習指導案はコメントを付けて説明する。						
履修条件・注意事項	事前に配布された予習プリントをする。						
実務経験のある教員	該当する	内容	小学校教諭、教育センター研究員、小学校校長として38年間の実務経験を有する教員が、その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	予習 2時間	事前に出された予習プリントをする。					
	復習 2時間	学習したことの要点をまとめる。					
オフィスアワー	月5限 木3限 昼休み（10号館 個人研究室 10309）						
授業計画						担当者	
第1回	授業予定 特別活動の目標 特質						川上
第2回	特別活動の内容（学級活動 学校行事 生徒会活動）と全体計画						川上
第3回	学級活動の目標、内容、年間計画						川上
第4回	学級活動の年間計画作成（演習）						川上
第5回	学校行事、生徒会活動の目標、内容、具体的活動						川上
第6回	学級活動の指導案の書き方 指導案作成						川上
第7回	模擬授業 代表グループ①②						川上
第8回	学級活動とSEL						川上/GT（中学校教諭）

第9回	総合的な学習の時間の意義, 目標	川上
第10回	総合的な学習の時間の歴史 教育課程上の位置づけ	川上
第11回	総合的な学習の時間 全体計画 単元計画	川上
第12回	単元計画の考え方 作成の仕方	川上
第13回	作成した単元計画の発表 (グループ内で情報交換)	川上
第14回	思考ツールと活用例 (演習)	川上
第15回	総合的な学習の時間の評価	川上
第16回	定期試験 (筆記試験)	川上

教科書

教・書籍名1	新しい教職教育講座9 特別活動	教・出版社名1	ミネルヴァ書房
教・著者名1	中村 豊/ 原 清治	教・ISBN1	978-623-08192-9
教・書籍名2	新しい教職教育講座8 総合的な学習の時間	教・出版社名2	ミネルヴァ書房
教・著者名2	森田真樹 / 篠原正典	教・ISBN2	978-4-623-08191-2

参考書

参・書籍名1	中学校学習指導要領 解説 総合的な学習の時間	参・出版社名1	東山書房
参・著者名1	文部科学省	参・ISBN1	978-4-8278-1561-0
参・書籍名2	中学校学習指導要領 解説 特別活動	参・出版社名2	978-4-8278-1562-7
参・著者名2	文部科学省	参・ISBN2	東山書房

授業科目名	教育の方法と技術 (スポ社)			担当者	小林 朝雄		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	TC-SM-3-913		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	教育の方法と技術について、諸概念や理論、授業における教師の役割や指導技術を学ぶとともに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や児童生徒に情報活用能力を育成する基礎的な知識や技能を身に付ける。具体的には次のとおりである。 1 教育の方法と技術について、諸概念や理論を学び基礎的な指導法を身に付けるとともに、学習評価の基礎的な考え方を理解している。 2 個別最適な学びと協働的な学びの実現や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の必要性を理解している。 3 情報通信技術を活用した指導法を身に付けている。 4 特別な支援を必要とする児童生徒への、情報通信技術活用の必要性と留意点を理解している。 5 学校における情報セキュリティの重要性について理解している。						
授業概要	本講義では、教育の方法と技術にかかわる諸概念や理論、授業における教師の役割や指導技術について学ぶとともに、情報通信技術の効果的な活用法を理解し、基礎的な指導法を身に付ける。また、各教科におけるICT活用や情報モラルに関する授業について、受講者が具体的な授業を構想（指導案作成）し分担して模擬授業を行うとともに、タブレット端末等を活用した模擬授業を体験する。						
アクティブラーニングの内容	PBL/グループワーク/プレゼンテーション/実習						
評価方法と割合	模擬授業、指導案（30%）、授業への参加態度（20%）、単位認定試験（50%）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業中のフィードバックや指導案等は個別にも行う。						
履修条件・注意事項	「中学校学習指導要領」または「高等学校学習指導要領」のどちらか（免許状取得を目指す方）と、「教育の方法と技術」を使用するので毎回持参する。その他については、必要に応じて関係資料を配付する。ノートは必ず作成し、配付資料も整理しておくこと。毎回の講義の予習、復習を行ってほしい。なお、模擬授業の際は作成した指導案を印刷し、全員分、配付すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この教科は、中学校教員、岡山県総合教育センター情報教育部指導主事としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	情報機器を活用した学習指導案が作成でき、模擬授業が実施できるよう教材研究に取り組んでいただきたい。予習・復習が2時間程度必要。						
オフィスアワー	毎授業終了時に教室にて実施						
授業計画						担当者	
第1回	教育の方法と技術とは					小林	
第2回	教育方法の理論と歴史（GIGAスクール構想を含む）					小林	
第3回	カリキュラムの位置付け（教科等の目標、指導内容、授業時数、年間指導計画の概要）					小林	
第4回	授業における教師の役割と指導技術①（教材研究と授業での教師の役割）					小林	
第5回	授業における教師の役割と指導技術②（児童生徒の主体性を引き出す指導）					小林	
第6回	主体的・対話的で深い学びを実現する情報通信技術を活用した学習指導					小林	

第7回	各教科におけるICT活用（授業をまとめた動画コンテンツの視聴と討議）	小林
第8回	各教科におけるICTを活用した模擬授業の構想（指導案作成、実物投影機、PCの活用）	小林
第9回	各教科におけるICTを活用した模擬授業の発表と評価（発表：前半グループ）	小林
第10回	各教科におけるICTを活用した模擬授業の発表と評価（発表：後半グループ）	小林
第11回	各教科におけるタブレット端末を活用した模擬授業の実施	小林
第12回	情報モラルに関する授業構成（情報モラルの目標、指導法、教材等）	小林
第13回	教育における評価（授業評価と学習評価について）	小林
第14回	学校における情報セキュリティの重要性について	小林
第15回	授業の振り返りとまとめ	小林
第16回	単位認定試験	小林

教科書			
教・書籍名1	中学校学習指導要領	教・出版社名1	東洋館出版社
教・著者名1	文部科学省	教・ISBN1	10 4827815402
教・書籍名2	高等学校学習指導要領	教・出版社名2	東山書房
教・著者名2	文部科学省	教・ISBN2	978-4-8278-1567-2

参考書			
参・書籍名1	三訂版 教育の方法と技術	参・出版社名1	図書文化社
参・著者名1	平沢 茂	参・ISBN1	978-4-8100-8701-7
参・書籍名2	教育の情報化に関する手引き	参・出版社名2	製本版はなし。下記ページに公開 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html
参・著者名2	文部科学省	参・ISBN2	

授業科目名	生徒・進路指導論 (スポ社)			担当者	藤井 和郎		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	TC-SM-3-914		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 10. 人や国の不平等をなくそう / 16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	<p>【テーマ】生徒指導、進路指導及びキャリア教育の意義や原理を学び学校組織の一員として生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識・技術や素養を身に付ける。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒指導の意義や原理を理解することができる。 2 すべての生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解することができる。 3 生徒の抱える主な生徒指導上の課題の形態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解することができる。 4 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解することができる。 5 すべての生徒を対象としたキャリア教育の考え方と指導の在り方を理解することができる。 6 生徒が抱える個別のキャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解することができる。 						
授業概要	<p>生徒指導は、一人一人の生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる重要な教育活動であり、キャリア教育は、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むための教育活動である。授業では、生徒指導の目標や生徒指導の機能を捉え直した上で、生徒指導の今日的課題を踏まえた実践について知識・理解を深める。また、キャリア教育及びそれに包含される進路指導について意義や原理などを学ぶ。毎回の授業では反転授業及び「個人学習1→グループ学習→全体学習→個人学習2」という流れを原則としたグループワークを取り入れた主体的・対話的な学習を行う。それにより、課題に対する理解が深まることを意図している。</p>						
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク						
評価方法と割合	<p>[試験] 50% (授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する)</p> <p>[提出物] 20% (レポート課題や学習プリントの記載内容等により評価する)</p> <p>[授業への参画状況] 30% (予習プリントや振り返り用紙の記載内容、授業中の発表及び発言内容、教職への意欲や態度等を総合的に評価する)</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は授業の中で、試験は個別にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	<p>座席指定により編成されたグループでの協議に積極的に参加すること。</p> <p>授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、中学校教員、生徒指導主事、校長及び教育行政の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	<p>前時に示された予習プリントにより、次時の学習内容を把握すること。</p> <p>復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。</p> <p>なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。</p>						
オフィスアワー	月曜日3限目 10号館10303 藤井(和)研究室						
授業計画						担当者	
第1回	生徒指導の意義と原理					藤井	
第2回	学校における生徒指導体制、教育相談					藤井	
第3回	生徒指導に関する法制度等、学校と家庭・地域・関係機関との連携					藤井	

第4回	生徒指導の進め方（児童生徒全体への指導）	藤井
第5回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：問題行動）	藤井
第6回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：不登校）	藤井
第7回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：いじめ）	藤井
第8回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：発達障害）	藤井
第9回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：児童虐待）	藤井
第10回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：愛着障害）	藤井
第11回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：性的マイノリティ）	藤井
第12回	キャリア教育とは何か	藤井
第13回	中学校におけるキャリア教育推進のために	藤井
第14回	中学校におけるキャリア教育の実践	藤井
第15回	生徒指導の今後の方向性	藤井
第16回	試験	藤井

教科書

教・書籍名1	生徒指導提要	教・出版社名1	教育図書
教・著者名1	文部科学省	教・ISBN1	978-4-87730-274-0
教・書籍名2	中学校キャリア教育の手引き	教・出版社名2	教育出版
教・著者名2	文部科学省	教・ISBN2	978-4-316-30026-9

参考書

参・書籍名1	中学校学習指導要領(平成29年告示)	参・出版社名1	東山書房
参・著者名1	文部科学省	参・ISBN1	
参・書籍名2	高等学校学習指導要領(平成30年告示)	参・出版社名2	東山書房
参・著者名2	文部科学省	参・ISBN2	

授業科目名	教育相談の基礎 (スポ社)			担当者	津川 秀夫		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	TC-SM-1-915		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	「教育相談の基礎」では、学校での教育相談の理論と方法をテーマとする。 この授業の到達目標は次の通りである。 (1)教育相談の意義や、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論を理解する (2)不適応や問題行動、発達障害の特徴とそれらへの対応方法の基礎について理解する (3)チーム学校としての組織的な取組や専門機関等との連携について理解する						
授業概要	学校における教育相談では、児童生徒への個別相談に加えて、学級集団や保護者への対応をバランスよく進めることが求められる。そして、担任が一人で抱え込むのではなく、チーム学校として他の教員やスクールカウンセラー等との連携も必須である。この授業では、学校における不適応や問題行動等について学ぶとともに、予防・開発的教育相談について理解する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/ディベート						
評価方法と割合	単元ごとの小テストおよびレポートの得点が6割以上であり、授業態度への注意（私語、居眠り、スマートフォンの使用等）が3回未満の者に単位を与える。これを前提として、テストとレポートの得点（80%）、授業への参加態度（20%）にて評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	小テストや課題レポートについて授業においてフィードバックする。						
履修条件・注意事項	教職科目を履修することを自覚し「責任ある大人」としての態度で授業に臨むことを期待する。毎回の出席はもちろんのこと、実技の練習やディスカッションに積極的な参加を望む。						
実務経験のある教員	該当する	内容	精神科クリニックでの心理臨床活動、小・中・高でのスクールカウンセリング、教育センターでの教育相談などの経験を踏まえて当該授業について講義する。				
事前学習・事後学習とその時間	できるだけ早い時期に指定テキストを読み通しておくこと。予習・復習にそれぞれ1時間を要する。						
オフィスアワー	月曜日4時限、個人研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					津川秀夫	
第2回	児童生徒の発達の多様性					津川秀夫	
第3回	児童生徒の発達の多様性：知的能力障害					津川秀夫	
第4回	児童生徒の発達の多様性：自閉スペクトラム症					津川秀夫	
第5回	児童生徒の発達の多様性：限局性学習症					津川秀夫	
第6回	児童生徒の発達の多様性：注意欠如多動症					津川秀夫	
第7回	問題行動の見立てと介入：行動随伴性					津川秀夫	
第8回	問題行動の見立てと介入：強化、弱化、消去					津川秀夫	
第9回	問題行動の見立てと介入：行動の機能					津川秀夫	
第10回	問題行動の見立てと介入：不登校					津川秀夫	
第11回	知能検査：種類と活用法					津川秀夫	
第12回	知能検査：検査の実際					津川秀夫	
第13回	ポジティブ行動の促進：事例					津川秀夫	

第14回	ポジティブ行動の促進：肯定的感情の拡張—形成理論	津川秀夫
第15回	ポジティブ行動の促進：PBIS	津川秀夫
第16回		
教科書		
教・書籍名1	メリットの法則	教・出版社名1 集英社
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	生徒指導提要	参・出版社名1 教育図書
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2	よくわかる教育相談	参・出版社名2 ミネルヴァ書房
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	教育相談の基礎（看護・心理）			担当者	津川 秀夫		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	TC-SM-1-915		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	「教育相談の基礎」では、学校での教育相談の理論と方法をテーマとする。 この授業の到達目標は次の通りである。 (1)教育相談の意義や、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論を理解する (2)不適応や問題行動、発達障害の特徴とそれらへの対応方法の基礎について理解する (3)チーム学校としての組織的な取組や専門機関等との連携について理解する						
授業概要	学校における教育相談では、児童生徒への個別相談に加えて、学級集団や保護者への対応をバランスよく進めることが求められる。そして、担任が一人で抱え込むのではなく、チーム学校として他の教員やスクールカウンセラー等との連携も必須である。この授業では、学校における不適応や問題行動等について学ぶとともに、予防・開発的教育相談について理解する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート						
評価方法と割合	単元ごとの小テストおよびレポートの得点が6割以上であり、授業態度への注意（私語、居眠り、スマートフォンの使用等）が3回未満の者に単位を与える。これを前提として、テストとレポートの得点（80%）、授業への参加態度（20%）にて評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	小テストや課題レポートについて授業においてフィードバックする。						
履修条件・注意事項	教職科目を履修することを自覚し「責任ある大人」としての態度で授業に臨むことを期待する。毎回の出席はもちろんのこと、実技の練習やディスカッションに積極的な参加を望む。						
実務経験のある教員	該当する	内容	精神科クリニックでの心理臨床活動、小・中・高でのスクールカウンセリング、教育センターでの教育相談などの経験を踏まえて当該授業について講義する。				
事前学習・事後学習とその時間	できるだけ早い時期に指定テキストを読み通しておくこと。予習・復習にそれぞれ1時間を要する。						
オフィスアワー	月曜日4時限、個人研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					津川秀夫	
第2回	児童生徒の発達の多様性					津川秀夫	
第3回	児童生徒の発達の多様性：知的能力障害					津川秀夫	
第4回	児童生徒の発達の多様性：自閉スペクトラム症					津川秀夫	
第5回	児童生徒の発達の多様性：限局性学習症					津川秀夫	
第6回	児童生徒の発達の多様性：注意欠如多動症					津川秀夫	
第7回	問題行動の見立てと介入：行動随伴性					津川秀夫	
第8回	問題行動の見立てと介入：強化、弱化、消去					津川秀夫	
第9回	問題行動の見立てと介入：行動の機能					津川秀夫	
第10回	問題行動の見立てと介入：不登校					津川秀夫	
第11回	知能検査：種類と活用法					津川秀夫	
第12回	知能検査：検査の実際					津川秀夫	
第13回	ポジティブ行動の促進：事例					津川秀夫	

第14回	ポジティブ行動の促進：肯定的感情の拡張—形成理論	津川秀夫
第15回	ポジティブ行動の促進：PBIS	津川秀夫
第16回		
教科書		
教・書籍名1	メリットの法則	教・出版社名1 集英社
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	生徒指導提要	参・出版社名1 教育図書
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2	よくわかる教育相談	参・出版社名2 ミネルヴァ書房
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	教育実習指導 (スポ社)			担当者	倉知 典弘、森井 康幸		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	TC-SM-3-916		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	講義・実習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう / 2. 飢餓をゼロに / 3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 6. 安全な水とトイレを世界中に / 7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに / 8. 働きがいも経済成長も / 10. 人や国の不平等をなくそう / 11. 住み続けられるまちづくりを / 12. つくる責任・つかう責任 / 14. 海の豊かさを守ろう / 15. 陸の豊かさを守ろう / 16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	「教育実習の準備と教職意識の明確化」をテーマとして、教育実習に最低限必要な知識・技術の習得と確認、および、自分自身の問題点の確認と克服を到達目標とする。						
授業概要	次年度、教育実習を行うための事前・事後指導にあたる。教職意識を高めるとともに、実習に向けた基本的な知識や技能の習得をめざす。授業は、学校の実態、学校教育の内容と方法などについて、小・中・高等学校の教員や教育委員会などの現場の先生方の講義を中心に進める。また、受講者は全員、正規の授業時間外に、自分で作成した指導案をもとに模擬授業を行い、実習に向けての問題点の把握、改善に努めなくてはならない。また、4年次の教育実習終了後にも事後指導としての時間を何回か設けるので、必ず出席し、教師としての実践力の向上に努めなくてはならない。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション / その他のアクティブラーニング (複合的なもの等)						
評価方法と割合	受講態度 (40%)、およびレポート (60% : 模擬授業も含む) により評価する。 教育実習修了後に行われる事後指導も評価の対象になる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	実習や模擬授業に対しては、その場でフィードバックをおこな レポートのうち、返却できないものに対するフィードバックは授業内に口頭で行う。						
履修条件・注意事項	教育実習を行うための必須単位である。 教師という自覚を高めるためにも、欠席・遅刻には厳しく対処する。 授業時間外に小グループに分かれて模擬授業をしなくてはならないので承知しておくこと。 講義概要の欄にも記したが、厳密にはこの授業は後期のみ15回で終了するのではなく、実習終了後 (次年度) にも事後指導として継続し、評価の対象となるので、掲示には注意しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、上述のように中学校・高等学校等の現職教諭を中心に、学校教育における実務経験のある外部講師の先生方から、教育現場における現状や課題、必要とされる知識や能力について講義・演習を行う。				
事前学習・事後学習とその時間	復習として、配付資料、ノート等をもとに、授業内容を再確認しておくこと。(2時間) 教職意識の明確化と基礎学力の向上に努めること。 様々な話題(新聞等)に興味を持って触れておくこと。 指導案の作成の学習については、他の教科と関連づけながら進めること。						
オフィスアワー	月曜4限、教員研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					森井・倉知	
第2回	教育実習に向けて一教師の適性					森井・倉知	
第3回	教師への道 (高等学校) (外部)					森井・外部講師	
第4回	教師への道 (中学校) (外部)					森井・外部講師	
第5回	授業改革 (外部)					森井・外部講師	
第6回	実習生の授業を見る 1					森井・倉知	
第7回	指導案の作成と授業の展開 (1) 基本的考え方 (外部)					森井・外部講師	

第8回	指導案の作成と授業の展開 (2) 教材研究と授業の展開 (外部)	森井・外部講師
第9回	授業実践 (外部)	森井・外部講師
第10回	実習生の授業を見る 2	森井・倉知
第11回	模擬授業 (1)	森井・倉知
第12回	模擬授業 (2)	森井・倉知
第13回	模擬授業 (3)	森井・倉知
第14回	模擬授業 (4)	森井・倉知
第15回	模擬授業 (5) ・まとめ	森井・倉知
第16回		

教科書

教・書籍名1	使用しない。資料は配付する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	取得しようとする教科の学習指導要領解説	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	教育実習（スポ社）			担当者	倉知 典弘、森井 康幸		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	TC-SM-4-917		
必修・選択	選択	単位数	4単位	時間数	30	授業形態	講義・実習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	実習	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／6. 安全な水とトイレを世界中に／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／8. 働きがいも経済成長も／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう／16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	「教育実習の準備と教職意識の明確化」をテーマとして、教育実習に最低限必要な知識・技術の習得と確認、および、自分自身の問題点の確認と克服を到達目標とする。						
授業概要	次年度、教育実習を行うための事前・事後指導にあたる。教職意識を高めるとともに、実習に向けた基本的な知識や技能の習得をめざす。授業は、学校の実態、学校教育の内容と方法などについて、小・中・高等学校の教員や教育委員会などの現場の先生方の講義を中心に進める。また、受講者は全員、正規の授業時間外に、自分で作成した指導案をもとに模擬授業を行い、実習に向けての問題点の把握、改善に努めなくてはならない。また、4年次の教育実習終了後にも事後指導としての時間を何回か設けるので、必ず出席し、教師としての実践力の向上に努めなくてはならない。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	受講態度（40％）、およびレポート（60％：模擬授業も含む）により評価する。 教育実習修了後に行われる事後指導も評価の対象になる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	実習や模擬授業に対しては、その場でフィードバックをおこな レポートのうち、返却できないものに対するフィードバックは授業内に口頭で行う。						
履修条件・注意事項	教育実習を行うための必須単位である。 教師という自覚を高めるためにも、欠席・遅刻には厳しく対処する。 授業時間外に小グループに分かれて模擬授業をしなくてはならないので承知しておくこと。 講義概要の欄にも記したが、厳密にはこの授業は後期のみ15回で終了するのではなく、実習終了後（次年度）にも事後指導として継続し、評価の対象となるので、掲示には注意しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、上述のように中学校・高等学校等の現職教諭を中心に、学校教育における実務経験のある外部講師の先生方から、教育現場における現状や課題、必要とされる知識や能力について講義・演習を行う。				
事前学習・事後学習とその時間	復習として、配付資料、ノート等をもとに、授業内容を再確認しておくこと。（2時間） 教職意識の明確化と基礎学力の向上に努めること。 様々な話題(新聞等)に興味を持って触れておくこと。 指導案の作成の学習については、他の教科と関連づけながら進めること。						
オフィスアワー	月曜4限、教員研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					森井・倉知	
第2回	教育実習に向けて一教師の適性					森井・倉知	
第3回	教師への道（高等学校）（外部）					森井・外部講師	
第4回	教師への道（中学校）（外部）					森井・外部講師	
第5回	授業改革（外部）					森井・外部講師	
第6回	実習生の授業を見る1					森井・倉知	
第7回	指導案の作成と授業の展開（1） 基本的考え方（外部）					森井・外部講師	

第8回	指導案の作成と授業の展開(2) 教材研究と授業の展開(外部)	森井・外部講師
第9回	授業実践(外部)	森井・外部講師
第10回	実習生の授業を見る2	森井・倉知
第11回	模擬授業(1)	森井・倉知
第12回	模擬授業(2)	森井・倉知
第13回	模擬授業(3)	森井・倉知
第14回	模擬授業(4)	森井・倉知
第15回	模擬授業(5)・まとめ	森井・倉知
第16回		
第17回		
第18回		
第19回		
第20回		
第21回		
第22回		
第23回		
第24回		
第25回		
第26回		
第27回		
第28回		
第29回		
第30回		
第31回		
第32回		

教科書

教・書籍名1	使用しない。資料は配付する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	取得しようとする教科の学習指導要領解説	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	教職実践演習（中・高）（スポ社）			担当者	倉知 典弘、森井 康幸		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	TC-SM-4-918		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 10. 人や国の不平等をなくそう / 16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	<p>これまでの学生の履修状況をふまえ、教師として必要な知識、技能の補完がテーマである。到達目標は、教師らしくなることである。</p>						
授業概要	<p>以下の3点を中心に、学校や教育委員会の先生方の協力のもと、講義、討議、ロールプレイングなどを行いながら演習を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習を振り返り、総括するとともに、教師として必要な資質能力、自分に不足している資質能力等について討議・検討する。 2. クラス運営やPTA活動などの学校教育の諸活動のあり方について実践的に学ぶ。 3. 教科の指導に必要な知識・技能などを見直し、力量向上のための取り組みを検討する。 						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	評価は受講態度（討議などへの参加状況など；30%）と課題レポート・模擬授業（70%）の評価による。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートは、内容確認後、コメントをつけて返却する。						
履修条件・注意事項	<p>教育実習を終えていることが基本要件であり、将来、教職に就くという強い意志を持っている学生のみが対象の演習である。</p> <p>教職カルテを持参すること。</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	この授業では半数の回で、学校教育において教員としての実務経験を持つ方々が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	<p>教職に就こうとする自覚と向上心を高めるべく、すべての面での学修に真剣に取り組むこと。</p> <p>4月から教師として勤められるように、自分に不足する資質・能力を向上させるように自己陶冶に努めること。</p> <p>課題レポート等の作成（4時間以上必要）により、教育現場での活動についての理解を深めること。</p>						
オフィスアワー	月曜4限、10号館4階、森井研究室。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					森井・倉知	
第2回	教材研究1					森井・外部講師	
第3回	教師の服務と学校現場の課題					森井・外部講師	
第4回	学校の安全管理					森井・外部講師	
第5回	教材研究2（実践）					森井・外部講師	
第6回	国際バカロレア教育					森井・外部講師	
第7回	いじめ・不登校への取り組み					森井・学内講師	
第8回	特別支援教育の現状と実際					森井・外部講師	
第9回	道徳教科化の問題					森井・学内講師	
第10回	模擬授業と授業研究1					森井・倉知	

第11回	模擬授業と授業研究2	森井・倉知
第12回	模擬授業と授業研究3	森井・倉知
第13回	模擬授業と授業研究4	森井・倉知
第14回	模擬授業と授業研究5	森井・倉知
第15回	自己分析・まとめ	森井・倉知
第16回		

教科書		
-----	--	--

教・書籍名1	教科書は使用しない。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書		
-----	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-401		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> 						
到達目標	<p>テーマ：大学生生活の導入部分として、学習の動機づけを行うとともに、学習の方法を身につける。</p> <p>到達目標：</p> <p>1：大学での学び方を知り、学習目標を立てることを通して、4年間の学習の見通しを立てることができるようになる</p> <p>2：図書館での資料の探し方、文献検索の仕方、webの利用の仕方の学習を通じて、基本的な情報収集ができるようになる</p> <p>3：グループディスカッションなどを通じて、相手を尊重したコミュニケーションを行うことができるようになる</p> <p>4：文章作成の演習を通じて、論理的なレポートを書くことができるようになる</p> <p>5：レジュメ（報告用資料）の書き方、報告の仕方の学習を通じて、基本的なプレゼンテーションができるようになる。</p>						
授業概要	<p>本講義は「話す」「読む」「書く」「聴く」等コミュニケーションスキルの習得を徹底し、大人としての最低限の表現能力を身につけることを目的としている。</p> <p>大学生として必要な基礎的な能力や学び方を学習することを目的としている。</p> <p>まず最初に大学生としての学びの在り方や学習目標の設定の仕方などをディスカッションや演習を通じて考える（第1回～第4回）。その後、自分自身の経験などに基づいた文章作成を行い、文章力の向上を図る（第5回～第7回）。そして、その文章をもとにスピーチを行い、伝える技術を高めていく（第8回～第9回）。そして、より文章内容を向上させるための情報収集の基礎を実践的に学び（第10回～第13回）、最終的にそれまでの学びの成果を活かしたレポートの作成を行う（第14回～第15回）。</p> <p>本講義では、スピーチやプレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行い、この過程を通じて、大学での学びの基礎となるコミュニケーション能力と学習遂行能力の向上を目指す。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）ディスカッションやグループワークでの活動状況（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、ディスカッションやグループワークに参加しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】 演習ルーブリック						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指						

の時間	導などの際には講義課題として各自の意見などを提出してもらう。(1.5時間程度)講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	水曜日 3限 研究室(6311)		
授業計画		担当者	
第1回	講義ガイダンス：講義概要の説明及びアイスブレイク	孫基然	
第2回	大学生としての学び(1) 大学規程の理解と研究倫理教育	孫基然	
第3回	大学生としての学び(2) 大学における学習資源の活用法	孫基然	
第4回	大学生としての学び(3) 学習目標の設定方法の理解と学習目標の設定	孫基然	
第5回	文章表現の基礎：基本的な文法事項と文章構造の理解	孫基然	
第6回	文章作成演習(1) 一スポーツ経験を振り返る	孫基然	
第7回	文章作成演習(2) 現代社会について	孫基然	
第8回	スピーチの手法：伝える力とは何か	孫基然	
第9回	スピーチ演習：スポーツ及び現代社会について	孫基然	
第10回	情報収集の手法(1) データベースの活用法	孫基然	
第11回	情報収集の手法(2)：情報の批判的検討の必要性和手法	孫基然	
第12回	情報収集の手法(3)：新聞・雑誌記事の読み方	孫基然	
第13回	情報収集の技法(4)：統計情報の読み解き方	孫基然	
第14回	レポート作成の技法(1)：レポートの基礎基本	孫基然	
第15回	レポート作成の技法(2)：レポートの評価について	孫基然	
第16回	レポート試験	孫基然	
教科書			
教・書籍名1	各回の講義テーマに応じて教員が用意する資料によって講義を行う	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	文章力の基本	参・出版社名1	日本実業出版社
参・著者名1	阿部 紘久	参・ISBN1	978-4534045881
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-401		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：大学生生活の導入部分として、学習の動機づけを行うとともに、学習の方法を身につける。 到達目標： 1：大学での学び方を知り、学習目標を立てることを通して、4年間の学習の見通しを立てることができるようになる 2：図書館での資料の探し方、文献検索の仕方、webの利用の仕方の学習を通じて、基本的な情報収集ができるようになる 3：グループディスカッションなどを通じて、相手を尊重したコミュニケーションを行うことができるようになる 4：文章作成の演習を通じて、論理的なレポートを書くことができるようになる 5：レジュメ（報告用資料）の書き方、報告の仕方の学習を通じて、基本的なプレゼンテーションができるようになる。						
授業概要	本講義は「話す」「読む」「書く」「聴く」等コミュニケーションスキルの習得を徹底し、大人としての最低限の表現能力を身につけることを目的としている。 大学生として必要な基礎的な能力や学び方を学習することを目的としている。 まず最初に大学生としての学びの在り方や学習目標の設定の仕方などをディスカッションや演習を通じて考える（第1回～第4回）。その後、自分自身の経験などに基づいた文章作成を行い、文章力の向上を図る（第5回～第7回）。そして、その文章をもとにスピーチを行い、伝える技術を高めていく（第8回～第9回）。そして、より文章内容を向上させるための情報収集の基礎を実践的に学び（第10回～第13回）、最終的にそれまでの学びの成果を活かしたレポートの作成を行う（第14回～第15回）。 本講義では、スピーチやプレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行い、この過程を通じて、大学での学びの基礎となるコミュニケーション能力と学習遂行能力の向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）ディスカッションやグループワークでの活動状況（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、ディスカッションやグループワークに参加しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】 演習ルーブリック						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指						

の時間	導などの際には講義課題として各自の意見などを提出してもらう。(1.5時間程度)講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	火曜日 4限 研究室(9405)		
授業計画		担当者	
第1回	講義ガイダンス：講義概要の説明及びアイスブレイク	高藤	
第2回	大学生としての学び(1) 大学規程の理解と研究倫理教育	高藤	
第3回	大学生としての学び(2) 大学における学習資源の活用法	高藤	
第4回	大学生としての学び(3) 学習目標の設定方法の理解と学習目標の設定	高藤	
第5回	文章表現の基礎：基本的な文法事項と文章構造の理解	高藤	
第6回	文章作成演習(1) 一スポーツ経験を振り返る	高藤	
第7回	文章作成演習(2) 現代社会について	高藤	
第8回	スピーチの手法：伝える力とは何か	高藤	
第9回	スピーチ演習：スポーツ及び現代社会について	高藤	
第10回	情報収集の手法(1) データベースの活用法	高藤	
第11回	情報収集の手法(2)：情報の批判的検討の必要性和手法	高藤	
第12回	情報収集の手法(3)：新聞・雑誌記事の読み方	高藤	
第13回	情報収集の技法(4)：統計情報の読み解き方	高藤	
第14回	レポート作成の技法(1)：レポートの基礎基本	高藤	
第15回	レポート作成の技法(2)：レポートの評価について	高藤	
第16回	レポート試験	高藤	
教科書			
教・書籍名1	各回の講義テーマに応じて教員が用意する資料によって講義を行う。	教・出版社名1	
教・著者名1	その都度紹介する。	教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	文章力の基本	参・出版社名1	日本実業出版社
参・著者名1	阿部 紘久	参・ISBN1	978-4534045881
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-401		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> 						
到達目標	<p>テーマ：大学生生活の導入部分として、学習の動機づけを行うとともに、学習の方法を身につける。</p> <p>到達目標：</p> <p>1：大学での学び方を知り、学習目標を立てることを通して、4年間の学習の見通しを立てることができるようになる</p> <p>2：図書館での資料の探し方、文献検索の仕方、webの利用の仕方の学習を通じて、基本的な情報収集ができるようになる</p> <p>3：グループディスカッションなどを通じて、相手を尊重したコミュニケーションを行うことができるようになる</p> <p>4：文章作成の演習を通じて、論理的なレポートを書くことができるようになる</p> <p>5：レジュメ（報告用資料）の書き方、報告の仕方の学習を通じて、基本的なプレゼンテーションができるようになる。</p>						
授業概要	<p>本講義は「話す」「読む」「書く」「聴く」等コミュニケーションスキルの習得を徹底し、大人としての最低限の表現能力を身につけることを目的としている。</p> <p>大学生として必要な基礎的な能力や学び方を学習することを目的としている。</p> <p>まず最初に大学生としての学びの在り方や学習目標の設定の仕方などをディスカッションや演習を通じて考える（第1回～第4回）。その後、自分自身の経験などに基づいた文章作成を行い、文章力の向上を図る（第5回～第7回）。そして、その文章をもとにスピーチを行い、伝える技術を高めていく（第8回～第9回）。そして、より文章内容を向上させるための情報収集の基礎を実践的に学び（第10回～第13回）、最終的にそれまでの学びの成果を活かしたレポートの作成を行う（第14回～第15回）。</p> <p>本講義では、スピーチやプレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行い、この過程を通じて、大学での学びの基礎となるコミュニケーション能力と学習遂行能力の向上を目指す。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）ディスカッションやグループワークでの活動状況（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、ディスカッションやグループワークに参加しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】 演習ルーブリック						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指						

の時間	導などの際には講義課題として各自の意見などを提出してもらう。(1.5時間程度)講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	水曜日 4限 研究室		
授業計画		担当者	
第1回	講義ガイダンス：講義概要の説明及びアイスブレイク	竹内研	
第2回	大学生としての学び(1) 大学規程の理解と研究倫理教育	竹内研	
第3回	大学生としての学び(2) 大学における学習資源の活用法	竹内研	
第4回	大学生としての学び(3) 学習目標の設定方法の理解と学習目標の設定	竹内研	
第5回	文章表現の基礎：基本的な文法事項と文章構造の理解	竹内研	
第6回	文章作成演習(1) 一スポーツ経験を振り返る	竹内研	
第7回	文章作成演習(2) 現代社会について	竹内研	
第8回	スピーチの手法：伝える力とは何か	竹内研	
第9回	スピーチ演習：スポーツ及び現代社会について	竹内研	
第10回	情報収集の手法(1) データベースの活用法	竹内研	
第11回	情報収集の手法(2)：情報の批判的検討の必要性和手法	竹内研	
第12回	情報収集の手法(3)：新聞・雑誌記事の読み方	竹内研	
第13回	情報収集の技法(4)：統計情報の読み解き方	竹内研	
第14回	レポート作成の技法(1)：レポートの基礎基本	竹内研	
第15回	レポート作成の技法(2)：レポートの評価について	竹内研	
第16回	レポート試験	竹内研	
教科書			
教・書籍名1	各回の講義テーマに応じて教員が用意する資料によって講義を行う	教・出版社名1	日本実業出版社
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	文章力の基本	参・出版社名1	日本実業出版社
参・著者名1	阿部 紘久	参・ISBN1	978-4534045881
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-401		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：大学生生活の導入部分として、学習の動機づけを行うとともに、学習の方法を身につける。 到達目標： 1：大学での学び方を知り、学習目標を立てることを通して、4年間の学習の見通しを立てることができるようになる 2：図書館での資料の探し方、文献検索の仕方、webの利用の仕方の学習を通じて、基本的な情報収集ができるようになる 3：グループディスカッションなどを通じて、相手を尊重したコミュニケーションを行うことができるようになる 4：文章作成の演習を通じて、論理的なレポートを書くことができるようになる 5：レジュメ（報告用資料）の書き方、報告の仕方の学習を通じて、基本的なプレゼンテーションができるようになる。						
授業概要	本講義は「話す」「読む」「書く」「聴く」等コミュニケーションスキルの習得を徹底し、大人としての最低限の表現能力を身につけることを目的としている。 大学生として必要な基礎的な能力や学び方を学習することを目的としている。 まず最初に大学生としての学びの在り方や学習目標の設定の仕方などをディスカッションや演習を通じて考える（第1回～第4回）。その後、自分自身の経験などに基づいた文章作成を行い、文章力の向上を図る（第5回～第7回）。そして、その文章をもとにスピーチを行い、伝える技術を高めていく（第8回～第9回）。そして、より文章内容を向上させるための情報収集の基礎を実践的に学び（第10回～第13回）、最終的にそれまでの学びの成果を活かしたレポートの作成を行う（第14回～第15回）。 本講義では、スピーチやプレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行い、この過程を通じて、大学での学びの基礎となるコミュニケーション能力と学習遂行能力の向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）ディスカッションやグループワークでの活動状況（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、ディスカッションやグループワークに参加しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については演習ルーブリックを確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指						

の時間	導などの際には講義課題として各自の意見などを提出してもらう。(1.5時間程度)講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室(9410研究室)において、木曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。		
授業計画		担当者	
第1回	講義ガイダンス：講義概要の説明及びアイスブレイク	山口英峰	
第2回	大学生としての学び(1) 大学規程の理解と研究倫理教育	山口英峰	
第3回	大学生としての学び(2) 大学における学習資源の活用法	山口英峰	
第4回	大学生としての学び(3) 学習目標の設定方法の理解と学習目標の設定	山口英峰	
第5回	文章表現の基礎：基本的な文法事項と文章構造の理解	山口英峰	
第6回	文章作成演習(1) 一スポーツ経験を振り返る	山口英峰	
第7回	文章作成演習(2) 現代社会について	山口英峰	
第8回	スピーチの手法：伝える力とは何か	山口英峰	
第9回	スピーチ演習：スポーツ及び現代社会について	山口英峰	
第10回	情報収集の手法(1) データベースの活用法	山口英峰	
第11回	情報収集の手法(2)：情報の批判的検討の必要性和手法	山口英峰	
第12回	情報収集の手法(3)：新聞・雑誌記事の読み方	山口英峰	
第13回	情報収集の技法(4)：統計情報の読み解き方	山口英峰	
第14回	レポート作成の技法(1)：レポートの基礎基本	山口英峰	
第15回	レポート作成の技法(2)：レポートの評価について	山口英峰	
第16回	レポート試験	山口英峰	
教科書			
教・書籍名1	各回の講義テーマに応じて教員が用意する資料によって講義を行う	教・出版社名1	日本実業出版社
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	文章力の基本	参・出版社名1	日本実業出版社
参・著者名1	阿部 紘久	参・ISBN1	978-4534045881
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-401		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：大学生生活の導入部分として、学習の動機づけを行うとともに、学習の方法を身につける。 到達目標： 1：大学での学び方を知り、学習目標を立てることを通して、4年間の学習の見通しを立てることができるようになる 2：図書館での資料の探し方、文献検索の仕方、webの利用の仕方の学習を通じて、基本的な情報収集ができるようになる 3：グループディスカッションなどを通じて、相手を尊重したコミュニケーションを行うことができるようになる 4：文章作成の演習を通じて、論理的なレポートを書くことができるようになる 5：レジュメ（報告用資料）の書き方、報告の仕方の学習を通じて、基本的なプレゼンテーションができるようになる。						
授業概要	本講義は「話す」「読む」「書く」「聴く」等コミュニケーションスキルの習得を徹底し、大人としての最低限の表現能力を身につけることを目的としている。 大学生として必要な基礎的な能力や学び方を学習することを目的としている。 まず最初に大学生としての学びの在り方や学習目標の設定の仕方などをディスカッションや演習を通じて考える（第1回～第4回）。その後、自分自身の経験などに基づいた文章作成を行い、文章力の向上を図る（第5回～第7回）。そして、その文章をもとにスピーチを行い、伝える技術を高めていく（第8回～第9回）。そして、より文章内容を向上させるための情報収集の基礎を実践的に学び（第10回～第13回）、最終的にそれまでの学びの成果を活かしたレポートの作成を行う（第14回～第15回）。 本講義では、スピーチやプレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行い、この過程を通じて、大学での学びの基礎となるコミュニケーション能力と学習遂行能力の向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）ディスカッションやグループワークでの活動状況（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、ディスカッションやグループワークに参加しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】 演習ルーブリック						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指						

の時間	導などの際には講義課題として各自の意見などを提出してもらう。(1.5時間程度)講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室		
授業計画		担当者	
第1回	講義ガイダンス：講義概要の説明及びアイスブレイク	天岡 寛	
第2回	大学生としての学び(1) 大学規程の理解と研究倫理教育	天岡 寛	
第3回	大学生としての学び(2) 大学における学習資源の活用法	天岡 寛	
第4回	大学生としての学び(3) 学習目標の設定方法の理解と学習目標の設定	天岡 寛	
第5回	文章表現の基礎：基本的な文法事項と文章構造の理解	天岡 寛	
第6回	文章作成演習(1) 一スポーツ経験を振り返る	天岡 寛	
第7回	文章作成演習(2) 現代社会について	天岡 寛	
第8回	スピーチの手法：伝える力とは何か	天岡 寛	
第9回	スピーチ演習：スポーツ及び現代社会について	天岡 寛	
第10回	情報収集の手法(1) データベースの活用法	天岡 寛	
第11回	情報収集の手法(2)：情報の批判的検討の必要性和手法	天岡 寛	
第12回	情報収集の手法(3)：新聞・雑誌記事の読み方	天岡 寛	
第13回	情報収集の技法(4)：統計情報の読み解き方	天岡 寛	
第14回	レポート作成の技法(1)：レポートの基礎基本	天岡 寛	
第15回	レポート作成の技法(2)：レポートの評価について	天岡 寛	
第16回	レポート試験	天岡 寛	
教科書			
教・書籍名1	各回の講義テーマに応じて教員が用意する資料によって講義を行う	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	文章力の基本	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-401		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：大学生生活の導入部分として、学習の動機づけを行うとともに、学習の方法を身につける。 到達目標： 1：大学での学び方を知り、学習目標を立てることを通して、4年間の学習の見通しを立てることができるようになる 2：図書館での資料の探し方、文献検索の仕方、webの利用の仕方の学習を通じて、基本的な情報収集ができるようになる 3：グループディスカッションなどを通じて、相手を尊重したコミュニケーションを行うことができるようになる 4：文章作成の演習を通じて、論理的なレポートを書くことができるようになる 5：レジュメ（報告用資料）の書き方、報告の仕方の学習を通じて、基本的なプレゼンテーションができるようになる。						
授業概要	本講義は「話す」「読む」「書く」「聴く」等コミュニケーションスキルの習得を徹底し、大人としての最低限の表現能力を身につけることを目的としている。 大学生として必要な基礎的な能力や学び方を学習することを目的としている。 まず最初に大学生としての学びの在り方や学習目標の設定の仕方などをディスカッションや演習を通じて考える（第1回～第4回）。その後、自分自身の経験などに基づいた文章作成を行い、文章力の向上を図る（第5回～第7回）。そして、その文章をもとにスピーチを行い、伝える技術を高めていく（第8回～第9回）。そして、より文章内容を向上させるための情報収集の基礎を実践的に学び（第10回～第13回）、最終的にそれまでの学びの成果を活かしたレポートの作成を行う（第14回～第15回）。 本講義では、スピーチやプレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行い、この過程を通じて、大学での学びの基礎となるコミュニケーション能力と学習遂行能力の向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）ディスカッションやグループワークでの活動状況（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、ディスカッションやグループワークに参加しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】 演習ルーブリック						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指						

の時間	導などの際には講義課題として各自の意見などを提出してもらう。(1.5時間程度)講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	火曜日 3限 研究室(9401)		
授業計画		担当者	
第1回	講義ガイダンス：講義概要の説明及びアイスブレイク	太田真司	
第2回	大学生としての学び(1) 大学規程の理解と研究倫理教育	太田真司	
第3回	大学生としての学び(2) 大学における学習資源の活用法	太田真司	
第4回	大学生としての学び(3) 学習目標の設定方法の理解と学習目標の設定	太田真司	
第5回	文章表現の基礎：基本的な文法事項と文章構造の理解	太田真司	
第6回	文章作成演習(1) 一スポーツ経験を振り返る	太田真司	
第7回	文章作成演習(2) 現代社会について	太田真司	
第8回	スピーチの手法：伝える力とは何か	太田真司	
第9回	スピーチ演習：スポーツ及び現代社会について	太田真司	
第10回	情報収集の手法(1) データベースの活用法	太田真司	
第11回	情報収集の手法(2)：情報の批判的検討の必要性和手法	太田真司	
第12回	情報収集の手法(3)：新聞・雑誌記事の読み方	太田真司	
第13回	情報収集の技法(4)：統計情報の読み解き方	太田真司	
第14回	レポート作成の技法(1)：レポートの基礎基本	太田真司	
第15回	レポート作成の技法(2)：レポートの評価について	太田真司	
第16回	レポート試験	太田真司	
教科書			
教・書籍名1	各回の講義テーマに応じて教員が用意する資料によって講義を行う	教・出版社名1	日本実業出版社
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	文章力の基本	参・出版社名1	日本実業出版社
参・著者名1	阿部 紘久	参・ISBN1	978-4534045881
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-401		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：大学生生活の導入部分として、学習の動機づけを行うとともに、学習の方法を身につける。 到達目標： 1：大学での学び方を知り、学習目標を立てることを通して、4年間の学習の見通しを立てることができるようになる 2：図書館での資料の探し方、文献検索の仕方、webの利用の仕方の学習を通じて、基本的な情報収集ができるようになる 3：グループディスカッションなどを通じて、相手を尊重したコミュニケーションを行うことができるようになる 4：文章作成の演習を通じて、論理的なレポートを書くことができるようになる 5：レジュメ（報告用資料）の書き方、報告の仕方の学習を通じて、基本的なプレゼンテーションができるようになる。						
授業概要	本講義は「話す」「読む」「書く」「聴く」等コミュニケーションスキルの習得を徹底し、大人としての最低限の表現能力を身につけることを目的としている。 大学生として必要な基礎的な能力や学び方を学習することを目的としている。 まず最初に大学生としての学びの在り方や学習目標の設定の仕方などをディスカッションや演習を通じて考える（第1回～第4回）。その後、自分自身の経験などに基づいた文章作成を行い、文章力の向上を図る（第5回～第7回）。そして、その文章をもとにスピーチを行い、伝える技術を高めていく（第8回～第9回）。そして、より文章内容を向上させるための情報収集の基礎を実践的に学び（第10回～第13回）、最終的にそれまでの学びの成果を活かしたレポートの作成を行う（第14回～第15回）。 本講義では、スピーチやプレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行い、この過程を通じて、大学での学びの基礎となるコミュニケーション能力と学習遂行能力の向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）ディスカッションやグループワークでの活動状況（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、ディスカッションやグループワークに参加しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】 演習ルーブリック						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指						

の時間	導などの際には講義課題として各自の意見などを提出してもらう。(1.5時間程度)講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	水曜日 4限 研究室(9301)		
授業計画		担当者	
第1回	講義ガイダンス：講義概要の説明及びアイスブレイク	倉知典弘	
第2回	大学生としての学び(1) 大学規程の理解と研究倫理教育	倉知典弘	
第3回	大学生としての学び(2) 大学における学習資源の活用法	倉知典弘	
第4回	大学生としての学び(3) 学習目標の設定方法の理解と学習目標の設定	倉知典弘	
第5回	文章表現の基礎：基本的な文法事項と文章構造の理解	倉知典弘	
第6回	文章作成演習(1) 一スポーツ経験を振り返る	倉知典弘	
第7回	文章作成演習(2) 現代社会について	倉知典弘	
第8回	スピーチの手法：伝える力とは何か	倉知典弘	
第9回	スピーチ演習：スポーツ及び現代社会について	倉知典弘	
第10回	情報収集の手法(1) データベースの活用法	倉知典弘	
第11回	情報収集の手法(2)：情報の批判的検討の必要性和手法	倉知典弘	
第12回	情報収集の手法(3)：新聞・雑誌記事の読み方	倉知典弘	
第13回	情報収集の技法(4)：統計情報の読み解き方	倉知典弘	
第14回	レポート作成の技法(1)：レポートの基礎基本	倉知典弘	
第15回	レポート作成の技法(2)：レポートの評価について	倉知典弘	
第16回	レポート試験	倉知典弘	
教科書			
教・書籍名1	各回の講義テーマに応じて教員が用意する資料によって講義を行う	教・出版社名1	日本実業出版社
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	文章力の基本	参・出版社名1	日本実業出版社
参・著者名1	阿部 紘久	参・ISBN1	978-4534045881
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-401		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> 						
到達目標	<p>テーマ：大学生生活の導入部分として、学習の動機づけを行うとともに、学習の方法を身につける。</p> <p>到達目標：</p> <p>1：大学での学び方を知り、学習目標を立てることを通して、4年間の学習の見通しを立てることができるようになる</p> <p>2：図書館での資料の探し方、文献検索の仕方、webの利用の仕方の学習を通じて、基本的な情報収集ができるようになる</p> <p>3：グループディスカッションなどを通じて、相手を尊重したコミュニケーションを行うことができるようになる</p> <p>4：文章作成の演習を通じて、論理的なレポートを書くことができるようになる</p> <p>5：レジュメ（報告用資料）の書き方、報告の仕方の学習を通じて、基本的なプレゼンテーションができるようになる。</p>						
授業概要	<p>本講義は「話す」「読む」「書く」「聴く」等コミュニケーションスキルの習得を徹底し、大人としての最低限の表現能力を身につけることを目的としている。</p> <p>大学生として必要な基礎的な能力や学び方を学習することを目的としている。</p> <p>まず最初に大学生としての学びの在り方や学習目標の設定の仕方などをディスカッションや演習を通じて考える（第1回～第4回）。その後、自分自身の経験などに基づいた文章作成を行い、文章力の向上を図る（第5回～第7回）。そして、その文章をもとにスピーチを行い、伝える技術を高めていく（第8回～第9回）。そして、より文章内容を向上させるための情報収集の基礎を実践的に学び（第10回～第13回）、最終的にそれまでの学びの成果を活かしたレポートの作成を行う（第14回～第15回）。</p> <p>本講義では、スピーチやプレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行い、この過程を通じて、大学での学びの基礎となるコミュニケーション能力と学習遂行能力の向上を目指す。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）ディスカッションやグループワークでの活動状況（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、ディスカッションやグループワークに参加しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】 演習ルーブリック						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指						

の時間	導などの際には講義課題として各自の意見などを提出してもらう。(1.5時間程度)講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	月曜日 2限 研究室(9402)		
授業計画		担当者	
第1回	講義ガイダンス：講義概要の説明及びアイスブレイク	高原皓全	
第2回	大学生としての学び(1) 大学規程の理解と研究倫理教育	高原皓全	
第3回	大学生としての学び(2) 大学における学習資源の活用法	高原皓全	
第4回	大学生としての学び(3) 学習目標の設定方法の理解と学習目標の設定	高原皓全	
第5回	文章表現の基礎：基本的な文法事項と文章構造の理解	高原皓全	
第6回	文章作成演習(1) 一スポーツ経験を振り返る	高原皓全	
第7回	文章作成演習(2) 現代社会について	高原皓全	
第8回	スピーチの手法：伝える力とは何か	高原皓全	
第9回	スピーチ演習：スポーツ及び現代社会について	高原皓全	
第10回	情報収集の手法(1) データベースの活用法	高原皓全	
第11回	情報収集の手法(2)：情報の批判的検討の必要性和手法	高原皓全	
第12回	情報収集の手法(3)：新聞・雑誌記事の読み方	高原皓全	
第13回	情報収集の技法(4)：統計情報の読み解き方	高原皓全	
第14回	レポート作成の技法(1)：レポートの基礎基本	高原皓全	
第15回	レポート作成の技法(2)：レポートの評価について	高原皓全	
第16回	レポート試験	高原皓全	
教科書			
教・書籍名1	各回の講義テーマに応じて教員が用意する資料によって講義を行う	教・出版社名1	日本実業出版社
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	文章力の基本	参・出版社名1	日本実業出版社
参・著者名1	阿部 紘久	参・ISBN1	978-4534045881
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-401		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：大学生生活の導入部分として、学習の動機づけを行うとともに、学習の方法を身につける。 到達目標： 1：大学での学び方を知り、学習目標を立てることを通して、4年間の学習の見通しを立てることができるようになる 2：図書館での資料の探し方、文献検索の仕方、webの利用の仕方の学習を通じて、基本的な情報収集ができるようになる 3：グループディスカッションなどを通じて、相手を尊重したコミュニケーションを行うことができるようになる 4：文章作成の演習を通じて、論理的なレポートを書くことができるようになる 5：レジュメ（報告用資料）の書き方、報告の仕方の学習を通じて、基本的なプレゼンテーションができるようになる。						
授業概要	本講義は「話す」「読む」「書く」「聴く」等コミュニケーションスキルの習得を徹底し、大人としての最低限の表現能力を身につけることを目的としている。 大学生として必要な基礎的な能力や学び方を学習することを目的としている。 まず最初に大学生としての学びの在り方や学習目標の設定の仕方などをディスカッションや演習を通じて考える（第1回～第4回）。その後、自分自身の経験などに基づいた文章作成を行い、文章力の向上を図る（第5回～第7回）。そして、その文章をもとにスピーチを行い、伝える技術を高めていく（第8回～第9回）。そして、より文章内容を向上させるための情報収集の基礎を実践的に学び（第10回～第13回）、最終的にそれまでの学びの成果を活かしたレポートの作成を行う（第14回～第15回）。 本講義では、スピーチやプレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行い、この過程を通じて、大学での学びの基礎となるコミュニケーション能力と学習遂行能力の向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）ディスカッションやグループワークでの活動状況（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、ディスカッションやグループワークに参加しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】 演習ルーブリック						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指						

の時間	導などの際には講義課題として各自の意見などを提出してもらう。(1.5時間程度)講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	金曜日 2限 研究室 (9411)		
授業計画		担当者	
第1回	講義ガイダンス：講義概要の説明及びアイスブレイク	羽野真哉	
第2回	大学生としての学び(1) 大学規程の理解と研究倫理教育	羽野真哉	
第3回	大学生としての学び(2) 大学における学習資源の活用法	羽野真哉	
第4回	大学生としての学び(3) 学習目標の設定方法の理解と学習目標の設定	羽野真哉	
第5回	文章表現の基礎：基本的な文法事項と文章構造の理解	羽野真哉	
第6回	文章作成演習(1) 一スポーツ経験を振り返る	羽野真哉	
第7回	文章作成演習(2) 現代社会について	羽野真哉	
第8回	スピーチの手法：伝える力とは何か	羽野真哉	
第9回	スピーチ演習：スポーツ及び現代社会について	羽野真哉	
第10回	情報収集の手法(1) データベースの活用法	羽野真哉	
第11回	情報収集の手法(2)：情報の批判的検討の必要性和手法	羽野真哉	
第12回	情報収集の手法(3)：新聞・雑誌記事の読み方	羽野真哉	
第13回	情報収集の技法(4)：統計情報の読み解き方	羽野真哉	
第14回	レポート作成の技法(1)：レポートの基礎基本	羽野真哉	
第15回	レポート作成の技法(2)：レポートの評価について	羽野真哉	
第16回	レポート試験	羽野真哉	
教科書			
教・書籍名1	各回の講義テーマに応じて教員が用意する資料によって講義を行う	教・出版社名1	日本実業出版社
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	文章力の基本	参・出版社名1	日本実業出版社
参・著者名1	阿部 紘久	参・ISBN1	978-4534045881
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-402		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> 						
到達目標	<p>テーマ：学習の計画的実行と成果の発表</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：学習計画の立て方を知り、各自の学習課題に応じた学習計画を立てられるようになる 2：各自の興味関心を深め、社会的な事象に興味関心を持つことができる 3：春学期に身に付けたコミュニケーション能力をベースに協同して学習活動を実行できる 4：プレゼンテーションに必要な技法などを理解し、基本的な構成を意識したプレゼンテーションを実施できる 5：学習活動などを通じて、大学卒業後の姿をイメージし、適切なコース選択をすることができる 						
授業概要	<p>授業概要：</p> <p>本講義では春学期のコミュニケーション能力を活かしながら、各自でテーマを設定した上で、プレゼンテーション及びディスカッションを実施する。また、学習課題に取り組む過程で各自の卒業後の進路などに対する意識を深め、2年時以降のコース選択を考えてもらう。最初に各自の学習目標及び学習計画を作成してもらう（第1回～第5回）。その後実際に情報検索・調査を協働して実施してもらう（第6回～第7回）その後、学習成果をPCを用いたプレゼンテーションという形で発表し、ディスカッションを行い理解を深める（第8回～第13回）。最後に講義のまとめとしてコース選択（第14回）及び1年間の学びの振り返り（第15回）を行い、1年間で身に付けたものを確認し、2年次の「演習Ⅰ」にむけた春休み期間の準備を考える。</p> <p>本講義では、プレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行う。クラス全体で助け合いながら講義を進めていきたい。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーションの内容（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、プレゼンテーションを実施しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ループリック評価	【本科目はループリック評価を導入する。詳細については演習ループリックを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルレポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必ず基礎演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導・プレゼンテーションなどの際には講義課題として発表資料などを提出してもらう。（1.5時間程度）講義中に、						

	文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）		
オフィスアワー	水曜日 3限 研究室（6311）		
授業計画		担当者	
第1回	春学期の学びの振り返りと秋学期の目標設定		孫基然
第2回	学習計画の設計の手法		孫基然
第3回	学習目標の設定（1）：個人のキャリア・興味関心の観点から		孫基然
第4回	学習目標の設定（2）：社会的な側面から		孫基然
第5回	学習目標の設定（3）：設定理由の明確化		孫基然
第6回	学習活動の展開（1）：情報収集の実践		孫基然
第7回	学習活動の展開（2）：情報の整理・分析の実践		孫基然
第8回	プレゼンテーションの技法（1）：事例から学ぶ		孫基然
第9回	プレゼンテーションの技法（2）：構成及び表現		孫基然
第10回	プレゼンテーションの技法（3）：プレゼンテーション資料の作成方法		孫基然
第11回	プレゼンテーション演習（1）：構成の評価を中心として		孫基然
第12回	プレゼンテーション演習（2）：資料の評価を中心として		孫基然
第13回	プレゼンテーション演習（3）：総括的な評価として		孫基然
第14回	コース選択のために：卒業後のキャリアをイメージすること		孫基然
第15回	学習活動の評価：講義のまとめとして		孫基然
第16回	レポート試験		孫基然
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が作成する資料にもとづいて行う	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-402		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> 						
到達目標	<p>テーマ：学習の計画的実行と成果の発表</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：学習計画の立て方を知り、各自の学習課題に応じた学習計画を立てられるようになる 2：各自の興味関心を深め、社会的な事象に興味関心を持つことができる 3：春学期に身に付けたコミュニケーション能力をベースに協同して学習活動を実行できる 4：プレゼンテーションに必要な技法などを理解し、基本的な構成を意識したプレゼンテーションを実施できる 5：学習活動などを通じて、大学卒業後の姿をイメージし、適切なコース選択をすることができる 						
授業概要	<p>授業概要：</p> <p>本講義では春学期のコミュニケーション能力を活かしながら、各自でテーマを設定した上で、プレゼンテーション及びディスカッションを実施する。また、学習課題に取り組む過程で各自の卒業後の進路などに対する意識を深め、2年時以降のコース選択を考えてもらう。最初に各自の学習目標及び学習計画を作成してもらう（第1回～第5回）。その後実際に情報検索・調査を協働して実施してもらう（第6回～第7回）その後、学習成果をPCを用いたプレゼンテーションという形で発表し、ディスカッションを行い理解を深める（第8回～第13回）。最後に講義のまとめとしてコース選択（第14回）及び1年間の学びの振り返り（第15回）を行い、1年間で身に付けたものを確認し、2年次の「演習Ⅰ」にむけた春休み期間の準備を考える。</p> <p>本講義では、プレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行う。クラス全体で助け合いながら講義を進めていきたい。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーションの内容（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、プレゼンテーションを実施しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ループリック評価	【本科目はループリック評価を導入する。詳細については演習ループリックを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルレポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必ず基礎演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導・プレゼンテーションなどの際には講義課題として発表資料などを提出してもらう。（1.5時間程度）講義中に、						

	文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）		
オフィスアワー	火曜日 4限 9405研究室		
授業計画		担当者	
第1回	春学期の学びの振り返りと秋学期の目標設定		高藤
第2回	学習計画の設計の手法		高藤
第3回	学習目標の設定（1）：個人のキャリア・興味関心の観点から		高藤
第4回	学習目標の設定（2）：社会的な側面から		高藤
第5回	学習目標の設定（3）：設定理由の明確化		高藤
第6回	学習活動の展開（1）：情報収集の実践		高藤
第7回	学習活動の展開（2）：情報の整理・分析の実践		高藤
第8回	プレゼンテーションの技法（1）：事例から学ぶ		高藤
第9回	プレゼンテーションの技法（2）：構成及び表現		高藤
第10回	プレゼンテーションの技法（3）：プレゼンテーション資料の作成方法		高藤
第11回	プレゼンテーション演習（1）：構成の評価を中心として		高藤
第12回	プレゼンテーション演習（2）：資料の評価を中心として		高藤
第13回	プレゼンテーション演習（3）：総括的な評価として		高藤
第14回	コース選択のために：卒業後のキャリアをイメージすること		高藤
第15回	学習活動の評価：講義のまとめとして		高藤
第16回	レポート試験		高藤
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が作成する資料にもとづいて行う。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-402		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> 						
到達目標	<p>テーマ：学習の計画的実行と成果の発表</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：学習計画の立て方を知り、各自の学習課題に応じた学習計画を立てられるようになる 2：各自の興味関心を深め、社会的な事象に興味関心を持つことができる 3：春学期に身に付けたコミュニケーション能力をベースに協同して学習活動を実行できる 4：プレゼンテーションに必要な技法などを理解し、基本的な構成を意識したプレゼンテーションを実施できる 5：学習活動などを通じて、大学卒業後の姿をイメージし、適切なコース選択をすることができる 						
授業概要	<p>授業概要：</p> <p>本講義では春学期のコミュニケーション能力を活かしながら、各自でテーマを設定した上で、プレゼンテーション及びディスカッションを実施する。また、学習課題に取り組む過程で各自の卒業後の進路などに対する意識を深め、2年時以降のコース選択を考えてもらう。最初に各自の学習目標及び学習計画を作成してもらう（第1回～第5回）。その後実際に情報検索・調査を協働して実施してもらう（第6回～第7回）その後、学習成果をPCを用いたプレゼンテーションという形で発表し、ディスカッションを行い理解を深める（第8回～第13回）。最後に講義のまとめとしてコース選択（第14回）及び1年間の学びの振り返り（第15回）を行い、1年間で身に付けたものを確認し、2年次の「演習Ⅰ」にむけた春休み期間の準備を考える。</p> <p>本講義では、プレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行う。クラス全体で助け合いながら講義を進めていきたい。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーションの内容（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、プレゼンテーションを実施しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については演習ルーブリックを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルレポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必ず基礎演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導・プレゼンテーションなどの際には講義課題として発表資料などを提出してもらう。（1.5時間程度）講義中に、						

	文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	水曜日 4限 研究室にて		
授業計画		担当者	
第1回	春学期の学びの振り返りと秋学期の目標設定		竹内研
第2回	学習計画の設計の手法		竹内研
第3回	学習目標の設定(1):個人のキャリア・興味関心の観点から		竹内研
第4回	学習目標の設定(2):社会的な側面から		竹内研
第5回	学習目標の設定(3):設定理由の明確化		竹内研
第6回	学習活動の展開(1):情報収集の実践		竹内研
第7回	学習活動の展開(2):情報の整理・分析の実践		竹内研
第8回	プレゼンテーションの技法(1):事例から学ぶ		竹内研
第9回	プレゼンテーションの技法(2):構成及び表現		竹内研
第10回	プレゼンテーションの技法(3):プレゼンテーション資料の作成方法		竹内研
第11回	プレゼンテーション演習(1):構成の評価を中心として		竹内研
第12回	プレゼンテーション演習(2):資料の評価を中心として		竹内研
第13回	プレゼンテーション演習(3):総括的な評価として		竹内研
第14回	コース選択のために:卒業後のキャリアをイメージすること		竹内研
第15回	学習活動の評価:講義のまとめとして		竹内研
第16回	レポート試験		竹内研
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が作成する資料にもとづいて行う		教・出版社名1
教・著者名1			教・ISBN1
教・書籍名2			教・出版社名2
教・著者名2			教・ISBN2
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する		参・出版社名1
参・著者名1			参・ISBN1
参・書籍名2			参・出版社名2
参・著者名2			参・ISBN2

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-402		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：学習の計画的実行と成果の発表 到達目標： 1：学習計画の立て方を知り、各自の学習課題に応じた学習計画を立てられるようになる 2：各自の興味関心を深め、社会的な事象に興味関心を持つことができる 3：春学期に身に付けたコミュニケーション能力をベースに協同して学習活動を実行できる 4：プレゼンテーションに必要な技法などを理解し、基本的な構成を意識したプレゼンテーションを実施できる 5：学習活動などを通じて、大学卒業後の姿をイメージし、適切なコース選択をすることができる						
授業概要	授業概要： 本講義では春学期のコミュニケーション能力を活かしながら、各自でテーマを設定した上で、プレゼンテーション及びディスカッションを実施する。また、学習課題に取り組む過程で各自の卒業後の進路などに対する意識を深め、2年時以降のコース選択を考えてもらう。最初に各自の学習目標及び学習計画を作成してもらう（第1回～第5回）。その後実際に情報検索・調査を協働して実施してもらう（第6回～第7回）その後、学習成果をPCを用いたプレゼンテーションという形で発表し、ディスカッションを行い理解を深める（第8回～第13回）。最後に講義のまとめとしてコース選択（第14回）及び1年間の学びの振り返り（第15回）を行い、1年間で身に付けたものを確認し、2年次の「演習Ⅰ」にむけた春休み期間の準備を考える。 本講義では、プレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行う。クラス全体で助け合いながら講義を進めていきたい。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーションの内容（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、プレゼンテーションを実施しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については演習ルーブリックを確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必ず基礎演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導・プレゼンテーションなどの際には講義課題として発表資料などを提出してもらう。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと。（1.5時間程度）						

オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9410研究室）において、木曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。		
授業計画		担当者	
第1回	春学期の学びの振り返りと秋学期の目標設定	山口英峰	
第2回	学習計画の設計の手法	山口英峰	
第3回	学習目標の設定（1）：個人のキャリア・興味関心の観点から	山口英峰	
第4回	学習目標の設定（2）：社会的な側面から	山口英峰	
第5回	学習目標の設定（3）：設定理由の明確化	山口英峰	
第6回	学習活動の展開（1）：情報収集の実践	山口英峰	
第7回	学習活動の展開（2）：情報の整理・分析の実践	山口英峰	
第8回	プレゼンテーションの技法（1）：事例から学ぶ	山口英峰	
第9回	プレゼンテーションの技法（2）：構成及び表現	山口英峰	
第10回	プレゼンテーションの技法（3）：プレゼンテーション資料の作成方法	山口英峰	
第11回	プレゼンテーション演習（1）：構成の評価を中心として	山口英峰	
第12回	プレゼンテーション演習（2）：資料の評価を中心として	山口英峰	
第13回	プレゼンテーション演習（3）：総括的な評価として	山口英峰	
第14回	コース選択のために：卒業後のキャリアをイメージすること	山口英峰	
第15回	学習活動の評価：講義のまとめとして	山口英峰	
第16回	レポート試験	山口英峰	
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が作成する資料にもとづいて行う	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-402		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> 						
到達目標	<p>テーマ：学習の計画的実行と成果の発表</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：学習計画の立て方を知り、各自の学習課題に応じた学習計画を立てられるようになる 2：各自の興味関心を深め、社会的な事象に興味関心を持つことができる 3：春学期に身に付けたコミュニケーション能力をベースに協同して学習活動を実行できる 4：プレゼンテーションに必要な技法などを理解し、基本的な構成を意識したプレゼンテーションを実施できる 5：学習活動などを通じて、大学卒業後の姿をイメージし、適切なコース選択をすることができる 						
授業概要	<p>授業概要：</p> <p>本講義では春学期のコミュニケーション能力を活かしながら、各自でテーマを設定した上で、プレゼンテーション及びディスカッションを実施する。また、学習課題に取り組む過程で各自の卒業後の進路などに対する意識を深め、2年時以降のコース選択を考えてもらう。最初に各自の学習目標及び学習計画を作成してもらう（第1回～第5回）。その後実際に情報検索・調査を協働して実施してもらう（第6回～第7回）その後、学習成果をPCを用いたプレゼンテーションという形で発表し、ディスカッションを行い理解を深める（第8回～第13回）。最後に講義のまとめとしてコース選択（第14回）及び1年間の学びの振り返り（第15回）を行い、1年間で身に付けたものを確認し、2年次の「演習Ⅰ」にむけた春休み期間の準備を考える。</p> <p>本講義では、プレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行う。クラス全体で助け合いながら講義を進めていきたい。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーションの内容（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、プレゼンテーションを実施しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ループリック評価	【本科目はループリック評価を導入する。詳細については演習ループリックを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルレポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必ず基礎演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導・プレゼンテーションなどの際には講義課題として発表資料などを提出してもらう。（1.5時間程度）講義中に、						

	文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室		
授業計画		担当者	
第1回	春学期の学びの振り返りと秋学期の目標設定	天岡 寛	
第2回	学習計画の設計の手法	天岡 寛	
第3回	学習目標の設定(1):個人のキャリア・興味関心の観点から	天岡 寛	
第4回	学習目標の設定(2):社会的な側面から	天岡 寛	
第5回	学習目標の設定(3):設定理由の明確化	天岡 寛	
第6回	学習活動の展開(1):情報収集の実践	天岡 寛	
第7回	学習活動の展開(2):情報の整理・分析の実践	天岡 寛	
第8回	プレゼンテーションの技法(1):事例から学ぶ	天岡 寛	
第9回	プレゼンテーションの技法(2):構成及び表現	天岡 寛	
第10回	プレゼンテーションの技法(3):プレゼンテーション資料の作成方法	天岡 寛	
第11回	プレゼンテーション演習(1):構成の評価を中心として	天岡 寛	
第12回	プレゼンテーション演習(2):資料の評価を中心として	天岡 寛	
第13回	プレゼンテーション演習(3):総括的な評価として	天岡 寛	
第14回	コース選択のために:卒業後のキャリアをイメージすること	天岡 寛	
第15回	学習活動の評価:講義のまとめとして	天岡 寛	
第16回	レポート試験	天岡 寛	
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が作成する資料にもとづいて行う	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-402		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> 						
到達目標	<p>テーマ：学習の計画的実行と成果の発表</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：学習計画の立て方を知り、各自の学習課題に応じた学習計画を立てられるようになる 2：各自の興味関心を深め、社会的な事象に興味関心を持つことができる 3：春学期に身に付けたコミュニケーション能力をベースに協同して学習活動を実行できる 4：プレゼンテーションに必要な技法などを理解し、基本的な構成を意識したプレゼンテーションを実施できる 5：学習活動などを通じて、大学卒業後の姿をイメージし、適切なコース選択をすることができる 						
授業概要	<p>授業概要：</p> <p>本講義では春学期のコミュニケーション能力を活かしながら、各自でテーマを設定した上で、プレゼンテーション及びディスカッションを実施する。また、学習課題に取り組む過程で各自の卒業後の進路などに対する意識を深め、2年時以降のコース選択を考えてもらう。最初に各自の学習目標及び学習計画を作成してもらう（第1回～第5回）。その後実際に情報検索・調査を協働して実施してもらう（第6回～第7回）その後、学習成果をPCを用いたプレゼンテーションという形で発表し、ディスカッションを行い理解を深める（第8回～第13回）。最後に講義のまとめとしてコース選択（第14回）及び1年間の学びの振り返り（第15回）を行い、1年間で身に付けたものを確認し、2年次の「演習Ⅰ」にむけた春休み期間の準備を考える。</p> <p>本講義では、プレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行う。クラス全体で助け合いながら講義を進めていきたい。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーションの内容（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、プレゼンテーションを実施しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ループリック評価	【本科目はループリック評価を導入する。詳細については演習ループリックを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルレポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必ず基礎演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導・プレゼンテーションなどの際には講義課題として発表資料などを提出してもらう。（1.5時間程度）講義中に、						

	文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	火曜日 3限 研究室(9401)		
授業計画		担当者	
第1回	春学期の学びの振り返りと秋学期の目標設定		太田真司
第2回	学習計画の設計の手法		太田真司
第3回	学習目標の設定(1):個人のキャリア・興味関心の観点から		太田真司
第4回	学習目標の設定(2):社会的な側面から		太田真司
第5回	学習目標の設定(3):設定理由の明確化		太田真司
第6回	学習活動の展開(1):情報収集の実践		太田真司
第7回	学習活動の展開(2):情報の整理・分析の実践		太田真司
第8回	プレゼンテーションの技法(1):事例から学ぶ		太田真司
第9回	プレゼンテーションの技法(2):構成及び表現		太田真司
第10回	プレゼンテーションの技法(3):プレゼンテーション資料の作成方法		太田真司
第11回	プレゼンテーション演習(1):構成の評価を中心として		太田真司
第12回	プレゼンテーション演習(2):資料の評価を中心として		太田真司
第13回	プレゼンテーション演習(3):総括的な評価として		太田真司
第14回	コース選択のために:卒業後のキャリアをイメージすること		太田真司
第15回	学習活動の評価:講義のまとめとして		太田真司
第16回	レポート試験		太田真司
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が作成する資料にもとづいて行う		教・出版社名1
教・著者名1			教・ISBN1
教・書籍名2			教・出版社名2
教・著者名2			教・ISBN2
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する		参・出版社名1
参・著者名1			参・ISBN1
参・書籍名2			参・出版社名2
参・著者名2			参・ISBN2

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-402		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> 						
到達目標	<p>テーマ：学習の計画的実行と成果の発表</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：学習計画の立て方を知り、各自の学習課題に応じた学習計画を立てられるようになる 2：各自の興味関心を深め、社会的な事象に興味関心を持つことができる 3：春学期に身に付けたコミュニケーション能力をベースに協同して学習活動を実行できる 4：プレゼンテーションに必要な技法などを理解し、基本的な構成を意識したプレゼンテーションを実施できる 5：学習活動などを通じて、大学卒業後の姿をイメージし、適切なコース選択をすることができる 						
授業概要	<p>授業概要：</p> <p>本講義では春学期のコミュニケーション能力を活かしながら、各自でテーマを設定した上で、プレゼンテーション及びディスカッションを実施する。また、学習課題に取り組む過程で各自の卒業後の進路などに対する意識を深め、2年時以降のコース選択を考えてもらう。最初に各自の学習目標及び学習計画を作成してもらう（第1回～第5回）。その後実際に情報検索・調査を協働して実施してもらう（第6回～第7回）その後、学習成果をPCを用いたプレゼンテーションという形で発表し、ディスカッションを行い理解を深める（第8回～第13回）。最後に講義のまとめとしてコース選択（第14回）及び1年間の学びの振り返り（第15回）を行い、1年間で身に付けたものを確認し、2年次の「演習Ⅰ」にむけた春休み期間の準備を考える。</p> <p>本講義では、プレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行う。クラス全体で助け合いながら講義を進めていきたい。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーションの内容（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、プレゼンテーションを実施しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ループリク評価	【本科目はループリク評価を導入する。詳細については演習ループリクを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルレポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必ず基礎演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導・プレゼンテーションなどの際には講義課題として発表資料などを提出してもらう。（1.5時間程度）講義中に、						

	文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	水曜日 4限 研究室にて		
授業計画		担当者	
第1回	春学期の学びの振り返りと秋学期の目標設定		倉知典弘
第2回	学習計画の設計の手法		倉知典弘
第3回	学習目標の設定(1):個人のキャリア・興味関心の観点から		倉知典弘
第4回	学習目標の設定(2):社会的な側面から		倉知典弘
第5回	学習目標の設定(3):設定理由の明確化		倉知典弘
第6回	学習活動の展開(1):情報収集の実践		倉知典弘
第7回	学習活動の展開(2):情報の整理・分析の実践		倉知典弘
第8回	プレゼンテーションの技法(1):事例から学ぶ		倉知典弘
第9回	プレゼンテーションの技法(2):構成及び表現		倉知典弘
第10回	プレゼンテーションの技法(3):プレゼンテーション資料の作成方法		倉知典弘
第11回	プレゼンテーション演習(1):構成の評価を中心として		倉知典弘
第12回	プレゼンテーション演習(2):資料の評価を中心として		倉知典弘
第13回	プレゼンテーション演習(3):総括的な評価として		倉知典弘
第14回	コース選択のために:卒業後のキャリアをイメージすること		倉知典弘
第15回	学習活動の評価:講義のまとめとして		倉知典弘
第16回	レポート試験		倉知典弘
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が作成する資料にもとづいて行う	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-402		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：学習の計画的実行と成果の発表 到達目標： 1：学習計画の立て方を知り、各自の学習課題に応じた学習計画を立てられるようになる 2：各自の興味関心を深め、社会的な事象に興味関心を持つことができる 3：春学期に身に付けたコミュニケーション能力をベースに協同して学習活動を実行できる 4：プレゼンテーションに必要な技法などを理解し、基本的な構成を意識したプレゼンテーションを実施できる 5：学習活動などを通じて、大学卒業後の姿をイメージし、適切なコース選択をすることができる						
授業概要	授業概要： 本講義では春学期のコミュニケーション能力を活かしながら、各自でテーマを設定した上で、プレゼンテーション及びディスカッションを実施する。また、学習課題に取り組む過程で各自の卒業後の進路などに対する意識を深め、2年時以降のコース選択を考えてもらう。最初に各自の学習目標及び学習計画を作成してもらう（第1回～第5回）。その後実際に情報検索・調査を協働して実施してもらう（第6回～第7回）その後、学習成果をPCを用いたプレゼンテーションという形で発表し、ディスカッションを行い理解を深める（第8回～第13回）。最後に講義のまとめとしてコース選択（第14回）及び1年間の学びの振り返り（第15回）を行い、1年間で身に付けたものを確認し、2年次の「演習Ⅰ」にむけた春休み期間の準備を考える。 本講義では、プレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行う。クラス全体で助け合いながら講義を進めていきたい。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーションの内容（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、プレゼンテーションを実施しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ループリク評価	【本科目はループリク評価を導入する。詳細については演習ループリクを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルレポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必ず基礎演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導・プレゼンテーションなどの際には講義課題として発表資料などを提出してもらう。（1.5時間程度）講義中に、						

	文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	月曜日2限 研究室 (9402)		
授業計画		担当者	
第1回	春学期の学びの振り返りと秋学期の目標設定		高原皓全
第2回	学習計画の設計の手法		高原皓全
第3回	学習目標の設定(1):個人のキャリア・興味関心の観点から		高原皓全
第4回	学習目標の設定(2):社会的な側面から		高原皓全
第5回	学習目標の設定(3):設定理由の明確化		高原皓全
第6回	学習活動の展開(1):情報収集の実践		高原皓全
第7回	学習活動の展開(2):情報の整理・分析の実践		高原皓全
第8回	プレゼンテーションの技法(1):事例から学ぶ		高原皓全
第9回	プレゼンテーションの技法(2):構成及び表現		高原皓全
第10回	プレゼンテーションの技法(3):プレゼンテーション資料の作成方法		高原皓全
第11回	プレゼンテーション演習(1):構成の評価を中心として		高原皓全
第12回	プレゼンテーション演習(2):資料の評価を中心として		高原皓全
第13回	プレゼンテーション演習(3):総括的な評価として		高原皓全
第14回	コース選択のために:卒業後のキャリアをイメージすること		高原皓全
第15回	学習活動の評価:講義のまとめとして		高原皓全
第16回	レポート試験		高原皓全
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が作成する資料にもとづいて行う		教・出版社名1
教・著者名1			教・ISBN1
教・書籍名2			教・出版社名2
教・著者名2			教・ISBN2
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する		参・出版社名1
参・著者名1			参・ISBN1
参・書籍名2			参・出版社名2
参・著者名2			参・ISBN2

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-402		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：学習の計画的実行と成果の発表 到達目標： 1：学習計画の立て方を知り、各自の学習課題に応じた学習計画を立てられるようになる 2：各自の興味関心を深め、社会的な事象に興味関心を持つことができる 3：春学期に身に付けたコミュニケーション能力をベースに協同して学習活動を実行できる 4：プレゼンテーションに必要な技法などを理解し、基本的な構成を意識したプレゼンテーションを実施できる 5：学習活動などを通じて、大学卒業後の姿をイメージし、適切なコース選択をすることができる						
授業概要	授業概要： 本講義では春学期のコミュニケーション能力を活かしながら、各自でテーマを設定した上で、プレゼンテーション及びディスカッションを実施する。また、学習課題に取り組む過程で各自の卒業後の進路などに対する意識を深め、2年時以降のコース選択を考えてもらう。最初に各自の学習目標及び学習計画を作成してもらう（第1回～第5回）。その後実際に情報検索・調査を協働して実施してもらう（第6回～第7回）その後、学習成果をPCを用いたプレゼンテーションという形で発表し、ディスカッションを行い理解を深める（第8回～第13回）。最後に講義のまとめとしてコース選択（第14回）及び1年間の学びの振り返り（第15回）を行い、1年間で身に付けたものを確認し、2年次の「演習Ⅰ」にむけた春休み期間の準備を考える。 本講義では、プレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行う。クラス全体で助け合いながら講義を進めていきたい。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーションの内容（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、プレゼンテーションを実施しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ループリック評価	【本科目はループリック評価を導入する。詳細については演習ループリックを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルレポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必ず基礎演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導・プレゼンテーションなどの際には講義課題として発表資料などを提出してもらう。（1.5時間程度）講義中に、						

	文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	金曜日 2限 研究室(9411)にて		
授業計画		担当者	
第1回	春学期の学びの振り返りと秋学期の目標設定		羽野真哉
第2回	学習計画の設計の手法		羽野真哉
第3回	学習目標の設定(1):個人のキャリア・興味関心の観点から		羽野真哉
第4回	学習目標の設定(2):社会的な側面から		羽野真哉
第5回	学習目標の設定(3):設定理由の明確化		羽野真哉
第6回	学習活動の展開(1):情報収集の実践		羽野真哉
第7回	学習活動の展開(2):情報の整理・分析の実践		羽野真哉
第8回	プレゼンテーションの技法(1):事例から学ぶ		羽野真哉
第9回	プレゼンテーションの技法(2):構成及び表現		羽野真哉
第10回	プレゼンテーションの技法(3):プレゼンテーション資料の作成方法		羽野真哉
第11回	プレゼンテーション演習(1):構成の評価を中心として		羽野真哉
第12回	プレゼンテーション演習(2):資料の評価を中心として		羽野真哉
第13回	プレゼンテーション演習(3):総括的な評価として		羽野真哉
第14回	コース選択のために:卒業後のキャリアをイメージすること		羽野真哉
第15回	学習活動の評価:講義のまとめとして		羽野真哉
第16回	レポート試験		羽野真哉
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が作成する資料にもとづいて行う	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-403		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。論理的に物事を考える力を身につけることができる。 到達目標： 1：健康づくりの議論で用いられる基本的な概念を説明できるようになる 2：健康づくりの観点から（地域）社会の在り方について論理的に意見を述べるようになる。 3：健康づくりの基礎知識をもとに組織のあり方について論理的に意見を述べるようになる 4：運動指導のあり方について論理的に意見を述べるようになる						
授業概要	本講義では、健康スポーツコースで学ぶために必要な基礎的な概念を文章読解、プレゼンテーション及びそれらに基づいたディスカッションを通じて理解することを目的としている。 本講義は「健康と健康づくりに関わる基礎概念」や「運動・栄養・休養との関係」、「地域社会でのあり方」、「運動指導の基礎」など自分が疑問に感じること、興味があることについて考え、その中から各自がテーマを選択する。 この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、健康等に関する知識だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図ることを期待する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢20%，提出物30%，議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の演習Ⅱの最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	水曜日3時限目 6号館3階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーションと学習目標の設定					孫基然	
第2回	健康とは何か					孫基然	
第3回	健康と栄養					孫基然	

第4回	健康と休養	孫基然
第5回	健康と運動	孫基然
第6回	地域社会と健康	孫基然
第7回	健康づくりとは何か	孫基然
第8回	健康づくりと行政と政策	孫基然
第9回	健康づくりにおける組織論	孫基然
第10回	健康づくりと組織の人的側面	孫基然
第11回	健康運動指導とは何か	孫基然
第12回	運動指導の基礎的技法	孫基然
第13回	運動指導と指導者論	孫基然
第14回	資料の収集（健康・栄養・休養・運動に関する資料）	孫基然
第15回	資料の収集（健康づくりに関する資料）	孫基然
第16回	最終課題	孫基然
教科書		
教・書籍名1	適宜指示する	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	演習 I			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-403		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：スポーツマネジメントやコーチングを学ぶための基礎理論及び組織論を学ぶ 到達目標 1: マネジメントやコーチングの議論で用いられる基本的な概念を説明できるようになる 2: マネジメントの観点から（地域）社会のスポーツの在り方について論理的に意見を述べるができるようになる。 3: マネジメントの基礎知識をもとに組織のあり方について論理的に意見を述べるができるようになる 4: コーチングや教育学の議論をもとに、スポーツ指導のあり方について論理的に意見を述べるができるようになる						
授業概要	本講義では、スポーツマネジメント・コーチコースで学ぶために必要な基礎的な概念を文章読解、プレゼンテーション及びそれらに基づいたディスカッションを通じて理解することを目的としている。 本講義は本コースで学ぶことに応じて4つの段階に区分されている。まず、最初にマネジメントに関わる基礎概念を学ぶ（第1回～第7回）。スポーツ組織のあり方等の学習を通じて、社会における組織やビジネス、法制度のあり方について理解を深め、スポーツを振興するための仕組みのあり方について考察する能力の基礎をつくることを目的とする。次に、スポーツの指導技法に関わるコーチングについて学ぶ（第8回～第10回）。この学習を通じて、ひとを育てるための手法などについて理解を深める。その後、学校教育におけるスポーツのあり方を保健体育・部活動の観点から学習し（第11回～第13回）、教育という観点からスポーツ指導のあり方を考える力を培う。最後に、この講義全体を通じて学んだことを自分の言葉でプレゼンテーションしてもらい、マネジメントに対する理解を深めていく。この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、マネジメント等に関する知識だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図っていただきたい。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義中に提示する課題（30％）、プレゼンテーション（30％）、終講レポート（40％）で評価を行う。講義中課題が未提出、プレゼンテーションの未実施、終講課題の未提出がある場合は成績評価を行わず、放棄として扱う。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の演習Ⅱの最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	火曜日4限 研究室（9405）にて						

授業計画		担当者	
第1回	ガイダンス及び学習目標の設定	高藤	
第2回	スポーツマネジメントとは何か	高藤	
第3回	スポーツにおける組織論：組織とチームのあり方	高藤	
第4回	スポーツ組織の人的側面：人事・人材育成	高藤	
第5回	スポーツビジネスとは何か	高藤	
第6回	スポーツ行政と政策	高藤	
第7回	地域社会とスポーツ：総合型地域スポーツクラブを中心に	高藤	
第8回	コーチングとは何か：コーチングの基礎的思想	高藤	
第9回	コーチングの基礎的技法	高藤	
第10回	コーチングと指導者論：リーダーシップのあり方	高藤	
第11回	学校教育におけるスポーツ（1）：教育論・学校論基礎	高藤	
第12回	学校教育におけるスポーツ（2）：保健体育におけるマネジメント	高藤	
第13回	学校教育におけるスポーツ（3）：部活動の意義と課題	高藤	
第14回	プレゼンテーション（1） マネジメントについての考察	高藤	
第15回	プレゼンテーション（2） 春学期の学びを振り返る	高藤	
第16回	レポート試験	高藤	
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が用意する授業資料を基に講義を行う。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	基本・スポーツマネジメント	参・出版社名1	大修館書店
参・著者名1	畑 攻, 小野里真弓編著	参・ISBN1	978-4469268324
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習 I			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-403		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。論理的に物事を考える力を身につけることができる。 到達目標： 1：健康づくりの議論で用いられる基本的な概念を説明できるようになる 2：健康づくりの観点から（地域）社会の在り方について論理的に意見を述べるようになる。 3：健康づくりの基礎知識をもとに組織のあり方について論理的に意見を述べるようになる 4：運動指導のあり方について論理的に意見を述べるようになる						
授業概要	本講義では、健康スポーツコースで学ぶために必要な基礎的な概念を文章読解、プレゼンテーション及びそれらに基づいたディスカッションを通じて理解することを目的としている。 本講義は「健康と健康づくりに関わる基礎概念」や「運動・栄養・休養との関係」、「地域社会でのあり方」、「運動指導の基礎」など自分が疑問に感じること、興味があることについて考え、その中から各自がテーマを選択する。 この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、健康等に関する知識だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図ることを期待する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢20%，提出物30%，議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の演習Ⅱの最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	水曜日5時限目 研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーションと学習目標の設定・研究倫理の教育					竹内研	
第2回	健康とは何か					竹内研	
第3回	健康と栄養					竹内研	

第4回	健康と休養	竹内研
第5回	健康と運動	竹内研
第6回	地域社会と健康	竹内研
第7回	健康づくりとは何か	竹内研
第8回	健康づくりと行政と政策	竹内研
第9回	健康づくりにおける組織論	竹内研
第10回	健康づくりと組織の人的側面	竹内研
第11回	健康運動指導とは何か	竹内研
第12回	運動指導の基礎的技法	竹内研
第13回	運動指導と指導者論	竹内研
第14回	資料の収集（健康・栄養・休養・運動に関する資料）	竹内研
第15回	資料の収集（健康づくりに関する資料）	竹内研
第16回	最終課題	竹内研

教科書

教・書籍名1	適宜指示する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-403		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。論理的に物事を考える力を身につけることができる。 到達目標： 1：健康づくりの議論で用いられる基本的な概念を説明できるようになる 2：健康づくりの観点から（地域）社会の在り方について論理的に意見を述べるようになる。 3：健康づくりの基礎知識をもとに組織のあり方について論理的に意見を述べるようになる 4：運動指導のあり方について論理的に意見を述べるようになる						
授業概要	本講義では、健康スポーツコースで学ぶために必要な基礎的な概念を文章読解、プレゼンテーション及びそれらに基づいたディスカッションを通じて理解することを目的としている。 本講義は「健康と健康づくりに関わる基礎概念」や「運動・栄養・休養との関係」、「地域社会でのあり方」、「運動指導の基礎」など自分が疑問に感じること、興味があることについて考え、その中から各自がテーマを選択する。 この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、健康等に関する知識だけではなく、コミュニケーション能力の向上を図ることを期待する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢20%，提出物30%，議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の演習Ⅱの最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーションと学習目標の設定					山口英峰	
第2回	健康とは何か					山口英峰	
第3回	健康と栄養					山口英峰	

第4回	健康と休養	山口英峰
第5回	健康と運動	山口英峰
第6回	地域社会と健康	山口英峰
第7回	健康づくりとは何か	山口英峰
第8回	健康づくりと行政と政策	山口英峰
第9回	健康づくりにおける組織論	山口英峰
第10回	健康づくりと組織の人的側面	山口英峰
第11回	健康運動指導とは何か	山口英峰
第12回	運動指導の基礎的技法	山口英峰
第13回	運動指導と指導者論	山口英峰
第14回	資料の収集（健康・栄養・休養・運動に関する資料）	山口英峰
第15回	資料の収集（健康づくりに関する資料）	山口英峰
第16回	最終課題	山口英峰
教科書		
教・書籍名1	適宜指示する	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	演習 I			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-403		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。論理的に物事を考える力を身につけることができる。 到達目標： 1：健康づくりの議論で用いられる基本的な概念を説明できるようになる 2：健康づくりの観点から（地域）社会の在り方について論理的に意見を述べるようになる。 3：健康づくりの基礎知識をもとに組織のあり方について論理的に意見を述べるようになる 4：運動指導のあり方について論理的に意見を述べるようになる						
授業概要	本講義では、健康スポーツコースで学ぶために必要な基礎的な概念を文章読解、プレゼンテーション及びそれらに基づいたディスカッションを通じて理解することを目的としている。 本講義は「健康と健康づくりに関わる基礎概念」や「運動・栄養・休養との関係」、「地域社会でのあり方」、「運動指導の基礎」など自分が疑問に感じること、興味があることについて考え、その中から各自がテーマを選択する。 この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、健康等に関する知識だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図ることを期待する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢20%，提出物30%，議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の演習Ⅱの最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーションと学習目標の設定					天岡 寛	
第2回	健康とは何か					天岡 寛	
第3回	健康と栄養					天岡 寛	

第4回	健康と休養	天岡 寛
第5回	健康と運動	天岡 寛
第6回	地域社会と健康	天岡 寛
第7回	健康づくりとは何か	天岡 寛
第8回	健康づくりと行政と政策	天岡 寛
第9回	健康づくりにおける組織論	天岡 寛
第10回	健康づくりと組織の人的側面	天岡 寛
第11回	健康運動指導とは何か	天岡 寛
第12回	運動指導の基礎的技法	天岡 寛
第13回	運動指導と指導者論	天岡 寛
第14回	資料の収集（健康・栄養・休養・運動に関する資料）	天岡 寛
第15回	資料の収集（健康づくりに関する資料）	天岡 寛
第16回	最終課題	天岡 寛
教科書		
教・書籍名1	適宜指示する	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	演習 I			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-403		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：スポーツマネジメントやコーチングを学ぶための基礎理論及び組織論を学ぶ 到達目標 1: マネジメントやコーチングの議論で用いられる基本的な概念を説明できるようになる 2: マネジメントの観点から（地域）社会のスポーツの在り方について論理的に意見を述べるができるようになる。 3: マネジメントの基礎知識をもとに組織のあり方について論理的に意見を述べるができるようになる 4: コーチングや教育学の議論をもとに、スポーツ指導のあり方について論理的に意見を述べるができるようになる						
授業概要	本講義では、スポーツマネジメント・コーチコースで学ぶために必要な基礎的な概念を文章読解、プレゼンテーション及びそれらに基づいたディスカッションを通じて理解することを目的としている。 本講義は本コースで学ぶことに応じて4つの段階に区分されている。まず、最初にマネジメントに関わる基礎概念を学ぶ（第1回～第7回）。スポーツ組織のあり方等の学習を通じて、社会における組織やビジネス、法制度のあり方について理解を深め、スポーツを振興するための仕組みのあり方について考察する能力の基礎をつくることを目的とする。次に、スポーツの指導技法に関わるコーチングについて学ぶ（第8回～第10回）。この学習を通じて、ひとを育てるための手法などについて理解を深める。その後、学校教育におけるスポーツのあり方を保健体育・部活動の観点から学習し（第11回～第13回）、教育という観点からスポーツ指導のあり方を考える力を培う。最後に、この講義全体を通じて学んだことを自分の言葉でプレゼンテーションしてもらい、マネジメントに対する理解を深めていく。 この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、マネジメント等に関する知識だけではなく、コミュニケーション能力の向上を図っていただきたい。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義中に提示する課題（30％）、プレゼンテーション（30％）、終講レポート（40％）で評価を行う。講義中課題が未提出、プレゼンテーションの未実施、終講課題の未提出がある場合は成績評価を行わず、放棄として扱う。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の演習Ⅱの最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	水曜日4限 研究室（9301）にて						

授業計画		担当者	
第1回	ガイダンス及び学習目標の設定	太田真司	
第2回	スポーツマネジメントとは何か	太田真司	
第3回	スポーツにおける組織論：組織とチームのあり方	太田真司	
第4回	スポーツ組織の人的側面：人事・人材育成	太田真司	
第5回	スポーツビジネスとは何か	太田真司	
第6回	スポーツ行政と政策	太田真司	
第7回	地域社会とスポーツ：総合型地域スポーツクラブを中心に	太田真司	
第8回	コーチングとは何か：コーチングの基礎的思想	太田真司	
第9回	コーチングの基礎的技法	太田真司	
第10回	コーチングと指導者論：リーダーシップのあり方	太田真司	
第11回	学校教育におけるスポーツ（1）：教育論・学校論基礎	太田真司	
第12回	学校教育におけるスポーツ（2）：保健体育におけるマネジメント	太田真司	
第13回	学校教育におけるスポーツ（3）：部活動の意義と課題	太田真司	
第14回	プレゼンテーション（1） マネジメントについての考察	太田真司	
第15回	プレゼンテーション（2） 春学期の学びを振り返る	太田真司	
第16回	レポート試験	倉知典弘	
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が用意する授業資料を基に講義を行う。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	基本・スポーツマネジメント	参・出版社名1	大修館書店
参・著者名1	畑 攻, 小野里真弓編著	参・ISBN1	978-4469268324
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習 I			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-403		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：スポーツマネジメントやコーチングを学ぶための基礎理論及び組織論を学ぶ 到達目標 1: マネジメントやコーチングの議論で用いられる基本的な概念を説明できるようになる 2: マネジメントの観点から（地域）社会のスポーツの在り方について論理的に意見を述べるができるようになる。 3: マネジメントの基礎知識をもとに組織のあり方について論理的に意見を述べるができるようになる 4: コーチングや教育学の議論をもとに、スポーツ指導のあり方について論理的に意見を述べるができるようになる						
授業概要	本講義では、スポーツマネジメント・コーチコースで学ぶために必要な基礎的な概念を文章読解、プレゼンテーション及びそれらに基づいたディスカッションを通じて理解することを目的としている。 本講義は本コースで学ぶことに応じて4つの段階に区分されている。まず、最初にマネジメントに関わる基礎概念を学ぶ（第1回～第7回）。スポーツ組織のあり方等の学習を通じて、社会における組織やビジネス、法制度のあり方について理解を深め、スポーツを振興するための仕組みのあり方について考察する能力の基礎をつくることを目的とする。次に、スポーツの指導技法に関わるコーチングについて学ぶ（第8回～第10回）。この学習を通じて、ひとを育てるための手法などについて理解を深める。その後、学校教育におけるスポーツのあり方を保健体育・部活動の観点から学習し（第11回～第13回）、教育という観点からスポーツ指導のあり方を考える力を培う。最後に、この講義全体を通じて学んだことを自分の言葉でプレゼンテーションしてもらい、マネジメントに対する理解を深めていく。 この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、マネジメント等に関する知識だけではなく、コミュニケーション能力の向上を図っていただきたい。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義中に提示する課題（30％）、プレゼンテーション（30％）、終講レポート（40％）で評価を行う。講義中課題が未提出、プレゼンテーションの未実施、終講課題の未提出がある場合は成績評価を行わず、放棄として扱う。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の演習Ⅱの最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	水曜日4限 研究室（9301）にて						

授業計画		担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について	倉知典弘	
第2回	スポーツマネジメントとは何か	倉知典弘	
第3回	スポーツにおける組織論：組織とチームのあり方	倉知典弘	
第4回	スポーツ組織の人的側面：人事・人材育成	倉知典弘	
第5回	スポーツビジネスとは何か	倉知典弘	
第6回	スポーツ行政と政策	倉知典弘	
第7回	地域社会とスポーツ：総合型地域スポーツクラブを中心に	倉知典弘	
第8回	コーチングとは何か：コーチングの基礎的思想	倉知典弘	
第9回	コーチングの基礎的技法	倉知典弘	
第10回	コーチングと指導者論：リーダーシップのあり方	倉知典弘	
第11回	学校教育におけるスポーツ（1）：教育論・学校論基礎	倉知典弘	
第12回	学校教育におけるスポーツ（2）：保健体育におけるマネジメント	倉知典弘	
第13回	学校教育におけるスポーツ（3）：部活動の意義と課題	倉知典弘	
第14回	プレゼンテーション（1） マネジメントについての考察	倉知典弘	
第15回	プレゼンテーション（2） 春学期の学びを振り返る	倉知典弘	
第16回	レポート試験	倉知典弘	
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が用意する授業資料を基に講義を行う。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	基本・スポーツマネジメント	参・出版社名1	大修館書店
参・著者名1	畑 攻, 小野里真弓編著	参・ISBN1	978-4469268324
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-403		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。論理的に物事を考える力を身につけることができる。 到達目標： 1：健康づくりの議論で用いられる基本的な概念を説明できるようになる 2：健康づくりの観点から（地域）社会の在り方について論理的に意見を述べるようになる。 3：健康づくりの基礎知識をもとに組織のあり方について論理的に意見を述べるようになる 4：運動指導のあり方について論理的に意見を述べるようになる						
授業概要	本講義では、健康スポーツコースで学ぶために必要な基礎的な概念を文章読解、プレゼンテーション及びそれらに基づいたディスカッションを通じて理解することを目的としている。 本講義は「健康と健康づくりに関わる基礎概念」や「運動・栄養・休養との関係」、「地域社会でのあり方」、「運動指導の基礎」など自分が疑問に感じること、興味があることについて考え、その中から各自がテーマを選択する。 この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、健康等に関する知識だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図ることを期待する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢20%，提出物30%，議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の演習Ⅱの最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	月曜日2時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーションと学習目標の設定					高原皓全	
第2回	健康とは何か					高原皓全	
第3回	健康と栄養					高原皓全	

第4回	健康と休養	高原皓全
第5回	健康と運動	高原皓全
第6回	地域社会と健康	高原皓全
第7回	健康づくりとは何か	高原皓全
第8回	健康づくりと行政と政策	高原皓全
第9回	健康づくりにおける組織論	高原皓全
第10回	健康づくりと組織の人的側面	高原皓全
第11回	健康運動指導とは何か	高原皓全
第12回	運動指導の基礎的技法	高原皓全
第13回	運動指導と指導者論	高原皓全
第14回	資料の収集（健康・栄養・休養・運動に関する資料）	高原皓全
第15回	資料の収集（健康づくりに関する資料）	高原皓全
第16回	最終課題	高原皓全
教科書		
教・書籍名1	適宜指示する	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	演習 I			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-403		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：スポーツマネジメントやコーチングを学ぶための基礎理論及び組織論を学ぶ 到達目標 1: マネジメントやコーチングの議論で用いられる基本的な概念を説明できるようになる 2: マネジメントの観点から（地域）社会のスポーツの在り方について論理的に意見を述べるができるようになる。 3: マネジメントの基礎知識をもとに組織のあり方について論理的に意見を述べるができるようになる 4: コーチングや教育学の議論をもとに、スポーツ指導のあり方について論理的に意見を述べるができるようになる						
授業概要	本講義では、スポーツマネジメント・コーチコースで学ぶために必要な基礎的な概念を文章読解、プレゼンテーション及びそれらに基づいたディスカッションを通じて理解することを目的としている。 本講義は本コースで学ぶことに応じて4つの段階に区分されている。まず、最初にマネジメントに関わる基礎概念を学ぶ（第1回～第7回）。スポーツ組織のあり方等の学習を通じて、社会における組織やビジネス、法制度のあり方について理解を深め、スポーツを振興するための仕組みのあり方について考察する能力の基礎をつくることを目的とする。次に、スポーツの指導技法に関わるコーチングについて学ぶ（第8回～第10回）。この学習を通じて、ひとを育てるための手法などについて理解を深める。その後、学校教育におけるスポーツのあり方を保健体育・部活動の観点から学習し（第11回～第13回）、教育という観点からスポーツ指導のあり方を考える力を培う。最後に、この講義全体を通じて学んだことを自分の言葉でプレゼンテーションしてもらい、マネジメントに対する理解を深めていく。 この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、マネジメント等に関する知識だけではなく、コミュニケーション能力の向上を図っていただきたい。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義中に提示する課題（30％）、プレゼンテーション（30％）、終講レポート（40％）で評価を行う。講義中課題が未提出、プレゼンテーションの未実施、終講課題の未提出がある場合は成績評価を行わず、放棄として扱う。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の演習Ⅱの最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	金曜日 2限 9号館4階研究室（9411）にて						

授業計画		担当者	
第1回	ガイダンス及び学習目標の設定	羽野	
第2回	スポーツマネジメントとは何か	羽野	
第3回	スポーツにおける組織論：組織とチームのあり方	羽野	
第4回	スポーツ組織の人的側面：人事・人材育成	羽野	
第5回	スポーツビジネスとは何か	羽野	
第6回	スポーツ行政と政策	羽野	
第7回	地域社会とスポーツ：総合型地域スポーツクラブを中心に	羽野	
第8回	コーチングとは何か：コーチングの基礎的思想	羽野	
第9回	コーチングの基礎的技法	羽野	
第10回	コーチングと指導者論：リーダーシップのあり方	羽野	
第11回	学校教育におけるスポーツ（1）：教育論・学校論基礎	羽野	
第12回	学校教育におけるスポーツ（2）：保健体育におけるマネジメント	羽野	
第13回	学校教育におけるスポーツ（3）：部活動の意義と課題	羽野	
第14回	プレゼンテーション（1） マネジメントについての考察	羽野	
第15回	プレゼンテーション（2） 春学期の学びを振り返る	羽野	
第16回	レポート試験	羽野	
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が用意する授業資料を基に講義を行う。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	基本・スポーツマネジメント	参・出版社名1	大修館書店
参・著者名1	畑 攻, 小野里真弓編著	参・ISBN1	978-4469268324
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-404		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	<p>テーマ： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。論理的に物事を考える力を身につけることができる。</p> <p>到達目標： 1：健康づくりと運動・栄養・休養の関係について説明できるようになる 2：健康づくりの観点から関連する資料を読み取ることができるようになる。 3：健康づくりの観点から各自のテーマの成果をまとめて発表することができる。 4：3年次以降に深めたいテーマを見つけて、適切にゼミを選択することができる。</p>						
授業概要	<p>演習Ⅰで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて、発表し、全員で討論する。3年生の演習に結びつくように内容にまとめる必要がある。</p> <p>この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、健康等に関する知識だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図ることを期待する。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢20%，提出物30%，議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	水曜日3時限目 6号館3階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					孫基然	
第2回	抄読（スポーツに関する資料）					孫基然	
第3回	抄読（教育に関する資料）					孫基然	
第4回	抄読（健康と食生活に関する資料）					孫基然	
第5回	抄読（健康と運動に関する資料）					孫基然	
第6回	抄読（健康と休養に関する資料）					孫基然	
第7回	発表準備（スポーツに関する資料）					孫基然	

第8回	発表準備（教育に関する資料）	孫基然
第9回	発表準備（健康と食生活に関する資料）	孫基然
第10回	発表準備（健康と運動に関する資料）	孫基然
第11回	発表準備（健康と休養に関する資料）	孫基然
第12回	発表（スポーツに関する資料）	孫基然
第13回	発表（教育に関する資料）	孫基然
第14回	発表（健康と食生活に関する資料）	孫基然
第15回	発表（健康と運動に関する資料）	孫基然
第16回	最終課題	孫基然

教科書

教・書籍名1	適宜指示する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-404		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：組織を変革するリーダーシップとは何かを考える 到達目標 1：新たなリーダーシップが求められている時代背景を理解する 2：ポジティブアプローチを理解し、その意義を述べることができるようになる 3：サーバントリーダーシップの考え方を理解する 4：組織変革を促すリーダーシップの在り方を考え、自身の見解を表現できる 5：学習したリーダーシップのあり方に関する知見を活用して、自身の所属する組織にふさわしいリーダーシップのあり方を考え、表現出来る						
授業概要	本講義は演習Ⅰの継続として実施されるものである。演習Ⅰでは学習する組織論を通じて組織の変革をどのように進めるのかを学習してきた。本講義では、組織変革のためのリーダーシップについて学ぶ。まず、組織が置かれている社会的状況を改めて確認し（第1回～第3回）、リーダーシップのあり方も変化していることを確認する。その後ポジティブアプローチを検討する（第4回～第5回）。以上の検討ののち、新しいリーダーシップを考えるための手掛かりとして「サーバントリーダーシップ」について検討する（第6回～第11回）。これらの理解をもとにして自分自身のリーダーシップに関する意見をまとめ、受講者相互で批評しあう（第12回～第15回）。このことを通じて、今までのリーダーシップの考え方を批判的に見つめる視点が構築されるだろう。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	文献の読解力を測るための報告資料（30％）、授業の理解度を測るためのプレゼンテーション（50％）、自身の学習経験を振り返るための終講レポート（20％）で評価する。報告資料は著者の見解を正確に理解できているかどうかを評価する。プレゼンテーションでは、文献等に示されたリーダーシップのあり方についての理解が正確であるか、各自の経験（組織の在り方）を検討できているかを評価する。終講レポートでは、講義において実施した学び方を理解できているかを評価する。報告資料及びプレゼンテーションは講義内でフィードバックを行う。終講レポートについては掲示で総括的なフィードバックを行うものとする。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の演習Ⅱの最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本講義は演習Ⅰと合わせて履修すること。テキストを用いて授業を行うので、必ず購入すること。 また、報告資料を綴じるためのA4ファイルを1冊とデータを持ち運ぶためのUSBメモリーを必ず用意すること。本講義は文献読解を行ってきていることを前提とし、各回報告を行ってもらう。この報告を行わなかった場合は、成績評価を行わない。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習として毎回テキストの該当箇所を読み、報告を行ってもらう（2時間程度）。復習として学んだことをまとめ、各自の意見を書いてもらう（2時間程度）。						
オフィスアワー	火曜日4限9405研究室						
授業計画						担当者	
第1回	ガイダンス及び学習目標の設定					高藤	
第2回	スポーツマネジメントとは何か					高藤	
第3回	スポーツにおける組織論：組織とチームのあり方					高藤	

第4回	スポーツ組織の人的側面：人事・人材育成	高藤
第5回	スポーツビジネスとは何か	高藤
第6回	スポーツ行政と政策	高藤
第7回	地域社会とスポーツ：総合型地域スポーツクラブを中心に	高藤
第8回	コーチングとは何か：コーチングの基礎的思想	高藤
第9回	コーチングの基礎的技法	高藤
第10回	コーチングと指導者論：リーダーシップのあり方	高藤
第11回	学校教育におけるスポーツ（1）：教育論・学校論基礎	高藤
第12回	学校教育におけるスポーツ（2）：保健体育におけるマネジメント	高藤
第13回	学校教育におけるスポーツ（3）：部活動の意義と課題	高藤
第14回	プレゼンテーション（1）マネジメントについての考察	高藤
第15回	プレゼンテーション（2）秋学期の学びを振り返る	高藤
第16回	レポート試験	高藤

教科書

教・書籍名1	各回ごとに提示する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-404		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。論理的に物事を考える力を身につけることができる。 到達目標： 1：健康づくりと運動・栄養・休養の関係について説明できるようになる 2：健康づくりの観点から関連する資料を読み取ることができるようになる。 3：健康づくりの観点から各自のテーマの成果をまとめて発表することができる。 4：3年次以降に深めたいテーマを見つけて、適切にゼミを選択することができる。						
授業概要	演習Ⅰで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて、発表し、全員で討論する。3年生の演習に結びつくように内容にまとめる必要がある。 この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、健康等に関する知識だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図ることを期待する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢20%，提出物30%，議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	水曜日5時限目 研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション：研究倫理の教育					竹内研	
第2回	抄読（スポーツに関する資料）					竹内研	
第3回	抄読（教育に関する資料）					竹内研	
第4回	抄読（健康と食生活に関する資料）					竹内研	
第5回	抄読（健康と運動に関する資料）					竹内研	
第6回	抄読（健康と休養に関する資料）					竹内研	
第7回	発表準備（スポーツに関する資料）					竹内研	

第8回	発表準備（教育に関する資料）	竹内研
第9回	発表準備（健康と食生活に関する資料）	竹内研
第10回	発表準備（健康と運動に関する資料）	竹内研
第11回	発表準備（健康と休養に関する資料）	竹内研
第12回	発表（スポーツに関する資料）	竹内研
第13回	発表（教育に関する資料）	竹内研
第14回	発表（健康と食生活に関する資料）	竹内研
第15回	発表（健康と運動に関する資料）	竹内研
第16回	最終課題	竹内研

教科書

教・書籍名1	適宜指示する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-404		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	<p>テーマ： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。論理的に物事を考える力を身につけることができる。</p> <p>到達目標： 1：健康づくりと運動・栄養・休養の関係について説明できるようになる 2：健康づくりの観点から関連する資料を読み取ることができるようになる。 3：健康づくりの観点から各自のテーマの成果をまとめて発表することができる。 4：3年次以降に深めたいテーマを見つけて、適切にゼミを選択することができる。</p>						
授業概要	<p>演習Ⅰで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて、発表し、全員で討論する。3年生の演習に結びつくように内容にまとめる必要がある。</p> <p>この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、健康等に関する知識だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図ることを期待する。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢20％，提出物30％，議論・発表などへの取り組み等(50％)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					山口英峰	
第2回	抄読（スポーツに関する資料）					山口英峰	
第3回	抄読（教育に関する資料）					山口英峰	
第4回	抄読（健康と食生活に関する資料）					山口英峰	
第5回	抄読（健康と運動に関する資料）					山口英峰	
第6回	抄読（健康と休養に関する資料）					山口英峰	
第7回	発表準備（スポーツに関する資料）					山口英峰	

第8回	発表準備（教育に関する資料）	山口英峰
第9回	発表準備（健康と食生活に関する資料）	山口英峰
第10回	発表準備（健康と運動に関する資料）	山口英峰
第11回	発表準備（健康と休養に関する資料）	山口英峰
第12回	発表（スポーツに関する資料）	山口英峰
第13回	発表（教育に関する資料）	山口英峰
第14回	発表（健康と食生活に関する資料）	山口英峰
第15回	発表（健康と運動に関する資料）	山口英峰
第16回	最終課題	山口英峰

教科書

教・書籍名1	適宜指示する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-404		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。論理的に物事を考える力を身につけることができる。 到達目標： 1：健康づくりと運動・栄養・休養の関係について説明できるようになる 2：健康づくりの観点から関連する資料を読み取ることができるようになる。 3：健康づくりの観点から各自のテーマの成果をまとめて発表することができる。 4：3年次以降に深めたいテーマを見つけて、適切にゼミを選択することができる。						
授業概要	演習Ⅰで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて、発表し、全員で討論する。3年生の演習に結びつくように内容にまとめる必要がある。 この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、健康等に関する知識だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図ることを期待する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢20%，提出物30%，議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					天岡 寛	
第2回	抄読（スポーツに関する資料）					天岡 寛	
第3回	抄読（教育に関する資料）					天岡 寛	
第4回	抄読（健康と食生活に関する資料）					天岡 寛	
第5回	抄読（健康と運動に関する資料）					天岡 寛	
第6回	抄読（健康と休養に関する資料）					天岡 寛	
第7回	発表準備（スポーツに関する資料）					天岡 寛	

第8回	発表準備（教育に関する資料）	天岡 寛
第9回	発表準備（健康と食生活に関する資料）	天岡 寛
第10回	発表準備（健康と運動に関する資料）	天岡 寛
第11回	発表準備（健康と休養に関する資料）	天岡 寛
第12回	発表（スポーツに関する資料）	天岡 寛
第13回	発表（教育に関する資料）	天岡 寛
第14回	発表（健康と食生活に関する資料）	天岡 寛
第15回	発表（健康と運動に関する資料）	天岡 寛
第16回	最終課題	天岡 寛

教科書

教・書籍名1	適宜指示する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-404		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	春学期に身に付けたことが出来ている。それらを活用して多様な観点からスポーツマネジメント及びコーチングについて自分の意見を論理的に述べる事が出来る。 テーマ：「スポーツマネジメント」や「コーチング」の基本的な理念・知識などを深める 到達目標 1：マネジメントやコーチングの理解を深めて、社会の変化に応じたこれからのスポーツ組織のあり方について論理的に考察できる 2：リーダーシップやコーチングの理解を深めて、これからのスポーツにおけるリーダーシップのあり方・指導者のあり方を理論的に考察できる 3：スポーツの法制度の理解を深めて、これからのスポーツ振興のための行政について理論的に考察できる 4：学校教育を批判的に見つめて、これからの保健体育・部活動のあり方を理論的に考察できる 5：3年次以降に深めたいテーマを見つけて、適切にゼミを選択することができる						
授業概要	本講義は演習Ⅰの継続として実施されるものである。演習Ⅰではマネジメントやコーチングに関わる基本的な概念について学んできたが、演習Ⅱではより多角的な考察を行う。特に現代社会のあり方や心理学などのキーワードに着目し、マネジメント・コーチングがどのようにそれらの課題に対応できるのかを様々な事例やデータを収集し検討する。最終的にこれからのマネジメント・コーチングについて論理的に考えて発表できることを目指す。 本演習もマネジメント・コーチコースでの学びに対応しておおよそ4つの段階に分けて進められる。初回の講義では秋学期に学びたいことを自身の興味関心・キャリアの観点から決定し、学習への意欲を高める。その後、具体的にマネジメント全体について「コロナ禍」「人権」「情報化社会」「ソーシャルキャピタル」「地域創生」といったキーワードをもとに検討する（第2回～第6回）。それらの議論を受けながら、指導などに関わるコーチングについての理解を深める（第7回～第8回）。最後に「アクティブラーニング」「地域との連携」という観点から学校におけるスポーツのあり方を考察する（第9回～第10回）。その後、最初に定めた学習目標に応じて、それまで学んできたことを参考にしたプレゼンテーションを実施し（第11回～第13回）、自身の学習したいことを明確にしてゼミ選択を考える（第14回）。 以上のような学習過程を通じて、多様な観点からスポーツマネジメントについて議論できる能力を高めていく。なお、本講義は学生の積極的な参加が求められる講義である。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーション（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題の未実施プレゼンテーションの未実施、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ループリック評価	【本科目はループリック評価を導入する。詳細については演習ループリックを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本講義は演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義資料を配布するのでファイルなどを用意すること。プレゼンテーション資料の作成などを求めるのでプレゼンテーションソフト等を使用できるようにしておくこと、						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導やプレゼンテーションなどの際には講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を求める。（1.5時						

	間程度) 講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	火曜日 3限 研究室(9401)		
授業計画			担当者
第1回	ガイダンス：講義概要の理解と学習目標の設定		太田真司
第2回	現代社会とスポーツマネジメント(1)：コロナ禍のスポーツとマネジメント		太田真司
第3回	現代社会とスポーツマネジメント(2)：スポーツマネジメントと人権		太田真司
第4回	現代社会とスポーツマネジメント(3)：情報化社会とスポーツマネジメント		太田真司
第5回	現代社会とスポーツマネジメント(4)：スポーツマネジメントとソーシャルキャピタル		太田真司
第6回	現代社会とスポーツマネジメント(5)：地方創生とスポーツマネジメント・スポーツ行政		太田真司
第7回	より深いコーチング理解を目指して(1)：エフィカシーの観点からみるコーチング		太田真司
第8回	より深いコーチング理解を目指して(2)：リーダーシップ観の多様性から考えるコーチング		太田真司
第9回	学校教育の変化とスポーツ(1) アクティブラーニングとスポーツ		太田真司
第10回	学校教育の変化とスポーツ(2) 地域社会との連携とスポーツ		太田真司
第11回	プレゼンテーション(1)：マネジメントの観点から		太田真司
第12回	プレゼンテーション(2)：コーチングの観点から		太田真司
第13回	プレゼンテーション(3)：教育学の観点から		太田真司
第14回	ゼミ選択に向けて：各自の学習課題の明確化		太田真司
第15回	講義のまとめ：1年間の振り返り		太田真司
第16回	レポート試験		太田真司
教科書			
教・書籍名1	授業担当者が用意する資料によって進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-404		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	春学期に身に付けたことが出来ている。それらを活用して多様な観点からスポーツマネジメント及びコーチングについて自分の意見を論理的に述べる事が出来る。 テーマ：「スポーツマネジメント」や「コーチング」の基本的な理念・知識などを深める 到達目標 1：マネジメントやコーチングの理解を深めて、社会の変化に応じたこれからのスポーツ組織のあり方について論理的に考察できる 2：リーダーシップやコーチングの理解を深めて、これからのスポーツにおけるリーダーシップのあり方・指導者のあり方を理論的に考察できる 3：スポーツの法制度の理解を深めて、これからのスポーツ振興のための行政について理論的に考察できる 4：学校教育を批判的に見つめて、これからの保健体育・部活動のあり方を理論的に考察できる 5：3年次以降に深めたいテーマを見つけて、適切にゼミを選択することができる						
授業概要	本講義は演習Ⅰの継続として実施されるものである。演習Ⅰではマネジメントやコーチングに関わる基本的な概念について学んできたが、演習Ⅱではより多角的な考察を行う。特に現代社会のあり方や心理学などのキーワードに着目し、マネジメント・コーチングがどのようにそれらの課題に対応できるのかを様々な事例やデータを収集し検討する。最終的にこれからのマネジメント・コーチングについて論理的に考えて発表できることを目指す。 本演習もマネジメント・コーチコースでの学びに対応しておおよそ4つの段階に分けて進められる。初回の講義では秋学期に学びたいことを自身の興味関心・キャリアの観点から決定し、学習への意欲を高める。その後、具体的にマネジメント全体について「コロナ禍」「人権」「情報化社会」「ソーシャルキャピタル」「地域創生」といったキーワードをもとに検討する（第2回～第6回）。それらの議論を受けながら、指導などに関わるコーチングについての理解を深める（第7回～第8回）。最後に「アクティブラーニング」「地域との連携」という観点から学校におけるスポーツのあり方を考察する（第9回～第10回）。その後、最初に定めた学習目標に応じて、それまで学んできたことを参考にしたプレゼンテーションを実施し（第11回～第13回）、自身の学習したいことを明確にしてゼミ選択を考える（第14回）。 以上のような学習過程を通じて、多様な観点からスポーツマネジメントについて議論できる能力を高めていく。なお、本講義は学生の積極的な参加が求められる講義である。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーション（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題の未実施プレゼンテーションの未実施、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については演習ルーブリックを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本講義は演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義資料を配布するのでファイルなどを用意すること。プレゼンテーション資料の作成などを求めるのでプレゼンテーションソフト等を使用できるようにしておくこと、						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導やプレゼンテーションなどの際には講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を求める。（1.5時						

	間程度) 講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	水曜日4限 研究室(9301)にて		
授業計画		担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について		倉知典弘
第2回	現代社会とスポーツマネジメント(1): コロナ禍のスポーツとマネジメント		倉知典弘
第3回	現代社会とスポーツマネジメント(2): スポーツマネジメントと人権		倉知典弘
第4回	現代社会とスポーツマネジメント(3): 情報化社会とスポーツマネジメント		倉知典弘
第5回	現代社会とスポーツマネジメント(4): スポーツマネジメントとソーシャルキャピタル		倉知典弘
第6回	現代社会とスポーツマネジメント(5): 地方創生とスポーツマネジメント・スポーツ行政		倉知典弘
第7回	より深いコーチング理解を目指して(1): エフィカシーの観点からみるコーチング		倉知典弘
第8回	より深いコーチング理解を目指して(2): リーダシップ観の多様性から考えるコーチング		倉知典弘
第9回	学校教育の変化とスポーツ(1) アクティブラーニングとスポーツ		倉知典弘
第10回	学校教育の変化とスポーツ(2) 地域社会との連携とスポーツ		倉知典弘
第11回	プレゼンテーション(1): マネジメントの観点から		倉知典弘
第12回	プレゼンテーション(2): コーチングの観点から		倉知典弘
第13回	プレゼンテーション(3): 教育学の観点から		倉知典弘
第14回	ゼミ選択に向けて: 各自の学習課題の明確化		倉知典弘
第15回	講義のまとめ: 1年間の振り返り		倉知典弘
第16回	レポート試験		倉知典弘
教科書			
教・書籍名1	授業担当者が用意する資料によって進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-404		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。論理的に物事を考える力を身につけることができる。 到達目標： 1：健康づくりと運動・栄養・休養の関係について説明できるようになる 2：健康づくりの観点から関連する資料を読み取ることができるようになる。 3：健康づくりの観点から各自のテーマの成果をまとめて発表することができる。 4：3年次以降に深めたいテーマを見つけて、適切にゼミを選択することができる。						
授業概要	演習Ⅰで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて、発表し、全員で討論する。3年生の演習に結びつくように内容にまとめる必要がある。 この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、健康等に関する知識だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図ることを期待する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢20％，提出物30％，議論・発表などへの取り組み等(50％)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	月曜日2時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					高原皓全	
第2回	抄読（スポーツに関する資料）					高原皓全	
第3回	抄読（教育に関する資料）					高原皓全	
第4回	抄読（健康と食生活に関する資料）					高原皓全	
第5回	抄読（健康と運動に関する資料）					高原皓全	
第6回	抄読（健康と休養に関する資料）					高原皓全	
第7回	発表準備（スポーツに関する資料）					高原皓全	

第8回	発表準備（教育に関する資料）	高原皓全
第9回	発表準備（健康と食生活に関する資料）	高原皓全
第10回	発表準備（健康と運動に関する資料）	高原皓全
第11回	発表準備（健康と休養に関する資料）	高原皓全
第12回	発表（スポーツに関する資料）	高原皓全
第13回	発表（教育に関する資料）	高原皓全
第14回	発表（健康と食生活に関する資料）	高原皓全
第15回	発表（健康と運動に関する資料）	高原皓全
第16回	最終課題	高原皓全

教科書

教・書籍名1	適宜指示する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-404		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	春学期に身に付けたことが出来ている。それらを活用して多様な観点からスポーツマネジメント及びコーチングについて自分の意見を論理的に述べる事が出来る。 テーマ：「スポーツマネジメント」や「コーチング」の基本的な理念・知識などを深める 到達目標 1：マネジメントやコーチングの理解を深めて、社会の変化に応じたこれからのスポーツ組織のあり方について論理的に考察できる 2：リーダーシップやコーチングの理解を深めて、これからのスポーツにおけるリーダーシップのあり方・指導者のあり方を理論的に考察できる 3：スポーツの法制度の理解を深めて、これからのスポーツ振興のための行政について理論的に考察できる 4：学校教育を批判的に見つめて、これからの保健体育・部活動のあり方を理論的に考察できる 5：3年次以降に深めたいテーマを見つけて、適切にゼミを選択することができる						
授業概要	本講義は演習Ⅰの継続として実施されるものである。演習Ⅰではマネジメントやコーチングに関わる基本的な概念について学んできたが、演習Ⅱではより多角的な考察を行う。特に現代社会のあり方や心理学などのキーワードに着目し、マネジメント・コーチングがどのようにそれらの課題に対応できるのかを様々な事例やデータを収集し検討する。最終的にこれからのマネジメント・コーチングについて論理的に考えて発表できることを目指す。 本演習もマネジメント・コーチコースでの学びに対応しておおよそ4つの段階に分けて進められる。初回の講義では秋学期に学びたいことを自身の興味関心・キャリアの観点から決定し、学習への意欲を高める。その後、具体的にマネジメント全体について「コロナ禍」「人権」「情報化社会」「ソーシャルキャピタル」「地域創生」といったキーワードをもとに検討する（第2回～第6回）。それらの議論を受けながら、指導などに関わるコーチングについての理解を深める（第7回～第8回）。最後に「アクティブラーニング」「地域との連携」という観点から学校におけるスポーツのあり方を考察する（第9回～第10回）。その後、最初に定めた学習目標に応じて、それまで学んできたことを参考にしたプレゼンテーションを実施し（第11回～第13回）、自身の学習したいことを明確にしてゼミ選択を考える（第14回）。 以上のような学習過程を通じて、多様な観点からスポーツマネジメントについて議論できる能力を高めていく。なお、本講義は学生の積極的な参加が求められる講義である。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーション（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題の未実施プレゼンテーションの未実施、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については演習ルーブリックを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本講義は演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義資料を配布するのでファイルなどを用意すること。プレゼンテーション資料の作成などを求めるのでプレゼンテーションソフト等を使用できるようにしておくこと、						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導やプレゼンテーションなどの際には講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を求める。（1.5時						

	間程度) 講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	金曜日2限9号館4階 研究室(9411)にて		
授業計画			担当者
第1回	ガイダンス：講義概要の理解と学習目標の設定		羽野
第2回	現代社会とスポーツマネジメント(1)：コロナ禍のスポーツとマネジメント		羽野
第3回	現代社会とスポーツマネジメント(2)：スポーツマネジメントと人権		羽野
第4回	現代社会とスポーツマネジメント(3)：情報化社会とスポーツマネジメント		羽野
第5回	現代社会とスポーツマネジメント(4)：スポーツマネジメントとソーシャルキャピタル		羽野
第6回	現代社会とスポーツマネジメント(5)：地方創生とスポーツマネジメント・スポーツ行政		羽野
第7回	より深いコーチング理解を目指して(1)：エフィカシーの観点からみるコーチング		羽野
第8回	より深いコーチング理解を目指して(2)：リーダーシップ観の多様性から考えるコーチング		羽野
第9回	学校教育の変化とスポーツ(1) アクティブラーニングとスポーツ		羽野
第10回	学校教育の変化とスポーツ(2) 地域社会との連携とスポーツ		羽野
第11回	プレゼンテーション(1)：マネジメントの観点から		羽野
第12回	プレゼンテーション(2)：コーチングの観点から		羽野
第13回	プレゼンテーション(3)：教育学の観点から		羽野
第14回	ゼミ選択に向けて：各自の学習課題の明確化		羽野
第15回	講義のまとめ：1年間の振り返り		羽野
第16回	レポート試験		羽野
教科書			
教・書籍名1	授業担当者が用意する資料によって進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 東洋医学によるスポーツ領域への応用ができる（入門編）。 到達目標： 学生は東洋医学に関する文献の輪読を通じてその考え方を理解できるようになる。						
授業概要	演習ⅠとⅡで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて、発表し、全員で討論する。卒論テーマに結びつくように内容をまとめることが必要である。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「学生は東洋医学に関する文献の輪読を通じてその考え方を理解できるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、授業姿勢20%、提出物30%、議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。なお、評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】 演習ルーブリック						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してこること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 試験は必ず行うので、授業に出席していただければ単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習に、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					孫基然	
第2回	抄読：東洋医学歴史に関する文献					孫基然	
第3回	抄読：東洋医学特徴に関する文献					孫基然	
第4回	抄読：東洋医学健康観に関する文献（気について）					孫基然	
第5回	抄読：東洋医学健康観に関する文献（血について）					孫基然	
第6回	抄読：東洋医学健康観に関する文献（水について）					孫基然	
第7回	発表準備：ここまで輪読の総括					孫基然	
第8回	輪読：東洋医学健康観に関する文献（心について）					孫基然	
第9回	輪読：東洋医学健康観に関する文献（肝について）					孫基然	
第10回	輪読：東洋医学健康観に関する文献（脾について）					孫基然	
第11回	輪読：東洋医学健康観に関する文献（肺について）					孫基然	

第12回	輪読：東洋医学健康観に関する文献（腎について）	孫基然
第13回	輪読：東洋医学健康観に関する文献（六腑について）	孫基然
第14回	発表：気血水について	孫基然
第15回	発表：五臓と健康と関わり	孫基然
第16回	レポート試験	孫基然
教科書		
教・書籍名1	プリントを配布する。	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	プリントを配布する。	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	「スポーツコーチング」「スポーツマネジメント」「ゲーム分析」をテーマに、それらについて考察するとともに、将来、スポーツが生活の一部として生涯スポーツに関わることができる。						
授業概要	「スポーツコーチング」「スポーツマネジメント」「ゲーム分析」等の先行研究や文献を通して、考察するとともに、4年次の卒業論文につながるよう、プレゼンテーションおよびディスカッションする。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	毎回のレポート（40％）課題レポート・発表（40％）最終レポート（20％）						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	毎回の演習後の小レポートを通して、口頭及び書面でフィードバック						
履修条件・注意事項	「スポーツコーチング」「スポーツマネジメント」「ゲーム分析」等の先行研究や文献を通して、考察するとともに、4年次の卒業論文につながるよう、プレゼンテーションおよびディスカッションする。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、毎回2時間程度、復習および次回のテーマについて、予習すること。						
オフィスアワー	個人研究室（9405）にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション（ガイダンス） 研究倫理に基づく責任ある研究活動を実践する。					高藤	
第2回	スポーツコーチングに関する文献研究（攻撃のグループ戦術）					高藤	
第3回	スポーツコーチングに関する文献研究（攻撃のチーム戦術）					高藤	
第4回	スポーツコーチングに関する文献研究（守備のグループ戦術）					高藤	
第5回	スポーツコーチングに関する文献研究（守備のチーム戦術）					高藤	
第6回	スポーツコーチングに関する文献研究（攻守の切り替え）					高藤	
第7回	スポーツマネジメントに関する文献研究（学校運動部）					高藤	
第8回	スポーツマネジメントに関する文献研究（地域スポーツクラブ）					高藤	
第9回	スポーツマネジメントに関する文献研究（民間スポーツクラブ）					高藤	
第10回	スポーツマネジメントに関する文献研究（企業スポーツクラブ）					高藤	
第11回	スポーツマネジメントに関する文献研究（Jリーグクラブ）					高藤	
第12回	スポーツマネジメントに関する文献研究（プロ野球球団）					高藤	
第13回	ゲーム分析に関する文献研究（サッカー）					高藤	
第14回	ゲーム分析に関する文献研究（野球）					高藤	
第15回	卒業論文作成について					高藤	
第16回	最終レポート					高藤	
教科書							
教・書籍名1	体育・部活のリスクマネジメント				教・出版社名1	信山社	
教・著者名1	小笠原正・諏訪伸夫 編				教・ISBN1	978-4-7972-8612-0	
教・書籍名2	スポーツ団体のマネジメント入門				教・出版社名2	同文館出版	
教・著者名2	新日本有限責任監査法人 編				教・ISBN2	978-4-495-20181-4	
参考書							

参・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	『現代社会における健康や能力向上』をテーマとし、これまでの運動の持つ機能や、運動に対する認識・方法論では、多くの課題や問題を解決することが難しくなってきた。現代の社会とそこでの環境が、これまでのやり方では解決困難な問題を突きつけてきたと言えよう。学生はこれまでの理論と方法論に立脚しつつも、新たに研究・開発された理論と方法論、取り分け本演習では高岡英夫氏創始による運動科学の内容を概観しつつ、これらの問題を理解・説明する足掛かりを得られることを到達目標とする。						
授業概要	人間存在が成立する基軸として、人間の意識構造に着目する運動科学における内容を学習する。すなわち高岡英夫氏により解明された身体意識の構造・メカニズム・作用について学習する。されに、人間のパフォーマンスの水準を規定する身体と動きに関する、運動科学が説く内容について学ぶ。これらは、例えばスポーツのパフォーマンスの成り立ちと、その向上のための方法論について考察するために有益であるのみならず、広く人間の織り成す様々な行為やその結果・状態などに対する理解を確たるものにする。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業時に課するレポートで50%、最終レポートで50%、をもって評価する。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	出席も重視する。授業時の指導やディスカッションをもとに、また授業時に課された課題について、各自学習を進めて、次回の授業に臨むこと。各自が授業でのテーマについて、掘り下げる学習を要求する。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	次回の授業の概要を提示するので、学生は各自それをもとに、事前の情報収集などの予習を行う。各回の授業後は、授業内容に基づいて、各自考察を記載して、後で提出する。予習1コマ・復習1コマをそれぞれ行うこと。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション：研究倫理の教育					竹内研	
第2回	高岡英夫氏創始の運動科学					竹内研	
第3回	運動科学の地平：ホーリスティックな視点					竹内研	
第4回	身体意識の定義と構造,メカニズム					竹内研	
第5回	運動進化論と魚体構造論					竹内研	
第6回	ゆるむことと組織分化：アクセルブレーキの弊害					竹内研	
第7回	ゆるむこと多面的な効果・効能					竹内研	
第8回	分散加算					竹内研	
第9回	ゆるむことへの脳の関与					竹内研	
第10回	重心感知：筋紡錘の機能					竹内研	
第11回	多重中心構造					竹内研	
第12回	ゆるんだ身体とパフォーマンス					竹内研	
第13回	ゆるんだ身体と心理的コンデショニング					竹内研	
第14回	身体意識運用の具体論					竹内研	
第15回	身体意識と認識力					竹内研	

第16回			
教科書			
教・書籍名1	究極の身体	教・出版社名1	講談社
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	本演習では、「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。学生は論理的に物事を考える力を身につけることができる。						
授業概要	本演習では、「健康とスポーツ」に関する資料を読み、自分が疑問に感じる点、興味がある点について考え、その中から各自がテーマを選択する。関連資料を収集し、その成果をまとめる。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク/プレゼンテーション/実習/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	授業姿勢(20%)、提出物(30%)、議論・発表などへの取り組み等(50%)から評価する。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については演習ルーブリックを確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のための提出物は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は予習復習が必要である。予習として、毎回の授業において問題提起と討論が可能ないように各自が必要なテキストを探し、熟読してくること。復習として、疑問点をピックアップし、その内容を次週発表出来るように準備すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室(9410研究室)において、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					山口英峰	
第2回	資料の収集方法の紹介(図書館)					山口英峰	
第3回	資料の収集方法の紹介(インターネット)					山口英峰	
第4回	資料の収集(趣味について)					山口英峰	
第5回	資料の収集(スポーツについて)					山口英峰	
第6回	資料の収集(将来の就職について)					山口英峰	
第7回	資料の収集(抄読に必要な資料-健康)					山口英峰	
第8回	資料の収集(抄読に必要な資料-スポーツ)					山口英峰	
第9回	資料の収集(抄読に必要な資料-教育)					山口英峰	
第10回	抄読(健康に関する資料)					山口英峰	
第11回	抄読(スポーツに関する資料)					山口英峰	
第12回	抄読(教育に関する資料)					山口英峰	
第13回	抄読(健康と食生活に関する資料)					山口英峰	
第14回	抄読(健康と運動に関する資料)					山口英峰	
第15回	抄読(健康と休養に関する資料)					山口英峰	
第16回	中間発表					山口英峰	
教科書							
教・書籍名1	使用しない(プリントを配布する)					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	
参考書							

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	本演習では、「運動と障がい」について健康と運動などの観点から、基礎的な知識および、「運動と障がい」についての考え方を深め、論理的に物事を考える力を身につけることができる。						
授業概要	本演習では、「運動と障がい」に関する資料を読み、自分が疑問に感じる点、興味がある点について考え、その中から各自がテーマを選択する。関連資料を収集し、その成果をまとめる。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク/プレゼンテーション/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	毎回の出席50%、課題・議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してくること。また、授業時に配布する資料や各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習及び次回への予習を行うこと。						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					天岡 寛	
第2回	資料の収集方法の紹介(図書館)					天岡 寛	
第3回	資料の収集方法の紹介(インターネット)					天岡 寛	
第4回	資料の収集(趣味について)					天岡 寛	
第5回	資料の収集(スポーツについて)					天岡 寛	
第6回	資料の収集(将来の就職について)					天岡 寛	
第7回	資料の収集(抄読に必要な資料:健康)					天岡 寛	
第8回	資料の収集(抄読に必要な資料:スポーツ)					天岡 寛	
第9回	資料の収集(抄読に必要な資料:教育)					天岡 寛	
第10回	抄読(健康に関する資料)					天岡 寛	
第11回	抄読(スポーツに関する資料)					天岡 寛	
第12回	抄読(教育に関する資料)					天岡 寛	
第13回	抄読(健康と食生活に関する資料)					天岡 寛	
第14回	抄読(健康と運動に関する資料)					天岡 寛	
第15回	抄読(健康と休養に関する資料)					天岡 寛	
第16回	最終課題					天岡 寛	
教科書							
教・書籍名1	適宜指示する				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							

参・書籍名1	適宜指示する.	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 12. つくる責任・つかう責任 / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	<p>決断力があるリーダー養成を目指し、「ディベートの根本的目的、実践的目的は何かを理解する」をテーマとして、自国の文化に自信を持ち、自国語で自分の意見を主張できること。また、相手が誰であろうとも論理的に議論や討論ができることを身につける。</p> <p>国際化時代とは、ディベート的精神を發揮する時代であり、語学の問題ではなく、必要なのは信念であり、気概であり、そして日本語によるディベート技術であり、これがリーダーの条件であることを理解する。加えてディベートが持っている論理的思考能力や意思決定能力の開発とともに人間をプラス思考にさせるディベート的精神を理解することを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>法律学である、実体的正義、手続的正義を理解し、決断のプロセスを理解する。日本人の表現方法の問題点を考察し、話し方の構造といった基礎的な理解を深めていく。また、ディベートの目的を理解しながら、ディベートの種類と役割について事例を示しながらも加えて資料とデータの効果的な収集と活用方法を理解する。そしてディベートの基本である論理構築能力が身につくようグループ討論を主体とした方式による演習を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	この科目では、グループ討論を主体とした方式のため、討論への積極的参加態度（50％）、その為の授業準備（30％）毎回のレポート評価（20％）で評価する。グループ討論、参加型学習を主体としていることから、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。詳しい評価方法は、授業時に説明する。なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、レポート試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと】						
課題や試験のフィードバック方法	ディベートによるディスカッションに対して評価を行う。						
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントを配布するため、初回授業よりファイルを用意すること。演習Ⅱとあわせて履修すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	(一社) 高梁スポーツクラブの理事による実務経験員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして参加型学習法で行う。指示に従ってノートを作成復習を行うこと。レポートやスピーチを行う為、予習を行うこと。3) レポート試験は必ず行うので、授業に出席しただけでは単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習および復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	火曜日 3限 研究室 (9401)						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動					太田真司	
第2回	決断における「事前のルール作り」					太田真司	
第3回	強い意思決定の仕組みとディスカッション					太田真司	
第4回	意思決定の仕組みづくりにおける3つのポイント					太田真司	
第5回	「反対意見」を意識できないリーダーシップ					太田真司	
第6回	自分の主張への拘りと見誤るリーダー事例					太田真司	
第7回	危機管理マネジメントの7原則					太田真司	

第8回	スポーツチームの問題に見る「信用失墜のスパイラル」	太田真司
第9回	トラブル後の謝罪で挽回するリーダーシップ	太田真司
第10回	スポーツマネジメントと決断	太田真司
第11回	有識者、専門家の助言とリーダーシップ	太田真司
第12回	反対派を納得させる仕組み作り	太田真司
第13回	決断の前のプロセスが成否のカギ	太田真司
第14回	プロセスへの納得感と批判の質	太田真司
第15回	研究倫理教育	太田真司
第16回	レポート試験	太田真司

教科書

教・書籍名1	担当者の作成する資料により進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜紹介する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	<p>学校教育における指導のあり方についての基礎的な理念・知識を身に付けることができる。</p> <p>マネジメント、コーチングの観点からスポーツの支援・振興についての基礎的な理念・知識を身に付けることができる。</p> <p>身に付けた知識を活用して、基礎的な指導の手順などを踏まえた指導ができるようになる</p> <p>身に付けた知識を活用して、学校教育の在り方、スポーツの支援の在り方について意見を述べる事が出来る。</p>						
授業概要	<p>本講義は、学校教育の在り方をマネジメント・コーチングの基礎知識を用いながら検討し、基礎的な指導の手順などを理解し、実践できるようになることを目的としている。学校教育に限らず指導方法や指導の理念は現代社会において大きく変容しているが、今回は特にアクティブラーニングに着目して考察していく。</p> <p>最初に学習目標を明確化するために、4年生の模擬授業に参加し、指導における留意点などを体感的に理解する（第1回～第3回）。その後、保健体育科におけるアクティブラーニングについて検討を行い、現在の指導者に求められている資質や能力について理解する（第4回～第7回）。そのような議論の結果を踏まえて実際に授業計画を立てて実施してもらう（第8回～第14回）。最後に授業実施における留意点を確認して（第15回）、授業を構想するための基礎的な力量を高める。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の際に課す課題の提出（30％）プレゼンテーション及び模擬授業（50％）終講レポート（20点）で評価する。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	各回講義における課題は講義内で用いるのでその際にフィードバックを行う。プレゼンテーション・模擬授業は指導という形でその場でフィードバックを行う。終講課題は演習Ⅳの冒頭でフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅳを合わせて履修すること。講義内で文部科学省の資料等の収集を指示するので、資料収集が行えるような環境（PCの用意など）を行っておくこと。加えて、講義資料を保管するファイルなどを用意しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	高等学校での教員経験のある教員が指導案の作成方法等について指導を行う。				
事前学習・事後学習とその時間	各回講義の予習に、資料の収集・読解若しくは文章の配布を行い、そのまともを課題として課す（1時間半程度）。また、各回講義で修正点などの指導を行うので、各自で提出課題の振り返りを行うこと（1時間半程度）。						
オフィスアワー	水曜日4限 研究室（9301）にて						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について						倉知典弘
第2回	模擬授業の体験：保健領域						倉知典弘
第3回	模擬授業の体験：実技領域						倉知典弘
第4回	保健体育科の目標：学習指導要領の検討						倉知典弘
第5回	アクティブラーニングの基礎理解						倉知典弘
第6回	アクティブラーニングの手法（1）グループワークの手法						倉知典弘
第7回	アクティブラーニングの手法（2）：ICTの活用						倉知典弘
第8回	授業構想の基礎：時案作成のために						倉知典弘
第9回	授業計画の作成法（1）授業目標の設定法						倉知典弘
第10回	授業計画の作成法（2）アクティビティをデザインする						倉知典弘
第11回	授業計画の作成法（3）講義のまとめ方						倉知典弘
第12回	模擬授業（1）導入のあり方						倉知典弘
第13回	模擬授業（2）概念の説明などの観点から						倉知典弘

第14回	模擬授業(3) グループワーク支援の観点から	倉知典弘
第15回	講義のまとめ: 指導における注意点は何か	倉知典弘
第16回	レポート課題	倉知典弘
教科書		
教・書籍名1	各回講義内容に応じて担当者が指示する	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	適宜紹介する	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	本演習では、「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。学生は論理的に物事を考える力を身につけることができる。						
授業概要	本演習では、「健康とスポーツ」に関する資料を読み、自分が疑問に感じる点、興味がある点について考え、その中から各自がテーマを選択する。関連資料を収集し、その成果をまとめる。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/ディベート/プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業姿勢(20%)、提出物(30%)、議論・発表などへの取り組み等(50%)から総合的に評価する。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックする。 コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は予習復習が各2時間程度必要である。予習として、毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自が必要なテキストを探し、熟読してくる。復習として、疑問点をピックアップし、その内容を次週発表出来るように準備すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室(9402研究室)において、毎週月曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					高原皓全	
第2回	資料の収集方法の紹介(図書館)					高原皓全	
第3回	資料の収集方法の紹介(インターネット)					高原皓全	
第4回	資料の収集(趣味について)					高原皓全	
第5回	資料の収集(スポーツについて)					高原皓全	
第6回	資料の収集(将来の就職について)					高原皓全	
第7回	資料の収集(抄読に必要な資料-健康)					高原皓全	
第8回	資料の収集(抄読に必要な資料-スポーツ)					高原皓全	
第9回	資料の収集(抄読に必要な資料-教育)					高原皓全	
第10回	抄読(健康に関する資料)					高原皓全	
第11回	抄読(スポーツに関する資料)					高原皓全	
第12回	抄読(教育に関する資料)					高原皓全	
第13回	抄読(健康と食生活に関する資料)					高原皓全	
第14回	抄読(健康と運動に関する資料)					高原皓全	
第15回	抄読(健康と休養に関する資料)					高原皓全	
第16回							
教科書							
教・書籍名1	資料を配布する				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	「チームビルディング」「チームワーキング」「コーチング」をテーマに、それらについて考察するとともに、将来、スポーツの場面だけでなくビジネスの場でも役に立つことを学ぶことができる。						
授業概要	「チームビルディング」「チームワーキング」「コーチング」等の先行研究や文献を通じて、考察するとともに4年次の卒業論文につながるよう、プレゼンテーションおよびディスカッションする。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	毎回のレポート（40％） 課題レポート（40％） 授業姿勢（20％）						
ループリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルレポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントの配布をするため、初回授業よりファイルを用意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、本学硬式野球部の監督としての実務経験をもつ教員が、その経験を活かし、スポーツ現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、テーマに関連する本、記事、先行研究の文献にて復習する。						
オフィスアワー	個人研究室（9411）にて、金曜日2限に実施						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					羽野真哉	
第2回	チームビルディングとは何か					羽野真哉	
第3回	チームビルディング（タックマンモデル）					羽野真哉	
第4回	チームビルディングの活用					羽野真哉	
第5回	チームワーキングとは何か					羽野真哉	
第6回	チームワーキング（チーム視点）					羽野真哉	
第7回	チームワーキング（全員リーダー視点）					羽野真哉	
第8回	チームワーキングの活用					羽野真哉	
第9回	コーチングとは何か					羽野真哉	
第10回	コーチングの基本理論					羽野真哉	
第11回	結果を出すコーチのルール					羽野真哉	
第12回	コーチングが人を動かす					羽野真哉	
第13回	人が育つ言葉					羽野真哉	
第14回	組織づくりのリーダーの役割					羽野真哉	
第15回	指導者と選手					羽野真哉	
第16回	最終レポート					羽野真哉	
教科書							
教・書籍名1	担当者の作成資料により進める。					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	

参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 東洋医学によるスポーツ領域への応用ができる（基礎編）。 到達目標： 学生は30種類近く整体手技法を身につけるようになる。						
授業概要	本演習では整体療法実技に関する文献を解説した後に、二人ずつペアを組んで練習し、期末テストも実技で評価するため、手技法の問題点を少しずつ修正・改正していくよう指導する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「学生は30種類近く整体手技法を身につけるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、総合的に評価する。具体的には、授業姿勢20%、提出物30%、実技(50%)で評価する。なお、評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してくること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 試験は必ず行うので、授業に出席していただければ単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習に、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション						孫基然
第2回	実技：一指禅推法の習得						孫基然
第3回	実技：ローリング法の習得						孫基然
第4回	実技：揉法の習得						孫基然
第5回	実技：摩法の習得						孫基然
第6回	実技：擦法の習得						孫基然
第7回	中間テスト：ここまでの実技						孫基然
第8回	実技：推法の習得						孫基然
第9回	実技：抹法の習得						孫基然
第10回	実技：振法の習得						孫基然

第11回	実技：捏法の習得	孫基然
第12回	実技：按法の習得	孫基然
第13回	実技：点法の習得	孫基然
第14回	実技：絢法の習得	孫基然
第15回	発表会：実技に関する感想	孫基然
第16回	実技試験	孫基然
教科書		
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	プリントを配布する。	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-406		
必修・選択	演習	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 11. 住み続けられるまちづくりを / 17. パートナーシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	「スポーツコーチング」「スポーツマネジメント」「ゲーム分析」をテーマに、それらについて考察するとともに、学生が将来、スポーツが生活の一部として生涯スポーツに関わることができる。						
授業概要	「スポーツコーチング」「スポーツマネジメント」「ゲーム分析」等の先行研究や文献を通して、考察するとともに、4年次の卒業論文につながるよう、プレゼンテーションおよびディスカッションする。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	毎回のレポート（40％）発表（40％）最終レポート（20％）						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	毎回の演習を通して、口頭及び書面でフィードバック						
履修条件・注意事項	プレゼンテーションにおける配布資料を作成すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、2時間程度復習および次回の発表について、予習すること。						
オフィスアワー	個人研究室（9号館4階）にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					高藤	
第2回	少年団のマネジメント					高藤	
第3回	少年団のコーチング					高藤	
第4回	地域スポーツクラブのマネジメント					高藤	
第5回	地域スポーツクラブのコーチング					高藤	
第6回	学校運動部のマネジメント					高藤	
第7回	学校運動部のコーチング					高藤	
第8回	民間スポーツクラブのマネジメント					高藤	
第9回	民間スポーツクラブのコーチング					高藤	
第10回	プロスポーツクラブのマネジメント					高藤	
第11回	プロスポーツクラブのコーチング					高藤	
第12回	ゲーム分析（守備）					高藤	
第13回	ゲーム分析（攻撃）					高藤	
第14回	ゲーム分析（守備→攻撃）					高藤	
第15回	ゲーム分析（攻撃→守備）					高藤	
第16回	最終レポート					高藤	
教科書							
教・書籍名1	少年スポーツダメな指導者バカな親				教・出版社名1	合同出版	
教・著者名1	永井洋一				教・ISBN1	978-4-7726-0398-0	
教・書籍名2	人を束ねる				教・出版社名2	幻冬舎新書	
教・著者名2	久米一正				教・ISBN2	978-4-344-98256-7	
参考書							
参・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）				参・出版社名1		

参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	『これまで多くの運動学習方法や指導方法が研究・実践されてきた。』をテーマとし、また、そこに関わる分野も学問的な認識を扱う分野に始まり、その対象としての職業スキルやパフォーマンス、芸術におけるスキルやパフォーマンス、そして運動・スポーツのスキルやパフォーマンスなど多岐に亘る。しかし総じていえば、目標達成ということになるだろう。近年、コーチングとして新たな目標達成プログラムが提起され、多くの分野で成果をあげている。本演習では学生はコーチングの理論と方法を理解して、それぞれが目標達成のためのスキルを用いることができるようになることを到達目標とする。						
授業概要	認知科学、脳科学、心理学などの研究成果に裏打ちされた、最も代表的な目標達成プログラムである、TPIEの理論と方法について学習する。演習を通して、各自が自らの目標を明確に設定でき、その目標達成のためにゴールのリアリティを高めていく方法を習得する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業時のレポート（30％）及び最終レポート（70％）をもって評価する。 評価のためのレポートは授業時にフィードバックする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	本演習は予習及び復習が必要である。指示された内容について、各自予習・復習を行うこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	次回の授業の概要を提示するので、学生は各自それをもとに、事前の情報収集などの予習を行う。 各回の授業後は、授業内容に基づいて、各自考察を記載して、後で提出する。予習1コマ・復習1コマをそれぞれ行うこと。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション：研究倫理の教育					竹内研	
第2回	コーチングとは					竹内研	
第3回	コーチングとメンタルトレーニング					竹内研	
第4回	コーチングの始まり					竹内研	
第5回	RASとスコトマ					竹内研	
第6回	情動記憶					竹内研	
第7回	現状のゲシュタルトとゴールのゲシュタルト					竹内研	
第8回	セルフイメージ					竹内研	
第9回	セルフエフィカシーとセルフエスティーム					竹内研	
第10回	ゴール設定の仕方					竹内研	
第11回	コンフォートゾーンとハイパフォーマンス					竹内研	
第12回	セルフトークのコントロール					竹内研	
第13回	アファメーション					竹内研	
第14回	ビジュアライゼーション					竹内研	
第15回	最終レポート作成					竹内研	
第16回							

教科書			
教・書籍名1	コンフォートゾーンの作り方	教・出版社名1	フォレスト出版
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	本演習では、「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。学生は健康について様々な視点から考える能力を身につけることができる。						
授業概要	演習Ⅲで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて、発表し、全員で討論する。三年生の演習に結びつくように内容にまとめる必要がある。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション/実習/その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢(20%)、提出物(30%)、議論・発表などへの取り組み等(50%)から評価する。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については演習ルーブリックを確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のための提出物は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備および熟読が必要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が必要である。毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してくる。復習として、疑問点をピックアップし、その内容を次週発表出来るように準備すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9410研究室）において、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					山口英峰	
第2回	抄読（スポーツに関する資料）					山口英峰	
第3回	抄読（教育に関する資料）					山口英峰	
第4回	抄読（健康と食生活に関する資料）					山口英峰	
第5回	抄読（健康と運動に関する資料）					山口英峰	
第6回	抄読（健康と休養に関する資料）					山口英峰	
第7回	発表準備（スポーツに関する資料）					山口英峰	
第8回	発表準備（教育に関する資料）					山口英峰	
第9回	発表準備（健康と食生活に関する資料）					山口英峰	
第10回	発表準備（健康と運動に関する資料）					山口英峰	
第11回	発表準備（健康と休養に関する資料）					山口英峰	
第12回	発表（スポーツに関する資料）					山口英峰	
第13回	発表（教育に関する資料）					山口英峰	
第14回	発表（健康と食生活に関する資料）					山口英峰	
第15回	中間報告発表会事前準備					山口英峰	
第16回	中間報告発表会					外部講師	
教科書							
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	
参考書							

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	本演習では、「障がい者とスポーツ」について障がい者とスポーツなどの観点から、基礎的な知識および、「障がい者とスポーツ」についての考え方を深めることができる。						
授業概要	演習Ⅲで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて発表し、全員で討論する。4年生の演習及び卒業論文に結びつくように内容にまとめる必要がある。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	毎回の出席50%、課題・議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してくること。また、授業時に配布する資料や各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習及び次回への予習を行うこと。						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					天岡 寛	
第2回	抄読（スポーツに関する資料）					天岡 寛	
第3回	抄読（教育に関する資料）					天岡 寛	
第4回	抄読（健康と食生活に関する資料）					天岡 寛	
第5回	抄読（健康と運動に関する資料）					天岡 寛	
第6回	抄読（健康と休養に関する資料）					天岡 寛	
第7回	発表準備（スポーツに関する資料）					天岡 寛	
第8回	発表準備（教育に関する資料）					天岡 寛	
第9回	発表準備（健康と食生活に関する資料）					天岡 寛	
第10回	発表準備（健康と運動に関する資料）					天岡 寛	
第11回	発表準備（健康と休養に関する資料）					天岡 寛	
第12回	発表（スポーツに関する資料）					天岡 寛	
第13回	発表（教育に関する資料）					天岡 寛	
第14回	発表（健康と食生活に関する資料）					天岡 寛	
第15回	中間報告発表会（外部講師）					天岡 寛	
第16回	最終課題					天岡 寛	
教科書							
教・書籍名1	適宜指示する					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	
参考書							

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 12. つくる責任・つかう責任 / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>実行力あるリーダーシップを醸成するために「ディベートの根本的目的、実践的目的は何かを理解する」をテーマとして、単なる口舌の技術ではなく、自国の文化に自信を持ち、自国語で自分の意見を主張できること。また、相手が誰であろうとも論理的に議論や討論ができることを身につける。</p> <p>国際化時代とは、ディベート的精神を發揮する時代であり、語学の問題ではなく、必要なのは信念であり、気概であり、そして日本語によるディベート技術であり、これがリーダーの条件であることを理解する。加えてディベートが持っている論理的思考能力や意思決定能力の開発とともに人間をプラス思考にさせるディベート的精神を理解することを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>実行のための人間関係と人事の要諦について学ぶ。日本人の表現方法の問題点を考察し、話し方の構造といった基礎的な理解を深めていく。また、ディベートの目的を理解しながら、ディベートの種類と役割について事例を示しながらも加えて資料とデータの効果的な収集と活用方法を理解する。そしてディベートの基本である論理構築能力が身につくようグループ討論を主体とした方式による演習を行う。実践での問題発見と解決のノウハウと思考について学ぶ。また、実行し、信頼される人の条件を考察する。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	この科目では、グループ討論を主体とした方式のため、討論への積極的参加態度（10%）、その為の授業準備（20%）で評価する。毎回のレポート評価(30%)、レポート試験（40%）で評価する。グループ討論、参加型学習を主体としていることから、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。詳しい評価方法は、授業時に説明する。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと】						
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、レポート試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントを配布するため、初回授業よりファイルを用意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	(一社) 高梁スポーツクラブの理事による実務経験員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして参加型学習法で行う。支持に従ってノートを作成復習を行うこと。レポートやスピーチを行う為、予習を行うこと。						
オフィスアワー	火曜日3限 研究室(9401)						
授業計画						担当者	
第1回	実行力のための人間関係と人事の要諦					太田真司	
第2回	反対意見を取り入れて修正すると「より良い案に」になる事例					太田真司	
第3回	信頼関係の根底には「仕事」を置く					太田真司	
第4回	反対派を側におく人事の事例					太田真司	
第5回	リーダーによる意見の傾聴による、組織づくり					太田真司	
第6回	本当に実行すべき課題をリーダーはどのように見つけるべきか					太田真司	

第7回	リーダーの仕事は、部下が気づかない「大きな問題点」を見つける	太田真司
第8回	課題の発見をするための本や新聞の読み方	太田真司
第9回	正しい解をするか決断をするかの事例	太田真司
第10回	絶対的な正解より解決法と決断力	太田真司
第11回	「判断の軸」を部下に示すことは問題解決の第一歩	太田真司
第12回	リーダー自身が「自分を知る」ことの大切さ	太田真司
第13回	「部下ができないこと」を実行するのがリーダーの役割	太田真司
第14回	部下の固定観念への対策	太田真司
第15回	研究倫理教育	太田真司
第16回	レポート試験	

教科書		
-----	--	--

教・書籍名1	担当者の作成する資料により進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書		
-----	--	--

参・書籍名1	適宜紹介する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	学校教育において高めるべきとされている力量などについての基礎的な理念・知識を理解している。 教育学の基礎的な知識などを用いて、学校教育や子どもたちが置かれている現状、スポーツの支援の現状を分析することができる。 上記の知識などを用いて、適切な学習支援計画を作成し、実施できる。 各自の興味関心と社会的ニーズをもとに主体的に研究テーマを設定できる。						
授業概要	演習Ⅲで学んだことを深め、実技の科目の指導案の作成及び模擬授業の実施ができるようになることが本講義の目標である。 保健体育科の目標は、技術面の熟達やスポーツを楽しむことだけにあると考え違いをする学生も多い。しかし、現在の保健体育科はそのレベルを超えて多様な学習目標を含んでいる。そこで本講義の最初に学習目標をリテラシー・エフィカシー・シティズンシップの3点から検討する（第1回～第4回）。また、近年のエビデンスベースの学習評価などが主張されており、学習をより系統的・客観的に評価する手法について議論が行われている。これは目標にも関わる事項である。そこで、学習評価方法についても指標の活用という点から検討する（第5回～第6回）。 なお、この段階は学生のプレゼンテーションによって学習を進めていく。 その後、これまでの議論を参考にして指導案を作成してもらい、模擬授業を実施してもらおう（第7回～第13回）。各回安全管理・ICT活用等のテーマを定め、学習を深め実践力を高めていく。そして、1年間のまとめとして授業の進め方への理解度を確認するとともに、授業や教育について学習を進める過程で興味を持ったことを卒業論文のテーマとして選択してもらおう（第14回～第15回）。春休みには設定したテーマに応じた学習を進めてもらう予定である。 なお、運動指導の方法等を体験的に学ぶため、学科で実施する健康教室への参加を求める。詳細は初回の講義時に指示をする。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業内で課す課題（30％）プレゼンテーション及び模擬授業（50％）及び終講レポート（20％）により評価する。全ての課題などを実施しなかった場合、成績評価は行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	各回講義の課題及びプレゼンテーション、模擬授業は指導という形で講義内でフィードバックを行う。終講レポートについては、オンラインで各自にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅲと合わせて履修すること。資料収集や資料作成を行うため、PC等の基礎的な技能を身に付けておくこと。また、資料を保管するためのファイルなどを用意しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	高等学校の教員の経験をもつ教員が模擬授業における指導方法等の指導を行う。				
事前学習・事後学習とその時間	本演習は学生のプレゼンテーションと模擬授業によって進められる。そのため、担当の学生はそのための準備を行うことが求められる。また、担当以外の学生も授業資料等を配布するのでその内容をまとめて提出することが求められる（1時間半程度）。授業後は、担当者は担当教員及び学生からのコメントをまとめ、自身のプレゼンテーションの振り返りを行うことが求められる。また、担当以外の学生はプレゼンテーションや模擬授業から学んだことをまとめておくことが求められる（1時間半）						
オフィスアワー	水曜日 4限 研究室（9301）						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					倉知典弘	
第2回	保健体育科の目標を考える（1）リテラシーについて					倉知典弘	
第3回	保健体育科の目標を考える（2）エフィカシーについて					倉知典弘	

第4回	保健体育科の目標を考える (3) シティズンシップ	倉知典弘
第5回	保健体育科の評価を考える (1) 多様な評価法の理解	倉知典弘
第6回	保健体育科の評価を考える (2) 尺度を活用した評価法	倉知典弘
第7回	学習指導案の作成方法	倉知典弘
第8回	模擬授業 (1) 実技の安全管理を中心として	倉知典弘
第9回	模擬授業 (2) 実技の授業の流れ	倉知典弘
第10回	模擬授業 (3) 実技における言語活動の充実	倉知典弘
第11回	模擬授業 (4) 実技におけるICTの活用	倉知典弘
第12回	模擬授業 (5) 実技における評価方法	倉知典弘
第13回	模擬授業 (6) 実技における振り返り活動	倉知典弘
第14回	卒業論文の執筆に向けて：模擬授業実践から考える	倉知典弘
第15回	卒業論文テーマの発表	倉知典弘
第16回	レポート試験	倉知典弘

教科書

教・書籍名1	講義担当者が講義内容に応じて資料を用意する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜紹介する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	本演習では、「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。学生は健康について様々な視点から考える能力を身につけることができる。						
授業概要	演習Ⅲで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて、発表し、全員で討論する。三年生の演習に結びつくように内容にまとめる必要がある。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション/実習/その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢(20%)、提出物(30%)、議論・発表などへの取り組み等(50%)から評価する。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のための提出物は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備および熟読が必要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が必要である。毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してくる。復習として、疑問点をピックアップし、その内容を次週発表出来るように準備すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9402研究室）において、毎週月曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					高原皓全	
第2回	抄読（スポーツに関する資料）					高原皓全	
第3回	抄読（教育に関する資料）					高原皓全	
第4回	抄読（健康と食生活に関する資料）					高原皓全	
第5回	抄読（健康と運動に関する資料）					高原皓全	
第6回	抄読（健康と休養に関する資料）					高原皓全	
第7回	発表準備（スポーツに関する資料）					高原皓全	
第8回	発表準備（教育に関する資料）					高原皓全	
第9回	発表準備（健康と食生活に関する資料）					高原皓全	
第10回	発表準備（健康と運動に関する資料）					高原皓全	
第11回	発表準備（健康と休養に関する資料）					高原皓全	
第12回	発表（スポーツに関する資料）					高原皓全	
第13回	発表（教育に関する資料）					高原皓全	
第14回	発表（健康と食生活に関する資料）					高原皓全	
第15回	中間報告発表会事前準備					高原皓全	
第16回	中間報告発表会					外部講師	
教科書							
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	
参考書							

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	「スポーツ・コンプライアンス」をテーマに、スポーツ現場における現状と問題点を学び、スポーツ現場での指導、またビジネスの場面でも役に立つことを身に着けることができる。						
授業概要	「スポーツ・コンプライアンス」の先行研究や文献研究を通じて、考察するとともに4年次の卒業論文につながるよう、プレゼンテーションおよびディスカッションする。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	開会のレポート (40%) 課題レポート (40%) 授業姿勢 (20%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。最終レポートについては、ユニバーサルレポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントの配布をするため、初回授業よりファイルを用意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、本学硬式野球部の監督としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、スポーツ現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、テーマに関連する本、記事、先行研究の文献にて復習する。						
オフィスアワー	個人研究室 (9411) にて、金曜日2限に実施						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション (ガイダンス)					羽野真哉	
第2回	コンプライアンスとは何か					羽野真哉	
第3回	スポーツ・コンプライアンスとは何か					羽野真哉	
第4回	スポーツの価値とは何か					羽野真哉	
第5回	体罰・暴力・暴言					羽野真哉	
第6回	ハラスメント					羽野真哉	
第7回	ドーピング					羽野真哉	
第8回	パラ・ドーピング					羽野真哉	
第9回	八百長・不正行為					羽野真哉	
第10回	スポーツの犯罪・違法行為					羽野真哉	
第11回	スポーツ界のひずみ					羽野真哉	
第12回	スポーツの価値と力を守り、信頼を勝ち取るために					羽野真哉	
第13回	スポーツ界の現状					羽野真哉	
第14回	スポーツ界の未来					羽野真哉	
第15回	現状と比較					羽野真哉	
第16回	最終レポート					羽野真哉	
教科書							
教・書籍名1	担当者の作成資料により進める。					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	

参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅴ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 東洋医学によるスポーツ領域への応用ができる（応用前編）。 到達目標： 学生は灸療法を身につけるようになる。						
授業概要	本演習では、特に東洋医学からのアプローチに着目し、スポーツ、福祉や健康との関わりから考えていく。そして、灸療法を身につけるようになる実践を通して検証していく。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「学生は灸療法を身につけるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、授業姿勢20%、提出物30%、実技等(50%)で評価する。なお、評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。本講義は講義内容理解のために予習復習が必要である。予習として、毎回の授業において問題提起と討論が可能のように各自が必要なテキストを探し、熟読してくること。復習として、疑問点をピックアップし、その内容を次週発表出来るように準備すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 試験は必ず行うので、授業に出席していただければ単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習に、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					孫基然	
第2回	輪読：灸療法について					孫基然	
第3回	実技：米粒大艾柱の作り方					孫基然	
第4回	実技：米粒大艾柱の作り方の復習					孫基然	
第5回	実技：米粒大艾柱に点火の仕方					孫基然	
第6回	実技：米粒大艾柱の作り方に関する小テスト					孫基然	
第7回	実技：半米粒大艾柱の作り方					孫基然	
第8回	実技：半米粒大艾柱の作り方の復習					孫基然	
第9回	講義：吸玉灸療法の解説					孫基然	
第10回	実技：吸玉灸療法の解説					孫基然	

第11回	実技：吸玉灸療法の復習	孫基然
第12回	実技：吸玉灸療法のテスト	孫基然
第13回	実技：光灸療法の練習	孫基然
第14回	実技：光灸療法の復習	孫基然
第15回	発表会：灸療法に関する感想	孫基然
第16回	実技試験	孫基然
教科書		
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	プリントを配布する。	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	演習Ⅴ			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	3年次の演習Ⅲ・演習Ⅳにおける学習内容をベースに学生が、「スポーツマネジメント」「スポーツコーチング」「ゲーム分析」等をテーマに卒業論文作成の現状報告を理論的にプレゼンテーションできる。						
授業概要	各自の卒業論文のテーマについて、作成経過を発表し、ディスカッションする。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	プレゼンテーション（50%）ディスカッション参加度（20%）レポート（30%）						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	毎回の演習時に口頭及び書面でフィードバック						
履修条件・注意事項	無断欠席は認めない。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、2時間程度、復習および次回のテーマについて、予習すること。						
オフィスアワー	個人研究室（9405）にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション（ガイダンス） 研究倫理に基づく責任ある研究活動を実践する。					高藤	
第2回	緒言（仮説）					高藤	
第3回	緒言（目的）					高藤	
第4回	調査方法					高藤	
第5回	調査対象・調査内容（項目）					高藤	
第6回	調査結果の分析方法					高藤	
第7回	結果（マネジメント）					高藤	
第8回	結果（コーチング）					高藤	
第9回	結果（ゲーム分析）					高藤	
第10回	考察（マネジメント）					高藤	
第11回	考察（コーチング）					高藤	
第12回	考察（ゲーム分析）					高藤	
第13回	結論（マネジメント）					高藤	
第14回	結論（コーチング）					高藤	
第15回	結論（ゲーム分析）					高藤	
第16回	最終レポート					高藤	
教科書							
教・書籍名1	論文・レポートの文章作成技法 論理の文章術				教・出版社名1	エディター	
教・著者名1	古郡延治				教・ISBN1	4-88888-366-1	
教・書籍名2	プレゼンテーションを学べ！！				教・出版社名2	ディスカバー	
教・著者名2	アンドリュー・ブラッドバリー				教・ISBN2	978-4-88759-464-7	
参考書							

参・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅴ			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	『現代社会において、運動の持つ役割、運動に対する認識』をテーマとし、運動へのかかわり方はさまざま多様化し、かつ幾多の問題も存在する。社会・生活環境はそこに暮らす人々の健康や体力などに、現代ならではの影響を及ぼしている。その特性に焦点を当てながら、運動やスポーツが我々の直面する様々な問題の改善・解決に貢献することができる可能性について考え、これまでの運動・スポーツの実践方法では及ばない範疇があることを認識することができる。その上で、学生は既存の運動方法を超克する運動のメソッドを知ることができることを到達目標とする。						
授業概要	運動分析、運動とメンタルヘルス、身体的機能・健康と運動の関係性、運動・スポーツに関わる心理、運動パフォーマンスの成り立ち、運動指導の概念と方法、などについてこれまでの考え方を概観する。そのうえで、従来の概念やアプローチでは到達できない、身体と運動及びマインドの有様について、新たなパラダイムに基づく理論と方法を学べる。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業時のレポート（30％）及び最終レポート（70％）をもって評価する。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	本演習は予習及び復習が必要である。指示された内容について、各自予習・復習を行うこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	次回の授業の概要を提示するので、学生は各自それをもとに、事前の情報収集などの予習を行う。各回の授業後は、授業内容に基づいて、各自考察を記載して、後で提出する。予習1コマ・復習1コマをそれぞれ行うこと。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション：研究倫理の教育					竹内研	
第2回	自然科学的運動分析					竹内研	
第3回	人間学的運動分析					竹内研	
第4回	運動科学による運動分析					竹内研	
第5回	運動とメンタルヘルス					竹内研	
第6回	身体とメンタルヘルス					竹内研	
第7回	メンタルコントロールと身体					竹内研	
第8回	動機・意欲とマインド					竹内研	
第9回	運動行動を規定するマインド					竹内研	
第10回	心理的競技能力を規定するもの					竹内研	
第11回	運動パフォーマンスを規定するもの					竹内研	
第12回	身体機能の基盤					竹内研	
第13回	身体意識の存在					竹内研	
第14回	身体とマインド					竹内研	
第15回	最終レポート作成					竹内研	
第16回							

教科書			
教・書籍名1	スポーツ運動学	教・出版社名1	明和出版
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅴ			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	「福祉、健康、運動の関わりについて」をテーマとする。学生は実験を通してそれらの相互関係を理解することができる。						
授業概要	本演習では、特に運動生理学からのアプローチに着目し、福祉や健康について運動や運動処方との関わりから考えていく。そして、自らの健康と体力を維持し、生活の質を向上させるためになすべきことを、具体的な実験あるいは実践を通して検証していく。これら様々な結果を融合させて、福祉現場や運動実践現場などの応用としていきたいと考えている。＜演習の実施方法＞自分が疑問に感じること、興味があることについて考え、自分自身に問題提議する。その中から各自がテーマを選択し、関連資料を収集し、その成果をまとめて発表し、全員で討論する。その後、検証すべき課題を設定し、実験あるいはフィールド調査等の手法を用いて研究を進めていく。基本的技術として、実験機器の操作法や実験手法やパソコンによるデータ集計、作図方法、プレゼンテーション技術などを学ぶ。十分な理解を得るために、授業時間以外にも実験ならびにデータ整理等の指導を行う予定である。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢(20%)、提出物(30%)、議論・発表などへの取り組み等(50%)から評価する。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については演習ルーブリックを確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のための提出物は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は予習復習が必要である。予習として、毎回の授業において問題提起と討論が可能のように各自が必要なテキストを探し、熟読してくること。復習として、疑問点をピックアップし、その内容を次週発表出来るように準備すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9410研究室）において、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					山口英峰	
第2回	資料の収集方法の紹介（図書館）					山口英峰	
第3回	資料の収集方法の紹介（インターネット）					山口英峰	
第4回	資料の収集（趣味について）					山口英峰	
第5回	資料の収集（スポーツについて）					山口英峰	
第6回	資料の収集（将来の就職について）					山口英峰	
第7回	資料の収集（抄読に必要な資料－健康）					山口英峰	
第8回	資料の収集（抄読に必要な資料－スポーツ）					山口英峰	
第9回	資料の収集（抄読に必要な資料－教育）					山口英峰	
第10回	抄読（健康に関する資料）					山口英峰	
第11回	抄読（スポーツに関する資料）					山口英峰	
第12回	抄読（教育に関する資料）					山口英峰	
第13回	抄読（健康と食生活に関する資料）					山口英峰	
第14回	抄読（健康と運動に関する資料）					山口英峰	
第15回	抄読（健康と休養に関する資料）					山口英峰	
第16回	中間発表					山口英峰	

教科書			
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅴ			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	本演習では、スポーツを『any physical activity』としてとらえ、障がい者を対象とした「スポーツ」についての考え方を理解することができる。						
授業概要	本演習では、「アダプテッドスポーツ」に関する資料を読み、自分が疑問に感じる点、興味がある点について考え、その中から各自がテーマを選択する。関連資料を収集し、その成果をまとめる。基本的技術として、パソコンによるデータ集計、作図方法、プレゼンテーション技術などを学ぶ。十分な理解を得るために、授業時間以外にも実験ならびにデータ整理等の指導を行う予定である。また、学外でのボランティア活動を行う予定である。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/グループワーク/プレゼンテーション/フィールドワーク/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	課題・議論・発表などへの取り組み等(50%)、受講態度(50%) なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。 学外ボランティア活動も行う予定である。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自で必要なテキストを探し、熟読してくること。また、授業時に配布する資料や各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習及び次回への予習を行うこと。						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					天岡 寛	
第2回	資料の収集方法の紹介(図書館)					天岡 寛	
第3回	資料の収集方法の紹介(インターネット)					天岡 寛	
第4回	資料の収集(趣味について)					天岡 寛	
第5回	資料の収集(スポーツについて)					天岡 寛	
第6回	資料の収集(将来の就職について)					天岡 寛	
第7回	資料の収集(抄読に必要な資料:障害とは)					天岡 寛	
第8回	資料の収集(抄読に必要な資料:スポーツとは)					天岡 寛	
第9回	資料の収集(抄読に必要な資料:アダプテッド・スポーツとは)					天岡 寛	
第10回	抄読(障害に関する資料)					天岡 寛	
第11回	抄読(スポーツに関する資料)					天岡 寛	
第12回	抄読(アダプテッド・スポーツに関する資料)					天岡 寛	
第13回	抄読(健康に関する資料)					天岡 寛	
第14回	抄読(運動に関する資料)					天岡 寛	
第15回	抄読(休養に関する資料)					天岡 寛	
第16回	発表会					天岡 寛	
教科書							
教・書籍名1	適宜指示する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		

教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する.	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅴ			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	5. ジェンダー平等を実現しよう / 8. 働きがいも経済成長も 						
到達目標	リーダーが実行のためのビジョンづくりとチーム作りのために「コーチ論」をテーマとしてコーチングの目的を学び、学生が、自発的にコーチングができる能力を身につけることができる。 学生が、世界の監督独自のリーダーシップを知ることで、理想のコーチング像と勝つための戦略作り、アカデミー世代へのアプローチを理解し、自ら考えコーチングできることを到達目標とする。						
授業概要	リーダーの役割である仕組みづくりを学ぶ。コーチが監督に提案をとおすための「比較優位」の考え方を学ぶ。情報化社会の中での情報の取捨すること、組織の情報危機管理を学ぶ。学生が現場で自信を持ってリーダーシップを発揮するために、実行プランの作成、コーチングの目的、コーチ、選手の心理学、コーチに求められる知識、チームビルディング、戦術、トレーニング方法や複雑な仕組みについて考察する。また具体的な事例を示しながら、コーチングが身につくようにグループ討論を主体とした方式による演習を行なう。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション / ディベート / グループワーク / プレゼンテーション						
評価方法と割合	毎回のレポート評価(40%) 毎回のプレゼンテーション・議論 (60%)						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと】						
課題や試験のフィードバック方法	課題及びプレゼンテーションについては講義内指導という形でフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントを配布するため、初回授業よりファイルを用意すること。演習Ⅳと合わせて履修すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	一社) 高梁スポーツクラブの理事による実務経験員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして参加型学習法で行う。支持に従ってノートを作成復習を行うこと。レポートやスピーチを行う為、予習を行うこと。予習および復習には、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	火曜日 3限 研究室 (9401)						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動					太田真司	
第2回	ビジョンづくりと実行プランの違い					太田真司	
第3回	チーム作りにおける失敗事例					太田真司	
第4回	リーダーが考える「比較優位」について					太田真司	
第5回	セクショナリズムと上司の視点					太田真司	
第6回	「比較優位のロジック」と「熱意ある思い」の大切さ					太田真司	
第7回	リーダーが考える全体最適と部分最適について					太田真司	
第8回	リーダーの意向や動きを想像するのは「良い付度」					太田真司	
第9回	リーダーが情報化社会の中で情報を制し組織をまとめる事例					太田真司	
第10回	情報が共有されないことの組織のリスク					太田真司	
第11回	組織の危機管理は「まずい情報」を早くあげさせること					太田真司	
第12回	実行プランを策定しない失敗事例					太田真司	

第13回	民主主義の正道の実行プロセス事例	太田真司
第14回	リーダーシップを発揮し、実行できる組織にするために	太田真司
第15回	有識者のレポートと現場が作成する実行プランの違い	太田真司
第16回	レポート試験	
教科書		
教・書籍名1	担当者の作成する資料により進める。	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	適宜紹介する。	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	演習Ⅴ			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・演習Ⅲ・Ⅳで決定したテーマに関する歴史的社会的背景を説明できる ・テーマに関わる基礎的な概念等を批判的に考察することができる ・多様な調査手法を理解し、テーマに適した研究手法を選択することができる ・多様な評価手法（指標等）を理解し、テーマに即した指標などを選択できる ・上記を理解した上で、適切な調査計画の作成を行うことができる。 						
授業概要	<p>本演習では、指導方法や指導者像を考えるための調査研究を行うための調査計画の作成を行う。</p> <p>まず最初にテーマを決定したのち、研究方法としての模擬授業の可能性を探る（第1回～第3回）。この回は、3年生と合同で実施し、複数学年での意見交換を行う。以降、具体的な調査計画の作成に入る。最初に、各自が取り組むテーマの社会的背景を教育政策等の資料を基に検討し、その調査が持つ社会的意義を検討する（第4回～第7回）。次に具体的な調査手法を先行研究を検討することで学習する（第8回～第11回）。この過程で、自身の研究にとって適切な調査手法は何かを明確にする。これらの成果を活かして、具体的な調査計画を行う（第12回～第15回）。ここではテーマと手法の適切な対応だけでなく、調査に関わる倫理的配慮などを理解することが求められる。なお、本演習はそれぞれがテーマに応じた資料を検索し、まとめることが求められる。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	各回講義の課題（30%）、プレゼンテーション（40%）、終講レポート（30%）によって評価する。すべての資料が提出されない場合は、評価の対象としない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	各回課題及びプレゼンテーションは講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートは演習Ⅵの講義の初回にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	<p>演習Ⅵ及び卒業論文を合わせて履修すること。各回課題を提示するので必ず実施すること。また、履修に当たり、以下のものを用意すること</p> <p>1：各自の作成した資料などを保存するUSBメモリーなどの記憶媒体</p> <p>2：講義資料や作成した課題を綴じ込むA4ファイル（リングファイルが望ましい）</p>						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	各回講義内容に応じた文書読解・資料調査及びプレゼンテーションの準備を実施してもらい、その成果を提出してもらう（1時間半程度）。講義の後は、講義中のフィードバックに応じて課題・プレゼンテーションの修正を行い、講義内容の振り返りを行うこと（1時間半程度）						
オフィスアワー	水曜日 4限						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					倉知典弘	
第2回	研究手法としての模擬授業（1）保健科					倉知典弘	
第3回	研究手法としての模擬授業（2）体育科					倉知典弘	
第4回	研究テーマに関わる基礎概念					倉知典弘	
第5回	社会的背景の検討（1）学習指導要領を参考に					倉知典弘	
第6回	社会的背景の検討（2）政策文書の検討					倉知典弘	
第7回	社会的背景の検討（3）多様な調査の結果を踏まえて					倉知典弘	
第8回	調査手法の検討（1）調査目的の設定					倉知典弘	

第9回	調査手法の検討(2) 量的調査の手法	倉知典弘
第10回	調査手法の検討(3) 質的調査の手法	倉知典弘
第11回	調査手法の検討(4) 様々な指標・尺度	倉知典弘
第12回	調査計画のデザイン(1) 調査目的・対象の検討	倉知典弘
第13回	調査計画のデザイン(2) 調査方法・項目・尺度の検討	倉知典弘
第14回	調査計画のデザイン(3) データのとりまとめ方	倉知典弘
第15回	講義のまとめ: 調査計画の完成	倉知典弘
第16回	レポート試験	倉知典弘

教科書

教・書籍名1	講義担当者が用意する資料に基づいて実施する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅴ			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	「福祉、健康、運動の関わりについて」をテーマとする。学生は実験を通してそれらの相互関係を理解することができる。						
授業概要	本演習では、生理学および心理学的アプローチ法を用いてヒトのこことからの結びつきについて検証する。ヒトを対象とした実験を実施し、得られた結果から、日常生活や将来の就職先等で応用可能な基礎的資料を得る。学生は各自の日常生活や大学での学習内容から生じた疑問を研究テーマの素材とする。各学生の研究テーマについて学生同士でディスカッションを行う。ディスカッションを通して得られた意見等をもとに研究テーマ、研究方法のブラッシュアップを行う。実験機器の操作方法、実験手法、コンピューターを用いたデータ解析、統計学的検定方法、プレゼンテーション技法を学ぶ。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション/実習/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	授業姿勢(20%)、提出物(30%)、議論・発表などへの取り組み等(50%)から評価する。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のための提出物は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は予習復習が必要である。予習として、毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自が必要なテキストを探し、熟読してくること。復習として、疑問点をピックアップし、その内容を次週発表出来るように準備すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室(9410研究室)において、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					高原皓全	
第2回	資料の収集方法の紹介(図書館)					高原皓全	
第3回	資料の収集方法の紹介(インターネット)					高原皓全	
第4回	資料の収集(趣味について)					高原皓全	
第5回	資料の収集(スポーツについて)					高原皓全	
第6回	資料の収集(将来の就職について)					高原皓全	
第7回	資料の収集(抄読に必要な資料-健康)					高原皓全	
第8回	資料の収集(抄読に必要な資料-スポーツ)					高原皓全	
第9回	資料の収集(抄読に必要な資料-教育)					高原皓全	
第10回	抄読(健康に関する資料)					高原皓全	
第11回	抄読(スポーツに関する資料)					高原皓全	
第12回	抄読(教育に関する資料)					高原皓全	
第13回	抄読(健康と食生活に関する資料)					高原皓全	
第14回	抄読(健康と運動に関する資料)					高原皓全	
第15回	抄読(健康と休養に関する資料)					高原皓全	
第16回	中間発表					高原皓全	
教科書							
教・書籍名1	使用しない(プリントを配布する)					教・出版社名1	

教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅴ			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	3年次の演習Ⅲ・演習Ⅳにおける学習内容をベースに学生が、「チームビルディング」「身体組成測定分析」「ラプソード測定分析」等をテーマに卒業論文作成の現状報告を理論的にプレゼンテーションできる。						
授業概要	各自の卒業論文のテーマについて、作成経過を発表し、ディスカッションする。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	プレゼンテーション (50%) ディスカッション参加度 (20%) レポート (30%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントの配布をするため、初回授業よりファイルを用意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、本学硬式野球部の監督としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、スポーツ現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、2時間程度、復習および次回のテーマについて、予習すること。						
オフィスアワー	個人研究室 (9411) にて、金曜日 2 限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					羽野真哉	
第2回	緒言 (仮説)					羽野真哉	
第3回	緒言 (目的)					羽野真哉	
第4回	調査方法 (身体組成)					羽野真哉	
第5回	調査方法 (ラプソード)					羽野真哉	
第6回	調査結果の分析方法					羽野真哉	
第7回	結果 (チームビルディング)					羽野真哉	
第8回	結果 (身体組成)					羽野真哉	
第9回	結果 (ラプソード)					羽野真哉	
第10回	考察 (チームビルディング)					羽野真哉	
第11回	考察 (身体組成)					羽野真哉	
第12回	考察 (ラプソード)					羽野真哉	
第13回	結論 (チームビルディング)					羽野真哉	
第14回	結論 (身体組成)					羽野真哉	
第15回	結論 (ラプソード)					羽野真哉	
第16回							
教科書							
教・書籍名1	論文・レポートの文章作成技法 論理の文章術				教・出版社名1	エディター	
教・著者名1	古郡延治				教・ISBN1	4-88888-366-1	
教・書籍名2	プレゼンテーションを学べ！！				教・出版社名2	ディスカバー	
教・著者名2	アンドリュー・ブラッドバリー				教・ISBN2	978-4-88759-464-7	

参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習VI			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 東洋医学によるスポーツ領域への応用ができる（応用後編）。 到達目標： 学生は鍼療法を身につけるようになる。						
授業概要	本演習では、特に東洋医学からのアプローチに着目し、鍼療法について実践を通して検証していく。自分が疑問に感じること、興味があることについて考え、自分自身に問題提議する。その中から各自がテーマを選択し、関連資料を収集し、その成果をまとめて発表し、全員で討論し、実技試験を実施する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「学生は鍼療法を身につけるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、授業姿勢20%、提出物30%、実技等(50%)で評価する。なお、評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してくること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 試験は必ず行うので、授業に出席していただければ単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習に、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					孫基然	
第2回	講義：鍼治療について					孫基然	
第3回	輪読：鍼治療の歴史					孫基然	
第4回	輪読：鍼治療の適応症及び注意事項					孫基然	
第5回	実技：片手挿管法の練習					孫基然	
第6回	実技：片手挿管法の復習					孫基然	
第7回	実技：片手挿管法のテスト					孫基然	
第8回	実技：鍼の指し方（平刺、斜刺、直刺）					孫基然	

第9回	実技：鍼の指し方（単刺、雀啄法）	孫基然
第10回	実技：鍼の指し方（間歇法）	孫基然
第11回	実技：鍼の指し方（屋漏法）	孫基然
第12回	実技：鍼の指し方（震顫法）	孫基然
第13回	実技：鍼の指し方（示指打法、内調術）	孫基然
第14回	実技：鍼の指し方（散鍼、細指法）	孫基然
第15回	発表会：実技に関する感想	孫基然
第16回	実技試験	孫基然

教科書

教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	プリントを配布する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習VI			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	3年次の演習III・演習IVにおける学習内容をベースに学生が、「スポーツマネジメント」「スポーツコーチング」「ゲーム分析」等をテーマに卒業論文作成の現状報告を理論的にプレゼンテーションできる。						
授業概要	各自の卒業論文のテーマについて、作成経過を発表し、ディスカッションする。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/プレゼンテーション						
評価方法と割合	プレゼンテーション (50%) ディスカッション参加度 (20%) レポート (30%)						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	演習を通して、口頭及び書面でフィードバック						
履修条件・注意事項	無断欠席は認めない。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回のプレゼンテーション内容をまとめておくだけでなく、他の人の発表内容もまとめておくこと。また、毎回プレゼンテーション内容の予習するとともにプレゼンテーション並びにディスカッションの内容を復習すること。						
オフィスアワー	個人研究室 (9号館4階) にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					高藤	
第2回	マネジメント (文献研究)					高藤	
第3回	コーチング (文献研究)					高藤	
第4回	マネジメント (資料調査)					高藤	
第5回	コーチング (資料調査)					高藤	
第6回	ゲーム分析 (フットサル)					高藤	
第7回	ゲーム分析 (サッカー攻撃)					高藤	
第8回	ゲーム分析 (サッカー守備)					高藤	
第9回	マネジメント (アンケート)					高藤	
第10回	コーチング (具体的対象)					高藤	
第11回	発表 (文献研究)					高藤	
第12回	発表 (分析・攻撃)					高藤	
第13回	発表 (アンケート)					高藤	
第14回	発表 (分析・守備)					高藤	
第15回	総括 (まとめ)					高藤	
第16回	最終レポート					高藤	
教科書							
教・書籍名1	体育経営管理論集				教・出版社名1	日本体育学会 体育経営管理専門分科会	
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2	体育・スポーツ経営学研究				教・出版社名2	日本体育学会 体育経営	

			管理専門分科会
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習VI			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	『これまでの多くの運動学習方法や指導方法の研究・実践』をテーマとし、そこに関わる分野も学問的な認識を扱う分野に始まり、その対象としての職業スキルやパフォーマンス、芸術におけるスキルやパフォーマンス、そして運動・スポーツのスキルやパフォーマンスなど多岐に亘る。しかし総じていえば、目標達成ということになるだろう。近年、コーチングとして新たな目標達成プログラムが提起され、多くの分野で成果をあげている。本演習では学生はコーチングの理論と方法を理解して、それぞれが目標達成のためのスキルを用いることができるようになることを到達目標とする。						
授業概要	認知科学、脳科学、心理学などの研究成果に裏打ちされた、最も代表的な目標達成プログラムである、TPIEの理論と方法について学習する。演習を通して、各自が自らの目標を明確に設定でき、その目標達成のためにゴールのリアリティを高めていく方法を習得する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業時のレポート（30％）及び最終レポート（70％）をもって評価する。評価のためのレポート等は、授業時にフィードバックする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	本演習は予習及び復習が必要である。指示された内容について、各自予習・復習を行うこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	次回の授業の概要を提示するので、学生は各自それをもとに、事前の情報収集などの予習を行う。各回の授業後は、授業内容に基づいて、各自考察を記載して、後で提出する。予習1コマ・復習1コマをそれぞれ約2時間行うこと。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション：研究倫理の教育					竹内研	
第2回	コーチングの沿革					竹内研	
第3回	従来の行動主義心理学に基づくメンタルトレーニング					竹内研	
第4回	新しい脳科学、認知科学のパラダイムとコーチング					竹内研	
第5回	ハビットとアティチュード					竹内研	
第6回	RASの機能とスコトマ					竹内研	
第7回	情動記憶が形成するコンフォートゾーン					竹内研	
第8回	セルフイメージの形成とホメオスタシス					竹内研	
第9回	情報空間と内部表現					竹内研	
第10回	脳機能の実態：脳は物理空間と情報空間の識別がつかない					竹内研	
第11回	思考の本質・ワーズ、ピクチャー、エモーション					竹内研	
第12回	認知的不協和の機能					竹内研	
第13回	セルフエフィカシーとセルフトーク					竹内研	
第14回	ゴール設定の正しい方法とその機能					竹内研	
第15回	アフメーションの実践と最終レポート作成					竹内研	
第16回							

教科書			
教・書籍名1	コンフォートゾーンの作り方	教・出版社名1	フォレスト出版
教・著者名1	苔米地英人	教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習VI			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	本演習では、「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。学生は健康について様々な視点から考える能力を身につけることができる。						
授業概要	演習IIIで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて、発表し、全員で討論する。三年生の演習に結びつくように内容にまとめる必要がある。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション/実習/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	授業姿勢(20%)、提出物(30%)、議論・発表などへの取り組み等(50%)から評価する。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については演習ルーブリックを確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のための退出物は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備および熟読が必要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が必要である。毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してくる。復習として、疑問点をピックアップし、その内容を次週発表出来るように準備すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室(9410研究室)において、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					山口英峰	
第2回	抄読(スポーツに関する資料)					山口英峰	
第3回	抄読(教育に関する資料)					山口英峰	
第4回	抄読(健康と食生活に関する資料)					山口英峰	
第5回	抄読(健康と運動に関する資料)					山口英峰	
第6回	抄読(健康と休養に関する資料)					山口英峰	
第7回	発表準備(スポーツに関する資料)					山口英峰	
第8回	発表準備(教育に関する資料)					山口英峰	
第9回	発表準備(健康と食生活に関する資料)					山口英峰	
第10回	発表準備(健康と運動に関する資料)					山口英峰	
第11回	発表準備(健康と休養に関する資料)					山口英峰	
第12回	発表(スポーツに関する資料)					山口英峰	
第13回	発表(教育に関する資料)					山口英峰	
第14回	発表(健康と食生活に関する資料)					山口英峰	
第15回	報告会事前準備					山口英峰	
第16回	報告発表会					外部講師	
教科書							
教・書籍名1	使用しない(プリントを配布する)					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	
参考書							

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習VI			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	本演習では、演習Vで各自が取り上げた研究内容をさらに充実させていく。障がい者とスポーツ活動のあり方について学ぶことができる。						
授業概要	特に、重度の身体障がいを持つ人々が行う「電動車椅子サッカー」を対象とする。卒業論文を書くためのデータ収集・解析を行う。学外でのボランティア活動を行うこともある。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/グループワーク/プレゼンテーション/フィールドワーク/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	課題・議論・発表などへの取り組み等(50%)、受講態度(50%) なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。 学外ボランティア活動も行う予定である。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能のように各自に必要なテキストを探し、熟読してくること。また、授業時に配布する資料や各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習及び次回への予習を行うこと。						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					天岡 寛	
第2回	データ解析方法の紹介(図書館)					天岡 寛	
第3回	データ解析方法の紹介(インターネット)					天岡 寛	
第4回	資料収集(健康づくりとは)					天岡 寛	
第5回	資料収集(健康づくりの組織)					天岡 寛	
第6回	資料収集(健康づくりと運動)					天岡 寛	
第7回	資料収集(健康づくりに関わる人)					天岡 寛	
第8回	資料収集(健康づくりの歴史と発展)					天岡 寛	
第9回	資料収集(健康づくりのための運動教室)					天岡 寛	
第10回	データ解析方法(体力測定①体格)					天岡 寛	
第11回	データ解析方法(体力測定②体組成)					天岡 寛	
第12回	データ解析方法(体力測定③筋力)					天岡 寛	
第13回	データ解析方法(体力測定④筋持久力)					天岡 寛	
第14回	データ解析方法(体力測定⑤全身持久力)					天岡 寛	
第15回	データ解析方法(体力測定⑥組織運営)					天岡 寛	
第16回	外部講師					天岡 寛	
教科書							
教・書籍名1	適宜指示する。					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	

参考書			
参・書籍名1	適宜指示する.	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習VI			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>リーダーの交渉力を身に付けることができるように原則をしる。そのために「ディベートの根本的目的、実践的目的は何かを理解する」をテーマとして、単なる口舌の技術ではなく、自国の文化に自信を持ち、自国語で自分の意見を主張できること。また、相手が誰であろうとも論理的に議論や討論ができることを身につける。</p> <p>国際化時代とは、ディベート的精神を発揮する時代であり、語学の問題ではなく、必要なのは信念であり、気概であり、そして日本語によるディベート技術であり、これがリーダーの条件であることを理解する。加えてディベートが持っている論理的思考能力や意思決定能力の開発とともに人間をプラス思考にさせるディベート的精神を理解することを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>リーダーの交渉は三つの手法をまず知る事。「仮定の利益」と「譲歩すること」を事例から学んでいく。交渉をする以前に、日本人の表現方法の問題点を考察し、話し方の構造といった基礎的な理解を深めていく。また、論理学の目的を理解しながら、「要素」に分解することを学んでいく。交渉力を高めるためにまずは自らの力を高めること。そのためにディベートの種類と役割について事例を示しながらも加えて資料とデータの効果的な収集と活用方法を理解する。そして交渉の基本である論理構築能力が身につくようグループ討論を主体とした方式による演習を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	<p>この科目では、グループ討論を主体とした方式のため、討論への積極的参加態度（10％）、その為の授業準備（20％）で評価する。毎回のレポート評価(30％)、レポート試験（40％）とする。</p> <p>グループ討論、参加型学習を主体としている事から、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。詳しい評価方法は、授業時に説明する。</p> <p>なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、レポート試験までに見直しておくこと。</p>						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと】						
課題や試験のフィードバック方法	課題及びプレゼンテーションについては講義内指導という形でフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントを配布するため、初回授業よりファイルを用意すること。演習Vと合わせて履修。						
実務経験のある教員	該当する	内容	(一社) 高梁スポーツクラブの理事による実務経験者がその経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして参加型学習法で行う。指示に従ってノートを作成復習を行うこと。レポートやスピーチを行う為、予習を行うこと。						
オフィスアワー	火曜日 3限 (研究室) 9401教室						
授業計画						担当者	
第1回	交渉にかつための原則をしる					太田真司	
第2回	実践的交渉では原則を知る					太田真司	
第3回	交渉で重要な「仮定の利益」の事例をしる					太田真司	
第4回	交渉における先手をとることと譲歩のカード					太田真司	

第5回	協調的な交渉をまとめるためにタダでできること	太田真司
第6回	部下との協議でも「相手と対等」という意識をもつ	太田真司
第7回	交渉の終わらせ方における原則	太田真司
第8回	交渉における要望の整理とマトリックス	太田真司
第9回	要望から2つのグループに分ける。	太田真司
第10回	会話から相手の優先順位をつかむ	太田真司
第11回	相手の価値観、判断基準を見極める。	太田真司
第12回	お互いの要望・譲歩のマトリックスをつくる	太田真司
第13回	お互いの一致点を広げ、不一致点を狭める。	太田真司
第14回	抽象的な概念を、具体的レベルに落としこんで議論する。	太田真司
第15回	要素分解する傾聴する大切さ	太田真司
第16回	レポート試験	太田真司

教科書

教・書籍名1	担当者の作成する資料により進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜紹介する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習VI			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	演習Vで設定した調査計画を適切に実施し、その結果を整理し分析することが出来る。各自のテーマの成果をまとめて、他者に伝え、議論することが出来る。						
授業概要	本講義は演習Vで作成した計画に基づいた研究成果を活用し、指導者としてのあり方についての理解を深めることを目標としている。また、本講義の内容は卒業論文作成の際の基本的な手法の学習とリンクしている。講義の前半では実際に行った調査結果を多様な観点から整理する(第2回～第7回)。その後、調査結果を研究倫理を踏まえながら報告するための基本的な手法について学ぶ(第8回～第12回) 適切に表現する講義の最後には研究成果を活かして、指導者としてのあり方などをプレゼンテーションしてもらい、指導者としての考え方を深めてもらう(第13回～第15回)。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/プレゼンテーション/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	講義中に指示する課題の提出(30%) プレゼンテーション(30%) 終講課題(40%) で評価する。全て提出されない場合は、成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	課題及びプレゼンテーションについては講義内及びオンラインで個別にフィードバックを行う。終講課題については、オンラインで個別にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習V及び卒業論文をあわせて履修すること。受講生の作成した資料を基にした討議を進めていくため、必ず各回で指定する資料を作成してから参加すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本演習では講義内容に応じて文献読解を課し、そのまとめを作成してもらう(1時間半程度)。講義のあとは、その内容を振り返り、文章の修正やデータの解析のやり直しなどをこなすこと(1時間半程度)						
オフィスアワー	水曜日 4限						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					倉知典弘	
第2回	歴史的経緯のまとめ方					倉知典弘	
第3回	量的調査のまとめ方(1) 分析手法の妥当性					倉知典弘	
第4回	量的調査のまとめ方(2) 分析結果の検討法					倉知典弘	
第5回	質的調査まとめ方(1) 分析手法の妥当性					倉知典弘	
第6回	質的調査のまとめ方(2) 分析結果の検討法					倉知典弘	
第7回	中間考察ー調査結果のまとめを用いた討議					倉知典弘	
第8回	研究目的・方法の書き方					倉知典弘	
第9回	調査計画の書き方					倉知典弘	
第10回	調査結果の書き方					倉知典弘	
第11回	調査の分析結果の書き方					倉知典弘	
第12回	引用文献・参考文献の書き方及び体裁の整え方					倉知典弘	
第13回	プレゼンテーション(1) スポーツの指導法					倉知典弘	
第14回	プレゼンテーション(2) スポーツの指導者のあり方					倉知典弘	
第15回	プレゼンテーション(3) 大学生活を振り返って					倉知典弘	

第16回	レポート試験	倉知典弘	
教科書			
教・書籍名1	学生を選択するテーマなどに応じて担当者が用意する講義資料に基づいて行う	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習VI			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	本演習では、「こころとからだの健康」について基礎的な知識および健康についての考え方を深める。学生は健康について様々な視点から考究する能力を身につけることができる。						
授業概要	演習Vで決定した各自のテーマについてさらに学びを深める。各自の研究テーマについての成果を発表し、ディスカッションを行う。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション/実習/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	授業姿勢(20%)、提出物(30%)、議論・発表などへの取り組み等(50%)から評価する。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のための退出物は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備および熟読が必要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義では、予襲復讐がそれぞれ2時間程度必要である。予習は、毎回の講義において質の高いディスカッションが可能になるよう、各自で必要な資料を探し、熟読しておくこと。復習はディスカッションで得られた課題について自習発表できるように準備すること。						
オフィスアワー	9号館2階の個人研究室(9402)において、毎週月曜日2限目をオフィスアワーとする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					高原皓全	
第2回	抄読(スポーツ)					高原皓全	
第3回	抄読(教育)					高原皓全	
第4回	抄読(生活習慣と健康)					高原皓全	
第5回	抄読(健康と運動)					高原皓全	
第6回	抄読(健康と栄養)					高原皓全	
第7回	発表準備(スポーツ)					高原皓全	
第8回	発表準備(教育)					高原皓全	
第9回	発表準備(生活習慣と健康)					高原皓全	
第10回	発表準備(健康と運動)					高原皓全	
第11回	発表準備(健康と栄養)					高原皓全	
第12回	発表(スポーツ)					高原皓全	
第13回	発表(教育)					高原皓全	
第14回	発表(生活習慣と健康)					高原皓全	
第15回	中間報告会					高原皓全	
第16回							
教科書							
教・書籍名1	使用しない(プリントを配布する)					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	
参考書							

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習VI			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	3年次の演習Ⅲ・演習Ⅳにおける学習内容をベースに学生が、「チームビルディング」「身体組成測定分析」「ラプソード測定」等をテーマに卒業論文作成の現状報告を理論的にプレゼンテーションできる。						
授業概要	各自の卒業論文のテーマについて、作成経過を発表し、ディスカッションする。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	プレゼンテーション (50%) ディスカッション参加度 (20%) レポート (30%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。最終レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントの配布をするため、初回授業よりファイルを用意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、本学硬式野球部の監督としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、スポーツ現場において実践的に役立つ授業を実践する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回のプレゼンテーション内容をまとめておくだけでなく、他の人の発表内容もまとめておくこと。						
オフィスアワー	個人研究室（9号館4階）にて、金曜日2限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション（ガイダンス）					羽野真哉	
第2回	チームビルディング（文献研究）					羽野真哉	
第3回	身体組成測定（文献研究）					羽野真哉	
第4回	ラプソード測定（文献研究）					羽野真哉	
第5回	身体組成（測定データ分析）					羽野真哉	
第6回	ラプソード測定（測定データ分析）					羽野真哉	
第7回	チームビルディング（先行研究）					羽野真哉	
第8回	プレゼンテーション（チームビルディング）					羽野真哉	
第9回	プレゼンテーション（身体組成）					羽野真哉	
第10回	プレゼンテーション（ラプソード）					羽野真哉	
第11回	発表（チームビルディング）					羽野真哉	
第12回	発表（身体組成）					羽野真哉	
第13回	発表（ラプソード）					羽野真哉	
第14回	総括（発表会）					羽野真哉	
第15回	総括（論文制作）					羽野真哉	
第16回							
教科書							
教・書籍名1	体育経営管理論集				教・出版社名1	日本体育学会 体育経営管理専門分科会	
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2	体育・スポーツ経営学研究				教・出版社名2	日本体育学会 体育経営管理専門分科会	

教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	卒業論文			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-409		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： スポーツ領域における東洋医学の応用について 到達目標： 学生は東洋医学の知識、実技を生かしスポーツ傷害における様々の問題の解決に役立つことができる。						
授業概要	各自の研究テーマを、先行研究の抄読を基に選択する。そして、論文作成のために適する研究方法の選択を行う。仮説を構築し、また問題の所在を明らかにして、データの収集や文献の収集を行う。データに基づく研究では、標本の抽出に留意し、文献資料に基づく研究では、論理性を重視した、論文の作成を行う。卒業論文の執筆指導を行う。テーマ設定、資料・データの収集・分析、構成、執筆まで総合的に指導する。教員との対話を通じて、学問的な基本概念や先行文献の調査法、論文の議論構成の仕方を理解するとともに、実際に自分自身でその理解に基づいて作業を行っていく。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	「学生は東洋医学の知識、実技を生かしスポーツ傷害における様々の問題の解決に役立つことができる」の到達度について研究に取り組む姿勢(30%)および卒業論文提出（70%）から授業姿勢30%を合計して総合評価する。なお、評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	日頃から実験を行い、課題や結果等に対する考察を充実させること。個人指導を基本とするが、同様な研究テーマ、手法を扱う者と討論を行い連携を図ること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 試験は必ず行うので、授業に出席していただければ単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習に、各2時間程度を要する。本授業において問題提起と討論が可能のように各自に必要なテキストを探し、熟読してくること。また、実験のディスカッションについては、しっかりと文面化して毎回の講義内容をまとめること。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					孫基然	
第2回	研究テーマ周辺知識の整理と検討 文献・資料の検討 (1) 考察に向けて					孫基然	
第3回	文献・資料の検討 (2) 論文形成の実践					孫基然	
第4回	研究内容についての議論 (1) 基礎データの活用					孫基然	
第5回	研究内容についての議論 (2) 先行文献の活用					孫基然	
第6回	研究内容についての議論 (3) 論文の批評を通して					孫基然	
第7回	研究内容についての議論 (4) 先行研究と仮説					孫基然	

第8回	実施(1) プレテスト及び、実施手順	孫基然
第9回	実施(2) 実施における留意点	孫基然
第10回	実施(3) 実施の課題点の検討	孫基然
第11回	結果の分析(1) 分析の実施	孫基然
第12回	結果の分析(2) 結果の概要	孫基然
第13回	結果の分析(3) 仮説と結果から	孫基然
第14回	結果の分析(4) 研究計画スケジュールの再検討	孫基然
第15回	今後に向けて課題の検討	孫基然
第16回	研究結果の検討と論文作成(1) 目的・方法・仮説	孫基然
第17回	研究結果の検討と論文作成(2) 結果・結論	孫基然
第18回	研究結果の検討と論文作成(3) 全体の流れ	孫基然
第19回	考察のための論述	孫基然
第20回	考察からのオリジナリティの検討	孫基然
第21回	考察の限界と課題点	孫基然
第22回	論文内容の修正と質疑応答	孫基然
第23回	論文内容の引用、注記の修正	孫基然
第24回	論文内容データ類の表記の修正	孫基然
第25回	報告・発表の要旨作成	孫基然
第26回	報告・発表のパワーポイントの作成	孫基然
第27回	報告・発表などの準備(3) プレ発表	孫基然
第28回	研究内容の質疑応答内容の活用	孫基然
第29回	研究の内容の誤字等文章全体の修正	孫基然
第30回	卒業論文発表会	孫基然
第31回	卒業論文発表反省会	孫基然
第32回	レポート試験	孫基然
教科書		
教・書籍名1	使用しない(プリントを配布する)	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	プリントを配布する。	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	卒業論文			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-409		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	「スポーツコーチング」「スポーツマネジメント」「ゲーム分析」等をテーマに、演習III・演習IVを通して学習内容をベースに論文を完成し、その概要のプレゼンテーションができる。						
授業概要	「テーマ」「目的（仮説）」「方法」「結果」「考察」「結論」の構成に留意し、最終的に自分の主張を理論的にプレゼンテーションできるよう文章表現する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	論文（80％）発表（20％）						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	論文作成過程において、口頭及び書面でフィードバック						
履修条件・注意事項	「レポート」と「論文」の違いを理解し、論文としての内容を作成すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	卒業論文用のノートを作成し、先行研究や様々な文献をまとめておくこと。また、毎回プレゼンテーション内容を予習するとともに、プレゼンテーション並びにディスカッションの内容を復習すること。						
オフィスアワー	個人研究室にて、水曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション（ガイダンス） 研究倫理に基づく責任ある研究活動を実践する。					高藤	
第2回	論文とレポートの違い					高藤	
第3回	論文の書き方（書式設定等）					高藤	
第4回	論文のテーマ設定					高藤	
第5回	目的・仮説の立て方					高藤	
第6回	調査方法（アンケート調査）					高藤	
第7回	調査方法（インタビュー）					高藤	
第8回	調査方法（ゲーム分析）					高藤	
第9回	調査方法（文献・資料調査）					高藤	
第10回	個別指導（サッカー）					高藤	
第11回	個別指導（フットサル）					高藤	
第12回	個別指導（地域クラブ）					高藤	
第13回	個別指導（学校運動部）					高藤	
第14回	個別指導（プロクラブ）					高藤	
第15回	個別指導（スポーツ組織）					高藤	
第16回	中間発表					高藤	
第17回	サッカー・ゲーム分析					高藤	
第18回	フットサル・ゲーム分析					高藤	
第19回	Jリーグ・観戦者数調査					高藤	
第20回	高校生・アンケート調査					高藤	
第21回	卒業生・アンケート調査					高藤	
第22回	スタッフ・インタビュー調査					高藤	

第23回	地域クラブマネジメント調査	高藤
第24回	プロクラブマネジメント調査	高藤
第25回	学校運動部活動マネジメント調査	高藤
第26回	体育・スポーツ組織マネジメント調査	高藤
第27回	調査結果の分析方法	高藤
第28回	KJ法・GTA法	高藤
第29回	考察のまとめ方	高藤
第30回	結論のまとめ方	高藤
第31回	引用・参考文献、謝辞等のまとめ方	高藤
第32回	卒論発表会	高藤

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名1	アンケート調査の進め方	教・出版社名1	日経文庫
教・著者名1	酒井隆	教・ISBN1	4-532-10833-0
教・書籍名2	健康・スポーツ科学のための調査研究法	教・出版社名2	杏林書院
教・著者名2	出村慎一・山下秋二・佐藤進	教・ISBN2	978-4-7644-1150-0

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	卒業論文			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-409		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	『健康や・運動・スポーツなどに関連した分野の研究』をテーマとし、自分が選択したテーマについて、科学的な手順ののっとり、論文を作成する。学生はこの過程を通じて、論理的な考え方や、考察の仕方、実務能力などを学び、社会に出てからの諸々の業務に対応できるようになることを到達目標とする。						
授業概要	各自の研究テーマを、先行研究の抄読を基に選択する。そして、論文作成のために適する研究方法の選択を行う。仮説を構築し、また問題の所在を明らかにして、データの収集や文献の収集を行う。データの基づく研究では、標本の抽出に留意し、文献資料に基づく研究では、論理性を重視した、論文の作成を行う。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/グループワーク/プレゼンテーション						
評価方法と割合	論文作成の進行状況及び取り組み姿勢を30%、論文のできればえを70%でもって評価する評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	毎回の課題にのっとり、各自学習・作業を進めること。その成果に基づき、各回の指導が行われる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	次回の授業の概要を提示するので、学生は各自それをもとに、事前の情報収集などの予習を行う。 各回の授業後は、授業内容に基づいて、各自考察を記載して、後で提出する。 予習1コマ・復習1コマをそれぞれ行うこと。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション：研究倫理の教育						竹内研
第2回	学術論文の構成						竹内研
第3回	先行研究抄読について						竹内研
第4回	先行研究の収集						竹内研
第5回	先行研究の要約						竹内研
第6回	先行研究の比較検討						竹内研
第7回	先行研究抄読の発表						竹内研
第8回	先行研究抄読についてのディスカッション						竹内研
第9回	問題の抽出						竹内研
第10回	仮説の設定						竹内研
第11回	研究テーマの決定						竹内研
第12回	研究計画の作成						竹内研
第13回	研究計画修正						竹内研
第14回	「はじめに（緒言）」の作成						竹内研
第15回	「はじめに（緒言）」の修正						竹内研
第16回	研究方法の理解						竹内研
第17回	調査研究						竹内研
第18回	サンプリング						竹内研
第19回	文献研究						竹内研
第20回	事例研究						竹内研

第21回	予備調査	竹内研
第22回	データや資料の取捨	竹内研
第23回	統計処理の方法	竹内研
第24回	統計処理の実施	竹内研
第25回	結果の提出と解釈	竹内研
第26回	先行研究との照合と考察	竹内研
第27回	論文作成	竹内研
第28回	論文の作成	竹内研
第29回	論文の修正	竹内研
第30回	論文の審査と評価	竹内研
第31回		
第32回		

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名1	「ゆる」スポーツ・トレーニング革命	教・出版社名1	大和書店
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	卒業論文			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-409		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	演習Iおよび演習IIを通してそれぞれが疑問に思う課題を明らかにすることが大きなテーマである。学生は自分が知りたい現象について数量化し、科学的に明らかにすることができる。						
授業概要	健康やスポーツの分野を中心に論文テーマを選定し、文献調査、実験、データの解析と結果の解釈、論議という一連の手順に沿って論文を作成する。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション/実習/その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	研究に取り組む姿勢(30%)および卒業論文提出（70%）から評価する。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については演習ルーブリックを確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	卒業論文作成のために実施した添削は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめて、卒業論文に反映させること。						
履修条件・注意事項	日頃から実験を行い、課題や結果等に対する考察を充実させること。個人指導を基本とするが、同様な研究テーマ、手法を扱う者と討論を行い連携を図ること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が各2時間程度必要である。本授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してくる。また、実験のディスカッションについては、しっかりと文面化して毎回の講義内容をまとめること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9410研究室）において、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					山口英峰	
第2回	研究テーマ周辺知識の整理と検討					山口英峰	
第3回	文献・資料の検討：論文形成の実践					山口英峰	
第4回	研究内容についての議論（1）基礎データの活用					山口英峰	
第5回	研究内容についての議論（2）先行文献の活用					山口英峰	
第6回	研究内容についての議論（3）論文の批評を通して					山口英峰	
第7回	研究内容についての議論（4）先行研究と仮説					山口英峰	
第8回	実施（1）プレテスト及び、実施手順					山口英峰	
第9回	実施（2）実施における留意点					山口英峰	
第10回	実施（3）実施の課題点の検討					山口英峰	
第11回	結果の分析（1）分析の実施					山口英峰	
第12回	結果の分析（2）結果の概要					山口英峰	
第13回	結果の分析（3）仮説と結果から					山口英峰	
第14回	結果の分析（4）研究計画スケジュールの再検討					山口英峰	
第15回	今後に向けて課題の検討					山口英峰	
第16回	中間発表					山口英峰	
第17回	論文作成（1）目的・方法・仮説					山口英峰	
第18回	論文作成（2）結果・結論					山口英峰	
第19回	論文作成（3）全体の流れ					山口英峰	
第20回	論文作成（1）考察のための論述					山口英峰	
第21回	論文作成（2）考察からの検討					山口英峰	
第22回	論文作成（3）研究の限界と課題点					山口英峰	

第23回	論文作成 (1) 論文内容の修正	山口英峰
第24回	論文作成 (2) 引用、注記の修正	山口英峰
第25回	論文作成 (3) データ表記の確認・修正	山口英峰
第26回	論文作成 (4) 要旨作成	山口英峰
第27回	論文作成 (5) 論文の最終確認	山口英峰
第28回	報告・発表準備 (1) パワーポイントの作成	山口英峰
第29回	報告・発表準備 (4) 質疑応答内容の活用	山口英峰
第30回	報告・発表準備 (3) プレ発表	山口英峰
第31回	卒業論文発表会事前準備	山口英峰
第32回	卒業論文発表会	外部講師

教科書

教・書籍名1	使用しない (プリントを配布する)	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	使用しない (プリントを配布する)	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	卒業論文			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-409		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	演習Ⅴおよび演習Ⅵを通してそれぞれが疑問に思う課題を明らかにすること。課題について、数量化し、科学的に明らかにすることができる。						
授業概要	スポーツを『any physical activity』としてとらえ、論文テーマを選定する。特に、高梁市と連携して実施している「健康教室」対象とする。文献調査、データ収集、データの解析と結果の解釈、論議という一連の手順に沿って論文を作成する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	課題・議論・発表などへの取り組み等（50％）、受講態度（50％） なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	アダプテッドスポーツへの理解を深めること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は予習および復習が必要である（内容に関しては適宜指示する）。						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					天岡 寛	
第2回	文献・資料の検討①考察に向けて					天岡 寛	
第3回	文献・資料の検討②論文形成の実践					天岡 寛	
第4回	研究内容についての議論①基礎データの活用					天岡 寛	
第5回	研究内容についての議論②先行文献の活用					天岡 寛	
第6回	研究内容についての議論③論文の批評を通して					天岡 寛	
第7回	研究内容についての議論④先行研究と仮説					天岡 寛	
第8回	データ収集①手法					天岡 寛	
第9回	データ収集②留意点					天岡 寛	
第10回	データ収集③課題点の検討					天岡 寛	
第11回	データの分析①分析の実施					天岡 寛	
第12回	データの分析②結果の概要					天岡 寛	
第13回	データの分析③仮説と結果から					天岡 寛	
第14回	データの分析④結果の分析					天岡 寛	
第15回	今後に向けて課題の検討					天岡 寛	
第16回	研究結果の検討と論文作成①目的・方法・仮説					天岡 寛	
第17回	研究結果の検討と論文作成②結果・結論					天岡 寛	
第18回	研究結果の検討と論文作成③全体の流れ					天岡 寛	
第19回	質疑応答①考察のための論述					天岡 寛	
第20回	質疑応答②考察からのオリジナリティの検討					天岡 寛	
第21回	質疑応答③研究の限界と課題点					天岡 寛	
第22回	修正と質疑応答①論文内容の修正					天岡 寛	

第23回	修正と質疑応答②引用, 注記の修正	天岡 寛
第24回	修正と質疑応答③データ類の表記の修正	天岡 寛
第25回	発表準備①要旨作成	天岡 寛
第26回	発表準備②プレゼンテーション資料の作成	天岡 寛
第27回	発表準備③プレゼンテーション発表の練習	天岡 寛
第28回	発表準備④ポイントの検討	天岡 寛
第29回	研究内容の修正①質疑応答内容の活用	天岡 寛
第30回	研究の内容修正②誤字等文章全体の修正	天岡 寛
第31回	研究の内容修正③誤字等文章全体の修正	天岡 寛
第32回	研究の内容修正④誤字等文章全体の修正	天岡 寛

教科書		
-----	--	--

教・書籍名1	適宜指示する.	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書		
-----	--	--

参・書籍名1	適宜指示する.	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	卒業論文			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-409		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	<p>「サッカーを科学的に理解する」をテーマとして、サッカーについて原理原則とデータ分析集計の両面から学び、複雑化するあらゆるサッカーの試合において客観的な視点で自ら学び、多角的に分析力を備えた能力を身につける。</p> <p>学生が、サッカーの歴史の変遷によるルール変更の経緯と背景を学び、及び攻撃、守備の、攻撃から守備への切り替え、守備から攻撃への切り替えの4つの局面から理解する。また、3サード、5レーンにピッチを分けて捉える視点について理解する。加えてサッカーの課題の解決策を自ら考察し、判断できるようになることを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>サッカーのゲーム分析の基礎である、サッカーの目的、サッカーゲームの基本的な構造、サッカーのプレーの原則について複雑な仕組みを考察する。また攻撃の個人戦術、グループ戦術、守備の個人戦術、グループ戦術、サッカーのテクニック（技術）の構成要素について、ゲーム中の「プレーする前、プレー中、プレーした後」から分析について、ワールドカップのゲームから問題点と解決策を導き出す能力が身に付くようグループ討論を主体とした方式による授業を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	提出された卒業論文（80％）及び研究発表におけるプレゼンテーションは、内容、姿勢、話し方（20％）を重視し評価する。 なお評価指標については初回の講義で提示する。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと】						
課題や試験のフィードバック方法	卒業論文の評価は提出後、個別にフィードバックを行う。またプレゼンテーションの評価は実施した時に講義中に指導としてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	PCによる文章作成を行うため、記憶媒体を用意すること。演習VとVIと合わせて履修すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によって行うので、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習すること。必ず予習復習を行い、各2時間程度を要する。 卒業論文作成の計画立案をし、データ収集（先行論文収集）をおこなうこと。						
オフィスアワー	火曜日 3限 研究室 (9401)						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動					太田真司	
第2回	論文の構成の考え方					太田真司	
第3回	先行研究を調べる					太田真司	
第4回	資料と方法を調べる					太田真司	
第5回	結果と分析を確かめる					太田真司	
第6回	考察－裏づける					太田真司	
第7回	校正する					太田真司	
第8回	論文の表現の考え方					太田真司	
第9回	論文の文体					太田真司	
第10回	明晰な文					太田真司	
第11回	明晰な文章展開					太田真司	
第12回	予告と整理					太田真司	

第13回	書き手の責任	太田真司
第14回	主張する	太田真司
第15回	破綻を防ぐ	太田真司
第16回	専門用語の考え方	太田真司
第17回	語の定義	太田真司
第18回	漢字と仮名の書き分け	太田真司
第19回	読点の打ち方	太田真司
第20回	記号使い方	太田真司
第21回	論文を構成する動詞	太田真司
第22回	論文の文末表現	太田真司
第23回	話し言葉と書き言葉	太田真司
第24回	論文になじまない言葉	太田真司
第25回	論文の軸となる名詞	太田真司
第26回	複数の意味を持つ文	太田真司
第27回	読者を迷子にする文	太田真司
第28回	曖昧さを含む文	太田真司
第29回	事実と主張をめぐる嘘	太田真司
第30回	動機や感想に注意する	太田真司
第31回	卒業論文評価	太田真司
第32回	卒業論文のプレゼンテーション	太田真司

教科書

教・書籍名1	担当者の作成資料により進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	卒業論文			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-409		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	『スポーツマネジメント及びコーチングに関連した分野の研究』をテーマとし各自が選択したテーマについて、科学的な手順に則って論文を作成する。 学生はこの過程を通じて、論理的な考え方や、考察の仕方、実務能力などを学び、社会に出てからの諸々の業務に対応できるようになることを到達目標とする。						
授業概要	本講義は以下のような段階を経由することで、最終的に卒業論文を完成させることを目的としている。まず最初に卒業論文のテーマ設定である（第1回～第4回）。卒業論文の作成においては、個人の興味関心はもちろんのこと、社会的意義が重要になる。そのため、政策文書などを参考としながら、テーマの意義を明確にする。そのうえで、研究テーマに即した先行研究の分析を行い、研究の到達点・調査手法の吟味などを行う（第5回～第7回）。以上の成果を活かして、調査対象・調査項目・方法・評価尺度の設定を行う（第8回～第13回）。春学期の段階で以上の段階までを一度文章化し、報告を行う（第14回～15回）。以上の調査計画を踏まえ、夏休み中に調査を実施してもらう。秋学期の最初に調査計画の取りまとめを行っていく（第16回～21回）。その際論文の歴史的な背景・量的項目・質的項目のすべてを詳細に検討し、中間的な取りまとめを行う（第22回）。その中間とりまとめをもとに文章表現・表記法等を学生主体で検証し（第23回～25回）、最終的な成果をプレゼンテーション・討議してもらう（第26回～第28回）。その討議を受けて修正などを施し、卒業論文の提出を行う（第29回～第31回）。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	提出された卒業論文（80％）及び卒業論文のプレゼンテーション（20％）で評価する。なお、それぞれの評価指標については初回の講義で提示する。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	卒業論文の評価は提出後、各個人にuniversal passport等を用いて個別にフィードバックを行う。また、プレゼンテーションの評価はプレゼンテーションを実施した時に講義中に指導としてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅴ・Ⅵと連動して実施するので、演習Ⅴ・Ⅵを必ず履修すること。また、PCによる文章作成を行うため、記憶媒体（USBメモリー等）を用意し、作成した資料を綴じ込むためのファイル（A4サイズのリングファイルが望ましい）を用意しておくこと。なお、本講義では作成するレポートなどについては講義中にフィードバックを行うので、「自己学修」については必ず実施してから参加すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義の最終目標は卒業論文の執筆である。講義の時間は、各自執筆した原稿などの検討を中心とするので、毎回1000字程度の文章作成を義務付ける（2時間程度）。また、講義中に指示する復習項目及び文章修正も必須である（2時間程度）。本講義は全て学生の作業実施を前提としており、作業を行わないと先に進むことができないので空いた時間を活用して授業準備を行っていただきたい。						
オフィスアワー	水曜日 4限 研究室にて。なお、卒業論文提出期限前後はオンラインでの相談も受け付ける。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					倉知典弘	
第2回	研究倫理について					倉知典弘	
第3回	研究テーマの設定（1）自分史の観点から					倉知典弘	
第4回	研究テーマの設定（2）社会的背景から					倉知典弘	
第5回	先行研究の調査方法と選択					倉知典弘	
第6回	先行研究の報告（1）研究方法に着目して					倉知典弘	
第7回	先行研究の報告（2）結果を読み解く					倉知典弘	

第8回	調査の計画 (1) 目的・方法の関連性に着目して	倉知典弘
第9回	調査の計画 (2) 方法・対象の決定と倫理的配慮の確認	倉知典弘
第10回	調査の計画 (3) 評価尺度の選択	倉知典弘
第11回	調査の計画 (4) 研究計画書及び依頼文の作成	倉知典弘
第12回	調査計画の検証 (1) プレ調査の実施と評価	倉知典弘
第13回	調査計画の検証 (2) 調査計画の再検討	倉知典弘
第14回	研究目的と調査手法の文章化	倉知典弘
第15回	プレゼンテーション：中間評価として	倉知典弘
第16回	調査計画の報告	倉知典弘
第17回	調査結果の検討 (1) 歴史分析	倉知典弘
第18回	調査結果の検討 (2) 量的分析	倉知典弘
第19回	調査結果の検討 (3) 質的分析	倉知典弘
第20回	調査結果の検討 (4) 総括的評価	倉知典弘
第21回	調査結果の検討 (5) 研究の到達点	倉知典弘
第22回	卒業論文のとりまとめ：中間報告として	倉知典弘
第23回	文章校正の手法 (1) 基本的な文章表現	倉知典弘
第24回	文章校正の手法 (2) 調査結果の表記法	倉知典弘
第25回	文章校正の手法 (3) 引用・参考文献	倉知典弘
第26回	プレゼンテーション (1) 研究目的と方法	倉知典弘
第27回	プレゼンテーション (2) データ解析	倉知典弘
第28回	プレゼンテーション (3) 総括的評価	倉知典弘
第29回	最終校正	倉知典弘
第30回	振り返りと自己評価	倉知典弘
第31回	卒業論文提出	倉知典弘
第32回		

教科書

教・書籍名1	各回内容及び学生のテーマに応じて担当者が用意する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	卒業論文			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-409		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	演習Ⅴ、Ⅵを通して学生各自が疑問に思う課題について明らかにすること。学生は自身のテーマについて数量化し、科学的な手法で検証する。						
授業概要	健康やスポーツに関連する分野から研究テーマを選定し、文献検索、データ収集（実験・調査）、データ分析、ディスカッションの手順に沿って論文を作成する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション／実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	研究への取り組み姿勢（40%）、提出論文（60%）から総合的に評価する。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	論文作成のために実施した課題は、講義内でフィードバックするため、コメントに対して自身の考えをまとめ、論文に反映させること。						
履修条件・注意事項	実験、調査など数回行い、正確なデータ収集、結果に対する考察の組み立てなどを充実させること。研究テーマは個人毎に設定するが、学生間でのディスカッションを行い、ブラッシュアップを行うこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習がそれぞれ2時間必要である。問題提議やディスカッションができるよう各自に必要な資料を渉猟し、読み進めておくこと。ディスカッション内容について文面化し、毎回の講義内容をまとめておくこと。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9402）において、毎週月曜日の2限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について 研究テーマに関する知識の整理と検討					高原皓全	
第2回	文献検討（1）論文の作成について					高原皓全	
第3回	文献検討（1）科学論文の書き方について					高原皓全	
第4回	研究内容について（1）基礎データの活用					高原皓全	
第5回	研究内容について（2）先行研究の活用					高原皓全	
第6回	研究内容について（3）論文の批評的理解					高原皓全	
第7回	研究内容について（4）研究仮説					高原皓全	
第8回	実験（1）プレテスト					高原皓全	
第9回	実験（2）実施における留意点					高原皓全	
第10回	実験（3）課題店の検討					高原皓全	
第11回	分析（1）分析方法					高原皓全	
第12回	分析（2）結果の概要					高原皓全	
第13回	分析（3）研究仮説と結果					高原皓全	
第14回	分析（4）研究計画の再検討					高原皓全	
第15回	今後の検討課題について					高原皓全	
第16回	論文作成（1）目的・方法・仮説					高原皓全	
第17回	論文作成（2）結果・結論					高原皓全	
第18回	論文作成（3）全体の流れ					高原皓全	
第19回	ディスカッション（1）考察					高原皓全	
第20回	ディスカッション（2）研究の新規性					高原皓全	
第21回	ディスカッション（3）研究の課題点					高原皓全	

第22回	論文内容の修正 (1) 論文内容の修正	高原皓全
第23回	論文内容の修正 (2) 引用・注記の修正	高原皓全
第24回	論文内容の修正 (3) データ表記の修正	高原皓全
第25回	発表準備 (1) 要旨作成	高原皓全
第26回	発表準備 (2) スライド資料の作成	高原皓全
第27回	発表準備 (3) 発表練習	高原皓全
第28回	研究内容の確認・修正 (1) 質疑応答	高原皓全
第29回	研究内容の確認・修正 (2) ミスのチェック	高原皓全
第30回	研究内容の確認・修正 (3) 文章全体の修正	高原皓全
第31回		
第32回		

教科書

教・書籍名1	適宜資料を指示する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜資料を指示する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	卒業論文			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-409		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も 						
到達目標	演習Iおよび演習IIを通してそれぞれが疑問に思う課題を明らかにすることが大きなテーマである。学生は自分が知りたい現象について数量化し、科学的に明らかにすることができる。						
授業概要	健康やスポーツの分野を中心に論文テーマを選定し、文献調査、実験、データの解析と結果の解釈、論議という一連の手順に沿って論文を作成する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	研究に取り組む姿勢(30%)および卒業論文提出(70%)から評価する。なお、卒業論文作成のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめて、卒業論文に反映させること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	基本的には授業内でフィードバックするが、論文作成にはteamsを活用する場合もある。						
履修条件・注意事項	日頃から実験を行い、課題や結果等に対する考察を充実させること。個人指導を基本とするが、同様な研究テーマ、手法を扱う者と討論を行い連携を図ること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が各2時間程度必要である。本授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してくること。また、実験のディスカッションについては、しっかりと文面化して毎回の講義内容をまとめること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室(9411研究室)において、金曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					羽野	
第2回	文献・資料の検討(1) 考察に向けて					羽野	
第3回	文献・資料の検討(2) 論文形成の実際					羽野	
第4回	研究内容についての議論(1) 基礎データの活用					羽野	
第5回	研究内容についての議論(2) 先行文献の活用					羽野	
第6回	研究内容についての議論(3) 論文の批判を通じて					羽野	
第7回	研究内容についての議論(4) 先行研究と仮説					羽野	
第8回	実施(1) プレテスト及び、実施手順					羽野	
第9回	実施(2) 実施における留意点					羽野	
第10回	実施(3) 実施の問題点の検討					羽野	
第11回	結果の分析(1) 分析と実施					羽野	
第12回	結果の分析(2) 結果の概要					羽野	
第13回	結果の分析(3) 仮説と結果から					羽野	
第14回	結果の分析(4) 研究計画スケジュールの再検討					羽野	
第15回	今後に向けての課題の検討					羽野	
第16回	中間発表					羽野	
第17回	研究結果の検討と論文作成(1) 目的					羽野	
第18回	研究結果の検討と論文作成(2) 結果・結論					羽野	
第19回	研究結果の検討と論文作成(3) 全体の流れ					羽野	
第20回	考察に関する質疑応答(1) 考察					羽野	

第21回	考察に関する質疑応答（2）オリジナリティ	羽野
第22回	考察に関する質疑応答（3）研究の限界	羽野
第23回	論文内容の修正と質疑応答（1）修正	羽野
第24回	考察に関する質疑応答（2）引用、注記	羽野
第25回	考察に関する質疑応答（3）表記の修正	羽野
第26回	発表準備（1）要旨作成	羽野
第27回	発表準備（2）パワーポイント作成	羽野
第28回	発表準備（3）プレ発表	羽野
第29回	研究内容の確認・修正	羽野
第30回	文章全体の修正	羽野
第31回	卒業論文発表会事前準備	羽野
第32回	卒業論文発表会	羽野

教科書

教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

Syllabus

社会科学部 スポーツ社会学科

2019～2021 年度入学生

授業科目名	吉備国際大から世界へ 保健医療福祉学部以外			担当者	吉備国際大学未定教員、畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-KE-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／6. 安全な水とトイレを世界中に／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／13. 気候変動に具体的な対策を／16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	<p>テーマ： Think Globally Act Locally. グローバルに物事を見る、グローバルに考える。実践はローカルに。</p> <p>到達目標： ヒト、モノ、カネ、情報が自由に世界を飛び回る時代。グローバル化、国際化が進展する現代では、グローバルな視点で、日本を見直す必要がある。日本の事情・都合だけで、政治・外交、経済、企業経営などを行なうことはできない。そのため、グローバルな視点で事象を観察、評価、判断できる能力が求められる。社会科学分野の基本概念を学ぶことを通じて、グローバルな視点を学び、世界の常識を学びながら、グローバル人材としての基本的思考を確立することを目指す。学生は、グローバルな視点で物事を判断できるようになる。</p>						
授業概要	<p>将来、社会で活躍する学生は、国際関係、国際経済、難民問題、その他多くのグローバル事象を複眼的に検討し、日本の事情を理解した上で、自分の意見が言える必要がある。そして、それを踏まえつつ、地域社会で実践する。それがグローバル人材。そのため、社会科学の多くの視点、手法を学びつつ、それを通じて世界の常識を認識できるようになる。グローバル人材として当然知っておくべき基本的な内容を学べる授業である。</p> <p>具体的なイシューを題材として、講義を行なう。その際、経験的方法、量的論証、批判的思考方法の手法・視点を取り入れる。自己教育力を身につけてもらうため、問題解決型学習の実践も取り入れる。グループに課題を与え、実態を調査し解決策を検討する。その成果は、授業で発表を行なってもらう。</p> <p>この科目が、他の教養科目の学修深化の一助となると共に、海外留学での学びや専門科目を履修する上での基礎を築くものとした。</p> <p>なお、履修者の興味、関心などに基づき、ディスカッションのやり方、テーマなどは適宜調整する。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業への参加度・コメント（40％）、グループ・プレゼンテーション（20％）、最終レポートの成績（40％）により、総合評価をおこなう。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	グループ・プレゼンテーションの結果は、各プレゼンテーションの後で、それぞれ講評を行う。最終レポートに関しては、コメントを付し、授業または事務室を経由して、返却する。						
履修条件・注意事項	ワールドニュースを必ず観ること。チェックすること。世界で起こっていることに関して、興味関心を持つこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	本講義の担当教員は、米国に通算2ヶ年留学し、国際協力機構JICAで長年勤務し、その間、コートジボアール日本大使館、JICAケニア事務所、フランスにある国際機関経済協力開発機構（OECD）に勤務した経験があるほか、多くの外国要人の接遇経験もある。それらの実務経験で学んだ暗黙知（本、論文、ネット記事などになっていないもの）を、				

			授業の節目節目で共有し、講義にリアリティを持たせる。
事前学習・事後学習とその時間	毎日、新聞を読む。ネットニュースなどをチェックする。参考図書などを読んで特定テーマに関し調べることなど、授業1回当たり、事前学習90分、復習90分の自己学修を必要とする。		
オフィスアワー	2号館附属図書館内で、毎週月曜日3限目、5限目をオフィス・アワーとします。		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション グローバル・スタディーズで学ぶこと		畝 山本倫子
第2回	国境とは何か？		畝 山本倫子
第3回	人はなぜ移動するのか？		畝 山本倫子
第4回	なぜ、自衛隊を軍隊と呼ばないのか？		畝 山本倫子
第5回	国連憲章と日本国憲法		畝 山本倫子
第6回	ジェンダー、LBGT、少数民族		畝 山本倫子
第7回	グループ・プレゼンテーション		畝 山本倫子
第8回	価値、価格はどのように決まるのか？		畝 山本倫子
第9回	自由貿易は本当に世界を豊かにするのか？		畝 山本倫子
第10回	産業の空洞化、技術流出とは何か？何が問題なのか？		畝 山本倫子
第11回	多国籍企業とは何だろうか？		畝 山本倫子
第12回	高齢化社会の課題		畝 山本倫子
第13回	世界の教育問題、日本の教育問題。		畝 山本倫子
第14回	なぜ、Liberal Artsを学ぶのか？		畝 山本倫子
第15回	グループ・プレゼンテーションと総括		畝 山本倫子
第16回	最終試験（レポート）		畝
教科書			
教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	国際関係論 同時代史への羅針盤	参・出版社名1	中公新書
参・著者名1	中島嶺雄	参・ISBN1	4-12-101106-6
参・書籍名2	経済学を味わう 東大1、2年生に大人気の授業	参・出版社名2	日本評論社
参・著者名2	市村英彦ほか	参・ISBN2	978-4-535-55955-4

授業科目名	吉備国際大から世界へ 留学生(再履1・2クラス)			担当者	日笠 恵美子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-KE-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。						
授業概要	主に、日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題、岡山、吉備、民話などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を習得して欲しい。毎回テーマをかかげ、グループディスカッションなどを行い、総合的で多角的な日本語力を身につける。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業態度を平常点として20点、ノートやレポート課題の提出を50点、そして単位認定試験を30点とし、これらを100点満点で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業内にてフィードバック						
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験の小論文を提出しなければ単位の認定はしないので注意すること。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。 履修上の条件・注意点：履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。本科目は、プレイスメントテストの結果で、2クラスに編成する。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が修得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上予習することと、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。						
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					日笠	
第2回	世界の中の日本、岡山、高梁					日笠	
第3回	日本人の行動様式					日笠	
第4回	日本の食文化					日笠	
第5回	日本の伝統文化					日笠	
第6回	健康法					日笠	
第7回	教育と学び					日笠	
第8回	余暇と娯楽					日笠	

第9回	現代の社会	日笠
第10回	報道とマスコミ	日笠
第11回	ITと情報社会	日笠
第12回	科学と技術	日笠
第13回	日本の歴史	日笠
第14回	岡山の祭り	日笠
第15回	異文化理解	日笠
第16回	単位認定試験	日笠

教科書

教・書籍名1	使用しない（必要に応じてプリントを配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	漢字マスターN2	参・出版社名1	三修社
参・著者名1	アークアカデミー	参・ISBN1	978-4-384-05632-7
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	吉備国際大から世界へ 留学生（再履3・4クラス）			担当者	井上 光恵		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-KE-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう  						
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。						
授業概要	日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を身につける。掲げたテーマごとにグループディスカッション行ったり、プレゼンテーションを行い、総合的で多角的な日本語力を身を養成する。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業態度を平常点として20点、プレゼンテーション・小テスト・課題の提出などを30点、そして単位認定試験50点とし、これらを100点満点で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	① テキストで新しく学習した語彙・文型の練習問題を毎回の課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ② 初中級レベルの「漢字」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストをしフィードバックを行う。 ③ テーマごとにプレゼンテーションを行い、フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも平常点として考慮する。単位認定試験に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎週の授業内容を踏まえて、事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。						
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	1. オリエンテーション 自己紹介					井上光恵	
第2回	2. トピック2（食文化）-1 漢字・語彙 会話と文法1					井上光恵	
第3回	3. トピック2（食文化）-2 会話と文法2 読解 作文					井上光恵	

第4回	4. トピック2 (食文化) -3 プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第5回	5. トピック3 (観光) -1 漢字・語彙 会話と文法1	井上光恵
第6回	6. トピック3 (観光) -2 会話と文法2 読解 作文	井上光恵
第7回	7. トピック3 (観光) -3 プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第8回	8. トピック5 (行事) -1 漢字・語彙 会話と文法1	井上光恵
第9回	9. トピック5 (行事) -2 会話と文法2 読解 作文	井上光恵
第10回	10. トピック5 (行事) -3 プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第11回	11. トピック7 (歴史) -1 漢字・語彙 会話と文法1	井上光恵
第12回	12. トピック7 (歴史) -2 会話と文法2 読解 作文	井上光恵
第13回	13. トピック7 (歴史) -3 プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第14回	14. 振り返り	井上光恵
第15回	15. 総括	井上光恵
第16回	単位認定試験	井上光恵

教科書

教・書籍名1	まるごと ことばと文化 初級2 A2 りかい	教・出版社名1	三修社
教・著者名1	来嶋洋美 柴原智代 八田直美 今井寿枝 木谷直之	教・ISBN1	978-4-384-05757-7
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	漢字たまご 初中級	参・出版社名1	凡人社
参・著者名1	嶋田和子 有山有樹 落合知春	参・ISBN1	978-4-89358-832-6
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	吉備国際大から世界へ（秋入学生）（再履1・2クラス）			担当者	日笠 恵美子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-KE-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。						
授業概要	主に、日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題、岡山、吉備、民話などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を習得して欲しい。毎回テーマをかけた、グループディスカッションなどを行い、総合的で多角的な日本語力を身につける。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業態度を平常点として20点、ノートやレポート課題の提出を50点、そして単位認定試験を30点とし、これらを100点満点で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業内にてフィードバック						
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験の小論文を提出しなければ単位の認定はしないので注意すること。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。 履修上の条件・注意点：履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。本科目は、プレイスメントテストの結果で、2クラスに編成する。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が修得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上予習することと、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。						
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					日笠	
第2回	世界の中の日本、岡山、高梁					日笠	
第3回	日本人の行動様式					日笠	
第4回	日本の食文化					日笠	
第5回	日本の伝統文化					日笠	
第6回	健康法					日笠	
第7回	教育と学び					日笠	

第8回	余暇と娯楽	日笠
第9回	現代の社会	日笠
第10回	報道とマスコミ	日笠
第11回	ITと情報社会	日笠
第12回	科学と技術	日笠
第13回	日本の歴史	日笠
第14回	岡山の祭り	日笠
第15回	異文化理解	日笠
第16回	単位認定試験	日笠

教科書		
-----	--	--

教・書籍名1	使用しない（必要に応じてプリントを配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書		
-----	--	--

参・書籍名1	漢字マスターN2	参・出版社名1	三修社
参・著者名1	アークアカデミー	参・ISBN1	978-4-384-05632-7
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	吉備国際大から世界へ（秋入学生）（再履3・4クラス）			担当者	井上 光恵		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-KE-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。						
授業概要	日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を身につける。掲げたテーマごとにグループディスカッション行ったり、プレゼンテーションを行い、総合的で多角的な日本語力を身を養成する。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業態度を平常点として20点、プレゼンテーション・小テスト・課題の提出などを30点、そして単位認定試験50点とし、これらを100点満点で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	① テキストで新しく学習した語彙・文型の練習問題を毎回の課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ② 初中級レベルの「漢字」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストをしフィードバックを行う。 ③ テーマごとにプレゼンテーションを行い、フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも平常点として考慮する。単位認定試験に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎週の授業内容を踏まえて、事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。						
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	1. オリエンテーション 自己紹介					井上光恵	
第2回	2. トピック2（食文化）-1 漢字・語彙 会話と文法1					井上光恵	

第3回	3. トピック2 (食文化) -2 会話と文法2 読解 作文	井上光恵
第4回	4. トピック2 (食文化) -3 プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第5回	5. トピック3 (観光) -1 漢字・語彙 会話と文法1	井上光恵
第6回	6. トピック3 (観光) -2 会話と文法2 読解 作文	井上光恵
第7回	7. トピック3 (観光) -3 プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第8回	8. トピック5 (行事) -1 漢字・語彙 会話と文法1	井上光恵
第9回	9. トピック5 (行事) -2 会話と文法2 読解 作文	井上光恵
第10回	10. トピック5 (行事) -3 プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第11回	11. トピック7 (歴史) -1 漢字・語彙 会話と文法1	井上光恵
第12回	12. トピック7 (歴史) -2 会話と文法2 読解 作文	井上光恵
第13回	13. トピック7 (歴史) -3 プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第14回	14. 振り返り	井上光恵
第15回	15. 総括	井上光恵
第16回	単位認定試験	井上光恵

教科書

教・書籍名1	まるごと ことばと文化 初級2 A2 りかい	教・出版社名1	三修社
教・著者名1	来嶋洋美 柴原智代 八田直美 今井寿枝 木谷直之	教・ISBN1	978-4-384-05757-7
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

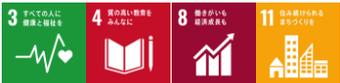
参考書

参・書籍名1	漢字たまご 初中級	参・出版社名1	凡人社
参・著者名1	嶋田和子 有山有樹 落合知春	参・ISBN1	978-4-89358-832-6
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	地域学概論 スポ社			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-KE-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	<p><きびこく学・前半8回></p> <p>本学の教育目標である「地域創成に実践的に役立つ人材の養成」を達成するための導入的教育として位置づけられる科目である。テーマとしては、順正学園及び大学が、立地する地元地域社会の中で発展を遂げてきた歴史、ならびに地域の歴史や文化、人々の生活等について理解を深めるとともに、地域社会の現状を理解し、地域創成に向けて取り組むべき課題について学ぶことがあげられる。</p> <p>到達目標としては次の2点があげられる。</p> <p>①順正学園及び大学の歴史ならびに地域社会の歴史的特性や現状を理解し、地域創成のための取り組むべき課題を理解できる。</p> <p>②地域創成に向けて、学生としてどのような貢献ができるか考え、チャレンジする態度を涵養できる。</p> <p><SDGs概論・後半8回></p> <p>「地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGsの必要性と意義の理解」をテーマとし、SDGsの概要について学ぶ。</p> <p>到達目標は以下の通り。</p> <p>①地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGs策定の背景が理解できる。</p> <p>②SDGsについて全体像を把握し、その概要を説明できる。</p> <p>③SDGsの各目標を自分事として捉えることができる。</p> <p>④SDGsの達成に向けて必要な取り組みを実行することができる。</p>						
授業概要	<p><きびこく学・前半8回></p> <p>順正学園及び大学が、立地する地域の中で発展を遂げてきた歩み(歴史)を概観するとともに、地元地域で様々な活動を展開されている方々を講師に招き、地域の歴史や文化、人々の生活ならびに地域社会の現状や課題等についてご講演いただき、地域の特性や課題について理解を深める。また、毎回の講義の中で、学生の立場で地域の課題解決や発展にどのような貢献ができるのか考え、生活の主体者として地域創成に向けて取り組む姿勢を涵養することができるよう、レポート課題に取り組む。</p> <p><SDGs概論・後半8回></p> <p>2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標SDGs」について、その背景や目的を学ぶと共に、SDGsの17の目標について概要を学ぶ。また、SDGs達成に向けて実際にどのような取り組みが行われているかを学ぶ。そして、学生自らがその実現に</p>						

	<p>向け、何ができるか、また何をしなければならないかを考え、実行しようとする能力を身につける。</p> <p>授業は全学科の学生が受講する合同授業と各学科の授業で構成されている。合同授業は、地球環境システムと人間社会システム</p> <p>の現状とSDGs策定の経緯およびSDGsの概要について講義形式で教授する。各学科の授業ではグループに分かれてSDGs達成に向けた施策をまとめ、グループ毎に発表をおこない課題解決能力を養う。</p>	
アクティブラーニングの内容	PBL/グループワーク/プレゼンテーション/その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）	
評価方法と割合	<p><きびこく学・前半8回></p> <p>毎回授業時提出のレポート評価(70%)、第8回目に行う学修成果確認レポート作成の評価(30%)により、総合的に評価する。</p> <p><SDGs概論・後半8回></p> <p>グループでの活動及び発表を評価する(50%)。最後に筆記試験を行いSDGsの理解度を評価する(50%)。詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。</p>	
ループリック評価		
課題や試験のフィードバック方法	<p><きびこく学・前半8回></p> <p>毎回の授業でレポート提出を課すが、次回の授業時までには内容を評価し返却する。</p> <p><SDGs概論・後半8回></p> <p>振り返りレポートを評価して次回授業で返却する。</p>	
履修条件・注意事項	<p><きびこく学・前半8回></p> <p>地域の様々な立場にある外部講師による有益な講義を多く導入しているので、受講態度に十分留意して毎回必ず出席すること。</p> <p>受講内容に関するレポート課題には、単に感想を述べるのではなく、真摯に、積極的に取り組むこと。</p> <p><SDGs概論・後半8回></p> <p>①初回の授業には、必ず出席すること。</p> <p>②学科別授業ではグループワークを行うことから、授業を欠席しないこと。</p> <p>③合同授業日と各学科授業日があるので注意すること。</p>	
実務経験のある教員	該当する	<p>内容</p> <p><きびこく学・前半8回></p> <p>授業を担当する複数の講師は、いずれも学園や大学の創設に中心的役割を担い尽力した講師や、地域社会の中で様々な活動を展開している実務経験の豊富な講師である。</p>
事前学習・事後学習とその時間	<p><きびこく学・前半8回></p> <p>1) 事前にユニバを通じて配布する資料に十分目を通すとともに、インターネット等を通じて授業内容に関する情報を収集するなど、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。</p> <p>2) 授業後には、学修内容を振り返り、不明な点や確認したいことなどを各自で調べるなど、毎回2時間以上の事後学修を行うこと。</p> <p><SDGs概論・後半8回></p> <p>ユニバで配布する資料を基に事前学修をすること。また、授業終了後は必ず復習を行うこと。予習及び復習は各2時間程度行うこと。</p>	
オフィスアワー	金曜2限 9号館 4階9411研究室にて	
授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション 地域創成と何か一吉備国際大学の学生として「きびこく学」を学ぶ意義と授業計画について	大西正泰(経営社会学科) 羽野真哉
第2回	順正学園及び吉備国際大学の歴史について	順正学園 専務理事 羽野真哉
第3回	高梁市の歴史と文化及び政策課題と今後の方向性について	外部講師

		羽野真哉	
第4回	高梁基督教会堂(岡山県指定史跡)をめぐる歴史と人物	外部講師 羽野真哉	
第5回	「未来につなぐ図書館」としての活動	外部講師 羽野真哉	
第6回	宇治地域住民総働のまちづくり	外部講師 羽野真哉	
第7回	日本遺産「備中吹屋」	外部講師 羽野真哉	
第8回	学修成果確認レポート作成(学修成果の振り返り)	羽野真哉	
第9回	SDGsとは何かーなぜ学ぶのか(オリエンテーションを含む)	井勝久喜、羽野真哉	
第10回	2030アジェンダ採択までの経緯	井勝久喜、羽野真哉	
第11回	SDGsが目指している世界	井勝久喜、羽野真哉	
第12回	SDGsの17の目標	井勝久喜、羽野真哉	
第13回	検討課題の設定	羽野真哉	
第14回	高梁市におけるSDGsの取り組みについて	羽野真哉	
第15回	企業におけるSDGsの取り組みについて	羽野真哉	
第16回	定期試験	羽野真哉	
教科書			
教・書籍名1	使用しない(プリントを配布する)	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	「備中高梁」に学ぶ	参・出版社名1	吉備人出版
参・著者名1	吉備国際大学「備中高梁学」研究会	参・ISBN1	9784860691967
参・書籍名2	SDGsとは何か?	参・出版社名2	三和書籍
参・著者名2	安藤顯	参・ISBN2	978-4-86251-398-4

授業科目名	地域貢献ボランティア スポ社			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-KE-2-003		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	△	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／8. 働きがいも経済成長も／11. 住み続けられるまちづくりを</p> 						
到達目標	<p>テーマ：多様な社会課題に関する知識を習得し、その課題解決のプロセスを経験する。</p> <p>到達目標：</p> <p>①現代社会が抱える多様な課題を、スポーツ社会学・健康社会学・教育的な視点から分析出来るようになる。</p> <p>②課題解決に必要な理論・手法を習得する。</p> <p>③地域課題やSDGs目標との接点から、社会が抱える多様な課題を「我がこと」として捉えることが出来るようになる。</p> <p>④グループでの演習活動を通じ、多様な考え方やそれぞれの価値観の違いを知る。</p> <p>⑤学習成果の発表機会を通じ、プレゼンテーション力が身につく。</p>						
授業概要	<p>既習の他の必修科目(人間力育成科目：きびこく学、SDGs概論、グローバルスタディーズ入門)で学んだ各地域の現状・課題、SDGsに関する目標・課題について、それぞれ解決策を模索することで、社会に積極的に貢献しようとする心や姿勢を養うことを到達目標とする。</p> <p>具体的には、グループごとに課題とするテーマを設定し、テーマに沿った情報を調べ、どのような方法であれば課題に対する解決が可能か検討を行う。</p> <p>以上の能動的学習経験を通じて、課題解決のために必要な一連のプロセスを修得する。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	プレゼンテーション (60%) ・ポートフォリオ内容 (40%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	提出されたポートフォリオにはそれぞれフィードバックを行う。 ポートフォリオは保管し、復習のために活用すること。						
履修条件・注意事項	留学生 (N2合格者以外) については、原則、2年次以降に履修とする。理由としては、グループでのディスカッションや発表機会が多くあるためである。						
実務経験のある教員	該当する	内容	企業ならびに、保育・社会福祉分野における勤務、実務経験を有する教員らが担当を行う。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回発表機会が多くある。その準備のために2時間程度の予習・復習時間を要する。						
オフィスアワー	金曜日2限 (9411研究室)						
授業計画						担当者	
第1回	授業オリエンテーション					全教員	
第2回	演習グループ、チームビルディング					羽野・天岡	
第3回	課題解決フレームワーク					羽野・倉知	
第4回	課題1：地域における健康・福祉について					外部講師 羽野・天岡・高原・山口	

第5回	健康・福祉に関する課題解決ワーク	羽野・天岡・山口・孫・竹内・高原	
第6回	課題2：地域における教育について	外部講師 羽野・倉知	
第7回	教育に関する課題解決ワーク	羽野・倉知・高原・竹内・山口	
第8回	課題3：地域におけるスポーツについて	外部講師 羽野・太田・高藤	
第9回	スポーツに関する課題解決ワーク	羽野・太田・高藤・竹内	
第10回	課題4：まちづくりについて	外部講師 羽野・山口・天岡	
第11回	まちづくりに関する課題解決ワーク	全教員	
第12回	課題解決ワークのまとめ	羽野・天岡	
第13回	成果発表1：健康・福祉分野	全教員	
第14回	成果発表2：スポーツ分野・教育分野	全教員	
第15回	成果発表3：まちづくり	全教員	
第16回	学習成果ポートフォリオまとめ	羽野	
教科書			
教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	検討中	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	キャリア開発 I スポ社			担当者	倉知 典弘、羽野 真哉		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-CG-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	15	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>8. 働きがいも経済成長も</p> 						
到達目標	<p>【到達目標】 社会的自立と職業的自立にむけて、自分の生き方・働き方を計画（キャリアデザイン）し、実行できる人間力と社会人意識の基礎を身につける。</p> <p>キャリアとは、生涯にわたる様々な立場や役割における自己と働くこととの関係づけや価値づけで、人生そのものである。そして、キャリアデザインとは、卒業後の将来を見据えて自らの生き方・働き方を考え、計画することである。大学生活を充実させ、社会で生きていくためには、自立的・主体的に考えて行動し、問題や課題に直面したときに自分で対処し解決する力が必要となる。そのためには、社会が求める人間像（自主性、責任感、教養、分別、コミュニケーション力）について考え、自分自身を知り目標をもって実行していくことが必要である。</p> <p>したがって、この科目の具体的な到達目標として、以下の3点を設定する。</p> <p>①自分自身を知り、社会を知ることで、自らの将来をイメージしながら、社会に出て働く意味や自分の目標を明確化できる。</p> <p>②その目標や社会的自立に向けて、自身のキャリアをデザインし、大学生活をどのように過ごすか考え、実践できる。</p> <p>③社会人としての基礎力であるコミュニケーション能力、社会人意識、職業選択能力を向上させる。</p>						
授業概要	<p>授業は、合同授業と学科別授業で構成されている。合同授業では、キャリアとは何か、キャリアをデザインするとはどのようなことか、大学生活における心身の健康やキャリア実践活動、一般的学力（自己理解）について講義や演習を行う。また、マイステップを使用する「キャリアデザインノート」の意義や作成方法についても説明し、個人の記録として卒業まで活用していく。</p> <p>授業全体を通して、「自分を知る」「社会を知る」「社会とつながる」「生き方を考える（大学生活を含む）」「働き方を考える」という5つのテーマで構成し、ワークシートやキャリアデザインノートへの記入、グループワークやディスカッションといった演習活動を行って自分の人生を考えることができるようにする。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	授業時間内の活動や発言（30％）、ワークシートやキャリアデザインノートへの記入（30％）、基礎学習（kiuiドリル）実施状況（20％）、最終試験あるいはレポート（20％）で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	ワークシートやキャリアデザインノートの記入内容については、授業内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	毎回、資料やプリントを配布するので、第1回目授業からファイルを持参すること。						

実務経験のある教員	該当する	内容	第2回、5回、14回は、キャリア形成や就職支援の実務経験のある外部講師を招き、キャリアデザインの基礎となる自己理解の演習を行う。
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、授業内で配布された資料や参考図書を読んでおく。 事後学習として、授業内で配布された資料を読み、次回までの課題が提示された回はその課題に取り組む。随時、自身のキャリア実践やプランについて「キャリアデザインノート」に記載していく。 各2時間の学修時間を目安とする。		
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室にて、毎週金曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。 また、月曜日2限目は、キャリアサポートセンターにおいてキャリアに関する相談に応じる。		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション・キャリアとは何か	倉知	
第2回	自分を知る・社会を知る：興味検査（VPI）or適正検査（GATB）	外部講師：マイナビ	
第3回	自分を知る・生き方を考える：メンタルヘルス	森信	
第4回	生き方を考える：キャリアデザインとは何か、大学生活の意義	藤原	
第5回	自分を知る：基礎学力（1回目）、大学生活の基礎	外部講師（ラインズ・マイナビ）	
第6回	大学生としての生活	倉知	
第7回	社会を知る・つながる：キャリア実践となる課外活動	藤原、外部講師（ボランティアセンター）	
第8回	子ども達の指導現場の現状とSNSの活用	外部講師：森原誠（羽野）	
第9回	大学院への進学	羽野・國佐	
第10回	障がい者スポーツに関わる職業	外部講師：深川友貴（高藤）	
第11回	プロスポーツ選手・指導者に関わる職業	外部講師：櫻田真平・櫻田未来（高藤）	
第12回	社会福祉・医療機関における仕事の実際	外部講師：健康・体力づくり事業財団	
第13回	スポーツに関わる職業～理想のスポーツ指導とは～	外部講師：宮崎有香（高藤）	
第14回	自分を知る：基礎学力（2回目）、将来に向けて	外部講師：ラインズ・マイナビ	
第15回	まとめ：キャリアデザインノートの作成	未定	
第16回	レポート（キャリアデザインノートの提出）	羽野	
教科書			
教・書籍名1	教科書は指定しない。毎回、資料やワークシートを配布する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	キャリア開発II スポ社			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化3年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他3年			ナンバリング	GE-CG-3-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も 						
到達目標	自己の職業適性を発見する力・業界職種等を分析する力を身につけ、自分に適した職業進路を具体的に選択する。また、就活実践のための具体的な能力を訓練し発揮できるようにする。そのため、一般社会で身につけておくべき自主性や責任感、社会人としての一般常識や教養、分別、協調性や能力を再確認し実質的なものにする。						
授業概要	就活や進学のためのノウハウを身につけ、それらが実行できるようになるための授業である。そのため各自に適した具体的な進路選択力と就活実践力などを身につける。講義は、外部講師等による就活に向けた実践講座等である。その中で企業や社会で求められる人材とは何かといった社会の要請を理解するとともに自己に関する認識を振り返りの活動などを通じて深め、将来のキャリアを深く考えることを目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	各回講義の振り返り（30点）及び終講レポート（70点）で評価を行う。成績評価の詳細は初回講義で通知するので、必ず出席すること。なお、評価結果は、総括的に掲示で行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	ワークシートや講義中に配布される資料の記入内容については、授業内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	毎回、授業内容の復習をし、職業選択と就活の実践および自立に向けて深く考え、自己分析、業界分析等を実行し、就活の準備を段階的にしておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、キャリア形成や就職支援の実務経験のある外部講師を招き、就職活動対策の演習を行う。				
事前学習・事後学習とその時間	予習として各回講義の最後に次回講義のテーマについて提示するので、関連事項を学んでおくこと。講義のあとは、講義資料を改めて見直したうえで、講義の振り返り課題を実施し、講義内容の定着を図ること。						
オフィスアワー	9411研究室 金曜日2限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。						
授業計画						担当者	
第1回	就職活動準備情報収集 登録					外部講師（情報サイト）	
第2回	インターシップの必要性・申し込み方					外部講師（シーズ）	
第3回	自分の傾向を学ぶ					外部講師（リクナビ）	
第4回	自己分析・自己PR					外部講師（ピザビ）	
第5回	エントリーとは・エントリーシート攻略					外部講師（学情・ベネッセ）	
第6回	乗り遅れるなWEB就活					外部講師（シーズ）	
第7回	業界・職種を理解する					外部講師（ディスコ）	
第8回	業界研究・職業教育					外部講師（中小企業同友会）	
第9回	SPI（筆記試験）対策					外部講師（リクナビ）	

第10回	労働関係法規	外部講師（岡山労働局）
第11回	社会に必要なマナー	外部講師（リクナビ）
第12回	エントリーシート攻略フォロー・自分を振り返る	外部講師（ベネッセ）
第13回	履歴書の書き方・応募書類の出し方	外部講師（マイナビ）
第14回	面接対応・GD/集団/個人/WEB	外部講師（ビザビ）
第15回	まとめ 内定お礼・内定辞退 お詫び	外部講師（マイナビ）
第16回	試験	羽野

教科書

教・書籍名1	各回講義で資料を用意する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	情報処理 I スポ社			担当者	天岡 寛、羽野 真哉		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-IT-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	△	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 						
到達目標	全学共通の基礎教育科目として、高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要とされる必要最低限の一般教養としてのコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的なアプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、学科のディプロマポリシーに従って、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。						
授業概要	情報モラルとセキュリティ、情報システムの利用と社会問題、OSの基本操作、インターネットの閲覧とブラウザの基本操作、文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用、ネットワーク、インターネットによる情報検索、コンピュータによる問題解決、ハードウェアとソフトウェア、デジタルデータのしくみなどについて学習する。 講義の内容に対応して、パソコンを使用し適宜演習が行われる。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	「コンピュータスキル」の定着を確認するため、講義内で用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物30%、試験の成績を40%として最終的に総合評価が行われる。これらの3つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準とされる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	教科書は必ず初回の講義から持参すること。 講義は指定されたクラス・講義室で受講すること（受講者数はパソコン教室の定員以内とする）。 オリエンテーション等で、講義が始まる前までにコンピュータリテラシーのスキルを調べる「技能確認シート」が実施される場合がある。このシート未受験者の履修はその理由によっては認められないこともある。 高校までで習得したコンピュータリテラシーを踏まえた講義であるため、受講前までに高校で得た知見を十分復習しておくこと。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて専門用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション（クラス・教科書、ログイン等確認、Teamsの操作）					天岡・羽野	
第2回	パソコンのハードウェアと周辺機器					天岡・羽野	

第3回	デジタルデータのしくみ (ビット/バイト・標準化・コード)	天岡・羽野
第4回	OSとアプリケーション	天岡・羽野
第5回	ファイルシステム操作	天岡・羽野
第6回	文書作成 (ワープロソフト) 操作	天岡・羽野
第7回	文書作成 (ワープロソフト) 課題	天岡・羽野
第8回	表計算ソフト操作	天岡・羽野
第9回	表計算ソフト課題	天岡・羽野
第10回	プレゼンテーションソフト操作	天岡・羽野
第11回	プレゼンテーションソフト課題	天岡・羽野
第12回	ネットワークとインターネット	天岡・羽野
第13回	インターネットによる情報検索・情報セキュリティ	天岡・羽野
第14回	コンピュータの歴史・コンピュータによる問題解決	天岡・羽野
第15回	情報モラルと社会問題、まとめ・質疑	天岡・羽野
第16回	単位認定試験	天岡・羽野

教科書

教・書籍名1	情報リテラシー 入門編 Windows 11 / Office 2021対応 (FPT2117)	教・出版社名1	FOM出版
教・著者名1		教・ISBN1	978-4-938927-54-7
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	情報処理 II			担当者	佐藤 匡		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-IT-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと 論理的な思考	△	DP 4. コミュニケー ション・表現力	
DP 5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	政府の「AI戦略2019」（2019年6月策定）にて、リテラシー教育として、文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人卒/年）が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得する、とされたことを踏まえ、各大学・高専にて参照可能な「モデルカリキュラム」が数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムにおいて検討・策定された。本講義はそのリテラシーレベルのモデルカリキュラムに従ったものである。 到達目標は、今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること。そして、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること。である。 （数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム～データ思考の涵養～2020年4月数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム2枚目）						
授業概要	社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している。そういった現代では、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することが、よりよく生きる上で求められている。また、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見のため、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。そのため、この講義では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。 前半では、数理・データサイエンス・AIが必要とされる背景やその仕組みを学習、理解する。後半では、実際に手を動かして、プログラミングを行う。						
アクティブラーニングの内容	実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「数理・データサイエンス・AI基礎」の予習復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物50%、データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を20%として最終的に総合評価が行われる。これらの3つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準となる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	受講者数は、30人以内とする。そのため抽選となることもある。 抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。 指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 第1回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがあるので十分注意すること。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。						
実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員が理事を務めているNPO全国要約筆記問題研究会（会員数約1,300人）では、全国の自治体に対して要約筆記者養成の現状調査を行っている。また、パソコン要約筆記全体投影の読みやすさについて、首都圏の聴覚障がい者にアンケートや読みやすさの調査を行っている。その分析では本講義のデータサイエンスの知識が活用されている。				

事前学習・事後学習とその時間	<p>各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。</p> <p>授業の進度と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。</p> <p>予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。</p>		
オフィスアワー	<p>春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日 3 時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日 4 時限目</p> <p>秋学期： 岡山キャンパス131研究室火曜日 2 時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日 3 時限目</p> <p>予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。</p>		
授業計画		担当者	
第 1 回	オリエンテーション・スキル確認テスト 導入とAIの定義とAIリテラシー	佐藤 匡	
第 2 回	ビッグデータと社会の変化	佐藤 匡	
第 3 回	社会で活用されているデータ	佐藤 匡	
第 4 回	データ・AIの活用領域の広がり	佐藤 匡	
第 5 回	データ・AIの技術	佐藤 匡	
第 6 回	データサイエンス	佐藤 匡	
第 7 回	データ・AIを活用するときの負の側面	佐藤 匡	
第 8 回	データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（考え方）	佐藤 匡	
第 9 回	データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（事例）	佐藤 匡	
第 1 0 回	AIとアルゴリズム	佐藤 匡	
第 1 1 回	データの構造とプログラミング	佐藤 匡	
第 1 2 回	データの利活用方法	佐藤 匡	
第 1 3 回	時系列データと文章データの分析例	佐藤 匡	
第 1 4 回	教師あり学習と教師なし学習	佐藤 匡	
第 1 5 回	データ・AI利活用における留意事項	佐藤 匡	
第 1 6 回	まとめと筆記試験・評価	佐藤 匡	
教科書			
教・書籍名 1	はじめてのAIリテラシー	教・出版社名 1	技術評論社
教・著者名 1	岡嶋裕史、吉田雅裕 著	教・ I S B N 1	978-4-297-12038-2
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	情報処理 II			担当者	大谷 卓史		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-IT-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／12. つくる責任・つかう責任／16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	<p>仮想的な事例や現実の事例を通じて、情報セキュリティと情報倫理学の基本的な考え方を学ぶ。 到達目標は、学生が次の3つのことができるようになることである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報社会において、情報セキュリティにまつわる危険やリスクを理解し、トラブルを事前に回避できるようになる。 2. 万が一トラブルに巻き込まれた場合でも、人々の力を借りたとしても合理的な社会的・個人的コストで解決できるようになる。 3. 情報倫理学の基本的な思考を身につけることで、情報社会においてどのような倫理的問題が生じえるか理解できるようになる。 <p>なお、本講義のラーニングアウトカムズは「情報リテラシー」と「問題解決能力」である。</p>						
授業概要	<p>現代における情報セキュリティと情報倫理にかかわる諸問題について、仮想的な事例や現実の事例から学ぶ。情報技術だけでなく、法律や経済・ビジネス、情報倫理などにかかわる知識や考え方を身につける。 主要なキーワードは次のとおりである。 電子掲示板やtwitterなどでのトラブル、フィッシング、ワンクリック詐欺、電子メールの成りすまし、プライバシー、匿名性、著作権、など。 講義の最終回に全体のまとめをおこなう。 毎回簡単な課題提出を求める。内容は自分の意見であれば自由で採点には関係がないが、授業内容を理解したうえでどの意見であるかどうかなどを課題で確認する。課題に対しては、次回以降授業担当者から返答を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義内における自主的な質問・発言やディスカッションへの積極的な参加態度、講義内容にかかわる教員からの質問への回答を30%の重みづけで評価する（受講態度）。また、課題等の提出物10%、試験の成績を60%として最終的に総合評価を行う。これらの3つの評価をバランスよく得ていることを単位認定（到達目標）の判断基準とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業課題に関しては、次回授業でコメントシート（シャトルカード）や、授業内での言及・コメントなどによって（原則課題回答者名は匿名）、フィードバックする。						
履修条件・注意事項	<p>授業に積極的に取り組む姿勢が単位取得には必要です。 講義形式ですが、授業中に受講者に対して質問をします。また、授業の最後には、授業内容に関連した課題を出しますので、解答してください。解答に対しては、次回以降の授業でコメントや解説をします。 原則として情報処理Iの単位を取得した学生を対象とします。 授業計画の内容は、理解度の状況に応じて変更になることがあります。</p>						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	<p>各回の講義に対して、次のように予習・復習を十分におこなうこと。 予習：次回内容に対応する章の「重要ポイント」および「考えよう」を読み、本文を読んでくること。約2時間。 復習：授業内容に対応する章の「まとめ」をもとにノートを整理し、「練習問題」に取り組むこと。約2時間。</p>						
オフィスアワー	春学期：毎週木曜日4時限目、14617研究室（大谷研究室）						

秋学期：毎週水曜日3時限目、14617研究室（大谷研究室）

授業計画		担当者
第1回	イントロダクション	大谷
第2回	なぜ情報倫理が必要なのか	大谷
第3回	倫理とは何だろうか（1）倫理・法・慣習	大谷
第4回	倫理とは何だろうか（1）基本的な用語と枠組み	大谷
第5回	コンピューティングの歴史 コンピュータの誕生からパソコンの登場まで	大谷
第6回	コンピューティングの歴史 インターネット出現からIoT時代まで	大谷
第7回	身近な情報セキュリティ	大谷
第8回	メールやメッセージングアプリのセキュリティ	大谷
第9回	著作権の基礎	大谷
第10回	レポート作成の倫理問題	大谷
第11回	「漫画サイトが見られない」	大谷
第12回	個人情報保護法の基礎知識	大谷
第13回	ポイントカードと個人情報	大谷
第14回	情報時代のプライバシー	大谷
第15回	まとめ	大谷
第16回	筆記試験（オンライン試験も検討中）	大谷

教科書

教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	改訂新版 情報倫理入門	参・出版社名1	アイケイコーポレーション
参・著者名1	土屋俊監修、大谷卓史編著、江口聡、喜多千草、永崎研宣、村上祐子、坪井雅史、川口嘉奈子、吉永敦征、川口由起子著	参・ISBN1	4874923240
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	情報処理 II			担当者	今村 俊介		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-IT-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと 論理的な思考	△	DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	膨大なデータを適切に処理することが様々な分野で求められていることを理解し、基本的なデータに対する知識、および、データの扱い方を学習する。 ・なぜデータサイエンスを学ぶのか、社会でどのように活用されているのかを知る。 ・データの処理、集計、可視化、分析を行うためのデータサイエンスの基礎的事項を学習する。 ・社会における事象を適切に捉え、分析・説明できる力を修得する。 ・データが重要視されるようになった社会背景を理解する。 ・データとは何かを説明できる。 ・データの基本的な分析手法を理解する。 ・データサイエンティストに求められるスキルを理解する。						
授業概要	社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している。 この時代においては、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することがこれからをよりよく生きる上で求められている。 さらに、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見、および、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。 この講義では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶことを目的とする。 前半では、数理・データサイエンス・AIが必要とされる背景やその仕組みを学習、理解する。 後半では、実際に手を動かして、プログラミングを行う。 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」リテラシーレベルの導入・基礎・心得分野						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「数理・データサイエンス・AI基礎」の予習・復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。 それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が「30%」の重みづけで評価される。 また、課題等の提出物「50%」、データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を「20%」として最終的に総合評価が行われる。 これらの3つの評価をバランスよく得ていることが単位認定(到達目標)の判断基準となる。						
ルーブリック評価							

課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。		
履修条件・注意事項	<p>【受講者数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部で30人以内とする。そのため抽選となることがある。 ・抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。 <p>【持参物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 ・第1回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト【これは、学科によって実施・非実施をきめられますか？】未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがあるので十分注意すること。 <p>【授業計画】</p> <p>進捗の状況に応じて変更することがある。</p>		
実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員は、情報系科目の講義担当経験、ならびに、研究活動への使用経験を有している。
事前学習・事後学習とその時間	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各回の講義に先立ち、予習として教科書の該当箇所を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。 <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 <p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進度と同程度の予習量・復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 ・予習・復習の確認については、課題やタスクにおいて知識・技術の使用が求められ、その達成度ならびに積極的な参加態度が成績評価として考慮される。 		
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・講義終了時間の直後 ・事前に学生と教員で相談して決めた時間帯 		
授業計画		担当者	
第1回	オリエンテーション・スキル確認テスト 導入とAIの定義とAIリテラシー	今村	
第2回	ビッグデータと社会の変化	今村	
第3回	社会で活用されているデータ1	今村	
第4回	社会で活用されているデータ2	今村	
第5回	データ・AIの技術	今村	
第6回	データサイエンス	今村	
第7回	データ・AIを活用するときの負の側面	今村	
第8回	データ・AIにまつわるセキュリティ1	今村	
第9回	データ・AIにまつわるセキュリティ2	今村	
第10回	AIとアルゴリズム	今村	
第11回	データの構造とプログラミング	今村	
第12回	データの利活用方法	今村	
第13回	時系列データと文章データの分析例	今村	
第14回	教師あり学習と教師なし学習	今村	
第15回	データ・AI利活用における留意事項	今村	
第16回	まとめと試験・評価	今村	
教科書			
教・書籍名1	はじめてのAIリテラシー	教・出版社名1	技術評論社
教・著者名1	岡嶋裕史, 吉田雅裕 著	教・ISBN1	978-4-297-12038-2
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	英語 I スポ社A			担当者	嶋村 優枝		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LE-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	大学生としての読解力、会話力、リスニングとバランスの取れた英語力を養うことを到達目標とします。同時に高校までの文法の復習も行いますが、コミュニケーションに必要な最低限の文法を中心に、実際に使うことを軸に文法の授業を進めます。したがってこの授業を受ければ学生は、生きた英語を、ごく基本的な文法を理解したうえで使えるようになります。また英会話に活用できるリスニングも行います。この授業を受ければ学生は、あるシチュエーションで使われる単語や言い回しを知ることができ聞き取りはもちろんのこと、簡単な意思疎通もネイティブの人とできるようになります。						
授業概要	しばしば中学、高校で英語を勉強しても実際の英語は使えないという批判がこれまでもありましたが、単なる知識を積み上げるだけでは使えないようにならないことから、内容ある英語を使う練習、覚えると役に立つ意味あるやり取りを設定して、同時に文法の復習を行います。時間が限られていることから、文法の説明は行いながらも、不得意な学生のために、必要最低限の文法の解説に絞っています。ユニットごとにテーマを設定し、そのテーマに関連する知識を広げたり考えを深めたりして身近な話題や関心の持てるものを授業で行います。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク						
評価方法と割合	授業での発表と定期試験とを半々の50%で査定し評価します。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業は試験を含めて16回行いますが、15回目に試験を行い、最後の16回目の授業時間に試験についての詳しい解説を行うことで学生の英語習得の定着を図ります。						
履修条件・注意事項	この授業は必修です。国際大学の学生にふさわしい最低限の知識と実力をつけてもらいたいと考えていますので、是非とも予習、復習をしっかりと行ってください。教科書の販売については他の講義とは異なり、最初の授業で行いますのでその指示に従ってください。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習が大切です。できれば毎日10分でもよいので次の週末までに合計60～90分程度の時間になるように、声に出して教科書を読んできて下さい。予習して授業に臨むのとしないのとでは身に付くレベルに大きな差が生まれます。復習も同じで、講義で行ったことを一日10分でもよいので毎日自分で声に出して英文を読む習慣をつけてください。						
オフィスアワー	金曜日2限の授業前と授業後						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション 春学期の授業に関しての大雑把な説明と2回目の授業のさわり					嶋村優枝	
第2回	Profile 自分を知ろう BE動詞					嶋村優枝	
第3回	Sports 多彩だね、スポーツの世界 一般動詞：自動詞・他動詞					嶋村優枝	
第4回	Special Occasions 特別な日は誰に何をしてあげる？ 二重目的語、目的語をとる動詞					嶋村優枝	
第5回	Families 家族を知ろう 人称代名詞					嶋村優枝	
第6回	Japan Quiz 日本クイズに挑戦 WH疑問文					嶋村優枝	
第7回	Love and Marriage 恋愛はいつの時代も人々の関心事？ 過去形					嶋村優枝	
第8回	Life History 今までの自分を語ろう 現在完了形 継続					嶋村優枝	
第9回	Leisure 自分の経験を語ろう 現在完了形 経験・完了					嶋村優枝	
第10回	College Life 学生生活を楽しもう 進行形					嶋村優枝	

第11回	On Vacation 休暇の計画をたてよう 未来表現	嶋村優枝
第12回	Out and About 自分の気持ちを上手に伝えるには 助動詞 CAN,MAY	嶋村優枝
第13回	春学期の総復習(1) BE動詞 一般動詞 人称代名詞 疑問	嶋村優枝
第14回	春学期の総復習(2) 現在完了形 進行形 助動詞	嶋村優枝
第15回	春学期の試験	嶋村優枝
第16回	春学期の総復習、フィードバック	嶋村優枝

教科書

教・書籍名1	コミュニケーションのためのベーシック・グラマー Living Grammar	教・出版社名1	成美堂 SEIBIDO
教・著者名1	Atsuko Yamamoto・Naoko Osuka・Chikako Mano・Kyoko Okamoto・Benedict Rowlett	教・ISBN1	ISBN978-4-7919-7227-2
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	英語 I スポ社B・C			担当者	赤羽 美鳥		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LE-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	大学生としての読解力、会話力、リスニングとバランスの取れた英語力を養うことを到達目標とします。同時に高校までの文法の復習も行いますが、コミュニケーションに必要な最低限の文法を中心に、実際に使うことを軸に文法の授業を進めます。したがってこの授業を受ければ学生は、生きた英語を、ごく基本的な文法を理解したうえで使えるようになります。また英会話に応用できるリスニングも行います。この授業を受ければ学生は、あるシチュエーションで使われる単語や言い回しを知ることができ聞き取りはもちろんのこと、簡単な意思疎通もネイティブの人とできるようになります。						
授業概要	しばしば中学、高校で英語を勉強しても実際の英語は使えないという批判がこれまでもありましたが、単なる知識を積み上げるだけでは使えないようにならないことから、内容ある英語を使う練習、覚えると役に立つ意味あるやり取りを設定して、同時に文法の復習を行います。時間が限られていることから、文法の説明は行いながらも、不得意な学生のために、必要最低限の文法の解説に絞っています。ユニットごとにテーマを設定し、そのテーマに関連する知識を広げたり考えを深めたりして身近な話題や関心の持てるものを授業で行います。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク						
評価方法と割合	授業での発表と定期試験とを半々の50%で査定し評価します。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業は試験を含めて16回行いますが、15回目に試験を行い、最後の16回目の授業時間に試験についての詳しい解説を行うことで学生の英語習得の定着を図ります。						
履修条件・注意事項	この授業は必修です。国際大学の学生にふさわしい最低限の知識と実力をつけてもらいたいと考えていますので、是非とも予習、復習をしっかりと行ってください。教科書の販売については他の講義とは異なり、最初の授業で行いますのでその指示に従ってください。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習が大切です。できれば毎日10分でもよいので次の週までに合計60～90分程度の時間になるように、声に出して教科書を読んできて下さい。予習して授業に臨むのとしないのとでは身に付くレベルに大きな差が生まれます。復習も同じで、講義で行ったことを一日10分でもよいので毎日自分で声に出して英文を読む習慣をつけてください。						
オフィスアワー	金曜日1,2時限に来ています。質問のある方は、授業の前後にどうぞ。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション 春学期の授業に関しての大雑把な説明と2回目の授業のさわり					赤羽美鳥	
第2回	Profile 自分を知ろう BE動詞					赤羽美鳥	
第3回	Sports 多彩だね、スポーツの世界 一般動詞：自動詞・他動詞					赤羽美鳥	
第4回	Special Occasions 特別な日は誰に何をしてあげる？ 二重目的語、目的語をとる動詞					赤羽美鳥	
第5回	Families 家族を知ろう 人称代名詞					赤羽美鳥	
第6回	Japan Quiz 日本クイズに挑戦 WH疑問文					赤羽美鳥	
第7回	Love and Marriage 恋愛はいつの時代も人々の関心事？ 過去形					赤羽美鳥	
第8回	Life History 今までの自分を語ろう 現在完了形 継続					赤羽美鳥	
第9回	Leisure 自分の経験を語ろう 現在完了形 経験・完了					赤羽美鳥	
第10回	College Life 学生生活を楽しもう 進行形					赤羽美鳥	

第11回	On Vacation 休暇の計画をたてよう 未来表現	赤羽美鳥
第12回	Out and About 自分の気持ちを上手に伝えるには 助動詞 CAN,MAY	赤羽美鳥
第13回	春学期の総復習(1) BE動詞 一般動詞 人称代名詞 疑問	赤羽美鳥
第14回	春学期の総復習(2) 現在完了形 進行形 助動詞	赤羽美鳥
第15回	春学期の試験	赤羽美鳥
第16回	春学期の総復習、フィードバック	赤羽美鳥

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名1	コミュニケーションのためのベーシック・文法 Living Grammar	教・出版社名1	成美堂 SEIBIDO
教・著者名1	Atsuko Yamamoto・Naoko Osuka・Chikako Mano・Kyoko Okamoto・Benedict Rowlett	教・ISBN1	ISBN978-4-7919-7227-2
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	英語II スポ社B・C			担当者	赤羽 美鳥		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LE-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	大学生としての読解力、会話力、リスニングとバランスの取れた英語力を養うことを到達目標とします。同時に高校までの文法の復習も行いますが、コミュニケーションに必要な最低限の文法を中心に、実際に使うことを軸に文法の授業を進めます。したがってこの授業を受ければ学生は、生きた英語を、ごく基本的な文法を理解したうえで使えるようになります。また英会話に応用できるリスニングも行います。この授業を受ければ学生は、あるシチュエーションで使われる単語や言い回しを知ることができ聞き取りはもちろんのこと、簡単な意思疎通もネイティブの人とできるようになります。						
授業概要	しばしば中学、高校で英語を勉強しても実際の英語は使えないという批判がこれまでもありましたが、単なる知識を積み上げるだけでは使えないようにならないことから、内容ある英語を使う練習、覚えると役に立つ意味あるやり取りを設定して、同時に文法の復習を行います。時間が限られていることから、文法の説明は行いながらも、不得意な学生のために、必要最低限の文法の解説に絞っています。ユニットごとにテーマを設定し、そのテーマに関連する知識を広げたり考えを深めたりして身近な話題や関心の持てるものを授業で行います。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク						
評価方法と割合	授業での発表と定期試験とを半々の50%で査定し評価します。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業は試験を含めて16回行いますが、15回目に試験を行い、最後の16回目の授業時間に試験についての詳しい解説を行うことで学生の英語習得の定着を図ります。						
履修条件・注意事項	この授業は必修です。国際大学の学生にふさわしい最低限の知識と実力をつけてもらいたいと考えていますので、是非とも予習、復習をしっかりと行ってください。教科書の販売については他の講義とは異なり、最初の授業で行いますのでその指示に従ってください。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習が大切です。できれば毎日10分でもよいので次の週までに合計60～90分程度の時間になるように、声に出して教科書を読んできて下さい。予習して授業に臨むのとしないのとでは身に付くレベルに大きな差が生まれます。復習も同じで、講義で行ったことを一日10分でもよいので毎日自分で声に出して英文を読む習慣をつけてください。						
オフィスアワー	金曜日1,2時限に来ています。質問のある方は、授業の前後にどうぞ。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション 秋学期の授業に関しての大雑把な説明と2回目の授業のさわり					赤羽美鳥	
第2回	Rules しきたりは難しい 助動詞 must should					赤羽美鳥	
第3回	Folk Tales 昔話に思わぬ教訓を発見 接続詞 and but or so					赤羽美鳥	
第4回	News & Events ニュースに敏感になろう 受動態					赤羽美鳥	
第5回	Amazing Animals 動物の世界は驚きでいっぱい 頻度を表す副詞					赤羽美鳥	
第6回	Feelings 人間は感情の生き物だね ing edで終わる形容詞					赤羽美鳥	
第7回	World Quiz 世界クイズに挑戦 原級 比較級 最上級					赤羽美鳥	
第8回	Business この大企業の創始者は? 基本的な前置詞 at on in					赤羽美鳥	
第9回	Environment 環境問題を解決するには? 接続詞(2) when because although if					赤羽美鳥	

第10回	Old Sayings ことわざは面白い 不定詞と動名詞	赤羽美鳥
第11回	Professions 将来の職業について考えよう 関係詞 who which where	赤羽美鳥
第12回	What If? 仮定の話は途方もない 仮定法	赤羽美鳥
第13回	秋学期の総復習(1) 接続詞 受動態 比較級 基本的な前置詞	赤羽美鳥
第14回	秋学期の総復習(2) 不定詞と動名詞 関係詞 仮定法	赤羽美鳥
第15回	秋学期の試験	赤羽美鳥
第16回	秋学期の総復習、フィードバック	赤羽美鳥

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名1	コミュニケーションのためのベーシック・グラマー Living Grammar	教・出版社名1	成美堂 SEIBIDO
教・著者名1	Atsuko Yamamoto・Naoko Osuka・Chikako Mano・Kyoko Okamoto・Benedict Rowlett	教・ISBN1	ISBN978-4-7919-7227-2
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	英語II スポ社A			担当者	嶋村 優枝		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LE-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	大学生としての読解力、会話力、リスニングとバランスの取れた英語力を養うことを到達目標とします。同時に高校までの文法の復習も行いますが、コミュニケーションに必要な最低限の文法を中心に、実際に使うことを軸に文法の授業を進めます。したがってこの授業を受ければ学生は、生きた英語を、ごく基本的な文法を理解したうえで使えるようになります。また英会話に応用できるリスニングも行います。この授業を受ければ学生は、あるシチュエーションで使われる単語や言い回しを知ることができ聞き取りはもちろんのこと、簡単な意思疎通もネイティブの人とできるようになります。						
授業概要	しばしば中学、高校で英語を勉強しても実際の英語は使えないという批判がこれまでもありましたが、単なる知識を積み上げるだけでは使えないようにならないことから、内容ある英語を使う練習、覚えると役に立つ意味あるやり取りを設定して、同時に文法の復習を行います。時間が限られていることから、文法の説明は行いながらも、不得意な学生のために、必要最低限の文法の解説に絞っています。ユニットごとにテーマを設定し、そのテーマに関連する知識を広げたり考えを深めたりして身近な話題や関心の持てるものを授業で行います。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク						
評価方法と割合	授業での発表と定期試験とを半々の50%で査定し評価します。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業は試験を含めて16回行いますが、15回目に試験を行い、最後の16回目の授業時間に試験についての詳しい解説を行うことで学生の英語習得の定着を図ります。						
履修条件・注意事項	この授業は必修です。国際大学の学生にふさわしい最低限の知識と実力をつけてもらいたいと考えていますので、是非とも予習、復習をしっかりと行ってください。教科書の販売については他の講義とは異なり、最初の授業で行いますのでその指示に従ってください。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習が大切です。できれば毎日10分でもよいので次の週末までに合計60～90分程度の時間になるように、声に出して教科書を読んできて下さい。予習して授業に臨むのとしないのとでは身に付くレベルに大きな差が生まれます。復習も同じで、講義で行ったことを一日10分でもよいので毎日自分で声に出して英文を読む習慣をつけてください。						
オフィスアワー	金曜日1限の授業前と授業後						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション 秋学期の授業に関しての大雑把な説明と2回目の授業のさわり					嶋村優枝	
第2回	Rules しきたりは難しい 助動詞 must should					嶋村優枝	
第3回	Folk Tales 昔話に思わぬ教訓を発見 接続詞 and but or so					嶋村優枝	
第4回	News & Events ニュースに敏感になろう 受動態					嶋村優枝	
第5回	Amazing Animals 動物の世界は驚きでいっぱい 頻度を表す副詞					嶋村優枝	
第6回	Feelings 人間は感情の生き物だね ing edで終わる形容詞					嶋村優枝	
第7回	World Quiz 世界クイズに挑戦 原級 比較級 最上級					嶋村優枝	
第8回	Business この大企業の創始者は? 基本的な前置詞 at on in					嶋村優枝	
第9回	Environment 環境問題を解決するには? 接続詞(2) when because although if					嶋村優枝	

第10回	Old Sayings ことわざは面白い 不定詞と動名詞	嶋村優枝
第11回	Professions 将来の職業について考えよう 関係詞 who which where	嶋村優枝
第12回	What If? 仮定の話は途方もない 仮定法	嶋村優枝
第13回	秋学期の総復習(1) 接続詞 受動態 比較級 基本的な前置詞	嶋村優枝
第14回	秋学期の総復習(2) 不定詞と動名詞 関係詞 仮定法	嶋村優枝
第15回	秋学期の試験	嶋村優枝
第16回	秋学期の総復習、フィードバック	嶋村優枝

教科書

教・書籍名1	コミュニケーションのためのベーシック・グラマー Living Grammar	教・出版社名1	成美堂 SEIBIDO
教・著者名1	Atsuko Yamamoto・Naoko Osuka・Chikako Mano・Kyoko Okamoto・Benedict Rowlett	教・ISBN1	ISBN978-4-7919-7227-2
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	英語Ⅲ			担当者	平見 勇雄		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LE-2-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	この授業はテキストの予習をしっかりやれば学生は高校以上の難易度の長い文章が読むことができるようになります。基本的な文法の復習や語彙に加えて読解力をつけることを目標としています。また、全文のテキストのテープを聞く、訳を自分でしてもらうことで自分の実力を客観的に把握できるような授業を行います。教科書を自宅で声に出して音読することでスピーキングの力がつくよう各自の予習も必須です。英会話の中級に近い程度の会話ができるようになります。						
授業概要	教材はビートルズの物語を扱います。メンバーの生い立ちからグループの解散まで、テンポよく流れていく物語を楽しみながら次の授業が楽しみになるよう、内容を取りながら進めていきます。物語はスターとしての側面よりは人間的な側面に焦点が当たっており、人生における挫折が多く書かれています。自分たちと変わらない年齢の若者が、国籍、時代を問わず、同じように経験する出来事を自らの人生と重ねながら読んでもらいたいと願っています。 時々プリントに合わせて公式に発売されているメンバーの肉声のインタビューを聞きながら、物語に幅をもたせ、いろいろな角度からその人生を眺めます。なぜビートルズが時代を問わず愛されているのか、他のグループとは一線を画す存在なのかも考えていただきたいと思います。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業態度50%、授業での発表20%、そして試験30%を総合して評価します。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	16回目に筆記試験をやり、そのあと試験問題の解説をします。大切な文法事項、読解の難しいところなどが中心です。						
履修条件・注意事項	必ず予習すること、その際に配布するプリントを丹念に辞書を引き、大意をつかんでから授業に臨んで下さい。わからない文法は授業の中で自分から説明を求めるときの積極的な態度を希望します。参考書や辞書は必ず使って授業に臨んでもらうことを前提とします。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	授業前に必ず自分で訳をしてきて下さい。辞書を引いて文型を確認しながら前後の文章とのつながりも考えながら2時間程度の予習が理想です。復習としてはこれも2時間、実力に応じて授業で渡すCD-Rを使ってシャドウイングをしながら耳と会話を鍛えることをお勧めします。						
オフィスアワー	水曜日の3限 研究室にて（2号館6F）						
授業計画						担当者	
第1回	リバプール					平見勇雄	
第2回	メンバーの生い立ち ジョンレノン					平見勇雄	
第3回	ポールマッカートニーの生い立ち					平見勇雄	
第4回	ジョージハリソンの生い立ちとメンバー加入					平見勇雄	

第5回	メンバー交代 リンゴスター	平見勇雄
第6回	1960年デッカオーディション	平見勇雄
第7回	1962年ビートルズデビュー	平見勇雄
第8回	1964年ビートルマニア	平見勇雄
第9回	エドサリバンショー アメリカ進出	平見勇雄
第10回	オーストラリアや各国の状況	平見勇雄
第11回	映画ア・ハード・デイズ・ナイト	平見勇雄
第12回	映画とサントラ ヘルプ	平見勇雄
第13回	世界制覇	平見勇雄
第14回	アルバム ラバーソール	平見勇雄
第15回	アルバム リボルバー 日本公演	平見勇雄
第16回	筆記試験	平見勇雄

教科書

教・書籍名1	プリントを配布いたします。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	英語Ⅳ			担当者	平見 勇雄		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LE-2-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	この授業ではしっかり予習と復習を行うことで学生は大学初級程度のテキストの長文が読めるようになります。文法の復習は英語ⅠとⅡで既に行っており、春期はそれを前提に内容把握に焦点を当てていましたが、秋期は読解のスピードが上がることを目標としています。教科書を自宅で声に出して音読することでスピーキングの力をつけてもらうことも一年を通して目標としていますが、後期はテープを聴いてもらい大意が把握できるような練習をすることで、より総合的に力をつけることを目標としています。						
授業概要	教材はビートルズの物語です。秋期は中期と呼ばれている時期の傑作アルバムの創作からグループの解散までを取扱います。スターとしての側面よりは人間的な側面に焦点が当たっており、春期と違った人間関係における難しさが多く書かれています。成長していくことによってより個性が明確になり、環境の変化が人間関係を悪化させていく詳細を読み込んでいきます。英語の面ではテープを聞いていただきながら内容の把握をしてもらうことをやります。前期には行わなかった聴き取りをしてもらいますが、聴き取りに自信がない人はしっかりと事前に読み込んできてもらい、書いてもらっても構いません。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業態度50%、授業での発表20%、そして試験30%を総合して評価します。フィードバックは試験のあとに重要な点をまとめたプリントを配布することで行いたいと思います。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	単位認定の筆記試験は16回目に行い、その日の後半に試験の解説を行います。文法的な面と、読解で訳しにくい場所の解説を行います。						
履修条件・注意事項	必ず予習すること、その際に配布するプリントを丹念に辞書を引き、大意をつかんでから授業に臨んで下さい。わからない文法は授業の中で自分から説明を求めらるくらいの積極的な態度を希望します。参考書や辞書は必ず使って授業に臨んでもらうことを前提とします。なお試験のあとに試験の解答を言います。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	基本的な文法事項は授業ではやらないので自分で弱いところは補っていくように参考書を使って勉強してください。毎回2～3ページ進む予定ですから訳を書いてくるのが最低限の予習です（2時間程度の予習です）。授業を受けたあとは毎日授業で行ったところを声に出して読んで下さい。声に出すこと、毎日行うことが重要です。一日にたくさんやるのでは長続きしませんから一日10～20分程度で結構です。（したがって復習も時間としてはトータルとして2時間程度）						
オフィスアワー	水曜日の3限、2号館6Fの研究室						
授業計画						担当者	
第1回	春学期の復習					平見勇雄	
第2回	日本公演続き					平見勇雄	
第3回	レコーディング革命					平見勇雄	
第4回	アルバム サージェントペパーズロンリーハーツクラブバンド					平見勇雄	

第5回	世界同時衛星放送 「All you need is love」	平見勇雄
第6回	マネージャー ブライアンエプスタインの死	平見勇雄
第7回	マジカルミステリーツアー	平見勇雄
第8回	インドでの生活 修行	平見勇雄
第9回	初の2枚組アルバム 通称ホワイトアルバム	平見勇雄
第10回	ゲットバックプロジェクト	平見勇雄
第11回	最後のレコーディング アビーロード	平見勇雄
第12回	映画とサントラ レットイットビー	平見勇雄
第13回	解散後の4人 ジョンレノン	平見勇雄
第14回	解散後の4人 ポールマッカートニー	平見勇雄
第15回	解散後の4人 ジョージハリソンとリンゴスター	平見勇雄
第16回	筆記試験	平見勇雄

教科書

教・書籍名1	プリントを配布します。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	フランス語Ⅰ			担当者	加藤 健次		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LF-1-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	テーマ：「フランスの文化を理解し、かんたんなフランス語を話す」 到達目標：学生はフランスの文化について教養として語れるようになる。それらをフランス語で読み・発音できるようになる。フランスを旅行したときなどに、あいさつやかなたんな会話ができるようになる。						
授業概要	この講義は、一方向のレクチャーではなく、参加型双方向の授業で、フランス語のスキル習得のため、できるだけ大きな声を出して繰り返し発音することが求められる。フランス語の音節を正しく発音するための方法を知り、綴り字を正しく読むための理論と基礎文法を理解し、初歩的かつ日常的なフランス語会話に必要な語彙と例文を、フランスの歴史・地理・文化のなかから代表的なものを繰り返し発音して、暗唱できるようにする。初心者対象で、ABCと発音／つづり字の読み方から始められ、名詞・形容詞の性・数や冠詞などの基本文法が文化を学ぶなかで理解できるよう説明される。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「フランスの文化について教養として語れるようになる」という目標に対して、各自作成した報告書を提出する。「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業で質問に答えたり発表したりする。それらで総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための筆記試験を行って評価する。参加型学習を主体としていることから、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。授業毎試験（60％）、単位認定試験（40％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。						
履修条件・注意事項	毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけでなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に黒板に板書されたキーワードを読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また事後学習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に提出（または発表）すること毎週、課題が出される。その課題について必ずノートを作成する必要がある。予習復習には各2時間程度を要する。その課題テーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。それに基づいて、参加型授業が行われるので、復習・予習は必須である。各2時間の学修時間を目安とする。						
オフィスアワー	木曜日4限、岡山キャンパス123研究室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	スポーツ①ツール・ド・フランス					加藤健次	
第2回	映画①ヌーヴェル・ヴァーグから最強の二人まで					加藤健次	
第3回	音楽①サガンとブラームスはお好き？					加藤健次	
第4回	建築①ロマネスク様式					加藤健次	
第5回	食①パン					加藤健次	
第6回	旅①ブルターニュとモンサンミ歇尔					加藤健次	

第7回	歴史①マリーアントワネット	加藤健次
第8回	スポーツ②その他の自転車ロードレースとル・マン24時間耐久レース	加藤健次
第9回	美術②ピカソ、マチス、キュビズムと現代アート	加藤健次
第10回	音楽②ピアフとシャンソンの世界	加藤健次
第11回	建築②ゴシック様式	加藤健次
第12回	食②お菓子とショコラ	加藤健次
第13回	旅②ロワール川と城	加藤健次
第14回	文学①詩：ボードレールからコクトーまで	加藤健次
第15回	旅③ブルゴーニュとヴェズレー教会	加藤健次
第16回	筆記試験	加藤健次

教科書			
教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書			
参・書籍名1	はじめて学ぶフランスの歴史と文化	参・出版社名1	ミネルヴァ書房
参・著者名1	上垣 豊 (編)	参・ISBN1	ISBN-10 : 4623087786 ISBN-13 : 978-4623087785
参・書籍名2	ゼロからスタート フランス語 会話編	参・出版社名2	Jリサーチ出版
参・著者名2	鈴木文恵(著)	参・ISBN2	ISBN 1978-4-86392-103-0

授業科目名	フランス語Ⅱ			担当者	加藤 健次		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LF-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	テーマ：「フランスの文化を理解し、日常的なフランス語を話すことができるようになる」 到達目標：学生はフランスの文化について理解する。それらをフランス語で読み・発音できるようになる。フランスを旅行した時などに、あいさつやその場に合った会話ができるようになる。						
授業概要	これまでに習った文法や基本構文を復習しながら、フランス文化に関する練習問題をていねいに解いていく。フランス文化に関係した会話例文を正確に音読する指導を受ける。次週までに、それらを口に出して言えるようにしてくる。授業では、その例文を暗唱する。これを繰り返すことでフランスに精通し、フランス語の語彙力や発話力を身につけよう。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「フランスの文化について教養として語れるようになる」という目標に対して、各自作成した報告書を提出する。「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業で質問に答えたり発表したりする。それらで総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための筆記試験を行って評価する。参加型学習を主体としていることから、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。授業毎試験（60％）、単位認定試験（40％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題を教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。						
履修条件・注意事項	毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけでなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に黒板に板書されたキーワードを読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また事後学習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に提出（または発表）すること毎週、課題が出される。その課題について必ずノートを作成する必要がある。予習復習には各2時間程度を要する。その課題テーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。それに基づいて、参加型授業が行われるので、復習・予習は必須である。各2時間の学修時間を目安とする。						
オフィスアワー	木曜日4限、岡山キャンパス123研究室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	スポーツ③サッカー・リーグ・アン					加藤健次	
第2回	美術③マグリットとシュールレアリスム					加藤健次	
第3回	音楽③サティとミニマルミュージック					加藤健次	
第4回	建築③ルネサンス・バロック様式					加藤健次	
第5回	食③チーズ					加藤健次	
第6回	旅④プロヴァンスとアルル					加藤健次	
第7回	文学②文学②サンテグジュペリ『星の王子さま』					加藤健次	

第8回	スポーツ④ベタンク	加藤健次
第9回	美術④スーラージュ、クラインに見る現代アート	加藤健次
第10回	音楽④ジプシー音楽とジャズマヌーシュ	加藤健次
第11回	食④ワイン	加藤健次
第12回	旅⑤サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路	加藤健次
第13回	哲学①デカルトと主体の哲学	加藤健次
第14回	文学②文学③小説：ユゴーからル・クレジオまで	加藤健次
第15回	食⑤Menuとコース料理	加藤健次
第16回	筆記試験	加藤健次

教科書

教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	はじめて学ぶフランスの歴史と文化	参・出版社名1	ミネルヴァ書房
参・著者名1	上垣 豊 (編)	参・ISBN1	ISBN-10 : 4623087786 ISBN-13 : 978-4623087785
参・書籍名2	ゼロからスタート フランス語 会話編	参・出版社名2	Jリサーチ出版
参・著者名2	鈴木文恵(著)	参・ISBN2	ISBN 1978-4-86392-103-0

授業科目名	フランス語Ⅲ			担当者	加藤 健次		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LF-2-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	テーマ：「フランス語会話ができるようになる」 到達目標：学生はフランス語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を学ぶ。フランス語Ⅰ・Ⅱで練習した会話表現をさらに応用して、様々な日常的な場面で運用できるようになることを到達目標とする。						
授業概要	1年で習った発音や綴り字の読み方の復習をしながら、語彙や表現を増やしていく。実際の場面を想像して、会話練習をする。文法的にもより踏み込んだ説明を読んでみる。教科書の練習問題をていねいに解いていく。教科書にある会話例文を正確に発音する。暗唱する。次週までに、それらを口に出して言えるようにしてくる。授業では、その暗唱した例文を発表する。他の学生と会話する。これを繰り返すことでフランス語のコミュニケーション力を身につけることを目指す。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「フランス語会話ができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業での質問や発表等を通じて総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための試験を行って評価する。授業毎試験（30%）、授業への積極的な参加態度（20%）、単位認定試験（50%）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題を教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。						
履修条件・注意事項	フランス語Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけでなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習復習には各2時間程度を要する。そのテーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。その成果は、各週の小テストと最終週の単位認定試験で問われる。						
オフィスアワー	木曜日4限、岡山キャンパス123研究室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	あいさつ					加藤健次	
第2回	発音					加藤健次	
第3回	性と数					加藤健次	
第4回	前置詞					加藤健次	
第5回	規則動詞					加藤健次	
第6回	形容詞					加藤健次	
第7回	否定形					加藤健次	
第8回	命令形					加藤健次	
第9回	疑問形					加藤健次	
第10回	副詞					加藤健次	

第11回	疑問副詞	加藤健次
第12回	疑問代名詞	加藤健次
第13回	不規則動詞	加藤健次
第14回	所有形容詞	加藤健次
第15回	疑問形容詞	加藤健次
第16回	筆記試験	加藤健次

教科書		
-----	--	--

教・書籍名1	新ゼロからスタートフランス語 文法編	教・出版社名1	Jリサーチ出版
教・著者名1	島崎 貴則	教・ISBN1	ISBN-10 : 4901429620 ISBN-13 : 978-4901429627
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書		
-----	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	フランス語Ⅳ			担当者	加藤 健次		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LF-2-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	テーマ：「フランス語で会話を楽しむことができる」 到達目標：学生はフランス語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を学ぶ。フランス語技能検定5級に合格するレベルを到達目標とする。						
授業概要	これまでに習った文法や基本構文を復習しながら、検定問題も念頭に置いて教科書の練習問題をていねいに解いていく。教科書にある会話例文を正確に音読する指導を受ける。次週までに、それらを口に出して言えるようにしてくる。授業では、その例文を暗唱する。これを繰り返すことで本気で語彙力や発話力を身につけ、検定試験に合格しよう						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「フランス語で会話を楽しむことができる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業での質問や発表等を通じて総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための試験を行って評価する。授業毎試験（30%）、授業への積極的な参加態度（20%）、単位認定試験（50%）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題を教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。						
履修条件・注意事項	フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修していることが望ましい。毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけでなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習復習は各2時間程度行うこと。予習は、毎授業の終わりに「次週の暗唱例文」が課題として示されるので、これらがスムーズに発話できるようにしてきてくれることである。復習は、そのテーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。復習の成果は、各週の小テストや最終週の単位認定試験で問われる						
オフィスアワー	木曜日4限、岡山キャンパス123研究室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	動詞allerとvenirの活用					加藤健次	
第2回	近接未来と近接過去					加藤健次	
第3回	命令形、否定表現					加藤健次	
第4回	疑問代名詞					加藤健次	
第5回	疑問副詞					加藤健次	
第6回	指示代名詞					加藤健次	
第7回	関係代名詞					加藤健次	
第8回	過去分詞					加藤健次	
第9回	直説法複合過去					加藤健次	
第10回	補語人称代名詞の語順					加藤健次	

第11回	比較級と最上級	加藤健次
第12回	非人称構文	加藤健次
第13回	直説法半過去	加藤健次
第14回	条件法現在	加藤健次
第15回	関係副詞と文の構造	加藤健次
第16回	筆記試験	加藤健次

教科書

教・書籍名1	新ゼロからスタートフランス語 文法編	教・出版社名1	Jリサーチ出版
教・著者名1	島崎 貴則	教・ISBN1	ISBN-10 : 4901429620 ISBN-13 : 978-4901429627
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	ドイツ語Ⅰ			担当者	清水 光二		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017～2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LG-1-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	学生は「ドイツ語Ⅰ」の終了時には、初歩的かつ日常的なドイツ語会話において使用されている定型的で平易な語句や文章を、話せたり・読んだり・聞き取ったりできるようになる。それに向けての個別目標だが、ドイツ語を正しく発音するためのルールを知り、併せて動詞や名詞を中心とした基礎的な文法を段階的に習得することになる。						
授業概要	この講義は、ドイツ語の初学者を対象にしている。春学期を通して学修する項目は、大体以下のような内容である。つづりと発音の関係、挨拶等の定型表現、自己紹介と他者紹介、辞書の案内と使い方、人称代名詞、規則動詞と不規則動詞の現在人称変化、名詞の性・数・格、前置詞、定冠詞、不定冠詞など。それに加え、定型的な日常口語表現を通して、コミュニケーションの初歩も学ぶ。なお、今回この授業で使うテキストはドイツ語の総合的な文法読本であり、ドイツの社会・文化・歴史などについても学ぶことができ、異質な文化や社会にたいする理解を深めることにもなる。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50％）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50％）を合計して総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはいりえないことである。毎回の授業では何かききと発表等をやれられるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的な参加態度および課題発表」の評価につながるのである。テキストの会話・読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後の予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくる。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習と時間の時間	ドイツ語を初めて学ぶ者にとって、教師により説明される文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分については学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業においてその準備の成果を発表することが求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週2時間程度である。						
オフィスアワー	個人研究室（2号館6階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション ドイツおよびドイツ語とは			アルファベット	ドイツ語の発音（母音）	清水光二	
第2回	ドイツ語の発音（子音）			挨拶表現			清水光二
第3回	ドイツ語の発音（まとめ）			挨拶表現の復習			清水光二
第4回	Lektion 1 Was lernst du? 動詞の現在人称変化						
第5回	Lektion 1 Was lernst du? 定動詞第2位の原則 seinの現在人称変化						
第6回	Lektion 2 Hast du Geschwister? 名詞の性と格 定冠詞の格変化						
第7回	Lektion 2 Hast du Geschwister? 不定冠詞の格変化 habenの現在人称変化						
第8回	Lektion 3 Wann fährst du nach München? 不規則な現在人称変化						

第9回	Lektion 3 Wann fährst du nach München? 命令形	清水光二
第10回	Lektion 4 Welche Uhr kaufst du? 定冠詞類	清水光二
第11回	Lektion 4 Welche Uhr kaufst du? 不定冠詞類 所有冠詞	清水光二
第12回	Lektion 5 Kaufst du diese Bücher? 複数形	清水光二
第13回	Lektion 5 Kaufst du diese Bücher? 人称代名詞	清水光二
第14回	Lektion 6 Was machst du an diesem Wochenende? 前置詞の格支配 2格支配/3格支配	清水光二
第15回	Lektion 6 Was machst du an diesem Wochenende? 前置詞の格支配 4格支配/3・4格支配	清水光二
第16回	筆記試験	清水光二

教科書

教・書籍名1	パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール[三改版]	教・出版社名1	白水社
教・著者名1	上野成利、本田雅也	教・ISBN1	ISBN 978-4-560-06420-7
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	文法からマスター! はじめてのドイツ語	参・出版社名1	ナツメ社
参・著者名1	小野寺 賢一	参・ISBN1	ISBN-10: 481635137X
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	ドイツ語Ⅱ			担当者	清水 光二		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LG-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	学生は「ドイツ語Ⅱ」の終了時には、日常的な会話において使用されている定型的で平易な語句や文章を、話せたり・読んだり・聞き取ったりできるようになる。それに向けての個別目標だが、ドイツ語の基礎的な文法を学びながら（英語との比較も行いつつ）、ドイツ語特有の語法を品詞別あるいは時制別に段階的に理解することになる。						
授業概要	この講義は、「ドイツ語Ⅰ」を終了した学生を対象にしている。秋学期を通して学習する主な文法項目は、大体以下のようなものになっている。分離動詞・非分離動詞、接続詞、副文、再帰代名詞、再帰動詞、動詞の過去形と現在完了形、接続法など。文法事項については教師によって説明がなされるが、その後の練習問題や会話・読本部分については毎回学生の積極的な取り組みが求められる。そのためには、授業以外での予習や復習がどうしても必要となる。なお、今回この授業で使うテキストは総合的な文法読本であり、ドイツ語圏の習慣や日常といった文化一般、社会問題等にも触れながら楽しく初級ドイツ語を学べる内容となっている。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50％）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはいりえないことである。毎回の授業では何かききと発表等をやれられるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的な参加態度および課題発表」の評価につながるのである。テキストの会話・読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後の予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくる。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語を初めて学ぶ者にとって、教師により説明される文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分については学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業においてその準備の成果を発表することが求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週2時間程度である。						
オフィスアワー	個人研究室（2号館6階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。						
授業計画							担当者
第1回	Lektion 7 Was liest du gren? 形容詞の格変化						清水光二
第2回	Lektion 8 Wohin willst du gehen? 話法の助動詞						清水光二
第3回	Lektion 8 Wohin willst du gehen? 未来形						清水光二
第4回	Lektion 9 Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt? 分離動詞						清水光二
第5回	Lektion 9 Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt? 接続詞と副文						清水光二
第6回	Lektion 10 Hast du vor, München zu besuchen? zu不定詞						清水光二
第7回	Lektion 10 Hast du vor, München zu besuchen? 再帰代名詞						清水光二
第8回	Lektion 11 Als ich das Museum besuchte, … 動詞の3基本形						清水光二

第9回	Lektion 11 Als ich das Museum besuchte, … 過去形	清水光二
第10回	Lektion 12 Hast du Weimar besucht? 現在完了形	清水光二
第11回	Lektion 12 Hast du Weimar besucht? 非人称表現	清水光二
第12回	Lektion 13 Es wird gesagt, dass … 受動態	清水光二
第13回	Lektion 13 Es wird gesagt, dass … 比較表現	清水光二
第14回	Lektion 14 Was ist das beste Buch, das du je gelesen hast? 関係代名詞	清水光二
第15回	Lektion 14 Was ist das beste Buch, das du je gelesen hast? 不定関係代名詞	清水光二
第16回	筆記試験	清水光二

教科書

教・書籍名1	パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール[三改版]	教・出版社名1	白水社
教・著者名1	上野成利、本田雅也	教・ISBN1	ISBN 978-4-560-06420-7
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	文法からマスター! はじめてのドイツ語	参・出版社名1	ナツメ社
参・著者名1	小野寺 賢一	参・ISBN1	481635137X
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	ドイツ語Ⅲ			担当者	清水 光二		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LG-2-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	学生は、ドイツの歴史、文化、社会を多面的に学習することで、ドイツ語の背景にあるものについての理解を深めると同時に、初歩的レベルなら一人でも読み書きすることが出来るようになる。 個別目標としては、どのような場面でどのようなドイツ語表現が使われるかを一つひとつ理解し学修することで、実際に遭遇するであろう様々な場面に応用可能な表現や基本構文を身につける。						
授業概要	ドイツ語Ⅰ・Ⅱで学んだ文法事項の確認を行いながら、ドイツ語の文章を読むことによって読解力や語彙力を着実に身につけることができる。 具体的には、ドイツ語圏の社会や文化の中から私たちの生活にも関係がありそうなトピックを話題にして、易しい文章から徐々にレベルアップしたものへと読み進めることにより、ドイツ語圏に関わる知識とドイツ語の理解力を深めることができる。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50％）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50％）を合計して総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	この授業は、1年間で60時間のドイツ語学習を経験した者を対象としている。本校のカリキュラムで言えば、「ドイツ語Ⅰとドイツ語Ⅱを履修済みであること」（あるいは同等のレベル）が履修の前提となっている。 語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはいりえない。毎回の授業では何かききと発表等をやれされるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的参加態度および課題発表」の評価につながるのである。 テキストの読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後における予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくること。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語の初學者には、教師が説明する文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分については学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業ではその準備の成果を発表することが個々に求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週2時間程度である。						
オフィスアワー	個人研究室（2号館6階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	Lektion 0 自己紹介					清水光二	
第2回	Lektion 0 挨拶 動詞の現在人称変化					清水光二	
第3回	Lektion 1 地理と天候					清水光二	
第4回	Lektion 1 冠詞（類）の格変化					清水光二	
第5回	Lektion 2 食生活					清水光二	
第6回	Lektion 2 前置詞の格変化					清水光二	

第7回	Lektion 3 ドイツ語という言葉	清水光二
第8回	Lektion 3 名詞の複数形	清水光二
第9回	Lektion 4 ドイツの大学	清水光二
第10回	Lektion 4 話法の助動詞	清水光二
第11回	Lektion 5 祝日と休暇	清水光二
第12回	Lektion 5 形容詞の格変化	清水光二
第13回	Lektion 6 ドイツの治安事情	清水光二
第14回	Lektion 6 比較表現	清水光二
第15回	Lektion 0 ~ Lektion 6 までの復習	清水光二
第16回	筆記試験	清水光二

教科書		
-----	--	--

教・書籍名1	知りたいドイツ語 ～読みながらステップアップ～	教・出版社名1	朝日出版社
教・著者名1	Siegfried Kohlhammer、斎藤太郎	教・ISBN1	ISBL: 978-4-255-25403-6 C1084
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書		
-----	--	--

参・書籍名1	文法からマスター!はじめてのドイツ語	参・出版社名1	ナツメ社
参・著者名1	小野寺 賢一	参・ISBN1	481635137X
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	ドイツ語Ⅳ			担当者	清水 光二		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LG-2-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	学生は、ドイツの歴史、文化、社会を多面的に学習することで、ドイツ語の背景にあるものについての理解を深めると同時に、初歩的レベルなら一人でも読み書きすることが出来るようになる。 個別目標としては、どのような場面でどのようなドイツ語表現が使われるかを一つひとつ理解し学修することで、実際に遭遇するであろう様々な場面に応用可能な表現や基本構文を身につける。						
授業概要	ドイツ語Ⅰ・Ⅱで学んだ文法事項の確認を行いながら、ドイツ語の文章を読むことによって読解力や語彙力を着実に身につけることができる。 具体的には、ドイツ語圏の社会や文化の中から私たちの生活にも関係がありそうなトピックを話題にして、易しい文章から徐々にレベルアップしたものへと読み進めることにより、ドイツ語圏に関わる知識とドイツ語の理解力を深めることができる。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50％）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	この授業は、1年間で60時間のドイツ語学習を経験した者を対象としている。本校のカリキュラムで言えば、「ドイツ語Ⅰとドイツ語Ⅱを履修済みであること」（あるいは同等のレベル）が履修の前提となっている。 語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはいりえない。毎回の授業では何かききと発表等をやれされるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的参加態度および課題発表」の評価につながるのである。 テキストの読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後における予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくること。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語の初學者には、教師が説明する文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分については学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業ではその準備の成果を発表することが個々に求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週2時間程度である。						
オフィスアワー	個人研究室（2号館6階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	Lektion 7 教育制度					清水光二	
第2回	Lektion 7 分離動詞と非分離動詞					清水光二	
第3回	Lektion 8 政治制度					清水光二	
第4回	Lektion 8 受動態					清水光二	
第5回	Lektion 9 ドイツの歴史概観					清水光二	
第6回	Lektion 9 過去の表現					清水光二	

第7回	Lektion 10 音楽の国ドイツ	清水光二
第8回	Lektion 10 副文の語順	清水光二
第9回	Lektion 11 ドイツの宗教事情	清水光二
第10回	Lektion 11 関係代名詞	清水光二
第11回	Lektion 12 二つのドイツ	清水光二
第12回	Lektion 12 分詞の用法	清水光二
第13回	Lektion 13 EUとドイツ	清水光二
第14回	Lektion 13 接続法第2式	清水光二
第15回	Lektion 14 EUとドイツ	清水光二
第16回	筆記試験	清水光二

教科書		
-----	--	--

教・書籍名1	知りたいドイツ語 ～読みながらステップアップ～	教・出版社名1	朝日出版社
教・著者名1	Siegfried Kohlhammer、斎藤太郎	教・ISBN1	ISBL: 978-4-255-25403-6 C1084
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書		
-----	--	--

参・書籍名1	文法からマスター!はじめてのドイツ語	参・出版社名1	ナツメ社
参・著者名1	小野寺 賢一	参・ISBN1	978-4-560-06420-7
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	中国語Ⅰ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LC-1-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	<p>テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能の習得（入門編）。</p> <p>到達目標： 学生は中国語を正しく発音するための方法を知り、初歩的な文法事項を理解し、初歩的かつ日常的な中国語会話に必要な語彙と文を読んだり聞き取ったりすることができるようになる。</p>						
授業概要	中国語での読む・書く・話す力を伸ばすためには、まず発音を完全にマスターする必要がある。中国語には日本語にない捲舌音や有気音があり、発音が難しい。そのため、2ヶ月近く徹底的に練習を繰り返す。その後、初級文法や簡単な日常会話を練習することにより、前期終了時には挨拶や自己紹介ができるようになる。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「中国語を正しく発音するための方法を知り、初歩的な文法事項を理解し、初歩的かつ日常的な中国語会話に必要な語彙と文を読んだり聞き取ったりすることができるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（70％）、小テスト（20％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（10％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能ないようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 予習及び復習に、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	1、中国語の声調に関する解説及び発声リズムの練習 2、単母音の発声練習					孫基然	
第2回	1、声調発声リズムの復習 2、単母音の発声復習 3、複合母音の発声練習					孫基然	
第3回	1、声調発声リズムの復習 2、単母音の発声復習 3、複合母音の発声復習 4、鼻音の発声練習					孫基然	
第4回	1、発音の復習 2、そり舌音の発声練習					孫基然	

第5回	1、発音の復習 2、子音の発声練習	孫基然
第6回	1、発音総合復習 2、発音小テスト 3、実施した小テストをフィードバックする。	孫基然
第7回	1、声調符号をつける位置 2、声調の変化 3、よく使うフレーズ	孫基然
第8回	1、人称代名詞 2、判断文 3、普通疑問文	孫基然
第9回	1、副詞「也」 2、副詞「的」 3、普通疑問文	孫基然
第10回	1、「喜歡」の使い方 2、形容詞述語文	孫基然
第11回	1、省略疑問文 2、年齢の聞き方と使い分け	孫基然
第12回	1、所有を表す「有」 2、完了を表す「了」 3、推測表現	孫基然
第13回	1、時刻の言い方 2、量詞の使い方	孫基然
第14回	1、省略疑問文 2、進行表現	孫基然
第15回	1、提案や勧誘の使い方 2、二重目的語を取る動詞	孫基然
第16回	筆記試験	孫基然
教科書		
教・書籍名1	中国への旅	教・出版社名1 朝日出版社
教・著者名1	山下輝彦、黄漢青	教・ISBN1 978-4-255-45332-3
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	中国語Ⅱ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LC-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	<p>テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能の習得（基礎編）。</p> <p>到達目標： 学生は前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準4級の獲得へつなげていくことができるようになる。</p>						
授業概要	中国語には、日本語にない捲舌音や有気音があり、発音が難しい。そのため、2ヵ月近く徹底的に練習を繰り返す必要がある。その後、初級文法や簡単な日常会話を練習し、IIの終了時には挨拶や自己紹介ができるようになる。基礎的な文法事項、表現等を会話や筆記練習等で理解を深め、会話力、読解力、応用力を高める。担当教員は毎回必ず課題として出された単語や基本構文の暗唱をチェックする。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準4級の獲得へつなげていくことができるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（70％）、小テスト（20％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（10％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能ないようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 予習及び復習に、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	1、助動詞「会」と「能」 2、選択疑問文					孫基然	
第2回	1、助動詞「想」 2、反復疑問文					孫基然	
第3回	1、経験表現 2、連動文					孫基然	
第4回	1、時量補語 2、存在表現					孫基然	
	1、助動詞「会」と「能」					孫基然	

第5回	2、選択疑問文 3、比較表現	
第6回	1、介詞「離」、「従」と「往」の使い方 2、動作の方式を表す「着」 3、比較表現	孫基然
第7回	1、逆接を表す「雖然……、但是」 2、「的」の使い方 3、結果補語	孫基然
第8回	中間テスト	孫基然
第9回	中間テストをフィードバックする。	孫基然
第10回	1、逆接を表す「雖然……、但是」 2、「的」の使い方	孫基然
第11回	1、未来を表す表現 2、方法や方式を訪ねる表現	孫基然
第12回	1、介詞「給」 2、仮定表現	孫基然
第13回	1、「太……了」の文型 2、人民元の数え方 3、割引の言い方	孫基然
第14回	1、動詞の重ね型 2、「一边」と「一点」	孫基然
第15回	1、程度補語 2、介詞「為了」 3、方向補語と兼語文	孫基然
第16回	筆記試験	孫基然

教科書

教・書籍名1	中国への旅	教・出版社名1	朝日出版社
教・著者名1	山下輝彦、黄漢青	教・ISBN1	978-4-255-45332-3
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	中国語Ⅲ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LC-2-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	<p>テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論（検定試験対応・前篇）を修得できるようになる。</p> <p>到達目標： 学生は中国語検定試験準4級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準4級に挑戦することができるようになる。</p>						
授業概要	1年次に習った単語、基礎的文法事項、表現等を生かしつつ、新しい文法や表現等を習得し、筆記や会話の練習を通して、中国語の読解能力と基礎的会話能力を高める。また、毎回少し時間を割いて中国に関する内容をも講義する。さらに助動詞、比較表現、使役表現、結果補語などを中心として関連文法を紹介する。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「中国語検定試験準4級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準4級に挑戦することができるようになる。」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（70%）、小テスト（20%）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（10%）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能ないようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 試験は必ず行うので、授業に出席してただけでは単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習に、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	1、前置詞「対」 2、名詞前の「的」					孫基然	
第2回	1、「有的……有的」の文型 2、「既……又」の文型					孫基然	
第3回	1、「每……都」の文型 2、動詞、形容詞の前の「地」					孫基然	
第4回	「除了……」の文型					孫基然	
第5回	「即使……也」の文型					孫基然	

第6回	持続を表す「着」	孫基然
第7回	結果補語	孫基然
第8回	中間テスト	孫基然
第9回	中間テストをフィードバックする	孫基然
第10回	1、「因為……所以」の文型 2、「一辺……一辺」の文型	孫基然
第11回	「是……的」の文型	孫基然
第12回	現存文	孫基然
第13回	手段・状態を表す「着」	孫基然
第14回	「一点也不」の文型	孫基然
第15回	疑問詞の呼応表現	孫基然
第16回	筆記試験	孫基然
教科書		
教・書籍名1	2冊目の中国語講読クラス	教・出版社名1 白水社
教・著者名1	劉穎、柴森、小澤正人	教・ISBN1 978-4-560-06927-1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	中国語Ⅳ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LC-2-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	<p>テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論（検定試験対応・後篇）を修得できるようになる。</p> <p>到達目標： 学生は中国語検定試験準4級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準4級に挑戦することができるようになる。</p>						
授業概要	1年次に習った単語、基礎的文法事項、表現等を生かしつつ、新しい文法や表現等を習得し、筆記や会話の練習を通して、中国語の読解能力と基礎的会話能力を高める。また、毎回少し時間を割いて中国に関する内容をも講義する。さらに助動詞、比較表現、使役表現、結果補語などを中心として関連文法を紹介する。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「中国語検定試験準4級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準4級に挑戦することができるようになる。」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（70%）、小テスト（20%）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（10%）を合計して総合評価する。なお、評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能ないようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 試験は必ず行うので、授業に出席していただければ単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習に、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	1、「是……的」の文型 2、様態補語					孫基然	
第2回	1、「不知道……才好」の文型 2、「好像……一樣」の文型					孫基然	
第3回	疑問詞の不定用法					孫基然	
第4回	可能補語「動詞+得了」					孫基然	
第5回	1、「無論……都」の文型 2、「要是……就」の文型					孫基然	

第6回	1、動詞後の「給」 2、受身表現	孫基然
第7回	中間テスト	孫基然
第8回	中間テストをフィードバックする。	孫基然
第9回	1、「不是……就是」の文型 2、「再也没……過」の文型	孫基然
第10回	1、「雖然……但是」の文型 2、「不但……而且」の文型	孫基然
第11回	1、動量補語 2、離合詞	孫基然
第12回	1、「有」の謙語文 2、使役表現	孫基然
第13回	1、副詞「就」 2、副詞「都」	孫基然
第14回	1、「有」の連動文 2、「把」の文	孫基然
第15回	1、「对……來說」の文献 2、「只有……才」の文型	孫基然
第16回	筆記試験	孫基然
教科書		
教・書籍名1	2冊目の中国語講読クラス	教・出版社名1 白水社
教・著者名1	劉穎、柴森、小澤正人	教・ISBN1 978-4-560-06927-1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	日本語ⅠA 再履1クラス			担当者	日笠 恵美子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになる。						
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50％）、小テスト（30％）、学習意欲・態度（20％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続すること。また、2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～4クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。						

オフィスアワー	授業終了後、休憩時間		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション		日笠
第2回	ユニット1		日笠
第3回	ユニット1		日笠
第4回	ユニット2		日笠
第5回	ユニット2		日笠
第6回	ユニット3		日笠
第7回	ユニット3		日笠
第8回	中間テスト		日笠
第9回	ユニット4		日笠
第10回	ユニット4		日笠
第11回	ユニット5		日笠
第12回	ユニット5		日笠
第13回	ユニット6		日笠
第14回	ユニット6		日笠
第15回	総復習		日笠
第16回	単位認定試験		日笠
教科書			
教・書籍名1	レベルアップトレーニング文法N2	教・出版社名1	アルク
教・著者名1	坂本勝信	教・ISBN1	978-4-7574-2210-0
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	日本語パワードリル N2 文字・語彙	参・出版社名1	アスク出版
参・著者名1	松浦 真理子 (他)	参・ISBN1	978-4-87217-768-8
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語ⅠA 1クラス			担当者	磯 永二		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにすることができる。そのうえで、より上のレベルの文法や文字・語彙を学んでいく。そうすることにより日本語能力試験N2合格をめざす。日本語力の向上が学力向上につながり、日本人学生との交流が進み、本学の様々な教育活動の理解や参加の促進につながり、実りある学生生活を送ることができるようになる。						
授業概要	まずは日本語能力試験N3レベルの日本語力を確実なものにするため、N3レベルの文法や文字・語彙等を振り返る。その過程で、課題を課したり、小テストを実施し日本語力の伸長を図る。一方、N2のレベルの文法や文字・語彙を織り込んでいき、力を徐々にN2レベルに導いていく。また、日本での学生生活を円滑に送ることができるようにするため、授業の中で、日本人のあいだでかわされる挨拶や応答などをとりあげ、日本社会で暮らすための知恵を身につけさせていく。						
アクティブラーニングの内容	PBL						
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。 最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本 科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。ま た、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修するこ とができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ② 日本語ⅠA/日本語ⅠA(文法)、応用日本語ⅠA/日本語ⅠA(読解)、日本語研究ⅠA/日本語ⅠA(聴解)の3科目ともに同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					

事前学習・事後学習とその時間	日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でJ L P T対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ2時間以上の学習が必要。		
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて		
授業計画		担当者	
第1回	オリエンテーション、プロフィール作成、初級文法演習、初級漢字演習	磯	
第2回	初級文字語彙演習、文法テキスト学習 場面6①	磯	
第3回	文法テキスト学習 場面6②	磯	
第4回	文法テキスト学習 場面7①	磯	
第5回	文法テキスト学習 場面7②	磯	
第6回	N3レベル、N2レベル文字・語彙学習①	磯	
第7回	N3レベル、N2レベル文字・語彙学習②	磯	
第8回	N3レベル、N2レベル文字・語彙学習③	磯	
第9回	第1回～第8回授業 総まとめテスト	磯	
第10回	文法テキスト学習 場面8①	磯	
第11回	文法テキスト学習 場面8②、N3レベル、N2レベル文字・語彙学習④	磯	
第12回	文法テキスト学習 場面9①	磯	
第13回	文法テキスト学習 場面9②、N3レベル、N2レベル文字・語彙学習⑤	磯	
第14回	文法テキスト学習 敬語、副詞、接続詞等①	磯	
第15回	文法テキスト学習 敬語、副詞、接続詞等②	磯	
第16回	単位認定試験	磯	
教科書			
教・書籍名1	日本語能力試験問題集 N3文法 スピードマスター	教・出版社名1	Jリサーチ出版
教・著者名1	清水知子、大場理恵子、鈴木美希	教・ISBN1	978-4-86392-036-1
教・書籍名2	ドリル&ドリル日本語能力試験N2 文字語彙	教・出版社名2	UNICOM
教・著者名2	星野恵子、辻和子	教・ISBN2	978-4-89689-478-3
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語ⅠA 2クラス			担当者	井上 光恵		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	充実した大学生活のためには日本語の力が必要である。また本学では在学中に日本語能力試験N2の取得を必須としている。そのようなことから、授業においては、まず初級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能の基礎力を養成し、次の中級レベルの技能確立につなげられるようにする。						
授業概要	日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行われる。これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	①テキストで新しく学習した文型の練習問題を毎回課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ②N3レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフィードバックをする。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ⅠA・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋Aの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習						

の時間	し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。文字の習得は絶対に必要である。「漢字」や「かな」は何度も繰り返し書いて覚えてほしい。		
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間		
		授業計画	担当者
第1回	1. オリエンテーション		井上光恵
第2回	2. 第25課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第3回	3. 第25課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第4回	4. 第28課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第5回	5. 第28課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第6回	6. 第31課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第7回	7. 第31課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第8回	8. 第34課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第9回	9. 第34課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第10回	10. 第37課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第11回	11. 第37課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第12回	12. まとめ7 33課～37課の復習		井上光恵
第13回	13. 第40課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第14回	14. 第40課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第15回	15. まとめ8 38課～42課の復習		井上光恵
第16回	単位認定試験		井上光恵
教科書			
教・書籍名1	日本語初級(2) 大地 メインテキスト	教・出版社名1	スリーエーネットワーク
教・著者名1	山崎佳子・石井怜子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子	教・ISBN1	978-4-89358-507-7
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	ドリル&ドリル 日本語能力試験 N3 文字語彙	参・出版社名1	ユニコム
参・著者名1	星野恵子 辻和子	参・ISBN1	978-4-89689-487-5
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語ⅠA 再履2クラス			担当者	福本 苗		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの 内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50％）、小テスト（30％）、学習意欲・態度（20％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行われる。これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。2年以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	授業の予習・復習として、指示された文字語彙、文法、文型を使つての課題をする。その後採点、フィードバックをする。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレイズメントテストを受験すること。プレイズメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違つたクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受験すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 日本語能力試験N1の取得者でプレイズメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ の時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。						
オフィスアワー	授業後、教室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション レベル確認テスト					福本苗	
第2回	時を表す表現					福本苗	
第3回	「わけ・こと・もの・ところ」を使った表現					福本苗	

第4回	助詞の働きをする言葉① (場面・時点・手段・原因を示す表現)	福本苗
第5回	助詞の働きをする言葉② (添加・判断・評価を示す表現)	福本苗
第6回	主に文末に使われる言葉	福本苗
第7回	文章の文法	福本苗
第8回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第9回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第10回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第11回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第12回	基本文法の復習	福本苗
第13回	接続の言葉	福本苗
第14回	敬語・丁寧な言い方	福本苗
第15回	総括	福本苗
第16回	単位認定試験	福本苗

教科書

教・書籍名1	新完全マスター単語日本語能力試験N2重要2200語	教・出版社名1	スリーエーネットワーク
教・著者名1	小谷野美穂 (他)	教・ISBN1	978-4-88319-762-0 ☒
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	45日間で基礎からわかる日本語能力試験対策 N2文法 総まとめ	参・出版社名1	三修社
参・著者名1	遠藤ゆう子	参・ISBN1	978-4-384-05574-0
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語ⅠA 再履3クラス			担当者	福本 苗		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50％）、小テスト（30％）、学習意欲・態度（20％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行われる。これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。2年以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字語彙、文法、文型を使つての課題をする。その後採点、フィードバックをする。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレイズメントテストを受験すること。プレイズメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受験すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 日本語能力試験N1の取得者でプレイズメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。						
オフィスアワー	授業後、教室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション・レベル確認テスト					福本苗	
第2回	文末に使われる表現					福本苗	

第3回	傾向や様子を表す表現	福本苗
第4回	例を挙げて示す表現	福本苗
第5回	原因・理由を表す表現	福本苗
第6回	「わけ・こと」を使った表現	福本苗
第7回	「もの」を使った表現	福本苗
第8回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第9回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第10回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第11回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第12回	「ない」を含んだ表現	福本苗
第13回	付加を表す表現	福本苗
第14回	基本文法の復習	福本苗
第15回	総括	福本苗
第16回	単位認定試験	福本苗
教科書		
教・書籍名1	45日間で基礎からわかる日本語能力試験対策 N2文法 総まとめ	教・出版社名1 三修社
教・著者名1	遠藤ゆう子	教・ISBN1 978-4-384-05574-0
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	日本語ⅠA 再履クラス4			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになる。						
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50％）、小テスト（30％）、学習意欲・態度（20％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続すること。また、2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～4クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。各2時間の予習と復習に努めること。						
オフィスパワー	授業終了後、教室にて実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					大下(朋)	
第2回	ます形・て形に接続する表現					大下(朋)	
第3回	辞書形・た形に接続する表現					大下(朋)	
第4回	ない形・意向形、名詞・形容詞に接続する表現					大下(朋)	

第5回	いろいろなものと接続する表現	大下(朋)
第6回	評価・比較の表現①	大下(朋)
第7回	評価・比較の表現②／時間に関する表現	大下(朋)
第8回	状態・強調の表現／条件に関する表現①	大下(朋)
第9回	条件に関する表現②	大下(朋)
第10回	判断に関する表現①	大下(朋)
第11回	判断に関する表現②／敬語表現	大下(朋)
第12回	縮約形／接続詞	大下(朋)
第13回	動詞①	大下(朋)
第14回	動詞②	大下(朋)
第15回	名詞・助数詞	大下(朋)
第16回	単位認定試験（筆記試験）	大下(朋)

教科書

教・書籍名1	28日間で基礎から応用まで完全マスター！日本語能力試験対策 N3文法・語彙・漢字 改訂版	教・出版社名1	三修社
教・著者名1	山田光子	教・ISBN1	978-4384059502
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語ⅠB (1クラス)			担当者	磯 永二		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにすることができる。そのうえで、より上のレベルの文法や文字・語彙を学んでいく。そうすることにより日本語能力試験N2合格をめざす。日本語力の向上が学力向上につながり、日本人学生との交流が進み、本学の様々な教育活動の理解や参加の促進につながり、実りある学生生活を送ることができるようになる。						
授業概要	まずは日本語能力試験N3レベルの日本語力を確実なものにするため、N3レベルの文法や文字・語彙等を振り返る。その過程で、課題を課したり、小テストを実施し日本語力の伸長を図る。一方、N2のレベルの文法や文字・語彙を織り込んでいき、力を徐々にN2レベルに導いていく。また、日本での学生生活を円滑に送ることができるようにするため、授業の中で、日本人のあいだでかわされる挨拶や応答などをとりあげ、日本社会で暮らすための知恵を身につけさせていく。						
アクティブラーニングの内容	PBL						
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行われる。これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に編成される。履修登録は教務課で一括登録する。 登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ② 日本語ⅠA/日本語ⅠA(文法)、応用日本語ⅠA/日本語ⅠA(読解)、日本語研究ⅠA/日本語ⅠA(聴解)の3科目ともに同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。						

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	<p>日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。</p> <p>授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でJLPT対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。</p> <p>予習・復習にはそれぞれ2時間以上の学習が必要。</p>		
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション、プロフィール作成、初級文法演習、初級漢字演習		磯
第2回	初級文字語彙演習、文法テキスト学習 場面1①		磯
第3回	文法テキスト学習 場面1②		磯
第4回	文法テキスト学習 場面2①		磯
第5回	文法テキスト学習 場面2②		磯
第6回	N3レベル、N2レベル文字・語彙学習①		磯
第7回	N3レベル、N2レベル文字・語彙学習②		磯
第8回	N3レベル、N2レベル文字・語彙学習③		磯
第9回	第1回～第8回授業 総まとめテスト		磯
第10回	文法テキスト学習 場面3①		磯
第11回	文法テキスト学習 場面3②、N3レベル、N2レベル文字・語彙学習④		磯
第12回	文法テキスト学習 場面4①		磯
第13回	文法テキスト学習 場面4②、N3レベル、N2レベル文字・語彙学習⑤		磯
第14回	文法テキスト学習 場面5①		磯
第15回	文法テキスト学習 場面5②、N3レベル、N2レベル文字・語彙学習⑥		磯
第16回	単位認定試験		磯
教科書			
教・書籍名1	日本語能力試験問題集 N3文法 スピードマスター	教・出版社名1	Jリサーチ出版
教・著者名1	清水知子、大場理恵子、鈴木美希	教・ISBN1	978-4-86392-036-1
教・書籍名2	ドリル&ドリル日本語能力試験N2 文字語彙	教・出版社名2	UNICOM
教・著者名2	星野恵子、辻和子	教・ISBN2	978-4-89689-478-3
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語ⅠB（2クラス）			担当者	井上 光恵		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	充実した大学生活のためには日本語の力が必要である。また本学では在学中に日本語能力試験N2の取得を必須としている。そのようなことから、授業においては、まず初級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能の基礎力を養成し、次の中級レベルの技能確立につなげられるようにする。						
授業概要	日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行われる。これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	①テキストで新しく学習した文型の練習問題を毎回課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ②N3レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフィードバックをする。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ⅠA・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋Aの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習						

の時間	し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。文字の習得は絶対に必要である。「漢字」や「かな」は何度も繰り返し書いて覚えてほしい。		
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間		
		授業計画	担当者
第1回	1. オリエンテーション		井上光恵
第2回	2. 第25課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第3回	3. 第25課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第4回	4. 第28課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第5回	5. 第28課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第6回	6. 第31課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第7回	7. 第31課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第8回	8. 第34課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第9回	9. 第34課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第10回	10. 第37課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第11回	11. 第37課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第12回	12. まとめ7 33課～37課の復習		井上光恵
第13回	13. 第40課-1 漢字・語彙 文型1-導入・練習		井上光恵
第14回	14. 第40課-2 文型2-導入・練習 会話		井上光恵
第15回	15. まとめ8 38課～42課の復習		井上光恵
第16回	単位認定試験		井上光恵
教科書			
教・書籍名1	日本語初級(2) 大地 メインテキスト	教・出版社名1	スリーエーネットワーク
教・著者名1	山崎佳子・石井怜子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子	教・ISBN1	978-4-89358-507-7
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	ドリル&ドリル 日本語能力試験 N3 文字語彙	参・出版社名1	ユニコム
参・著者名1	星野恵子 辻和子	参・ISBN1	978-4-89689-487-5
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語ⅠB 再履クラス1			担当者	日笠 恵美子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになる。						
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50％）、小テスト（30％）、学習意欲・態度（20％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続すること。また、2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～4クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。						
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					日笠	

第2回	ユニット1	日笠
第3回	ユニット1	日笠
第4回	ユニット2	日笠
第5回	ユニット2	日笠
第6回	ユニット3	日笠
第7回	ユニット3	日笠
第8回	中間テスト	日笠
第9回	ユニット4	日笠
第10回	ユニット4	日笠
第11回	ユニット5	日笠
第12回	ユニット5	日笠
第13回	ユニット6	日笠
第14回	ユニット6	日笠
第15回	総復習	日笠
第16回	単位認定試験	日笠

教科書

教・書籍名1	レベルアップトレーニング文法N2	教・出版社名1	アルク
教・著者名1	坂本勝信	教・ISBN1	978-4-7574-2210-0
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	日本語パワードリル N2 文字・語彙	参・出版社名1	アスク出版
参・著者名1	松浦 真理子 (他)	参・ISBN1	978-4-87217-768-8
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語ⅠB 再履クラス2			担当者	福本 苗		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの 内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50％）、小テスト（30％）、学習意欲・態度（20％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行われる。これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。2年以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	授業の予習・復習として、指示された文字語彙、文法、文型を使つての課題をする。その後採点、フィードバックをする。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレイズメントテストを受験すること。プレイズメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違つたクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ⅠB・応用日本語ⅠB・日本語研究ⅠBの3科目ともに同クラスで受験すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 日本語能力試験N1の取得者でプレイズメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ の時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。						
オフィスアワー	授業後、教室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション・レベル確認テスト					福本苗	
第2回	いろいろな働きをする助詞					福本苗	
第3回	「よう・う・まい・べき」を使った言葉					福本苗	
第4回	複合語として使われる言葉					福本苗	

第5回	文章の文法	福本苗
第6回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第7回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第8回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第9回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第10回	基本文法の復習	福本苗
第11回	決まった使い方の副詞	福本苗
第12回	仮定・逆説の表現	福本苗
第13回	原因・理由を表す表現	福本苗
第14回	話者の感覚・気持ち・推量を表す表現	福本苗
第15回	総括	福本苗
第16回	単位認定試験	福本苗

教科書

教・書籍名1	新完全マスター単語日本語能力試験N2重要2200語	教・出版社名1	スリーエーネットワーク
教・著者名1	小谷野美穂 (他)	教・ISBN1	978-4-88319-762-0
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	45日間で基礎からわかる日本語能力試験対策N2文法総まとめ	参・出版社名1	三修社
参・著者名1	遠藤ゆう子	参・ISBN1	978-4-384-05574-0
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語ⅠB 再履クラス3			担当者	福本 苗		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50％）、小テスト（30％）、学習意欲・態度（20％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行われる。これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。2年以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字語彙、文法、文型を使つての課題をする。その後採点、フィードバックをする。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレイズメントテストを受験すること。プレイズメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違つたクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受験すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 日本語能力試験N1の取得者でプレイズメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。						
オフィスアワー	授業後、教室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション・レベル確認テスト					福本苗	
第2回	時を表す表現					福本苗	
第3回	くり返しを表す表現					福本苗	
第4回	進行状態を示す表現					福本苗	

第5回	相関関係を示す表現	福本苗
第6回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第7回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第8回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第9回	JLPT N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第10回	比較を表す表現	福本苗
第11回	対象を表す表現	福本苗
第12回	仮定を表す表現	福本苗
第13回	「から」が付く表現	福本苗
第14回	評価・判断を示す表現	福本苗
第15回	「ほど・くらい・こそ・さえ」を使った表現	福本苗
第16回	単位認定試験	福本苗

教科書

教・書籍名1	45日間で基礎からわかる日本語能力試験対策 N2文法 総まとめ	教・出版社名1	三修社
教・著者名1	遠藤ゆう子	教・ISBN1	978-4-384-05574-0
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語ⅠB 再履クラス4			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになる。						
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50％）、小テスト（30％）、学習意欲・態度（20％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続すること。また、2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～4クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠB・応用日本語ⅠB・日本語研究ⅠBの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。各2時間の予習と復習に努めること。						
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					大下(朋)	
第2回	ます形・て形に接続する表現					大下(朋)	
第3回	辞書形・た形に接続する表現					大下(朋)	
第4回	ない形・意向形、名詞・形容詞に接続する表現					大下(朋)	

第5回	いろいろなものと接続する表現	大下(朋)
第6回	評価・比較の表現①	大下(朋)
第7回	評価・比較の表現②／時間に関する表現	大下(朋)
第8回	状態・強調の表現／条件に関する表現①	大下(朋)
第9回	条件に関する表現②	大下(朋)
第10回	判断に関する表現①	大下(朋)
第11回	判断に関する表現②／敬語表現	大下(朋)
第12回	縮約形／接続詞	大下(朋)
第13回	動詞①	大下(朋)
第14回	動詞②	大下(朋)
第15回	名詞・助数詞	大下(朋)
第16回	単位認定試験（筆記試験）	大下(朋)
教科書		
教・書籍名1	28日間で基礎から応用まで完全マスター！日本語能力試験対策 N3文法・語彙・漢字 改訂版	教・出版社名1 三修社
教・著者名1	山田光子	教・ISBN1 978-4384059502
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	日本語ⅡA 1・2クラス			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LJ-2-003		
必修・選択	選択必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「文法」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。						
授業概要	この講義は、「文法」を中心に学習を進める。日本語能力試験N1に出題されている問題の解答を導くために必要な文法能力を理解しながら、同時に語彙力やコミュニケーション能力の向上を目指す。実際にN1レベルの文法問題をくり返し解き、出題の傾向や内容を理解する。講義内で小テストなどを導入し、文法力のさらなる向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	単位認定試験（50％）、中間テスト（30％）、学習意欲・態度（20％）に基づく総合評価。成績評価の評価対象となるので、単位認定試験と併せて中間テストも必ず受験しなければならない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	以下の点に注意すること。 ① 学部正規生は、N2に合格しなければ、本科目を含む日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できない。 ② この科目履修前に日本語能力試験N1を高得点で取得した者は、プレイスメントテストの結果も勘案した上で同科目の単位が認定される場合がある。 ③ より効果的に講義内容を習得できるよう予習・復習など自主学习に努めること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					大下 朋子	
第2回	1 課 時間関係					大下 朋子	
第3回	2 課 範囲の始まり・限度					大下 朋子	
第4回	3 課 限定・非限定・付加					大下 朋子	
第5回	4 課 例示					大下 朋子	
第6回	5 課 関連・無関係					大下 朋子	
第7回	6 課 様子					大下 朋子	
第8回	【中間テスト】 1～6 課／中間テストの解説					大下 朋子	
第9回	7 課 付随行動					大下 朋子	
第10回	8 課 逆接					大下 朋子	
第11回	9 課 条件					大下 朋子	
第12回	10課 逆接条件					大下 朋子	
第13回	11課 目的・手段					大下 朋子	
第14回	12課 原因・理由					大下 朋子	

第15回	13課 可能・不可能・禁止	大下 朋子
第16回	単位認定試験（筆記試験）	大下 朋子
教科書		
教・書籍名1	新完全マスター文法 日本語能力試験N1	教・出版社名1 スリーエーネットワーク
教・著者名1	友松悦子、福島佐知、中村かおり	教・ISBN1 978-4883195640
教・書籍名2	日本語パワードリル N1 文字・語彙	教・出版社名2 アスク出版
教・著者名2	松浦 真理子、鈴木 健司	教・ISBN2 978-4872177671
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	日本語ⅡB			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017～2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LJ-2-004		
必修・選択	選択必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「文法」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。						
授業概要	この講義は、「文法」を中心に学習を進める。日本語能力試験N1に出題されている問題の解答を導くために必要な文法能力を理解しながら、同時に語彙力やコミュニケーション能力の向上を目指す。実際にN1レベルの文法問題をくり返し解き、出題の傾向や内容を理解する。講義内で小テストなどを導入し、文法力のさらなる向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	単位認定試験（50％）、中間テスト（30％）、学習意欲・態度（20％）に基づく総合評価。成績評価の評価対象となるので、学期末の筆記試験と併せて中間テストも必ず受験しなければならない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	以下の点に注意すること。 ① 学部正規生は、N2に合格しなければ、本科目を含む日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できない。 ② この科目履修前に日本語能力試験N1を高得点で取得した者は、プレイスメントテストの結果も勘案した上で同科目の単位数が認定される場合がある。 ③ より効果的に講義内容を習得できるよう予習・復習など自主学習に努めること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					大下 朋子	
第2回	14課 話題・評価の基準					大下 朋子	
第3回	15課 比較対照					大下 朋子	
第4回	16課 結末・最終の状態					大下 朋子	
第5回	17課 強調					大下 朋子	
第6回	18課 主張・断定					大下 朋子	
第7回	【中間テスト】14～18課／中間テストの解説					大下 朋子	
第8回	19課 評価・感想					大下 朋子	
第9回	20課 心情・強制的思い					大下 朋子	
第10回	A 動詞の意味に着目-1					大下 朋子	
第11回	B 動詞の意味に着目-2					大下 朋子	
第12回	C 古い言葉を使った言い方					大下 朋子	
第13回	D「もの・こと・ところ」を使った言い方					大下 朋子	
第14回	E 二つの言葉を組にする言い方					大下 朋子	

第15回	F 助詞・複合助詞		大下 朋子
第16回	単位認定試験（筆記試験）		大下 朋子
教科書			
教・書籍名1	新完全マスター文法 日本語能力試験N1	教・出版社名1	スリーエーネットワーク
教・著者名1	友松悦子、福島佐知、中村かおり	教・ISBN1	978-4883195640
教・書籍名2	日本語パワードリル N1 文字・語彙	教・出版社名2	アスク出版
教・著者名2	松浦 真理子、鈴木 健司	教・ISBN2	978-4872177671
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	応用日本語ⅠA 再履1クラス			担当者	井上 光恵		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-005		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。学生は、他の日本語科目と併せて、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努め、日本語能力試験N2程度の実力を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	①新しく学習する課の文章について「漢字」「語彙」「文型」については、その意味を事前に調べ問題練習をすることを課題とし、翌週そのチェックとフィードバックを行う。 ②N2レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。						
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ⅠA・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋A]の3科目とも同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑥ 授業では、テキストは使用せず、主教材も副教材もプリントで対応する。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めましょう。						

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		
授業計画			担当者
第1回	1. オリエンテーション		井上光恵
第2回	2. 6課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第3回	3. 6課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第4回	4. 7課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第5回	5. 7課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第6回	6. JLPT対策授業-1 (内容理解-短文)		井上光恵
第7回	7. JLPT対策授業-2 (統合理解)		井上光恵
第8回	8. JLPT対策授業-3 (情報検索1)		井上光恵
第9回	9. JLPT対策授業-4 (情報検索2)		井上光恵
第10回	10. 8課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第11回	11. 8課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第12回	12. 9課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第13回	13. 9課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第14回	14. 10課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第15回	15. 10課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第16回	16. 単位認定試験		井上光恵
教科書			
教・書籍名1	中級から学ぶ日本語	教・出版社名1	株式会社 研究社
教・著者名1	松田浩志 亀田美保	教・ISBN1	978-4-327-38465-4
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	ドリル&ドリル日本語能力試験N2文字語彙	参・出版社名1	ユニコム
参・著者名1	星野恵子・辻和子	参・ISBN1	978-4-89689-478-3
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	応用日本語ⅠA 1クラス			担当者	小西 真弓		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-005		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また、中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。						
アクティブラーニングの 内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本 科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。ま た、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修する ことができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、句型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟 度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間 違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意す ること。 ⑤日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学 生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵 養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、						

参・書籍名2	日本語総まとめN3 語彙	参・出版社名2	アスク出版
参・著者名2	佐々木仁子・松本紀子	参・ISBN2	978-4-87217-731-2

授業科目名	応用日本語ⅠA 2クラス			担当者	久保田 雅子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-005		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。このクラスでは、まず、基礎的な日本語の文法、初級の文章読解を中心に扱う。 目標は日本語能力試験N2相当の実力を身につけることであるが、日本語の基礎レベルの文法知識を習得すること、文章表現を正確に理解することから行う。最終目標は、専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が、円滑に使えることである。						
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるように日本語関連科目Ⅰの3科目（日本語ⅠA、応用日本語ⅠA、日本語研究ⅠA）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。 中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。日本語能力試験N2の言語知識・文法、読解、聴解などの能力を習得するため、基礎的な文法、語彙、また読解の運用力を高めることを目指す。N2合格への橋渡しとなる科目である。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業評価は、試験（50％）、小テスト及び課題提出（30％）、学習意欲・態度（20％）で評価する。 このクラスは基礎の日本語クラスなので基本的な文法事項、語彙、文章読解を中心に扱う。ただし、単位認定については、日本語能力試験N2の合格結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。						
履修条件・注意事項	①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当する	内容	日本語教育				
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、授業の中で自ら課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 2) 指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。						

	予習と復習に2時間以上は必要である。		
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前後に実施		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1. 2 3 課 文法1		久保田
第2回	2. 2 3 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第3回	3. 2 7 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第4回	4. 2 7 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第5回	5. 3 0 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第6回	6. 3 0 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第7回	7. 3 3 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第8回	8. 3 3 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第9回	9. 3 6 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第10回	10. 3 6 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第11回	11. 3 9 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第12回	12. 3 9 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第13回	13. 4 2 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第14回	14. 4 2 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第15回	15. 総まとめ		久保田
第16回			
教科書			
教・書籍名1	日本語初級2・大地 メインテキスト	教・出版社名1	スリーエーネットワーク
教・著者名1	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・I S B N 1	978-4-88319-507-7
教・書籍名2	ドリル&ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野 恵子・辻和子	教・I S B N 2	978-4-89689-487-5
参考書			
参・書籍名1	ことばでおぼえるやさしい漢字ワーク 初級2	参・出版社名1	スリーエーネットワーク
参・著者名1	中村 かおり他著	参・I S B N 1	978-488-319-7828
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	応用日本語ⅠA 再履クラス3			担当者	久保田 雅子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-005		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	テーマは第二言語としての日本語の「読解力の向上」である。N3～N2レベルの読解問題の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につけることが目標である。						
授業概要	日本語能力試験N2合格を目指し、このクラスでは主に「読解」中心に学ぶ。教科書で論理的な文章を読み、内容を理解する。プリントでN3～N2レベルの演習問題をやり、文章を通じて筆者の考えを理解したり、パンフレットや説明書等、さまざまな文書を読み、各文書から必要な情報を得る方法を理解する。 中級レベルの読解力が身につくことで事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につけることができる。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業評価は、講義内試験（40％）、小テスト（20％）、学習意欲・態度（40％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行われる。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用することができる。						
実務経験のある教員	該当する	内容	留学生の日本語教育				
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題をだす。授業中にその発表を行い、みずから、自分自身の課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 2) 指示に従って必ず専用のノートを作成し、復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。予習と復習に2時間以上は必要である。						
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前・後に実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション (授業の進め方、予習、復習のやりかた 例：第1課)					久保田	

第2回	第2課 語彙・本文1、プリント	久保田
第3回	第2課 本文2・文法、プリント	久保田
第4回	第4課 語彙・本文1、プリント	久保田
第5回	第4課 本文2・文法、プリント	久保田
第6回	第6課 語彙・本文1、プリント	久保田
第7回	第6課 本文2・文法、プリント	久保田
第8回	N2 演習問題 1	久保田
第9回	N2 演習問題 2	久保田
第10回	N2 演習問題 3	久保田
第11回	第8課 語彙・本文1	久保田
第12回	第8課 本文2・文法	久保田
第13回	第10課 語彙・本文1	久保田
第14回	第10課 本文2・文法	久保田
第15回	総まとめ	久保田
第16回		
教科書		
教・書籍名1	留学生の日本語 読解編	教・出版社名1 株式会社アルク
教・著者名1	アカデミック・ジャパニーズ研究会	教・ISBN1 978-4-7574-2631-3
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	はじめての日本語能力試験N2 合格模試	参・出版社名1 株式会社アスク出版
参・著者名1	アスク出版編集部	参・ISBN1 978-4-86639-315-5
参・書籍名2	新完全マスター 読解 N3	参・出版社名2 株式会社 スリーエーネットワーク
参・著者名2	田代 ひろみ・他著	参・ISBN2 978-4-888319-671-5

授業科目名	応用日本語ⅠA 再履クラス4			担当者	井上 光恵		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-005		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。学生は、他の日本語科目と併せて、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努め、日本語能力試験N2程度の実力を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	①新しく学習する課の文章について「漢字」「語彙」「文型」については、その意味を事前に調べ問題練習をすることを課題とし、翌週そのチェックとフィードバックを行う。 ②N2レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ⅠA・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋A]の3科目とも同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑥ 授業では、テキストは使用せず、主教材も副教材もプリントで対応する。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めましょう。						

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		
授業計画			担当者
第1回	1. オリエンテーション		井上光恵
第2回	2. 1課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第3回	3. 1課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第4回	4. 2課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第5回	5. 2課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第6回	6. JLPT対策授業-1 (内容理解-短文)		井上光恵
第7回	7. JLPT対策授業-2 (統合理解)		井上光恵
第8回	8. JLPT対策授業-3 (情報検索1)		井上光恵
第9回	9. JLPT対策授業-4 (情報検索2)		井上光恵
第10回	10. 3課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第11回	11. 3課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第12回	12. 4課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第13回	13. 4課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第14回	14. 5課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第15回	15. 5課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第16回	16. 単位認定試験		井上光恵
教科書			
教・書籍名1	中級から学ぶ日本語	教・出版社名1	株式会社 研究社
教・著者名1	松田浩志 亀田美保	教・ISBN1	978-4-327-38465-4
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	新完全マスター 語彙 日本語能力試験N2	参・出版社名1	スリーエーネットワーク
参・著者名1	伊能裕晃・本田ゆかり・来栖里美・前坊香菜子・阿保きみ枝・宮田公治	参・ISBN1	9784883195749
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	応用日本語ⅠB (1クラス)			担当者	小西 真弓		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また、中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、句型を使っの文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1~3クラスに編成される。履修登録は教務で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠB・応用日本語ⅠB・日本語研究ⅠBの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題(N2対策を含む)に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。						

参・著者名2 佐々木仁子・松本紀子

参・I S B N 2 978-4-87217-731-2

授業科目名	応用日本語ⅠB（2クラス）			担当者	久保田 雅子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。このクラスでは、まず、基礎的な日本語の文法、初級の文章読解を中心に扱う。 目標は日本語能力試験N2相当の実力を身につけることであるが、日本語の基礎レベルの文法知識を習得すること、文章表現を正確に理解することから行う。最終目標は、専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が、円滑に使えることである。						
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるように日本語関連科目Ⅰの3科目（日本語ⅠA、応用日本語ⅠA、日本語研究ⅠA）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。 中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。日本語能力試験N2の言語知識・文法、読解、聴解などの能力を習得するため、基礎的な文法、語彙、また読解の運用力を高めることを目指す。N2合格への橋渡しとなる科目である。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業評価は、試験（50％）、小テスト及び課題提出（30％）、学習意欲・態度（20％）で評価する。 このクラスは基礎の日本語クラスなので基本的な文法事項、語彙、文章読解を中心に扱う。ただし、単位認定については、日本語能力試験N2の合格結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。						
履修条件・注意事項	①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当する	内容	日本語教育				
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、授業の中で自ら課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 2) 指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。						

	予習と復習に2時間以上は必要である。		
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前後に実施		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1. 2 3 課 文法1		久保田
第2回	2. 2 3 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第3回	3. 2 7 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第4回	4. 2 7 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第5回	5. 3 0 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第6回	6. 3 0 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第7回	7. 3 3 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第8回	8. 3 3 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第9回	9. 3 6 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第10回	10. 3 6 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第11回	11. 3 9 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第12回	12. 3 9 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第13回	13. 4 2 課 文法1 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第14回	14. 4 2 課 文法2 及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）		久保田
第15回	15. 総まとめ		久保田
第16回			
教科書			
教・書籍名1	日本語初級2・大地 メインテキスト	教・出版社名1	スリーエーネットワーク
教・著者名1	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ISBN1	978-4-88319-507-7
教・書籍名2	ドリル&ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野 恵子・辻和子	教・ISBN2	978-4-89689-487-5
参考書			
参・書籍名1	ことばでおぼえるやさしい漢字ワーク 初級2	参・出版社名1	スリーエーネットワーク
参・著者名1	中村 かおり他著	参・ISBN1	978-488-319-7828
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	応用日本語ⅠB 再履クラス1			担当者	井上 光恵		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。学生は、他の日本語科目と併せて、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努め、日本語能力試験N2程度の実力を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	①新しく学習する課の文章について「漢字」「語彙」「文型」については、その意味を事前に調べ問題練習をすることを課題とし、翌週そのチェックとフィードバックを行う。 ②N2レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。						
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ⅠA・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋A]の3科目とも同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑥ 授業では、テキストは使用せず、主教材も副教材もプリントで対応する。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めましょう。						

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		
授業計画			担当者
第1回	1. オリエンテーション		井上光恵
第2回	2. 6課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第3回	3. 6課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第4回	4. 7課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第5回	5. 7課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第6回	6. JLPT対策授業-1 (内容理解-短文)		井上光恵
第7回	7. JLPT対策授業-2 (統合理解)		井上光恵
第8回	8. JLPT対策授業-3 (情報検索1)		井上光恵
第9回	9. JLPT対策授業-4 (情報検索2)		井上光恵
第10回	10. 8課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第11回	11. 8課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第12回	12. 9課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第13回	13. 9課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第14回	14. 10課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第15回	15. 10課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第16回	16. 単位認定試験		井上光恵
教科書			
教・書籍名1	中級から学ぶ日本語	教・出版社名1	株式会社 研究社
教・著者名1	松田浩志 亀田美保	教・ISBN1	978-4-327-38465-4
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	ドリル&ドリル日本語能力試験N2文字語彙	参・出版社名1	ユニコム
参・著者名1	星野恵子・辻和子	参・ISBN1	978-4-89689-478-3
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

第3回	内容理解問題：短文一単問 中文一単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第4回	内容理解問題：中文一複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第5回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第6回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第7回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第8回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第9回	内容理解問題：中文一複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第10回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第11回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第12回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第13回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第14回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第15回	総括・確認テスト	小西真弓	
第16回	単位認定筆記試験	小西真弓	
教科書			
教・書籍名1	新完全マスター単語 日本語能力試験N2重要2200語	教・出版社名1	スリーエーネットワーク
教・著者名1	小谷野美穂・森田亮子・青柳方子・大野純子・木村典子他	教・ISBN1	978-4-88319-762-0
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	日本語能力試験問題集 スピードマスター N2 読解	参・出版社名1	Jリサーチ出版
参・著者名1	小林ひとみ・桑原里奈・木村理恵	参・ISBN1	9784863920583
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	応用日本語ⅠB 再履クラス3			担当者	久保田 雅子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	テーマは第二言語としての日本語の「読解力の向上」である。N3～N2レベルの読解問題の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につけることが目標である。						
授業概要	日本語能力試験N2合格を目指し、このクラスでは主に「読解」中心に学ぶ。教科書で論理的な文章を読み、内容を理解する。プリントでN3～N2レベルの演習問題をやり、文章を通じて筆者の考えを理解したり、パンフレットや説明書等、さまざまな文書を読み、各文書から必要な情報を得る方法を理解する。 中級レベルの読解力が身につくことで事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につけることができる。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業評価は、講義内試験（40％）、小テスト（20％）、学習意欲・態度（40％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行われる。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用することができる。						
実務経験のある教員	該当する	内容	留学生の日本語教育				
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題をだす。授業中にその発表を行い、みずから、自分自身の課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 2) 指示に従って必ず専用のノートを作成し、復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。予習と復習に2時間以上は必要である。						
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前・後に実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション (授業の進め方、予習、復習のやりかた 例：第1課)					久保田	

第2回	第1課 語彙・本文1-2、プリント	久保田
第3回	第3課 本文2・文法、プリント	久保田
第4回	第3課 語彙・本文1、プリント	久保田
第5回	第5課 本文2・文法、プリント	久保田
第6回	第5課 語彙・本文1、プリント	久保田
第7回	第7課 本文2・文法、プリント	久保田
第8回	第7課、N2演習問題1	久保田
第9回	N2演習問題 2	久保田
第10回	N2演習問題 3	久保田
第11回	第9課 語彙・本文1	久保田
第12回	第9課 本文2・文法	久保田
第13回	第11課 語彙・本文1	久保田
第14回	第11課 本文2・文法	久保田
第15回	第13課、総まとめ	久保田
第16回		
教科書		
教・書籍名1	留学生の日本語 読解編	教・出版社名1 株式会社アルク
教・著者名1	アカデミック・ジャパニーズ研究会	教・ISBN1 978-4-7574-2631-3
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	はじめての日本語能力試験N2 合格模試	参・出版社名1 株式会社アスク出版
参・著者名1	アスク出版編集部	参・ISBN1 978-4-86639-315-5
参・書籍名2	新完全マスター 読解 N3	参・出版社名2 株式会社 スリーエーネットワーク
参・著者名2	田代 ひろみ・他著	参・ISBN2 978-4-888319-671-5

授業科目名	応用日本語ⅠB 再履クラス4			担当者	井上 光恵		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。学生は、他の日本語科目と併せて、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努め、日本語能力試験N2程度の実力を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	①新しく学習する課の文章について「漢字」「語彙」「文型」については、その意味を事前に調べ問題練習をすることを課題とし、翌週そのチェックとフィードバックを行う。 ②N2レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。						
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ⅠA・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋A]の3科目とも同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑥ 授業では、テキストは使用せず、主教材も副教材もプリントで対応する。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めましょう。						

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		
授業計画			担当者
第1回	1. オリエンテーション		井上光恵
第2回	2. 1課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第3回	3. 1課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第4回	4. 2課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第5回	5. 2課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第6回	6. JLPT対策授業-1 (内容理解-短文)		井上光恵
第7回	7. JLPT対策授業-2 (統合理解)		井上光恵
第8回	8. JLPT対策授業-3 (情報検索1)		井上光恵
第9回	9. JLPT対策授業-4 (情報検索2)		井上光恵
第10回	10. 3課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第11回	11. 3課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第12回	12. 4課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第13回	13. 4課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第14回	14. 5課-1 内容理解 (中文)		井上光恵
第15回	15. 5課-2 内容理解 (中文)		井上光恵
第16回	16. 単位認定試験		井上光恵
教科書			
教・書籍名1	中級から学ぶ日本語	教・出版社名1	株式会社 研究社
教・著者名1	松田浩志 亀田美保	教・ISBN1	978-4-327-38465-4
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	新完全マスター 語彙 日本語能力試験N2	参・出版社名1	スリーエーネットワーク
参・著者名1	伊能裕晃・本田ゆかり・来栖里美・前坊香菜子・阿保きみ枝・宮田公治	参・ISBN1	9784883195749
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

第6回	情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第7回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第8回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第9回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第10回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第11回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第12回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第13回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第14回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第15回	総括、確認テスト	小西真弓
第16回	単位認定筆記試験	小西真弓
教科書		
教・書籍名1	日本語能力試験問題集 スピードマスター N1 読解	教・出版社名1 Jリサーチ出版
教・著者名1	菊池富美子・黒石しづ可・日置陽子・竹田慎吾	教・ISBN1 978-4-86392-075-0
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	新完全マスター単語N2重要2200	参・出版社名1 スリーエーネットワーク
参・著者名1	小谷野美穂・森田亮子 他	参・ISBN1 978-4-88319-762-0
参・書籍名2	速攻トレーニング読解編	参・出版社名2 アスク出版
参・著者名2	加藤早苗・沼田宏	参・ISBN2 978-4-7574-1990-2

第6回	模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第7回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第8回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第9回	内容理解問題：中文一複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第10回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第11回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第12回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第13回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第14回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第15回	総括、確認テスト	小西真弓
第16回	単位認定筆記試験	小西真弓
教科書		
教・書籍名1	日本語能力試験問題集 スピードマスター N1 読解	教・出版社名1 Jリサーチ出版
教・著者名1	菊池富美子・黒石しづ可・日置陽子・竹田慎吾	教・ISBN1 978-4-86392-075-0
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	新完全マスター単語N2重要2200	参・出版社名1 スリーエーネットワーク
参・著者名1	小谷野美穂・森田亮子・青柳方子・大野純子・木村典子他	参・ISBN1 978-4-88319-762-0
参・書籍名2	速攻トレーニング読解編	参・出版社名2 アスク出版
参・著者名2	加藤早苗・沼田宏	参・ISBN2 978-4-7574-1990-2

授業科目名	日本語研究ⅠA 再履クラス1			担当者	磯 永二		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにし、そのうえで、日本語能力試験N2レベルの聴解能力を身につけていく。そのことが本学の授業に対する理解力の向上だけでなく、様々な教育活動への理解や参加の促進、日本人学生との交流や地域理解の推進にもつながる。そのようにして、日本に対する理解を深め、日本における実りある学生生活を送ることができるようになる。						
授業概要	本授業は聴解を中心としており、日本語能力試験N2レベルの聴解能力獲得を目指している。日本語を聞いて理解するには、そのリズムやスピードに慣れることはもちろんだが、理解に必要な語彙力や文法的な知識も必要である。そこで日本語を単に聞くだけでなく、そこで使われている文字・語彙、文法について学ぶ。そのために必要に応じて課題を課したり小テストを実施する。さらには、日本語理解につながる日本の気候や風土、日常生活で使われる言葉、挨拶、応答などを折に触れて取り上げていく。						
アクティブラーニングの内容	PBL						
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合格結果を加味した上で行われる。これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、N2の合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ② 日本語ⅠA/日本語ⅠA(文法)、応用日本語ⅠA/日本語ⅠA(読解)、日本語研究ⅠA/日本語ⅠA(聴解)の3科目ともに同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でJLP T対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必						

	要。 予習・復習にはそれぞれ2時間以上の学習が必要。		
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション、プロフィール作成、文法、文字・語彙確認演習		磯
第2回	聴解テキスト学習 課題理解①		磯
第3回	聴解テキスト学習 課題理解② 文字・語彙演習①		磯
第4回	聴解テキスト学習 ポイント理解①		磯
第5回	聴解テキスト学習 ポイント理解② 文字・語彙演習②		磯
第6回	聴解テキスト学習 概要理解①		磯
第7回	聴解テキスト学習 概要理解② 文字・語彙演習③		磯
第8回	第2回～第7回授業内容総括演習		磯
第9回	第2回～第7回授業内容総括演習の解説、復習演習		磯
第10回	聴解テキスト学習 即時応答① 文字・語彙演習④		磯
第11回	聴解テキスト学習 即時応答②		磯
第12回	聴解テキスト学習 即時応答③ 文字・語彙演習⑤		磯
第13回	聴解テキスト学習 概要理解①		磯
第14回	聴解テキスト学習 概要理解② 文字・語彙演習⑥		磯
第15回	聴解テキスト学習 第1回、第2回模擬試験問題		磯
第16回	単位認定試験		磯
教科書			
教・書籍名1	日本語能力試験問題集 N2聴解 スピードマスター	教・出版社名1	Jリサーチ出版
教・著者名1	棚橋明美、杉山ますよ、野原ゆかり	教・ISBN1	978-4-86392-057-6
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語研究ⅠA 2クラス			担当者	久保田 雅子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することを目指す。 まずは基本的な文法・語彙・聴解の運用力を中心に身につける。最終の目標は日本語能力試験N2相当の実力を身につけることである。						
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ⅰの3科目（日本語ⅠB、応用日本語ⅠB、日本語研究ⅠB）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。基本的な文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。授業では、基礎的な文法・語彙の運用力、聴解の力を伸ばすことを中心に行う。N2合格への橋渡しとなる科目である。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業評価は、試験（50％）、小テスト及び課題提出（30％）、学習意欲・態度（20％）で評価する。この授業では、基礎的な文法・語彙・聴解を中心に扱う。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。 ②日本語Ⅰ・応用日本語Ⅰ・日本語研究Ⅰの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。（社会情勢に応じてJLPTの試験に代わる措置の学内テストを行う場合もある。） ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 また、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用することもできる。						
実務経験のある教員	該当する	内容	日本語教育				
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについての発表を行いながら授業を進める。参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。 予習と復習に2時間以上は必要である。						
オフィスアワー	授業前、終了後、休憩時間						
授業計画						担当者	

第1回	1.オリエンテーション（授業の進め方について） 第24課 文法1	久保田
第2回	2.第24課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第3回	3.第27課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第4回	4.第27課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第5回	5.第30課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第6回	6.第30課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第7回	7.第33課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第8回	8.第33課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第9回	9.第36課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第10回	10.第36課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第11回	10.第39課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第12回	12.第39課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第13回	13.第41課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第14回	14.第41課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第15回	総まとめ	久保田
第16回		

教科書

教・書籍名1	日本語初級2・大地 メインテキスト	教・出版社名1	スリーエーネットワーク
教・著者名1	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ISBN1	978-4883195077
教・書籍名2	ドリル&ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野 恵子・辻和子	教・ISBN2	978-4-89689-487-5

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語研究ⅠA 1クラス			担当者	井上 光恵		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。						
授業概要	この講義は「聴解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。練習の過程では、基礎固めとしてN3レベルの問題も練習する。また関連する言語知識や文法などもとりあげ、総合的な日本語能力向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合格結果を加味した上で行われる。大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。N2に合格してはじめて日本語関連科目Ⅱを履修することができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②N2レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科履修中に、N2試験に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語Ⅰ春・応用日本語Ⅰ春・日本語研究Ⅰ春の3科目ともに同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。						

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		
授業計画			担当者
第1回	1. オリエンテーション		井上光恵
第2回	2. 第1章(準備) -1 発音・文法		井上光恵
第3回	3. 第1章(準備) -2 会話表現		井上光恵
第4回	4. 第2章(問題のパターンに慣れる) -1 発話表現 2 即時応答		井上光恵
第5回	5. 第2章(問題のパターンに慣れる) -3 課題理解 4 ポイント理解		井上光恵
第6回	6. 第2章(問題のパターンに慣れる) -5 概要理解		井上光恵
第7回	7. 第3章(いろいろな場所で聞く) -1 町で		井上光恵
第8回	8. 第3章(いろいろな場所で聞く) -2 天気予報・交通情報		井上光恵
第9回	9. 第3章(いろいろな場所で聞く) -3 学校で		井上光恵
第10回	10. 第3章(いろいろな場所で聞く) -4 職場で		井上光恵
第11回	11. 第3章(いろいろな場所で聞く) -5 病院・いろいろな店で		井上光恵
第12回	12. 第4章(いろいろな内容を聞く) -1 人や物のようす		井上光恵
第13回	13. 第4章(いろいろな内容を聞く) -2 場所・方向・位置		井上光恵
第14回	14. 第4章(いろいろな内容を聞く) -3 数・方向・計算		井上光恵
第15回	15. 第4章(いろいろな内容を聞く) -4 順序・比較		井上光恵
第16回	16. 単位認定試験		井上光恵
教科書			
教・書籍名1	日本語総まとめN3聴解	教・出版社名1	アスク
教・著者名1	佐々木仁子・松本紀子	教・ISBN1	978-4-87217-792-3
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	新完全マスター 語彙 N2	参・出版社名1	スリーエーネットワーク
参・著者名1	伊能裕晃 本田ゆかり 来栖里美	参・ISBN1	978-4-88319-574-9
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語研究ⅠA 再履クラス2			担当者	井上 光恵		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。						
授業概要	この講義は「聴解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。練習の過程では、基礎固めとしてN3レベルの問題も練習する。また関連する言語知識や文法などもとりあげ、総合的な日本語能力向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合格結果を加味した上で行われる。大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。N2に合格してはじめて日本語関連科目Ⅱを履修することができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②N2レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科履修中に、N2試験に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語Ⅰ春・応用日本語Ⅰ春・日本語研究Ⅰ春の3科目ともに同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。						

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		
授業計画			担当者
第1回	1. オリエンテーション		井上光恵
第2回	2. 第1章（準備）-1 発音・文法		井上光恵
第3回	3. 第1章（準備）-2 会話表現		井上光恵
第4回	4. 第2章（問題のパターンに慣れる）-1 発話表現 2 即時応答		井上光恵
第5回	5. 第2章（問題のパターンに慣れる）-3 課題理解 4 ポイント理解		井上光恵
第6回	6. 第2章（問題のパターンに慣れる）-5 概要理解		井上光恵
第7回	7. 第3章（いろいろな場所で聞く）-1 町で		井上光恵
第8回	8. 第3章（いろいろな場所で聞く）-2 天気予報・交通情報		井上光恵
第9回	9. 第3章（いろいろな場所で聞く）-3 学校で		井上光恵
第10回	10. 第3章（いろいろな場所で聞く）-4 職場で		井上光恵
第11回	11. 第3章（いろいろな場所で聞く）-5 病院・いろいろな店で		井上光恵
第12回	12. 第4章（いろいろな内容を聞く）-1 人や物のようす		井上光恵
第13回	13. 第4章（いろいろな内容を聞く）-2 場所・方向・位置		井上光恵
第14回	14. 第4章（いろいろな内容を聞く）-3 数・方向・計算		井上光恵
第15回	15. 第4章（いろいろな内容を聞く）-4 順序・比較		井上光恵
第16回	16. 単位認定試験		井上光恵
教科書			
教・書籍名1	日本語総まとめN3聴解	教・出版社名1	アスク
教・著者名1	佐々木仁子・松本紀子	教・ISBN1	978-4-87217-792-3
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	新完全マスター 語彙 N2	参・出版社名1	スリーエーネットワーク
参・著者名1	伊能裕晃 本田ゆかり 来栖里美	参・ISBN1	978-4-88319-574-9
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語研究ⅠA 再履クラス3			担当者	雲津 英子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	この講義は「聴解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。聴解と併せて、言語知識（文字・語彙・文法など）も取り上げ、総合的な日本語能力向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50％）、小テスト（30％）、学習意欲・態度（20％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	小テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。						
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					雲津 英子	
第2回	基礎編1～4					雲津 英子	
第3回	基礎編5～7					雲津 英子	
第4回	課題理解1～4					雲津 英子	

第5回	N2 対策問題（聴解）	雲津 英子
第6回	N2 対策問題（聴解）の解説	雲津 英子
第7回	課題理解5～9	雲津 英子
第8回	課題理解10～13	雲津 英子
第9回	ポイント理解14～16	雲津 英子
第10回	ポイント理解17～20	雲津 英子
第11回	概要理解21～24	雲津 英子
第12回	概要理解25～28	雲津 英子
第13回	即時応答29～46	雲津 英子
第14回	統合理解47～49	雲津 英子
第15回	統合理解50～52	雲津 英子
第16回	単位認定試験（聴解・筆記試験）	雲津 英子
教科書		
教・書籍名1	日本語能力試験N2 聴解 必修パターン	教・出版社名1 Jリサーチ出版
教・著者名1	氏原 庸子 清島 千春 佐伯 玲子	教・ISBN1 978-4-86392-360-7
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	日本語能力試験対策 日本語ワードリル N2文字・語彙	参・出版社名1 アスク出版
参・著者名1	松浦 真理子 鈴木 健司	参・ISBN1 978-4-87217-768-8
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	日本語研究ⅠA 再履クラス4			担当者	久保田 雅子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	日本語能力試験N2合格を目指し、このクラスは主に「聴解」を学ぶ。N3～N2レベルの聴解問題の出題の傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。						
授業概要	日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの聴解問題の出題傾向を知り、練習問題を解きながら実践力を身につける。「聴解の教材」は生活の場面で、ひとりでも対応できる能力を身につけられるような内容を取り入れる。 第二、第三の言語としての日本語をより早く習得するために考察を自ら積極的に行い、他の学生と共有できるコミュニケーション能力を身につけられるよう参加型授業を行う。 また中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになることが目標である。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業評価は、講義内試験（40％）、小テスト（20％）、学習意欲・態度（40％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合格結果を加味した上で行われる。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑤聴解の教材では、参考図書及びプリントを利用する。プリントを配布するので、初回から専用のファイル、ノートは持参すること。副教材については、3人の先生と共有して進める。これについても毎回持ってくること。 ⑥理由なく欠席が続く場合や、指示した課題を提出しない場合は受講を認めない場合があるので注意してほしい。なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用することができる。						
実務経験のある教員	該当する	内容	留学生への日本語教育				
事前学習・事後学習とその時間	1) 語彙については毎回指定した範囲の小テストを行うので、その課の語彙を自主学習してくること。また定着できるような方法を考え、やってくること。授業でも取り上げるので、それぞれのアイデアを発表できるように準備して授業にのぞむこと。						

	2) 聴解の学習方法については、授業でやり方を説明する。おもに発表する形で確認を行うが、短時間でも必ず練習していただくこと。 予習と復習におよそ2時間以上が望ましいが、時間が見つけて短時間でもやるのが当面の目標である。授業前の時間など、活用できる時間を考えてみる。		
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前・後に実施する。		
授業計画		担当者	
第1回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1. プリントの説明		久保田
第2回	1-1：イントネーションの違いを知る		久保田
第3回	1-2：はっきり言わない言い方		久保田
第4回	1-3：感謝・迷惑などの表現を知る		久保田
第5回	1-4：量や時間の印象を知る		久保田
第6回	1-5：予想・伝聞の表現を知る		久保田
第7回	1-6：意見を聞き取るときのキーワードを知る		久保田
第8回	2-1：話全体から話し手の意見・意図を聴き取るコツ1		久保田
第9回	2-1：話全体から話し手の意見・意図を聴き取るコツ2		久保田
第10回	2-2：次に何をすべきかを聴き取るコツ1		久保田
第11回	2-2：次に何をすべきかを聴き取るコツ2		久保田
第12回	2-3：知りたいことを集中して聴くコツ1		久保田
第13回	2-3：知りたいことを集中して聴くコツ2		久保田
第14回	2-4：さまざまな情報を集めて理解するコツ1		久保田
第15回	2-4：さまざまな情報を集めて理解するコツ2・総まとめ		久保田
第16回			
教科書			
教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2	新完全マスター語彙N2	教・出版社名2	スリーエーネットワーク
教・著者名2	伊能 裕晃	教・ISBN2	978-4883195749
参考書			
参・書籍名1	日本語能力試験対策 日本総まとめN2 聴解	参・出版社名1	978-4-87217-792-3
参・著者名1	佐々木仁子・松本紀子	参・ISBN1	アスク出版
参・書籍名2	短期マスター聴解ドリル2	参・出版社名2	凡人社
参・著者名2	浅野陽子・他著	参・ISBN2	978-4-89358-857-9

授業科目名	日本語研究ⅠB (1クラス)			担当者	井上 光恵		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。						
授業概要	日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行われる。大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。N2に合格してはじめて日本語関連科目Ⅱを履修することができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②N2レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科履修中に、N2試験に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語Ⅰ春・応用日本語Ⅰ春・日本語研究Ⅰ春の3科目ともに同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。						

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		
授業計画		担当者	
第1回	1. オリエンテーション		井上光恵
第2回	2. 第1章（準備）-1 発音・文法		井上光恵
第3回	3. 第1章（準備）-2 会話表現		井上光恵
第4回	4. 第2章（問題のパターンに慣れる）-1 発話表現 2 即時応答		井上光恵
第5回	5. 第2章（問題のパターンに慣れる）-3 課題理解 4 ポイント理解		井上光恵
第6回	6. 第2章（問題のパターンに慣れる）-5 概要理解		井上光恵
第7回	7. 第3章（いろいろな場所で聞く）-1 町で		井上光恵
第8回	8. 第3章（いろいろな場所で聞く）-2 天気予報・交通情報		井上光恵
第9回	9. 第3章（いろいろな場所で聞く）-3 学校で		井上光恵
第10回	10. 第3章（いろいろな場所で聞く）-4 職場で		井上光恵
第11回	11. 第3章（いろいろな場所で聞く）-5 病院・いろいろな店で		井上光恵
第12回	12. 第4章（いろいろな内容を聞く）-1 人や物のようす		井上光恵
第13回	13. 第4章（いろいろな内容を聞く）-2 場所・方向・位置		井上光恵
第14回	14. 第4章（いろいろな内容を聞く）-3 数・方向・計算		井上光恵
第15回	15. 第4章（いろいろな内容を聞く）-4 順序・比較		井上光恵
第16回	16. 単位認定試験		井上光恵
教科書			
教・書籍名1	日本語総まとめN3聴解	教・出版社名1	アスク
教・著者名1	佐々木仁子・松本紀子	教・ISBN1	978-4-87217-792-3
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	新完全マスター 語彙 N2	参・出版社名1	スリーエーネットワーク
参・著者名1	伊能裕晃 本田ゆかり 来栖里美	参・ISBN1	978-4-88319-574-9
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語研究ⅠB (2クラス)			担当者	久保田 雅子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することを目指す。 まずは基本的な文法・語彙・聴解の運用力を中心に身につける。最終の目標は日本語能力試験N2相当の実力を身につけることである。						
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ⅰの3科目（日本語ⅠB、応用日本語ⅠB、日本語研究ⅠB）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。基本的な文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。授業では、基礎的な文法・語彙の運用力、聴解の力を伸ばすことを中心に行う。N2合格への橋渡しとなる科目である。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業評価は、試験（50％）、小テスト及び課題提出（30％）、学習意欲・態度（20％）で評価する。この授業では、基礎的文法・語彙・聴解を中心に扱う。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。 ②日本語Ⅰ・応用日本語Ⅰ・日本語研究Ⅰの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。（社会情勢に応じてJLPTの試験に代わる措置の学内テストを行う場合もある。） ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 また、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用することもできる。						
実務経験のある教員	該当する	内容	日本語教育				
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについての発表を行いながら授業を進める。参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。 予習と復習に2時間以上は必要である。						
オフィスアワー	授業前、終了後、休憩時間						
授業計画						担当者	

第1回	1.オリエンテーション（授業の進め方について） 第24課 文法1	久保田
第2回	2.第24課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第3回	3.第27課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第4回	4.第27課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第5回	5.第30課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第6回	6.第30課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第7回	7.第33課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第8回	8.第33課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第9回	9.第36課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第10回	10.第36課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第11回	10.第39課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第12回	12.第39課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第13回	13.第41課 文法1及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第14回	14.第41課 文法2及び演習（副教材ドリル&ドリル、プリント）	久保田
第15回	総まとめ	久保田
第16回		

教科書

教・書籍名1	日本語初級2・大地 メインテキスト	教・出版社名1	スリーエーネットワーク
教・著者名1	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ISBN1	978-4883195077
教・書籍名2	ドリル&ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野 恵子・辻和子	教・ISBN2	978-4-89689-487-5

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語研究ⅠB 再履クラス1			担当者	磯 永二		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにし、そのうえで、日本語能力試験N2レベルの聴解能力を身につけていく。そのことが本学の授業に対する理解力の向上だけでなく、様々な教育活動への理解や参加の促進、日本人学生との交流や地域理解の推進にもつながる。そのようにして、日本に対する理解を深め、日本における実りある学生生活を送ることができるようになる。						
授業概要	本授業は聴解を中心としており、日本語能力試験N2レベルの聴解能力獲得を目指している。日本語を聞いて理解するには、そのリズムやスピードに慣れることはもちろんだが、理解に必要な語彙力や文法的な知識も必要である。そこで日本語を単に聞くだけでなく、そこで使われている文字・語彙、文法について学ぶ。そのために必要に応じて課題を課したり小テストを実施する。さらには、日本語理解につながる日本の気候や風土、日常生活で使われる言葉、挨拶、応答などを折に触れて取り上げていく。						
アクティブラーニングの内容	PBL						
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合格結果を加味した上で行われる。これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、N2の合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ② 日本語ⅠB/日本語ⅠB(文法)、応用日本語ⅠB/日本語ⅠB(読解)、日本語研究ⅠB/日本語ⅠB(聴解)の3科目ともに同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。						

	授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でJ L P T対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ2時間以上の学習が必要。		
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて		
授業計画		担当者	
第1回	オリエンテーション、プロフィール作成、文法、文字・語彙確認演習		磯
第2回	文法確認演習、聴解テキスト学習 第1章1		磯
第3回	聴解テキスト学習 第1章2, 3		磯
第4回	聴解テキスト学習 第1章4, 5		磯
第5回	聴解テキスト学習 第2章1, 2		磯
第6回	聴解テキスト学習 第2章3, 4		磯
第7回	聴解テキスト学習 第2章5, 6, 7		磯
第8回	第2回～第7回授業内容総括演習		磯
第9回	第2回～第7回授業内容総括演習の解説、復習演習		磯
第10回	聴解テキスト学習 第3章1, 2		磯
第11回	聴解テキスト学習 第3章3, 4		磯
第12回	聴解テキスト学習 第3章5 第4章1		磯
第13回	聴解テキスト学習 第4章2, 3		磯
第14回	聴解テキスト学習 第4章4, 5		磯
第15回	聴解テキスト学習 第5章		磯
第16回	単位認定試験		磯
教科書			
教・書籍名1	日本語能力試験 日本語総まとめN2 聴解	教・出版社名1	アスク出版
教・著者名1	佐々木仁子、松本紀子	教・ISBN1	978-4-87217-792-3
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語研究ⅠB 再履クラス2			担当者	井上 光恵		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2018～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。						
授業概要	この講義は「聴解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。練習の過程では、基礎固めとしてN3レベルの問題も練習する。また関連する言語知識や文法などもとりあげ、総合的な日本語能力向上を目指す。						
アクティブラーニングの 内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合格結果を加味した上で行われる。大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。N2に合格してはじめて日本語関連科目Ⅱを履修することができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②N2レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科履修中に、N2試験に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語Ⅰ春・応用日本語Ⅰ春・日本語研究Ⅰ春の3科目ともに同クラスで受講すること。 ③ 本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④ 2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤ 日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。						

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		
授業計画			担当者
第1回	1. オリエンテーション		井上光恵
第2回	2. 第1章(準備) -1 発音・文法		井上光恵
第3回	3. 第1章(準備) -2 会話表現		井上光恵
第4回	4. 第2章(問題のパターンに慣れる) -1 発話表現 2 即時応答		井上光恵
第5回	5. 第2章(問題のパターンに慣れる) -3 課題理解 4 ポイント理解		井上光恵
第6回	6. 第2章(問題のパターンに慣れる) -5 概要理解		井上光恵
第7回	7. 第3章(いろいろな場所で聞く) -1 町で		井上光恵
第8回	8. 第3章(いろいろな場所で聞く) -2 天気予報・交通情報		井上光恵
第9回	9. 第3章(いろいろな場所で聞く) -3 学校で		井上光恵
第10回	10. 第3章(いろいろな場所で聞く) -4 職場で		井上光恵
第11回	11. 第3章(いろいろな場所で聞く) -5 病院・いろいろな店で		井上光恵
第12回	12. 第4章(いろいろな内容を聞く) -1 人や物のようす		井上光恵
第13回	13. 第4章(いろいろな内容を聞く) -2 場所・方向・位置		井上光恵
第14回	14. 第4章(いろいろな内容を聞く) -3 数・方向・計算		井上光恵
第15回	15. 第4章(いろいろな内容を聞く) -4 順序・比較		井上光恵
第16回	16. 単位認定試験		井上光恵
教科書			
教・書籍名1	日本語総まとめN3聴解	教・出版社名1	アスク
教・著者名1	佐々木仁子・松本紀子	教・ISBN1	978-4-87217-792-3
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	新完全マスター 語彙 N2	参・出版社名1	スリーエーネットワーク
参・著者名1	伊能裕晃 本田ゆかり 来栖里美	参・ISBN1	978-4-88319-574-9
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語研究ⅠB 再履クラス3			担当者	雲津 英子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2018～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	この講義は「聴解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。聴解と併せて、言語知識（文字・語彙・文法など）も取り上げ、総合的な日本語能力向上を目指す。						
アクティブラーニングの 内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50％）、小テスト（30％）、学習意欲・態度（20％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本 科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。2年生 以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	小テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟 度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しな いこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠB・応用日本語ⅠB・日本語研究ⅠBの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学 生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対 策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ の時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、 授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。						
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週水曜日5限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					雲津 英子	
第2回	基礎編1～4					雲津 英子	
第3回	基礎編5～7					雲津 英子	
第4回	課題理解1～4					雲津 英子	

第5回	N2 対策問題（聴解）	雲津 英子
第6回	N2 対策問題（聴解）の解説	雲津 英子
第7回	課題理解5～9	雲津 英子
第8回	課題理解10～13	雲津 英子
第9回	ポイント理解14～16	雲津 英子
第10回	ポイント理解17～20	雲津 英子
第11回	概要理解21～24	雲津 英子
第12回	概要理解25～28	雲津 英子
第13回	即時応答29～46	雲津 英子
第14回	統合理解47～49	雲津 英子
第15回	統合理解50～52	雲津 英子
第16回	単位認定試験（聴解・筆記試験）	雲津 英子
教科書		
教・書籍名1	日本語能力試験N2 聴解 必修パターン	教・出版社名1 Jリサーチ出版
教・著者名1	氏原 庸子 清島 千春 佐伯 玲子	教・ISBN1 978-4-86392-360-7
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	日本語能力試験対策 日本語ワードリル N2文字・語彙	参・出版社名1 アスク出版
参・著者名1	松浦 真理子 鈴木 健司	参・ISBN1 978-4-87217-768-8
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	日本語研究ⅠB 再履クラス4			担当者	久保田 雅子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	日本語能力試験N2合格を目指し、このクラスは主に「聴解」を学ぶ。N3～N2レベルの聴解問題の出題の傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。						
授業概要	日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの聴解問題の出題傾向を知り、練習問題を解きながら実践力を身につける。「聴解の教材」は生活の場面で、ひとりでも対応できる能力を身につけられるような内容を取り入れる。 第二、第三の言語としての日本語をより早く習得するために考察を自ら積極的に行い、他の学生と共有できるコミュニケーション能力を身につけられるよう参加型授業を行う。 また中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになることが目標である。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業評価は、講義内試験（40％）、小テスト（20％）、学習意欲・態度（40％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合格結果を加味した上で行われる。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑤聴解の教材では、参考図書及びプリントを利用する。プリントを配布するので、初回から専用のファイル、ノートは持参すること。副教材については、3人の先生と共有して進める。これについても毎回持ってくること。 ⑥理由なく欠席が続く場合や、指示した課題を提出しない場合は受講を認めない場合があるので注意してほしい。なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用することができる。						
実務経験のある教員	該当する	内容	留学生への日本語教育				
事前学習・事後学習とその時間	1) 語彙については毎回指定した範囲の小テストを行うので、その課の語彙を自主学習してくること。また定着できるような方法を考え、やってくること。授業でも取り上げるので、それぞれのアイデアを発表できるように準備して授業にのぞむこと。						

	2) 聴解の学習方法については、授業でやり方を説明する。おもに発表する形で確認を行うが、短時間でも必ず練習していただくこと。 予習と復習におよそ2時間以上が望ましいが、時間が見つけて短時間でもやるのが当面の目標である。授業前の時間など、活用できる時間を考えてみる。		
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前・後に実施する。		
授業計画		担当者	
第1回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1. プリントの説明		久保田
第2回	1-1：イントネーションの違いを知る		久保田
第3回	1-2：はっきり言わない言い方		久保田
第4回	1-3：感謝・迷惑などの表現を知る		久保田
第5回	1-4：量や時間の印象を知る		久保田
第6回	1-5：予想・伝聞の表現を知る		久保田
第7回	1-6：意見を聞き取るときのキーワードを知る		久保田
第8回	2-1：話全体から話し手の意見・意図を聴き取るコツ1		久保田
第9回	2-1：話全体から話し手の意見・意図を聴き取るコツ2		久保田
第10回	2-2：次に何をすべきかを聴き取るコツ1		久保田
第11回	2-2：次に何をすべきかを聴き取るコツ2		久保田
第12回	2-3：知りたいことを集中して聴くコツ1		久保田
第13回	2-3：知りたいことを集中して聴くコツ2		久保田
第14回	2-4：さまざまな情報を集めて理解するコツ1		久保田
第15回	2-4：さまざまな情報を集めて理解するコツ2・総まとめ		久保田
第16回			
教科書			
教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2	新完全マスター語彙N2	教・出版社名2	スリーエーネットワーク
教・著者名2	伊能 裕晃	教・ISBN2	978-4883195749
参考書			
参・書籍名1	日本語能力試験対策 日本総まとめN2 聴解	参・出版社名1	978-4-87217-792-3
参・著者名1	佐々木仁子・松本紀子	参・ISBN1	アスク出版
参・書籍名2	短期マスター聴解ドリル2	参・出版社名2	凡人社
参・著者名2	浅野陽子・他著	参・ISBN2	978-4-89358-857-9

授業科目名	日本語研究IIA 1・2クラス			担当者	磯 永二		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017～2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LJ-2-011		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、日本語能力試験N1レベルの聴解能力を身につけていく。それにとどまらず、「読む」「書く」「話す」能力の向上もめざす。総合的な日本語力の向上は、本学の授業に対する理解力の向上だけでなく、様々な教育活動への理解や参加の促進、日本人学生との交流や地域理解の推進にもつながる。そのようにして、日本に対する理解が深化し、日本における実りある学生生活を送ることができるようになる。						
授業概要	本授業は聴解を中心としており、日本語能力試験N1レベルの聴解能力獲得を目指している。そのためには日本語を反復して聞いて、そのリズムやスピードに慣れることはもちろんだが、理解に必要な語彙力や文法的な知識も必要である。そこで日本語を単に聞くだけでなく、そこで使われている文字・語彙、文法について学ぶ。そのために必要に応じて課題を課したり小テストを実施する。さらには、日本語理解につながる日本の気候や風土、日常生活で使われる言葉、挨拶、応答などを折に触れて取り上げていき、充実した学生生活を送れるようにする。						
アクティブラーニングの内容	PBL						
評価方法と割合	単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。						
履修条件・注意事項	日本語能力試験N2合格が条件である。 N2を取得していない学生は履修することはできない。 N2レベルに満足するのではなく、さらにN1レベルを目指して意欲的に受講してもらいたい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	高いレベルの日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でJLPT対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ2時間以上の学習が必要。						
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて						
授業計画							担当者
第1回	オリエンテーション、N3、N2レベル文法、文字・語彙確認演習						磯
第2回	聴解テキスト学習 課題理解① 練習問題1～5						磯
第3回	聴解テキスト学習 課題理解② 練習問題6～12 N2、N1レベル文字・語彙演習①						磯
第4回	聴解テキスト学習 ポイント理解① 練習問題1～6						磯
第5回	聴解テキスト学習 ポイント理解② 練習問題7～14 N2、N1レベル文字・語彙演習②						磯
第6回	聴解テキスト学習 概要理解① 練習問題1～6						磯
第7回	聴解テキスト学習 概要理解② 練習問題7～12 N2、N1レベル文字・語彙演習③						磯
第8回	第2回～第7回授業内容総括演習						磯

第9回	第2回～第7回授業内容総括演習解説、補充演習	礎
第10回	聴解テキスト学習 即時応答① 敬語表現、文末否定、慣用表現	礎
第11回	聴解テキスト学習 即時応答② 練習問題1～8 N2、N1レベル文字・語彙演習④	礎
第12回	聴解テキスト学習 即時応答③ 練習問題9～20 N2、N1レベル文字・語彙演習⑤	礎
第13回	聴解テキスト学習 即時応答④ 練習問題21～30 N2、N1レベル文字・語彙演習⑥	礎
第14回	聴解テキスト学習 統合理解① 統合理解とは N2、N1レベル文字・語彙演習⑦	礎
第15回	聴解テキスト学習 統合理解② 練習問題1～6	礎
第16回	単位認定試験	礎

教科書

教・書籍名1	絶対合格！日本語能力試験 徹底トレーニングN1 聴解	教・出版社名1	アスク出版
教・著者名1	松岡龍美	教・ISBN1	978-4-87217-776-3
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語研究ⅡB			担当者	磯 永二		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2017～2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LJ-2-012		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、日本語能力試験N1レベルの聴解能力を身につけていく。それにとどまらず、「読む」「書く」「話す」能力の向上もめざす。総合的な日本語力の向上は、本学の授業に対する理解力の向上だけでなく、様々な教育活動への理解や参加の促進、日本人学生との交流や地域理解の推進にもつながる。そのようにして、日本に対する理解が深化し、日本における実りある学生生活を送ることができるようになる。						
授業概要	本授業は聴解を中心としており、日本語能力試験N1レベルの聴解能力獲得を目指している。そのためには日本語を反復して聞いて、そのリズムやスピードに慣れることはもちろんだが、理解に必要な語彙力や文法的な知識も必要である。そこで日本語を単に聞くだけでなく、そこで使われている文字・語彙、文法について学ぶ。そのために必要に応じて課題を課したり小テストを実施する。さらには、日本語理解につながる日本の気候や風土、日常生活で使われる言葉、挨拶、応答などを折に触れて取り上げていき、充実した学生生活を送れるようにする。						
アクティブラーニングの内容	PBL						
評価方法と割合	単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。						
履修条件・注意事項	日本語能力試験N2合格が条件である。 N2を取得していない学生は履修することはできない。 N2レベルに満足するのではなく、さらにN1レベルを目指して意欲的に受講してもらいたい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	高いレベルの日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でJLPT対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習には2時間以上の学習が必要。						
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて						
授業計画							担当者
第1回	オリエンテーション、N3、N2レベル文法確認演習						磯
第2回	N3、N2レベル文字・語彙確認演習 聴解テキスト学習① 第1章1						磯
第3回	聴解テキスト学習② 第1章2, 3						磯
第4回	聴解テキスト学習③ 第1章4, 5 N2、N1レベル文字・語彙演習①						磯
第5回	聴解テキスト学習④ 第2章1, 2 N2、N1レベル文字・語彙演習②						磯
第6回	聴解テキスト学習⑤ 第2章3, 4 N2、N1レベル文字・語彙演習③						磯
第7回	聴解テキスト学習⑥ 第2章5, 6, 7						磯
第8回	第2回～第7回授業内容総括演習						磯

第9回	第2回～第7回授業内容総括演習解説、補充演習	礎
第10回	聴解テキスト学習⑦ 第3章1, 2 N2、N1レベル文字・語彙演習④	礎
第11回	聴解テキスト学習⑧ 第3章3, 4 N2、N1レベル文字・語彙演習⑤	礎
第12回	聴解テキスト学習⑨ 第3章5 第4章1 N2、N1レベル文字・語彙演習⑤	礎
第13回	聴解テキスト学習⑩ 第4章2, 3 N2、N1レベル文字・語彙演習⑦	礎
第14回	聴解テキスト学習⑪ 第4章4, 5 N2、N1レベル文字・語彙演習⑧	礎
第15回	聴解テキスト学習⑫ 第5章 N2、N1レベル文字・語彙演習⑨	礎
第16回	単位認定試験	礎

教科書

教・書籍名1	日本語能力試験対策 日本語総まとめN1 聴解	教・出版社名1	アスク出版
教・著者名1	佐々木仁子、松本紀子	教・ISBN1	978-4-87217-791-6
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	文章表現入門			担当者	雲津 英子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-CH-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	本講義のテーマは、大学生、あるいは社会人として必要な日本語の基本的な運用能力の獲得である。大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。 本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。また、「日本語検定」を紹介し、受験に対しての指導も行う。						
授業概要	講義内容は、「敬語」、「文法」、「語彙」、「言葉の意味」、「漢字」、「表記」の6つ領域で構成している。学生はこれらを順番に学んでいくことにより、日本語の運用能力を一步一步着実に高めていくことができる。毎回の講義では、小テスト及び復習テストを実施し、学修内容の定着状況を学生自身が確認することでさらなる日本語力向上をめざす。 さらに「日本語検定」への挑戦は、学生自身の今の日本語力を振り返るきっかけになるとともに、今後の日本語学修の目標にもなる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	単位認定試験（70％）、授業態度（15％）、小テスト・復習テスト（15％）によって総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	小テスト・復習テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	留学生の受講は可能であるが、「日本語能力試験」のN2（2級）以上の実力がなければ、講義内容の理解は難しい。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、高等学校において進路指導助手としての実務経験を持つ教員が、小論文指導（表記法、文章表現等の指導）の経験を活かし、論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回の講義で小テスト及び復習テストを実施するため、予習・復習をして講義に臨むことが必要である。予習および復習は、各2時間程度行うこと。 日本語力の向上には、今の自分の日本語力に対する気づきと、日々の意識的な努力が必要とされるため、講義以外での学修時間も重要である。 「日本語検定」の受験を目標にして学修に取り組むことが望ましい。						
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜日2限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	「日本語検定3級」に挑戦					雲津 英子	
第2回	はじめに					雲津 英子	
第3回	敬語の種類と使い分け					雲津 英子	
第4回	注意すべき敬語					雲津 英子	
第5回	配慮を示す言葉					雲津 英子	
第6回	品詞・活用の種類					雲津 英子	

第7回	ら抜き言葉・さ入れ言葉	雲津 英子
第8回	文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文	雲津 英子
第9回	接続後・指示語と文章	雲津 英子
第10回	類義語・対義語	雲津 英子
第11回	動詞の自他・視点	雲津 英子
第12回	文体、話し言葉・書き言葉	雲津 英子
第13回	コロケーション	雲津 英子
第14回	部首・音訓・熟語	雲津 英子
第15回	仮名遣い・送り仮名	雲津 英子
第16回	単位認定試験（筆記試験）	雲津 英子

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名1	スキルアップ！日本語力ー大学生のための日本語練習帳ー	教・出版社名1	東京書籍
教・著者名1	名古屋大学日本語研究会G K 7	教・I S B N 1	978-4-487-80364-4
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・I S B N 1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	文章表現入門			担当者	雲津 英子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-CH-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	本講義のテーマは、大学生、あるいは社会人として必要な日本語の基本的な運用能力の獲得である。大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。 本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。また、「日本語検定」を紹介し、受験に対しての指導も行う。						
授業概要	講義内容は、「敬語」、「文法」、「語彙」、「言葉の意味」、「漢字」、「表記」の6つ領域で構成している。学生はこれらを順番に学んでいくことにより、日本語の運用能力を一步一步着実に高めていくことができる。毎回の講義では、小テスト及び復習テストを実施し、学修内容の定着状況を学生自身が確認することでさらなる日本語力向上をめざす。 さらに「日本語検定」への挑戦は、学生自身の今の日本語力を振り返るきっかけになるとともに、今後の日本語学修の目標にもなる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	単位認定試験（70％）、授業態度（15％）、小テスト・復習テスト（15％）によって総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	小テスト・復習テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	留学生の受講は可能であるが、「日本語能力試験」のN2（2級）以上の実力がなければ、講義内容の理解は難しい。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、高等学校において進路指導助手としての実務経験を持つ教員が、小論文指導（表記法、文章表現等の指導）の経験を活かし、論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回の講義で小テスト及び復習テストを実施するため、予習・復習をして講義に臨むことが必要である。予習および復習は、各2時間程度行うこと。 日本語力の向上には、今の自分の日本語力に対する気づきと、日々の意識的な努力が必要とされるため、講義以外での学修時間も重要である。 「日本語検定」の受験を目標にして学修に取り組むことが望ましい。						
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週水曜日5限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	「日本語検定3級」に挑戦					雲津 英子	
第2回	はじめに					雲津 英子	
第3回	敬語の種類と使い分け					雲津 英子	
第4回	注意すべき敬語					雲津 英子	
第5回	配慮を示す言葉					雲津 英子	
第6回	品詞・活用の種類					雲津 英子	

第7回	ら抜き言葉・さ入れ言葉	雲津 英子
第8回	文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文	雲津 英子
第9回	接続後・指示語と文章	雲津 英子
第10回	類義語・対義語	雲津 英子
第11回	動詞の自他・視点	雲津 英子
第12回	文体、話し言葉・書き言葉	雲津 英子
第13回	コロケーション	雲津 英子
第14回	部首・音訓・熟語	雲津 英子
第15回	仮名遣い・送り仮名	雲津 英子
第16回	単位認定試験（筆記試験）	雲津 英子

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名1	スキルアップ！日本語力ー大学生のための日本語練習帳ー	教・出版社名1	東京書籍
教・著者名1	名古屋大学日本語研究会G K 7	教・I S B N 1	978-4-487-80364-4
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・I S B N 1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	文学への招待			担当者	雲津 英子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-CH-0-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	本講義のテーマは、詩・俳句・短歌・小説等の文学作品を読み鑑賞することを通して、作者が描いた人間の生き方を間接的に経験し、学生が自分自身の生き方を多様で豊かなものにしていくことである。 学生が、その過程において、文学に使われている語彙や巧みな言語表現、文学作品にみられる豊かな構想力を自己のものにし、自己の言語表現能力の向上をめざすとともに、文学作品の鑑賞を通して自分自身の生き方を豊かなものにしていくという態度を身につけることを到達目標とする。						
授業概要	詩・俳句・短歌・小説等の文学作品について、それぞれの作者や作品を生み出した歴史的背景、あるいは文化的背景に触れ、文学の発達のあらましやそれぞれの時代における文学の特質を学ぶ。また、文学作品を読み、印象に残った作家や作品について調べ発表したり、討論を行う。このような学修活動を通して、作者が描いた人間の生き方を間接的に経験し、自分自身の生き方を豊かなものにするとともに、文学作品を読み、鑑賞することの意義を理解する。さらに、学生の図書館活用能力の向上のため、図書館の活用方法についての学修を行う。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	レポート試験・受講態度などによって総合的に評価する。 レポート試験（70％）、発表・討論への参加（15％）、受講態度（15％）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題（提出物・レポート）は、授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントを配布するため、ファイルを用意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、大学図書館職員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、図書館の利用方法など、学生の読書活動、論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	大学図書館・県立図書館・市立図書館などで本を借りて、自宅においても積極的に読書をし、講義に臨むこと。 復習を行い、講義内容を十分に理解した上で、次回の講義を受講すること。予習および復習は、各2時間程度行うこと。						
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	文学とはなにか					雲津 英子	
第2回	図書館活用方法の理解					雲津 英子	
第3回	図書館活用の実践					雲津 英子	
第4回	日本文学史（1）-上代文学					雲津 英子	
第5回	日本文学史（2）-中古文学					雲津 英子	
第6回	日本文学史（3）-中世文学					雲津 英子	
第7回	日本文学史（4）-近世文学					雲津 英子	

第8回	日本文学史（5）-近代文学	雲津 英子
第9回	日本文学史（6）-現代文学	雲津 英子
第10回	夏目漱石・森鷗外・泉鏡花の作品（討論）	雲津 英子
第11回	芥川龍之介の作品（討論）	雲津 英子
第12回	宮沢賢治の作品（討論）	雲津 英子
第13回	小林多喜二・太宰治の作品	雲津 英子
第14回	詩・俳句・短歌（討論）	雲津 英子
第15回	まとめ	雲津 英子
第16回	単位認定試験（レポート試験）	雲津 英子

教科書

教・書籍名1	使用しない（必要に応じプリントを配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	日本文学概論	参・出版社名1	財団法人 放送大学教育振興会
参・著者名1	島内裕子	参・ISBN1	978-4-595-31342-4
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	美術の見方			担当者	前嶋 英輝		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-CH-0-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	学生は、「自分なりの美術の見方を確立する」ことをテーマとして、美術作品について広い知識を持ち、自分の言葉で語るができる能力を身につける。美術作品の「見方」の2つの可能性を考えてみる。1つめは、美術作品について客観的に知識として学習する見方であり、2つ目は、主観的に興味を持ち疑問を投げかけてみるような見方である。前者にはある程度の答えがあり、後者には答えは無い。この授業では、2つの見方を組み合わせて対話型鑑賞を行う。学生は、美術の見方を考えることで、自分の美術の見方ができるようになることを到達目標とする。						
授業概要	毎回映像資料による対話型鑑賞を行う。毎回、先行研究として示されている各時代の作品の属性や意味、時代背景などについて学問的な検討を行う。鑑賞の仕方を学ぶことが目的であるから、とにかく多くの美術作品にふれ、授業で紹介される作品について、自分なりに調べてみる事が大切である。自分で考えた疑問などについて、授業内の対話や毎回の小レポートの中で深める事が大切である。 ※実務経験のある教員による授業 この科目は、美術教育に関する実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	この科目では、芸術について理解し自分の視点で鑑賞できる能力を身につけることを目的としていることから、発言を含む毎回のレポート（60点）、到達目標達成度を見る期末試験（40%）の割合によって評価を行う。詳しい評価内容については、最初の授業で説明する。課題については、評価すると同時に、結果を伝えながら指導を行い、フィードバックして学習の積み重ねの資料とする。						
ループリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎回の小レポートについては、代表的なものを次回取り挙げてコメントしディスカッションの題材とすることでフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	事前に次回の授業内容を指示するので、美術作品について興味を持ち検索などで予習を行うことが必要である。また積極的に討論に参加するためにノートなどをもとに復習を行うことが重要である。対話型鑑賞では、自分の視点で意見を述べる事が重要である。できれば自主的に美術館を訪れることを薦める。期末試験では、到達目標の理解度を見るため十分な復習が必要である。 初回の授業で芸術作品についての調べ方や授業の進め方について詳しく説明する。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、美術教育に関する実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。 中学校・高等学校での美術科教員および短期大学での美術担当教員、全国公募展審査員、彫刻家				
事前学習・事後学習とその時間	美術に関する書籍やネットの情報を参照し、授業のテーマに沿った内容について予習復習をおこなう。美術館などに鑑賞に出かけることも重要である。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間が必要である。						
オフィスアワー	2号館6階の前嶋研究室において、毎週月曜日5時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	対話型鑑賞と美術の見方					前嶋英輝	

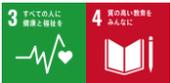
第2回	世界の美術館散歩	前嶋英輝
第3回	美術教育と人間形成・現代美術	前嶋英輝
第4回	古代オリエント	前嶋英輝
第5回	ギリシャ・ローマ・中世	前嶋英輝
第6回	ルネサンス・バロック・ロココ	前嶋英輝
第7回	新古典主義・印象派	前嶋英輝
第8回	後期印象派以降・セザンヌとキュビズム	前嶋英輝
第9回	インド美術とイスラム美術・東南アジアの美術	前嶋英輝
第10回	仏教美術の誕生とシルクロードの美術	前嶋英輝
第11回	飛鳥～平安・韓国美術の影響	前嶋英輝
第12回	鎌倉～室町・仏教彫刻・絵巻物・水墨画	前嶋英輝
第13回	安土桃山・障屏画	前嶋英輝
第14回	江戸・浮世絵・町人の美術	前嶋英輝
第15回	明治以降の美術・西洋美術の影響	前嶋英輝
第16回	単位認定試験	前嶋英輝

教科書

教・書籍名1	適宜プリントなどを配布する。予習復習も配布プリントによって行う。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	テキスト名：絵画をいかに味わうか	参・出版社名1	平凡社
参・著者名1	著者：ヴィクトル・I・ストイキツァ	参・ISBN1	978-4582206371
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	生涯スポーツ論 スポ社			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-CH-0-005		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	『スポーツ活動を取り入れた生活』その重要性は、年々高まってきていると言える。健康の維持・増進、老化の防止、心の健康、健全な発育・発達、生きがいづくり、さらにはスポーツを通じての教育・人間形成など、その意義や価値はますます高くなってきている。しかし、スポーツに親しむ人々の数は、著しく増加しているとは言い難く、また望ましいあり様でスポーツが実践されているばかりではない状況も散見される。そこで学生は、多くの人々が生涯にわたってスポーツに親しみ、望ましいスポーツへの関わり方ができるために必要な知識を学び、各々のおかれた環境や状況において、各人の目標に沿ったスポーツ実践が行えるための知識を得ることができることを到達目標とする。						
授業概要	結果の偏重や勝利至上主義、技能偏重、運動能力偏重といった往々にしてスポーツに携わる人達が陥りやすい傾向を脱し、各人の目的に応じて、そして各々の能力に応じたスポーツの実践が可能になり、取り組みの効果が着実に得られる、合理的な実施方法を学ぶ。それによって初めて、生涯にわたってスポーツに親しむ人々が増えてくるであろう。障害者を含めた、様々な対象者にとってのスポーツの意義について理解する。現代の社会におけるスポーツの持つ幅広い役割りと機能、その必要性や価値について認識を深め、スポーツを専門とする人材になっていくための方向づけと動機づけを行う。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業中のレポート提出で30%、最終試験で70%にて評価する。 評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題や試験を課した授業の次の回の授業にて、出来栄や内容のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	健康運動実践指導者資格認定試験受験資格必須科目（2009年度生まで適用） 毎回の配布資料と授業内容にもとづき、その回の復習と次回の予習を行うこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業時において、次回の授業内容に応じて、各自のスポーツ経験に基づく問題を見出す指示を行う。これによって、各自経験の見直しや情報収集を行う。授業後は、授業内容を受けて、望ましい在り方について考察し、時にレポートとして提出する。 予習1コマ・復習1コマをそれぞれ行うこと。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室にて						
授業計画						担当者	
第1回	スポーツの本来の姿					竹内研	
第2回	スポーツ感の変遷					竹内研	
第3回	スポーツする身体					竹内研	
第4回	運動・スポーツとメンタルヘルス					竹内研	
第5回	スポーツの技術					竹内研	
第6回	体力について					竹内研	
第7回	心とスポーツ					竹内研	
第8回	発育・発達とスポーツ					竹内研	

第9回	現代社会とスポーツ	竹内研
第10回	スポーツの上達法	竹内研
第11回	健康のためのスポーツ	竹内研
第12回	スポーツと教育	竹内研
第13回	スポーツと経済	竹内研
第14回	スポーツ動作の分析	竹内研
第15回	競技スポーツと生涯スポーツ	竹内研
第16回	試験	竹内研

教科書

教・書籍名1	文化としてのスポーツ	教・出版社名1	ベースボール・マガジン社
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2	生涯スポーツトレーナー教本	教・出版社名2	公益財団法人日本健康スポーツ連盟
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	生涯スポーツ実習（スポ社A）			担当者	枝松 三佳		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-CH-0-006		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	余暇時間の増加に対応すべく、スポーツを有効に活用して、生涯をとおして生活の質を向上させることのできる技術について学び、自ら実践できる能力を身につける。社会に出た後も、場所を問わずに気軽に楽しめる技術と試合ができるルールを習得することができる。						
授業概要	従来の競技主体のスポーツ活動から、各人が自らの主体的条件にあわせ、かつ周囲の環境条件も考慮したスポーツ種目を実践する。また、健康を保持増進させるための運動方法について体力医学、運動生理学などの立場から実践的に教授する。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	受講態度（50％）、課題（50％）の成就結果を合わせて評価を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題はスポーツ実施時のルールや注意点について、講義中の実践を通して評価する。課題に対するフィードバックは講義後半で実践を通して実施する。						
履修条件・注意事項	健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 （公財）日本スポーツ協会公認スポーツプログラマー受験資格必須科目 スポーツ実習であることから、運動のできる服装（ジャージ等）と体育館シューズを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	スポーツ実施時のルールや注意点について予習、復習すること。実習に関わる技術に関しては講義内にて適宜指示する。						
オフィスアワー	非常勤講師なので、講義終了後に対応するものとする。						
授業計画						担当者	
第1回	ウォーミングアップ					枝松 三佳	
第2回	クーリングダウン					枝松 三佳	
第3回	準備運動の重要性とその方法					枝松 三佳	
第4回	ストレッチの意義と効果					枝松 三佳	
第5回	ストレッチ指導実習					枝松 三佳	
第6回	ウォーキングの特性と基礎技術の習得					枝松 三佳	
第7回	ウォーキング：プログラム作成と実施上の注意点					枝松 三佳	
第8回	ウォーキング：運動強度調節					枝松 三佳	
第9回	ジョギングの特性と基礎技術習得					枝松 三佳	
第10回	ジョギング：プログラム作成と実施上の注意点					枝松 三佳	
第11回	ジョギング：運動強度特性					枝松 三佳	
第12回	健康運動・軽運動としての運動ゲーム					枝松 三佳	
第13回	健康運動・軽運動としてのバドミントン					枝松 三佳	
第14回	健康運動・軽運動としてのフットサル					枝松 三佳	
第15回	健康運動・軽運動としてのバレーボール					枝松 三佳	

第16回			
教科書			
教・書籍名1	使用しない(必要に応じプリントを配布する)	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	生涯スポーツと運動の科学新版	参・出版社名1	市村出版
参・著者名1	侘美靖, 花井篤子	参・ISBN1	9784902109405
参・書籍名2	生涯スポーツの理論と実際改訂版 豊かなスポーツライフを実現するために	参・出版社名2	大修館書店
参・著者名2	日下裕弘, 加納弘二	参・ISBN2	9784469266986

授業科目名	生涯スポーツ実習（スポ社B）			担当者	國佐 葉		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-CH-0-006		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	余暇時間の増加に対応すべく、スポーツを有効に活用して、生涯をとおして生活の質を向上させることのできる技術について学び、自ら実践できる能力を身につける。社会に出た後も、場所を問わずに気軽に楽しめる技術と試合ができるルールを習得することができる。						
授業概要	従来の競技主体のスポーツ活動から、各人が自らの主体的条件にあわせ、かつ周囲の環境条件も考慮したスポーツ種目を実践する。また、健康を保持増進させるための運動方法について体力医学、運動生理学などの立場から実践的に教授する。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	受講態度（50％）、課題（50％）の成就結果を合わせて評価を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題はスポーツ実施時のルールや注意点について、講義中の実践を通して評価する。課題に対するフィードバックは講義後半で実践を通して実施する。						
履修条件・注意事項	健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 （公財）日本スポーツ協会公認スポーツプログラマー受験資格必須科目 スポーツ実習であることから、運動のできる服装（ジャージ等）と体育館シューズを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	スポーツ実施時のルールや注意点について予習、復習すること。実習に関わる技術に関しては講義内にて適宜指示する。						
オフィスアワー	非常勤講師なので、講義終了後に対応するものとする。						
授業計画						担当者	
第1回	ウォーミングアップ					國佐 葉	
第2回	クーリングダウン					國佐 葉	
第3回	準備運動の重要性とその方法					國佐 葉	
第4回	ストレッチの意義と効果					國佐 葉	
第5回	ストレッチ指導実習					國佐 葉	
第6回	ウォーキングの特性と基礎技術の習得					國佐 葉	
第7回	ウォーキング：プログラム作成と実施上の注意点					國佐 葉	
第8回	ウォーキング：運動強度調節					國佐 葉	
第9回	ジョギングの特性と基礎技術習得					國佐 葉	
第10回	ジョギング：プログラム作成と実施上の注意点					國佐 葉	
第11回	ジョギング：運動強度特性					國佐 葉	
第12回	健康運動・軽運動としての運動ゲーム					國佐 葉	
第13回	健康運動・軽運動としてのバドミントン					國佐 葉	
第14回	健康運動・軽運動としてのフットサル					國佐 葉	
第15回	健康運動・軽運動としてのバレーボール					國佐 葉	

第16回			
教科書			
教・書籍名1	使用しない(必要に応じプリントを配布する)	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	哲学			担当者	山本 敦之		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-GA-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	テーマは「歴史の中の哲学」である。哲学という言葉は無造作に使われることが多い。しかし本来哲学は、古代ギリシャに端を発する一つの歴史上の、極めて重要な知的伝統である。そしてそれはある時期まで学問全体を指し、狭義の哲学は「第一哲学」と呼ばれたりした。学生は、各時代の代表的哲学者の思想を通じて、文明の中での学問と狭義の哲学のありようの歴史を知ることになる。これによって学生は、世界と自分について、根底から物事を考える能力を身につけることができる。						
授業概要	古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、なるべく準備すること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題については交替で発表をおこなってもらい、ほかの学生からのコメントを求め、これについて教員が論評する。試験については返却時に教員がコメントを附す。						
履修条件・注意事項	数学や論理学、文芸や芸術に対する関心、知的好奇心。毎回プリントを配布するので、ファイルブックを用意しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること(2時間程度)。						
オフィスアワー	月曜5限257研究室						
授業計画						担当者	
第1回	1. 「哲学」という言葉の歴史と哲学の始まり					山本	
第2回	初期の「哲学者」たち					山本	
第3回	エレア派とその影響					山本	
第4回	ソクラテスとその影響					山本	
第5回	プラトン					山本	
第6回	アリストテレスの哲学					山本	
第7回	アリストテレスの第一哲学					山本	
第8回	ヘレニズム世界の哲学とローマ帝国の思想状況					山本	
第9回	西欧文明の成立					山本	
第10回	盛期中世の学問状況と14世紀の大変革					山本	
第11回	ルネサンスと科学革命					山本	
第12回	科学革命と政治哲学					山本	

第13回	19世紀における諸科学の成立と哲学	山本	
第14回	科学的心理学の成立と哲学の変容	山本	
第15回	総括	山本	
第16回	定期試験	山本	
教科書			
教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	西洋哲学史〈古代から中世へ〉	参・出版社名1	岩波新書
参・著者名1	熊野純彦	参・ISBN1	9784004310075
参・書籍名2	西洋哲学史〈近代から現代へ〉	参・出版社名2	岩波新書
参・著者名2	9784004310082	参・ISBN2	

授業科目名	哲学			担当者	山本 敦之		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-GA-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	テーマは「歴史の中の哲学」である。哲学という言葉は無造作に使われることが多い。しかし本来哲学は、古代ギリシャに端を発する一つの歴史上の、極めて重要な知的伝統である。そしてそれはある時期まで学問全体を指し、狭義の哲学は「第一哲学」と呼ばれたりした。学生は、各時代の代表的哲学者の思想を通じて、文明の中での学問と狭義の哲学のありようの歴史を知ることになる。これによって学生は、世界と自分について、根底から物事を考える能力を身につけることができる。						
授業概要	古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、なるべく準備すること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題については交替で発表をおこなってもらい、ほかの学生からのコメントを求め、これについて教員が論評する。試験については返却時に教員がコメントを附す。						
履修条件・注意事項	数学や論理学、文芸や芸術に対する関心、知的好奇心。毎回プリントを配布するので、ファイルブックを用意しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること(2時間程度)。						
オフィスアワー	月曜5限257研究室						
授業計画						担当者	
第1回	1. 「哲学」という言葉の歴史と哲学の始まり					山本	
第2回	初期の「哲学者」たち					山本	
第3回	エレア派とその影響					山本	
第4回	ソクラテスとその影響					山本	
第5回	プラトン					山本	
第6回	アリストテレスの哲学					山本	
第7回	アリストテレスの第一哲学					山本	
第8回	ヘレニズム世界の哲学とローマ帝国の思想状況					山本	
第9回	西欧文明の成立					山本	
第10回	盛期中世の学問状況と14世紀の大変革					山本	
第11回	ルネサンスと科学革命					山本	
第12回	科学革命と政治哲学					山本	

第13回	19世紀における諸科学の成立と哲学	山本	
第14回	科学的心理学の成立と哲学の変容	山本	
第15回	総括	山本	
第16回	定期試験	山本	
教科書			
教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	西洋哲学史〈古代から中世へ〉	参・出版社名1	岩波新書
参・著者名1	熊野純彦	参・ISBN1	9784004310075
参・書籍名2	西洋哲学史〈近代から現代へ〉	参・出版社名2	岩波新書
参・著者名2	9784004310082	参・ISBN2	

授業科目名	宗教学			担当者	山本 敦之		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-GA-0-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマは「世界宗教史」である。学生は講義を通じて、現生人類の誕生から新石器時代、文明の誕生を経て、ユーラシア西部や日本にどのような宗教が存在してきたか、そしてそれらが現代の我々にどのような影響を及ぼしているのかを知る。このことを通じ学生は、世界の多様な文化を理解することができる。これが到達目標である。						
授業概要	後期旧石器時代・中石器時代・新石器時代・古代諸文明(メソポタミア、エジプト、カナアン、ギリシャなど)という段階を経て一神教(ユダヤ教、キリスト教、イスラム教)の成立までの流れを追い、そしてそれらの一神教の展開を概観する。これは主としてユーラシア大陸西半部の歴史上の諸宗教の紹介という形をとるが、文字資料のみならず画像などの視覚的情報を多用して、縁遠い時空に生きた人々の精神世界への理解を促したい。また、日本の宗教という話題にも、世界史的観点から言及する。						
アクティブラーニングの 内容	ディスカッション						
評価方法と割合	評価方法 小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、なるべく準備すること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	課題については交替で発表をおこなってもらい、ほかの学生からのコメントを求め、これについて教員が論評する。試験については返却時に教員がコメントを附す。						
履修条件・注意事項	地理歴史の基礎知識。毎回プリントを配布するので、ファイルブックを用意しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ の時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること(2時間程度)。これを次回授業で確認する。						
オフィスアワー	月曜5限257研究室						
授業計画						担当者	
第1回	人類史と宗教：旧石器時代から新石器時代へ					山本	
第2回	日本の縄文時代、弥生時代、古墳時代の宗教					山本	
第3回	文明誕生：メソポタミア					山本	
第4回	エジプト文明					山本	
第5回	古代ギリシャ文明					山本	
第6回	ユダヤ教の成立					山本	
第7回	ヘレニズム期の宗教					山本	
第8回	キリスト教の成立と展開					山本	
第9回	ローマカトリック					山本	
第10回	初期のイスラーム					山本	
第11回	宗教改革とその後					山本	
第12回	日本宗教史：古代・中世・近世					山本	
第13回	現代日本の宗教事情					山本	
第14回	現代世界の宗教事情					山本	

第15回	総括	山本
第16回	定期試験	山本
教科書		
教・書籍名1	配布資料	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	倫理学			担当者	山本 敦之		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-GA-0-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	主題は「暇と退屈」である。つまり、ヒトが暇であるという事態と退屈であるという事態である。我々にとって身近な「暇と退屈」を分析する。暇はあるが退屈はしないという、よき人生はどのようなものか考える。そして学生各位は暇を持って余すことのない、自分固有のよき人生への指針を獲得することができる。						
授業概要	定住生活を開始して以来、人類とともにあり、個人や集団に破滅をもたらしたりすることもある「退屈」について、国分功一郎『暇と退屈の倫理学』と一緒に読みながら、注釈と批判を加え、ともに考えてゆく。その過程でパスカルやニーチェ、ラッセルやハイデッガー、ホップズやルソー、マルクスやアーレントといった西欧思想の古典をこのテーマに関わる範囲で読むことになる。また、定住革命論やユクスキュルの環世界論など、隣接するさまざまな領域の知見を学ぶ。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、なるべく準備すること。						
履修条件・注意事項	「気分」のようなとらえにくいものについて、具体例に即して考える思考力、言語能力、忍耐力。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、教科書や配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること(2時間程度)。これを次回授業で確認する。						
オフィスアワー	月曜5限257研究室						
授業計画						担当者	
第1回	「好きなこと」とは？					山本	
第2回	パスカルとニーチェの退屈論					山本	
第3回	暇と退屈の原理論					山本	
第4回	定住革命について					山本	
第5回	暇と退屈の系譜学					山本	
第6回	暇と退屈の経済史					山本	
第7回	ホップズ、ルソー、マルクス					山本	
第8回	暇と退屈の疎外論					山本	
第9回	暇と退屈の哲学					山本	
第10回	環世界論					山本	
第11回	暇と退屈の人間学					山本	
第12回	ハイデッガー					山本	
第13回	暇と退屈の倫理学					山本	
第14回	スピノザ					山本	
第15回	総括					山本	
第16回	定期試験					山本	

教科書			
教・書籍名1	暇と退屈の倫理学	教・出版社名1	太田出版
教・著者名1	國分功一郎	教・ISBN1	978-4-7783-1437-8
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	心理学（経営・スポ・心理）			担当者	津川 秀夫、藤原 直子、土居 正人、 橋本 翠、村上 勝典、若森 孝彰、森 井 康幸、宇都宮 真輝		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-GA-0-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	心理学とはどんな学問かを知ることがテーマである。心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。学生は、人が生活している環境からいかに情報を取り入れ、蓄積し、利用するのか、あるいは、いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して、心理学のおもしろさに触れることができる。						
授業概要	心理学は知覚、認知、発達、社会、パーソナリティーなどさまざまな領域において様々な研究が行われている。本講義では、いくつかの領域における研究対象、方法、得られた知見等の解説をオムニバス形式で行う。						
アクティブラーニングの 内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	小テスト(50%)と定期テスト(50%)の成績により評価する。 ただし、受講態度の悪い学生（私語、飲食、内職等・・・）については、この限りではない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	小テストについては、授業中にフィードバックするので、定期試験に向けて、見直すこと。						
履修条件・注意事項	テキストは使用しないので、集中して講義に参加すること。 授業担当者ごとに、2回に1回くらいの割合で小テストを行うので、特に復習には力を入れること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ の時間	基本的には、講義内で配布された資料をもとに復習すること。（2時間） テキストは使用しないが、一般的な心理学の本で該当箇所を対照させながら学ぶことが重要である（2時間）。体験的に学びを深めたい学生には、心理学実験への参加・協力をお願いする。						
オフィスアワー	森井：月4 津川：月4 藤原：月2 橋本：月5 宇都宮：火4 土居：月2 村上：木3 各教員研究室						
授業計画						担当者	
第1回	(1) オリエンテーション					全員	
第2回	(2) 外界を探るころの働き					橋本	
第3回	(3) 感覚と知覚					橋本	
第4回	(4) 記憶のふしぎ					森井	
第5回	(5) 本能と学習					森井	
第6回	(6) 性格とは					土居	
第7回	(7) 心理検査について					土居	
第8回	(8) 乳幼児期～青年期の発達					宇都宮	

第9回	(9) 青年期の人間関係と心理	宇都宮	
第10回	(10) 対人認知	村上	
第11回	(11) 態度変容	村上	
第12回	(12) ストレス	藤原	
第13回	(13) ストレスと考え方	藤原	
第14回	(14) カウンセリング	津川	
第15回	(15) カウンセリングの実際	津川	
第16回	(16) 定期試験(筆記)	全員	
教科書			
教・書籍名1	教科書は使用しない。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	心理学 (New Liberal Arts Selection)	参・出版社名1	有斐閣
参・著者名1	無藤・遠藤・玉瀬・森	参・ISBN1	978-4641053694
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	多文化理解			担当者	末吉 秀二		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-GA-0-005		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	本講義は「世界の文化の多様性を理解する」をテーマに、私たち日本人にはあまり馴染みのないアラブ・イスラーム社会をとりあげる。具体的には、①イスラームの理解に不可欠なアラビア語の基礎、②西アジア史、③イスラーム文化、④近・現代のアラブ社会について理解を深める。その結果、世界の文化の多様性について興味をもてるようになる。						
授業概要	世界の多文化を理解するためには、まず文化相対主義（Cultural relativism）の立場、すなわち異なる文化の間には優劣はなく、それぞれの文化の価値を認めようとする視点が重要である。本講義は、世界の関心が高く、また世界の安定にとってきわめて重要な位置にある中東地域を例に、古代オリエントから現代までの中東の歴史、アラビア語の基礎、イスラームの意味するところから、アラブ・イスラーム文化を理解するとともに、世界の文化の多様性を理解するための端緒とする。						
アクティブラーニングの 内容							
評価方法と割合	到達目標を計るため、試験（60％）、授業態度/積極性（20％）、課題レポート（20％）により総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	課題レポートの返却時に講評する。						
履修条件・注意事項							
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ の時間	予習として、日ごろからアラブ社会の情勢に関心をもつこと、復習として、分からないことは授業で質問し、分からないことをそのままにしないこと。						
オフィスアワー	月曜日・金曜日（3限、5限）						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					末吉秀二	
第2回	古代オリエント					末吉秀二	
第3回	アラブ・イスラーム世界の形成					末吉秀二	
第4回	オスマン帝国とアラブ					末吉秀二	
第5回	近・現代のアラブ社会					末吉秀二	
第6回	アラビア語の基礎（文字と発音）					末吉秀二	
第7回	アラビア語の基礎（文法）					末吉秀二	
第8回	預言者ムハンマド					末吉秀二	
第9回	コーラン					末吉秀二	
第10回	イスラーム法（シャリーア）					末吉秀二	
第11回	イスラーム文化（衣・食・住）					末吉秀二	
第12回	イスラーム文化（スーク/メディナ）					末吉秀二	
第13回	パレスチナ問題					末吉秀二	
第14回	事例研究（ヨルダン）					末吉秀二	
第15回	多文化理解（論文輪読）					末吉秀二	

第16回	単位認定試験	末吉秀二
教科書		
教・書籍名1		教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	イスラーム文化	参・出版社名1 岩波文庫
参・著者名1	井筒俊彦	参・ISBN1 4-00-331851-X
参・書籍名2	イスラーム世界の論じ方	参・出版社名2 中央公論社
参・著者名2	池内 恵	参・ISBN2 978-412-003990-4

授業科目名	多文化理解			担当者	末吉 秀二		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-GA-0-005		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考		DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	本講義は「世界の文化の多様性を理解する」をテーマに、私たち日本人にはあまり馴染みのないアラブ・イスラーム社会をとりあげる。具体的には、①イスラームの理解に不可欠なアラビア語の基礎、②西アジア史、③イスラーム文化、④近・現代のアラブ社会について理解を深める。その結果、世界の文化の多様性について興味をもてるようになる。						
授業概要	世界の多文化を理解するためには、まず文化相対主義（Cultural relativism）の立場、すなわち異なる文化の間には優劣はなく、それぞれの文化の価値を認めようとする視点が重要である。本講義は、世界の関心が高く、また世界の安定にとってきわめて重要な位置にある中東地域を例に、古代オリエントから現代までの中東の歴史、アラビア語の基礎、イスラームの意味するところから、アラブ・イスラーム文化を理解するとともに、世界の文化の多様性を理解するための端緒とする。						
アクティブラーニングの 内容							
評価方法と割合	到達目標を計るため、試験（60％）、授業態度/積極性（20％）、課題レポート（20％）により総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	課題レポートの返却時に講評する。						
履修条件・注意事項							
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ の時間	予習として、日ごろからアラブ社会の情勢に関心をもつこと、復習として、分からないことは授業で質問し、分からないことをそのままにしないこと。						
オフィスアワー	月曜日・金曜日（3限、5限）						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					末吉秀二	
第2回	古代オリエント					末吉秀二	
第3回	アラブ・イスラーム世界の形成					末吉秀二	
第4回	オスマン帝国とアラブ					末吉秀二	
第5回	近・現代のアラブ社会					末吉秀二	
第6回	アラビア語の基礎（文字と発音）					末吉秀二	
第7回	アラビア語の基礎（文法）					末吉秀二	
第8回	預言者ムハンマド					末吉秀二	
第9回	コーラン					末吉秀二	
第10回	イスラーム法（シャリーア）					末吉秀二	
第11回	イスラーム文化（衣・食・住）					末吉秀二	
第12回	イスラーム文化（スーク/メディナ）					末吉秀二	
第13回	パレスチナ問題					末吉秀二	
第14回	事例研究（ヨルダン）					末吉秀二	
第15回	多文化理解（論文輪読）					末吉秀二	

第16回	単位認定試験	末吉秀二	
教科書			
教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	イスラーム文化	参・出版社名1	岩波文庫
参・著者名1	井筒俊彦	参・ISBN1	4-00-331851-X
参・書籍名2	イスラーム世界の論じ方	参・出版社名2	中央公論社
参・著者名2	池内 恵	参・ISBN2	978-412-003990-4

授業科目名	日本国憲法			担当者	入江 祥子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-SI-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと 論理的な思考	◎	DP4. コミュニケー ション・表現力	△
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	<p><到達目標> 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べる ことができることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。</p> <p><テーマ> 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同 時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。</p>						
授業概要	<p>法の初学者のために、広く「法」の解説から始める。さらに「憲法」の定義やその特質について学んだうえで、 「日本国憲法」についてその成立背景から基本原理および統治機構について、判例・学説を交え講義を行う。特に 「人権」については、その性質および享有主体性等個々の論点にまで立ち入った解説を行い、正しい人権意識を身 につけることを意識する。また、統治機構については、政治的時事問題を交え、日本の政治の仕組みおよび問題点 について説明し、主権者として必要な正しい知識を取得できるよう講義を行う。</p> <p>* 実務経験のある教員による授業 本授業は法律に関するスペシャリストである司法書士の方による講義です。</p>						
アクティブラーニングの 内容							
評価方法と割合	受講態度及び取組姿勢30%、各講義の最後に実施する理解度を問う小テストの評価30%、定期試験40%の配 分で基本的評価を行う。授業態度については、私語、遅刻、途中退室等についても考慮する。小テストが優秀であ れば加点する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	国内外で起きている様々な社会問題を自らとらえ、それらの問題について自発的に考え、解決策を模索することを 習慣づける。						
履修条件・注意事項	履修条件は特にありませんが、日本国内外の時事問題を情報収集するよう心がけてください。 注意事項としては、他の学生の受講に迷惑になること（特に私語、授業途中の許可のない入退室等）は厳に慎んで ください。講師の指示に従わない場合には受講を認めないこともありますので、ご注意ください。 出席状況の把握は各自で行ってください。 原則として、配布物の再配布は行いません。						
実務経験のある教員	該当する	内容	司法書士				
事前学習・事後学習とそ の時間	予習としては、授業計画のテーマに沿って、インターネットや書籍を利用した下調べを行っていただきたい。 本講義は復習が重要です。授業で学んだ知識を定着させ、それを踏まえて自己の考えを構築できるよう発展させる						

	こと。		
オフィスアワー	授業時間前後に講義室又は非常勤講師室にて質問等を受けます。		
授業計画			担当者
第1回	なぜ「憲法」を学ぶ必要があるか	入江 祥子	
第2回	法とは何か、法はなぜ必要か、法と道徳の違い	入江 祥子	
第3回	法源とは何か、法の種類	入江 祥子	
第4回	憲法とは何か、立憲主義	入江 祥子	
第5回	憲法の成立、大日本帝国憲法と日本国憲法	入江 祥子	
第6回	国民主権の意味、その役割	入江 祥子	
第7回	戦争の放棄、日本国憲法第9条	入江 祥子	
第8回	人権とは何か、その役割	入江 祥子	
第9回	人権の効果	入江 祥子	
第10回	人権の限界、公共の福祉	入江 祥子	
第11回	統治制度について、権力分立	入江 祥子	
第12回	立法権、国会の役割	入江 祥子	
第13回	行政権、内閣の役割	入江 祥子	
第14回	司法権、裁判所の役割	入江 祥子	
第15回	地方自治について	入江 祥子	
第16回	筆記試験	入江 祥子	
教科書			
教・書籍名1	各回ごとに配布物を配り、それによって授業を進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	六法	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本国憲法			担当者	入江 祥子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-SI-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと 論理的な思考	◎	DP4. コミュニケー ション・表現力	△
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	<p><到達目標> 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることができることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。</p> <p><テーマ> 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。</p>						
授業概要	<p>法の初学者のために、広く「法」の解説から始める。さらに「憲法」の定義やその特質について学んだうえで、「日本国憲法」についてその成立背景から基本原理および統治機構について、判例・学説を交え講義を行う。特に「人権」については、その性質および享有主体性等個々の論点にまで立ち入った解説を行い、正しい人権意識を身につけることを意識する。また、統治機構については、政治的時事問題を交え、日本の政治の仕組みおよび問題点について説明し、主権者として必要な正しい知識を取得できるよう講義を行う。</p> <p>* 実務経験のある教員による授業 本授業は法律に関するスペシャリストである司法書士の方による講義です。</p>						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	受講態度及び取組姿勢30%、各講義の最後に実施する理解度を問う小テストの評価30%、定期試験40%の配分で基本的評価を行う。授業態度については、私語、遅刻、途中退室等についても考慮する。小テストが優秀であれば加点する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	国内外で起きている様々な社会問題を自らとらえ、それらの問題について自発的に考え、解決策を模索することを習慣づける。						
履修条件・注意事項	履修条件は特にありませんが、日本国内外の時事問題を情報収集するよう心がけてください。 注意事項としては、他の学生の受講に迷惑になること（特に私語、授業途中の許可のない入退室等）は厳に慎んでください。講師の指示に従わない場合には受講を認めないこともありますので、ご注意ください。 出席状況の把握は各自で行ってください。 原則として、配布物の再配布は行いません。						
実務経験のある教員	該当する	内容	司法書士				
事前学習・事後学習とその時間	予習としては、授業計画のテーマに沿って、インターネットや書籍を利用した下調べを行っていただきたい。本講義は復習が重要です。授業で学んだ知識を定着させ、それを踏まえて自己の考えを構築できるよう発展させる						

	こと。		
オフィスアワー	授業時間前後に講義室又は非常勤講師室にて質問等を受けます。		
授業計画			担当者
第1回	なぜ「憲法」を学ぶ必要があるか	入江 祥子	
第2回	法とは何か、法はなぜ必要か、法と道徳の違い	入江 祥子	
第3回	法源とは何か、法の種類	入江 祥子	
第4回	憲法とは何か、立憲主義	入江 祥子	
第5回	憲法の成立、大日本帝国憲法と日本国憲法	入江 祥子	
第6回	国民主権の意味、その役割	入江 祥子	
第7回	戦争の放棄、日本国憲法第9条	入江 祥子	
第8回	人権とは何か、その役割	入江 祥子	
第9回	人権の効果	入江 祥子	
第10回	人権の限界、公共の福祉	入江 祥子	
第11回	統治制度について、権力分立	入江 祥子	
第12回	立法権、国会の役割	入江 祥子	
第13回	行政権、内閣の役割	入江 祥子	
第14回	司法権、裁判所の役割	入江 祥子	
第15回	地方自治について	入江 祥子	
第16回	筆記試験	入江 祥子	
教科書			
教・書籍名1	各回ごとに配布物を配り、それによって授業を進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	六法	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	民法			担当者	生駒 正文		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-SI-0-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	<p>学生は日常生活の各場面で想定される法律の動きを知り、何がただしいのかという価値判断が求められる局面において、自ら考えて選ぶリーガル・マインドを獲得できる。</p> <p>具体的には法の意義と、社会における法の役割を理解、実際の事件の中で、法がいかに問題解決のために機能しているか関心を持つこと、課題を法的な観点から検討できること、自分の考えを整理して、相手に論理的に説明する能力を身に着けることが個別目標です。</p>						
授業概要	<p>我々の日常生活は、直接的・間接的に法律と関係しています。例えば、物の購入、家・金銭の貸し借り、結婚、親子関係、相続等、法律と無関係ではありません。我々の日常生活を規律する民法の基礎の基礎くらい知っておいた方が無難でしょう。</p> <p>本講義では、日常生活の場面で想定される事態について、どのように民法がかかわるか考えます。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	試験70% 授業態度・意欲・小テスト30%の評価						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題、小テストは、後日添削し返却します。理解が不足の場合、再提出。						
履修条件・注意事項	教科書持参、ノートをとること、考えることを原則に授業にのぞむこと						
実務経験のある教員	該当する	内容	大阪簡易裁判所の民事調停委員として各案件の処理を行う（20年）				
事前学習・事後学習とその時間	授業計画ごとに教科書を復習・予習しておくこと（2時間）						
オフィスアワー	12:30から13:20 14号館6階（生駒研究室）						
授業計画							担当者
第1回	(1) 民法学の基礎知識（総則） ①民法とは何か、権利義務関係の基本となる能力					生駒正文	
第2回	(2) 民法学の基礎知識（総則） ②制限行為能力者制度					生駒正文	
第3回	(3) 民法学の基礎知識（総則） ③法人とは、物とは					生駒正文	
第4回	(4) 民法学の基礎知識（総則） ④意思表示					生駒正文	
第5回	(5) 民法学の基礎知識（総則） ⑤代理、時効					生駒正文	
第6回	(6) 民法学の基礎知識（財産法） ⑥物権と債権、物権の種類、物権法定主義					生駒正文	
第7回	(7) 民法学の基礎知識 ⑦物権の効力と物権変動（動産・不動産）					生駒正文	
第8回	(8) 民法学の基礎知識（財産法） ⑧即時取得、担保とは何か					生駒正文	
第9回	(9) 民法学の基礎知識（財産法） ⑨一般的な不法行為					生駒正文	
第10回	(10) 民法学の基礎知識（財産法） ⑩特殊な不法行為 賃貸借					生駒正文	
第11回	(11) (3) 家族法の基礎知識 ⑪親族、婚姻、夫婦関係、離婚					生駒正文	
第12回	(12) 家族法の基礎知識 ⑫親子関係、親権、相続					生駒正文	
第13回	(13) 家族法の基礎知識 ⑬遺言					生駒正文	

第14回	(14) 家族法の基礎知識 ㊤遺留分	生駒正文
第15回	(15) その他 ㊤割賦販売、訪問販売	生駒正文
第16回	(16) 定期試験	生駒正文
教科書		
教・書籍名1	ガイドブック法学	教・出版社名1 嵯峨野書院
教・著者名1	生駒正文・高田富男編著	教・ISBN1 978-4-7823-0570-6
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	経済学			担当者	張 秉煥		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-SI-0-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／5. ジェンダー平等を実現しよう／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう 						
到達目標	重要な経済問題について科学的にそして論理的に理解するための基本的スキルを修得することができる。						
授業概要	すべての社会が直面する根本的な経済問題は希少性である。経済学は、社会がその希少な資源をいかに管理するかを研究する学問である。資源の配分は、膨大な数の家計と企業の行動を総合した結果として決定される。講座の前半は、個別の家計や企業が様々な決定をどのように行うか、それらが市場でどのように相互作用しあうのかを分析する。後半では、経済全体に影響するような様々な要因や傾向を考察する。なお、所得分配や所得格差問題、所得機会の変容とそのインプリケーションについて検討する。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	「定期筆記試験（70%）＋途中の形成的評価（30%）」をもとに合計100点満点で採点し、60点以上を合格とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	途中の形成的評価のために実施する「課題や試験」へのフィードバックは、授業中の総括的単位で行うことによって、個別学生に学習方法への含意や定期筆記試験への対策に資するものとする						
履修条件・注意事項							
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講座の独自教材（ワークブック兼用）に基づき、自主的な事前学習を行って授業を受けること。						
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	講座の概要や評価方法、教材の構成、主な内容と使い方など。科学的方法論としての経済モデル					張秉煥	
第2回	経済学の主要原理（1）トレードオフ、機会費用、限界分析、インセンティブ等					張秉煥	
第3回	経済学の主要原理（2）市場経済、市場の失敗、GDP、インフレなど（現実の事例を含む）					張秉煥	
第4回	市場と競争（市場構造）、需要・供給の仕組み、両面市場					張秉煥	
第5回	市場構造と社会的厚生、完全競争市場、現実の経済問題への応用（インセンティブ）					張秉煥	
第6回	独占市場の特性と参入障壁の源泉、現実の経済問題への応用、小テスト1					張秉煥	
第7回	独占的市場と寡占市場の特性、囚人のジレンマモデルと現実の経済問題への応用					張秉煥	
第8回	現実における様々な価格類型、価格弾力性と価格差別モデル、現実の経済問題への応用					張秉煥	
第9回	価格規制の基礎モデル、最低賃金制度による労働市場への影響分析、外部効果の諸例					張秉煥	
第10回	公共財の諸例、フリーライダー問題、共有地の悲劇モデルと現実への応用、小テスト2					張秉煥	
第11回	情報の非対称性問題、モラル・ハザード、逆選択、現実の経済問題への応用					張秉煥	
第12回	経済循環図、国民所得の測定と国際比較、現実の経済問題への応用					張秉煥	
第13回	経済成長と公共政策、72の法則とその応用、景気変動					張秉煥	
第14回	所得分布と所得格差、所得機会の変容（定量的分析を踏まえて）、小テスト3					張秉煥	
第15回	経済政策の類型と具体的手法、経済安定化政策の逆効果（ジレンマ）					張秉煥	
第16回	定期筆記試験					張秉煥	
教科書							

教・書籍名1	独自教材（ワークブック兼用）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	マンキュー入門経済学	参・出版社名1	東洋経済新報社
参・著者名1	N・グレゴリー・マンキュー	参・ISBN1	978-4492315217
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	経済学			担当者	張 秉煥		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-SI-0-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／5. ジェンダー平等を実現しよう／ 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう 						
到達目標	重要な経済問題について科学的にそして論理的に理解するための基本的スキルを修得することができる。						
授業概要	すべての社会が直面する根本的な経済問題は希少性である。経済学は、社会がその希少な資源をいかに管理するかを研究する学問である。資源の配分は、膨大な数の家計と企業の行動を総合した結果として決定される。講座の前半は、個別の家計や企業が様々な決定をどのように行うか、それらが市場でどのように相互作用しあうのかを分析する。後半では、経済全体に影響するような様々な要因や傾向を考察する。なお、所得分配や所得格差問題、所得機会の変容とそのインプリケーションについて検討する。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	「定期筆記試験（70％）＋途中の形成的評価（30％）」をもとに合計100点満点で採点し、60点以上を合格とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	途中の形成的評価のために実施する「課題や試験」へのフィードバックは、授業中の総括的単位で行うことによって、個別学生に学習方法への含意や定期筆記試験への対策に資するものとする						
履修条件・注意事項							
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講座の独自教材（ワークブック兼用）に基づき、自主的な事前学習を行って授業を受けること。						
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	講座の概要や評価方法、教材の構成、主な内容と使い方など。科学的方法論としての経済モデル					張秉煥	
第2回	経済学の主要原理（1）トレードオフ、機会費用、限界分析、インセンティブ等					張秉煥	
第3回	経済学の主要原理（2）市場経済、市場の失敗、GDP、インフレなど（現実の事例を含む）					張秉煥	
第4回	市場と競争（市場構造）、需要・供給の仕組み、両面市場					張秉煥	
第5回	市場構造と社会的厚生、完全競争市場、現実の経済問題への応用（インセンティブ）					張秉煥	
第6回	独占市場の特性と参入障壁の源泉、現実の経済問題への応用、小テスト1					張秉煥	
第7回	独占的市場と寡占市場の特性、囚人のジレンマモデルと現実の経済問題への応用					張秉煥	
第8回	現実における様々な価格類型、価格弾力性と価格差別モデル、現実の経済問題への応用					張秉煥	
第9回	価格規制の基礎モデル、最低賃金制度による労働市場への影響分析、外部効果の諸例					張秉煥	
第10回	公共財の諸例、フリーライダー問題、共有地の悲劇モデルと現実への応用、小テスト2					張秉煥	
第11回	情報の非対称性問題、モラル・ハザード、逆選択、現実の経済問題への応用					張秉煥	
第12回	経済循環図、国民所得の測定と国際比較、現実の経済問題への応用					張秉煥	
第13回	経済成長と公共政策、72の法則とその応用、景気変動					張秉煥	
第14回	所得分布と所得格差、所得機会の変容（定量的分析を踏まえて）、小テスト3					張秉煥	
第15回	経済政策の類型と具体的手法、経済安定化政策の逆効果（ジレンマ）					張秉煥	
第16回	定期筆記試験					張秉煥	
教科書							

教・書籍名1	独自教材（ワークブック兼用）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	マンキュー入門経済学	参・出版社名1	東洋経済新報社
参・著者名1	N・グレゴリー・マンキュー	参・ISBN1	978-4492315217
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	社会学			担当者	黒宮 亜希子、稲元 洋輔		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-SI-0-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／11. 住み続けられるまちづくりを</p> 						
到達目標	<p>テーマ：基礎社会学を学ぶ（社会学とは何か？、労働・教育・地域・家族等の視点より）</p> <p>到達目標：社会学の基本的な定義・考え方、具体的な社会問題、人口問題と環境、現代家族、教育、産業・労働の領域における現状と問題を理解し、その解決法を考えることとする。</p> <p>受講生らが生きている現代社会の仕組みや出来事に関する理解を深める。</p> <p>この講義を通じて、現代社会の様々な制度と問題を理解すること、また、自分の考えを文章で言語化し、記述する能力を向上することも併せて目標とする。</p>						
授業概要	<p>この講義の目的は、社会学という学問がどのような学問であるかを理解し、講義で学習した社会的な見方、考え方を応用し、受講生の周囲で起こっている実際の出来事について考えることが出来るようにすることである。</p> <p>具体的には、現代家族の変化、教育問題、非正規社員の増加と経済的格差、人口構造の変化などを取り上げる。</p> <p>それによって学生たちは問題を理解し、社会学の分析視角から考え、自分の意見を持ち、判断することができるようになる。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業中課題（40％）・定期試験（60％）によって評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題はコメントを入れ返却を行う。						
履修条件・注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・2名の教員がオムニバス形式で進行する。 ・毎回、教員が作成したハンドアウトを配布する。ファイル等で各自保管しておくこと。 ・日本語で自身の考えを記述する力が求められるため、日本語の力がまだ十分ではない留学生の受講に際してはやや注意を要する。 ・授業計画の内容は、進捗状況に応じて変更になることがある。 						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	黒宮：月曜4限（14625） 稲元：火曜3限（14611）						
授業計画						担当者	
第1回	授業オリエンテーション					黒宮・稲元	
第2回	身近な社会学（1）地位と役割					黒宮	
第3回	身近な社会学（2）ラベリング・スティグマ					黒宮	
第4回	教育の社会学（1）学校とはなにか					稲元	

第5回	教育の社会学 (2) 教育をめぐる諸問題	稲元
第6回	家族の社会学 (1) 家族と其の変化	黒宮
第7回	家族の社会学 (2) 家族とジェンダー	黒宮
第8回	労働の社会学 (1) 学校から職場へ	稲元
第9回	労働の社会学 (2) 働くことの社会的な位置づけ	稲元
第10回	地域の社会学 (1) 地域、コミュニティとは	黒宮
第11回	地域の社会学 (2) 地域社会の今	黒宮
第12回	自己と他者の社会学 (1) 他者のまなざし	稲元
第13回	自己と他者の社会学 (2) コミュニケーション	稲元
第14回	社会問題を社会学する (講義、小括)	黒宮
第15回	社会問題を社会学する (講義、小括)	稲元
第16回	筆記試験	黒宮・稲元

教科書

教・書籍名1	資料を配布する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	授業内容に応じて適宜、文献を紹介する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	社会学			担当者	赤坂 真人		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-SI-0-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／11. 住み続けられるまちづくりを／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	<p>テーマ 社会学入門（社会学とは何か・人口論・家族・教育・産業と労働）</p> <p>到達目標 社会学の定義と考え方を学び、そのうえで現代社会の人口、現代家族、教育、産業と労働の現状について述べる。明確に意識されていない現代社会の様々な制度と問題を明確に認識させ、毎回実施する小テスト（記述式）で社会問題に対する自分自身の考えをまとめ、文章で記述・説明する能力を鍛える。この講義によって学生たちは現代社会の諸問題を理解し、それを社会学の分析視角から考え、自分の意見を持ち、判断することができるようになる。</p>						
授業概要	この講義の目的は、社会学という学問がどのような学問であるかを理解し、次に講義で学習した社会的な見方、考え方を応用し、学生の周囲で起こっている日常の出来事について考えさせることである。具体的には人口減少に伴って起こる様々な問題、人口高齢化と年金・医療保険の問題、現代家族の変化、晩婚化・非婚化、教育の社会的意義、AI化とこれからの教育、Society5.0における産業と労働、経済的格差、日本の経済不況と対策などを取り上げる。この講義によって学生たちは現代社会の諸問題を理解し、それを社会学の分析視角から考え、自分の意見を持ち、判断することができるようになる。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業中の小テスト（50％）・定期試験（50％）によって評価する。小テストは採点し、コメントつけて返却するので必ず復習すること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義の最後20分間を使って、毎回論述式の小試験を行う。メールにより解答し教員の授業用メールボックスに返送する。教員は学生一人一人の論述に対し400～500字のコメントを書いて学生に返却する。教員からのコメントに対してさらに意見を述べた場合、それに対して再びコメント書いて返却する。						
履修条件・注意事項	講義時間が減少するので学生の名前を読み上げて出席を取ることにはしない。カードによる出席チェックの不正をしない。日本語が分からないと講義についてゆけないので留学生は履修の際、十分留意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	火曜4限（15：10～16：40）に、研究室（9309）にて実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	1.人間が社会を作るまで。2.群れ（社会）で生きる人間。3.人間社会の大変動。					赤坂	
第2回	1.社会学とは何か。2.社会のわかりにくさ。3.他の人間科学との相違。4.社会学の利用法。					赤坂	
第3回	1.世界の人口動向。2.人口転換理論。3.日本の人口推移。4.少子高齢化。5.晩婚化と非婚化。					赤坂	
第4回	1.生涯未婚率の推移。2.世界最速の高齢化。3.少子高齢化と経済の縮小・社会保障の危機。					赤坂	
第5回	1.家族とは何か。2.家族の類型。3.世帯・親族・親戚。4.社会制度としての結婚。					赤坂	
第6回	1.結婚の社会的規制。2.非婚社会：日本。3.非婚化の経済的原因。4.非婚化の生物学的原因					赤坂	

第7回	1.解体する家族。2.現代家族の問題。3.下流化する中高年。4.現代家族の病理と法的問題。	赤坂
第8回	1.液化化する社会。2.避けられぬ人口減少。3.男性未婚者。4.職業と未婚。5.世代間の不平等。	赤坂
第9回	1.教育の機能。2.メリトクラシーの崩壊と階層の固定化。3.学力低下論争。4.学力の二極化	赤坂
第10回	1.教師の多忙化と燃え尽き。2.いじめ問題。3.校内暴力。4.不登校。5.学校は魅力を失ったか？	赤坂
第11回	1.教育と職業。2.大学教育は仕事の役に立つか？3.中間集団としての学校。4.ニートの人々	赤坂
第12回	1.産業の分類。2.賃金と労働。3.日本人の労働時間と失業率。4.日本の経営の終わりど没落。	赤坂
第13回	1.日本経済の矛盾。2.生産性の低さ。3.日本経済没落の原因。4.経済再生の課題	赤坂
第14回	1.職業とジェンダー。2.職業と階層。3.階層間格差。4.AI化と労働の未来	赤坂
第15回	1.AIの進化と社会変動 2.インフォテック。3.フードテック。4.画像認識。5.拡張現実・その他	赤坂
第16回	筆記試験	赤坂

教科書

教・書籍名1	基礎社会学	教・出版社名1	ふくろう出版
教・著者名1	赤坂真人	教・ISBN1	978-4861864278
教・書籍名2	毎回、教員が作成したハンドアウトを配布する。	教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	講義中に約30冊の文献を紹介する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	環境科学			担当者	秋山 純一		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2018年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-NM-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／6. 安全な水とトイレを世界中に／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／13. 気候変動に具体的な対策を／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう</p> 						
到達目標	<p>学生は環境問題を理解するための基礎的知識である「生態系」、「生物多様性」、「物質循環」及び「食物連鎖」等の知識を習得することができる。学生はその基礎的知識をもとに、現在人類が直面している環境問題である「オゾン層の破壊」、「環境ホルモン」、「地球温暖化」およびその他の環境問題全般の現状についての知識を習得することができる。また、学生は現在の環境問題および将来に起こると予想される様々な環境問題について自身で考え、意見を発信し、行動できることを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>ヒトは有形無形の環境の中で生活しており、その生命環境の持続的保全が健康保持、人類存続には不可欠である。生活の利便性や効率、経済性を追求するあまり、近年の交通手段の急激な進歩や特に情報革命を中心とする社会構造の急速な変化が先進国だけでなく開発途上国にも広く及んでいる。現在、我々人類はこの急激な変化への適応に追われ、本来、最も尊いはずの生命保持のための環境の維持や保全が後手となり、現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題（環境汚染、地球温暖化、オゾン層の破壊、紫外線量の増加、環境ホルモン等）が生じている。本講義では前半は生命と環境についての基本的な知識（環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等）を習得し、その知識を基に我々の目前で現在起こっている種々のレベルでの環境問題の現状を把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、これらの問題に対して先見の問題意識を持ちどの様に対処すべきかを学習する。本講義の後半では各環境問題の問題提示としてこれらの環境問題に関連するの現状と未来を予測したDVD映像などの鑑賞も加えて授業を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	マークシート形式主体の筆記試験により約90%を評価し、残り約10%の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	学授業中の課題提示毎に問いかけを行い、質疑。応答での知識確認のためのフィードバックを実施する。また、試験実施後の質問を受け付け、未理解項目のフィードバックを実施する。						
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びノートメモを取ること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は国家資格の「公害防止主任管理者」取得者である教員が環境管理の実務経験を活かし、環境教育において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度)を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習(1時間程度)を行って学習内容の理解を深めること。						
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休み時間で可能な限り対応を実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	環境と人間のかかわりあい					秋山純一	
第2回	環境における人類危機要因					秋山純一	
第3回	生態系と人間					秋山純一	

第4回	食物連鎖	秋山純一
第5回	物質循環	秋山純一
第6回	紫外線（作用と分類）	秋山純一
第7回	紫外線と皮膚（臨床）	秋山純一
第8回	紫外線と皮膚（防御）	秋山純一
第9回	オゾン層の破壊（原因）	秋山純一
第10回	オゾン層の破壊（対策）	秋山純一
第11回	環境ホルモン（作用）	秋山純一
第12回	環境ホルモン（分類）	秋山純一
第13回	環境ホルモン（影響）	秋山純一
第14回	地球温暖化（原因）	秋山純一
第15回	地球温暖化（対策）	秋山純一
第16回	単位認定試験	秋山純一
教科書		
教・書籍名1	使用しない（テーマ毎にプリントを配布する）	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	環境科学入門	参・出版社名1 化学同人
参・著者名1	川合 真一郎 他	参・ISBN1 9.78E+12
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	環境科学			担当者	秋山 純一		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017～2018年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-NM-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	△
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／6. 安全な水とトイレを世界中に／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／13. 気候変動に具体的な対策を／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう</p> 						
到達目標	<p>学生は環境問題を理解するための基礎的知識である「生態系」、「生物多様性」、「物質循環」及び「食物連鎖」等の知識を習得することができる。学生はその基礎的知識をもとに、現在人類が直面している環境問題である「オゾン層の破壊」、「環境ホルモン」、「地球温暖化」およびその他の環境問題全般の現状についての知識を習得することができる。また、学生は現在の環境問題および将来に起こると予想される様々な環境問題について自身で考え、意見を発信し、行動できることを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>ヒトは有形無形の環境の中で生活しており、その生命環境の持続的保全が健康保持、人類存続には不可欠である。生活の利便性や効率、経済性を追求するあまり、近年の交通手段の急激な進歩や特に情報革命を中心とする社会構造の急速な変化が先進国だけでなく開発途上国にも広く及んでいる。現在、我々人類はこの急激な変化への適応に追われ、本来、最も尊いはずの生命保持のための環境の維持や保全が後手となり、現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題（環境汚染、地球温暖化、オゾン層の破壊、紫外線量の増加、環境ホルモン等）が生じている。本講義では前半は生命と環境についての基本的な知識（環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等）を習得し、その知識を基に我々の目前で現在起こっている種々のレベルでの環境問題の現状を把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、これらの問題に対して先見の問題意識を持ちどの様に対処すべきかを学習する。本講義の後半では各環境問題の問題提示としてこれらの環境問題に関連するの現状と未来を予測したDVD映像などの鑑賞も加えて授業を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	マークシート形式主体の筆記試験により約90%を評価し、残り約10%の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	学授業中の課題提示毎に問いかけを行い、質疑。応答での知識確認のためのフィードバックを実施する。また、試験実施後の質問を受け付け、未理解項目のフィードバックを実施する。						
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びノートメモを取ること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は国家資格の「公害防止主任管理者」取得者である教員が環境管理の実務経験を活かし、環境教育において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度)を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習(1時間程度)を行って学習内容の理解を深めること。						
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休み時間で可能な限り対応を実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	環境と人間のかかわりあい					秋山純一	
第2回	環境における人類危機要因					秋山純一	
第3回	生態系と人間					秋山純一	

第4回	食物連鎖	秋山純一
第5回	物質循環	秋山純一
第6回	紫外線（作用と分類）	秋山純一
第7回	紫外線と皮膚（臨床）	秋山純一
第8回	紫外線と皮膚（防御）	秋山純一
第9回	オゾン層の破壊（原因）	秋山純一
第10回	オゾン層の破壊（対策）	秋山純一
第11回	環境ホルモン（作用）	秋山純一
第12回	環境ホルモン（分類）	秋山純一
第13回	環境ホルモン（影響）	秋山純一
第14回	地球温暖化（原因）	秋山純一
第15回	地球温暖化（対策）	秋山純一
第16回	単位認定試験	秋山純一
教科書		
教・書籍名1	使用しない（テーマ毎にプリントを配布する）	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	環境科学入門	参・出版社名1 化学同人
参・著者名1	川合 真一郎 他	参・ISBN1 9.78E+12
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	物理学			担当者	藤原 智子		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-NM-0-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	15回	授業形態	対面
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／11. 住み続けられるまちづくりを／13. 気候変動に具体的な対策を／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>テーマ：物理学の1分野である天文学を中心に、簡単な実験やそれぞれテーマに沿った議論などを通じて、その歴史的背景や社会・生活で活用されている物理のエッセンスを体系的に学習する。</p> <p>到達目標：「自然から学ぶ」や「論理的思考」とはどのようなことを理解する。</p>						
授業概要	<p>太古の昔から、人類は頭上に広がる果てしない宇宙を見つめてきた。手の届かないところにある天体のふるまいを理解するには、まず身近な自然現象を観察し、そこにある物理法則に気付く必要がある。人々はどんな想いで宇宙を見つめてきたのか、宇宙を知るためにどんな挑戦をし、注意深く観察した星空から何を理解してきたのか。この授業では、太陽系天体、恒星や銀河など、宇宙に浮かぶ様々な天体の姿を紹介、そこで起こっている現象を身近な物理と結び付けて科学的に解説するだけでなく、星座や神話、人類の宇宙観など文化的な内容、観測機器や宇宙開発(ロケットや人工衛星・探査機)等の技術的内容についても触れ、「宇宙」をテーマに幅広い内容を扱う。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/プレゼンテーション/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	論述試験と出席で評価します。授業を受ける姿勢として、実験や議論に参加する積極性を重視します。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題や試験に対する質問は授業での回答の他、UNIPAやTeamsなどの機能を用いてフィードバックする。						
履修条件・注意事項							
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画のテーマに関連するニュースやトピックスに注意を払い、事後学習として授業で学んだことに関して友人や家族と議論すること。 各1時間の学修が望ましい。						
オフィスアワー	授業の前後に、教室において実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	ガイダンスー自然現象を理解するための物理学ー					藤原智子	
第2回	宇宙観の変遷					藤原智子	
第3回	星と文化① 星座と星物語					藤原智子	
第4回	星と文化② 暦の成立					藤原智子	
第5回	天体の記録と基礎データ① 天体の位置、明るさ、距離					藤原智子	
第6回	天体の記録と基礎データ② 光のスペクトル					藤原智子	
第7回	観測装置の発展① 光学・電波望遠鏡					藤原智子	
第8回	観測装置の発展② 人工衛星・探査機					藤原智子	
第9回	人工衛星・ロケットの仕組み					藤原智子	
第10回	宇宙の環境問題					藤原智子	
第11回	太陽系の素顔① 太陽系の天体					藤原智子	
第12回	太陽系の素顔② 太陽系を取り巻く環境・太陽系外惑星					藤原智子	
第13回	恒星の誕生と死					藤原智子	

第14回	私たちの起源と未来	藤原智子
第15回	まとめ：宇宙と物理学のつながり	藤原智子
第16回	レポート試験	藤原智子
教科書		
教・書籍名1		教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	生物学			担当者	香田 康年		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-NM-0-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	14. 海の豊かさを守ろう / 15. 陸の豊かさを守ろう 						
到達目標	<p>【テーマ】</p> <p>学生が、「ヒトを含めたすべての生物が生物シンカによってできて来た」ことを理解する。また、科学とはどのようなことかについて改めて考え理解する。加えて、様々な生物の特徴について学びながら、なぜそのような特徴がシンカしたのかを考え、ヒトや様々な生物について、丸暗記するのではなく、「なぜそうなのか」を考え理解する力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>まず生物のシンカが「進化」と呼ばれるようになった経緯を理解し、生物のシンカとはどのような現象なのかを理解すると同時に、一般用語の「進化」とやや意味がことなることを理解する。さらに生物のシンカがどのような仕組みで起こるのかを学び理解する。そのことによって現在のヒトや様々な生物がなぜそのような特徴を持っているのかを考え、人間の特徴や様々な生物現象について丸暗記するのではなく、「考え理解する力」を少しでも養う。また、新たな問題に対し、他者の知識を含め、持てる知識を利用して考え、まとめ、他者に説明する力を養う。</p>						
授業概要	<p>○ 上記のテーマや到達目標を達成するため、毎回授業は、講義と、Q&Aにグループディスカッションを組み合わせたアクティブラーニングを併用した授業とする。</p> <p>○ 下記の講義項目に従って授業を行う予定であるが、あくまで目安である。受講生の興味、生物学上の疑問、理解の程度を重視するので、講義順序や講義内容、範囲などは受講生の理解をとりながら適宜変更する。</p> <p>○ 受講生は、講義内容に関する疑問点や質問を積極的に出し、理解を深めて欲しい。かつなお、疑問点が残れば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。それにより学生の授業内容の理解度を知り、フィードバックを図る。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/グループワーク						
評価方法と割合	<p>20分～30分程度の小テストを複数回行う。それらの合計点（80％）とQ&Aなどのアクティブラーニングへの積極的発言回数（20％）で評価する。</p> <p>ただし、授業態度が悪ければ（授業にまじめに取り組まない場合）10点の範囲で減点する。</p> <p>各小テストは、論述記述式である。</p> <p>講義の内容から、重要な内容について説明記述させる問題を出題する予定である。</p> <p>授業をとっていない友人にわかるような説明記述ができていることが、採点の基準になる。専門用語には必ず理解しやすく説明を加えること。</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	<p>過去の授業内容について度々Q & Aを行うことによって、授業内容に対するフィードバックをはかる。</p> <p>複数回の小テストのうち途中の小テストは、採点結果を返却すると同時にフィードバックをはかり、再試験追試験を行うこともあるが、最終回のテストは再試験追試験を行わない。</p>						
履修条件・注意事項	<p>受講生は、グループ討論や質疑応答時に積極的に発言することを心掛けるようにすること。</p> <p>教員が講義している間は、傾聴に努め、私語を控えること。質問は大いに歓迎する。ただし、手を挙げて指名さ</p>						

	れてから発言すること。		
実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	<p>【復習】</p> <p>授業内容は常識と異なることが多く、授業は前回までの理解を前提に進めるので、毎回必ず復習し、理解しておくこと。次回の授業で、前回内容についての質問に指名されても答えられるようにしておくこと。</p> <p>復習には二時間程度かけて、いつ小テストがあっても対応できるように、充分理解し、ノート整理しておくこと。</p> <p>【予習】</p> <p>過去の授業内容についての疑問点を整理しておき、次回の授業で質問できるようにしておくこと。また、予習にも二時間程度かけて、次回の授業内容について、参考書などを利用し、現時点での自分なりの理解をしておくこと。また、予め質問したいことがあれば、用意しておくこと。</p>		
オフィスアワー	非常勤講師なので、授業後に教室、または非常勤講師室で行う。		
授業計画			担当者
第1回	クラゲとヒトはどこが同じでどう違うのか？		香田康年
第2回	生物のシンカと一般用語としての「進化」		香田康年
第3回	生物のシンカの起こる仕組み		香田康年
第4回	なぜたくさんの生物がいるのか？ なぜ人間がいるのか？		香田康年
第5回	ダーウィンはなぜ生物シンカに気がついたのか？		香田康年
第6回	科学とはどのような学問か？		香田康年
第7回	生物とは？		香田康年
第8回	どんな生物、どんな動物がいるのか？		香田康年
第9回	遺伝子と遺伝子の発現		香田康年
第10回	本能と学習と理性の関係		香田康年
第11回	利己的行動と利他的行動		香田康年
第12回	非血縁者間の利他行動のシンカ		香田康年
第13回	ゲーム理論とシンカ		香田康年
第14回	様々な対人関係心理のシンカ		香田康年
第15回	言葉のシンカと神や幽霊を信じる心のシンカ		香田康年
第16回	最終試験（記述式筆記試験）		香田康年
教科書			
教・書籍名1	教科書は使わない。理解に必要な資料は講義中に配布するか、スライド等で提示しながら講義する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	「進化と人間行動」	参・出版社名1	東京大学出版会
参・著者名1	長谷川寿一、長谷川真理子	参・ISBN1	4-13-012032-8
参・書籍名2	「面白くて眠れなくなる生物学」	参・出版社名2	PHP文庫
参・著者名2	長谷川英祐	参・ISBN2	978-4-569-76860-1

授業科目名	生物学			担当者	香田 康年		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-NM-0-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	14. 海の豊かさを守ろう / 15. 陸の豊かさを守ろう 						
到達目標	<p>【テーマ】 学生が、「ヒトを含めたすべての生物が生物シンカによってできて来た」ことを理解する。また、科学とはどのようなことかについて改めて考え理解する。加えて、様々な生物の特徴について学びながら、なぜそのような特徴がシンカしたのかを考え、ヒトや様々な生物について、丸暗記するのではなく、「なぜそうなのか」を考え理解する力を養う。</p> <p>【到達目標】 まず生物のシンカが「進化」と呼ばれるようになった経緯を理解し、生物のシンカとはどのような現象なのかを理解すると同時に、一般用語の「進化」とやや意味がことなることを理解する。さらに生物のシンカがどのような仕組みで起こるのかを学び理解する。そのことによって現在のヒトや様々な生物がなぜそのような特徴を持っているのかを考え、人間の特徴や様々な生物現象について丸暗記するのではなく、「考え理解する力」を少しでも養う。また、新たな問題に対し、他者の知識を含め、持てる知識を利用して考え、まとめ、他者に説明する力を養う。</p>						
授業概要	○ 上記のテーマや到達目標を達成するため、毎回授業は、講義と、Q&Aにグループディスカッションを組み合わせたアクティブラーニングを併用した授業とする。 ○ 下記の講義項目に従って授業を行う予定であるが、あくまで目安である。受講生の興味、生物学上の疑問、理解の程度を重視するので、講義順序や講義内容、範囲などは受講生の了解をとりながら適宜変更する。 ○ 受講生は、講義内容に関する疑問点や質問を積極的に出し、理解を深めて欲しい。かつなお、疑問点が残れば、次回の授業で質問できるようにしておくこと。それにより学生の授業内容の理解度を知り、フィードバックを図る。						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/グループワーク						
評価方法と割合	20分～30分程度の小テストを複数回行う。それらの合計点（80%）とQ&Aなどのアクティブラーニングへの積極的発言回数（20%）で評価する。 ただし、授業態度が悪ければ（授業にまじめに取り組まない場合）10点の範囲で減点する。 各小テストは、論述記述式である。 講義の内容から、重要な内容について説明記述させる問題を出題する予定である。 授業をとっていない友人に分かるような説明記述ができていないことが、採点の基準になる。専門用語には必ず理解しやすく説明を加えること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	過去の授業内容について度々Q & Aを行うことによって、授業内容に対するフィードバックをはかる。 複数回の小テストのうち途中の小テストは、採点結果を返却すると同時にフィードバックをはかり、再試験追試験を行うこともあるが、最終回のテストは再試験追試験を行わない。						
履修条件・注意事項	受講生は、グループ討論や質疑応答時に積極的に発言することを心掛けるようにすること。 教員が講義している間は、傾聴に努め、私語を控えること。質問は大いに歓迎する。ただし、手を挙げて指名さ						

	れてから発言すること。		
実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	<p>【復習】</p> <p>授業内容は常識と異なることが多く、授業は前回までの理解を前提に進めるので、毎回必ず復習し、理解しておくこと。次回の授業で、前回内容についての質問に指名されても答えられるようにしておくこと。</p> <p>復習には二時間程度かけて、いつ小テストがあっても対応できるように、充分理解し、ノート整理しておくこと。</p> <p>【予習】</p> <p>過去の授業内容についての疑問点を整理しておき、次回の授業で質問できるようにしておくこと。また、予習にも二時間程度かけて、次回の授業内容について、参考書などを利用し、現時点での自分なりの理解をしておくこと。また、予め質問したいことがあれば、用意しておくこと。</p>		
オフィスアワー	非常勤講師なので、授業後に教室、または非常勤講師室で行う。		
授業計画			担当者
第1回	クラゲとヒトはどこが同じでどう違うのか？		香田康年
第2回	生物のシンカと一般用語としての「進化」		香田康年
第3回	生物のシンカの起こる仕組み		香田康年
第4回	なぜたくさんの生物がいるのか？ なぜ人間がいるのか？		香田康年
第5回	ダーウィンはなぜ生物シンカに気がついたのか？		香田康年
第6回	科学とはどのような学問か？		香田康年
第7回	生物とは？		香田康年
第8回	どんな生物、どんな動物がいるのか？		香田康年
第9回	遺伝子と遺伝子の発現		香田康年
第10回	本能と学習と理性の関係		香田康年
第11回	利己的行動と利他的行動		香田康年
第12回	非血縁者間の利他行動のシンカ		香田康年
第13回	ゲーム理論とシンカ		香田康年
第14回	様々な対人関係心理のシンカ		香田康年
第15回	言葉のシンカと神や幽霊を信じる心のシンカ		香田康年
第16回	最終試験（記述式筆記試験）		香田康年
教科書			
教・書籍名1	教科書は使わない。理解に必要な資料は講義中に配布するか、スライド等で提示しながら講義する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	「進化と人間行動」	参・出版社名1	東京大学出版会
参・著者名1	長谷川寿一、長谷川真理子	参・ISBN1	4-13-012032-8
参・書籍名2	「面白くて眠れなくなる生物学」	参・出版社名2	PHP文庫
参・著者名2	長谷川英祐	参・ISBN2	978-4-569-76860-1

授業科目名	化学			担当者	秋山 純一		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-NM-0-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 						
到達目標	本講義で学生は無機化学や有機化学全般の基礎的な知識の習得に重点をおき学習することができる。また、後半の講義で学生は生命活動に関連の深い天然物質やプラスチックの分類、生活に必要な薬品や化粧品等に関連する界面化学を学習することができる。学生は本講義を通じて将来の種々の職業や日常生活に役立つ化学的な知識を取得し、その知識を応用することができる。						
授業概要	今日の科学技術の進歩は目覚しく、現代の私達の豊かな暮らしは正にこの科学の進歩に支えられていると言っても過言ではない。化学は、物質の成り立ちや変遷を究明する学問で、物質を構成する原子や分子を対象とし、それらの性質、構造、反応性などを実証的に解き明かす。18世紀後半から学問として体系付けられ、幾多の素晴らしい知見や成果を蓄積しながら、現代化学へと発展してきた。今日では、複雑で有用な物質を簡単な物質（分子）から合成するなど、私達の身の回りには化学の力で作られた物質が溢れ、暮らしを豊かに、快適にしてくれている。一方、分子という考えの導入により、生命現象を化学的に解釈できるようになり、また生命現象を遺伝子のレベルで操作することもできるようになった。これらの知見を基に生命科学の分野では遺伝子治療なども行われるようになった。しかし他方では、地球環境問題や環境ホルモンなどの新たな種々の問題がみられるようになった。本講義では基礎的な化学の知識の確認・修得に重点をおき、また特に我々の生活用品や基礎医学に関連した分野も取り上げて授業を行う。 ※実務経験がある教員による授業 この科目は化粧品メーカーの研究開発の実務経験をもつ教員がその経験を活かし、将来の仕事や日常生活に実践的に役立つ授業を実施する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	問題概要を事前にプリントにて予告配布するマークシート形式主体の定期試験により約90%を評価し、残り約10%の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	学習課題の終了後および授業の終了時に都度の問いかけし、質問を受け付けてフィードバックを実施する。試験実施後の質問を受け付けてフィードバックを実施する。						
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びメモを取ること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員の公的機関や民間企業での試験や研究開発部門での勤務経験を生かし、幅広い知識や技術を授業内容に取り入れる。				
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度)を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習(1時間程度)を行って学習内容の理解を深めること。						
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休みを活用して実施。						
授業計画						担当者	
第1回	原子・分子の構造					秋山純一	
第2回	化学結合					秋山純一	
第3回	同位体と放射能					秋山純一	
第4回	周期律表					秋山純一	

第5回	化学反応、結合	秋山純一
第6回	酸化と還元（反応物質）	秋山純一
第7回	酸化と還元（燃料電池他）	秋山純一
第8回	物質の分類（金属、非金属）	秋山純一
第9回	水の化学（特性、硬度、pH）	秋山純一
第10回	有機化合物の構造分類	秋山純一
第11回	有機化合物の置換基分類	秋山純一
第12回	有機合成の反応分類	秋山純一
第13回	高分子化合物（天然）	秋山純一
第14回	高分子化合物（合成）	秋山純一
第15回	界面の化学（洗剤、乳化）	秋山純一
第16回	単位認定試験	秋山純一

教科書

教・書籍名1	使用しない（テーマ毎にプリント配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	教養の現代化学	参・出版社名1	三共出版
参・著者名1	多賀 光彦／共著 他	参・ISBN1	9.78E+12
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	化学			担当者	秋山 純一		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-NM-0-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと 論理的な思考	◎	DP4. コミュニケー ション・表現力	△
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 						
到達目標	本講義で学生は無機化学や有機化学全般の基礎的な知識の習得に重点をおき学習することができる。また、後半の講義で学生は生命活動に関連の深い天然物質やプラスチックの分類、生活に必要な薬品や化粧品等に関連する界面化学を学習することができる。学生は本講義を通じて将来の種々の職業や日常生活に役立つ化学的な知識を取得し、その知識を応用することができる。						
授業概要	今日の科学技術の進歩は目覚しく、現代の私達の豊かな暮らしは正にこの科学の進歩に支えられていると言っても過言ではない。化学は、物質の成り立ちや変遷を究明する学問で、物質を構成する原子や分子を対象とし、それらの性質、構造、反応性などを実証的に解き明かす。18世紀後半から学問として体系付けられ、幾多の素晴らしい知見や成果を蓄積しながら、現代化学へと発展してきた。今日では、複雑で有用な物質を簡単な物質（分子）から合成するなど、私達の身の回りには化学の力で作られた物質が溢れ、暮らしを豊かに、快適にしてくれている。一方、分子という考えの導入により、生命現象を化学的に解釈できるようになり、また生命現象を遺伝子のレベルで操作することもできるようになった。これらの知見を基に生命科学の分野では遺伝子治療なども行われるようになった。しかし他方では、地球環境問題や環境ホルモンなどの新たな種々の問題がみられるようになった。本講義では基礎的な化学の知識の確認・修得に重点をおき、また特に我々の生活用品や基礎医学に関連した分野も取り上げて授業を行う。 ※実務経験がある教員による授業 この科目は化粧品メーカーの研究開発の実務経験をもつ教員がその経験を活かし、将来の仕事や日常生活に実践的に役立つ授業を実施する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	問題概要を事前にプリントにて予告配布するマークシート形式主体の定期試験により約90％を評価し、残り約10％の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	学習課題の終了後および授業の終了時に都度の問いかけし、質問を受け付けてフィードバックを実施する。試験実施後の質問を受け付けてフィードバックを実施する。						
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びメモを取ることを。						
実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員の公的機関や民間企業での試験や研究開発部門での勤務経験を生かし、幅広い知識や技術を授業内容に取り入れる。				
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度)を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習(1時間程度)を行って学習内容の理解を深めること。						
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休みを活用して実施。						
授業計画						担当者	
第1回	原子・分子の構造					秋山純一	
第2回	化学結合					秋山純一	
第3回	同位体と放射能					秋山純一	
第4回	周期律表					秋山純一	

第5回	化学反応、結合	秋山純一
第6回	酸化と還元（反応物質）	秋山純一
第7回	酸化と還元（燃料電池他）	秋山純一
第8回	物質の分類（金属、非金属）	秋山純一
第9回	水の化学（特性、硬度、pH）	秋山純一
第10回	有機化合物の構造分類	秋山純一
第11回	有機化合物の置換基分類	秋山純一
第12回	有機合成の反応分類	秋山純一
第13回	高分子化合物（天然）	秋山純一
第14回	高分子化合物（合成）	秋山純一
第15回	界面の化学（洗剤、乳化）	秋山純一
第16回	単位認定試験	秋山純一

教科書

教・書籍名1	使用しない（テーマ毎にプリント配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	教養の現代化学	参・出版社名1	三共出版
参・著者名1	多賀 光彦／共著 他	参・ISBN1	9.78E+12
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	人類生態学			担当者	末吉 秀二		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-NM-0-005		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	11. 住み続けられるまちづくりを 						
到達目標	人類生態学の視点から、ヒトの環境への適応を理解することができるようになる。						
授業概要	人類生態学は、個体群レベルで人間の生存をとらえ、その生業・食物・人口学的側面に関する包括的な研究から、ヒトの環境への適応を明らかにする学問分野と定義される。本講義は、①生態系のなかの人間、②人間の生存と健康、③人口からみた人間、④環境問題と人間の大テーマをブレイクダウンして詳しく説明する。また、今日の環境問題や人口問題の本質について理解を深める。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	到達目標を計るため、試験（80％）、小テスト（10％）、受講態度（10％）で総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、授業でフィードバックするので試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	指定した教科書は必ず購入すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回講義で指定する章を通読し、不明な点を明確にすること（予習）、不明な点が理解できたかを確認すること（復習）。						
オフィスアワー	月曜日・金曜日（3限、5限）						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					末吉秀二	
第2回	生態系と人類の特性					末吉秀二	
第3回	人類の起源と進化					末吉秀二	
第4回	生存様式の変化と多様性					末吉秀二	
第5回	生業と社会					末吉秀二	
第6回	身体とその機能					末吉秀二	
第7回	行動の生態学					末吉秀二	
第8回	栄養と健康					末吉秀二	
第9回	病気の生態学					末吉秀二	
第10回	長期的な人口変化					末吉秀二	
第11回	人口指標と集団の適応					末吉秀二	
第12回	現代の人口問題					末吉秀二	
第13回	エネルギーと資源					末吉秀二	
第14回	ライフスタイルと環境					末吉秀二	
第15回	地球環境問題と人類					末吉秀二	
第16回	試験					末吉秀二	
教科書							
教・書籍名1	人類生態学				教・出版社名1	東京大学出版会	
教・著者名1	大塚柳太郎・河辺俊雄・高坂宏一ほか				教・ISBN1	4-13-052300-7	
教・書籍名2					教・出版社名2		

教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	数学			担当者	山本 敦之		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1 年／2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-NM-0-007		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと 論理的な思考	◎	DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	迅速かつ確かな数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。						
授業概要	数的推理・資料解釈・判断推理・空間把握に関する課題を数学的かつ論理的に理解する力を身につける。具体的には、方程式や確率等の数的推理、データやグラフ等の資料解釈、論証や対応関係等の判断推理、立体図形や展開図等の空間把握に関する比較的身近な問題について考え、自ら解法を見つけ出し答えを導き出す。必要に応じて、解法を見つけ出すために必要な情報を収集する。更には、助言を適宜得ながら学生同士が教えあい学びあい、課題に対する数的理解を深める。						
アクティブラーニングの 内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	数的理解力を把握するための単位認定試験（80%）、授業への積極的な参加態度（20%）をもとに総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	内容に応じて適宜指示する。						
履修条件・注意事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は予め連絡すること。他の受講生らが迷惑に感じる言動は控えること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ の時間	予習と復習には各2時間を要する。時間をかけて問題に向き合い、多角的な視点や柔軟な思考を意識して予習・復習に取り組むこと。						
オフィスアワー	月曜5限						
授業計画						担当者	
第1回	数的推理：濃度					山本	
第2回	数的推理：速さ・距離・時間					山本	
第3回	数的推理：ものの値段と個数					山本	
第4回	数的推理：定価・原価・利益					山本	
第5回	数的推理：割合と値段					山本	
第6回	数的推理：仕事算					山本	
第7回	資料解釈：表の読み取り&資料の読み取り					山本	
第8回	数的推理：順列と組み合わせ					山本	
第9回	数的推理：確率のとらえ方					山本	
第10回	判断推理：集合					山本	
第11回	判断推理：推論					山本	
第12回	判断推理：ものの流れと比率&ブラックボックス					山本	
第13回	資料解釈：グラフの領域					山本	

第14回	判断推理：論証	山本
第15回	空間把握：立体の展開図・断面	山本
第16回	単位認定試験	山本
教科書		
教・書籍名1	2024年度版 ドリル式 SPI問題集	教・出版社名1 永岡書店
教・著者名1	柳本新二	教・ISBN1 9784522460122
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	数学			担当者	山本 敦之		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-NM-0-007		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	迅速かつ確かな数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。						
授業概要	数的推理・資料解釈・判断推理・空間把握に関する課題を数学的かつ論理的に理解する力を身につける。具体的には、方程式や確率等の数的推理、データやグラフ等の資料解釈、論証や対応関係等の判断推理、立体図形や展開図等の空間把握に関する比較的身近な問題について考え、自ら解法を見つけ出し答えを導き出す。必要に応じて、解法を見つけ出すために必要な情報を収集する。更には、助言を適宜得ながら学生同士が教えあい学びあい、課題に対する数的理解を深める。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	数的理解力を把握するための単位認定試験（80%）、授業への積極的な参加態度（20%）をもとに総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。						
履修条件・注意事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は予め連絡すること。他の受講生らが迷惑に感じる言動は控えること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習と復習には各2時間を要する。時間をかけて問題に向き合い、多角的な視点や柔軟な思考を意識して予習・復習に取り組むこと。						
オフィスアワー	月曜5限						
授業計画						担当者	
第1回	数的推理：濃度					山本	
第2回	数的推理：速さ・距離・時間					山本	
第3回	数的推理：ものの値段と個数					山本	
第4回	数的推理：定価・原価・利益					山本	
第5回	数的推理：割合と値段					山本	
第6回	数的推理：仕事算					山本	
第7回	資料解釈：表の読み取り&資料の読み取り					山本	
第8回	数的推理：順列と組み合わせ					山本	
第9回	数的推理：確率のとらえ方					山本	
第10回	判断推理：集合					山本	
第11回	判断推理：推論					山本	
第12回	判断推理：ものの流れと比率&ブラックボックス					山本	
第13回	資料解釈：グラフの領域					山本	

第14回	判断推理：論証	山本
第15回	空間把握：立体の展開図・断面	山本
第16回	単位認定試験	山本
教科書		
教・書籍名1	2024年度版 ドリル式 SPI問題集	教・出版社名1 永岡書店
教・著者名1	柳本新二	教・ISBN1 9784522460122
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	韓国地域社会			担当者	李 分一		
配当学科・研究科	2017～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018～2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-305		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年/2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	地域研究を学ぶ理由は、地域の安定（平和）と繁栄にある。分裂国家・韓国は、北朝鮮と並んで、日本の隣国である。そして日本は、隣国として朝鮮半島との平和的な共存・共生の関係を保つ必要がある。すなわち、様々なグローバルな課題と地域問題が交差する今日のグローバル社会では、特に日本と朝鮮半島との良好な関係を必要とするのである。この講義を受講すれば、韓国と周辺隣国に関する客観的・総合的な知識の習得とともに、国際地域問題に関する総括力・発表力が身に付けられる。						
授業概要	世界の地理上には、大小の様々な国家や地域が共存・共生している。それらは自然的、人文社会的な特徴を持ちながら、歴史的な経験を経て現在の国家・地域を形成している。韓国も例外ではない。地域の自然環境や社会環境における様々な地理的事情を有機的に結合して考察することにより、その地域の特色・性格を明らかにする。また、この講義では、戦後韓国社会における産業化や民主化過程を具体的な事例を取り上げて説明する。この科目を受講することにより、地理的な見方・認識の手法を学び取り、韓国などの異文化社会の理解や国際理解を深めることができる。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション						
評価方法と割合	定期試験（80％）、提出物（10％）、授業態度（10％）等によって評価する。提出物などは、授業でフィードバックを行うので、その提出物などの内容を明確に学習しなければならない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	(1) 授業後には、授業内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 (2) 単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	(1) 参加型授業であるために、受講生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。授業は、この課題をめぐって行う。 (2) 受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。						
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					李 分一	
第2回	韓国という国					李 分一	

第3回	韓国の歴史（民族と国家）	李 分一
第4回	韓国民主主義の位相と行方	李 分一
第5回	韓国民主主義の制約	李 分一
第6回	解放前の要因	李 分一
第7回	解放後の要因	李 分一
第8回	韓国の権威主義体制	李 分一
第9回	民主化・人権擁護運動	李 分一
第10回	1980年代の韓国	李 分一
第11回	1980年代の政治体制	李 分一
第12回	1990年代の民主化運動	李 分一
第13回	1990年代の民主化運動	李 分一
第14回	韓国政治社会の新潮流	李 分一
第15回	韓国の民主主義と市民社会	李 分一
第16回	単位認定試験	李 分一

教科書

教・書籍名1	プリント使用	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	公衆衛生学Ⅰ			担当者	中瀬 克己		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2019～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2019～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2019～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	HS-NU-1-116		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	<p>テーマは公衆衛生である。公衆衛生活動の目的は その国や地域の優先する健康問題に社会資源を配分したり、健康格差を減らしたりする事により、効率的に社会の健康課題に取り組むことである。個人よりは集団を対象とし、個々の病気の治療よりもその病気を起こりやすくしている環境や制度に注目する。現状や介入効果の評価を疫学や統計資料によって行い、学問的に精緻化されている。</p> <p>到達目標：個人・家族・集団・組織を含むコミュニティ（共同体）を構成する人々の心身の健康並びに疾病・障害の予防、発生、回復及び改善の過程に関わる主要な要因について学び、健康課題を評価する基本的な能力を養う。</p>						
授業概要	人を取り巻く社会・文化的、物理・化学・生物学的環境が人のライフスタイル・行動や健康に与える影響と仕組み、それをコントロールするため設けられている公衆衛生を担う機関やその働きの基礎を学ぶ。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク						
評価方法と割合	期末の試験（50％）と授業への取り組み姿勢及び提出物の内容（50％）で評価する。授業時にアンケートや練習問題を行い、個別の評価にも反映させる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業時にアンケートや練習問題を行い、必要時にフィードバックを行うとともに次回以降の講義内容、進捗等に反映させる。						
履修条件・注意事項	プリントを配布し、理解を助けるための演習も行うので、初回授業よりファイルを用意し整理して保存すること。期末試験時にはファイルを元に復習すると効率的である。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、自治体の公衆衛生部門において実務経験のある教員が担当し、現状や課題とその解決に必要とされる知識や能力を含めて講義をすることによって、学生の理解を実際的なものとし又深める。				
事前学習・事後学習とその時間	「記憶」より「理解」が自らの考えを形作るためには重要である。「なぜそうなのか」といった疑問を持って授業に臨むと理解が深まる。一方、教科書は体系的で簡潔に纏められ確認や整理に有用であり、授業内容の背景理解にはテキスト、参考資料などで補うことを勧める。						
オフィスアワー	6号館4 6424研究室にて 毎週水曜2限 教授会がある日を除く または木曜 限を オフィスアワーとする。						
授業計画						担当者	
第1回	社会と健康					中瀬克己	
第2回	食のイメージマッピング					中瀬克己	
第3回	公衆衛生を担う機関					中瀬克己	
第4回	行動経済学					中瀬克己	
第5回	ソーシャルキャピタルとヘルスプロモーション					中瀬克己	
第6回	環境保健					中瀬克己	
第7回	医療政策					中瀬克己	
第8回	レポート発表、グループワーク					中瀬克己	
第9回	定期試験					中瀬克己	
第10回							

第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
第16回		

教科書

教・書籍名1	公衆衛生—健康支援と社会保 制度〈2〉14版（ただし、新たな版が出版されたら新しいものとする）	教・出版社名1	医学書院
教・著者名1	神馬征峰ら	教・ISBN1	978-4-260-03574-3
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	公衆衛生がみえる2022-2023	参・出版社名1	メディックメディア
参・著者名1	医療情報科学研究所(編)	参・ISBN1	4896328582、978-4896328585
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	看護学概論			担当者	掛谷 益子、澤田 和子		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2019～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2019～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2019～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	HS-NU-1-201		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	<p>〈テーマ〉看護とは何かを理解するための基盤となる看護の主な概念を学び、看護の対象となるその人とその生活を理解する。そして、看護を実践するための場と仕組みおよび看護専門職の役割や機能を学習する。</p> <p>〈到達目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の機能と役割、看護の構成要素を理解できる。 2. 看護の対象とある人とその生活を理解できる。 3. 看護活動を実践するために必要な法律について理解できる 						
授業概要	看護を志す初学者として、看護の核となる概念である人間、健康、環境について基本的捉えかたを学び、看護の対象や看護の役割について理解を深める。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	筆記試験（70％）課題レポート（20％）受講態度（10％）で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等については、授業でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	<p>看護とは何かを考えられるように主体的に学習に取り組む。</p> <p>日頃から保健・医療や福祉に関する新聞記事やニュース報道に関心を持ち、視野を広げておく。</p> <p>授業終了後は課題レポートを期限厳守で提出する。</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、臨床での実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、医療現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	<p>予習：授業において問題提起と討論が可能なように教科書の該当ページを熟読しておくこと。</p> <p>復習：授業終了後に授業内容を再確認する。</p>						
オフィスアワー	研究室にて平日昼休憩(12:40～13:30)に実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	看護とは 看護の概念					掛谷	
第2回	看護の役割と機能					掛谷	
第3回	看護の対象の理解 人間のこころ・からだ・発達					澤田	
第4回	看護の対象の理解 地域での暮らし					澤田	
第5回	健康とは					掛谷	
第6回	ライフサイクルと健康・生活					澤田	
第7回	看護の歴史					掛谷	
第8回	看護職のキャリア					掛谷	
第9回	看護における倫理 現代社会と職業倫理					掛谷	
第10回	看護における倫理 看護実践における倫理的問題					掛谷	

第11回	看護サービスの提供	掛谷
第12回	国際化と看護	澤田
第13回	看護をめぐる制度と政策	掛谷
第14回	災害時における看護	澤田
第15回	私の看護観	掛谷・澤田
第16回	試験	掛谷・澤田

教科書

教・書籍名1	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学① 看護学概論 医学書院	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	運動学Ⅰ			担当者	井上 茂樹		
配当学科・研究科	2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2020～2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	HS-PT-1-108		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	ヒトの身体運動に関する基本的な知識を学修する。主に、上肢帯と上肢の運動、顔面および頭部の運動、運動学的分析、姿勢、歩行と走行、運動発達、運動学習に関して学修する。 学生は、1) 身体運動に関する基礎的な知識を理解する、2) 運動器の構造と機能を理解する、3) 上肢帯と上肢の運動、顔面および頭部の運動、運動学的分析、姿勢、歩行と走行、運動発達、運動学習に関して理解を深め、基本事項を記憶できることを到達目標とする。						
授業概要	運動学は理学療法士の最も基本的な学問であり、また臨床の理学療法士が治療場面で応用する学問である。授業ではその中で主に、上肢帯と上肢の運動、顔面および頭部の運動、運動学的分析、姿勢、歩行と走行、運動発達、運動学習に関して学修する。参加型学習における授業であるが、運動学の基本事項についてより理解度を深めるために課題を与え、グループ討論も取り入れた授業を行う。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	参加型学習における授業への積極的参加態度（30%）、知識修得程度を確認するための試験（60%）、自ら調べまとめる能力を確認するための授業ノート（10%）で評価する。参加型学習を主体としていることから、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を重視する。詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことをもとにして、参加型学習法により授業を行うため、予習が必須である。 2) 指示に従って必ずノートを作成し復習すること。 3) 初回の授業では、今後の授業にて学修する全体像を説明するため必ず出席すること。 4) 隔週で行う小テストや定期試験は必ず行うため、授業に出席していただいただけでは単位は取れない。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員がその経験を活かし、臨床現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	事前に課題を出し、それについて調べてきたことをもとにして、参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。指示に従って必ずノートを作成し復習すること。試験は必ず行うので、授業に出席していただいただけでは単位はとれないため、必ず予習復習を行うこと。予習および復習には、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館4階の井上研究室（6437）において、毎週火曜日2時限目（11:10～12:40）をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	上肢帯の運動と構造					井上茂樹	
第2回	上肢の運動と構造 肩関節（1）					井上茂樹	
第3回	上肢の運動と構造 肘関節（2）					井上茂樹	
第4回	上肢の運動と構造 手関節（3）					井上茂樹	
第5回	上肢の運動と構造 手指（4）					井上茂樹	

第6回	運動と動作の分析 (1)	井上茂樹
第7回	運動と動作の分析 (2)	井上茂樹
第8回	体力と運動処方 (1)	井上茂樹
第9回	体力と運動処方 (2)	井上茂樹
第10回	姿勢 (1)	井上茂樹
第11回	姿勢 (2)	井上茂樹
第12回	姿勢 (3)	井上茂樹
第13回	歩行と走行 (1)	井上茂樹
第14回	歩行と走行 (2)	井上茂樹
第15回	歩行と走行 (3)	井上茂樹
第16回	単位認定試験	井上茂樹

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名1	基礎運動学 第6版 補訂	教・出版社名1	医歯薬出版
教・著者名1	中村隆一、齋藤 宏、長崎 浩	教・ISBN1	978-4-263-21153-3
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	作業療法概論 (オムニバス)			担当者	岩田 美幸、三宅 優紀、狩長 弘親、山本 倫子、京極 真、寺岡 睦		
配当学科・研究科	2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年 / 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年 / 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年 / 2020～2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年 / 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年 / 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年 / 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	HS-OT-1-201		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	【テーマ】 学生は、将来、作業療法士として従事することを目指し、保健・医療・福祉、あるいは新しく開拓される領域での作業療法の役割を多様な観点で捉えることができる。 【到達目標】 学生は、作業療法の専門性と独自性を明確に理解できることを目標とする。						
授業概要	作業的存在としての人と作業療法の役割を理解するために、作業のイメージを明確にし、各領域における作業療法の実践過程を理解する。また、作業療法の歴史的背景と実践理論の概要を学び、根拠に基づく実践の重要性と今後の作業療法への展望について検討する。						
アクティブラーニングの内容	PBL / ディスカッション / グループワーク / プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業への参加度 (50%)、単位認定レポート試験 (50%) の結果で総合評価する。 なお、単位認定レポート試験は採点結果を返却し、模範解答を掲示する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業内で課題や試験のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	グループワークや発表時に欠席した場合は成績評価に大きく影響するため、必ず担当教員に連絡すること。 日常生活の中で人（自分自身も含む）と作業の関係について洞察を深めること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、作業療法士としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、臨床現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業を確実に理解できるように教員が指定する内容を必ず1時間以上予習し、主体的に参加すること。また、授業後は重要な事項を必ず1時間以上復習しておくこと。						
オフィスアワー	月曜4限 (15:10～16:40)、6428研究室 ※他教員のオフィスアワーは別途確認						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション, 作業とは何か					京極	
第2回	作業療法の対象, Enabling occupation					岩田	
第3回	身体障害領域の作業療法					寺岡	
第4回	精神障害領域の作業療法					山本	
第5回	高齢者・認知症の作業療法					岩田	
第6回	作業療法の歴史 (起源)					京極	
第7回	作業療法の歴史 (パラダイムシフト)					京極	
第8回	作業療法の実践理論 (OBP2.0, MOHO)					寺岡	
第9回	作業療法の実践理論 (CMOP-E・OTIPM)					寺岡	
第10回	高次脳機能障害領域の作業療法					狩長	

第11回	発達障害領域の作業療法	外部講師
第12回	生活行為向上マネジメント	狩長
第13回	作業療法における研究の重要性	三宅
第14回	予防領域の作業療法	三宅
第15回	作業療法を取り巻く状況、まとめ	狩長
第16回	試験	京極

教科書

教・書籍名1	作業療法学概論 第3版 (標準作業療法学専門分野)	教・出版社名1	医学書院
教・著者名1	二木淑子・能登真一	教・ISBN1	978-4260025355
教・書籍名2	「作業」って何だろうー作業科学入門 第2版	教・出版社名2	医歯薬出版
教・著者名2	吉川ひろみ	教・ISBN2	978-4263216675

参考書

参・書籍名1	基礎作業学 第3版 (標準作業療法学専門分野)	参・出版社名1	医学書院
参・著者名1	濱口豊太	参・ISBN1	978-4260030557
参・書籍名2	作業療法士になろう!	参・出版社名2	青弓社
参・著者名2	齋藤さわ子	参・ISBN2	978-4787210531

授業科目名	人間と作業			担当者	寺岡 睦		
配当学科・研究科	2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年 / 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年 / 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年 / 2020～2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年 / 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年 / 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年 / 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	HS-OT-1-217		
必修・選択	必須	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	講義、AL
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	テーマ：学生は、作業療法士が主とする「作業」が健康と幸福に与える影響を理解できる 到達目標：学生は、講義とアクティブラーニングを通して、作業が人間の健康と幸福に与える影響を理解できる						
授業概要	<p>作業とは、人間が経験すること全てである。</p> <p>作業療法士になるためにはこの作業を理解し、作業療法という方法を使ってクライアントへ介入を行う必要がある。</p> <p>そのためには作業がもつ力を理解し、健康と幸福に近づく作業の使い方を教えたり、やり方を変更したり、自身で運用できるようになることが求められる。</p> <p>作業は経験である以上、どのような経験を積むかによって将来の健康と幸福が変化する。</p> <p>質の悪い経験＝作業機能障害を積み重ねると人の健康と幸福は阻害される。</p> <p>しかし質の良い経験＝作業機能状態を積み重ねると人の健康と幸福は促進される。</p> <p>この科目では、健康と幸福に特に良い影響を与える作業を学生に紹介し、実際に体験する時間を設けることでその影響や効果を理解し、解釈出来るように構成している。</p> <p>この科目は、作業科学を研究し、臨床現場で実践していた者が講義を行う。人間が行う作業が健康と幸福に関連する基礎知識に加え、臨床現場での活用方法なども講義し学生の理解を深める。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目</p> <p>この科目は、作業に根ざした実践の研究及び臨床での実務経験を持っている教員が、その経験を活かし実践的に役立つ授業を実施する。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク						
評価方法と割合	試験60％，提出物20％，授業への態度20％で評価する。なお，提出物へのフィードバックは授業内で行う。						
ルーブリック評価	本科目ではルーブリック評価を用いる。 /uprx/sagyou.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	課題提出のフィードバックは書面上、もしくは授業時間内に行う。 試験のフィードバックは提出された問題用紙の返却をもって行う。						
履修条件・注意事項	授業の復習をきちんと行うこと 講義内で出た課題には取り組むこと						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、作業に根ざした実践の研究及び臨床での実務経験を持っている教員が、その経験を活かし実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	予習はシラバスについて記載されているテーマについて教科書を読み、事前にインターネットなどを活用し調べておくこと。 予習の時間は1時間程度とする。 講義終了時に、作業を習得して効果を体験してもらうために課題を毎回出すので必ず行うこと。						

	課題は30分～1時間程度で行える内容で提供する。課題は次回の講義前までに提出すること。		
オフィスアワー	授業終了後、教室で行う。それ以外は月曜か金曜に6430研究室で対応する		
授業計画		担当者	
第1回	オリエンテーション	寺岡	
第2回	作業と健康と幸福の関係性	寺岡	
第3回	意志力と作業、演習、課題発表	寺岡	
第4回	疲労と作業、演習、課題発表	寺岡	
第5回	感謝と作業、演習、課題発表	寺岡	
第6回	フローと作業、演習、課題発表	寺岡	
第7回	人間関係と作業、演習、課題発表	寺岡	
第8回	挫折と作業、演習、課題発表	寺岡	
第9回	ストレス軽減と作業、演習、課題発表	寺岡	
第10回	強みと作業、演習、課題発表	寺岡	
第11回	レジリエンスと作業、演習、課題発表	寺岡	
第12回	習慣と作業、演習、課題発表	寺岡	
第13回	自己肯定感と作業、演習、課題発表	寺岡	
第14回	睡眠と作業、演習、課題の発表	寺岡	
第15回	人間と作業まとめ	寺岡	
第16回	単位認定試験	寺岡	
教科書			
教・書籍名1	「作業」って何だろう 作業科学入門 第2版	教・出版社名1	医歯薬出版
教・著者名1	吉川ひろみ	教・ISBN1	4263216679
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	発達心理学			担当者	宇都宮 真輝		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2019～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2019～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2019～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	PS-PS-1-307		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマは、様々な視点から人間の発達過程について理解することである。そのために、身体、脳、感情、認知、人間関係の発達など、様々な観点から人間の発達を分析し、理解するための知識を身に付けられるようになることを到達目標とする。						
授業概要	胎児期、乳幼児期、児童期、青年期、成人期の各時期における発達の様相や発達課題について様々な観点から学習する。また、各発達段階における臨床的問題についても学習し、心理的援助についての考察も深める。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	評価は、受講態度（10％）、小テスト・レポート（30％）、期末試験（60％）とし、総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	小テスト、レポートは授業時間内に答え合わせやフィードバックを行う予定。						
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 事前に各回の内容について伝達するので、予習を行うこと。小テストなども行うので、自身の習熟度を確認し、復習を欠かさないこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	臨床心理士、公認心理師の資格を有しており、心理相談室、学生相談、スクールカウンセリングにおける実務経験あり。				
事前学習・事後学習とその時間	予習として次回の内容について教科書を読むこと。授業で学習し、ノートにまとめた内容について復習してくる。次回の授業時に口頭で質問したり、小テスト等で確認します。予習・復習には、1～2時間程度を要する。						
オフィスアワー	研究室にて、火曜日4時限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					宇都宮	
第2回	ライフサイクルについて					宇都宮	
第3回	胎児期					宇都宮	
第4回	新生児期					宇都宮	
第5回	乳児期：愛着の形成					宇都宮	
第6回	乳児期：言葉の発達					宇都宮	
第7回	幼児期：表象の獲得					宇都宮	
第8回	幼児期：社会性の発達					宇都宮	
第9回	児童期：有能感と劣等感					宇都宮	
第10回	児童期：学校への適応・いじめ					宇都宮	
第11回	青年期前期					宇都宮	
第12回	青年期後期					宇都宮	
第13回	青年期の病理					宇都宮	
第14回	成人期					宇都宮	
第15回	まとめ					宇都宮	
第16回	期末試験（筆記試験）					宇都宮	

教科書			
教・書籍名1	よくわかる発達心理学	教・出版社名1	ミネルヴァ書房
教・著者名1	無藤隆・岡本祐子・大坪治彦（編）	教・ISBN1	978-4-623-05379-7
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	保育の心理学Ⅰ			担当者	森井 康幸		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2019～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／ 2019～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2019～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	PS-CE-2-212		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年 / 2年		開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 11. 住み続けられるまちづくりを / 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	<p>発達とは人と人の関わりのなかで生じていることを中心に、乳幼児の保育や幼児教育を行っていくうえで必須となる子どもの心身発達の基礎となる心理学的知見を学ぶことをテーマとする。</p> <p>到達目標：子どもの生得的なすばらしい能力とその発達過程を理解し、子どもに対する興味・関心を高め、より多面的に理解できるようになる。</p>						
授業概要	保育実践における子どもの発達理解の意義について学ぶとともに、発達に関わる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。また、子どもの発達に関わる他者との関わり、社会的相互作用等についても理解する。さらに、生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育実践との関わりについて考察する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	ほぼ隔週で行う小テストまたはミニ・レポートの得点（30％）と定期試験の得点（70％）に、受講態度の評価点（0～1）を乗じたもので評価する。したがって、テストで満点であっても、受講態度の評価点が0.5の場合は100点×0.5で50点となるので注意すること。小テストは採点后、返却するので、定期試験に向けて、しっかり見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	小テストの返却と、必要に応じて補足解説を行う。						
履修条件・注意事項	<p>上述のように、ほぼ隔週で小テストを行なうので、最低限、教科書の該当箇所を熟読しておくこと。</p> <p>小テストは前回の授業内容の復習テスト、あるいは当日の授業内容の理解テストを中心に行なう予定である。</p> <p>保育士の資格取得には必須科目である。</p>						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	<p>予習としては、あらかじめテキストに目を通しておくこと。（2時間）</p> <p>復習は、配付資料とともに、再度テキストを読むこと。（2時間）</p> <p>返却された小テストも確認しておくこと。</p>						
オフィスアワー	月曜4限 教員研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					森井	
第2回	発達を考える（第1章）					森井	
第3回	人との関わりの基盤					森井	
第4回	子ども同士の関わりの進展					森井	
第5回	身体的機能と運動機能の発達－個人差と環境－					森井	
第6回	運動機能の発達と心理的発達との関連					森井	
第7回	ピアジェ理論とその再検討					森井	
第8回	世界づくりの開始－認知発達の基盤					森井	
第9回	世界づくりの展開－身の回りの世界についての理解の構成					森井	

第10回	言語発達の基礎一人との関わりから育まれる言葉	森井
第11回	言語を使った世界の広がり	森井
第12回	乳幼児期の学びに関わる理論	森井
第13回	乳幼児期の学びの過程と特性	森井
第14回	乳幼児期の学びを支える保育	森井
第15回	まとめ	森井
第16回	定期試験	森井
教科書		
教・書籍名1	保育の心理学	教・出版社名1 北大路書房
教・著者名1	藤崎 真知代・無藤 隆	教・ISBN1 978-4-7628-3152-2
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	エピソードで学ぶ 乳幼児の発達心理学	参・出版社名1 新曜社
参・著者名1	岡本依子・菅野幸恵・塚田-城みちる	参・ISBN1 978-4-7885-0907-8
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	対人関係論			担当者	栗田 喜勝		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2019～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年／ 2019～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2019～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	PS-CE-3-219		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年 / 3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう 						
到達目標	「社会における人と人との相互作用」と「社会的適応」をテーマとして、人々の具体的な日常生活場面における対人行動の特徴を理解することにより、よりよい人間関係のあり方について考察を深めることができるようになる。						
授業概要	心理学は一般的に「行動の科学」として認知されているが、その研究アプローチは多岐にわたる。中でも個人心理学は、環境との相互作用を行う個体（個人）に注目して知覚や感情、思考などについて科学的に究明してきたが、社会心理学は、個人と他者よの相互作用の観点から、社会の中の個人の行動を科学的に理解しようとする学問体系であるといえる。そこで本講では、個人、集団に影響を及ぼす種々の心理的要因について具体的に取り上げ考察する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション / その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	受講態度（質疑・意見表明等の有無）（40%）・期末試験（60%）で総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業中に呈示する自主学修課題については、学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。						
履修条件・注意事項	主体的、積極的に参加すること。 授業の中で使用する各種の資料や心理テスト類をファイルにより呈示するので受講の前にあらかじめよく目を通し（予習）、授業後は内容を確認し整理し（復習）、以後の学習に活用してほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前にファイル呈示する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。 2) 毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な参加と事前の準備、授業後の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。 3) 単位認定試験には、毎回の質疑応答内容を含めるので、予習復習の学修成果が大切である。						
オフィスアワー	個人研究室にて、基本的には木曜日4限、金曜日5限にPCオンライン・電話・メール等で実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。						
授業計画						担当者	
第1回	心理学と社会心理学					栗田喜勝	
第2回	社会心理学の対象と研究方法について					栗田喜勝	
第3回	社会的認知について					栗田喜勝	
第4回	社会的相互作用について					栗田喜勝	
第5回	社会的欲求と適応行動について					栗田喜勝	
第6回	人間関係とストレス					栗田喜勝	
第7回	人間関係とフラストレーション					栗田喜勝	
第8回	人間関係と認知					栗田喜勝	
第9回	印象形成について					栗田喜勝	

第10回	人間関係と感情	栗田喜勝	
第11回	社会的態度と行動について	栗田喜勝	
第12回	社会的態度（1）ステレオタイプ	栗田喜勝	
第13回	社会的態度（2）偏見	栗田喜勝	
第14回	態度変容について	栗田喜勝	
第15回	学修のまとめ	栗田喜勝	
第16回	期末試験	栗田喜勝	
教科書			
教・書籍名1	初回講義時および毎講義時に授業用資料をファイルにより呈示する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	ワークショップ人間関係の心理学	参・出版社名1	ナカニシヤ出版
参・著者名1	藤本忠明他編著	参・ISBN1	4-88848-833-9
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	デジタルメディアと社会			担当者	大谷 卓史		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2018～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～2019年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	AN-AN-1-108		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／12. つくる責任・つかう責任／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>映像をもとに、現代の情報技術とコミュニケーションをめぐる倫理的問題について学ぶ。 現代は、情報技術が広く社会に浸透し、人びとのコミュニケーションと行為を媒介する情報社会である。また、現代の情報技術はデジタルコンピューティングをベースとしているので、現代の社会はデジタル技術とデジタルメディアを行為とコミュニケーションの基盤とする社会と見ることができる。 本講義は、デジタルメディアを媒介とする行為・コミュニケーションの性質を理解し、これらの行為・コミュニケーションにおける規範がどのようなものであるべきか構想するために必要な情報倫理学の基本的な考え方を学ぶ。 到達目標は、学生が次の3つのことができるようになることである。 1. デジタルメディアが媒介する行為やコミュニケーションの性質を理解できるようになる。 2. 倫理学の基本的な考え方とその枠組みを理解できるようになる。 3. デジタルメディアが媒介する行為やコミュニケーションにおいて、どのような法的・倫理的問題が生じる可能性があるか理解できるようになる。 ラーニングアウトカムは、「デジタルメディアと情報社会の理解」および「デジタル社会への参加態度」である。</p>						
授業概要	<p>現代において、デジタルメディアが媒介する私たちの行為とコミュニケーションにかかわる諸問題について、仮想的事例や現実の事例から学ぶ。これらの諸問題に対する基本的なアプローチには、1980年代以降に発展してきた情報倫理学の考え方や枠組みを活用する。 具体的事例を通して、現代の生活や社会のさまざまな局面における情報技術の働きを知るとともに、情報技術が基盤となる現代社会における情報とコミュニケーションの倫理的問題について考察する。授業では適宜映像作品やドキュメンタリー、講演・シンポジウムの映像記録などを活用して、現代の問題を考察できるようにする。 講義の最終回に全体のまとめをおこなう。 毎回簡単な課題提出を求める。内容は自分の意見であれば自由で採点には関係がないが、授業内容を理解したうえで意見であるかどうかなどを課題で確認する。課題に対しては、次回以降授業担当者から返答を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義内における自主的な質問・発言やディスカッションへの積極的な参加態度、講義内容にかかわる教員からの質問への回答を30%の重みづけで評価する（受講態度）。また、課題等の提出物10%、試験の成績を60%として最終的に総合評価を行う。これらの3つの評価をバランスよく得ていることを単位認定（到達目標）の判断基準とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード	授業課題に関しては、次回授業でコメントシート（シャトルカード）や、授業内での言及・コメントなどによって						

バック方法	(原則課題回答者名は匿名)、フィードバックする。		
履修条件・注意事項	<p>授業に積極的に取り組む姿勢が単位取得には必要です。</p> <p>講義形式の場合も、授業中に受講者に対して質問をします。また、授業の最後には、授業内容に関連した課題を出しますので、解答してください。解答に対しては、次回以降の授業でコメントや解説をします。</p> <p>授業計画の内容は、理解度の状況に応じて変更になることがあります。</p>		
実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	<p>各回の講義に対して、次のように予習・復習をおこなうこと。</p> <p>予習：レジュメ等の資料を配布するので、指示に従って予習すること。約2時間。</p> <p>復習：授業内容と資料を要約し、授業内で提示された課題について自分自身で考え回答する。約2時間。</p>		
オフィスアワー	<p>春学期：毎週木曜日4時限目、14617研究室（大谷研究室）</p> <p>秋学期：毎週水曜日3時限目、14617研究室（大谷研究室）</p>		

授業計画		担当者
第1回	イントロダクション	大谷
第2回	なぜ情報倫理が必要なのか	大谷
第3回	倫理とは何だろうか（1）倫理学と倫理・倫理学で使われる言葉	大谷
第4回	倫理とは何だろうか（2）倫理学の基本的な立場	大谷
第5回	グーグル革命（ビデオ教材）視聴と解説	大谷
第6回	サーチエンジンの倫理	大谷
第7回	ソーシャルネットワーキングサービス	大谷
第8回	フェイクニュースと情報の信頼	大谷
第9回	プライバシーの基礎	大谷
第10回	個人情報保護制度とその思想	大谷
第11回	監視と見守り	大谷
第12回	著作権の法・技術・ビジネス	大谷
第13回	AI・ロボットの倫理	大谷
第14回	バーチャルリアリティ	大谷
第15回	まとめ	大谷
第16回	筆記試験（オンライン試験機能利用も）	大谷

教科書			
教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	改訂新版 情報倫理入門	参・出版社名1	アイ・ケイコーポレーション
参・著者名1	土屋俊監修、大谷卓史編著、江口聡、喜多千草、永崎研宣、村上祐子、坪井雅史、川口嘉奈子、吉永敦征、川口由起子著	参・ISBN1	4874923240
参・書籍名2	AIの倫理学	参・出版社名2	丸善出版
参・著者名2	クーケルバーグ著、直江清隆訳者代表	参・ISBN2	978-4621305881

授業科目名	スポーツ経営学			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年 / 2019～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年 / 2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-101		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	人々のスポーツのニーズや欲求に対して、スポーツを商品やサービスとして提供する営み（事業）をテーマに、スポーツ経営学の基礎的な理解を深め、実践領域としてスポーツ経営の現代的な課題への改善や解決方法を考えることができる。						
授業概要	スポーツ経営における経営資源をいかに有効に（効果的・効率的に）活用して、スポーツサービスの生産・提供を行い、スポーツ振興という社会的・文化的な貢献をしながら長期的なスポーツ経営体の発展を可能にするかという問題や組織的活動からいかにして協働をうまく展開し、組織目的の達成に個人の貢献を獲得できるかということが問題となる。本講義では、スポーツ経営学の基礎的な理解を深め、実践領域としての現代的課題を取り上げ解説する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	単位認定試験（40％）中間レポート（30％）毎回の小レポート（20％）受講姿勢（10％）評価の詳細は、第1回目の授業で説明する。なお、評価のために実施した小レポートは、授業でフィードバックするので単位認定試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義終了後の小レポートを通して、次の講義導入時にポイントをフィードバックする。						
履修条件・注意事項	<p>保健体育科教諭資格選択必修科目 （公財）日本スポーツ協会公認スポーツリーダー・アシスタントマネージャー受験資格必修科目</p> <p>パワーポイントの資料は配布しないので、ノート・ルーズリーフ等は必ず持参すること。授業に対する取り組みについては、厳しく指導する。</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	中・高校保健体育科教員として、また日本女子サッカーリーグ所属クラブ監督・ホームゲーム運営責任者としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場をはじめスポーツ指導現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、課す小レポートの内容及び授業内容を必ず2時間程度復習するとともに次のテーマについて予習すること。						
オフィスアワー	個人研究室（9405）にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション・スポーツ経営学とは！？					高藤	
第2回	スポーツ生活と運動生活					高藤	
第3回	スポーツ事業と経営資源					高藤	
第4回	エリアサービス事業					高藤	
第5回	プログラムサービス事業					高藤	
第6回	クラブサービス事業					高藤	
第7回	地域スポーツクラブ運営					高藤	
第8回	クラブ運営の具体的方法					高藤	
第9回	クラブ運営の具体的内容					高藤	

第10回	スポーツ組織のマネジメント		高藤
第11回	スポーツ事業のマーケティング		高藤
第12回	スポーツ経営の現代的課題（学校体育と地域スポーツクラブ）		高藤
第13回	スポーツ経営の現代的課題（学校体育）		高藤
第14回	スポーツ経営の現代的課題（地域スポーツクラブ）		高藤
第15回	スポーツ経営の現代的課題（民間スポーツクラブ）		高藤
第16回	単位認定試験		高藤
教科書			
教・書籍名1	体育・スポーツ経営学講義	教・出版社名1	大修館書店
教・著者名1	八代勉・中村平 編	教・ISBN1	4-469-26480-6
教・書籍名2	公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	教・出版社名2	(公財)日本体育協会
教・著者名2	(公財)日本体育協会 編	教・ISBN2	214K1T 214K2T 214K3T
参考書			
参・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツビジネス論 集中			担当者	高岡 敦史		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-102		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	<p>8. 働きがいも経済成長も / 10. 人や国の不平等をなくそう / 11. 住み続けられるまちづくりを / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>《テーマ》スポーツをビジネスとして展開することの拡がりを理解すること 《到達目標》多様化するスポーツビジネスを理解し、その基礎的な考え方を身に付け、自身で次世代のスポーツビジネスを構想できるようになること</p>						
授業概要	<p>多様化する今日のスポーツビジネスを概観し、スポーツの拡がりとともにビジネスとの結びつきがどのように変化してきたかを理解する。その上で、みるスポーツのビジネス、するスポーツのビジネス、スポーツを活用したビジネス、スポーツや地域の課題を解決するビジネスなどを解説する。 また、新たなスポーツビジネスを構想するグループワークを実施し、事業構想とビジネスモデルの構築、資源調達、組織づくり等を実践する。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/グループワーク/プレゼンテーション						
評価方法と割合	グループワークとその成果 (50%) , 期末レポート (50%) にて評価する						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業担当者との直接のやり取りでフィードバックする。						
履修条件・注意事項							
実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員はスポーツまちづくり会社の経営にも携わっている。				
事前学習・事後学習とその時間	グループワークに関連して調べ学習を要求することがある。						
オフィスアワー	授業時間外はメールにて対応する。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション/スポーツとは? ビジネスとは?					高岡	
第2回	多様化するスポーツビジネス/するスポーツのビジネス					高岡	
第3回	多様化するスポーツビジネス/みるスポーツのビジネス					高岡	
第4回	多様化するスポーツビジネス/スポーツを活用したビジネス					高岡	
第5回	多様化するスポーツビジネス/スポーツと地域の課題を解決するビジネス					高岡	
第6回	多様化するスポーツビジネス/これまでとこれから					高岡	
第7回	グループワーク: 事業構想・ビジネスモデルの構築①					高岡	
第8回	グループワーク: 事業構想・ビジネスモデルの構築②					高岡	
第9回	グループワーク: 事業展開に必要な資源の調達					高岡	
第10回	グループワーク: 事業展開に必要な組織					高岡	
第11回	グループワーク: プレゼンテーションの準備					高岡	
第12回	プレゼンテーション: 新しいスポーツビジネス構想①					高岡	
第13回	プレゼンテーション: 新しいスポーツビジネス構想②					高岡	
第14回	まとめ: 次世代のスポーツビジネスの考え方					高岡	
第15回	まとめ: スポーツとビジネスの未来					高岡	
第16回	単位認定レポート作成					高岡	
教科書							
教・書籍名1						教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	

教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツリーダーシップ論 集中			担当者	前田 信弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-103		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	「スポーツにおけるリーダーシップを理解する」をテーマとし、スポーツ集団・組織におけるリーダーシップの基礎知識を学び、それらの知見を実際のスポーツ現場で活用し、チームパフォーマンスを向上させる能力を習得できる。						
授業概要	スポーツ集団においてはリーダーの存在がパフォーマンスに大きな影響を及ぼす。まず、これまでのリーダーシップ研究の主な理論また心理学的な視点からリーダーシップについて基本的知識を学習する。また、それらをベースにリーダーシップを実際の現場で如何に発揮するかの能力を、これまでの事例分析、グループワーキング(現場で起こる様々な問題について課題発見・原因追求・解決方法)を通して獲得できるよう授業を行う。						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/グループワーク/プレゼンテーション						
評価方法と割合	取り組む姿勢・授業態度30% 課題発表(個人・グループワーキング)40% 試験30%						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	小テスト・レポート回収後、好事例の共有や解説(更なる施策、考え方など)を行う						
履修条件・注意事項	スポーツ現場における各々の「リーダーシップ」についてこれまでの経験についてまとめ参加すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	サッカー日本女子代表コーチとして、FIFA女子ワールドカップ、オリンピック、アジア大会など国際大会での活動経験 (公益財団法人)日本サッカー協会JFAコーチとして、様々なカテゴリーのユース選手育成の経験 (公益財団法人)日本サッカー協会JFA指導者養成コースでのインストラクターとしての経験				
事前学習・事後学習とその時間	復習しグループワーキングでいかせるよう必ずノートを作成(要点をまとめる)すること 授業前に前回の授業についての振り返りをおこなうため各授業ごとに各々考えを整理しておくこと						
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	ガイダンス					前田	
第2回	集団(チーム)についての理解					前田	
第3回	集団におけるリーダーの役割					前田	
第4回	リーダーシップのスタイル					前田	
第5回	リーダーシップ理論					前田	
第6回	現場でのリーダーシップ発揮にむけて					前田	
第7回	ビジョンを掲げる(現状の分析)					前田	
第8回	ビジョン実行にむけて(コミュニケーションスキル)					前田	
第9回	メンバーのやる気をひきだす(動機づけ)					前田	
第10回	メンバーを育てる(コーチング)					前田	
第11回	リーダーのテクニック(パワーをつかう)					前田	
第12回	グループワーキング1(課題抽出・ビジョン作成)					前田	
第13回	グループワーキング2(解決策の提示・プレゼン準備)					前田	

第14回	グループ発表1		前田
第15回	グループ発表2/フォローシップについて		前田
第16回	筆記試験		前田
教科書			
教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	リーダーシップに「心理学」を生かす	参・出版社名1	ダイヤモンド社
参・著者名1	ハーバードビジネスレビュー編集部	参・ISBN1	4-478-36085-5
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツマネジメント論			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-104		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	<p>8. 働きがいも経済成長も / 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう / 10. 人や国の不平等をなくそう / 17. パートナーシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	スポーツ現場におけるマネジメントをテーマとして、身体活動のみならず、ビジネス活動、文化活動など社会的活動としての価値を急速に高めつつあるスポーツの過程の知識を身につける。加えて、学生がスポーツの様々な場面において、効果的なマネジメントを行なうことができる。						
授業概要	現代ではスポーツに関わる様々な活動がビジネスとして行われるようになってきている。そして、これらのビジネスにおいて高度なマネジメントの知識と技能が要求されつつある。本講義では、スポーツマネジメントの基礎的概念についての理解を深め、マネジメントの基礎を習得するとともに、現代においてマネジメントがどのようにスポーツの場面で応用されているのかについて解説する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	単位認定試験（40％）中間レポート（30％）毎回の小レポート（20％）受講姿勢（10％）評価の詳細については、第1回目の授業において説明する。なお、評価のために実施した小レポートは、授業でフィードバックするので単位認定試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎回の講義終了後の小レポートの内容を通して、次回の講義導入時にポイントを説明する。						
履修条件・注意事項	<p>（公財）日本スポーツ協会公認アシスタントマネージャー受験資格必修科目</p> <p>パワーポイントの資料は配布しないので、ノート・ルーズリーフ等は必ず持参すること。授業に対する取り組みについては、厳しく指導する。</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、日本女子サッカーリーグ所属クラブ監督・運営責任者の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、スポーツマネジメント現場における現状や課題、必要とされる知識や能力について講義し、学生の理解を深める。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、課す小レポートの内容及び授業内容を必ず毎回2時間程度、復習するとともに次回のテーマについて予習すること。						
オフィスアワー	個人研究室（9号館4階）にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション・スポーツマネジメントとは！？					高藤	
第2回	スポーツとスポンサー					高藤	
第3回	スポーツマーケティング					高藤	
第4回	スポーツクラブにおけるマネジャーの役割（マネジャーとは）					高藤	
第5回	スポーツクラブにおけるマネジャーの役割（MGの位置づけ）					高藤	
第6回	アメリカのトップリーグのマネジメント					高藤	
第7回	ヨーロッパのトップリーグのマネジメント					高藤	
第8回	日本におけるプロ野球とプロサッカーリーグのマネジメント					高藤	
第9回	みるポーツのマネジメント					高藤	
第10回	プロ選手・プロクラブのマネジメント					高藤（外部講師）	
第11回	地域スポーツクラブのマネジメント					高藤（外部講師）	
第12回	スポーツビジネスにおけるマネジメント					高藤	
第13回	日本女子サッカーリーグ所属クラブのマネジメント					高藤（外部講師）	

第14回	スポーツ施設のマネジメント		高藤
第15回	総括・最終レポート		高藤
第16回			
教科書			
教・書籍名1	体育・スポーツ経営学講義	教・出版社名1	大修館書店
教・著者名1	八代勉・中村平 編	教・ISBN1	4-469-26480-6
教・書籍名2	公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	教・出版社名2	(公財)日本スポーツ協会
教・著者名2	(公財)日本スポーツ協会	教・ISBN2	214K1T 214K2T 214K3T
参考書			
参・書籍名1	使用しない(プリントを配布する)	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	社会スポーツ概論			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2019～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2019～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-105		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年 / 4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 10. 人や国の不平等をなくそう 						
到達目標	学生が、「社会スポーツの概念」及び「社会制度としての社会スポーツの実態」をテーマとし、それらについて地域のスポーツ指導者になるために必要な知識を習得するとともに、指導者としての能力をスポーツ指導現場において発揮できる。						
授業概要	現在スポーツは、特に先進諸国においては人々の社会生活の一部となり、きわめて高度に整備され機能している。しかしながら、学校体育や企業スポーツを中心にスポーツが普及・発展してきたわが国の社会スポーツは、1993年日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）開幕以降、文部科学省や日本体育協会、スポーツ競技団体を中心にようやく発展しつつある現状である。また、バブル経済の崩壊、リーマンショック以降、企業クラブが休・廃部が増加する一方、地域・市民を中心とした総合型地域スポーツクラブも増加傾向にある。本講義では、スポーツと社会に関わる様々なしくみや課題及び今後の展望を解説する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	単位認定試験（40％）中間レポート（30％）毎回授業終了後のプレゼンテーション（20％）受講姿勢（10％）評価の詳細については、第1回目の授業において説明する。なお、評価のために実施した小レポートは、授業でフィードバックするので単位認定試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義終了後の小レポートを通して、次回の講義導入時にポイントをフィードバックする。						
履修条件・注意事項	授業終了後の小レポート内容とともに自分なりの考察を毎回授業後、ノートにまとめておくこと。授業に対する取り組みについては、厳しく指導する。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	授業終了後、毎回2時間程度授業内容を必ず復習し、次回のテーマについて予習すること。						
オフィスアワー	個人研究室（9405）にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	社会スポーツの概念					高藤	
第2回	学校体育との相違点					高藤	
第3回	日本における社会スポーツ発展の歴史					高藤	
第4回	アメリカにおける社会スポーツ発展の歴史					高藤	
第5回	ヨーロッパにおける社会スポーツ発展の歴史					高藤	
第6回	日本における社会スポーツの現状					高藤	
第7回	社会スポーツ発展のための行政支援					高藤	
第8回	社会スポーツ発展のための企業支援					高藤	
第9回	FC吉備国際大学シャルムの実践を通じた地域貢献活動					高藤	
第10回	地域スポーツクラブ活動の現状と課題					高藤	
第11回	社会スポーツ発展のための地域住民とのタイアップ					高藤	
第12回	民間スポーツクラブの現状と課題					高藤	
第13回	プロスポーツの社会スポーツへの貢献と課題					高藤	

第14回	スポーツを通したまちづくり (地域スポーツクラブ)	高藤
第15回	スポーツを通したまちづくり (トップリーグクラブ)	高藤
第16回	単位認定試験	高藤
教科書		
教・書籍名1	スポーツのリスクマネジメント	教・出版社名1 ぎょうせい
教・著者名1	小笠原正・諏訪伸夫 編著	教・ISBN1 978-4-08838-8
教・書籍名2	スポーツ政策の現代的課題	教・出版社名2 日本評論社
教・著者名2	諏訪伸夫・井上洋一・齋藤健司・出雲輝彦 編	教・ISBN2 978-4-535-59514-0
参考書		
参・書籍名1	使用しない。(プリントを配布する)	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	体育・スポーツ行政論			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-106		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 11. 住み続けられるまちづくりを / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	「体育・スポーツ」と「行政」の関わり及びスポーツ振興における行政の役割をテーマに、学生が体育・スポーツ行政に関する基礎的知識を習得し、将来体育・スポーツ指導者としての能力が発揮できる。						
授業概要	現代社会においてスポーツ活動は社会の様々な分野で実施されているが、地域及び国家単位での社会的なスポーツ活動の成立には、行政の制度的な支援が必要不可欠である。特にスポーツ先進国といわれる北米、ヨーロッパ及び日本では、スポーツの普及振興に当たっては国家を中心とする強力な行政システムの支援が、スポーツの社会的発展の初期の段階においては顕著に認められている。また、これらの国や地域ではスポーツ活動が社会的に成熟した今日にあっても充実した制度とサービスで国民のスポーツ活動を手厚く支援している。本講義では、スポーツ先進国といわれる代表的な国のスポーツ行政の制度的発展とその運用の実態について歴史的に追跡し、それぞれの制度がその国のスポーツ振興にいかなる役割を果たし、またいかなる課題を提示したかについて検証するとともに、わが国の体育・スポーツ行政の歴史的発展と対比させ、その評価すべき点と問題点を明らかにし、21世紀におけるわが国のよりよいスポーツ振興のためにいかなる制度と行政サービスを充実させる必要があるかについて解説する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	単位認定試験（40％）中間レポート（30％）毎回の小レポート（20％）受講姿勢（10％）評価の詳細については、第1回目の授業において説明する。なお、評価のために実施した小レポートは、授業でフィードバックするので単位認定試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義終了後の小レポートを通して、次回の講義導入時にポイントをフィードバックする。						
履修条件・注意事項	<p>保健体育科教諭資格選択必修科目 （公財）日本スポーツ協会公認スポーツリーダー・アシスタントマネージャー受験資格必修科目</p> <p>パワーポイントの資料は配布しないので、ノート・ルーズリーフ等は必ず持参すること。授業に対する取り組みについては、厳しく指導する。</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	中・高保健体育科教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、課す小レポートの内容及び授業内容を必ず毎回2時間程度、復習するとともに次回のテーマについて予習すること。						
オフィスアワー	個人研究室（9405）にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション～体育・スポーツ行政とは！？					高藤	
第2回	地域におけるスポーツ振興方策と行政の関わり					高藤	
第3回	スポーツ行政のしくみ					高藤	
第4回	スポーツ競技団体の施策					高藤	
第5回	スポーツ基本法とスポーツ基本計画					高藤	
第6回	2000年以降のスポーツ振興に関する計画と戦略					高藤	
第7回	総合型地域スポーツクラブとは！？					高藤	
第8回	総合型地域スポーツクラブの育成と運営					高藤	

第9回	地域スポーツクラブの必要性と社会的意義	高藤
第10回	スポーツライフとクラブライフ	高藤
第11回	スポーツクラブのつくり方	高藤
第12回	地域におけるスポーツクラブとしてのスポーツ少年団	高藤
第13回	アメリカにおける体育・スポーツ行政	高藤
第14回	イギリスにおける体育・スポーツ行政	高藤
第15回	総括・最終レポート	高藤
第16回		

教科書

教・書籍名1	スポーツマネジメント	教・出版社名1	大修館書店
教・著者名1	原田宗彦・小笠原悦子	教・ISBN1	978-4-469-26669
教・書籍名2	公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	教・出版社名2	(公財)日本スポーツ協会
教・著者名2	(公財)日本スポーツ協会	教・ISBN2	214K1T 214K2T 214K3T

参考書

参・書籍名1	使用しない(プリントを配布する)	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツボランティア実習			担当者	太田 真司、羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-107		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	60	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	実習	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	△	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 11. 住み続けられるまちづくりを / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>「審判（レフェリー）」「運営（マネジメント）」等スポーツに関わるボランティアを行うことをテーマに、スポーツを支えることの大切さを体験するとともに、スポーツ現場の実態やしぐみ、対象者の特性を理解し、専門的スキルや思考力を向上させる。また、スポーツ少年団、クラブチーム、中学・高校運動部等でスポーツ指導実践を行うことにより、コーチングの大切さを体験するとともに、スポーツ現場の実態やしぐみ、対象者の特性を理解し、専門的スキルや思考力の向上等スポーツ現場において指導や運営ができる能力を養うことを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>「審判（レフェリー）」 協会・連盟など各スポーツ競技団体主催の公式大会における審判員として、実務経験を積む。</p> <p>「運営（マネジメント）」 協会・連盟など各スポーツ競技団体主催の公式大会における運営補助員として、実務経験を積む。 (例) インターハイ、国体ブロック予選等の審判員及び運営、Jリーグ・ファジアーノ岡山、日本女子サッカーリーグ・吉備国際大学シャルム岡山高梁のホームゲーム等の運営。</p> <p>「指導（コーチング）」 中学校、高校の運動部活動及び地域のスポーツ少年団などで、選手指導を体験し、スポーツ指導者としての実務経験を積む。 練習プランの作成、練習中の選手へのアドバイス、チーム全員に対するミーティング、試合における審判等を体験することにより、指導方法やコーチングの難しさや奥深さを学ぶ。</p> <p>上記のスポーツ実務を32時間（4日間）ずつ合計64時間（8日間）以上、体験し日誌を作成する。また、実習後、「実習を通して学んだこと」をテーマにパワーポイントを作成し、プレゼンテーションによる報告を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	実習先の指導担当者からの成績評価（50％）実習日誌・レポート（25％）プレゼンテーション（25％）。 なお、評価のために実施した日誌、レポート等は、授業でフィードバックするので、レポート・プレゼンテーション試験までに復習しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	指導実習並びに運営実習プレゼンテーション報告会の発表後、採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	<p>(公財) 日本スポーツ協会公認ジュニアスポーツ指導員受験資格必修科目</p> <p>実習前のオリエンテーション欠席者は、履修放棄とする。(必ず出席すること)</p> <p>実習期間中、茶髪・ピアス・喫煙等は厳禁。</p> <p>「吉備国際大学の学生」であることという自覚及び「学ばせていただいている」という気持ちで実習に臨むこと。</p> <p>実習後の日誌・レポート未提出者、報告会の欠席者は、履修放棄とする。</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	※実務経験のある教員による授業科目				

この科目は、学外実習で、実践的教育から構成された科目である。

事前学習・事後学習とその時間 「コーチング」「マネジメント」に関する文献や資料を事前に精読するとともに、毎回、実習前には課題をもって臨み実習後はその日の振り返りを行うこと。レポート試験、プレゼン試験は必ず行うので、必ず予習復習を行うこと。予習復習には、各2時間程度を要する。

オフィスアワー 火曜日 3限 (研究室) 9号館 9401

授業計画		担当者
第1回	指導実習：夏休みに3日×4時間の実習に参加する。	太田真司 羽野真哉
第2回	運営実習：3回×8時間の実習に参加する。	太田真司 羽野真哉
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
第17回		
第18回		
第19回		
第20回		
第21回		
第22回		
第23回		
第24回		
第25回		
第26回		
第27回		
第28回		
第29回		
第30回		
第31回		
第32回		

教科書

教・書籍名1	スポーツボランティア読本	教・出版社名1	悠光堂
教・著者名1	二宮雅也	教・ISBN1	978-4-906873-84-5
教・書籍名2	スポーツボランティアへの招待	教・出版社名2	世界思想社
教・著者名2	山口泰雄 編	教・ISBN2	4-7907-1052-1

参考書

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	ゲームプランニング論 集中			担当者	松原 良香		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-108		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	「競技力向上のためのゲームの分析、課題抽出、プランニングができるようになる」ことをテーマとする。サッカーをはじめ、あらゆるスポーツの競技力向上のためには、チームやゲームの分析により課題を抽出し、その課題をトレーニングやチームマネジメントに反映させることが重要である。サッカーを例に、指導者の現状やクラブマネジメントの実情を把握したうえで、講師が競技力向上のために実施した「ストライカー育成についての研究」や、実際に現場で指導にあたる指導者、クラブ経営者の話を参考に、現状分析、分析の方法、結果分析、考察、プランニングの一連の流れを学ぶとともに、選手の育成強化、教育、チームマネジメントについて習得することを到達目標とする。						
授業概要	アトランタ五輪サッカー日本代表で、現在はサッカー指導者やクラブ経営に従事する講師による集中講義。サッカー界での指導者のおかれている立場やマネジメントの現状について把握するとともに、サッカーの競技力向上を目的とした「ストライカー育成についての研究」を例に、課題抽出、現状分析、結果分析、考察、プランニング、実践、結果検証といった各種スポーツの競技力向上のための一連のプランニングを習得する。今後、日本や世界のスポーツ界において、競技力向上やスポーツ界発展のために何をすべきか、どう関わっていくのか、各自でビジョンを確立することを目指す。						
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業						
評価方法と割合	テーマである「競技力向上のためのゲームの分析、課題抽出、プランニングができるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、中間レポート、最終レポート、授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識習得状況を把握するための中間レポート(40%)、最終レポート(40%)、授業への積極的な参加度合いなどの受講姿勢(20%)を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	提出された中間レポート、最終レポートに対し、コメントのうえそれぞれにフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	毎回の授業終了後に、自分なりの考察を各自ノートにまとめること。 また、レポートの内容、考察を参考に、各自課題をもって次回の授業に臨むこと。 指定教科書を事前に読んでおくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	東海大学第一高等学校を卒業後、ウルグアイへ渡りプロデビューし、その後はジュビロ磐田や清水エスパルスなどのJリーグクラブや、ウルグアイ、クロアチア、スイスなど国内外を問わず12チームでプレー。1996年アトランタ五輪サッカー日本代表としてブラジル代表を破り、「マイアミの奇跡」と呼ばれている。2005年に現役を引退し、現在はサッカースクール・クラブの経営・指導する傍ら、サッカー解説者として活動中。JリーグOB会を2009年に設立し、副会長を2021年7月まで務めた。2010年には、JFA公認S級コーチに認定され、2015年11月にはJ3クラブ SC相模原の監督を務めた。2018年3月には筑波大学大学院 人間総合科学研究科スポーツ健康・システムマネジメント専攻の修士学位(体育学)を取得。				

事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている内容について、教科書を読み、理解できない点をまとめたうえで授業を受けること。 また事後学習としてレポート課題を出すので、決められた期日内に提出（または発表）すること。		
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。		
授業計画		担当者	
第1回	ガイダンス(授業の概要や進め方の説明、生徒の自己紹介)		松原良香
第2回	サッカー選手の現役～引退後のキャリア(指導者として)		松原良香
第3回	サッカー選手の引退後のキャリア(スクール・クラブ経営などのマネジメント)		松原良香
第4回	サッカー選手の引退後のキャリア(中学・高校サッカー部のマネジメント)		松原良香
第5回	サッカー指導者の現状(アマチュアクラブ、Jクラブの実例)		松原良香
第6回	サッカー指導の基本(カテゴリー別の特徴、町クラブでの指導)		松原良香
第7回	ゲームプランニングの方法(基礎編)		松原良香
第8回	ゲームプランニングの方法(実践編)		松原良香
第9回	競技力向上のための方法論(ストライカー育成研究：目的、研究結果)		松原良香
第10回	競技力向上のための方法論(ストライカー育成研究：考察1、結果分析)		松原良香
第11回	競技力向上のための方法論(ストライカー育成研究：考察2、提言)		松原良香
第12回	選手・子供の育成論(スポーツを通じて自立した主体性のある子どもを育てるための取り組み)		松原良香
第13回	スポーツ栄養学・コンディショニング		松原良香
第14回	町クラブサッカー指導者の実情(指導者による話)		松原良香
第15回	ゲームプランニング論の総括(授業全体のまとめ)		松原良香
第16回	レポート試験		松原良香
教科書			
教・書籍名1	ストライカーを科学するーサッカーは南米に学べ!ー(岩波ジュニア新書)	教・出版社名1	岩波書店
教・著者名1	松原良香	教・ISBN1	978-4-00-500904-6
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	サッカーレフェリーライセンス 集中			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-109		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・実習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	サッカーの競技規則を理解するとともに、サッカーのゲームにおける審判法を実践することをテーマに、新規取得者（審判資格未取得者）は、（公財）日本サッカー協会公認4級審判員の取得並びに3・4級資格取得者については来年度登録の更新するとともに、学生がサッカーの公式戦や練習試合等においてサッカー審判員として能力を身につけ活躍することができる。						
授業概要	サッカーの競技規則は、毎年、FIFA（国際サッカー連盟）から競技規則の変更が行われ、JFA（日本サッカー協会）を通じて、各地域及び都道府県、各チームに通達される。しかしながら、ワールドカップやオリンピック等の国際大会をはじめJリーグ等トップリーグにおいても、審判の誤審や競技規則の適用において、様々な問題が起こっている。本講義において、サッカーの競技規則及び「フェアプレーの精神」を理解するだけでなく、サッカーのゲームにおいて、実践を通して審判技術の向上を図る。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習／フィールドワーク						
評価方法と割合	競技規則テスト（45審判審判の実践（45％）受講態度（10％）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義で学んだ知識を実習において実践し、終了後「成果」及び「課題」を口頭及び書面でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	予習としてサッカー競技規則2021/2022を熟読するとともに、サッカーのゲーム観戦の審判員の動きを分析することにより復習する。 試合を通して審判の実践においては、心身ともにしっかりコンディショニングを行い臨むこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	（公財）日本サッカー協会公認審判員並びに公認審判インストラクター、国際サッカー審判員（プロフェッショナルレフェリー）並びに日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）審判インストラクターが担当する。				
事前学習・事後学習とその時間	日ごろからサッカーのレフェリーの動きや判定に興味・関心を持ち、ゲームを観戦すること。						
オフィスアワー	研究室（9号館4階）にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション（審判員制度と概要）					高藤	
第2回	審判員の心構え					高藤（外部講師）	
第3回	マナー、資質と能力について					高藤（外部講師）	
第4回	競技規則の解釈と適用 1（新シーズン競技規則変更点）					高藤（外部講師）	
第5回	試合における審判の実践 1（紅白戦・男子Avs.B）					高藤（外部講師）	
第6回	試合における審判の実践 2（紅白戦・男子Cvs.D）					高藤（外部講師）	
第7回	試合における審判の実践 3（紅白戦・女子Avs.B）					高藤（外部講師）	
第8回	試合における審判の実践 4（紅白戦・女子Cvs.D）					高藤（外部講師）	
第9回	競技規則の解釈と適用 2（主審の役割）					高藤（外部講師）	
第10回	競技規則の解釈と適用 3（副審の役割）					高藤（外部講師）	
第11回	競技規則の解釈と適用 4（プレーの開始および再開方法）					高藤（外部講師）	
第12回	競技規則の解釈と適用 5（オフサイド）					高藤（外部講師）	
第13回	試合における審判の実践 5（紅白戦・男子Avs.C）					高藤（外部講師）	
第14回	試合における審判の実践 6（紅白戦・男子Bvs.D）					高藤（外部講師）	

第15回	試合における審判の実践 7 (紅白戦・女子Avs.C)	高藤 (外部講師)	
第16回	競技規則テスト	高藤	
教科書			
教・書籍名1	サッカー競技規則 2021/2022	教・出版社名1	(公財) 日本サッカー協会
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2	サッカー競技規則 2022/2023	教・出版社名2	(公財) 日本サッカー協会
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	使用しない (プリントを配布する)	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎コーチング論			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-110		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 8. 働きがいも経済成長も / 10. 人や国の不平等をなくそう / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>人間は「心構え：心のクセ」が環境的外的要因によって消極的・否定的に涵養され内的な資質が押し殺されている事を学び、「この条件付け」を解放するコーチングの能力を身に付ける。</p> <p>環境が及ぼす暗黙の制限である「条件付け」はいつ、どのように、誰から外的影響を受けて心構えに涵養されていくのかを理解する。また、世界中の成功事例から、心構えが積極的・肯定的思考に涵養されていく事により、目標が実現していく事理解する。</p> <p>この条件付けを外す為に、まずは自分自身に「消極的、否定的思考」がある事を認識し「積極的・肯定的思考」に置き換える事で他者の心理を理解し、コーチングにて「解放」や「気づき」を与え進歩、成長、変化していく事ができることを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>条件付け：人間は環境に適応している」をテーマとして人間の潜在的な能力について、心理学、哲学、倫理学、病理学等の専門家から多角的な角度で学んでいく。加えて「条件付け」の要因である、学校生活における比較社会要因、実績のある経験者の言葉によるリスク等、外的要因が消極的、否定的思考を形成していることを理解する。「無限の可能性」について、自然の豊かさ、まだ解明されていない脳科学について「人間の凄さ」を歴史の変遷を踏まえて学んでいく。</p> <p>スポーツ選手のリーダーシップ成功映像、マズローによる欲求階層、フロイトの防衛機能の事例から人間のしくみを考察する。一枚の絵をグループ討論を主体とした方式により、人それぞれ価値観が違う事を学んでいく。</p> <p>教養面、社会面、健康面、家庭・経済面等による自己評価チェックを行い、自分自身の長所発見や自己改善の気づきとし自己を認識していく。チェック表から自分の価値観を理解し目標設定（目標の意味づけ）作業を行っていく。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL/グループワーク						
評価方法と割合	<p>「自分自身のコーチングコミュニケーションができる」の到達度について知識および能力を計るために、定期試験結果や毎回の授業レポートをレポートを通じて総合的に評価する。知識修得状況を把握するための定期試験（50%）毎回の授業におけるレポート（30%）、毎回の授業への積極的な参加態度（20%）を合計して総合評価する。</p> <p>なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートは、採点をして授業でフィードバックするので見なおしておくこと。						
履修条件・注意事項	（公財）日本スポーツ協会公認スポーツリーダー、ジュニアスポーツ指導員受験資格必修科目						
実務経験のある教員	該当する	内容	<p>※実務経験のある教員による授業科目</p> <p>この科目は、コーチングとしての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。</p>				
事前学習・事後学習とその時間	1) 毎回の授業でレポート課題を宿題とし、事前に身近に起こった人間関係についてレポート課題を作成し提出すること。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 試験は必ず行うので予習復習を行うこと。予習および復習には、各2時間程度を要する。						

オフィスアワー		火曜日 3限 (研究室) 9号館 9401	
授業計画			担当者
第1回	人間の潜在能力の豊かさ		太田真司
第2回	勝利者の欲望 外的モチベーションと内的モチベーション		太田真司
第3回	家族による条件付けと社会と組織による条件付け。		太田真司
第4回	過ちや失敗による条件付けと条件付けの方向付け		太田真司
第5回	条件付けと心構えについて		太田真司
第6回	ただ1つの目的と目標設定について		太田真司
第7回	目標の種類と内的モチベーション		太田真司
第8回	外的モチベーションについて		太田真司
第9回	積極的なセルフイメージの重要性について		太田真司
第10回	セルフイメージと独創性		太田真司
第11回	積極的肯定的宣言とコーチング法		太田真司
第12回	ビジュアル化とコーチング法		太田真司
第13回	習慣や心構えの形成と改革について		太田真司
第14回	反モチベーターと排除と置き換えのプロセスについて		太田真司
第15回	欲求階層と人生の意義と目的について		太田真司
第16回	筆記試験		太田真司
教科書			
教・書籍名1	担当者の作成資料により進める。		教・出版社名1
教・著者名1			教・ISBN1
教・書籍名2			教・出版社名2
教・著者名2			教・ISBN2
参考書			
参・書籍名1	適宜紹介する。		参・出版社名1
参・著者名1			参・ISBN1
参・書籍名2			参・出版社名2
参・著者名2			参・ISBN2

授業科目名	応用コーチング論			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年/ 2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-111		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3.主体的な学びと 論理的な思考	○	DP4. コミュニケー ション・表現力	○
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 10. 人や国の不平等をなくそう / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>創造的な聴き方の5原則を学び、聴き方を学ぶことで、効果的なオープンクエスチョンとクローズドクエスチョンを学び考察することができるようになる。四つの性格特性を学び、効果的なコーチングを理解する。また、意思決定の重要性、セルフイメージと自分の行動との結びつきについて学び、相手の状況、心理を理解するために効果的な質問と聴き方をしてコーチングができるようになることを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>「5W1Hを活用した質問を作り出し創造的な聴き方を理解する」をテーマとして、創造的な聴き方、効果的な質問のつくり方、意思決定プロセスを学び相互理解を深めるコーチングを身につける。成功したリーダーによる意思決定者の在り方、心構えについて考察しレポートしていく。特に4つの性格特性に合わせた関わり方を理解して実践することで、目標実現には、他の協力が不可欠であることを学ぶ。</p> <p>意思決定プロセスの原理原則と受講生それぞれによる過去の経験を比較して、自分自身に合った意思決定の在り方を見つけていく。加えて、自己評価によるアクションステップにより、自己認識を行い自分に合ったパーソナルなコーチング方法を見つけていく。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL/グループワーク						
評価方法と割合	知識修得状況を把握するための定期試験（50%）毎回の授業におけるレポート（40%）、毎回の授業への積極的な参加態度（10%）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートは、採点をして授業でフィードバックするので見なおしておくこと。						
履修条件・注意事項	（公財）日本スポーツ協会公認スポーツリーダー、ジュニアスポーツ指導員受験資格必修科目。毎回の授業の内容からレポート宿題を課す。次回の授業にて提出をすること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	<p>※実務経験のある教員による授業科目</p> <p>この科目は、サッカーコーチング指導者としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。</p>				
事前学習・事後学習とその時間	1) 毎回の授業でレポート課題を宿題とし、事前に身近に起こった人間関係についてレポート課題を作成し提出すること。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 試験は必ず行うので予習復習を行うこと。予習および復習には、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	火曜日 3限 研究室 9号館 (9401)						
授業計画						担当者	
第1回	コミュニケーションスキルについて					太田真司	
第2回	効果的なコミュニケーションの必要性					太田真司	
第3回	説得、折衝、交渉から見るコミュニケーションスキル					太田真司	
第4回	4つの特徴からみる心理的な性格特徴について					太田真司	
第5回	4つの性格特徴に合わせた人間関係づくり					太田真司	
第6回	チームマネジメントとセクショナリズムによる思考理解について					太田真司	
第7回	スポーツ組織に見るGMの役割とコミュニケーションについて					太田真司	

第8回	創造的な聴き方について	太田真司
第9回	エグゼグティブの管理能力について	太田真司
第10回	エグゼグティブに必要な質問力とコーチングについて	太田真司
第11回	人選とチーム編成について	太田真司
第12回	優れたチームメンバーを保つためのコミュニケーションについて	太田真司
第13回	エグゼグティブの生産性を最も高めるための権限移譲について	太田真司
第14回	パーソナリティと安定性について	太田真司
第15回	個人的カリスマの引力について	太田真司
第16回	筆記試験	

教科書

教・書籍名1	担当者の作成する資料により進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜紹介する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ心理学 集中E			担当者	倉藤 利早		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-112		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	学生がスポーツ心理学の基礎的知識に基づき、スポーツにおけるメンタルトレーニングの基礎理論の理解と基礎技能を習得し、スポーツ選手やスポーツ指導者等に対してスポーツメンタルトレーニングができるようになることを到達目標とする。						
授業概要	スポーツの心理的効用や心理的要因がスポーツのパフォーマンスに及ぼす影響など、スポーツにおける心理学を広く系統的に取り上げ考察する。スポーツ心理学の基本理念、スポーツとパーソナリティ、年齢別の心理的発達段階、トップレベルのスポーツ心理学などを実際の学校体育や社会体育等のスポーツ指導場面に即して学ぶ。また、メンタルトレーニング技法を学ぶ。そして、事例をもとにメンタルトレーニングプログラムを自ら作成し、プレゼンテーションを行なうことで実践力を身につける。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業内課題及びレポート等（学習到達目標に関する出題）を60%、発表（メンタルトレーニングプログラム）、ディスカッションへの参加を30%、受講態度を10%とする。詳しい評価方法は、最初の授業時間に説明する。なお、評価のために実施した課題及びレポートは授業にてフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	実施した課題及びレポートは授業にてフィードバックする。						
履修条件・注意事項	日本体育協会各種資格基礎科目 配布資料・参考書等による事前学習・事後学習を行うこと。 毎回プリントを配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、学校教育現場、スポーツ現場での実務経験を持つ教員がその経験を活かし、実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	発表・ディスカッションをおこなう参加型学習のため事前学習・事後学習が必要である。講義で配布した資料等は事前に目を通し受講すること。また事後学習は課題及びレポートを行い授業時に提出すること。						
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション、スポーツ心理学（理論）					倉藤利早	
第2回	スポーツ心理学の歴史的展開（理論）					倉藤利早	
第3回	心理サポートの必要性（理論）					倉藤利早	
第4回	スポーツメンタルトレーニング（理論）					倉藤利早	
第5回	メンタルトレーニング評価（理論・実技）					倉藤利早	
第6回	メンタルトレーニング技法①（理論・実技）-目標設定とモチベーション/リラクゼーション-					倉藤利早	
第7回	メンタルトレーニング技法②（理論・実技）-イメージトレーニング/集中力-					倉藤利早	
第8回	メンタルトレーニング技法③（理論・実技）-ポジティブシンキング/自信-					倉藤利早	
第9回	メンタルトレーニング技法④（理論・実技）-セルフワーク/仲間アップ/メンタルリハサル/条件付け/予測力、判断力-					倉藤利早	
第10回	アセスメント（理論）					倉藤利早	
第11回	スポーツメンタルトレーニングプログラム作成①					倉藤利早	

第12回	スポーツメンタルトレーニングプログラム作成②	倉藤利早	
第13回	スポーツメンタルトレーニングプログラム作成③	倉藤利早	
第14回	スポーツメンタルトレーニングプログラム作成④	倉藤利早	
第15回	スポーツメンタルトレーニングプログラム作成⑤	倉藤利早	
第16回	試験（実技試験）	倉藤利早	
教科書			
教・書籍名1	使用しない（必要に応じプリント等を配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2	スポーツメンタルトレーニング教本 三訂版（日本スポーツ心理学会 編）	教・出版社名2	大修館書店
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	サッカーコーチング論			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-113		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 10. 人や国の不平等をなくそう / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>「現場で起こる人間関係のチームマネジメントを理解する」をテーマとする。 プロサッカークラブにおけるチームマネジメント、プロクラブのスター選手、リザーブ選手、監督をとりまく会長やオーナー、スポンサー、コーチなどのマネジメントについて考察し、議論していくことができるようにする。そのため、プロクラブと地域スポーツクラブ組織と失敗事例を学び、自分自身の性格や協調性を再確認し実質的なものにする。</p>						
授業概要	<p>日本サッカー協会の理念「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。」を理解する。プロクラブに関わる、エグゼクティブやステークホルダー、GMやコーチ、医療トレーナーの基礎的な役割を理解し、それぞれに課される役割責任とセクショナリズムが起こる、人間関係の複雑な仕組みを考察する。 クラブの事例を示しながらその解決策を導き出す能力が身につくようグループ討論を主体としてファシリテーターを任命した方式による授業を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/ディベート/プレゼンテーション						
評価方法と割合	<p>テーマ「プロサッカークラブのマネジメントを理解する」の到達度について、知識及び能力を図るために、定期試験結果や授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には知識習得状況を把握するための定期試験（50％）、会話能力を発表する為の課題発表（30％）、授業中の学びの程度を判定するため、積極的な議論参加態度（20％）を合計して総合評価する。</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	<p>講義の初めに毎回1分間スピーチを行い各自のスピーチ評価を行う。 評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。</p>						
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントを配布するので、初回授業よりファイル（A4）を用意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、サッカー指導者としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前にマネジメント課題を出しそれについて調べてくること 2) 必ずノートを作成し復習をすること。3) 必ず試験は行うので、授業で議題となったテーマとポイントとなることを予習復習を行い、自分なりの考察力を養うこと。						
オフィスアワー	火曜日 3限 研究室 9号館 (9401)						
授業計画						担当者	
第1回	コミュニケーションスキル					太田真司	
第2回	指導者の資質と役割					太田真司	
第3回	プロクラブにおけるGMと監督の役割					太田真司	
第4回	選手選考（大学生/高校生）基準のマネジメント					太田真司	
第5回	リザーブ選手のマネジメント					太田真司	

第6回	チームのトッププレーヤーにおけるマネジメント	太田真司
第7回	プレーモデル（チームコンセプト）の重要性について	太田真司
第8回	プレーモデルとプレー原則について	太田真司
第9回	守備におけるプレーモデルとプレー原則	太田真司
第10回	攻撃におけるプレーモデル	太田真司
第11回	個人戦術の重要性とプレーモデル	太田真司
第12回	プレーモデルと個人戦術の分析	太田真司
第13回	世界のクラブから分析するプレーモデルと個人戦術	太田真司
第14回	プレーモデルの分析とプランニング	太田真司
第15回	プレーモデルとメソッドの重要性	太田真司
第16回	筆記試験	太田真司

教科書

教・書籍名1	担当者の作成資料により進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	サッカーコーチング実習			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-114		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	60	授業形態	実習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜1限 金曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>日本サッカー協会公認の指導者上級ライセンスを目指す上で「C級ライセンスでの実践経験を振り返る」をテーマとして、オーガナイズの意味を理解し、ガイディッドディスカバリーを意識したコーチングができる能力を身につける。</p> <p>特にゲーム分析、プランニング、フリーズコーチング並びにシンクロコーチングができるようにする。そのためゲーム分析に必要な「サッカーにおけるプレーの原則」を再確認し実質的なものにする。</p>						
授業概要	<p>講義にて、C級ライセンスで行った、ゲーム分析法、プランニングを行う。10分間の指導実践を行い、実践後は、グループ討論を主体とし、オーガナイズ、コーチングの改善点について考察し、指導がよりよくなるよう解決策を自ら考え、判断できるようになる。グループ討論が円滑にしていけるよう、ファシリテーター（促進役）を学生で行いより良い議論とは何かについて模索していく。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/ディベート/グループワーク/プレゼンテーション/実習						
評価方法と割合	<p>この実習では、指導実践テスト（50%）ファシリテーターとしてグループ討論を行い促進できていたか（20%）競技の取り組む姿勢、議論の積極性、協調性（20%）実技レベル（10%）で評価する。</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	指導実践後、採点をして授業でフィードバックするので見なおしておくこと。						
履修条件・注意事項	<p>原則サッカー経験者（経験のないものは別途相談）及び指導現場経験者であること。</p> <p>実技においてはサッカーのできる服装、サッカーシューズ、時計を持参すること。</p> <p>C級・D級コーチライセンスにおいて資格を取得してる事。また、資格取得をしようとする事。</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	<p>※実務経験のある教員による授業科目</p> <p>この科目は、S級コーチライセンスを保持しサッカー指導者としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、サッカー指導現場において実践的に役立つ授業及び実習を実施する</p>				
事前学習・事後学習とその時間	指導実践のプランニングとシュミレーション（実際に指導実践を練習できると理想）を行ってくること。						

オフィスアワー		火曜日 3限 研究室 9号館 (9401)	
授業計画			担当者
第1回	講義：ガイダンス		太田真司
第2回	講義：スポーツマネジメントと指導者の役割		太田真司
第3回	講義：分析法Ⅰとプランニング		太田真司
第4回	講義：分析法Ⅱとプランニング		太田真司
第5回	実技：シュートによる指導実践		太田真司
第6回	実技：コントロールによる指導実践		太田真司
第7回	実技：個人戦術オンザボールの守備		太田真司
第8回	実技：個人戦術オフザボールの守備		太田真司
第9回	実技：数的状況での判断（攻撃数的優位⇔守備数的劣位）		太田真司
第10回	実技：数的状況での判断（攻撃数的劣位⇔守備数的優位）		太田真司
第11回	講義：指導実践の振り返りとコーチング法		太田真司
第12回	講義：オーガナイズの意味とコーチング法		太田真司
第13回	ビルドアップにおける指導実践		太田真司
第14回	ウェービングにおける指導実践		太田真司
第15回	中盤での守備における指導実践		太田真司
第16回	積極的な守備における指導実践		太田真司
第17回	サイド突破における指導実践		太田真司
第18回	サイド突破（5レーン）における指導実践		太田真司
第19回	中央突破における指導実践		太田真司
第20回	5レーンと中央突破における指導実践		太田真司
第21回	カウンター攻撃に指導実践		太田真司
第22回	ソロカウンター攻撃における指導実践		太田真司
第23回	クロスの攻防における指導実践		太田真司
第24回	クロスの攻防と仕掛けにおける指導実践		太田真司
第25回	講義：指導実践の振り返り		太田真司
第26回	講義：戦術論Ⅰ・Ⅱ		太田真司
第27回	指導実践テスト（ビルドアップ）		太田真司
第28回	指導実践テスト（サイドと中央突破）		太田真司
第29回	実技：指導実践テスト（カウンター）		太田真司
第30回	実技：指導実践テスト（クロスの攻防）		太田真司
第31回	筆記試験		太田真司
第32回	閉校ガイダンス		太田真司
教科書			
教・書籍名1	担当者の作成する資料に基づいて講義を進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜紹介する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	C級コーチライセンス コラボ			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-115		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・実技実習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜1限 金曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 10. 人や国の不平等をなくそう / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>日本サッカー協会公認C級コーチライセンスにおいて学生は、日本サッカーの方向性とチームマネジメント、更には発育発達の全体像を理解することができる。</p> <p>講義では、ゲーム分析、戦術論、プランニング、コーチング法、発育発達と一貫指導を理論として学ぶことができる。</p> <p>指導の実践においては、受講生同士で指導を行い、「プレイヤーズファースト」「グッドスタンダード」「リスペクト」を念頭に置きながら指導ができるように実践する。特に本ライセンスでは、「Guided Discovery: 選手の発見を導く」コーチング法の導入であり、具体的には「サッカーのプレーの基準を与えながらも常に発問と選手への働きかけを繰り返しながら、選手の思考を停止させないコーチング」を身につける事が到達目標となる。</p>						
授業概要	<p>C級コーチライセンスは、公益財団法人日本サッカー協会公認コーチライセンスであり、吉備国際大学は教育機関で唯一無二の認定校となっております。C級コーチライセンスは、上級ライセンス及び多種目のライセンスへの登竜門であり成績優秀者は、公認B級ライセンス、フットサルC級コーチライセンス、フィジカルフィットネスC級ライセンス、GKレベル1ライセンスへの受講チャンスとなる。</p> <p>授業の構成は、講義と実技、通信レポートの提出となる。講義で学んだ理論を実技の中で実践し。まずは、インストラクター（教員）が模範となる指導実践をポイントを伝えながら行い受講生が体験する。学生が指導実践の後、インストラクターがファシリテーターとなりディスカッションを行う。ここでの議論が今後の指導における改善ポイントなり有為意義なものとなる。</p> <p>指導実践は、インストラクターが見本となった14テーマの指導を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/ディベート/グループワーク/プレゼンテーション/実習						
評価方法と割合	<p>日本サッカー協会のカリキュラムに基づいて、講義、実技講習を受けたのち通信教育課程、指導実践、筆記テストに合格した者にライセンスを与える。</p> <p>1. 指導実践（効果的なオーガナイズ、コーチングによって改善がみられたか） 50%</p> <p>2. 筆記テスト 20%</p> <p>3. 通信教育課程レポート 10%</p> <p>4. 取り組む姿勢（講義態度、指導実践、議論の積極性、協調性） 10%</p> <p>5. 実技レベル 10%</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	指導実践後個別にフィードバックを行う。なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
	<p>日本サッカー協会では、指導者資格の取得同様、レベルアップのための自己研鑽が必要と考え、リフレッシュ研修会を開催しています。C級コーチを合格した際に、登録指導者は、リフレッシュ研修会の受講やチームの指導等を通して、所定の期間内にリフレッシュポイントを獲得する必要があります</p> <p>必要ポイント数と獲得期限は、C級コーチで40ポイントを4年間で獲得する必要があります。</p>						

履修条件・注意事項	日本サッカー協会指導教本協会登録料（金額と支払い方法は初回授業オリエンテーションにおいて説明する） 原則サッカー経験者（経験のない方は別途相談）及び指導現場経験者であること。 ※怪我で実技ができない方は受講できません。 実技においてはサッカーのできる服装、サッカーシューズ、時計を持参すること。 D級コーチライセンスと同時履修		
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、C級コーチライセンスインストラクターの実務経験員が、その経験を活かを持つ教し、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	1) 予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に教科書を読むこと。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 指導実践のプランニングとシュミレーション（予習および実際に指導実践を練習できると理想）を行ってこること。また復習を行うこと。4) 予習および復習には、各2時間程度を要する。通信レポート、2つのレポート課題を学修し、秋学期最後の授業にて提出すること。		
オフィスアワー	火曜日 4限 研究室 9401		
		授業計画	担当者
第1回	開校ガイダンス		太田真司
第2回	講義：チームマネジメント		太田真司
第3回	講義：発育発達と一貫指導		太田真司
第4回	実技：数的状況 守備優位から攻撃劣位		太田真司
第5回	実技：数的状況 守備同位から攻撃同位		太田真司
第6回	実技：数的状況 守備劣位から攻撃優位		太田真司
第7回	講義：指導実践振り返り		太田真司
第8回	講義：戦術Ⅱ		太田真司
第9回	講義：分析Ⅱ		太田真司
第10回	講義：指導実践ガイダンス		太田真司
第11回	指導実践テスト（守備優位から攻撃劣位）		太田真司
第12回	指導実践テスト（守備と攻撃同位）		太田真司
第13回	指導実践テスト（守備劣位と攻撃優位）		太田真司
第14回	実技：指導実践テスト（テクニック）		太田真司
第15回	講義：閉校ガイダンス		太田真司
第16回	筆記試験		太田真司
第17回			
第18回			
第19回			
第20回			
第21回			
第22回			
第23回			
第24回			
第25回			
第26回			
第27回			
第28回			
第29回			
第30回			
第31回			
第32回			
教科書			
教・書籍名1	U-12指導指針	教・出版社名1	公益財団法人日本サッカー協会
教・著者名1	キッズU-10指導ガイドライン	教・ISBN1	
教・書籍名2	キッズU-8指導ガイドライン	教・出版社名2	公益財団法人日本サッカー協会
教・著者名2	キッズU-6指導ガイドライン	教・ISBN2	
参考書			

参・書籍名1	サッカー指導ビデオ実技編	参・出版社名1	公益財団法人日本サッカー協会
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	D級コーチライセンス コラボ			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-116		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・実技実習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜1限 木曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 10. 人や国の不平等をなくそう / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>日本サッカー協会公認D級コーチライセンスにおいて学生は、日本サッカーの方向性とチームマネジメント、更には発育発達の全体像を理解することができる。</p> <p>講義では、ゲーム分析、戦術論、プランニング、コーチング法、発育発達と一貫指導を理論として学んでいく。指導の実践においては、受講生同士で指導を行い、「プレイヤーズファースト」「グッドスタンダード」「リスパクト」を念頭に置きながらの指導ができるように実践していくことができるようになる。</p> <p>D級コーチの養成目標は、サッカー指導の考え方に触れていただき、子どもたちにサッカーの楽しさを伝えることができるようになること。</p>						
授業概要	<p>D級コーチライセンスは、公益財団法人日本サッカー協会公認コーチライセンスであり、吉備国際大学は教育機関で唯一無二の認定校となっております。アマチュアレベル（子ども中心）を対象とした指導者を養成すると同時に、子どもたちにサッカーの楽しさを伝えられる指導者を養成する。</p> <p>授業の構成は、C級コーチライセンスの内容を、子どもの指導を中心にまとめた形で取り組む。まずは、インストラクター（教員）が模範となる指導実践をポイントを伝えながら行い受講生が体験します。学生が指導実践の後、インストラクターがファシリテーターとなり、ディスカッションを行う。ここでの議論が今後の指導における改善ポイントなり有為意義なものとなる。</p> <p>特に本ライセンスでは、「Guided Discovery：選手の発見を導く」コーチング法の導入であり、具体的には「サッカーのプレーの基準を与えながらも常に発問と選手への働きかけを繰り返しながら、選手の思考を停止させないコーチング」を身につけるていく。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/ディベート/グループワーク/プレゼンテーション/実習						
評価方法と割合	<p>日本サッカー協会のカリキュラムに基づいて、講義、実技講習を受けたのち通信教育課程、指導実践、筆記テストに合格した者にライセンスを与える。</p> <p>1. 指導実践（効果的なオーガナイズ、コーチングによって改善がみられたか） 50%</p> <p>2. 筆記テスト 20%</p> <p>3. 通信教育課程レポート 10%</p> <p>4. 取り組む姿勢（講義態度、指導実践、議論の積極性、協調性） 10%</p> <p>5. 実技レベル 10%</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	指導実践後個別にフィードバックを行う。なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	<p>日本サッカー協会では、指導者資格の取得同様、レベルアップのための自己研鑽が必要と考え、リフレッシュ研修会を開催しています。D級コーチを合格した際に、登録指導者は、リフレッシュ研修会の受講やチームの指導等を通して、所定の期間内にリフレッシュポイントを獲得する必要があります。必要ポイント数と獲得期限は、D級コーチで40ポイントを4年間で獲得する必要があります。</p> <p>日本サッカー協会指導教本協会登録料を購入すること。（金額と支払い方法は初回授業オリエンテーションにおいて説明する）</p> <p>原則サッカー経験者（経験のない方は別途相談）及び指導現場経験者であること。※怪我で実技ができない方は</p>						

	受講できません。 実技においてはサッカーのできる服装、サッカーシューズ、時計を持参すること。 (C級コーチライセンスと同時履修) <input checked="" type="checkbox"/>		
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、D級コーチライセンスインストラクターの実務経験員が、その経験を活かを持つ教し、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	1) 予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に教科書を読むこと。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 指導実践のプランニングとシュミレーション（予習および実際に指導実践を練習できると理想）を行って来ること。また復習を行うこと。4) 予習および復習には、各2時間程度を要する。通信レポート、2つのレポート課題を学修し、秋学期最後の授業にて提出すること。		
オフィスアワー	火曜日 4限 研究室 9401		
授業計画		担当者	
第1回	講義：ガイダンス	太田真司	
第2回	講義：サッカーの競技精神	太田真司	
第3回	講義：メディカル	太田真司	
第4回	講義：GK法	太田真司	
第5回	実技：GKの指導	太田真司	
第6回	実技：ドリブル・スクリーン&ターン	太田真司	
第7回	実技：守備オンザボール	太田真司	
第8回	実技：守備オフザボール	太田真司	
第9回	実技：コントロールとシュート	太田真司	
第10回	講義：戦術Ⅰ	太田真司	
第11回	講義：分析Ⅰ	太田真司	
第12回	指導実践テスト（守備優位から攻撃劣位）	太田真司	
第13回	指導実践テスト（守備攻撃同位）	太田真司	
第14回	指導実践テスト（守備劣位から攻撃優位）	太田真司	
第15回	講義：指導実践振り返り	太田真司	
第16回	筆記試験	太田真司	
第17回			
第18回			
第19回			
第20回			
第21回			
第22回			
第23回			
第24回			
第25回			
第26回			
第27回			
第28回			
第29回			
第30回			
第31回			
第32回			
教科書			
教・書籍名1	U-12指導指針	教・出版社名1	公益財団法人日本サッカー協会
教・著者名1	キッズU-10指導ガイドライン	教・ISBN1	
教・書籍名2	キッズU-8指導ガイドライン	教・出版社名2	公益財団法人日本サッカー協会
教・著者名2	キッズU-6指導ガイドライン	教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	サッカー指導ビデオ実技編	参・出版社名1	公益財団法人日本サッ

			力一協会
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	トレーニング論			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-117		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	スポーツの指導者として、『スポーツ全般を対象にして、トレーニングの原則について学習する。』ことをテーマとし、指導はあくまで指導の対象となる者、つまり選手や生徒が主体である。指導対象者の基本的な条件、年齢、性別、目的、レベル等々が、存在する。学生はトレーニング実施に必要な解剖・生理学的原則などに立脚しつつ、バイオメカニクス的な理論、さらに今日では認知科学的及び脳科学的研究成果などを踏まえて行われる。トップアスリートを含めたアスリートのトレーニングから、健康づくりを目的としたトレーニングまで、指導方法論などが理解できるようになることを到達目標とする。						
授業概要	トレーニング学はスポーツ科学の進展と共に進化している。トレーニング自体は人間の有史以来存在すると言える。その時の時代性を反映した論理のもとに、人類の文化遺産として存続してきている。近代においては、約10年余りの年月の間、科学の発展に追随しつつ、トレーニングの近代的な理論が構築されてきた。体力諸要素をベースとして、トレーニング科学が発展してきたが、時代が進むとともに、脳-神経系に焦点と基礎を置くトレーニングも提示されてきている。こうした広範なトレーニングの理論を論じていく。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業時に課すレポート課題で30%、最終試験で70%の比率で評価を行う。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	指導者としてしっかりと知識をもとに指導できることを目的としているため、授業の復習や課題を十分に行うことを条件とする。						
実務経験のある教員	該当する	内容	スポーツクラブやアスリート強化の現場において、トレーニングを指導。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業時において、次回の授業内容に応じて、各自のスポーツ経験に基づく問題を見出す指示を行う。これによって、各自経験の見直しや情報収集を行う。授業後は、授業内容を受けて、望ましい在り方について考察し、時にレポートとして提出する。予習1コマ・復習1コマをそれぞれ行うこと。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					竹内研	
第2回	トレーニングとプラクティス					竹内研	
第3回	トレーニングの領域					竹内研	
第4回	トレーニングの原則					竹内研	
第5回	柔軟性のトレーニング					竹内研	
第6回	有酸素トレーニング					竹内研	
第7回	無酸素トレーニング					竹内研	
第8回	レジスタンストレーニング概論					竹内研	
第9回	ペリオダイゼーショントレーニング：筋肥大・筋力増大・パワー増大					竹内研	
第10回	スピード筋力とアスリート強化のトレーニング					竹内研	
第11回	スタビライゼーショントレーニング：体幹トレーニングの理論					竹内研	
第12回	コーディネーショントレーニングの理論					竹内研	
第13回	ゆるトレーニングの理論					竹内研	

第14回	呼吸・ボディワークの理論	竹内研
第15回	生涯スポーツトレーナー概論	竹内研
第16回	試験	竹内研
教科書		
教・書籍名1	生涯スポーツトレーナーアドバンスコーステキスト	教・出版社名1 株式会社M Jカンパニー
教・著者名1	竹内研	教・ISBN1
教・書籍名2	生涯スポーツトレーナー教本	教・出版社名2 公益財団法人日本健康スポーツ連盟
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	トレーニング実習			担当者	副島 斉子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-118		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	『健康維持増進,介護予防そしてスポーツ競技力向上など』をテーマとし、筋力トレーニング,ストレッチングを中心としたトレーニングが広く行われている。健康運動実践指導者及び健康運動指導士として必要な、これらのトレーニング実技を専門的なレベルで習得する。加えて、近年特に唱導され必要性が高まってきている、ポディーワークであり心身のリラクゼーション法として、ゆる体操及びゆるトレーニングを実習し、健康維持増進はもとより、心身のコンディショニングさらにスポーツ競技力向上に役立てられるようになることを到達目標とする。						
授業概要	筋力トレーニングに関しては、マシンを用いたトレーニング法を中心に、フリーウェイトを加えて、その正しい動作と負荷の設定ができるようになる。ストレッチングに関しては、スタティックストレッチングを中心に、その正しい動作とプログラミングができるようになる。健康維持増進や介護予防を目的としたゆる体操、場合によってはスポーツ競技力向上にも資することができるゆるトレーニングの実技を、指導者のリードに従って、適切に実施できるようになる。 この授業の担当者はトレーニング指導の実務経験を有する。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク/プレゼンテーション/実習						
評価方法と割合	実技に関する学習効果を実技試験によって評価する。加えて、逐次運動内容とそのプログラム作成に関するレポートを課して、その両者をそれぞれ50%ずつの比重で評価を行う。 評価のためのレポートは授業時にフィードバックする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した試験や課題の結果と内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	実技中の怪我などの防止のため、時計や装身具類は身に着けないこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	一般成人やスポーツ選手対象に、スポーツクラブ等で指導。				
事前学習・事後学習とその時間	各回の授業において、学修した内容を、自らの指導案として、授業後まとめておくこと。さらに次の授業時のねらいがしめされるので、あらかじめそれに応じた運動内容を各自で考えておくこと。 予習・復習はそれぞれ約2時間行うこと。						
オフィスアワー	火曜日4限、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					副島斉子	
第2回	スタティックストレッチングの基本					副島斉子	
第3回	上半身のスタティックストレッチング					副島斉子	
第4回	下半身のスタティックストレッチング					副島斉子	
第5回	スタティックストレッチングのプログラミング					副島斉子	
第6回	筋力トレーニングの基本					副島斉子	
第7回	マシンを使った筋力トレーニングの基本					副島斉子	
第8回	マシンを使った筋力トレーニングの発展					副島斉子	
第9回	マシンを使った筋力トレーニングのプログラミング					副島斉子	
第10回	フリーウェイトを使った筋力トレーニングの基本					副島斉子	
第11回	身体のコンディショニングとしてのピラティス					副島斉子	
第12回	基本的なゆる体操					副島斉子	
第13回	ゆる体操の発展とゆる筋トレ					副島斉子	
第14回	基本的なゆるトレーニング					副島斉子	

第15回	ゆるウォーク	副島斉子
第16回	試験	副島斉子
教科書		
教・書籍名1	スポーツのための筋力トレーニング練習メニュー120	教・出版社名1 池田書店
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	体力学			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-201		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	体力を広く捉え、健康に関連した体力の概念を主として、その内容・構造を理解する。運動処方基礎として、体力の構成要素について専門的に学び、健康と体力、ひいては運動の必要性が理論的に理解できるようになる。						
授業概要	現代の社会環境や、現代人の生活状況が、体力にどのように影響を与えているか。また、発育発達過程で、体力はどのように変遷していくかについて論じる。さらに、老化と体力の関連性、疾病と体力の関連性にまでテーマを広げ、障害者の体力の問題にも焦点を当てる。体力についてその要素を、身体及び精神の両面に関わる、相互の連関において理解し、かつ疾病や障害との関連性を学習する。体力の捉え方や意味についての歴史の変遷について論じ、過去から現代にいたる日本人の体力の推移と、それに関わる要因と健康問題の関連性が理解できるようになる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	受講態度20%、単位認定試験80%による総合評価を行う。単位認定試験は採点后各自個別指導を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	複数回に分けて、学習理解度確認のための課題や小テストをユニバーサルサポートを用いて実施する。実施した課題および小テストで得られた回答の一部は、必要に応じて講義内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	健康運動指導士資格認定試験受験資格必須科目 健康運動実践指導者資格認定試験受験資格必須科目 (公財)日本スポーツ協会公認スポーツリーダー、スポーツプログラマー、ジュニアスポーツ指導員受験資格必修科目 毎回の授業時において配布する資料や、各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習また指示された予習を行うこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習として授業計画に記載されている部分について事前に参考資料等を約2時間読みまわすこと。復習として毎回の授業を自分でまとめ必要ところは繰り返し約2時間読んで暗記すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室(9402研究室)において、毎週月曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	体力の定義：健康に関連した体力					高原皓全	
第2回	体力の構成要素とその測定方法					高原皓全	
第3回	身体組成とその評価及び健康との関連性					高原皓全	
第4回	身体活動度と健康・体力					高原皓全	
第5回	筋力とその評価及び健康との関連性					高原皓全	
第6回	全身持久力とその評価及び健康との関連性					高原皓全	
第7回	柔軟性とその評価及び健康との関連性					高原皓全	
第8回	調整力とその評価及び健康との関連性					高原皓全	
第9回	発育発達段階と体力					高原皓全	
第10回	加齢と体力の減退					高原皓全	
第11回	女性の体力：男女の比較					高原皓全	
第12回	障がい者の体力					高原皓全	
第13回	スポーツマンと体力					高原皓全	
第14回	こころの健康と体力					高原皓全	
第15回	生活習慣と体力					高原皓全	

第16回	単位認定試験	高原皓全
教科書		
教・書籍名1	資料を配布する	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	体力学演習Ⅰ			担当者	山口 英峰、天岡 寛、高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-202		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	メディカルチェックの意義と内容、体力の測定方法や健康調査について、その理論と実際を学習する。身体活動度の評価方法、身体組成の評価方法を学習する。そして、的確に健康・体力の評価が行えて、そのうえで運動実施に関する相談を受けかつ指導ができるようになる。						
授業概要	健康や体力に関する測定・評価について、理論面の講義にもとづき、体力測定、検査、調査法などについて、実技・演習を行う。測定、検査、調査法の妥当性や再現性などについて理解し、対象者や目的に応じた評価方法の選択と、正しい実施方法を習得する。それらのデータを統計学的方法によって分析する基本を学び、これらによる診断・評価を踏まえながら、有酸素運動の運動種目であるジョギングウォーキングの実践方法・指導方法を学習す						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習／フィールドワーク						
評価方法と割合	受講態度20%、最終レポート80%により総合的に評価を行う。最終レポートは採点后各自個別指導を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストや課題は、講義内でフィードバックすることから、最終レポート作成までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	健康運動指導士資格認定試験受験資格必須科目 健康運動実践指導者資格認定試験受験資格必須科目 （公財）日本スポーツ協会公認スポーツプログラマー受験資格必須科目 毎回の授業時において配布する資料や、各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習また指示された予習を行うこと。 適宜、先回の授業内容について、レポートの作成・提出を行う。						
実務経験のある教員	該当する	内容	健康運動指導士				
事前学習・事後学習とその時間	予習として授業計画に記載されている部分について事前に参考資料等を約2時間読みままとめておくこと。復習として毎回の授業を自分でまとめ必要なところは繰り返し約2時間読んで暗記すること。						
オフィスアワー	担当教員別 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					担当教員全員	
第2回	体力測定の意義と目的					担当教員全員	
第3回	メディカルチェックの必要性和目的					担当教員全員	
第4回	メディカルチェックの内容					担当教員全員	
第5回	身体活動度の評価方法：質問紙法					担当教員全員	
第6回	身体活動度の評価方法：その他の方法					担当教員全員	
第7回	身体組成と健康およびその評価					担当教員全員	
第8回	皮下脂肪厚測定による身体組成評価					担当教員全員	
第9回	その他の方法による身体組成評価					担当教員全員	
第10回	体力測定の実際：新体力テスト					担当教員全員	
第11回	体力測定の実際：エクササイズガイド					担当教員全員	
第12回	体力測定の計画					担当教員全員	
第13回	体力測定の実施					担当教員全員	
第14回	体力測定の評価					担当教員全員	
第15回	体力プロフィールの作成					担当教員全員	
第16回							

教科書			
教・書籍名1	資料を配布する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	体力学演習Ⅱ			担当者	山口 英峰、天岡 寛、高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-203		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	体力の測定方法について、その理論と実際を学習する。実験室的な測定から、フィールドでの測定、質問紙による調査など、測定条件や目的に応じた測定方法を学習する。さらに、中高齢者に特化した測定・特に生活体力に焦点を当てたADL評価と関連させた測定・評価方法を学習する。そして、対象者に適合した体力の評価ができるようになる。						
授業概要	測定や検査の診断・評価について理解する。そのうえで、体力の測定方法が正しく実施できる技能を習得する。さらに、健康づくりの上での重要な対象者である、中高年齢者に適した体力評価と、その結果の活用の仕方を学ぶ。各体力要素ごとにその評価方法の理論的な理解と、実際の評価の実施方法を学習する。実際の指導現場における測定方法であるフィールドテストを中心に、現代において特に重要視される目的や対象者に対する評価方法が正しく実施できて、評価・診断できる能力を養う。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業中の課題提出、小テストやレポート提出で50%、最終レポートで50%の配分によって評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストや課題は、講義内でフィードバックすることから、最終レポート作成までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	健康運動指導士資格認定試験受験資格必須科目 （公財）日本スポーツ協会公認スポーツプログラマー受験資格必須科目 体力学演習Ⅰを履修すること。健康運動実践指導者受験資格科目ではないが、健康運動実践指導者を受験する学生は履修することが強く望まれる。 毎回配布する資料やノートの復習を、十分に行うこと。先回の内容について、適宜レポートの作成・提出を行う。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習として授業計画に記載されている部分について事前に参考資料等を約2時間読みまわしておくこと。復習として毎回の授業を自分でまとめ必要などところは繰り返し約2時間読んで暗記すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（1921研究室）において、毎週水曜日1限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	検査・測定結果の理解と効果判定					担当者全員	
第2回	形態、体型の測定と評価					担当者全員	
第3回	筋力の測定と評価（新体力テストを含め）					担当者全員	
第4回	パワーの測定と評価（新体力テストを含め）					担当者全員	
第5回	柔軟性の測定と評価（新体力テストを含め）					担当者全員	
第6回	有酸素能力の測定と評価（新体力テストを含め）					担当者全員	
第7回	無酸素能力の測定と評価（新体力テストを含め）					担当者全員	
第8回	一般成人対象のフィールドテスト：筋力					担当者全員	
第9回	一般成人対象のフィールドテスト：有酸素能力					担当者全員	
第10回	一般成人対象のフィールドテスト：調整力					担当者全員	
第11回	高齢者の体力特性と測定の留意点					担当者全員	
第12回	高齢者の持久力評価					担当者全員	
第13回	高齢者の筋力評価					担当者全員	
第14回	介護予防のための体力評価					担当者全員	

第15回	最終レポート作成	担当者全員	
第16回			
教科書			
教・書籍名1	資料を配布する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	運動処方			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-204		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	「現場で役に立つ運動処方」をテーマとする。運動処方の理論だけでなく、現場で役立つ実践方法の基礎を理解することができる。						
授業概要	本講義では、トレーニングについての基礎的な理解を深め、具体的な運動処方の方法を学ぶ。運動処方では、薬の処方と同様、間違った運動を処方することは大変危険である。正しい知識を身につけ、子どもから高齢者まで様々な体力レベルに応じた運動処方ができるよう、トレーニングの原則や方法を熟知しておくことが重要である。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	受講態度20%、単位認定試験80%による総合評価を行う。単位認定試験は採点后各自個別指導を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	複数回に分けて、学習理解度確認のための課題や小テストをユニバーサルサポートを用いて実施する。実施した課題および小テストで得られた回答の一部は、必要に応じて講義内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 「日本スポーツ協会関連資格認定試験受験資格 共通科目（共通Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ）」必須科目 授業時に配布する資料や各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習及び指示された予習を行うこと。 適宜、理解度確認レポートの作成・提出を行う。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習として授業計画に記載されている部分について事前に参考書等を約2時間読みままとめておくこと。復習として毎回の授業を自分でまとめ必要なところは繰り返し約2時間読んで理解すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9402研究室）において、毎週月曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	運動処方とは					高原皓全	
第2回	運動不足と生活習慣病					高原皓全	
第3回	トレーニング概論					高原皓全	
第4回	トレーニングの原理・原則					高原皓全	
第5回	トレーニング条件と反応・トレーニング強度					高原皓全	
第6回	筋力と筋量増強のトレーニング条件とその効果					高原皓全	
第7回	筋パワーと筋持久力トレーニングの条件とその効果					高原皓全	
第8回	全身運動によるエアロビクトレーニング					高原皓全	
第9回	減量とトレーニング					高原皓全	
第10回	加齢に伴う体力の自然減退とトレーニング					高原皓全	
第11回	子どもと運動					高原皓全	
第12回	高齢者と運動					高原皓全	
第13回	運動プログラムの基本原則					高原皓全	
第14回	運動プログラム作成の基礎					高原皓全	
第15回	運動プログラム作成の応用					高原皓全	
第16回	単位認定試験					高原皓全	
教科書							
教・書籍名1	健康運動実践指導者養成用テキスト				教・出版社名1	健康・体力づくり事業財団	
教・著者名1	健康・体力づくり事業財団				教・ISBN1	ISBNなし	

教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	運動処方演習Ⅰ			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-205		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	『神経筋系の作業能力（筋力・柔軟性）を向上させるための運動プログラム』をテーマとして、学生はプログラムを作成したうえで、各種運動器具を用いて行う運動、あるいは特別な器具を用いることなく行う運動のプログラムの作成の仕方を学び、指導することができるようになることを到達目標とする。						
授業概要	健康・体力の維持向上、老化の防止、痩身などを目的とした運動処方の実際を学ぶ。目的別運動処方の作成から実施の実際を学習する。特に、生活習慣病の予防、転倒防止などを対象にした介護予防などの目的で行われる運動の基本となる、筋力向上や筋肥大、筋持久力向上をねらいとした運動処方の実際について学習する。さらに、ウェイトトレーニング（レジスタンストレーニング）実施の際の、動作に関わる注意点や、指導上の留意点について、実際に役立つ形で学ぶ。 この授業の担当者は、健康運動指導の実務経験を有する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業中の課題提出、小テストやレポート提出で50%、最終レポートで50%の配分によって評価する。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	健康運動指導士資格認定試験受験資格必須科目 健康運動実践指導者資格認定試験受験資格必須科目 (公財)日本スポーツ協会公認スポーツプログラマー受験資格必須科目 毎回の授業時において配布する資料や、各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習また指示された予習を行うこと。 適宜、先回の授業内容について、レポートの作成・提出を行う。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	運動処方の基礎となる人間の身体や体力に関する科目の内容を、毎回の授業内容に照らし合わせて、予習しておくこと。さらに、授業後は、学んだことを実践して、実技力として習得すること。逐次実技試験を行う。 予習1コマ・復習1コマをそれぞれ行うこと。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室にて						
授業計画						担当者	
第1回	warm upとwarm downの方法					竹内研	
第2回	isometricsの基本					竹内研	
第3回	isometricsの運動プログラム					竹内研	
第4回	isotonicsの基本					竹内研	
第5回	isotonicsの発展					竹内研	
第6回	isotonicsの応用					竹内研	
第7回	stretchingの実際					竹内研	
第8回	stretchingの運動プログラム					竹内研	
第9回	基本的なウェイトトレーニングのプログラム					竹内研	
第10回	ウェイトトレーニングの変数					竹内研	
第11回	ウェイトトレーニングのシステム					竹内研	
第12回	サーキットトレーニング					竹内研	

第13回	目的別ウェイトトレーニングのプログラム	竹内研
第14回	高齢者を対象としたウェイトトレーニングのプログラム	竹内研
第15回	脳科学から見た運動処方	竹内研
第16回		
教科書		
教・書籍名1	健康運動指導士養成講習会テキスト	教・出版社名1 健康・体力づくり事業財団
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2	生涯スポーツトレーナーアドバンスコーステキスト	教・出版社名2 株式会社MJカンパニー
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	運動処方演習Ⅱ			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-206		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	学生は『呼吸・循環器系の作業能力を向上させるための運動プログラム』をテーマとし、プログラムを作成したうえで、目的に応じた運動プログラムの作成の仕方を学び、指導することができるようになることを到達目標とする。						
授業概要	健康・体力の維持向上, 老化の防止, 痩身などを目的とした運動処方の実際を学ぶ。介護予防, 生活習慣病予防など、目的別運動処方の作成と実施の仕方の実際を学習したうえで、運動行動や習慣を改善するアプローチについて学習する。昨今重要視されてきたメタボリックシンドロームやロコモティブシンドローム、さらにはメンタルヘルスの改善においても、有酸素運動を中心とした運動プログラムは重要である。こうした目的で行われる運動指導の実際上の留意点についても学習する。 この授業の担当者は、健康運動指導の実務経験を有する。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業中の課題提出, 小テストやレポート提出で50%、最終レポートで50%の配分によって評価する。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	健康運動指導士資格認定試験受験資格必須科目 (公財) 日本スポーツ協会公認スポーツプログラマー受験資格必須科目 運動処方演習Ⅰを履修すること。健康運動実践指導者受験資格科目ではないが、健康運動実践指導者を受験する学生は、履修することが強く望まれる。 毎回の授業時において配布する資料や、各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習また指示された予習を行うこと。 適宜、先回の授業内容について、レポートの作成・提出を行う。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	運動処方の基礎となる人間の身体や体力に関する科目の内容を、毎回の授業内容に照らし合わせて、予習しておくこと。さらに、授業後は、学んだことを実践して、実技力として習得すること。 予習1コマ・復習1コマをそれぞれ行うこと。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室にて						
授業計画						担当者	
第1回	aerobic exerciseの運動処方の基本					竹内研	
第2回	aerobic exerciseの目的別プログラム					竹内研	
第3回	一般的な運動プログラムの作成					竹内研	
第4回	子供の運動プログラム					竹内研	
第5回	高齢者のaerobic exerciseプログラム					竹内研	
第6回	介護予防のための運動					竹内研	
第7回	肥満予防と改善のための運動プログラム					竹内研	
第8回	ロコモティブシンドロームと運動					竹内研	
第9回	女性のための運動プログラム					竹内研	
第10回	障害者のための運動プログラム					竹内研	

第11回	高血圧の運動指導	竹内研
第12回	糖尿病予防と改善のための運動指導	竹内研
第13回	その他の疾患の運動指導	竹内研
第14回	メンタルヘルスのための運動指導	竹内研
第15回	最終レポート作成	竹内研
第16回		

教科書		
-----	--	--

教・書籍名1	健康運動指導士養成講習会テキスト	教・出版社名1	健康・体力づくり事業財団
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2	生涯スポーツトレーナー教本	教・出版社名2	公益財団法人日本健康スポーツ連盟
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書		
-----	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ医学Ⅰ 集中A			担当者	川上 照彦		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-207		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	スポーツ医学を生理学、整形外科学、内科学等の観点から理解し、スポーツ医学の重要性を理解する。学生はスポーツ時に起こりやすい外傷や障害を理解し、それぞれの応急処置について学ぶことができる。						
授業概要	競技スポーツの特性と健康スポーツの大切さについて事例をあげて説明する。また、様々な障害について事例をあげ、その予防や処置について基礎的なことを学ぶ。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習						
評価方法と割合	講義姿勢(10%)、発表、ディスカッションへの参加(10%)、定期試験(80%)から評価する。なお、講義内の発表評価に関しては講義内にフィードバックすることから、発表内容について試験までに見直しが必要である。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題や試験のフィードバックは講義時間内にて行う。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 「日本スポーツ協会公認スポーツリーダー」「スポーツプログラマー」受験資格必須科目 講義項目ごとに資料を配布する。資料は図表が主となるので、理解のためには講義への出席が重要となる。すべてにおいて、主体的な姿勢で臨むこと。分からないことについては積極的に質問するよう取り組むこと。提出物の期限は厳守すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	日本体育協会の公認スポーツドクター、日本整形外科学会の専門医としてスポーツ選手の治療に携わると共に、高知県スポーツ医科学員会の委員長、高知県メディカルチェック委員会の委員としてスポーツ行政にも参加している。				
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が必要である。予習として、毎回の授業において問題提起と討論が可能ないように配布されたプリントの指定されたページを熟読してくる。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。なお、予習・復習には2時間を要する。						
オフィスアワー	非常勤講師のため、講義後の時間をオフィスアワーとする。						
授業計画						担当者	
第1回	内課的障害と予防					川上照彦	
第2回	スポーツと内科的障害					川上照彦	
第3回	外科的障害 上肢					川上照彦	
第4回	外科的障害 下肢					川上照彦	
第5回	外科的障害 脊椎					川上照彦	
第6回	外科的処置1) 全身性障害：実習含む					川上照彦	
第7回	外科的処置2) 局所外傷：実習含む					川上照彦	
第8回	救急蘇生法：実習含む					川上照彦	
第9回	メディカルチェック					川上照彦	
第10回	健康と障害について					川上照彦	
第11回	スポーツ外傷とその予防					川上照彦	
第12回	スポーツ障害とその予防					川上照彦	
第13回	救急処置（アイシング・テーピング）：実習含む					川上照彦	
第14回	熱中症					川上照彦	

第15回	ドーピングについて	川上照彦
第16回	筆記試験	川上照彦
教科書		
教・書籍名1	使用しない(資料を配布する)	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	スポーツ医学Ⅱ 集中E			担当者	川上 照彦		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-208		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	運動負荷試験の基礎として検査の目的、手順、方法および判定について理解する。学生は実践を通して、エルゴメーターを用いた運動負荷試験を行うことができる。						
授業概要	運動負荷試験の基礎となる運動負荷の様式、手順ならびに判定について様々な生理学的なパラメータを用いて実践し、理解を深める。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	講義姿勢(10%)、発表、ディスカッションへの参加(10%)、レポート課題(10%)、定期試験(70%)から評価する。なお、評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題や試験のフィードバックは講義時間内に行う。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 講義項目ごとに資料を配布する。資料は図表が主となるので、理解のためには講義への出席が重要となる。						
実務経験のある教員	該当する	内容	日本体育協会の公認スポーツドクター、日本整形外科学会専門医としてスポーツ障害患者の治療に携わると共に、高知県医科学員会委員長、高知県メディカルチェック委員会の委員としてスポーツ行政、スポーツ選手のコンディショニングに関わっている。				
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が必要である。予習として、毎回の授業において問題提起と討論が可能なように配布されたプリントの指定されたページを熟読してくる。復習として、毎回課題を出すので、次の授業時に発表すること。なお、予習・復習には2時間を要する。						
オフィスアワー	非常勤講師のため、講義後の時間をオフィスアワーとする。						
授業計画						担当者	
第1回	メディカルチェックについて					川上照彦	
第2回	健診結果の見方について					川上照彦	
第3回	服薬者の運動プログラム					川上照彦	
第4回	安静時の心電図について					川上照彦	
第5回	運動負荷試験とは					川上照彦	
第6回	運動負荷試験の実際					川上照彦	
第7回	運動負荷試験実習(1)トレッドミル測定の実際(実習含)					川上照彦	
第8回	運動負荷試験実習(2)エルゴメーター測定の実際(実習含)					川上照彦	
第9回	運動負荷試験実習(3)ホルター心電図の実際(実習含)					川上照彦	
第10回	運動負荷試験実習(4)テレメータ心電図の実際(実習含)					川上照彦	
第11回	運動負荷試験実習(5)フィールド測定(実習含)					川上照彦	
第12回	運動負荷試験実習(6)評価と解析					川上照彦	
第13回	運動負荷試験実習(7)潜水反射試験					川上照彦	
第14回	運動時における一過性の循環器応答について					川上照彦	
第15回	運動プログラム作成について					川上照彦	
第16回	単位認定試験(筆記試験)					川上照彦	
教科書							
教・書籍名1	使用しない(資料を配布する)					教・出版社名1	

教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	応用スポーツ論			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-209		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	運動プログラム作成をテーマとする。学生は運動プログラム作成の基本的な知識と理論を理解することで、一般の運動処方ならびに内科的疾患を持っている方への運動処方の基礎を学ぶことができる。						
授業概要	健康の保持・増進にはスポーツなどの身体活動の実践が有効である。本講義では、幅広い年齢層におけるスポーツ実践についての理解を深めるために、様々な運動時の生体応答等についての知識と理論について学習する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義中の課題(30%)、定期試験(70%)から評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 すべてにおいて、主体的な姿勢で臨むこと。分からないことについては積極的に質問するよう取り組むこと。提出物の期限は厳守すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が必要である。講義毎に前週講義内容の小テストを行うので毎回の授業においてテキストの指定されたページを熟読してくる。復習として講義内容や小テストの内容をしっかりと確認すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9410研究室）において、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	概要					山口英峰	
第2回	ストレッチおよび柔軟体操の実践					山口英峰	
第3回	ウォーミングアップとクーリングダウンの理論					山口英峰	
第4回	有酸素運動時の生体応答-ウォーキング					山口英峰	
第5回	有酸素運動時の生体応答-ランニング					山口英峰	
第6回	有酸素運動時の生体応答-水中運動					山口英峰	
第7回	有酸素運動時の生体応答-エアロビクダンス					山口英峰	
第8回	無酸素性運動時の生体応答					山口英峰	
第9回	筋力トレーニング時の生体応答					山口英峰	
第10回	運動プログラムについて					山口英峰	
第11回	運動プログラムの作成-若年者					山口英峰	
第12回	運動プログラムの作成-高齢者					山口英峰	
第13回	運動プログラムの作成-後期高齢者					山口英峰	
第14回	運動プログラムの作成-子ども					山口英峰	
第15回	総括					山口英峰	
第16回	単位認定試験					山口英峰	
教科書							
教・書籍名1	健康運動実践指導者用テキスト				教・出版社名1	健康・体力づくり事業財団	
教・著者名1	健康・体力づくり事業財団				教・ISBN1	ISBNなし	

教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	改訂3版 健康運動実践指導者試験筆記対策分野別 & 模擬問題集	参・出版社名1	日本能率協会マネジメントセンター
参・著者名1	NESTA JAPAN	参・ISBN1	9784820729617
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	応用スポーツ実習 グループ授業			担当者	山口 英峰、天岡 寛、高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-210		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	金曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	運動プログラムの基礎および応用について実践を通して理解する。学生は個人（対象者）に応じた運動プログラムの作成およびその実践力をみにつけることができる。						
授業概要	本講義では、幅広い年齢層におけるスポーツ実践についての理解を深めるとともに、効果的な運動実践方法について実習を通して身につけることを目的とする。また、自らの身体がトレーニングによってどのように変化していくのかについても体験する。						
アクティブラーニングの内容	実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	レポート課題(20%)、実技試験（40%）、筆記試験（40%）から評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 健康運動実践指導者資格認定試験受験資格の必須科目ではないが、健康運動実践指導者試験を受験する学生は履修することが強く望まれる。						
実務経験のある教員	該当する	内容	健康運動指導士				
事前学習・事後学習とその時間	講義内で行う運動プログラムの作成ならびにその実演についての習得には、事前に配布する運動プログラム内容理解が必要である。実技および筆記試験ともに講義前後の予習復習が必要である。						
オフィスアワー	担当教員別 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	概要					天岡 寛、山口 英峰、高原 皓全	
第2回	ストレッチおよび柔軟体操の実際					天岡 寛、山口 英峰、高原 皓全	
第3回	ウォーミングアップとクーリングダウンの実際					天岡 寛、山口 英峰、高原 皓全	
第4回	ウォーキングの実際					天岡 寛、山口 英峰、高原 皓全	
第5回	ランニングの実際					天岡 寛、山口 英峰、高原 皓全	
第6回	エアロビックダンスの実際					天岡 寛、山口 英峰、高原 皓全	
第7回	筋力トレーニングの実際（1）上肢					天岡 寛、山口 英峰、高原 皓全	
第8回	筋力トレーニングの実際（2）下肢					天岡 寛、山口 英峰、高原 皓全	
第9回	運動プログラム作成					天岡 寛、山口 英峰、高原 皓全	
第10回	運動プログラムの実践（1）若年者					天岡 寛、山口 英峰、高原 皓全	
第11回	運動プログラムの実践（2）高齢者					天岡 寛、山口 英峰、高	

		原 皓全
第12回	運動プログラムの実践 (3) 後期高齢者	天岡 寛、山口 英峰、高 原 皓全
第13回	運動プログラムの実践 (4) こども	天岡 寛、山口 英峰、高 原 皓全
第14回	運動プログラムの実践 (5) アスリート	天岡 寛、山口 英峰、高 原 皓全
第15回	総括	天岡 寛、山口 英峰、高 原 皓全
第16回	筆記および実技試験	天岡 寛、山口 英峰、高 原 皓全

教科書

教・書籍名1	健康運動実践指導者養成用テキスト	教・出版社名1	健康・体力づくり事業財団
教・著者名1	健康・体力づくり事業財団	教・ISBN1	ISBNなし
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	改訂3版 健康運動実践指導者試験筆記対策分野別&模擬問題集	参・出版社名1	日本能率協会マネジメントセンター
参・著者名1	NESTA JAPAN	参・ISBN1	9784820729617
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	健康運動実習Ⅰ			担当者	竹内 美穂		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-211		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	『有酸素運動のひとつである「エアロビック・ダンスエクササイズ」の特性を』をテーマとし、エアロビック・ダンスエクササイズの基本的な技術を習得する。適切な運動強度の設定と運動強度の把握のしかたを知り、指導上の注意点を理解して、基本的なエアロビック・ダンスエクササイズの指導が出来るよう、指導力を習得することを到達目標とする。						
授業概要	まずはエアロビック・ダンスエクササイズに親んでもらう。参加者の目的や、経験、体力レベル等を考慮した運動プログラムを実感してもらい、さらにそれらのプログラムの組み立てかたを学ぶ。強化エクササイズとしてのコンディショニングやヨガ・ストレッチ等もとり入れてトータルな健康運動を体感して学ぶ。 この授業の担当者はエアロビック・ダンスエクササイズ指導の実務経験を有する。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	授業内での小テストによって(50%)、最終テストによって(50%) で評価する。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した試験や課題の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	運動できる服装で受講すること。特にシューズは必ず着用のこと（安全上）。平素の小テストにより予習・復習を明確に行う。 「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 「(公財)日本スポーツ協会公認スポーツプログラマー受験資格」必須科目						
実務経験のある教員	該当する	内容	スポーツクラブや健康増進施設などで、成人や高齢者に指導。				
事前学習・事後学習とその時間	実技内容のまとめと復習(予習復習各2時間程度を要する。)						
オフィスアワー	授業終了後、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	エアロビック・ダンス・エクササイズの沿革						竹内美穂
第2回	健康・体力づくりとエアロビック・ダンス・エクササイズ						竹内美穂
第3回	エアロビック・ダンス・エクササイズの基本動作						竹内美穂
第4回	エアロビック・ダンス・エクササイズの基本ルーティン						竹内美穂
第5回	エアロビック・ダンス・エクササイズの運動強度とその指標						竹内美穂
第6回	ウォーム・アップの構成						竹内美穂
第7回	メイン・パートの構成Ⅰ						竹内美穂
第8回	メイン・パートの構成Ⅱ：音楽のフレーズと動きの構成						竹内美穂
第9回	メイン・パートの構成Ⅲ：運動強度のコントロール						竹内美穂
第10回	クール・ダウンとコンディショニング						竹内美穂
第11回	レッスンの全体構成						竹内美穂
第12回	レッスンの全体構成と指導方法						竹内美穂
第13回	レッスンの全体構成と指導方法：動きの指示出しとキューイング						竹内美穂
第14回	エアロビック・ダンス・エクササイズの目的別指導						竹内美穂
第15回	エアロビック・ダンス・エクササイズの対象者別指導						竹内美穂

第16回	試験	竹内美穂	
教科書			
教・書籍名1	地域スポーツ指導員 エアロビク専門科目教本	教・出版社名1	一般社団法人日本エアロビク連盟
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	健康運動実習Ⅱ 複数担当			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-212		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	実習	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	「水中環境における健康づくり」をテーマとし、自らが考え、行動できるレベルを到達目標とする。						
授業概要	水の特性を理解する。そして水の特性を利用して行う、水泳・水中運動の基本的な技法を習得する。水泳・水中運動が持つ、健康・体力づくりのための意義を学ぶ。運動強度の調節の方法を理解し、対象者に適した運動プログラムが構成でき、適切な指導が出来るように学習する。						
アクティブラーニングの内容	実習/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	最終試験(50%)、レポート等課題(30%)、受講態度(20%) なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 「保健体育科教員資格」選択科目 学外実習施設を利用する。 事前学習(講義)を春学期中に行う。各自掲示板で確認の上、出席すること。なお、このときに実習クラス分けも行う。 授業時に配布する資料や各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習及び指示された予習を行うこと。 適宜、レポートの作成・提出を行う。						
実務経験のある教員	該当する	内容	健康運動指導士				
事前学習・事後学習とその時間	事前学習時に出される毎回の課題の提出について厳守すること。学外実習時においては、事前学習で得たことを実践するため、予習を行い、実践体験についてまとめること。						
オフィスアワー	教員別 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	導入授業&水の特性と水泳・水中運動1(浮力・水圧)					天岡 寛	
第2回	水の特性と水泳・水中運動2(水温・粘性抵抗)					天岡 寛	
第3回	健康・体力づくりと水泳・水中運動(安全管理)					天岡 寛	
第4回	水中での動作1(浮く)					各教員(グループ別)	
第5回	水中での動作2(潜る)					各教員(グループ別)	
第6回	水中での動作の運動強度					各教員(グループ別)	
第7回	水中運動でのプログラム1(アクアビクス)					各教員(グループ別)	
第8回	水中運動でのプログラム2(アクアウォーク)					各教員(グループ別)	
第9回	水中運動の指導方法1(アクアビクス)					各教員(グループ別)	
第10回	水中運動の指導方法2(アクアウォーク)					各教員(グループ別)	
第11回	水泳の基本泳法1(クロール・背泳ぎ)					各教員(グループ別)	
第12回	水泳の基本泳法2(平泳ぎ)					各教員(グループ別)	
第13回	水泳の基本泳法3(バタフライ)					各教員(グループ別)	
第14回	水泳の運動強度と指導法					各教員(グループ別)	
第15回	まとめ					天岡 寛	

第16回	単位認定試験	天岡 寛	
教科書			
教・書籍名1	健康運動実践指導者養成用テキスト	教・出版社名1	健康・体力づくり事業財団
教・著者名1	健康・体力づくり事業財団	教・ISBN1	なし
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	遠泳学事始 「今こそ、子どもたちに遠泳を!」 海で育てる生きる力とおもいやり遠泳学事始	参・出版社名1	フリースペース
参・著者名1	木村 一彦, 矢野 博己	参・ISBN1	4434175610
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	健康運動現場実習			担当者	山口 英峰、天岡 寛、倉知 典弘、高原 皓全、孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-213		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	60	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	習得してきた専門的能力を、実際の現場で生かせるために、専門職者としての実務能力や指導力を養成する。また、各自のそれまでの学習で、不足している内容を把握し、今後の指導力養成の糧とすることができる。						
授業概要	施設での実習に先立ち、学内に於いて、健康増進施設の概要や業務内容、対人関係での留意点などについて学習した後、施設で実習を行なう。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	レポート30%、施設実習評価70%とする。 なお、評価のために実施したレポート課題は、講義内でフィードバックすることから、コメントについて検討し、実習報告会で反映させること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストや課題は、講義内でフィードバックすることから、最終レポート作成までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目						
実務経験のある教員	該当する	内容	健康運動指導士				
事前学習・事後学習とその時間	施設実習を行う前に十分な予習が必要である。具体的な運動プログラムの作成等、講義で配布された資料を熟読すること。実習中は、「実習ノート」に記録をとり復習すること。						
オフィスアワー	担当教員別 9号館4階研究室 6号館3階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション						担当者全員
第2回	健康運動指導の現場から（外部講師）						担当者全員
第3回	健康増進施設の現状と役割						担当者全員
第4回	施設・設備の概要と管理						担当者全員
第5回	対人マナー・コミュニケーション、接遇						担当者全員
第6回	個人情報管理、事務処理等						担当者全員
第7回	施設での実習						担当者全員
第8回	施設での実習						担当者全員
第9回	施設での実習						担当者全員
第10回	施設での実習						担当者全員
第11回	施設での実習						担当者全員
第12回	施設での実習						担当者全員
第13回	施設での実習報告						担当者全員
第14回	施設での実習						担当者全員
第15回	施設での実習						担当者全員
第16回	施設での実習						担当者全員
第17回	施設での実習						担当者全員
第18回	施設での実習						担当者全員
第19回	施設での実習						担当者全員
第20回	施設での実習						担当者全員

第21回	施設での実習	担当者全員
第22回	施設での実習	担当者全員
第23回	施設での実習	担当者全員
第24回	施設での実習	担当者全員
第25回	施設での実習	担当者全員
第26回	施設での実習	担当者全員
第27回	施設での実習	担当者全員
第28回	施設での実習	担当者全員
第29回	施設での実習報告	担当者全員
第30回	健康運動指導の現場から（外部講師）	担当者全員
第31回	実習報告会①	担当者全員
第32回	実習報告会②	担当者全員
教科書		
教・書籍名1	健康運動指導士養成講習会テキスト	教・出版社名1 健康・体力づくり事業財団
教・著者名1	健康・体力づくり事業財団	教・ISBN1 ISBNなし
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	運動療法			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-214		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	「運動療法の理論と実際」をテーマとする。運動療法の理論だけではなく、現場で役立つ実践方法の基礎を理解できる。						
授業概要	運動は体力の維持・向上だけでなく、生活習慣病の予防・改善にも効果的であることは周知の通りである。しかしながら、間違った運動を行うと、かえって病状を悪化させてしまう。本講義では、生活習慣病と運動の関係について、疾患・疾病の関係特性について理解を深め、何をどの程度行うのが効果的であるのかを正しく理解し、対象者に適した運動プログラムの作成及び適切な指導が出来るよう学習する。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク/プレゼンテーション/フィールドワーク						
評価方法と割合	最終試験 (90%) , 発表, ディスカッションへの参加 (5%) , 受講態度 (5%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 1) 事前に課題を出し、グループ発表を行う参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。 2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。 3) 初回の授業には、必ず出席すること。 4) 試験は必ず行うので、授業に出席していただいただけでは単位は取れない。						
実務経験のある教員	該当する	内容	健康運動指導士				
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してくる。また、授業時に配布する資料や各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習及び次回への予習を行うこと (各2時間程度)。						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					天岡 寛	
第2回	運動療法とは					天岡 寛	
第3回	生活習慣病と運動療法					天岡 寛	
第4回	肥満症と運動療法					天岡 寛	
第5回	高血圧症と運動療法					天岡 寛	
第6回	高脂血症と運動療法					天岡 寛	
第7回	糖尿病と運動療法					天岡 寛	
第8回	虚血性心疾患と運動療法					天岡 寛	
第9回	認知症と運動療法					天岡 寛	
第10回	転倒防止と運動療法					天岡 寛	
第11回	がんと運動					天岡 寛	
第12回	障害者の運動能力の特徴とトレーニング					天岡 寛	
第13回	生活習慣病改善のための運動プログラム作成					天岡 寛	
第14回	服薬者の運動プログラム作成上の注意					天岡 寛	
第15回	まとめ					天岡 寛	
第16回	単位認定試験					天岡 寛	
教科書							

教・書籍名1	健康運動指導士養成講習会テキスト 上下	教・出版社名1	健康・体力づくり事業財団
教・著者名1	健康・体力づくり事業財団	教・ISBN1	なし
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する.	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	老年体力学			担当者	天岡 寛、永見 邦篤		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-215		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	加齢に伴う心身の変化と身体活動は、密接に関連する。身体活動の低下は、日常生活の不具合を引き起こす。その予防・改善の為に高齢者の体力について理解することができる。						
授業概要	加齢にともなって、身体活動能力がいかに変化するかを示す。神経・筋系の機能、呼吸・循環機能及び運動能力の変化について理解し、体力的予備力やトレーナビリティを捉えて、高齢者に適した運動の実際をプログラム化しうよう学習する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク						
評価方法と割合	講義内の課題を10%、毎回の試験を90%とし、評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 講義項目ごとに適宜、資料を配布する。生理学、解剖学、体力学及び運動生理学等を土台とする応用分野なので、各々の学習のなされていることが望まれる。						
実務経験のある教員	該当する	内容	健康運動指導士				
事前学習・事後学習とその時間	本講義は予習復習が各2時間程度必要である。予習として、毎回の授業において問題提起と討論が可能なように配布されたプリントのページを熟読してくる。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。						
オフィスアワー	非常勤講師：講義前後 6号館1階非常勤講師控え室 常勤講師：水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	高齢者と福祉と体力					天岡 寛	
第2回	高齢者の体力の推移					永見邦篤	
第3回	神経・筋機能の加齢変化 1) 筋タイプと萎縮					天岡 寛	
第4回	神経・筋機能の加齢変化 2) 行動の変化					永見邦篤	
第5回	呼吸機能の加齢変化					天岡 寛	
第6回	循環機能の加齢変化 1) 血管					永見邦篤	
第7回	循環機能の加齢変化 2) 心臓					天岡 寛	
第8回	高齢者と骨 1) 骨代謝					永見邦篤	
第9回	高齢者と骨 2) 骨と運動					天岡 寛	
第10回	身体活動の低下とCa代謝					永見邦篤	
第11回	身体活動の低下と循環機能					天岡 寛	
第12回	高齢者と睡眠、水分代謝					永見邦篤	
第13回	高齢期の至適運動 筋・循環機能について					天岡 寛	
第14回	高齢者の運動指導とその注意点					永見邦篤	
第15回	まとめ					天岡 寛	
第16回	単位認定試験					天岡 寛	
教科書							
教・書籍名1	健康運動指導士養成講習会テキスト 上下				教・出版社名1	健康・体力づくり事業財団	

教・著者名1	健康・体力づくり事業財団	教・ISBN1	なし
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	健康心理学			担当者	謝名堂 りさ		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-216		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	『運動中の心理的効用』をテーマとし、心理的要因が運動のパフォーマンスに及ぼす影響など、スポーツの心理的テーマを広く系統的に取り上げ解説する。健康に影響を与える心理的要因について理解し、心理面からの健康指導ができるようになる。また、健康づくりのための行動変容を促す指導ができるようになることを到達目標とする。						
授業概要	現代社会における精神保健に関わる問題を理解する。精神ストレスとそれに起因する健康問題及び、その解決方法を学ぶことができる。生活習慣病とそれに関わる心理的要因を理解するとともに、行動変容を含めた、健康心理学的知識を学習する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	講義に関する学習効果及び途中で提出するレポート類（学習到達目標に関する出題）を含む70%。学習態度30%である。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した試験や課題の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 「（公財）日本スポーツ協会公認スポーツリーダー・スポーツプログラマー受験資格」必須科目						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	ノートの復習(予習復習各2時間程度を要する。)						
オフィスアワー	授業終了後、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	運動行動変容の理論					謝名堂りさ	
第2回	運動行動変容理論の応用・実際					謝名堂りさ	
第3回	心の健康論					謝名堂りさ	
第4回	健康づくりとカウンセリング（実習も含む）					謝名堂りさ	
第5回	ストレスアセスメントと対処法					謝名堂りさ	
第6回	スポーツ競技者の性格特性					謝名堂りさ	
第7回	競技力と情緒の安定					謝名堂りさ	
第8回	動機づけと目標設定（実習を含む）					謝名堂りさ	
第9回	あがりパフォーマンス					謝名堂りさ	
第10回	スキルトレーニング：運動学習理論					謝名堂りさ	
第11回	メンタルトレーニング					謝名堂りさ	
第12回	スポーツ集団と人間関係					謝名堂りさ	
第13回	スポーツ集団とリーダーシップ					謝名堂りさ	
第14回	スポーツ選手のバーンアウト					謝名堂りさ	
第15回	セルフエフィカシー					謝名堂りさ	
第16回	試験					謝名堂りさ	

教科書			
教・書籍名1	健康スポーツの心理学	教・出版社名1	大修館書店
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	運動生理学演習Ⅰ グループ授業			担当者	山口 英峰、天岡 寛、高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-217		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	運動生理学および身体運動学で身体構造、運動時の生体応答について学んだことを、実験実習形式で身をもって体験する。その結果、人間の生理的運動機能に対する理解を深め、教科書では学ぶことのできない体験的学習が可能となる。学生は将来の実践的運動指導にむけての基礎的能力を身につけることができる。						
授業概要	運動生理学演習室に設備されている実験機器をの操作を理解し、実際に自らの手によって実験を行う。その後、実験データの整理を行い、まとめてレポートを作成する。レポートには、実験の目的、方法、結果、考察。まとめの順で書くように指導する。その後、卒業研究にも結びつくように指導を行う。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/グループワーク/実習/その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	実験実習形式であるため、機器の操作、データ整理、レポート内容について評価を行う。機器の操作およびデータ整理（30%）、レポート内容（70%）から評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施したレポート課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 運動にかかわる実験を行うため、自らが被験者になることを考え、運動のできる服装で参加すること。すべてにおいて、主体的な姿勢で臨むこと。分からないことについては積極的に質問するよう取り組むこと。提出物の期限は厳守すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	天岡寛、高原皓全：健康運動指導士				
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が必要である。運動生理学の基礎的知識について、事前に配布する資料で予習すること。復習として、実習の疑問点について文章化し、次回の講義で発表すること。						
オフィスアワー	担当教員別 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	心電図と導出法1) テレメタリング					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第2回	心電図と導出法2) 12誘導法					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第3回	心電図と導出法3) 説明					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第4回	運動と心拍・心電図1) 心拍数の変化					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第5回	運動と心拍・心電図2) 負荷心電図とは					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第6回	運動と血圧1) 運動時の血圧応答					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第7回	運動と血圧2) 運動と高血圧					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第8回	運動と血圧3) 説明					天岡寛、山口英峰、高原皓全	

第9回	運動と酸素摂取1) 呼気ガス (酸素、炭酸ガス)	天岡寛、山口英峰、高原皓全
第10回	運動と酸素摂取2) 安静時の呼吸代謝と呼吸商	天岡寛、山口英峰、高原皓全
第11回	運動と酸素摂取3) 最大酸素摂取量の測定	天岡寛、山口英峰、高原皓全
第12回	運動と酸素摂取4) 換気閾値 (AT) とは	天岡寛、山口英峰、高原皓全
第13回	診断結果と効果判定	天岡寛、山口英峰、高原皓全
第14回	運動とメディカルチェック	天岡寛、山口英峰、高原皓全
第15回	総括	天岡寛、山口英峰、高原皓全
第16回		

教科書

教・書籍名1	使用しない (プリントを配布する)	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	健康運動実践指導者養成用テキスト	参・出版社名1	健康・体力づくり事業財団
参・著者名1	健康・体力づくり事業財団	参・ISBN1	ISBNなし
参・書籍名2	健康運動指導士養成講習会テキスト	参・出版社名2	健康・体力づくり事業財団
参・著者名2	健康・体力づくり事業財団	参・ISBN2	ISBNなし

授業科目名	運動生理学演習Ⅱ グループ授業			担当者	山口 英峰、天岡 寛、高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-218		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	運動生理学および身体運動学で身体構造、運動時の生体応答について学んだことを、実験実習形式で身をもって体験する。その結果、人間の生理的運動機能に対する理解を深め、教科書では学ぶことのできない体験的学習が可能となる。学生は将来の実践的運動指導等ができる能力を身につけることができる。						
授業概要	運動生理学演習室に設備されている実験機器をの操作を理解し、実際に自らの手によって実験を行う。その後、実験データの整理を行い、まとめてレポートを作成する。レポートには、実験の目的、方法、結果、考察。まとめの順で書くように指導する。その後、卒業研究にも結びつくように指導を行う。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/グループワーク/実習						
評価方法と割合	実験実習形式であるため、機器の操作、データ整理、レポート内容について評価を行う。機器の操作およびデータ整理（30%）、レポート内容（70%）から評価する。なお、評価のために実施したレポート課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 運動にかかわる実験を行うため、自らが被験者になることを考え、運動のできる服装で参加すること。すべてにおいて、主体的な姿勢で臨むこと。分からないことについては積極的に質問するよう取り組むこと。提出物の期限は厳守すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	天岡寛、高原皓全：健康運動指導士				
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が各2時間程度必要である。運動生理学の基礎的知識について、事前に配布する資料で予習すること。復習として、実習の疑問点について文章化し、次回の講義で発表すること。						
オフィスアワー	担当教員別 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	筋電図と導出法 1) 筋の活動電位					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第2回	筋電図と導出法 2) 表面誘導法					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第3回	筋電図と導出法 3) 筋電図のテレメタリング					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第4回	筋電図と導出法 4) 歩行時の筋活動					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第5回	筋と筋力 1) 筋力レベルと筋放電量					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第6回	筋と筋力 2) 筋力レベルと運動単位活動					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第7回	筋と筋力 3) 持続的筋活動と筋電図					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第8回	筋と筋力 4) 瞬発的筋活動と筋電図					天岡寛、山口英峰、高原皓全	
第9回	筋への血流 1) レーザードップラー法					天岡寛、山口英峰、高原皓全	

		全
第10回	筋への血流 2) 超音波法	天岡寛、山口英峰、高原皓 全
第11回	筋への血流 3) 説明	天岡寛、山口英峰、高原皓 全
第12回	筋活動と血流 1) 掌握動作時の血流変化	天岡寛、山口英峰、高原皓 全
第13回	筋活動と血流 2) 運動と頸動脈血流	天岡寛、山口英峰、高原皓 全
第14回	筋活動と血流 3) 運動習慣と頸動脈	天岡寛、山口英峰、高原皓 全
第15回	筋活動と血流 4) 説明	天岡寛、山口英峰、高原皓 全
第16回		

教科書

教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	健康運動指導士養成講習会テキスト	参・出版社名1	健康・体力づくり事業財団
参・著者名1	健康・体力づくり事業財団	参・ISBN1	ISBNなし
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ社会学			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年 / 2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年 / 2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-301		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も / 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう / 10. 人や国の不平等をなくそう / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	スポーツの社会的理解をテーマに、学生が人間社会で生起する様々なスポーツ現象を社会的視点から論理的に分析できる。						
授業概要	<p>現代社会においてスポーツは、人々の生活にとって欠くべからざるものとなっており、社会の様々な領域でその領域独自の社会的機能を果たすことを要請されている。その意味で現代におけるスポーツはかつてのスポーツに比べ、きわめて多様化・複雑化しており、特にスポーツを専門的に学ぶ学生は将来も見据えて、スポーツを多面的且つ系統的に理解していなければならない。</p> <p>本講義では現代社会におけるスポーツの多面的な領域の主なものについて言及し、その実態と問題点及び将来展望について論じるとともに、これら多様に展開するスポーツを系統的に把握するための社会理論について社会学の領域から言及し、社会的視点においてスポーツを本質的に理解するための知識と能力を養うことを目的とする。</p>						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	単位認定試験（40％） 中間レポート（30％） 毎回の小レポート（20％） 受講姿勢（10％） 評価の詳細は、第1回目の授業で説明する。 なお、評価のために実施した小レポートは、授業でフィードバックするので単位認定試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎回の講義終了後の小レポートの内容を通して、次回の講義導入時にポイントを説明する。						
履修条件・注意事項	<p>卒業必修科目 中高保健体育科教諭資格必修科目 （公財）日本スポーツ協会公認受験資格必修科目</p> <p>パワーポイントの資料は配布しないので、ノート・ルーズリーフ等は必ず持参すること。授業に対する取り組みについては、厳しく指導する。</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、中・高保健体育科教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、課外小レポートの内容及び授業内容を必ず毎回2時間程度、復習するとともに次回のテーマについて予習すること。						
オフィスアワー	個人研究室（9405）にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション・スポーツ社会学とは！？					高藤	
第2回	スポーツの概念					高藤	
第3回	文化としてのスポーツ					高藤	
第4回	地域社会におけるスポーツ					高藤	
第5回	スポーツと政治					高藤	
第6回	スポーツと経済					高藤	
第7回	スポーツ事故における法的責任					高藤	

第8回	スポーツと人権	高藤
第9回	企業とスポーツ	高藤
第10回	障がい者とスポーツ	高藤
第11回	障がい者サッカー	高藤
第12回	スポーツを取り巻く環境	高藤
第13回	スポーツと教育	高藤
第14回	スポーツと薬物	高藤
第15回	総括・最終レポート	高藤
第16回		

教科書

教・書籍名1	公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 公認ジュニアスポーツ指導員養成テキスト 理論編	教・出版社名1	(公財)日本スポーツ協会
教・著者名1	(公財)日本スポーツ協会	教・ISBN1	214K1T 214K2T 214K3T 215JR
教・書籍名2	スポーツ社会学講義	教・出版社名2	大修館書店
教・著者名2	森川貞夫・佐伯聡夫 編	教・ISBN2	978-4-469-26140-0

参考書

参・書籍名1	使用しない(プリントを配布する)	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	健康社会学			担当者	吉岡 哲		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-302		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	健康の社会的意義を理解する。健康と社会の理想的なあり方について考える。社会と健康との関係性について理解することで、日常生活および将来にわたっての健康に対する考え方を学ぶことができる。						
授業概要	生活スタイルを含めた健康についての正しい知識、考え方について学ぶ。それらをふまえた上で、現代社会における健康や病気の社会的要因について把握する。特にみじかな健康問題に着眼点をおき講義を進めていく。また、健康に関わる制度政策についての認識も深める。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義姿勢10%、講義中の課題10%、定期試験80%とする。ただし、3分の2以上の出席のない者は、評価の対象外となる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 講義項目ごとに資料を配布する。資料は図表が主となるので、理解のためには講義への出席が重要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が2時間程度必要である。毎回の授業において配布したプリントの指定されたページを熟読してくる。						
オフィスアワー	非常勤講師のため、講義終了後に教室にて実施する。						
授業計画						担当者	
第1回	導入					吉岡 哲	
第2回	健康と社会					吉岡 哲	
第3回	健康づくり施策					吉岡 哲	
第4回	生活習慣病の予防および早期発見					吉岡 哲	
第5回	介護保険と介護予防					吉岡 哲	
第6回	健康づくりのための運動基準および運動指針					吉岡 哲	
第7回	現代社会の生活と健康（1）労働					吉岡 哲	
第8回	現代社会の生活と健康（2）休養と心					吉岡 哲	
第9回	現代社会の生活と健康（3）ストレス					吉岡 哲	
第10回	現代社会の生活と健康（4）喫煙					吉岡 哲	
第11回	現代社会の生活と健康（5）飲酒					吉岡 哲	
第12回	現代社会の生活と健康（6）睡眠					吉岡 哲	
第13回	現代社会の生活と健康（7）食生活					吉岡 哲	
第14回	高齢社会と健康					吉岡 哲	
第15回	総括					吉岡 哲	
第16回	単位認定試験					吉岡 哲	
教科書							
教・書籍名1	使用しない（必要に応じプリントを配布する）					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	

参考書			
参・書籍名1	動く、食べる、休むScience—健康づくりの生理学	参・出版社名1	I&K corporation
参・著者名1	上田 伸男(著), 湊久美子(著), 吉武裕(著), 小宮秀明(著), 矢野博己(著)	参・ISBN1	
参・書籍名2	健康格差社会	参・出版社名2	医学書院
参・著者名2	近藤克則	参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ哲学 集中			担当者	高橋 徹		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-303		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう 						
到達目標	<p>本授業では、スポーツ哲学をベースにした講義を行う。特に、体育とスポーツの本質やありかたについて体系的に解説しながら、体育教師やスポーツ指導者として理解しておくべき体育やスポーツに対する基本的な考え方を紹介する。</p> <p>到達目標としては、体育・スポーツに関する概念や定義を把握し、自分自身の力で体育・スポーツの理想的なあり方を考えることができること。また、体育・スポーツについてのより良い指導を追求する意識を持つことができること。</p>						
授業概要	スポーツ哲学の様々な分野における知見を参照することで、スポーツ哲学専門領域の現状、課題および問題点を把握し、また、これらの内容についてディスカッションやレポートなどを実施することで、スポーツ哲学に固有の概念や研究方法に関する理解を深める。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	授業中に行うグループ討議への参加態度・授業内で作成する課題レポートの提出状況（50%）、授業で学んだ体育・スポーツに関する知識を基に課題に対して自分自身の考えを正確に記述できているか（50%）を評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業時の課題については問い合わせがあれば内容を開示する。また特に優れた内容については授業時に紹介する場合もある。						
履修条件・注意事項	集中講義のため、参加型の進め方を多くする。（保健体育教免選択必修科目）						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	復習として、配布資料の確認と、ファイリングを工夫すること。 独自で調べたことをまとめて、課題レポートを作成する。						
オフィスアワー	基本的には授業終了後に教室にて担当教員まで問い合わせること。						
授業計画						担当者	
第1回	1回：スポーツとは何か？ スポーツという言葉の語源、およびスポーツの定義についての説明					高橋徹	
第2回	2回：体育とは何か？ 体育という言葉の語源、体育の定義、体育の構成要素についての説明					高橋徹	
第3回	3回：体育における教材としてのスポーツ 体育という教科名称の変遷、学習指導要領の変遷					高橋徹	
第4回	4回：体育教師とスポーツ指導者 体育教師の専門性、運動部活動の指導者の特殊性についての説明					高橋徹	
第5回	5回：スポーツ指導の問題性① 体罰・暴力のメカニズム					高橋徹	
第6回	6回：スポーツ指導の問題性② スポーツ指導の正しい在り方について考える					高橋徹	
第7回	7回：体育について考える1～身体を教育するという考え方～					高橋徹	
第8回	8回：体育について考える2～身体文化を伝えるという考え方～					高橋徹	
第9回	9回：体育について考える3～運動を指導するという考え方～					高橋徹	

第10回	10回：スポーツに関わる諸問題1～スポーツのルールを考える～ スポーツにおけるルールの機能	高橋徹
第11回	11回：スポーツに関わる諸問題2～参加条件を定めるルール～ 性別二元性に関わるルール	高橋徹
第12回	12回：スポーツに関わる諸問題3～オリンピックと世界平和～	高橋徹
第13回	13回：スポーツに関わる諸問題4～スポーツにおける美しさを考える～	高橋徹
第14回	14回：スポーツに関わる諸問題5～スポーツと人間との良好な関係を考える～	高橋徹
第15回	15回：授業の総括	高橋徹
第16回	16回：学期末レポートの作成	高橋徹
教科書		
教・書籍名1	はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学	教・出版社名1 株式会社みらい
教・著者名1	高橋徹編著	教・ISBN1 9784860154318
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	スポーツ史 集中E			担当者	森田 啓之		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-304		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 12. つくる責任・つかう責任 / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>「体育・スポーツの歴史を理解する」をテーマとして、様々な体育・スポーツ事象の歴史（成り立ち）について考える中で、体育・スポーツの現在と今後を考察する視点を身につける。</p> <p>具体的には、スポーツはどのように生まれたのか、並びにこれからどのような方向に向かうべきなのかについて、自分の中に妥当な「観」を形成することを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>スポーツの象徴である「オリンピック」を取り上げ、古代から現代に至るまでどのような経過を辿ってきたのか、さらには近代に誕生した「近代スポーツ」の特徴について理解を深めるとともに、学校体育の歴史を振り返る中で、これからの体育やスポーツの進むべき方向性について、考察する。</p> <p>なお、互いの意見を冷静に交換できる能力を培う意味でも、授業はプレゼンテーションとグループ討議を中心に進める。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	この授業では、自分の中に妥当な「体育・スポーツ観」を形成することを到達目標としているため、最終的には「試験」（60％）においてその理解度や定着度をみる。と同時に、自ら調べまとめる能力を確認するための課題レポートとその発表（10％）、出席とグループ討議への積極的参加態度（30点）とを併せて、総合評価を行う。ただし、試験において6割の点数がなければ単位は認定しない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業で課した課題については、翌日の授業において適宜その内容を取り上げつつ、記述の適否についてもコメントする。また、試験については、最終評価後に希望するものに対してその評価内容・基準について説明を行う。						
履修条件・注意事項	集中講義のため、参加型の進め方を多くする。毎日の課題としてレポートを課し、翌日にその成果をプレゼンするので、試験に加えて、レポート提出は必須である。（保健体育教免選択必修科目）						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	復習として、配布資料の確認と、ファイリングを工夫すること。 独自で調べたことをまとめて、課題レポートを作成する。						
オフィスアワー	授業終了後、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	我々はなぜ歴史を学ぶのか？ -歴史を学ぶ意義-					森田 啓之	
第2回	スポーツと遊戯、体育の概念史					森田 啓之	
第3回	未開社会、古代社会のスポーツ					森田 啓之	
第4回	中世のスポーツ					森田 啓之	
第5回	近代スポーツの誕生					森田 啓之	
第6回	近代オリンピック					森田 啓之	
第7回	生涯スポーツの概念と普及					森田 啓之	
第8回	スポーツの個別史（1）イギリス発のスポーツ					森田 啓之	
第9回	スポーツの個別史（2）アメリカ発のスポーツ					森田 啓之	
第10回	スポーツの個別史（3）民族スポーツ					森田 啓之	
第11回	スポーツの個別史（4）ニュースポーツ					森田 啓之	
第12回	近代教育思想と体育					森田 啓之	

第13回	近代体育の誕生	森田 啓之
第14回	学校体育の理念の変遷	森田 啓之
第15回	日本における学校体育の変遷	森田 啓之
第16回	単位認定試験	森田 啓之
教科書		
教・書籍名1	テキストは指定しない。適宜、資料プリント(※下記参考書籍1より)を配布する。	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	「スポーツ史講義」	参・出版社名1 (大修館書店) 1995
参・著者名1	稲垣正浩他	参・ISBN1
参・書籍名2	「体育史講義」	参・出版社名2 (大修館書店) 1984
参・著者名2	岸野雄三	参・ISBN2

授業科目名	スポーツ実習Ⅰ（体操）			担当者	副島 斉子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-305		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	『現代社会における生活環境の変化、特に運動不足の蔓延』をテーマとし、心身のストレスの増加、テクノロジーの発達などによって、人間の心身及び知的機能が阻害されている状況にあると言える。特に、運動能力やそれを支える感覚能力の衰退は著しいと思われる、このことは我々人間の生涯に亘る影響を及ぼすものである。つまり身体性の阻害が広がった現状と言えよう。基本的運動の習得をはじめとし、各種の体操を実践することによって、人間の持つ運動機能引いては運動感覚を取り戻し、健康維持増進、人間関係の構築、運動能力の向上などの基礎を築けるようになることを到達目標とする。						
授業概要	我が国においては1990年代以降、子供たちの基本的身体能力に対する危機感が急速に高まり、文部科学省も学習指導要領の基本要素の一つに「体ほぐしの運動」を設けて、基本的身体能力の育成に重点を置いている。近代以後、人間の基本運動の習得には体操が用いられてきた。その体操は、今日非常に多様化している。本実習では、これら多様な体操の実践方法と指導方法を学び、自己の目的に役立てることができるようになるとともに、他者へ提供する運動プログラムの内容として活用できるようになる。 この授業の担当者は体操指導の実務経験を有する。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	実技に関する学習効果を実技試験によって評価する。加えて、逐次運動内容とそのプログラム作成に関するレポートを課して、その両者をそれぞれ50%ずつの比重で評価を行う。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した試験や課題の結果や内容は、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	実技中の怪我などの防止のため、時計や装身具類は身に着けないこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	スポーツクラブなどで、一般成人や児童・青年対象に体操教室で指導。				
事前学習・事後学習とその時間	各回の授業において、学修した内容を、自らの指導案として、授業後まとめておくこと。さらに次の授業時のねらいがしめされるので、あらかじめそれに応じた運動内容を各自で考えておくこと。 予習・復習はそれぞれ約2時間行うこと。						
オフィスアワー	火曜日4限、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					副島斉子	
第2回	基本的運動					副島斉子	
第3回	ストレッチング					副島斉子	
第4回	ストレッチングのプログラム					副島斉子	
第5回	調整力（コーディネーション）を高める体操					副島斉子	
第6回	運動遊び					副島斉子	
第7回	補強運動と体幹トレーニング					副島斉子	
第8回	矯正体操					副島斉子	
第9回	ピラティスとヨガエクササイズ					副島斉子	
第10回	全身持久力を高める体操					副島斉子	
第11回	体ほぐしの運動					副島斉子	
第12回	リズム体操					副島斉子	
第13回	エアロビック体操					副島斉子	

第14回	ゆる体操	副島斉子
第15回	正しいウォーキングのためのゆるウォーク	副島斉子
第16回	試験	副島斉子
教科書		
教・書籍名1		教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	スポーツ実習Ⅱ（器械運動）			担当者	梶谷 信之		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-306		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜3限 水曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	△	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 10. 人や国の不平等をなくそう / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	「器械運動を理解し、楽しく、安全に実施する」をテーマとし、器械運動の特徴でもある回転系、倒立系、跳躍系などの基本的な技を習得するとともに、器械運動の特性、危険性を理解し、安全かつ効率的な指導法を工夫しながら実践できることを到達目標とする。						
授業概要	(1)反復練習をすることにより、基本的な技を滑らかに安全に実施できる技術を習得するとともに、自分の意志で自分の体をコントロールする身体支配能力や、バランス・身のこなしなどによる危険回避能力を高める。 (2)プリント資料や講義により器械運動の特性や危険性を理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫しながら指導能力を身につけるようにする。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習						
評価方法と割合	テーマ「器械運動を理解し、楽しく、安全に実施する」の到達度について、器械運動についての知識と運動能力を図るためにレポート内容や実技練習での積極性等を総合的に評価する。 具体的には授業での積極的な練習態度（50%）、実技能力を判定する試験（30%）、知識習得を把握するための課題レポート（20%）を合計して総合評価するが、実習形態の授業であることから授業への参加態度を特に重視する。詳しい評価方法については初回の授業時に説明する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	知識習得を把握するための課題レポートについてのフィードバックは講義内にて実施する。						
履修条件・注意事項	(1)初回の授業は教室に集合して説明した後、体育館に移動し器具のセットや実技講習を行う。 (2)毎回の授業時は、教室で講義、体育館で実技を行うので、筆記用具を持参すること。 (3)実技の授業にはジャージ・体育館シューズ等の動きやすい服装で出席すること。 (4)水分補給のためのスポーツドリンクやお茶等を持参するとよい。 (5)出席確認を授業中に数回行い、居ない場合は欠席となるので授業中の退席時には連絡しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	各時限ごとに実技を実施するうえでのポイントや危険回避のための注意事項などをプリントで説明するため、各自でプリントの予習・復習をしておくこと。 尚、試験で行う実技は反復練習が必要となるため、レベルアップのためには授業前にプリント等を見直してポイントを確認しておくこととよい。						
オフィスアワー	授業前後、非常勤講師室・講義室・体育館にて対応する。						
授業計画						担当者	
第1回	器械運動の基礎トレーニングと技の発展過程						梶谷 信之
第2回	マット運動（接転系①）、跳び箱運動（切返し系①）の練習						梶谷 信之
第3回	マット運動（接転系②）、鉄棒運動（上がり技①）の練習						梶谷 信之
第4回	マット運動（接転系③）、跳び箱運動（切返し系②）の練習						梶谷 信之
第5回	マット運動（接転系④）、鉄棒運動（上がり技②）の練習						梶谷 信之
第6回	マット運動（ほん転系①）、跳び箱運動（回転系①）の練習						梶谷 信之
第7回	マット運動（ほん転系②）、鉄棒運動（中技①）の練習						梶谷 信之
第8回	マット運動（ほん転系③）、跳び箱運動（回転系②）の練習						梶谷 信之
第9回	マット運動（ほん転系④）、鉄棒運動（中技②）の練習						梶谷 信之
第10回	マット運動（ほん転系⑤）、跳び箱運動（回転系③）の練習						梶谷 信之

第11回	マット運動（巧技系①）、鉄棒運動（おり技①）の練習	梶谷 信之	
第12回	マット運動（巧技系②）、跳び箱運動（回転系④）の練習	梶谷 信之	
第13回	マット運動（巧技系③）、鉄棒運動（おり技②）の練習	梶谷 信之	
第14回	実技試験練習と採点の練習	梶谷 信之	
第15回	実技試験練習と採点	梶谷 信之	
第16回			
教科書			
教・書籍名1	適宜プリント等を配布する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	器械運動の授業	参・出版社名1	創文企画
参・著者名1	学校体育研究同志会	参・ISBN1	9784864130660
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ実習Ⅲ(屋外球技) Aクラス			担当者	高藤 順、羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年/ 2019～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-307		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜2限 月曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと 論理的な思考	◎	DP4. コミュニケー ション・表現力	◎
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 17. パート ナートシップで目標を達成しよう 						
到達目標	「ソフトボール」並びに「サッカー」の基本的な特性・規則を理解し、それぞれの競技に興味を持つことをテーマ に、基本技能の習得や戦術理解、ゲームを通じて、基本的なトレーニング方法が実践できること、さらに将来、そ れぞれの競技の指導方法を身につける。						
授業概要	本講義は、ソフトボール並びにサッカーの基本的な技能などの学習を行う。基本技術を学んだ後、実際のゲームで 用いられる戦術のうち、基本的なものを学習する。以上のような基礎的な事項を学習したのち、チームに分けて ゲームを行い、ゲームを通して技能や戦術を活かす方法を考えていく。 本講義の中では、各自の能力を高めるだけでなく、それぞれ練習方法を考え、チームやグループで実践すること を通じて、ソフトボールやサッカーを指導できる能力の向上も図る。						
アクティブラーニングの 内容	実習						
評価方法と割合	実技試験 (30%) 到達目標の達成度 (20%) 各回実習の振り返りワークシート (50%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	毎回の実習後、実習内容を振り返り次回の実習までに日誌を作成し日誌を通して添削指導する。						
履修条件・注意事項	「保健体育科教諭資格必修科目」である。保健体育の授業としてソフトボール並びにサッカーが取り上げられるこ とは非常に多いので教員免許状取得希望者は積極的に履修すること。本実習は、ソフトボールは高梁運動公園もし しくは硬式野球部雨天練習場、サッカーは檜井サッカー場もしくは順正学園体育館で行う。 集合時間は厳守すること。 スポーツのできる服装で授業に参加すること。ふさわしくない服装での参加は認めない。 けがを防ぐためにも集中して授業に臨むこと。授業態度については厳しく指導する。						
実務経験のある教員	該当する	内容	中・高保健体育科教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場におい て実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とそ の時間	事前に次回に行うテーマなどを発表するので、基本的な考え方などはまとめておくこと。 また、各自で練習方法などを調べてまとめておくこと。授業の後は、学んだことをノートなどにまとめるだけで なく、学んだ技能の練習をしておくことが望ましい。						
オフィスアワー	個人研究室 (9405) にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション・受講における諸注意、競技規則					高藤、羽野	
第2回	ソフトボールの基本技術 キャッチボールとトスバッティング					高藤、羽野	
第3回	守備の基本技術 ゴロ処理・フライ捕球・送球					高藤、羽野	
第4回	打撃の基本技術 スイング軌道・ミート力向上					高藤、羽野	
第5回	攻撃のチーム戦術 フォーマーションプレー					高藤、羽野	
第6回	守備のチーム戦術 フォーマーションプレー					高藤、羽野	
第7回	ゲーム					高藤、羽野	
第8回	実技試験					高藤、羽野	
第9回	サッカーの基本技術					高藤、羽野	

第10回	攻撃の個人戦術		高藤、羽野
第11回	守備の個人戦術		高藤、羽野
第12回	攻撃のグループ戦術		高藤、羽野
第13回	守備のグループ戦術		高藤、羽野
第14回	攻守のチーム戦術（1）ゲーム		高藤、羽野
第15回	攻守のチーム戦術（2）ゲーム		高藤、羽野
第16回			
教科書			
教・書籍名1	わかりやすいソフトボールのルール	教・出版社名1	成美堂出版
教・著者名1	丸山克俊	教・ISBN1	9.78E+12
教・書籍名2	サッカー競技規則 2021/2022	教・出版社名2	(公財)日本サッカー協会
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ実習Ⅲ(屋外球技) Bクラス			担当者	高藤 順、羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年/ 2019～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-307		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜2限 月曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと 論理的な思考	◎	DP4. コミュニケー ション・表現力	◎
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 17. パート ナートシップで目標を達成しよう 						
到達目標	学生が、「ソフトボール」並びに「サッカー」の基本的な特性・規則を理解し、それぞれの競技に興味を持つこと をテーマに、基本技術の習得や戦術理解、ゲームを通じて、基本的なトレーニング方法が実践できること、さらに 将来、それぞれの競技の指導方法を身につける。						
授業概要	本講義は、ソフトボール並びにサッカーの基本的な技能などの学習を行う。基本技術を学んだ後、実際のゲームで 用いられる戦術のうち、基本的なものを学習する。以上のような基礎的な事項を学習したのち、チームに分けて ゲームを行い、ゲームを通して技能や戦術を活かす方法を考えていく。 本講義の中では、各自の能力を高めるだけでなく、それぞれ練習方法を考え、チームやグループで実践すること を通じて、ソフトボールやサッカーを指導できる能力の向上も図る。						
アクティブラーニングの 内容	実習						
評価方法と割合	実技試験 (30%) 到達目標の達成度 (20%) 各回実習の振り返りワークシート (50%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	毎回の実習後、実習内容を振り返り次回の実習までに日誌を作成し日誌を通して添削指導する。						
履修条件・注意事項	「保健体育科教諭資格必修科目」である。保健体育の授業としてソフトボール並びにサッカーが取り上げられるこ とは非常に多いので教員免許状取得希望者は積極的に履修すること。本実習は、ソフトボールは高梁運動公園もし しくは硬式野球部雨天練習場、サッカーは檜井サッカー場もしくは順正学園体育館で行う。 集合時間は厳守すること。 スポーツのできる服装で授業に参加すること。ふさわしくない服装での参加は認めない。 けがを防ぐためにも集中して授業に臨むこと。授業態度については厳しく指導する。						
実務経験のある教員	該当する	内容	中・高保健体育科教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場におい て実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とそ の時間	事前に次回に行うテーマなどを発表するので、基本的な考え方などはまとめておくこと。 また、各自で練習方法などを調べてまとめておくこと。授業の後は、学んだことをノートなどにまとめるだけで なく、学んだ技能の練習をしておくことが望ましい。						
オフィスアワー	個人研究室 (9405) にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション・受講における諸注意、競技規則					高藤、羽野	
第2回	ソフトボールの基本技術 キャッチボールとトスバッティング					高藤、羽野	
第3回	守備の基本技術 ゴロ処理・フライ捕球・送球					高藤、羽野	
第4回	打撃の基本技術 スイング軌道・ミート力向上					高藤、羽野	
第5回	攻撃のチーム戦術 フォーメーションプレー					高藤、羽野	
第6回	守備のチーム戦術 フォーメーションプレー					高藤、羽野	
第7回	ゲーム					高藤、羽野	
第8回	実技試験					高藤、羽野	
第9回	サッカーの基本技術					高藤、羽野	

第10回	攻撃の個人戦術		高藤、羽野
第11回	守備の個人戦術		高藤、羽野
第12回	攻撃のグループ戦術		高藤、羽野
第13回	守備のグループ戦術		高藤、羽野
第14回	攻守のチーム戦術（1）ゲーム		高藤、羽野
第15回	攻守のチーム戦術（2）ゲーム		高藤、羽野
第16回			
教科書			
教・書籍名1	わかりやすいソフトボールのルール	教・出版社名1	成美堂出版
教・著者名1	丸山克俊	教・ISBN1	9.78E+12
教・書籍名2	サッカー競技規則 2021/2022	教・出版社名2	(公財)日本サッカー協会
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ実習Ⅳ（陸上競技）			担当者	松下 健二		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-308		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	体育教師の専門的力量育成を目標とし、陸上競技の指導に関わる基礎的教育的事項について学習指導要領に示された単元の目標や内容を理解するとともに実技能力と実技指導能力を身に着ける。						
授業概要	陸上競技種目のうち走る種目として100m走、100mハードル走、跳躍種目として走り幅跳び、走り高跳び、投擲種目として砲丸投げの5種目についてその実技能力を高めるとともに実技指導能力も習得する。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、高等学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／実習						
評価方法と割合	受講態度（25％）＋レポート（25％）＋実技試験（50％）で総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	個人の陸上競技の記録向上に関する課題を与え、課題解決の方法を本人とグループで考えさせ、試行改善させる。その実施中にその都度機会を求めて指導助言する。						
履修条件・注意事項	陸上競技を行うにふさわしい服装と、屋外用、屋内用のシューズを用意すること。陸上競技に関する書籍を参考にして各種目の行い方の概要などを把握しておくこと。 中高保健体育科教諭資格必修科目						
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和46年4月～48年3月まで兵庫県立神戸工業高等学校にて保健体育科教員として勤務				
事前学習・事後学習とその時間	5種目のすべてについて陸上競技関係の書籍やVTRなどを参考にし、その行い方を把握するとともに毎授業後も自己研鑽に励むこと。						
オフィスアワー	授業後、現場にて。						
授業計画						担当者	
第1回	陸上競技についてのオリエンテーション						松下健二
第2回	100mの走り方（スタート～加速期間の走り方）						松下健二
第3回	100m走の中間疾走とフィニッシュのしかた。記録測定						松下健二
第4回	ハードル走の走り方（スタートから1台目） ハードルの飛越方法（クリアランスの方法）						松下健二
第5回	ハードル走の走り方（スタートから5台目まで） リズムカルな走り方 100mハードルの記録測定						松下健二
第6回	走り幅跳び ・助走距離の決定 ・踏切のしかた ・安全な着地のしかた						松下健二
第7回	走り幅跳び ・空中ホーム（そり跳び、はさみ跳び） ・記録測定						松下健二
第8回	走り高跳び ・助走の仕方 ・スタート位置の決定						松下健二

	・踏切の仕方	
第9回	走り高跳び ・クリアランスの方法（はさみ跳び・背面跳び）	松下健二
第10回	砲丸投げ ・砲丸の投げ方（立ち投げ・ステップ投げ） ・安全面での注意	松下健二
第11回	砲丸の投げ方 グライド投法・回転投法・バックステップ投法	松下健二
第12回	砲丸投げの記録測定	松下健二
第13回	記録測定 ①100m走 ②走り幅跳び	松下健二
第14回	記録測定 ハードル走 走り高跳び	松下健二
第15回	記録測定 砲丸投げ 各自で種目を選び再度記録測定	松下健二
第16回	記録測定とまとめ 各自で種目をきめ再度記録測定する	松下健二

教科書

教・書籍名1	中学・高校 陸上競技の学習指導「わかって・できる」指導の工夫	教・出版社名1	道和書院
教・著者名1	編著：小木曾一之・清水茂幸・串間敦郎・雅人雅人・小倉幸雄・田附俊一	教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	ぐんぐん強くなる 陸上競技	参・出版社名1	ベースボール・マガジン社
参・著者名1	尾懸貢	参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ実習Ⅴ（屋内球技）			担当者	山口 英峰、高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-309		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	高等学校までに習得した内容を復習するとともに、屋内球技の中でも特にバレーボールやバスケットボールなどの専門的な技術や知識を身につけ、実践できるようになる。学生は選手としての知識や技能だけではなく、指導者として運動学的な知見を考慮した指導方法を考え、実践できるようになる。						
授業概要	本授業では、安全に屋内球技を行うためのコート準備の方法及びルールの必要性をまず理解する。そして、基礎的な技術と指導方法を身につけたのち、より高度なチーム・プレイを学ぶ。選手としての目線からだけではなく、指導者としての指導方法についても実践から身につける。特に競技が苦手な対象者に対する指導方法について考案し、実践する。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	授業への取り組み姿勢(50%)、基本的な技術およびそれを応用出来る能力を評価するための講義内課題試験(50%)から評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、次回からの講義および講義内課題試験に活用すること。						
履修条件・注意事項	運動するのに相応しい格好で講義を受講すること。ピアス、ネックレスなどのアクセサリ類の着用は怪我の防止の観点から禁止する。また、安全かつ十分なパフォーマンスを発揮できるための体力の維持・向上はかかると、体調を整えて講義に望むこと。中・高保健体育教員免許資格取得のための必修科目であることから、教員免許状の取得を目指す学生は必ず履修すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習として、事前に参考書等により、バレーボールやバスケットボールなど屋内球技の技術やその練習・指導方法等についての知識を身につける必要がある。復習として、指導者として最低限の技術を身につけることができるよう技術向上のための練習をする必要がある。						
オフィスアワー	9号館2階のフィットネスラボにおいて、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	ルールの理解と安全に配慮したバレーボール環境					山口英峰	
第2回	バレーボールにおける基本パス技術					山口英峰	
第3回	サーブとサーブ・レシーブの基本					山口英峰	
第4回	スパイクとブロックの基本					山口英峰	
第5回	パス・ゲームによる動きの理解					山口英峰	
第6回	バレーボールにおけるフォーメーション・プレイとその役割					山口英峰	
第7回	バレーボールに関する知識（審判方法、ゲーム進行など）					山口英峰	
第8回	ゲーム1（基礎を中心に）					山口英峰	
第9回	ゲーム2（応用）					山口英峰	
第10回	バスケットボールにおける基本的技術（ドリブル・パス・シュート）					高原皓全	
第11回	バスケットボールのゲームにおける動きの理解					高原皓全	
第12回	バスケットボールにおけるフォーメーション・プレイとその役割					高原皓全	
第13回	バスケットボールに関する知識（審判方法、ゲーム進行など）					高原皓全	
第14回	ゲーム1（基礎）					高原皓全	
第15回	ゲーム2（応用）					高原皓全	
第16回							

教科書			
教・書籍名1	適宜指示する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	バスケットボール指導教本	参・出版社名1	大修館書店
参・著者名1	公益財団法人日本バスケットボール協会	参・ISBN1	9.78E+12
参・書籍名2	バレーボール指導教本	参・出版社名2	大修館書店
参・著者名2	日本バレーボール協会	参・ISBN2	9.78E+12

授業科目名	スポーツ実習VI (格技) (春学期) Aクラス			担当者	城山 訓郎		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-310		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜4限 水曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	竹刀・木刀を用いての心身鍛錬を通じ、お互いの人格を尊重する。 終始礼法を守り、基本動作を重視し、心技体を一体として修練する。 指導者としての理論と実勢を修得する。						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・日本古来の尚武の精神に由来し、術から道に発展した伝統文化である剣道の特性を理解し、剣道が人格の完成を目的とした運動文化であることを理解すると共に、伝統的所作の理解から剣道のもつ特性、技術を授業時間ごとに系統的に展開する。 ・対人競技としての特質を経験させる。 なお、本実習は学校における剣道の指導及び地域における剣道の指導の実務経験者による実習である。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み姿勢 (30点) ・剣道の教育的特性・文化的特性に関するレポート (30点) ・実技試験 (40点) 						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、実技試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	学修場所 (道場) は心身鍛錬の場であり、規律礼儀作法を守ること (具体的な作法は講義内で指示する)。 剣道防具の確実な着装、また講義前に竹刀の破損点検をすること。 保健体育教員免許取得に関する選択科目であることを意識すること。 実技科目であるから、体調管理に留意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前に配布した資料など通読して、予習しておくこと。また、当日配布した資料をノートをまとめ、復習しておくこと。なお、予習復習についてはそれぞれ2時間程度行うこと。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	授業の概要 剣道史の概要						城山訓郎
第2回	礼法 (対人的敵対関係における「礼」の意味と「座法」、「立法」の方法)						城山訓郎
第3回	基本動作 (構え)、(足捌き)、(竹刀・木刀の扱い方)						城山訓郎
第4回	基本動作 (素振り・打突の仕方)						城山訓郎
第5回	基本動作 (踏み込み足・打突への導入)						城山訓郎
第6回	踏み込み打突 (正面打ち・小手打ち・二段打ち)						城山訓郎
第7回	打突技術構造 (竹刀・木刀による基本形) (1) 基本技術						城山訓郎
第8回	打突技術構造 (竹刀・木刀による基本形) (2) 応用技術						城山訓郎
第9回	剣道具の装着法						城山訓郎
第10回	有効打突 (一本) の理解						城山訓郎
第11回	対人的技能 (しかける技)						城山訓郎
第12回	対人的技能 (応じ技)						城山訓郎
第13回	対人的技能 (つばぜり合いからの技・つばぜり合いからの応じ技)						城山訓郎
第14回	競技規則 (試合・審判を体験する)						城山訓郎
第15回	実技試験						城山訓郎

第16回			
教科書			
教・書籍名1	講義内で配布する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ実習VI (格技) (春学期) Bクラス			担当者	城山 訓郎		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-310		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜4限 水曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	△
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	竹刀・木刀を用いての心身鍛錬を通じ、お互いの人格を尊重する。 終始礼法を守り、基本動作を重視し、心技体を一体として修練する。 指導者としての理論と実勢を修得する。						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・日本古来の尚武の精神に由来し、術から道に発展した伝統文化である剣道の特性を理解し、剣道が人格の完成を目的とした運動文化であることを理解すると共に、伝統的所作の理解から剣道のもつ特性、技術を授業時間ごとに系統的に展開する。 ・対人競技としての特質を経験させる。 なお、本実習は学校における剣道の指導及び地域における剣道の指導の実務経験者による実習である。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み姿勢 (30点) ・剣道の教育的特性・文化的特性に関するレポート (30点) ・実技試験 (40点) 						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、実技試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	学修場所 (道場) は心身鍛錬の場であり、規律礼儀作法を守ること (具体的な作法は講義内で指示する)。 剣道防具の確実な着装、また講義前に竹刀の破損点検をすること。 保健体育教員免許取得に関する選択科目であることを意識すること。 実技科目であるから、体調管理に留意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前に配布した資料など通読して、予習しておくこと。また、当日配布した資料をノートをまとめ、復習しておくこと。なお、予習復習についてはそれぞれ2時間程度行うこと。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	授業の概要 剣道史の概要					城山訓郎	
第2回	礼法 (対人的敵対関係における「礼」の意味と「座法」、「立法」の方法)					城山訓郎	
第3回	基本動作 (構え)、(足捌き)、(竹刀・木刀の扱い方)					城山訓郎	
第4回	基本動作 (素振り・打突の仕方)					城山訓郎	
第5回	基本動作 (踏み込み足・打突への導入)					城山訓郎	
第6回	踏み込み打突 (正面打ち・小手打ち・二段打ち)					城山訓郎	
第7回	打突技術構造 (竹刀・木刀による基本形) (1) 基本技術					城山訓郎	
第8回	打突技術構造 (竹刀・木刀による基本形) (2) 応用技術					城山訓郎	
第9回	剣道具の装着法					城山訓郎	
第10回	有効打突 (一本) の理解					城山訓郎	
第11回	対人的技能 (しかける技)					城山訓郎	
第12回	対人的技能 (応じ技)					城山訓郎	
第13回	対人的技能 (つばぜり合いからの技・つばぜり合いからの応じ技)					城山訓郎	
第14回	競技規則 (試合・審判を体験する)					城山訓郎	
第15回	実技試験					城山訓郎	

第16回			
教科書			
教・書籍名1	講義内で配布する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ実習VI (格技) (秋学期) Cクラス			担当者	城山 訓郎		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-310		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	△
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	竹刀・木刀を用いての心身鍛錬を通じ、お互いの人格を尊重する。 終始礼法を守り、基本動作を重視し、心技体を一体として修練する。 指導者としての理論と実勢を修得する。						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・日本古来の尚武の精神に由来し、術から道に発展した伝統文化である剣道の特性を理解し、剣道が人格の完成を目的とした運動文化であることを理解すると共に、伝統的所作の理解から剣道のもつ特性、技術を授業時間ごとに系統的に展開する。 ・対人競技としての特質を経験させる。 なお、本実習は学校における剣道の指導及び地域における剣道の指導の実務経験者による実習である。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み姿勢 (30点) ・剣道の教育的特性・文化的特性に関するレポート (30点) ・実技試験 (40点) 						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、実技試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	学修場所 (道場) は心身鍛錬の場であり、規律礼儀作法を守ること (具体的な作法は講義内で指示する)。 剣道防具の確実な着装、また講義前に竹刀の破損点検をすること。 保健体育教員免許取得に関する選択科目であることを意識すること。 実技科目であるから、体調管理に留意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前に配布した資料など通読して、予習しておくこと。また、当日配布した資料をノートをまとめ、復習しておくこと。なお、予習復習についてはそれぞれ2時間程度行うこと。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	授業の概要 剣道史の概要						城山訓郎
第2回	礼法 (対人的敵対関係における「礼」の意味と「座法」、「立法」の方法)						城山訓郎
第3回	基本動作 (構え)、(足捌き)、(竹刀・木刀の扱い方)						城山訓郎
第4回	基本動作 (素振り・打突の仕方)						城山訓郎
第5回	基本動作 (踏み込み足・打突への導入)						城山訓郎
第6回	踏み込み打突 (正面打ち・小手打ち・二段打ち)						城山訓郎
第7回	打突技術構造 (竹刀・木刀による基本形) (1) 基本技術						城山訓郎
第8回	打突技術構造 (竹刀・木刀による基本形) (2) 応用技術						城山訓郎
第9回	剣道具の装着法						城山訓郎
第10回	有効打突 (一本) の理解						城山訓郎
第11回	対人的技能 (しかける技)						城山訓郎
第12回	対人的技能 (応じ技)						城山訓郎
第13回	対人的技能 (つばぜり合いからの技・つばぜり合いからの応じ技)						城山訓郎
第14回	競技規則 (試合・審判を体験する)						城山訓郎
第15回	実技試験						城山訓郎

第16回			
教科書			
教・書籍名1	講義内で配布する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	スポーツ実習Ⅶ（ダンス）			担当者	副島 斉子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-311		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	『身体を用いたノンバーバルな表現運動でありコミュニケーションでもある舞踊（ダンス）』をテーマとし、有史以来人類が育み伝承してきた身体運動文化である。体育領域においても、舞踊＝ダンスは主たる種目として位置づけられてきた。今日、人間の身体性に根ざした身体運動として、創造性の追及、自己の開示、表現、感性の涵養、他者との交流、リズム教育、自己の探求、健康づくり、等々様々な意味合い、需要、目的で、ダンスが行われている。 特に、ダンスは現代社会において、次々と新たな様式・内容が生み出されている。これらの多様化してきたダンスを取り出して実技を学習し、基本運動を基にした動きの組み合わせを実施でき、さらに基本的なコレオグラフィーを創造できるようになることを到達目標とする。						
授業概要	基本運動を音楽のビート（拍）、フレーズ、曲調などに合わせて実施できるようになる。音楽に合わせた動きの組み合わせの遂行を学習し、そのうえで基本運動を用いて、一連の動作の組み合わせを創造する方法を学習する。その際、時間的要素と空間的要素を理解して、構成されたコレオグラフィーを発展させることを学習する。加えて、集団でのパフォーマンスの遂行を学習し、集団での演技の楽しさを経験する。これらを通して、表現運動としてのダンスの特性を学ぶ。さらに、現代的なダンスであるエアロビックやヒップホップについて、体験を積む。 この授業の担当者はダンス指導の実務経験を有する。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	実技に関する学習効果を実技試験によって評価する。加えて、逐次運動内容とそのプログラム作成に関するレポートを課して、その両者をそれぞれ50%ずつの比重で評価を行う。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	実技中の怪我などの防止のため、時計や装身具類は身に着けないこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	健康増進施設やフィットネスクラブなどで指導。表現スポーツの選手を指導。				
事前学習・事後学習とその時間	各回の授業において、学修した内容を、自らの指導案として、授業後まとめておくこと。さらに次の授業時のねらいがしめされるので、あらかじめそれに応じた運動内容を各自で考えておくこと。 予習・復習はそれぞれ約2時間行うこと。						
オフィスアワー	火曜日4限、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					副島斉子	
第2回	音楽のビート（拍）に合わせた基本運動					副島斉子	
第3回	音楽のフレーズに合わせた基本運動					副島斉子	
第4回	曲調に合わせた基本運動					副島斉子	
第5回	音楽と動きの時系列的要素					副島斉子	
第6回	動きの組み合わせの遂行					副島斉子	
第7回	空間系列的要素					副島斉子	
第8回	動きの応用変化					副島斉子	
第9回	動きの発展					副島斉子	
第10回	コレオグラフィー作成の基本					副島斉子	
第11回	コレオグラフィー作成の実際					副島斉子	

第12回	表現運動としてのダンス		副島斉子
第13回	現代的ダンス：エアロビック		副島斉子
第14回	オンビートとアフタービート		副島斉子
第15回	現代的ダンス：ヒップホップ		副島斉子
第16回	試験		副島斉子
教科書			
教・書籍名1	みんなでトライ！表現運動の授業	教・出版社名1	全国ダンス表現運動授業研究会
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	運動学			担当者	松下 健二		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-312		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	<p>「運動分析から運動指導」と「基礎的技術のメカニズムの理解とその習得」をテーマとして、講義と演習を通じて、運動学（運動方法学）の基礎的知識の習得と自己の運動技能を向上させる方法を習得するとともに、それぞれの運動についての知識レベルを都道府県教員採用試験に出題される問題に対応できるレベルにすることを到達目標とする。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、高等学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。</p>						
授業概要	様々なスポーツ活動を構成する基本的身体運動の代表なものについて、その基本的動きのメカニズムを解説理解するとともに、主なスポーツの運動及び技術体系について整理し、運動及び技術の発生から多様化、高度化に至るまでの進化の過程について学ぶ。また、運動学の歴史的発展についても触れ、運動学の発展について学習する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習						
評価方法と割合	受講態度（25%）＋レポート（25%）＋試験（50%）で総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題を解決した方法などについて発表し、ディスカッションを行なわせ解説する。終講テストはテスト後自己採点を行なわせ、誤りを訂正させる。						
履修条件・注意事項	<p>配布した資料及び紹介した書籍などから次の授業の要点について予習を行い授業での問題提起や討論に対して積極的に参加できるようにする。また、レポートの提出状況が受験資格となる。よって授業後授業の内容をノートにまとめておく事が望ましい。</p> <p>中高保健体育科教諭資格必修科目 （公財）日本スポーツ協会公認スポーツリーダー、ジュニアスポーツ指導員受験資格必修科目</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和46年4月～48年3月まで兵庫県立神戸工業高等学校にて保健体育教員として勤務				
事前学習・事後学習とその時間	予習として筋肉の機能と構造について解剖学の書籍を参考にして知識を得ておくこと。復習として指示に従ってノートを作成し、身体操作の観点から理解を深めること。予習・復習とも2時間ほど行うこと。						
オフィスアワー	授業終了後、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	運動学とは（運動学の領域）					松下健二	
第2回	運動と解剖学					松下健二	
第3回	運動力学					松下健二	
第4回	運動と生理学					松下健二	
第5回	運動と心理学					松下健二	
第6回	運動の分析から運動指導へ					松下健二	
第7回	基本技術のメカニズム（走る・跳ぶ）					松下健二	
第8回	基本的技術のメカニズム（蹴る）					松下健二	
第9回	基本的技術のメカニズム（投げる・捕る）					松下健二	
第10回	基本的技術のメカニズム（打つ）					松下健二	
第11回	年齢に応じた技術の獲得過程 I					松下健二	

第12回	年齢に応じた技術の獲得過程Ⅱ	松下健二
第13回	運動の身体への影響（生理）	松下健二
第14回	運動の身体への影響Ⅱ（心理）	松下健二
第15回	まとめ	松下健二
第16回	単位認定試験	松下健二
教科書		
教・書籍名1		教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	身体運動学概論	参・出版社名1
参・著者名1	編著：浅見俊雄・石井喜八・宮下充正・浅見高明・小林寛道	参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	運動方法学			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-313		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	『スポーツ指導者』をテーマとして、スポーツ全般を対象にして、その指導の方法論の原則について学習する。指導はあくまで指導の対象となる者、つまり選手や生徒が主体である。そして、指導は指導者とその指導対象者との関係性において、展開されるものである。そこには当然のこととして、指導対象者の基本的な条件、年齢、性別、目的、レベル等々が、存在する。また、環境との関係性も働きかけてくる。指導は生理学的原則などに立脚しつつ、教育学的及び心理学的理論、さらに今日では認知科学的及び脳科学的研究成果などを踏まえて行われる。学生はトップアスリート育成の方法論も講じながら、学校教育現場における体育授業での指導方法論、競技力向上を目的とした指導方法論、生涯スポーツ的な指導方法論などが理解できるようになることを到達目標と到達目標とす						
授業概要	運動方法学は昨今コーチングとの関係性を強めている。これは偏に、指導対象者の主体性を重視し、その人の意思や志向性を指導の立脚点としようという試みである。各人の自己イメージや有能感を指導の中心的なテーマとして、指導者は対象者を見ることの大切さがそこにはある。これは学校教育における課題とも合致し、またトップアスリート育成での基本的な立場でもある。本講義では、こうした視点について、実例を多く示しながら理解していく。そのうえで、技能獲得の具体的な手立て、集団の形成と集団を生かした運動指導、などについて論じていく。この授業の担当者は、スポーツ指導・コーチングの実務経験を持つ。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業時に課すレポート課題で30%、最終試験で70%の比率で評価を行う。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	(公財) 日本スポーツ協会スポーツ指導員資格取得必修科目である。指導者としてしっかりとした知識をもとに指導できることを目的としているため、授業の復習や課題を十分に行うことを条件とする。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業時において、次回の授業内容に応じて、各自のスポーツ経験に基づく問題を見出す指示を行う。これによって、各自経験の見直しや情報収集を行う。授業後は、授業内容を受けて、望ましい在り方について考察し、時にレポートとして提出する。予習1コマ・復習1コマを行う。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					竹内研	
第2回	従来の運動指導の問題点					竹内研	
第3回	コーチングとは					竹内研	
第4回	運動指導者としての資質					竹内研	
第5回	運動指導の目的・ねらい					竹内研	
第6回	スポーツのパフォーマンスとは					竹内研	
第7回	上達論					竹内研	
第8回	技術指導の心理学的原則					竹内研	
第9回	トレーニングとプラクティス					竹内研	
第10回	集団の構造					竹内研	
第11回	集団の機能					竹内研	
第12回	体育授業での運動指導					竹内研	

第13回	教育目標と運動指導		竹内研
第14回	社会スポーツにおける運動指導		竹内研
第15回	セルフエフィカシー向上のための方法		竹内研
第16回	試験		竹内研
教科書			
教・書籍名1	スポーツ・コーチング学	教・出版社名1	西村書店
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	学校保健			担当者	城山 訓郎		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-314		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	△	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：学校保健の歴史をふまえ、学校保健の意義・目的や教育システムにおける位置づけを理解する。 到達目標：学校教育期の健康問題とその解決方法、学校保健活動方法、児童・生徒教職員の健康管理のあり方等について説明できるようになる。						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健の領域・学校保健計画・保健組織活動について理解する。 ・子どもの発育・発達及び健康課題とその対応について理解する。 ・保健教育について理解する。 なお、本講義は保健体育科教員としての実務経験がある教員が学校現場における実際等を踏まえて講義を行う。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	定期試験とレポートおよび授業態度にて評価する。定期試験を50%とし、レポートの記述内容30%、授業での積極的発言など授業態度を20%とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、授業内でフィードバックすることから、次回からの授業および実技試験に活用すること。						
履修条件・注意事項	準備学習を徹底すること。配布資料をファイルに保管し、毎回の講義に持参すること。提出したレポートは、コメントを付して翌週に返却をするので、見直しておくこと。また、学校現場を理解するという意欲をもって、主体的に授業に取り組むこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能のように、テキストの指定されたページをまとめるなど予習しておくこと。また、配布した資料や、講義内容を踏まえて学期末の定期試験を出題するので、授業終了後にノートをまとめ、復習しておくこと。なお、予習復習についてはそれぞれ2時間程度行うこと。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	学校保健の概要（健康の定義・保健の意義・目的）					城山訓郎	
第2回	児童生徒の発達と健康（身体・体力・運動能力・心の発育・発達）					城山訓郎	
第3回	保健学習（保健教育）					城山訓郎	
第4回	保健指導（性教育）					城山訓郎	
第5回	学校における保健管理の意義（健康相談）					城山訓郎	
第6回	健康診断（健康診断の歴史と変遷）					城山訓郎	
第7回	健康障害の管理（感染症とその予防）					城山訓郎	
第8回	子どもに多い病気と健康障害					城山訓郎	
第9回	学校精神保健（児童生徒の心の危険サイン）					城山訓郎	
第10回	障害児の健康（特別支援教育の動き）					城山訓郎	
第11回	学校保健活動（保健室の役割・救急処置）					城山訓郎	
第12回	学校保健関係（職務内容）					城山訓郎	
第13回	学校安全・危機管理（子どもを取り巻く危険の実態）					城山訓郎	
第14回	学校保健安全法・関係法について					城山訓郎	
第15回	春学期を通してのまとめ					城山訓郎	
第16回	試験						
教科書							

教・書籍名1	新版 学習保健	教・出版社名1	大学教育出版
教・著者名1	門田 新一郎、大津 一義	教・ISBN1	978-4-88730-975-3
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	衛生・公衆衛生			担当者	中瀬 克己		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-315		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	△
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	△	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう / 3. すべての人に健康と福祉を / 10. 人や国の不平等をなくそう / 11. 住み続けられるまちづくりを / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>テーマは公衆衛生である。公衆衛生活動の目的は その国や地域の優先する健康問題に社会資源を配分したり、健康格差を減らしたりする事により、効率的に社会の健康課題に取り組むことである。個人よりは集団を対象とし、個々の病気の治療よりもその病気を起こりやすくしている環境や制度に注目する。現状や介入効果の評価を疫学や統計資料によって行い、学問的に精緻化されている。</p> <p>到達目標は公衆衛生の視点が身に付くことである。</p>						
授業概要	<p>公衆衛生活動では 疾病予防、寿命延長及び精神的・身体的・社会的な健康の保持増進など、その目的のための様々な社会制度・社会的取り組みや技術がある。この科目では 公衆衛生の総論的、基礎的な考えかたを種々の例を用いて学習する。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	期末の試験（50％）と授業への取り組み姿勢及び提出物の内容（50％）で評価する。授業時にアンケートや練習問題を行い、その内容を評価に反映させる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業時にアンケートや練習問題を行い、必要時に講義内容に加えてフィードバックを行うとともに次回以降の講義内容、進捗等に反映させる。						
履修条件・注意事項	<p>期末試験では、配布資料、自作のまとめ（自作に限る、他人のコピーは不可）は持ち込み可とする。再試はしない。</p> <p>「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、自治体の公衆衛生部門において実務経験のある教員が担当し、現状や課題とその解決に必要なとされる知識や能力を含めて講義をすることによって、学生の理解を実際的なものとし又深める。				
事前学習・事後学習とその時間	「記憶」より「理解」が自らの考えを形作るためには重要である。「なぜそうなのか」といった疑問を持って授業に臨むと理解が深まる。一方、授業内容の背景理解や整理のためには参考資料などで補う必要がある。参考図書を紹介している。						
オフィスアワー	6号館4 6424研究室にて 毎週水曜2限 教授会がある日を除く または木曜 限を オフィスアワーとする。						
授業計画						担当者	
第1回	社会と健康					中瀬克己	
第2回	食のイメージマッピング					中瀬克己	
第3回	公衆衛生を担う機関					中瀬克己	
第4回	行動経済学					中瀬克己	
第5回	ソーシャルキャピタルとヘルスプロモーション					中瀬克己	
第6回	環境保健					中瀬克己	
第7回	医療政策					中瀬克己	
第8回	産業保健					中瀬克己	
第9回	ストレスチェック					中瀬克己	
第10回	口腔保健					中瀬克己	
第11回	災害保健					中瀬克己	
第12回	身近な感染症と耐性菌					中瀬克己	

第13回	食品安全と食中毒	中瀬克己	
第14回	感染症危機管理	中瀬克己	
第15回	疫学	中瀬克己	
第16回	筆記試験	中瀬克己	
教科書			
教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	公衆衛生がみえる2022-2023	参・出版社名1	メディックメディア
参・著者名1	医療情報科学研究所 編	参・ISBN1	4896328582、978-4896328585
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	幼児体育			担当者	副島 斉子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-316		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	スポーツライセンスのうち(公財)日本スポーツ協会ジュニアスポーツ指導員受験資格取得のために必要なカリキュラムを実施する。今日、幼少期においても運動不足、コミュニケーション不足が危惧されているため、『幼少期の運動活動』をテーマとし、スポーツの果たす役割が大きいことから政府はいろいろなスポーツ振興策を進めている。また、この時期は感覚器官及び脳神経系の発達が著しいため、生涯にわたる健康の獲得とスポーツ実践の基礎はこの時期の良い運動習慣により培われる。優れた運動感覚の習得は諸スポーツ活動にスムーズに入るための基礎であり、また、生涯を健康に生活していくための基礎でもある。しかし、幼少期の身体発達は骨格系・筋肉系・内臓系ともに未成熟であるため、この時期の運動感覚の習得は成人のトレーニングスタイルであってはならず、いかに遊びの中で、楽しく身につけるかが重要となる。本実習では幼少期において獲得されるべき基本的運動感覚についての基礎知識の習得と、それらを幼児および児童に楽しく実践させるための指導法について系統的に理解・実践できるようになることを到達目標とする。						
授業概要	幼少期の心身の発達及び運動発達について系統的に理解していく。「遊び」「幼少期の身体」「発育と発達」「感覚」「コミュニケーション」「スポーツ」等、専門用語の基本概念を理解したうえで、各発達段階における心身の機能の特徴を学習する。また、現在求められているコミュニケーション能力の獲得、対人関係の改善等の問題や体力・運動能力の低下の問題等幼少期の課題を理解し、支援するための運動のあり方を考えていく。これらの基礎理論の上になたって、実践的に運動を展開するための運動遊びやゲーム等の教材研究、指導方法を学ぶ。この授業の担当者は、幼児期の運動指導の実務経験を有する。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク/プレゼンテーション/実習						
評価方法と割合	最終試験50%、レポート等提出物50% 評価のためのレポートは授業時にフィードバックする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した試験や課題の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	講義の性格上、体調管理、安全な服装で臨むこと						
実務経験のある教員	該当する	内容	幼児期・児童期の子供の運動教室で運動指導。				
事前学習・事後学習とその時間	各回の授業において、学修した内容を、自らの指導案として、授業後まとめておくこと。さらに次の授業時のねらいがしめされるので、あらかじめそれに応じた運動内容を各自で考えておくこと。 予習・復習はそれぞれ約2時間行うこと。						
オフィスアワー	火曜日4限、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	子どもとのコミュニケーションスキル1：子どもの発達とコミュニケーションスキル					副島斉子	
第2回	子どもとのコミュニケーションスキル2：子どもの発達とコミュニケーションスキル					副島斉子	
第3回	子どもとのコミュニケーションスキル3：子どもの発達とコミュニケーションスキル					副島斉子	
第4回	幼児期・児童期における基本的運動感覚の習得1－移動系：動きの発達とスキルの獲得					副島斉子	
第5回	幼児期・児童期における基本的運動感覚の習得1－平衡系：動きの発達とスキルの獲得					副島斉子	
第6回	幼児期・児童期における基本的運動感覚の習得1－操作系：動きの発達とスキルの獲得					副島斉子	
第7回	幼児期・児童期における基本的運動感覚の習得2：動きの発達とスキルの獲得,コーディネーションの養成					副島斉子	
第8回	児期・児童期における運動遊びとゲーム1－ごっこあそび：運動遊び・ゲームの実際					副島斉子	
第9回	児期・児童期における運動遊びとゲーム2－ゲーム：運動遊び・ゲームの実際					副島斉子	

第10回	児期・児童期における運動遊びとゲーム3－運動遊び：運動遊び・ゲームの実際	副島斉子
第11回	児期・児童期における運動遊びとゲーム4－スポーツ：運動遊び・ゲームの実際	副島斉子
第12回	児期・児童期における運動遊びとゲーム5－親子遊び：運動遊び・ゲームの実際	副島斉子
第13回	児期・児童期における運動遊びとゲーム6－1人遊び：運動遊び・ゲームの実際	副島斉子
第14回	児期・児童期における運動遊びとゲーム7－グループでの遊び：運動遊び・ゲームの実際	副島斉子
第15回	幼児期・児童期の指導の留意点	副島斉子
第16回	試験	副島斉子

教科書		
-----	--	--

教・書籍名1	幼少年期の体育	教・出版社名1	大修館書店
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書		
-----	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	解剖学			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-317		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	人体解剖学を科学的に理解することをテーマとし、人体を分子細胞のレベルから個体のレベルまで理解し、あわせて専門用語も身に付けることによって専門科目を容易に学ぶことできる。 人体の構造と機能を理解し、各専門科目を学ぶための基礎能力を身に付けることを目標とする。						
授業概要	人体は一個の受精卵から出発し、発生分化を経て複雑な構造体を形成している。解剖学はその人体の構造と各器官の形態及び機能を分子細胞のレベルから個体のレベルまで一体として理解し、合せて各専門科目を学ぶための基礎とする。講義内容、(1) 人体の概要 (2) 人体の構造と区分 (3) 人体の支持と機能 (骨格系) (4) 人体の支持と機能 (筋系) (5) 人体の支持と機能 (関節) (6) 神経系の機能 (末梢神経系) (7) 神経系の機能 (自律神経系) (8) 循環器系 (9) 呼吸器系 (10) 消化器系 (11) 泌尿器系 (12) 内分泌系 (13) 中枢神経系 (上位中枢) (14) 中枢神経系 (下位中枢) (15) 感覚器						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	受講態度20%、単位認定試験80%による総合評価を行う。単位認定試験は採点后各自個別指導を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	複数回に分けて、学習理解度確認のための課題や小テストをユニバーサルサポートを用いて実施する。実施した課題および小テストで得られた回答の一部は、必要に応じて講義内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	常に予習・復習を行い、予習で起きた疑問点は授業と復習によって解決するように心がけること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習として授業計画に記載されている部分について事前に参考書等を約2時間読みままとめておくこと。復習として毎回の授業を自分でまとめ必要なところは繰り返し約2時間読んで暗記すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室 (9402研究室) において、毎週月曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	人体の概要					高原皓全	
第2回	人体の構造と区分					高原皓全	
第3回	人体の支持と機能 (骨格系)					高原皓全	
第4回	人体の支持と機能 (筋系)					高原皓全	
第5回	人体の支持と機能 (関節)					高原皓全	
第6回	神経系の機能 (末梢神経系)					高原皓全	
第7回	神経系の機能 (中枢神経系)					高原皓全	
第8回	循環器系					高原皓全	
第9回	呼吸器系					高原皓全	
第10回	消化器系					高原皓全	
第11回	泌尿器系					高原皓全	
第12回	内分泌系					高原皓全	
第13回	中枢神経系 (上位中枢)					高原皓全	
第14回	中枢神経系 (下位中枢)					高原皓全	
第15回	感覚器					高原皓全	
第16回	単位認定試験					高原皓全	
教科書							
教・書籍名1	授業毎に資料を配布する					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	

教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	図解解剖学辞典	参・出版社名1	医学書院
参・著者名1	山田英智	参・ISBN1	
参・書籍名2	入門人体解剖学	参・出版社名2	南江堂
参・著者名2	藤田恒夫	参・ISBN2	

授業科目名	生理学			担当者	椎葉 大輔		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護 1年 / 2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ 社1年			ナンバリング	SS-SM-1-318		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考	○	DP4. コミュニケー ション・表現力	
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	健康科学の根幹である生理学から人体の生きている仕組みを学ぶ。そして生体の在り方が多くのバランスの上に成り立つことを理解する。						
授業概要	生理学は身体の各臓器の機能を知るとともに、身体全体としての統合的な調整と適応の機序を明らかにする学問である。各機能間の関連を考慮しながら、筋、循環、呼吸、消化、代謝、排泄、内分泌などの植物性機能の概要を講義する。また、健康科学や臨床医学とのかかわりを解説し、それらの基礎とすることを旨とする。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義姿勢（10%）、課題（10%）および定期試験（80%）の成績で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	教科書に目を通し、解剖学の基礎的な知識を持っておくこと。さらに、講義に出題される課題に取り組むこと。毎回の授業前後において、講義資料を熟読し、予習復習すること。						
オフィスアワー	非常勤なので授業終了後、教室にて質問に対応しますので声をかけてください。						
授業計画						担当者	
第1回	生体機能とホメオスタシス					椎葉 大輔	
第2回	骨格筋 1) 構造と機能					椎葉 大輔	
第3回	骨格筋 2) 収縮機構・脊髄反射					椎葉 大輔	
第4回	神経系 1) 神経系の分類					椎葉 大輔	
第5回	神経系 2) 静止電位と活動電位					椎葉 大輔	
第6回	神経系 3) 興奮の伝導と伝達 4) 反射					椎葉 大輔	
第7回	神経系 5) 中枢神経系 6) 体性神経系・自律神経系					椎葉 大輔	
第8回	感覚器					椎葉 大輔	
第9回	血液と体液					椎葉 大輔	
第10回	心臓の機能と調節					椎葉 大輔	
第11回	血管運動調節系					椎葉 大輔	
第12回	呼吸器系の構造と機能					椎葉 大輔	
第13回	呼吸運動とその調節					椎葉 大輔	
第14回	高温環境と運動					椎葉 大輔	
第15回	体温調節系					椎葉 大輔	
第16回	筆記試験					椎葉 大輔	
教科書							
教・書籍名1	使用しない（毎回の講義で資料を配布する）					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	
参考書							

参・書籍名1	イラストでまなぶ生理学	参・出版社名1	医学書院
参・著者名1	田中越郎	参・ISBN1	9.78426E+12
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	運動栄養学			担当者	野瀬 由佳		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-319		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	金曜2限 金曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	栄養学の基礎として、各栄養成分の理解と、消化吸収のメカニズムについて理解し、実生活での食事と栄養の関係について配慮できるようになる。また運動のエネルギー供給について理解し、健康づくりやスポーツ活動における効果的な食事について配慮することができる。						
授業概要	基礎栄養学として、活動のエネルギーとなる栄養素と、体の恒常性を保つための栄養素について学び、日常の食事との関連について講義する。また、身体運動と栄養の関係について講義する。さらに、スポーツ活動や健康づくりに関連する、栄養素やビタミン、ミネラル、水分摂取などについて講義する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	リアクションペーパー（20％）レポート（20％）、講義終了後の試験（60％）をあわせて評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 (公財) 日本スポーツ協会公認スポーツリーダー、スポーツプログラマー受験資格必須科目						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習は講義の進行を見て、講義の終わりに意を出す。復讐はその日のキーワードを示すのでそのことについてまとめる。予習2時間、復習2時間をかけて行うこと。						
オフィスアワー	非常勤講師のため、大学に常駐していません。オフィスアワーは講義終了後、ならびに講義内で示すメールでの対応となります。						
授業計画						担当者	
第1回	栄養の概念					野瀬 由佳	
第2回	消化・吸収と栄養素の体内動態1					野瀬 由佳	
第3回	消化・吸収と栄養素の体内動態2					野瀬 由佳	
第4回	糖質の栄養					野瀬 由佳	
第5回	脂質の栄養					野瀬 由佳	
第6回	たんぱく質の栄養					野瀬 由佳	
第7回	ビタミンの栄養					野瀬 由佳	
第8回	ミネラルの栄養					野瀬 由佳	
第9回	食生活と食品群					野瀬 由佳	
第10回	健康と栄養					野瀬 由佳	
第11回	運動のエネルギーとしての栄養					野瀬 由佳	
第12回	実際の食事とその栄養素1					野瀬 由佳	
第13回	実際の食事とその栄養素2					野瀬 由佳	
第14回	栄養摂取と食生活					野瀬 由佳	
第15回	スポーツ栄養における最新の知見について					野瀬 由佳	
第16回	定期試験					野瀬 由佳	

教科書			
教・書籍名1	各回講義において資料を配布する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	基礎栄養学	参・出版社名1	第一出版
参・著者名1	鈴木 和春 他	参・ISBN1	978-4-8041-1143-8
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	身体運動学			担当者	浅井 武		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-320		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	身体運動を支える体の機能をjついて生理学、解剖学を基本として学び、身体運動の成り立ちを物理学的解析法により理解し、運動の理論的実践指導が出来るようになる。						
授業概要	身体運動を支える体の機能をjついて生理学、解剖学を基本として学び、身体運動の成り立ちを物理学的解析法により理解し、運動の理論的実践指導が出来るようになる。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	課題（20%）および試験（80%）の結果を合わせて評価を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題に対するフィードバックに関しては、講義内で実施する。						
履修条件・注意事項	「健康運動実践指導者および健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は予習復習が必要である。予習として、各授業計画に記載されている部分について資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として課題を出すので、次回の授業時に発表すること。						
オフィスアワー	集中講義のため講義終了後とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					浅井 武	
第2回	身体運動と物理学					浅井 武	
第3回	姿勢、重心と身体運動					浅井 武	
第4回	関節の構造と機能					浅井 武	
第5回	頸部の関節運動					浅井 武	
第6回	上肢の関節運動					浅井 武	
第7回	脊柱の構造とその運動					浅井 武	
第8回	骨盤と下肢の運動					浅井 武	
第9回	エネルギーとパワー					浅井 武	
第10回	歩行と走行					浅井 武	
第11回	水中での身体運動					浅井 武	
第12回	3つのエネルギー供給システム					浅井 武	
第13回	有酸素パワーと無酸素パワー					浅井 武	
第14回	筋パワーと弾性エネルギー					浅井 武	
第15回	身体運動と健康					浅井 武	
第16回	単位認定試験					浅井 武	
教科書							
教・書籍名1	スポーツバイオメカニクス20講				教・出版社名1	朝倉書店	
教・著者名1	阿江通良+藤井範久				教・ISBN1	978-4-254-69040-8	
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							

参・書籍名1	身体運動学概論	参・出版社名1	大修館書店
参・著者名1	浅見 俊雄 他	参・ISBN1	ISBN4-469-26038
参・書籍名2	運動とからだ	参・出版社名2	大修館書店
参・著者名2	朝比奈一男	参・ISBN2	4-469-16312-0

授業科目名	リハビリテーション医学			担当者	河村 顕治		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-321		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	スポーツに関係する運動器疾患を中心として、リハビリテーション医学の対象となる疾患の理解をテーマとし、学生がそれらの病態とその治療、理学・作業療法の内容などの知識を身につけることができる。						
授業概要	リハビリテーションの理念と社会的、地域のリハビリテーションを含めた包括的なリハビリテーションの考え方を教授する。平成12年度より始まった公的介護保険制度についても、社会的背景より講義を行う。 リハビリテーションを単なる後療法と位置づけるのではなく、人間らしく生きるための技術、学問として考えていきたい。また、リハビリテーションにおけるチームアプローチの重要性を強調したい。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	定期試験（80％）を中心に、学期末に提出するポートフォリオの内容（20％）にて総合的に判定を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題やレポート等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。						
履修条件・注意事項	リハビリテーション医学の履修において各自がポートフォリオを作成することを義務づける。これは学習をより確かなものにしてこれからの専門的学習の基礎を作るためである。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、医師（日本リハビリテーション医学会専門医）としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、臨床現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	授業に先立って「リハビリテーション医学テキスト」で該当部分を予習しておくこと。復習として授業終了後には講義内容及び関連事項を図書館やインターネットを利用してポートフォリオにまとめること。予習および復習には、各1時間程度を要する。						
オフィスアワー	個人研究室にて、火曜日の4時限目に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	リハビリテーション医学とは					河村顕治	
第2回	運動器のリハビリテーション(総論)					河村顕治	
第3回	運動器のリハビリテーション（運動器不安定症：病態と診断）					河村顕治	
第4回	運動器のリハビリテーション（運動器不安定症：上肢疾患）					河村顕治	
第5回	運動器のリハビリテーション（運動器不安定症：下肢疾患）					河村顕治	
第6回	運動器のリハビリテーション（評価の概要）					河村顕治	
第7回	運動器のリハビリテーション（評価の実際）					河村顕治	
第8回	運動器のリハビリテーション（治療総論）					河村顕治	
第9回	運動器のリハビリテーション（筋力訓練）					河村顕治	
第10回	運動器のリハビリテーション（ストレッチング）					河村顕治	
第11回	運動器のリハビリテーション（体操療法）					河村顕治	
第12回	運動器のリハビリテーション（物理療法）					河村顕治	
第13回	運動器のリハビリテーション（各論：関節疾患）					河村顕治	
第14回	運動器のリハビリテーション（各論：腰椎疾患：病態と診断）					河村顕治	
第15回	運動器のリハビリテーション（各論：腰椎疾患：治療）					河村顕治	
第16回	単位認定試験					河村顕治	
教科書							

教・書籍名1	リハビリテーション医学 第1版	教・出版社名1	羊土社
教・著者名1	安保雅博／監、渡邊 修、松田雅弘／編	教・I S B N 1	978-4-7581-0231-5
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・I S B N 1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	内科学一般 オムニバス			担当者	青山 雅、高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-322		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	健康領域に従事する者として心得ておかなければならない医学一般並びに老人医療に関する知識を幅広く理解すること。ならびに他の医療従事者とも緊密にチームワークを作る為にも医学や看護などの基礎的知識を豊かにすること。学生はこれらことを学び、理解することで、健康領域の現場に出た際に他の医療従事者と共通理解の上で円滑に業務を遂行することができる。						
授業概要	様々な疾患の概要、頻度、症候、病生理、診断、治療と予後についての基礎的知識を把握する。また、疾患を十分理解するために、疾患の要因、特徴や症状についての理解を深める。生活習慣病に関しては、各疾患についての理解にとどまらず、運動療法、食事療法、薬物療法との関係についても理解を深める。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	受講態度20%、単位認定試験80%による総合評価を行う。単位認定試験は採点后各自個別指導を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	複数回に分けて、学習理解度確認のための課題や小テストをユニバーサルポスポートを用いて実施する。実施した課題および小テストで得られた回答の一部は、必要に応じて講義内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 最近の社会における医療や福祉の変化の情報に注目すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	青山 雅 (医師、糖尿病・代謝内科)				
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が2時間程度必要である。予習として、毎回の授業において問題提起と討論が可能のように配布された資料の指定されたページを熟読してくる。復習として、毎回課題を出すので、次の授業時に発表すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室 (9402研究室) において、毎週月曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	生活習慣病概論					高原 皓全	
第2回	メタボリックシンドローム					青山 雅	
第3回	ロコモティブシンドローム					青山 雅	
第4回	肥満症 (1) 肥満症とは					高原 皓全	
第5回	肥満症 (1) 肥満症の治療と予防					青山 雅	
第6回	高血圧症					青山 雅	
第7回	脂質異常症					青山 雅	
第8回	糖尿病					青山 雅	
第9回	虚血性心疾患					青山 雅	
第10回	呼吸器疾患					青山 雅	
第11回	循環器疾患					高原 皓全	
第12回	悪性新生物					青山 雅	
第13回	認知症					青山 雅	
第14回	骨粗鬆症					高原 皓全	
第15回	生活習慣病総括					高原 皓全	
第16回	単位認定試験					高原 皓全	
教科書							
教・書籍名1	授業毎に資料を配布する					教・出版社名1	

教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	コメディカルのための内科学	参・出版社名1	医学出版社
参・著者名1	伊東進、森博愛	参・ISBN1	978-4870550971
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	東洋医学概論			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-323		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	△	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 東洋医学理論の枠組みを概観することができる。 到達目標： 1：東洋医学の歴史（中国編）を説明できるようになる。 2：日東洋医学の歴史（日本編）を説明できるようになる。 3：東洋医学の特徴を理解できるようになる。 4：東洋医学の基本理念を理解できるようになる。						
授業概要	東洋医学概論の講義では病気の予防および体質改善を目的とし、今後多分野の中で応用できる基礎理論の掌握を狙っている。生活の知恵から生まれた東洋医学の背景を検討し、さらにそれに伴って陰陽論の基本内容および東洋医学における陰陽論の応用、五行論の基本内容および東洋医学における五行論の応用、気血津液の分類と作用及び相互関係、臓腑学説の形成及び生理特徴、経絡の作用、循行及び連接の規則性、八綱弁証理論などを紹介する。						
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「東洋医学の歴史、特徴及び基本理念を理解できるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（50％）、講義ノート（30％）、授業への積極的な参加態度（20％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	毎回の授業において問題提起と討論が可能なようにテキストの指定されたページを熟読してくる。また、学期末のレポート提出が定期試験受験の条件となることから授業終了後にノートを纏めておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 試験は必ず行うので、授業に出席していただければ単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習に、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	東洋医学の歴史（中国編）					孫基然	
第2回	東洋医学の歴史（日本編）					孫基然	
第3回	東洋医学の特徴					孫基然	
第4回	基本理論（陰陽学説の由来及び内容）					孫基然	
第5回	基本理論（五行学説の由来及び内容）					孫基然	
第6回	気思想（由来、分類）					孫基然	
第7回	気思想（作用、病態）					孫基然	
第8回	血の生成、作用及び循環					孫基然	
第9回	水の代謝ルート及び病態特徴					孫基然	
第10回	臓腑学説（心の生理機能）					孫基然	
第11回	臓腑学説（肝の生理機能）					孫基然	
第12回	臓腑学説（脾の生理機能）					孫基然	

第13回	臓腑学説（肺の生理機能）	孫基然
第14回	臓腑学説（腎の生理機能）	孫基然
第15回	臓腑学説（六腑の生理機能）	孫基然
第16回	筆記試験	孫基然
教科書		
教・書籍名1	適宜プリント資料を配布する。	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	経絡鍼灸学			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2019～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2019～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-324		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年 / 2年		開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	△	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	<p>テーマ：</p> <p>1：経絡とは何かを理解できるようになる。 2：正しい鍼灸治療を身につけることができる。</p> <p>到達目標：</p> <p>1：経絡の意義を説明できるようになる。 2：経絡の走行ルートを理解できるようになる。 3：鍼の刺し方を身につけることができる。 4：艾柱の作り方をできるようになる。</p>						
授業概要	「経絡学説」は東洋医学における最も重要な生理学の一環であると同時に、臨床各科治療の基礎でもある。本講義ではまず経絡の起源に関わる背景を紹介し、その後「十二正経」を講義する。その中で主に経絡の循行部位、生理機能、病理特徴および分布特徴、相関部位及び代表経穴の取り方を中心として行われる。更に現代医学を併せてそれに関わっている筋肉、神経及び血管などを中心としている。「鍼灸学」について主に鍼の刺し方、灸療法のすえ方、適応症、注意事項及び鍼灸治療のメカニズム、また、中国の鍼灸状況を解説する。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「経絡の意義、走行ルート、鍼の刺し方及び艾柱の作り方をできるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（50％）、講義ノート（30％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（20％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	毎回の授業において問題提起と討論が可能なようにテキストの指定されたページを熟読してくる。また、学期末のレポート提出が定期試験受験の条件となることから授業終了後にノートを纏めておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 試験は必ず行うので、授業に出席していただければ単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習に、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	2) 6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	肺経・大腸経の循行ルート及び取穴基準の設定					孫基然	
第2回	胃経・脾経の循行ルート及び取穴基準の設定					孫基然	
第3回	心経・小腸経の循行ルート及び取穴基準の設定					孫基然	
第4回	腎経・膀胱経の循行ルート及び取穴基準の設定					孫基然	
第5回	心包経・三焦経の循行ルート及び取穴基準の設定					孫基然	
第6回	胆経の循行ルート及び取穴基準の設定					孫基然	
第7回	肝経の循行ルート及び取穴基準の設定					孫基然	

第 8 回	鍼灸概説	孫基然
第 9 回	片手挿管	孫基然
第 1 0 回	鍼に関する一般知識	孫基然
第 1 1 回	鍼治療の適応症	孫基然
第 1 2 回	刺鍼手技法	孫基然
第 1 3 回	灸療法概説	孫基然
第 1 4 回	灸療法の実際	孫基然
第 1 5 回	鍼灸理論	孫基然
第 1 6 回	筆記試験	孫基然

教科書

教・書籍名 1	適宜プリント資料を配布する	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	東洋医学演習			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-325		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	△	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	<p>テーマ：</p> <p>1：鍼灸、整体刺激による筋硬度への影響を理解できるようになる。</p> <p>2：脈診、舌診方法を生かし健康管理へ応用できるようになる。</p> <p>到達目標：</p> <p>1：スポーツ傷害に広く応用されている鍼灸及び整体療法を習得できるようになる。</p> <p>2：脈診、舌診を正しく理解できるようになる。</p>						
授業概要	東洋医学演習の講義では、誰でもできる簡単な円皮鍼、艾灸などといった東洋医学的手法を利用し、主に僧帽筋や腓腹筋の硬さを観察指標とし、スポーツ障害と筋の硬さとの関係を理解しその改善方法についての知識と理論について学習し、将来スポーツや福祉の分野において応用できるようにする。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	本講義では演習を中心に行われることから、実技の出来具合（50％）、実験、文献調査レポートの出来具合（30％）、参加態度（20％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実験及び文献調査レポートの修正を講義内でフィードバックすることから、見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	毎回の授業において問題提起と討論が可能なようにテキストの指定されたページを熟読してくること。また、学期末のレポート提出が定期試験受験の条件となることから授業終了後にノートを纏めておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。予習及び復習が、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					孫基然	
第2回	艾の捻り方の説明、練習					孫基然	
第3回	艾の捻り方の実技テスト					孫基然	
第4回	筋硬度測定方法の習得					孫基然	
第5回	艾灸による筋硬度（腓腹筋や僧帽筋）に及ぼす影響					孫基然	
第6回	針の刺し方の練習					孫基然	
第7回	針の刺し方実技テスト					孫基然	
第8回	円皮鍼による筋硬度（腓腹筋や僧帽筋）に及ぼす影響					孫基然	
第9回	舌診の原理					孫基然	
第10回	舌診の見方					孫基然	
第11回	舌診の内容					孫基然	
第12回	舌診レポート作成					孫基然	
第13回	脈診の原理					孫基然	
第14回	脈診の見方					孫基然	
第15回	舌診の内容					孫基然	
第16回	脈診レポート					孫基然	
教科書							

教・書籍名1	適宜プリント資料を配布する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	発育発達			担当者	松本 希		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-326		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	成人期以降の体の変化を総合的、臓器別に学び、老化のメカニズムを理解することによって、高齢者等の健康に配慮できるようになるとともに、安全で効果的な運動を指導することができる。						
授業概要	人間の発育発達を生涯の加齢現象としてとらえ、成人期以降の力加齢と生体機能の関係を明らかにする。主に生理学、解剖学、心理学、老人病理学などの立場で講義し、The biology aging の意義について講義する。人間の一生において各機能形態的発達様式が違うことから、老化について考え、それぞれの時期に応じた適切な社会福祉とその対策について講義する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義前後の課題（20%）および試験（80%）の結果を合わせて評価を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士受験資格認定試験受験資格」必須科目						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は予習復習が必要である。予習として、各授業計画に記載されている部分について資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時にレポートを提出すること。						
オフィスアワー	非常勤講師のため、講義終了後をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	人間の一生における発達現象					松本 希	
第2回	高齢者の定義					松本 希	
第3回	老化の定義と具体的特徴					松本 希	
第4回	老化に影響を与える他の因子					松本 希	
第5回	生理的機能の変化と組織的变化					松本 希	
第6回	免疫機能の変化					松本 希	
第7回	老化の学説とその真意					松本 希	
第8回	細胞レベルでの老化					松本 希	
第9回	早老症とそのメカニズム					松本 希	
第10回	細胞レベルでの老化					松本 希	
第11回	老年病の三つの特徴					松本 希	
第12回	老化現象を基盤とした病気					松本 希	
第13回	QOLとADL					松本 希	
第14回	環境と老化現象					松本 希	
第15回	運動と老化現象					松本 希	
第16回	定期試験					松本 希	
教科書							
教・書籍名1	使用しない(必要に応じプリントを配布する)					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	

教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	人間の発達と健康	参・出版社名1	大修館書店
参・著者名1	神戸大学発達科学部健康発達論研究会	参・ISBN1	4-469-26363-x
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	救急処置			担当者	赤在 あゆみ		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-327		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	「救急処置の基本と実際」、「スポーツ障害の現状と対策」をテーマとし、アスリートやスポーツ指導者として、学生がスポーツ障害の病態・診断・治療・障害予防について理解し、学んだ知識を実際のスポーツ現場での応急処置やスポーツ障害の予防に役立てることができる。						
授業概要	スポーツの現場では、競技者としてのみならず、指導者として、突然の事故や内科的疾病に伴う緊急の事態に直面することがある。本講義ではこのような事態に備え、スポーツ中に起こりうる外傷・障害に関する医学的知識、とりわけ救急処置についての知識を資料を用いて解説し、グループディスカッションやディベート、救急処置の実技指導を通して実際の現場で自ら考え、対処できるようにする。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	平常のレポートの提出や受講態度、定期試験の成績を併せて評価する。とりわけ予習復習のためのレポート提出や受講態度は重要であり、成績評価基準として知識習得状況を把握するための最終試験80%、課題（提出物・レポート）10%、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度10%の割合で評価する。なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので試験までにみなおしておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので試験までにみなおしておくこと。						
履修条件・注意事項	講義はスライドを中心にを行い、スライド内容は講義用テキストとして配布するが、救急法やテーピングの実際についても体験してもらうため始業時に遅れないこと。毎回出される課題や講義テキストを予習・復習に活用し、その提出を定期試験受験の条件とする。また、受講態度は特に重要であり、講義で習ったことをスポーツ現場に積極的に活かしていくように心掛けること。 予習、復習、および実技の際に必要なとなるので、必ず教科書を用意すること。 「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 （公財）日本体育協会公認スポーツ指導者共通科目Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ必須科目						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、医師として実務経験のある教員により、現状や課題、それを解決するために必要とされる知識や能力について講義し、学生の理解を深める。				
事前学習・事後学習とその時間	自己学習のためのレポート課題を課す。それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。なお、予習及び復習には、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	火曜日1限 研究室						
授業計画						担当者	
第1回	スポーツ現場における事故の実際						赤在
第2回	心肺蘇生法（理論）						赤在
第3回	心肺蘇生法（手技の実際）						赤在
第4回	循環器系障害に対する対応（病態）						赤在
第5回	循環器系障害に対する対応（手技の実際）						赤在
第6回	呼吸器系障害に対する対応（病態・手技の実際）						赤在
第7回	創傷及び出血に対する対応（病態）						赤在
第8回	創傷及び出血に対する対応（手技の実際）						赤在
第9回	骨、関節及び筋肉の損傷に対する対応（骨折）						赤在

第10回	骨、関節及び筋肉の損傷に対する対応（関節障害）	赤在
第11回	骨、関節及び筋肉の損傷に対する対応（筋・腱障害）	赤在
第12回	神経系の障害に対する対応（脳の外傷）	森信
第13回	神経系の障害に対する対応（脳血管傷害）	森信
第14回	神経系の障害に対する対応（脊髄損傷）	森信
第15回	環境・代謝障害に伴う障害に対する対応	赤在
第16回	単位認定試験	赤在

教科書		
-----	--	--

教・書籍名1	改訂6版 救急蘇生法の指針 2020 市民用・解説編	教・出版社名1	へるす出版
教・著者名1	監修：日本救急医療財団心肺蘇生法委員会	教・ISBN1	978-4-86719-026-5
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書		
-----	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	運動生理学Ⅰ			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-328		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	動物としてのヒトの根底には、常に身体運動が伴う。日々の在り方でそれは多様に変化し、各人を形成する。その可塑性を理解する。学生は身体活動にともなう生体諸機能の適応やその機序に関する生理学を理解することにより、「運動」に関する考え方を学ぶことができる。						
授業概要	ヒトの身体活動は人体の多様な機能を動員することで発現する。今日、運動不足による疾患が危惧されている。そこで呼吸・循環機能、脂質代謝と生活習慣病、またメタボリックシンドロームを説明し、予防、改善のための至適運動を提示する。運動生理学の基礎的な知見について、テキストと実験データをもとに紹介する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義中の課題(30%)、定期試験の結果（70%）から評価する。なお、評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 (公財) 日本スポーツ協会公認スポーツリーダー必須科目 講義項目ごとに資料を事前に配布する。資料は図表が主となるので、理解のためには講義への出席が重要となる。すべてにおいて、主体的な姿勢で臨むこと。分からないことについては積極的に質問するよう取り組むこと。提出物の期限は厳守すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が必要である。生理学、解剖学を基礎としており、適宜、それらの復習が大切である。予習復習として講義内に配布プリントの指定されたページを熟読してくる。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9410研究室）において、木曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	運動と血液					山口英峰	
第2回	運動と心拍数					山口英峰	
第3回	運動と血圧					山口英峰	
第4回	運動と血流					山口英峰	
第5回	循環機能とトレーニング					山口英峰	
第6回	運動と呼吸運動					山口英峰	
第7回	運動と酸素摂取					山口英峰	
第8回	運動と呼吸商					山口英峰	
第9回	呼吸機能とトレーニング					山口英峰	

第10回	運動と高血圧・高脂血症	山口英峰
第11回	運動と糖尿病	山口英峰
第12回	神経・筋機能の加齢変化	山口英峰
第13回	呼吸・循環機能の加齢変化	山口英峰
第14回	骨の加齢変化	山口英峰
第15回	運動と免疫能	山口英峰
第16回	単位認定試験	山口英峰
教科書		
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名1
教・著者名1	改訂版 運動生理学の基礎と発展・春日規克・竹倉宏明	教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	運動生理学Ⅱ			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-329		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	動物としてのヒトの根底には、常に身体運動が伴う。日々の在り方でそれは多様に変化し、各人を形成する。その可塑性を理解する。学生は、身体活動にともなう生体諸機能の適応やその機序に関する生理学を理解することにより、「運動」に関する考え方を学ぶことができる。						
授業概要	ヒトの身体活動は人体の多様な機能を動員することで発現する。身体運動にともなう神経や筋の適応と機序について学ぶ。運動生理学の基礎的な知見について、テキストと実験データをもとに紹介する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義中の課題（30%）、定期試験の結果（70%）から評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	「健康運動指導士資格認定試験受験資格」必須科目 「健康運動実践指導者資格認定試験受験資格」必須科目 「（公財）日本スポーツ協会スポーツリーダー」科目 講義項目ごとに資料を配布する。資料は図表が主となるので、理解のためには講義への出席が重要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が必要である。生理学、解剖学を基礎としており、適宜、それらの復習が大切である。毎回の授業において配布したプリントの指定されたページを熟読してくる。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9410研究室）において、木曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	運動とは					山口英峰	
第2回	筋の構造					山口英峰	
第3回	筋収縮のしくみ					山口英峰	
第4回	筋繊維の種類					山口英峰	
第5回	筋繊維の種類と収縮特性					山口英峰	
第6回	筋繊維の種類と身体活動					山口英峰	
第7回	筋収縮と糖質代謝					山口英峰	
第8回	筋収縮と脂質代謝					山口英峰	
第9回	筋の肥大、損傷、再生					山口英峰	
第10回	運動単位の種類					山口英峰	
第11回	運動単位と筋力、筋電図					山口英峰	
第12回	運動の発現 1) 脊髄反射					山口英峰	
第13回	運動の発現 2) 中枢神経系					山口英峰	

第14回	歩行運動の正常と異常		山口英峰
第15回	水中環境と運動		山口英峰
第16回	単位認定試験		山口英峰
教科書			
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名1	フリースペース
教・著者名1	改訂版 運動生理学の基礎と発展・春日規克・竹倉宏明	教・ISBN1	978-4-434-07569-8
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	レクリエーション (Aクラス:教免希望者)			担当者	直原 一美		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-330		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに / 10. 人や国の不平等をなくそう / 11. 住み続けられるまちづくりを / 12. つくる責任・つかう責任</p> 						
到達目標	<p>～自ら楽しむ～をテーマに人とひととの交流を深めます。 レクリエーション活動は、コミュニケーション能力を深める有効手段の一つです。 今、多くの企業や職場でコミュニケーション能力のある人材が求められています。また、レクリエーションの支援者として、家族の絆を深め、地域の絆を取り戻すきっかけづくりの提供、高齢者、障害者福祉施設、スポーツ、健康づくりに関する職場、地域社会、学校現場など即戦力となる人材を育てます。 レクリエーションの授業を通して、楽しみながらコミュニケーション能力を高めます。</p>						
授業概要	<p>現在レクリエーションは、健康づくりや高齢者・障害者福祉、子育て支援、幼児教育、学校教育、社会教育(地域づくり)、環境教育、医療現場などで幅広く用いられています。 現場で必要な、コミュニケーション技法や集団を対象としたレク・ワーク技術を身に付け、「人とひととの交流を感動的な出会い」の演出を学びます。 春学期は、レクリエーションの楽しさ、仲間との交流の素晴らしさを体感し、ニュースポーツや最近話題の健康法「笑いヨガ(ラフターヨガ)」、そして、野外に出かけて自然との触れ合いなど、様々なレクリエーションの技法を体験します。</p>						
アクティブラーニングの内容	フィールドワーク						
評価方法と割合	試験(50%) 授業態度(30%) 課題レポート(20%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業中にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	動きやすい服装、体育館シューズを準備する。						
実務経験のある教員	該当する	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習復習については、別途指示し各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	授業終了後教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	「初めまして」自ら楽しむレクリエーション					直原	
第2回	仲間と共に楽しむレクリエーション					直原	
第3回	グループ対抗ゲーム					直原	
第4回	歌は心のメッセージ					直原	
第5回	レッツダンス!					直原	
第6回	健康体操リハビリ体操ストレッチ他					直原	
第7回	創作レクダンス(これがけっこうはまります)					直原	
第8回	ネイチャーゲーム(心と体で自然を感じます)					直原	
第9回	ニュースポーツI					直原	
第10回	ニュースポーツII					直原	
第11回	高齢者・障害者と楽しむレクリエーション					直原	
第12回	「笑いヨガ」今話題の有酸素運動					直原	
第13回	大縄跳び・バンブーダンス					直原	
第14回	脳トレレク①					直原	

第15回	脳トレレク②	直原
第16回	単位認定試験	直原
教科書		
教・書籍名1	使用しない	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	レクリエーション (Bクラス:教免希望者以外)			担当者	直原 一美		
配当学科・研究科	2019~2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-330		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	水曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに / 10. 人や国の不平等をなくそう / 11. 住み続けられるまちづくりを / 12. つくる責任・つかう責任</p> 						
到達目標	<p>~自ら楽しむ~をテーマに人とひととの交流を深めます。 レクリエーション活動は、コミュニケーション能力を深める有効手段の一つです。 今、多くの企業や職場でコミュニケーション能力のある人材が求められています。また、レクリエーションの支援者として、家族の絆を深め、地域の絆を取り戻すきっかけづくりの提供、高齢者、障害者福祉施設、スポーツ、健康づくりに関する職場、地域社会、学校現場など即戦力となる人材を育てます。 レクリエーションの授業を通して、楽しみながらコミュニケーション能力を高めます。</p>						
授業概要	<p>現在レクリエーションは、健康づくりや高齢者・障害者福祉、子育て支援、幼児教育、学校教育、社会教育(地域づくり)、環境教育、医療現場などで幅広く用いられています。 現場で必要な、コミュニケーション技法や集団を対象としたレク・ワーク技術を身に付け、「人とひととの交流を感動的な出会い」の演出を学びます。 春学期は、レクリエーションの楽しさ、仲間との交流の素晴らしさを体感し、ニュースポーツや最近話題の健康法「笑いヨガ(ラフターヨガ)」、そして、野外に出かけて自然との触れ合いなど、様々なレクリエーションの技法を体験します。</p>						
アクティブラーニングの内容	フィールドワーク						
評価方法と割合	試験(50%) 授業態度(30%) 課題レポート(20%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業中にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	動きやすい服装、体育館シューズを準備する。						
実務経験のある教員	該当する	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習復習については、別途指示し各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	授業終了後教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	「初めまして」自ら楽しむレクリエーション					直原	
第2回	仲間と共に楽しむレクリエーション					直原	
第3回	グループ対抗ゲーム					直原	
第4回	歌は心のメッセージ					直原	
第5回	レッツダンス!					直原	
第6回	健康体操リハビリ体操ストレッチ他					直原	
第7回	創作レクダンス(これがけっこうはまります)					直原	
第8回	ネイチャーゲーム(心と体で自然を感じます)					直原	
第9回	ニュースポーツI					直原	
第10回	ニュースポーツII					直原	
第11回	高齢者・障害者と楽しむレクリエーション					直原	
第12回	「笑いヨガ」今話題の有酸素運動					直原	
第13回	大縄跳び・バンブーダンス					直原	
第14回	脳トレレク①					直原	

第15回	脳トレレク②	直原
第16回	単位認定試験	直原
教科書		
教・書籍名1	使用しない	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	アダプテッド・スポーツ			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-331		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	△	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	「アダプテッド・スポーツの理論と実際」をテーマとする。アダプテッド・スポーツの理論だけではなく、運動指導者としての実践方法の基礎を理解できる。						
授業概要	アダプテッド・スポーツとは、1人1人の発達状況や身体条件に適応させたスポーツのことをいう。特に、障がいを持つ者の身体的・精神的障がいの種類や程度に合わせてルールや用具を適合させることによって、スポーツ活動を実施することができるようになる。しかしながら、間違った運動を行うと、かえって障がいを悪化させてしまう。本講義では、障がい者のスポーツ活動について、障がいの関係特性について理解を深めるとともに正しく理解し、対象者に適したスポーツ活動の理解及び適切な指導が出来るよう学習する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	最終試験（90％）、発表、ディスカッションへの参加（5％）、受講態度（5％） なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	1) 事前に課題を出し、発表形式を取る参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。 2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。 3) 初回の授業には、必ず出席すること。 4) 試験は必ず行うので、授業に出席していただいただけでは単位は取れない。						
実務経験のある教員	該当する	内容	健康運動指導士 障害者スポーツ団体審判員経験あり				
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してくること。また、授業時に配布する資料や各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習及び次回への予習を行うこと（各2時間程度）。						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					天岡 寛	
第2回	アダプテッド・スポーツとは					天岡 寛	
第3回	アダプテッド・スポーツの歴史					天岡 寛	
第4回	障がい者スポーツ指導者制度					天岡 寛	
第5回	障がい者のスポーツ活動の意義と理念					天岡 寛	
第6回	障がい者のスポーツ大会					天岡 寛	
第7回	障がい者スポーツとクラス分け					天岡 寛	
第8回	障がいの理解とスポーツ（肢体不自由者）					天岡 寛	
第9回	障がいの理解とスポーツ（知的障害者）					天岡 寛	
第10回	障がいの理解とスポーツ（内部障害者）					天岡 寛	
第11回	障がいの理解とスポーツ（知的障害者）					天岡 寛	
第12回	障がいの理解とスポーツ（精神障害者）					天岡 寛	
第13回	アダプテッド・スポーツの現場から～指導者として～					天岡 寛	
第14回	アダプテッド・スポーツの現場から～大会を支える立場として～					天岡 寛	

第15回	まとめ	天岡 寛
第16回	単位認定試験	天岡 寛
教科書		
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	適宜指示する.	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	保健体育科教育法Ⅰ			担当者	松下 健二		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	TC-SM-2-901		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	体育教師の専門的力量育成を目標とし、保健体育科教育に関わる基礎的教育的事項について学習指導要領に示された教科の目標や内容を理解する。						
授業概要	保健体育科の目標および内容と各分野の目標と内容および指導計画の作成方法と内容の取り扱いについて理解するとともに、専門的教育知識を把握し、体育の授業の中で実践できるようにする。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、高等学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	受講態度（25％）、レポート（25％）、試験（50％）で総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は提出後の次の授業最初にレクチャアする。終講はテスト後自己採点を行なわせ、誤りを訂正させる。						
履修条件・注意事項	前の授業の要点の確実な理解から次の授業を始めるので授業後にノートをまとめ、配布された資料を基にして次授業の授業内容について把握しておくこと。 レポートの提出状況が試験の受験条件となる。 中高保健体育科教諭資格必修科目						
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和46年4月～48年3月兵庫県立神戸工業高等学校にて保健体育科担当教員として勤務				
事前学習・事後学習とその時間	予習として各授業計画に記載されている部分について事前に参考となる書籍を読み、理解できない点をまとめて授業をうけること。指示に従って必ずノートを作成し、復習すること。」予習・復習とも2時間ほど行うこと。						
オフィスアワー	授業終了後、教室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	中学校学習指導要領保健体育編における目標と各分野の内容について（その1）					松下健二	
第2回	中学校学習指導要領保健体育編における目標と各分野の内容について（その2）					松下健二	
第3回	中学校学習指導要領保健体育編に作成方法について作成方法について					松下健二	
第4回	高等学校学習指導要領保健体育編・体育編における目標と各分野の内容について（その1）					松下健二	
第5回	高等学校学習指導要領保健体育編・体育編における目標と各分野の内容について（その2）					松下健二	
第6回	高等学校学習指導要領保健体育編・体育編に作成方法について作成方法について					松下健二	
第7回	保健体育科授業の成立基盤および授業の構造と機能					松下健二	
第8回	保健体育科の目標と学力と教育内容					松下健二	
第9回	保健体育授業の学習指導－アクティブラーニングの手法と情報機器の活用（体育分野・保健分野）					松下健二	
第10回	モニタリングと相互作用					松下健二	
第11回	マネジメント方略					松下健二	
第12回	運動の技術（運動成功のためのコツ）					松下健二	
第13回	競争とルールとマナーと戦術学習					松下健二	
第14回	運動学習の適時期					松下健二	
第15回	授業評価と学習評価					松下健二	
第16回	単位認定試験					松下健二	

教科書			
教・書籍名1	中学校学習指導要領(平成29年告知) 解説：保健体育編	教・出版社名1	文部科学省
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2	高等学校学習指導要領(平成30年度告知)：保健体育編・体育編	教・出版社名2	文部科学省
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	内容学と架橋する保健体育教育論	参・出版社名1	晃洋書房
参・著者名1	後藤幸弘	参・ISBN1	
参・書籍名2	体育授業の理論と方法	参・出版社名2	大修館書店
参・著者名2	小林一久	参・ISBN2	

授業科目名	保健体育科教育法Ⅱ			担当者	松下 健二		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	TC-SM-2-902		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	授業のテーマ及び到達目標 保健体育科において扱われる体育分野の内の4領域と保健分野について、それぞれの授業を行う際の重要ポイントを理解し、授業計画（指導案）を作成する。情報機器を使用したプレゼンテーションおよび模擬授業ができる。						
授業概要	<p>授業の概要 体育分野の「体づくり運動」「器械運動」「陸上競技」「球技」の各領域と保健分野についてそれぞれの代表例の教材研究を行うとともに指導案作成、模擬授業を行う。模擬授業では教師の介入を逐次取り入れ、指導案と実際の指導との連携を理解し、授業づくりを行う。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、高等学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。</p>						
アクティブラーニングの内容	グループワーク/プレゼンテーション/実習						
評価方法と割合	受講態度（25%）、レポート（25%）、試験（50%）で総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題については課題提出後の授業最初にレクチャーを行う。終講テストについては採点後答案用紙を教務課に取りに来させる。						
履修条件・注意事項	<p>前の授業の要点の確実な理解から次の授業を始めるので授業後にノートをまとめ、配布された資料をもとにして次の授業の内容について把握しておくこと。 レポートの提出状況が試験の受験条件になる。 中高保健体育科教諭資格必修科目</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和46年4月～48年3月の2カ年間兵庫県立神戸工業高等学校で保健体育教師として勤務				
事前学習・事後学習とその時間	予習として各授業計画に記載されている部分について事前に参考となる書籍を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。指示に従って必ずノートを作成し、復習すること。予習・復習とも2時間ほど行うこと。						
オフィスアワー	授業のある火曜日の昼休みか放課後						
授業計画						担当者	
第1回	「体づくり運動」の授業づくり (1) : 体ほぐし・体の動きを高める運動の教材研究					松下健二	
第2回	「体づくり運動」の授業づくり (2) : 指導案の作成					松下健二	
	「体づくり運動」の授業づくり						

第3回	(3) : 指導案の発表と模擬授業	松下健二
第4回	「器械運動」の授業づくり (1) : マット運動、跳び箱運動の教材研究	松下健二
第5回	「器械運動」の授業づくり (2) : 指導案の作成	松下健二
第6回	「器械運動」の授業づくり (3) : 指導案の発表と模擬授業	松下健二
第7回	「陸上競技」の授業づくり (1) : 「ハードル走」、「走り高跳び」の教材研究	松下健二
第8回	「陸上競技」の授業づくり (2) : 指導案の作成	松下健二
第9回	「陸上競技」の授業づくり (3) : 指導案の発表と模擬授業	松下健二
第10回	「球技」の授業づくり (1) : 「バレーボール」、「バスケットボール」の教材研究	松下健二
第11回	「球技」の授業づくり (2) : 指導案の作成	松下健二
第12回	「球技」の授業づくり (3) : 指導案の発表と模擬授業	松下健二
第13回	保健分野の授業づくり (1) : 「防止の防止」の教材研究	松下健二
第14回	保健分野の授業づくり (2) : 情報機器の活用を含めた指導案の作成	松下健二
第15回	保健分野の授業づくり (3) : 指導案の作成と模擬授業	松下健二
第16回	単位認定試験	松下健二
教科書		
教・書籍名1	新版 体育科教育学入門	教・出版社名1
教・著者名1	編著：高橋健夫、岡出美則、友添秀則、岩田靖	教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	中学校・高等学校の授業づ入門入門	参・出版社名1
参・著者名1	編著：鈴木秀人・山本理人・佐藤善人・茂樹茂樹・小出高義	参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	保健体育科教育法Ⅲ			担当者	松下 健二		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	TC-SM-3-903		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・実技
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	模擬授業を通じて実技科目の実践指導方法を習得する。体育分野の4つの内容の実技について「できる」「わかる」「教えることができる」の能力をつける。						
授業概要	<p>「体づくり運動」「器械運動」「陸上競技」「球技」の各種目の指導方法を習得する。まず各種目について技ができる（示範）ようにスマートフォンなどで動画をその場で撮り、自己の動作を把握・改善する。技の運動構造を分析することから成功する「コツ」を理解し、その上で指導する際の留意点や効果的な指導法について学ぶ。</p> <p>※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、高等学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	受講態度（25％）、レポート（25％）、試験（50％）で総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は提出後の次の授業の最初にレクチャアする。終講テストはテスト後自己採点をおこなわせ、誤りを自覚・訂正させる。						
履修条件・注意事項	実技を伴うので体操服、体育館シューズ、屋外用シューズを用意し、体の調子に気をつける。 中学校保健体育科教諭資格必修科目						
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和46年4月～48年3月まで兵庫県立神戸工業高等学校にて保健体育教員として勤務				
事前学習・事後学習とその時間	予習として各運動領域の学習内容を授業前に参考図書を利用して把握しておくこと。復習として学んだ指導法についてノートを作成しすること。予習・復習とも2時間ほど行うこと。						
オフィスアワー	授業後教室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	体づくり運動①体ほぐし					松下健二	
第2回	体ほぐ運動②体の動きを高める運動（筋力養成）					松下健二	
第3回	体づくり運動③体の動きを高める運動（調整力、持久力養成）					松下健二	
第4回	器械運動①マット運動（回転系：接点系）					松下健二	
第5回	器械運動②マット運動（回転系：翻転系）					松下健二	
第6回	器械運動③跳び箱					松下健二	
第7回	器械運動④平均台					松下健二	
第8回	陸上競技①ハードル走					松下健二	
第9回	陸上競技②走り高跳び					松下健二	
第10回	陸上競技③砲丸投げ					松下健二	
第11回	球技①：ゴール型（サッカー）					松下健二	
第12回	球技②：ゴール型（バスケットボール）					松下健二	
第13回	球技③：ネット型（バレーボール）					松下健二	
第14回	球技④：ネット型（バドミントン）					松下健二	
第15回	球技⑤：ベースボール型（ソフトボール）					松下健二	
第16回	単位認定試験					松下健二	
教科書							

教・書籍名1	体育の授業と教授技術	教・出版社名1	大修館書店
教・著者名1	阪田尚彦	教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	中・高 器械運動の授業づくり	参・出版社名1	大修館書店
参・著者名1	編著：三木四郎・加藤澤男・清人清人	参・ISBN1	
参・書籍名2	中学・高校 陸上競技の学習指導「分かって・できる」指導の工夫	参・出版社名2	道和書院
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	保健体育科教育法Ⅳ			担当者	松下 健二		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	TC-SM-3-904		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	体育教師の力量を高める。体育授業で求められる教師の力量が何であるかを理解するとともに、指導案（細案）を作成し、模擬授業を行い、授業分析・評価することから教授力を高める。						
授業概要	教師行動と教授技術および授業分析・評価について理解する。模擬授業を行うとともにそれをVTRに記録し、次の授業において記録された模擬授業を分析・評価し、授業における教授能力を高める。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、高等学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	受講態度（25%）＋レポート（25%）＋試験（50%）で総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は提出後の次の授業最初にレクチャアを行なう。終講テストはテスト後自己採点を行なわせ、誤りを訂正させる。						
履修条件・注意事項	前の授業の要点の確実な理解から、次の授業を始めるので、授業後にノートをまとめ、配布された資料を基にして次の授業内容について把握しておくこと。レポートの提出状況が試験の受験条件になる。 中学校保健体育科教諭資格必修科目						
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和46年4月～48年3月兵庫県立神戸工業高等学校にて保健体育科担当教員として勤務				
事前学習・事後学習とその時間	各模擬授業の実践例についてVTRなどを参考にして予習しておくこと。復習として、実践された模擬授業を分析するとともに評価を行い次の授業につなげる。予習・復習とも2時間ほど行うこと。						
オフィスアワー	授業後、教室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	「体づくり運動」の授業づくり (1) 体ほぐし：指導案の作成と模擬授業					松下健二	
第2回	「体づくり運動」の授業づくり (2) 体ほぐし：模擬授業の授業分析と授業改善					松下健二	
第3回	「体づくり運動」の授業づくり (3) 体ほぐし：授業改善に基づく指導案の作成と模擬授業					松下健二	
第4回	「器械運動」の授業づくり (1) マット運動：指導案の作成と模擬授業					松下健二	
第5回	「器械運動」の授業づくり (2) マット運動：模擬授業の授業分析と授業改善					松下健二	
第6回	「器械運動」の授業づくり (3) マット運動：授業改善に基づく指導案の作成と模擬授業					松下健二	
第7回	「陸上競技」の授業づくり (1) ハードル走：指導案の作成と模擬授業					松下健二	
第8回	「陸上競技」の授業づくり (2) ハードル走：の模擬授業の授業分析と授業改善					松下健二	
第9回	「陸上競技」の授業づくり (3) ハードル走：授業改善に基づく指導案の作成と模擬授業					松下健二	

第10回	「球技」の授業づくり (1) バレーボール：指導案の作成と模擬授業	松下健二
第11回	「球技」の授業づくり (2) バレーボール：の授業分析と授業改善	松下健二
第12回	「球技」の授業づくり (3) バレーボール：授業改善に基づく指導案の作成と模擬授業	松下健二
第13回	保健分野の授業づくり (1) 傷害の防止：情報機器の活用を含めた指導案模擬授業模擬授業	松下健二
第14回	保健分野の授業づくり (2) 傷害の防止：模擬授業の授業分析と授業改善	松下健二
第15回	保健分野の授業づくり (3) 傷害の防止：授業改善に基づく指導案の作成と模擬授業	松下健二
第16回	単位認定試験	松下健二
教科書		
教・書籍名1	新版 体育科教育学入門	教・出版社名1
教・著者名1	編著：高橋健夫・岡出美則・友添秀則・岩田靖	教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1	戸部秀之・齋藤久美	参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	介護等体験の研究 (スポ社)			担当者	森井 康幸		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	TC-SM-2-919		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	水曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 10. 人や国の不平等をなくそう / 11. 住み続けられるまちづくりを / 16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	介護等体験の意義・目的の理解と、体験施設の概要や活動内容を把握すること、あわせて教職意識の明確化を図ることを目標とする。						
授業概要	次年度以降実施する「介護等体験」の事前指導に当たる。特別支援学校の先生や福祉施設の方に、それぞれの学校や施設の概要やそこでの介護等体験における注意事項等を講義していただく。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	受講態度（40%）と毎回課されるレポート（60%）により評価する。レポートは内容確認後返却する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎回課されるレポートに対して、授業内で総評を述べるか、コメントをつけて返却する。						
履修条件・注意事項	介護等体験を行うことが義務づけられている小学校・中学校の教員免許取得希望者には必修科目である。教員志望者に対する講義ということで、受講態度等にはシビアである。講義予定回数は8回であり、実施日程にはくれぐれも注意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	特別支援学校や種々の福祉現場において働いておられる方々を外部講師としてお迎えしてお話ししていただく。				
事前学習・事後学習とその時間	<p>予習:テキストの該当箇所を精読。授業で該当する施設について、図書館等で調べておくこと。（2時間）</p> <p>復習・課題:外部講師の方のお話を整理してレポートにまとめること。（2時間）</p> <p>日頃から、自分の教師適正について考えておくように。</p>						
オフィスアワー	月曜4限、10号館4階、教員研究室。						
授業計画						担当者	
第1回	介護等体験の意義・目的（第1部1～3章）						
第2回	介護等体験の実際（第2部2章、3章）						
第3回	高齢者福祉施設の概要と介護等体験（外部）						
第4回	児童福祉施設の概要と介護等体と介護等体験（外部）						
第5回	知的障害者福祉施設と介護等体験の概要と介護等体験（外部）						
第6回	特別支援学校（養護学校）の概要と介護等体験（外部）						
第7回	特別支援学校（盲学校）と介護等体験（外部）						
第8回	まとめ・試験（第1部4章）						
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
第13回							
第14回							
第15回							
第16回							
教科書							
教・書籍名1	教師をめざす人の介護等体験ハンドブック 五訂版				教・出版社名1	大修館書店	
教・著者名1	現代教師養成研究会（編）				教・ISBN1	9.78447E+12	

教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	教育原論（看護・心理）			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	TC-SM-1-905		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	<p>【授業のテーマ】</p> <p>教育の思想及び制度の歴史を学ぶことにより、教育はどのような要因によって成り立ち、左右されてきたかを理解し、その知識・理解をもとに今後の教育の在り方について考察する力量を身に着ける</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生は教育の基本概念を理解し、適切に用いることができる 2. 学生は代表的な教育思想家の学習論・教育思想・社会観・子ども観を理解し、説明できる 3. 学生は近代公教育（学校）をはじめとする主要な教育制度の成立および変遷を理解し、説明できる 4. 学生は家庭、社会における教育について理解し、それをもとに学校教育の役割を理解し、説明できる 5. 学生は上記の学習を通じて教育の本質について考察し、今後の教育制度（学校など）の役割について自身の考えを表現できる 						
授業概要	<p>本講義は教育の歴史を概括的に学ぶ科目である。この講義では歴史的事象もさることながら、社会が変動する中で子ども観・教育観・学習観がいかに変容し、それに伴い家庭教育、地域社会（共同体）の教育、学校教育がいかに変容していくのかを理解してもらいたい。その結果、多様な教育実践・制度の相互作用などを理解し、各自の教育に関する意見を構築できるようにしていく。</p> <p>本講義は大きく6つの段階に分けて展開する。1・2回目では教育の基礎概念について理解するとともに家庭などにおける日常的（非組織的）な学びの在り方について触れる。その後、教育思想がどのような社会観・子ども観によって形成されるのかを古代・中世・近代・現代のそれぞれに区分し紹介する。特に近代公教育制度の成立については、学校教育の本質にかかわる事項であるので若干詳細に検討する。その後、特に1990年代後半以降の現代社会の在り方を考察し、現在教育という営為がどのように社会の課題と向き合い、新たな実践を生み出しているのかを考察する。</p>						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	各回の講義の振り返りを行う学習記録（15%）、レポート（15%）、定期試験（70%）で評価する。なお、評価に関わる事項の詳細については初回講義で説明する。						
ルーブリック評価	本講義は規定ルーブリックは用いない。						
課題や試験のフィードバック方法	学習記録は各回担当者のコメントを付して返却される。レポート及び筆記試験については、再試験日程発表の際に総括的にフィードバックを行う。その後、ユニバーサルパスポートなどで個別のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本講義は、教員免許状取得のための講義であり、卒業要件に当てはまるか否かは必ず学生便覧を確認してから履修すること。加えて、教職課程として履修するものは将来教員になる者とみなすので、それにふさわしい授業態度で臨むこと。また、教職課程を履修しないものの履修も可能であるが、その場合でも教職課程を取っているものと同様の態度などで臨むこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	各回講義の予習と復習を行っていただく（学習記録用紙）。予習のために、基礎的な用語や歴史について教科書や参考書を用いて学習する必要がある。講義後の復習として講義内容を振り返り、重要事項や各自の考え方の変化を振り返る課題を課す。配布資料を読みなし、理解を振り返る学習を進めること。各回講義ごとに約2時間の学習が必要である。						
オフィスアワー	水曜日4限 研究室（9301）						

授業計画		担当者	
第1回	教育の基礎概念	倉知典弘	
第2回	教育の源形態－家庭・共同体による教育	倉知典弘	
第3回	古代の教育思想（1）西洋の教育思想	倉知典弘	
第4回	第4回：古代の教育思想（2）日本の教育思想	倉知典弘	
第5回	中世の教育思想（1）宗教と教育	倉知典弘	
第6回	第6回：中世の教育思想（2）ルネサンスと教育	倉知典弘	
第7回	近代の教育思想（1）産業革命と教育	倉知典弘	
第8回	近代の教育思想（2）近代教育制度の成立	倉知典弘	
第9回	近代の教育思想（3）教育学の成立と展開	倉知典弘	
第10回	現代の教育思想（1）新教育運動の諸相	倉知典弘	
第11回	現代の教育思想（2）戦争と教育	倉知典弘	
第12回	現代の教育思想（3）東西冷戦下の教育	倉知典弘	
第13回	現代社会と教育（1）現代社会の課題と教育	倉知典弘	
第14回	現代社会と教育（2）子どもの生活世界の変容と教育	倉知典弘	
第15回	第15回：現代社会と教育（3）－まとめにかえて	倉知典弘	
第16回	筆記試験	倉知典弘	
教科書			
教・書籍名1	『教育思想史』（有斐閣アルマ）	教・出版社名1	有斐閣
教・著者名1	今井康雄編	教・ISBN1	978-4641123847
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	教育の歴史と思想	参・出版社名1	ミネルヴァ書房
参・著者名1	石村華代・軽部勝一郎編	参・ISBN1	978-4623065844
参・書籍名2	新訂 学習指導要領は国民形成の設計書: その能力観と人間像の歴史の変遷	参・出版社名2	東北大学出版会
参・著者名2	水原克敏	参・ISBN2	978-4861633171

授業科目名	教育原論 (スポ社)			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	TC-SM-1-905		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	<p>【授業のテーマ】</p> <p>教育の思想及び制度の歴史を学ぶことにより、教育はどのような要因によって成り立ち、左右されてきたかを理解し、その知識・理解をもとに今後の教育の在り方について考察する力量を身に着ける</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の基本概念を理解し、適切に用いることができるようになる 2. 代表的な教育思想家の学習論・教育思想・社会観・子ども観を理解する 3. 近代公教育（学校）をはじめとする主要な教育制度の成立および変遷を理解する 4. 家庭、社会における教育について理解し、それをもとに学校教育の役割を理解する 5. 上記の学習を通じて教育の本質について理解し、今後の教育制度（学校など）の役割について自身の意見を持つ 						
授業概要	<p>本講義は教育の歴史を概括的に学ぶ科目である。この講義では歴史的事象もさることながら、社会が変動する中で子ども観・教育観・学習観がいかに変容し、それに伴い家庭教育、地域社会（共同体）の教育、学校教育がいかに変容していくのかを理解してもらいたい。その結果、多様な教育実践・制度の相互作用などを理解し、各自の教育に関する意見を構築できるようにしていく。</p> <p>本講義は大きく6つの段階に分けて展開する。1・2回目では教育の基礎概念について理解するとともに家庭などにおける日常的（非組織的）な学びの在り方について触れる。その後、教育思想がどのような社会観・子ども観によって形成されるのかを古代・中世・近代・現代のそれぞれに区分し紹介する。特に近代公教育制度の成立については、学校教育の本質にかかわる事項であるので若干詳細に検討する。その後、特に1990年代後半以降の現代社会の在り方を考察し、現在教育という営為がどのように社会の課題と向き合い、新たな実践を生み出しているのかを考察する。</p>						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	各回の講義の振り返りを行う学習記録（15%）、レポート（15%）、定期試験（70%）で評価する。なお、評価に関わる事項の詳細については初回講義で説明する。						
ルーブリック評価	本講義は規定ルーブリックは用いない。						
課題や試験のフィードバック方法	学習記録は各回担当者のコメントを付して返却される。レポート及び筆記試験については、再試験日程発表の際に総括的にフィードバックを行う。その後、ユニバーサルパスポートなどで個別のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本講義は、教員免許状取得のための講義であり、卒業要件に当てはまるか否かは必ず学生便覧を確認してから履修すること。加えて、教職課程として履修するものは将来教員になる者とみなすので、それにふさわしい授業態度で臨むこと。また、教職課程を履修しないものの履修も可能であるが、その場合でも教職課程を取っているものと同様の態度などで臨むこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	各回講義の予習と復習を行っていただく（学習記録用紙）。予習のために、基礎的な用語や歴史について教科書や参考書を用いて学習する必要がある。講義後の復習として講義内容を振り返り、重要事項や各自の考え方の変化を振り返る課題を課す。配布資料を読みなし、理解を振り返る学習を進めること。各回講義ごとに約2時間の学習が必要である。						
オフィスアワー	水曜日4限 研究室 (9301)						

授業計画		担当者	
第1回	教育の基礎概念	倉知典弘	
第2回	教育の源形態－家庭・共同体による教育	倉知典弘	
第3回	古代の教育思想（1）西洋の教育思想	倉知典弘	
第4回	第4回：古代の教育思想（2）日本の教育思想	倉知典弘	
第5回	中世の教育思想（1）宗教と教育	倉知典弘	
第6回	第6回：中世の教育思想（2）ルネサンスと教育	倉知典弘	
第7回	近代の教育思想（1）産業革命と教育	倉知典弘	
第8回	近代の教育思想（2）近代教育制度の成立	倉知典弘	
第9回	近代の教育思想（3）教育学の成立と展開	倉知典弘	
第10回	現代の教育思想（1）新教育運動の諸相	倉知典弘	
第11回	現代の教育思想（2）戦争と教育	倉知典弘	
第12回	現代の教育思想（3）東西冷戦下の教育	倉知典弘	
第13回	現代社会と教育（1）現代社会の課題と教育	倉知典弘	
第14回	現代社会と教育（2）子どもの生活世界の変容と教育	倉知典弘	
第15回	第15回：現代社会と教育（3）－まとめにかえて	倉知典弘	
第16回	筆記試験	倉知典弘	
教科書			
教・書籍名1	『教育思想史』（有斐閣アルマ）	教・出版社名1	有斐閣
教・著者名1	今井康雄編	教・ISBN1	978-4641123847
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	教育の歴史と思想	参・出版社名1	ミネルヴァ書房
参・著者名1	石村華代・軽部勝一郎編	参・ISBN1	978-4623065844
参・書籍名2	新訂 学習指導要領は国民形成の設計書: その能力観と人間像の歴史的変遷	参・出版社名2	東北大学出版会
参・著者名2	水原克敏	参・ISBN2	978-4861633171

授業科目名	教職論（スポ社）			担当者	池上 真由美		
配当学科・研究科	2019年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	TC-SM-1-906		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと 論理的な思考	○	DP4. コミュニケー ション・表現力	◎
DP5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	教職についての基礎的な知識（教職の歴史と社会的使命、教員の職務、教員養成と研修、服務規程、「チームとしての学校」の一員としての役割等）について理解するとともに、教員としての自らの適性について考えることを目標とする。						
授業概要	教師、教職、人を教育するという行為など、教育という営みをめぐる哲学的、原理的な課題からはじまり、学校教育、教員の使命と役割、学校における教員のさまざまな活動について理解する。また、これからの学校においては、「チームとしての学校」の体制の中で、一人の教員として自らの専門性を発揮し組織の一員として課題解決に当たる資質・能力が求められることを理解する。さらに、グループ討議等を通して、教員をめざすにあたり、自分には求められる資質・能力があるか、自分は教職に向いているかを真剣に考える場をもつようにする。						
アクティブラーニングの 内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	<p>[試験] 60%（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する。）</p> <p>[提出物] 20%（レポート課題、コメント用紙等により評価する。）</p> <p>[授業への参画状況] 20%（発表及び発言内容、教職への意欲や態度等を総合的に評価する。）</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	レポート課題は、ルーブリックを添付して授業でフィードバックする。コメント用紙の内容は、次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめて、フィードバックする。						
履修条件・注意事項	基本的に毎時行う予習課題の発表、グループ・ディスカッションなどに積極的に参加することが望まれる。なお、授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、小中学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とそ の時間	前時に示された予習課題をもとに、目的意識をもって授業を受けること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。						
オフィスアワー	月曜日2限						
授業計画							担当者
第1回	教師の歴史と教師論						池上
第2回	求められる教員の資質の変遷						池上
第3回	教育的諸問題と教職の課題						池上
第4回	教員の仕事と役割①（種類と職階、関係づくり）						池上
第5回	教員の仕事と役割②（教科指導）						池上

第6回	教員の仕事と役割③（教科外指導）	池上	
第7回	教員の仕事と役割④（進路指導）	池上	
第8回	教員の仕事と役割⑤（学級経営・学校経営・校務分掌）	池上	
第9回	教員の仕事と役割⑥（教育相談）	池上	
第10回	教員の仕事と役割⑦（学級崩壊）	池上	
第11回	教員の研修	池上	
第12回	服務規程	池上	
第13回	小中学校の教員	池上	
第14回	高等学校・特別支援学校の教員	池上	
第15回	教員養成と教職課程	池上	
第16回	筆記試験	池上	
教科書			
教・書籍名1	教職論 教師を志すすべての人へ 第2版	教・出版社名1	
教・著者名1	教職問題研究会	教・ISBN1	978-4-623-05305-6
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	教育行政学（スポ社）			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	TC-SM-3-907		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	<p>授業のテーマ</p> <p>現在日本の教育制度の仕組み、意義、基本原理を理解するとともに教育制度の一部である学校の経営やその制度的背景について理解する。そのうえで、社会や子どもを取り巻く課題に教育制度・学校経営がどの程度対応できているのかを考え、将来の教育制度・学校経営のあるべき姿を考察する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生は教育行政・公教育の原理、理念、作用及び仕組みを理解し、説明できる 2. 学生は学校、教育機関の目的を理解し、その目標をどのように達成しようとしているか理解し、説明できる 3. 学生は学校経営の組織体制及びマネジメント手法について理解し、説明できる 4. 学生は子どもたちをめぐる問題に対する制度的・経営的対応を理解し、対応の仕方を考察できる 5. 学生は現在の教育改革及び行財政改革の基本的な方向を理解し、説明できる 6. 学生は子どもや社会の現状、行財政改革の現状などの正確な理解をもとに今後の教育行政・学校経営のあるべき姿について自身の意見を提示できる 						
授業概要	<p>本講義は、教育制度の理解を深める段階と教育制度の理解をもとに学校経営を理解することを目的としている。まず最初に公教育が存在する理由を「公共性」概念及び「公共財」概念を紐解くことにより明らかにする（第1回）。そのうえで現状の法制・機構・仕組みについて検討する。その後、教育行政の理念を諸外国の事例や裁判での論争事例をもとに批判的に検討していく（第2回～第7回）。</p> <p>以上のような教育行政全体の動向・課題を明らかにしたのち、その制度によって支えられている学校経営について「組織マネジメント」及び「問題行動」「子どもの現状」への対応という観点から解説及び討議を行う。特に近年注目されている「学校安全・危機管理」「チームとしての学校」「地域社会との連携」については詳細に検討を行い、学校経営の在り方を考える示唆を提示したい（第8回～第14回）。そして、最後に今後の教育行政と学校経営の在り方について総括的な議論を行い、教員になる学生の教職意識の向上に役立てる（第15回）。</p> <p>本講義では日本の事例を主に扱うが諸外国に先進的な事例や参考になる事例がある場合には適宜それを紹介するので、日本の現状を批判的に見つめるための視野を身に付けてもらいたい。</p>						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	学習記録の提出（15%）及びレポート課題（15%）及び定期試験（70%）で評価する。評価に関わる詳細は初回講義の際に示す。						
ルーブリック評価	本講義は規定ルーブリックは用いない。						
課題や試験のフィードバック方法	習記録は各回担当者のコメントを付して返却される。レポート及び筆記試験については、再試験日程発表の際に総括的にフィードバックを行う。その後、ユニバーサルパスポートなどで個別のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本講義は、教員免許状取得のための講義であり、卒業要件に当てはまるか否かは必ず学生便覧を確認してから履修すること。加えて、教職課程として履修するものは将来教員になる者とみなすので、それにふさわしい授業態度で臨むこと。また、教職課程を履修しないものの履修も可能であるが、その場合でも教職課程を取っているものと同等の態度などで臨むこと						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	<p>予習として1) 講義に取り上げる予定の法令調べ 2) 講義にかかわる事項の調べ 3) テーマに関わる論述課題を課す（2時間程度）。論述課題の内容は講義でも取り上げる。</p> <p>復習として1) 講義のキーワードのまとめ 2) 論述課題 3) 講義の振り返りを課す（2時間程度）</p>						

オフィスアワー	水曜日4限 研究室 (9301) にて		
授業計画			担当者
第1回	公教育の基本原理と教育行政：教育の公共性について		倉知典弘
第2回	教育の法制の概要：教育の法律主義について		倉知典弘
第3回	教育行政の機構：教育行政のガバナンス		倉知典弘
第4回	教育の中立性確保：宗教的中立と政治的中立		倉知典弘
第5回	教育の義務制と機会均等：教育福祉の観点から		倉知典弘
第6回	教育機関の設置・管理：学校と社会教育・生涯学習		倉知典弘
第7回	教育職員に関わる法制：養成・採用・服務を中心に		倉知典弘
第8回	学校の組織体制：チームとしての学校を中心に		倉知典弘
第9回	学校経営計画と評価：PDCAサイクル		倉知典弘
第10回	学校における教育活動：教育課程		倉知典弘
第11回	学校における生徒指導：「問題行動」とその制度的対応		倉知典弘
第12回	学校経営の諸課題(1)地域社会との連携		倉知典弘
第13回	学校経営の諸課題(2)学校安全・学校保健		倉知典弘
第14回	学校経営の諸課題(3)子どもの現状とその制度的対応		倉知典弘
第15回	現代教育改革と教育行政・学校経営		倉知典弘
第16回	筆記試験		倉知典弘
教科書			
教・書籍名1	教育行政学 第3版 子ども・若者の未来を拓く	教・出版社名1	八千代出版
教・著者名1	横井敏郎編	教・ISBN1	9784842917849
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	教育小六法	参・出版社名1	学陽書房
参・著者名1	市川須美子、小野田正利、勝野 正章、窪田 眞二、中嶋 哲彦、成嶋隆	参・ISBN1	978-4313011953
参・書籍名2	中学校学習指導要領（最新版） 高等学校学習指導要領（最新版）	参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	教育行政学（看護・心理）			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	TC-SM-3-907		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜2限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力	△	DP 7. 自己効力感	△	DP 8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	<p>授業のテーマ</p> <p>現在日本の教育制度の仕組み、意義、基本原理を理解するとともに教育制度の一部である学校の経営やその制度的背景について理解する。そのうえで、社会や子どもを取り巻く課題に教育制度・学校経営がどの程度対応できているのかを考え、将来の教育制度・学校経営のあるべき姿を考察する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生は教育行政・公教育の原理、理念、作用及び仕組みを理解し、説明できる 2. 学生は学校、教育機関の目的を理解し、その目標をどのように達成しようとしているか理解し、説明できる 3. 学生は学校経営の組織体制及びマネジメント手法について理解し、説明できる 4. 学生は子どもたちをめぐる問題に対する制度的・経営的対応を理解し、対応の仕方を考察できる 5. 学生は現在の教育改革及び行財政改革の基本的な方向を理解し、説明できる 6. 学生は子どもや社会の現状、行財政改革の現状などの正確な理解をもとに今後の教育行政・学校経営のあるべき姿について自身の意見を提示できる 						
授業概要	<p>本講義は、教育制度の理解を深める段階と教育制度の理解をもとに学校経営を理解することを目的としている。まず最初に公教育が存在する理由を「公共性」概念及び「公共財」概念を紐解くことにより明らかにする（第1回）。そのうえで現状の法制・機構・仕組みについて検討する。その後、教育行政の理念を諸外国の事例や裁判での論争事例をもとに批判的に検討していく（第2回～第7回）。</p> <p>以上のような教育行政全体の動向・課題を明らかにしたのち、その制度によって支えられている学校経営について「組織マネジメント」及び「問題行動」「子どもの現状」への対応という観点から解説及び討議を行う。特に近年注目されている「学校安全・危機管理」「チームとしての学校」「地域社会との連携」については詳細に検討を行い、学校経営の在り方を考える示唆を提示したい（第8回～第14回）。そして、最後に今後の教育行政と学校経営の在り方について総括的な議論を行い、教員になる学生の教職意識の向上に役立てる（第15回）。</p> <p>本講義では日本の事例を主に扱うが諸外国に先進的な事例や参考になる事例がある場合には適宜それを紹介するので、日本の現状を批判的に見つめるための視野を身に付けてもらいたい。</p>						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	学習記録の提出（15%）及びレポート課題（15%）及び定期試験（70%）で評価する。評価に関わる詳細は初回講義の際に示す。						
ルーブリック評価	本講義は規定ルーブリックは用いない。						
課題や試験のフィードバック方法	習記録は各回担当者のコメントを付して返却される。レポート及び筆記試験については、再試験日程発表の際に総括的にフィードバックを行う。その後、ユニバーサルパスポートなどで個別のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本講義は、教員免許状取得のための講義であり、卒業要件に当てはまるか否かは必ず学生便覧を確認してから履修すること。加えて、教職課程として履修するものは将来教員になる者とみなすので、それにふさわしい授業態度で臨むこと。また、教職課程を履修しないものの履修も可能であるが、その場合でも教職課程を取っているものと同等の態度などで臨むこと						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	<p>予習として1) 講義に取り上げる予定の法令調べ 2) 講義にかかわる事項の調べ 3) テーマに関わる論述課題を課す（2時間程度）。論述課題の内容は講義でも取り上げる。</p> <p>復習として1) 講義のキーワードのまとめ 2) 論述課題 3) 講義の振り返りを課す（2時間程度）</p>						

オフィスアワー	水曜日4限 研究室 (9301) にて		
授業計画			担当者
第1回	公教育の基本原理と教育行政：教育の公共性について		倉知典弘
第2回	教育の法制の概要：教育の法律主義について		倉知典弘
第3回	教育行政の機構：教育行政のガバナンス		倉知典弘
第4回	教育の中立性確保：宗教的中立と政治的中立		倉知典弘
第5回	教育の義務制と機会均等：教育福祉の観点から		倉知典弘
第6回	教育機関の設置・管理：学校と社会教育・生涯学習		倉知典弘
第7回	教育職員に関わる法制：養成・採用・服務を中心に		倉知典弘
第8回	学校の組織体制：チームとしての学校を中心に		倉知典弘
第9回	学校経営計画と評価：PDCAサイクル		倉知典弘
第10回	学校における教育活動：教育課程		倉知典弘
第11回	学校における生徒指導：「問題行動」とその制度的対応		倉知典弘
第12回	学校経営の諸課題(1)地域社会との連携		倉知典弘
第13回	学校経営の諸課題(2)学校安全・学校保健		倉知典弘
第14回	学校経営の諸課題(3)子どもの現状とその制度的対応		倉知典弘
第15回	現代教育改革と教育行政・学校経営		倉知典弘
第16回	筆記試験		倉知典弘
教科書			
教・書籍名1	教育行政学 第3版 子ども・若者の未来を拓く	教・出版社名1	八千代出版
教・著者名1	横井敏郎編	教・ISBN1	9784842917849
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	教育小六法	参・出版社名1	学陽書房
参・著者名1	市川須美子、小野田正利、勝野 正章、窪田 眞二、中嶋 哲彦、成嶋隆	参・ISBN1	978-4313011953
参・書籍名2	中学校学習指導要領（最新版） 高等学校学習指導要領（最新版）	参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	教育心理学（看護・心理）			担当者	藤原 直子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	TC-SM-2-908		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに / 10. 人や国の不平等をなくそう</p> 						
到達目標	<p>1. 教育心理学の重要性を理解し、教育領域に有用な心理学的知識とその活用を学ぶ</p> <p>2. 児童生徒の心の発達プロセス理解と、それに適合した、あるいは促進させる教育心理学的アプローチのあり方を身につける</p> <p>3. 児童生徒の示す心理的問題や、教育上特別な支援が必要な児童生徒の心理学的理解と、具体的な支援に寄与しうる教育心理学的知識を身につける</p>						
授業概要	<p>この講義では、教育領域における心理学的理論と知識、および教育領域に適用可能な心理学的手法を学ぶ。まず教育心理学の理論と方法を概観し、児童生徒個人の心理的発達の諸側面を学んでいく。そして、学習理論や動機づけの理論に基づいて児童生徒にアプローチする心理学的知識と手法についても解説し、さまざまな学校現場における諸問題や児童生徒の困難さに対する支援方法を学ぶ。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション						
評価方法と割合	<p>評価は、講義内で行う小テスト・レポート・振り返りシート、学期末に実施する単位認定試験の得点を総合して行う。評価の内訳は、講義内の小テスト20%、レポート・演習課題20%、単位認定試験60%で、総合100点満点中60点以上を単位認定の対象とする。</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義内の小テストや演習課題について、講義内で回答・フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	<p>講義をしっかり聴き積極的な学びに努めること。</p> <p>毎回プリント等を配布するので、ファイルを用意しておくこと。</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、幼稚園・小学校での教員経験、小中高等学校でのスクールカウンセラーの実務経験がある教員が担当する。教育現場における現状や課題、教員として必要とされる心理学の知識や支援方法について教授し、実践に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	<p>1. 初回授業にて配布する「講義計画」に基づいて、テキストの該当ページを事前に読み予習する。</p> <p>2. 授業内で定期的実施する小テストの内容をもとに、復習を行う。</p> <p>3. 授業終了時に配布する「まとめプリント」の空欄を記入し、復習を行う。</p> <p>以上のような予習・復習に、毎回1～2時間を要する。</p>						
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週月曜日4限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション、教育心理学とは						藤原直子
第2回	心身の発達①：発達の基礎的な理論と乳幼児期の発達						藤原直子
第3回	心身の発達②：児童期						藤原直子
第4回	心身の発達③：青年期以降						藤原直子
第5回	学習と知識獲得						藤原直子
第6回	認知的情報処理と記憶						藤原直子
第7回	動機づけと学習						藤原直子
第8回	認知発達と学習支援						藤原直子
第9回	学級集団と学習支援						藤原直子
第10回	個性や個人差と学習支援						藤原直子
第11回	教育評価						藤原直子
第12回	障害の基本的理解と学校教育における配慮						藤原直子

第13回	困難さを抱える子どもへの教育的支援	藤原直子	
第14回	子どもの情緒・適応の理解と心理的支援	藤原直子	
第15回	学校教育を取り巻く諸問題と教育心理学	藤原直子	
第16回	試験	藤原直子	
教科書			
教・書籍名1	よくわかる教職エクササイズ② 教育心理学	教・出版社名1	ミネルヴァ書房
教・著者名1	森田健宏・田爪宏二	教・ISBN1	978-4-623-08177-6
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	教育心理学（スポ社）			担当者	藤原 直子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	TC-SM-2-908		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	△	DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに / 10. 人や国の不平等をなくそう</p> 						
到達目標	<p>1. 教育心理学の重要性を理解し、教育領域に有用な心理学的知識とその活用を学ぶ</p> <p>2. 児童生徒の心の発達プロセス理解と、それに適合した、あるいは促進させる教育心理学的アプローチのあり方を身につける</p> <p>3. 児童生徒の示す心理的問題や、教育上特別な支援が必要な児童生徒の心理学的理解と、具体的な支援に寄与しうる教育心理学的知識を身につける</p>						
授業概要	<p>この講義では、教育領域における心理学的理論と知識、および教育領域に適用可能な心理学的手法を学ぶ。まず教育心理学の理論と方法を概観し、児童生徒個人の心理的発達の諸側面を学んでいく。そして、学習理論や動機づけの理論に基づいて児童生徒にアプローチする心理学的知識と手法についても解説し、さまざまな学校現場における諸問題や児童生徒の困難さに対する支援方法を学ぶ。</p>						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション						
評価方法と割合	<p>評価は、講義内で行う小テスト・レポート・振り返りシート、学期末に実施する単位認定試験の得点を総合して行う。評価の内訳は、講義内の小テスト20%、レポート・演習課題20%、単位認定試験60%で、総合100点満点中60点以上を単位認定の対象とする。</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義内の小テストや演習課題について、講義内で回答・フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	<p>講義をしっかり聴き積極的な学びに努めること。</p> <p>毎回プリント等を配布するので、ファイルを用意しておくこと。</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、幼稚園・小学校での教員経験、小中高等学校でのスクールカウンセラーの実務経験がある教員が担当する。教育現場における現状や課題、教員として必要とされる心理学の知識や支援方法について教授し、実践に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	<p>1. 初回授業にて配布する「講義計画」に基づいて、テキストの該当ページを事前に読み予習する。</p> <p>2. 授業内で定期的実施する小テストの内容をもとに、復習を行う。</p> <p>3. 授業終了時に配布する「まとめプリント」の空欄を記入し、復習を行う。</p> <p>以上のような予習・復習に、毎回1～2時間を要する。</p>						
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週月曜日5限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション、教育心理学とは					藤原直子	
第2回	心身の発達①：発達の基礎的な理論と乳幼児期の発達					藤原直子	
第3回	心身の発達②：児童期					藤原直子	
第4回	心身の発達③：青年期以降					藤原直子	
第5回	学習と知識獲得					藤原直子	
第6回	認知的情報処理と記憶					藤原直子	
第7回	動機づけと学習					藤原直子	
第8回	認知発達と学習支援					藤原直子	
第9回	学級集団と学習支援					藤原直子	
第10回	個性や個人差と学習支援					藤原直子	
第11回	教育評価					藤原直子	
第12回	障害の基本的理解と学校教育における配慮					藤原直子	

第13回	困難さを抱える子どもへの教育的支援	藤原直子	
第14回	子どもの情緒・適応の理解と心理的支援	藤原直子	
第15回	学校教育を取り巻く諸問題と教育心理学	藤原直子	
第16回	試験	藤原直子	
教科書			
教・書籍名1	よくわかる教職エクササイズ② 教育心理学	教・出版社名1	ミネルヴァ書房
教・著者名1	森田健宏・田爪宏二	教・ISBN1	978-4-623-08177-6
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	特別支援教育（スポ社）後半8回			担当者	藤原 直子		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	TC-SM-2-909		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 10. 人や国の不平等をなくそう 						
到達目標	発達障害をはじめとする特別な支援を必要とする幼児・児童および生徒の障害特性を理解し、適切な指導方法・支援方法に関する知識を身につけることを目標とする。 さらに、特別支援教育の理念とシステムを学び、保護者や他の教員、関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を習得する。						
授業概要	特別支援教育の対象であるそれぞれの障害の特性と心理的特徴について理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくための具体的な方法を学ぶ。						
アクティブラーニングの内容	PBL/ディスカッション/グループワーク						
評価方法と割合	講義内で行う小テスト・レポート・振り返りシート、学期末に実施する単位認定試験の得点を総合して行う。評価の内訳は、講義内の小テスト20%、レポート・演習課題20%、単位認定試験60%で、総合100点満点中60点以上を単位認定の対象とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義内の小テストや演習課題について、講義内で回答・フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義をしっかりと聞き積極的な学びに努めること。 プリント等を配布するので、ファイルを用意しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、教育現場における障害児者に対する心理的支援の実務経験（幼稚園・小学校での教員、小中高등학교でのスクールカウンセラー、特別支援教育に関する巡回相談）がある教員が担当し、教育現場における現状や課題、教員として必要とされる特別支援に関する知識や支援方法について教授する。				
事前学習・事後学習とその時間	①初回授業にて配布する「講義計画」に基づいて、テキストの該当ページを事前に読み予習する。 ②授業内で実施する小テストの内容をもとに、復習を行う。 ③授業内で配布するプリントの空欄を記入し、復習を行う。 以上のような予習・復習に、毎回1～2時間を要する。						
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週月曜日4限目をオフィスアワーとする。						
授業計画						担当者	
第1回	特別支援教育の制度と理念、学校における支援体制及び連携					藤原直子	
第2回	特別支援教育の実際、指導計画の作成					藤原直子	
第3回	発達障害児の心身の発達・心理的特性					藤原直子	
第4回	自閉スペクトラム症（ASD）の児童生徒への理解と支援					藤原直子	
第5回	注意欠如多動症（ADHD）の児童生徒への理解と支援					藤原直子	
第6回	限局性学習症（LD）の児童生徒への理解と支援					藤原直子	
第7回	様々な障害のある児童生徒の特性と支援、まとめ					藤原直子	
第8回	試験					藤原直子	
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
第13回							

第14回			
第15回			
第16回			
教科書			
教・書籍名1	教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト	教・出版社名1	学研教育みらい
教・著者名1	小林倫代（編・著）	教・ISBN1	978-4-05-801762-3
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	教育課程論（スポ社）前半8回			担当者	池上 真由美		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	TC-SM-2-910		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	15	授業形態	講義・AL
年次	2年		開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 8. 働きがいも経済成長も / 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	教育課程の編成と実施などについての基礎的・基本的な知識を修得し、学校や地域の特性と教師の創意・工夫を生かした魅力ある教育課程を編成するための方略について理解する、また、編成した教育課程を実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルについて理解することを目標とする。						
授業概要	教育課程とは何か、教育課程の変遷、教育課程の法体系と学習指導要領、新学習指導要領・新教育要領の改訂のポイントなどについて理解する。また、編成した教育課程を実施・評価し改善するカリキュラム・マネジメントのプロセスを、実践例を通して学び、演習やグループワーク等を行うことで、カリキュラム・マネジメント力を養う。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	[試験] 60%（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する。） [提出物] 20%（レポート課題、コメント用紙等により評価する。） [授業への参画状況] 20%（発表及び発言内容、教職への意欲や態度等を総合的に評価する。）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題、コメント用紙の内容は、次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめて、フィードバックする。						
履修条件・注意事項	基本的に毎時行う予習課題の発表、グループ・ディスカッションなどに積極的に参加することが望まれる。なお、授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、小中学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習課題をもとに、目的意識をもって授業を受けること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。						
オフィスアワー	月曜日 2時限目						
授業計画						担当者	
第1回	教育課程とは何か					池上	
第2回	教育の目的と教育課程の編成					池上	

第3回	現代日本の教育課程の変遷	池上
第4回	新学習指導要領等の改訂のポイント「社会に開かれた教育課程」「学びの地図」「主体的・対話的で深い学び」	池上
第5回	近年の教育改革の動向および今後の課題	池上
第6回	幼稚園・小学校・中学校教育・高等学校教育における教育課程	池上
第7回	教育課程の法と行政、実践・カリキュラム・マネジメント	池上
第8回	筆記試験	池上
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
第16回		

教科書

教・書籍名1	はじめて学ぶ教育課程	教・出版社名1	ミネルヴァ書房
教・著者名1	広岡義之	教・ISBN1	978-4-623-07559-1
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	道徳教育の理論と方法 (スポ社)			担当者	川上 はる江		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	TC-SM-3-911		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・討論・模擬授業
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう / 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	<p>【テーマ】道徳教育について、基礎理論を理解し、併せて実践的指導力(道徳科の授業力)を身に付けることができる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 基礎的知識として、道徳教育の歴史、道徳性の発達理論、道徳教育の役割と意義を理解する。 2) 道徳の読み物資料の分析の仕方、指導案の書き方を学修し、指導案を作成することができる。 3) 作成した指導案を基に模擬授業を実施する。 4) 道徳科の評価について考え方を理解することができる。 						
授業概要	道徳教育の基礎知識である、道徳教育の歴史、道徳性の発達理論、道徳の授業理論について、各自で課題を決めて学修し、パワーポイント資料にまとめ発表する。また、実践力育成という視点から、グループで、道徳の読み物資料を基に道徳的価値の分析を行い、道徳的価値について学びを深める。その後、学習指導案を作成し、模擬授業の実施、相互評価、改善点の話合いという一連の過程を通して、質の高い授業力を身に付ける。						
アクティブラーニングの内容	反転授業/グループワーク/プレゼンテーション/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	最終試験(50%) 授業全般にわたっての理解度を記述式及び空所補充の試験によって確認する。 提出物 (20%) レポート課題、学習指導案、プリントの記載内容によって評価する。 授業への参加状況(30%) パワーポイントの発表、模擬授業、発言及び発言内容により総合的に判断する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎時間の課題(小プリント、レポート)については点数、コメントを付けて返す。模擬授業については、評価の視点を示し、授業後コメントを付けて返却する。						
履修条件・注意事項	事前に出されたプリントをする。テキストを必ず持参する。						
実務経験のある教員	該当する	内容	小学校教諭、教育センター研究員、小学校校長として38年間の実務経験を有する教員が、その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	予習 2時間	事前に出された予習プリントをしておくこと。					
	復習 2時間	学習した内容の要点をまとめておくこと。					
オフィスアワー	月5限 木3限 昼休み (10号館 個人研究室 10309)						
授業計画							担当者
第1回	15回の授業予定、道徳教育を学ぶ視点、道徳教育で培う道徳性。						川上
第2回	道徳教育の目標、学校における道徳教育の実際、全体計画、年間計画						川上
第3回	道徳資料の読み方 授業構成の仕方 資料1(視点A)						川上
第4回	学修指導案の書き方 資料を基に作成						川上
第5回	道徳教育の歴史 戦前、戦後の道徳教育の比較						川上
第6回	道徳性の発達理論 フロイト、ピアジェ						川上
第7回	道徳性の発達理論 コールバーグ、ブル						川上
第8回	総合単元的な道徳学習、統合的な道徳学習						川上
第9回	教材研究 学習指導案作成 資料2(視点B)						川上
第10回	模擬授業1(演習) 相互評価 授業後の検討・①②グループ						川上
第11回	模擬授業2(演習) 相互評価 授業後の検討 ③④グループ						川上
第12回	教材研究 学習指導案作成 資料3(視点D)						川上
第13回	模擬授業3 相互評価 授業後の検討 ⑤⑥グループ						川上

第14回	道徳科の評価 評価の基本的な考え方 具体例	川上
第15回	道徳教育の理論と方法 学習のまとめ	川上
第16回	定期試験(筆記試験)	川上
教科書		
教・書籍名1	道徳教育を学ぶ人のために(四訂版)	教・出版社名1 世界思想社
教・著者名1	小寺正一 藤永芳純 他	教・ISBN1 978-4-7907-0
教・書籍名2	中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編	教・出版社名2 教育出版
教・著者名2	文部科学省	教・ISBN2 978-4-316-30084-9
参考書		
参・書籍名1	楽しく豊かな「道徳の時間」をつくる	参・出版社名1 ミネルヴァ書房
参・著者名1	横山利弘 牧崎幸夫 他	参・ISBN1 978-4-623-08085-4
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	道徳教育の理論と方法（看護・心理）			担当者	川上 はる江		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	TC-SM-3-911		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・討論・模擬授業
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう / 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	<p>【テーマ】道徳教育について、基礎理論を理解し、併せて実践的指導力(道徳科の授業力)を身に付けることができる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 基礎的知識として、道徳教育の歴史、道徳性の発達理論、道徳教育の役割と意義を理解する。 2) 道徳の読み物資料の分析の仕方、指導案の書き方を学修し、指導案を作成することができる。 3) 作成した指導案を基に模擬授業を実施する。 4) 道徳科の評価について考え方を理解することができる。 						
授業概要	道徳教育の基礎知識である、道徳教育の歴史、道徳性の発達理論、道徳の授業理論について、各自で課題を決めて学修し、パワーポイント資料にまとめ発表する。また、実践力育成という視点から、グループで、道徳の読み物資料を基に道徳的価値の分析を行い、道徳的価値について学びを深める。その後、学習指導案を作成し、模擬授業の実施、相互評価、改善点の話合いという一連の過程を通して、質の高い授業力を身に付ける。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	最終試験（50％） 授業全般にわたっての理解度を記述式及び空所補充の試験によって確認する。 提出物（20％） レポート課題、学習指導案、プリントの記載内容によって評価する。 授業への参加状況（30％） パワーポイントの発表、模擬授業、発言及び発言内容により総合的に判断する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎時間の課題（小プリント、レポート）については点数、コメントを付けて返す。模擬授業については、評価の視点を示し、授業後コメントを付けて返却する。						
履修条件・注意事項	事前に出されたプリントをする。テキストを必ず持参する。						
実務経験のある教員	該当する	内容	小学校教諭、教育センター研究員、小学校校長として38年間の実務経験を有する教員が、その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	予習 2時間	事前に出された予習プリントをしておくこと。					
	復習 2時間	学習した内容の要点をまとめておくこと。					
オフィスアワー	月5限 木3限 昼休み（10号館 個人研究室 10309）						
授業計画							担当者
第1回	15回の授業予定、道徳教育を学ぶ視点、道徳教育で培う道徳性。						川上
第2回	道徳教育の目標、学校における道徳教育の実際、全体計画、年間計画						川上
第3回	道徳資料の読み方 授業構成の仕方 資料1（視点A）						川上
第4回	学修指導案の書き方 資料を基に作成						川上
第5回	道徳教育の歴史 戦前、戦後の道徳教育の比較						川上
第6回	道徳性の発達理論 フロイト、ピアジェ						川上
第7回	道徳性の発達理論 コールバーグ、ブル						川上
第8回	総合単元的な道徳学習、統合的な道徳学習						川上
第9回	教材研究 学習指導案作成 資料2（視点B）						川上
第10回	模擬授業1（演習）相互評価 授業後の検討・①②グループ						川上
第11回	模擬授業2（演習）相互評価 授業後の検討 ③④グループ						川上
第12回	教材研究 学習指導案作成 資料3（視点D）						川上
第13回	模擬授業3 相互評価 授業後の検討 ⑤⑥グループ						川上

第14回	道徳科の評価 評価の基本的な考え方 具体例	川上
第15回	道徳教育の理論と方法 学習のまとめ	川上
第16回	定期試験(筆記試験)	川上
教科書		
教・書籍名1	道徳教育を学ぶ人のために(四訂版)	教・出版社名1 世界思想社
教・著者名1	小寺正一 藤永芳純 他	教・ISBN1 978-4-7907-0
教・書籍名2	中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編	教・出版社名2 教育出版
教・著者名2	文部科学省	教・ISBN2 978-4-316-30084-9
参考書		
参・書籍名1	楽しく豊かな「道徳の時間」をつくる	参・出版社名1 ミネルヴァ書房
参・著者名1	横山利弘 牧崎幸夫 他	参・ISBN1 978-4-623-08085-4
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法			担当者	川上 はる江		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	TC-SM-2-912		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義 演習 AL
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	火曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 6. 安全な水とトイレを世界中に / 11. 住み続けられるまちづくりを 						
到達目標	【テーマ】 特別活動、総合的な学習の時間について基礎的知識を理解し、実践的指導力を身に付ける。 【到達目標】 1. 特別活動・総合的な学習の時間の意義、目標、教育課程上の位置づけ、内容を理解する。 2. 特別活動の内容の種類と関連性を理解し、学級活動の年間計画、学習指導案を作成することができる。 3. 総合的な学習の時間の課題を決めて単元計画を作成し、その強みと探求の過程について説明することができる。 4. 特別活動・総合的な学習の時間の評価の考え方を理解することができる。						
授業概要	特別活動・総合的な学習の時間の特徴を考慮しながら、下記の内容を実践的に学修する。 ①特別活動の目標、教育課程上の位置づけ、学級活動、クラブ活動、生徒会活動等の内容については、事前にプリントで予習しておく。そして、講義の中でグループワークを通して主体的に学びを深める。 ②学級活動指導案作成の仕方については、実際に作成することを通して学修する。 ③総合的な学習の時間の目標、教育課程上の位置づけ、特徴については、予習プリントで事前に学修しておき、講義の中でグループワークを通して主体的に学びを深める。 ⑤全体計画、年間計画、単元計画、思考ツール等は作成、活用することを通して、学修する。						
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／グループワーク						
評価方法と割合	最終試験（50％） 授業全般にわたっての理解度を記述式及び空所補充の試験によって確認する。 提出物（20％） レポート課題、学習指導案、プリントの記載内容によって評価する。 授業への参加状況（30％） パワーポイントの発表、模擬授業、発言及び発言内容により総合的に判断する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポート、小テストは採点して助言を添えて返却する。単元計画、年間計画、学習指導案はコメントを付けて説明する。						
履修条件・注意事項	事前に配布された予習プリントをする。						
実務経験のある教員	該当する	内容	小学校教諭、教育センター研究員、小学校校長として38年間の実務経験を有する教員が、その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	予習 2時間	事前に出された予習プリントをする。					
	復習 2時間	学習したことの要点をまとめる。					
オフィスアワー	月5限 木3限 昼休み（10号館 個人研究室 10309）						
授業計画						担当者	
第1回	授業予定 特別活動の目標 特質						川上
第2回	特別活動の内容（学級活動 学校行事 生徒会活動）と全体計画						川上
第3回	学級活動の目標、内容、年間計画						川上
第4回	学級活動の年間計画作成（演習）						川上
第5回	学校行事、生徒会活動の目標、内容、具体的活動						川上
第6回	学級活動の指導案の書き方 指導案作成						川上
第7回	模擬授業 代表グループ①②						川上
第8回	学級活動とSEL						川上/GT（中学校教諭）

第9回	総合的な学習の時間の意義, 目標	川上
第10回	総合的な学習の時間の歴史 教育課程上の位置づけ	川上
第11回	総合的な学習の時間 全体計画 単元計画	川上
第12回	単元計画の考え方 作成の仕方	川上
第13回	作成した単元計画の発表 (グループ内で情報交換)	川上
第14回	思考ツールと活用例 (演習)	川上
第15回	総合的な学習の時間の評価	川上
第16回	定期試験 (筆記試験)	川上

教科書

教・書籍名1	新しい教職教育講座9 特別活動	教・出版社名1	ミネルヴァ書房
教・著者名1	中村 豊/ 原 清治	教・ISBN1	978-623-08192-9
教・書籍名2	新しい教職教育講座8 総合的な学習の時間	教・出版社名2	ミネルヴァ書房
教・著者名2	森田真樹 / 篠原正典	教・ISBN2	978-4-623-08191-2

参考書

参・書籍名1	中学校学習指導要領 解説 総合的な学習の時間	参・出版社名1	東山書房
参・著者名1	文部科学省	参・ISBN1	978-4-8278-1561-0
参・書籍名2	中学校学習指導要領 解説 特別活動	参・出版社名2	978-4-8278-1562-7
参・著者名2	文部科学省	参・ISBN2	東山書房

授業科目名	教育の方法と技術（スポ社）			担当者	小林 朝雄		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	TC-SM-3-913		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	火曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	教育の方法と技術について、諸概念や理論、授業における教師の役割や指導技術を学ぶとともに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や児童生徒に情報活用能力を育成する基礎的な知識や技能を身に付ける。具体的には次のとおりである。 1 教育の方法と技術について、諸概念や理論を学び基礎的な指導法を身に付けるとともに、学習評価の基礎的な考え方を理解している。 2 個別最適な学びと協働的な学びの実現や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の必要性を理解している。 3 情報通信技術を活用した指導法を身に付けている。 4 特別な支援を必要とする児童生徒への、情報通信技術活用の必要性と留意点を理解している。 5 学校における情報セキュリティの重要性について理解している。						
授業概要	本講義では、教育の方法と技術にかかわる諸概念や理論、授業における教師の役割や指導技術について学ぶとともに、情報通信技術の効果的な活用法を理解し、基礎的な指導法を身に付ける。また、各教科におけるICT活用や情報モラルに関する授業について、受講者が具体的な授業を構想（指導案作成）し分担して模擬授業を行うとともに、タブレット端末等を活用した模擬授業を体験する。						
アクティブラーニングの内容	PBL／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	模擬授業、指導案（30％）、授業への参加態度（20％）、単位認定試験（50％）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業中のフィードバックや指導案等は個別にも行う。						
履修条件・注意事項	「中学校学習指導要領」または「高等学校学習指導要領」のどちらか（免許状取得を目指す方）と、「教育の方法と技術」を使用するので毎回持参する。その他については、必要に応じて関係資料を配付する。ノートは必ず作成し、配付資料も整理しておくこと。毎回の講義の予習、復習を行ってほしい。なお、模擬授業の際は作成した指導案を印刷し、全員分、配付すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この教科は、中学校教員、岡山県総合教育センター情報教育部指導主事としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	情報機器を活用した学習指導案が作成でき、模擬授業が実施できるよう教材研究に取り組んでいただきたい。予習・復習が2時間程度必要。						
オフィスアワー	毎授業終了時に教室にて実施						
授業計画						担当者	
第1回	教育の方法と技術とは					小林	
第2回	教育方法の理論と歴史（GIGAスクール構想を含む）					小林	
第3回	カリキュラムの位置付け（教科等の目標、指導内容、授業時数、年間指導計画の概要）					小林	
第4回	授業における教師の役割と指導技術①（教材研究と授業での教師の役割）					小林	
第5回	授業における教師の役割と指導技術②（児童生徒の主体性を引き出す指導）					小林	
第6回	主体的・対話的で深い学びを実現する情報通信技術を活用した学習指導					小林	

第7回	各教科におけるICT活用（授業をまとめた動画コンテンツの視聴と討議）	小林
第8回	各教科におけるICTを活用した模擬授業の構想（指導案作成、実物投影機、PCの活用）	小林
第9回	各教科におけるICTを活用した模擬授業の発表と評価（発表：前半グループ）	小林
第10回	各教科におけるICTを活用した模擬授業の発表と評価（発表：後半グループ）	小林
第11回	各教科におけるタブレット端末を活用した模擬授業の実施	小林
第12回	情報モラルに関する授業構成（情報モラルの目標、指導法、教材等）	小林
第13回	教育における評価（授業評価と学習評価について）	小林
第14回	学校における情報セキュリティの重要性について	小林
第15回	授業の振り返りとまとめ	小林
第16回	単位認定試験	小林

教科書			
教・書籍名1	中学校学習指導要領	教・出版社名1	東洋館出版社
教・著者名1	文部科学省	教・ISBN1	10 4827815402
教・書籍名2	高等学校学習指導要領	教・出版社名2	東山書房
教・著者名2	文部科学省	教・ISBN2	978-4-8278-1567-2

参考書			
参・書籍名1	三訂版 教育の方法と技術	参・出版社名1	図書文化社
参・著者名1	平沢 茂	参・ISBN1	978-4-8100-8701-7
参・書籍名2	教育の情報化に関する手引き	参・出版社名2	製本版はなし。下記ページに公開 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html
参・著者名2	文部科学省	参・ISBN2	

授業科目名	生徒・進路指導論 (スポ社)			担当者	藤井 和郎		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	TC-SM-3-914		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜1限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 10. 人や国の不平等をなくそう / 16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	<p>【テーマ】生徒指導、進路指導及びキャリア教育の意義や原理を学び学校組織の一員として生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識・技術や素養を身に付ける。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒指導の意義や原理を理解することができる。 2 すべての生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解することができる。 3 生徒の抱える主な生徒指導上の課題の形態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解することができる。 4 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解することができる。 5 すべての生徒を対象としたキャリア教育の考え方と指導の在り方を理解することができる。 6 生徒が抱える個別のキャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解することができる。 						
授業概要	<p>生徒指導は、一人一人の生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる重要な教育活動であり、キャリア教育は、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むための教育活動である。授業では、生徒指導の目標や生徒指導の機能を捉え直した上で、生徒指導の今日的課題を踏まえた実践について知識・理解を深める。また、キャリア教育及びそれに包含される進路指導について意義や原理などを学ぶ。毎回の授業では反転授業及び「個人学習1→グループ学習→全体学習→個人学習2」という流れを原則としたグループワークを取り入れた主体的・対話的な学習を行う。それにより、課題に対する理解が深まることを意図している。</p>						
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク						
評価方法と割合	<p>[試験] 50% (授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する)</p> <p>[提出物] 20% (レポート課題や学習プリントの記載内容等により評価する)</p> <p>[授業への参画状況] 30% (予習プリントや振り返り用紙の記載内容、授業中の発表及び発言内容、教職への意欲や態度等を総合的に評価する)</p>						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は授業の中で、試験は個別にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	<p>座席指定により編成されたグループでの協議に積極的に参加すること。</p> <p>授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。</p>						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、中学校教員、生徒指導主事、校長及び教育行政の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	<p>前時に示された予習プリントにより、次時の学習内容を把握すること。</p> <p>復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。</p> <p>なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。</p>						
オフィスアワー	月曜日3限目 10号館10303 藤井(和)研究室						
授業計画						担当者	
第1回	生徒指導の意義と原理					藤井	
第2回	学校における生徒指導体制、教育相談					藤井	
第3回	生徒指導に関する法制度等、学校と家庭・地域・関係機関との連携					藤井	

第4回	生徒指導の進め方（児童生徒全体への指導）	藤井
第5回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：問題行動）	藤井
第6回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：不登校）	藤井
第7回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：いじめ）	藤井
第8回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：発達障害）	藤井
第9回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：児童虐待）	藤井
第10回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：愛着障害）	藤井
第11回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：性的マイノリティ）	藤井
第12回	キャリア教育とは何か	藤井
第13回	中学校におけるキャリア教育推進のために	藤井
第14回	中学校におけるキャリア教育の実践	藤井
第15回	生徒指導の今後の方向性	藤井
第16回	試験	藤井

教科書

教・書籍名1	生徒指導提要	教・出版社名1	教育図書
教・著者名1	文部科学省	教・ISBN1	978-4-87730-274-0
教・書籍名2	中学校キャリア教育の手引き	教・出版社名2	教育出版
教・著者名2	文部科学省	教・ISBN2	978-4-316-30026-9

参考書

参・書籍名1	中学校学習指導要領(平成29年告示)	参・出版社名1	東山書房
参・著者名1	文部科学省	参・ISBN1	
参・書籍名2	高等学校学習指導要領(平成30年告示)	参・出版社名2	東山書房
参・著者名2	文部科学省	参・ISBN2	

授業科目名	教育相談の基礎 (スポ社)			担当者	津川 秀夫		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	TC-SM-1-915		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	<p>「教育相談の基礎」では、学校での教育相談の理論と方法をテーマとする。 この授業の到達目標は次の通りである。</p> <p>(1)教育相談の意義や、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論を理解する (2)不適応や問題行動、発達障害の特徴とそれらへの対応方法の基礎について理解する (3)チーム学校としての組織的な取組や専門機関等との連携について理解する</p>						
授業概要	学校における教育相談では、児童生徒への個別相談に加えて、学級集団や保護者への対応をバランスよく進めることが求められる。そして、担任が一人で抱え込むのではなく、チーム学校として他の教員やスクールカウンセラー等との連携も必須である。この授業では、学校における不適応や問題行動等について学ぶとともに、予防・開発的教育相談について理解する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/ディベート						
評価方法と割合	単元ごとの小テストおよびレポートの得点が6割以上であり、授業態度への注意（私語、居眠り、スマートフォンの使用等）が3回未満の者に単位を与える。これを前提として、テストとレポートの得点（80%）、授業への参加態度（20%）にて評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	小テストや課題レポートについて授業においてフィードバックする。						
履修条件・注意事項	教職科目を履修することを自覚し「責任ある大人」としての態度で授業に臨むことを期待する。毎回の出席はもちろんのこと、実技の練習やディスカッションに積極的な参加を望む。						
実務経験のある教員	該当する	内容	精神科クリニックでの心理臨床活動、小・中・高でのスクールカウンセリング、教育センターでの教育相談などの経験を踏まえて当該授業について講義する。				
事前学習・事後学習とその時間	できるだけ早い時期に指定テキストを読み通しておくこと。予習・復習にそれぞれ1時間を要する。						
オフィスアワー	月曜日4時限、個人研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					津川秀夫	
第2回	児童生徒の発達の多様性					津川秀夫	
第3回	児童生徒の発達の多様性：知的能力障害					津川秀夫	
第4回	児童生徒の発達の多様性：自閉スペクトラム症					津川秀夫	
第5回	児童生徒の発達の多様性：限局性学習症					津川秀夫	
第6回	児童生徒の発達の多様性：注意欠如多動症					津川秀夫	
第7回	問題行動の見立てと介入：行動随伴性					津川秀夫	
第8回	問題行動の見立てと介入：強化、弱化、消去					津川秀夫	
第9回	問題行動の見立てと介入：行動の機能					津川秀夫	
第10回	問題行動の見立てと介入：不登校					津川秀夫	
第11回	知能検査：種類と活用法					津川秀夫	
第12回	知能検査：検査の実際					津川秀夫	
第13回	ポジティブ行動の促進：事例					津川秀夫	

第14回	ポジティブ行動の促進：肯定的感情の拡張—形成理論	津川秀夫
第15回	ポジティブ行動の促進：PBIS	津川秀夫
第16回		
教科書		
教・書籍名1	メリットの法則	教・出版社名1 集英社
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	生徒指導提要	参・出版社名1 教育図書
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2	よくわかる教育相談	参・出版社名2 ミネルヴァ書房
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	教育相談の基礎（看護・心理）			担当者	津川 秀夫		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	TC-SM-1-915		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	<p>「教育相談の基礎」では、学校での教育相談の理論と方法をテーマとする。 この授業の到達目標は次の通りである。</p> <p>(1)教育相談の意義や、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論を理解する (2)不適応や問題行動、発達障害の特徴とそれらへの対応方法の基礎について理解する (3)チーム学校としての組織的な取組や専門機関等との連携について理解する</p>						
授業概要	学校における教育相談では、児童生徒への個別相談に加えて、学級集団や保護者への対応をバランスよく進めることが求められる。そして、担任が一人で抱え込むのではなく、チーム学校として他の教員やスクールカウンセラー等との連携も必須である。この授業では、学校における不適応や問題行動等について学ぶとともに、予防・開発的教育相談について理解する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート						
評価方法と割合	単元ごとの小テストおよびレポートの得点が6割以上であり、授業態度への注意（私語、居眠り、スマートフォンの使用等）が3回未満の者に単位を与える。これを前提として、テストとレポートの得点（80%）、授業への参加態度（20%）にて評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	小テストや課題レポートについて授業においてフィードバックする。						
履修条件・注意事項	教職科目を履修することを自覚し「責任ある大人」としての態度で授業に臨むことを期待する。毎回の出席はもちろんのこと、実技の練習やディスカッションに積極的な参加を望む。						
実務経験のある教員	該当する	内容	精神科クリニックでの心理臨床活動、小・中・高でのスクールカウンセリング、教育センターでの教育相談などの経験を踏まえて当該授業について講義する。				
事前学習・事後学習とその時間	できるだけ早い時期に指定テキストを読み通しておくこと。予習・復習にそれぞれ1時間を要する。						
オフィスアワー	月曜日4時限、個人研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					津川秀夫	
第2回	児童生徒の発達の多様性					津川秀夫	
第3回	児童生徒の発達の多様性：知的能力障害					津川秀夫	
第4回	児童生徒の発達の多様性：自閉スペクトラム症					津川秀夫	
第5回	児童生徒の発達の多様性：限局性学習症					津川秀夫	
第6回	児童生徒の発達の多様性：注意欠如多動症					津川秀夫	
第7回	問題行動の見立てと介入：行動随伴性					津川秀夫	
第8回	問題行動の見立てと介入：強化、弱化、消去					津川秀夫	
第9回	問題行動の見立てと介入：行動の機能					津川秀夫	
第10回	問題行動の見立てと介入：不登校					津川秀夫	
第11回	知能検査：種類と活用法					津川秀夫	
第12回	知能検査：検査の実際					津川秀夫	
第13回	ポジティブ行動の促進：事例					津川秀夫	

第14回	ポジティブ行動の促進：肯定的感情の拡張—形成理論	津川秀夫
第15回	ポジティブ行動の促進：PBIS	津川秀夫
第16回		
教科書		
教・書籍名1	メリットの法則	教・出版社名1 集英社
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	生徒指導提要	参・出版社名1 教育図書
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2	よくわかる教育相談	参・出版社名2 ミネルヴァ書房
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	教育実習指導 (スポ社)			担当者	倉知 典弘、森井 康幸		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	TC-SM-3-916		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	講義・実習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	月曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう / 2. 飢餓をゼロに / 3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 6. 安全な水とトイレを世界中に / 7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに / 8. 働きがいも経済成長も / 10. 人や国の不平等をなくそう / 11. 住み続けられるまちづくりを / 12. つくる責任・つかう責任 / 14. 海の豊かさを守ろう / 15. 陸の豊かさを守ろう / 16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	「教育実習の準備と教職意識の明確化」をテーマとして、教育実習に最低限必要な知識・技術の習得と確認、および、自分自身の問題点の確認と克服を到達目標とする。						
授業概要	次年度、教育実習を行うための事前・事後指導にあたる。教職意識を高めるとともに、実習に向けた基本的な知識や技能の習得をめざす。授業は、学校の実態、学校教育の内容と方法などについて、小・中・高等学校の教員や教育委員会などの現場の先生方の講義を中心に進める。また、受講者は全員、正規の授業時間外に、自分で作成した指導案をもとに模擬授業を行い、実習に向けての問題点の把握、改善に努めなくてはならない。また、4年次の教育実習終了後にも事後指導としての時間を何回か設けるので、必ず出席し、教師としての実践力の向上に努めなくてはならない。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション / その他のアクティブラーニング (複合的なもの等)						
評価方法と割合	受講態度 (40%)、およびレポート (60% : 模擬授業も含む) により評価する。 教育実習修了後に行われる事後指導も評価の対象になる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	実習や模擬授業に対しては、その場でフィードバックをおこな レポートのうち、返却できないものに対するフィードバックは授業内に口頭で行う。						
履修条件・注意事項	教育実習を行うための必須単位である。 教師という自覚を高めるためにも、欠席・遅刻には厳しく対処する。 授業時間外に小グループに分かれて模擬授業をしなくてはならないので承知しておくこと。 講義概要の欄にも記したが、厳密にはこの授業は後期のみ15回で終了するのではなく、実習終了後 (次年度) にも事後指導として継続し、評価の対象となるので、掲示には注意しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、上述のように中学校・高等学校等の現職教諭を中心に、学校教育における実務経験のある外部講師の先生方から、教育現場における現状や課題、必要とされる知識や能力について講義・演習を行う。				
事前学習・事後学習とその時間	復習として、配付資料、ノート等をもとに、授業内容を再確認しておくこと。(2時間) 教職意識の明確化と基礎学力の向上に努めること。 様々な話題(新聞等)に興味を持って触れておくこと。 指導案の作成の学習については、他の教科と関連づけながら進めること。						
オフィスアワー	月曜4限、教員研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					森井・倉知	
第2回	教育実習に向けて一教師の適性					森井・倉知	
第3回	教師への道 (高等学校) (外部)					森井・外部講師	
第4回	教師への道 (中学校) (外部)					森井・外部講師	
第5回	授業改革 (外部)					森井・外部講師	
第6回	実習生の授業を見る 1					森井・倉知	
第7回	指導案の作成と授業の展開 (1) 基本的考え方 (外部)					森井・外部講師	

第8回	指導案の作成と授業の展開 (2) 教材研究と授業の展開 (外部)	森井・外部講師
第9回	授業実践 (外部)	森井・外部講師
第10回	実習生の授業を見る 2	森井・倉知
第11回	模擬授業 (1)	森井・倉知
第12回	模擬授業 (2)	森井・倉知
第13回	模擬授業 (3)	森井・倉知
第14回	模擬授業 (4)	森井・倉知
第15回	模擬授業 (5) ・まとめ	森井・倉知
第16回		

教科書

教・書籍名1	使用しない。資料は配付する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	取得しようとする教科の学習指導要領解説	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	教育実習（スポ社）			担当者	倉知 典弘、森井 康幸		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	TC-SM-4-917		
必修・選択	選択	単位数	4単位	時間数	30	授業形態	講義・実習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	実習	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／6. 安全な水とトイレを世界中に／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／8. 働きがいも経済成長も／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう／16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	「教育実習の準備と教職意識の明確化」をテーマとして、教育実習に最低限必要な知識・技術の習得と確認、および、自分自身の問題点の確認と克服を到達目標とする。						
授業概要	次年度、教育実習を行うための事前・事後指導にあたる。教職意識を高めるとともに、実習に向けた基本的な知識や技能の習得をめざす。授業は、学校の実態、学校教育の内容と方法などについて、小・中・高等学校の教員や教育委員会などの現場の先生方の講義を中心に進める。また、受講者は全員、正規の授業時間外に、自分で作成した指導案をもとに模擬授業を行い、実習に向けての問題点の把握、改善に努めなくてはならない。また、4年次の教育実習終了後にも事後指導としての時間を何回か設けるので、必ず出席し、教師としての実践力の向上に努めなくてはならない。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	受講態度（40％）、およびレポート（60％：模擬授業も含む）により評価する。 教育実習修了後に行われる事後指導も評価の対象になる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	実習や模擬授業に対しては、その場でフィードバックをおこな レポートのうち、返却できないものに対するフィードバックは授業内に口頭で行う。						
履修条件・注意事項	教育実習を行うための必須単位である。 教師という自覚を高めるためにも、欠席・遅刻には厳しく対処する。 授業時間外に小グループに分かれて模擬授業をしなくてはならないので承知しておくこと。 講義概要の欄にも記したが、厳密にはこの授業は後期のみ15回で終了するのではなく、実習終了後（次年度）にも事後指導として継続し、評価の対象となるので、掲示には注意しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、上述のように中学校・高等学校等の現職教諭を中心に、学校教育における実務経験のある外部講師の先生方から、教育現場における現状や課題、必要とされる知識や能力について講義・演習を行う。				
事前学習・事後学習とその時間	復習として、配付資料、ノート等をもとに、授業内容を再確認しておくこと。（2時間） 教職意識の明確化と基礎学力の向上に努めること。 様々な話題(新聞等)に興味を持って触れておくこと。 指導案の作成の学習については、他の教科と関連づけながら進めること。						
オフィスアワー	月曜4限、教員研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					森井・倉知	
第2回	教育実習に向けて一教師の適性					森井・倉知	
第3回	教師への道（高等学校）（外部）					森井・外部講師	
第4回	教師への道（中学校）（外部）					森井・外部講師	
第5回	授業改革（外部）					森井・外部講師	
第6回	実習生の授業を見る1					森井・倉知	
第7回	指導案の作成と授業の展開（1） 基本的考え方（外部）					森井・外部講師	

第 8 回	指導案の作成と授業の展開 (2) 教材研究と授業の展開 (外部)	森井・外部講師
第 9 回	授業実践 (外部)	森井・外部講師
第 1 0 回	実習生の授業を見る 2	森井・倉知
第 1 1 回	模擬授業 (1)	森井・倉知
第 1 2 回	模擬授業 (2)	森井・倉知
第 1 3 回	模擬授業 (3)	森井・倉知
第 1 4 回	模擬授業 (4)	森井・倉知
第 1 5 回	模擬授業 (5) ・まとめ	森井・倉知
第 1 6 回		
第 1 7 回		
第 1 8 回		
第 1 9 回		
第 2 0 回		
第 2 1 回		
第 2 2 回		
第 2 3 回		
第 2 4 回		
第 2 5 回		
第 2 6 回		
第 2 7 回		
第 2 8 回		
第 2 9 回		
第 3 0 回		
第 3 1 回		
第 3 2 回		

教科書

教・書籍名 1	使用しない。資料は配付する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1	取得しようとする教科の学習指導要領解説	参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	教職実践演習（中・高）（スポ社）			担当者	倉知 典弘、森井 康幸		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	TC-SM-4-918		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜4限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 10. 人や国の不平等をなくそう / 16. 平和と公正をすべての人に</p> 						
到達目標	これまでの学生の履修状況をふまえ、教師として必要な知識、技能の補完がテーマである。到達目標は、教師らしくなることである。						
授業概要	<p>以下の3点を中心に、学校や教育委員会の先生方の協力のもと、講義、討議、ロールプレイングなどを行いながら演習を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習を振り返り、総括するとともに、教師として必要な資質能力、自分に不足している資質能力等について討議・検討する。 2. クラス運営やPTA活動などの学校教育の諸活動のあり方について実践的に学ぶ。 3. 教科の指導に必要な知識・技能などを見直し、力量向上のための取り組みを検討する。 						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	評価は受講態度（討議などへの参加状況など；30%）と課題レポート・模擬授業（70%）の評価による。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートは、内容確認後、コメントをつけて返却する。						
履修条件・注意事項	教育実習を終えていることが基本要件であり、将来、教職に就くという強い意志を持っている学生のみが対象の演習である。 教職カルテを持参すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この授業では半数の回で、学校教育において教員としての実務経験を持つ方々が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	教職に就こうとする自覚と向上心を高めるべく、すべての面での学修に真剣に取り組むこと。 4月から教師として勤められるように、自分に不足する資質・能力を向上させるように自己陶冶に努めること。 課題レポート等の作成（4時間以上必要）により、教育現場での活動についての理解を深めること。						
オフィスアワー	月曜4限、10号館4階、森井研究室。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					森井・倉知	
第2回	教材研究1					森井・外部講師	
第3回	教師の服務と学校現場の課題					森井・外部講師	
第4回	学校の安全管理					森井・外部講師	
第5回	教材研究2（実践）					森井・外部講師	
第6回	国際バカロレア教育					森井・外部講師	
第7回	いじめ・不登校への取り組み					森井・学内講師	
第8回	特別支援教育の現状と実際					森井・外部講師	
第9回	道徳教科化の問題					森井・学内講師	
第10回	模擬授業と授業研究1					森井・倉知	

第11回	模擬授業と授業研究2	森井・倉知
第12回	模擬授業と授業研究3	森井・倉知
第13回	模擬授業と授業研究4	森井・倉知
第14回	模擬授業と授業研究5	森井・倉知
第15回	自己分析・まとめ	森井・倉知
第16回		
教科書		
教・書籍名1	教科書は使用しない。	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-401		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：大学生生活の導入部分として、学習の動機づけを行うとともに、学習の方法を身につける。 到達目標： 1：大学での学び方を知り、学習目標を立てることを通して、4年間の学習の見通しを立てることができるようになる 2：図書館での資料の探し方、文献検索の仕方、webの利用の仕方の学習を通じて、基本的な情報収集ができるようになる 3：グループディスカッションなどを通じて、相手を尊重したコミュニケーションを行うことができるようになる 4：文章作成の演習を通じて、論理的なレポートを書くことができるようになる 5：レジュメ（報告用資料）の書き方、報告の仕方の学習を通じて、基本的なプレゼンテーションができるようになる。						
授業概要	本講義は「話す」「読む」「書く」「聴く」等コミュニケーションスキルの習得を徹底し、大人としての最低限の表現能力を身につけることを目的としている。 大学生として必要な基礎的な能力や学び方を学習することを目的としている。 まず最初に大学生としての学びの在り方や学習目標の設定の仕方などをディスカッションや演習を通じて考える（第1回～第4回）。その後、自分自身の経験などに基づいた文章作成を行い、文章力の向上を図る（第5回～第7回）。そして、その文章をもとにスピーチを行い、伝える技術を高めていく（第8回～第9回）。そして、より文章内容を向上させるための情報収集の基礎を実践的に学び（第10回～第13回）、最終的にそれまでの学びの成果を活かしたレポートの作成を行う（第14回～第15回）。 本講義では、スピーチやプレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行い、この過程を通じて、大学での学びの基礎となるコミュニケーション能力と学習遂行能力の向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）ディスカッションやグループワークでの活動状況（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、ディスカッションやグループワークに参加しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】 演習ルーブリック						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指						

の時間	導などの際には講義課題として各自の意見などを提出してもらう。(1.5時間程度)講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	水曜日 3限 研究室(6311)		
授業計画		担当者	
第1回	講義ガイダンス：講義概要の説明及びアイスブレイク	孫基然	
第2回	大学生としての学び(1) 大学規程の理解と研究倫理教育	孫基然	
第3回	大学生としての学び(2) 大学における学習資源の活用法	孫基然	
第4回	大学生としての学び(3) 学習目標の設定方法の理解と学習目標の設定	孫基然	
第5回	文章表現の基礎：基本的な文法事項と文章構造の理解	孫基然	
第6回	文章作成演習(1) 一スポーツ経験を振り返る	孫基然	
第7回	文章作成演習(2) 現代社会について	孫基然	
第8回	スピーチの手法：伝える力とは何か	孫基然	
第9回	スピーチ演習：スポーツ及び現代社会について	孫基然	
第10回	情報収集の手法(1) データベースの活用法	孫基然	
第11回	情報収集の手法(2)：情報の批判的検討の必要性和手法	孫基然	
第12回	情報収集の手法(3)：新聞・雑誌記事の読み方	孫基然	
第13回	情報収集の技法(4)：統計情報の読み解き方	孫基然	
第14回	レポート作成の技法(1)：レポートの基礎基本	孫基然	
第15回	レポート作成の技法(2)：レポートの評価について	孫基然	
第16回	レポート試験	孫基然	
教科書			
教・書籍名1	各回の講義テーマに応じて教員が用意する資料によって講義を行う	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	文章力の基本	参・出版社名1	日本実業出版社
参・著者名1	阿部 紘久	参・ISBN1	978-4534045881
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-401		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：大学生生活の導入部分として、学習の動機づけを行うとともに、学習の方法を身につける。 到達目標： 1：大学での学び方を知り、学習目標を立てることを通して、4年間の学習の見通しを立てることができるようになる 2：図書館での資料の探し方、文献検索の仕方、webの利用の仕方の学習を通じて、基本的な情報収集ができるようになる 3：グループディスカッションなどを通じて、相手を尊重したコミュニケーションを行うことができるようになる 4：文章作成の演習を通じて、論理的なレポートを書くことができるようになる 5：レジュメ（報告用資料）の書き方、報告の仕方の学習を通じて、基本的なプレゼンテーションができるようになる。						
授業概要	本講義は「話す」「読む」「書く」「聴く」等コミュニケーションスキルの習得を徹底し、大人としての最低限の表現能力を身につけることを目的としている。 大学生として必要な基礎的な能力や学び方を学習することを目的としている。 まず最初に大学生としての学びの在り方や学習目標の設定の仕方などをディスカッションや演習を通じて考える（第1回～第4回）。その後、自分自身の経験などに基づいた文章作成を行い、文章力の向上を図る（第5回～第7回）。そして、その文章をもとにスピーチを行い、伝える技術を高めていく（第8回～第9回）。そして、より文章内容を向上させるための情報収集の基礎を実践的に学び（第10回～第13回）、最終的にそれまでの学びの成果を活かしたレポートの作成を行う（第14回～第15回）。 本講義では、スピーチやプレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行い、この過程を通じて、大学での学びの基礎となるコミュニケーション能力と学習遂行能力の向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）ディスカッションやグループワークでの活動状況（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、ディスカッションやグループワークに参加しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】 演習ルーブリック						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指						

の時間	導などの際には講義課題として各自の意見などを提出してもらう。(1.5時間程度)講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	火曜日 4限 研究室(9405)		
授業計画		担当者	
第1回	講義ガイダンス：講義概要の説明及びアイスブレイク	高藤	
第2回	大学生としての学び(1) 大学規程の理解と研究倫理教育	高藤	
第3回	大学生としての学び(2) 大学における学習資源の活用法	高藤	
第4回	大学生としての学び(3) 学習目標の設定方法の理解と学習目標の設定	高藤	
第5回	文章表現の基礎：基本的な文法事項と文章構造の理解	高藤	
第6回	文章作成演習(1) 一スポーツ経験を振り返る	高藤	
第7回	文章作成演習(2) 現代社会について	高藤	
第8回	スピーチの手法：伝える力とは何か	高藤	
第9回	スピーチ演習：スポーツ及び現代社会について	高藤	
第10回	情報収集の手法(1) データベースの活用法	高藤	
第11回	情報収集の手法(2)：情報の批判的検討の必要性和手法	高藤	
第12回	情報収集の手法(3)：新聞・雑誌記事の読み方	高藤	
第13回	情報収集の技法(4)：統計情報の読み解き方	高藤	
第14回	レポート作成の技法(1)：レポートの基礎基本	高藤	
第15回	レポート作成の技法(2)：レポートの評価について	高藤	
第16回	レポート試験	高藤	
教科書			
教・書籍名1	各回の講義テーマに応じて教員が用意する資料によって講義を行う。	教・出版社名1	
教・著者名1	その都度紹介する。	教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	文章力の基本	参・出版社名1	日本実業出版社
参・著者名1	阿部 紘久	参・ISBN1	978-4534045881
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-401		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：大学生生活の導入部分として、学習の動機づけを行うとともに、学習の方法を身につける。 到達目標： 1：大学での学び方を知り、学習目標を立てることを通して、4年間の学習の見通しを立てることができるようになる 2：図書館での資料の探し方、文献検索の仕方、webの利用の仕方の学習を通じて、基本的な情報収集ができるようになる 3：グループディスカッションなどを通じて、相手を尊重したコミュニケーションを行うことができるようになる 4：文章作成の演習を通じて、論理的なレポートを書くことができるようになる 5：レジュメ（報告用資料）の書き方、報告の仕方の学習を通じて、基本的なプレゼンテーションができるようになる。						
授業概要	本講義は「話す」「読む」「書く」「聴く」等コミュニケーションスキルの習得を徹底し、大人としての最低限の表現能力を身につけることを目的としている。 大学生として必要な基礎的な能力や学び方を学習することを目的としている。 まず最初に大学生としての学びの在り方や学習目標の設定の仕方などをディスカッションや演習を通じて考える（第1回～第4回）。その後、自分自身の経験などに基づいた文章作成を行い、文章力の向上を図る（第5回～第7回）。そして、その文章をもとにスピーチを行い、伝える技術を高めていく（第8回～第9回）。そして、より文章内容を向上させるための情報収集の基礎を実践的に学び（第10回～第13回）、最終的にそれまでの学びの成果を活かしたレポートの作成を行う（第14回～第15回）。 本講義では、スピーチやプレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行い、この過程を通じて、大学での学びの基礎となるコミュニケーション能力と学習遂行能力の向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）ディスカッションやグループワークでの活動状況（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、ディスカッションやグループワークに参加しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】 演習ルーブリック						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指						

の時間	導などの際には講義課題として各自の意見などを提出してもらう。(1.5時間程度)講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	水曜日 4限 研究室		
授業計画		担当者	
第1回	講義ガイダンス：講義概要の説明及びアイスブレイク	竹内研	
第2回	大学生としての学び(1) 大学規程の理解と研究倫理教育	竹内研	
第3回	大学生としての学び(2) 大学における学習資源の活用法	竹内研	
第4回	大学生としての学び(3) 学習目標の設定方法の理解と学習目標の設定	竹内研	
第5回	文章表現の基礎：基本的な文法事項と文章構造の理解	竹内研	
第6回	文章作成演習(1) 一スポーツ経験を振り返る	竹内研	
第7回	文章作成演習(2) 現代社会について	竹内研	
第8回	スピーチの手法：伝える力とは何か	竹内研	
第9回	スピーチ演習：スポーツ及び現代社会について	竹内研	
第10回	情報収集の手法(1) データベースの活用法	竹内研	
第11回	情報収集の手法(2)：情報の批判的検討の必要性和手法	竹内研	
第12回	情報収集の手法(3)：新聞・雑誌記事の読み方	竹内研	
第13回	情報収集の技法(4)：統計情報の読み解き方	竹内研	
第14回	レポート作成の技法(1)：レポートの基礎基本	竹内研	
第15回	レポート作成の技法(2)：レポートの評価について	竹内研	
第16回	レポート試験	竹内研	
教科書			
教・書籍名1	各回の講義テーマに応じて教員が用意する資料によって講義を行う	教・出版社名1	日本実業出版社
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	文章力の基本	参・出版社名1	日本実業出版社
参・著者名1	阿部 紘久	参・ISBN1	978-4534045881
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-401		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：大学生生活の導入部分として、学習の動機づけを行うとともに、学習の方法を身につける。 到達目標： 1：大学での学び方を知り、学習目標を立てることを通して、4年間の学習の見通しを立てることができるようになる 2：図書館での資料の探し方、文献検索の仕方、webの利用の仕方の学習を通じて、基本的な情報収集ができるようになる 3：グループディスカッションなどを通じて、相手を尊重したコミュニケーションを行うことができるようになる 4：文章作成の演習を通じて、論理的なレポートを書くことができるようになる 5：レジュメ（報告用資料）の書き方、報告の仕方の学習を通じて、基本的なプレゼンテーションができるようになる。						
授業概要	本講義は「話す」「読む」「書く」「聴く」等コミュニケーションスキルの習得を徹底し、大人としての最低限の表現能力を身につけることを目的としている。 大学生として必要な基礎的な能力や学び方を学習することを目的としている。 まず最初に大学生としての学びの在り方や学習目標の設定の仕方などをディスカッションや演習を通じて考える（第1回～第4回）。その後、自分自身の経験などに基づいた文章作成を行い、文章力の向上を図る（第5回～第7回）。そして、その文章をもとにスピーチを行い、伝える技術を高めていく（第8回～第9回）。そして、より文章内容を向上させるための情報収集の基礎を実践的に学び（第10回～第13回）、最終的にそれまでの学びの成果を活かしたレポートの作成を行う（第14回～第15回）。 本講義では、スピーチやプレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行い、この過程を通じて、大学での学びの基礎となるコミュニケーション能力と学習遂行能力の向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）ディスカッションやグループワークでの活動状況（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、ディスカッションやグループワークに参加しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については演習ルーブリックを確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指						

の時間	導などの際には講義課題として各自の意見などを提出してもらう。(1.5時間程度)講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室(9410研究室)において、木曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。		
授業計画		担当者	
第1回	講義ガイダンス：講義概要の説明及びアイスブレイク	山口英峰	
第2回	大学生としての学び(1) 大学規程の理解と研究倫理教育	山口英峰	
第3回	大学生としての学び(2) 大学における学習資源の活用法	山口英峰	
第4回	大学生としての学び(3) 学習目標の設定方法の理解と学習目標の設定	山口英峰	
第5回	文章表現の基礎：基本的な文法事項と文章構造の理解	山口英峰	
第6回	文章作成演習(1) 一スポーツ経験を振り返る	山口英峰	
第7回	文章作成演習(2) 現代社会について	山口英峰	
第8回	スピーチの手法：伝える力とは何か	山口英峰	
第9回	スピーチ演習：スポーツ及び現代社会について	山口英峰	
第10回	情報収集の手法(1) データベースの活用法	山口英峰	
第11回	情報収集の手法(2)：情報の批判的検討の必要性和手法	山口英峰	
第12回	情報収集の手法(3)：新聞・雑誌記事の読み方	山口英峰	
第13回	情報収集の技法(4)：統計情報の読み解き方	山口英峰	
第14回	レポート作成の技法(1)：レポートの基礎基本	山口英峰	
第15回	レポート作成の技法(2)：レポートの評価について	山口英峰	
第16回	レポート試験	山口英峰	
教科書			
教・書籍名1	各回の講義テーマに応じて教員が用意する資料によって講義を行う	教・出版社名1	日本実業出版社
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	文章力の基本	参・出版社名1	日本実業出版社
参・著者名1	阿部 紘久	参・ISBN1	978-4534045881
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-401		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：大学生生活の導入部分として、学習の動機づけを行うとともに、学習の方法を身につける。 到達目標： 1：大学での学び方を知り、学習目標を立てることを通して、4年間の学習の見通しを立てることができるようになる 2：図書館での資料の探し方、文献検索の仕方、webの利用の仕方の学習を通じて、基本的な情報収集ができるようになる 3：グループディスカッションなどを通じて、相手を尊重したコミュニケーションを行うことができるようになる 4：文章作成の演習を通じて、論理的なレポートを書くことができるようになる 5：レジュメ（報告用資料）の書き方、報告の仕方の学習を通じて、基本的なプレゼンテーションができるようになる。						
授業概要	本講義は「話す」「読む」「書く」「聴く」等コミュニケーションスキルの習得を徹底し、大人としての最低限の表現能力を身につけることを目的としている。 大学生として必要な基礎的な能力や学び方を学習することを目的としている。 まず最初に大学生としての学びの在り方や学習目標の設定の仕方などをディスカッションや演習を通じて考える（第1回～第4回）。その後、自分自身の経験などに基づいた文章作成を行い、文章力の向上を図る（第5回～第7回）。そして、その文章をもとにスピーチを行い、伝える技術を高めていく（第8回～第9回）。そして、より文章内容を向上させるための情報収集の基礎を実践的に学び（第10回～第13回）、最終的にそれまでの学びの成果を活かしたレポートの作成を行う（第14回～第15回）。 本講義では、スピーチやプレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行い、この過程を通じて、大学での学びの基礎となるコミュニケーション能力と学習遂行能力の向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）ディスカッションやグループワークでの活動状況（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、ディスカッションやグループワークに参加しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】 演習ルーブリック						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指						

の時間	導などの際には講義課題として各自の意見などを提出してもらう。(1.5時間程度) 講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室		
授業計画		担当者	
第1回	講義ガイダンス：講義概要の説明及びアイスブレイク	天岡 寛	
第2回	大学生としての学び(1) 大学規程の理解と研究倫理教育	天岡 寛	
第3回	大学生としての学び(2) 大学における学習資源の活用法	天岡 寛	
第4回	大学生としての学び(3) 学習目標の設定方法の理解と学習目標の設定	天岡 寛	
第5回	文章表現の基礎：基本的な文法事項と文章構造の理解	天岡 寛	
第6回	文章作成演習(1) 一スポーツ経験を振り返る	天岡 寛	
第7回	文章作成演習(2) 現代社会について	天岡 寛	
第8回	スピーチの手法：伝える力とは何か	天岡 寛	
第9回	スピーチ演習：スポーツ及び現代社会について	天岡 寛	
第10回	情報収集の手法(1) データベースの活用法	天岡 寛	
第11回	情報収集の手法(2)：情報の批判的検討の必要性和手法	天岡 寛	
第12回	情報収集の手法(3)：新聞・雑誌記事の読み方	天岡 寛	
第13回	情報収集の技法(4)：統計情報の読み解き方	天岡 寛	
第14回	レポート作成の技法(1)：レポートの基礎基本	天岡 寛	
第15回	レポート作成の技法(2)：レポートの評価について	天岡 寛	
第16回	レポート試験	天岡 寛	
教科書			
教・書籍名1	各回の講義テーマに応じて教員が用意する資料によって講義を行う	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	文章力の基本	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-401		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：大学生生活の導入部分として、学習の動機づけを行うとともに、学習の方法を身につける。 到達目標： 1：大学での学び方を知り、学習目標を立てることを通して、4年間の学習の見通しを立てることができるようになる 2：図書館での資料の探し方、文献検索の仕方、webの利用の仕方の学習を通じて、基本的な情報収集ができるようになる 3：グループディスカッションなどを通じて、相手を尊重したコミュニケーションを行うことができるようになる 4：文章作成の演習を通じて、論理的なレポートを書くことができるようになる 5：レジュメ（報告用資料）の書き方、報告の仕方の学習を通じて、基本的なプレゼンテーションができるようになる。						
授業概要	本講義は「話す」「読む」「書く」「聴く」等コミュニケーションスキルの習得を徹底し、大人としての最低限の表現能力を身につけることを目的としている。 大学生として必要な基礎的な能力や学び方を学習することを目的としている。 まず最初に大学生としての学びの在り方や学習目標の設定の仕方などをディスカッションや演習を通じて考える（第1回～第4回）。その後、自分自身の経験などに基づいた文章作成を行い、文章力の向上を図る（第5回～第7回）。そして、その文章をもとにスピーチを行い、伝える技術を高めていく（第8回～第9回）。そして、より文章内容を向上させるための情報収集の基礎を実践的に学び（第10回～第13回）、最終的にそれまでの学びの成果を活かしたレポートの作成を行う（第14回～第15回）。 本講義では、スピーチやプレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行い、この過程を通じて、大学での学びの基礎となるコミュニケーション能力と学習遂行能力の向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）ディスカッションやグループワークでの活動状況（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、ディスカッションやグループワークに参加しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】 演習ルーブリック						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指						

の時間	導などの際には講義課題として各自の意見などを提出してもらう。(1.5時間程度)講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	火曜日 3限 研究室(9401)		
授業計画		担当者	
第1回	講義ガイダンス：講義概要の説明及びアイスブレイク	太田真司	
第2回	大学生としての学び(1) 大学規程の理解と研究倫理教育	太田真司	
第3回	大学生としての学び(2) 大学における学習資源の活用法	太田真司	
第4回	大学生としての学び(3) 学習目標の設定方法の理解と学習目標の設定	太田真司	
第5回	文章表現の基礎：基本的な文法事項と文章構造の理解	太田真司	
第6回	文章作成演習(1) 一スポーツ経験を振り返る	太田真司	
第7回	文章作成演習(2) 現代社会について	太田真司	
第8回	スピーチの手法：伝える力とは何か	太田真司	
第9回	スピーチ演習：スポーツ及び現代社会について	太田真司	
第10回	情報収集の手法(1) データベースの活用法	太田真司	
第11回	情報収集の手法(2)：情報の批判的検討の必要性和手法	太田真司	
第12回	情報収集の手法(3)：新聞・雑誌記事の読み方	太田真司	
第13回	情報収集の技法(4)：統計情報の読み解き方	太田真司	
第14回	レポート作成の技法(1)：レポートの基礎基本	太田真司	
第15回	レポート作成の技法(2)：レポートの評価について	太田真司	
第16回	レポート試験	太田真司	
教科書			
教・書籍名1	各回の講義テーマに応じて教員が用意する資料によって講義を行う	教・出版社名1	日本実業出版社
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	文章力の基本	参・出版社名1	日本実業出版社
参・著者名1	阿部 紘久	参・ISBN1	978-4534045881
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-401		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> 						
到達目標	<p>テーマ：大学生生活の導入部分として、学習の動機づけを行うとともに、学習の方法を身につける。</p> <p>到達目標：</p> <p>1：大学での学び方を知り、学習目標を立てることを通して、4年間の学習の見通しを立てることができるようになる</p> <p>2：図書館での資料の探し方、文献検索の仕方、webの利用の仕方の学習を通じて、基本的な情報収集ができるようになる</p> <p>3：グループディスカッションなどを通じて、相手を尊重したコミュニケーションを行うことができるようになる</p> <p>4：文章作成の演習を通じて、論理的なレポートを書くことができるようになる</p> <p>5：レジュメ（報告用資料）の書き方、報告の仕方の学習を通じて、基本的なプレゼンテーションができるようになる。</p>						
授業概要	<p>本講義は「話す」「読む」「書く」「聴く」等コミュニケーションスキルの習得を徹底し、大人としての最低限の表現能力を身につけることを目的としている。</p> <p>大学生として必要な基礎的な能力や学び方を学習することを目的としている。</p> <p>まず最初に大学生としての学びの在り方や学習目標の設定の仕方などをディスカッションや演習を通じて考える（第1回～第4回）。その後、自分自身の経験などに基づいた文章作成を行い、文章力の向上を図る（第5回～第7回）。そして、その文章をもとにスピーチを行い、伝える技術を高めていく（第8回～第9回）。そして、より文章内容を向上させるための情報収集の基礎を実践的に学び（第10回～第13回）、最終的にそれまでの学びの成果を活かしたレポートの作成を行う（第14回～第15回）。</p> <p>本講義では、スピーチやプレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行い、この過程を通じて、大学での学びの基礎となるコミュニケーション能力と学習遂行能力の向上を目指す。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）ディスカッションやグループワークでの活動状況（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、ディスカッションやグループワークに参加しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】 演習ルーブリック						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指						

の時間	導などの際には講義課題として各自の意見などを提出してもらう。(1.5時間程度)講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	水曜日 4限 研究室(9301)		
授業計画		担当者	
第1回	講義ガイダンス：講義概要の説明及びアイスブレイク	倉知典弘	
第2回	大学生としての学び(1) 大学規程の理解と研究倫理教育	倉知典弘	
第3回	大学生としての学び(2) 大学における学習資源の活用法	倉知典弘	
第4回	大学生としての学び(3) 学習目標の設定方法の理解と学習目標の設定	倉知典弘	
第5回	文章表現の基礎：基本的な文法事項と文章構造の理解	倉知典弘	
第6回	文章作成演習(1) 一スポーツ経験を振り返る	倉知典弘	
第7回	文章作成演習(2) 現代社会について	倉知典弘	
第8回	スピーチの手法：伝える力とは何か	倉知典弘	
第9回	スピーチ演習：スポーツ及び現代社会について	倉知典弘	
第10回	情報収集の手法(1) データベースの活用法	倉知典弘	
第11回	情報収集の手法(2)：情報の批判的検討の必要性和手法	倉知典弘	
第12回	情報収集の手法(3)：新聞・雑誌記事の読み方	倉知典弘	
第13回	情報収集の技法(4)：統計情報の読み解き方	倉知典弘	
第14回	レポート作成の技法(1)：レポートの基礎基本	倉知典弘	
第15回	レポート作成の技法(2)：レポートの評価について	倉知典弘	
第16回	レポート試験	倉知典弘	
教科書			
教・書籍名1	各回の講義テーマに応じて教員が用意する資料によって講義を行う	教・出版社名1	日本実業出版社
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	文章力の基本	参・出版社名1	日本実業出版社
参・著者名1	阿部 紘久	参・ISBN1	978-4534045881
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-401		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：大学生生活の導入部分として、学習の動機づけを行うとともに、学習の方法を身につける。 到達目標： 1：大学での学び方を知り、学習目標を立てることを通して、4年間の学習の見通しを立てることができるようになる 2：図書館での資料の探し方、文献検索の仕方、webの利用の仕方の学習を通じて、基本的な情報収集ができるようになる 3：グループディスカッションなどを通じて、相手を尊重したコミュニケーションを行うことができるようになる 4：文章作成の演習を通じて、論理的なレポートを書くことができるようになる 5：レジュメ（報告用資料）の書き方、報告の仕方の学習を通じて、基本的なプレゼンテーションができるようになる。						
授業概要	本講義は「話す」「読む」「書く」「聴く」等コミュニケーションスキルの習得を徹底し、大人としての最低限の表現能力を身につけることを目的としている。 大学生として必要な基礎的な能力や学び方を学習することを目的としている。 まず最初に大学生としての学びの在り方や学習目標の設定の仕方などをディスカッションや演習を通じて考える（第1回～第4回）。その後、自分自身の経験などに基づいた文章作成を行い、文章力の向上を図る（第5回～第7回）。そして、その文章をもとにスピーチを行い、伝える技術を高めていく（第8回～第9回）。そして、より文章内容を向上させるための情報収集の基礎を実践的に学び（第10回～第13回）、最終的にそれまでの学びの成果を活かしたレポートの作成を行う（第14回～第15回）。 本講義では、スピーチやプレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行い、この過程を通じて、大学での学びの基礎となるコミュニケーション能力と学習遂行能力の向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）ディスカッションやグループワークでの活動状況（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、ディスカッションやグループワークに参加しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】 演習ルーブリック						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指						

の時間	導などの際には講義課題として各自の意見などを提出してもらう。(1.5時間程度)講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	月曜日 2限 研究室(9402)		
授業計画		担当者	
第1回	講義ガイダンス：講義概要の説明及びアイスブレイク	高原皓全	
第2回	大学生としての学び(1) 大学規程の理解と研究倫理教育	高原皓全	
第3回	大学生としての学び(2) 大学における学習資源の活用法	高原皓全	
第4回	大学生としての学び(3) 学習目標の設定方法の理解と学習目標の設定	高原皓全	
第5回	文章表現の基礎：基本的な文法事項と文章構造の理解	高原皓全	
第6回	文章作成演習(1) 一スポーツ経験を振り返る	高原皓全	
第7回	文章作成演習(2) 現代社会について	高原皓全	
第8回	スピーチの手法：伝える力とは何か	高原皓全	
第9回	スピーチ演習：スポーツ及び現代社会について	高原皓全	
第10回	情報収集の手法(1) データベースの活用法	高原皓全	
第11回	情報収集の手法(2)：情報の批判的検討の必要性和手法	高原皓全	
第12回	情報収集の手法(3)：新聞・雑誌記事の読み方	高原皓全	
第13回	情報収集の技法(4)：統計情報の読み解き方	高原皓全	
第14回	レポート作成の技法(1)：レポートの基礎基本	高原皓全	
第15回	レポート作成の技法(2)：レポートの評価について	高原皓全	
第16回	レポート試験	高原皓全	
教科書			
教・書籍名1	各回の講義テーマに応じて教員が用意する資料によって講義を行う	教・出版社名1	日本実業出版社
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	文章力の基本	参・出版社名1	日本実業出版社
参・著者名1	阿部 紘久	参・ISBN1	978-4534045881
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-401		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：大学生生活の導入部分として、学習の動機づけを行うとともに、学習の方法を身につける。 到達目標： 1：大学での学び方を知り、学習目標を立てることを通して、4年間の学習の見通しを立てることができるようになる 2：図書館での資料の探し方、文献検索の仕方、webの利用の仕方の学習を通じて、基本的な情報収集ができるようになる 3：グループディスカッションなどを通じて、相手を尊重したコミュニケーションを行うことができるようになる 4：文章作成の演習を通じて、論理的なレポートを書くことができるようになる 5：レジュメ（報告用資料）の書き方、報告の仕方の学習を通じて、基本的なプレゼンテーションができるようになる。						
授業概要	本講義は「話す」「読む」「書く」「聴く」等コミュニケーションスキルの習得を徹底し、大人としての最低限の表現能力を身につけることを目的としている。 大学生として必要な基礎的な能力や学び方を学習することを目的としている。 まず最初に大学生としての学びの在り方や学習目標の設定の仕方などをディスカッションや演習を通じて考える（第1回～第4回）。その後、自分自身の経験などに基づいた文章作成を行い、文章力の向上を図る（第5回～第7回）。そして、その文章をもとにスピーチを行い、伝える技術を高めていく（第8回～第9回）。そして、より文章内容を向上させるための情報収集の基礎を実践的に学び（第10回～第13回）、最終的にそれまでの学びの成果を活かしたレポートの作成を行う（第14回～第15回）。 本講義では、スピーチやプレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行い、この過程を通じて、大学での学びの基礎となるコミュニケーション能力と学習遂行能力の向上を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）ディスカッションやグループワークでの活動状況（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、ディスカッションやグループワークに参加しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】 演習ルーブリック						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指						

の時間	導などの際には講義課題として各自の意見などを提出してもらう。(1.5時間程度)講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	金曜日 2限 研究室 (9411)		
授業計画		担当者	
第1回	講義ガイダンス：講義概要の説明及びアイスブレイク	羽野真哉	
第2回	大学生としての学び(1) 大学規程の理解と研究倫理教育	羽野真哉	
第3回	大学生としての学び(2) 大学における学習資源の活用法	羽野真哉	
第4回	大学生としての学び(3) 学習目標の設定方法の理解と学習目標の設定	羽野真哉	
第5回	文章表現の基礎：基本的な文法事項と文章構造の理解	羽野真哉	
第6回	文章作成演習(1) 一スポーツ経験を振り返る	羽野真哉	
第7回	文章作成演習(2) 現代社会について	羽野真哉	
第8回	スピーチの手法：伝える力とは何か	羽野真哉	
第9回	スピーチ演習：スポーツ及び現代社会について	羽野真哉	
第10回	情報収集の手法(1) データベースの活用法	羽野真哉	
第11回	情報収集の手法(2)：情報の批判的検討の必要性和手法	羽野真哉	
第12回	情報収集の手法(3)：新聞・雑誌記事の読み方	羽野真哉	
第13回	情報収集の技法(4)：統計情報の読み解き方	羽野真哉	
第14回	レポート作成の技法(1)：レポートの基礎基本	羽野真哉	
第15回	レポート作成の技法(2)：レポートの評価について	羽野真哉	
第16回	レポート試験	羽野真哉	
教科書			
教・書籍名1	各回の講義テーマに応じて教員が用意する資料によって講義を行う	教・出版社名1	日本実業出版社
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	文章力の基本	参・出版社名1	日本実業出版社
参・著者名1	阿部 紘久	参・ISBN1	978-4534045881
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-402		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：学習の計画的実行と成果の発表 到達目標： 1：学習計画の立て方を知り、各自の学習課題に応じた学習計画を立てられるようになる 2：各自の興味関心を深め、社会的な事象に興味関心を持つことができる 3：春学期に身に付けたコミュニケーション能力をベースに協同して学習活動を実行できる 4：プレゼンテーションに必要な技法などを理解し、基本的な構成を意識したプレゼンテーションを実施できる 5：学習活動などを通じて、大学卒業後の姿をイメージし、適切なコース選択をすることができる						
授業概要	授業概要： 本講義では春学期のコミュニケーション能力を活かしながら、各自でテーマを設定した上で、プレゼンテーション及びディスカッションを実施する。また、学習課題に取り組む過程で各自の卒業後の進路などに対する意識を深め、2年時以降のコース選択を考えてもらう。最初に各自の学習目標及び学習計画を作成してもらう（第1回～第5回）。その後実際に情報検索・調査を協働して実施してもらう（第6回～第7回）その後、学習成果をPCを用いたプレゼンテーションという形で発表し、ディスカッションを行い理解を深める（第8回～第13回）。最後に講義のまとめとしてコース選択（第14回）及び1年間の学びの振り返り（第15回）を行い、1年間で身に付けたものを確認し、2年次の「演習Ⅰ」にむけた春休み期間の準備を考える。 本講義では、プレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行う。クラス全体で助け合いながら講義を進めていきたい。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーションの内容（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、プレゼンテーションを実施しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ループリック評価	【本科目はループリック評価を導入する。詳細については演習ループリックを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルレポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必ず基礎演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導・プレゼンテーションなどの際には講義課題として発表資料などを提出してもらう。（1.5時間程度）講義中に、						

	文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	水曜日 3限 研究室 (6311)		
授業計画		担当者	
第1回	春学期の学びの振り返りと秋学期の目標設定		孫基然
第2回	学習計画の設計の手法		孫基然
第3回	学習目標の設定(1): 個人のキャリア・興味関心の観点から		孫基然
第4回	学習目標の設定(2): 社会的な側面から		孫基然
第5回	学習目標の設定(3): 設定理由の明確化		孫基然
第6回	学習活動の展開(1): 情報収集の実践		孫基然
第7回	学習活動の展開(2): 情報の整理・分析の実践		孫基然
第8回	プレゼンテーションの技法(1): 事例から学ぶ		孫基然
第9回	プレゼンテーションの技法(2): 構成及び表現		孫基然
第10回	プレゼンテーションの技法(3): プレゼンテーション資料の作成方法		孫基然
第11回	プレゼンテーション演習(1): 構成の評価を中心として		孫基然
第12回	プレゼンテーション演習(2): 資料の評価を中心として		孫基然
第13回	プレゼンテーション演習(3): 総括的な評価として		孫基然
第14回	コース選択のために: 卒業後のキャリアをイメージすること		孫基然
第15回	学習活動の評価: 講義のまとめとして		孫基然
第16回	レポート試験		孫基然
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が作成する資料にもとづいて行う	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-402		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> 						
到達目標	<p>テーマ：学習の計画的実行と成果の発表</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：学習計画の立て方を知り、各自の学習課題に応じた学習計画を立てられるようになる 2：各自の興味関心を深め、社会的な事象に興味関心を持つことができる 3：春学期に身に付けたコミュニケーション能力をベースに協同して学習活動を実行できる 4：プレゼンテーションに必要な技法などを理解し、基本的な構成を意識したプレゼンテーションを実施できる 5：学習活動などを通じて、大学卒業後の姿をイメージし、適切なコース選択をすることができる 						
授業概要	<p>授業概要：</p> <p>本講義では春学期のコミュニケーション能力を活かしながら、各自でテーマを設定した上で、プレゼンテーション及びディスカッションを実施する。また、学習課題に取り組む過程で各自の卒業後の進路などに対する意識を深め、2年時以降のコース選択を考えてもらう。最初に各自の学習目標及び学習計画を作成してもらう（第1回～第5回）。その後実際に情報検索・調査を協働して実施してもらう（第6回～第7回）その後、学習成果をPCを用いたプレゼンテーションという形で発表し、ディスカッションを行い理解を深める（第8回～第13回）。最後に講義のまとめとしてコース選択（第14回）及び1年間の学びの振り返り（第15回）を行い、1年間で身に付けたものを確認し、2年次の「演習Ⅰ」にむけた春休み期間の準備を考える。</p> <p>本講義では、プレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行う。クラス全体で助け合いながら講義を進めていきたい。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーションの内容（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、プレゼンテーションを実施しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ループリック評価	【本科目はループリック評価を導入する。詳細については演習ループリックを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルレポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必ず基礎演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導・プレゼンテーションなどの際には講義課題として発表資料などを提出してもらう。（1.5時間程度）講義中に、						

	文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	火曜日 4限 9405研究室		
授業計画		担当者	
第1回	春学期の学びの振り返りと秋学期の目標設定		高藤
第2回	学習計画の設計の手法		高藤
第3回	学習目標の設定(1):個人のキャリア・興味関心の観点から		高藤
第4回	学習目標の設定(2):社会的な側面から		高藤
第5回	学習目標の設定(3):設定理由の明確化		高藤
第6回	学習活動の展開(1):情報収集の実践		高藤
第7回	学習活動の展開(2):情報の整理・分析の実践		高藤
第8回	プレゼンテーションの技法(1):事例から学ぶ		高藤
第9回	プレゼンテーションの技法(2):構成及び表現		高藤
第10回	プレゼンテーションの技法(3):プレゼンテーション資料の作成方法		高藤
第11回	プレゼンテーション演習(1):構成の評価を中心として		高藤
第12回	プレゼンテーション演習(2):資料の評価を中心として		高藤
第13回	プレゼンテーション演習(3):総括的な評価として		高藤
第14回	コース選択のために:卒業後のキャリアをイメージすること		高藤
第15回	学習活動の評価:講義のまとめとして		高藤
第16回	レポート試験		高藤
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が作成する資料にもとづいて行う。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-402		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：学習の計画的実行と成果の発表 到達目標： 1：学習計画の立て方を知り、各自の学習課題に応じた学習計画を立てられるようになる 2：各自の興味関心を深め、社会的な事象に興味関心を持つことができる 3：春学期に身に付けたコミュニケーション能力をベースに協同して学習活動を実行できる 4：プレゼンテーションに必要な技法などを理解し、基本的な構成を意識したプレゼンテーションを実施できる 5：学習活動などを通じて、大学卒業後の姿をイメージし、適切なコース選択をすることができる						
授業概要	授業概要： 本講義では春学期のコミュニケーション能力を活かしながら、各自でテーマを設定した上で、プレゼンテーション及びディスカッションを実施する。また、学習課題に取り組む過程で各自の卒業後の進路などに対する意識を深め、2年時以降のコース選択を考えてもらう。最初に各自の学習目標及び学習計画を作成してもらう（第1回～第5回）。その後実際に情報検索・調査を協働して実施してもらう（第6回～第7回）その後、学習成果をPCを用いたプレゼンテーションという形で発表し、ディスカッションを行い理解を深める（第8回～第13回）。最後に講義のまとめとしてコース選択（第14回）及び1年間の学びの振り返り（第15回）を行い、1年間で身に付けたものを確認し、2年次の「演習Ⅰ」にむけた春休み期間の準備を考える。 本講義では、プレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行う。クラス全体で助け合いながら講義を進めていきたい。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーションの内容（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、プレゼンテーションを実施しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については演習ルーブリックを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルレポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必ず基礎演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導・プレゼンテーションなどの際には講義課題として発表資料などを提出してもらう。（1.5時間程度）講義中に、						

	文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	水曜日 4限 研究室にて		
授業計画		担当者	
第1回	春学期の学びの振り返りと秋学期の目標設定		竹内研
第2回	学習計画の設計の手法		竹内研
第3回	学習目標の設定(1):個人のキャリア・興味関心の観点から		竹内研
第4回	学習目標の設定(2):社会的な側面から		竹内研
第5回	学習目標の設定(3):設定理由の明確化		竹内研
第6回	学習活動の展開(1):情報収集の実践		竹内研
第7回	学習活動の展開(2):情報の整理・分析の実践		竹内研
第8回	プレゼンテーションの技法(1):事例から学ぶ		竹内研
第9回	プレゼンテーションの技法(2):構成及び表現		竹内研
第10回	プレゼンテーションの技法(3):プレゼンテーション資料の作成方法		竹内研
第11回	プレゼンテーション演習(1):構成の評価を中心として		竹内研
第12回	プレゼンテーション演習(2):資料の評価を中心として		竹内研
第13回	プレゼンテーション演習(3):総括的な評価として		竹内研
第14回	コース選択のために:卒業後のキャリアをイメージすること		竹内研
第15回	学習活動の評価:講義のまとめとして		竹内研
第16回	レポート試験		竹内研
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が作成する資料にもとづいて行う	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-402		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：学習の計画的実行と成果の発表 到達目標： 1：学習計画の立て方を知り、各自の学習課題に応じた学習計画を立てられるようになる 2：各自の興味関心を深め、社会的な事象に興味関心を持つことができる 3：春学期に身に付けたコミュニケーション能力をベースに協同して学習活動を実行できる 4：プレゼンテーションに必要な技法などを理解し、基本的な構成を意識したプレゼンテーションを実施できる 5：学習活動などを通じて、大学卒業後の姿をイメージし、適切なコース選択をすることができる						
授業概要	授業概要： 本講義では春学期のコミュニケーション能力を活かしながら、各自でテーマを設定した上で、プレゼンテーション及びディスカッションを実施する。また、学習課題に取り組む過程で各自の卒業後の進路などに対する意識を深め、2年時以降のコース選択を考えてもらう。最初に各自の学習目標及び学習計画を作成してもらう（第1回～第5回）。その後実際に情報検索・調査を協働して実施してもらう（第6回～第7回）その後、学習成果をPCを用いたプレゼンテーションという形で発表し、ディスカッションを行い理解を深める（第8回～第13回）。最後に講義のまとめとしてコース選択（第14回）及び1年間の学びの振り返り（第15回）を行い、1年間で身に付けたものを確認し、2年次の「演習Ⅰ」にむけた春休み期間の準備を考える。 本講義では、プレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行う。クラス全体で助け合いながら講義を進めていきたい。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーションの内容（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、プレゼンテーションを実施しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については演習ルーブリックを確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必ず基礎演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導・プレゼンテーションなどの際には講義課題として発表資料などを提出してもらう。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと。（1.5時間程度）						

オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9410研究室）において、木曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。		
授業計画		担当者	
第1回	春学期の学びの振り返りと秋学期の目標設定	山口英峰	
第2回	学習計画の設計の手法	山口英峰	
第3回	学習目標の設定（1）：個人のキャリア・興味関心の観点から	山口英峰	
第4回	学習目標の設定（2）：社会的な側面から	山口英峰	
第5回	学習目標の設定（3）：設定理由の明確化	山口英峰	
第6回	学習活動の展開（1）：情報収集の実践	山口英峰	
第7回	学習活動の展開（2）：情報の整理・分析の実践	山口英峰	
第8回	プレゼンテーションの技法（1）：事例から学ぶ	山口英峰	
第9回	プレゼンテーションの技法（2）：構成及び表現	山口英峰	
第10回	プレゼンテーションの技法（3）：プレゼンテーション資料の作成方法	山口英峰	
第11回	プレゼンテーション演習（1）：構成の評価を中心として	山口英峰	
第12回	プレゼンテーション演習（2）：資料の評価を中心として	山口英峰	
第13回	プレゼンテーション演習（3）：総括的な評価として	山口英峰	
第14回	コース選択のために：卒業後のキャリアをイメージすること	山口英峰	
第15回	学習活動の評価：講義のまとめとして	山口英峰	
第16回	レポート試験	山口英峰	
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が作成する資料にもとづいて行う	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-402		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> 						
到達目標	<p>テーマ：学習の計画的実行と成果の発表</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：学習計画の立て方を知り、各自の学習課題に応じた学習計画を立てられるようになる 2：各自の興味関心を深め、社会的な事象に興味関心を持つことができる 3：春学期に身に付けたコミュニケーション能力をベースに協同して学習活動を実行できる 4：プレゼンテーションに必要な技法などを理解し、基本的な構成を意識したプレゼンテーションを実施できる 5：学習活動などを通じて、大学卒業後の姿をイメージし、適切なコース選択をすることができる 						
授業概要	<p>授業概要：</p> <p>本講義では春学期のコミュニケーション能力を活かしながら、各自でテーマを設定した上で、プレゼンテーション及びディスカッションを実施する。また、学習課題に取り組む過程で各自の卒業後の進路などに対する意識を深め、2年時以降のコース選択を考えてもらう。最初に各自の学習目標及び学習計画を作成してもらう（第1回～第5回）。その後実際に情報検索・調査を協働して実施してもらう（第6回～第7回）その後、学習成果をPCを用いたプレゼンテーションという形で発表し、ディスカッションを行い理解を深める（第8回～第13回）。最後に講義のまとめとしてコース選択（第14回）及び1年間の学びの振り返り（第15回）を行い、1年間で身に付けたものを確認し、2年次の「演習Ⅰ」にむけた春休み期間の準備を考える。</p> <p>本講義では、プレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行う。クラス全体で助け合いながら講義を進めていきたい。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーションの内容（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、プレゼンテーションを実施しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ループリック評価	【本科目はループリック評価を導入する。詳細については演習ループリックを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルレポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必ず基礎演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導・プレゼンテーションなどの際には講義課題として発表資料などを提出してもらう。（1.5時間程度）講義中に、						

	文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室		
授業計画		担当者	
第1回	春学期の学びの振り返りと秋学期の目標設定	天岡 寛	
第2回	学習計画の設計の手法	天岡 寛	
第3回	学習目標の設定(1):個人のキャリア・興味関心の観点から	天岡 寛	
第4回	学習目標の設定(2):社会的な側面から	天岡 寛	
第5回	学習目標の設定(3):設定理由の明確化	天岡 寛	
第6回	学習活動の展開(1):情報収集の実践	天岡 寛	
第7回	学習活動の展開(2):情報の整理・分析の実践	天岡 寛	
第8回	プレゼンテーションの技法(1):事例から学ぶ	天岡 寛	
第9回	プレゼンテーションの技法(2):構成及び表現	天岡 寛	
第10回	プレゼンテーションの技法(3):プレゼンテーション資料の作成方法	天岡 寛	
第11回	プレゼンテーション演習(1):構成の評価を中心として	天岡 寛	
第12回	プレゼンテーション演習(2):資料の評価を中心として	天岡 寛	
第13回	プレゼンテーション演習(3):総括的な評価として	天岡 寛	
第14回	コース選択のために:卒業後のキャリアをイメージすること	天岡 寛	
第15回	学習活動の評価:講義のまとめとして	天岡 寛	
第16回	レポート試験	天岡 寛	
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が作成する資料にもとづいて行う	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-402		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：学習の計画的実行と成果の発表 到達目標： 1：学習計画の立て方を知り、各自の学習課題に応じた学習計画を立てられるようになる 2：各自の興味関心を深め、社会的な事象に興味関心を持つことができる 3：春学期に身に付けたコミュニケーション能力をベースに協同して学習活動を実行できる 4：プレゼンテーションに必要な技法などを理解し、基本的な構成を意識したプレゼンテーションを実施できる 5：学習活動などを通じて、大学卒業後の姿をイメージし、適切なコース選択をすることができる						
授業概要	授業概要： 本講義では春学期のコミュニケーション能力を活かしながら、各自でテーマを設定した上で、プレゼンテーション及びディスカッションを実施する。また、学習課題に取り組む過程で各自の卒業後の進路などに対する意識を深め、2年時以降のコース選択を考えてもらう。最初に各自の学習目標及び学習計画を作成してもらう（第1回～第5回）。その後実際に情報検索・調査を協働して実施してもらう（第6回～第7回）その後、学習成果をPCを用いたプレゼンテーションという形で発表し、ディスカッションを行い理解を深める（第8回～第13回）。最後に講義のまとめとしてコース選択（第14回）及び1年間の学びの振り返り（第15回）を行い、1年間で身に付けたものを確認し、2年次の「演習Ⅰ」にむけた春休み期間の準備を考える。 本講義では、プレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行う。クラス全体で助け合いながら講義を進めていきたい。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーションの内容（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、プレゼンテーションを実施しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ループリック評価	【本科目はループリック評価を導入する。詳細については演習ループリックを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルレポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必ず基礎演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導・プレゼンテーションなどの際には講義課題として発表資料などを提出してもらう。（1.5時間程度）講義中に、						

	文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	火曜日 3限 研究室(9401)		
授業計画		担当者	
第1回	春学期の学びの振り返りと秋学期の目標設定		太田真司
第2回	学習計画の設計の手法		太田真司
第3回	学習目標の設定(1):個人のキャリア・興味関心の観点から		太田真司
第4回	学習目標の設定(2):社会的な側面から		太田真司
第5回	学習目標の設定(3):設定理由の明確化		太田真司
第6回	学習活動の展開(1):情報収集の実践		太田真司
第7回	学習活動の展開(2):情報の整理・分析の実践		太田真司
第8回	プレゼンテーションの技法(1):事例から学ぶ		太田真司
第9回	プレゼンテーションの技法(2):構成及び表現		太田真司
第10回	プレゼンテーションの技法(3):プレゼンテーション資料の作成方法		太田真司
第11回	プレゼンテーション演習(1):構成の評価を中心として		太田真司
第12回	プレゼンテーション演習(2):資料の評価を中心として		太田真司
第13回	プレゼンテーション演習(3):総括的な評価として		太田真司
第14回	コース選択のために:卒業後のキャリアをイメージすること		太田真司
第15回	学習活動の評価:講義のまとめとして		太田真司
第16回	レポート試験		太田真司
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が作成する資料にもとづいて行う	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-402		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> 						
到達目標	<p>テーマ：学習の計画的実行と成果の発表</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：学習計画の立て方を知り、各自の学習課題に応じた学習計画を立てられるようになる 2：各自の興味関心を深め、社会的な事象に興味関心を持つことができる 3：春学期に身に付けたコミュニケーション能力をベースに協同して学習活動を実行できる 4：プレゼンテーションに必要な技法などを理解し、基本的な構成を意識したプレゼンテーションを実施できる 5：学習活動などを通じて、大学卒業後の姿をイメージし、適切なコース選択をすることができる 						
授業概要	<p>授業概要：</p> <p>本講義では春学期のコミュニケーション能力を活かしながら、各自でテーマを設定した上で、プレゼンテーション及びディスカッションを実施する。また、学習課題に取り組む過程で各自の卒業後の進路などに対する意識を深め、2年時以降のコース選択を考えてもらう。最初に各自の学習目標及び学習計画を作成してもらう（第1回～第5回）。その後実際に情報検索・調査を協働して実施してもらう（第6回～第7回）その後、学習成果をPCを用いたプレゼンテーションという形で発表し、ディスカッションを行い理解を深める（第8回～第13回）。最後に講義のまとめとしてコース選択（第14回）及び1年間の学びの振り返り（第15回）を行い、1年間で身に付けたものを確認し、2年次の「演習Ⅰ」にむけた春休み期間の準備を考える。</p> <p>本講義では、プレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行う。クラス全体で助け合いながら講義を進めていきたい。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーションの内容（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、プレゼンテーションを実施しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ループリック評価	【本科目はループリック評価を導入する。詳細については演習ループリックを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルレポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必ず基礎演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導・プレゼンテーションなどの際には講義課題として発表資料などを提出してもらう。（1.5時間程度）講義中に、						

	文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）		
オフィスアワー	水曜日 4限 研究室にて		
授業計画		担当者	
第1回	春学期の学びの振り返りと秋学期の目標設定		倉知典弘
第2回	学習計画の設計の手法		倉知典弘
第3回	学習目標の設定（1）：個人のキャリア・興味関心の観点から		倉知典弘
第4回	学習目標の設定（2）：社会的な側面から		倉知典弘
第5回	学習目標の設定（3）：設定理由の明確化		倉知典弘
第6回	学習活動の展開（1）：情報収集の実践		倉知典弘
第7回	学習活動の展開（2）：情報の整理・分析の実践		倉知典弘
第8回	プレゼンテーションの技法（1）：事例から学ぶ		倉知典弘
第9回	プレゼンテーションの技法（2）：構成及び表現		倉知典弘
第10回	プレゼンテーションの技法（3）：プレゼンテーション資料の作成方法		倉知典弘
第11回	プレゼンテーション演習（1）：構成の評価を中心として		倉知典弘
第12回	プレゼンテーション演習（2）：資料の評価を中心として		倉知典弘
第13回	プレゼンテーション演習（3）：総括的な評価として		倉知典弘
第14回	コース選択のために：卒業後のキャリアをイメージすること		倉知典弘
第15回	学習活動の評価：講義のまとめとして		倉知典弘
第16回	レポート試験		倉知典弘
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が作成する資料にもとづいて行う	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-402		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を</p> 						
到達目標	<p>テーマ：学習の計画的実行と成果の発表</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：学習計画の立て方を知り、各自の学習課題に応じた学習計画を立てられるようになる 2：各自の興味関心を深め、社会的な事象に興味関心を持つことができる 3：春学期に身に付けたコミュニケーション能力をベースに協同して学習活動を実行できる 4：プレゼンテーションに必要な技法などを理解し、基本的な構成を意識したプレゼンテーションを実施できる 5：学習活動などを通じて、大学卒業後の姿をイメージし、適切なコース選択をすることができる 						
授業概要	<p>授業概要：</p> <p>本講義では春学期のコミュニケーション能力を活かしながら、各自でテーマを設定した上で、プレゼンテーション及びディスカッションを実施する。また、学習課題に取り組む過程で各自の卒業後の進路などに対する意識を深め、2年時以降のコース選択を考えてもらう。最初に各自の学習目標及び学習計画を作成してもらう（第1回～第5回）。その後実際に情報検索・調査を協働して実施してもらう（第6回～第7回）その後、学習成果をPCを用いたプレゼンテーションという形で発表し、ディスカッションを行い理解を深める（第8回～第13回）。最後に講義のまとめとしてコース選択（第14回）及び1年間の学びの振り返り（第15回）を行い、1年間で身に付けたものを確認し、2年次の「演習Ⅰ」にむけた春休み期間の準備を考える。</p> <p>本講義では、プレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行う。クラス全体で助け合いながら講義を進めていきたい。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーションの内容（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、プレゼンテーションを実施しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ループリック評価	【本科目はループリック評価を導入する。詳細については演習ループリックを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルレポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必ず基礎演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導・プレゼンテーションなどの際には講義課題として発表資料などを提出してもらう。（1.5時間程度）講義中に、						

	文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	月曜日2限 研究室 (9402)		
授業計画		担当者	
第1回	春学期の学びの振り返りと秋学期の目標設定		高原皓全
第2回	学習計画の設計の手法		高原皓全
第3回	学習目標の設定(1):個人のキャリア・興味関心の観点から		高原皓全
第4回	学習目標の設定(2):社会的な側面から		高原皓全
第5回	学習目標の設定(3):設定理由の明確化		高原皓全
第6回	学習活動の展開(1):情報収集の実践		高原皓全
第7回	学習活動の展開(2):情報の整理・分析の実践		高原皓全
第8回	プレゼンテーションの技法(1):事例から学ぶ		高原皓全
第9回	プレゼンテーションの技法(2):構成及び表現		高原皓全
第10回	プレゼンテーションの技法(3):プレゼンテーション資料の作成方法		高原皓全
第11回	プレゼンテーション演習(1):構成の評価を中心として		高原皓全
第12回	プレゼンテーション演習(2):資料の評価を中心として		高原皓全
第13回	プレゼンテーション演習(3):総括的な評価として		高原皓全
第14回	コース選択のために:卒業後のキャリアをイメージすること		高原皓全
第15回	学習活動の評価:講義のまとめとして		高原皓全
第16回	レポート試験		高原皓全
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が作成する資料にもとづいて行う		教・出版社名1
教・著者名1			教・ISBN1
教・書籍名2			教・出版社名2
教・著者名2			教・ISBN2
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する		参・出版社名1
参・著者名1			参・ISBN1
参・書籍名2			参・出版社名2
参・著者名2			参・ISBN2

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2020～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	SS-SM-1-402		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：学習の計画的実行と成果の発表 到達目標： 1：学習計画の立て方を知り、各自の学習課題に応じた学習計画を立てられるようになる 2：各自の興味関心を深め、社会的な事象に興味関心を持つことができる 3：春学期に身に付けたコミュニケーション能力をベースに協同して学習活動を実行できる 4：プレゼンテーションに必要な技法などを理解し、基本的な構成を意識したプレゼンテーションを実施できる 5：学習活動などを通じて、大学卒業後の姿をイメージし、適切なコース選択をすることができる						
授業概要	授業概要： 本講義では春学期のコミュニケーション能力を活かしながら、各自でテーマを設定した上で、プレゼンテーション及びディスカッションを実施する。また、学習課題に取り組む過程で各自の卒業後の進路などに対する意識を深め、2年時以降のコース選択を考えてもらう。最初に各自の学習目標及び学習計画を作成してもらう（第1回～第5回）。その後実際に情報検索・調査を協働して実施してもらう（第6回～第7回）その後、学習成果をPCを用いたプレゼンテーションという形で発表し、ディスカッションを行い理解を深める（第8回～第13回）。最後に講義のまとめとしてコース選択（第14回）及び1年間の学びの振り返り（第15回）を行い、1年間で身に付けたものを確認し、2年次の「演習Ⅰ」にむけた春休み期間の準備を考える。 本講義では、プレゼンテーションなどで自分の意見を適切かつ論理的に表現する演習やグループディスカッションやグループワークという協同学習を積極的に行う。クラス全体で助け合いながら講義を進めていきたい。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーションの内容（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題を規定回数提出しない場合、プレゼンテーションを実施しない場合、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ループリック評価	【本科目はループリック評価を導入する。詳細については演習ループリックを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルレポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必ず基礎演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導・プレゼンテーションなどの際には講義課題として発表資料などを提出してもらう。（1.5時間程度）講義中に、						

	文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	金曜日 2限 研究室(9411)にて		
授業計画		担当者	
第1回	春学期の学びの振り返りと秋学期の目標設定		羽野真哉
第2回	学習計画の設計の手法		羽野真哉
第3回	学習目標の設定(1):個人のキャリア・興味関心の観点から		羽野真哉
第4回	学習目標の設定(2):社会的な側面から		羽野真哉
第5回	学習目標の設定(3):設定理由の明確化		羽野真哉
第6回	学習活動の展開(1):情報収集の実践		羽野真哉
第7回	学習活動の展開(2):情報の整理・分析の実践		羽野真哉
第8回	プレゼンテーションの技法(1):事例から学ぶ		羽野真哉
第9回	プレゼンテーションの技法(2):構成及び表現		羽野真哉
第10回	プレゼンテーションの技法(3):プレゼンテーション資料の作成方法		羽野真哉
第11回	プレゼンテーション演習(1):構成の評価を中心として		羽野真哉
第12回	プレゼンテーション演習(2):資料の評価を中心として		羽野真哉
第13回	プレゼンテーション演習(3):総括的な評価として		羽野真哉
第14回	コース選択のために:卒業後のキャリアをイメージすること		羽野真哉
第15回	学習活動の評価:講義のまとめとして		羽野真哉
第16回	レポート試験		羽野真哉
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が作成する資料にもとづいて行う	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-403		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。論理的に物事を考える力を身につけることができる。 到達目標： 1：健康づくりの議論で用いられる基本的な概念を説明できるようになる 2：健康づくりの観点から（地域）社会の在り方について論理的に意見を述べるようになる。 3：健康づくりの基礎知識をもとに組織のあり方について論理的に意見を述べるようになる 4：運動指導のあり方について論理的に意見を述べるようになる						
授業概要	本講義では、健康スポーツコースで学ぶために必要な基礎的な概念を文章読解、プレゼンテーション及びそれらに基づいたディスカッションを通じて理解することを目的としている。 本講義は「健康と健康づくりに関わる基礎概念」や「運動・栄養・休養との関係」、「地域社会でのあり方」、「運動指導の基礎」など自分が疑問に感じること、興味があることについて考え、その中から各自がテーマを選択する。 この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、健康等に関する知識だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図ることを期待する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢20%，提出物30%，議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の演習Ⅱの最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	水曜日3時限目 6号館3階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーションと学習目標の設定					孫基然	
第2回	健康とは何か					孫基然	
第3回	健康と栄養					孫基然	

第4回	健康と休養	孫基然
第5回	健康と運動	孫基然
第6回	地域社会と健康	孫基然
第7回	健康づくりとは何か	孫基然
第8回	健康づくりと行政と政策	孫基然
第9回	健康づくりにおける組織論	孫基然
第10回	健康づくりと組織の人的側面	孫基然
第11回	健康運動指導とは何か	孫基然
第12回	運動指導の基礎的技法	孫基然
第13回	運動指導と指導者論	孫基然
第14回	資料の収集（健康・栄養・休養・運動に関する資料）	孫基然
第15回	資料の収集（健康づくりに関する資料）	孫基然
第16回	最終課題	孫基然
教科書		
教・書籍名1	適宜指示する	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	演習 I			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-403		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：スポーツマネジメントやコーチングを学ぶための基礎理論及び組織論を学ぶ 到達目標 1: マネジメントやコーチングの議論で用いられる基本的な概念を説明できるようになる 2: マネジメントの観点から（地域）社会のスポーツの在り方について論理的に意見を述べるができるようになる。 3: マネジメントの基礎知識をもとに組織のあり方について論理的に意見を述べるができるようになる 4: コーチングや教育学の議論をもとに、スポーツ指導のあり方について論理的に意見を述べるができるようになる						
授業概要	本講義では、スポーツマネジメント・コーチコースで学ぶために必要な基礎的な概念を文章読解、プレゼンテーション及びそれらに基づいたディスカッションを通じて理解することを目的としている。 本講義は本コースで学ぶことに応じて4つの段階に区分されている。まず、最初にマネジメントに関わる基礎概念を学ぶ（第1回～第7回）。スポーツ組織のあり方等の学習を通じて、社会における組織やビジネス、法制度のあり方について理解を深め、スポーツを振興するための仕組みのあり方について考察する能力の基礎をつくることを目的とする。次に、スポーツの指導技法に関わるコーチングについて学ぶ（第8回～第10回）。この学習を通じて、ひとを育てるための手法などについて理解を深める。その後、学校教育におけるスポーツのあり方を保健体育・部活動の観点から学習し（第11回～第13回）、教育という観点からスポーツ指導のあり方を考える力を培う。最後に、この講義全体を通じて学んだことを自分の言葉でプレゼンテーションしてもらい、マネジメントに対する理解を深めていく。この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、マネジメント等に関する知識だけではなく、コミュニケーション能力の向上を図っていただきたい。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義中に提示する課題（30％）、プレゼンテーション（30％）、終講レポート（40％）で評価を行う。講義中課題が未提出、プレゼンテーションの未実施、終講課題の未提出がある場合は成績評価を行わず、放棄として扱う。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の演習Ⅱの最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	火曜日4限 研究室（9405）にて						

授業計画		担当者	
第1回	ガイダンス及び学習目標の設定	高藤	
第2回	スポーツマネジメントとは何か	高藤	
第3回	スポーツにおける組織論：組織とチームのあり方	高藤	
第4回	スポーツ組織の人的側面：人事・人材育成	高藤	
第5回	スポーツビジネスとは何か	高藤	
第6回	スポーツ行政と政策	高藤	
第7回	地域社会とスポーツ：総合型地域スポーツクラブを中心に	高藤	
第8回	コーチングとは何か：コーチングの基礎的思想	高藤	
第9回	コーチングの基礎的技法	高藤	
第10回	コーチングと指導者論：リーダーシップのあり方	高藤	
第11回	学校教育におけるスポーツ（1）：教育論・学校論基礎	高藤	
第12回	学校教育におけるスポーツ（2）：保健体育におけるマネジメント	高藤	
第13回	学校教育におけるスポーツ（3）：部活動の意義と課題	高藤	
第14回	プレゼンテーション（1） マネジメントについての考察	高藤	
第15回	プレゼンテーション（2） 春学期の学びを振り返る	高藤	
第16回	レポート試験	高藤	
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が用意する授業資料を基に講義を行う。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	基本・スポーツマネジメント	参・出版社名1	大修館書店
参・著者名1	畑 攻, 小野里真弓編著	参・ISBN1	978-4469268324
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-403		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。論理的に物事を考える力を身につけることができる。 到達目標： 1：健康づくりの議論で用いられる基本的な概念を説明できるようになる 2：健康づくりの観点から（地域）社会の在り方について論理的に意見を述べるようになる。 3：健康づくりの基礎知識をもとに組織のあり方について論理的に意見を述べるようになる 4：運動指導のあり方について論理的に意見を述べるようになる						
授業概要	本講義では、健康スポーツコースで学ぶために必要な基礎的な概念を文章読解、プレゼンテーション及びそれらに基づいたディスカッションを通じて理解することを目的としている。 本講義は「健康と健康づくりに関わる基礎概念」や「運動・栄養・休養との関係」、「地域社会でのあり方」、「運動指導の基礎」など自分が疑問に感じること、興味があることについて考え、その中から各自がテーマを選択する。 この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、健康等に関する知識だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図ることを期待する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢20%，提出物30%，議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の演習Ⅱの最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと。（1.5時間程度）						
オフィスアワー	水曜日5時限目 研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーションと学習目標の設定・研究倫理の教育					竹内研	
第2回	健康とは何か					竹内研	
第3回	健康と栄養					竹内研	

第4回	健康と休養		竹内研
第5回	健康と運動		竹内研
第6回	地域社会と健康		竹内研
第7回	健康づくりとは何か		竹内研
第8回	健康づくりと行政と政策		竹内研
第9回	健康づくりにおける組織論		竹内研
第10回	健康づくりと組織の人的側面		竹内研
第11回	健康運動指導とは何か		竹内研
第12回	運動指導の基礎的技法		竹内研
第13回	運動指導と指導者論		竹内研
第14回	資料の収集（健康・栄養・休養・運動に関する資料）		竹内研
第15回	資料の収集（健康づくりに関する資料）		竹内研
第16回	最終課題		竹内研
教科書			
教・書籍名1	適宜指示する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-403		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。論理的に物事を考える力を身につけることができる。 到達目標： 1：健康づくりの議論で用いられる基本的な概念を説明できるようになる 2：健康づくりの観点から（地域）社会の在り方について論理的に意見を述べるようになる。 3：健康づくりの基礎知識をもとに組織のあり方について論理的に意見を述べるようになる 4：運動指導のあり方について論理的に意見を述べるようになる						
授業概要	本講義では、健康スポーツコースで学ぶために必要な基礎的な概念を文章読解、プレゼンテーション及びそれらに基づいたディスカッションを通じて理解することを目的としている。 本講義は「健康と健康づくりに関わる基礎概念」や「運動・栄養・休養との関係」、「地域社会でのあり方」、「運動指導の基礎」など自分が疑問に感じること、興味があることについて考え、その中から各自がテーマを選択する。 この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、健康等に関する知識だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図ることを期待する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢20%，提出物30%，議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の演習Ⅱの最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーションと学習目標の設定					山口英峰	
第2回	健康とは何か					山口英峰	
第3回	健康と栄養					山口英峰	

第4回	健康と休養	山口英峰
第5回	健康と運動	山口英峰
第6回	地域社会と健康	山口英峰
第7回	健康づくりとは何か	山口英峰
第8回	健康づくりと行政と政策	山口英峰
第9回	健康づくりにおける組織論	山口英峰
第10回	健康づくりと組織の人的側面	山口英峰
第11回	健康運動指導とは何か	山口英峰
第12回	運動指導の基礎的技法	山口英峰
第13回	運動指導と指導者論	山口英峰
第14回	資料の収集（健康・栄養・休養・運動に関する資料）	山口英峰
第15回	資料の収集（健康づくりに関する資料）	山口英峰
第16回	最終課題	山口英峰
教科書		
教・書籍名1	適宜指示する	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-403		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。論理的に物事を考える力を身につけることができる。 到達目標： 1：健康づくりの議論で用いられる基本的な概念を説明できるようになる 2：健康づくりの観点から（地域）社会の在り方について論理的に意見を述べるようになる。 3：健康づくりの基礎知識をもとに組織のあり方について論理的に意見を述べるようになる 4：運動指導のあり方について論理的に意見を述べるようになる						
授業概要	本講義では、健康スポーツコースで学ぶために必要な基礎的な概念を文章読解、プレゼンテーション及びそれらに基づいたディスカッションを通じて理解することを目的としている。 本講義は「健康と健康づくりに関わる基礎概念」や「運動・栄養・休養との関係」、「地域社会でのあり方」、「運動指導の基礎」など自分が疑問に感じること、興味があることについて考え、その中から各自がテーマを選択する。 この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、健康等に関する知識だけではなく、コミュニケーション能力の向上を図ることを期待する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢20%，提出物30%，議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の演習Ⅱの最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーションと学習目標の設定					天岡 寛	
第2回	健康とは何か					天岡 寛	
第3回	健康と栄養					天岡 寛	

第4回	健康と休養	天岡 寛
第5回	健康と運動	天岡 寛
第6回	地域社会と健康	天岡 寛
第7回	健康づくりとは何か	天岡 寛
第8回	健康づくりと行政と政策	天岡 寛
第9回	健康づくりにおける組織論	天岡 寛
第10回	健康づくりと組織の人的側面	天岡 寛
第11回	健康運動指導とは何か	天岡 寛
第12回	運動指導の基礎的技法	天岡 寛
第13回	運動指導と指導者論	天岡 寛
第14回	資料の収集（健康・栄養・休養・運動に関する資料）	天岡 寛
第15回	資料の収集（健康づくりに関する資料）	天岡 寛
第16回	最終課題	天岡 寛
教科書		
教・書籍名1	適宜指示する	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	演習 I			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-403		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：スポーツマネジメントやコーチングを学ぶための基礎理論及び組織論を学ぶ 到達目標 1: マネジメントやコーチングの議論で用いられる基本的な概念を説明できるようになる 2: マネジメントの観点から（地域）社会のスポーツの在り方について論理的に意見を述べるができるようになる。 3: マネジメントの基礎知識をもとに組織のあり方について論理的に意見を述べるができるようになる 4: コーチングや教育学の議論をもとに、スポーツ指導のあり方について論理的に意見を述べるができるようになる						
授業概要	本講義では、スポーツマネジメント・コーチコースで学ぶために必要な基礎的な概念を文章読解、プレゼンテーション及びそれらに基づいたディスカッションを通じて理解することを目的としている。 本講義は本コースで学ぶことに応じて4つの段階に区分されている。まず、最初にマネジメントに関わる基礎概念を学ぶ（第1回～第7回）。スポーツ組織のあり方等の学習を通じて、社会における組織やビジネス、法制度のあり方について理解を深め、スポーツを振興するための仕組みのあり方について考察する能力の基礎をつくることを目的とする。次に、スポーツの指導技法に関わるコーチングについて学ぶ（第8回～第10回）。この学習を通じて、ひとを育てるための手法などについて理解を深める。その後、学校教育におけるスポーツのあり方を保健体育・部活動の観点から学習し（第11回～第13回）、教育という観点からスポーツ指導のあり方を考える力を培う。最後に、この講義全体を通じて学んだことを自分の言葉でプレゼンテーションしてもらい、マネジメントに対する理解を深めていく。 この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、マネジメント等に関する知識だけではなく、コミュニケーション能力の向上を図っていただきたい。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義中に提示する課題（30％）、プレゼンテーション（30％）、終講レポート（40％）で評価を行う。講義中課題が未提出、プレゼンテーションの未実施、終講課題の未提出がある場合は成績評価を行わず、放棄として扱う。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の演習Ⅱの最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	水曜日4限 研究室（9301）にて						

授業計画		担当者	
第1回	ガイダンス及び学習目標の設定	太田真司	
第2回	スポーツマネジメントとは何か	太田真司	
第3回	スポーツにおける組織論：組織とチームのあり方	太田真司	
第4回	スポーツ組織の人的側面：人事・人材育成	太田真司	
第5回	スポーツビジネスとは何か	太田真司	
第6回	スポーツ行政と政策	太田真司	
第7回	地域社会とスポーツ：総合型地域スポーツクラブを中心に	太田真司	
第8回	コーチングとは何か：コーチングの基礎的思想	太田真司	
第9回	コーチングの基礎的技法	太田真司	
第10回	コーチングと指導者論：リーダーシップのあり方	太田真司	
第11回	学校教育におけるスポーツ（1）：教育論・学校論基礎	太田真司	
第12回	学校教育におけるスポーツ（2）：保健体育におけるマネジメント	太田真司	
第13回	学校教育におけるスポーツ（3）：部活動の意義と課題	太田真司	
第14回	プレゼンテーション（1） マネジメントについての考察	太田真司	
第15回	プレゼンテーション（2） 春学期の学びを振り返る	太田真司	
第16回	レポート試験	倉知典弘	
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が用意する授業資料を基に講義を行う。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	基本・スポーツマネジメント	参・出版社名1	大修館書店
参・著者名1	畑 攻, 小野里真弓編著	参・ISBN1	978-4469268324
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習 I			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-403		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：スポーツマネジメントやコーチングを学ぶための基礎理論及び組織論を学ぶ 到達目標 1: マネジメントやコーチングの議論で用いられる基本的な概念を説明できるようになる 2: マネジメントの観点から（地域）社会のスポーツの在り方について論理的に意見を述べるができるようになる。 3: マネジメントの基礎知識をもとに組織のあり方について論理的に意見を述べるができるようになる 4: コーチングや教育学の議論をもとに、スポーツ指導のあり方について論理的に意見を述べるができるようになる						
授業概要	本講義では、スポーツマネジメント・コーチコースで学ぶために必要な基礎的な概念を文章読解、プレゼンテーション及びそれらに基づいたディスカッションを通じて理解することを目的としている。 本講義は本コースで学ぶことに応じて4つの段階に区分されている。まず、最初にマネジメントに関わる基礎概念を学ぶ（第1回～第7回）。スポーツ組織のあり方等の学習を通じて、社会における組織やビジネス、法制度のあり方について理解を深め、スポーツを振興するための仕組みのあり方について考察する能力の基礎をつくることを目的とする。次に、スポーツの指導技法に関わるコーチングについて学ぶ（第8回～第10回）。この学習を通じて、ひとを育てるための手法などについて理解を深める。その後、学校教育におけるスポーツのあり方を保健体育・部活動の観点から学習し（第11回～第13回）、教育という観点からスポーツ指導のあり方を考える力を培う。最後に、この講義全体を通じて学んだことを自分の言葉でプレゼンテーションしてもらい、マネジメントに対する理解を深めていく。 この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、マネジメント等に関する知識だけではなく、コミュニケーション能力の向上を図っていただきたい。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義中に提示する課題（30％）、プレゼンテーション（30％）、終講レポート（40％）で評価を行う。講義中課題が未提出、プレゼンテーションの未実施、終講課題の未提出がある場合は成績評価を行わず、放棄として扱う。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の演習Ⅱの最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	水曜日4限 研究室（9301）にて						

授業計画		担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について	倉知典弘	
第2回	スポーツマネジメントとは何か	倉知典弘	
第3回	スポーツにおける組織論：組織とチームのあり方	倉知典弘	
第4回	スポーツ組織の人的側面：人事・人材育成	倉知典弘	
第5回	スポーツビジネスとは何か	倉知典弘	
第6回	スポーツ行政と政策	倉知典弘	
第7回	地域社会とスポーツ：総合型地域スポーツクラブを中心に	倉知典弘	
第8回	コーチングとは何か：コーチングの基礎的思想	倉知典弘	
第9回	コーチングの基礎的技法	倉知典弘	
第10回	コーチングと指導者論：リーダーシップのあり方	倉知典弘	
第11回	学校教育におけるスポーツ（1）：教育論・学校論基礎	倉知典弘	
第12回	学校教育におけるスポーツ（2）：保健体育におけるマネジメント	倉知典弘	
第13回	学校教育におけるスポーツ（3）：部活動の意義と課題	倉知典弘	
第14回	プレゼンテーション（1） マネジメントについての考察	倉知典弘	
第15回	プレゼンテーション（2） 春学期の学びを振り返る	倉知典弘	
第16回	レポート試験	倉知典弘	
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が用意する授業資料を基に講義を行う。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	基本・スポーツマネジメント	参・出版社名1	大修館書店
参・著者名1	畑 攻, 小野里真弓編著	参・ISBN1	978-4469268324
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-403		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。論理的に物事を考える力を身につけることができる。 到達目標： 1：健康づくりの議論で用いられる基本的な概念を説明できるようになる 2：健康づくりの観点から（地域）社会の在り方について論理的に意見を述べるようになる。 3：健康づくりの基礎知識をもとに組織のあり方について論理的に意見を述べるようになる 4：運動指導のあり方について論理的に意見を述べるようになる						
授業概要	本講義では、健康スポーツコースで学ぶために必要な基礎的な概念を文章読解、プレゼンテーション及びそれらに基づいたディスカッションを通じて理解することを目的としている。 本講義は「健康と健康づくりに関わる基礎概念」や「運動・栄養・休養との関係」、「地域社会でのあり方」、「運動指導の基礎」など自分が疑問に感じること、興味があることについて考え、その中から各自がテーマを選択する。 この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、健康等に関する知識だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図ることを期待する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢20%，提出物30%，議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の演習Ⅱの最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	月曜日2時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーションと学習目標の設定					高原皓全	
第2回	健康とは何か					高原皓全	
第3回	健康と栄養					高原皓全	

第4回	健康と休養	高原皓全
第5回	健康と運動	高原皓全
第6回	地域社会と健康	高原皓全
第7回	健康づくりとは何か	高原皓全
第8回	健康づくりと行政と政策	高原皓全
第9回	健康づくりにおける組織論	高原皓全
第10回	健康づくりと組織の人的側面	高原皓全
第11回	健康運動指導とは何か	高原皓全
第12回	運動指導の基礎的技法	高原皓全
第13回	運動指導と指導者論	高原皓全
第14回	資料の収集（健康・栄養・休養・運動に関する資料）	高原皓全
第15回	資料の収集（健康づくりに関する資料）	高原皓全
第16回	最終課題	高原皓全
教科書		
教・書籍名1	適宜指示する	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	演習 I			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-403		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：スポーツマネジメントやコーチングを学ぶための基礎理論及び組織論を学ぶ 到達目標 1: マネジメントやコーチングの議論で用いられる基本的な概念を説明できるようになる 2: マネジメントの観点から（地域）社会のスポーツの在り方について論理的に意見を述べるができるようになる。 3: マネジメントの基礎知識をもとに組織のあり方について論理的に意見を述べるができるようになる 4: コーチングや教育学の議論をもとに、スポーツ指導のあり方について論理的に意見を述べるができるようになる						
授業概要	本講義では、スポーツマネジメント・コーチコースで学ぶために必要な基礎的な概念を文章読解、プレゼンテーション及びそれらに基づいたディスカッションを通じて理解することを目的としている。 本講義は本コースで学ぶことに応じて4つの段階に区分されている。まず、最初にマネジメントに関わる基礎概念を学ぶ（第1回～第7回）。スポーツ組織のあり方等の学習を通じて、社会における組織やビジネス、法制度のあり方について理解を深め、スポーツを振興するための仕組みのあり方について考察する能力の基礎をつくることを目的とする。次に、スポーツの指導技法に関わるコーチングについて学ぶ（第8回～第10回）。この学習を通じて、ひとを育てるための手法などについて理解を深める。その後、学校教育におけるスポーツのあり方を保健体育・部活動の観点から学習し（第11回～第13回）、教育という観点からスポーツ指導のあり方を考える力を培う。最後に、この講義全体を通じて学んだことを自分の言葉でプレゼンテーションしてもらい、マネジメントに対する理解を深めていく。 この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、マネジメント等に関する知識だけではなく、コミュニケーション能力の向上を図っていただきたい。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義中に提示する課題（30％）、プレゼンテーション（30％）、終講レポート（40％）で評価を行う。講義中課題が未提出、プレゼンテーションの未実施、終講課題の未提出がある場合は成績評価を行わず、放棄として扱う。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の演習Ⅱの最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅱを合わせて履修すること。また、講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	金曜日 2限 9号館4階研究室（9411）にて						

授業計画		担当者	
第1回	ガイダンス及び学習目標の設定	羽野	
第2回	スポーツマネジメントとは何か	羽野	
第3回	スポーツにおける組織論：組織とチームのあり方	羽野	
第4回	スポーツ組織の人的側面：人事・人材育成	羽野	
第5回	スポーツビジネスとは何か	羽野	
第6回	スポーツ行政と政策	羽野	
第7回	地域社会とスポーツ：総合型地域スポーツクラブを中心に	羽野	
第8回	コーチングとは何か：コーチングの基礎的思想	羽野	
第9回	コーチングの基礎的技法	羽野	
第10回	コーチングと指導者論：リーダーシップのあり方	羽野	
第11回	学校教育におけるスポーツ（1）：教育論・学校論基礎	羽野	
第12回	学校教育におけるスポーツ（2）：保健体育におけるマネジメント	羽野	
第13回	学校教育におけるスポーツ（3）：部活動の意義と課題	羽野	
第14回	プレゼンテーション（1） マネジメントについての考察	羽野	
第15回	プレゼンテーション（2） 春学期の学びを振り返る	羽野	
第16回	レポート試験	羽野	
教科書			
教・書籍名1	講義担当者が用意する授業資料を基に講義を行う。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	基本・スポーツマネジメント	参・出版社名1	大修館書店
参・著者名1	畑 攻, 小野里真弓編著	参・ISBN1	978-4469268324
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-404		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	<p>テーマ： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。論理的に物事を考える力を身につけることができる。</p> <p>到達目標： 1：健康づくりと運動・栄養・休養の関係について説明できるようになる 2：健康づくりの観点から関連する資料を読み取ることができるようになる。 3：健康づくりの観点から各自のテーマの成果をまとめて発表することができる。 4：3年次以降に深めたいテーマを見つけて、適切にゼミを選択することができる。</p>						
授業概要	<p>演習Ⅰで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて、発表し、全員で討論する。3年生の演習に結びつくように内容にまとめる必要がある。</p> <p>この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、健康等に関する知識だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図ることを期待する。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢20%，提出物30%，議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	水曜日3時限目 6号館3階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					孫基然	
第2回	抄読（スポーツに関する資料）					孫基然	
第3回	抄読（教育に関する資料）					孫基然	
第4回	抄読（健康と食生活に関する資料）					孫基然	
第5回	抄読（健康と運動に関する資料）					孫基然	
第6回	抄読（健康と休養に関する資料）					孫基然	
第7回	発表準備（スポーツに関する資料）					孫基然	

第8回	発表準備（教育に関する資料）	孫基然
第9回	発表準備（健康と食生活に関する資料）	孫基然
第10回	発表準備（健康と運動に関する資料）	孫基然
第11回	発表準備（健康と休養に関する資料）	孫基然
第12回	発表（スポーツに関する資料）	孫基然
第13回	発表（教育に関する資料）	孫基然
第14回	発表（健康と食生活に関する資料）	孫基然
第15回	発表（健康と運動に関する資料）	孫基然
第16回	最終課題	孫基然

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名1	適宜指示する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-404		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：組織を変革するリーダーシップとは何かを考える 到達目標 1：新たなリーダーシップが求められている時代背景を理解する 2：ポジティブアプローチを理解し、その意義を述べることができるようになる 3：サーバントリーダーシップの考え方を理解する 4：組織変革を促すリーダーシップの在り方を考え、自身の見解を表現できる 5：学習したリーダーシップのあり方に関する知見を活用して、自身の所属する組織にふさわしいリーダーシップのあり方を考え、表現出来る						
授業概要	本講義は演習Ⅰの継続として実施されるものである。演習Ⅰでは学習する組織論を通じて組織の変革をどのように進めるのかを学習してきた。本講義では、組織変革のためのリーダーシップについて学ぶ。まず、組織が置かれている社会的状況を改めて確認し（第1回～第3回）、リーダーシップのあり方も変化していることを確認する。その後ポジティブアプローチを検討する（第4回～第5回）。以上の検討ののち、新しいリーダーシップを考えるための手掛かりとして「サーバントリーダーシップ」について検討する（第6回～第11回）。これらの理解をもとにして自分自身のリーダーシップに関する意見をまとめ、受講者相互で批評しあう（第12回～第15回）。このことを通じて、今までのリーダーシップの考え方を批判的に見つめる視点が構築されるだろう。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	文献の読解力を測るための報告資料（30％）、授業の理解度を測るためのプレゼンテーション（50％）、自身の学習経験を振り返るための終講レポート（20％）で評価する。報告資料は著者の見解を正確に理解できているかどうかを評価する。プレゼンテーションでは、文献等に示されたリーダーシップのあり方についての理解が正確であるか、各自の経験（組織の在り方）を検討できているかを評価する。終講レポートでは、講義において実施した学び方を理解できているかを評価する。報告資料及びプレゼンテーションは講義内でフィードバックを行う。終講レポートについては掲示で総括的なフィードバックを行うものとする。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行い、秋学期の演習Ⅱの最初の講義の際に詳細のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本講義は演習Ⅰと合わせて履修すること。テキストを用いて授業を行うので、必ず購入すること。 また、報告資料を綴るためのA4ファイルを1冊とデータを持ち運ぶためのUSBメモリーを必ず用意すること。本講義は文献読解を行ってきていることを前提とし、各回報告を行ってもらう。この報告を行わなかった場合は、成績評価を行わない。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習として毎回テキストの該当箇所を読み、報告を行ってもらう（2時間程度）。復習として学んだことをまとめ、各自の意見を書いてもらう（2時間程度）。						
オフィスアワー	火曜日4限9405研究室						
授業計画						担当者	
第1回	ガイダンス及び学習目標の設定					高藤	
第2回	スポーツマネジメントとは何か					高藤	
第3回	スポーツにおける組織論：組織とチームのあり方					高藤	

第4回	スポーツ組織の人的側面：人事・人材育成	高藤
第5回	スポーツビジネスとは何か	高藤
第6回	スポーツ行政と政策	高藤
第7回	地域社会とスポーツ：総合型地域スポーツクラブを中心に	高藤
第8回	コーチングとは何か：コーチングの基礎的思想	高藤
第9回	コーチングの基礎的技法	高藤
第10回	コーチングと指導者論：リーダーシップのあり方	高藤
第11回	学校教育におけるスポーツ（1）：教育論・学校論基礎	高藤
第12回	学校教育におけるスポーツ（2）：保健体育におけるマネジメント	高藤
第13回	学校教育におけるスポーツ（3）：部活動の意義と課題	高藤
第14回	プレゼンテーション（1） マネジメントについての考察	高藤
第15回	プレゼンテーション（2） 秋学期の学びを振り返る	高藤
第16回	レポート試験	高藤

教科書

教・書籍名1	各回ごとに提示する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-404		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。論理的に物事を考える力を身につけることができる。 到達目標： 1：健康づくりと運動・栄養・休養の関係について説明できるようになる 2：健康づくりの観点から関連する資料を読み取ることができるようになる。 3：健康づくりの観点から各自のテーマの成果をまとめて発表することができる。 4：3年次以降に深めたいテーマを見つけて、適切にゼミを選択することができる。						
授業概要	演習Ⅰで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて、発表し、全員で討論する。3年生の演習に結びつくように内容にまとめる必要がある。 この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、健康等に関する知識だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図ることを期待する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢20%，提出物30%，議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	水曜日5時限目 研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション：研究倫理の教育					竹内研	
第2回	抄読（スポーツに関する資料）					竹内研	
第3回	抄読（教育に関する資料）					竹内研	
第4回	抄読（健康と食生活に関する資料）					竹内研	
第5回	抄読（健康と運動に関する資料）					竹内研	
第6回	抄読（健康と休養に関する資料）					竹内研	
第7回	発表準備（スポーツに関する資料）					竹内研	

第 8 回	発表準備（教育に関する資料）	竹内研
第 9 回	発表準備（健康と食生活に関する資料）	竹内研
第 1 0 回	発表準備（健康と運動に関する資料）	竹内研
第 1 1 回	発表準備（健康と休養に関する資料）	竹内研
第 1 2 回	発表（スポーツに関する資料）	竹内研
第 1 3 回	発表（教育に関する資料）	竹内研
第 1 4 回	発表（健康と食生活に関する資料）	竹内研
第 1 5 回	発表（健康と運動に関する資料）	竹内研
第 1 6 回	最終課題	竹内研

教科書

教・書籍名 1	適宜指示する	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1	適宜指示する	参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-404		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	<p>テーマ： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。論理的に物事を考える力を身につけることができる。</p> <p>到達目標： 1：健康づくりと運動・栄養・休養の関係について説明できるようになる 2：健康づくりの観点から関連する資料を読み取ることができるようになる。 3：健康づくりの観点から各自のテーマの成果をまとめて発表することができる。 4：3年次以降に深めたいテーマを見つけて、適切にゼミを選択することができる。</p>						
授業概要	<p>演習Ⅰで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて、発表し、全員で討論する。3年生の演習に結びつくように内容にまとめる必要がある。</p> <p>この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、健康等に関する知識だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図ることを期待する。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢20%，提出物30%，議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					山口英峰	
第2回	抄読（スポーツに関する資料）					山口英峰	
第3回	抄読（教育に関する資料）					山口英峰	
第4回	抄読（健康と食生活に関する資料）					山口英峰	
第5回	抄読（健康と運動に関する資料）					山口英峰	
第6回	抄読（健康と休養に関する資料）					山口英峰	
第7回	発表準備（スポーツに関する資料）					山口英峰	

第8回	発表準備（教育に関する資料）	山口英峰
第9回	発表準備（健康と食生活に関する資料）	山口英峰
第10回	発表準備（健康と運動に関する資料）	山口英峰
第11回	発表準備（健康と休養に関する資料）	山口英峰
第12回	発表（スポーツに関する資料）	山口英峰
第13回	発表（教育に関する資料）	山口英峰
第14回	発表（健康と食生活に関する資料）	山口英峰
第15回	発表（健康と運動に関する資料）	山口英峰
第16回	最終課題	山口英峰

教科書

教・書籍名1	適宜指示する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-404		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	<p>テーマ： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。論理的に物事を考える力を身につけることができる。</p> <p>到達目標： 1：健康づくりと運動・栄養・休養の関係について説明できるようになる 2：健康づくりの観点から関連する資料を読み取ることができるようになる。 3：健康づくりの観点から各自のテーマの成果をまとめて発表することができる。 4：3年次以降に深めたいテーマを見つけて、適切にゼミを選択することができる。</p>						
授業概要	<p>演習Ⅰで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて、発表し、全員で討論する。3年生の演習に結びつくように内容にまとめる必要がある。</p> <p>この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、健康等に関する知識だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図ることを期待する。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢20%，提出物30%，議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					天岡 寛	
第2回	抄読（スポーツに関する資料）					天岡 寛	
第3回	抄読（教育に関する資料）					天岡 寛	
第4回	抄読（健康と食生活に関する資料）					天岡 寛	
第5回	抄読（健康と運動に関する資料）					天岡 寛	
第6回	抄読（健康と休養に関する資料）					天岡 寛	
第7回	発表準備（スポーツに関する資料）					天岡 寛	

第8回	発表準備（教育に関する資料）	天岡 寛
第9回	発表準備（健康と食生活に関する資料）	天岡 寛
第10回	発表準備（健康と運動に関する資料）	天岡 寛
第11回	発表準備（健康と休養に関する資料）	天岡 寛
第12回	発表（スポーツに関する資料）	天岡 寛
第13回	発表（教育に関する資料）	天岡 寛
第14回	発表（健康と食生活に関する資料）	天岡 寛
第15回	発表（健康と運動に関する資料）	天岡 寛
第16回	最終課題	天岡 寛

教科書

教・書籍名1	適宜指示する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-404		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	春学期に身に付けたことが出来ている。それらを活用して多様な観点からスポーツマネジメント及びコーチングについて自分の意見を論理的に述べる事が出来る。 テーマ：「スポーツマネジメント」や「コーチング」の基本的な理念・知識などを深める 到達目標 1：マネジメントやコーチングの理解を深めて、社会の変化に応じたこれからのスポーツ組織のあり方について論理的に考察できる 2：リーダーシップやコーチングの理解を深めて、これからのスポーツにおけるリーダーシップのあり方・指導者のあり方を理論的に考察できる 3：スポーツの法制度の理解を深めて、これからのスポーツ振興のための行政について理論的に考察できる 4：学校教育を批判的に見つめて、これからの保健体育・部活動のあり方を理論的に考察できる 5：3年次以降に深めたいテーマを見つけて、適切にゼミを選択することができる						
授業概要	本講義は演習Ⅰの継続として実施されるものである。演習Ⅰではマネジメントやコーチングに関わる基本的な概念について学んできたが、演習Ⅱではより多角的な考察を行う。特に現代社会のあり方や心理学などのキーワードに着目し、マネジメント・コーチングがどのようにそれらの課題に対応できるのかを様々な事例やデータを収集し検討する。最終的にこれからのマネジメント・コーチングについて論理的に考えて発表できることを目指す。 本演習もマネジメント・コーチコースでの学びに対応しておおよそ4つの段階に分けて進められる。初回の講義では秋学期に学びたいことを自身の興味関心・キャリアの観点から決定し、学習への意欲を高める。その後、具体的にマネジメント全体について「コロナ禍」「人権」「情報化社会」「ソーシャルキャピタル」「地域創生」といったキーワードをもとに検討する（第2回～第6回）。それらの議論を受けながら、指導などに関わるコーチングについての理解を深める（第7回～第8回）。最後に「アクティブラーニング」「地域との連携」という観点から学校におけるスポーツのあり方を考察する（第9回～第10回）。その後、最初に定めた学習目標に応じて、それまで学んできたことを参考にしたプレゼンテーションを実施し（第11回～第13回）、自身の学習したいことを明確にしてゼミ選択を考える（第14回）。 以上のような学習過程を通じて、多様な観点からスポーツマネジメントについて議論できる能力を高めていく。なお、本講義は学生の積極的な参加が求められる講義である。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーション（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題の未実施プレゼンテーションの未実施、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については演習ルーブリックを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本講義は演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義資料を配布するのでファイルなどを用意すること。プレゼンテーション資料の作成などを求めるのでプレゼンテーションソフト等を使用できるようにしておくこと、						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導やプレゼンテーションなどの際には講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を求める。（1.5時						

	間程度) 講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	火曜日 3限 研究室(9401)		
授業計画		担当者	
第1回	ガイダンス：講義概要の理解と学習目標の設定		太田真司
第2回	現代社会とスポーツマネジメント(1)：コロナ禍のスポーツとマネジメント		太田真司
第3回	現代社会とスポーツマネジメント(2)：スポーツマネジメントと人権		太田真司
第4回	現代社会とスポーツマネジメント(3)：情報化社会とスポーツマネジメント		太田真司
第5回	現代社会とスポーツマネジメント(4)：スポーツマネジメントとソーシャルキャピタル		太田真司
第6回	現代社会とスポーツマネジメント(5)：地方創生とスポーツマネジメント・スポーツ行政		太田真司
第7回	より深いコーチング理解を目指して(1)：エフィカシーの観点からみるコーチング		太田真司
第8回	より深いコーチング理解を目指して(2)：リーダーシップ観の多様性から考えるコーチング		太田真司
第9回	学校教育の変化とスポーツ(1) アクティブラーニングとスポーツ		太田真司
第10回	学校教育の変化とスポーツ(2) 地域社会との連携とスポーツ		太田真司
第11回	プレゼンテーション(1)：マネジメントの観点から		太田真司
第12回	プレゼンテーション(2)：コーチングの観点から		太田真司
第13回	プレゼンテーション(3)：教育学の観点から		太田真司
第14回	ゼミ選択に向けて：各自の学習課題の明確化		太田真司
第15回	講義のまとめ：1年間の振り返り		太田真司
第16回	レポート試験		太田真司
教科書			
教・書籍名1	授業担当者が用意する資料によって進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-404		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	春学期に身に付けたことが出来ている。それらを活用して多様な観点からスポーツマネジメント及びコーチングについて自分の意見を論理的に述べる事が出来る。 テーマ：「スポーツマネジメント」や「コーチング」の基本的な理念・知識などを深める 到達目標 1：マネジメントやコーチングの理解を深めて、社会の変化に応じたこれからのスポーツ組織のあり方について論理的に考察できる 2：リーダーシップやコーチングの理解を深めて、これからのスポーツにおけるリーダーシップのあり方・指導者のあり方を理論的に考察できる 3：スポーツの法制度の理解を深めて、これからのスポーツ振興のための行政について理論的に考察できる 4：学校教育を批判的に見つめて、これからの保健体育・部活動のあり方を理論的に考察できる 5：3年次以降に深めたいテーマを見つけて、適切にゼミを選択することができる						
授業概要	本講義は演習Ⅰの継続として実施されるものである。演習Ⅰではマネジメントやコーチングに関わる基本的な概念について学んできたが、演習Ⅱではより多角的な考察を行う。特に現代社会のあり方や心理学などのキーワードに着目し、マネジメント・コーチングがどのようにそれらの課題に対応できるのかを様々な事例やデータを収集し検討する。最終的にこれからのマネジメント・コーチングについて論理的に考えて発表できることを目指す。 本演習もマネジメント・コーチコースでの学びに対応しておおよそ4つの段階に分けて進められる。初回の講義では秋学期に学びたいことを自身の興味関心・キャリアの観点から決定し、学習への意欲を高める。その後、具体的にマネジメント全体について「コロナ禍」「人権」「情報化社会」「ソーシャルキャピタル」「地域創生」といったキーワードをもとに検討する（第2回～第6回）。それらの議論を受けながら、指導などに関わるコーチングについての理解を深める（第7回～第8回）。最後に「アクティブラーニング」「地域との連携」という観点から学校におけるスポーツのあり方を考察する（第9回～第10回）。その後、最初に定めた学習目標に応じて、それまで学んできたことを参考にしたプレゼンテーションを実施し（第11回～第13回）、自身の学習したいことを明確にしてゼミ選択を考える（第14回）。 以上のような学習過程を通じて、多様な観点からスポーツマネジメントについて議論できる能力を高めていく。なお、本講義は学生の積極的な参加が求められる講義である。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーション（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題の未実施プレゼンテーションの未実施、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については演習ルーブリックを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本講義は演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義資料を配布するのでファイルなどを用意すること。プレゼンテーション資料の作成などを求めるのでプレゼンテーションソフト等を使用できるようにしておくこと、						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導やプレゼンテーションなどの際には講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を求める。（1.5時						

	間程度) 講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	水曜日4限 研究室(9301)にて		
授業計画		担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について		倉知典弘
第2回	現代社会とスポーツマネジメント(1): コロナ禍のスポーツとマネジメント		倉知典弘
第3回	現代社会とスポーツマネジメント(2): スポーツマネジメントと人権		倉知典弘
第4回	現代社会とスポーツマネジメント(3): 情報化社会とスポーツマネジメント		倉知典弘
第5回	現代社会とスポーツマネジメント(4): スポーツマネジメントとソーシャルキャピタル		倉知典弘
第6回	現代社会とスポーツマネジメント(5): 地方創生とスポーツマネジメント・スポーツ行政		倉知典弘
第7回	より深いコーチング理解を目指して(1): エフィカシーの観点からみるコーチング		倉知典弘
第8回	より深いコーチング理解を目指して(2): リーダシップ観の多様性から考えるコーチング		倉知典弘
第9回	学校教育の変化とスポーツ(1) アクティブラーニングとスポーツ		倉知典弘
第10回	学校教育の変化とスポーツ(2) 地域社会との連携とスポーツ		倉知典弘
第11回	プレゼンテーション(1): マネジメントの観点から		倉知典弘
第12回	プレゼンテーション(2): コーチングの観点から		倉知典弘
第13回	プレゼンテーション(3): 教育学の観点から		倉知典弘
第14回	ゼミ選択に向けて: 各自の学習課題の明確化		倉知典弘
第15回	講義のまとめ: 1年間の振り返り		倉知典弘
第16回	レポート試験		倉知典弘
教科書			
教・書籍名1	授業担当者が用意する資料によって進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-404		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	<p>テーマ： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。論理的に物事を考える力を身につけることができる。</p> <p>到達目標： 1：健康づくりと運動・栄養・休養の関係について説明できるようになる 2：健康づくりの観点から関連する資料を読み取ることができるようになる。 3：健康づくりの観点から各自のテーマの成果をまとめて発表することができる。 4：3年次以降に深めたいテーマを見つけて、適切にゼミを選択することができる。</p>						
授業概要	<p>演習Ⅰで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて、発表し、全員で討論する。3年生の演習に結びつくように内容にまとめる必要がある。</p> <p>この講義は、学生同士の学びあい・学習活動を前提としたものである。積極的にグループディスカッションに参加して、健康等に関する知識だけでなく、コミュニケーション能力の向上を図ることを期待する。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢20%，提出物30%，議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義中には様々な資料を配布するので、その資料を保管するファイルなどを用意すること。また、プレゼンテーション資料の作成などを行ってもらうので、PC等でプレゼンテーションソフトを用意し、基本的な操作を覚えておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を課すことがある。（1.5時間程度）講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、（1.5時間程度）						
オフィスアワー	月曜日2時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					高原皓全	
第2回	抄読（スポーツに関する資料）					高原皓全	
第3回	抄読（教育に関する資料）					高原皓全	
第4回	抄読（健康と食生活に関する資料）					高原皓全	
第5回	抄読（健康と運動に関する資料）					高原皓全	
第6回	抄読（健康と休養に関する資料）					高原皓全	
第7回	発表準備（スポーツに関する資料）					高原皓全	

第8回	発表準備（教育に関する資料）	高原皓全
第9回	発表準備（健康と食生活に関する資料）	高原皓全
第10回	発表準備（健康と運動に関する資料）	高原皓全
第11回	発表準備（健康と休養に関する資料）	高原皓全
第12回	発表（スポーツに関する資料）	高原皓全
第13回	発表（教育に関する資料）	高原皓全
第14回	発表（健康と食生活に関する資料）	高原皓全
第15回	発表（健康と運動に関する資料）	高原皓全
第16回	最終課題	高原皓全

教科書

教・書籍名1	適宜指示する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-404		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	春学期に身に付けたことが出来ている。それらを活用して多様な観点からスポーツマネジメント及びコーチングについて自分の意見を論理的に述べる事が出来る。 テーマ：「スポーツマネジメント」や「コーチング」の基本的な理念・知識などを深める 到達目標 1：マネジメントやコーチングの理解を深めて、社会の変化に応じたこれからのスポーツ組織のあり方について論理的に考察できる 2：リーダーシップやコーチングの理解を深めて、これからのスポーツにおけるリーダーシップのあり方・指導者のあり方を理論的に考察できる 3：スポーツの法制度の理解を深めて、これからのスポーツ振興のための行政について理論的に考察できる 4：学校教育を批判的に見つめて、これからの保健体育・部活動のあり方を理論的に考察できる 5：3年次以降に深めたいテーマを見つけて、適切にゼミを選択することができる						
授業概要	本講義は演習Ⅰの継続として実施されるものである。演習Ⅰではマネジメントやコーチングに関わる基本的な概念について学んできたが、演習Ⅱではより多角的な考察を行う。特に現代社会のあり方や心理学などのキーワードに着目し、マネジメント・コーチングがどのようにそれらの課題に対応できるのかを様々な事例やデータを収集し検討する。最終的にこれからのマネジメント・コーチングについて論理的に考えて発表できることを目指す。 本演習もマネジメント・コーチコースでの学びに対応しておおよそ4つの段階に分けて進められる。初回の講義では秋学期に学びたいことを自身の興味関心・キャリアの観点から決定し、学習への意欲を高める。その後、具体的にマネジメント全体について「コロナ禍」「人権」「情報化社会」「ソーシャルキャピタル」「地域創生」といったキーワードをもとに検討する（第2回～第6回）。それらの議論を受けながら、指導などに関わるコーチングについての理解を深める（第7回～第8回）。最後に「アクティブラーニング」「地域との連携」という観点から学校におけるスポーツのあり方を考察する（第9回～第10回）。その後、最初に定めた学習目標に応じて、それまで学んできたことを参考にしたプレゼンテーションを実施し（第11回～第13回）、自身の学習したいことを明確にしてゼミ選択を考える（第14回）。 以上のような学習過程を通じて、多様な観点からスポーツマネジメントについて議論できる能力を高めていく。なお、本講義は学生の積極的な参加が求められる講義である。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の中で課す課題（30％）プレゼンテーション（30％）及び終講レポート（40％）で評価する。講義の中で課す課題の未実施プレゼンテーションの未実施、終講レポートを提出しない場合は成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については演習ルーブリックを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本講義は演習Ⅰと合わせて履修すること。また、講義資料を配布するのでファイルなどを用意すること。プレゼンテーション資料の作成などを求めるのでプレゼンテーションソフト等を使用できるようにしておくこと、						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習課題として各回講義の前に文章読解や資料等の調査を指示するので必ず実施して参加すること。また、文章指導やプレゼンテーションなどの際には講義課題として文章作成やプレゼンテーション資料の作成を求める。（1.5時						

	間程度) 講義中に、文章指導やプレゼンテーションの指導を行うので、その指導に応じて文章の修正やプレゼンテーション資料の修正作業を復習として実施すること。また、講義内に配布した資料を各自でまとめ直す作業を行うこと、(1.5時間程度)		
オフィスアワー	金曜日2限9号館4階 研究室(9411)にて		
授業計画			担当者
第1回	ガイダンス：講義概要の理解と学習目標の設定		羽野
第2回	現代社会とスポーツマネジメント(1)：コロナ禍のスポーツとマネジメント		羽野
第3回	現代社会とスポーツマネジメント(2)：スポーツマネジメントと人権		羽野
第4回	現代社会とスポーツマネジメント(3)：情報化社会とスポーツマネジメント		羽野
第5回	現代社会とスポーツマネジメント(4)：スポーツマネジメントとソーシャルキャピタル		羽野
第6回	現代社会とスポーツマネジメント(5)：地方創生とスポーツマネジメント・スポーツ行政		羽野
第7回	より深いコーチング理解を目指して(1)：エフィカシーの観点からみるコーチング		羽野
第8回	より深いコーチング理解を目指して(2)：リーダーシップ観の多様性から考えるコーチング		羽野
第9回	学校教育の変化とスポーツ(1) アクティブラーニングとスポーツ		羽野
第10回	学校教育の変化とスポーツ(2) 地域社会との連携とスポーツ		羽野
第11回	プレゼンテーション(1)：マネジメントの観点から		羽野
第12回	プレゼンテーション(2)：コーチングの観点から		羽野
第13回	プレゼンテーション(3)：教育学の観点から		羽野
第14回	ゼミ選択に向けて：各自の学習課題の明確化		羽野
第15回	講義のまとめ：1年間の振り返り		羽野
第16回	レポート試験		羽野
教科書			
教・書籍名1	授業担当者が用意する資料によって進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	その都度紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 東洋医学によるスポーツ領域への応用ができる（入門編）。 到達目標： 学生は東洋医学に関する文献の輪読を通じてその考え方を理解できるようになる。						
授業概要	演習ⅠとⅡで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて、発表し、全員で討論する。卒論テーマに結びつくように内容をまとめることが必要である。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「学生は東洋医学に関する文献の輪読を通じてその考え方を理解できるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、授業姿勢20%、提出物30%、議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。なお、評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】 演習ルーブリック						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してこよう。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 試験は必ず行うので、授業に出席していただければ単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習に、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					孫基然	
第2回	抄読：東洋医学歴史に関する文献					孫基然	
第3回	抄読：東洋医学特徴に関する文献					孫基然	
第4回	抄読：東洋医学健康観に関する文献（気について）					孫基然	
第5回	抄読：東洋医学健康観に関する文献（血について）					孫基然	
第6回	抄読：東洋医学健康観に関する文献（水について）					孫基然	
第7回	発表準備：ここまで輪読の総括					孫基然	
第8回	輪読：東洋医学健康観に関する文献（心について）					孫基然	
第9回	輪読：東洋医学健康観に関する文献（肝について）					孫基然	
第10回	輪読：東洋医学健康観に関する文献（脾について）					孫基然	
第11回	輪読：東洋医学健康観に関する文献（肺について）					孫基然	

第12回	輪読：東洋医学健康観に関する文献（腎について）	孫基然
第13回	輪読：東洋医学健康観に関する文献（六腑について）	孫基然
第14回	発表：気血水について	孫基然
第15回	発表：五臓と健康と関わり	孫基然
第16回	レポート試験	孫基然
教科書		
教・書籍名1	プリントを配布する。	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	プリントを配布する。	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	「スポーツコーチング」「スポーツマネジメント」「ゲーム分析」をテーマに、それらについて考察するとともに、将来、スポーツが生活の一部として生涯スポーツに関わることができる。						
授業概要	「スポーツコーチング」「スポーツマネジメント」「ゲーム分析」等の先行研究や文献を通して、考察するとともに、4年次の卒業論文につながるよう、プレゼンテーションおよびディスカッションする。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	毎回のレポート（40％）課題レポート・発表（40％）最終レポート（20％）						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	毎回の演習後の小レポートを通して、口頭及び書面でフィードバック						
履修条件・注意事項	「スポーツコーチング」「スポーツマネジメント」「ゲーム分析」等の先行研究や文献を通して、考察するとともに、4年次の卒業論文につながるよう、プレゼンテーションおよびディスカッションする。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、毎回2時間程度、復習および次回のテーマについて、予習すること。						
オフィスアワー	個人研究室（9405）にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション（ガイダンス） 研究倫理に基づく責任ある研究活動を実践する。					高藤	
第2回	スポーツコーチングに関する文献研究（攻撃のグループ戦術）					高藤	
第3回	スポーツコーチングに関する文献研究（攻撃のチーム戦術）					高藤	
第4回	スポーツコーチングに関する文献研究（守備のグループ戦術）					高藤	
第5回	スポーツコーチングに関する文献研究（守備のチーム戦術）					高藤	
第6回	スポーツコーチングに関する文献研究（攻守の切り替え）					高藤	
第7回	スポーツマネジメントに関する文献研究（学校運動部）					高藤	
第8回	スポーツマネジメントに関する文献研究（地域スポーツクラブ）					高藤	
第9回	スポーツマネジメントに関する文献研究（民間スポーツクラブ）					高藤	
第10回	スポーツマネジメントに関する文献研究（企業スポーツクラブ）					高藤	
第11回	スポーツマネジメントに関する文献研究（Jリーグクラブ）					高藤	
第12回	スポーツマネジメントに関する文献研究（プロ野球球団）					高藤	
第13回	ゲーム分析に関する文献研究（サッカー）					高藤	
第14回	ゲーム分析に関する文献研究（野球）					高藤	
第15回	卒業論文作成について					高藤	
第16回	最終レポート					高藤	
教科書							
教・書籍名1	体育・部活のリスクマネジメント				教・出版社名1	信山社	
教・著者名1	小笠原正・諏訪伸夫 編				教・ISBN1	978-4-7972-8612-0	
教・書籍名2	スポーツ団体のマネジメント入門				教・出版社名2	同文館出版	
教・著者名2	新日本有限責任監査法人 編				教・ISBN2	978-4-495-20181-4	
参考書							

参・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	『現代社会における健康や能力向上』をテーマとし、これまでの運動の持つ機能や、運動に対する認識・方法論では、多くの課題や問題を解決することが難しくなってきた。現代の社会とそこでの環境が、これまでのやり方では解決困難な問題を突きつけてきたと言えよう。学生はこれまでの理論と方法論に立脚しつつも、新たに研究・開発された理論と方法論、取り分け本演習では高岡英夫氏創始による運動科学の内容を概観しつつ、これらの問題を理解・解明する足掛かりを得られることを到達目標とする。						
授業概要	人間存在が成立する基軸として、人間の意識構造に着目する運動科学における内容を学習する。すなわち高岡英夫氏により解明された身体意識の構造・メカニズム・作用について学習する。されに、人間のパフォーマンスの水準を規定する身体と動きに関する、運動科学が説く内容について学ぶ。これらは、例えばスポーツのパフォーマンスの成り立ちと、その向上のための方法論について考察するために有益であるのみならず、広く人間の織り成す様々な行為やその結果・状態などに対する理解を確たるものにする。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業時に課するレポートで50%、最終レポートで50%、をもって評価する。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	出席も重視する。授業時の指導やディスカッションをもとに、また授業時に課された課題について、各自学習を進めて、次回の授業に臨むこと。各自が授業でのテーマについて、掘り下げる学習を要求する。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	次回の授業の概要を提示するので、学生は各自それをもとに、事前の情報収集などの予習を行う。各回の授業後は、授業内容に基づいて、各自考察を記載して、後で提出する。予習1コマ・復習1コマをそれぞれ行うこと。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション：研究倫理の教育					竹内研	
第2回	高岡英夫氏創始の運動科学					竹内研	
第3回	運動科学の地平：ホーリスティックな視点					竹内研	
第4回	身体意識の定義と構造,メカニズム					竹内研	
第5回	運動進化論と魚体構造論					竹内研	
第6回	ゆるむことと組織分化：アクセルブレーキの弊害					竹内研	
第7回	ゆるむこと多面的な効果・効能					竹内研	
第8回	分散加算					竹内研	
第9回	ゆるむことへの脳の関与					竹内研	
第10回	重心感知：筋紡錘の機能					竹内研	
第11回	多重中心構造					竹内研	
第12回	ゆるんだ身体とパフォーマンス					竹内研	
第13回	ゆるんだ身体と心理的コンデショニング					竹内研	
第14回	身体意識運用の具体論					竹内研	
第15回	身体意識と認識力					竹内研	

第16回			
教科書			
教・書籍名1	究極の身体	教・出版社名1	講談社
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	本演習では、「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。学生は論理的に物事を考える力を身につけることができる。						
授業概要	本演習では、「健康とスポーツ」に関する資料を読み、自分が疑問に感じる点、興味がある点について考え、その中から各自がテーマを選択する。関連資料を収集し、その成果をまとめる。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク/プレゼンテーション/実習/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	授業姿勢(20%)、提出物(30%)、議論・発表などへの取り組み等(50%)から評価する。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については演習ルーブリックを確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のための提出物は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は予習復習が必要である。予習として、毎回の授業において問題提起と討論が可能ないように各自が必要なテキストを探し、熟読してくること。復習として、疑問点をピックアップし、その内容を次週発表出来るように準備すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室(9410研究室)において、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					山口英峰	
第2回	資料の収集方法の紹介(図書館)					山口英峰	
第3回	資料の収集方法の紹介(インターネット)					山口英峰	
第4回	資料の収集(趣味について)					山口英峰	
第5回	資料の収集(スポーツについて)					山口英峰	
第6回	資料の収集(将来の就職について)					山口英峰	
第7回	資料の収集(抄読に必要な資料-健康)					山口英峰	
第8回	資料の収集(抄読に必要な資料-スポーツ)					山口英峰	
第9回	資料の収集(抄読に必要な資料-教育)					山口英峰	
第10回	抄読(健康に関する資料)					山口英峰	
第11回	抄読(スポーツに関する資料)					山口英峰	
第12回	抄読(教育に関する資料)					山口英峰	
第13回	抄読(健康と食生活に関する資料)					山口英峰	
第14回	抄読(健康と運動に関する資料)					山口英峰	
第15回	抄読(健康と休養に関する資料)					山口英峰	
第16回	中間発表					山口英峰	
教科書							
教・書籍名1	使用しない(プリントを配布する)					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	
参考書							

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	本演習では、「運動と障がい」について健康と運動などの観点から、基礎的な知識および、「運動と障がい」についての考え方を深め、論理的に物事を考える力を身につけることができる。						
授業概要	本演習では、「運動と障がい」に関する資料を読み、自分が疑問に感じる点、興味がある点について考え、その中から各自がテーマを選択する。関連資料を収集し、その成果をまとめる。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク/プレゼンテーション/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	毎回の出席50%、課題・議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してくること。また、授業時に配布する資料や各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習及び次回への予習を行うこと。						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					天岡 寛	
第2回	資料の収集方法の紹介(図書館)					天岡 寛	
第3回	資料の収集方法の紹介(インターネット)					天岡 寛	
第4回	資料の収集(趣味について)					天岡 寛	
第5回	資料の収集(スポーツについて)					天岡 寛	
第6回	資料の収集(将来の就職について)					天岡 寛	
第7回	資料の収集(抄読に必要な資料:健康)					天岡 寛	
第8回	資料の収集(抄読に必要な資料:スポーツ)					天岡 寛	
第9回	資料の収集(抄読に必要な資料:教育)					天岡 寛	
第10回	抄読(健康に関する資料)					天岡 寛	
第11回	抄読(スポーツに関する資料)					天岡 寛	
第12回	抄読(教育に関する資料)					天岡 寛	
第13回	抄読(健康と食生活に関する資料)					天岡 寛	
第14回	抄読(健康と運動に関する資料)					天岡 寛	
第15回	抄読(健康と休養に関する資料)					天岡 寛	
第16回	最終課題					天岡 寛	
教科書							
教・書籍名1	適宜指示する				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							

参・書籍名1	適宜指示する.	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 12. つくる責任・つかう責任 / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	<p>決断力があるリーダー養成を目指し、「ディベートの根本的目的、実践的目的は何かを理解する」をテーマとして、自国の文化に自信を持ち、自国語で自分の意見を主張できること。また、相手が誰であろうとも論理的に議論や討論ができることを身につける。</p> <p>国際化時代とは、ディベート的精神を發揮する時代であり、語学の問題ではなく、必要なのは信念であり、気概であり、そして日本語によるディベート技術であり、これがリーダーの条件であることを理解する。加えてディベートが持っている論理的思考能力や意思決定能力の開発とともに人間をプラス思考にさせるディベート的精神を理解することを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>法律学である、実体的正義、手続的正義を理解し、決断のプロセスを理解する。日本人の表現方法の問題点を考察し、話し方の構造といった基礎的な理解を深めていく。また、ディベートの目的を理解しながら、ディベートの種類と役割について事例を示しながらも加えて資料とデータの効果的な収集と活用方法を理解する。そしてディベートの基本である論理構築能力が身につくようグループ討論を主体とした方式による演習を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	この科目では、グループ討論を主体とした方式のため、討論への積極的参加態度（50％）、その為の授業準備（30％）毎回のレポート評価（20％）で評価する。グループ討論、参加型学習を主体としていることから、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。詳しい評価方法は、授業時に説明する。なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、レポート試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと】						
課題や試験のフィードバック方法	ディベートによるディスカッションに対して評価を行う。						
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントを配布するため、初回授業よりファイルを用意すること。演習Ⅱとあわせて履修すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	(一社) 高梁スポーツクラブの理事による実務経験員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして参加型学習法で行う。指示に従ってノートを作成復習を行うこと。レポートやスピーチを行う為、予習を行うこと。3) レポート試験は必ず行うので、授業に出席しただけでは単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習および復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	火曜日 3限 研究室 (9401)						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動					太田真司	
第2回	決断における「事前のルール作り」					太田真司	
第3回	強い意思決定の仕組みとディスカッション					太田真司	
第4回	意思決定の仕組みづくりにおける3つのポイント					太田真司	
第5回	「反対意見」を意識できないリーダーシップ					太田真司	
第6回	自分の主張への拘りと見誤るリーダー事例					太田真司	
第7回	危機管理マネジメントの7原則					太田真司	

第8回	スポーツチームの問題に見る「信用失墜のスパイラル」	太田真司
第9回	トラブル後の謝罪で挽回するリーダーシップ	太田真司
第10回	スポーツマネジメントと決断	太田真司
第11回	有識者、専門家の助言とリーダーシップ	太田真司
第12回	反対派を納得させる仕組み作り	太田真司
第13回	決断の前のプロセスが成否のカギ	太田真司
第14回	プロセスへの納得感と批判の質	太田真司
第15回	研究倫理教育	太田真司
第16回	レポート試験	太田真司

教科書

教・書籍名1	担当者の作成する資料により進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜紹介する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	<p>学校教育における指導のあり方についての基礎的な理念・知識を身に付けることができる。</p> <p>マネジメント、コーチングの観点からスポーツの支援・振興についての基礎的な理念・知識を身に付けることができる。</p> <p>身に付けた知識を活用して、基礎的な指導の手順などを踏まえた指導ができるようになる</p> <p>身に付けた知識を活用して、学校教育の在り方、スポーツの支援の在り方について意見を述べる事が出来る。</p>						
授業概要	<p>本講義は、学校教育の在り方をマネジメント・コーチングの基礎知識を用いながら検討し、基礎的な指導の手順などを理解し、実践できるようになることを目的としている。学校教育に限らず指導方法や指導の理念は現代社会において大きく変容しているが、今回は特にアクティブラーニングに着目して考察していく。</p> <p>最初に学習目標を明確化するために、4年生の模擬授業に参加し、指導における留意点などを体感的に理解する（第1回～第3回）。その後、保健体育科におけるアクティブラーニングについて検討を行い、現在の指導者に求められている資質や能力について理解する（第4回～第7回）。そのような議論の結果を踏まえて実際に授業計画を立てて実施してもらう（第8回～第14回）。最後に授業実施における留意点を確認して（第15回）、授業を構想するための基礎的な力量を高める。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	講義の際に課す課題の提出（30％）プレゼンテーション及び模擬授業（50％）終講レポート（20点）で評価する。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	各回講義における課題は講義内で用いるのでその際にフィードバックを行う。プレゼンテーション・模擬授業は指導という形でその場でフィードバックを行う。終講課題は演習Ⅳの冒頭でフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅳを合わせて履修すること。講義内で文部科学省の資料等の収集を指示するので、資料収集が行えるような環境（PCの用意など）を行っておくこと。加えて、講義資料を保管するファイルなどを用意しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	高等学校での教員経験のある教員が指導案の作成方法等について指導を行う。				
事前学習・事後学習とその時間	各回講義の予習に、資料の収集・読解若しくは文章の配布を行い、そのまともを課題として課す（1時間半程度）。また、各回講義で修正点などの指導を行うので、各自で提出課題の振り返りを行うこと（1時間半程度）。						
オフィスアワー	水曜日4限 研究室（9301）にて						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について						倉知典弘
第2回	模擬授業の体験：保健領域						倉知典弘
第3回	模擬授業の体験：実技領域						倉知典弘
第4回	保健体育科の目標：学習指導要領の検討						倉知典弘
第5回	アクティブラーニングの基礎理解						倉知典弘
第6回	アクティブラーニングの手法（1）グループワークの手法						倉知典弘
第7回	アクティブラーニングの手法（2）：ICTの活用						倉知典弘
第8回	授業構想の基礎：時案作成のために						倉知典弘
第9回	授業計画の作成法（1）授業目標の設定法						倉知典弘
第10回	授業計画の作成法（2）アクティビティをデザインする						倉知典弘
第11回	授業計画の作成法（3）講義のまとめ方						倉知典弘
第12回	模擬授業（1）導入のあり方						倉知典弘
第13回	模擬授業（2）概念の説明などの観点から						倉知典弘

第14回	模擬授業(3) グループワーク支援の観点から	倉知典弘
第15回	講義のまとめ: 指導における注意点は何か	倉知典弘
第16回	レポート課題	倉知典弘
教科書		
教・書籍名1	各回講義内容に応じて担当者が指示する	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	適宜紹介する	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	本演習では、「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。学生は論理的に物事を考える力を身につけることができる。						
授業概要	本演習では、「健康とスポーツ」に関する資料を読み、自分が疑問に感じる点、興味がある点について考え、その中から各自がテーマを選択する。関連資料を収集し、その成果をまとめる。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/ディベート/プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業姿勢(20%)、提出物(30%)、議論・発表などへの取り組み等(50%)から総合的に評価する。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は、講義内でフィードバックする。 コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は予習復習が各2時間程度必要である。予習として、毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自が必要なテキストを探し、熟読してくる。復習として、疑問点をピックアップし、その内容を次週発表出来るように準備すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室(9402研究室)において、毎週月曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					高原皓全	
第2回	資料の収集方法の紹介(図書館)					高原皓全	
第3回	資料の収集方法の紹介(インターネット)					高原皓全	
第4回	資料の収集(趣味について)					高原皓全	
第5回	資料の収集(スポーツについて)					高原皓全	
第6回	資料の収集(将来の就職について)					高原皓全	
第7回	資料の収集(抄読に必要な資料-健康)					高原皓全	
第8回	資料の収集(抄読に必要な資料-スポーツ)					高原皓全	
第9回	資料の収集(抄読に必要な資料-教育)					高原皓全	
第10回	抄読(健康に関する資料)					高原皓全	
第11回	抄読(スポーツに関する資料)					高原皓全	
第12回	抄読(教育に関する資料)					高原皓全	
第13回	抄読(健康と食生活に関する資料)					高原皓全	
第14回	抄読(健康と運動に関する資料)					高原皓全	
第15回	抄読(健康と休養に関する資料)					高原皓全	
第16回							
教科書							
教・書籍名1	資料を配布する				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-405		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	「チームビルディング」「チームワーキング」「コーチング」をテーマに、それらについて考察するとともに、将来、スポーツの場面だけでなくビジネスの場でも役に立つことを学ぶことができる。						
授業概要	「チームビルディング」「チームワーキング」「コーチング」等の先行研究や文献を通じて、考察するとともに4年次の卒業論文につながるよう、プレゼンテーションおよびディスカッションする。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	毎回のレポート（40％） 課題レポート（40％） 授業姿勢（20％）						
ループリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルレポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントの配布をするため、初回授業よりファイルを用意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、本学硬式野球部の監督としての実務経験をもつ教員が、その経験を活かし、スポーツ現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、テーマに関連する本、記事、先行研究の文献にて復習する。						
オフィスアワー	個人研究室（9411）にて、金曜日2限に実施						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					羽野真哉	
第2回	チームビルディングとは何か					羽野真哉	
第3回	チームビルディング（タックマンモデル）					羽野真哉	
第4回	チームビルディングの活用					羽野真哉	
第5回	チームワーキングとは何か					羽野真哉	
第6回	チームワーキング（チーム視点）					羽野真哉	
第7回	チームワーキング（全員リーダー視点）					羽野真哉	
第8回	チームワーキングの活用					羽野真哉	
第9回	コーチングとは何か					羽野真哉	
第10回	コーチングの基本理論					羽野真哉	
第11回	結果を出すコーチのルール					羽野真哉	
第12回	コーチングが人を動かす					羽野真哉	
第13回	人が育つ言葉					羽野真哉	
第14回	組織づくりのリーダーの役割					羽野真哉	
第15回	指導者と選手					羽野真哉	
第16回	最終レポート					羽野真哉	
教科書							
教・書籍名1	担当者の作成資料により進める。					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	

参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 東洋医学によるスポーツ領域への応用ができる（基礎編）。 到達目標： 学生は30種類近く整体手技法を身につけるようになる。						
授業概要	本演習では整体療法実技に関する文献を解説した後に、二人ずつペアを組んで練習し、期末テストも実技で評価するため、手技法の問題点を少しずつ修正・改正していくよう指導する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「学生は30種類近く整体手技法を身につけるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、総合的に評価する。具体的には、授業姿勢20%、提出物30%、実技(50%)で評価する。なお、評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してくること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 試験は必ず行うので、授業に出席していただければ単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習に、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					孫基然	
第2回	実技：一指禅推法の習得					孫基然	
第3回	実技：ローリング法の習得					孫基然	
第4回	実技：揉法の習得					孫基然	
第5回	実技：摩法の習得					孫基然	
第6回	実技：擦法の習得					孫基然	
第7回	中間テスト：ここまでの実技					孫基然	
第8回	実技：推法の習得					孫基然	
第9回	実技：抹法の習得					孫基然	
第10回	実技：振法の習得					孫基然	

第11回	実技：捏法の習得	孫基然
第12回	実技：按法の習得	孫基然
第13回	実技：点法の習得	孫基然
第14回	実技：絢法の習得	孫基然
第15回	発表会：実技に関する感想	孫基然
第16回	実技試験	孫基然
教科書		
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	プリントを配布する。	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-406		
必修・選択	演習	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 11. 住み続けられるまちづくりを / 17. パートナーシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	「スポーツコーチング」「スポーツマネジメント」「ゲーム分析」をテーマに、それらについて考察するとともに、学生が将来、スポーツが生活の一部として生涯スポーツに関わることができる。						
授業概要	「スポーツコーチング」「スポーツマネジメント」「ゲーム分析」等の先行研究や文献を通して、考察するとともに、4年次の卒業論文につながるよう、プレゼンテーションおよびディスカッションする。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	毎回のレポート（40％）発表（40％）最終レポート（20％）						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	毎回の演習を通して、口頭及び書面でフィードバック						
履修条件・注意事項	プレゼンテーションにおける配布資料を作成すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、2時間程度復習および次回の発表について、予習すること。						
オフィスアワー	個人研究室（9号館4階）にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					高藤	
第2回	少年団のマネジメント					高藤	
第3回	少年団のコーチング					高藤	
第4回	地域スポーツクラブのマネジメント					高藤	
第5回	地域スポーツクラブのコーチング					高藤	
第6回	学校運動部のマネジメント					高藤	
第7回	学校運動部のコーチング					高藤	
第8回	民間スポーツクラブのマネジメント					高藤	
第9回	民間スポーツクラブのコーチング					高藤	
第10回	プロスポーツクラブのマネジメント					高藤	
第11回	プロスポーツクラブのコーチング					高藤	
第12回	ゲーム分析（守備）					高藤	
第13回	ゲーム分析（攻撃）					高藤	
第14回	ゲーム分析（守備→攻撃）					高藤	
第15回	ゲーム分析（攻撃→守備）					高藤	
第16回	最終レポート					高藤	
教科書							
教・書籍名1	少年スポーツダメな指導者バカな親				教・出版社名1	合同出版	
教・著者名1	永井洋一				教・ISBN1	978-4-7726-0398-0	
教・書籍名2	人を束ねる				教・出版社名2	幻冬舎新書	
教・著者名2	久米一正				教・ISBN2	978-4-344-98256-7	
参考書							
参・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）				参・出版社名1		

参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	『これまで多くの運動学習方法や指導方法が研究・実践されてきた。』をテーマとし、また、そこに関わる分野も学問的な認識を扱う分野に始まり、その対象としての職業スキルやパフォーマンス、芸術におけるスキルやパフォーマンス、そして運動・スポーツのスキルやパフォーマンスなど多岐に亘る。しかし総じていえば、目標達成ということになるだろう。近年、コーチングとして新たな目標達成プログラムが提起され、多くの分野で成果をあげている。本演習では学生はコーチングの理論と方法を理解して、それぞれが目標達成のためのスキルを用いることができるようになることを到達目標とする。						
授業概要	認知科学、脳科学、心理学などの研究成果に裏打ちされた、最も代表的な目標達成プログラムである、TPIEの理論と方法について学習する。演習を通して、各自が自らの目標を明確に設定でき、その目標達成のためにゴールのリアリティを高めていく方法を習得する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業時のレポート（30％）及び最終レポート（70％）をもって評価する。 評価のためのレポートは授業時にフィードバックする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	本演習は予習及び復習が必要である。指示された内容について、各自予習・復習を行うこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	次回の授業の概要を提示するので、学生は各自それをもとに、事前の情報収集などの予習を行う。 各回の授業後は、授業内容に基づいて、各自考察を記載して、後で提出する。予習1コマ・復習1コマをそれぞれ行うこと。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション：研究倫理の教育					竹内研	
第2回	コーチングとは					竹内研	
第3回	コーチングとメンタルトレーニング					竹内研	
第4回	コーチングの始まり					竹内研	
第5回	RASとスコトマ					竹内研	
第6回	情動記憶					竹内研	
第7回	現状のゲシュタルトとゴールのゲシュタルト					竹内研	
第8回	セルフイメージ					竹内研	
第9回	セルフエフィカシーとセルフエスティーム					竹内研	
第10回	ゴール設定の仕方					竹内研	
第11回	コンフォートゾーンとハイパフォーマンス					竹内研	
第12回	セルフトークのコントロール					竹内研	
第13回	アファメーション					竹内研	
第14回	ビジュアライゼーション					竹内研	
第15回	最終レポート作成					竹内研	
第16回							

教科書			
教・書籍名1	コンフォートゾーンの作り方	教・出版社名1	フォレスト出版
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	本演習では、「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。学生は健康について様々な視点から考える能力を身につけることができる。						
授業概要	演習Ⅲで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて、発表し、全員で討論する。三年生の演習に結びつくように内容にまとめる必要がある。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション/実習/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	授業姿勢(20%)、提出物(30%)、議論・発表などへの取り組み等(50%)から評価する。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については演習ルーブリックを確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のための提出物は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備および熟読が必要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が必要である。毎回の授業において問題提起と討論が可能ないように各自に必要なテキストを探し、熟読してくる。復習として、疑問点をピックアップし、その内容を次週発表出来るように準備すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室(9410研究室)において、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					山口英峰	
第2回	抄読(スポーツに関する資料)					山口英峰	
第3回	抄読(教育に関する資料)					山口英峰	
第4回	抄読(健康と食生活に関する資料)					山口英峰	
第5回	抄読(健康と運動に関する資料)					山口英峰	
第6回	抄読(健康と休養に関する資料)					山口英峰	
第7回	発表準備(スポーツに関する資料)					山口英峰	
第8回	発表準備(教育に関する資料)					山口英峰	
第9回	発表準備(健康と食生活に関する資料)					山口英峰	
第10回	発表準備(健康と運動に関する資料)					山口英峰	
第11回	発表準備(健康と休養に関する資料)					山口英峰	
第12回	発表(スポーツに関する資料)					山口英峰	
第13回	発表(教育に関する資料)					山口英峰	
第14回	発表(健康と食生活に関する資料)					山口英峰	
第15回	中間報告発表会事前準備					山口英峰	
第16回	中間報告発表会					外部講師	
教科書							
教・書籍名1	使用しない(プリントを配布する)					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	
参考書							

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	本演習では、「障がい者とスポーツ」について障がい者とスポーツなどの観点から、基礎的な知識および、「障がい者とスポーツ」についての考え方を深めることができる。						
授業概要	演習Ⅲで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて発表し、全員で討論する。4年生の演習及び卒業論文に結びつくように内容にまとめる必要がある。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/グループワーク/プレゼンテーション/フィールドワーク/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	毎回の出席50%、課題・議論・発表などへの取り組み等(50%)で評価する。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してくること。また、授業時に配布する資料や各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習及び次回への予習を行うこと。						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					天岡 寛	
第2回	抄読(スポーツに関する資料)					天岡 寛	
第3回	抄読(教育に関する資料)					天岡 寛	
第4回	抄読(健康と食生活に関する資料)					天岡 寛	
第5回	抄読(健康と運動に関する資料)					天岡 寛	
第6回	抄読(健康と休養に関する資料)					天岡 寛	
第7回	発表準備(スポーツに関する資料)					天岡 寛	
第8回	発表準備(教育に関する資料)					天岡 寛	
第9回	発表準備(健康と食生活に関する資料)					天岡 寛	
第10回	発表準備(健康と運動に関する資料)					天岡 寛	
第11回	発表準備(健康と休養に関する資料)					天岡 寛	
第12回	発表(スポーツに関する資料)					天岡 寛	
第13回	発表(教育に関する資料)					天岡 寛	
第14回	発表(健康と食生活に関する資料)					天岡 寛	
第15回	中間報告発表会(外部講師)					天岡 寛	
第16回	最終課題					天岡 寛	
教科書							
教・書籍名1	適宜指示する					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	
参考書							

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 12. つくる責任・つかう責任 / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>実行力あるリーダーシップを醸成するために「ディベートの根本的目的、実践的目的は何かを理解する」をテーマとして、単なる口舌の技術ではなく、自国の文化に自信を持ち、自国語で自分の意見を主張できること。また、相手が誰であろうとも論理的に議論や討論ができることを身につける。</p> <p>国際化時代とは、ディベート的精神を發揮する時代であり、語学の問題ではなく、必要なのは信念であり、気概であり、そして日本語によるディベート技術であり、これがリーダーの条件であることを理解する。加えてディベートが持っている論理的思考能力や意思決定能力の開発とともに人間をプラス思考にさせるディベート的精神を理解することを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>実行のための人間関係と人事の要諦について学ぶ。日本人の表現方法の問題点を考察し、話し方の構造といった基礎的な理解を深めていく。また、ディベートの目的を理解しながら、ディベートの種類と役割について事例を示しながらも加えて資料とデータの効果的な収集と活用方法を理解する。そしてディベートの基本である論理構築能力が身につくようグループ討論を主体とした方式による演習を行う。実践での問題発見と解決のノウハウと思考について学ぶ。また、実行し、信頼される人の条件を考察する。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	この科目では、グループ討論を主体とした方式のため、討論への積極的参加態度（10%）、その為の授業準備（20%）で評価する。毎回のレポート評価(30%)、レポート試験（40%）で評価する。グループ討論、参加型学習を主体としていることから、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。詳しい評価方法は、授業時に説明する。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと】						
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、レポート試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントを配布するため、初回授業よりファイルを用意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	(一社) 高梁スポーツクラブの理事による実務経験員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして参加型学習法で行う。支持に従ってノートを作成復習を行うこと。レポートやスピーチを行う為、予習を行うこと。						
オフィスアワー	火曜日3限 研究室(9401)						
授業計画						担当者	
第1回	実行力のための人間関係と人事の要諦					太田真司	
第2回	反対意見を取り入れて修正すると「より良い案に」になる事例					太田真司	
第3回	信頼関係の根底には「仕事」を置く					太田真司	
第4回	反対派を側におく人事の事例					太田真司	
第5回	リーダーによる意見の傾聴による、組織づくり					太田真司	
第6回	本当に実行すべき課題をリーダーはどのように見つけるべきか					太田真司	

第7回	リーダーの仕事は、部下が気づかない「大きな問題点」を見つける	太田真司
第8回	課題の発見をするための本や新聞の読み方	太田真司
第9回	正しい解をするか決断をするかの事例	太田真司
第10回	絶対的な正解より解決法と決断力	太田真司
第11回	「判断の軸」を部下に示すことは問題解決の第一歩	太田真司
第12回	リーダー自身が「自分を知る」ことの大切さ	太田真司
第13回	「部下ができないこと」を実行するのがリーダーの役割	太田真司
第14回	部下の固定観念への対策	太田真司
第15回	研究倫理教育	太田真司
第16回	レポート試験	

教科書		
-----	--	--

教・書籍名1	担当者の作成する資料により進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書		
-----	--	--

参・書籍名1	適宜紹介する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	学校教育において高めるべきとされている力量などについての基礎的な理念・知識を理解している。 教育学の基礎的な知識などを用いて、学校教育や子どもたちが置かれている現状、スポーツの支援の現状を分析することができる。 上記の知識などを用いて、適切な学習支援計画を作成し、実施できる。 各自の興味関心と社会的ニーズをもとに主体的に研究テーマを設定できる。						
授業概要	演習Ⅲで学んだことを深め、実技の科目の指導案の作成及び模擬授業の実施ができるようになることが本講義の目標である。 保健体育科の目標は、技術面の熟達やスポーツを楽しむことだけにあると考え違いをする学生も多い。しかし、現在の保健体育科はそのレベルを超えて多様な学習目標を含んでいる。そこで本講義の最初に学習目標をリテラシー・エフィカシー・シティズンシップの3点から検討する（第1回～第4回）。また、近年のエビデンスベースの学習評価などが主張されており、学習をより系統的・客観的に評価する手法について議論が行われている。これは目標にも関わる事項である。そこで、学習評価方法についても指標の活用という点から検討する（第5回～第6回）。 なお、この段階は学生のプレゼンテーションによって学習を進めていく。 その後、これまでの議論を参考にして指導案を作成してもらい、模擬授業を実施してもらおう（第7回～第13回）。各回安全管理・ICT活用等のテーマを定め、学習を深め実践力を高めていく。そして、1年間のまとめとして授業の進め方への理解度を確認するとともに、授業や教育について学習を進める過程で興味を持ったことを卒業論文のテーマとして選択してもらおう（第14回～第15回）。春休みには設定したテーマに応じた学習を進めてもらう予定である。 なお、運動指導の方法等を体験的に学ぶため、学科で実施する健康教室への参加を求める。詳細は初回の講義時に指示をする。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業内で課す課題（30％）プレゼンテーション及び模擬授業（50％）及び終講レポート（20％）により評価する。全ての課題などを実施しなかった場合、成績評価は行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	各回講義の課題及びプレゼンテーション、模擬授業は指導という形で講義内でフィードバックを行う。終講レポートについては、オンラインで各自にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習Ⅲと合わせて履修すること。資料収集や資料作成を行うため、PC等の基礎的な技能を身に付けておくこと。また、資料を保管するためのファイルなどを用意しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	高等学校の教員の経験をもつ教員が模擬授業における指導方法等の指導を行う。				
事前学習・事後学習とその時間	本演習は学生のプレゼンテーションと模擬授業によって進められる。そのため、担当の学生はそのための準備を行うことが求められる。また、担当以外の学生も授業資料等を配布するのでその内容をまとめて提出することが求められる（1時間半程度）。授業後は、担当者は担当教員及び学生からのコメントをまとめ、自身のプレゼンテーションの振り返りを行うことが求められる。また、担当以外の学生はプレゼンテーションや模擬授業から学んだことをまとめておくことが求められる（1時間半）						
オフィスアワー	水曜日 4限 研究室（9301）						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					倉知典弘	
第2回	保健体育科の目標を考える（1）リテラシーについて					倉知典弘	
第3回	保健体育科の目標を考える（2）エフィカシーについて					倉知典弘	

第4回	保健体育科の目標を考える (3) シティズンシップ	倉知典弘
第5回	保健体育科の評価を考える (1) 多様な評価法の理解	倉知典弘
第6回	保健体育科の評価を考える (2) 尺度を活用した評価法	倉知典弘
第7回	学習指導案の作成方法	倉知典弘
第8回	模擬授業 (1) 実技の安全管理を中心として	倉知典弘
第9回	模擬授業 (2) 実技の授業の流れ	倉知典弘
第10回	模擬授業 (3) 実技における言語活動の充実	倉知典弘
第11回	模擬授業 (4) 実技におけるICTの活用	倉知典弘
第12回	模擬授業 (5) 実技における評価方法	倉知典弘
第13回	模擬授業 (6) 実技における振り返り活動	倉知典弘
第14回	卒業論文の執筆に向けて：模擬授業実践から考える	倉知典弘
第15回	卒業論文テーマの発表	倉知典弘
第16回	レポート試験	倉知典弘

教科書

教・書籍名1	講義担当者が講義内容に応じて資料を用意する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜紹介する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	本演習では、「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。学生は健康について様々な視点から考える能力を身につけることができる。						
授業概要	演習Ⅲで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて、発表し、全員で討論する。三年生の演習に結びつくように内容にまとめる必要がある。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション/実習/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	授業姿勢(20%)、提出物(30%)、議論・発表などへの取り組み等(50%)から評価する。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のための提出物は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備および熟読が必要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が必要である。毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してくる。復習として、疑問点をピックアップし、その内容を次週発表出来るように準備すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室(9402研究室)において、毎週月曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					高原皓全	
第2回	抄読(スポーツに関する資料)					高原皓全	
第3回	抄読(教育に関する資料)					高原皓全	
第4回	抄読(健康と食生活に関する資料)					高原皓全	
第5回	抄読(健康と運動に関する資料)					高原皓全	
第6回	抄読(健康と休養に関する資料)					高原皓全	
第7回	発表準備(スポーツに関する資料)					高原皓全	
第8回	発表準備(教育に関する資料)					高原皓全	
第9回	発表準備(健康と食生活に関する資料)					高原皓全	
第10回	発表準備(健康と運動に関する資料)					高原皓全	
第11回	発表準備(健康と休養に関する資料)					高原皓全	
第12回	発表(スポーツに関する資料)					高原皓全	
第13回	発表(教育に関する資料)					高原皓全	
第14回	発表(健康と食生活に関する資料)					高原皓全	
第15回	中間報告発表会事前準備					高原皓全	
第16回	中間報告発表会					外部講師	
教科書							
教・書籍名1	使用しない(プリントを配布する)					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	
参考書							

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-406		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	「スポーツ・コンプライアンス」をテーマに、スポーツ現場における現状と問題点を学び、スポーツ現場での指導、またビジネスの場面でも役に立つことを身に着けることができる。						
授業概要	「スポーツ・コンプライアンス」の先行研究や文献研究を通じて、考察するとともに4年次の卒業論文につながるよう、プレゼンテーションおよびディスカッションする。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	開会のレポート (40%) 課題レポート (40%) 授業姿勢 (20%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。最終レポートについては、ユニバーサルレポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントの配布をするため、初回授業よりファイルを用意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、本学硬式野球部の監督としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、スポーツ現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、テーマに関連する本、記事、先行研究の文献にて復習する。						
オフィスアワー	個人研究室 (9411) にて、金曜日2限に実施						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション (ガイダンス)					羽野真哉	
第2回	コンプライアンスとは何か					羽野真哉	
第3回	スポーツ・コンプライアンスとは何か					羽野真哉	
第4回	スポーツの価値とは何か					羽野真哉	
第5回	体罰・暴力・暴言					羽野真哉	
第6回	ハラスメント					羽野真哉	
第7回	ドーピング					羽野真哉	
第8回	パラ・ドーピング					羽野真哉	
第9回	八百長・不正行為					羽野真哉	
第10回	スポーツの犯罪・違法行為					羽野真哉	
第11回	スポーツ界のひずみ					羽野真哉	
第12回	スポーツの価値と力を守り、信頼を勝ち取るために					羽野真哉	
第13回	スポーツ界の現状					羽野真哉	
第14回	スポーツ界の未来					羽野真哉	
第15回	現状と比較					羽野真哉	
第16回	最終レポート					羽野真哉	
教科書							
教・書籍名1	担当者の作成資料により進める。					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	

参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅴ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 東洋医学によるスポーツ領域への応用ができる（応用前編）。 到達目標： 学生は灸療法を身につけるようになる。						
授業概要	本演習では、特に東洋医学からのアプローチに着目し、スポーツ、福祉や健康との関わりから考えていく。そして、灸療法を身につけるようになる実践を通して検証していく。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「学生は灸療法を身につけるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、授業姿勢20%、提出物30%、実技等(50%)で評価する。なお、評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。本講義は講義内容理解のために予習復習が必要である。予習として、毎回の授業において問題提起と討論が可能のように各自が必要なテキストを探し、熟読してくること。復習として、疑問点をピックアップし、その内容を次週発表出来るように準備すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 試験は必ず行うので、授業に出席してただけでは単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習に、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					孫基然	
第2回	輪読：灸療法について					孫基然	
第3回	実技：米粒大艾柱の作り方					孫基然	
第4回	実技：米粒大艾柱の作り方の復習					孫基然	
第5回	実技：米粒大艾柱に点火の仕方					孫基然	
第6回	実技：米粒大艾柱の作り方に関する小テスト					孫基然	
第7回	実技：半米粒大艾柱の作り方					孫基然	
第8回	実技：半米粒大艾柱の作り方の復習					孫基然	
第9回	講義：吸玉灸療法の解説					孫基然	
第10回	実技：吸玉灸療法の解説					孫基然	

第11回	実技：吸玉灸療法の復習	孫基然
第12回	実技：吸玉灸療法のテスト	孫基然
第13回	実技：光灸療法の練習	孫基然
第14回	実技：光灸療法の復習	孫基然
第15回	発表会：灸療法に関する感想	孫基然
第16回	実技試験	孫基然
教科書		
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	プリントを配布する。	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	演習Ⅴ			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	3年次の演習Ⅲ・演習Ⅳにおける学習内容をベースに学生が、「スポーツマネジメント」「スポーツコーチング」「ゲーム分析」等をテーマに卒業論文作成の現状報告を理論的にプレゼンテーションできる。						
授業概要	各自の卒業論文のテーマについて、作成経過を発表し、ディスカッションする。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	プレゼンテーション（50%）ディスカッション参加度（20%）レポート（30%）						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	毎回の演習時に口頭及び書面でフィードバック						
履修条件・注意事項	無断欠席は認めない。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、2時間程度、復習および次回のテーマについて、予習すること。						
オフィスアワー	個人研究室（9405）にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション（ガイダンス） 研究倫理に基づく責任ある研究活動を実践する。					高藤	
第2回	緒言（仮説）					高藤	
第3回	緒言（目的）					高藤	
第4回	調査方法					高藤	
第5回	調査対象・調査内容（項目）					高藤	
第6回	調査結果の分析方法					高藤	
第7回	結果（マネジメント）					高藤	
第8回	結果（コーチング）					高藤	
第9回	結果（ゲーム分析）					高藤	
第10回	考察（マネジメント）					高藤	
第11回	考察（コーチング）					高藤	
第12回	考察（ゲーム分析）					高藤	
第13回	結論（マネジメント）					高藤	
第14回	結論（コーチング）					高藤	
第15回	結論（ゲーム分析）					高藤	
第16回	最終レポート					高藤	
教科書							
教・書籍名1	論文・レポートの文章作成技法 論理の文章術				教・出版社名1	エディター	
教・著者名1	古郡延治				教・ISBN1	4-88888-366-1	
教・書籍名2	プレゼンテーションを学べ！！				教・出版社名2	ディスカバー	
教・著者名2	アンドリュー・ブラッドバリー				教・ISBN2	978-4-88759-464-7	
参考書							

参・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅴ			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	『現代社会において、運動の持つ役割、運動に対する認識』をテーマとし、運動へのかかわり方はさまざま多様化し、かつ幾多の問題も存在する。社会・生活環境はそこに暮らす人々の健康や体力などに、現代ならではの影響を及ぼしている。その特性に焦点を当てながら、運動やスポーツが我々の直面する様々な問題の改善・解決に貢献することができる可能性について考え、これまでの運動・スポーツの実践方法では及ばない範疇があることを認識することができる。その上で、学生は既存の運動方法を超克する運動のメソッドを知ることができることを到達目標とする。						
授業概要	運動分析、運動とメンタルヘルス、身体的機能・健康と運動の関係性、運動・スポーツに関わる心理、運動パフォーマンスの成り立ち、運動指導の概念と方法、などについてこれまでの考え方を概観する。そのうえで、従来の概念やアプローチでは到達できない、身体と運動及びマインドの有様について、新たなパラダイムに基づく理論と方法を学べる。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業時のレポート（30％）及び最終レポート（70％）をもって評価する。評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	本演習は予習及び復習が必要である。指示された内容について、各自予習・復習を行うこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	次回の授業の概要を提示するので、学生は各自それをもとに、事前の情報収集などの予習を行う。各回の授業後は、授業内容に基づいて、各自考察を記載して、後で提出する。予習1コマ・復習1コマをそれぞれ行うこと。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション：研究倫理の教育					竹内研	
第2回	自然科学的運動分析					竹内研	
第3回	人間学的運動分析					竹内研	
第4回	運動科学による運動分析					竹内研	
第5回	運動とメンタルヘルス					竹内研	
第6回	身体とメンタルヘルス					竹内研	
第7回	メンタルコントロールと身体					竹内研	
第8回	動機・意欲とマインド					竹内研	
第9回	運動行動を規定するマインド					竹内研	
第10回	心理的競技能力を規定するもの					竹内研	
第11回	運動パフォーマンスを規定するもの					竹内研	
第12回	身体機能の基盤					竹内研	
第13回	身体意識の存在					竹内研	
第14回	身体とマインド					竹内研	
第15回	最終レポート作成					竹内研	
第16回							

教科書			
教・書籍名1	スポーツ運動学	教・出版社名1	明和出版
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅴ			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	「福祉、健康、運動の関わりについて」をテーマとする。学生は実験を通してそれらの相互関係を理解することができる。						
授業概要	本演習では、特に運動生理学からのアプローチに着目し、福祉や健康について運動や運動処方との関わりから考えていく。そして、自らの健康と体力を維持し、生活の質を向上させるためになすべきことを、具体的な実験あるいは実践を通して検証していく。これら様々な結果を融合させて、福祉現場や運動実践現場などの応用としていきたいと考えている。＜演習の実施方法＞自分が疑問に感じること、興味があることについて考え、自分自身に問題提議する。その中から各自がテーマを選択し、関連資料を収集し、その成果をまとめて発表し、全員で討論する。その後、検証すべき課題を設定し、実験あるいはフィールド調査等の手法を用いて研究を進めていく。基本的技術として、実験機器の操作法や実験手法やパソコンによるデータ集計、作図方法、プレゼンテーション技術などを学ぶ。十分な理解を得るために、授業時間以外にも実験ならびにデータ整理等の指導を行う予定である。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢(20%)、提出物(30%)、議論・発表などへの取り組み等(50%)から評価する。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については演習ルーブリックを確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のための提出物は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は予習復習が必要である。予習として、毎回の授業において問題提起と討論が可能のように各自が必要なテキストを探し、熟読してくること。復習として、疑問点をピックアップし、その内容を次週発表出来るように準備すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9410研究室）において、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					山口英峰	
第2回	資料の収集方法の紹介（図書館）					山口英峰	
第3回	資料の収集方法の紹介（インターネット）					山口英峰	
第4回	資料の収集（趣味について）					山口英峰	
第5回	資料の収集（スポーツについて）					山口英峰	
第6回	資料の収集（将来の就職について）					山口英峰	
第7回	資料の収集（抄読に必要な資料－健康）					山口英峰	
第8回	資料の収集（抄読に必要な資料－スポーツ）					山口英峰	
第9回	資料の収集（抄読に必要な資料－教育）					山口英峰	
第10回	抄読（健康に関する資料）					山口英峰	
第11回	抄読（スポーツに関する資料）					山口英峰	
第12回	抄読（教育に関する資料）					山口英峰	
第13回	抄読（健康と食生活に関する資料）					山口英峰	
第14回	抄読（健康と運動に関する資料）					山口英峰	
第15回	抄読（健康と休養に関する資料）					山口英峰	
第16回	中間発表					山口英峰	

教科書			
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅴ			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	本演習では、スポーツを『any physical activity』としてとらえ、障がい者を対象とした「スポーツ」についての考え方を理解することができる。						
授業概要	本演習では、「アダプテッドスポーツ」に関する資料を読み、自分が疑問に感じる点、興味がある点について考え、その中から各自がテーマを選択する。関連資料を収集し、その成果をまとめる。基本的技術として、パソコンによるデータ集計、作図方法、プレゼンテーション技術などを学ぶ。十分な理解を得るために、授業時間以外にも実験ならびにデータ整理等の指導を行う予定である。また、学外でのボランティア活動を行う予定である。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	課題・議論・発表などへの取り組み等（50％）、受講態度（50％） なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。 学外ボランティア活動も行う予定である。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自で必要なテキストを探し、熟読してくること。また、授業時に配布する資料や各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習及び次回への予習を行うこと。						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					天岡 寛	
第2回	資料の収集方法の紹介（図書館）					天岡 寛	
第3回	資料の収集方法の紹介（インターネット）					天岡 寛	
第4回	資料の収集（趣味について）					天岡 寛	
第5回	資料の収集（スポーツについて）					天岡 寛	
第6回	資料の収集（将来の就職について）					天岡 寛	
第7回	資料の収集（抄読に必要な資料：障害とは）					天岡 寛	
第8回	資料の収集（抄読に必要な資料：スポーツとは）					天岡 寛	
第9回	資料の収集（抄読に必要な資料：アダプテッド・スポーツとは）					天岡 寛	
第10回	抄読（障害に関する資料）					天岡 寛	
第11回	抄読（スポーツに関する資料）					天岡 寛	
第12回	抄読（アダプテッド・スポーツに関する資料）					天岡 寛	
第13回	抄読（健康に関する資料）					天岡 寛	
第14回	抄読（運動に関する資料）					天岡 寛	
第15回	抄読（休養に関する資料）					天岡 寛	
第16回	発表会					天岡 寛	
教科書							
教・書籍名1	適宜指示する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		

教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する.	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅴ			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	5. ジェンダー平等を実現しよう / 8. 働きがいも経済成長も  						
到達目標	リーダーが実行のためのビジョンづくりとチーム作りのために「コーチ論」をテーマとしてコーチングの目的を学び、学生が、自発的にコーチングができる能力を身につけることができる。 学生が、世界の監督独自のリーダーシップを知ることで、理想のコーチング像と勝つための戦略作り、アカデミー世代へのアプローチを理解し、自ら考えコーチングできることを到達目標とする。						
授業概要	リーダーの役割である仕組みづくりを学ぶ。コーチが監督に提案をとおすための「比較優位」の考え方を学ぶ。情報化社会の中での情報の取捨すること、組織の情報危機管理を学ぶ。学生が現場で自信を持ってリーダーシップを発揮するために、実行プランの作成、コーチングの目的、コーチ、選手の心理学、コーチに求められる知識、チームビルディング、戦術、トレーニング方法や複雑な仕組みについて考察する。また具体的な事例を示しながら、コーチングが身につくようにグループ討論を主体とした方式による演習を行なう。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	毎回のレポート評価(40%) 毎回のプレゼンテーション・議論 (60%)						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと】						
課題や試験のフィードバック方法	課題及びプレゼンテーションについては講義内指導という形でフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントを配布するため、初回授業よりファイルを用意すること。演習Ⅳと合わせて履修すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	一社) 高梁スポーツクラブの理事による実務経験員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして参加型学習法で行う。支持に従ってノートを作成復習を行うこと。レポートやスピーチを行う為、予習を行うこと。予習および復習には、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	火曜日 3限 研究室 (9401)						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動					太田真司	
第2回	ビジョンづくりと実行プランの違い					太田真司	
第3回	チーム作りにおける失敗事例					太田真司	
第4回	リーダーが考える「比較優位」について					太田真司	
第5回	セクショナリズムと上司の視点					太田真司	
第6回	「比較優位のロジック」と「熱意ある思い」の大切さ					太田真司	
第7回	リーダーが考える全体最適と部分最適について					太田真司	
第8回	リーダーの意向や動きを想像するのは「良い付度」					太田真司	
第9回	リーダーが情報化社会の中で情報を制し組織をまとめる事例					太田真司	
第10回	情報が共有されないことの組織のリスク					太田真司	
第11回	組織の危機管理は「まずい情報」を早くあげさせること					太田真司	
第12回	実行プランを策定しない失敗事例					太田真司	

第13回	民主主義の正道の実行プロセス事例	太田真司
第14回	リーダーシップを発揮し、実行できる組織にするために	太田真司
第15回	有識者のレポートと現場が作成する実行プランの違い	太田真司
第16回	レポート試験	
教科書		
教・書籍名1	担当者の作成する資料により進める。	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	適宜紹介する。	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	演習Ⅴ			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・演習Ⅲ・Ⅳで決定したテーマに関する歴史的社会的背景を説明できる ・テーマに関わる基礎的な概念等を批判的に考察することができる ・多様な調査手法を理解し、テーマに適した研究手法を選択することができる ・多様な評価手法（指標等）を理解し、テーマに即した指標などを選択できる ・上記を理解した上で、適切な調査計画の作成を行うことができる。 						
授業概要	<p>本演習では、指導方法や指導者像を考えるための調査研究を行うための調査計画の作成を行う。</p> <p>まず最初にテーマを決定したのち、研究方法としての模擬授業の可能性を探る（第1回～第3回）。この回は、3年生と合同で実施し、複数学年での意見交換を行う。以降、具体的な調査計画の作成に入る。最初に、各自が取り組むテーマの社会的背景を教育政策等の資料を基に検討し、その調査が持つ社会的意義を検討する（第4回～第7回）。次に具体的な調査手法を先行研究を検討することで学習する（第8回～第11回）。この過程で、自身の研究にとって適切な調査手法は何かを明確にする。これらの成果を活かして、具体的な調査計画を行う（第12回～第15回）。ここではテーマと手法の適切な対応だけでなく、調査に関わる倫理的配慮などを理解することが求められる。なお、本演習はそれぞれがテーマに応じた資料を検索し、まとめることが求められる。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	各回講義の課題（30％）、プレゼンテーション（40％）、終講レポート（30％）によって評価する。すべての資料が提出されない場合は、評価の対象としない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	各回課題及びプレゼンテーションは講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートは演習Ⅵの講義の初回にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	<p>演習Ⅵ及び卒業論文を合わせて履修すること。各回課題を提示するので必ず実施すること。また、履修に当たり、以下のものを用意すること</p> <p>1：各自の作成した資料などを保存するUSBメモリーなどの記憶媒体</p> <p>2：講義資料や作成した課題を綴じ込むA4ファイル（リングファイルが望ましい）</p>						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	各回講義内容に応じた文書読解・資料調査及びプレゼンテーションの準備を実施してもらい、その成果を提出してもらう（1時間半程度）。講義の後は、講義中のフィードバックに応じて課題・プレゼンテーションの修正を行い、講義内容の振り返りを行うこと（1時間半程度）						
オフィスアワー	水曜日 4限						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について						倉知典弘
第2回	研究手法としての模擬授業（1）保健科						倉知典弘
第3回	研究手法としての模擬授業（2）体育科						倉知典弘
第4回	研究テーマに関わる基礎概念						倉知典弘
第5回	社会的背景の検討（1）学習指導要領を参考に						倉知典弘
第6回	社会的背景の検討（2）政策文書の検討						倉知典弘
第7回	社会的背景の検討（3）多様な調査の結果を踏まえて						倉知典弘
第8回	調査手法の検討（1）調査目的の設定						倉知典弘

第9回	調査手法の検討(2) 量的調査の手法	倉知典弘
第10回	調査手法の検討(3) 質的調査の手法	倉知典弘
第11回	調査手法の検討(4) 様々な指標・尺度	倉知典弘
第12回	調査計画のデザイン(1) 調査目的・対象の検討	倉知典弘
第13回	調査計画のデザイン(2) 調査方法・項目・尺度の検討	倉知典弘
第14回	調査計画のデザイン(3) データのとりまとめ方	倉知典弘
第15回	講義のまとめ: 調査計画の完成	倉知典弘
第16回	レポート試験	倉知典弘

教科書

教・書籍名1	講義担当者が用意する資料に基づいて実施する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅴ			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	「福祉、健康、運動の関わりについて」をテーマとする。学生は実験を通してそれらの相互関係を理解することができる。						
授業概要	本演習では、生理学および心理学的アプローチ法を用いてヒトのこことからだの結びつきについて検証する。ヒトを対象とした実験を実施し、得られた結果から、日常生活や将来の就職先等で応用可能な基礎的資料を得る。学生は各自の日常生活や大学での学習内容から生じた疑問を研究テーマの素材とする。各学生の研究テーマについて学生同士でディスカッションを行う。ディスカッションを通して得られた意見等をもとに研究テーマ、研究方法のブラッシュアップを行う。実験機器の操作方法、実験手法、コンピューターを用いたデータ解析、統計学的検定方法、プレゼンテーション技法を学ぶ。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション/実習/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	授業姿勢(20%)、提出物(30%)、議論・発表などへの取り組み等(50%)から評価する。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のための提出物は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は予習復習が必要である。予習として、毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自が必要なテキストを探し、熟読してくること。復習として、疑問点をピックアップし、その内容を次週発表出来るように準備すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室(9410研究室)において、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					高原皓全	
第2回	資料の収集方法の紹介(図書館)					高原皓全	
第3回	資料の収集方法の紹介(インターネット)					高原皓全	
第4回	資料の収集(趣味について)					高原皓全	
第5回	資料の収集(スポーツについて)					高原皓全	
第6回	資料の収集(将来の就職について)					高原皓全	
第7回	資料の収集(抄読に必要な資料-健康)					高原皓全	
第8回	資料の収集(抄読に必要な資料-スポーツ)					高原皓全	
第9回	資料の収集(抄読に必要な資料-教育)					高原皓全	
第10回	抄読(健康に関する資料)					高原皓全	
第11回	抄読(スポーツに関する資料)					高原皓全	
第12回	抄読(教育に関する資料)					高原皓全	
第13回	抄読(健康と食生活に関する資料)					高原皓全	
第14回	抄読(健康と運動に関する資料)					高原皓全	
第15回	抄読(健康と休養に関する資料)					高原皓全	
第16回	中間発表					高原皓全	
教科書							
教・書籍名1	使用しない(プリントを配布する)					教・出版社名1	

教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅴ			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-407		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	3年次の演習Ⅲ・演習Ⅳにおける学習内容をベースに学生が、「チームビルディング」「身体組成測定分析」「ラプソード測定分析」等をテーマに卒業論文作成の現状報告を理論的にプレゼンテーションできる。						
授業概要	各自の卒業論文のテーマについて、作成経過を発表し、ディスカッションする。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	プレゼンテーション (50%) ディスカッション参加度 (20%) レポート (30%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントの配布をするため、初回授業よりファイルを用意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、本学硬式野球部の監督としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、スポーツ現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、2時間程度、復習および次回のテーマについて、予習すること。						
オフィスアワー	個人研究室 (9411) にて、金曜日 2 限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					羽野真哉	
第2回	緒言 (仮説)					羽野真哉	
第3回	緒言 (目的)					羽野真哉	
第4回	調査方法 (身体組成)					羽野真哉	
第5回	調査方法 (ラプソード)					羽野真哉	
第6回	調査結果の分析方法					羽野真哉	
第7回	結果 (チームビルディング)					羽野真哉	
第8回	結果 (身体組成)					羽野真哉	
第9回	結果 (ラプソード)					羽野真哉	
第10回	考察 (チームビルディング)					羽野真哉	
第11回	考察 (身体組成)					羽野真哉	
第12回	考察 (ラプソード)					羽野真哉	
第13回	結論 (チームビルディング)					羽野真哉	
第14回	結論 (身体組成)					羽野真哉	
第15回	結論 (ラプソード)					羽野真哉	
第16回							
教科書							
教・書籍名1	論文・レポートの文章作成技法 論理の文章術				教・出版社名1	エディター	
教・著者名1	古郡延治				教・ISBN1	4-88888-366-1	
教・書籍名2	プレゼンテーションを学べ！！				教・出版社名2	ディスカバー	
教・著者名2	アンドリュー・ブラッドバリー				教・ISBN2	978-4-88759-464-7	

参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習VI			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： 東洋医学によるスポーツ領域への応用ができる（応用後編）。 到達目標： 学生は鍼療法を身につけるようになる。						
授業概要	本演習では、特に東洋医学からのアプローチに着目し、鍼療法について実践を通して検証していく。自分が疑問に感じること、興味があることについて考え、自分自身に問題提議する。その中から各自がテーマを選択し、関連資料を収集し、その成果をまとめて発表し、全員で討論し、実技試験を実施する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「学生は鍼療法を身につけるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、授業姿勢20%、提出物30%、実技等(50%)で評価する。なお、評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してくること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 試験は必ず行うので、授業に出席していただければ単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習に、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					孫基然	
第2回	講義：鍼治療について					孫基然	
第3回	輪読：鍼治療の歴史					孫基然	
第4回	輪読：鍼治療の適応症及び注意事項					孫基然	
第5回	実技：片手挿管法の練習					孫基然	
第6回	実技：片手挿管法の復習					孫基然	
第7回	実技：片手挿管法のテスト					孫基然	
第8回	実技：鍼の指し方（平刺、斜刺、直刺）					孫基然	

第9回	実技：鍼の指し方（単刺、雀啄法）	孫基然
第10回	実技：鍼の指し方（間歇法）	孫基然
第11回	実技：鍼の指し方（屋漏法）	孫基然
第12回	実技：鍼の指し方（震顫法）	孫基然
第13回	実技：鍼の指し方（示指打法、内調術）	孫基然
第14回	実技：鍼の指し方（散鍼、細指法）	孫基然
第15回	発表会：実技に関する感想	孫基然
第16回	実技試験	孫基然

教科書

教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	プリントを配布する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習VI			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 17. パートナーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	3年次の演習III・演習IVにおける学習内容をベースに学生が、「スポーツマネジメント」「スポーツコーチング」「ゲーム分析」等をテーマに卒業論文作成の現状報告を理論的にプレゼンテーションできる。						
授業概要	各自の卒業論文のテーマについて、作成経過を発表し、ディスカッションする。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/プレゼンテーション						
評価方法と割合	プレゼンテーション (50%) ディスカッション参加度 (20%) レポート (30%)						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	演習を通して、口頭及び書面でフィードバック						
履修条件・注意事項	無断欠席は認めない。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回のプレゼンテーション内容をまとめておくだけでなく、他の人の発表内容もまとめておくこと。また、毎回プレゼンテーション内容の予習するとともにプレゼンテーション並びにディスカッションの内容を復習すること。						
オフィスアワー	個人研究室 (9号館4階) にて、火曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					高藤	
第2回	マネジメント (文献研究)					高藤	
第3回	コーチング (文献研究)					高藤	
第4回	マネジメント (資料調査)					高藤	
第5回	コーチング (資料調査)					高藤	
第6回	ゲーム分析 (フットサル)					高藤	
第7回	ゲーム分析 (サッカー攻撃)					高藤	
第8回	ゲーム分析 (サッカー守備)					高藤	
第9回	マネジメント (アンケート)					高藤	
第10回	コーチング (具体的対象)					高藤	
第11回	発表 (文献研究)					高藤	
第12回	発表 (分析・攻撃)					高藤	
第13回	発表 (アンケート)					高藤	
第14回	発表 (分析・守備)					高藤	
第15回	総括 (まとめ)					高藤	
第16回	最終レポート					高藤	
教科書							
教・書籍名1	体育経営管理論集				教・出版社名1	日本体育学会 体育経営管理専門分科会	
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2	体育・スポーツ経営学研究				教・出版社名2	日本体育学会 体育経営	

			管理専門分科会
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習VI			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	『これまでの多くの運動学習方法や指導方法の研究・実践』をテーマとし、そこに関わる分野も学問的な認識を扱う分野に始まり、その対象としての職業スキルやパフォーマンス、芸術におけるスキルやパフォーマンス、そして運動・スポーツのスキルやパフォーマンスなど多岐に亘る。しかし総じていえば、目標達成ということになるだろう。近年、コーチングとして新たな目標達成プログラムが提起され、多くの分野で成果をあげている。本演習では学生はコーチングの理論と方法を理解して、それぞれが目標達成のためのスキルを用いることができるようになることを到達目標とする。						
授業概要	認知科学、脳科学、心理学などの研究成果に裏打ちされた、最も代表的な目標達成プログラムである、TPIEの理論と方法について学習する。演習を通して、各自が自らの目標を明確に設定でき、その目標達成のためにゴールのリアリティを高めていく方法を習得する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業時のレポート（30%）及び最終レポート（70%）をもって評価する。評価のためのレポート等は、授業時にフィードバックする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	本演習は予習及び復習が必要である。指示された内容について、各自予習・復習を行うこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	次回の授業の概要を提示するので、学生は各自それをもとに、事前の情報収集などの予習を行う。各回の授業後は、授業内容に基づいて、各自考察を記載して、後で提出する。予習1コマ・復習1コマをそれぞれ約2時間行うこと。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション：研究倫理の教育					竹内研	
第2回	コーチングの沿革					竹内研	
第3回	従来の行動主義心理学に基づくメンタルトレーニング					竹内研	
第4回	新しい脳科学、認知科学のパラダイムとコーチング					竹内研	
第5回	ハビットとアティチュード					竹内研	
第6回	RASの機能とスコトマ					竹内研	
第7回	情動記憶が形成するコンフォートゾーン					竹内研	
第8回	セルフイメージの形成とホメオスタシス					竹内研	
第9回	情報空間と内部表現					竹内研	
第10回	脳機能の実態：脳は物理空間と情報空間の識別がつかない					竹内研	
第11回	思考の本質・ワーズ、ピクチャー、エモーション					竹内研	
第12回	認知的不協和の機能					竹内研	
第13回	セルフエフィカシーとセルフトーク					竹内研	
第14回	ゴール設定の正しい方法とその機能					竹内研	
第15回	アフメーションの実践と最終レポート作成					竹内研	
第16回							

教科書			
教・書籍名1	コンフォートゾーンの作り方	教・出版社名1	フォレスト出版
教・著者名1	苔米地英人	教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習VI			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	本演習では、「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。学生は健康について様々な視点から考える能力を身につけることができる。						
授業概要	演習IIIで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて、発表し、全員で討論する。三年生の演習に結びつくように内容にまとめる必要がある。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション/実習/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	授業姿勢(20%)、提出物(30%)、議論・発表などへの取り組み等(50%)から評価する。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については演習ルーブリックを確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のための退出物は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備および熟読が必要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が必要である。毎回の授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してくる。復習として、疑問点をピックアップし、その内容を次週発表出来るように準備すること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室(9410研究室)において、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					山口英峰	
第2回	抄読(スポーツに関する資料)					山口英峰	
第3回	抄読(教育に関する資料)					山口英峰	
第4回	抄読(健康と食生活に関する資料)					山口英峰	
第5回	抄読(健康と運動に関する資料)					山口英峰	
第6回	抄読(健康と休養に関する資料)					山口英峰	
第7回	発表準備(スポーツに関する資料)					山口英峰	
第8回	発表準備(教育に関する資料)					山口英峰	
第9回	発表準備(健康と食生活に関する資料)					山口英峰	
第10回	発表準備(健康と運動に関する資料)					山口英峰	
第11回	発表準備(健康と休養に関する資料)					山口英峰	
第12回	発表(スポーツに関する資料)					山口英峰	
第13回	発表(教育に関する資料)					山口英峰	
第14回	発表(健康と食生活に関する資料)					山口英峰	
第15回	報告会事前準備					山口英峰	
第16回	報告発表会					外部講師	
教科書							
教・書籍名1	使用しない(プリントを配布する)					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	
参考書							

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習VI			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	本演習では、演習Vで各自が取り上げた研究内容をさらに充実させていく。障がい者とスポーツ活動のあり方について学ぶことができる。						
授業概要	特に、重度の身体障がいを持つ人々が行う「電動車椅子サッカー」を対象とする。卒業論文を書くためのデータ収集・解析を行う。学外でのボランティア活動を行うこともある。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/グループワーク/プレゼンテーション/フィールドワーク/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	課題・議論・発表などへの取り組み等(50%)、受講態度(50%) なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備が必要となる。 学外ボランティア活動も行う予定である。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能のように各自に必要なテキストを探し、熟読してくること。また、授業時に配布する資料や各自の授業ノートにもとづいて、十分な復習及び次回への予習を行うこと。						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					天岡 寛	
第2回	データ解析方法の紹介(図書館)					天岡 寛	
第3回	データ解析方法の紹介(インターネット)					天岡 寛	
第4回	資料収集(健康づくりとは)					天岡 寛	
第5回	資料収集(健康づくりの組織)					天岡 寛	
第6回	資料収集(健康づくりと運動)					天岡 寛	
第7回	資料収集(健康づくりに関わる人)					天岡 寛	
第8回	資料収集(健康づくりの歴史と発展)					天岡 寛	
第9回	資料収集(健康づくりのための運動教室)					天岡 寛	
第10回	データ解析方法(体力測定①体格)					天岡 寛	
第11回	データ解析方法(体力測定②体組成)					天岡 寛	
第12回	データ解析方法(体力測定③筋力)					天岡 寛	
第13回	データ解析方法(体力測定④筋持久力)					天岡 寛	
第14回	データ解析方法(体力測定⑤全身持久力)					天岡 寛	
第15回	データ解析方法(体力測定⑥組織運営)					天岡 寛	
第16回	外部講師					天岡 寛	
教科書							
教・書籍名1	適宜指示する。					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	

参考書			
参・書籍名1	適宜指示する.	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習VI			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	<p>3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 16. 平和と公正をすべての人に / 17. パートナリシップで目標を達成しよう</p> 						
到達目標	<p>リーダーの交渉力を身に付けることができるように原則をしる。そのために「ディベートの根本的目的、実践的目的は何かを理解する」をテーマとして、単なる口舌の技術ではなく、自国の文化に自信を持ち、自国語で自分の意見を主張できること。また、相手が誰であろうとも論理的に議論や討論ができることを身につける。</p> <p>国際化時代とは、ディベート的精神を発揮する時代であり、語学の問題ではなく、必要なのは信念であり、気概であり、そして日本語によるディベート技術であり、これがリーダーの条件であることを理解する。加えてディベートが持っている論理的思考能力や意思決定能力の開発とともに人間をプラス思考にさせるディベート的精神を理解することを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>リーダーの交渉は三つの手法をまず知る事。「仮定の利益」と「譲歩すること」を事例から学んでいく。交渉をする以前に、日本人の表現方法の問題点を考察し、話し方の構造といった基礎的な理解を深めていく。また、論理学の目的を理解しながら、「要素」に分解することを学んでいく。交渉力を高めるためにまずは自らの力を高めること。そのためにディベートの種類と役割について事例を示しながらも加えて資料とデータの効果的な収集と活用方法を理解する。そして交渉の基本である論理構築能力が身につくようグループ討論を主体とした方式による演習を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	<p>この科目では、グループ討論を主体とした方式のため、討論への積極的参加態度（10％）、その為の授業準備（20％）で評価する。毎回のレポート評価(30％)、レポート試験（40％）とする。</p> <p>グループ討論、参加型学習を主体としている事から、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。詳しい評価方法は、授業時に説明する。</p> <p>なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、レポート試験までに見直しておくこと。</p>						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと】						
課題や試験のフィードバック方法	課題及びプレゼンテーションについては講義内指導という形でフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントを配布するため、初回授業よりファイルを用意すること。演習Vと合わせて履修。						
実務経験のある教員	該当する	内容	(一社) 高梁スポーツクラブの理事による実務経験者がその経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして参加型学習法で行う。指示に従ってノートを作成復習を行うこと。レポートやスピーチを行う為、予習を行うこと。						
オフィスアワー	火曜日 3限 (研究室) 9401教室						
授業計画						担当者	
第1回	交渉にかつための原則をしる					太田真司	
第2回	実践的交渉では原則を知る					太田真司	
第3回	交渉で重要な「仮定の利益」の事例をしる					太田真司	
第4回	交渉における先手をとることと譲歩のカード					太田真司	

第5回	協調的な交渉をまとめるためにタダでできること	太田真司
第6回	部下との協議でも「相手と対等」という意識をもつ	太田真司
第7回	交渉の終わらせ方における原則	太田真司
第8回	交渉における要望の整理とマトリックス	太田真司
第9回	要望から2つのグループに分ける。	太田真司
第10回	会話から相手の優先順位をつかむ	太田真司
第11回	相手の価値観、判断基準を見極める。	太田真司
第12回	お互いの要望・譲歩のマトリックスをつくる	太田真司
第13回	お互いの一致点を広げ、不一致点を狭める。	太田真司
第14回	抽象的な概念を、具体的レベルに落としこんで議論する。	太田真司
第15回	要素分解する傾聴する大切さ	太田真司
第16回	レポート試験	太田真司

教科書

教・書籍名1	担当者の作成する資料により進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜紹介する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習VI			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	演習Vで設定した調査計画を適切に実施し、その結果を整理し分析することが出来る。各自のテーマの成果をまとめて、他者に伝え、議論することが出来る。						
授業概要	本講義は演習Vで作成した計画に基づいた研究成果を活用し、指導者としてのあり方についての理解を深めることを目標としている。また、本講義の内容は卒業論文作成の際の基本的な手法の学習とリンクしている。講義の前半では実際に行った調査結果を多様な観点から整理する(第2回～第7回)。その後、調査結果を研究倫理を踏まえながら報告するための基本的な手法について学ぶ(第8回～第12回) 適切に表現する講義の最後には研究成果を活かして、指導者としてのあり方などをプレゼンテーションしてもらい、指導者としての考え方を深めてもらう(第13回～第15回)。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/プレゼンテーション/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	講義中に指示する課題の提出(30%) プレゼンテーション(30%) 終講課題(40%) で評価する。全て提出されない場合は、成績評価を行わない。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	課題及びプレゼンテーションについては講義内及びオンラインで個別にフィードバックを行う。終講課題については、オンラインで個別にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習V及び卒業論文をあわせて履修すること。受講生の作成した資料を基にした討議を進めていくため、必ず各回で指定する資料を作成してから参加すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本演習では講義内容に応じて文献読解を課し、そのまとめを作成してもらう(1時間半程度)。講義のあとは、その内容を振り返り、文章の修正やデータの解析のやり直しなどをこなすこと(1時間半程度)						
オフィスアワー	水曜日 4限						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					倉知典弘	
第2回	歴史的経緯のまとめ方					倉知典弘	
第3回	量的調査のまとめ方(1) 分析手法の妥当性					倉知典弘	
第4回	量的調査のまとめ方(2) 分析結果の検討法					倉知典弘	
第5回	質的調査まとめ方(1) 分析手法の妥当性					倉知典弘	
第6回	質的調査のまとめ方(2) 分析結果の検討法					倉知典弘	
第7回	中間考察ー調査結果のまとめを用いた討議					倉知典弘	
第8回	研究目的・方法の書き方					倉知典弘	
第9回	調査計画の書き方					倉知典弘	
第10回	調査結果の書き方					倉知典弘	
第11回	調査の分析結果の書き方					倉知典弘	
第12回	引用文献・参考文献の書き方及び体裁の整え方					倉知典弘	
第13回	プレゼンテーション(1) スポーツの指導法					倉知典弘	
第14回	プレゼンテーション(2) スポーツの指導者のあり方					倉知典弘	
第15回	プレゼンテーション(3) 大学生活を振り返って					倉知典弘	

第16回	レポート試験	倉知典弘
教科書		
教・書籍名1	学生を選択するテーマなどに応じて担当者が用意する講義資料に基づいて行う	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	適宜紹介する	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	演習VI			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	本演習では、「こころとからだの健康」について基礎的な知識および健康についての考え方を深める。学生は健康について様々な視点から考究する能力を身につけることができる。						
授業概要	演習Vで決定した各自のテーマについてさらに学びを深める。各自の研究テーマについての成果を発表し、ディスカッションを行う。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション/実習/その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業姿勢(20%)、提出物(30%)、議論・発表などへの取り組み等(50%)から評価する。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のための退出物は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめること。						
履修条件・注意事項	講義は個人の興味がある資料の収集と抄読が主となることから、講義外での資料収集ならびに抄読用資料の準備および熟読が必要となる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義では、予襲復讐がそれぞれ2時間程度必要である。予習は、毎回の講義において質の高いディスカッションが可能になるよう、各自で必要な資料を探し、熟読しておくこと。復習はディスカッションで得られた課題について自習発表できるように準備すること。						
オフィスアワー	9号館2階の個人研究室（9402）において、毎週月曜日2限目をオフィスアワーとする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					高原皓全	
第2回	抄読（スポーツ）					高原皓全	
第3回	抄読（教育）					高原皓全	
第4回	抄読（生活習慣と健康）					高原皓全	
第5回	抄読（健康と運動）					高原皓全	
第6回	抄読（健康と栄養）					高原皓全	
第7回	発表準備（スポーツ）					高原皓全	
第8回	発表準備（教育）					高原皓全	
第9回	発表準備（生活習慣と健康）					高原皓全	
第10回	発表準備（健康と運動）					高原皓全	
第11回	発表準備（健康と栄養）					高原皓全	
第12回	発表（スポーツ）					高原皓全	
第13回	発表（教育）					高原皓全	
第14回	発表（生活習慣と健康）					高原皓全	
第15回	中間報告会					高原皓全	
第16回							
教科書							
教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	
参考書							

参・書籍名1	適宜指示する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習VI			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-408		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	3年次の演習Ⅲ・演習Ⅳにおける学習内容をベースに学生が、「チームビルディング」「身体組成測定分析」「ラプソード測定」等をテーマに卒業論文作成の現状報告を理論的にプレゼンテーションできる。						
授業概要	各自の卒業論文のテーマについて、作成経過を発表し、ディスカッションする。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	プレゼンテーション (50%) ディスカッション参加度 (20%) レポート (30%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。プレゼンテーションについては、講義内で指導という形でフィードバックを行う。最終レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用してフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントの配布をするため、初回授業よりファイルを用意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、本学硬式野球部の監督としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、スポーツ現場において実践的に役立つ授業を実践する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回のプレゼンテーション内容をまとめておくだけでなく、他の人の発表内容もまとめておくこと。						
オフィスアワー	個人研究室（9号館4階）にて、金曜日2限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション（ガイダンス）					羽野真哉	
第2回	チームビルディング（文献研究）					羽野真哉	
第3回	身体組成測定（文献研究）					羽野真哉	
第4回	ラプソード測定（文献研究）					羽野真哉	
第5回	身体組成（測定データ分析）					羽野真哉	
第6回	ラプソード測定（測定データ分析）					羽野真哉	
第7回	チームビルディング（先行研究）					羽野真哉	
第8回	プレゼンテーション（チームビルディング）					羽野真哉	
第9回	プレゼンテーション（身体組成）					羽野真哉	
第10回	プレゼンテーション（ラプソード）					羽野真哉	
第11回	発表（チームビルディング）					羽野真哉	
第12回	発表（身体組成）					羽野真哉	
第13回	発表（ラプソード）					羽野真哉	
第14回	総括（発表会）					羽野真哉	
第15回	総括（論文制作）					羽野真哉	
第16回							
教科書							
教・書籍名1	体育経営管理論集				教・出版社名1	日本体育学会 体育経営管理専門分科会	
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2	体育・スポーツ経営学研究				教・出版社名2	日本体育学会 体育経営管理専門分科会	

教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	卒業論文			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-409		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ： スポーツ領域における東洋医学の応用について 到達目標： 学生は東洋医学の知識、実技を生かしスポーツ傷害における様々の問題の解決に役立つことができる。						
授業概要	各自の研究テーマを、先行研究の抄読を基に選択する。そして、論文作成のために適する研究方法の選択を行う。仮説を構築し、また問題の所在を明らかにして、データの収集や文献の収集を行う。データに基づく研究では、標本の抽出に留意し、文献資料に基づく研究では、論理性を重視した、論文の作成を行う。卒業論文の執筆指導を行う。テーマ設定、資料・データの収集・分析、構成、執筆まで総合的に指導する。教員との対話を通じて、学問的な基本概念や先行文献の調査法、論文の議論構成の仕方を理解するとともに、実際に自分自身でその理解に基づいて作業を行っていく。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	「学生は東洋医学の知識、実技を生かしスポーツ傷害における様々の問題の解決に役立つことができる」の到達度について研究に取り組む姿勢(30%)および卒業論文提出（70%）から授業姿勢30%を合計して総合評価する。なお、評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	講義中に課す課題は、提出回の次回以降の講義において使用され、その際にフィードバックを行う。ディスカッションやグループワークの参加度については、講義内で指導という形でフィードバックを行う。終講レポートについては、ユニバーサルパスポートなどを活用して、総括的にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	日頃から実験を行い、課題や結果等に対する考察を充実させること。個人指導を基本とするが、同様な研究テーマ、手法を扱う者と討論を行い連携を図ること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3) 試験は必ず行うので、授業に出席していただければ単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習に、各2時間程度を要する。本授業において問題提起と討論が可能のように各自に必要なテキストを探し、熟読してくること。また、実験のディスカッションについては、しっかりと文面化して毎回の講義内容をまとめること。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					孫基然	
第2回	研究テーマ周辺知識の整理と検討 文献・資料の検討 (1) 考察に向けて					孫基然	
第3回	文献・資料の検討 (2) 論文形成の実践					孫基然	
第4回	研究内容についての議論 (1) 基礎データの活用					孫基然	
第5回	研究内容についての議論 (2) 先行文献の活用					孫基然	
第6回	研究内容についての議論 (3) 論文の批評を通して					孫基然	
第7回	研究内容についての議論 (4) 先行研究と仮説					孫基然	

第8回	実施(1) プレテスト及び、実施手順	孫基然
第9回	実施(2) 実施における留意点	孫基然
第10回	実施(3) 実施の課題点の検討	孫基然
第11回	結果の分析(1) 分析の実施	孫基然
第12回	結果の分析(2) 結果の概要	孫基然
第13回	結果の分析(3) 仮説と結果から	孫基然
第14回	結果の分析(4) 研究計画スケジュールの再検討	孫基然
第15回	今後に向けて課題の検討	孫基然
第16回	研究結果の検討と論文作成(1) 目的・方法・仮説	孫基然
第17回	研究結果の検討と論文作成(2) 結果・結論	孫基然
第18回	研究結果の検討と論文作成(3) 全体の流れ	孫基然
第19回	考察のための論述	孫基然
第20回	考察からのオリジナリティの検討	孫基然
第21回	考察の限界と課題点	孫基然
第22回	論文内容の修正と質疑応答	孫基然
第23回	論文内容の引用、注記の修正	孫基然
第24回	論文内容データ類の表記の修正	孫基然
第25回	報告・発表の要旨作成	孫基然
第26回	報告・発表のパワーポイントの作成	孫基然
第27回	報告・発表などの準備(3) プレ発表	孫基然
第28回	研究内容の質疑応答内容の活用	孫基然
第29回	研究の内容の誤字等文章全体の修正	孫基然
第30回	卒業論文発表会	孫基然
第31回	卒業論文発表反省会	孫基然
第32回	レポート試験	孫基然
教科書		
教・書籍名1	使用しない(プリントを配布する)	教・出版社名1
教・著者名1		教・ISBN1
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1	プリントを配布する。	参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	卒業論文			担当者	高藤 順		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-409		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	「スポーツコーチング」「スポーツマネジメント」「ゲーム分析」等をテーマに、演習III・演習IVを通して学習内容をベースに論文を完成し、その概要のプレゼンテーションができる。						
授業概要	「テーマ」「目的（仮説）」「方法」「結果」「考察」「結論」の構成に留意し、最終的に自分の主張を理論的にプレゼンテーションできるよう文章表現する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	論文（80％）発表（20％）						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	論文作成過程において、口頭及び書面でフィードバック						
履修条件・注意事項	「レポート」と「論文」の違いを理解し、論文としての内容を作成すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	卒業論文用のノートを作成し、先行研究や様々な文献をまとめておくこと。また、毎回プレゼンテーション内容を予習するとともに、プレゼンテーション並びにディスカッションの内容を復習すること。						
オフィスアワー	個人研究室にて、水曜日4限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション（ガイダンス） 研究倫理に基づく責任ある研究活動を実践する。					高藤	
第2回	論文とレポートの違い					高藤	
第3回	論文の書き方（書式設定等）					高藤	
第4回	論文のテーマ設定					高藤	
第5回	目的・仮説の立て方					高藤	
第6回	調査方法（アンケート調査）					高藤	
第7回	調査方法（インタビュー）					高藤	
第8回	調査方法（ゲーム分析）					高藤	
第9回	調査方法（文献・資料調査）					高藤	
第10回	個別指導（サッカー）					高藤	
第11回	個別指導（フットサル）					高藤	
第12回	個別指導（地域クラブ）					高藤	
第13回	個別指導（学校運動部）					高藤	
第14回	個別指導（プロクラブ）					高藤	
第15回	個別指導（スポーツ組織）					高藤	
第16回	中間発表					高藤	
第17回	サッカー・ゲーム分析					高藤	
第18回	フットサル・ゲーム分析					高藤	
第19回	Jリーグ・観戦者数調査					高藤	
第20回	高校生・アンケート調査					高藤	
第21回	卒業生・アンケート調査					高藤	
第22回	スタッフ・インタビュー調査					高藤	

第23回	地域クラブマネジメント調査	高藤
第24回	プロクラブマネジメント調査	高藤
第25回	学校運動部活動マネジメント調査	高藤
第26回	体育・スポーツ組織マネジメント調査	高藤
第27回	調査結果の分析方法	高藤
第28回	KJ法・GTA法	高藤
第29回	考察のまとめ方	高藤
第30回	結論のまとめ方	高藤
第31回	引用・参考文献、謝辞等のまとめ方	高藤
第32回	卒論発表会	高藤

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名1	アンケート調査の進め方	教・出版社名1	日経文庫
教・著者名1	酒井隆	教・ISBN1	4-532-10833-0
教・書籍名2	健康・スポーツ科学のための調査研究法	教・出版社名2	杏林書院
教・著者名2	出村慎一・山下秋二・佐藤進	教・ISBN2	978-4-7644-1150-0

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	卒業論文			担当者	竹内 研		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-409		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに / 17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	『健康や・運動・スポーツなどに関連した分野の研究』をテーマとし、自分が選択したテーマについて、科学的な手順ののっとり、論文を作成する。学生はこの過程を通じて、論理的な考え方や、考察の仕方、実務能力などを学び、社会に出てからの諸々の業務に対応できるようになることを到達目標とする。						
授業概要	各自の研究テーマを、先行研究の抄読を基に選択する。そして、論文作成のために適する研究方法の選択を行う。仮説を構築し、また問題の所在を明らかにして、データの収集や文献の収集を行う。データの基づく研究では、標本の抽出に留意し、文献資料に基づく研究では、論理性を重視した、論文の作成を行う。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/グループワーク/プレゼンテーション						
評価方法と割合	論文作成の進行状況及び取り組み姿勢を30%、論文のできればえを70%でもって評価する評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験までに見直しておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課した課題や試験の結果や内容を、次回の授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	毎回の課題にのっとり、各自学習・作業を進めること。その成果に基づき、各回の指導が行われる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	次回の授業の概要を提示するので、学生は各自それをもとに、事前の情報収集などの予習を行う。 各回の授業後は、授業内容に基づいて、各自考察を記載して、後で提出する。 予習1コマ・復習1コマをそれぞれ行うこと。						
オフィスアワー	金曜日3限 個人研究室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション：研究倫理の教育						竹内研
第2回	学術論文の構成						竹内研
第3回	先行研究抄読について						竹内研
第4回	先行研究の収集						竹内研
第5回	先行研究の要約						竹内研
第6回	先行研究の比較検討						竹内研
第7回	先行研究抄読の発表						竹内研
第8回	先行研究抄読についてのディスカッション						竹内研
第9回	問題の抽出						竹内研
第10回	仮説の設定						竹内研
第11回	研究テーマの決定						竹内研
第12回	研究計画の作成						竹内研
第13回	研究計画修正						竹内研
第14回	「はじめに（緒言）」の作成						竹内研
第15回	「はじめに（緒言）」の修正						竹内研
第16回	研究方法の理解						竹内研
第17回	調査研究						竹内研
第18回	サンプリング						竹内研
第19回	文献研究						竹内研
第20回	事例研究						竹内研

第21回	予備調査	竹内研
第22回	データや資料の取取	竹内研
第23回	統計処理の方法	竹内研
第24回	統計処理の実施	竹内研
第25回	結果の提出と解釈	竹内研
第26回	先行研究との照合と考察	竹内研
第27回	論文作成	竹内研
第28回	論文の作成	竹内研
第29回	論文の修正	竹内研
第30回	論文の審査と評価	竹内研
第31回		
第32回		

教科書			
-----	--	--	--

教・書籍名1	「ゆる」スポーツ・トレーニング革命	教・出版社名1	大和書店
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書			
-----	--	--	--

参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	卒業論文			担当者	山口 英峰		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-409		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を / 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	演習Iおよび演習IIを通してそれぞれが疑問に思う課題を明らかにすることが大きなテーマである。学生は自分が知りたい現象について数量化し、科学的に明らかにすることができる。						
授業概要	健康やスポーツの分野を中心に論文テーマを選定し、文献調査、実験、データの解析と結果の解釈、論議という一連の手順に沿って論文を作成する。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション/実習/その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	研究に取り組む姿勢(30%)および卒業論文提出（70%）から評価する。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については演習ルーブリックを確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	卒業論文作成のために実施した添削は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめて、卒業論文に反映させること。						
履修条件・注意事項	日頃から実験を行い、課題や結果等に対する考察を充実させること。個人指導を基本とするが、同様な研究テーマ、手法を扱う者と討論を行い連携を図ること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が各2時間程度必要である。本授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してくる。また、実験のディスカッションについては、しっかりと文面化して毎回の講義内容をまとめること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9410研究室）において、木曜日3限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					山口英峰	
第2回	研究テーマ周辺知識の整理と検討					山口英峰	
第3回	文献・資料の検討：論文形成の実践					山口英峰	
第4回	研究内容についての議論（1）基礎データの活用					山口英峰	
第5回	研究内容についての議論（2）先行文献の活用					山口英峰	
第6回	研究内容についての議論（3）論文の批評を通して					山口英峰	
第7回	研究内容についての議論（4）先行研究と仮説					山口英峰	
第8回	実施（1）プレテスト及び、実施手順					山口英峰	
第9回	実施（2）実施における留意点					山口英峰	
第10回	実施（3）実施の課題点の検討					山口英峰	
第11回	結果の分析（1）分析の実施					山口英峰	
第12回	結果の分析（2）結果の概要					山口英峰	
第13回	結果の分析（3）仮説と結果から					山口英峰	
第14回	結果の分析（4）研究計画スケジュールの再検討					山口英峰	
第15回	今後に向けて課題の検討					山口英峰	
第16回	中間発表					山口英峰	
第17回	論文作成（1）目的・方法・仮説					山口英峰	
第18回	論文作成（2）結果・結論					山口英峰	
第19回	論文作成（3）全体の流れ					山口英峰	
第20回	論文作成（1）考察のための論述					山口英峰	
第21回	論文作成（2）考察からの検討					山口英峰	
第22回	論文作成（3）研究の限界と課題点					山口英峰	

第23回	論文作成 (1) 論文内容の修正	山口英峰
第24回	論文作成 (2) 引用、注記の修正	山口英峰
第25回	論文作成 (3) データ表記の確認・修正	山口英峰
第26回	論文作成 (4) 要旨作成	山口英峰
第27回	論文作成 (5) 論文の最終確認	山口英峰
第28回	報告・発表準備 (1) パワーポイントの作成	山口英峰
第29回	報告・発表準備 (4) 質疑応答内容の活用	山口英峰
第30回	報告・発表準備 (3) プレ発表	山口英峰
第31回	卒業論文発表会事前準備	山口英峰
第32回	卒業論文発表会	外部講師

教科書

教・書籍名1	使用しない (プリントを配布する)	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	使用しない (プリントを配布する)	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	卒業論文			担当者	天岡 寛		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-409		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	演習Vおよび演習VIを通してそれぞれが疑問に思う課題を明らかにすること。課題について、数量化し、科学的に明らかにすることができる。						
授業概要	スポーツを『any physical activity』としてとらえ、論文テーマを選定する。特に、高梁市と連携して実施している「健康教室」対象とする。文献調査、データ収集、データの解析と結果の解釈、論議という一連の手順に沿って論文を作成する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション/グループワーク/プレゼンテーション/フィールドワーク/その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	課題・議論・発表などへの取り組み等(50%)、受講態度(50%) なお、評価のために実施した課題や小テスト等はフィードバックするので見直しておくこと。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	アダプテッドスポーツへの理解を深めること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は予習および復習が必要である(内容に関しては適宜指示する)。						
オフィスアワー	水曜日4時限目 9号館4階研究室						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について					天岡 寛	
第2回	文献・資料の検討①考察に向けて					天岡 寛	
第3回	文献・資料の検討②論文形成の実践					天岡 寛	
第4回	研究内容についての議論①基礎データの活用					天岡 寛	
第5回	研究内容についての議論②先行文献の活用					天岡 寛	
第6回	研究内容についての議論③論文の批評を通して					天岡 寛	
第7回	研究内容についての議論④先行研究と仮説					天岡 寛	
第8回	データ収集①手法					天岡 寛	
第9回	データ収集②留意点					天岡 寛	
第10回	データ収集③課題点の検討					天岡 寛	
第11回	データの分析①分析の実施					天岡 寛	
第12回	データの分析②結果の概要					天岡 寛	
第13回	データの分析③仮説と結果から					天岡 寛	
第14回	データの分析④結果の分析					天岡 寛	
第15回	今後に向けて課題の検討					天岡 寛	
第16回	研究結果の検討と論文作成①目的・方法・仮説					天岡 寛	
第17回	研究結果の検討と論文作成②結果・結論					天岡 寛	
第18回	研究結果の検討と論文作成③全体の流れ					天岡 寛	
第19回	質疑応答①考察のための論述					天岡 寛	
第20回	質疑応答②考察からのオリジナリティの検討					天岡 寛	
第21回	質疑応答③研究の限界と課題点					天岡 寛	
第22回	修正と質疑応答①論文内容の修正					天岡 寛	

第23回	修正と質疑応答②引用, 注記の修正	天岡 寛
第24回	修正と質疑応答③データ類の表記の修正	天岡 寛
第25回	発表準備①要旨作成	天岡 寛
第26回	発表準備②プレゼンテーション資料の作成	天岡 寛
第27回	発表準備③プレゼンテーション発表の練習	天岡 寛
第28回	発表準備④ポイントの検討	天岡 寛
第29回	研究内容の修正①質疑応答内容の活用	天岡 寛
第30回	研究の内容修正②誤字等文章全体の修正	天岡 寛
第31回	研究の内容修正③誤字等文章全体の修正	天岡 寛
第32回	研究の内容修正④誤字等文章全体の修正	天岡 寛

教科書		
-----	--	--

教・書籍名1	適宜指示する.	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書		
-----	--	--

参・書籍名1	適宜指示する.	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	卒業論文			担当者	太田 真司		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-409		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに / 5. ジェンダー平等を実現しよう / 17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	<p>「サッカーを科学的に理解する」をテーマとして、サッカーについて原理原則とデータ分析集計の両面から学び、複雑化するあらゆるサッカーの試合において客観的な視点で自ら学び、多角的に分析力を備えた能力を身につける。</p> <p>学生が、サッカーの歴史的変遷によるルール変更の経緯と背景を学び、及び攻撃、守備の、攻撃から守備への切り替え、守備から攻撃への切り替えの4つの局面から理解する。また、3サード、5レーンにピッチを分けて捉える視点について理解する。加えてサッカーの課題の解決策を自ら考察し、判断できるようになることを到達目標とする。</p>						
授業概要	<p>サッカーのゲーム分析の基礎である、サッカーの目的、サッカーゲームの基本的な構造、サッカーのプレーの原則について複雑な仕組みを考察する。また攻撃の個人戦術、グループ戦術、守備の個人戦術、グループ戦術、サッカーのテクニック（技術）の構成要素について、ゲーム中の「プレーする前、プレー中、プレーした後」から分析について、ワールドカップのゲームから問題点と解決策を導き出す能力が身に付くようグループ討論を主体とした方式による授業を行う。</p>						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	提出された卒業論文（80％）及び研究発表におけるプレゼンテーションは、内容、姿勢、話し方（20％）を重視し評価する。 なお評価指標については初回の講義で提示する。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと】						
課題や試験のフィードバック方法	卒業論文の評価は提出後、個別にフィードバックを行う。またプレゼンテーションの評価は実施した時に講義中に指導としてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	PCによる文章作成を行うため、記憶媒体を用意すること。演習VとVIと合わせて履修すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によって行うので、予習が必須である。2) 指示に従って必ずノートを作成し復習すること。必ず予習復習を行い、各2時間程度を要する。 卒業論文作成の計画立案をし、データ収集（先行論文収集）をおこなうこと。						
オフィスアワー	火曜日 3限 研究室 (9401)						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動					太田真司	
第2回	論文の構成の考え方					太田真司	
第3回	先行研究を調べる					太田真司	
第4回	資料と方法を調べる					太田真司	
第5回	結果と分析を確かめる					太田真司	
第6回	考察－裏づける					太田真司	
第7回	校正する					太田真司	
第8回	論文の表現の考え方					太田真司	
第9回	論文の文体					太田真司	
第10回	明晰な文					太田真司	
第11回	明晰な文章展開					太田真司	
第12回	予告と整理					太田真司	

第13回	書き手の責任	太田真司
第14回	主張する	太田真司
第15回	破綻を防ぐ	太田真司
第16回	専門用語の考え方	太田真司
第17回	語の定義	太田真司
第18回	漢字と仮名の書き分け	太田真司
第19回	読点の打ち方	太田真司
第20回	記号使い方	太田真司
第21回	論文を構成する動詞	太田真司
第22回	論文の文末表現	太田真司
第23回	話し言葉と書き言葉	太田真司
第24回	論文になじまない言葉	太田真司
第25回	論文の軸となる名詞	太田真司
第26回	複数の意味を持つ文	太田真司
第27回	読者を迷子にする文	太田真司
第28回	曖昧さを含む文	太田真司
第29回	事実と主張をめぐる嘘	太田真司
第30回	動機や感想に注意する	太田真司
第31回	卒業論文評価	太田真司
第32回	卒業論文のプレゼンテーション	太田真司

教科書

教・書籍名1	担当者の作成資料により進める。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	卒業論文			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-409		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	『スポーツマネジメント及びコーチングに関連した分野の研究』をテーマとし各自が選択したテーマについて、科学的な手順に則って論文を作成する。 学生はこの過程を通じて、論理的な考え方や、考察の仕方、実務能力などを学び、社会に出てからの諸々の業務に対応できるようになることを到達目標とする。						
授業概要	本講義は以下のような段階を経由することで、最終的に卒業論文を完成させることを目的としている。まず最初に卒業論文のテーマ設定である（第1回～第4回）。卒業論文の作成においては、個人の興味関心はもちろんのこと、社会的意義が重要になる。そのため、政策文書などを参考としながら、テーマの意義を明確にする。そのうえで、研究テーマに即した先行研究の分析を行い、研究の到達点・調査手法の吟味などを行う（第5回～第7回）。以上の成果を活かして、調査対象・調査項目・方法・評価尺度の設定を行う（第8回～第13回）。春学期の段階で以上の段階までを一度文章化し、報告を行う（第14回～15回）。以上の調査計画を踏まえ、夏休み中に調査を実施してもらう。秋学期の最初に調査計画の取りまとめを行っていく（第16回～21回）。その際論文の歴史的な背景・量的項目・質的項目のすべてを詳細に検討し、中間的な取りまとめを行う（第22回）。その中間とりまとめをもとに文章表現・表記法等を学生主体で検証し（第23回～25回）、最終的な成果をプレゼンテーション・討議してもらう（第26回～第28回）。その討議を受けて修正などを施し、卒業論文の提出を行う（第29回～第31回）。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	提出された卒業論文（80％）及び卒業論文のプレゼンテーション（20％）で評価する。なお、それぞれの評価指標については初回の講義で提示する。						
ルーブリック評価	【本科目はルーブリック評価を導入する。詳細についてはURLを確認のこと。】						
課題や試験のフィードバック方法	卒業論文の評価は提出後、各個人にuniversal passport等を用いて個別にフィードバックを行う。また、プレゼンテーションの評価はプレゼンテーションを実施した時に講義中に指導としてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	演習V・VIと連動して実施するので、演習V・VIを必ず履修すること。また、PCによる文章作成を行うため、記憶媒体（USBメモリー等）を用意し、作成した資料を綴じ込むためのファイル（A4サイズのリングファイルが望ましい）を用意しておくこと。なお、本講義では作成するレポートなどについては講義中にフィードバックを行うので、「自己学修」については必ず実施してから参加すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義の最終目標は卒業論文の執筆である。講義の時間は、各自執筆した原稿などの検討を中心とするので、毎回1000字程度の文章作成を義務付ける（2時間程度）。また、講義中に指示する復習項目及び文章修正も必須である（2時間程度）。本講義は全て学生の作業実施を前提としており、作業を行わないと先に進むことができないので空いた時間を活用して授業準備を行っていただきたい。						
オフィスアワー	水曜日 4限 研究室にて。なお、卒業論文提出期限前後はオンラインでの相談も受け付ける。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について						倉知典弘
第2回	研究倫理について						倉知典弘
第3回	研究テーマの設定（1）自分史の観点から						倉知典弘
第4回	研究テーマの設定（2）社会的背景から						倉知典弘
第5回	先行研究の調査方法と選択						倉知典弘
第6回	先行研究の報告（1）研究方法に着目して						倉知典弘
第7回	先行研究の報告（2）結果を読み解く						倉知典弘

第8回	調査の計画 (1) 目的・方法の関連性に着目して	倉知典弘
第9回	調査の計画 (2) 方法・対象の決定と倫理的配慮の確認	倉知典弘
第10回	調査の計画 (3) 評価尺度の選択	倉知典弘
第11回	調査の計画 (4) 研究計画書及び依頼文の作成	倉知典弘
第12回	調査計画の検証 (1) プレ調査の実施と評価	倉知典弘
第13回	調査計画の検証 (2) 調査計画の再検討	倉知典弘
第14回	研究目的と調査手法の文章化	倉知典弘
第15回	プレゼンテーション：中間評価として	倉知典弘
第16回	調査計画の報告	倉知典弘
第17回	調査結果の検討 (1) 歴史分析	倉知典弘
第18回	調査結果の検討 (2) 量的分析	倉知典弘
第19回	調査結果の検討 (3) 質的分析	倉知典弘
第20回	調査結果の検討 (4) 総括的評価	倉知典弘
第21回	調査結果の検討 (5) 研究の到達点	倉知典弘
第22回	卒業論文のとりまとめ：中間報告として	倉知典弘
第23回	文章校正の手法 (1) 基本的な文章表現	倉知典弘
第24回	文章校正の手法 (2) 調査結果の表記法	倉知典弘
第25回	文章校正の手法 (3) 引用・参考文献	倉知典弘
第26回	プレゼンテーション (1) 研究目的と方法	倉知典弘
第27回	プレゼンテーション (2) データ解析	倉知典弘
第28回	プレゼンテーション (3) 総括的評価	倉知典弘
第29回	最終校正	倉知典弘
第30回	振り返りと自己評価	倉知典弘
第31回	卒業論文提出	倉知典弘
第32回		

教科書

教・書籍名1	各回内容及び学生のテーマに応じて担当者が用意する	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜紹介する	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	卒業論文			担当者	高原 皓全		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-409		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	演習Ⅴ、Ⅵを通して学生各自が疑問に思う課題について明らかにすること。学生は自身のテーマについて数量化し、科学的な手法で検証する。						
授業概要	健康やスポーツに関連する分野から研究テーマを選定し、文献検索、データ収集（実験・調査）、データ分析、ディスカッションの手順に沿って論文を作成する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション／実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	研究への取り組み姿勢（40％）、提出論文（60％）から総合的に評価する。						
ルーブリック評価	本科目はルーブリック評価を導入する。詳細については「演習ルーブリック」を確認のこと。						
課題や試験のフィードバック方法	論文作成のために実施した課題は、講義内でフィードバックするため、コメントに対して自身の考えをまとめ、論文に反映させること。						
履修条件・注意事項	実験、調査など数回行い、正確なデータ収集、結果に対する考察の組み立てなどを充実させること。研究テーマは個人毎に設定するが、学生間でのディスカッションを行い、ブラッシュアップを行うこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習がそれぞれ2時間必要である。問題提議やディスカッションができるよう各自に必要な資料を渉猟し、読み進めておくこと。ディスカッション内容について文面化し、毎回の講義内容をまとめておくこと。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室（9402）において、毎週月曜日の2限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について 研究テーマに関する知識の整理と検討					高原皓全	
第2回	文献検討（1）論文の作成について					高原皓全	
第3回	文献検討（1）科学論文の書き方について					高原皓全	
第4回	研究内容について（1）基礎データの活用					高原皓全	
第5回	研究内容について（2）先行研究の活用					高原皓全	
第6回	研究内容について（3）論文の批評的理解					高原皓全	
第7回	研究内容について（4）研究仮説					高原皓全	
第8回	実験（1）プレテスト					高原皓全	
第9回	実験（2）実施における留意点					高原皓全	
第10回	実験（3）課題店の検討					高原皓全	
第11回	分析（1）分析方法					高原皓全	
第12回	分析（2）結果の概要					高原皓全	
第13回	分析（3）研究仮説と結果					高原皓全	
第14回	分析（4）研究計画の再検討					高原皓全	
第15回	今後の検討課題について					高原皓全	
第16回	論文作成（1）目的・方法・仮説					高原皓全	
第17回	論文作成（2）結果・結論					高原皓全	
第18回	論文作成（3）全体の流れ					高原皓全	
第19回	ディスカッション（1）考察					高原皓全	
第20回	ディスカッション（2）研究の新規性					高原皓全	
第21回	ディスカッション（3）研究の課題点					高原皓全	

第22回	論文内容の修正 (1) 論文内容の修正	高原皓全
第23回	論文内容の修正 (2) 引用・注記の修正	高原皓全
第24回	論文内容の修正 (3) データ表記の修正	高原皓全
第25回	発表準備 (1) 要旨作成	高原皓全
第26回	発表準備 (2) スライド資料の作成	高原皓全
第27回	発表準備 (3) 発表練習	高原皓全
第28回	研究内容の確認・修正 (1) 質疑応答	高原皓全
第29回	研究内容の確認・修正 (2) ミスのチェック	高原皓全
第30回	研究内容の確認・修正 (3) 文章全体の修正	高原皓全
第31回		
第32回		

教科書

教・書籍名1	適宜資料を指示する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	適宜資料を指示する。	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	卒業論文			担当者	羽野 真哉		
配当学科・研究科	2019～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-409		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期		曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も 						
到達目標	演習Iおよび演習IIを通してそれぞれが疑問に思う課題を明らかにすることが大きなテーマである。学生は自分が知りたい現象について数量化し、科学的に明らかにすることができる。						
授業概要	健康やスポーツの分野を中心に論文テーマを選定し、文献調査、実験、データの解析と結果の解釈、論議という一連の手順に沿って論文を作成する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	研究に取り組む姿勢(30%)および卒業論文提出(70%)から評価する。なお、卒業論文作成のために実施した課題は、講義内でフィードバックすることから、コメントに対して検討し、自分の考えをまとめて、卒業論文に反映させること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	基本的には授業内でフィードバックするが、論文作成にはteamsを活用する場合もある。						
履修条件・注意事項	日頃から実験を行い、課題や結果等に対する考察を充実させること。個人指導を基本とするが、同様な研究テーマ、手法を扱う者と討論を行い連携を図ること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	本講義は講義内容理解のために予習復習が各2時間程度必要である。本授業において問題提起と討論が可能なように各自に必要なテキストを探し、熟読してくること。また、実験のディスカッションについては、しっかりと文面化して毎回の講義内容をまとめること。						
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室(9411研究室)において、金曜日2限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について						羽野
第2回	文献・資料の検討(1) 考察に向けて						羽野
第3回	文献・資料の検討(2) 論文形成の実際						羽野
第4回	研究内容についての議論(1) 基礎データの活用						羽野
第5回	研究内容についての議論(2) 先行文献の活用						羽野
第6回	研究内容についての議論(3) 論文の批判を通じて						羽野
第7回	研究内容についての議論(4) 先行研究と仮説						羽野
第8回	実施(1) プレテスト及び、実施手順						羽野
第9回	実施(2) 実施における留意点						羽野
第10回	実施(3) 実施の問題点の検討						羽野
第11回	結果の分析(1) 分析と実施						羽野
第12回	結果の分析(2) 結果の概要						羽野
第13回	結果の分析(3) 仮説と結果から						羽野
第14回	結果の分析(4) 研究計画スケジュールの再検討						羽野
第15回	今後に向けての課題の検討						羽野
第16回	中間発表						羽野
第17回	研究結果の検討と論文作成(1) 目的						羽野
第18回	研究結果の検討と論文作成(2) 結果・結論						羽野
第19回	研究結果の検討と論文作成(3) 全体の流れ						羽野
第20回	考察に関する質疑応答(1) 考察						羽野

第21回	考察に関する質疑応答（2）オリジナリティ	羽野
第22回	考察に関する質疑応答（3）研究の限界	羽野
第23回	論文内容の修正と質疑応答（1）修正	羽野
第24回	考察に関する質疑応答（2）引用、注記	羽野
第25回	考察に関する質疑応答（3）表記の修正	羽野
第26回	発表準備（1）要旨作成	羽野
第27回	発表準備（2）パワーポイント作成	羽野
第28回	発表準備（3）プレ発表	羽野
第29回	研究内容の確認・修正	羽野
第30回	文章全体の修正	羽野
第31回	卒業論文発表会事前準備	羽野
第32回	卒業論文発表会	羽野

教科書

教・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書

参・書籍名1	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	